

薬師堂東遺跡Ⅱ

(C・D地点)

—本庄市立本庄東中学校校舎・プール棟の建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

(第1分冊)

2019

本庄市教育委員会

序

埼玉県北部の本庄市は、江戸時代には、中山道本庄宿を中心に文物の交流、交易の拠点としてにぎわい、以後繭と蚕糸、絹織物の集散地として栄えました。また、『群書類聚』を編んだ盲目の国学者塙保己一の生誕地としても、つとに知られるところです。中世には、武蔵七党の一つ児玉党の本拠地として知られ、五十子陣を核とする政治的、軍事的な要地となり、さらに遡っては、600基を優に超える古墳が造られた古墳時代の一中心地でもありました。

こうした豊かな歴史的、文化的背景のもとに、本庄市は、住みよい街づくりの一貫として、次代を担う子供たちのための教育環境の整備を進めてまいりました。とくに学校施設の整備、拡充、老朽化した校舎や耐震化の必要な校舎の建て替えは、まさに焦眉の課題でありました。

本書は、本庄東中学校の新校舎とプール棟の建設に先立ち、平成24年度および平成27年度から同28年度にかけて実施した薬師堂東遺跡C・D地点2地点の記録保存を目的とした発掘調査の報告書であります。

薬師堂東遺跡C地点では、古墳時代から奈良・平安時代にかけての重なり合ったおびただしい数の竪穴住居跡や中・近世を主とする土坑などを調査しました。土器を主とする多数の遺物が出土しましたが、中でもガラスを熔融して作る小玉の製作に用いられた鋳型片が多数出土したことが大きな成果であると思います。完形のガラス小玉鋳型は、本邦初の発見であり、また鋳型とともに用いられたと思われる棒状の土製品が多数出土したことも特筆されます。

薬師堂東遺跡D地点では、多数の竪穴住居跡や土坑とともに、中世の城館跡の堀と思われる堀跡を調査しました。













いずれも大変大きな遺跡の一部ですが、今後この一帯の遺跡が織りなす歴史を考える一助になろうかと思えます。この報告書が広く一般の方々にも活用され、埋蔵文化財や郷土の歴史についての関心が一段と深められるよう切に願います。

末筆ながら、発掘調査から報告書作成にあたり、多大なご協力を賜った本庄市立本庄東中学校関係各位をはじめ、様々なご尽力、ご教示を賜った関係諸機関並びに各位に対して、心から御礼申し上げます。

平成31年3月

本庄市教育委員会
教育長 勝山 勉

例 言

1. 本書は、埼玉県本庄市日の出4丁目2番45号に所在する薬師堂東遺跡C・D地点の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、本庄市立本庄東中学校の校舎およびプール棟の建設に先立ち実施した。C地点が本庄市立本庄東中学校の校舎建設予定地、D地点が同中学校のプール棟建設予定地である。発掘調査期間は、薬師堂東遺跡C地点が平成24年7月2日から平成25年3月31日まで、同D地点が平成28年3月28日から同7月31日までである。
3. 発掘調査は、本庄市教育委員会が行い、現地調査に関しては、薬師堂東遺跡C地点を大熊が、同D地点を松本が担当した。整理作業、報告書作成作業は、平成27年3月31日まで大熊が担当し、以降松本・的野が担当した。
4. 発掘調査から報告書刊行に要した経費は、いずれも市事業費である。
5. 既報告の調査地点に関しては、調査年次の順に「第1地点」、「第2地点」として報告したが（太田 2013）、それぞれ「第1地点」を「A地点」、「第2地点」「B地点」と改称する。
6. 本書で使用した地図のうち、第2図は、国土地理院発行の5万分の1地形図（「高崎」）をもとに作成した。
7. 本書で用いたXY座標値は、世界測地系による新座標値である。
8. 土層および遺物の色調表現の一部には、『新編標準土色帳』を基準として用いた。
9. 挿図、挿表中で用いた遺構の略号は、SI：竪穴住居跡、SK：土坑、SD：溝跡である。
10. 遺構平面図中の遺物番号、および写真図版中の遺物番号は、挿図中の遺物番号に一致する。
11. 遺物図に関しては、還元焰焼成の須恵器、鉄製品、鉄滓、銅製品は、断面黒塗りとした。
 は、陶器の断面を表し、 は、土器器面の黒色処理を表す。土師器を転用した埴埜やフイゴの羽口の図で は、赤色化、 は、熱変成・熱変色を表し、 は、ガラス質の物質の付着、 は、銅の付着、あるいは緑錆を表す。灯明皿などの は、油煙の付着、磨石類などの は、煤（スス）の付着を表す。 は、ガラス質の物質の付着を表す。ガラス小玉鋳型の図に関しては、 は、型孔内に付着し残存する溶材を表す。棒状土製品の図に関しては、 は、熱による変色（多くは灰色）部分を表し、 は、淡黄色物質の付着を表している。なお、図中に網掛け部分の意味を示した図も若干ある。
12. 土坑計測および観察表の「規模」欄の（ ）内の数値は、現存長であり、「深さ」欄の数値は、土坑中央での深さ、あるいは最深部での深さである。
13. 遺物観察表の「法量」の記載で、（ ）内の数値は推定値、[]内の数値は残存値である。ガラス小玉鋳型の観察表の「形状」において「直」としたのは、側縁が直線的であることを表している。また、「孔径」は、型孔の径、「孔深」は、型孔の深さを計測した値である。「軸孔」は、型孔内の心棒立ての細い孔を指している。
14. 写真図版中の遺物の縮尺は、原則として挿図中の遺物の縮尺とほぼ同じである。
15. D地点上空からの写真撮影は、有限会社毛野考古学研究所に委託した。遺跡全景写真などの写真図版は、その成果に基づく。
16. 本書で用いた全体図、遺構図面に関しては、現地作業時の図化作業、および報告書作成段階の製

図作業、編集作業の一部を、株式会社協同測地開発、有限会社毛野考古学研究所に委託した。

17. 出土土器・土製品、陶磁器類、石製品、金属製品に関しては、整理作業および実測、写真撮影を、有限会社毛野考古学研究所に委託した。
18. 自然科学分析に関しては、第VI章第1節のC地点出土のガラス小玉鋳型、棒状土製品に関しては、奈良文化財研究所の田村朋美氏より、第VI章第2節のC・D地点出土の人骨、獣骨に関しては、大妻女子大学博物館の檜崎修一郎氏より、それぞれ玉稿を賜った。
19. 本書の執筆および編集は、第I章、第VI章の「自然科学分析」、第VII章以外を、松本・的野が行った。
20. 発掘調査および本書の作成に関しては、下記の方々や諸機関からご助言、ご協力を賜った。ここに記し、感謝する次第である（敬称略、五十音順）。

荒川 正夫 伊藤 順一 有山 径世 池田 匡彦 石坂 俊郎 市毛 勲 井上 裕一
大賀 克彦 大谷 徹 及川 良彦 柿沼 幹夫 金子 彰男 亀田 修一 金 奎虎
車崎 正彦 小出 輝雄 昆 彭生 斉藤 あや 坂本 和俊 佐々木幹雄 佐藤 康二
篠崎 潔 杉崎 茂樹 鈴木 徹 高橋 清文 滝沢 誠 田中 裕 谷川 章雄
田村 朋美 鳥羽 政之 中沢 良一 長井 正欣 長崎 潤一 中山 清隆 檜崎修一郎
西川 修一 日沖 剛史 比田井克仁 日高 慎 福田 聖 藤根 久 北条 芳樹
増田 一裕 丸山 修 丸山 陽一 宮本 久子 矢内 勲 吉田 稔

埼玉県教育局文化資源課 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 奈良文化財研究所 早稲田大学本庄
考古資料館 株式会社協同測地開発 有限会社毛野考古学研究所

21. 発掘調査及び整理作業、報告書の刊行にかかる本庄市教育委員会の組織は、以下のとおりである。

発掘調査組織（平成24・27・28年度）

主体者 本庄市教育委員会

教 育 長 茂木 孝彦（平成24・25年度）
勝山 勉（平成26～28年度）

事 務 局 事 務 局 長 関和 成昭（平成24～27年度）
稲田 幸也（平成28年度）

文化財保護課

課 長 金井 孝夫（平成24年度）
川上 美恵（平成25～27年度）
杉原 初（平成28年度）

副 参 事 兼 鈴木 徳雄（平成24年度）
課 長 補 佐

担 当 者 課 長 補 佐 兼 太田 博之（平成24～28年度）
埋蔵文化財係長

主 幹 恋河内昭彦（平成24～28年度）

担 当 者 主 査 大熊 季広（平成24年度、薬師堂東遺跡C地点）

主 査 松澤 浩一（平成24年度）

担当者	主	査	松本 完 (平成27・28年度、薬師堂東遺跡D地点)
	主	任	的野 善行 (平成28年度、平成24～27年度は、臨時職員)

整理・報告書刊行組織 (平成25～30年度)

主体者	本庄市教育委員会		
	教 育 長		茂木 孝彦 (平成25年度)
			勝山 勉 (平成26～30年度)
事務局	事 務 局 長		関和 成昭 (平成25～27年度)
			稲田 幸也 (平成28～30年度)
	事 務 局 次 長		高橋 利征 (平成30年度)
	文化財保護課		
	課 長		川上 美恵 (平成25～27年度)
			杉原 初 (平成28・29年度)
			佐々木智恵 (平成30年度)
	副 参 事 兼		鈴木 徳雄 (平成25年度)
	課 長 補 佐		
	課 長 補 佐 兼		太田 博之 (平成25～29年度)
	埋蔵文化財係長		
	課 長 補 佐 兼		恋河内昭彦 (平成30年度、平成25～29年度は、主幹)
	埋蔵文化財係長		
担当者	主	査	大熊 季広 (平成25・26年度)
担当者	主	査	松本 完 (平成27～29年度、平成30年度より専門員)
	主	査	徳山 寿樹 (平成28～30年度)
	主	査	塩原 浩 (平成29・30年度)
	主	査	松澤 浩一 (平成25年度)
担当者	主	任	的野 善行 (平成28～30年度、平成25～27年度は、臨時職員)
	主	事	栗原 秀太 (平成26・27年度)
	臨 時 職 員		中嶋 淳子 (平成28～30年度)

薬師堂東遺跡Ⅱ
(C・D地点)
(第1分冊)

総目次

(第1分冊)

序

例言

総目次

第Ⅰ章 調査にいたる経緯	1
第Ⅱ章 遺跡の立地と環境	2
第1節 遺跡の立地	2
第2節 周辺の遺跡と歴史的環境	3
第Ⅲ章 薬師堂東遺跡C地点の調査	7
第1節 調査の概要	7
第2節 検出された遺構と遺物	14
1 竪穴住居跡	14
2 土坑	579
3 溝跡	696
4 ピット	697
5 遺構外出土遺物	697

(第2分冊)

目次(第2分冊)

第Ⅳ章 薬師堂東遺跡D地点の調査	709
第1節 調査の概要	709
第2節 検出された遺構と遺物	712

1	竪穴住居跡	712
2	掘立柱建物跡	797
3	地下式墳	799
4	土坑	804
5	堀跡および柱穴列、溝跡	822
6	ピット	835
7	遺構外出土遺物	835
第V章 薬師堂東遺跡C地点出土ガラス小玉鋳型、棒状土製品集成		837
第VI章 自然科学分析		881
第1節	薬師堂東遺跡C地点出土のガラス小玉の鋳型および鋳型付着ガラスの自然科学的調査	881
第2節	薬師堂東遺跡C・D地点出土の人骨・獣骨の同定	893
第VII章 まとめ		899
第1節	薬師堂東遺跡C・D地点出土の古墳時代中期～平安時代の土器について	899
第2節	薬師堂東遺跡C地点出土のガラス小玉鋳型、棒状土製品の時期について	919
引用・参考文献		923
図 版		

挿図目次

(第1分冊)		
第1図	埼玉県の地形	2
第2図	周辺の主要遺跡	4
第3図	薬師堂東遺跡発掘調査地点位置図	6
C地点		
第4図	薬師堂東遺跡C地点全体図	8・9
第5図	薬師堂東遺跡C地点住居跡分布図	10・11
第6図	薬師堂東遺跡C地点住居跡群位置図	12・13
第7図	第30号住居跡平面・断面図(1)	14
第8図	第30号住居跡平面・断面図(2)	15
第9図	第30号住居跡出土遺物	15
第10図	第31号住居跡平面・断面図(1)	17
第11図	第31号住居跡平面・断面図(2)	18
第12図	第31号住居跡出土遺物	19
第13図	第32号住居跡平面・断面図(1)	21
第14図	第32号住居跡平面・断面図(2)	22
第15図	第32号住居跡出土遺物	22
第16図	第33号住居跡出土遺物	23
第17図	第33号住居跡平面・断面図(1)	25
第18図	第33号住居跡平面・断面図(2)	26
第19図	第34号住居跡平面・断面図(1)	27
第20図	第34号住居跡平面・断面図(2)	28
第21図	第34号住居跡出土遺物	29
第22図	第35号住居跡平面・断面図(1)	30
第23図	第35号住居跡平面・断面図(2)	31
第24図	第35号住居跡出土遺物	31
第25図	第36号住居跡平面・断面図	33
第26図	第36号住居跡出土遺物	33
第27図	第37号住居跡平面・断面図(1)	35
第28図	第37号住居跡平面・断面図(2)	36
第29図	第37号住居跡出土遺物	37
第30図	第38号住居跡平面・断面図(1)	38
第31図	第38号住居跡平面・断面図(2)	39

第32图	第38号住居跡出土遺物	40	第78图	第55号住居跡平面・断面图(2)	87
第33图	第39号住居跡平面・断面图	41	第79图	第55号住居跡出土遺物	87
第34图	第39号住居跡出土遺物	42	第80图	第56号住居跡平面・断面图	89
第35图	第40号住居跡平面・断面图(1)	43	第81图	第56号住居跡出土遺物	90
第36图	第40号住居跡平面・断面图(2)	44	第82图	第57号住居跡平面・断面图(1)	91
第37图	第40号住居跡出土遺物	44	第83图	第57号住居跡平面・断面图(2)	92
第38图	第41号住居跡平面・断面图(1)	45	第84图	第57号住居跡平面・断面图(3)	93
第39图	第41号住居跡平面・断面图(2)	46	第85图	第57号住居跡出土遺物(1)	94
第40图	第41号住居跡出土遺物	47	第86图	第57号住居跡出土遺物(2)	95
第41图	第42号住居跡出土遺物	47	第87图	第58号住居跡平面・断面图(1)	96
第42图	第42号住居跡平面・断面图(1)	48	第88图	第58号住居跡平面・断面图(2)	97
第43图	第42号住居跡平面・断面图(2)	49	第89图	第58号住居跡出土遺物	97
第44图	第43号住居跡出土遺物	50	第90图	第59号住居跡平面・断面图(1)	99
第45图	第43号住居跡平面・断面图	51	第91图	第59号住居跡平面・断面图(2)	100
第46图	第44号住居跡平面・断面图(1)	53	第92图	第59号住居跡出土遺物	100
第47图	第44号住居跡平面・断面图(2)	54	第93图	第60号住居跡平面・断面图(1)	101
第48图	第44号住居跡平面・断面图(3)	55	第94图	第60号住居跡平面・断面图(2)	102
第49图	第44号住居跡出土遺物	56	第95图	第60号住居跡出土遺物	102
第50图	第45号住居跡平面・断面图	58	第96图	第61号住居跡平面・断面图	103
第51图	第46号住居跡平面・断面图	59	第97图	第61号住居跡出土遺物	104
第52图	第46号住居跡出土遺物	60	第98图	第62号住居跡平面・断面图	105
第53图	第47号住居跡平面・断面图(1)	61	第99图	第62号住居跡出土遺物	106
第54图	第47号住居跡平面・断面图(2)	62	第100图	第63号住居跡平面・断面图(1)	107
第55图	第47号住居跡出土遺物(1)	63	第101图	第63号住居跡平面・断面图(2)	108
第56图	第47号住居跡出土遺物(2)	64	第102图	第63号住居跡出土遺物	109
第57图	第48号住居跡平面・断面图(1)	66	第103图	第64号住居跡平面・断面图	111
第58图	第48号住居跡平面・断面图(2)	67	第104图	第64号住居跡出土遺物	112
第59图	第48号住居跡出土遺物(1)	68	第105图	第65号住居跡平面・断面图(1)	113
第60图	第48号住居跡出土遺物(2)	69	第106图	第65号住居跡平面・断面图(2)	114
第61图	第49号住居跡平面・断面图	71	第107图	第65号住居跡出土遺物	114
第62图	第49号住居跡出土遺物	71	第108图	第66号住居跡平面・断面图(1)	115
第63图	第50号住居跡平面・断面图(1)	72	第109图	第66号住居跡平面・断面图(2)	116
第64图	第50号住居跡平面・断面图(2)	73	第110图	第66号住居跡出土遺物	116
第65图	第50号住居跡出土遺物	74	第111图	第67号住居跡平面・断面图(1)	118
第66图	第51号住居跡平面・断面图	75	第112图	第67号住居跡平面・断面图(2)	119
第67图	第51号住居跡出土遺物	75	第113图	第67号住居跡平面・断面图(3)	120
第68图	第52号住居跡平面・断面图	77	第114图	第67号住居跡出土遺物	120
第69图	第52号住居跡出土遺物	78	第115图	第68号住居跡平面・断面图(1)	122
第70图	第53号住居跡平面・断面图(1)	79	第116图	第68号住居跡平面・断面图(2)	123
第71图	第53号住居跡平面・断面图(2)	80	第117图	第68号住居跡出土遺物	123
第72图	第53号住居跡出土遺物(1)	81	第118图	第69号住居跡平面・断面图(1)	124
第73图	第53号住居跡出土遺物(2)	82	第119图	第69号住居跡平面・断面图(2)	125
第74图	第54号住居跡平面・断面图(1)	84	第120图	第69号住居跡出土遺物	126
第75图	第54号住居跡平面・断面图(2)	85	第121图	第70号住居跡平面・断面图(1)	128
第76图	第54号住居跡出土遺物	85	第122图	第70号住居跡平面・断面图(2)	129
第77图	第55号住居跡平面・断面图(1)	86	第123图	第70号住居跡出土遺物	129

第124图	第71号住居跡平面・断面図	130	第170图	第89号住居跡平面・断面図(2)	171
第125图	第72号住居跡平面・断面図	131	第171图	第90号住居跡平面・断面図	171
第126图	第72号住居跡出土遺物	131	第172图	第91号住居跡平面・断面図	172
第127图	第73A号住居跡平面・断面図(1)	133	第173图	第92号住居跡平面・断面図(1)	173
第128图	第73A号住居跡平面・断面図(2)	134	第174图	第92号住居跡平面・断面図(2)	174
第129图	第73A号住居跡平面・断面図(3)	135	第175图	第93号住居跡出土遺物	174
第130图	第73号住居跡出土遺物	135	第176图	第93号住居跡平面・断面図	175
第131图	第73B号住居跡平面・断面図(1)	137	第177图	第94号住居跡出土遺物	175
第132图	第73B号住居跡平面・断面図(2)	138	第178图	第94号住居跡平面・断面図	176
第133图	第73C号住居跡平面・断面図(1)	139	第179图	第95号住居跡平面・断面図	177
第134图	第73C号住居跡平面・断面図(2)	140	第180图	第95・96号住居跡出土遺物	177
第135图	第74号住居跡平面・断面図	141	第181图	第96号住居跡平面・断面図	178
第136图	第74号住居跡出土遺物	142	第182图	第97号住居跡平面・断面図	179
第137图	第75号住居跡平面・断面図	143	第183图	第98号住居跡平面・断面図	180
第138图	第75号住居跡出土遺物	143	第184图	第99号住居跡平面・断面図(1)	181
第139图	第76号住居跡平面・断面図	145	第185图	第99号住居跡平面・断面図(2)	182
第140图	第77号住居跡平面・断面図	145	第186图	第99号住居跡出土遺物	182
第141图	第78号住居跡出土遺物	146	第187图	第100号住居跡平面・断面図(1)	184
第142图	第78号住居跡平面・断面図(1)	147	第188图	第100号住居跡平面・断面図(2)	185
第143图	第78号住居跡平面・断面図(2)	148	第189图	第100号住居跡出土遺物	185
第144图	第78号住居跡平面・断面図(3)	149	第190图	第101号住居跡平面・断面図(1)	186
第145图	第79号住居跡平面・断面図(1)	151	第191图	第101号住居跡平面・断面図(2)	187
第146图	第79号住居跡平面・断面図(2)	152	第192图	第101号住居跡出土遺物	187
第147图	第79号住居跡出土遺物(1)	153	第193图	第102号住居跡平面・断面図(1)	188
第148图	第79号住居跡出土遺物(2)	154	第194图	第102号住居跡平面・断面図(2)	189
第149图	第80号住居跡平面・断面図	156	第195图	第102号住居跡出土遺物	189
第150图	第81号住居跡平面・断面図(1)	157	第196图	第103号住居跡出土遺物	190
第151图	第81号住居跡平面・断面図(2)	158	第197图	第103号住居跡平面・断面図(1)	191
第152图	第81号住居跡出土遺物	158	第198图	第103号住居跡平面・断面図(2)	192
第153图	第82号住居跡平面・断面図(1)	159	第199图	第104号住居跡平面・断面図(1)	193
第154图	第82号住居跡平面・断面図(2)	160	第200图	第104号住居跡平面・断面図(2)	194
第155图	第82号住居跡出土遺物	160	第201图	第104号住居跡出土遺物	195
第156图	第83号住居跡平面・断面図	161	第202图	第105号住居跡平面・断面図(1)	196
第157图	第83号住居跡出土遺物	162	第203图	第105号住居跡平面・断面図(2)	197
第158图	第84号住居跡平面・断面図	163	第204图	第105号住居跡出土遺物	197
第159图	第84号住居跡出土遺物	163	第205图	第106号住居跡平面・断面図	198
第160图	第85号住居跡平面・断面図	164	第206图	第106号住居跡出土遺物	199
第161图	第85号住居跡出土遺物	164	第207图	第107号住居跡平面・断面図	200
第162图	第86号住居跡平面・断面図(1)	165	第208图	第107号住居跡出土遺物(1)	201
第163图	第86号住居跡平面・断面図(2)	166	第209图	第107号住居跡出土遺物(2)	202
第164图	第86号住居跡出土遺物	167	第210图	第108号住居跡平面・断面図(1)	205
第165图	第87号住居跡出土遺物	168	第211图	第108号住居跡平面・断面図(2)	206
第166图	第87号住居跡平面・断面図	168	第212图	第108号住居跡出土遺物	206
第167图	第88号住居跡平面・断面図	169	第213图	第109号住居跡平面・断面図(1)	207
第168图	第89号住居跡出土遺物	169	第214图	第109号住居跡平面・断面図(2)	208
第169图	第89号住居跡平面・断面図(1)	170	第215图	第109号住居跡出土遺物	209

第216图	第110号住居跡平面・断面図(1)……………	209	第262图	第128号住居跡平面・断面図……………	251
第217图	第110号住居跡平面・断面図(2)……………	210	第263图	第128号住居跡出土遺物……………	252
第218图	第110号住居跡出土遺物……………	210	第264图	第129号住居跡平面・断面図(1)……………	254
第219图	第111号住居跡平面・断面図(1)……………	211	第265图	第129号住居跡平面・断面図(2)……………	255
第220图	第111号住居跡平面・断面図(2)……………	212	第266图	第129号住居跡出土遺物……………	256
第221图	第111号住居跡出土遺物(1)……………	213	第267图	第130号住居跡平面・断面図(1)……………	258
第222图	第111号住居跡出土遺物(2)……………	214	第268图	第130号住居跡平面・断面図(2)……………	259
第223图	第112号住居跡平面・断面図……………	216	第269图	第130号住居跡出土遺物……………	260
第224图	第113号住居跡平面・断面図(1)……………	217	第270图	第131号住居跡平面・断面図(1)……………	262
第225图	第113号住居跡平面・断面図(2)……………	218	第271图	第131号住居跡平面・断面図(2)……………	263
第226图	第113号住居跡出土遺物……………	218	第272图	第131号住居跡出土遺物……………	263
第227图	第114号住居跡平面・断面図(1)……………	219	第273图	第132号住居跡出土遺物……………	264
第228图	第114号住居跡平面・断面図(2)……………	220	第274图	第132号住居跡平面・断面図……………	265
第229图	第114号住居跡出土遺物(1)……………	221	第275图	第133号住居跡平面・断面図(1)……………	266
第230图	第114号住居跡出土遺物(2)……………	222	第276图	第133号住居跡平面・断面図(2)……………	267
第231图	第115号住居跡平面・断面図……………	224	第277图	第133号住居跡出土遺物……………	268
第232图	第115号住居跡出土遺物……………	224	第278图	第134号住居跡平面・断面図……………	270
第233图	第116号住居跡平面・断面図(1)……………	226	第279图	第134号住居跡出土遺物……………	270
第234图	第116号住居跡平面・断面図(2)……………	227	第280图	第135号住居跡平面・断面図……………	271
第235图	第116号住居跡出土遺物(1)……………	228	第281图	第135号住居跡出土遺物……………	272
第236图	第116号住居跡出土遺物(2)……………	229	第282图	第136号住居跡平面・断面図(1)……………	273
第237图	第117号住居跡平面・断面図(1)……………	232	第283图	第136号住居跡平面・断面図(2)……………	274
第238图	第117号住居跡平面・断面図(2)……………	233	第284图	第136号住居跡出土遺物……………	274
第239图	第117号住居跡出土遺物……………	233	第285图	第137号住居跡平面・断面図(1)……………	275
第240图	第118号住居跡平面・断面図(1)……………	235	第286图	第137号住居跡平面・断面図(2)……………	275
第241图	第118号住居跡平面・断面図(2)……………	236	第287图	第137号住居跡出土遺物(1)……………	276
第242图	第118号住居跡出土遺物(1)……………	237	第288图	第137号住居跡出土遺物(2)……………	277
第243图	第118号住居跡出土遺物(2)……………	238	第289图	第138号住居跡平面・断面図(1)……………	279
第244图	第119号住居跡平面・断面図……………	239	第290图	第138号住居跡平面・断面図(2)……………	280
第245图	第119号住居跡出土遺物……………	239	第291图	第138号住居跡出土遺物……………	281
第246图	第120号住居跡平面・断面図……………	240	第292图	第139号住居跡平面・断面図……………	282
第247图	第120号住居跡出土遺物……………	241	第293图	第140号住居跡平面図……………	283
第248图	第121号住居跡平面・断面図……………	242	第294图	第140号住居跡出土遺物……………	283
第249图	第121号住居跡出土遺物……………	242	第295图	第141号住居跡平面・断面図(1)……………	284
第250图	第122号住居跡平面・断面図(1)……………	242	第296图	第141号住居跡平面・断面図(2)……………	285
第251图	第122号住居跡平面・断面図(2)……………	243	第297图	第141号住居跡出土遺物……………	285
第252图	第122号住居跡出土遺物……………	243	第298图	第142号住居跡平面・断面図……………	286
第253图	第123号住居跡平面・断面図……………	244	第299图	第142号住居跡出土遺物……………	286
第254图	第123号住居跡出土遺物……………	245	第300图	第143号住居跡平面・断面図(1)……………	288
第255图	第124号住居跡出土遺物……………	245	第301图	第143号住居跡平面・断面図(2)……………	289
第256图	第124号住居跡平面・断面図……………	246	第302图	第143号住居跡出土遺物……………	290
第257图	第125号住居跡平面・断面図……………	247	第303图	第144号住居跡平面・断面図……………	292
第258图	第126号住居跡平面・断面図……………	248	第304图	第144号住居跡出土遺物……………	293
第259图	第127号住居跡平面・断面図(1)……………	249	第305图	第145号住居跡平面・断面図……………	294
第260图	第127号住居跡平面・断面図(2)……………	250	第306图	第145号住居跡出土遺物……………	295
第261图	第127号住居跡出土遺物……………	250	第307图	第146号住居跡平面・断面図……………	296

第308图	第146号住居跡出土遺物	296	第352图	第166号住居跡平面・断面図	329
第309图	第147号住居跡平面・断面図	297	第353图	第167号住居跡平面・断面図(1)	330
第310图	第147号住居跡出土遺物	297	第354图	第167号住居跡平面・断面図(2)	331
第311图	第148号住居跡平面・断面図(1)	298	第355图	第167号住居跡出土遺物	331
第312图	第148号住居跡平面・断面図(2)	299	第356图	第168号住居跡平面・断面図	332
第313图	第148号住居跡出土遺物	299	第357图	第168号住居跡出土遺物	332
第314图	第149号住居跡平面・断面図	300	第358图	第169号住居跡平面・断面図(1)	333
第315图	第149号住居跡出土遺物	300	第359图	第169号住居跡平面・断面図(2)	334
第316图	第150号住居跡平面・断面図(1)	301	第360图	第169号住居跡出土遺物	334
第317图	第150号住居跡平面・断面図(2)	302	第361图	第170号住居跡平面・断面図	335
第318图	第150号住居跡出土遺物	303	第362图	第171号住居跡平面・断面図	336
第319图	第151号住居跡平面図	304	第363图	第172号住居跡平面・断面図	336
第320图	第151号住居跡出土遺物	304	第364图	第172号住居跡出土遺物	337
第321图	第152号住居跡平面・断面図	305	第365图	第173号住居跡平面・断面図	337
第322图	第153号住居跡平面・断面図	306	第366图	第173号住居跡出土遺物	338
第323图	第153号住居跡出土遺物	306	第367图	第174号住居跡平面・断面図	338
第324图	第154号住居跡平面・断面図	307	第368图	第175号住居跡平面・断面図	338
第325图	第154号住居跡出土遺物	307	第369图	第176号住居跡平面・断面図(1)	339
第326图	第155号住居跡平面・断面図	308	第370图	第176号住居跡平面・断面図(2)	340
第327图	第156号住居跡平面・断面図(1)	309	第371图	第176号住居跡出土遺物	341
第328图	第156号住居跡平面・断面図(2)	310	第372图	第177号住居跡平面・断面図	342
第329图	第156号住居跡平面・断面図(3)	311	第373图	第178号住居跡平面・断面図(1)	342
第330图	第156号住居跡出土遺物	312	第374图	第178号住居跡平面・断面図(2)	343
第331图	第157号住居跡平面・断面図	313	第375图	第179号住居跡平面・断面図(1)	343
第332图	第157号住居跡出土遺物	314	第376图	第179号住居跡平面・断面図(2)	344
第333图	第158号住居跡平面・断面図	315	第377图	第179号住居跡出土遺物	345
第334图	第158号住居跡出土遺物	315	第378图	第180号住居跡平面・断面図	346
第335图	第159号住居跡平面・断面図	316	第379图	第180号住居跡出土遺物	347
第336图	第159号住居跡出土遺物	316	第380图	第181号住居跡平面・断面図	347
第337图	第160号住居跡平面・断面図(1)	317	第381图	第181号住居跡出土遺物	347
第338图	第160号住居跡平面・断面図(2)	318	第382图	第182号住居跡平面・断面図(1)	348
第339图	第160号住居跡出土遺物	318	第383图	第182号住居跡平面・断面図(2)	348
第340图	第161号住居跡平面・断面図	319	第384图	第182号住居跡出土遺物	349
第341图	第161号住居跡出土遺物	320	第385图	第183号住居跡平面・断面図	350
第342图	第162号住居跡平面・断面図(1)	321	第386图	第183号住居跡出土遺物	351
第343图	第162号住居跡平面・断面図(2)	322	第387图	第184号住居跡出土遺物	351
第344图	第162号住居跡出土遺物	323	第388图	第184号住居跡平面・断面図	352
第345图	第163号住居跡平面・断面図	324	第389图	第185号住居跡平面・断面図	353
第346图	第163号住居跡出土遺物	325	第390图	第185号住居跡出土遺物	353
第347图	第164・165号住居跡平面・断面図(1)	326	第391图	第186号住居跡平面・断面図	354
第348图	第164・165号住居跡平面・断面図(2)	327	第392图	第186号住居跡出土遺物	354
第349图	第164号住居跡出土遺物	328	第393图	第187号住居跡平面図	354
第350图	第165号住居跡出土遺物	328	第394图	第188号住居跡平面・断面図	355
第351图	第166号住居跡出土遺物	328	第395图	第188号住居跡出土遺物	356
			第396图	第189号住居跡平面・断面図	356
			第397图	第190号住居跡平面・断面図	357

第398图	第190号住居跡出土遺物……………	357	第444图	第213号住居跡平面・断面图(2)……………	397
第399图	第191号住居跡平面・断面图(1)……………	358	第445图	第213号住居跡出土遺物……………	397
第400图	第191号住居跡平面・断面图(2)……………	358	第446图	第214号住居跡平面・断面图……………	398
第401图	第192号住居跡平面・断面图……………	359	第447图	第214号住居跡出土遺物……………	399
第402图	第192号住居跡出土遺物……………	360	第448图	第215号住居跡平面图……………	399
第403图	第193号住居跡平面・断面图……………	362	第449图	第216号住居跡平面・断面图……………	400
第404图	第194号住居跡平面图……………	362	第450图	第216号住居跡出土遺物……………	401
第405图	第195号住居跡平面・断面图……………	363	第451图	第217号住居跡平面・断面图(1)……………	402
第406图	第195号住居跡出土遺物……………	363	第452图	第217号住居跡平面・断面图(2)……………	403
第407图	第196号住居跡平面・断面图……………	364	第453图	第217号住居跡出土遺物……………	404
第408图	第196号住居跡出土遺物……………	365	第454图	第218号住居跡平面・断面图(1)……………	405
第409图	第197号住居跡平面・断面图……………	365	第455图	第218号住居跡平面・断面图(2)……………	405
第410图	第198号住居跡平面・断面图……………	366	第456图	第219号住居跡平面・断面图(1)……………	406
第411图	第199号住居跡平面・断面图……………	366	第457图	第219号住居跡平面・断面图(2)……………	407
第412图	第200号住居跡平面・断面图……………	367	第458图	第219号住居跡出土遺物……………	407
第413图	第200号住居跡出土遺物……………	368	第459图	第220号住居跡平面・断面图……………	409
第414图	第201号住居跡平面・断面图(1)……………	369	第460图	第220号住居跡出土遺物……………	409
第415图	第201号住居跡平面・断面图(2)……………	370	第461图	第221号住居跡平面・断面图(1)……………	410
第416图	第201号住居跡出土遺物……………	371	第462图	第221号住居跡平面・断面图(2)……………	411
第417图	第202号住居跡平面・断面图……………	373	第463图	第221号住居跡出土遺物(1)……………	412
第418图	第202号住居跡出土遺物……………	374	第464图	第221号住居跡出土遺物(2)……………	413
第419图	第203号住居跡平面・断面图……………	374	第465图	第222号住居跡平面・断面图……………	416
第420图	第203号住居跡出土遺物……………	375	第466图	第222号住居跡出土遺物……………	416
第421图	第204号住居跡平面・断面图……………	375	第467图	第223号住居跡平面・断面图……………	416
第422图	第204号住居跡出土遺物……………	376	第468图	第223号住居跡出土遺物……………	417
第423图	第205号住居跡平面・断面图(1)……………	376	第469图	第224号住居跡平面・断面图(1)……………	419
第424图	第205号住居跡平面・断面图(2)……………	377	第470图	第224号住居跡平面・断面图(2)……………	419
第425图	第205号住居跡出土遺物……………	378	第471图	第225号住居跡平面・断面图(1)……………	420
第426图	第206号住居跡平面・断面图(1)……………	379	第472图	第225号住居跡平面・断面图(2)……………	421
第427图	第206号住居跡平面・断面图(2)……………	380	第473图	第225号住居跡出土遺物……………	421
第428图	第206号住居跡出土遺物……………	381	第474图	第226号住居跡平面・断面图……………	422
第429图	第207号住居跡平面・断面图(1)……………	383	第475图	第226号住居跡出土遺物……………	423
第430图	第207号住居跡平面・断面图(2)……………	384	第476图	第227号住居跡平面・断面图……………	424
第431图	第207号住居跡出土遺物……………	385	第477图	第227号住居跡出土遺物……………	425
第432图	第208号住居跡平面・断面图(1)……………	387	第478图	第228号住居跡平面・断面图……………	425
第433图	第208号住居跡平面・断面图(2)……………	388	第479图	第228号住居跡出土遺物……………	426
第434图	第208号住居跡出土遺物……………	388	第480图	第229号住居跡平面・断面图……………	426
第435图	第209号住居跡平面・断面图……………	389	第481图	第230号住居跡平面・断面图(1)……………	427
第436图	第210号住居跡平面・断面图(1)……………	390	第482图	第230号住居跡平面・断面图(2)……………	428
第437图	第210号住居跡平面・断面图(2)……………	391	第483图	第230号住居跡出土遺物……………	429
第438图	第210号住居跡出土遺物……………	391	第484图	第231号住居跡平面・断面图……………	430
第439图	第211号住居跡平面・断面图……………	392	第485图	第231号住居跡出土遺物……………	431
第440图	第211号住居跡出土遺物……………	393	第486图	第232号住居跡平面・断面图……………	432
第441图	第212号住居跡平面・断面图……………	394	第487图	第232号住居跡出土遺物……………	432
第442图	第212号住居跡出土遺物……………	395	第488图	第233号住居跡平面・断面图……………	433
第443图	第213号住居跡平面・断面图(1)……………	396	第489图	第233号住居跡出土遺物……………	433

第490图	第234号住居跡平面・断面図(1)……………	434	第536图	第252号住居跡出土遺物……………	470
第491图	第234号住居跡平面・断面図(2)……………	435	第537图	第253号住居跡平面・断面図……………	471
第492图	第234号住居跡出土遺物……………	436	第538图	第253号住居跡出土遺物……………	471
第493图	第235号住居跡平面・断面図(1)……………	437	第539图	第254号住居跡平面・断面図(1)……………	473
第494图	第235号住居跡平面・断面図(2)……………	438	第540图	第254号住居跡平面・断面図(2)……………	474
第495图	第235号住居跡出土遺物……………	439	第541图	第254号住居跡出土遺物……………	475
第496图	第236号住居跡平面・断面図……………	441	第542图	第255号住居跡平面・断面図……………	477
第497图	第236号住居跡出土遺物……………	441	第543图	第256号住居跡平面・断面図……………	478
第498图	第237号住居跡平面・断面図……………	441	第544图	第256号住居跡出土遺物……………	478
第499图	第237号住居跡出土遺物……………	442	第545图	第257号住居跡平面・断面図……………	480
第500图	第238号住居跡平面・断面図(1)……………	442	第546图	第257号住居跡出土遺物(1)……………	481
第501图	第238号住居跡平面・断面図(2)……………	443	第547图	第257号住居跡出土遺物(2)……………	482
第502图	第238号住居跡出土遺物……………	444	第548图	第258号住居跡平面・断面図……………	484
第503图	第239号住居跡平面・断面図……………	445	第549图	第258号住居跡出土遺物……………	484
第504图	第239号住居跡出土遺物……………	445	第550图	第259号住居跡平面・断面図……………	484
第505图	第240号住居跡平面・断面図(1)……………	446	第551图	第259号住居跡出土遺物……………	484
第506图	第240号住居跡平面・断面図(2)……………	447	第552图	第260号住居跡平面・断面図……………	485
第507图	第240号住居跡出土遺物……………	447	第553图	第260号住居跡出土遺物……………	485
第508图	第241号住居跡平面・断面図……………	449	第554图	第261号住居跡平面・断面図……………	486
第509图	第241号住居跡出土遺物……………	450	第555图	第261号住居跡出土遺物……………	486
第510图	第242号住居跡平面・断面図(1)……………	450	第556图	第262号住居跡平面・断面図……………	487
第511图	第242号住居跡平面・断面図(2)……………	451	第557图	第262号住居跡出土遺物……………	487
第512图	第242号住居跡出土遺物……………	452	第558图	第263号住居跡平面・断面図……………	487
第513图	第243号住居跡平面・断面図(1)……………	453	第559图	第263号住居跡出土遺物……………	488
第514图	第243号住居跡平面・断面図(2)……………	454	第560图	第264号住居跡平面・断面図(1)……………	488
第515图	第243号住居跡出土遺物……………	455	第561图	第264号住居跡平面・断面図(2)……………	489
第516图	第244号住居跡平面・断面図(1)……………	457	第562图	第264号住居跡出土遺物……………	489
第517图	第244号住居跡平面・断面図(2)……………	458	第563图	第265号住居跡平面・断面図(1)……………	490
第518图	第244号住居跡出土遺物……………	458	第564图	第265号住居跡平面・断面図(2)……………	491
第519图	第245号住居跡平面・断面図(1)……………	459	第565图	第265号住居跡出土遺物……………	491
第520图	第245号住居跡平面・断面図(2)……………	460	第566图	第266号住居跡平面・断面図……………	492
第521图	第246号住居跡平面・断面図……………	461	第567图	第266号住居跡出土遺物……………	492
第522图	第247号住居跡平面・断面図(1)……………	462	第568图	第267号住居跡平面・断面図……………	493
第523图	第247号住居跡平面・断面図(2)……………	463	第569图	第267号住居跡出土遺物……………	494
第524图	第247号住居跡出土遺物……………	464	第570图	第268号住居跡平面図……………	495
第525图	第248号住居跡平面・断面図(1)……………	464	第571图	第268号住居跡出土遺物……………	495
第526图	第248号住居跡平面・断面図(2)……………	465	第572图	第269号住居跡平面・断面図……………	495
第527图	第248号住居跡出土遺物……………	466	第573图	第269号住居跡出土遺物……………	496
第528图	第249号住居跡平面・断面図(1)……………	466	第574图	第270号住居跡平面・断面図……………	496
第529图	第249号住居跡平面・断面図(2)……………	467	第575图	第270号住居跡出土遺物……………	497
第530图	第249号住居跡出土遺物……………	467	第576图	第271号住居跡平面・断面図……………	498
第531图	第250号住居跡平面・断面図……………	468	第577图	第271号住居跡出土遺物……………	499
第532图	第250号住居跡出土遺物……………	468	第578图	第272A号住居跡平面・断面図……………	501
第533图	第251号住居跡平面・断面図……………	469	第579图	第272B号住居跡平面・断面図……………	502
第534图	第251号住居跡出土遺物……………	469	第580图	第272号住居跡出土遺物……………	502
第535图	第252号住居跡平面・断面図……………	470	第581图	第273号住居跡平面・断面図(1)……………	503

第582图	第273号住居跡平面・断面図(2)……………	504	第628图	第294号住居跡平面・断面図……………	539
第583图	第273号住居跡出土遺物……………	505	第629图	第294号住居跡出土遺物……………	540
第584图	第274号住居跡平面・断面図……………	506	第630图	第295号住居跡平面・断面図(1)……………	540
第585图	第274号住居跡出土遺物……………	507	第631图	第295号住居跡出土遺物……………	541
第586图	第275号住居跡平面・断面図……………	508	第632图	第295号住居跡平面・断面図(2)……………	541
第587图	第275号住居跡出土遺物(1)……………	509	第633图	第296号住居跡平面・断面図……………	542
第588图	第275号住居跡出土遺物(2)……………	510	第634图	第296号住居跡出土遺物……………	543
第589图	第276号住居跡平面・断面図(1)……………	511	第635图	第297号住居跡平面・断面図……………	544
第590图	第276号住居跡平面・断面図(2)……………	512	第636图	第297号住居跡出土遺物……………	545
第591图	第276号住居跡出土遺物……………	512	第637图	第298号住居跡出土遺物……………	545
第592图	第277号住居跡平面・断面図(1)……………	513	第638图	第298号住居跡平面・断面図……………	545
第593图	第277号住居跡平面・断面図(2)……………	514	第639图	第299号住居跡平面・断面図……………	546
第594图	第277号住居跡出土遺物……………	514	第640图	第300号住居跡平面・断面図……………	547
第595图	第278号住居跡平面・断面図……………	515	第641图	第301号住居跡平面・断面図(1)……………	547
第596图	第278号住居跡出土遺物……………	516	第642图	第301号住居跡平面・断面図(2)……………	548
第597图	第279号住居跡平面・断面図(1)……………	517	第643图	第301号住居跡出土遺物……………	548
第598图	第279号住居跡平面・断面図(2)……………	518	第644图	第302号住居跡平面・断面図(1)……………	549
第599图	第279号住居跡出土遺物……………	518	第645图	第302号住居跡平面・断面図(2)……………	550
第600图	第280号住居跡平面・断面図……………	520	第646图	第302号住居跡出土遺物……………	550
第601图	第280号住居跡出土遺物……………	521	第647图	第303号住居跡平面・断面図(1)……………	551
第602图	第281号住居跡平面・断面図……………	521	第648图	第303号住居跡平面・断面図(2)……………	551
第603图	第282号住居跡平面・断面図(1)……………	522	第649图	第304号住居跡平面・断面図……………	552
第604图	第282号住居跡平面・断面図(2)……………	523	第650图	第304号住居跡出土遺物……………	552
第605图	第282号住居跡出土遺物……………	523	第651图	第305号住居跡平面・断面図(1)……………	553
第606图	第283号住居跡平面・断面図(1)……………	524	第652图	第305号住居跡平面・断面図(2)……………	554
第607图	第283号住居跡平面・断面図(2)……………	525	第653图	第306号住居跡平面図……………	554
第608图	第283号住居跡出土遺物……………	526	第654图	第307号住居跡平面・断面図(1)……………	555
第609图	第284号住居跡平面・断面図(1)……………	527	第655图	第307号住居跡平面・断面図(2)……………	556
第610图	第284号住居跡平面・断面図(2)……………	528	第656图	第307号住居跡出土遺物……………	556
第611图	第284号住居跡出土遺物……………	528	第657图	第308号住居跡平面・断面図(1)……………	557
第612图	第285号住居跡平面・断面図……………	529	第658图	第308号住居跡平面・断面図(2)……………	558
第613图	第285号住居跡出土遺物……………	530	第659图	第308号住居跡出土遺物……………	559
第614图	第286号住居跡平面・断面図……………	531	第660图	第309号住居跡平面・断面図……………	562
第615图	第286号住居跡出土遺物……………	531	第661图	第309号住居跡出土遺物……………	563
第616图	第287号住居跡平面・断面図……………	532	第662图	第310号住居跡平面・断面図……………	564
第617图	第288号住居跡平面・断面図(1)……………	532	第663图	第311号住居跡出土遺物……………	564
第618图	第288号住居跡平面・断面図(2)……………	533	第664图	第311号住居跡平面・断面図……………	565
第619图	第288号住居跡出土遺物……………	533	第665图	第312号住居跡平面・断面図……………	565
第620图	第289号住居跡平面・断面図……………	534	第666图	第312号住居跡出土遺物……………	566
第621图	第289号住居跡出土遺物……………	535	第667图	第313号住居跡平面・断面図(1)……………	566
第622图	第290号住居跡平面・断面図……………	535	第668图	第313号住居跡平面・断面図(2)……………	567
第623图	第291号住居跡平面・断面図……………	536	第669图	第313号住居跡出土遺物……………	567
第624图	第291号住居跡出土遺物……………	536	第670图	第314号住居跡平面・断面図……………	567
第625图	第292号住居跡平面・断面図……………	537	第671图	第315号住居跡平面・断面図……………	568
第626图	第292号住居跡出土遺物……………	538	第672图	第316号住居跡平面・断面図(1)……………	569
第627图	第293号住居跡平面・断面図……………	538	第673图	第316号住居跡平面・断面図(2)……………	570

第674图	第317号住居跡平面・断面図……………	570	第719图	第117~123号土坑平面・断面図(2) ……	615
第675图	第318号住居跡平面・断面図(1)……………	571	第720图	第124~132号土坑平面・断面図(1) ……	616
第676图	第318号住居跡平面・断面図(2)……………	572	第721图	第124~132号土坑平面・断面図(2) ……	617
第677图	第318号住居跡出土遺物……………	572	第722图	第133~141号土坑平面・断面図(1) ……	618
第678图	第319号住居跡平面・断面図……………	573	第723图	第133~141号土坑平面・断面図(2) ……	619
第679图	第319号住居跡出土遺物……………	574	第724图	第142~150号土坑平面・断面図(1) ……	620
第680图	第320号住居跡平面・断面図……………	575	第725图	第142~150号土坑平面・断面図(2) ……	621
第681图	第321号住居跡平面・断面図(1)……………	576	第726图	第151~159号土坑平面・断面図(1) ……	622
第682图	第321号住居跡平面・断面図(2)……………	576	第727图	第151~159号土坑平面・断面図(2) ……	623
第683图	第321号住居跡出土遺物……………	576	第728图	第160~168号土坑平面・断面図(1) ……	625
第684图	第322号住居跡平面・断面図……………	577	第729图	第160~168号土坑平面・断面図(2) ……	626
第685图	第322号住居跡出土遺物……………	578	第730图	第169~173号土坑平面・断面図 ……	627
第686图	第323号住居跡平面・断面図……………	578	第731图	第174~179号土坑平面・断面図 ……	628
第687图	薬師堂東遺跡C地点土坑・溝跡 分布図 ……	580・581	第732图	第180~189号土坑平面・断面図(1) ……	629
第688图	薬師堂東遺跡C地点土坑分布拡大図 ……	582	第733图	第180~189号土坑平面・断面図(2) ……	630
第689图	第3~10号土坑平面・断面図(1) ……	583	第734图	第190~200号土坑平面・断面図(1) ……	632
第690图	第3~10号土坑平面・断面図(2) ……	584	第735图	第190~200号土坑平面・断面図(2) ……	633
第691图	第11~19号土坑平面・断面図(1) ……	585	第736图	第201~206号土坑平面・断面図 ……	634
第692图	第11~19号土坑平面・断面図(2) ……	586	第737图	第207~211号土坑平面・断面図 ……	635
第693图	第20~25号土坑平面・断面図(1) ……	587	第738图	第212~216号土坑平面・断面図 ……	636
第694图	第20~25号土坑平面・断面図(2) ……	588	第739图	第217~221号土坑平面・断面図 ……	637
第695图	第26~30号土坑平面・断面図 ……	589	第740图	第222~225・227号土坑平面・断面図…	638
第696图	第31~35号土坑平面・断面図 ……	590	第741图	第228~233号土坑平面・断面図 ……	639
第697图	第36~46号土坑平面・断面図(1) ……	591	第742图	第234・235・237号土坑平面・断面図…	640
第698图	第36~46号土坑平面・断面図(2) ……	592	第743图	第236・238~241号土坑平面・断面図…	641
第699图	第47~55号土坑平面・断面図(1) ……	594	第744图	第242~251号土坑平面・断面図(1) ……	643
第700图	第47~55号土坑平面・断面図(2) ……	595	第745图	第242~251号土坑平面・断面図(2) ……	644
第701图	第56~60号土坑平面・断面図 ……	596	第746图	第252~261号土坑平面・断面図(1) ……	645
第702图	第61~69号土坑平面・断面図(1) ……	597	第747图	第252~261号土坑平面・断面図(2) ……	646
第703图	第61~69号土坑平面・断面図(2) ……	598	第748图	第262~270号土坑平面・断面図(1) ……	647
第704图	第70~73号土坑平面・断面図 ……	599	第749图	第262~270号土坑平面・断面図(2) ……	648
第705图	第73号土坑平面・断面図(1) ……	600	第750图	第271~276号土坑平面・断面図 ……	649
第706图	第73号土坑平面・断面図(2) ……	601	第751图	第277~281号土坑平面・断面図 ……	650
第707图	第73号土坑平面・断面図(3) ……	602	第752图	第282~291号土坑平面・断面図(1) ……	652
第708图	第74~77号土坑平面・断面図 ……	602	第753图	第282~291号土坑平面・断面図(2) ……	653
第709图	第78~86号土坑平面・断面図(1) ……	603	第754图	第292~302号土坑平面・断面図(1) ……	654
第710图	第78~86号土坑平面・断面図(2) ……	604	第755图	第292~302号土坑平面・断面図(2) ……	655
第711图	第87~91号土坑平面・断面図 ……	606	第756图	第303~311号土坑平面・断面図(1) ……	656
第712图	第92~99号土坑平面・断面図(1) ……	607	第757图	第303~311号土坑平面・断面図(2) ……	657
第713图	第92~99号土坑平面・断面図(2) ……	608	第758图	第312~316号土坑平面・断面図 ……	658
第714图	第100~107号土坑平面・断面図(1) ……	609	第759图	第317~323号土坑平面・断面図 ……	659
第715图	第100~107号土坑平面・断面図(2) ……	610	第760图	第324~330号土坑平面・断面図 ……	661
第716图	第108~116号土坑平面・断面図(1) ……	611	第761图	第331~336号土坑平面・断面図 ……	662
第717图	第108~116号土坑平面・断面図(2) ……	612	第762图	第337~342号土坑平面・断面図 ……	663
第718图	第117~123号土坑平面・断面図(1) ……	614	第763图	第343~348号土坑平面・断面図 ……	664
			第764图	第349~354号土坑平面・断面図 ……	665

第765图	第355~360号土坑平面·断面图	666	第801图	第329号住居跡平面·断面图	720
第766图	第361~365号土坑平面·断面图	667	第802图	第329号住居跡出土遺物	720
第767图	第366~372号土坑平面·断面图	668	第803图	第330号住居跡平面·断面图	721
第768图	第373~379号土坑平面·断面图	670	第804图	第330号住居跡出土遺物	721
第769图	第380~385号土坑平面·断面图	671	第805图	第331号住居跡平面·断面图	722
第770图	第386~390号土坑平面·断面图	672	第806图	第331号住居跡出土遺物	723
第771图	第391~396号土坑平面·断面图	673	第807图	第332号住居跡平面·断面图(1)	724
第772图	第397~402号土坑平面·断面图	674	第808图	第332号住居跡平面·断面图(2)	725
第773图	第404~407A·B号土坑平面·断面图	675	第809图	第332号住居跡出土遺物(1)	726
第774图	第408~413号土坑平面·断面图	676	第810图	第332号住居跡出土遺物(2)	728
第775图	第414~420号土坑平面·断面图	677	第811图	第333·334号住居跡平面·断面图(1)	729
第776图	第421~425号土坑平面·断面图	679		……………	
第777图	第426~428号土坑平面·断面图	680	第812图	第333·334号住居跡平面·断面图(2)	730
第778图	第13·15·18·19·21号土坑出土遺物	681		……………	
第779图	第21·22·24·49·54·56·61·62· 64·73号土坑出土遺物	683	第813图	第335号住居跡平面·断面图	731
第780图	第73号土坑出土遺物	685	第814图	第335号住居跡出土遺物	732
第781图	第73·75·80·81·90号土坑出土遺物	687	第815图	第336号住居跡平面·断面图	732
第782图	第91·92·110·121·124·125·127· 129·153·167·179·181·186·203· 211·220·224·237号土坑出土遺物	689	第816图	第337号住居跡平面·断面图	733
第783图	第237·238·243·248·250·269·290· 295·300·305号土坑出土遺物	692	第817图	第337号住居跡出土遺物	733
第784图	第306·307·309·316·319~321·356· 390·396·405·420·423~426号土坑 出土遺物	694	第818图	第338号住居跡平面·断面图	734
第785图	3号溝跡平面·断面图	696	第819图	第338号住居跡出土遺物	735
第786图	4号溝跡平面·断面图	698	第820图	第339号住居跡平面·断面图(1)	737
第787图	5号溝跡平面·断面图	698	第821图	第339号住居跡平面·断面图(2)	738
第788图	C地点·遺構外出土遺物(1)	700	第822图	第339号住居跡平面·断面图(3)	739
第789图	C地点·遺構外出土遺物(2)	703	第823图	第339号住居跡出土遺物	739
第790图	C地点·遺構外出土遺物(3)	705	第824图	第340号住居跡平面·断面图	740
第791图	C地点·遺構外出土遺物(4)	707	第825图	第340号住居跡出土遺物	740
			第826图	第341号住居跡平面·断面图	741
			第827图	第341号住居跡出土遺物	742
			第828图	第342号住居跡平面·断面图	743
			第829图	第342号住居跡出土遺物	744
			第830图	第343·344号住居跡平面·断面图	745
			第831图	第343号住居跡出土遺物	746
			第832图	第344号住居跡出土遺物	746
			第833图	第345号住居跡平面·断面图	748
			第834图	第345号住居跡出土遺物	749
			第835图	第346·347号住居跡平面·断面图	750
			第836图	第346号住居跡出土遺物	751
			第837图	第348号住居跡平面·断面图(1)	752
			第838图	第348号住居跡平面·断面图(2)	753
			第839图	第348号住居跡出土遺物	754
			第840图	第349号住居跡平面·断面图	755
			第841图	第349号住居跡出土遺物	755
			第842图	第350号住居跡平面·断面图	756
			第843图	第350号住居跡出土遺物	756
			第844图	第351·352号住居跡平面·断面图	757

(第2分册)

D地点

第792图	薬師堂東遺跡D地点全体图	710·711
第793图	第324号住居跡平面·断面图	713
第794图	第324号住居跡出土遺物	713
第795图	第325·326号住居跡平面·断面图	714
第796图	第326号住居跡出土遺物	714
第797图	第327号住居跡平面·断面图	715
第798图	第327号住居跡出土遺物	715
第799图	第328号住居跡平面·断面图	716
第800图	第328号住居跡出土遺物	718

第845图	第351号住居跡出土遺物……………	757	第889图	第377号住居跡出土遺物……………	785
第846图	第353・354号住居跡平面・断面图 ……	758	第890图	第378号住居跡平面・断面图……………	785
第847图	第353号住居跡出土遺物……………	758	第891图	第378号住居跡出土遺物……………	786
第848图	第354号住居跡出土遺物……………	758	第892图	第379号住居跡平面・断面图……………	787
第849图	第355号住居跡平面・断面图……………	759	第893图	第379号住居跡出土遺物……………	787
第850图	第355号住居跡出土遺物……………	759	第894图	第380号住居跡平面・断面图……………	788
第851图	第356号住居跡出土遺物……………	760	第895图	第380号住居跡出土遺物……………	789
第852图	第356号住居跡平面・断面图……………	760	第896图	第381号住居跡平面・断面图……………	790
第853图	第357号住居跡平面・断面图……………	761	第897图	第381号住居跡出土遺物……………	790
第854图	第358号住居跡平面・断面图(1)……………	762	第898图	第382号住居跡平面・断面图……………	790
第855图	第358号住居跡平面・断面图(2)……………	763	第899图	第383~385号住居跡平面・断面图(1) ……………	791
第856图	第358号住居跡出土遺物……………	764	第900图	第383~385号住居跡平面・断面图(2) ……………	792
第857图	第359号住居跡平面・断面图……………	764	第901图	第383号住居跡出土遺物……………	792
第858图	第359号住居跡出土遺物……………	765	第902图	第383号住居跡土器埋置跡平面・断面图 ……………	793
第859图	第360号住居跡平面・断面图……………	765	第903图	第383号住居跡土器埋置跡出土遺物……	793
第860图	第360号住居跡出土遺物……………	766	第904图	第386号住居跡平面・断面图……………	794
第861图	第361号住居跡平面・断面图……………	767	第905图	第386号住居跡出土遺物……………	795
第862图	第361号住居跡出土遺物……………	768	第906图	第387号住居跡平面・断面图……………	795
第863图	第362号住居跡平面・断面图……………	769	第907图	第387号住居跡出土遺物……………	795
第864图	第363号住居跡平面・断面图……………	770	第908图	第388号住居跡平面・断面图……………	796
第865图	第363号住居跡出土遺物……………	770	第909图	第1号掘立柱建物跡平面・断面图 ……	797
第866图	第364号住居跡平面・断面图(1)……………	772	第910图	第1号掘立柱建物跡出土遺物 ……	797
第867图	第364号住居跡平面・断面图(2)……………	773	第911图	第2号掘立柱建物跡平面・断面图 ……	798
第868图	第364号住居跡平面・断面图(3)……………	774	第912图	第2号掘立柱建物跡出土遺物 ……	799
第869图	第364号住居跡出土遺物……………	774	第913图	第1号地下式壙平面・断面图 ……	800
第870图	第365・368・369号住居跡平面・断面 图(1)……………	775	第914图	第1号地下式壙出土遺物图(1)……………	801
第871图	第365・368・369号住居跡平面・断面 图(2)……………	776	第915图	第1号地下式壙出土遺物图(2)……………	802
第872图	第365号住居跡出土遺物……………	776	第916图	第1号地下式壙出土遺物图(3)……………	803
第873图	第366号住居跡平面・断面图……………	778	第917图	第429~435号土坑平面・断面图(1) ……	805
第874图	第366号住居跡出土遺物……………	778	第918图	第429~435号土坑平面・断面图(2) ……	806
第875图	第367号住居跡平面・断面图……………	778	第919图	第436~442号土坑平面・断面图 ……	806
第876图	第368号住居跡出土遺物……………	779	第920图	第443~449号土坑平面・断面图(1) ……	807
第877图	第370・371号住居跡平面・断面图 ……	780	第921图	第443~449号土坑平面・断面图(2) ……	808
第878图	第370号住居跡出土遺物……………	780	第922图	第450~452号土坑平面・断面图 ……	808
第879图	第371号住居跡出土遺物……………	780	第923图	第453~459号土坑平面・断面图 ……	809
第880图	第372号住居跡平面・断面图……………	781	第924图	第460~468号土坑平面・断面图(1) ……	810
第881图	第372号住居跡出土遺物……………	781	第925图	第460~468号土坑平面・断面图(2) ……	811
第882图	第373号住居跡平面・断面图……………	782	第926图	第469~475号土坑平面・断面图(1) ……	811
第883图	第373号住居跡出土遺物……………	782	第927图	第469~475号土坑平面・断面图(2) ……	812
第884图	第374号住居跡平面・断面图……………	783	第928图	第476~482号土坑平面・断面图 ……	812
第885图	第375号住居跡平面・断面图……………	783	第929图	第483~492号土坑平面・断面图 ……	813
第886图	第375号住居跡出土遺物……………	783	第930图	第493~504号土坑平面・断面图 ……	814
第887图	第376号住居跡平面・断面图……………	784	第931图	第429・430・434~439号土坑出土遺物	
第888图	第377号住居跡平面・断面图……………	784			

.....	817	855
第932図	第439・450～452・459・470・475号 土坑出土遺物	第960図	ガラス小玉鋳型集成図(13)(No. 113～119)
.....	819	857
第933図	第476・486～488・496・501号土坑出土 遺物	第961図	ガラス小玉鋳型集成図(14)(No. 120～130)
.....	821	858
第934図	第1・2号堀跡、第1号柱穴列平面図	第962図	ガラス小玉鋳型集成図(15)(No. 131～147)
.....	823	860
第935図	第1号堀跡等高線・断面図(1)	第963図	ガラス小玉鋳型集成図(16)(No. 148～153)
.....	825	861
第936図	第1号堀跡等高線・断面図(2)	第964図	ガラス小玉鋳型集成図(17)(No. 154～156)
.....	826	863
第937図	第1号堀跡等高線・断面図(3)	第965図	ガラス小玉鋳型集成図(18)(No. 157～164)
.....	827	864
第938図	第1号堀跡出土遺物	第966図	ガラス小玉鋳型集成図(19)(No. 165～175)
.....	827	865
第939図	第2号堀跡、第1号柱穴列等高線・ 断面図(1)	第967図	ガラス小玉鋳型集成図(20)(No. 176～188)
.....	830	867
第940図	第2号堀跡、第1号柱穴列等高線・ 断面図(2)	第968図	棒状土製品集成図(1)(No. 1～22)
.....	831	869
第941図	第2号堀跡、第1号柱穴列平面・断面図	第969図	棒状土製品集成図(2)(No. 23～46)
.....	832	870
第942図	第2号堀跡出土遺物	第970図	棒状土製品集成図(3)(No. 47～70)
.....	833	872
第943図	第1号柱穴列出土遺物	第971図	棒状土製品集成図(4)(No. 71～99)
.....	834	874
第944図	第6号溝跡平面・断面図	第972図	棒状土製品集成図(5)(No. 100～125)
.....	834	876
第945図	D地点・遺構外出土遺物	第973図	棒状土製品集成図(6)(No. 126～149)
.....	836	877
ガラス小玉鋳型、棒状土製品集成		第974図	棒状土製品集成図(7)(No. 150～163)
.....	836	879
第946図	ガラス小玉鋳型出土遺構分布図	まとめ	
.....	837	第975図	第1期の土器
第947図	棒状土製品出土遺構分布図	900
.....	838	第976図	第2期の土器
第948図	ガラス小玉鋳型集成図(1)(No. 1～10)	901
.....	839	第977図	第3期の土器
第949図	ガラス小玉鋳型集成図(2)(No. 11～18)	902
.....	840	第978図	第4期の土器
第950図	ガラス小玉鋳型集成図(3)(No. 19～29)	903
.....	842	第979図	第5期の土器
第951図	ガラス小玉鋳型集成図(4)(No. 30～38)	904
.....	843	第980図	第6期の土器
第952図	ガラス小玉鋳型集成図(5)(No. 39～46)	906
.....	845	第981図	第7期の土器
第953図	ガラス小玉鋳型集成図(6)(No. 47～55)	907
.....	846	第982図	第8期の土器
第954図	ガラス小玉鋳型集成図(7)(No. 56～61)	908
.....	848	第983図	第9期の土器
第955図	ガラス小玉鋳型集成図(8)(No. 62～72)	909
.....	849	第984図	第10期の土器
第956図	ガラス小玉鋳型集成図(9)(No. 73～83)	910
.....	851	第985図	第11期の土器
第957図	ガラス小玉鋳型集成図(10)(No. 84～91)	911
.....	852	第986図	第12期の土器
第958図	ガラス小玉鋳型集成図(11)(No. 92～104)	912
.....	854	第987図	第13期の土器
第959図	ガラス小玉鋳型集成図(12)(No. 105～112)	913
.....	854	第988図	第14期の土器
		914
		第989図	第15期の土器
		915
		第990図	第16期の土器
		916
		第991図	第17期の土器
		916
		第992図	第18期の土器
		917
		第993図	第19期の土器
		917
		第994図	第20期の土器
		918

插表目次

(第1分冊)

C地点

第1表	第30号住居跡出土遺物觀察表……………16	第42表	第58号住居跡出土遺物觀察表(2)……………98
第2表	第31号住居跡出土遺物觀察表(1)……………19	第43表	第59号住居跡出土遺物觀察表……………100
第3表	第31号住居跡出土遺物觀察表(2)……………20	第44表	第60号住居跡出土遺物觀察表(1)……………102
第4表	第32号住居跡出土遺物觀察表……………22	第45表	第60号住居跡出土遺物觀察表(2)……………103
第5表	第33号住居跡出土遺物觀察表……………24	第46表	第61号住居跡出土遺物觀察表……………104
第6表	第34号住居跡出土遺物觀察表(1)……………28	第47表	第62号住居跡出土遺物觀察表……………106
第7表	第34号住居跡出土遺物觀察表(2)……………29	第48表	第63号住居跡出土遺物觀察表……………110
第8表	第35号住居跡出土遺物觀察表……………32	第49表	第64号住居跡出土遺物觀察表……………112
第9表	第36号住居跡出土遺物觀察表……………34	第50表	第65号住居跡出土遺物觀察表……………114
第10表	第37号住居跡出土遺物觀察表……………37	第51表	第66号住居跡出土遺物觀察表(1)……………116
第11表	第38号住居跡出土遺物觀察表(1)……………39	第52表	第66号住居跡出土遺物觀察表(2)……………117
第12表	第38号住居跡出土遺物觀察表(2)……………40	第53表	第67号住居跡出土遺物觀察表(1)……………120
第13表	第39号住居跡出土遺物觀察表……………42	第54表	第67号住居跡出土遺物觀察表(2)……………121
第14表	第40号住居跡出土遺物觀察表……………44	第55表	第68号住居跡出土遺物觀察表……………123
第15表	第41号住居跡出土遺物觀察表……………46	第56表	第69号住居跡出土遺物觀察表(1)……………126
第16表	第42号住居跡出土遺物觀察表……………47	第57表	第69号住居跡出土遺物觀察表(2)……………127
第17表	第43号住居跡出土遺物觀察表……………50	第58表	第70号住居跡出土遺物觀察表……………129
第18表	第44号住居跡出土遺物觀察表(1)……………55	第59表	第72号住居跡出土遺物觀察表……………132
第19表	第44号住居跡出土遺物觀察表(2)……………57	第60表	第73号住居跡出土遺物觀察表……………135
第20表	第46号住居跡出土遺物觀察表……………60	第61表	第74号住居跡出土遺物觀察表……………142
第21表	第47号住居跡出土遺物觀察表(1)……………62	第62表	第75号住居跡出土遺物觀察表……………144
第22表	第47号住居跡出土遺物觀察表(2)……………64	第63表	第78号住居跡出土遺物觀察表……………146
第23表	第47号住居跡出土遺物觀察表(3)……………65	第64表	第79号住居跡出土遺物觀察表(1)……………152
第24表	第48号住居跡出土遺物觀察表(1)……………69	第65表	第79号住居跡出土遺物觀察表(2)……………154
第25表	第48号住居跡出土遺物觀察表(2)……………70	第66表	第79号住居跡出土遺物觀察表(3)……………155
第26表	第49号住居跡出土遺物觀察表(1)……………71	第67表	第81号住居跡出土遺物觀察表……………158
第27表	第49号住居跡出土遺物觀察表(2)……………72	第68表	第82号住居跡出土遺物觀察表……………160
第28表	第50号住居跡出土遺物觀察表(1)……………73	第69表	第83号住居跡出土遺物觀察表……………162
第29表	第50号住居跡出土遺物觀察表(2)……………74	第70表	第84号住居跡出土遺物觀察表……………164
第30表	第51号住居跡出土遺物觀察表……………76	第71表	第85号住居跡出土遺物觀察表……………164
第31表	第52号住居跡出土遺物觀察表……………77	第72表	第86号住居跡出土遺物觀察表……………167
第32表	第53号住居跡出土遺物觀察表(1)……………80	第73表	第87号住居跡出土遺物觀察表……………168
第33表	第53号住居跡出土遺物觀察表(2)……………82	第74表	第89号住居跡出土遺物觀察表……………169
第34表	第53号住居跡出土遺物觀察表(3)……………83	第75表	第93号住居跡出土遺物觀察表……………174
第35表	第54号住居跡出土遺物觀察表……………85	第76表	第94号住居跡出土遺物觀察表……………175
第36表	第55号住居跡出土遺物觀察表(1)……………87	第77表	第95・96号住居跡出土遺物觀察表……………177
第37表	第55号住居跡出土遺物觀察表(2)……………88	第78表	第99号住居跡出土遺物觀察表……………183
第38表	第56号住居跡出土遺物觀察表……………90	第79表	第100号住居跡出土遺物觀察表(1)……………185
第39表	第57号住居跡出土遺物觀察表(1)……………93	第80表	第100号住居跡出土遺物觀察表(2)……………186
第40表	第57号住居跡出土遺物觀察表(2)……………95	第81表	第101号住居跡出土遺物觀察表……………187
第41表	第58号住居跡出土遺物觀察表(1)……………97	第82表	第102号住居跡出土遺物觀察表(1)……………189

第 83 表	第102号住居跡出土遺物觀察表(2)……	190	第129表	第133号住居跡出土遺物觀察表(1)……	267
第 84 表	第103号住居跡出土遺物觀察表……	190	第130表	第133号住居跡出土遺物觀察表(2)……	269
第 85 表	第104号住居跡出土遺物觀察表……	194	第131表	第134号住居跡出土遺物觀察表……	270
第 86 表	第105号住居跡出土遺物觀察表(1)……	197	第132表	第135号住居跡出土遺物觀察表(1)……	272
第 87 表	第105号住居跡出土遺物觀察表(2)……	198	第133表	第135号住居跡出土遺物觀察表(2)……	273
第 88 表	第106号住居跡出土遺物觀察表……	199	第134表	第136号住居跡出土遺物觀察表……	274
第 89 表	第107号住居跡出土遺物觀察表(1)……	202	第135表	第137号住居跡出土遺物觀察表(1)……	277
第 90 表	第107号住居跡出土遺物觀察表(2)……	203	第136表	第137号住居跡出土遺物觀察表(2)……	278
第 91 表	第107号住居跡出土遺物觀察表(3)……	204	第137表	第138号住居跡出土遺物觀察表(1)……	280
第 92 表	第108号住居跡出土遺物觀察表(1)……	206	第138表	第138号住居跡出土遺物觀察表(2)……	282
第 93 表	第108号住居跡出土遺物觀察表(2)……	207	第139表	第140号住居跡出土遺物觀察表……	283
第 94 表	第109号住居跡出土遺物觀察表……	207	第140表	第141号住居跡出土遺物觀察表……	285
第 95 表	第110号住居跡出土遺物觀察表……	210	第141表	第142号住居跡出土遺物觀察表……	287
第 96 表	第111号住居跡出土遺物觀察表(1)……	212	第142表	第143号住居跡出土遺物觀察表(1)……	290
第 97 表	第111号住居跡出土遺物觀察表(2)……	215	第143表	第143号住居跡出土遺物觀察表(2)……	291
第 98 表	第111号住居跡出土遺物觀察表(3)……	216	第144表	第144号住居跡出土遺物觀察表……	293
第 99 表	第113号住居跡出土遺物觀察表……	217	第145表	第145号住居跡出土遺物觀察表……	295
第100表	第114号住居跡出土遺物觀察表(1)……	220	第146表	第146号住居跡出土遺物觀察表……	296
第101表	第114号住居跡出土遺物觀察表(2)……	222	第147表	第147号住居跡出土遺物觀察表……	297
第102表	第114号住居跡出土遺物觀察表(3)……	223	第148表	第148号住居跡出土遺物觀察表(1)……	299
第103表	第115号住居跡出土遺物觀察表(1)……	224	第149表	第148号住居跡出土遺物觀察表(2)……	300
第104表	第115号住居跡出土遺物觀察表(2)……	225	第150表	第149号住居跡出土遺物觀察表……	300
第105表	第116号住居跡出土遺物觀察表(1)……	227	第151表	第150号住居跡出土遺物觀察表(1)……	302
第106表	第116号住居跡出土遺物觀察表(2)……	229	第152表	第150号住居跡出土遺物觀察表(2)……	304
第107表	第116号住居跡出土遺物觀察表(3)……	230	第153表	第151号住居跡出土遺物觀察表……	305
第108表	第116号住居跡出土遺物觀察表(4)……	231	第154表	第153号住居跡出土遺物觀察表……	306
第109表	第117号住居跡出土遺物觀察表(1)……	233	第155表	第154号住居跡出土遺物觀察表……	307
第110表	第117号住居跡出土遺物觀察表(2)……	234	第156表	第156号住居跡出土遺物觀察表(1)……	311
第111表	第118号住居跡出土遺物觀察表(1)……	236	第157表	第156号住居跡出土遺物觀察表(2)……	313
第112表	第118号住居跡出土遺物觀察表(2)……	238	第158表	第157号住居跡出土遺物觀察表……	314
第113表	第118号住居跡出土遺物觀察表(3)……	239	第159表	第158号住居跡出土遺物觀察表……	315
第114表	第119号住居跡出土遺物觀察表……	239	第160表	第159号住居跡出土遺物觀察表……	317
第115表	第120号住居跡出土遺物觀察表……	241	第161表	第160号住居跡出土遺物觀察表……	319
第116表	第121号住居跡出土遺物觀察表……	242	第162表	第161号住居跡出土遺物觀察表……	320
第117表	第122号住居跡出土遺物觀察表……	243	第163表	第162号住居跡出土遺物觀察表(1)……	322
第118表	第123号住居跡出土遺物觀察表……	244	第164表	第162号住居跡出土遺物觀察表(2)……	323
第119表	第124号住居跡出土遺物觀察表……	245	第165表	第162号住居跡出土遺物觀察表(3)……	324
第120表	第127号住居跡出土遺物觀察表……	250	第166表	第163号住居跡出土遺物觀察表……	325
第121表	第128号住居跡出土遺物觀察表……	253	第167表	第164号住居跡出土遺物觀察表……	327
第122表	第129号住居跡出土遺物觀察表(1)……	256	第168表	第165号住居跡出土遺物觀察表……	327
第123表	第129号住居跡出土遺物觀察表(2)……	257	第169表	第166号住居跡出土遺物觀察表……	328
第124表	第130号住居跡出土遺物觀察表(1)……	260	第170表	第167号住居跡出土遺物觀察表……	331
第125表	第130号住居跡出土遺物觀察表(2)……	261	第171表	第168号住居跡出土遺物觀察表……	333
第126表	第131号住居跡出土遺物觀察表(1)……	263	第172表	第169号住居跡出土遺物觀察表……	335
第127表	第131号住居跡出土遺物觀察表(2)……	264	第173表	第172号住居跡出土遺物觀察表……	337
第128表	第132号住居跡出土遺物觀察表……	265	第174表	第173号住居跡出土遺物觀察表……	337

第267表	第267号住居跡出土遺物観察表……………	494	第313表	C地点・土坑計測および観察表(1) ……	593
第268表	第268号住居跡出土遺物観察表……………	495	第314表	C地点・土坑計測および観察表(2) ……	605
第269表	第269号住居跡出土遺物観察表……………	496	第315表	C地点・土坑計測および観察表(3) ……	613
第270表	第270号住居跡出土遺物観察表……………	497	第316表	C地点・土坑計測および観察表(4) ……	624
第271表	第271号住居跡出土遺物観察表……………	499	第317表	C地点・土坑計測および観察表(5) ……	631
第272表	第272号住居跡出土遺物観察表……………	503	第318表	C地点・土坑計測および観察表(6) ……	642
第273表	第273号住居跡出土遺物観察表……………	505	第319表	C地点・土坑計測および観察表(7) ……	651
第274表	第274号住居跡出土遺物観察表……………	507	第320表	C地点・土坑計測および観察表(8) ……	660
第275表	第275号住居跡出土遺物観察表(1) ……	508	第321表	C地点・土坑計測および観察表(9) ……	669
第276表	第275号住居跡出土遺物観察表(2) ……	510	第322表	C地点・土坑計測および観察表(10) ……	678
第277表	第275号住居跡出土遺物観察表(3) ……	511	第323表	C地点・土坑計測および観察表(11) ……	680
第278表	第276号住居跡出土遺物観察表(1) ……	512	第324表	第13・15・18・19・21号土坑出土遺物 観察表 ……………	682
第279表	第276号住居跡出土遺物観察表(2) ……	513	第325表	第21・22・24・49・54・56・61・62・ 64・73号土坑出土遺物観察表(1) ……	682
第280表	第277号住居跡出土遺物観察表……………	514	第326表	第21・22・24・49・54・56・61・62・ 64・73号土坑出土遺物観察表(2) ……	684
第281表	第278号住居跡出土遺物観察表……………	516	第327表	第73号土坑出土遺物観察表(1) ……	684
第282表	第279号住居跡出土遺物観察表……………	519	第328表	第73号土坑出土遺物観察表(2) ……	686
第283表	第280号住居跡出土遺物観察表……………	521	第329表	第73・75・80・81・90号土坑出土遺 物観察表(1) ……………	686
第284表	第282号住居跡出土遺物観察表……………	523	第330表	第73・75・80・81・90号土坑出土遺 物観察表(2) ……………	688
第285表	第283号住居跡出土遺物観察表……………	526	第331表	第91・92・110・121・124・125・127・ 129・153・167・179・181・186・203・ 211・220・224・237号土坑出土遺物観 察表(1) ……………	688
第286表	第284号住居跡出土遺物観察表……………	529	第332表	第91・92・110・121・124・125・127・ 129・153・167・179・181・186・203・ 211・220・224・237号土坑出土遺物観 察表(2) ……………	690
第287表	第285号住居跡出土遺物観察表……………	530	第333表	第91・92・110・121・124・125・127・ 129・153・167・179・181・186・203・ 211・220・224・237号土坑出土遺物観 察表(3) ……………	691
第288表	第286号住居跡出土遺物観察表……………	530	第334表	第237・238・243・248・250・269・ 290・295・300・305号土坑出土遺物観 察表(1) ……………	691
第289表	第288号住居跡出土遺物観察表……………	533	第335表	第237・238・243・248・250・269・ 290・295・300・305号土坑出土遺物観 察表(2) ……………	693
第290表	第289号住居跡出土遺物観察表……………	534	第336表	第306・307・309・316・319～321・ 356・390・396・405・420・423～426 号土坑出土遺物観察表(1) ……………	693
第291表	第291号住居跡出土遺物観察表……………	536	第337表	第306・307・309・316・319～321・ 356・390・396・405・420・423～426	
第292表	第292号住居跡出土遺物観察表……………	538			
第293表	第294号住居跡出土遺物観察表……………	540			
第294表	第295号住居跡出土遺物観察表……………	541			
第295表	第296号住居跡出土遺物観察表……………	543			
第296表	第297号住居跡出土遺物観察表……………	545			
第297表	第298号住居跡出土遺物観察表……………	545			
第298表	第301号住居跡出土遺物観察表……………	549			
第299表	第302号住居跡出土遺物観察表……………	550			
第300表	第304号住居跡出土遺物観察表……………	552			
第301表	第307号住居跡出土遺物観察表……………	556			
第302表	第308号住居跡出土遺物観察表(1) ……	558			
第303表	第308号住居跡出土遺物観察表(2) ……	560			
第304表	第308号住居跡出土遺物観察表(3) ……	561			
第305表	第309号住居跡出土遺物観察表……………	563			
第306表	第311号住居跡出土遺物観察表……………	564			
第307表	第312号住居跡出土遺物観察表……………	566			
第308表	第313号住居跡出土遺物観察表……………	567			
第309表	第318号住居跡出土遺物観察表……………	572			
第310表	第319号住居跡出土遺物観察表……………	574			
第311表	第321号住居跡出土遺物観察表……………	577			
第312表	第322号住居跡出土遺物観察表……………	578			

	号土坑出土遺物觀察表(2) ……………	695	第380表	第355号住居跡出土遺物觀察表(1) ……	759
第338表	C地点・遺構外出土遺物觀察表(1) …	701	第381表	第355号住居跡出土遺物觀察表(2) ……	760
第339表	C地点・遺構外出土遺物觀察表(2) …	702	第382表	第356号住居跡出土遺物觀察表 ……	760
第340表	C地点・遺構外出土遺物觀察表(3) …	702	第383表	第358号住居跡出土遺物觀察表 ……	764
第341表	C地点・遺構外出土遺物觀察表(4) …	704	第384表	第359号住居跡出土遺物觀察表 ……	765
第342表	C地点・遺構外出土遺物觀察表(5) …	704	第385表	第360号住居跡出土遺物觀察表 ……	766
第343表	C地点・遺構外出土遺物觀察表(6) …	706	第386表	第361号住居跡出土遺物觀察表(1) ……	768
第344表	C地点・遺構外出土遺物觀察表(7) …	706	第387表	第361号住居跡出土遺物觀察表(2) ……	769
第345表	C地点・遺構外出土遺物觀察表(8) …	708	第388表	第363号住居跡出土遺物觀察表 ……	771
			第389表	第364号住居跡出土遺物觀察表 ……	774
			第390表	第365号住居跡出土遺物觀察表(1) ……	776
			第391表	第365号住居跡出土遺物觀察表(2) ……	777
			第392表	第366号住居跡出土遺物觀察表 ……	778
			第393表	第368号住居跡出土遺物觀察表 ……	779
			第394表	第370号住居跡出土遺物觀察表 ……	780
			第395表	第371号住居跡出土遺物觀察表 ……	781
			第396表	第372号住居跡出土遺物觀察表 ……	781
			第397表	第373号住居跡出土遺物觀察表 ……	781
			第398表	第375号住居跡出土遺物觀察表 ……	784
			第399表	第377号住居跡出土遺物觀察表 ……	785
			第400表	第378号住居跡出土遺物觀察表 ……	786
			第401表	第379号住居跡出土遺物觀察表 ……	787
			第402表	第380号住居跡出土遺物觀察表(1) ……	788
			第403表	第380号住居跡出土遺物觀察表(2) ……	789
			第404表	第381号住居跡出土遺物觀察表 ……	790
			第405表	第383号住居跡出土遺物觀察表 ……	792
			第406表	第383号住居跡土器埋置跡出土遺物觀察 表 ……………	793
			第407表	第386号住居跡出土遺物觀察表 ……	795
			第408表	第387号住居跡出土遺物觀察表 ……	796
			第409表	第1号掘立柱建物跡出土遺物觀察表 …	798
			第410表	第2号掘立柱建物跡出土遺物觀察表 …	799
			第411表	第1号地下式竈出土遺物觀察表(1) …	801
			第412表	第1号地下式竈出土遺物觀察表(2) …	803
			第413表	D地点・土坑計測および觀察表(1) …	815
			第414表	D地点・土坑計測および觀察表(2) …	816
			第415表	第429・430・434～439号土坑出土遺物 觀察表(1) ……………	816
			第416表	第429・430・434～439号土坑出土遺物 觀察表(2) ……………	818
			第417表	第439・450～452・459・470・475・ 476・480号土坑出土遺物觀察表(1) …	820
			第418表	第439・450～452・459・470・475・ 476・480号土坑出土遺物觀察表(2) …	821
			第419表	第476・480・486～488・496・501号土 坑出土遺物觀察表(1) ……………	821

(第2分冊)

D地点

第346表	第324号住居跡出土遺物觀察表 ……	713
第347表	第326号住居跡出土遺物觀察表 ……	714
第348表	第227号住居跡出土遺物觀察表(1) ……	715
第349表	第327号住居跡出土遺物觀察表(2) ……	716
第350表	第328号住居跡出土遺物觀察表(1) ……	717
第351表	第328号住居跡出土遺物觀察表(2) ……	719
第352表	第329号住居跡出土遺物觀察表(1) ……	720
第353表	第329号住居跡出土遺物觀察表(2) ……	721
第354表	第330号住居跡出土遺物觀察表 ……	722
第355表	第331号住居跡出土遺物觀察表 ……	723
第356表	第332号住居跡出土遺物觀察表(1) ……	725
第357表	第332号住居跡出土遺物觀察表(2) ……	727
第358表	第332号住居跡出土遺物觀察表(3) ……	728
第359表	第335号住居跡出土遺物觀察表 ……	732
第360表	第337号住居跡出土遺物觀察表 ……	734
第361表	第338号住居跡出土遺物觀察表(1) ……	735
第362表	第338号住居跡出土遺物觀察表(2) ……	736
第363表	第339号住居跡出土遺物觀察表 ……	739
第364表	第340号住居跡出土遺物觀察表 ……	740
第365表	第341号住居跡出土遺物觀察表 ……	742
第366表	第342号住居跡出土遺物觀察表 ……	744
第367表	第343号住居跡出土遺物觀察表 ……	746
第368表	第344号住居跡出土遺物觀察表(1) ……	746
第369表	第344号住居跡出土遺物觀察表(2) ……	747
第370表	第345号住居跡出土遺物觀察表(1) ……	748
第371表	第345号住居跡出土遺物觀察表(2) ……	749
第372表	第346号住居跡出土遺物觀察表(1) ……	750
第373表	第346号住居跡出土遺物觀察表(2) ……	751
第374表	第348号住居跡出土遺物觀察表 ……	754
第375表	第349号住居跡出土遺物觀察表 ……	755
第376表	第350号住居跡出土遺物觀察表 ……	756
第377表	第351号住居跡出土遺物觀察表 ……	757
第378表	第353号住居跡出土遺物觀察表 ……	758
第379表	第354号住居跡出土遺物觀察表 ……	758

第420表	第476・480・486～488・496・501号土坑出土遺物観察表(2) ……………	822	第434表	ガラス小玉鋳型観察表(8)(No. 133～153) ……………	862
第421表	第1号堀跡出土遺物観察表 ……………	828	第435表	ガラス小玉鋳型観察表(9)(No. 154～172) ……………	866
第422表	第2号堀跡出土遺物観察表(1) ……………	833	第436表	ガラス小玉鋳型観察表(10)(No. 173～188) ……………	868
第423表	第2号堀跡出土遺物観察表(2) ……………	834	第437表	棒状土製品観察表(1)(No. 1～34) ……………	871
第424表	第1号柱穴列出土遺物観察表 ……………	834	第438表	棒状土製品観察表(2)(No. 35～68) ……………	873
第425表	D地点・遺構外出土遺物出土遺物観察表(1) ……………	835	第439表	棒状土製品観察表(3)(No. 69～102) ……	875
第426表	D地点・遺構外出土遺物出土遺物観察表(2) ……………	836	第440表	棒状土製品観察表(4)(No. 103～136) ……………	878
ガラス小玉鋳型、棒状土製品集成			第441表	棒状土製品観察表(5)(No. 137～163) ……………	880
第427表	ガラス小玉鋳型観察表(1)(No. 1～20) ……………	841	自然科学分析		
第428表	ガラス小玉鋳型観察表(2)(No. 21～38) ……………	844	第442表	資料および調査結果一覧 ……………	882
第429表	ガラス小玉鋳型観察表(3)(No. 39～55) ……………	847	第443表	蛍光X線分析定量結果(FP法) ……………	884
第430表	ガラス小玉鋳型観察表(4)(No. 56～74) ……………	850	第444表	型穴内残存鉛ガラス(Group LIIB)の鉛同位体比分析結果 ……………	890
第431表	ガラス小玉鋳型観察表(5)(No. 75～93) ……………	853	第445表	薬師堂東遺跡C・D地点出土人骨 ……	896
第432表	ガラス小玉鋳型観察表(6)(No. 94～112) ……………	856	第446表	薬師堂東遺跡C・D地点出土獣骨 ……	897
第433表	ガラス小玉鋳型観察表(7)(No. 113～132) ……………	859	まとめ		
			第447表	薬師堂東遺跡C地点出土ガラス小玉鋳型、棒状土製品個体数一覧 ……………	920

写真目次

(第2分冊)		写真6	第457号土坑出土人骨右下顎骨
写真1	第381号土坑出土人骨右上腕遠位端	写真7	第458号土坑出土人骨上顎右臼歯
写真2	第381号土坑出土人骨左右尺骨近位端	写真8	第459号土坑出土人骨下顎大白歯
写真3	第381号土坑出土人骨左大腿骨近位端	写真9	第130号住居跡出土獣骨上顎臼歯
写真4	第394号土坑出土人骨下顎大白歯	写真10	第73号土坑出土獣骨左橈尺骨
写真5	第404号土坑出土人骨下顎大白歯	写真11	第365号住居跡出土獣骨上顎臼歯

図版目次

(第2分冊)		図版6	第37・38号住居跡
C地点		図版7	第38～41号住居跡
図版1	薬師堂東遺跡C地点調査区南西半全景	図版8	第42～44号住居跡
図版2	薬師堂東遺跡C地点調査区全景(1)・(2)	図版9	第45～47号住居跡
図版3	薬師堂東遺跡C地点調査区全景(3)・(4)	図版10	第48・49号住居跡
図版4	第30～33号住居跡	図版11	第50～53号住居跡
図版5	第34～36号住居跡	図版12	第53・54号住居跡

- 函版13 第55~57号住居跡
 函版14 第57~59号住居跡
 函版15 第60~63号住居跡
 函版16 第63~66号住居跡
 函版17 第67~71号住居跡
 函版18 第72~77号住居跡
 函版19 第78・79号住居跡
 函版20 第79~83号住居跡
 函版21 第84~87・89号住居跡
 函版22 第92・93・95~99号住居跡
 函版23 第100~102号住居跡
 函版24 第102~105号住居跡
 函版25 第106・107号住居跡
 函版26 第108~111・113・114号住居跡
 函版27 第114・115号住居跡
 函版28 第116・117号住居跡
 函版29 第118・122~124号住居跡
 函版30 第125・127・128号住居跡
 函版31 第129・130・132号住居跡
 函版32 第133~135号住居跡
 函版33 第135~138号住居跡
 函版34 第139・141~143号住居跡
 函版35 第143~147号住居跡
 函版36 第148・150~154号住居跡
 函版37 第154~156号住居跡
 函版38 第157・158・160・161号住居跡
 函版39 第162~164号住居跡
 函版40 第165・167・169・176号住居跡
 函版41 第178~182号住居跡
 函版42 第183・184・186・188・191号住居跡
 函版43 第192・195~197号住居跡
 函版44 第199~201号住居跡
 函版45 第202~205号住居跡
 函版46 第205・206号住居跡
 函版47 第207・208号住居跡
 函版48 第208~212号住居跡
 函版49 第213・214号住居跡
 函版50 第216・217号住居跡
 函版51 第218・219号住居跡
 函版52 第220・221号住居跡
 函版53 第222~224号住居跡
 函版54 第225~227号住居跡
 函版55 第228~231号住居跡
 函版56 第231~234号住居跡
 函版57 第234・235号住居跡
 函版58 第235・236・238~240号住居跡
 函版59 第241・242号住居跡
 函版60 第243号住居跡
 函版61 第244~246号住居跡
 函版62 第247~249号住居跡
 函版63 第251~254・256号住居跡
 函版64 第257号住居跡
 函版65 第258~262・264号住居跡
 函版66 第265・267・268号住居跡
 函版67 第269~271号住居跡
 函版68 第272・273号住居跡
 函版69 第274~276号住居跡
 函版70 第277~279号住居跡
 函版71 第280~282号住居跡
 函版72 第282~285号住居跡
 函版73 第286~290号住居跡
 函版74 第291~295号住居跡
 函版75 第296・297号住居跡
 函版76 第297~302号住居跡
 函版77 第303・306~308号住居跡
 函版78 第308~313号住居跡
 函版79 第313~318号住居跡
 函版80 第319・321~323号住居跡
 函版81 第3~15号土坑
 函版82 第16~27号土坑
 函版83 第28~43号土坑
 函版84 第44~57・65号土坑
 函版85 第58~64・66~72号土坑
 函版86 第73~83号土坑
 函版87 第84~95・97・98号土坑
 函版88 第99~112号土坑
 函版89 第113~125号土坑
 函版90 第126~138・140・141号土坑
 函版91 第142~149・151~155号土坑
 函版92 第156~161・163~170・177号土坑
 函版93 第171~176・178~186号土坑
 函版94 第187~191・193~202号土坑
 函版95 第203・204・206~217号土坑
 函版96 第219~221・223~232号土坑
 函版97 第233~238・241~248号土坑
 函版98 第249・251・253~265号土坑
 函版99 第266・270・272~274・276~280・282・
 285・286・288・289号土坑
 函版100 第290~295・298・299・301~304・307・
 309号土坑
 函版101 第312~314・317~325号土坑
 函版102 第326・327・329~341号土坑

- 函版103 第342~353号土坑
 函版104 第354~365·367~369号土坑
 函版105 第370·371·373~384号土坑
 函版106 第385~395号土坑
 函版107 第396~404·406~410·412号土坑
 函版108 第413~420·422~427号土坑、第3号溝
 函版109 第30~32号住居跡出土遺物、第33号住居跡出土遺物(1)
 函版110 第33号住居跡出土遺物(2)、第34·35号住居跡出土遺物、第36号住居跡出土遺物(1)
 函版111 第36号住居跡出土遺物(2)、第37号住居跡出土遺物、第38号住居跡出土遺物(1)
 函版112 第38号住居跡出土遺物(2)、第39~43号住居跡出土遺物
 函版113 第44·46号住居跡出土遺物、第47号住居跡出土遺物(1)
 函版114 第47号住居跡出土遺物(2)
 函版115 第48号住居跡出土遺物(1)
 函版116 第48号住居跡出土遺物(2)、第49·50号住居跡出土遺物
 函版117 第51·52号住居跡出土遺物、第53号住居跡出土遺物(1)
 函版118 第53号住居跡出土遺物(2)、第54~56号住居跡出土遺物
 函版119 第57号住居跡出土遺物(1)
 函版120 第57号住居跡出土遺物(2)、第58~62号住居跡出土遺物
 函版121 第63号住居跡出土遺物
 函版122 第64~66号住居跡出土遺物、第67号住居跡出土遺物(1)
 函版123 第67号住居跡出土遺物(2)、第68~70号住居跡出土遺物
 函版124 第72~75·78号住居跡出土遺物
 函版125 第79号住居跡出土遺物(1)
 函版126 第79号住居跡出土遺物(2)、第81~86号住居跡出土遺物
 函版127 第87·89·93~96·99·100号住居跡出土遺物
 函版128 第101~105号住居跡出土遺物
 函版129 第106·107号住居跡出土遺物
 函版130 第108~110号住居跡出土遺物、第111号住居跡出土遺物(1)
 函版131 第111号住居跡出土遺物(2)
 函版132 第113号住居跡出土遺物、第114号住居跡出土遺物(1)
 函版133 第114号住居跡出土遺物(2)、第115号住居跡出土遺物
 函版134 第116号住居跡出土遺物(1)
 函版135 第116号住居跡出土遺物(2)、第117号住居跡出土遺物、第118号住居跡出土遺物(1)
 函版136 第118号住居跡出土遺物(2)、第119号住居跡出土遺物
 函版137 第120~124·127号住居跡出土遺物
 函版138 第128号住居跡出土遺物、第129号住居跡出土遺物(1)
 函版139 第129号住居跡出土遺物(2)、第130号住居跡出土遺物
 函版140 第131·132号住居跡出土遺物、第133号住居跡出土遺物(1)
 函版141 第133号住居跡出土遺物(2)、第134号住居跡出土遺物、第135号住居跡出土遺物(1)
 函版142 第135号住居跡出土遺物(2)、第136号住居跡出土遺物、第137号住居跡出土遺物(1)
 函版143 第137号住居跡出土遺物(2)、第138号住居跡出土遺物(1)
 函版144 第138号住居跡出土遺物(2)、第140~142号住居跡出土遺物、第143号住居跡出土遺物(1)
 函版145 第143号住居跡出土遺物(2)、第144·145号住居跡出土遺物
 函版146 第146~149号住居跡出土遺物、第150号住居跡出土遺物(1)
 函版147 第150号住居跡出土遺物(2)、第151·153·154号住居跡出土遺物、第156号住居跡出土遺物(1)
 函版148 第156号住居跡出土遺物(2)、第157号住居跡出土遺物(1)
 函版149 第157号住居跡出土遺物(2)、第158~161号住居跡出土遺物
 函版150 第162~165号住居跡出土遺物
 函版151 第166~169·172·173号住居跡出土遺物
 函版152 第176·179~181号住居跡出土遺物
 函版153 第182~186·188·190号住居跡出土遺物、第192号住居跡出土遺物(1)
 函版154 第192号住居跡出土遺物(2)、第195号住居跡出土遺物(1)
 函版155 第195号住居跡出土遺物(2)、第196·200号住居跡出土遺物
 函版156 第201号住居跡出土遺物、第202号住居跡出土遺物(1)
 函版157 第202号住居跡出土遺物(2)、第203~205号住居跡出土遺物、第206号住居跡出土遺物

- (1)
- 図版158 第206号住居跡出土遺物(2)、第207号住居跡出土遺物(1)
- 図版159 第207号住居跡出土遺物(2)、第208・210・211号住居跡出土遺物
- 図版160 第212~214・216号住居跡出土遺物、第217号住居跡出土遺物(1)
- 図版161 第217号住居跡出土遺物(2)、第219・220号住居跡出土遺物、第221号住居跡出土遺物(1)
- 図版162 第221号住居跡出土遺物(2)
- 図版163 第222・223号住居跡出土遺物
- 図版164 第225~228・230号住居跡出土遺物
- 図版165 第231~235号住居跡出土遺物
- 図版166 第236~241号住居跡出土遺物
- 図版167 第242号住居跡出土遺物、第243号住居跡出土遺物(1)
- 図版168 第243号住居跡出土遺物(2)、第244・247~249号住居跡出土遺物
- 図版169 第250~253号住居跡出土遺物
- 図版170 第254号住居跡出土遺物
- 図版171 第256号住居跡出土遺物、第257号住居跡出土遺物(1)
- 図版172 第257号住居跡出土遺物(2)
- 図版173 第258~267号住居跡出土遺物
- 図版174 第268~272号住居跡出土遺物
- 図版175 第273・274号住居跡出土遺物、第275号住居跡出土遺物(1)
- 図版176 第275号住居跡出土遺物(2)
- 図版177 第276~280号住居跡出土遺物
- 図版178 第282~286・288・289・291号住居跡出土遺物
- 図版179 第292・294~298・301・302・304・307号住居跡出土遺物
- 図版180 第308号住居跡出土遺物(1)
- 図版181 第308号住居跡出土遺物(2)、第309・311~313・318・319・321・322号住居跡出土遺物
- 図版182 第13・15・18・19・21号土坑出土遺物
- 図版183 第21・22・24・49・54・56・61・62・64・73号土坑出土遺物
- 図版184 第73号土坑出土遺物
- 図版185 第73・75・80・81・90~92・110・121・124・125・127・129・153・167・179・181・186・203・211・220・224・237号土坑出土遺物
- 図版186 第237・238・243・248・250・269号土坑出土遺物
- 土遺物
- 図版187 第290・295・300・305~307・309・316・319・320号土坑出土遺物
- 図版188 第311・321・356・390・396・404・405・420・423~426号土坑出土遺物、C地点・遺構外出土遺物(1)・1
- 図版189 C地点・遺構外出土遺物(1)・2、C地点・遺構外出土遺物(2)・1
- 図版190 C地点・遺構外出土遺物(2)・2、C地点・遺構外出土遺物(3)・1
- 図版191 C地点・遺構外出土遺物(3)・2、C地点・遺構外出土遺物(4)
- D地点**
- 図版192 薬師堂東遺跡D地点全景(1)・(2)
- 図版193 薬師堂東遺跡D地点全景(3)
- 図版194 薬師堂東遺跡D地点北西・南西部分
- 図版195 薬師堂東遺跡D地点北東・南東部分
- 図版196 第324~327号住居跡
- 図版197 第328~330号住居跡
- 図版198 第331~332号住居跡
- 図版199 第333号住居跡
- 図版200 第335~338号住居跡
- 図版201 第339号住居跡
- 図版202 第340・341号住居跡
- 図版203 第342~344号住居跡
- 図版204 第343・345号住居跡
- 図版205 第345~347号住居跡
- 図版206 第346・348号住居跡
- 図版207 第348~353・358・359号住居跡
- 図版208 第358・360~362号住居跡
- 図版209 第364号住居跡
- 図版210 第364・365号住居跡
- 図版211 第366・368~374・377号住居跡
- 図版212 第378~381号住居跡
- 図版213 第382~384・386~388号住居跡
- 図版214 第1・2号掘立柱建物跡(1)・(2)
- 図版215 第2号掘立柱建物跡、第1号地下式壙(1)
- 図版216 第1号地下式壙(2)、同土層断面
- 図版217 調査区北東部土坑群、第430~432・434・435・437・439・441・442・446号土坑
- 図版218 第448・450・452~454・456~459号土坑
- 図版219 第461・463~469・471・473~480号土坑
- 図版220 第481・483~493・495~498・500・504号土坑
- 図版221 第1号堀跡(1)・(2)

図版222 第1号堀跡(3)・(4)、同土層断面
図版223 第2号堀跡・第1号柱穴列(1)・(2)
図版224 第2号堀跡・東堀跡、同土層断面
図版225 第324・326・327号住居跡出土遺物、第328号住居跡出土遺物(1)
図版226 第328号住居跡出土遺物(2)、第329～331号住居跡出土遺物、第332号住居跡出土遺物(1)
図版227 第332号住居跡出土遺物(2)
図版228 第335・337～339号住居跡出土遺物、第340号住居跡出土遺物(1)
図版229 第340号住居跡出土遺物(2)、第341～345号住居跡出土遺物、第346号住居跡出土遺物(1)
図版230 第346号住居跡出土遺物(2)、第348～351・353～356号住居跡出土遺物、第358号住居跡出土遺物(1)
図版231 第358号住居跡出土遺物(2)、第359～361号住居跡出土遺物、第363号住居跡出土遺物(1)
図版232 第363号住居跡出土遺物(2)、第364～366・368・370～373・375号住居跡出土遺物
図版233 第377～381・383号住居跡出土遺物、第383号住居跡土器埋地跡出土遺物、第386・387号住居跡出土遺物、第1・2号掘立柱建物跡出土遺物
図版234 第1号地下式壙出土遺物(1)
図版235 第1号地下式壙出土遺物(2)、第429・430・434～438号土坑出土遺物、第439号土坑出土遺物(1)

図版236 第439号土坑出土遺物(1)・(2)、第450・451号土坑出土遺物
図版237 第452・459・475・476・480・486～488号土坑出土遺物
図版238 第496・501号土坑出土遺物、第1・2号堀跡出土遺物
図版239 第1号柱穴列出土遺物、D地点・遺構外出土遺物

自然科学分析

図版240 鋳型および関連遺物の写真・X線透過画像・顕微鏡写真①
図版241 鋳型および関連遺物の写真・X線透過画像・顕微鏡写真②
図版242 鋳型および関連遺物の写真・X線透過画像・顕微鏡写真③
図版243 鋳型および関連遺物の写真・X線透過画像・顕微鏡写真④
図版244 鋳型および関連遺物の写真・X線透過画像・顕微鏡写真⑤
図版245 鋳型および関連遺物の写真・X線透過画像・顕微鏡写真⑥、No. 8のX線CT画像
図版246 蛍光X線スペクトル①
図版247 蛍光X線スペクトル②
図版248 蛍光X線元素マッピング(No. 9)、蛍光X線元素マッピング(No. 21)、棒状土製品付着白色物質のX線回折スペクトル(No. 1)
図版249 朝鮮半島および日本出土の鉛ガラスの鉛同位体比との比較

第 I 章 調査にいたる経緯

利根川を境に群馬県と接する本庄市は、県北の中心都市としての飛躍が期待されているが、本庄市のある児玉地域は、関東地方の北と南をつなぐ交流・交通の結節点として、往古より多種多様な文物が逸早く流入し、様々な人々の生活の舞台として栄えた地域であった。埋蔵文化財のとりわけ多い地域であることが、それを何よりも雄弁に物語っている。

中でも古墳時代の遺跡に関しては、市域でこれまでに確認できた古墳だけでも600基を優に超え、県内でも有数の古墳の集中する一帯である。また、古墳時代～奈良・平安時代の集落跡に関しても、本庄台地の縁辺部、女堀川の中・下流域などでは、竪穴住居跡の数に限っても、数百軒にのぼる集落跡が複数見られ、大小の集落が消長を異にしながらも様々な場所で営まれたことが判っている。

今回報告する薬師堂東遺跡（53-021）は、本庄市の北半、烏川・利根川の沖積地に臨む本庄台地北東縁の一角に位置する。

薬師堂東遺跡に関しては、まず昭和38年敷地内の北西側に並列していた本庄東中学校旧校舎のうちの北側の「2号館」の建設時に排土中より出土した古墳時代の土器が報告されている（本庄市史編集室編 1976）。細かな位置は判らないが、この場所は、今回報告するD地点に隣接する場所であり、発掘調査により得られた資料ではないが、この地に遺跡があることをはじめて知らせた点で特記する必要がある。

平成4年には、本庄東中学校のコンピューター教室建設に伴う発掘調査がなされ（A地点）、平成9年には、やはり同校の柔道場建設に伴う発掘調査がなされた（B地点）。本庄東中学校敷地内の北西側の一角のごく狭い範囲に関してではあるが、住居跡を主とする遺構が極めて高い密度で分布すること、古墳時代前期を初現とする複数時期の遺構・遺物が見られることが判明した（太田 2013）。今回報告するC・D地点での所見をも加味するなら、薬師堂東遺跡は、本庄東中学校の敷地を含む台地平坦面の広い範囲にわたって、想像を絶する数の住居跡を主とする遺構が高密度で分布する遺跡であることは間違いない。

本庄市では、教育環境の整備の一環として、学校教育施設の整備・拡充を鋭意進めてきたが、本庄市立本庄東中学校に関しては、昭和38年に建てられた旧校舎の老朽化、耐震性能に問題点があることなどが大きな課題となっていた。

そうした課題を解決すべく平成22年度からは、新校舎および新体育館、新プール棟の建設やその他諸施設の抜本的な整備に向けた検討委員会が設けられ、基本構想が練り上げられるとともに、平成23年度からは、基本設計の作成、旧校舎に代わる仮設校舎の設置、仮設グラウンドの整備等の諸作業が実施されることとなった。そうした基礎作業が進行する中、本庄東中学校敷地内に所在する埋蔵文化財に関する協議が関係者間で重ねられた結果、教育環境の整備という喫緊の課題にこたえるべく、新校舎予定地は、平成24年度に、新プール棟建設予定地は、平成27・28年度に、事前に発掘調査を行い、記録保存の措置を講ずることとなった。

（本庄市教育委員会事務局）

第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

第1節 遺跡の立地

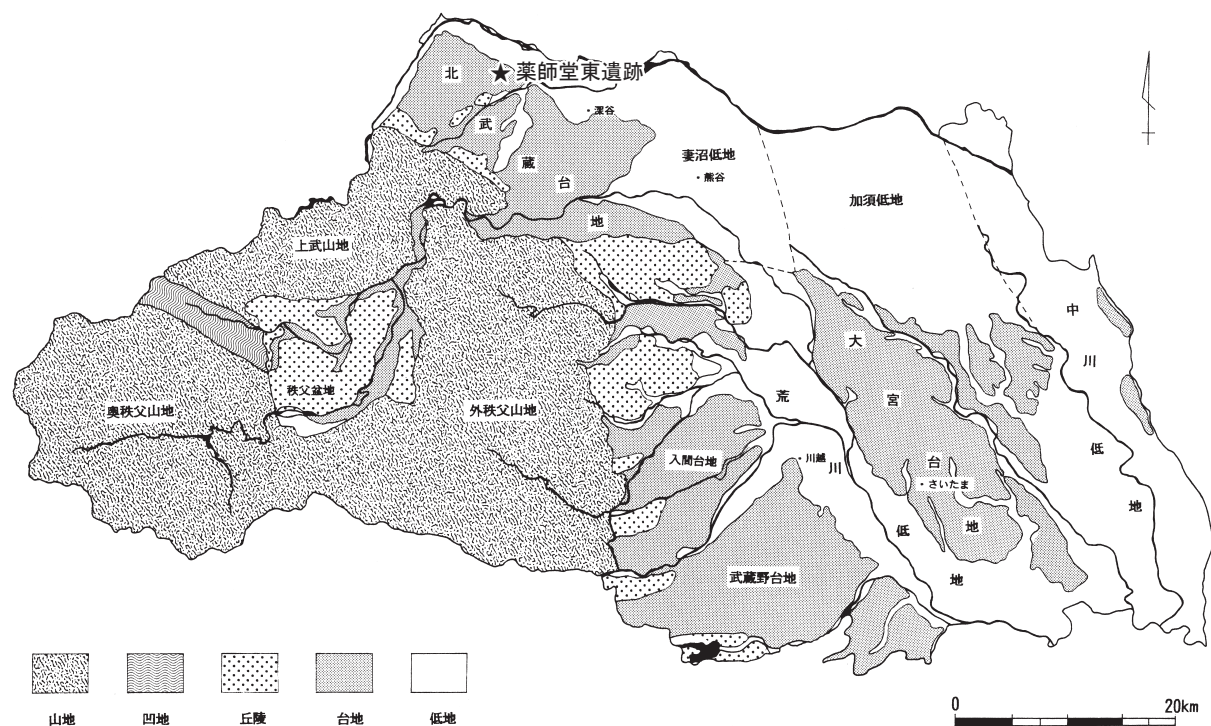
薬師堂東遺跡は、本庄市域の北半、JR高崎線本庄駅から北東方向に1 kmほど離れた位置にある。

本庄市は、東西に長い埼玉県の北端、利根川をはさみ群馬県伊勢崎市と境を接し、北関東への入り口とも呼ぶべき位置を占めている。平成18年に児玉町と合併したことで、本庄市域は、南に大きく拡大し、上武山地に連なる山地、丘陵部をその内に含むこととなった。

本庄市の地形は、利根川右岸の低地、沖積地からなる北東部、市街地化の中心をなす台地、低位段丘、残丘の織りなす中央部、丘陵、山地の広がる南西部の3つに大きく分けることができる（第1図）。

低地は、利根川や烏川の氾濫原で、下流に広がる妻沼低地、加須低地へと連なる。台地は、いわゆる北武蔵台地最北の本庄台地であり、主に神流川扇状地と身馴川扇状地の複合扇状地性の台地である。神流川扇状地は、群馬県藤岡市鬼石町浄法寺付近を扇の要とし、扇の端は本庄段丘崖を形作っている。身馴川扇状地は、北西側を児玉丘陵、生野山丘陵、浅見山丘陵に、南東側を松久丘陵、櫛引台地にはさまれた一帯である。この女堀川、小山川（身馴川）などの諸河川に刻まれた低位段丘、台地を主とする中央部の一帯が、市域でも最も遺跡が濃密に分布する範囲である。山地は、上武山地に属する陣見山、不動山などの山並で、北東斜面は裾野を広げ、児玉丘陵へ、さらに北東の生野山丘陵、浅見山丘陵など切れ切れの残丘に連なる。

以下報告する薬師堂東遺跡は、市域北半の烏川・利根川の沖積地に臨む本庄台地北東縁の一角に立地する。



第1図 埼玉県の地形

第2節 周辺の遺跡と歴史的環境

薬師堂東遺跡周辺の、弥生時代以降の主要な遺跡、集落遺跡を中心に、簡単に触れることにしたい(第2図)⁽¹⁾。

周辺の弥生時代の遺跡に関しては、前期から中期中葉にかけて、薬師堂東遺跡の南東約3kmほどの台地縁辺にある深谷市四十坂遺跡(73)をはじめとして、丘陵部の浅見山I遺跡(52)の土坑群、低位段丘や台地上でも、夏目西遺跡(31)の土坑のように、遺構の検出例が見られるようになる。また、近年該期の土器片が出土するだけの遺跡も、小島本伝遺跡(4)、笠ヶ谷戸遺跡(35)、四方田遺跡(58)、雷電下遺跡(64)など確実に増加しており、住居跡は見られないものの、丘陵部の一角だけでなく、沖積地をめぐる低位段丘や台地縁辺に、かなりの範囲で該期の人々の営為が及びはじめたことを物語るようである。

弥生時代中期後半～後期前半に関しては、本庄市南半の丘陵部を除いては、浅見山I遺跡の破片資料中に、この段階かと思われる資料がわずかに見られる以外はほとんど不明である。多くの地域で、弥生時代集落の盛期を迎える中期後半段階に、遺跡はもとより遺物さえごく少ないということには、何らかの理由があるのであろう。

つづく後期後半以降に関しても、資料はそれほど多くない。集落跡と呼びうる遺構のまとまりが見られるようになるのは、周辺一帯では、弥生時代後期末葉～古墳時代前期初頭の段階を待たねばならない。その点で、薬師堂東遺跡に隣接する薬師堂遺跡出土とされる、いわゆる「二軒屋式」とされる土器は重要である。薬師堂東遺跡C地点では、遺構外出土の破片資料ではあるが、二軒屋式土器が出土しており(本書:第788図)、薬師堂遺跡出土例が、端なる偶発例ではないことを物語っている。

古墳時代前期には、丘陵部に分散する弥生時代後期後半の遺跡の様相から大きく変貌を遂げ、台地内においては、中小河川沿いの台地縁辺や低位段丘上に多数の集落遺跡が確認できるようになる。一方、利根川および烏川の形成する広大な沖積地に臨む本庄台地の北東縁一帯に関しては、集落の痕跡自体希薄である。前者では、女堀川中・下流域に限っても、西五十子古墳群(H・I)、下田遺跡(37)、七色塚遺跡(38)、久下東遺跡(41)、久下前遺跡(42)、山根遺跡(54)、地神遺跡(56)、塔頭遺跡(57)、後張遺跡(59)、川越田遺跡(60)と、東から西へ枚挙にいとまがない。多くの遺跡が古墳時代前期中葉以降営まれた集落の跡である。この段階に沖積地の本格的な開発が始まったのであろう。

古墳時代前期の傾向を引き継ぎ、さらに倍加したのが、古墳時代中期の集落遺跡の様相である。中期、そして中期以降、遺跡の規模、遺跡数、流域内での広がり、いずれをとっても、急激な増加を見ることは間違いない。上記した古墳時代前期の遺跡の多くで、中期以降、竪穴住居跡の数が増すとともに生活域の規模が大きく拡大する。一方中期段階より新たに開村したと思われる集落遺跡も多数見られる。薬師堂東遺跡の位置する本庄台地北東縁一帯では、古墳時代中期以降、本格的に集落が形成されることになる⁽²⁾。薬師堂東遺跡(1)、小島本伝遺跡(4)、本庄中北原遺跡(6)、城山遺跡(7)、本庄城跡(8)、東五十子城跡遺跡(17)などの諸遺跡が、集落と呼びうる痕跡が見出されるのは、古墳時代中期からであり、中期中葉以降と考えてよいようである。

中期段階に集落が始まる例は、女堀川中・下流域でも、夏目遺跡(26)、西富田新田遺跡(29)、弥藤次遺跡(30)、夏目西(31)、九反田遺跡(33)、雌濠遺跡(34)、笠ヶ谷戸遺跡(35)など多数に上る。



- (本庄市) 1. 薬師堂東 2. 石神境 3. 本庄2号 4. 小島本伝 5. 小島仕切沢 6. 本庄中北原 7. 城山 8. 本庄城跡 9. 天神林 10. 天神林Ⅱ 11. 薬師堂 12. 本庄飯玉 13. 御堂坂 14. 諏訪新田 15. 東五十子赤坂 16. 赤坂埴輪窯跡 17. 東五十子城跡 18. 五十子陣跡 19. 若雷神社古墳 20. 西五十子大塚 21. 西五十子台 23. 西五十子田端屋敷 24. 今井諏訪 25. 二本松 26. 夏目 27. 社具路 28. 薬師元屋舗 29. 西富田新田 30. 弥藤次 31. 夏目西 32. 西富田・四方田条里 33. 九反田 34. 雌濠 35. 笠ヶ谷戸 36. 公卿塚古墳 37. 下田 38. 七色塚 39. 北堀久下塚北 40. 北堀久下東北 41. 久下東 42. 久下前 43. 北堀新田 44. 北堀新田前 45. 東本庄 46. 古川端 47. 宥勝寺裏埴輪窯跡 48. 宥勝寺北裏 49. 東谷 50. 大久保山寺院跡・東谷中世墓群 51. 東谷古墳 52. 浅見山Ⅰ 53. 大久保山 54. 山根 55. 久城前 56. 地神 57. 塔頭 58. 四方田 59. 後張 60. 川越田 61. 今井川越田 62. 前田甲 63. 東牧西分 64. 雷電下 65. 浅見境北 66. 鷲山古墳・鷲山南 67. 城の内〈深谷市〉 68. 大寄 69. 東光寺裏 70. 伊勢塚 71. 六反田 72. 原ヶ谷戸 73. 四十坂 74. 水窪 75. 上宿 76. 滝下 77. 中宿 78. 内出 79. 熊野
- (本庄市) A. 塚合古墳群 B. 御堂坂古墳群 C. 北原古墳群 D. 旭・小島古墳群 E. 三田古墳群 F. 鷲ノ森古墳群 G. 東五十子古墳群 H. 西五十子古墳群(東群) I. 西五十子古墳群(西群) J. 東富田古墳群 K. 北堀前山古墳群 L. 塚本山古墳群〈深谷市〉 M. 四十坂古墳群

第2図 周辺の主要遺跡

この集落の拡大、増加傾向は、全体として古墳時代終末期まで続くようであるが、個々の集落に注目するならば、一律に消長するわけではないし、断続が見られる場合がほとんどなのである。

古墳時代終末期とそれ以降に関しては、深谷市域になるが薬師堂東遺跡から南東方向に4km前後の位置にある、郡衙の正倉と目される中宿遺跡(77)をはじめとして、内出遺跡(78)、熊野遺跡(79)と、地域の中核をなしたと考えられる重要な遺跡が集中することにも注意したい。

本庄市域内の周辺の高墳群についてのみ一言触れるならば、本庄台地北東縁から一定距離離れた位置に、西から旭・小島古墳群(D)、北原古墳群(C)、塚合古墳群(A)、御堂坂古墳群(B)と、台地縁辺あるいは低位段丘上の集落と台地内の背後にある古墳群とが対応するかのよう分布している。薬師堂東遺跡の至近の南側には、塚合古墳群があり、何らかの強い結びつきが考えられるが、さらに踏み込む手立てを欠いている。上記した古墳群は、旧中山道沿いの市街地化が最も早い一帯に分布しており、多くの古墳は煙滅し、古墳群の全体像どころか古墳の数さえ推定できないのが現状である。

周辺の奈良・平安時代の集落跡に関しては、今回報告する薬師堂東遺跡(1)、石神境遺跡(2)、本庄中北原遺跡(6)、本庄城跡(8)、天神林遺跡(9)、天神林Ⅱ遺跡(10)、薬師堂遺跡(11)、御堂坂遺跡(13)と多数の遺跡をあげることができる。この段階は、中小河川流域に展開する集落と並んで、本庄台地の利根川、烏川の沖積地に臨む縁辺に、ほとんど切れ目がないまでに集落が展開する段階である。

本地域が平安時代末期から鎌倉時代初期にかけて活躍した武蔵七党の児玉党の本貫地であり、また中世後期には、関東管領上杉方の防禦拠点としての五十子陣があったことから、中世からそれ以降も、由緒ある地名や時期的に関連する遺跡が多数見られる。

中世の遺跡に関しては、五十子陣の中心をなす施設の痕跡と考えられる五十子陣跡(18)をまず挙げる必要がある。また、女堀川や小山川(身馴川)流域では、東五十子古墳群(G)と重なる中世遺構群、東本庄遺跡(45)、大久保山寺院跡・東谷中世墓群(50)、浅見山Ⅰ遺跡(52)Ⅰ次調査で検出された中世瓦窯跡や寺院跡と見られる遺構群、大久保山遺跡(53)内の中世後期の屋敷跡や館跡などの中世遺構群などが検出されており、様々な考古学的な情報が得られている。図示していないが、その他に中世に発する可能性のある館跡も多数あり、今後検討に供すべき課題は多い。

註

(1) 以下、とくに明記しない場合には、各遺跡の報告書および『本庄市史 資料編』、『本庄市史 通史編Ⅰ』(本庄市史編集室編 1976・1986)による。なお、第2図は、遺跡分布の概略図であり、古墳群などに関しては、おおよその範囲を示すにとどまる。

(2) 薬師堂東遺跡B地点第3号住居跡では、古墳時代前期の高坏片が出土しており(太田 2013)、集落の初現は、古墳時代前期にさかのぼる可能性がある。また、東五十子城跡遺跡でも、遺構外ではあるが、古墳時代前期の可能性のある壺破片が報告されている(常深 2004)。



第3图 葉師堂東遺跡発掘調査地点位置图

第三章 C地点の調査

第1節 遺跡の概要

薬師堂東遺跡は、本庄台地の北東縁沿いの一角、北側は段丘崖に、西側、東側は彎入する谷部に縁取られた段丘上に位置する。北側には、眼下に元小山川が流下し、利根川や烏川により形成された広大な沖積地が広がっている。北側を縁取る段丘崖は、沖積地との比高差が4、5mもあり、河川により刻まれた段丘崖と見られてきたが、近年深谷断層の延長の断層であるとする見方も提出されている。C地点の北端は、そうした段丘崖から約35m離れており、C地点全体が、比較的凹凸の少ない平坦面に位置している（第3図）。

今回報告するC地点は、本庄台地縁辺部に蟠集する古墳時代～奈良・平安時代の集落跡のひとつ、薬師堂東遺跡の東寄りの中央にあたるようである。

本庄台地縁辺部の古墳時代～奈良・平安時代の集落跡の特徴をあげるなら、遺構、とくに住居跡の分布密度が著しく高いことが、まず指摘できる。台地縁辺部では、試掘調査を行った際にトレンチ内全面が覆土で地山が確認できない事例がままあり、遺構の分布密度は際立っている。薬師堂東遺跡もこの例に漏れず、C地点のみならず、A・B地点（太田 2013）、後述するD地点（本書第2分冊：第IV章）も同様に、重層的に重複する住居跡が著しい密度で分布していたため、いずれの地点においても、発掘調査は困難を極めた。住居跡同士の切り合い関係に関して、多分に不確定要素を残し、新旧関係を把握しきれないものが含まれる結果となった。

この困難さは、報告書の作成にもまた様々な難題をもたらした。問題点の一つは、遺構があまりに密集し過ぎるため、調査範囲の中で一つの遺構の位置を示すことが容易ではないことであった。今回の報告では、まず調査範囲全体の中での遺構の位置を簡単に略記し、座標系に即したグリッドを用いて遺構の位置を明示するとともに、住居跡に関しては、さらに住居跡のまとまりと切れ目を捉えて、A～J群の群別を行い（第4～6図）、記載に加えた。群別は、あくまでも住居跡の空間的なまとまりを表示する便宜的な手段である。

また、住居跡の著しい重複は、住居跡の新旧関係の見極めを困難にするとともに、それにより遺物の帰属遺構の判定にもある不安定さが持ち込まれることとなった。実際複数時期にわたる遺物、とくに土器が出土する住居跡は多数あり、住居跡の時期判定には、カマドや貯蔵穴から出土した土器や床面直上出土土器を重視し、適宜出土状況、特定時期の土器の占める割合などを加味し、判断せざるをえなかった。結果的に時期判定の困難な住居跡も多数残った。

C地点の調査面積は、5,756㎡である。C地点で検出した遺構は、竪穴住居跡294軒、土坑424基、溝跡3条、多数のピットである（第4～6図）。後述するように、本遺跡の特筆すべき遺物として、多数出土したガラス小玉鋳型および鋳型に関連すると思われる棒状土製品をあげることができるが、やはり夥しい数が出土した土錘も本庄台地縁辺の集落跡に特徴的な遺物として記しておきたい。



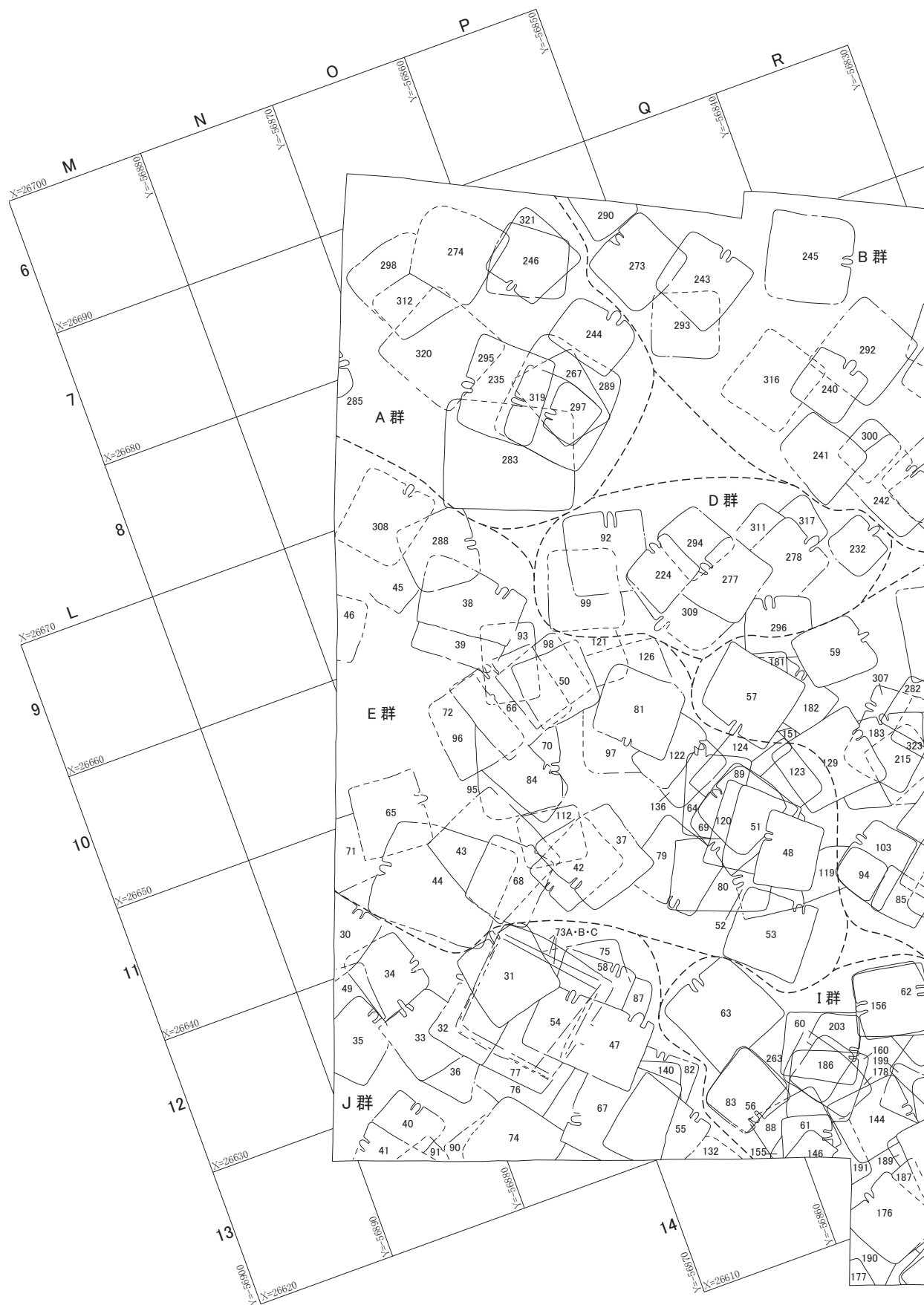
第4図 薬師堂東遺跡C地点全体図





第5図 薬師堂東遺跡C地点住居跡分布図





第6图 药师堂東遺跡C地点住居跡群位置图



第2節 検出された遺構と遺物

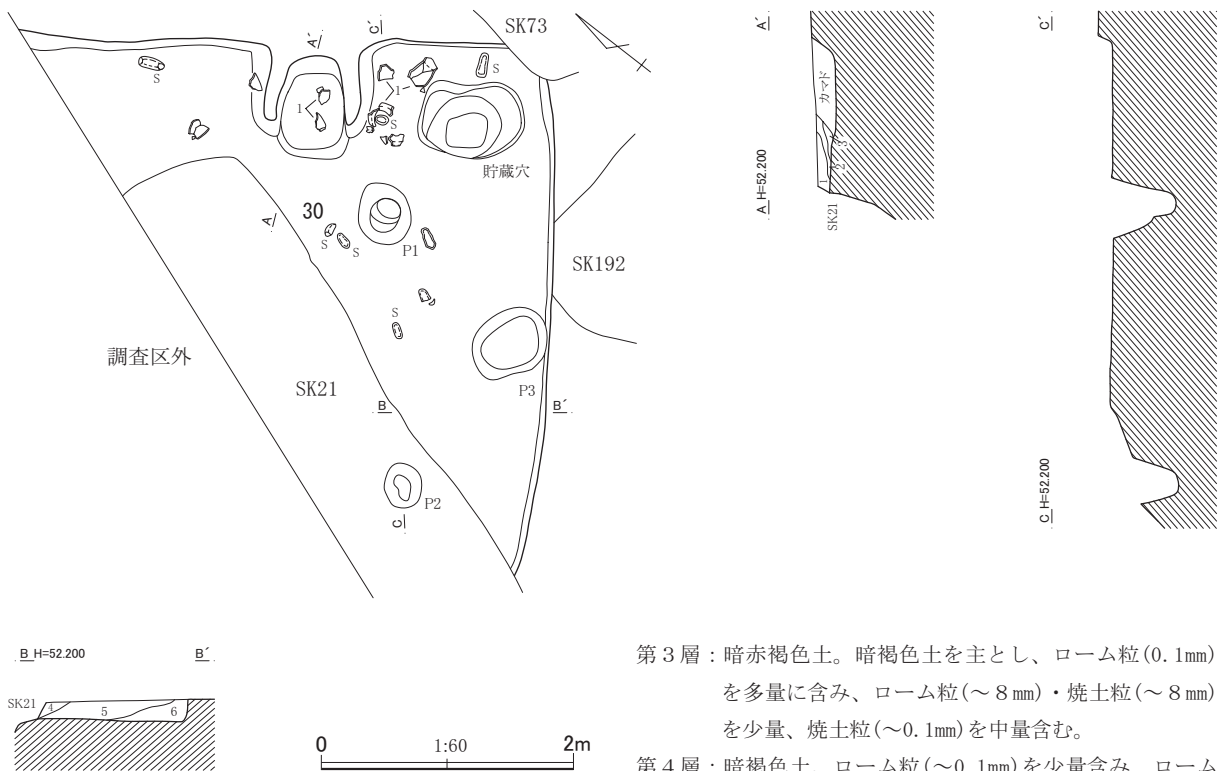
1 竪穴住居跡

第30号住居跡（第7～9図、第1表、図版4・109）

調査地点の南西隅近くの西縁沿い、M11・12グリッドに位置し、J群に含まれる住居跡である。第21・73・192号土坑に切られており、西側斜め半分は、調査範囲外である。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、方形あるいは長方形になるようであるが、南東壁は微妙に膨らむようである。規模は、いずれも残存値になるが、北西－南東方向で4.12m、北東－南西方向で4.24mである。主軸方位は、N-54°-E前後であろう。床面はほぼ平坦で、床面中央を中心に硬化している。残存する奥壁側、南東側の2辺では、残りのよい部分での壁高が18cm、壁の立ち上がりも急峻である。

P1は、カマドに近すぎ多少問題が残るが、一応P1、P2を支柱穴と考えた。ともにやや歪な楕円形に近い平面形で、P1は下部に段を有し、先細りとなる。深さはP1が50cm、P2が床面からの推定値で54cmである。P3は南東壁の中央付近で壁に接して検出したピットである。上端での平面形



第30号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～0.1mm)を中量含み、ローム小塊(～12mm)を少量含む。ややしまっている。
 第2層：暗褐色土。ローム粒(～0.1mm)を少量含む。ややしまっている。

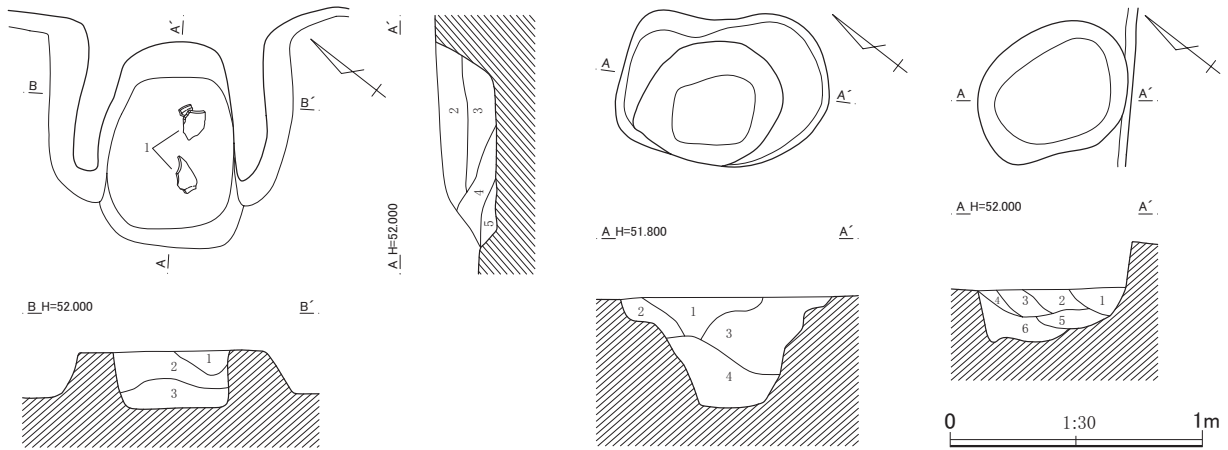
第3層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(0.1mm)を多量に含み、ローム粒(～8mm)・焼土粒(～8mm)を少量、焼土粒(～0.1mm)を中量含む。

第4層：暗褐色土。ローム粒(～0.1mm)を少量含み、ローム粒(～2mm)を微量含む。

第5層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～0.1mm)・ローム小塊(～15mm)を中量含み、焼土粒(～2mm)を少量含む。

第6層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を少量含み、ローム小塊(～20mm)を中量含む。

第7図 第30号住居跡平面・断面図(1)



第30号住居跡カマド土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～6mm)・粘土小塊(～10mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。
 第2層：明赤褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～10mm)・粘土小塊(～30mm)・焼土粒(～8mm)を多量に含み、ローム小塊(～30mm)・焼土小塊(～30mm)を中量、粘土小塊(～20mm)を少量含む。粘性はやや強い。

第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～10mm)を多量に含み、ローム小塊(～30mm)・焼土粒(～8mm)を中量含む。
 第4層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を微量、炭化物粒(～2mm)を少量含む。
 第5層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)を中量含む。

第30号住居跡貯蔵穴土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を中量含む。
 第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)・ローム小塊(～10mm)を中量含む。
 第3層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～15mm)

を少量含む。
 第4層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)を微量含む。

第30号住居跡P3土層説明

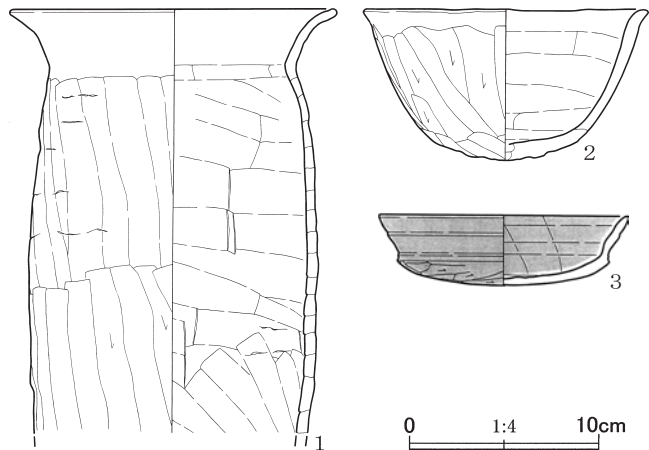
第1層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含む。
 第2層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含み、ローム粒(～8mm)を微量含む。
 第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)を多量に含み、ローム小塊(～30mm)を中量含む。
 第4層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含み、ローム粒

(～8mm)を微量含む。
 第5層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を少量含み、ローム小塊(～20mm)を微量含む。
 第6層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)を多量に含み、ローム小塊(～10mm)を少量含む。

第8図 第30号住居跡平面・断面図(2)

は、やや不整な楕円形で、丸みをもって掘り込まれており、底面には凹凸が著しい。最大径が64cm、深さは20cmである。貯蔵穴は、カマド脇の東隅近くで検出した。平面形はやや角張った楕円形に近く、長径83cm、短径58cmである。方形に近い底面に向かってすぼまるように掘り込まれており、深さは44cmである。

カマドは、残存する北東壁のほぼ中央に設けられている。両袖が細長く伸び、燃焼



第9図 第30号住居跡出土遺物

C地点

第1表 第30号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 17.0 底径 — 器高 [22.4]	口縁部は外反する。胴部は張らず、長胴を呈する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部上位ヘラナデ、中位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・赤褐色粒 内外—橙色	口縁部～胴部 中位5/6残存
2	鉢	口径 (14.8) 底径 — 器高 8.0	丸底。体部は深い。口縁部は短く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 外—灰褐色 内—にぶい橙色	1/3残存
3	坏	口径 (13.0) 底径 — 器高 3.7	丸底。体部は浅く、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外傾し、中位に段を有する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。黒色処理。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。黒色処理。	白色粒・黒色粒 外—黒色 内—褐灰色	1/4残存

部が方形に近い形態で、両袖の内壁はほぼ垂直に立ち上がる。燃烧部の長さは81cm、横幅は51cmである。燃烧部は、奥壁および奥壁寄りの燃烧面が局所的に赤化しているのみで、全体に被熱赤化の痕跡は顕著ではない。カマド内の覆土の第2層は、天井部や側壁の崩落土と見られる。

住居跡の覆土は、6層に分けられた。暗褐色土を主とする土で、第3・5層には、焼土が明瞭に含まれていた。

カマド内や右袖脇から、第9図1の甕が破片の状態で出土しており、またそうした甕破片よりやや広く分散して編物石と思われる縦長の礫が出土している。覆土中からは土師器小片を主とする遺物が少数出土したのみである。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期後葉後半の遺構であろう。

第31号住居跡 (第10～12図、第2・3表、図版4・109)

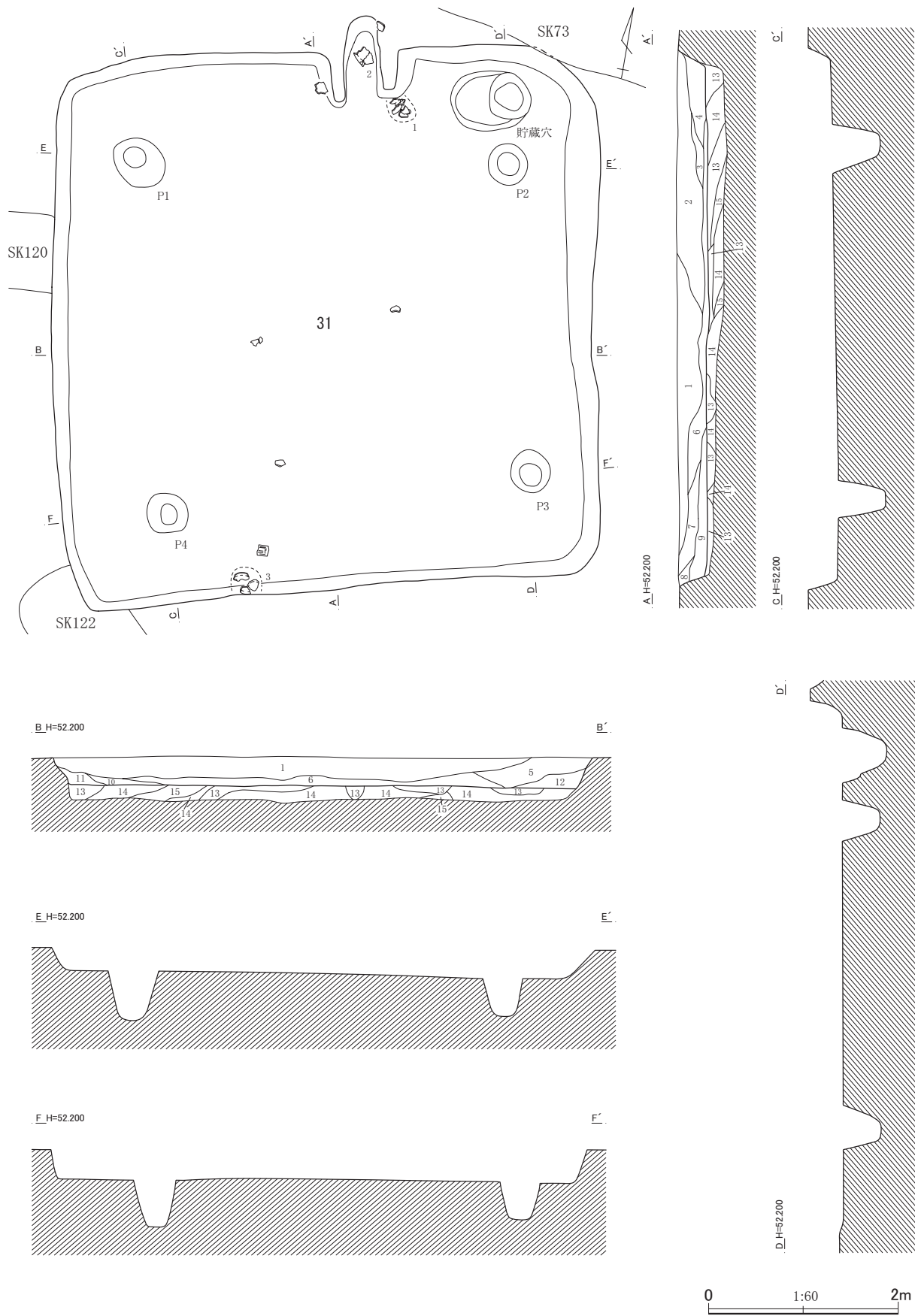
調査地点の南西隅近く、N12グリッドに位置し、J群に含まれる住居跡である。第32・44・54・58・73・77号住居跡を切り、第73・120・122号土坑と重複し、一部の土坑により壁の上部を壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、方形である。規模は、主軸方向、副軸方向ともに5.70m、主軸方位は、N-13°-Wである。床面はほぼ平坦で、床面中央や縁辺がかなり不規則に硬化している。四壁いずれも残存状態は比較的良好で、壁高は30cm前後、立ち上がりも急峻である。

P1～P4は、支柱穴である。平面形は、いずれもおおむね円形で、深さは、P1が51cm、P2が40cm、P3が38cm、P4が50cmである。貯蔵穴は北東隅近くで検出した。平面形は楕円形で、長径84cm、短径64cmである。東側に平場を有し、西側が深く2段に掘り込まれており、平場の深さは20cm、東側の最深部での深さは47cmである。貯蔵穴の覆土は、暗褐色土を主に、ロームの多寡で7層に分けられた。かなり不自然な堆積状態を示しており、あるいは埋め戻されたとも考えられる。

カマドは、北壁の中央、わずかに東に寄った位置に設けられている。細長く伸びた両袖を有する縦長の燃烧部が残存する。燃烧面はほぼ床面と同じ高さで、奥壁寄りにわずかな段が見られる。袖の前端を焚口の前端と見るなら、燃烧部の長さは90cm、横幅は34cmである。燃烧部の被熱赤化はそれほど顕著ではない。

覆土は、第1～12層の12層に分けられた。総じて暗褐色土を主とする土であるが、焼土や炭化物を含む層がやや目立つ。また第4・5層には、粘土の小塊、あるいは粘土粒が見られた。第13～15層は、掘り方の埋土である。暗褐色土にロームを混ぜた土で掘り方を埋めており、薄層をなす明瞭な貼床層と呼べるような層は見られなかった。



第10図 第31号住居跡平面・断面図(1)

C地点

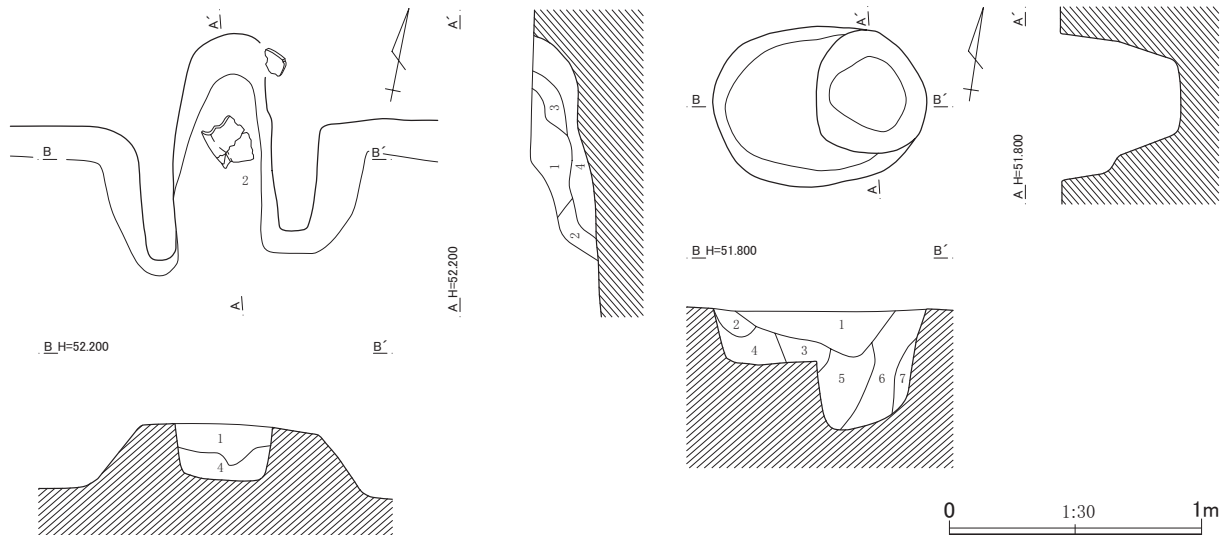
第31号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・炭化物粒(～0.5mm)を少量含み、炭化物粒(～2mm)・焼土粒(～2mm)を中量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～6mm)・ローム小塊(～20mm)・炭化物粒(～1mm)を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・ローム小塊(～10mm)・炭化物粒(～1mm)・焼土粒(～0.5mm)を少量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)・粘土小塊(～10mm)を少量含み、粘土粒(～2mm)を中量含む。
- 第5層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を微量含み、ローム小塊(～20mm)・粘土粒(～4mm)を少量含む。
- 第6層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～0.5mm)を多量に含み、ローム粒(～8mm)を中量、ローム小塊(～15mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。
- 第7層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含み、ローム小塊(～15mm)・焼土粒(～2mm)を微量含む。

- 第8層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～0.5mm)を多量に含み、ローム粒(～2mm)を中量含む。
- 第9層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)・ローム粒(～8mm)を中量含み、炭化物粒(～4mm)・焼土粒(～4mm)を微量含む。
- 第10層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を中量含む。
- 第11層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～0.5mm)を少量含み、焼土粒(～4mm)を微量含む。
- 第12層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～0.5mm)を中量含み、ローム小塊(～15mm)を少量、焼土粒(～2mm)を微量含む。

(掘り方埋土)

- 第13層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)を少量含む。
- 第14層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を多量に含み、ローム小塊(～15mm)を中量含む。
- 第15層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)を多量に含み、ローム小塊(～10mm)を中量含む。



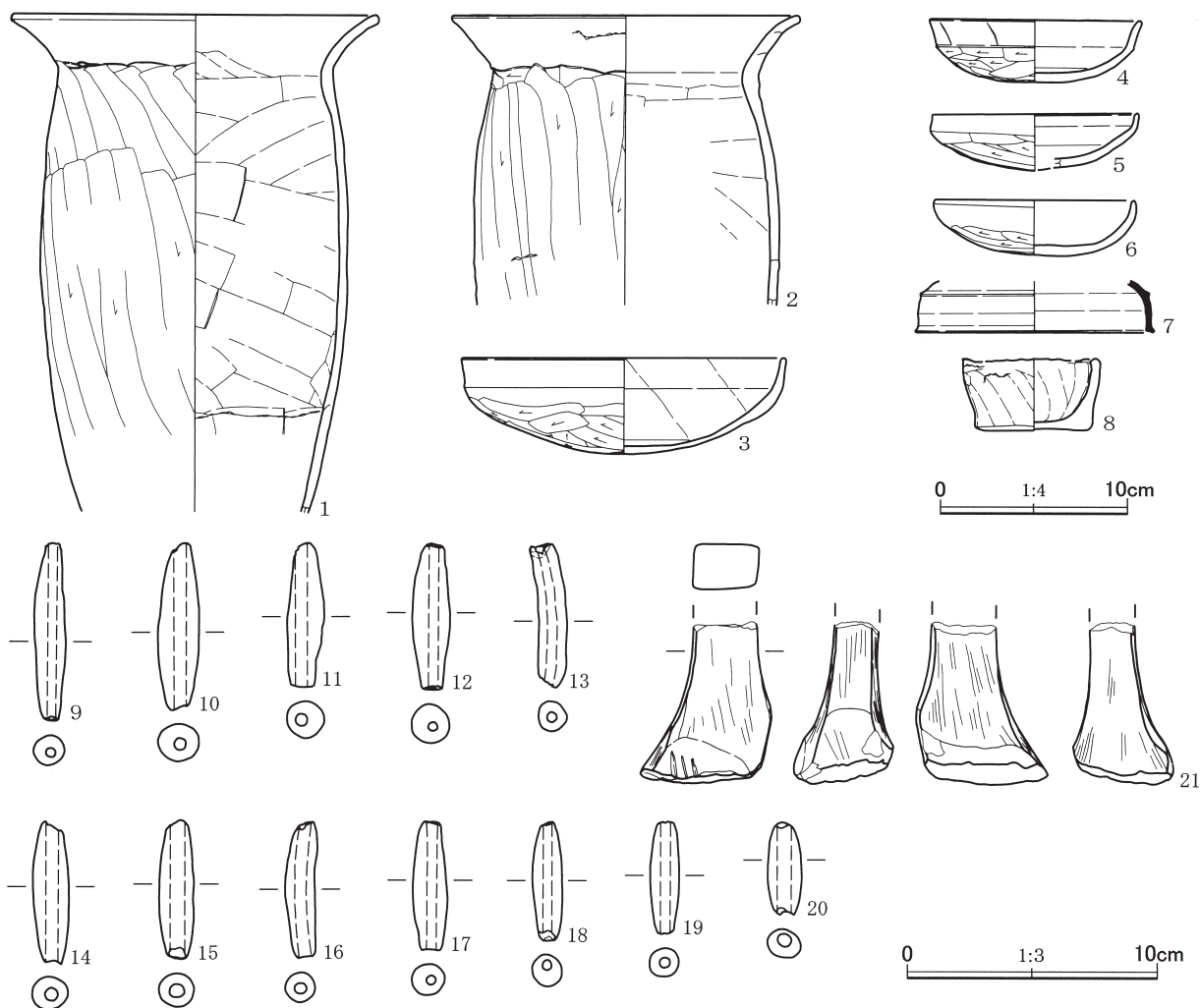
第31号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)・ローム小塊(～10mm)を少量含み、焼土粒(～0.5mm)・焼土小塊(～20mm)を中量含む。粘性はやや強い。
- 第2層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)を少量含み、粘土粒(～0.5mm)を中量含む。粘性はやや強い。
- 第3層：黒灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～0.5mm)を中量含み、炭化物粒(～0.5mm)・焼土粒(～2mm)を少量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・粘土粒(～2mm)を少量含む。

第31号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含み、ローム小塊(～30mm)を中量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を少量含み、ローム小塊(～15mm)を中量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含み、ローム小塊(～20mm)を微量含む。
- 第4層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～8mm)・ローム小塊(～40mm)を中量含む。
- 第5層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～30mm)を中量含む。
- 第6層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)を多量に含む。
- 第7層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を微量含み、ローム小塊(～20mm)を少量含む。

第11図 第31号住居跡平面・断面図(2)



第12図 第31号住居跡出土遺物

第2表 第31号住居跡出土遺物観察表(1)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 (20.1) 底径 — 器高 [27.9]	口縁部は外反する。胴部は張らず、長胴を呈する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—にぶい黄橙色	口縁部～胴部下位2/3残存
2	甕	口径 (19.3) 底径 — 器高 [16.2]	口縁部は外反する。胴部は張らない。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 外—橙色 内—にぶい橙色	口縁部～胴部上半2/3残存
3	坏	口径 18.0 底径 — 器高 5.4	丸底。浅い体部から口縁部は外傾気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—灰黄褐色	5/6残存
4	坏	口径 (11.8) 底径 — 器高 3.5	丸底。体部は浅く、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒 内外—橙色	1/3残存
5	坏	口径 11.5 底径 — 器高 3.2	丸底。体部は浅く開き、口縁部は内傾気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部中位ヨコナデ。体部下位～底部ヘラナデ。	白色粒・赤褐色粒 外—にぶい橙色 内—橙色	1/2残存
6	坏	口径 11.1 底径 — 器高 3.1	丸底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は短く直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部上半ナデ、体部下半～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—橙色	3/4残存
7	須恵器蓋	口径 (13.4) 底径 — 器高 [2.9]	口縁部は天井部との境に稜をもつ。口唇部は短く外反する。内側に平坦面をもち、凹線がめぐる。ロクロ成形。	外面—ロクロナデ。内面—ロクロナデ。	白色粒 内外—灰色	口縁部片 還元焰焼成

C地点

第3表 第31号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
8	手捏ね土器	口径 (7.5) 底径 5.6 器高 (4.0)	平底。口縁部にかけて内彎気味に立ち上がる。口唇部は内側に面をもつ。手捏ね成形。	外面一口縁部横方向のナデ。体部～底部ナデ。内面一口縁部～底部ナデ。	白色粒・黒色粒 内外一にぶい橙色	1/2残存 口縁部は一部分のみ残存
No.	器種	法量(cm)・特徴			備考	
9	土錘	長さ7.5、幅1.3、厚さ1.3、重さ11.00g。胎土：白色粒。色調：にぶい黄褐色。			完形	
10	土錘	長さ7.0、幅1.7、厚さ1.6、重さ16.87g。胎土：白色粒。色調：灰黄褐色。			完形	
11	土錘	長さ6.1、幅1.6、厚さ1.6、重さ15.56g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい橙色。			完形	
12	土錘	長さ5.4、幅1.5、厚さ1.3、重さ11.20g。胎土：白色粒。色調：にぶい黄褐色。			完形	
13	土錘	長さ5.6、幅1.3、厚さ1.3、重さ8.76g。胎土：白色粒。色調：にぶい褐色。			完形	
14	土錘	長さ6.1、幅1.6、厚さ1.6、重さ12.12g。胎土：白色粒。色調：にぶい褐色。			両端部一部欠損	
15	土錘	長さ6.0、幅1.5、厚さ1.4、重さ11.48g。胎土：白色粒。色調：にぶい黄褐色。			完形	
16	土錘	長さ5.9、幅1.5、厚さ1.4、重さ10.10g。胎土：片岩・白色粒。色調：にぶい赤褐色。			完形	
17	土錘	長さ6.1、幅1.2、厚さ1.3、重さ9.09g。胎土：白色粒。色調：橙色。			完形	
18	土錘	長さ4.7、幅1.3、厚さ1.2、重さ6.82g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい黄褐色。			完形	
19	土錘	長さ5.0、幅1.3、厚さ1.4、重さ7.97g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい黄褐色。			端部一部欠損	
20	土錘	長さ3.9、幅1.5、厚さ1.2、重さ5.87g。胎土：片岩・白色粒・黒色粒。色調：橙色。			完形	
21	砥石	長さ[6.9]、幅4.9、厚さ4.0、重さ[129.93]g。石材：安山岩。			上端部欠損	
22	生痕化石	長さ3.4、幅2.6、厚さ1.6、重さ6.96g。			写真のみ	

カマドの右袖先端に接して第12図1の甕破片が、カマド内からは2の甕が、南壁中央やや西寄りに接した位置から3の坏が出土している。他には、覆土中から土師器小片などが散漫に出土しているのみである。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末期末から奈良時代初頭にかけての遺構である。

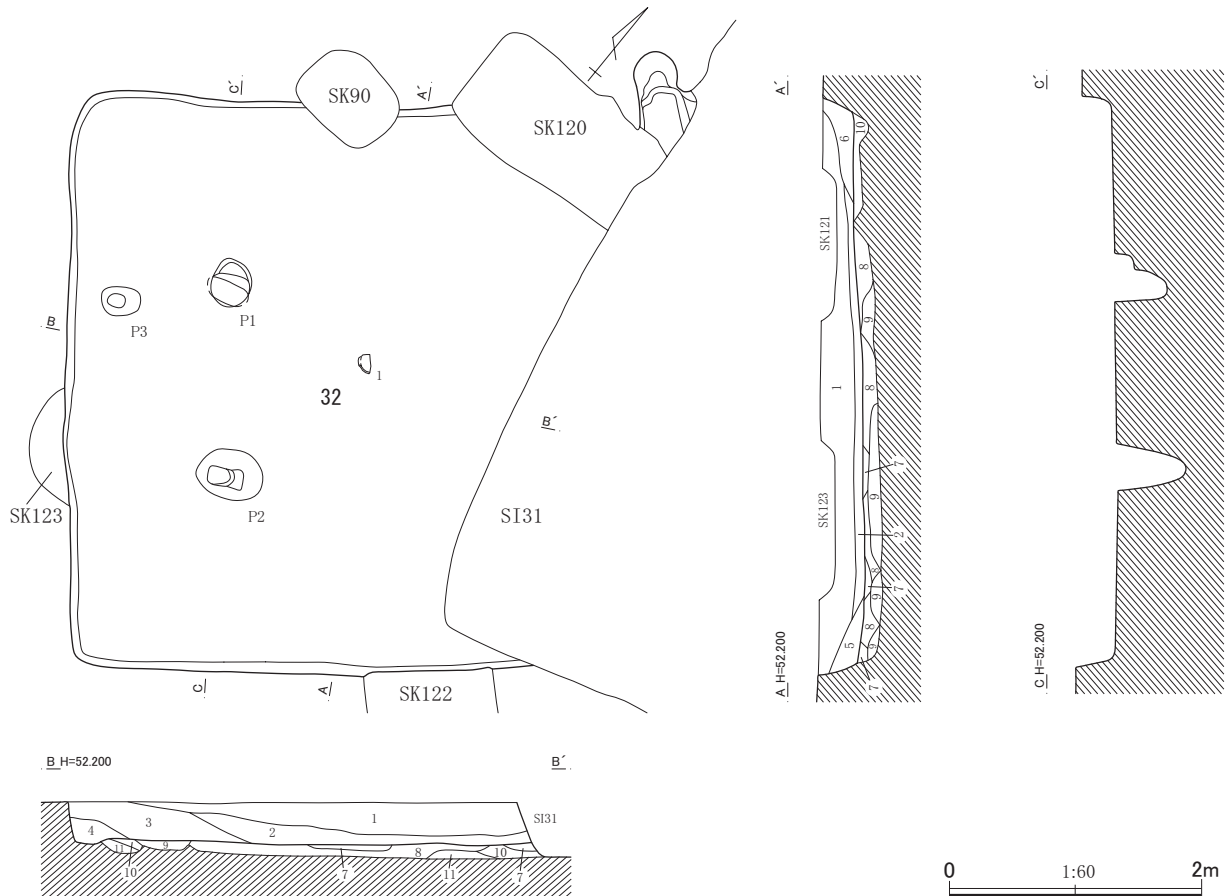
第32号住居跡(第13～15図、第4表、図版4・109)

調査地点の南西隅近く、M12、N12グリッドに位置し、J群に含まれる住居跡である。第33・36・73・76・77号住居跡を切り、第31号住居跡、第90・120・122・123号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、縦の長さに比し横幅が大きく上回る長方形に近い形態になるようである。最も残りのよい部分で計測した規模は、主軸方向と考えられる北西-南東方向で4.59m、北東-南西方向で4.24mである。主軸の方向がほぼ南東壁に並行すると仮定するなら、主軸方位は、おおよそN-40°-Wあたりになるようである。床面はほぼ平坦であるが、硬化は顕著ではない。残存する3壁は、傾斜も急で、掘り込みもしっかりしている。壁高は、北西壁で22cm、他の2壁は30cm前後である。

P1、P2は支柱穴であろう。平面形はどちらも楕円形で、P1は2段に掘り込まれている。深さは、P1が42cm、P2が55cmである。P3は南西壁近くの中央で検出したピットである。平面形は楕円形で、2段に掘り込まれており、最深部での深さは28cmである。

カマドは、現存する北西壁端に設けられている。第31号住居跡、第120号土坑により左袖から焚口、右袖の大半を壊されており、直接住居跡の他の部分とのつながりを全く持たないが、位置的に本住居跡のカマドと見てよいかと思う。極度に変則的な横長の住居形態が想定しにくいとすれば、北隅にかなり寄った位置にあったと考えるのが至当であろう。燃焼部の平面形は、長楕円形に近く、燃焼面は床面とほぼ同じ高さで、奥壁は弱い段をなし煙道に連なるようである。燃焼部の長さは現存値で84cm、



第32号住居跡土層説明

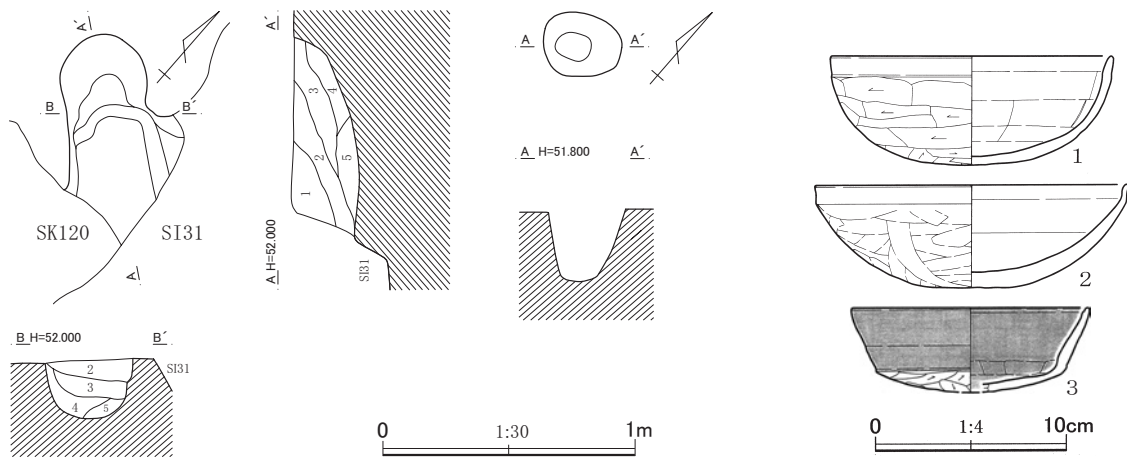
- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～8mm)を中量含み、ローム小塊(～30mm)を少量、焼土粒(～2mm)を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・ローム小塊(～10mm)を少量含み、焼土粒(～2mm)を微量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を微量、粘土粒(～2mm)・焼土粒(～2mm)を少量含む。
- 第4層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～10mm)を多量に含む。
- 第5層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を少量含み、ローム小塊(～20mm)を微量含む。
- 第6層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。

- 〈掘り方埋土〉
- 第7層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含む。ややしまっている。
- 第8層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)を多量に含み、ローム小塊(～20mm)を中量含む。ややしまっている。
- 第9層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を中量含む。ややしまっている。
- 第10層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を少量含む。ややしまっている。
- 第11層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を微量含み、ローム小塊(～20mm)を少量含む。ややしまっている。

第13図 第32号住居跡平面・断面図(1)

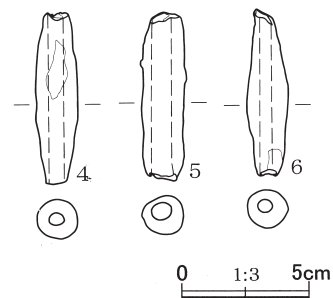
横幅は33cmである。奥壁、側壁の上部が若干赤化している以外は、燃焼部の被熱赤化は顕著ではない。カマド内の覆土の第2・3層には、天井部や側壁の崩落土が含まれるようである。

覆土は、第1～6層の6層に分けられた。総じて暗褐色土を主とする土であるが、焼土や粘土などを含む第1～3層とロームのみ混入する第4～6層に大きく分けられるようであった。第7～11層は、掘り方の埋土である。暗褐色土にロームを混ぜた土で掘り方を埋めており、第7層などは、貼床層と見られる。



第32号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～0.5mm)を多量に含み、粘土小塊(～50mm)を中量、焼土粒(～1mm)を少量含む。ややしまっており、粘性は強い。
- 第2層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)・焼土小塊(～40mm)を少量含み、粘土粒(～4mm)・焼土粒(～8mm)を中量含む。粘性は強い。
- 第3層：暗灰赤褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～0.1mm)を多量に含み、焼土粒(～0.1mm)を少量、焼土小塊(～12mm)を中量含む。粘性は強い。
- 第4層：黄褐色土。ローム土を主とし、暗褐色土粒子(～0.1mm)・暗褐色土小塊(～10mm)を少量含む。
- 第5層：暗褐色土。粘土粒(～1mm)を中量含み、焼土粒(～1mm)を少量含む。粘性はやや強い。



第15図 第32号住居跡出土遺物

第14図 第32号住居跡平面・断面図(2)

第4表 第32号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 (14.8) 底径 — 器高 5.8	丸底。体部は口縁部との境に弱い稜をもち、口縁部は短く直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 外-にぶい橙色 内-橙色	1/3残存
2	坏	口径 (16.4) 底径 — 器高 5.4	平底気味。体部は大きく開く。口縁部は短く直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。内面-口縁部～体部上半ヨコナデ。体部下半～底部ヘラナデ。	白色粒 内外-橙色	1/3残存
3	坏	口径 (12.5) 底径 — 器高 (4.5)	丸底。体部は浅く、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は外傾し、口唇部は内面に凹線がめぐる。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。口縁部黒色処理。内面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。黒色処理。	白色粒・黒色粒 外-にぶい黄橙色 内-黒褐色	1/3残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
4	土錘	長さ6.8、幅1.7、厚さ1.6、重さ15.34g。	胎土：白色粒・黒色粒。色調：橙色。			一部欠損
5	土錘	長さ6.7、幅1.7、厚さ1.6、重さ16.45g。	胎土：白色粒・雲母。色調：にぶい赤褐色。			完形
6	土錘	長さ6.6、幅1.7、厚さ1.5、重さ12.01g。	胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい黄橙色。			一部欠損

第15図1の坏は、住居跡のほぼ中央から出土している。他には、覆土中から土師器片を主とする遺物が散漫に出土しているのみである。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末期後葉の遺構である。

第33号住居跡（第16～18図、第5表、図版4・109・110）

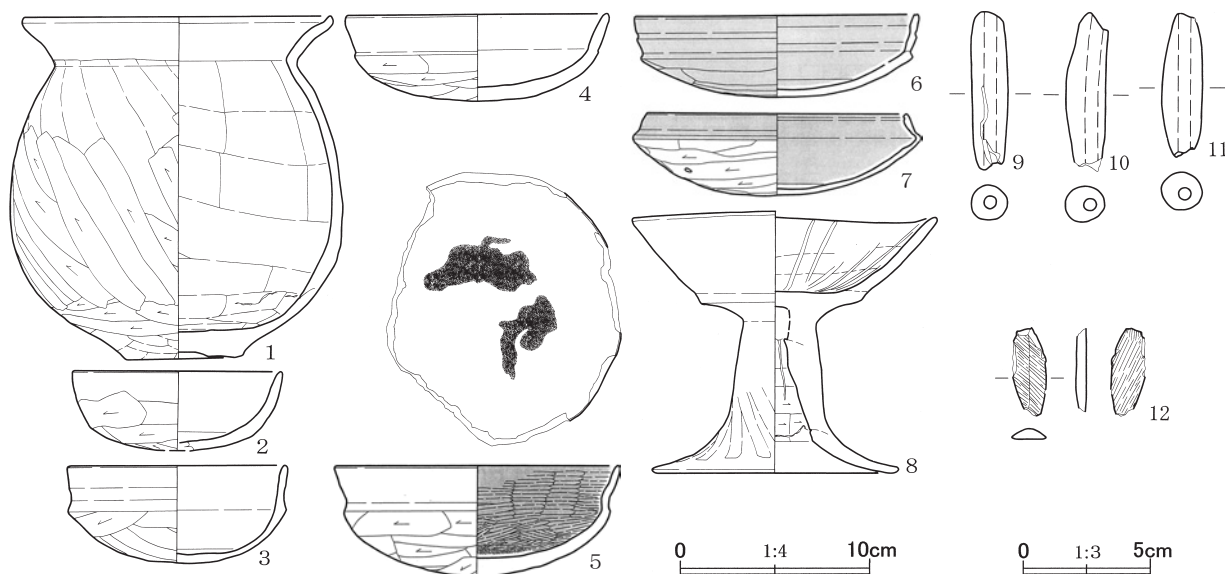
調査地点の南西隅近く、M12グリッドに位置し、J群に含まれる住居跡である。第34～36号住居跡を切っており、第32号住居跡、第17・18・81・82・90・123・206号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。また、第35号住居跡とも重複するが、新旧の関係を把握することはできなかった。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

南東半を32号住居跡により大きく壊されているため平面形が捉えにくい。南隅、北隅で壁がかなり開くことから見て、台形様の平面形になると推定してよいと思う。規模は、主軸方向で5.25m、副軸方向での現存長は2.67m、推定長は5.30m前後である。主軸方位は、N-18°-Wである。床面はおおむね平坦で、主に中央部分が顕著に硬化している。やや丸みを持ちゆるやかな南西壁以外は、壁の立ち上がりは総じて急峻であり、壁高は15～18cmである。

P1～P4は、支柱穴である。平面形は、円形に近いP3以外はいずれも楕円形で、P1・P2・P4は坑底も2段になる。P1・P2・P4では、柱の付け直しが行なわれたと考えられる。最深部での深さは、P1が45cm、P2が58cm、P3が32cm、P4が38cmである。貯蔵穴はカマドの右袖と北隅の間で検出した。上端での平面形は楕円形であるが、底面は方形に近く、段をもってすぼまるように掘り込まれている。長径は96cm、短径は78cm、深さは60cmである。

カマドは、残存する北西壁のほぼ中央で検出した。燃焼部は、段を有し、奥に細長く伸びる掘り込みを有する形態で、幅広の短い袖に挟まれている。燃焼面は床面とほぼ同じ高さである。燃焼部の奥の細長く伸びた部分には、被熱赤化の痕跡が見られないため、煙道の一部、あるいは煙道に連なる部分と見てもよいようである。この部分を含むカマドの総長は138cm、燃焼部の横幅は42cm、煙道、あるいは煙道と関連する部分の横幅は31cmである。焚口側の側壁、燃焼面の一部は、被熱赤化している。焼土粒や焼土小塊をかなり含むカマドの第1・2層には、天井部や側壁の崩落土が含まれよう。

覆土は、第1～7層の7層に分けられた。総じて暗褐色土を主とする土である。第8～12層は、掘り方埋土である。暗褐色土にロームを混ぜた土で掘り方を埋めており、明瞭な貼床層は見られない。



第16図 第33号住居跡出土遺物

第5表 第33号住居跡出土遺物観察表

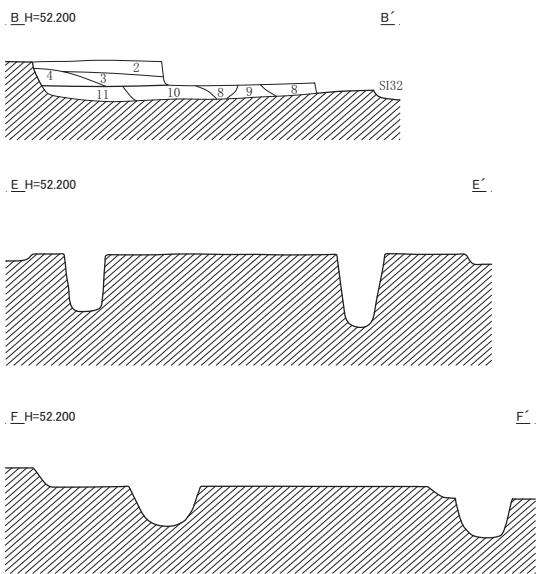
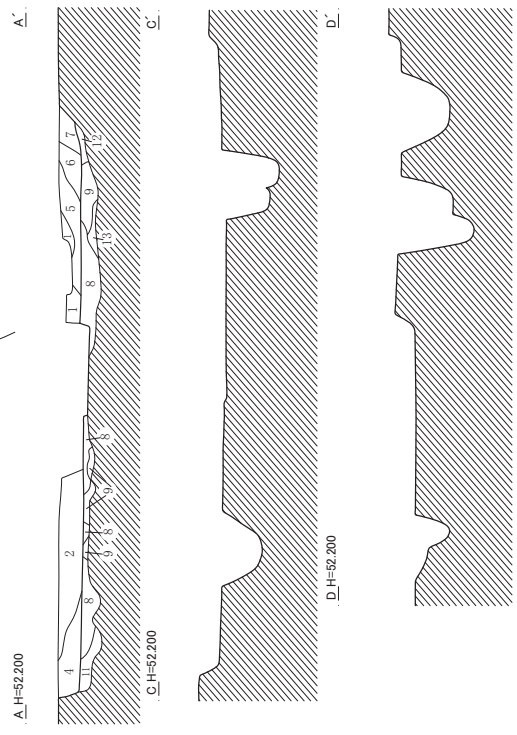
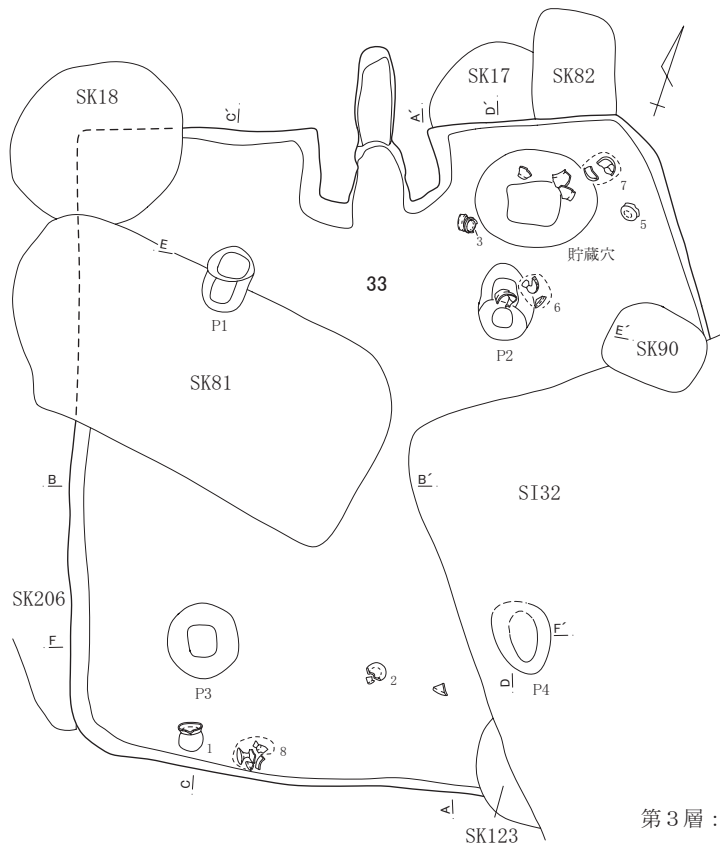
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 16.3 底径 6.3 器高 18.1	口縁部は外反し、端部で短く内屈する。胴部は下位に丸みをもつ。上げ底で輪台状を呈する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ後、中位～下位ヘラケズリ。底部ナデ後周縁部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	片岩・白色粒・黒色粒 外－にぶい黄橙色 内－灰黄褐色	口縁部一部欠損
2	坏	口径 11.0 底径 — 器高 (4.2)	丸底。内彎する体部から口縁部は外傾気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・角閃石 内外－にぶい橙色	2/3残存
3	坏	口径 11.4 底径 — 器高 5.2	丸底。体部は口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・雲母 外－にぶい橙色 内－灰黄色	完形
4	坏	口径 (13.8) 底径 — 器高 4.6	丸底。体部は口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。体部～底部磨耗により不明瞭。	白色粒・黒色粒・赤褐色粒 内外－にぶい黄橙色	1/2残存
5	坏	口径 (15.0) 底径 — 器高 5.8	丸底。体部は口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部～底部ミガキ。黒色処理。	白色粒・黒色粒・角閃石 外－にぶい黄橙色 内－黒色	2/3残存 底部内面に厚い炭化物が付着
6	坏	口径 15.0 底径 — 器高 4.3	丸底。体部は口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内彎気味に直立し、中位に段を有する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。黒色処理。内面－口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。黒色処理。	白色粒 内外－黒色	2/3残存
7	坏	口径 13.6 底径 — 器高 4.4	丸底。体部は口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内傾し、口唇部は内側に凹線がめぐる。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。口縁部黒色処理。内面－口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。黒色処理。	白色粒・赤褐色粒 外－暗灰黄色 内－黒褐色	一部欠損 体部は焼成後に内面から穿孔、孔径0.4cm
8	高坏	口径 16.0 底径 12.8 器高 13.9	口縁部は外傾して開く。脚部は筒状を呈する。裾部はゆるやかに外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。坏部～脚部中位磨耗のため不明瞭。脚部下位～裾部ヨコナデ後ヘラナデ。内面－口縁部～坏部ヨコナデ後放射状暗文。脚部ヘラケズリ。裾部ヨコナデ。	白色粒・黒色粒 内外－橙色	口縁部・裾部1/3欠損
No.	器種	法量(cm)・特徴			備考	
9	土錘	長さ6.3、幅1.5、厚さ1.4、重さ12.54g。胎土：片岩・白色粒・黒色粒。色調：明赤褐色。			ほぼ完形	
10	土錘	長さ[6.3]、幅1.6、厚さ1.4、重さ[12.72]g。胎土：片岩・白色粒・黒色粒。色調：にぶい赤褐色。			端部欠損	
11	土錘	長さ5.7、幅1.6、厚さ1.5、重さ12.79g。胎土：白色粒・角閃石。色調：明赤褐色。			完形	
12	石製模造品	長さ[3.5]、幅1.4、厚さ0.4、重さ[2.58]g。剣形。表裏面に丁寧な研磨。穿孔なし。石材：滑石。			周縁部欠損	

第16図3・5～7の坏は、貯蔵穴およびP2の周辺の下層～床面近くから出土しており、1・8の甕、高坏は、南壁近くから出土している。後者の直ぐ脇の第36号住居跡で、同じような時期の土器がまとまって出土していることから、1の甕、8の高坏は、混入した遺物と見てよいようである。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期後葉後半の遺構と考えられる。

第34号住居跡（第19～21図、第6・7表、図版5・110）

調査地点の南西隅近くの西縁寄り、M11・12グリッドに位置し、J群に含まれる住居跡である。第35・49号住居跡を切っており、第30・33号住居跡、第15・18・21・64・192号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、横長の方形に近い形態と考えられるが、北東隅、南東隅はかなり丸みが強い。規模は、主軸方向で4.42m、副軸方向の残りのよい部分での横幅は、4.75mである。主軸方位は、N-74°-

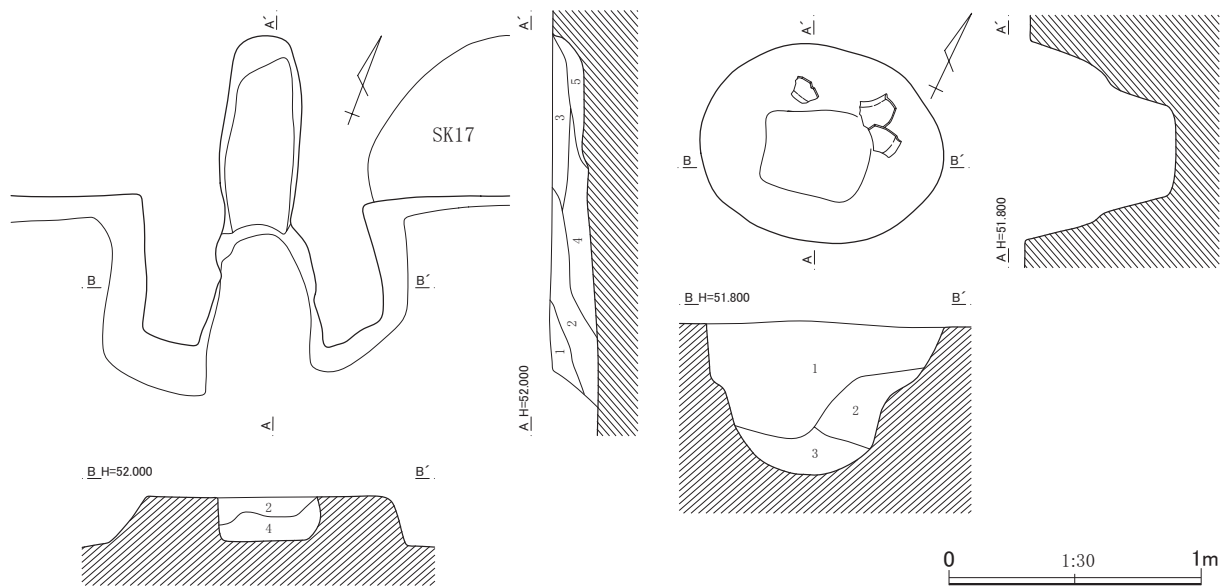


第33号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含み、粘土粒(～0.5mm)を中量、焼土粒(～2mm)を微量含む。粘性はやや強い。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含み、ローム粒(～8mm)・焼土粒(～2mm)を微量含む。

- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含み、焼土粒(～1mm)を微量含む。
- 第4層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を少量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～6mm)を多量に含み、粘土小塊(～50mm)を中量、焼土粒(～2mm)を少量含む。粘性は強い。
- 第6層：暗赤灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～2mm)を中量含み、粘土小塊(～15mm)・焼土粒(～8mm)を少量含む。粘性は強い。
- 第7層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・粘土粒(～1mm)を少量含み、焼土粒(～2mm)を微量含む。
(掘り方埋土)
- 第8層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～6mm)・ローム小塊(～20mm)を中量含む。ややしまっている。
- 第9層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を中量含む。ややしまっている。
- 第10層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～0.5mm)を多量に含み、ローム小塊(～10mm)を少量含む。ややしまっている。
- 第11層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・焼土粒(～2mm)を少量含み、焼土小塊(～10mm)を微量含む。ややしまっている。
- 第12層：暗赤灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～0.5mm)・焼土粒(～2mm)を中量含む。粘性はやや強い。

第17図 第33号住居跡平面・断面図(1)



第33号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)を少量含み、焼土粒(～2mm)を中量、焼土小塊(～10mm)を微量含む。粘性はやや強い。
- 第2層：明赤褐色土。黄褐色粘土を主とし、焼土粒(～8mm)・焼土小塊(～20mm)を中量含む。粘性は強い。
- 第3層：明褐色土。暗褐色粘土を主とし、粘土粒(～0.5mm)を多量に含み、焼土粒(～2mm)を中量含む。粘性はやや強い。
- 第4層：明褐色土。黄褐色粘土を主とし、焼土粒(～2mm)を多量に含み、焼土小塊(～20mm)を中量含む。粘性は強い。

- 第5層：暗褐色土。暗褐色粘土を主とし、ローム粒(～0.5mm)を中量含み、焼土粒(～1mm)を少量含む。

第33号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～8mm)を多量に含み、ローム小塊(～30mm)を中量、炭化物粒(～2mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～1mm)を微量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を少量含む。

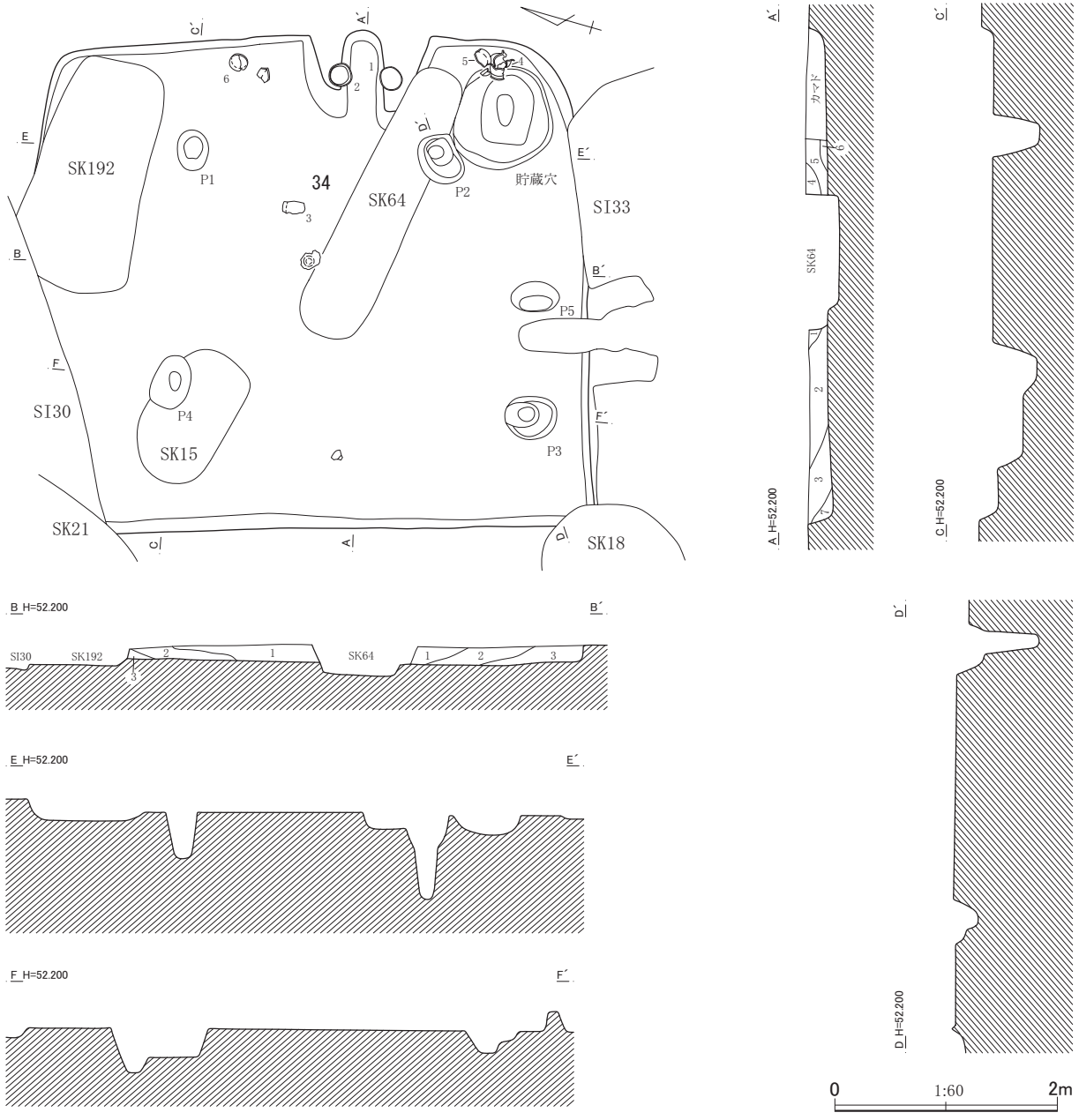
第18図 第33号住居跡平面・断面図(2)

Eである。床面はおおむね平坦で、支柱穴に囲まれた範囲を中心に硬化している。壁の残存する部分は限られるが、残存する壁はいずれも比較的急峻で、壁高は20cm前後である。

P1～P4は、支柱穴である。いずれも平面形は、やや不整な楕円形で、P2、P4は、上半が大きく、下半が細く掘り込まれている。深さは、P1が41cm、P2が76cm、P3が40cm、P4が20cmである。P5は、南壁脇の中央で検出したピットである。平面形は、楕円形で、長径44cm、短径27cm、深さは32cmである。貯蔵穴は、カマドの右袖脇、南東隅に接近した位置で検出した。平面形はかなり不整な楕円形で、上部に浅い平場を有し、長方形の一边が丸くなったような形となり、以下長楕円形の底面にいたる。長径は94cm、短径88cm、最深部での深さは、60cmである。

カマドは、東壁中央のやや南寄りに設けられている。燃焼部は、左右の袖に挟まれ細長い空間で、燃焼面はほぼ床面と同じ高さである。奥壁の一部がわずかに被熱赤化している。袖前端を焚口と見るなら、燃焼部の全長は84cm、横幅は36cmである。第21図1・2の長甕は、左右の袖甕として利用された土器である。

覆土は7層に分けられた。総じて暗褐色土を主とし、カマド周辺の第4～6層には、粘土や焼土が目立つようである。

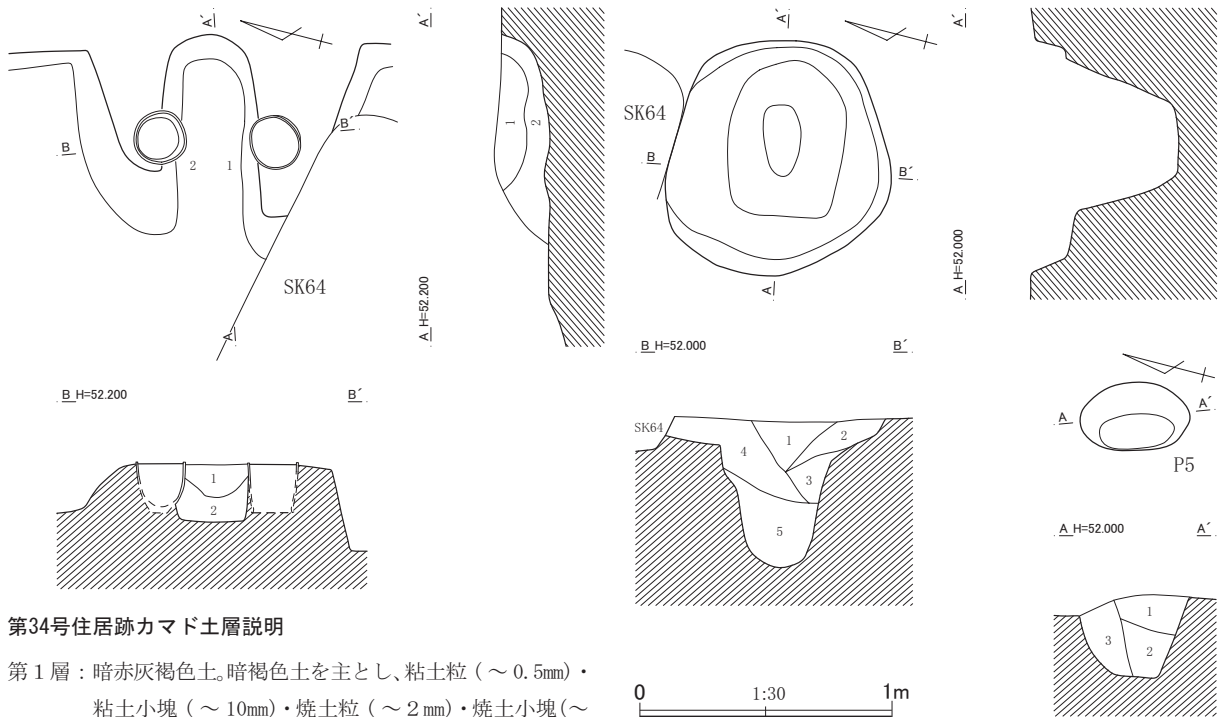


第34号住居跡土層説明

- 第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)・焼土粒(～2mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)・ローム小塊(～20mm)を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)・焼土粒(～2mm)を微量含み、ローム小塊(～10mm)を少量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)・焼土粒(～4mm)を少量含み、粘土粒(～2mm)を中

- 量含む。粘性はやや強い。
- 第5層：明灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～4mm)を中量含み、粘土小塊(～20mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。粘性は強い。
- 第6層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)・焼土粒(～4mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。粘性はやや強い。
- 第7層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・ローム粒(～8mm)を少量含む。

第19図 第34号住居跡平面・断面図(1)



第34号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗赤灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒（～0.5mm）・粘土小塊（～10mm）・焼土粒（～2mm）・焼土小塊（～10mm）を中量含む。粘性はやや強い。
- 第2層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～2mm）を少量含む、粘土粒（～0.5mm）・粘土粒（～8mm）を中量、焼土粒（～1mm）を微量含む。粘性はやや強い。

第34号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒（～0.5mm）を中量含む、ローム粒（～2mm）を少量含む。
- 第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～2mm）を多量に含む、ローム小塊（～10mm）を中量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含む、ローム小塊（～20mm）を微量含む。

- 第4層：暗赤灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～2mm）・粘土粒（～4mm）・焼土粒（～2mm）・焼土小塊（～10mm）を中量含む、ローム小塊（～20mm）・粘土小塊（～10mm）を少量含む。粘性はやや強い。
- 第5層：暗褐色土。ローム粒（～4mm）・ローム小塊（～30mm）を少量含む。

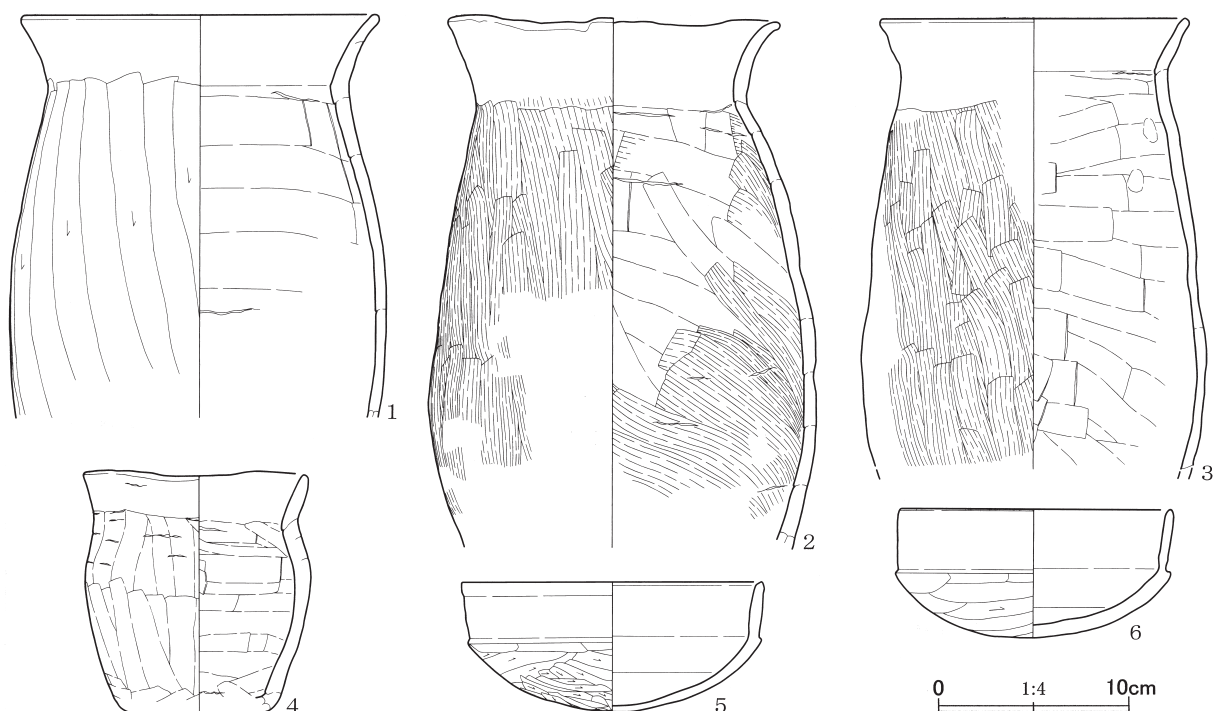
第34号住居跡P5土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒（～2mm）・ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒（～0.5mm）を少量含む。
- 第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～8mm）を

第20図 第34号住居跡平面・断面図（2）

第6表 第34号住居跡出土遺物観察表（1）

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 18.7 底径 — 器高 [21.3]	口縁部は外反する。胴部は中位に膨らみをもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	片岩・白色粒・黒色粒 内外—にぶい橙色	口縁部～胴部 中位
2	甕	口径 17.3 底径 — 器高 [28.2]	口縁部は外反する。胴部は下位に膨らみをもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部木口状工具によるナデ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部木口状工具によるナデ。	白色粒・黒色粒・石英 外—橙色 内—灰黄色	口縁部～胴部 下位
3	甕	口径 (16.0) 底径 — 器高 [23.8]	口縁部は外反する。胴部は下位に膨らみをもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部～頸部ヨコナデ。胴部木口状工具によるナデ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・角閃石 内外—灰黄褐色	口縁部～胴部 下位破片
4	小型甕	口径 (11.5) 底径 — 器高 [12.8]	口縁部は外傾する。胴部は上位に膨らみをもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—にぶい橙色	口縁部～胴部 2/3残存
5	坏	口径 15.9 底径 — 器高 6.9	丸底。体部は口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立し、口唇部に平坦面をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部上半ヨコナデ。体部下半～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—明赤褐色	3/4残存



第21図 第34号住居跡出土遺物

第7表 第34号住居跡出土遺物観察表（2）

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
6	坏	口径 (14.3) 底径 — 器高 6.8	丸底。体部は口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部中位ヨコナデ。体部下位～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・赤褐色粒 内外—橙色	口縁部2/3欠損

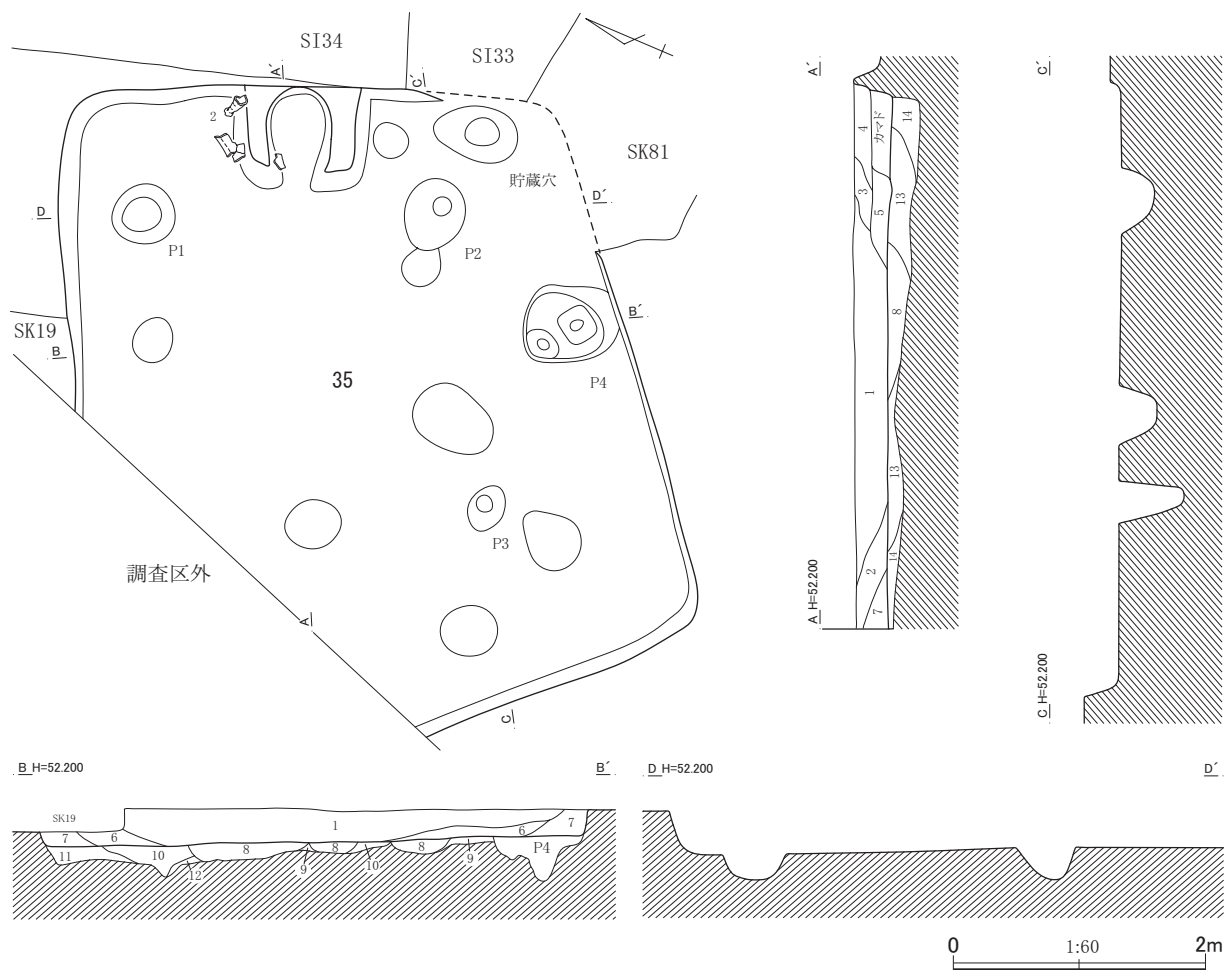
第21図3の甕は、カマドの手前やや北寄りから、第21図6の坏は、カマドの左脇、4の小型甕、5の坏は、南東隅、貯蔵穴の上部の覆土中から出土した。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期前葉の遺構と考えられる。

第35号住居跡（第22～24図、第8表、図版5・110）

調査地点の南西隅近くの西縁沿い、M12グリッドに位置し、J群に含まれる住居跡である。第49号住居跡を切り、第34号住居跡、第18・19・81号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。第33号住居跡と重複するが、重複部分に第18号土坑が重なっており、新旧関係を直接知ることができない。また、西隅周辺は、調査範囲外である。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、東隅、南隅が鈍角に大きく開くため、台形というか菱形というか、かなり不整な四辺形と考えざるをえない。カマドを2分し、残存する北壁・南壁間の中点を抜ける直線を取りあえず主軸とするなら、規模は、主軸方向で5.25m、副軸方向で4.40mとなり、主軸方位は、N-55°-Eである。床面はやや凹凸しており、中央東寄りを中心に硬化している。壁は比較的急峻に立ち上がり、残存状態の良い部分での壁高は、20cm前後である。

P1～P3は、支柱穴であろう。平面形は、P1が円形、P2・P3が楕円形で、深さは、P1が20cm、P2が25cm、P3が52cmである。P4は、南壁に接するピットである。平面形は微妙に角張った不整な楕円形で、大きな掘り込みの底にピット状の小さな掘り込みが2つ穿たれている。最深部で



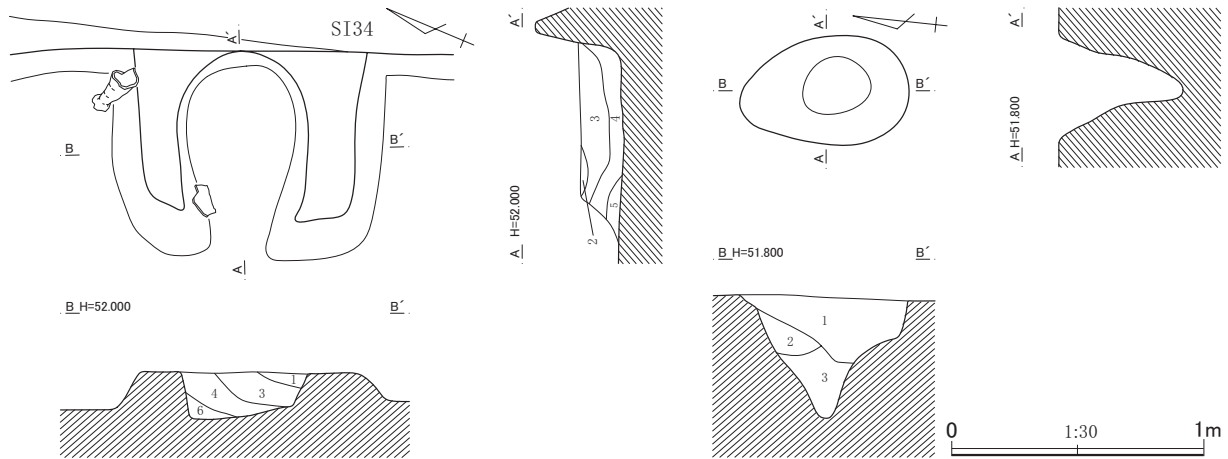
第35号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～20mm)・炭化物粒(～1mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。
- 第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～8mm)・ローム小塊(～40mm)を中量含み、炭化物粒(～2mm)・焼土粒(～2mm)を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含み、焼土粒(～2mm)を微量含む。
- 第4層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～8mm)・ローム小塊(～20mm)を中量含み、焼土粒(～6mm)・粘土粒(～2mm)・粘土小塊(～10mm)を少量含む。
- 第5層：明灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)・粘土粒(～1mm)・焼土粒(～2mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)・粘土小塊(～10mm)を少量含む。粘性はやや強い。
- 第6層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含み、ローム小塊(～4mm)・焼土粒(～1mm)を微量含む。
- 第7層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。

(掘り方埋土)

- 第8層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～8mm)を中量含み、ローム小塊(～15mm)・焼土粒(～2mm)を少量含む。
- 第9層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～20mm)を中量含み、焼土粒(～1mm)を少量含む。
- 第10層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を中量含み、焼土粒(～2mm)を少量含む。
- 第11層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を中量含み、ローム小塊(～40mm)・焼土粒(～2mm)を少量含む。ややしまっている。
- 第12層：明黄褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～0.5mm)・ローム小塊(～10mm)を少量含み、焼土粒(～1mm)を微量含む。
- 第13層：明黄褐色土。ローム土を主とし、暗褐色土小塊(～10mm)を少量含む。
- 第14層：明黄褐色土。ローム土を主とし、暗褐色土小塊(～20mm)を少量含み、ローム粒(～4mm)を中量含む。

第22図 第35号住居跡平面・断面図(1)

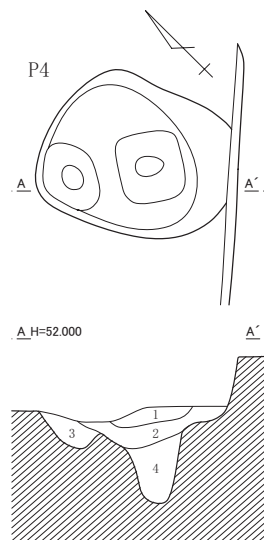


第35号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土。粘土粒(～1mm)・焼土粒(～2mm)を少量含む。粘性はやや強い。
- 第2層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～1mm)・焼土粒(～1mm)を中量含む。粘性はやや強い。
- 第3層：暗赤灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)を少量含む、粘土小塊(～10mm)・焼土粒(～8mm)を中量含む。粘性は強い。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・焼土粒(～2mm)を少量含む。
- 第5層：明灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～4mm)・粘土小塊(～20mm)を中量含む、焼土粒(～2mm)を少量含む。粘性は強い。
- 第6層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を少量含む。

ム小塊(～20mm)を少量含む。

- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)をモヤモヤと中量含む、ローム小塊(～20mm)を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・ローム小塊(～20mm)を微量含む。1・2層に比し、黒み強い。



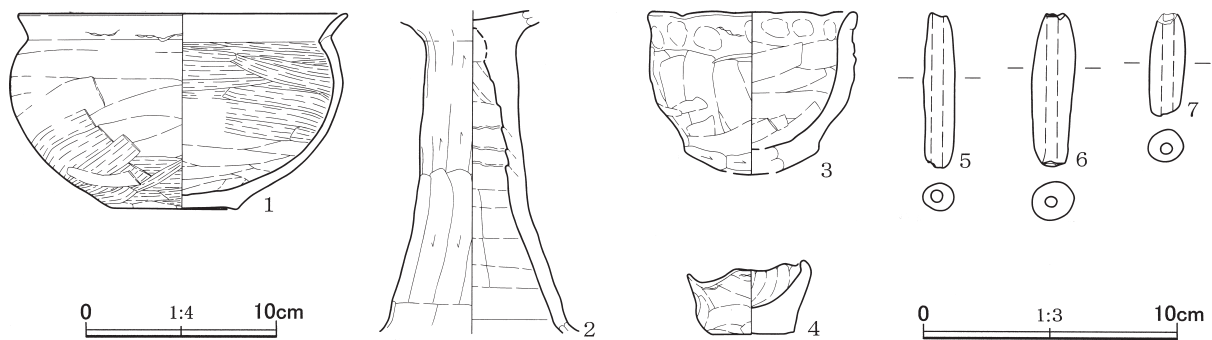
第35号住居跡P4土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含む。
- 第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)を中量含む、ローム小塊(～20mm)・焼土粒(～2mm)を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・ローム粒(～8mm)を少量含む。
- 第4層：明褐色土。ローム土を主とし、暗褐色土粒子(～2mm)・暗褐色土小塊(～40mm)を少量含む。

第35号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)、ロー

第23図 第35号住居跡平面・断面図(2)



第24図 第35号住居跡出土遺物

C地点

第8表 第35号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	鉢	口径 17.3 底径 6.7 器高 10.3	平底。体部は中位に膨らみをもつ。口縁部は外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部木口状工具によるナデ。底部ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部木口状工具によるナデ。	白色粒・黒色粒 内外—明赤褐色	2/3残存
2	高坏	口径 — 底径 — 器高 [17.0]	脚部は筒状を呈し、裾部へ向かい緩やかに開く。粘土紐積み上げによる成形。	外面—脚部ケズリ、下端部ヘラナデ。内面—脚部ヘラナデ、下端部ヨコナデ。	白色粒・黒色粒・角閃石 内外—にぶい橙色	脚部のみ
3	手捏ね土器	口径 (8.1) 底径 — 器高 [6.4]	丸底。体部は丸みをもつ。口縁部は直立し、端部で短く外傾する。手捏ね成形。	外面—口縁部ヨコナデ、指頭圧痕。体部ヘラナデ。底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、指頭圧痕。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—灰褐色	1/2残存
4	手捏ね土器	口径 4.6 底径 3.3 器高 2.9	厚い平底。口縁部は未調整で整っていない。手捏ね成形。	外面—口縁部～底部ナデ。内面—口縁部～底部指ナデ。	白色粒 内外—にぶい赤褐色	口縁部一部欠損
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
5	土錘	長さ6.2、幅1.2、厚さ1.1、重さ7.40g。胎土：白色粒・赤褐色粒。色調：明赤褐色。				完形
6	土錘	長さ6.1、幅1.7、厚さ1.5、重さ15.46g。胎土：白色粒。色調：にぶい赤褐色。				完形
7	土錘	長さ[4.1]、幅1.4、厚さ1.3、重さ[7.01]g。胎土：白色粒。色調：明赤褐色。				端部欠損

の深さは、36cmである。カマドの右袖と南東隅の間に見られるピットは、貯蔵穴であろう。平面形は卵形に近く、長径66cm、短径43cmである。底面に向かって先細りとなる。深さは48cmである。

カマドは、東壁に設けられている。比較的幅広の両袖に挟まれた楕円形の燃焼部が残存する。燃焼面と床面は、ほぼ同じ高さである。袖の端から奥壁までの燃焼部の長さは81cm、横幅は43cmである。燃焼部の被熱赤化は、顕著ではない。

覆土は、7層に分けられた。焼土をかなり含むカマド近くの第3～5層以外は、暗褐色土やロームを主とし、最終的に多量に流入した暗褐色土の第1層により埋没し切った模様である。第8～14層は、掘り方の埋土である。暗褐色土とロームの混合土が主となるが、全体に焼土が含まれるようである。

第24図2の長脚高坏の脚部片は、カマドの左袖上から出土している。第33・34・49号住居跡との重複関係は動かしがたいようであり、第24図1の鉢の時期を勘案するなら、古墳時代後期初頭頃の遺構である可能性が考えられよう。

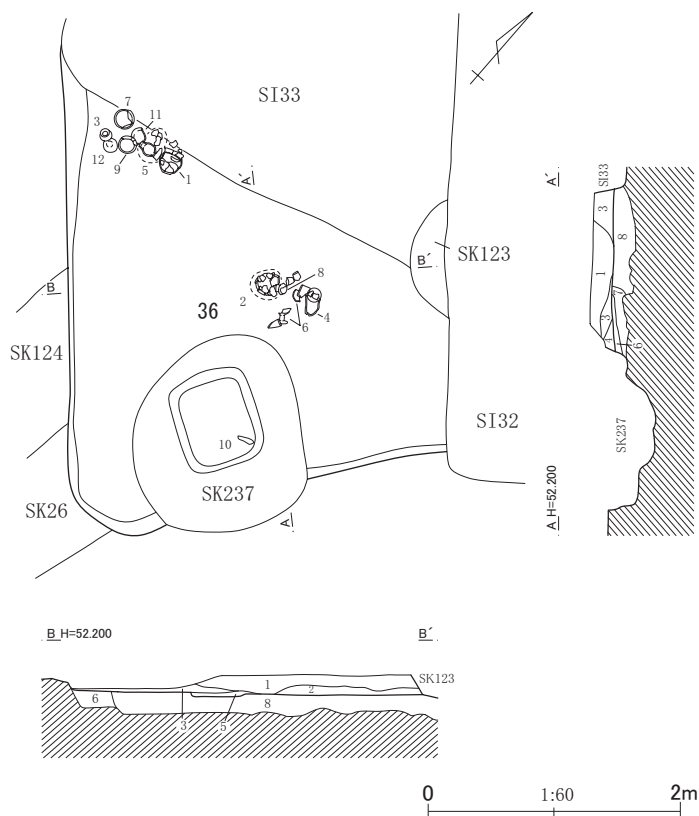
第36号住居跡（第25・26図、第9表、図版5・110・111）

調査地点の南西隅近く、M12・13、N12グリッドに位置し、J群に含まれる住居跡である。第76号住居跡を切っており、第32・33号住居跡、第26・123・124・206・237号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

残存部分が乏しく平面形は不明であるが、南隅は、かなり鋭角になるようである。規模は、いずれも辺長、壁長になるが、北西—南東方向で3.87m、北東—南西方向で2.94mである。主に東半部分の床面は硬化している。南東壁は、立ち上がりも急峻で、掘り込みもしっかりしているが、南西壁は、立ち上がりも不明瞭である。

覆土は、5層に分けられた。全体に灰色みを帯びた土が多く、あるいは覆土自体少なからず乱されている可能性も考えられる。第6～8層は、掘り方埋土である。主に暗褐色土とロームの混合土で、床面下を埋めているようである。

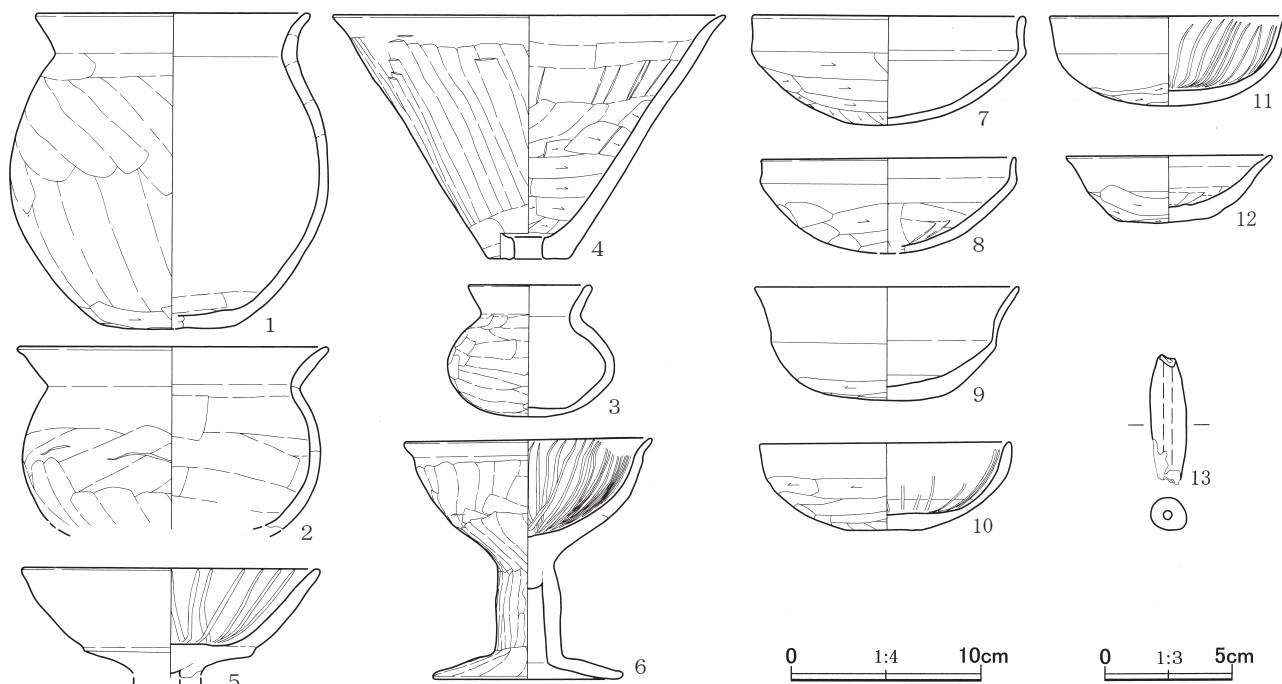
多く床面上に放置されたような状態で、かなりの数の土師器が出土している。第26図1・3・5・



第36号住居跡土層説明

- 第1層：明灰褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を中量含み、粘土粒(～2mm)・粘土小塊(～10mm)を少量、粘土小塊(～60mm)を微量含む。粘性はやや強い。
- 第2層：明褐色土。ローム粒(～0.5mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)を少量含む。
- 第3層：明灰褐色土。ローム粒(～2mm)を中量含み、焼土粒(～2mm)を少量含む。
- 第4層：明褐色土。明灰褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)・ローム粒(～8mm)を中量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒(～2mm)・焼土粒(～1mm)を少量含む。
- 〈掘り方埋土〉
- 第6層：暗褐色土。ローム粒(～8mm)を少量含み、ローム小塊(～20mm)を中量含む。ややしまっている。
- 第7層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～15mm)を少量含み、ローム小塊(～30mm)を中量含む。ややしまっている。
- 第8層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～30mm)を中量含む。ややしまっている。

第25図 第36号住居跡平面・断面図



第26図 第36号住居跡出土遺物

7・9・11・12の甕、小型壺、高坏、4個体の坏は、残存部分の北西隅、同2・4・6・8の甕、甌、高坏、坏は、本住居跡を壊す第237号土坑の北側の、最下層～床面直上から出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期初頭(新相)の遺構と考えられる。

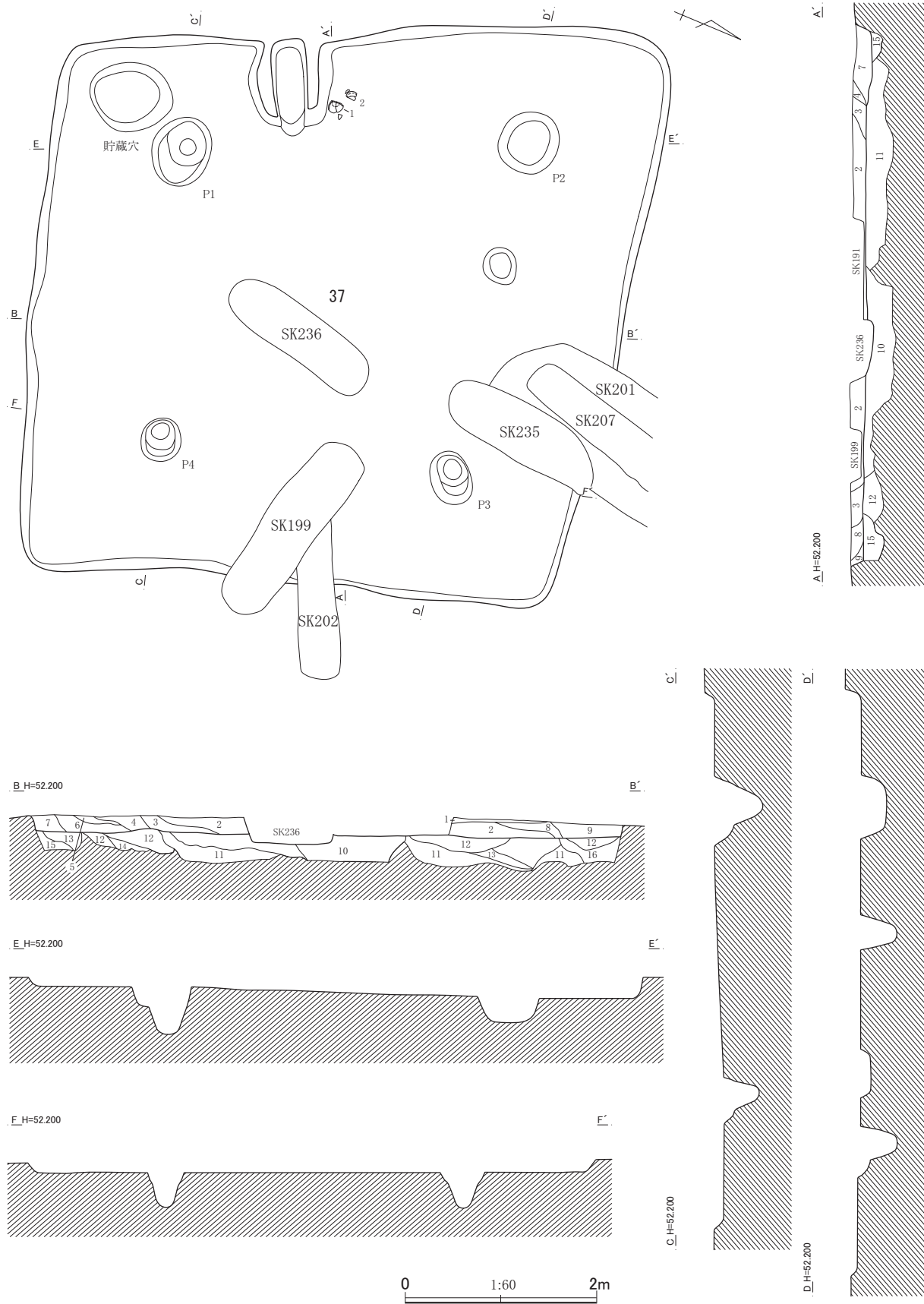
第9表 第36号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	小型甕	口径 14.4 底径 (7.0) 器高 16.6	口縁部は外反する。胴部は中位に丸みをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ、胴部下端～底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・石英 外-にぶい褐色 内-灰黄褐色	2/3残存
2	小型甕	口径 16.2 底径 — 器高 [9.6]	口縁部は外傾する。胴部は中位が張る。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部～胴部上位ヨコナデ。胴部中位ヘラナデ。内面一口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外-橙色	口縁部～胴部 3/4残存
3	小型壺	口径 6.4 底径 — 器高 7.0	口縁部は外傾する。体部は中で大きく張る。丸底。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。内面一口縁部ヨコナデ。体部～底部ナデ。	白色粒 内外-にぶい褐色	完形
4	小型甌	口径 (20.8) 底径 (4.2) 器高 12.9	口縁部は短く外傾する。胴部は直線的に開く。平底で、孔径(1.5)cmの円孔。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。底部ナデ。内面一口縁部ヨコナデ。胴部上半ヘラナデ、下半ヘラケズリ。	白色粒・黒色粒 外-にぶい黄褐色 内-にぶい赤褐色	1/4残存
5	高坏	口径 15.5 底径 — 器高 [5.8]	口縁部は坏部との境に稜をもって外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。坏部磨耗のため不明瞭。内面一口縁部～坏部ヨコナデ後放射状暗文。	白色粒・黒色粒 外-にぶい赤褐色 内-明赤褐色	坏部2/3残存
6	高坏	口径 13.0 底径 9.7 器高 12.8	内彎する坏部から口縁部は短く外傾する。脚部は筒状を呈し、裾部は水平に近く開く。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。坏部ヘラナデ。脚部棒状工具によるナデ。裾部ヘラナデ。内面一口縁部～坏部ヨコナデ後放射状暗文。脚部ナデ。裾部ヨコナデ。	白色粒・黒色粒・角閃石 外-橙色 内-にぶい褐色	口縁部一部欠損
7	坏	口径 14.3 底径 — 器高 5.8	丸底。体部は口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は直立し、口唇部は肥厚する。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 外-橙色 内-にぶい褐色	ほぼ完形
8	坏	口径 13.5 底径 — 器高 (5.0)	丸底。体部は口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。体部上位ナデ。体部中位～底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部上半ヨコナデ。体部下半～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・赤褐色粒 内外-にぶい褐色	3/4残存
9	坏	口径 13.9 底径 — 器高 6.0	丸底。体部は口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は長く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。体部上半ナデ。体部下半～底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・赤褐色粒 外-にぶい黄褐色 内-褐色	ほぼ完形
10	坏	口径 13.2 底径 4.0 器高 4.6	平底気味。体部は内彎する。口縁部は肥厚して直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ後放射状暗文。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・赤褐色粒 外-にぶい褐色 内-褐色	2/3残存
11	坏	口径 (12.6) 底径 — 器高 4.8	丸底。体部は内彎する。口縁部は外反気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。体部ナデ。底部ヘラケズリ。内面一口縁部～底部ヨコナデ後放射状暗文。	白色粒・黒色粒・赤褐色粒 内外-褐色	3/4残存
12	坏	口径 10.8 底径 4.7 器高 3.6	平底。体部はやや丸みをもって開き、口縁部は外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部上半ヨコナデ。体部下半～底部ヘラナデ。	白色粒 内外-明赤褐色	ほぼ完形
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
13	土錘	長さ[5.2]、幅1.4、厚さ1.3、重さ[9.58]g。胎土：白色粒。色調：明赤褐色。				端部欠損

第37号住居跡（第27・28図、第10表、図版6・111）

調査地点の南西半のほぼ中央、N11、O11・12グリッドに位置し、E群に含まれる住居跡である。第42・79・112号住居跡、第260号土坑を切っており、第199・201・202・207・235・236号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。また、第43・68号住居跡とも重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、北西隅がかなり鋭角的で、北東隅が鈍角に開くため、台形と呼んでよい形態である。東西、南北の中軸線をそれぞれ主軸、副軸とするなら、主軸長は5.70m、副軸長は6.23m、主軸方位は、S-70°-Wである。床面はやや凸凹しており、支柱穴を結ぶ範囲を中心に硬化している。壁は比較

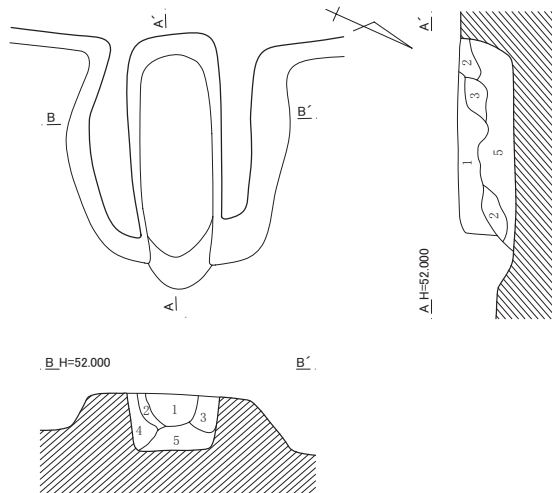


第27图 第37号住居跡平面・断面图(1)

C地点

第37号住居跡土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～5mm)を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、焼土粒(～5mm)を微量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。
- 第5層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～5mm)を微量含む。
- 第6層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～5mm)を微量含む。
- 第7層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含む。
- 第8層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・焼土粒(～5mm)を微量含む。
- 第9層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～5mm)を微量含む。

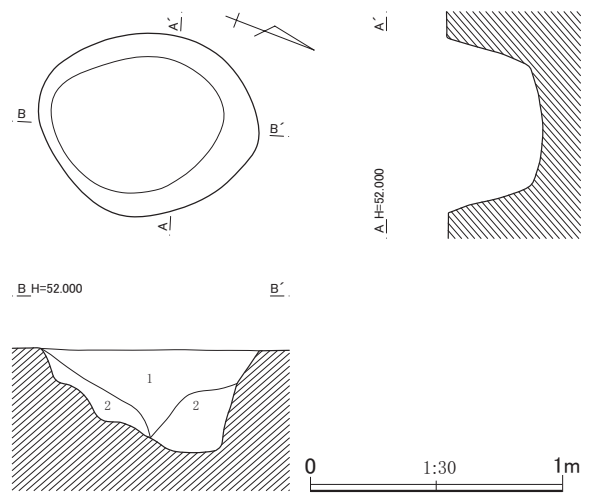


第37号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含み、ローム小塊(～20mm)を中量含む。ややしまっている。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・粘土粒(～5mm)・焼土粒(～5mm)を少量含む。ややしまっている。
- 第3層：暗褐色土。粘土粒(～5mm)・粘土小塊(～10mm)・焼土粒(～5mm)を少量含む。ややしまっている。
- 第4層：暗褐色土。粘土粒(～5mm)を多量に含み、粘土小塊(～30mm)を中量含む。

(掘り方埋土)

- 第10層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～10mm)・ローム小塊(～50mm)を中量含む。ややしまっている。
- 第11層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～10mm)・ローム小塊(～40mm)を中量含む。ややしまっている。
- 第12層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を少量含み、ローム小塊(～15mm)を中量含む。ややしまっている。
- 第13層：暗褐色土。ローム粒(～8mm)を少量含み、ローム小塊(～20mm)を中量含む。ややしまっている。
- 第14層：明黄褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～15mm)・ローム小塊(～30mm)を多量に含む。ややしまっている。
- 第15層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を少量含む。
- 第16層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)を多量に含み、ローム小塊(～20mm)を中量含む。



- 第5層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、焼土粒(～5mm)を少量含む。

第37号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を少量、焼土粒(～5mm)を微量含む。ややしまっている。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含み、ローム小塊(～20mm)を中量含む。ややしまっている。

第28図 第37号住居跡平面・断面図(2)

的急峻に立ち上がり、残存状態の良い部分での壁高は、12～15cmである。

P1～P3は、支柱穴である。平面形は、いずれも楕円形で、P1、P3、P4は、微かな段をもって掘り込まれている。深さは、P1が50cm、P2が28cm、P3が38cm、P4が37cmである。P1の脇、南西隅近くのピットは、貯蔵穴であろう。平面形はやや不整な楕円形で、長径88cm、短径74cmである。底面に向かって凸凹しながら掘り込まれており、最深部での深さは41cmである。

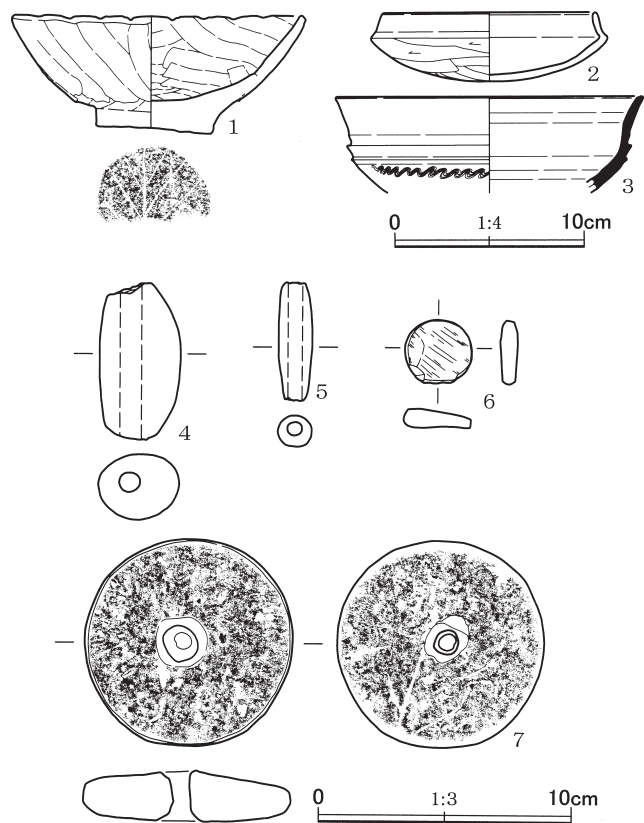
第10表 第37号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	鉢	口径 (15.8) 底径 6.3 器高 6.5	厚い平底。体部から口縁部にかけて内彎気味に開く。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部～体部ナデ。底部木葉痕。内面－口縁部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 外－にぶい褐色 内－黒褐色	1/2残存 甕の下半部を 転用
2	杯	口径 (11.6) 底径 — 器高 3.8	丸底。体部は口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。体部～底部磨耗により不明瞭。	白色粒・黒色粒・赤褐色粒 内外－にぶい赤褐色	1/3残存
3	須恵器 無蓋 高杯	口径 (17.0) 底径 — 器高 [5.3]	体部は口縁部との境に稜を2段もつ。口縁部は外反し、口唇部は内側に面をもつ。ロクロ成形。	外面－ロクロナデ。杯部上位に4本単位の櫛描波状文。内面－ロクロナデ。	海綿滑針・白色粒・ 黒色粒・雲母 内外－灰色	口縁部1/6残存 還元焰焼成
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
4	土錘	長さ6.4、幅3.3、厚さ2.7、重さ56.94g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：橙色。				完形
5	土錘	長さ4.9、幅1.4、厚さ1.3、重さ8.64g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい黄橙色。				完形
6	石製 円板	長さ2.6、幅2.8、厚さ0.8、重さ8.77g。石材：安山岩。／両面に擦痕あり。				完形
7	土製 紡錘車	径8.5×8.6、孔径0.7×0.7、厚さ2.1、重さ166.12g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：色。調整：ナデ。部分的に木葉痕・布目圧痕が残る。裏面から穿孔。				完形

カマドは、西壁の著しく南西隅に偏した位置に、微妙に斜行して設けられている。細長い両袖に挟まれたかなり細い長楕円、あるいは長方形に近い燃焼部が残存する。燃焼面は、浅く掘りくぼめ造作されている。燃焼面の中央部分と側壁の裾が被熱赤化している。燃焼部の長さは100cm、横幅は37cmである。

覆土は、9層に分けられた。暗褐色土を主とし、ロームの多寡により分けられたいくつかの層がやや乱れた堆積状態を示すようであった。第10～16層は、掘り方の埋土である。凹凸がそのまま残る粗掘り面のまま、暗褐色土とロームの混合土で埋めたかに見える。

第29図1・2の鉢、杯は、カマドの右袖脇の覆土下層から出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期後葉後半の遺構と考えられる。

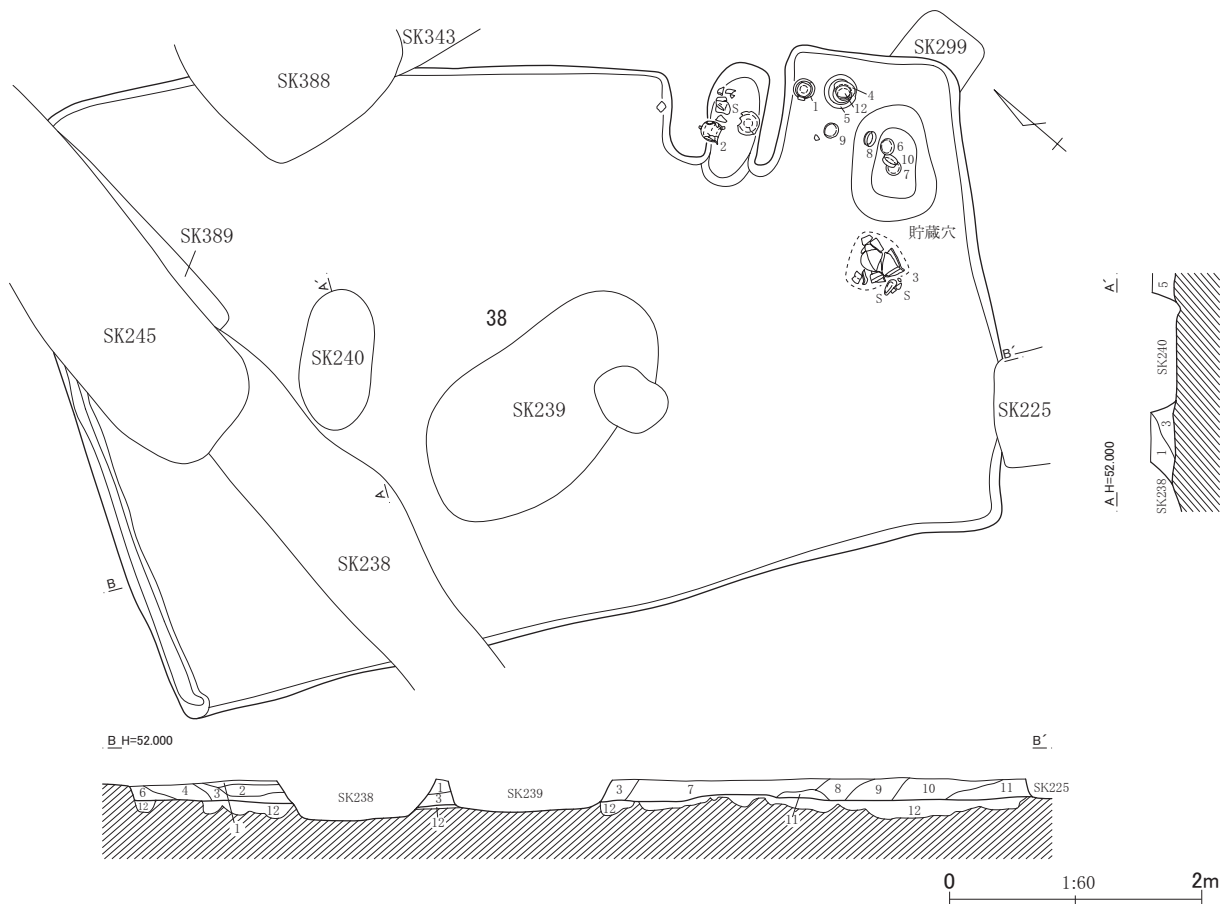


第29図 第37号住居跡出土遺物

第38号住居跡(第30～32図、第11・12表、図版6・7・111・112)

調査地点の西半の西縁寄りの中央、N9、O9・10グリッドに位置し、E群に含まれる住居跡である。第39・93号住居跡を切っており、第225・238～240・245・299・388・389号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。また、第288号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、北隅がかなり鋭角で、東隅がやや大きく開くため、長方形というより台形に近い、長さに比し横幅が大きく上回る異例の形態である。北東－南西、北西－南東の中軸線をそれぞれ主軸、副



第38号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。粘土粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を少量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。

第3層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、ローム小塊（～30mm）を微量含む。

第4層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）を中量含む。

第5層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。

第6層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。

第7層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小

塊（～20mm）を少量含む。

第8層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第9層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を少量、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第10層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。粘性は弱い。

第11層：黄褐色土。ローム土を主とし、暗褐色土粒子（～0.5mm）を少量含む。粘性は弱い。

（掘り方埋土）

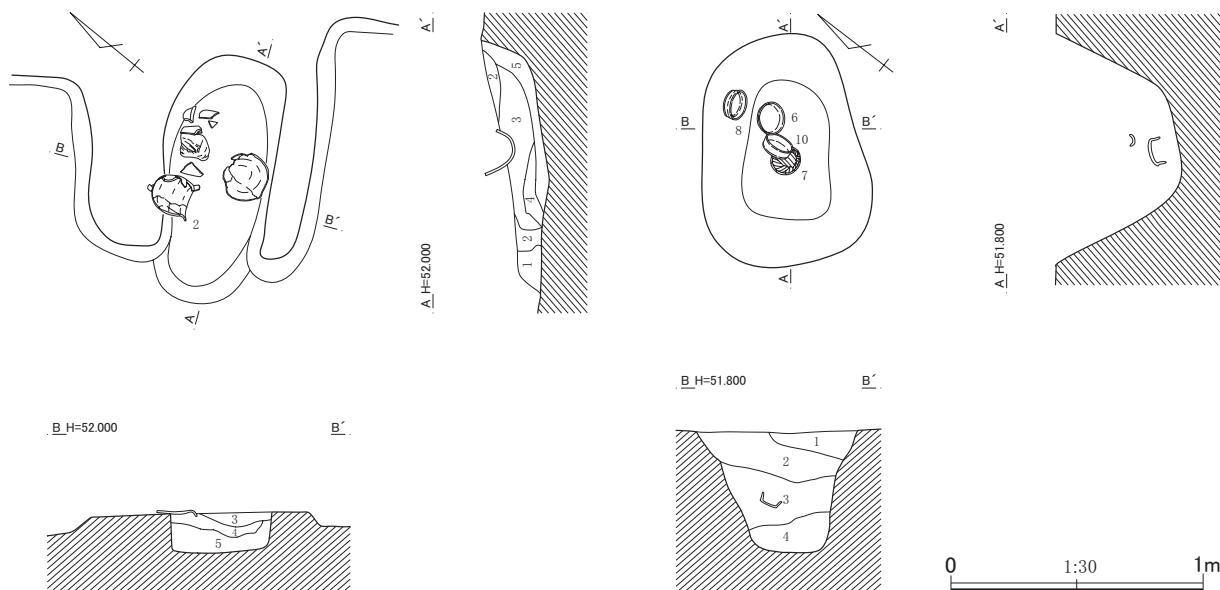
第12層：黄褐色土。ローム土を主とし、暗褐色土小塊（～20mm）を少量含む。ややしまっており、粘性は弱い。

第30図 第38号住居跡平面・断面図（1）

軸とするなら、主軸長は4.46m、副軸長は7.30m、主軸方位はN-40°-Eである。床面は、中央を中心に硬化しているが、かなり凹凸が目立つ。残存状態の良い部分での壁高は、10cm前後である。北西壁に沿って幅20cmほどの壁溝が掘られている。

カマドと東隅の間のピットは、貯蔵穴であろう。平面形はやや角張った楕円形に近く、長径92cm、短径60cmである。丸みのある底面に向かって凸凹しながら掘り込まれており、最深部で深さは48cmである。

カマドは、北東壁の東隅に極端に偏した位置に設けられている。長楕円形の燃焼部を有し、左袖に比し右袖が細い形態である。燃焼面は、わずかに掘りくぼめ造られている。燃焼部の長さは99cm、横



第38号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～3mm)を少量含み、炭化物粒(～5mm)・焼土粒(～5mm)を中量含む。粘性はやや強い。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～3mm)を少量含み、炭化物粒(～5mm)・焼土粒(～5mm)を中量含む。粘性はやや強い。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・焼土粒(～5mm)を中量含み、焼土小塊(～30mm)を少量含む。粘性はやや強い。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・焼土小塊(～30mm)を中量含む。粘性はやや強い。
- 第5層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・焼土粒(～5mm)・焼土小塊(～30mm)を少量含む。粘性はやや強い。

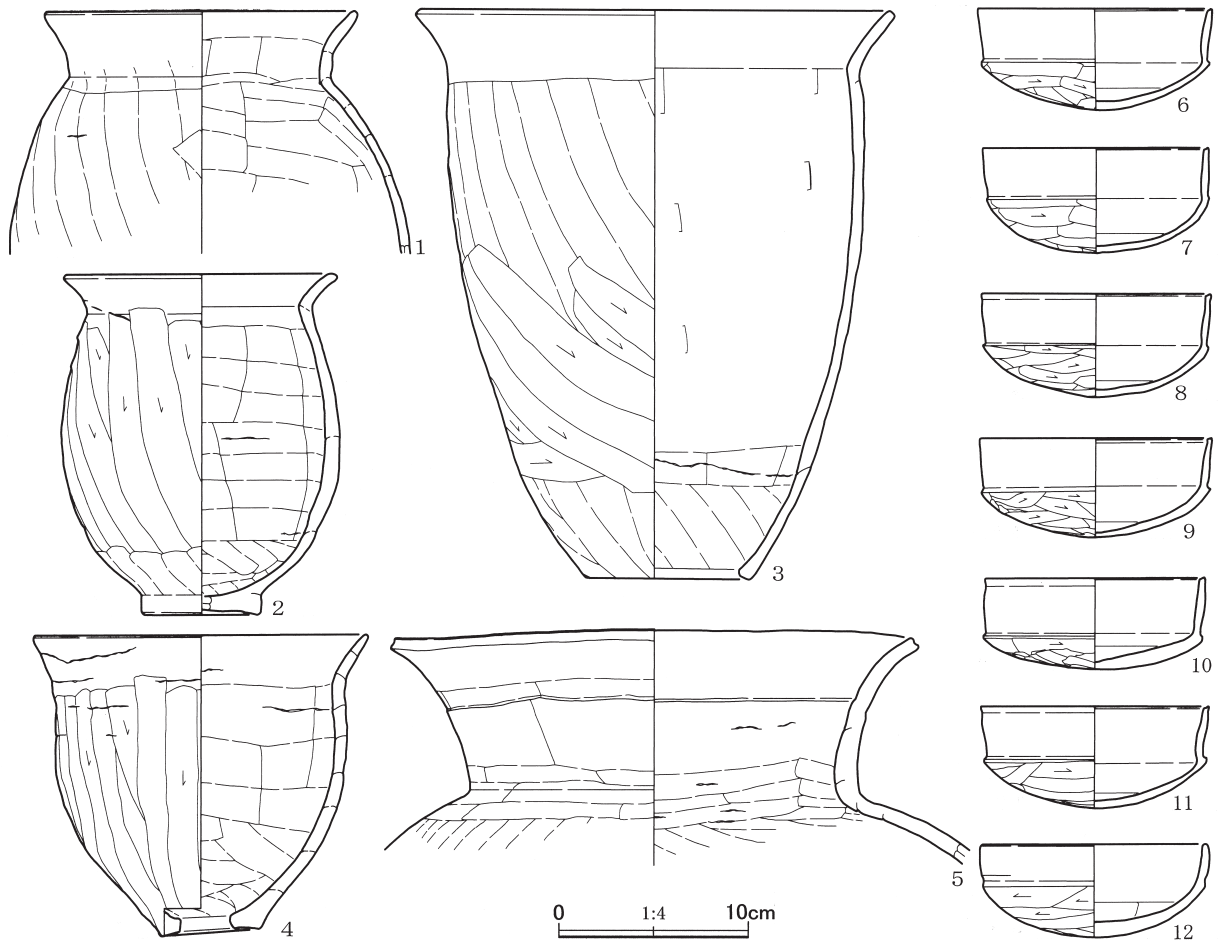
第38号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～10mm)を中量含み、炭化物粒(～5mm)を微量、焼土粒(～5mm)を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～3mm)を多量に含み、ローム小塊(～10mm)を中量、炭化物粒(～5mm)・焼土粒(～5mm)を微量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～3mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を少量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～3mm)を微量含み、ローム小塊(～10mm)を少量含む。

第31図 第38号住居跡平面・断面図(2)

第11表 第38号住居跡出土遺物観察表(1)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 17.0 底径 — 器高 [13.3]	口縁部は直立し、上半で外反する。胴部は膨らみをもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・赤褐色粒 内外—橙色	口縁部～胴部上位
2	小型甕	口径 (14.5) 底径 (6.2) 器高 18.7	口縁部は外反する。胴部は下位に膨らみをもつ。平底で、輪台状を呈す。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ後下位ヘラナデ。底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・石英 内外—橙色	1/2残存
3	甕	口径 25.8 底径 9.1 器高 30.0	口縁部は外傾し、口唇部は平坦面をもつ。胴部は膨らみをもたない。底部は筒抜け。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ後、中位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。端部ヘラケズリ。	白色粒・石英 外—橙色 内—ぶい橙色	ほぼ完形
4	小型甕	口径 18.2 底径 5.5 器高 16.5	口縁部は外傾する。胴部は中位に膨らみをもつ。平底で、孔径3.0cmの円孔。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。端部ヘラケズリ。	白色粒・黒色粒・石英 内外—橙色	口縁部1/2欠損
5	壺	口径 28.5 底径 — 器高 [12.9]	口縁部は外反し、中位に段を有する。口唇部は平坦面もち、凹線がめぐる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。頸部～胴部ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ。頸部～胴部ヘラナデ。	白色粒・赤褐色粒・角閃石・石英 内外—橙色	口縁部～胴部上位
6	坏	口径 12.9 底径 — 器高 5.6	丸底。体部は口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立し、口唇部内側に平坦面をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・赤褐色粒 内外—橙色	完形



第32図 第38号住居跡出土遺物

第12表 第38号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
7	坏	口径 12.4 底径 — 器高 5.8	丸底。体部は口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立し、口唇部内側に平坦面をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・赤褐色粒 内外—明赤褐色	完形
8	坏	口径 12.5 底径 — 器高 5.7	丸底。体部は口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立し、口唇部内側に平坦面をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・赤褐色粒 外—橙色 内—明赤褐色	完形
9	坏	口径 12.7 底径 — 器高 5.5	丸底。体部は口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立し、口唇部内側に平坦面をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・赤褐色粒 内外—橙色	口縁部一部欠損
10	坏	口径 12.0 底径 — 器高 5.1	丸底。体部は口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。口唇部は内側に平坦面をもち、弱い凹線がめぐる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部上半ヨコナデ。体部下半～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—明赤褐色	完形
11	坏	口径 12.5 底径 — 器高 5.6	丸底。体部は口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。口唇部は内側に平坦面をもち、弱い凹線がめぐる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・赤褐色粒 内外—橙色	ほぼ完形
12	坏	口径 12.2 底径 — 器高 5.1	丸底。体部は口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は内彎気味に直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部上半ヨコナデ。体部下半～底部ヘラナデ。	白色粒 内外—明赤褐色	完形

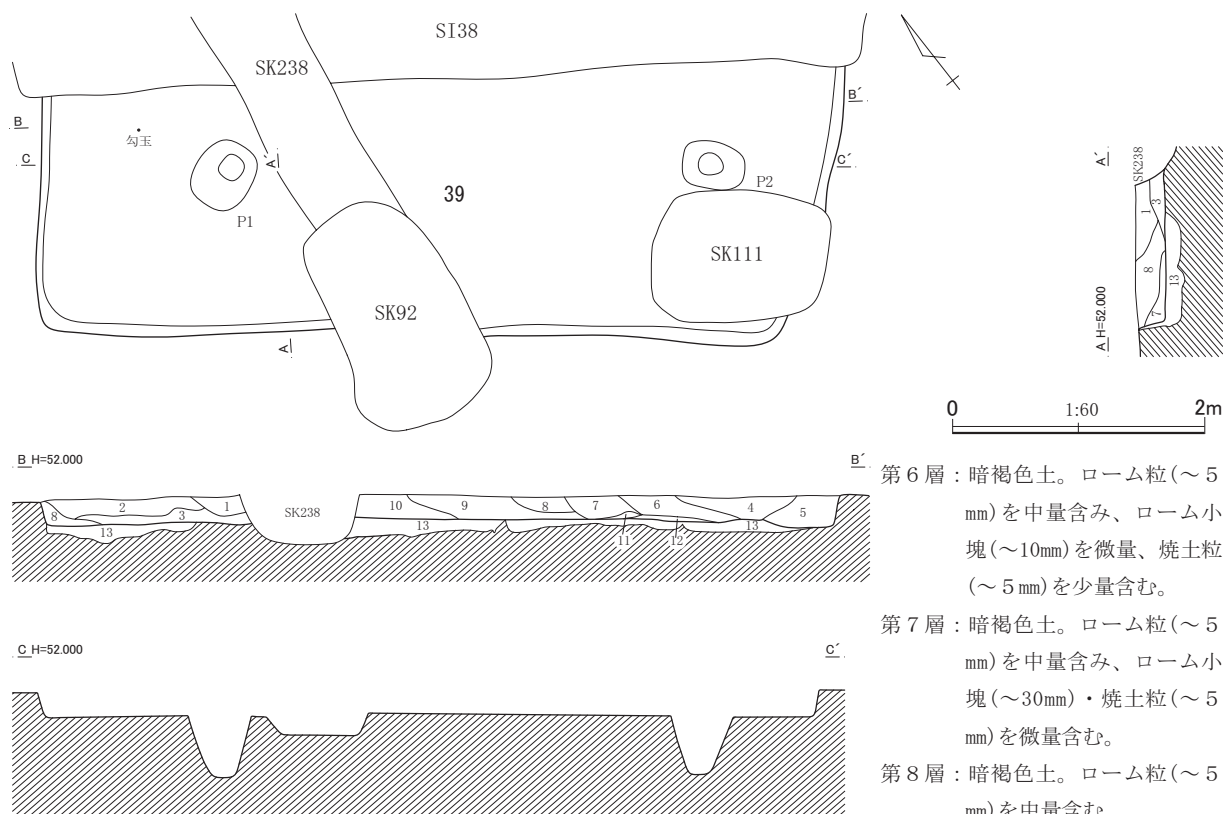
幅は45cmである。右袖側の側壁が極一部赤化している以外は、被熱赤化の痕跡は軽微である。

覆土は、暗褐色土を主に、ロームの多寡により11層に分層した。第12層は、掘り方の埋土である。暗褐色土とロームの混合土である。

第32図2の甕は、カマド内から、6～8・10の4個体の坏は、貯蔵穴の中層から下層にかけてまともに出て出土している。3の甕は、貯蔵穴の南西脇の覆土下層から出土している。また、1の甕、4の小型甕、5の大型壺、9・12の坏は、カマド右脇の覆土中から出土した。このうち、4の小型甕、12の坏は、据え置かれたような5の肩部以上の大型壺の中に、入れ子状に重なった状態で出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期前葉の遺構と考えられる。

第39号住居跡（第33・34図、第13表、図版7・112）

調査地点の西半の西縁寄りの中央、N9・10、O10グリッドに位置し、E群に含まれる住居跡である。第93号住居跡を切っており、第38号住居跡、第92・111・238号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。また、第66・72号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。



第39号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を少量、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第3層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第4層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。

第5層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を中量含む。

第9層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を中量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第10層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～30mm）を微量含む。

第11層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。

第12層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）を中量含む。

〈掘り方埋土〉

第13層：黄褐色土。ローム土を主とし、暗褐色土小塊（～20mm）を少量含む。ややしまっており、粘性は弱い。

第33図 第39号住居跡平面・断面図

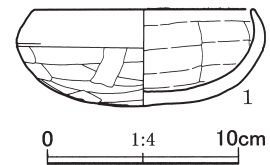
C地点

残存部分が乏しく平面形は不明であるが、重複し切られている第38号住居跡の側に、本住居跡のカマドが本来あり、それが第38号住居跡に奥壁も含めすべて壊されているとすれば、横幅が勝る長方形に類する平面形が推定できる。規模は、北東-南西方向で2.04m、北西-南東方向で6.00m、北東-南西方向での対称軸の方位は、おおよそN-37°-E前後である。床面はやや凹凸しており、中央を中心に硬化しているようであるが、硬化は軽微である。壁は比較的急峻に立ち上がり、最も残りのよい南東壁の壁高は、25cmである。

P1、P2は、支柱穴と思われるピットである。平面形は、いずれもやや角張った楕円形で、深さは、P1が50cm、P2が47cmである。

覆土は、暗褐色土を主に、ロームや焼土の多寡により12層に分けられた。全体に土の乱れが見られるようである。第13層は、掘り方の埋土である。ロームを主とする暗褐色土の混合により床下が埋められているようである。

P1、北西壁間の真ん中の、床面からわずかに浮いた高さで、勾玉が出土しているが、所在不明である。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期初頭の遺構と考えられる。



第34図 第39号住居跡出土遺物

第13表 第39号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	埴	口径 12.1 底径 — 器高 5.4	丸底。体部は丸みをもつ。口縁部は内彎する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。	白色粒・赤褐色粒・雲母 内外-橙色	1/2残存

第40号住居跡（第35～37図、第14表、図版7・112）

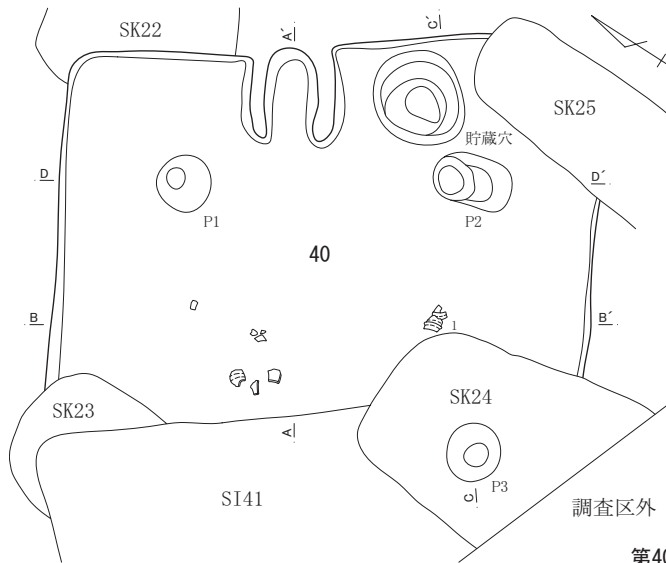
調査地点の南西隅近く、M12・13グリッドに位置し、J群に含まれる住居跡である。第41号住居跡、第22～25号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

南東側を第41号住居跡に大きく壊されているため、平面形を正確に押えることができないが、南東側に壁が大きく伸びないとすれば、やや横幅の勝る方形に近い平面形が推定できる。規模は、主軸方向での現存値2.99m、副軸方向では4.25m、主軸方位はN-59°-Eである。床面は微妙な凹凸があるが、主に中央部分が硬化している。覆土がわずかに残るのみであり、残存する部分での壁高は、3～5cmに過ぎない。

P1～P3は、支柱穴であろう。平面形は、P1・P3が円形、P2が楕円形で、深さは、P1が64cm、P2が48cm、P3が65cmである。P2は掘り込みが2段になるようである。カマドの右袖と第25号土坑との7間に見られるピットは、貯蔵穴であろう。平面形はやや不整な円形で、最大径81cmである。中段にわずかな平場を有し、底面がかなり狭くなる形状で、最深部での深さは38cmである。暗褐色土とロームが不規則に入り混じる覆土である。

カマドは、北東壁に設けられている。細長い両袖に挟まれた長楕円形の燃焼部が残存する。燃焼面と床面は、ほぼ同じ高さである。袖の端から奥壁までの燃焼部の長さは76cm、横幅は43cmである。燃焼部の被熱赤化の痕跡は、軽微である。

覆土は、ロームを含む暗褐色土の1層で、第2～5層は、掘り方の埋土である。掘り方は、壁側がやや深く掘り込まれており、暗褐色土とロームの混合土によりやや浅い中央部を埋め、続いて壁沿いを埋めているようである。



第40号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を中量含む。

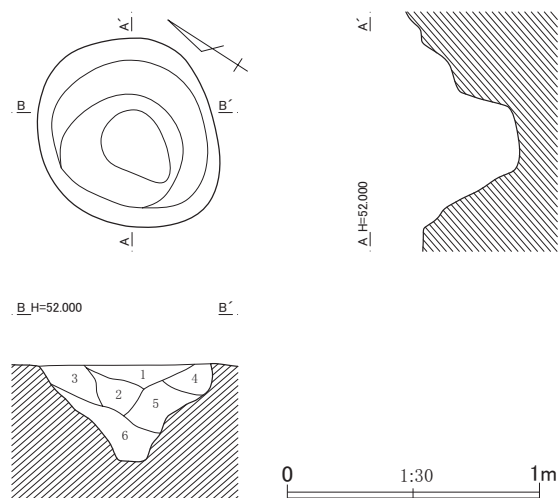
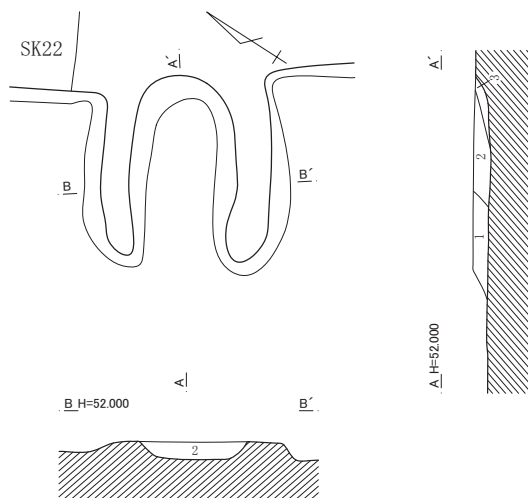
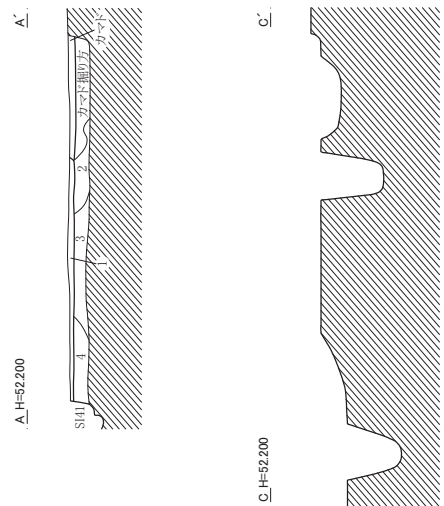
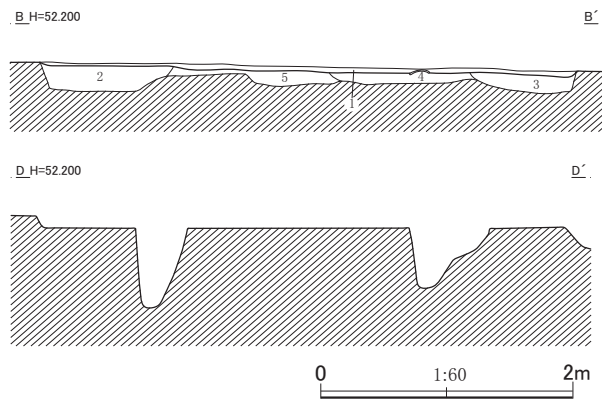
〈掘り方埋土〉

第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～0.5mm)を多量に含み、ローム小塊(～30mm)・焼土粒(～2mm)を中量含む。ややしまっている。

第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～0.5mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を多量に、焼土粒(～2mm)を微量含む。ややしまっている。

第4層：明褐色土。暗褐色土粒子(～0.5mm)を少量含む。ややしまっている。

第5層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～0.5mm)・ローム小塊(～40mm)を中量含む。ややしまっている。



第40号住居跡カマド土層説明

第1層：明赤灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～2mm)・焼土小塊(～20mm)を少量含み、焼土粒(～4mm)を中量含む。粘性はやや強い。

第2層：明赤灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1

mm)を少量含み、粘土粒(～2mm)・焼土粒(～2mm)を中量含む。粘性はやや強い。

第3層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含み、焼土粒(～2mm)を中量含む。

第35図 第40号住居跡平面・断面図(1)

C地点

第40号住居跡貯蔵穴土層説明

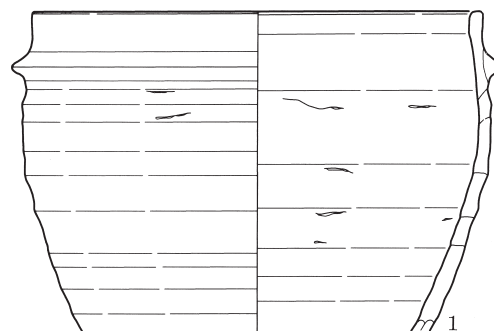
- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を微量、焼土粒(～2mm)を少量含む。
- 第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含み、ローム粒(～4mm)・焼土粒(～2mm)を微量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・ローム粒(～4mm)を中量含む。
- 第5層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を中量含み、ローム小塊(～15mm)を少量、焼土粒(～2mm)を微量含む。
- 第6層：黄暗褐色土。ローム土を主とし、ローム粒(～8mm)・ローム小塊(～20mm)を中量含む。

第36図 第40号住居跡平面・断面図(2)

第14表 第40号住居跡出土遺物観察表

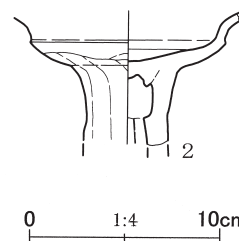
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	須恵器 羽釜	口径 (24.6) 底径 — 器高 [17.6]	胴部は上位に丸みをもつ。口縁部はわずかに内傾し、口唇部は肥厚する。鏝は断面三角形を呈する。ロクロ成形。	外面—ロクロナデ。鏝貼付。内面—ロクロナデ。	黒色粒・赤褐色粒・石英・雲母 内外—にびい黄橙色	口縁部～胴部片 酸化焰焼成
2	高坏	口径 — 底径 — 器高 [7.3]	口縁部は坏部との境に稜をもつて外反する。脚部は筒状を呈する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。坏部～脚部ナデ。内面—口縁部～坏部ヨコナデ。坏底部ヘラナデ。脚部上位指ナデ、中位ヘラナデ。	黒色粒・角閃石 内外—明赤褐色	坏部～脚部上半1/2残存

第37図1の復元した羽釜片は、第24号土坑と重複する部分の直ぐ脇の覆土下層から出土しているが、混入した遺物の可能性がある。住居形態、重複関係から見て、同図2の土器の時期、古墳時代後期初頭頃の遺構である可能性を考えたい。



第41号住居跡(第38～40図、第15表、図版7・112)

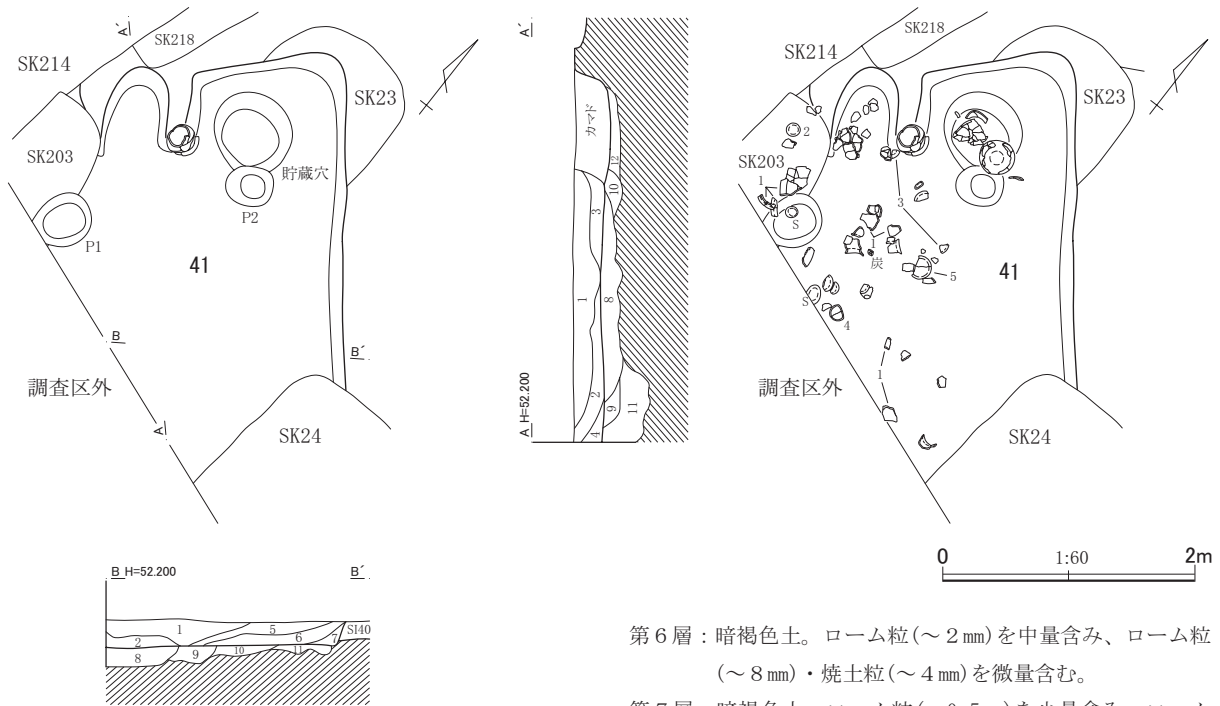
調査地点の南西隅、調査区界の南壁に接して検出した。L13、M13グリッドに位置し、J群に含まれる住居跡である。第40号住居跡を切っており、第23・24・203・218号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。また、遺構の南側の大半が調査範囲外である。確認面は、黄褐色のローム層上面である。



残存状態が悪く、北隅が鋭角気味に折れ、奥壁、北東壁が直線的であること以外は判らない。規模は、いずれも現存値、残存値になるが、主軸方向で3.32m、それに直行する方向で2.37mである。主軸方向を推定するのはやや無理があるが、ほぼ北東壁に並行するとすれば、おおよそN-38°-Wを指すことになる。床面はほぼ平坦で、主に中央部分が硬化している。立ち上がりも直に近く、壁もしっかりしており、北東壁での壁厚は19cmである。

P1、P2は支柱穴の可能性のあるピットである。P1はカマドに近過ぎ、またP2が貯蔵穴と思われるピットと重なるなど問題が残るが、小型の住居跡とすれば、可能性はあると見てよいであろう。いずれも平面形はやや不整な円形で、深さは、P1が32cm、P2が22cmである。カマドの右袖と北隅との間のピットは、貯蔵穴であろう。平面形は円形で、径64cmである。たらいのような断面形で、深さは20cmである。

第37図 第40号住居跡出土遺物



第41号住居跡土層説明

- 第1層：黒褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～2mm)を微量、炭化物粒(～1mm)を中量含む。
- 第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)を中量含み、焼土粒(～2mm)を少量含む。
- 第3層：明灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～6mm)・焼土粒(～2mm)を少量含み、粘土粒(～2mm)を中量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含み、ローム粒(～8mm)を微量含む。
- 第5層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を中量含み、焼土粒(～2mm)を微量含む。

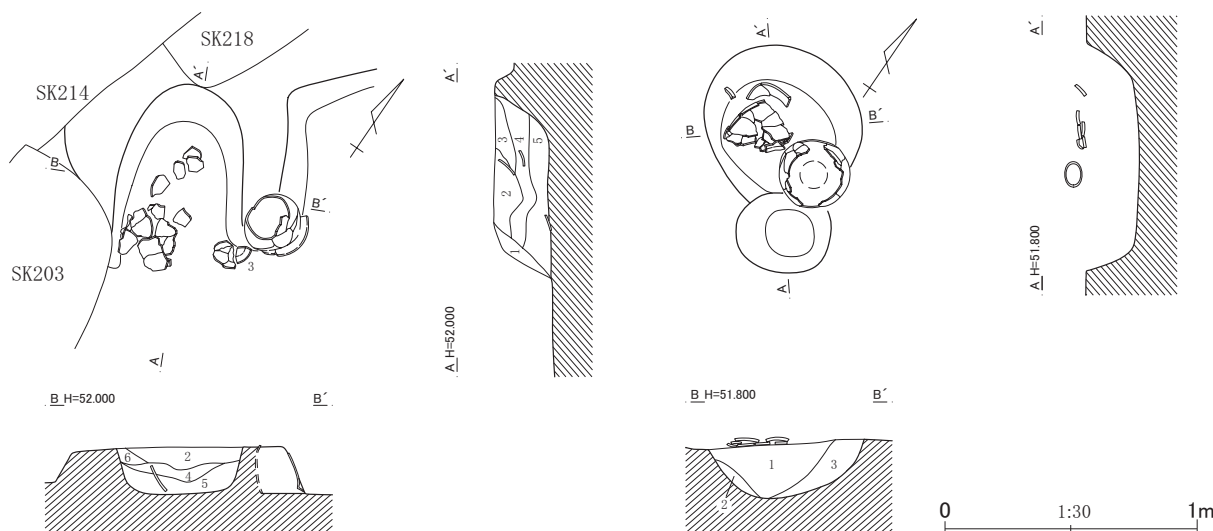
- 第6層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を中量含み、ローム粒(～8mm)・焼土粒(～4mm)を微量含む。
- 第7層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を少量含み、ローム粒(～8mm)・焼土粒(～1mm)を微量含む。
- (掘り方埋土)
- 第8層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～10mm)を多量に含む。
- 第9層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を多量に含み、ローム小塊(～10mm)・炭化物粒(～5mm)・焼土粒(～5mm)を微量含む。
- 第10層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を多量に含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。
- 第11層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を多量に含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。
- 第12層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を多量に含み、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～5mm)を微量含む。

第38図 第41号住居跡平面・断面図(1)

カマドは、北西壁に設けられている。右袖しか残っておらず、楕円形の燃焼部を有する形態であり、燃焼面と床面は、ほぼ同じ高さである。袖の端から奥壁までの燃焼部の長さは71cm、横幅は50cmである。燃焼面、奥壁、側壁の極一部ではあるが、被熱赤化している。カマド覆土の第5・6層は、天井部や側壁の崩落土、あるいは崩落土を含む層と思われる。

覆土は、暗褐色土を主とする7層に分層できた。ほとんどの層に焼土が含まれるようである。第8～12層は、暗褐色土とロームの混合土からなる掘り方の埋土である。

第40図1の甗や2の坏は、第203号土坑に壊された部分の下部やカマドの前面から、3の坏は、カマド右袖脇やカマド前面から、4・5の坏は、カマド前面から出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末期後葉の遺構と考えられる。



第41号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)を微量含み、焼土粒(～0.5mm)を多量に含む。粘性は強い。
- 第2層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～2mm)を中量含み、粘土小塊(～30mm)を多量に、焼土粒(～4mm)を少量含む。粘性は強い。
- 第3層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)・ローム小塊(～30mm)・焼土粒(～4mm)を中量含む。粘性は強い。
- 第4層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、暗褐色土小塊(～20mm)・ローム粒(～1mm)・ローム小塊(～20mm)・焼土粒(～2mm)を中量含む。粘性は強い。

- 第5層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～2mm)を中量含み、粘土小塊(～20mm)を多量に、焼土粒(～4mm)を少量含む。粘性はやや強い。
- 第6層：暗赤灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～1mm)・焼土粒(～4mm)を中量含み、粘土小塊(～20mm)を多量に、焼土粒(～8mm)を少量含む。粘性は強い。

第41号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～8mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～2mm)を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～1mm)を微量含む。

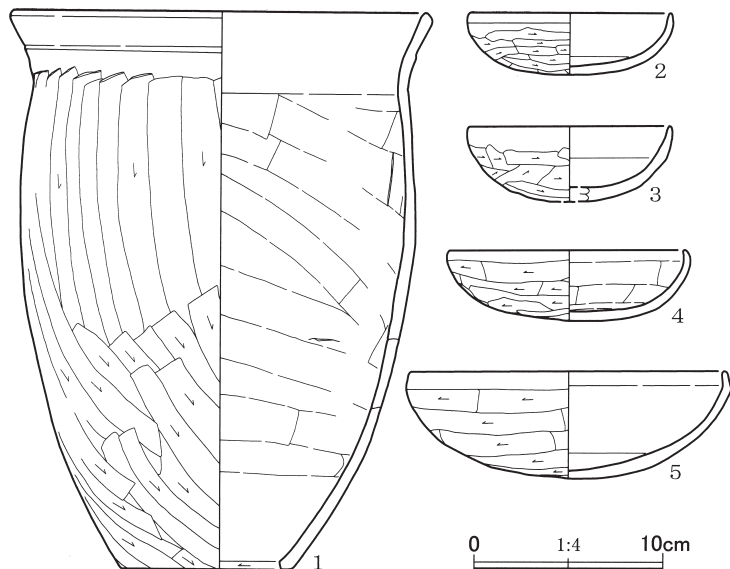
第39図 第41号住居跡平面・断面図(2)

第15表 第41号住居跡出土遺物観察表

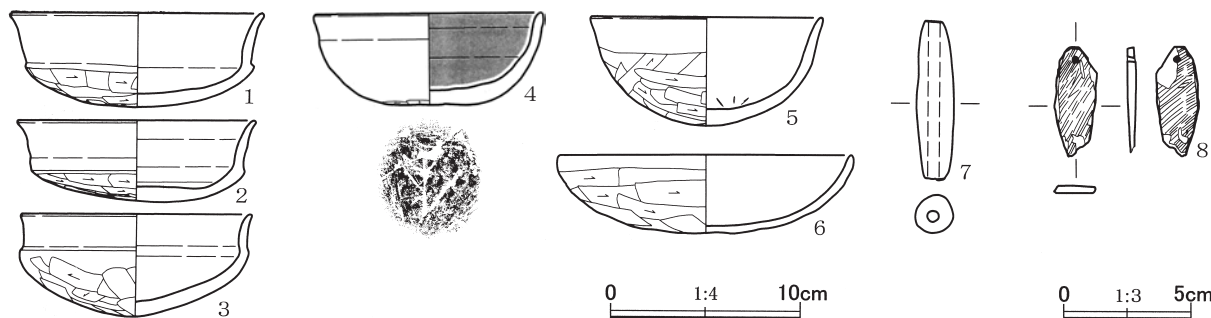
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甌	口径 22.7 底径 (9.5) 器高 29.5	口縁部は外反し、中位に弱い段を有する。口唇部は肥厚する。胴部は中位にわずかな膨らみをもつ。底部は筒抜け。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。端部ヘラケズリ。	白色粒・黒色粒・角閃石 外-明赤褐色 内-ぶい黄橙色	2/3残存
2	坏	口径 11.1 底径 — 器高 3.4	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面-口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・赤褐色粒・雲母 内外-橙色	完形
3	坏	口径 11.1 底径 — 器高 [4.1]	丸底。内彎する体部から、口縁部は彎曲気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・角閃石 内外-橙色	1/2残存
4	坏	口径 (13.0) 底径 — 器高 3.9	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く内傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 外-明赤褐色 内-橙色	2/3残存
5	坏	口径 17.4 底径 — 器高 5.9	丸底。体部は大きく開き、口縁部は短く内傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面-口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・赤褐色粒 内外-橙色	1/2残存

第42号住居跡(第41～43図、第16表、
図版8・112)

調査地点の南西部のほぼ中央、N 11・12、O11・12グリッドに位置し、E群に含まれる住居跡である。第201・207・235号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。また、遺構の東側の大半を第37号住居跡に壊されているが、第37号住居跡の掘り方下に、本住居跡の掘り方のみが残存しており、全体のおおよその輪郭と2本分の支柱穴を検出することができた。なお、第43・68



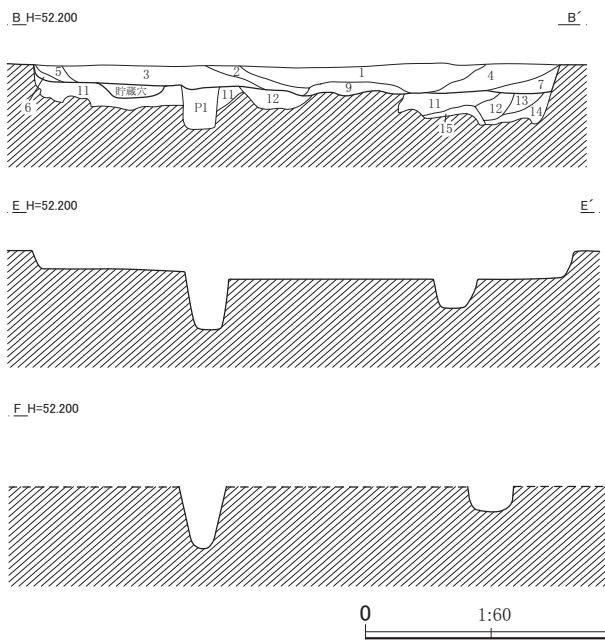
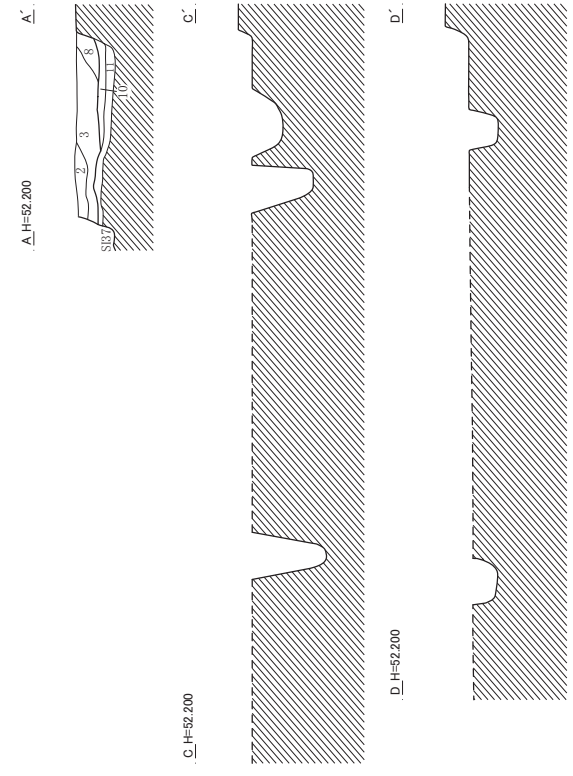
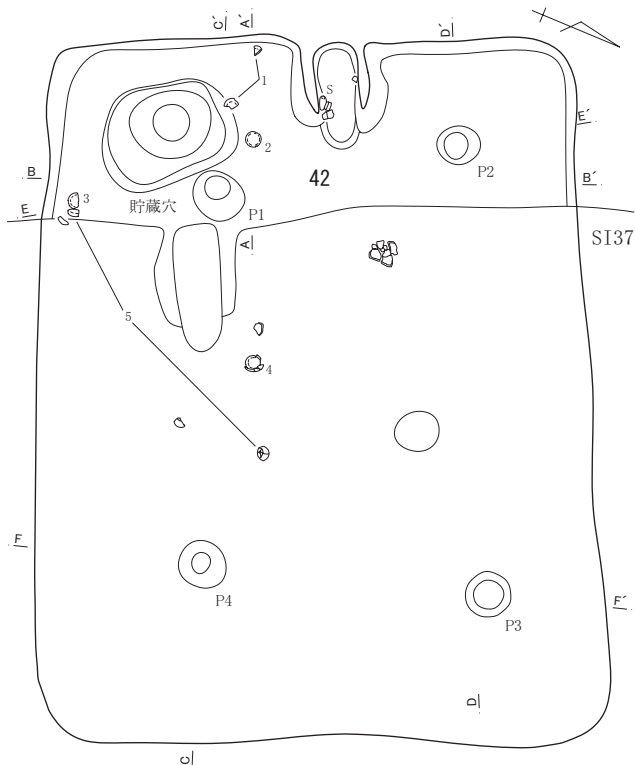
第40図 第41号住居跡出土遺物



第41図 第42号住居跡出土遺物

第16表 第42号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 13.8 底径 — 器高 5.2	丸底。口縁部は体部との境に稜をもち、外反気味に立ち上がり、端部で短く外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・角閃石 外—にぶい黄橙色 内—にぶい橙色	ほぼ完形
2	坏	口径 13.0 底径 — 器高 4.5	丸底。口縁部は体部との境に稜をもち、外反気味に立ち上がり、端部で短く外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・角閃石 内外—橙色	ほぼ完形
3	坏	口径 12.6 底径 — 器高 5.6	丸底。口縁部は体部との境に弱い稜をもち、直立して端部で短く外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・角閃石 内外—橙色	ほぼ完形
4	坏	口径 12.4 底径 — 器高 5.0	丸底。体部は彎曲し、口縁部は外反気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ナデ。底部木葉痕後にケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。黒色処理。	赤色粒・白色粒・角閃石 外—にぶい橙色 内—黒色	ほぼ完形
5	坏	口径 12.7 底径 — 器高 6.0	丸底。体部は彎曲し、口縁部は外反気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・角閃石 内外—橙色	ほぼ完形
6	坏	口径 16.1 底径 — 器高 4.4	丸底。内彎気味に開く浅い体部から、口縁部は短く立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・角閃石 内外—橙色	1/2残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
7	土錘	長さ6.6、幅1.6、厚さ1.6、重さ15.85g。胎土：赤色粒・白色粒・黒色粒。色調：にぶい黄橙色。				完形
8	石製模造品	長さ[4.5]、幅1.8、厚さ0.3、重さ[4.35]g。剣形。表裏面に丁寧な研磨。穿孔あり。石材：滑石。				先端部欠損

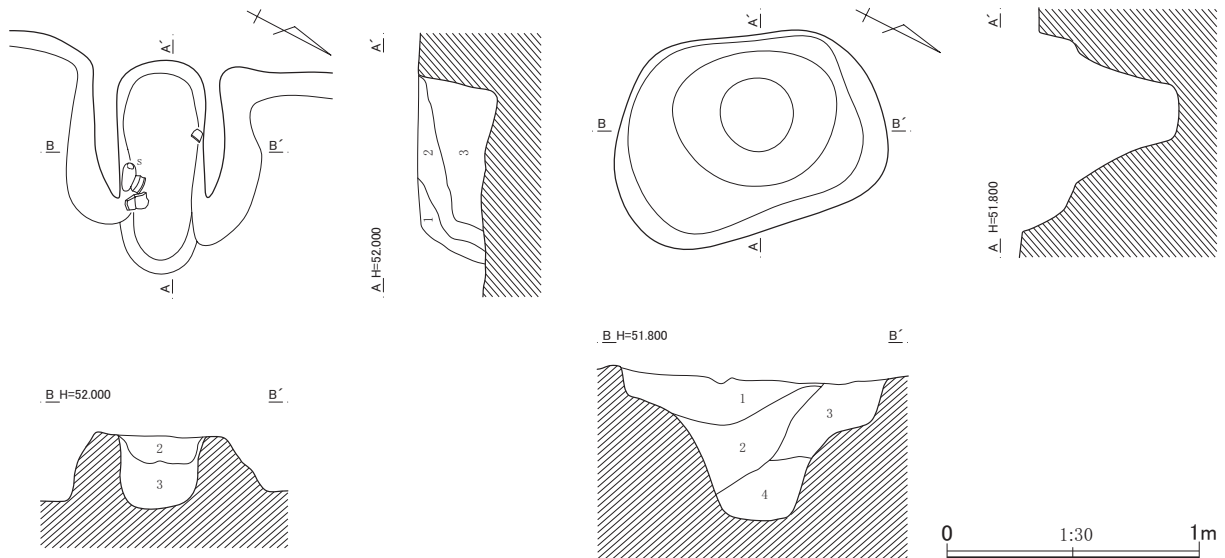


第42号住居跡土層説明

- 第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～10mm)を中量含み、粘土粒(～2mm)・焼土粒(～2mm)を少量含む。
- 第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～10mm)を中量含み、粘土粒(～2mm)・焼土粒(～2mm)を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～10mm)・粘土粒(～2mm)を少量含み、粘

- 土小塊(～10mm)・焼土粒(～4mm)を中量含む。
 - 第4層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含み、ローム小塊(～20mm)・焼土粒(～2mm)を微量含む。
 - 第5層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を微量含む。
 - 第6層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を少量、焼土粒(～2mm)を微量含む。
 - 第7層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を少量含む。
 - 第8層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含み、ローム粒(～8mm)を中量含む。
 - 第9層：明灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)を微量含み、粘土粒(～2mm)を中量、粘土小塊(～20mm)・焼土粒(～2mm)を少量含む。
 - 第10層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・ローム小塊(～10mm)を少量含む。ややしまっている。
- 〈掘り方埋土〉
- 第11層：暗褐色土。ローム粒(～3mm)・ローム小塊(～50mm)を中量含む。ややしまっている。
 - 第12層：暗褐色土。ローム粒(～3mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を少量含む。ややしまっている。
 - 第13層：暗褐色土。ローム粒(～3mm)を少量含み、焼土粒(～3mm)を微量含む。ややしまっている。
 - 第14層：暗褐色土。ローム粒(～3mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を中量含む。ややしまっている。
 - 第15層：暗褐色土。ローム粒(～3mm)を少量含む。ややしまっている。

第42図 第42号住居跡平面・断面図(1)



第42号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～3mm)・ローム小塊(～20mm)・焼土粒(～5mm)を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・焼土粒(～5mm)を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・焼土粒(～5mm)を少量、炭化物粒(～5mm)を微量含む。

第42号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～3mm)を多量に含み、ローム小塊(～10mm)を中量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～3mm)を多量に含み、ローム小塊(～30mm)を少量、焼土粒(～3mm)を微量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含み、ローム小塊(～40mm)を多量に含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含み、ローム小塊(～20mm)を中量含む。

第43図 第42号住居跡平面・断面図(2)

号住居跡とも重複している。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、やや東壁側が幅広の長方形である。規模は、主軸方向で5.56m、副軸方向で4.40mである。ただし、南北壁、東壁は残存しないため掘り方の辺に測点を求めた数値である。主軸方位は、S-68°-Wである。床面には凹凸が顕著であるが、カマド前面は硬化している。残存する壁は、比較的立ち上がりも急で、壁高は、南壁、西壁で13、14cm、北壁で21cmである。

P1～P4は、支柱穴であろう。いずれも平面形は円形で、深さは、P1が49cm、P2が25cmである。P3、P4の場合、推定される床面からの深さとなるが、P3は20cm、P4が49cmである。P1と南西隅の間のピットないしは土坑は、貯蔵穴であろう。平面形はやや角張った楕円形で、長径108cm、短径82cmである。中段が平場状になり、正円に近い底面に向かってすぼまるように掘り込まれている。深さは58cmである。

カマドは、西壁のほぼ中央に設けられている。上部がやや細い両袖に挟まれた長楕円形の燃焼部が残存する。燃焼面は、浅く掘りくぼめ作出されている。燃焼部の長さは70cm、横幅は34cmである。全体にカマド材のローム塊の表面などが熱変化しているようにも見えるが、明瞭な被熱赤化の痕跡は見られない。

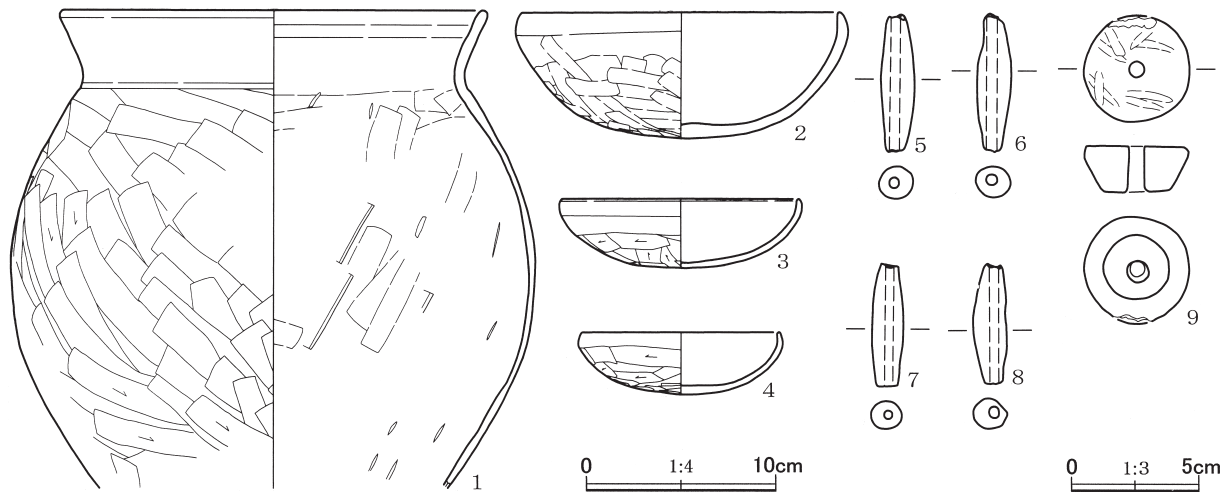
覆土は、暗褐色土を主とする10層で、全体に焼土の混入が目立つようである。第11～15層は、暗褐色土とロームの混合土からなる掘り方の埋土である。凸凹したままの粗掘り面に、暗褐色土とロームの混合土を入れ、床面を造作している。

C地点

第41図1・2の坏2個体は、カマドと貯蔵穴の間の、床面よりやや浮いた高さから、3の坏は、貯蔵穴近くの南壁沿いの下層から出土している。重複関係、確実に伴う遺物から見て、古墳時代後期後葉前半の遺構と考えられる。

第43号住居跡（第44・45図、第17表、図版8・112）

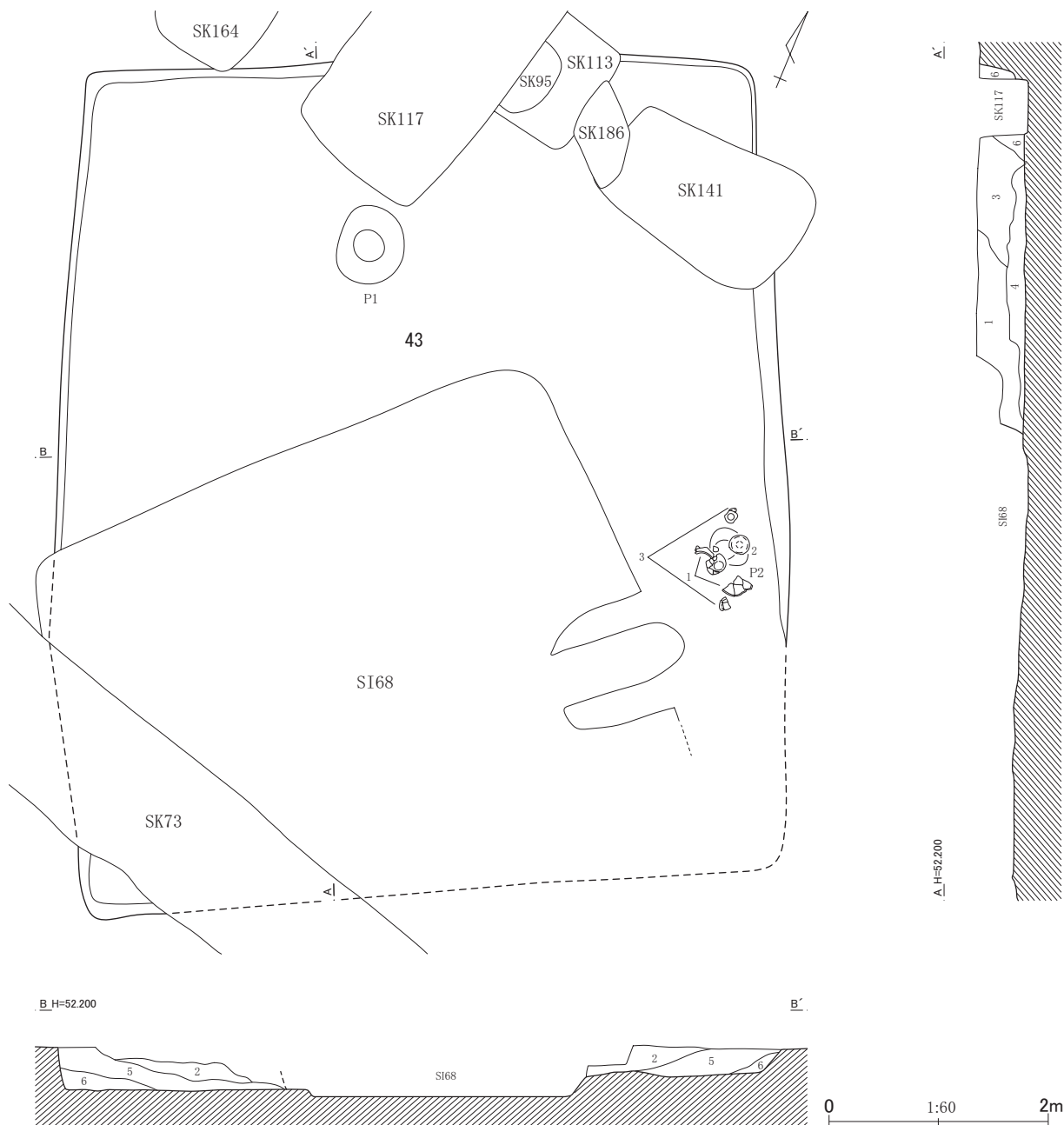
調査地点の南西部の中央西寄り、N11・12、O11グリッドに位置し、E群に含まれる住居跡である。第44・95・96号住居跡を切っており、第68号住居跡、第73・95・113・117・141・164・186号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。また、第37・42号住居跡と重複する。北壁の大半を上記のうち第73号土坑を除く土坑群に、遺構南半を上記の住居跡に壊されているため、カマドなどの諸施設を検出することができなかった。南東隅の極一部が残っていたため、辛うじて平面形や規模を推定することができた。確認面は、黄褐色のローム層上面である。



第44図 第43号住居跡出土遺物

第17表 第43号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 (23.2) 底径 — 器高 [26.4]	口縁部は外反し、胴部との境に段を有する。胴部は中位に最大径をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	赤色粒・白色粒・チャート 内外—橙色	口縁部～胴部下位1/3残存
2	坏	口径 17.6 底径 — 器高 6.9	丸底。体部は彎曲気味に立ち上がり、口縁部は短く内傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ後ナデ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ナデ。	白色粒・角閃石・チャート 内外—橙色	3/4残存
3	坏	口径 13.1 底径 — 器高 3.8	丸底。体部は彎曲気味に立ち上がり、口縁部は短く内傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ナデ。	白色粒・黒色粒・角閃石 内外—橙色	2/3残存
4	坏	口径 10.9 底径 — 器高 3.4	丸底。体部は内彎気味に開き、口縁部は短く内傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ナデ。	白色粒・黒色粒 内外—にぶい褐色	2/3残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
5	土錘	長さ5.7、幅1.4、厚さ1.3、重さ9.84g。	胎土：白色粒。色調：オリーブ黒色。			ほぼ完形
6	土錘	長さ5.7、幅1.4、厚さ1.3、重さ9.00g。	胎土：白色粒・褐色粒・角閃石。色調：にぶい黄橙色。			ほぼ完形
7	土錘	長さ5.0、幅1.3、厚さ1.2、重さ8.17g。	胎土：白色粒。色調：橙色。			ほぼ完形
8	土錘	長さ4.9、幅1.4、厚さ1.2、重さ7.43g。	胎土：白色粒・褐色粒・角閃石。色調：橙色。			ほぼ完形
9	土製紡錘車	上面径4.35、下面径2.7、孔径0.6×0.6、厚さ1.9、重さ38.07g。	胎土：白色粒・角閃石。色調：黄褐色。調整：全面にナデ。			ほぼ完形
10	炭化種子	長さ[2.1]、幅[1.6]、厚さ[0.8]、重さ[0.79]g。	バラ科植物（モモまたはウメ）の種子の破片。			写真のみ



第43号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を多量に含み、焼土粒(～1mm)を少量含む。

第2層：暗褐色土。ローム小塊(～15mm)・焼土粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～30mm)を少量含む。

第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・焼土粒(～5mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。

第4層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を多量に含み、ローム小塊(～20mm)を少量、焼土粒(～5mm)を微量含む。

第5層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を少量、焼土粒(～5mm)を微量含む。

第6層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～20mm)を多量に含み、ローム小塊(～30mm)を中量、焼土粒(～8mm)を少量含む。

第45図 第43号住居跡平面・断面図

以下、北西壁にカマドがあったと想定し、記載する。

平面形は、主軸方向がやや長い長方形になるうか。規模は、主軸方向で最も残りのよい西壁近くで7.70m、副軸方向では6.19mである。主軸方位は、N-24°-Eである。床面は微妙に凸凹しており、

C地点

硬化はあまり顕著ではない。北壁、西壁は比較的急峻に立ち上がるが、東壁はゆるやかに立ち上がる。残りのよい部分での壁高は、北壁が32cm、西壁が38cm、東壁が21cmである。

本住居跡に伴うと思われるピットは、P 1、P 2の2つである。平面形は楕円形で、深さは、P 1が59cm、P 2が47cmである。どちらのピットも用途を特定し兼ねる。

覆土は、6層に分けられた。全体に多少はあれ焼土が含まれるようである。

第45図1の甕、2・3の坏は、残存する南東部分からまとまって出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末期後葉末から奈良時代初頭にかけての遺構と考えられる。

第44号住居跡（第46～49図、第18・19表、図版8・113）

調査地点の南西部のほぼ中央西縁近く、M11、N11・12グリッドに位置し、E群に含まれる住居跡である。第31・43・68号住居跡、第10・52・73・89・128・136・164・182・189号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

残存する部分が乏しいが、平面形は、やや歪な長方形と見ることができる。規模は、主軸方向で8.92m、副軸方向で7.50m、主軸方位はN-50°-Wである。床面には微妙な凹凸が見られるが、支柱穴を結ぶ範囲を中心に硬化している。壁の立ち上がり具合が四壁でやや異なるようである。北西壁、北東壁の壁高は、24cm前後である。

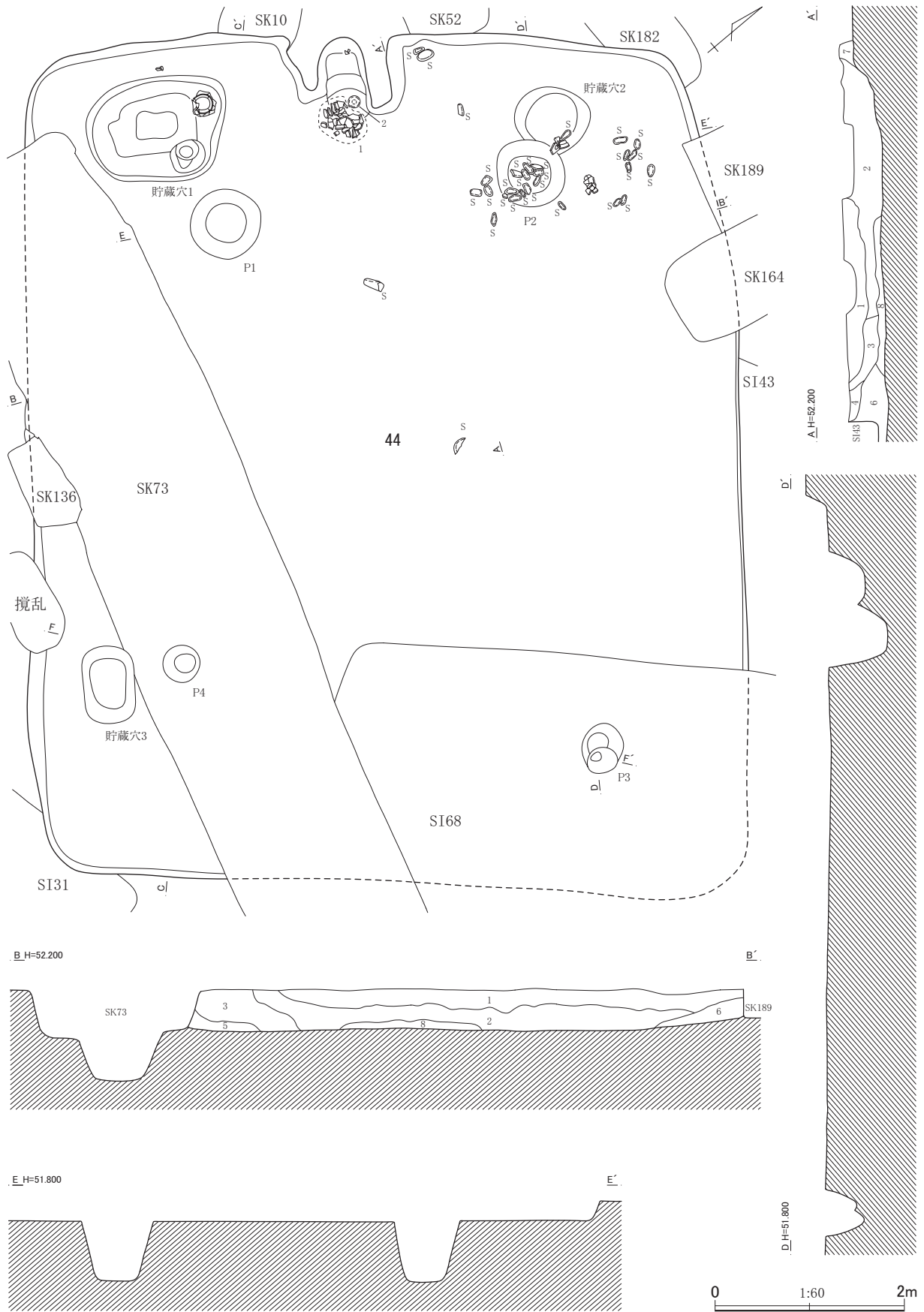
かなり歪な並びとなるが、P 1～P 4を支柱穴と考えたい。平面形は、いずれもやや不整な円形である。深さは、P 1が3cmと浅く、P 2が68cm、P 3が46cm、P 4が48cmである。P 3には、底面が2つあり、段差をなしている。P 5も柱穴の可能性のあるピットである。

位置や形状を勘案して、西隅近く、P 2の北側、南隅近くにある3つのピットないしは土坑を、貯蔵穴と見なし、それぞれ貯蔵穴1、貯蔵穴2、貯蔵穴3と呼称した。貯蔵穴1の平面形は、やや角張った楕円形で、最大径は154cm、東西径は120cmである。中段に平場を有し、不整な底面に向かってすぼまるように掘り込まれている。最深部での深さは68cmである。覆土の第1・4層に焼土、炭化物が含まれることが注意される。貯蔵穴2の平面形は、微妙に歪んだ円形で、径は70～80cmである。底の丸いバケツのような形に掘り込まれており、深さは40cmである。貯蔵穴3の平面形は、南西側、北東側の側壁が直線的な楕円径に近い形態で、長径82cm、短径54cmである。断面形は、貯蔵穴2とよく似ており、深さは38cmである。

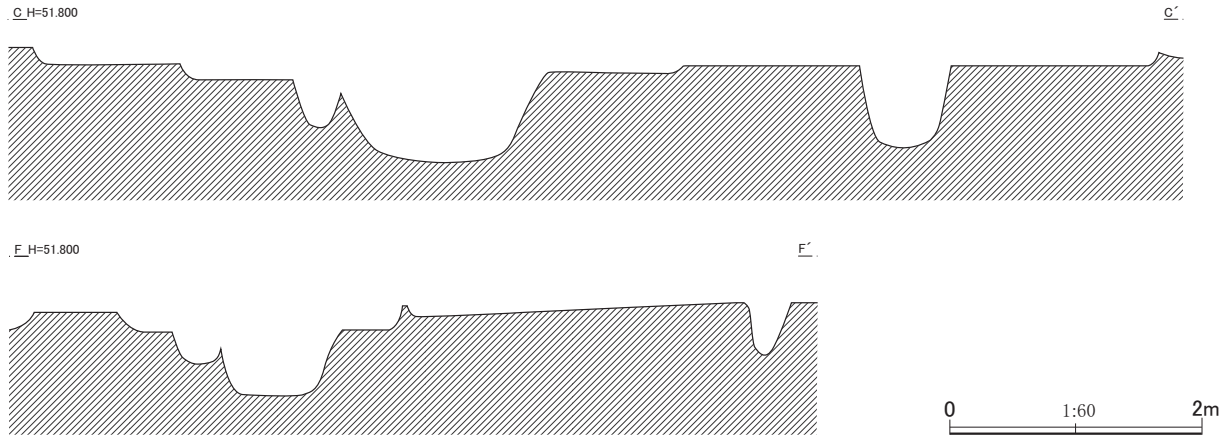
カマドは、北西壁の中央、若干西隅に寄った位置に、微妙に斜行して設けられている。長楕円形の燃焼部を有し、左袖は残存状態が悪く、細く短くなっている。燃焼部の長さは84cm、横幅は52cmである。燃焼面は、浅く掘りくぼめ造作されており、奥壁に向かってかすかな段差をもって、緩斜面をなす。奥壁に近い燃焼面や奥壁、側壁は、被熱赤化している。カマド覆土の第3～5・7・9層は、天井部や側壁の崩落土、あるいは崩落土を含む層と見られる。

覆土は、8層に分けられた。全体に暗褐色土を主とし、ロームを含み、多寡はあれ焼土を含むようである。第4～8層の堆積後、第1～3層が厚く堆積し、埋没したと考えられる。

第49図2の坏は、カマド内から、1の甕は、押しつぶされたような状態でカマドの焚口から出土している。カマド右袖脇からP 2、貯蔵穴2にかけてのほぼ床面直上から、30点近い編物石が所々まとまりをなし出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末期前葉の遺構と考えられる。



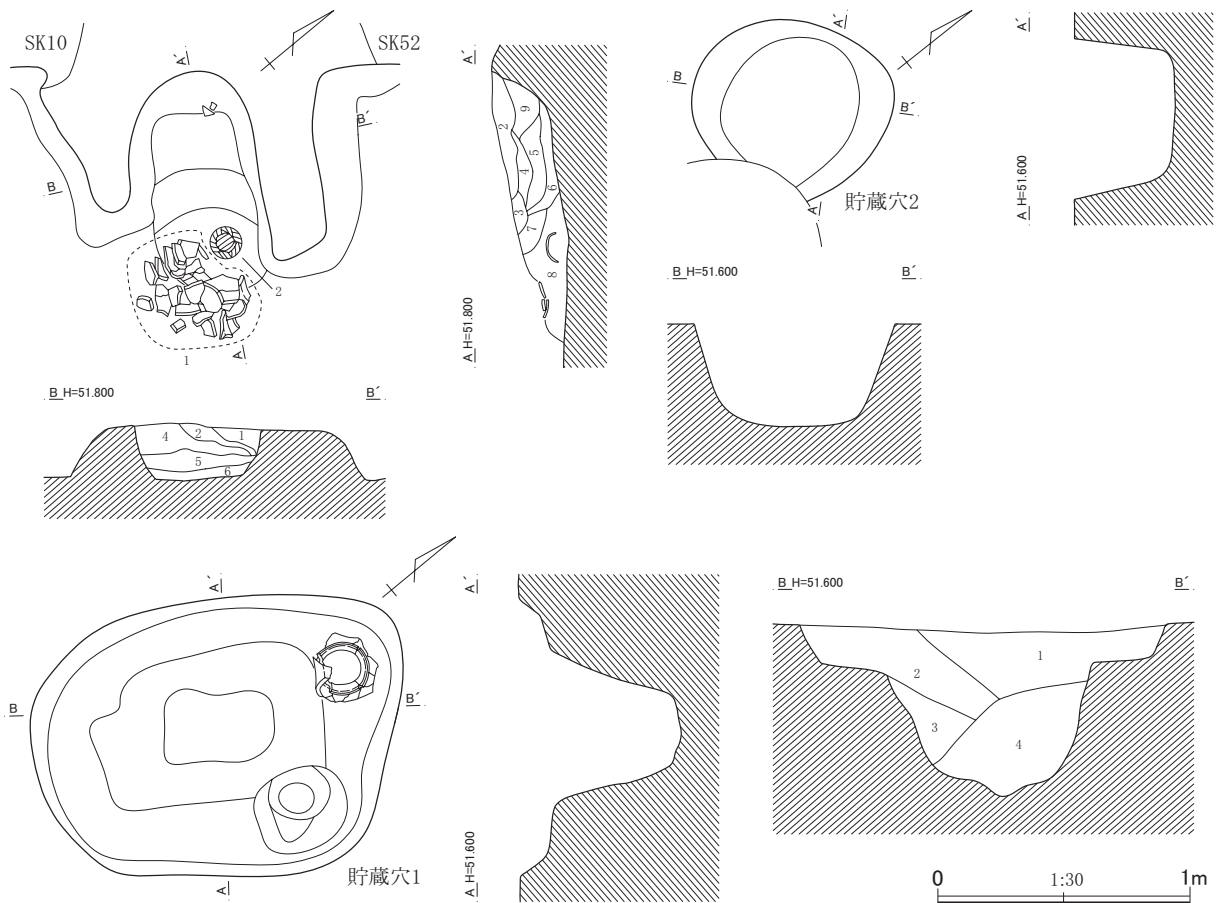
第46図 第44号住居跡平面・断面図（1）



第44号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～10mm)を中量含み、焼土粒(～5mm)を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を多量に含み、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～5mm)を微量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、焼土粒(～5mm)を微量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～5mm)を少量含む。

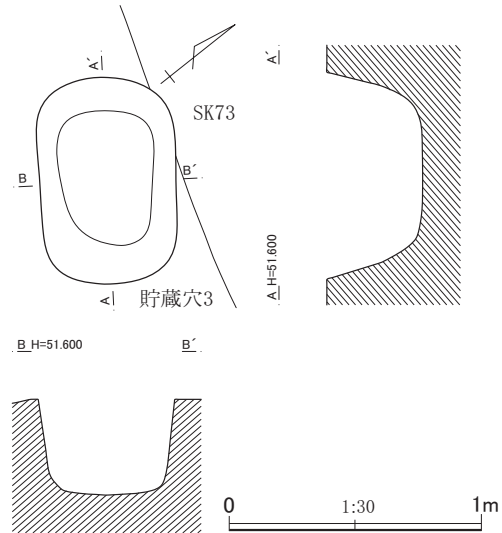
- 第5層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・焼土粒(～5mm)を中量含む。
- 第6層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～50mm)・焼土粒(～5mm)を少量含む。
- 第7層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を多量に含み、粘土小塊(～50mm)・焼土粒(～5mm)を中量、ローム小塊(～20mm)・焼土小塊(～30mm)を少量含む。
- 第8層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を中量、焼土粒(～5mm)を微量含む。



第47図 第44号住居跡平面・断面図(2)

第44号住居跡カマド土層説明

- 第1層：明灰赤褐色土。暗褐色土を主とし、粘土小塊(～20mm)・焼土小塊(～10mm)を中量含み、焼土粒(～4mm)を少量含む。しまりは弱く、粘性は強い。
- 第2層：明灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～0.5mm)・ローム小塊(～10mm)を多量に含み、焼土粒(～2mm)を少量含む。しまりは弱く、粘性は強い。
- 第3層：黄灰褐色土。黄灰褐色粘土を主とし、焼土粒(～4mm)を微量含み、暗褐色土粒子(～2mm)・暗褐色土小塊(～10mm)を少量含む。しまりは弱く、粘性は強い。
- 第4層：黄灰褐色土。黄灰褐色粘土を主とし、焼土小塊(～10mm)・暗褐色土小塊(～10mm)を少量含む。しまりは弱く、粘性は強い。
- 第5層：明赤灰褐色土。黄灰褐色粘土を主とし、焼土小塊(～20mm)・暗褐色土小塊(～20mm)を少量含む。しまりは弱く、粘性は強い。
- 第6層：明灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～0.5mm)を中量含み、ローム粒(～4mm)・粘土粒(～4mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。しまりは弱く、粘性は強い。
- 第7層：黄灰褐色土。黄灰暗褐色粘土を主とし、焼土小塊(～10mm)・暗褐色土小塊(～10mm)を少量含む。しまりは弱く、粘性は強い。
- 第8層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～1mm)・粘土粒(～8mm)・焼土粒(～6mm)を中量含み、炭化物粒(～2mm)・焼土粒(～2mm)を少量含む。しまりは弱く、粘性は強い。
- 第9層：黄灰褐色土。黄灰褐色粘土を主とし、ローム粒(～1mm)・暗褐色土粒子(～0.5mm)を少量含み、焼土粒(～1mm)を微量含む。しまりは弱く、粘性は強い。



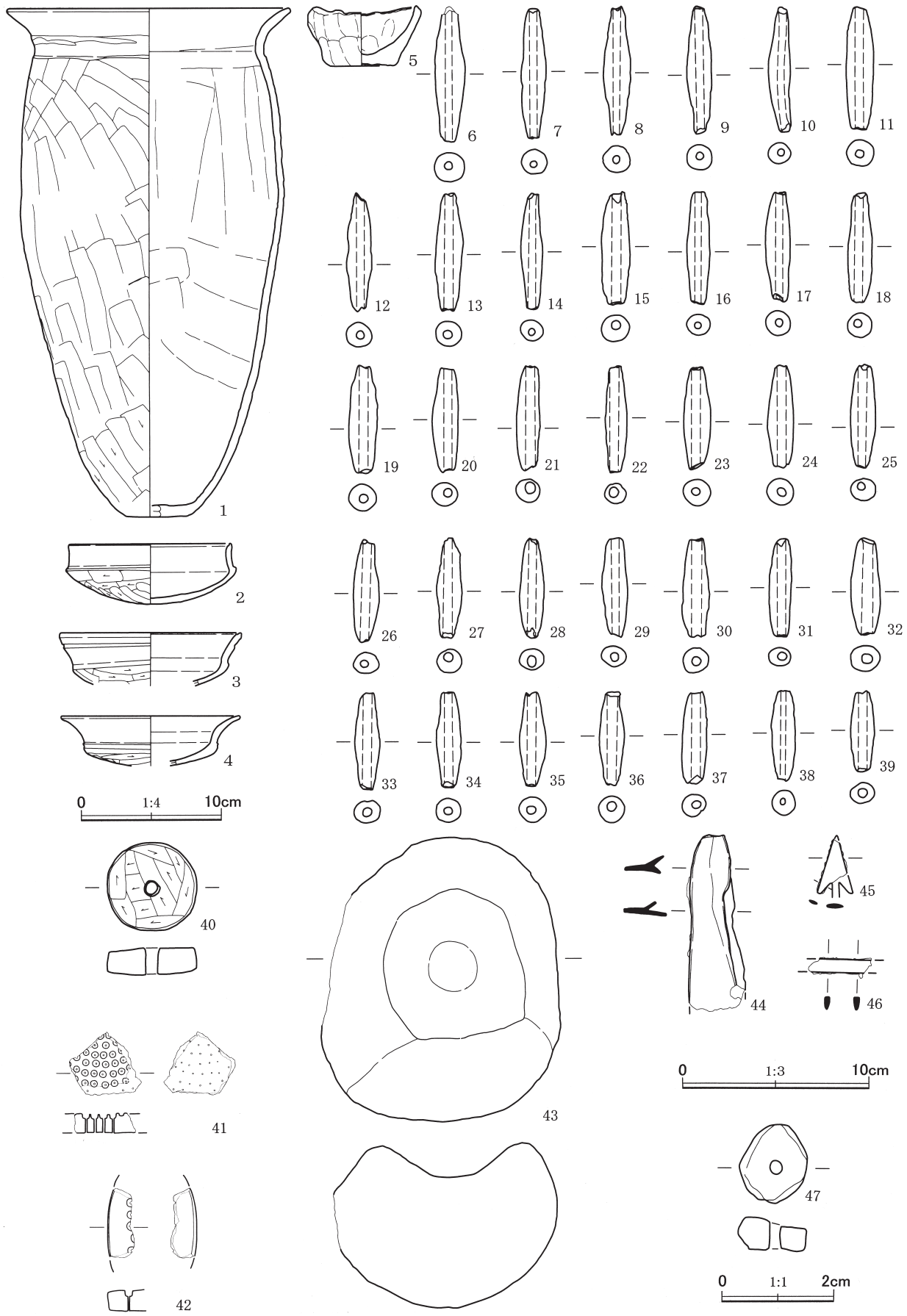
第44号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～8mm)・焼土小塊(～10mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)・炭化物粒(～8mm)を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。粘性は弱い。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。粘性は弱い。
- 第4層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～10mm)を多量に含み、ローム小塊(～40mm)・炭化物粒(～10mm)を中量、焼土小塊(～20mm)を少量含む。粘性は弱い。

第48図 第44号住居跡平面・断面図(3)

第18表 第44号住居跡出土遺物観察表(1)

No.	器種	法量(cm)		胎土・色調	備考	
1	甕	口径 20.9 底径 (4.6) 器高 36.5	口縁部は外反する。胴部は張らず、長胴を呈する。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・角閃石 内外一にぶい橙色	一部欠損
2	坏	口径 11.0 底径 — 器高 4.5	丸底。口縁部は体部との境に稜をもち、内傾する。口唇部は内側に凹線がめぐる。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ。底部ナデ。	白色粒・褐色粒 外一明黄褐色 内一にぶい橙色	完形
3	坏	口径 (13.5) 底径 — 器高 [4.0]	丸底。口縁部は体部との境に稜をもち、外反し段を有する。口唇部は内側に凹線がめぐる。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ。底部ナデ。	白色粒・褐色粒 外一にぶい黄橙色 内一橙色	1/2残存
4	坏	口径 (13.3) 底径 — 器高 [3.7]	丸底。口縁部は体部との境に稜をもち、強く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ。底部ナデ。	白色粒・褐色粒 内外一にぶい褐色	1/2残存
5	手捏ね土器	口径 5.6 底径 3.6 器高 3.3	平底。口縁部にかけて内彎気味に開く。手捏ね成形。	外面一口縁部～胴部ナデ後指頭圧痕。底部ナデ。内面一口縁部～底部ナデ後指頭圧痕。	白色粒・褐色粒 内外一にぶい黄褐色	3/4残存
No.	器種	法量(cm)・特徴			備考	
6	土錘	長さ[7.6]、幅1.7、厚さ1.6、重さ[18.19]g。胎土：白色粒・チャート・雲母。色調：にぶい赤褐色。			一部欠損	
7	土錘	長さ7.3、幅1.4、厚さ1.4、重さ11.06g。胎土：白色粒・角閃石。色調：にぶい黄色。			完形	
8	土錘	長さ7.2、幅1.5、厚さ1.5、重さ11.35g。胎土：白色粒・角閃石。色調：橙色。			完形	
9	土錘	長さ7.2、幅1.4、厚さ1.4、重さ10.92g。胎土：白色粒・雲母。色調：橙色。			完形	
10	土錘	長さ7.0、幅1.3、厚さ1.2、重さ8.63g。胎土：白色粒・角閃石。色調：にぶい褐色。			ほぼ完形	



第49图 第44号住居跡出土遺物

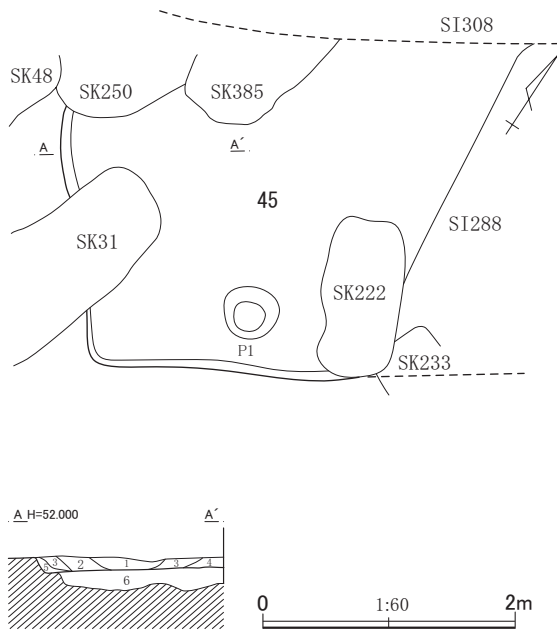
第19表 第44号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
11	土錘	長さ6.9、幅1.6、厚さ1.5、重さ15.83g。胎土：白色粒。色調：にぶい褐色。	ほぼ完形
12	土錘	長さ6.7、幅1.4、厚さ1.4、重さ10.18g。胎土：白色粒・雲母。色調：橙色。	ほぼ完形
13	土錘	長さ6.6、幅1.5、厚さ1.4、重さ11.28g。胎土：白色粒・角閃石・雲母。色調：オリーブ黒色。	完形
14	土錘	長さ6.5、幅1.3、厚さ1.2、重さ7.66g。胎土：白色粒・赤褐色粒。色調：褐色。	ほぼ完形
15	土錘	長さ6.4、幅1.6、厚さ1.5、重さ14.34g。胎土：白色粒。色調：にぶい赤褐色。	ほぼ完形
16	土錘	長さ6.3、幅1.3、厚さ1.2、重さ8.85g。胎土：白色粒・赤褐色粒。色調：橙色。	完形
17	土錘	長さ6.2、幅1.4、厚さ1.4、重さ11.05g。胎土：白色粒。色調：にぶい黄橙色。	ほぼ完形
18	土錘	長さ6.1、幅1.4、厚さ1.4、重さ10.08g。胎土：白色粒。色調：橙色。	ほぼ完形
19	土錘	長さ6.1、幅1.6、厚さ1.5、重さ13.16g。胎土：白色粒。色調：暗灰色。	ほぼ完形
20	土錘	長さ5.9、幅1.5、厚さ1.3、重さ10.28g。胎土：白色粒・角閃石。色調：にぶい黄橙色。	完形
21	土錘	長さ5.9、幅1.4、厚さ1.3、重さ9.14g。胎土：白色粒。色調：橙色。	ほぼ完形
22	土錘	長さ5.9、幅1.2、厚さ1.2、重さ7.00g。胎土：白色粒・角閃石。色調：灰黄褐色。	完形
23	土錘	長さ5.8、幅1.5、厚さ1.5、重さ10.85g。胎土：白色粒。色調：浅黄色。	完形
24	土錘	長さ5.8、幅1.5、厚さ1.5、重さ[10.45]g。胎土：白色粒・角閃石。色調：にぶい黄橙色。	一部欠損
25	土錘	長さ5.8、幅1.4、厚さ1.3、重さ9.52g。胎土：白色粒。色調：にぶい橙色。	ほぼ完形
26	土錘	長さ5.7、幅1.5、厚さ1.2、重さ9.00g。胎土：白色粒。色調：橙色。	ほぼ完形
27	土錘	長さ5.6、幅1.4、厚さ1.3、重さ7.88g。胎土：白色粒・角閃石。色調：にぶい橙色。	ほぼ完形
28	土錘	長さ5.6、幅1.4、厚さ1.2、重さ8.30g。胎土：白色粒・赤色粒・角閃石。色調：にぶい褐色。	ほぼ完形
29	土錘	長さ5.6、幅1.4、厚さ1.2、重さ8.31g。胎土：白色粒。色調：にぶい黄橙色。	完形
30	土錘	長さ5.5、幅1.4、厚さ1.4、重さ10.42g。胎土：白色粒・赤褐色粒。色調：にぶい褐色。	ほぼ完形
31	土錘	長さ5.5、幅1.3、厚さ1.0、重さ6.64g。胎土：白色粒。色調：橙色。	ほぼ完形
32	土錘	長さ5.4、幅1.6、厚さ1.5、重さ12.48g。胎土：白色粒・赤褐色粒。色調：にぶい黄橙色。	ほぼ完形
33	土錘	長さ5.4、幅1.4、厚さ1.3、重さ7.79g。胎土：白色粒・赤褐色粒。色調：にぶい橙色。	ほぼ完形
34	土錘	長さ5.4、幅1.4、厚さ1.4、重さ9.42g。胎土：白色粒・角閃石。色調：にぶい赤褐色。	ほぼ完形
35	土錘	長さ5.3、幅1.5、厚さ1.4、重さ8.58g。胎土：白色粒・角閃石。色調：灰黄褐色。	ほぼ完形
36	土錘	長さ5.3、幅1.5、厚さ1.4、重さ7.86g。胎土：白色粒・雲母。色調：黒褐色。	完形
37	土錘	長さ5.2、幅1.4、厚さ1.3、重さ9.26g。胎土：白色粒・角閃石。色調：にぶい褐色。	完形
38	土錘	長さ5.1、幅1.4、厚さ1.4、重さ8.92g。胎土：白色粒。色調：にぶい褐色。	完形
39	土錘	長さ4.6、幅1.4、厚さ1.2、重さ6.46g。胎土：白色粒。色調：にぶい褐色。	完形
40	土製紡錘車	上面径4.75、下面径5.0、孔径0.7×0.65、厚さ1.5、重さ46.42g。胎土：白色粒・角閃石。色調：にぶい黄褐色。調整：全面にケズリ、一部ナデ。	ほぼ完形
41	ガラス小玉 鑄型	第948図1、第427表参照。	No.1
42	ガラス小玉 鑄型	第948図2、第427表参照。	No.2
43	凹み石	長さ16.0、幅13.5、厚さ9.3、重さ1516.44g。石材：角閃石安山岩。	ほぼ完形
44	鉄製品 鋤鍬先	長さ[9.8]、幅3.3、厚さ0.5、重さ[35.61]g。	破片
45	鉄鍬	長さ[3.0]、幅(1.6)、厚さ0.2、重さ[2.44]g。	基部・先端部を欠損
46	鉄製品 刀子	長さ[3.6]、幅1.2、厚さ0.3、重さ[2.88]g。	破片
47	石製品 白玉	長さ1.5、幅1.2、厚さ0.6、孔径0.25×0.2、重さ1.56g。表裏面に丁寧な研磨。中央に穿孔1箇所。石材：滑石。	完形

第45号住居跡(第50図、図版9)

調査地点の北西部の南西端近く、N9グリッドに位置し、E群に含まれる住居跡である。第31・222・250・385号土坑に切れ、遺構の一部を壊されている。第288・308号住居跡と重複し、本住居跡の方が床面の標高値が高いが、第288・308号住居跡の範囲まで、本住居跡の床面が延伸するかどうか確認することができず、よって新旧関係を把握するに至らなかった。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

規模は、いずれも辺長、壁長になるが、南西壁の長さは2.05m、南東壁の長さは2.10mである。残存する床面の北半は、軽微ながらも硬化しているようである。覆土がわずかに残るのみであり、南西壁での壁高は、12cmである。P1は、柱穴の可能性のあるピットである。平面形は、やや不整な円形



第45号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)・炭化物粒(～5mm)・焼土粒(～5mm)を少量含む。ややしまっており、粘性は弱い。

第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み。ややしまっており、粘性は弱い。

第3層：暗褐色土。ローム粒(～3mm)を少量含む。ややしまっており、粘性は弱い。

第4層：暗褐色土。ローム粒(～3mm)を少量含む。ややしまっており、粘性は弱い。

第5層：暗褐色土。ローム粒(～3mm)を中量含み、焼土粒(～5mm)を少量、ローム小塊(～10mm)・炭化物粒(～5mm)を微量含む。ややしまっており、粘性は弱い。

〈掘り方埋土〉

第6層：黄褐色土。ローム土を主とし、暗褐色土小塊(～20mm)・暗褐色土小塊(～40mm)を中量含む。ややしまっており、粘性は弱い。

第50図 第45号住居跡平面・断面図

で、径42cm、深さは22cmである。

覆土は、ロームを含む暗褐色土を主とする5層に分けられた。第6層は、暗褐色土とロームの混合土の掘り方の埋土である。

土師器片を主とする遺物が少量出土している。覆土や出土遺物から見て、古墳時代の遺構と考えられる。

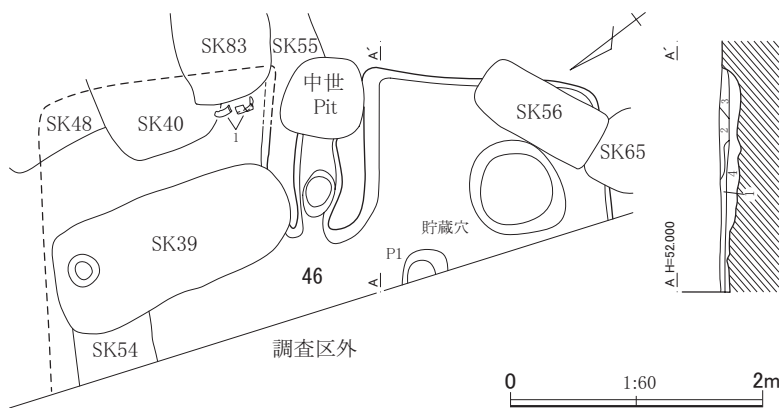
第46号住居跡 (第51・52図、第20表、図版9・113)

調査地点の北西部の南西端、N9グリッドに位置し、E群に含まれる住居跡である。第39・40・48・54～56・65・83号土坑、あるいは中世のピットに切られ、土坑の集中する北側では、床面や壁を検出することができなかった。また、遺構の西側の大部分が調査範囲外である。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

規模は、主軸方向の現存値で1.94m、副軸方向での推定値で4.5m前後となる。主軸方位も推定でS-56°-Eあたりになりそうである。床面は、部分的に硬化しているようである。奥壁側の壁高は、7cmほどである。

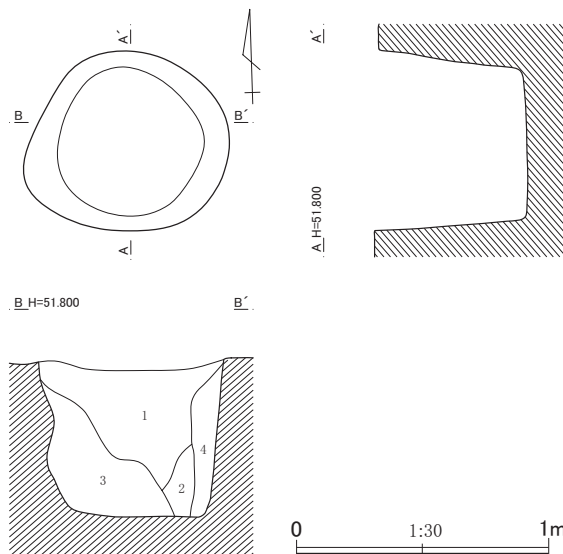
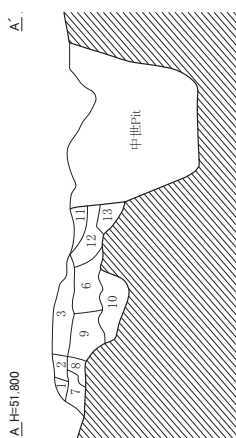
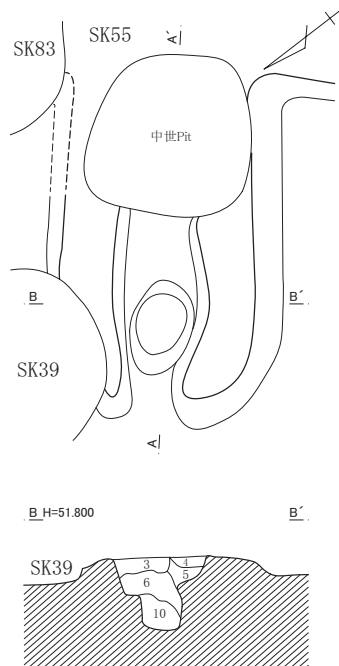
P1は、支柱穴の可能性のあるピットである。平面形は、円形あるいは楕円形になろうか。深さは54cmである。南隅に近くピットは、貯蔵穴であろう。平面形はやや不整な円形で、バケツ状に掘り込まれている。深さは58cmである。

カマドは、南東壁に設けられている。燃焼部の奥壁側を、時期の新しいピットに壊されており、左袖先端付近を、第39号土坑により壊されている。細長い両袖に挟まれた長楕円形の燃焼部が残存する。焚口近くにピット状の掘り込みが見られる。燃焼面は、浅く掘りくぼめ作出されており、焚口近くにピット状の掘り込みが見られる。燃焼部の長さは現存値で84cm、最も幅広の部分での横幅は、38cmである。右側の側壁が局所的に赤化している以外は、被熱赤化は顕著ではない。カマド覆土の第2・4・



第46号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を多量に含み、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～5mm)を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～5mm)を微量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含む。
- 〈掘り方埋土〉
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～50mm)を多量に含む。



第46号住居跡カマド土層説明

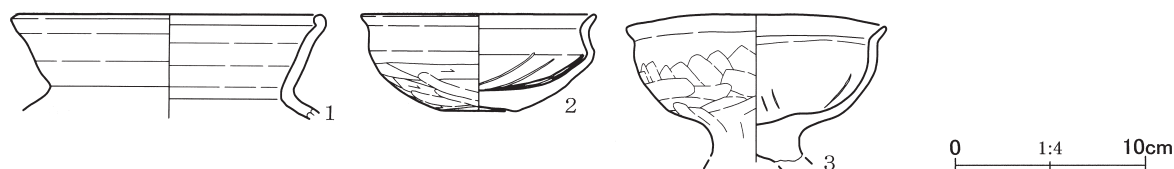
- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、焼土粒(～3mm)を微量含む。
- 第2層：白色粘土。白色粘土・焼土を多量に含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～10mm)を微量含み、焼土粒(～3mm)を少量含む。
- 第4層：灰白色粘土。灰白色粘土小塊を主とする。
- 第5層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～50mm)を少量含み、焼土粒(～5mm)を微量含む。
- 第6層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～10mm)を中量含み、焼土粒(～5mm)を微量含む。
- 第7層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を多量に含み、焼土粒(～3mm)を少量含み、炭化物粒(～5mm)を微量含む。
- 第8層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・焼土粒(～3mm)を微量含む。
- 第9層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)を多量に含む。

- 第10層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を少量、焼土粒(～5mm)を微量含む。
- 第11層：暗褐色土。灰白色粘土小塊(～50mm)を中量含み、ローム粒(～5mm)を少量、焼土粒(～5mm)を微量含む。
- 第12層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～50mm)を多量に、焼土粒(～5mm)を微量含む。
- 第13層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～50mm)を少量含む。

第46号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を多量に含み、ローム小塊(～10mm)・粘土小塊(～10mm)・焼土粒(～5mm)を少量含み、炭化物粒(～5mm)を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・粘土小塊(～10mm)を微量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、粘土小塊(～10mm)を少量含む。

第51図 第46号住居跡平面・断面図



第52図 第46号住居跡出土遺物

第20表 第46号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 16.6 底径 — 器高 [5.3]	口縁部は外反し、口唇部は短く内屈する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。内面—口縁部ヨコナデ。	白色粒・赤褐色粒・角閃石 内外—にぶい橙色	胴部～底部欠損
2	鉢	口径 12.8 底径 4.1 器高 5.3	平底。口縁部は内彎気味に立ち上がり、端部で外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ後ナデ。底部ナデ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部放射状暗文。	白色粒・雲母 内外—にぶい橙色	一部欠損
3	脚付鉢	口径 (14.3) 底径 — 器高 [8.1]	坏部は丸みをもち、口縁部は短く外傾する。全体的に器形が歪む。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。坏部ヘラナデ。内面—口縁部～坏部ヨコナデ。底部ナデ。	白色粒・角閃石 内外—明赤褐色	坏部1/2残存 脚部欠損

11・12層は、天井部や側壁の崩落土、あるいは崩落土を含む層であろう。

覆土は、暗褐色土を主とする3層である。第4層は、暗褐色土とロームの混合土の掘り方埋土である。

カマド左袖脇から第52図1の甕が出土している。一応同図2・3の鉢、脚付鉢から見て、古墳時代中期末葉の遺構と考えておきたい。

第47号住居跡（第53～56図、第21～23表、図版9・113・114）

調査地点の南西部半の中央南縁寄り、N12・13、O12・13グリッドに位置し、E群に含まれる住居跡である。第54・58・67・73・76・77・82・87・140号住居跡を切って造られている。第54号住居跡との重複関係は、土層断面によってのみ確認できたため、北東辺については破線で示した。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、南西壁側が若干幅広の方形に近い形態である。規模は、主軸方向で5.16m、副軸方向で5.31m、主軸方位はN-44°-Eである。床面には細かな凹凸が目立つが、全体に軽微ながらも硬化している。残存する壁はかなり急峻に立ち上がり、壁高は、北東壁、南東壁で23～24cm、南西壁で35cmである。なお、北西壁に関しては、土層断面で確認し得たのみである。

P1～P4は、支柱穴と思われるピットである。平面形は、やや不整な円形、楕円形で、深さは、P1が33cm、P2が31cm、P3が31cm、P4が31cmである。カマドの右脇、東隅に接するピットは、貯蔵穴であろうか。この東隅に接する部分は、カマドの右袖から連なるように一段高く地山が掘り残されており、そこに貯蔵穴と思われるピットが掘られている。貯蔵穴の上端での平面形は、台形状で、丸みのある方形の底面に向かって緩やかな傾斜をもって掘り込まれている。底面は、床面より若干高い。北東-南西方向での大きさは52cm、最深部での深さは15cmである。

カマドは、北東壁の東隅脇の位置に、微妙に斜行して設けられている。楕円形に近い平面形の燃焼部を有する形態である。燃焼面は、浅く掘りくぼめ造作されている。燃焼面と奥壁が極々局所的に赤



第47号住居跡土層説明(1)

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～8mm)を中量含み、ローム小塊(～15mm)・炭化物粒(～2mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。

- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・焼土粒(～2mm)を少量含み、ローム小塊(～20mm)を微量含む。
- 第5層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・粘土粒(～8mm)・焼土粒(～4mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。
- 第6層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を少量含み、ローム小塊(～40mm)・焼土粒(～4mm)を微量含む。

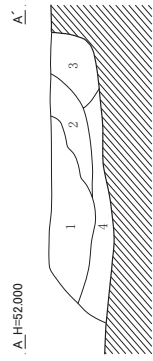
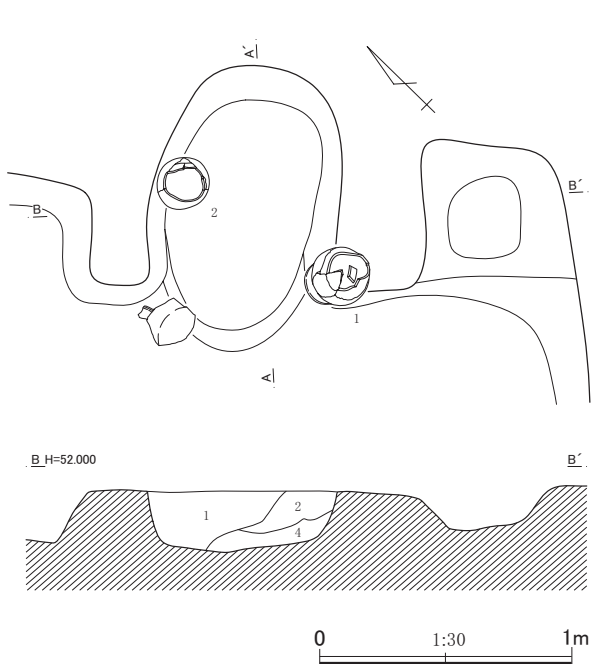
第53図 第47号住居跡平面・断面図(1)

C地点

第47号住居跡土層説明(2)

- 第7層：暗褐色土。ローム粒(～6mm)を中量含み、ローム小塊(～15mm)・粘土粒(～2mm)・焼土粒(～5mm)を少量、粘土小塊(～10mm)を微量含む。粘性はやや強い。
- 第8層：暗褐色土。ローム粒(～8mm)を少量含む。
- 第9層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～5mm)を微量含む。

- (掘り方埋土)
- 第10層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～30mm)を多量に含む。
- 第11層：明褐色土。ローム小塊を主とし、暗褐色土粒子(～0.5mm)を少量含み、暗褐色土小塊(～10mm)を中量含む。



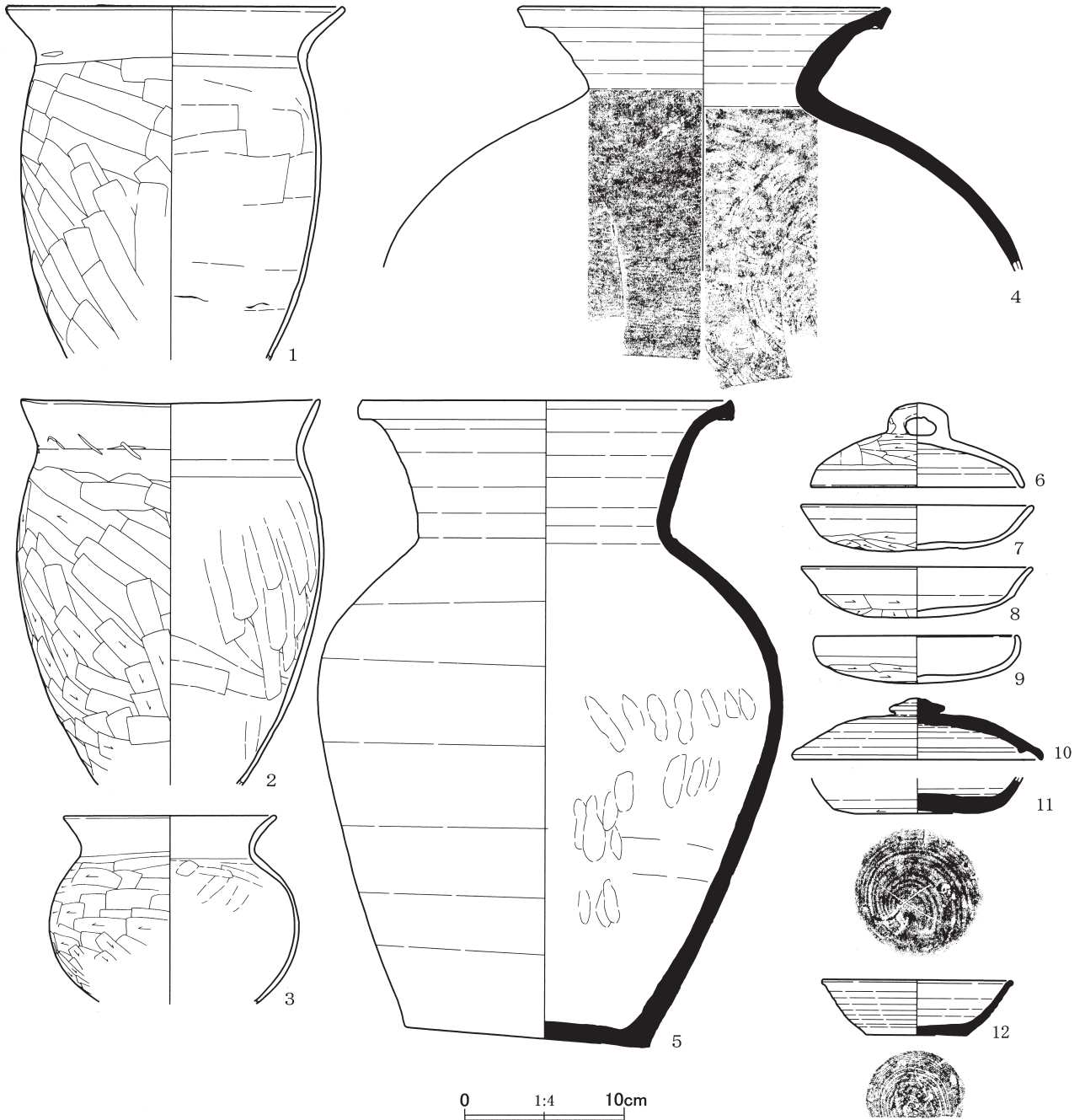
第47号住居跡カマド土層説明

- 第1層：明灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～2mm)・粘土小塊(～20mm)を多量に含み、焼土粒(～4mm)を中量含む。粘性は強い。
- 第2層：明灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～2mm)・粘土小塊(～20mm)を多量に含み、暗褐色土粒子(～2mm)・暗褐色土小塊(～10mm)・焼土小塊(～10mm)を中量含み、焼土粒(～2mm)を少量含む。粘性は強い。
- 第3層：明灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～8mm)・焼土粒(～1mm)を中量含み、粘土小塊(～10mm)を少量含む。
- 第4層：明灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～1mm)・焼土粒(～2mm)を少量含み、粘土粒(～8mm)を中量含む。
- 第5層：明灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～0.5mm)を中量含み、粘土粒(～2mm)を少量含む。粘性は強い。

第54図 第47号住居跡平面・断面図(2)

第21表 第47号住居跡出土遺物観察表(1)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 21.8 底径 — 器高 [23.1]	口縁部は外反する。胴部は上～中位にわずかな膨らみをもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・赤褐色粒・雲母 内外—にぶい橙色	口縁部～胴部 2/3残存 底部欠損
2	甕	口径 19.4 底径 — 器高 [25.2]	口縁部は外反する。胴部は上～中位にわずかな膨らみをもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・赤褐色粒・雲母 内外—橙色	口縁部の一 部・底部欠損
3	小型甕	口径 13.6 底径 — 器高 [12.3]	口縁部は外反する。胴部は中位に最大径をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。	白色粒・角閃石 外—橙色 内—にぶい橙色	口縁部～胴部 1/3残存 底部欠損
4	須恵器甕	口径 (23.7) 底径 — 器高 [17.1]	口縁部は外反する。口縁端部は縁帯部をもつ。胴部は大きく張り出す。ロクロ成形後、タタキ成形。	外面—口縁部ロクロナデ。胴部タタキ後ロクロナデ。内面—口縁部ロクロナデ。胴部同心円の当て具痕、ナデ。	白色粒 内外—褐灰色	口縁部～胴部 上半1/4残存 還元焰焼成
5	須恵器壺	口径 24.1 底径 (16.0) 器高 39.9	口縁部は外反する。口縁端部は縁帯部をもつ。胴部は上位に最大径をもつ。ロクロ成形。	外面—ロクロナデ。内面—口縁部ロクロナデ。胴部指頭痕後ナデ。	白色粒 内外—褐灰色	3/4残存 還元焰焼成
6	蓋	口径 (13.8) 底径 — 器高 5.5	天井部はわずかに膨らみをもち、口縁部は外傾する。橋状の摘み。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。天井部ヘラケズリ。摘みナデ。内面—口縁部ヨコナデ。天井部ナデ。	白色粒・角閃石 外—にぶい赤褐色 内—黒色	1/2残存
7	坏	口径 15.0 底径 — 器高 3.1	丸底。浅い体部から、口縁部は外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ナデ。	白色粒・雲母 内外—にぶい橙色	一部欠損
8	坏	口径 15.0 底径 — 器高 3.3	丸底。浅い体部から、口縁部は外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ナデ。	白色粒・角閃石・雲母 内外—橙色	一部欠損



0 1:4 10cm

0 1:3 10cm

第55图 第47号住居跡出土遺物 (1)

C地点

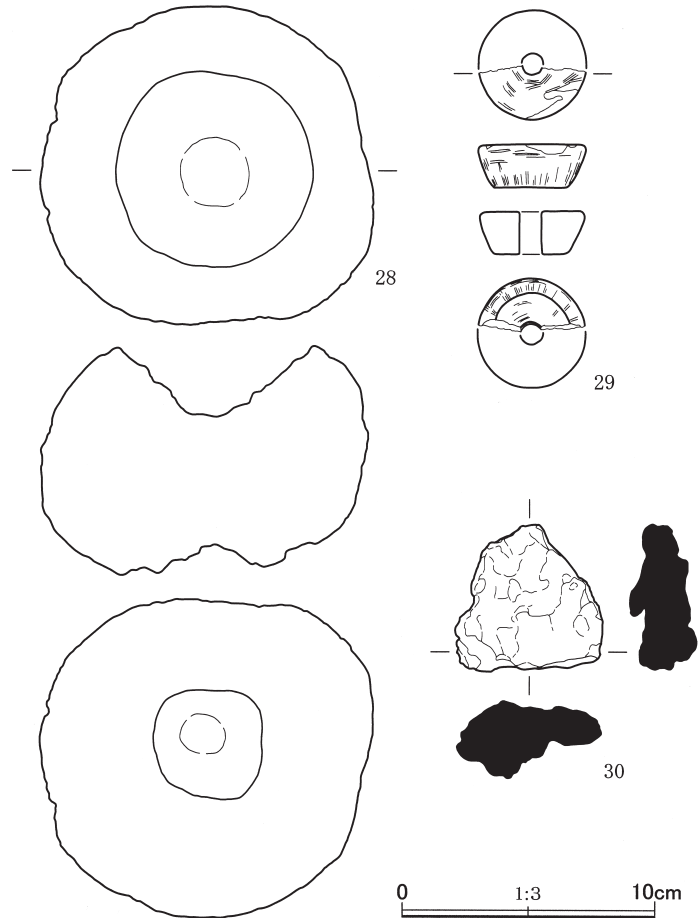
化している以外は、被熱赤化の痕跡はほとんど見られない。燃焼部の長さは113cm、横幅は76cmである。

覆土は、9層に分けられた。壁などの崩落土や流入土からなる第4～9層土が堆積した後、第1～3層により最終的に埋まった模様である。第10・11層は、掘り方の埋土である。凹凸がそのまま残る粗掘り面のまま、暗褐色土とロームの混合土で埋めている。

第55図1の甕はカマド右袖先端部に接して、2の甕はカマド内から出土した。1の甕は、右袖の袖甕の可能性もあるかと思われる。3の小型甕、7～9の坏は、中央から南西壁側にかけての、主に覆土上・中層から出土している。4・5の須恵器の甕、壺は、覆土上・中層から分散して出土した破片が接合したものである。

なお、北隅寄りの北東壁脇の位置の覆土中層から、馬歯が本来の並びを保った

状態で出土している。5の須恵器壺、12の須恵器坏など時期の新しい土器が含まれるが、重複関係およびカマドに伴う土器から見て、奈良時代前半の遺構と考えてよいであろう。



第56図 第47号住居跡出土遺物(2)

第22表 第47号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
9	坏	口径 13.1 底径 — 器高 3.1	丸底。体部はゆるやかに開く。口縁部は短く内彎する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ナデ。	白色粒・角閃石・雲母 内外—橙色	一部欠損
10	須恵器蓋	口径 (16.2) 底径 — 器高 4.0	平坦な天井部から内彎気味に下がり、返りをもつ。摘みは擬宝珠形。ロクロ成形。	外面—ロクロナデ。天井部回転ヘラケズリ。内面—ロクロナデ。	白色粒 外—灰白色 内—灰色	1/4残存 還元焰焼成
11	須恵器坏	口径 — 底径 8.1 器高 [2.3]	平底。体部は内彎気味に立ち上がる。ロクロ成形。	外面—ロクロナデ。体部下端回転ヘラケズリ。底部右回転糸切り後「X」状の線刻。内面—ロクロナデ。	白色粒・白色針状粒 内外—灰色	底部のみ残存 還元焰焼成
12	須恵器坏	脚高 [7.5] 幅 3.2 厚さ 2.8	平底。体部は膨らみをもって立ち上がり、口縁部は短く外反する。ロクロ成形。	外面—ヘラナデ?。	白色粒 外—灰白色 内—灰色	1/4残存 還元焰焼成
13	脚付土器 脚部片	脚高 [7.5] 幅 3.2 厚さ 2.8	丸棒状で、脚端にかけてわずかにすぼまる。	外面—ヘラナデ?。	白色粒 外—明赤褐色	脚部の一部のみ残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
14	土錘	長さ6.7、幅1.5、厚さ1.4、重さ11.70g。胎土：白色粒・角閃石。色調：橙色。				ほぼ完形
15	土錘	長さ6.7、幅1.3、厚さ1.0、重さ[9.34]g。胎土：白色粒・角閃石。色調：橙色。				一部欠損
16	土錘	長さ6.1、幅1.5、厚さ1.5、重さ[10.48]g。胎土：白色粒・角閃石。色調：にぶい黄橙色。				一部欠損
17	土錘	長さ6.0、幅1.5、厚さ1.3、重さ[10.52]g。胎土：白色粒。色調：橙色。				一部欠損
18	土錘	長さ5.9、幅1.3、厚さ1.3、重さ9.45g。胎土：白色粒・赤褐色粒。色調：にぶい黄橙色。				ほぼ完形

第23表 第47号住居跡出土遺物観察表(3)

No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
19	土錘	長さ6.0、幅1.2、厚さ1.2、重さ8.02g。胎土：白色粒。色調：明赤褐色。	ほぼ完形
20	土錘	長さ5.9、幅1.3、厚さ1.3、重さ8.17g。胎土：白色粒・赤褐色粒。色調：明赤褐色。	完形
21	土錘	長さ5.8、幅1.4、厚さ1.4、重さ9.85g。胎土：白色粒・角閃石。色調：にぶい黄褐色。	ほぼ完形
22	土錘	長さ5.6、幅1.7、厚さ1.4、重さ[10.72]g。胎土：白色粒・角閃石。色調：にぶい黄褐色。	一部欠損
23	土錘	長さ5.1、幅1.5、厚さ1.3、重さ10.40g。胎土：白色粒。色調：明赤褐色。	ほぼ完形
24	土錘	長さ5.1、幅1.1、厚さ1.0、重さ4.95g。胎土：白色粒。色調：にぶい橙色。	ほぼ完形
25	土錘	長さ5.0、幅1.1、厚さ1.1、重さ6.39g。胎土：白色粒・赤褐色粒。色調：明赤褐色。	完形
26	土錘	長さ4.3、幅1.2、厚さ1.0、重さ[5.27]g。胎土：白色粒・赤褐色粒・角閃石。色調：灰黄褐色。	一部欠損
27	棒状土製品	第968図1、第437表参照。	No.1
28	凹み石	長さ13.1、幅13.7、厚さ9.4、重さ1207.04g。石材：角閃石安山岩。	ほぼ完形
29	石製紡錘車	上面径(4.45)、下面径(3.0)、孔径(0.8×0.8)、厚さ1.7、重さ[25.80]g。石材：粘板岩。調整：全面に丁寧な研磨。	1/2残存
30	鉄滓	長さ6.1、幅6.1、厚さ3.2、重さ133.92g。	破片

第48号住居跡（第57～60図、第24・25表、図版10・115・116）

調査地点の南西部の中央寄り、P11・12グリッドに位置し、E群に含まれる住居跡である。第51・52・80・89・119号住居跡を切っており、第312号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。また、第69号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

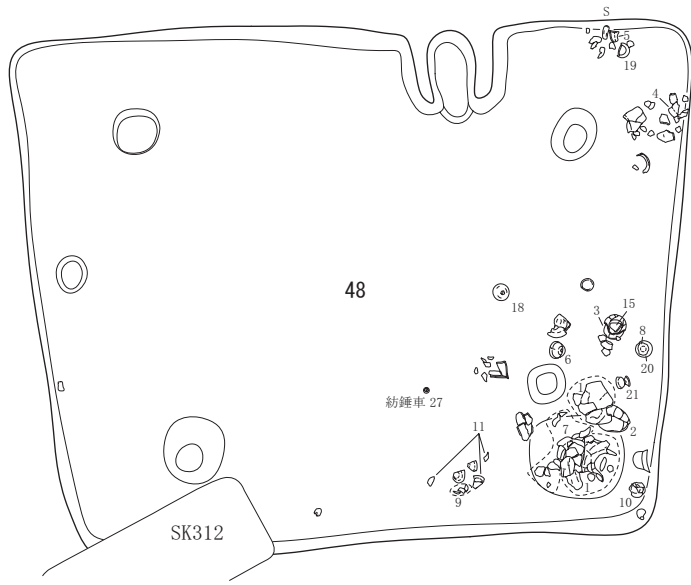
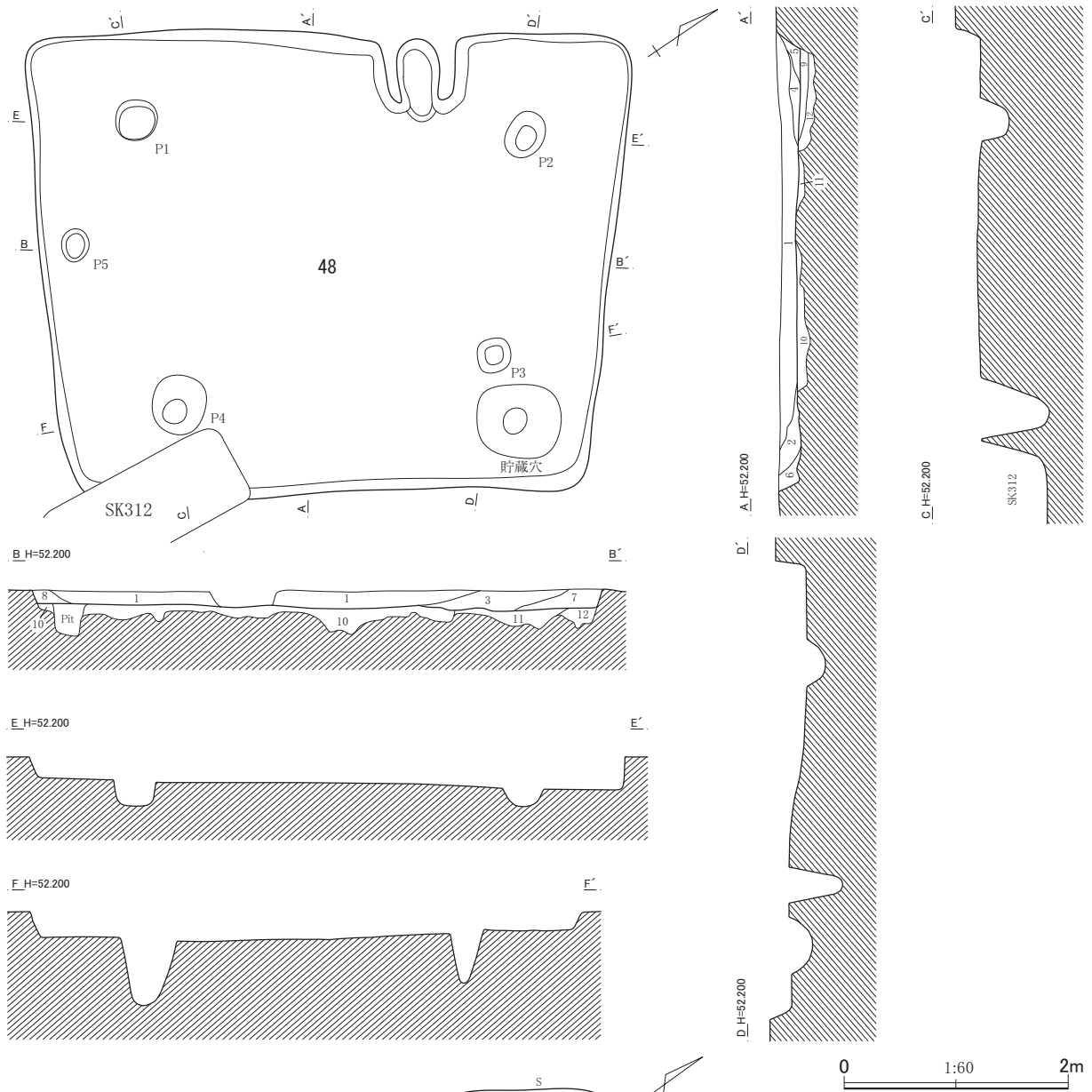
平面形は、南東壁側が狭い横長の台形と見ることができる。規模は、主軸方向で4.08m、副軸方向で5.10m、主軸方位はN-58°-Wである。床面はほぼ平坦で、カマドの前面、支柱穴を結ぶ範囲から南西壁までは、顕著に硬化している。四壁ともに立ち上がりは急で、やや浅い南西壁以外の壁高は16～21cmである。

P1～P4は支柱穴であろう。平面形は、やや不整な円形、楕円形で、深さは、P1が22cm、P2が17cm、P3が45cm、P4が60cmである。P5は、南西壁脇のほぼ中央で検出したピットである。平面形は楕円形で、側壁は垂直に近く掘り込まれている。深さは24cmである。東壁近くのピットは、貯蔵穴であろう。平面形は、微妙に方形みを帯びた楕円形である。断面形は、狭い底面に向かって先細りとなる形態である。長径75cm、短径66cm、深さは51cmである。

カマドは、北西壁の中央、若干北隅に寄った位置に設けられている。細長い袖に挟まれた長楕円形の燃焼部が残存する。燃焼部の長さは74cm、横幅は37cmである。燃焼面は、浅く掘りくぼめ造作されている。全体に赤化は顕著ではないが、燃焼面から奥壁にかけて、被熱し硬くなっているようである。カマド覆土の第1層は、天井部や側壁の崩落土、あるいは崩落土を含む層と見られる。

覆土は、8層に分けられた。壁などの崩落土や流入土からなる第2～9層土が堆積した後、第1層が厚く堆積し、埋没したと考えられる。第10～12層は、掘り方の埋土である。凹凸の著しい粗掘り面のまま、暗褐色土とロームの混合土で埋めている。

第59図5の甕は、貯蔵穴の上層から、第60図12の坏は、5の甕の直下の貯蔵穴の中ばの深さから出土している。5の甕の中には、編物石と思われる大振りの楕円礫が1個入っていた。1・7の大型短頸壺や2の甕は、貯蔵穴の上から破片化した状態で、3の甕、6の甗、8の鉢、10・11・15の坏、18の須恵器坏蓋、20・21の高坏は、P3、貯蔵穴周辺から東隅にかけての覆土上・中層から出土した。27の石製紡錘車は、この土器集中部の西側、少し離れた位置の覆土中層から出土している。4の甕、19の高坏は、北隅近くの上・中層から出土した。



第48号住居跡土層説明(1)

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を中量含み、ローム小塊(～15mm)・焼土粒(～2mm)を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含み、ローム粒(～8mm)を微量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含み、ローム小塊(～20mm)を中量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・粘土粒(～4mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を微量、焼土粒(～2mm)を中量含む。粘性はやや強い。
- 第5層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を少量含む。

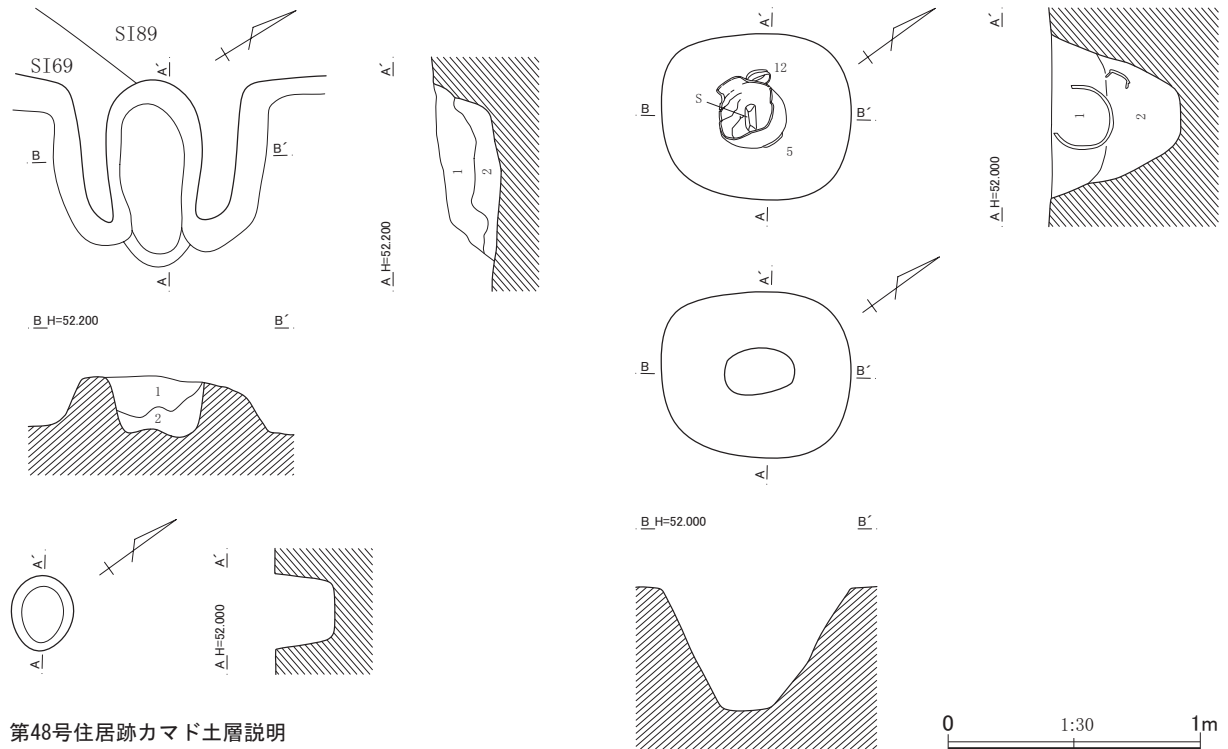
第57図 第48号住居跡平面・断面図(1)

第48号住居跡土層説明(2)

- 第6層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を少量含み、ローム小塊(～20mm)を中量含む。
- 第7層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)・ローム小塊(～10mm)を少量含む。
- 第8層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を少量含む。
- 第9層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・焼土粒(～2mm)を中量含む。ややしまっている。

〈掘り方埋土〉

- 第10層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～20mm)を中量含む。ややしまっている。
- 第11層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を中量含み、ローム小塊(～15mm)を少量含む。
- 第12層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～8mm)を中量含み、ローム小塊(～40mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。ややしまっている。



第48号住居跡カマド土層説明

- 第1層：明灰褐色土。粘土粒(～0.5mm)・粘土小塊(～30mm)を主とし、暗褐色土粒子(～0.5mm)・暗褐色土小塊(～10mm)を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。粘土粒(～0.5mm)を中量含み、粘土小塊(～10mm)・焼土粒(～2mm)を少量含む。粘性は強い。

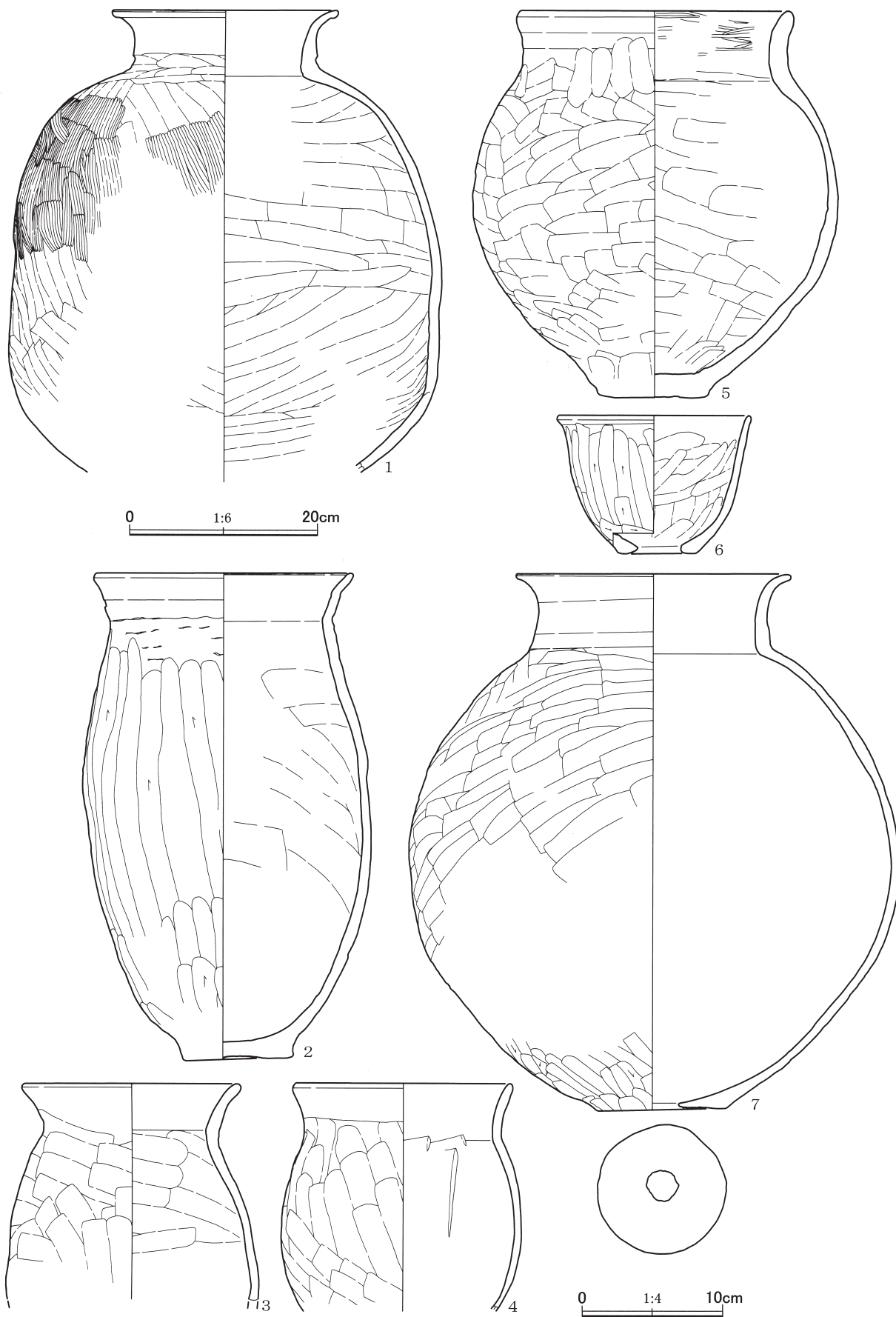
第48号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・ローム小塊(～10mm)を少量含み、焼土粒(～2mm)を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を微量含む。

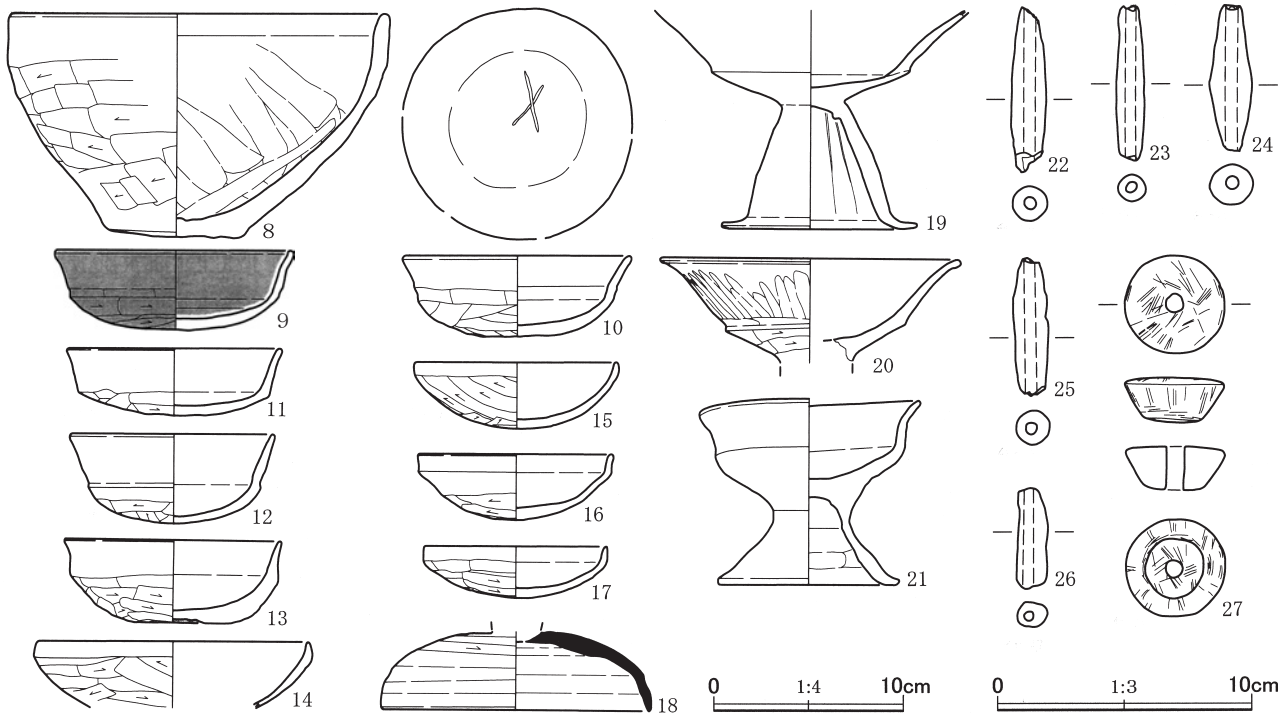
第58図 第48号住居跡平面・断面図(2)

かなり時間幅を含んだ土器が出土しているようであるが、まず貯蔵穴の中から、あるいは貯蔵穴の上から折り重なるようにして出土した5の甕、12の坏と1・7の大型壺、2の甕は、ある短い時間幅の中で廃棄された土器と見てよいであろう。また、それらの周囲からまとまって出土した3の甕、6の甗、8～11の坏、18の須恵器蓋、20・21の高坏、27の石製紡錘車も、それに準ずる見方ができると思われる。15の坏も後者に含まれるが、14・16・17の坏と類似した時期であり、本住居跡と重複し、先行する後述第51号住居跡にも同じような時期の坏が見られることからすれば、同種の原因で混入した土器と見ることもできそうである。

重複関係や出土位置を把握することのできた大半の土器から見て、古墳時代後期後葉前半の遺構である可能性を考えたい。



第59図 第48号住居跡出土遺物(1)



第60図 第48号住居跡出土遺物（2）

第24表 第48号住居跡出土遺物観察表（1）

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	大型壺	口径 (24.5) 底径 — 器高 [51.7]	口縁部は直立し、上位で強く外反する。胴部は膨らみをもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。頸部ヘラナデ。胴部ヘラナデ後、上半ミガキ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	片岩・石英・白色粒・黒色粒 外—にぶい橙色 内—黒褐色	口縁部～胴部下位3/4残存
2	甕	口径 18.8 底径 8.2 器高 34.5	底部は上げ底気味。胴部は下位に膨らみをもち、口縁部は外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒 内外—にぶい橙色	一部欠損
3	甕	口径 15.7 底径 — 器高 [16.0]	口縁部は外反する。胴部は下位に膨らみをもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・赤褐色粒・角閃石 内外—にぶい橙色	胴部下位～底部欠損
4	甕	口径 (16.0) 底径 — 器高 [16.9]	口縁部は緩やかに外反する。胴部は中位に膨らみをもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒 内外—淡黄色	底部欠損
5	甕	口径 19.9 底径 8.1 器高 27.5	口縁部は外反気味に立ち上がる。胴部は中位で大きく膨らむ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ後ミガキ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・赤褐色粒・角閃石 内外—橙色	口縁部～胴部中位3/4欠損
6	小型甌	口径 14.2 底径 5.8 器高 10.3	口縁部は短く外反する。胴部は膨らみをもたない。底部は平底で孔径4.1cmの円孔。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・角閃石 内外—明赤褐色	完形
7	壺	口径 20.1 底径 9.5 器高 38.2	胴部は中位で大きく張る。口縁部は直立し、上位で強く外反する。底部に孔径2.3cmの穿孔。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・赤褐色粒 外—にぶい褐色 内—にぶい黄褐色	一部欠損
8	鉢	口径 (20.4) 底径 6.9 器高 [12.3]	平底。体部から緩やかに内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・赤褐色粒 外—橙色 内—灰黄褐色	1/4残存
9	坏	口径 12.8 底径 — 器高 4.4	丸底。口縁部は体部との境に弱い稜をもって外反し、端部で内彎する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。黒色処理。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。黒色処理。	白色粒・赤褐色粒 内外—黒褐色	3/4残存
10	坏	口径 (12.3) 底径 — 器高 4.5	丸底。口縁部は体部との境に弱い稜をもって外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ナデ。	白色粒・赤褐色粒 内外—橙色	一部欠損内底面に「×」の線刻

第25表 第48号住居跡出土遺物観察表(2)

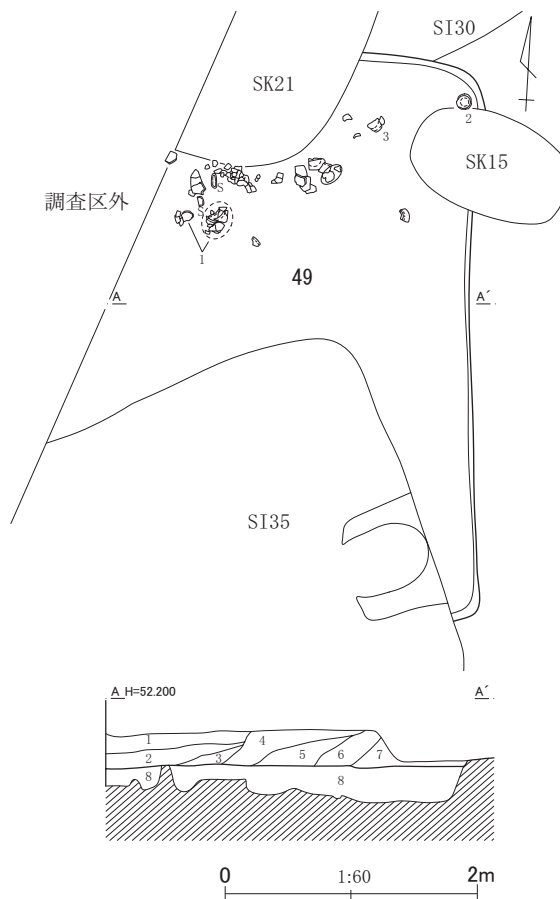
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
11	坏	口径 11.6 底径 — 器高 3.7	丸底。口縁部は体部との境に弱い稜をもって外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ナデ。	白色粒・赤褐色粒 内外—橙色	一部欠損
12	坏	口径 11.1 底径 — 器高 4.8	丸底。口縁部は体部との境に弱い稜をもち、直線的に外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・赤褐色粒 外—にぶい橙色 内—橙色	一部欠損
13	坏	口径 11.8 底径 — 器高 4.6	上げ底。口縁部は体部との境に弱い稜をもって外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・赤褐色粒 外—にぶい橙色 内—にぶい黄褐色	口縁部の大半を欠損
14	坏	口径 14.8 底径 — 器高 [3.7]	体部は彎曲し、口縁部は短く内屈する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部ナデ。	白色粒・黒色粒 外—にぶい褐色 内—にぶい橙色	底部欠損
15	坏	口径 11.0 底径 — 器高 3.7	丸底。体部は彎曲し、口縁部は内彎気味に短く直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ナデ。	白色粒・角閃石 外—明赤褐色 内—赤褐色	2/3残存
16	坏	口径 10.6 底径 — 器高 3.7	丸底。口縁部は体部との境に弱い稜をもち、外反気味に短く立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・角閃石 内外—橙色	3/4残存
17	坏	口径 10.0 底径 — 器高 2.8	丸底。体部は彎曲し、口縁部は短く直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ナデ。	白色粒・赤褐色粒・角閃石 内外—橙色	一部欠損
18	須恵器蓋	口径 14.7 底径 — 器高 [4.3]	天井部はやや丸みを帯びる。口縁部は内彎気味に開く。返りはもたない。ロクロ成形。	外面—ロクロナデ。天井部回転ヘラケズリ。内面—ロクロナデ。	白色粒 内外—灰色	摘み欠損 還元焰焼成
19	高坏	口径 — 底径 9.5 器高 [12.0]	口縁部は坏部との境に弱い稜をもって外反する。脚部は下方へ開き、裾部は短く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—坏部ナデ。脚部ナデ。裾部ヨコナデ。内面—坏部ナデ。脚部ヘラナデ。	白色粒・赤褐色粒 内外—橙色	口縁部欠損
20	高坏	口径 16.2 底径 — 器高 [5.7]	口縁部は坏部との境に弱い稜をもって外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ後ナデ、坏部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。坏部ナデ。	白色粒・赤褐色粒 内外—明赤褐色	脚部欠損
21	高坏	口径 (12.0) 底径 (9.7) 器高 10.2	口縁部は坏部との境に弱い稜をもって外反する。脚部は「ハ」字状に開き、裾部は短く外反する。全体的に器形が歪む。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。坏部ナデ。脚部ヘラケズリ。裾部ヨコナデ。内面—口縁部ヨコナデ。坏部ナデ。脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。	白色粒・赤褐色粒 内外—橙色	一部欠損
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
22	土錘	長さ[6.8]、幅1.5、厚さ1.5、重さ[12.70]g。胎土：白色粒。色調：にぶい黄褐色。				一部欠損
23	土錘	長さ6.4、幅1.2、厚さ1.1、重さ7.80g。胎土：白色粒。色調：にぶい黄褐色。				ほぼ完形
24	土錘	長さ6.0、幅1.7、厚さ1.7、重さ13.28g。胎土：白色粒・角閃石・雲母。色調：にぶい黄褐色。				完形
25	土錘	長さ[5.7]、幅1.5、厚さ1.4、重さ[11.39]g。胎土：白色粒・角閃石・雲母。色調：にぶい橙色。				一部欠損
26	土錘	長さ4.2、幅1.3、厚さ1.0、重さ[6.06]g。胎土：白色粒・角閃石・雲母。色調：にぶい黄褐色。				一部欠損
27	石製紡錘車	上面径4.1、下面径2.4、孔径0.75×0.7、厚さ1.8、重さ41.66g。石材：粘板岩。調整：全面に丁寧な研磨。				完形

第49号住居跡(第61・62図、第26・27表、図版10・116)

調査地点の南西端近くの西縁沿い、M11・12グリッドに位置し、J群に含まれる住居跡である。第30・34・35号住居跡、第15・21号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。なお、遺構の西半は、調査範囲外である。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

規模は、南北方向での辺長、壁長が4.40m、東西方向の最も残りのよい部分での長さが3.40mである。残存する床面はほぼ平坦で、西半部分のみやや不規則に硬化している。柱穴やカマドは、検出できなかった。

覆土は、暗褐色土を主とする7層で、ロームの多い層が目立つようである。第8層は、暗褐色土とロームの小塊を混ぜ合わせた掘り方の埋土である。第62図2の坏は、北東隅の床面から、1・3の甕、



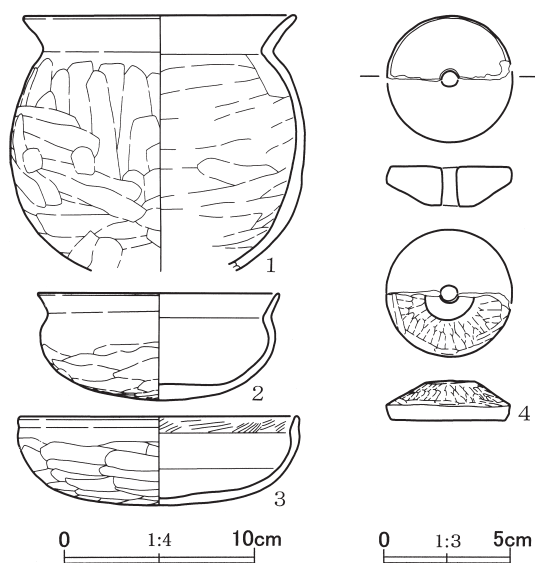
第61図 第49号住居跡平面・断面図

第49号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を少量含む。ややしまっている。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を中量含み、ローム粒(～4mm)を少量、焼土粒(～2mm)を微量含む。ややしまっている。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・ローム小塊(～30mm)を微量含む。
- 第4層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～0.5mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を少量、焼土粒(～6mm)を微量含む。
- 第5層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～6mm)を少量含む。
- 第6層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)を中量含み、ローム小塊(～30mm)・焼土粒(～2mm)を少量含む。
- 第7層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)を多量に含み、焼土粒(～2mm)を少量含む。
(掘り方埋土)
- 第8層：暗褐色土。ローム小塊を主とし、暗褐色土小塊(～10mm)を多量に含み、暗褐色土小塊(～40mm)を中量含む。ややしまっており、粘性は弱い。

第26表 第49号住居跡出土遺物観察表(1)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	小型甕	口径 14.8 底径 — 器高 [14.0]	胴部は中位に膨らみをもち、口縁部は外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。	白色粒 内外—ぶい褐色	底部欠損



第62図 第49号住居跡出土遺物

坏は、覆土中出土である。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期初頭の遺構と考えられる。

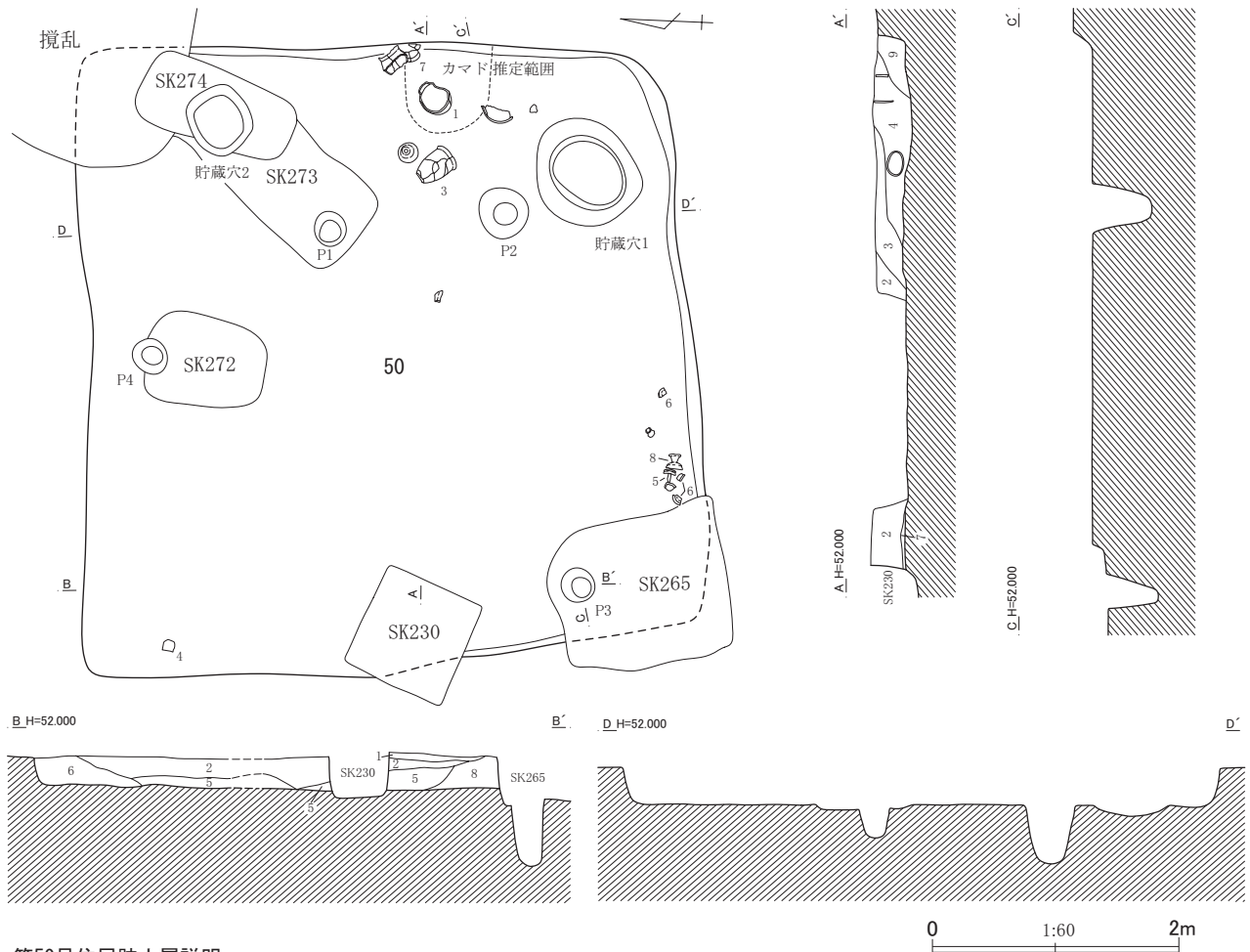
第50号住居跡 (第63～65図、第28・29表、図版11・116)

調査地点の西半のほぼ中央、O10グリッドに位置し、E群に含まれる住居跡である。第66・70・93・98・121号住居跡を切っており、第230・259・265・272～274号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、微妙に歪な正方形に近い形態になるようである。カマドを検出することができなかったが、A-A'断面の東端の東壁に接する部分で、カマド

第27表 第49号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
2	坏	口径 13.2 底径 — 器高 5.9	丸底。体部は内彎し、口縁部は短く彎曲気味に外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ後、体部ナデ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ナデ。	白色粒・雲母 内外—ぶい橙色	一部欠損
3	坏	口径 (15.2) 底径 — 器高 4.9	丸底。体部は彎曲し、口縁部は短く外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ハケメ。体部上半ヨコナデ。体部下半～底部ナデ。	白色粒・角閃石・雲母 内外—橙色	1/2残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
4	石製紡錘車	上面径(4.85)、下面径(2.0)、孔径(0.7×0.6)、厚さ1.6、重さ[18.38]g。調整：全面に丁寧な研磨。				完形



第50号住居跡土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を中量含み、ローム小塊(～15mm)を微量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を中量含み、焼土粒(～2mm)を少量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・ローム小塊(～20mm)・炭化物粒(～2mm)を少量含み、焼土粒(～2mm)を中量含む。
- 第5層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)を少量、焼土粒(～

- 2mm)を微量含む。
- 第6層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を多量に含み、ローム小塊(～20mm)を少量、焼土粒(～2mm)を微量含む。
- 第7層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含み、ローム小塊(～25mm)を中量含む。
- 第8層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を中量含み、焼土粒(～4mm)を少量、ローム小塊(～50mm)を微量含む。
- 第9層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～6mm)を多量に含み、ローム小塊(～20mm)を中量含み、焼土粒(～2mm)を少量含む。カマドの左袖の可能性はある。

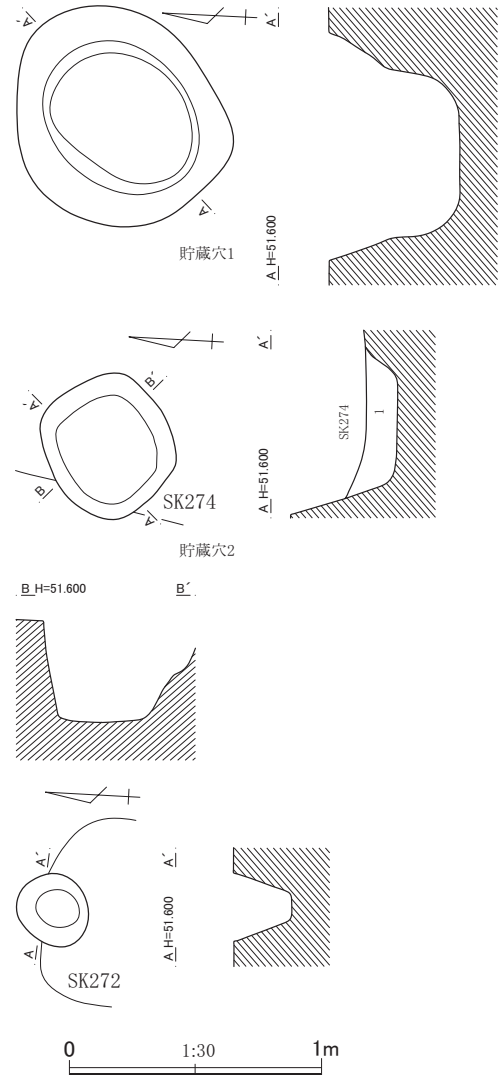
第63図 第50号住居跡平面・断面図(1)

の袖と思われる土層（第63図：9層）を確認しており、また、同部分では、土師器甕がカマドにしばしば見られる状態でまとまりをなし出土していることから、燃焼面などが不明瞭なカマドが東壁のこの部分にあったと推定する。以下、この推定に沿って記載する。

規模は、主軸方向で5.13m、副軸方向では4.98mである。主軸方位はN-87°-Wである。床面は微妙に凸凹しているが、中央部分には明瞭に硬化している。四壁いずれも急峻に立ち上がり、壁高は、北壁で23cm、東壁で18cmである。

並びに少々難があるが、P1～P4を支柱穴の可能性のあるピットと見る。平面形は、いずれもやや不整形円で、深さは、P1が26cm、P2が58cm、P3が52cm、P4が39cmである。南東隅、北東隅近くのピットは、貯蔵穴であろう。前者を貯蔵穴1、後者を貯蔵穴2と呼称した。貯蔵穴1の平面形は、楕円形で、長径91cm、短径80cmである。中に微段を有し、バケツ形に掘り込まれており、深さは52cmである。貯蔵穴2の平面形は、やや丸みのある長方形に近く、長軸長53cm、短軸長49cmである。バケツ形に掘り込まれており、深さは12cmである。

覆土は、8層に分けられた。総じて暗褐色土を主とし、ロームを含む胎土であった。第9層は、暗褐色土と多量のロームの混合土で、カマドの袖構築材かと思われる層である。第65図1の甕は、カマドがあったと推定される範囲内から、3の甕は、同範囲の前面から、7の坏は、その左脇から出土している。5・6の坏、8の高坏は、第265号土坑に切られた部分の脇から、4の坏は、北西隅近くから出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期後葉前半の遺構と考えられる。



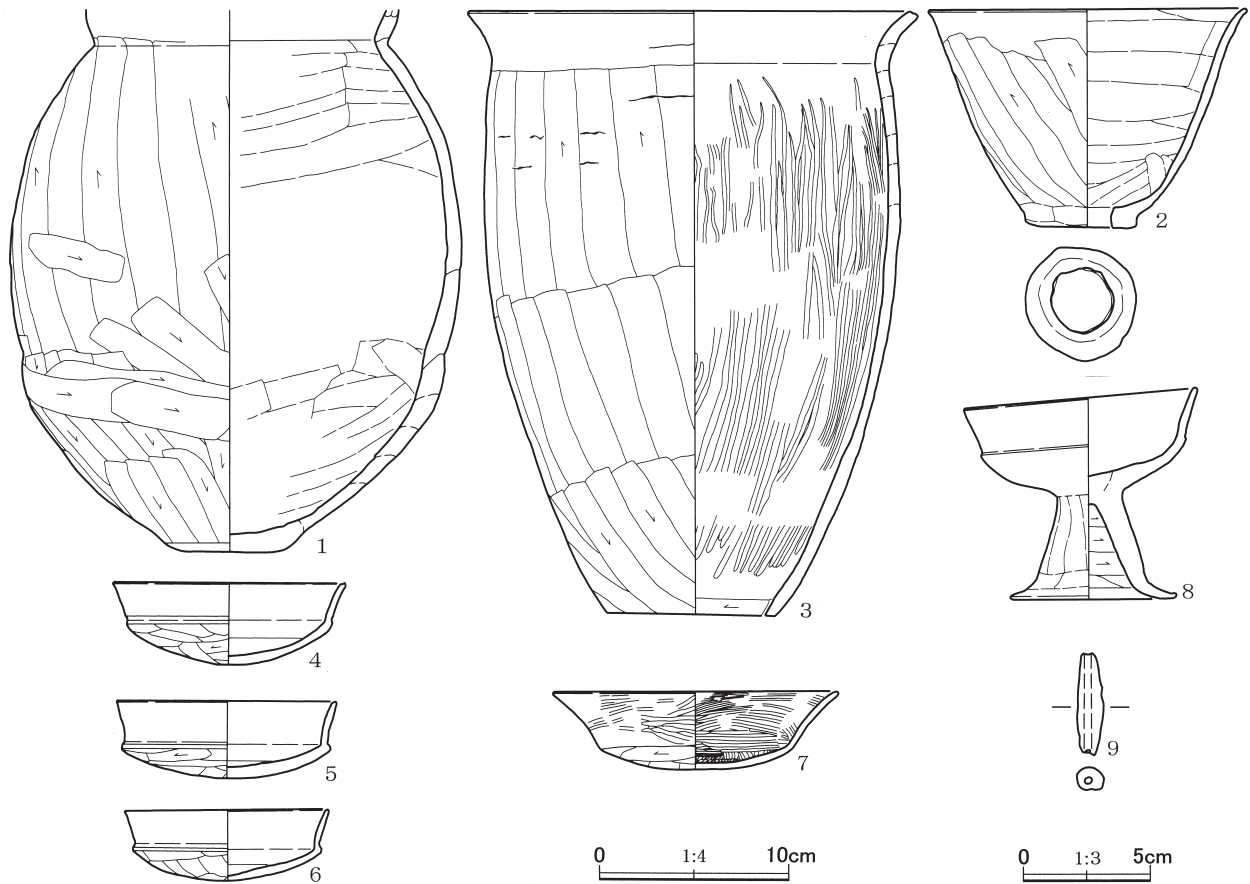
第50号住居跡貯蔵穴2土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～4mm）を中量含む。

第64図 第50号住居跡平面・断面図（2）

第28表 第50号住居跡出土遺物観察表（1）

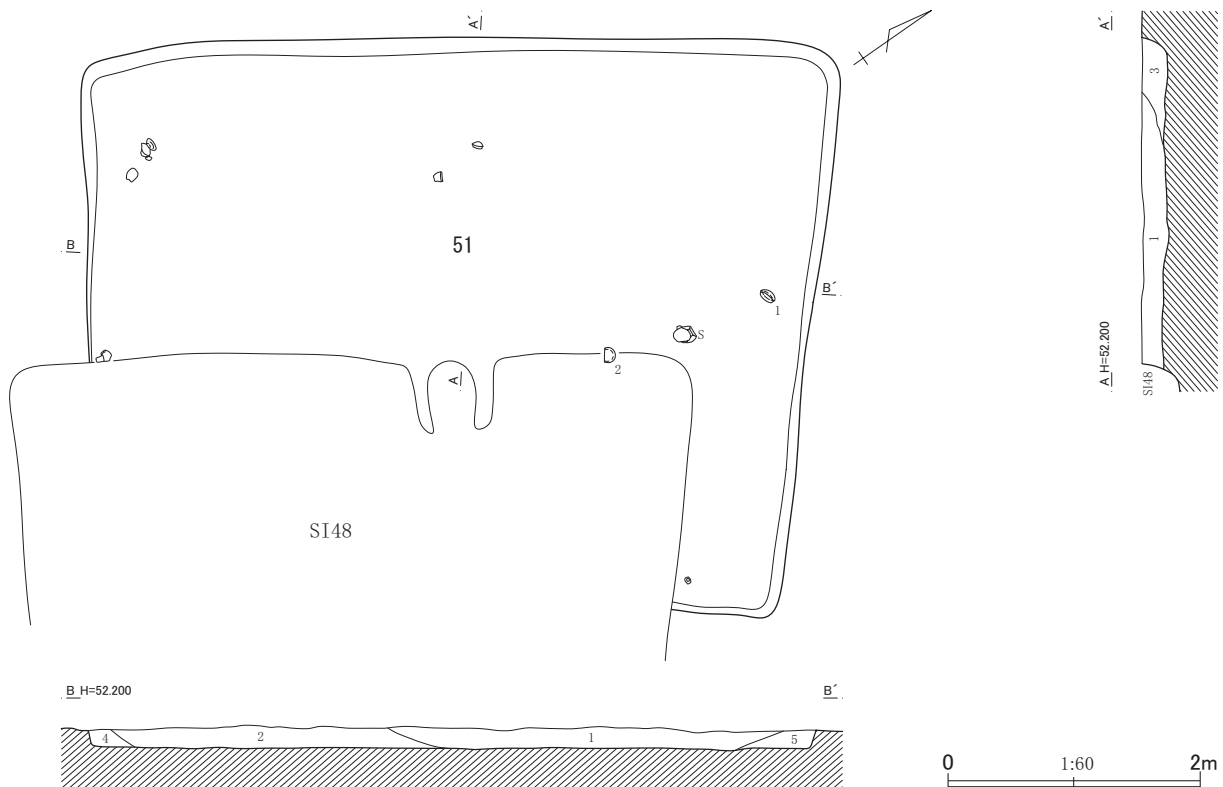
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 — 底径 5.5 器高 [29.9]	口縁部は直立する。胴部は下位に膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。底部ヘラケズリだが磨耗。内面—口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・角閃石 内外—ぶい橙色	口縁端部欠損 胴部上半2/3欠損
2	小型甕	口径 17.3 底径 6.0 器高 12.0	口縁部は外反する。胴部は膨らみをもたない。底部は輪台状の平底で孔径3.4cmの円孔。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ、下端はナデ。底部ヘラケズリ。内面—口縁部～胴部ヘラナデ。端部ヘラケズリ。	白色粒・石英・角閃石 内外—橙色	完形



第65図 第50号住居跡出土遺物

第29表 第50号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
3	甔	口径 24.3 底径 9.3 器高 31.7	口縁部は外反する。口唇部は平坦面をもち、弱い凹線がめぐる。胴部は膨らみをもたない。底部は筒抜け。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ後ミガキ。底部ヘラケズリ。	片岩・白色粒・石英 内外-橙色	ほぼ完形
4	坏	口径 (12.7) 底径 — 器高 4.5	丸底。口縁部は体部との境に稜をもつて外反する。口唇部は内側に平坦面をもち、弱い凹線がめぐる。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部~体部上半ヨコナデ。体部下半~底部ヘラナデ。	白色粒・赤褐色粒・雲母 内外-橙色	1/2残存
5	坏	口径 12.0 底径 — 器高 4.2	丸底。口縁部は体部との境に稜をもつて外反気味に立ち上がる。口唇部は内側に平坦面をもち、弱い凹線がめぐる。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部~体部中位ヨコナデ。体部下位~底部ヘラナデ。	白色粒・赤褐色粒・雲母 内外-明赤褐色	口縁部1/2欠損
6	坏	口径 11.2 底径 — 器高 3.9	丸底。体部は口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反し、口唇部は内側に平坦面をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部~体部上半ヨコナデ。体部下半~底部ヘラナデ。	白色粒・赤褐色粒 内外-橙色	4/5残存
7	坏	口径 15.6 底径 — 器高 4.3	丸底。体部は浅い。口縁部は長く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ後ミガキ。体部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部~底部ミガキ。	白色粒・褐色粒 外-橙色 内-にぶい橙色	3/4残存 二次被熱
8	高坏	口径 12.7 底径 (9.1) 器高 11.6	口縁部は外反し、坏部との境に稜をもつ。脚部は下方へ開き、裾部は短く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。坏部磨耗。脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。内面-口縁部ヨコナデ。坏部磨耗。脚部ヘラケズリ。裾部ヨコナデ。	白色粒・角閃石・雲母 内外-明赤褐色	裾部3/4欠損
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
9	土錘	長さ4.2、幅1.1、厚さ0.9、重さ4.08g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：黄褐色。				完形



第51号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を多量に含み、ローム粒(～8mm)・炭化物粒(～1mm)・焼土粒(～2mm)を少量含む。
 第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を多量に含み、ローム粒(～8mm)を中量、焼土粒(～2mm)を少量含む。

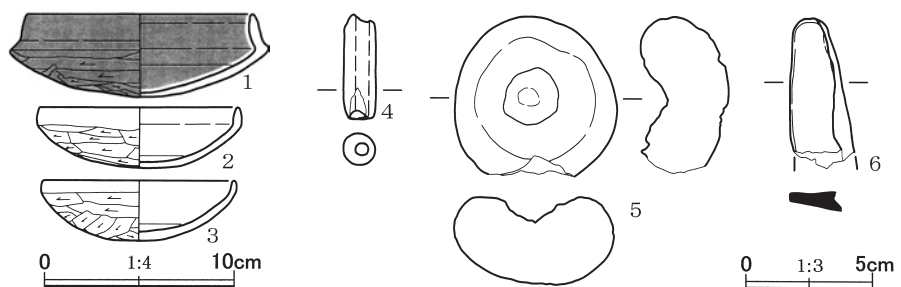
第3層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～2mm)を微量含む。
 第4層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含む。
 第5層：暗褐色土。粘土粒(～2mm)を中量含み、粘土小塊(～20mm)・焼土粒(～2mm)を少量含む。

第66図 第51号住居跡平面・断面図

第51号住居跡 (第66・67図、第30表、図版11・117)

調査地点の南西部の中央寄り、P11・12グリッドに位置し、E群に含まれる住居跡である。第52・64・69・80・89・120・123号住居跡を切って造られている。また、第48号住居跡に切られ、遺構の南側～南東側のかかなりの範囲を壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、やや不整で横長の長方形と見られる。規模は、主軸方向で5.27m、副軸方向で6.03m、主軸方位は、S-49°-Wになる。床面は部分的に硬化しているが、全体的には軽微であり、微妙な凹凸が見られる。壁の立ち上がりは、北西壁は比較的緩やかで、他は急峻である。壁高は、南東壁で34cm、南西壁、北東壁、北西壁で23～26cmである。



第67図 第51号住居跡出土遺物

C地点

第30表 第51号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 12.4 底径 — 器高 4.6	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって内傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。黒色処理。内面—口縁部～体部上位ヨコナデ。体部中位～底部ヘラナデ。黒色処理。	白色粒・黒色粒 内外—黒褐色	一部欠損
2	坏	口径 10.9 底径 — 器高 3.4	丸底。体部は丸みをもつ。口縁部は内傾気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・石英 内外—橙色	2/3残存
3	坏	口径 10.5 底径 — 器高 3.3	丸底。体部は丸みをもつ。口縁部は内傾気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・石英 内外—にぶい黄色	3/4残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
4	土錘	長さ4.3、幅1.4、厚さ1.3、重さ[7.18]g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：黄褐色。				一部欠損
5	凹み石	長さ[6.7]、幅6.8、厚さ3.7、重さ[81.40]g。石材：軽石。				一部欠損
6	鉄製品 鋤鍬先	長さ[6.2]、幅2.8、厚さ0.8、重さ[20.09]g。				破片

住居跡の覆土は、暗褐色土を主とする5層に分けられた。壁際の堆積土である第3～5層の堆積後、第1・2層が厚く堆積し、埋まったようである。

第67図2の坏は、第48号住居跡に切られた部分の脇の床面から、他の遺物は、おおむね覆土中から分散して出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期後葉前半の遺構である可能性が考えられる。

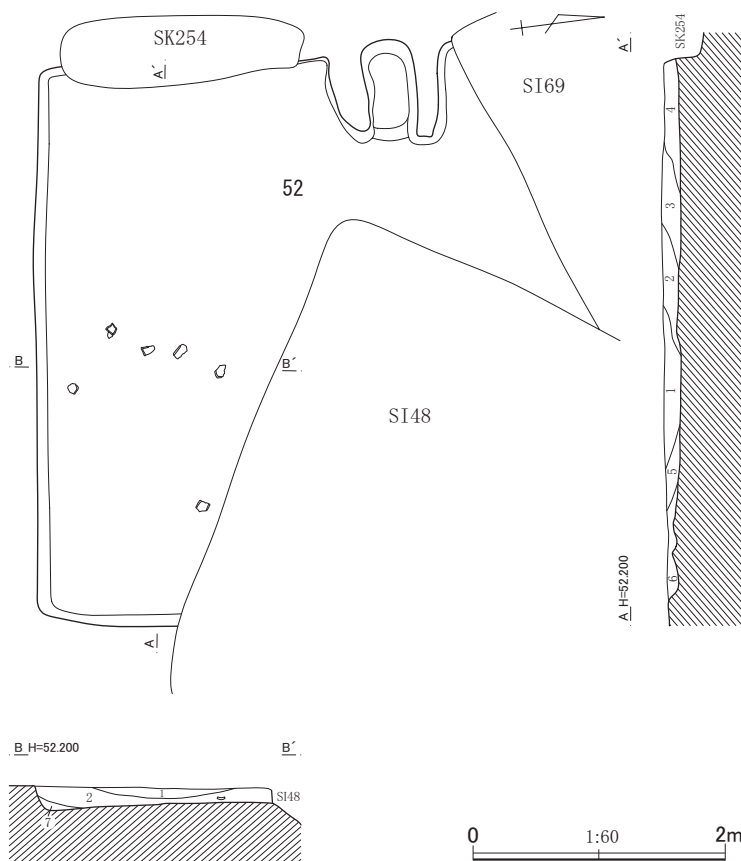
第52号住居跡（第68・69図、第31表、図版11・117）

調査地点の南西部の中央寄り、P12グリッドに位置し、E群に含まれる住居跡である。第53・80・119号住居跡を切り、第69号住居跡、第254土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。また、第48号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、横長の長方形に近い形態になるうか。規模は、いずれも現存長になるが、主軸方向で4.35m、副軸方向で4.45m、主軸方位は、推定でN-83°-Wあたりになる。床面はほぼ平坦で、壁際を除いて硬化している。とくにカマドの前面は、顕著に硬化しているようである。壁は比較的急に立ち上がり、壁高は、南壁で17cm、東壁で9cmである。

カマドは、西壁にわずかに斜行して設けられている。細長い袖に挟まれた長楕円形の燃焼部が残存する。燃焼面は、浅く掘りくぼめ作出されている。燃焼部の長さは81cm、横幅は39cmである。燃焼面、左袖側の側壁や奥壁の一部には、被熱赤化の痕跡がみとめられる。カマド覆土の第1・2層には、天井部や側壁の崩落土が含まれる。

覆土は、暗褐色土を主とする7層に分けられた。第6・7層以外は、焼土の混入が目立つようである。土師器片を主とする遺物が、覆土中より散漫に出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期後葉後半の遺構である。

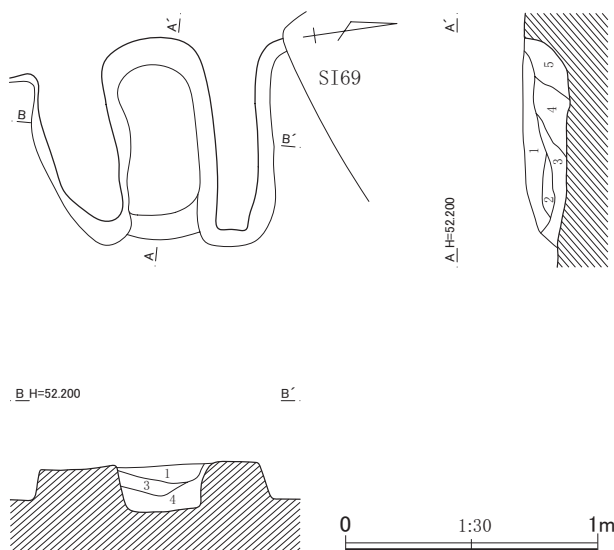


第52号住居跡土層説明

- 第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)を多量に含み、粘土粒(～0.5mm)・粘土粒(～4mm)・炭化物粒(～1mm)を少量、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～4mm)・焼土小塊(～10mm)を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を多量に含み、焼土粒(～1mm)を中量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を中量含み、ローム粒(～2mm)を少量、焼土粒(～2mm)を微量含む。
- 第4層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。
- 第5層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含み、焼土粒(～1mm)を微量含む。
- 第6層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～0.5mm)を中量含む。
- 第7層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を微量含む。

第52号住居跡カマド土層説明

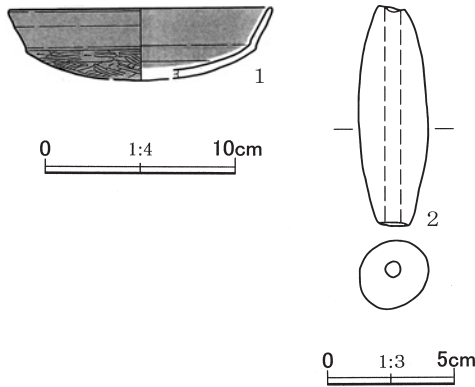
- 第1層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)を微量含み、焼土粒(～4mm)を少量、粘土粒(～1mm)・粘土小塊(～10mm)を中量含む。粘性はやや強い。
- 第2層：暗赤褐色土。焼土粒・焼土小塊を主とし、暗褐色土粒子(～0.5mm)を少量含む。しまりは弱く、粘性は弱い。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を少量含み、焼土粒(～1mm)を中量含む。粘性は弱い。
- 第4層：明灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)・焼土粒(～8mm)を少量含み、炭化物粒(～4mm)・炭化物小塊(～10mm)を中量含む。粘性はやや強い。
- 第5層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。



第68図 第52号住居跡平面・断面図

第31表 第52号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 14.4 底径 — 器高 3.9	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外傾し、弱い段を有する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ後ミガキ。黒色処理。内面—口縁部～体部上半ヨコナデ。体部下半～底部ヘラナデ。黒色処理。	白色粒 内外—黒色	1/2残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
2	土錘	長さ9.1、幅2.9、厚さ2.9、重さ68.98g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい橙色。				完形



第69図 第52号住居跡出土遺物

第53号住居跡（第70～73図、第32～34表、図版11・12・117・118）

調査地点の南西部の中央寄り、O12、P12・13グリッドに位置し、E群に含まれる住居跡である。第80号住居跡を切り、第52号住居跡、第254号土坑に切られ、一部を壊されている。第119号住居跡と重なるが、直接の切り合い関係にはない。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

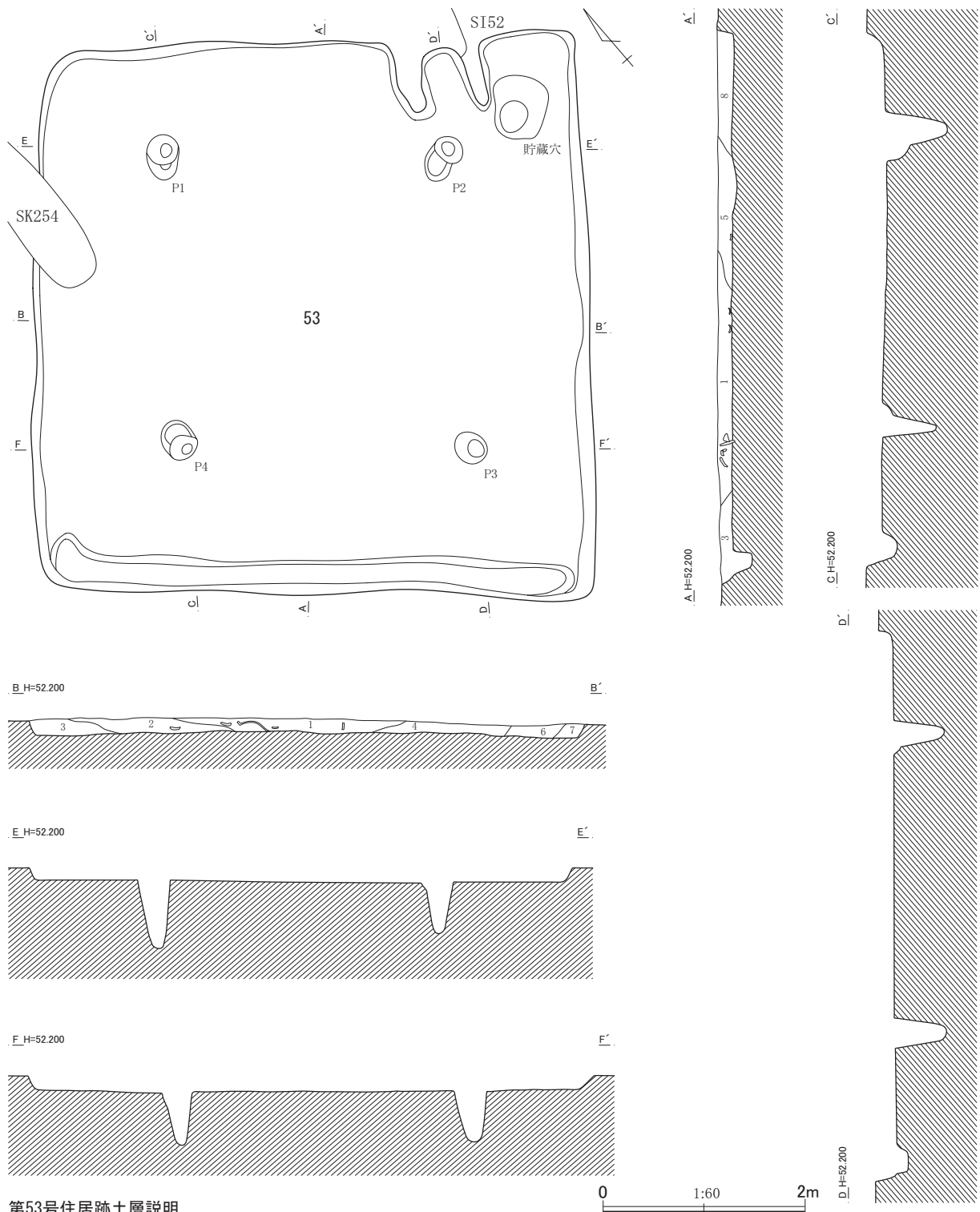
平面形は、南東壁が若干長い、やや不整な正方形である。規模は、主軸方向で5.50m、副軸方向で5.48m、主軸方位は、N-42°-Eである。床面はほぼ平坦で、主

柱穴を結ぶ範囲を中心に明瞭に硬化している。ゆるやかに立ち上がる南東壁以外は、立ち上がりも比較的急である。床面はほぼ平坦であるが、硬化は顕著ではない。南西壁に沿って、幅30～37cm、深さ12～15cmの壁溝が設けられている。壁高は、北東壁、北西壁が14、15cm、南東壁、南西壁が12、13cmほどである。

P1～P4は主柱穴であろう。平面形は、P1・P3・P4がやや不整な円形、楕円形で、P2は、2つの円形が重なり合った形態である。P1・P2・P3には、底面が2つずつあり、掘り直されていることが明らかである。2面の底面の深さは、それぞれP1が48cm、51cm、P2が51cm、68cm、P4が51cm、74cmである。P3の深さは、53cmである。カマドの右袖脇のピットは、貯蔵穴であろう。平面形は、かなり歪な隅丸方形に近い形態で、縦の長さは62cm、横幅は49cmである。バケツのような形に掘り込まれており、深さは53cmである。

カマドは、北東壁の東隅に著しく偏した位置に斜行して設けられている。半島状に突き出た袖に挟まれた奥壁の丸い形態で、袖端を末端とすれば、燃焼部の長さは68cm、横幅は47cmである。燃焼部は床面とほぼ同じ高さで、燃焼面には微妙な凹凸が見られる。左袖側の側壁から奥壁にかけての一部が、被熱赤化している。

覆土は、第1～8層の暗褐色土を主とする8層で、壁際から中央に向かって漸次堆積した模様である。住居跡中央からカマド、東隅にかけて夥しい数の土師器を主とする遺物が出土している。床面に近いものから、上・中層のものまで、出土層準は様々なようであった。第72図10の坏と第73図25の石製紡錘車は、カマドの焚口付近から、5の甕、8の甑、17～19の3個体の高坏は、東隅近くからまとまって出土している。また、8の甑の破片の一部は、3の甕とともにカマドの前面からも出土している。さらに、1・2・4の甕、6の小型甕、7の甑、9の壺、11・13・14の坏、20・21の土錘などが、南東壁から住居跡の中央にかけての広い範囲から、多く破片化した状態で出土している。それらの遺物の多くは、覆土上・中層出土である。15の坏は、西隅近くの南西壁溝脇から出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期中葉の遺構である。

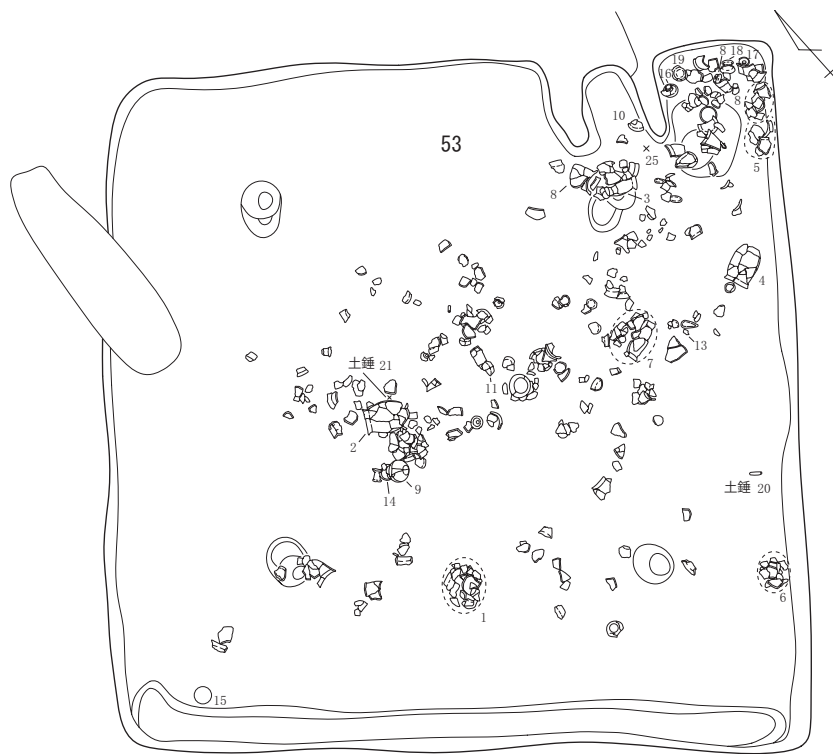


第53号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・ローム小塊(～20mm)を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)を少量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を微量含む。

- 第5層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を少量含み、焼土粒(～2mm)を微量含む。
- 第6層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を微量含む。
- 第7層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)・ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。
- 第8層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)を少量含む。

第70図 第53号住居跡平面・断面図(1)



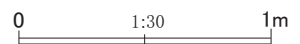
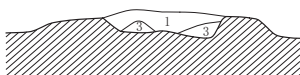
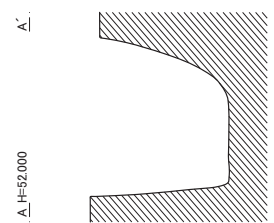
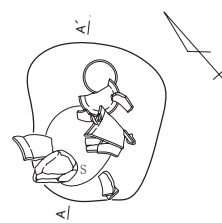
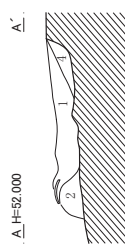
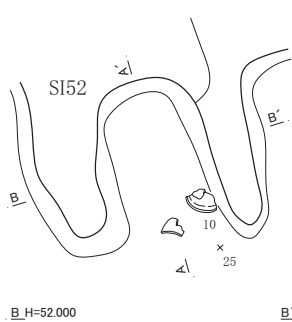
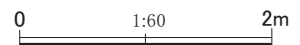
第53号住居跡カマド土層説明

第1層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～1mm）を微量含み、粘土粒（～1mm）・焼土粒（～4mm）を中量含む。粘性はやや強い。

第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～4mm）を中量含み、焼土粒（～2mm）を少量含む。

第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～0.5mm）を中量含み、ローム粒（～4mm）を少量、焼土粒（～2mm）を微量含む。

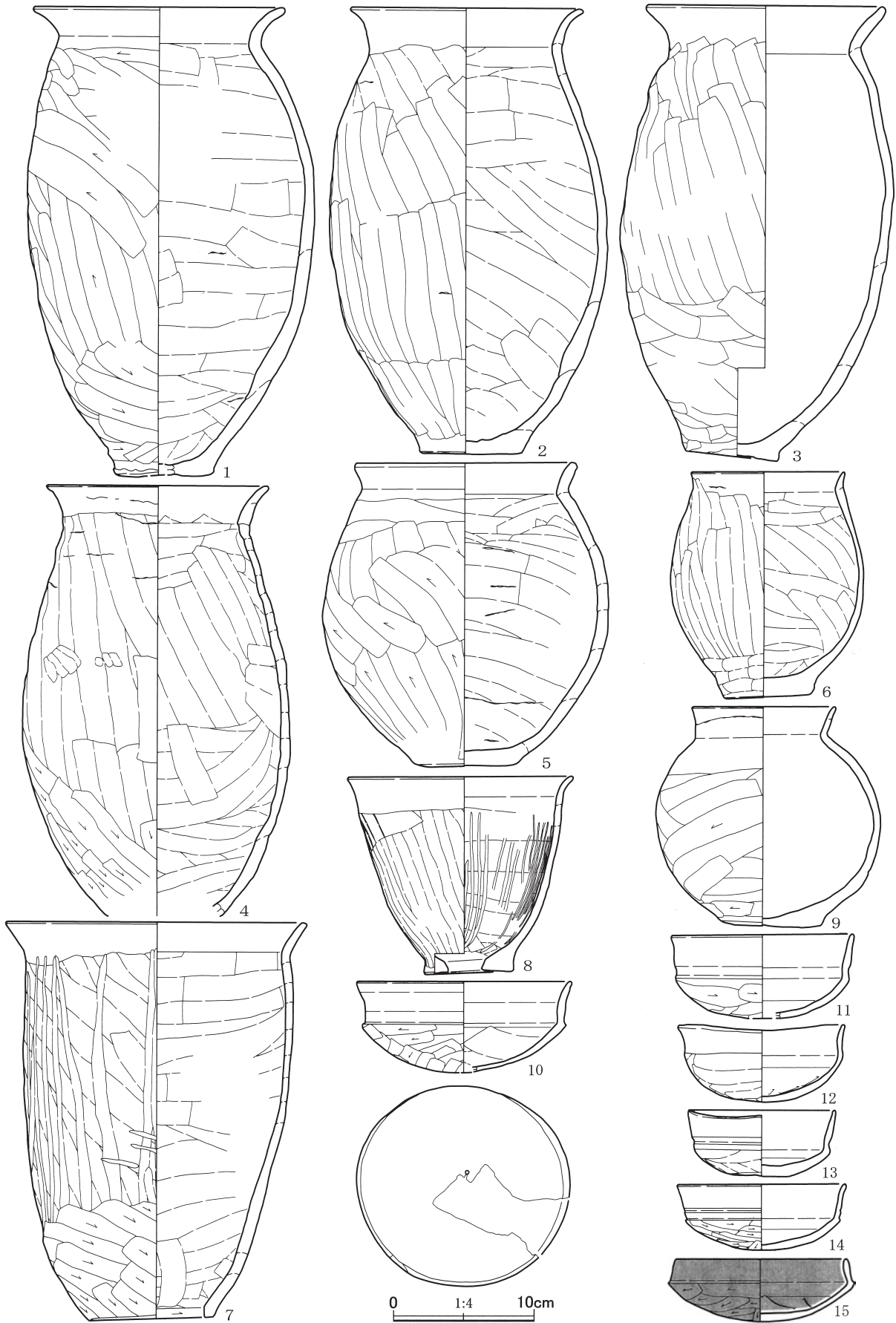
第4層：暗褐色土。ローム粒（～4mm）・焼土粒（～2mm）を少量含む。



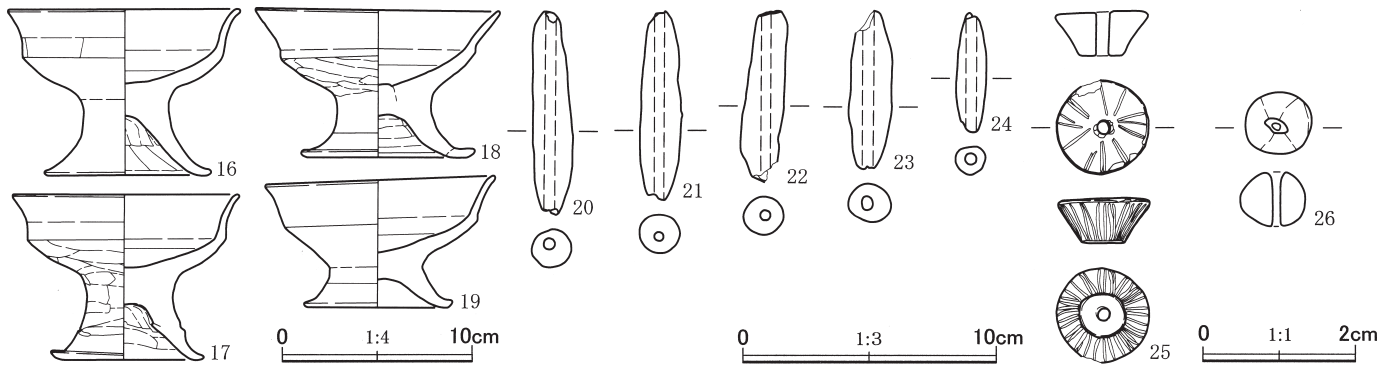
第71図 第53号住居跡平面・断面図（2）

第32表 第53号住居跡出土遺物観察表（1）

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 18.4 底径 (7.2) 器高 33.2	口縁部は外反する。胴部は中位に膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。底部磨耗。内面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・角閃石・礫 内外－にぶい橙色	3/4残存
2	甕	口径 17.0 底径 7.6 器高 33.2	口縁部は外反する。胴部は中位に膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・石英・礫 内外－明赤褐色	ほぼ完形
3	甕	口径 17.4 底径 6.8 器高 32.0	口縁部は外反する。胴部は中位に膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・石英・礫 内外－にぶい橙色	胴部下位1/2欠損
4	甕	口径 16.3 底径 — 器高 [32.0]	口縁部は外反する。胴部は中～下位に膨らみをもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部上半ヘラナデ、下半ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・石英・礫 内外－橙色	底部欠損
5	甕	口径 16.2 底径 7.5 器高 22.4	口縁部は外傾する。胴部は中位に丸みをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。底部磨耗。内面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・角閃石・石英・礫 内外－にぶい橙色	5/6残存



第72图 第53号住居跡出土遺物 (1)



第73図 第53号住居跡出土遺物（2）

第33表 第53号住居跡出土遺物観察表（2）

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
6	小型甕	口径 11.2 底径 6.4 器高 16.8	口縁部は短く外傾する。胴部は中～下位に膨らみをもつ。平底で、輪台状を呈する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。底部磨耗。内面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・雲母 内外－にぶい褐色	3/4残存
7	甕	口径 22.1 底径 9.2 器高 28.2	口縁部は外傾し、口唇部は平坦面をもつ。胴部は膨らみをもたない。底部は筒抜け。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部上～中位ヘラナデ後ナデ、下位ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。端部ヘラケズリ。	白色粒・黒色粒・石英・礫 内外－橙色	ほぼ完形
8	小型甕	口径 16.6 底径 6.5 器高 14.7	口縁部は外反する。胴部は膨らみをもたない。輪台状の平底で孔径2.5cmの円孔。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ後ミガキ。端部ヘラケズリ。	白色粒・石英・雲母 内外－にぶい褐色	ほぼ完形
9	壺	口径 10.4 底径 7.5 器高 16.3	口縁部は外傾する。胴部は中位に丸みをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部上位ナデ、中～下位ヘラケズリ。底部磨耗。内面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・片岩・石英 内外－にぶい褐色	ほぼ完形
10	坏	口径 15.7 底径 — 器高 6.7	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・雲母 内外－明赤褐色	8/9残存 底部に内面からの穿孔(孔径0.3cm)
11	坏	口径 13.3 底径 — 器高 [6.2]	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって直立し、端部は短く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部～体部上半ヨコナデ。体部下半～底部ヘラナデ。	白色粒・角閃石・礫 内外－にぶい赤褐色	1/2残存
12	坏	口径 (12.2) 底径 — 器高 5.8	丸底。口縁部は体部との境に弱い稜をもって外反気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。内面－口縁部～体部上位ヨコナデ。体部中位～底部ヘラナデ。	白色粒・雲母 内外－橙色	2/3残存
13	坏	口径 10.8 底径 — 器高 4.9	丸底。体部は口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外傾気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。底部ヘラケズリ。内面－口縁部～体部上半ヨコナデ。体部下半～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外－明赤褐色	3/4残存
14	坏	口径 12.4 底径 — 器高 4.9	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外傾し、下位に段を有する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部～体部中位ヨコナデ。体部下位～底部ヘラナデ。	白色粒・雲母 内外－橙色	3/4残存
15	坏	口径 12.7 底径 — 器高 4.6	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって内傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。黒色処理。内面－口縁部～体部上半ヨコナデ。体部下半～底部ヘラナデ。黒色処理。	白色粒・黒色粒 内外－黒褐色	ほぼ完形
16	高坏	口径 12.6 底径 (8.2) 器高 9.1	口縁部は外反し、坏部との境に弱い稜をもつ。脚部はハの字状に開き、裾部は短く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。坏部～脚部ナデ。裾部ヨコナデ。内面－口縁部～坏部中位ヨコナデ。坏部下位～坏底部ヘラナデ。脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。	白色粒・石英・雲母 内外－明赤褐色	脚部2/3欠損

第34表 第53号住居跡出土遺物観察表(3)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
17	高坏	口径(12.3) 底径(7.5) 器高 9.1	口縁部は外反し、坏部との境に弱い稜をもつ。脚部は外方へやや開き、裾部は短く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。坏部～脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。内面—口縁部～坏部上位ヨコナデ。坏部中位～坏底部ヘラナデ。脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。	白色粒・赤褐色粒・雲母 内外—にぶい橙色	3/4残存
18	高坏	口径(13.4) 底径 8.9 器高 8.2	口縁部は外反し、坏部との境に稜をもつ。脚部はハの字状に開き、裾部は短く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。坏部～脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。内面—口縁部～坏部上半ヨコナデ。坏部下半～坏底部ヘラナデ。脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。	白色粒・角閃石・雲母 内外—明赤褐色	口縁部3/4欠損
19	高坏	口径(12.5) 底径 7.8 器高 7.3	口縁部は外反し、坏部との境に弱い稜をもつ。脚部はハの字状に開き、裾部は短く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。坏部～脚部ナデだが磨耗。裾部ヨコナデ。内面—口縁部～坏部上半ヨコナデ。坏部下半～坏底部ヘラナデ。脚部～裾部磨耗。	白色粒・赤褐色粒・雲母 内外—明赤褐色	3/4残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
20	土錘	長さ8.4、幅1.7、厚さ1.6、重さ22.42g。胎土：白色粒・礫。色調：にぶい黄橙色。				完形
21	土錘	長さ7.8、幅1.7、厚さ1.6、重さ21.51g。胎土：白色粒。色調：にぶい黄橙色。				完形
22	土錘	長さ7.1、幅1.7、厚さ1.6、重さ19.75g。胎土：白色粒・礫。色調：にぶい黄橙色。				端部欠損
23	土錘	長さ6.5、幅1.8、厚さ1.6、重さ17.32g。胎土：白色粒。色調：にぶい橙色。				端部欠損
24	土錘	長さ4.9、幅1.3、厚さ1.2、重さ6.25g。胎土：白色粒。色調：にぶい橙色。				完形
25	石製紡錘車	上面径3.8、下面径1.9、孔径0.6×0.5、厚さ1.9、重さ31.43g。石材：粘板岩。調整：研磨後、放射状のケズリ。				ほぼ完形
26	土玉	径0.9×0.9、厚さ0.8、重さ0.65g。胎土：白色粒。色調：にぶい黄褐色。				完形

第54号住居跡(第74～76図、第35表、図版12・118)

調査地点の南西隅近く、N12・13グリッドに位置し、J群に含まれる住居跡である。第58・73・76・77号住居跡を切って造られている。第31・47号住居跡に切られ、遺構の北隅や南東部分を大きく壊されている。また、第122号土坑により、西隅を部分的に壊されている。遺構の確認面は、黄褐色のローム層上面である。

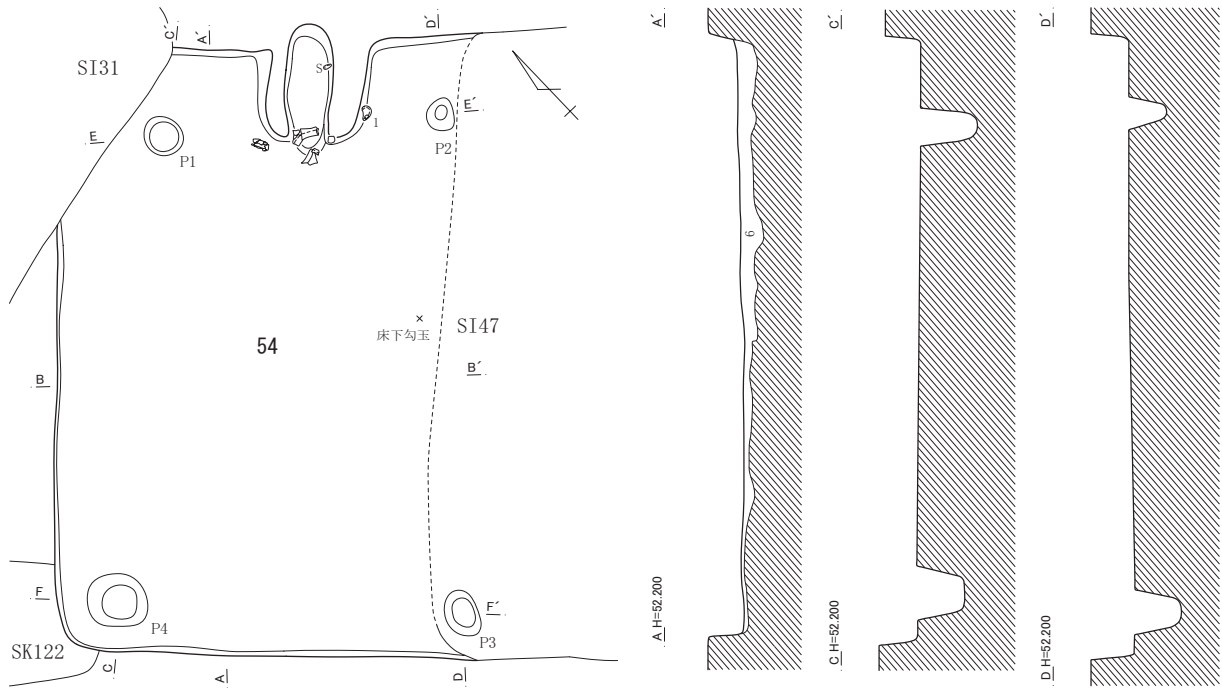
南東半を、第47号住居跡により大きく壊されているため平面形が捉えにくい、主軸方向がやや長い長方形に近い形態かと思う。規模は、主軸方向で4.88m、副軸方向の最も残りのよいところでの長さは3.22m、主軸方位はN-43°-Eである。床面には細かな凹凸が目立ち、全体に軽微ではあるが、硬化している。3壁ともに壁の立ち上がりは急峻で、壁高は、北東壁、南西壁で35cm、北西壁で37cmである。

P1～P4は、支柱穴と思われるピットである。平面形は、ほぼ円形のP1以外は、いずれもやや不整な楕円形で、深さは、P1が45cm、P2が32cm、P3、P4が37cmである。

カマドは、北東壁に設けられている。半島状に細長く突き出た袖に挟まれた長楕円形の燃焼部を有する形態である。燃焼面は、床面の高さより極々浅く掘りくぼめられ、作出されている。燃焼面の中央に微段が見られる。燃焼部の長さは104cm、横幅は38cmである。燃焼面の極一部が被熱赤化している。

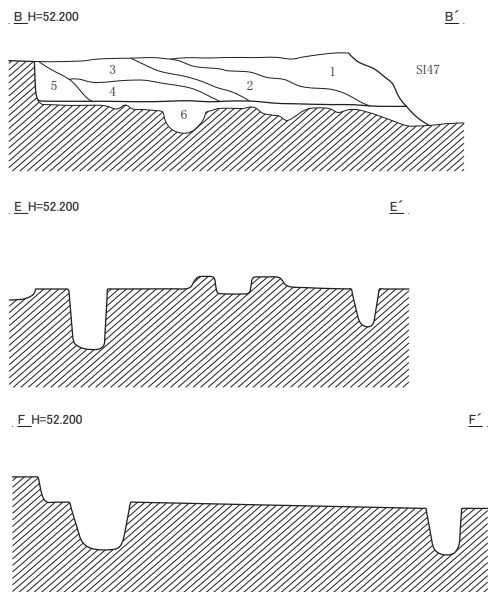
覆土は、暗褐色土を主とする5層で、第6層は、暗褐色土とロームの混合土の掘り方埋土である。

第76図1は、カマドの右袖に接して破片が出土している。3の被熱した石製勾玉は、住居跡中央東寄りの床下から出土した。他には、土師器片を主とする遺物が覆土中から出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末期後葉の遺構と考えられる。



第54号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・ローム小塊(～10mm)を少量含み、焼土粒(～4mm)を微量含む。
 - 第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を中量含み、ローム小塊(～40mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。
 - 第3層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含み、ローム粒(～6mm)・焼土粒(～4mm)を微量含む。
 - 第4層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～6mm)を多量に含み、ローム小塊(～25mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。
 - 第5層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を多量に含み、ローム小塊(～15mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。
- (掘り方埋土)
- 第6層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～40mm)を多量に含み、焼土粒(～4mm)を少量含む。しまっている。

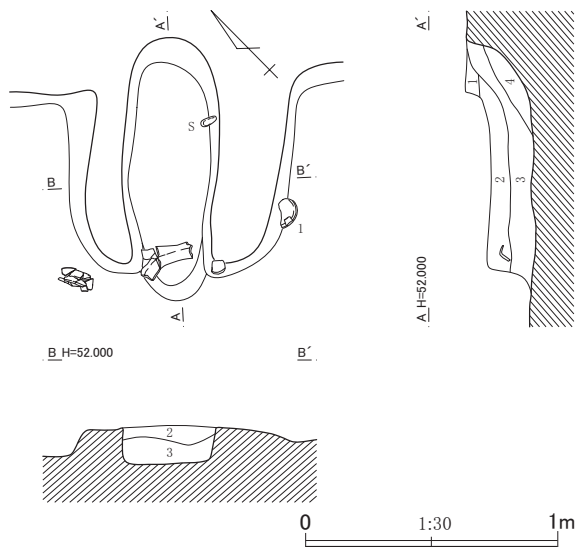


第74図 第54号住居跡平面・断面図(1)

第55号住居跡 (第77～79図、第36・37表、図版13・118)

調査地点の南西部の南縁沿い中央、N13、O13・14グリッドに位置し、J群に含まれる住居跡である。第67・82・132号住居跡を切っており、第253・255号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。また、第140号住居跡と重複する。なお、南隅付近は、調査範囲外である。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、北西壁に対して対辺の南東壁が短い台形様の形態である。規模は、主軸方向で5.56m、副軸方向で5.86m、主軸方位はN-55°-Eである。カマド前面の南東寄りの範囲など、床面が顕著に硬化している部分もあるが、全体としては、硬化は軽微である。床面には、微妙な凹凸が目立つようである。一部を除いて、壁の立ち上がりはゆるやかであり、壁高は、北東壁で18cm、北西壁で17cm



第75図 第54号住居跡平面・断面図（2）

第54号住居跡カマド土層説明

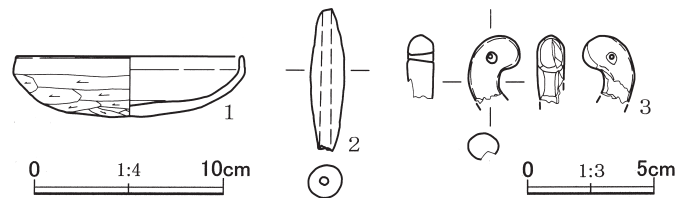
- 第1層：暗褐色土。暗褐色土を主体とし、粘土粒子（～2mm）を中量含み、焼土粒子（～1mm）を少量含む。しまりやや軟らかく、粘性やや高い。
- 第2層：明灰褐色土。粘土粒子（～4mm）・粘土小塊（～8mm）を主とし、暗褐色土粒子（～0.5mm）・焼土粒子（～2mm）を少量含む。しまりやや軟らかく、粘性やや高い。
- 第3層：明灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒子（～0.5mm）を多量に含み、粘土小塊（～8mm）を中量、焼土粒子（～2mm）を少量含む。しまりやや軟らかく、粘性やや高い。
- 第4層：暗褐色土。暗褐色土を主体とし、粘土粒子（～0.5mm）・焼土粒子（～2mm）を少量含み、粘土小塊（～20mm）を中量含む。しまりやや軟らかく、粘性やや高い。

第35表 第54号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 (12.5) 底径 — 器高 (3.3)	丸底。体部は大きく開き、口縁部は短く内傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒 内外—橙色	1/2残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
2	土錘	長さ5.8、幅1.4、厚さ1.3、重さ9.71g。胎土：白色粒・角閃石。色調：にぶい黄橙色。				完形
3	石製品 勾玉	長さ[2.8]、最大幅1.9、厚さ1.05、重さ[6.80]g。石材：被熱のため不明。調整：丁寧な研磨。				端部欠損

である。

柱穴と思われるピットは、P1のみである。平面形は楕円形で、深さは54cmである。貯蔵穴は、カマドの右袖脇、東隅に極近い位置で検出した。平面形はやや不整な円形で、径は73cmである。円形の底面に向かってゆるやかな傾斜をもって掘り込まれており、底面にはピット状の掘り込みが見られる。底面までの深さは、31cmである。



第76図 第54号住居跡出土遺物

カマドは、北東壁の著しく東隅に偏した位置に設けられている。燃焼部は、左右の袖に挟まれた卵形の空間で、燃焼面は、床面の高さよりかすかに深くなるよう掘りくぼめて造作されている。袖前端を焚口と見るなら、燃焼部の長さは70cm、横幅は35cmである。燃焼面、奥壁、側壁の一部は熱赤化しているように見えるが、赤化は顕著ではない。

覆土は、暗褐色土を主とする3層に分けられた。第4層は、北西壁沿いにかなりの厚みをもって堆積していた白色粘土である。

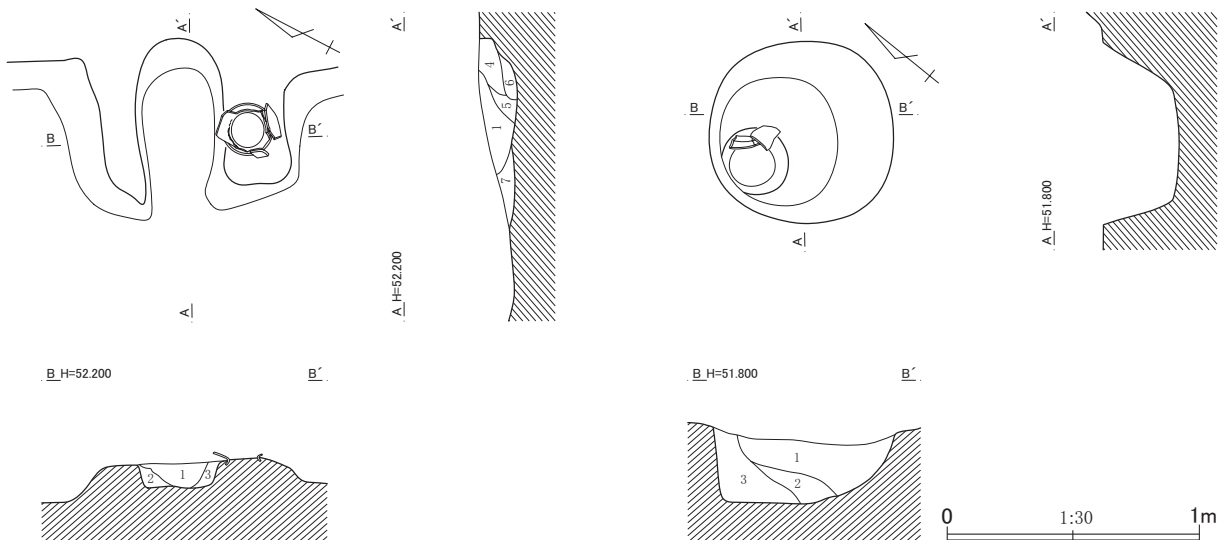
第79図4・5の坏2個体は、貯蔵穴の縁の直ぐ上から出土している。3の埴は、北西壁の脇から出土しているが、混入した遺物と見られる。なお、上記したように北西壁沿いの中央、床面に密着して、



第55号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)・炭化物粒(～2mm)・焼土粒(～2mm)を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・ローム粒(～8mm)・

- 焼土粒(～2mm)を微量含む。
- 第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)を中量含み、ローム粒(～8mm)を少量含む。
- 第4層：白色粘土。しまりは硬く、粘性は高い。



第77図 第55号住居跡平面・断面図(1)

第55号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・焼土粒(～2mm)を少量含み、粘土粒(～1mm)を中量、粘土小塊(～20mm)を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含み、ローム粒(～4mm)・焼土粒(～1mm)を微量、粘土粒(～1mm)を中量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を少量含み、粘土粒(～0.5mm)を中量、焼土粒(～1mm)を微量含む。粘性はやや強い。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を中量含む。
- 第5層：明灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～0.5mm)・焼土粒(～2mm)を中量含み、粘土小塊(～10mm)を多量に含む。
- 第6層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を中量含み、ローム

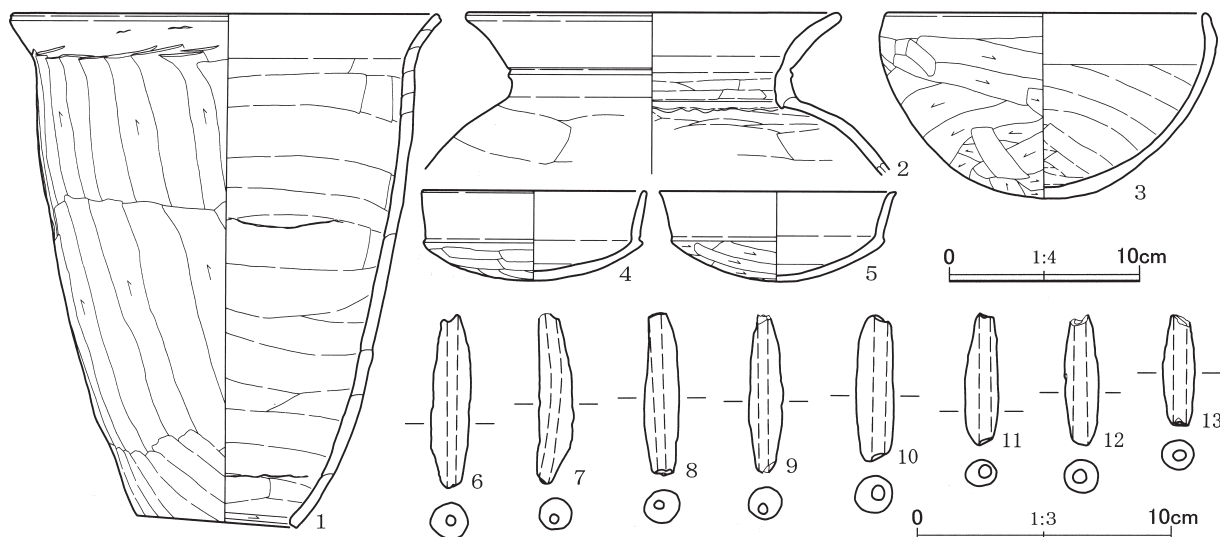
粒(～8mm)を少量、焼土粒(～1mm)を微量含む。

- 第7層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・粘土粒(～0.5mm)・粘土小塊(～10mm)を少量含み、焼土粒(～2mm)を微量含む。

第55号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・焼土粒(～2mm)を少量含み、ローム小塊(～20mm)を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)・ローム粒(～4mm)・焼土粒(～2mm)を少量含む。
- 第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～8mm)を中量含み、ローム小塊(～40mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。

第78図 第55号住居跡平面・断面図(2)



第79図 第55号住居跡出土遺物

第36表 第55号住居跡出土遺物観察表(1)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甌	口径 23.2 底径 8.7 器高 27.0	口縁部は外傾する。口唇部は外側に平坦面をもち、弱い凹線がめぐる。胴部は膨らみをもたない。底部は筒抜け。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部上～中位ヘラケズリ、下位ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。端部ヘラケズリ。	白色粒・黒色粒・赤褐色粒・石英 外-赤橙色 内-橙色	胴部下半1/4欠損
2	壺	口径 20.5 底径 — 器高 [8.9]	口縁部は外反し、下位に段を有する。肩部は張る。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ。頸部～胴部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・石英 内外-明赤褐色	口縁部～胴部上位
3	塊	口径 (17.5) 底径 — 器高 10.2	丸底。内彎する体部から、口縁部は内傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・角閃石 内外-橙色	3/4残存
4	坏	口径 12.2 底径 — 器高 4.9	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面-口縁部～体部中位ヨコナデ。体部下位～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外-明赤褐色	完形

C地点

第37表 第55号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
5	坏	口径 13.0 底径 — 器高 4.9	丸底。口縁部は体部との境に稜をもってやや外傾する。口唇部は内側に平坦面をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部中位ヨコナデ。体部下位～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・石英 内外—明赤褐色	4/5残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
6	土錘	長さ7.2、幅1.6、厚さ1.5、重さ14.72g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：明赤褐色。				完形
7	土錘	長さ[7.0]、幅1.4、厚さ1.3、重さ[12.05]g。胎土：白色粒。色調：橙色。				端部欠損
8	土錘	長さ6.6、幅1.5、厚さ1.4、重さ12.90g。胎土：白色粒。色調：橙色。				完形
9	土錘	長さ[6.4]、幅1.4、厚さ1.4、重さ[9.90]g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：橙色。				両端部欠損
10	土錘	長さ6.0、幅1.5、厚さ1.5、重さ13.60g。胎土：白色粒。色調：にぶい黄橙色。				完形
11	土錘	長さ5.4、幅1.3、厚さ1.1、重さ9.08g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい橙色。				完形
12	土錘	長さ[5.4]、幅1.4、厚さ1.4、重さ[9.24]g。胎土：白色粒。色調：黒色。				端部欠損
13	土錘	長さ[4.6]、幅1.3、厚さ1.2、重さ[6.59]g。胎土：白色粒・黒色通。色調：にぶい橙色。				端部欠損

白色の粘土がまとまって出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期中葉の遺構と考えられる。

第56号住居跡(第80・81図、第38表、図版13・118)

調査地点の南西部の南縁近くの中央、O13・14、P13グリッドに位置し、I群に含まれる住居跡である。第63・83・88・160・263号住居跡を切って造られている。また、時期の新しい遺構である第256・257号土坑に切られ、遺構の南西壁の一部を壊されている。確認面の大半は、黄褐色のローム層上面である。

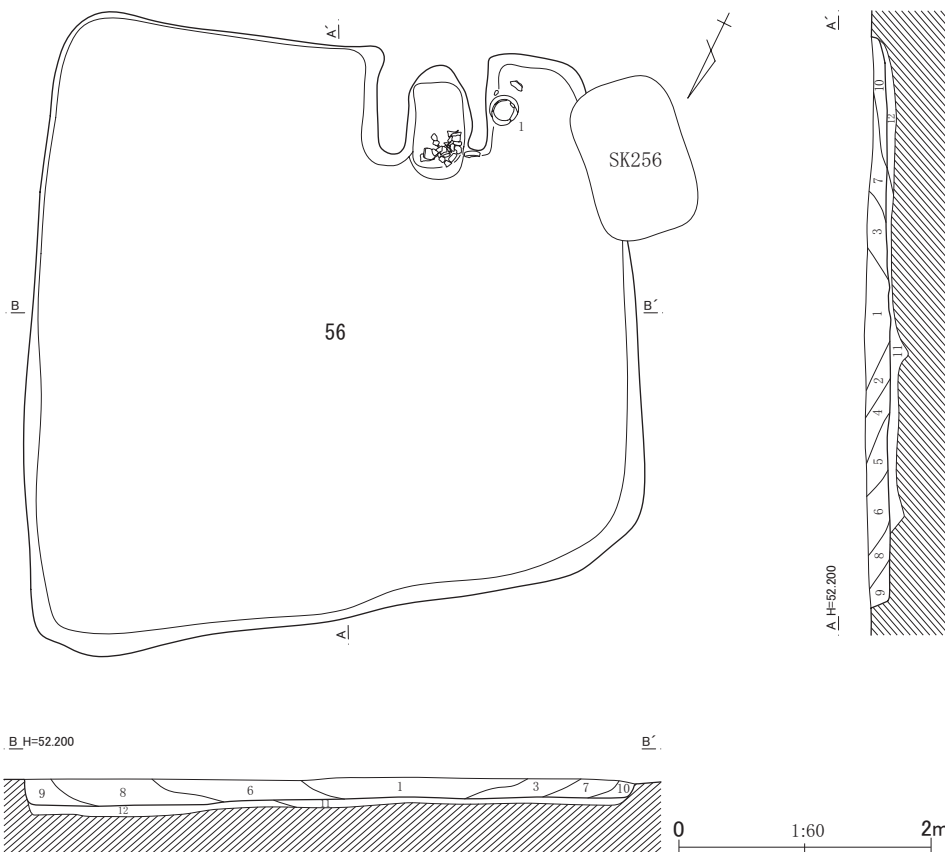
平面形は、北東壁とその対辺をなす南西壁の長さが大きく異なる歪な台形様の形態である。各隅間の中点を抜ける直線を取りあえず主軸とするなら、規模は、主軸方向で4.55m、副軸方向で4.80mとなり、主軸方位はS-26°-Eである。床面はほぼ平坦であり、東西隅を結ぶ線の南側が明瞭に硬化している。壁の立ち上がりは、北東壁、南東壁が急峻で、北西壁、南西壁は比較的ゆるやかである。壁高は、北東壁で19cm、北西壁で11cm、南東壁で6cm、南西壁で13cmである。

カマドは、南東壁の南隅にかなり寄った位置に設けられている。細長い両袖に挟まれた楕円形の燃焼部が残存する。燃焼面は、隅丸長方形に近い平面形で、浅く掘りくぼめ造作されている。燃焼部の長さは90cm、横幅は52cmである。燃焼面から左袖側の側壁、奥壁にかけて、軽微ではあるが、被熱赤化している。

覆土は、10層に分けられた。とくにA-A'断面では、ロームの多寡により細かく分層することができた。第11・12層は、ロームを主とする掘り方の埋土である。

第81図1の甕は、右袖沿いの床面よりやや浮いた位置から出土している。2の小型の鉢は、覆土中出土である。カマド内の焚口寄りの位置から土師器片がまとまって出土しているが、復元、図化できる個体は見られなかった。

重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末期末から奈良時代初頭にかけての遺構の可能性が考えられるようか。



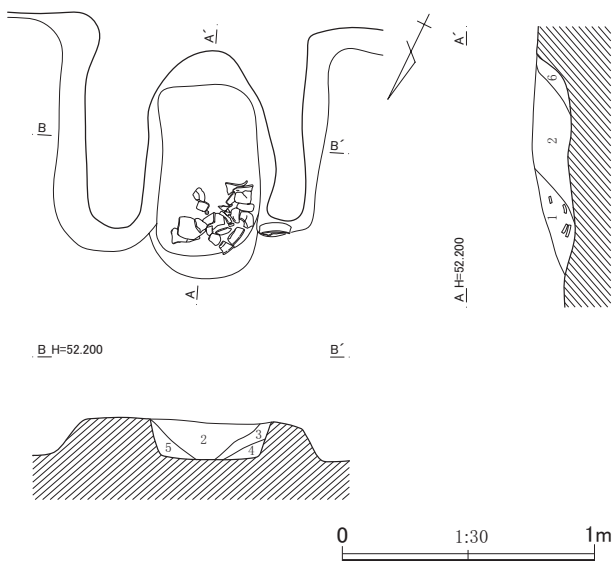
第56号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)中量含み、粘土粒(～20mm)を少量含む。
- 第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)・ローム小塊(～15mm)を中量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)・ローム小塊(～15mm)・炭化物粒(～4mm)を少量含む。

(掘り方埋土)

- 第11層：黄褐色土。ローム小塊を主とし、明褐色土粒子(～1mm)を中量含む。ややしまっている。
- 第12層：黄褐色土。ローム小塊を主とし、ローム粒(～3mm)を中量含む。ややしまっている。

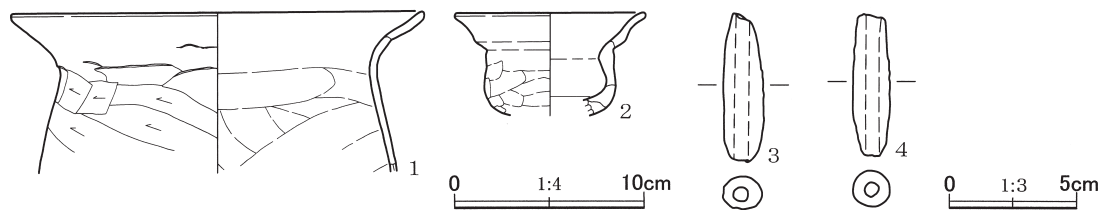
- 第5層：暗褐色土。ローム粒(～8mm)・ローム小塊(～20mm)を少量含む。
- 第6層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を少量含む。
- 第7層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・炭化物粒(～1mm)を少量含む。
- 第8層：明褐色土。ローム粒(～2mm)を中量含む。
- 第9層：明褐色土。ローム粒(～1mm)・ローム小塊(～15mm)を中量含む。
- 第10層：明褐色土。ローム粒(～1mm)を多量に含み、ローム粒(～4mm)を少量含む。



第56号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～15mm)を少量含み、焼土粒(～1mm)を中量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・炭化物粒(～1mm)を少量含み、ローム小塊(～40mm)を微量、焼土粒(～2mm)を中量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・焼土粒(～2mm)を微量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)・ローム小塊(～10mm)を少量含み、焼土粒(～2mm)を微量含む。
- 第5層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)・ローム粒(～2mm)を少量含み、焼土粒(～2mm)を微量含む。
- 第6層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・焼土粒(～2mm)を微量含み、ローム粒(～5mm)を少量含む。

第80図 第56号住居跡平面・断面図



第81図 第56号住居跡出土遺物

第38表 第56号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 22.6 底径 — 器高 [9.8]	口縁部は外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	角閃石・白色粒・黒色粒 内外—橙色	口縁部～胴部上位
2	鉢	口径 (10.4) 底径 — 器高 [5.6]	口縁部は外反する。体部は丸みをもたない。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ナデ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。	白色粒・礫 内外—橙色	底部1/3欠損
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
3	土錘	長さ6.2、幅1.6、厚さ1.4、重さ13.39g。胎土：白色粒。色調：明赤褐色。				完形
4	土錘	長さ5.9、幅1.5、厚さ1.5、重さ12.46g。胎土：白色粒。色調：にぶい褐色。				ほぼ完形

第57号住居跡 (第82～86図、第39・40表、図版13・119・120)

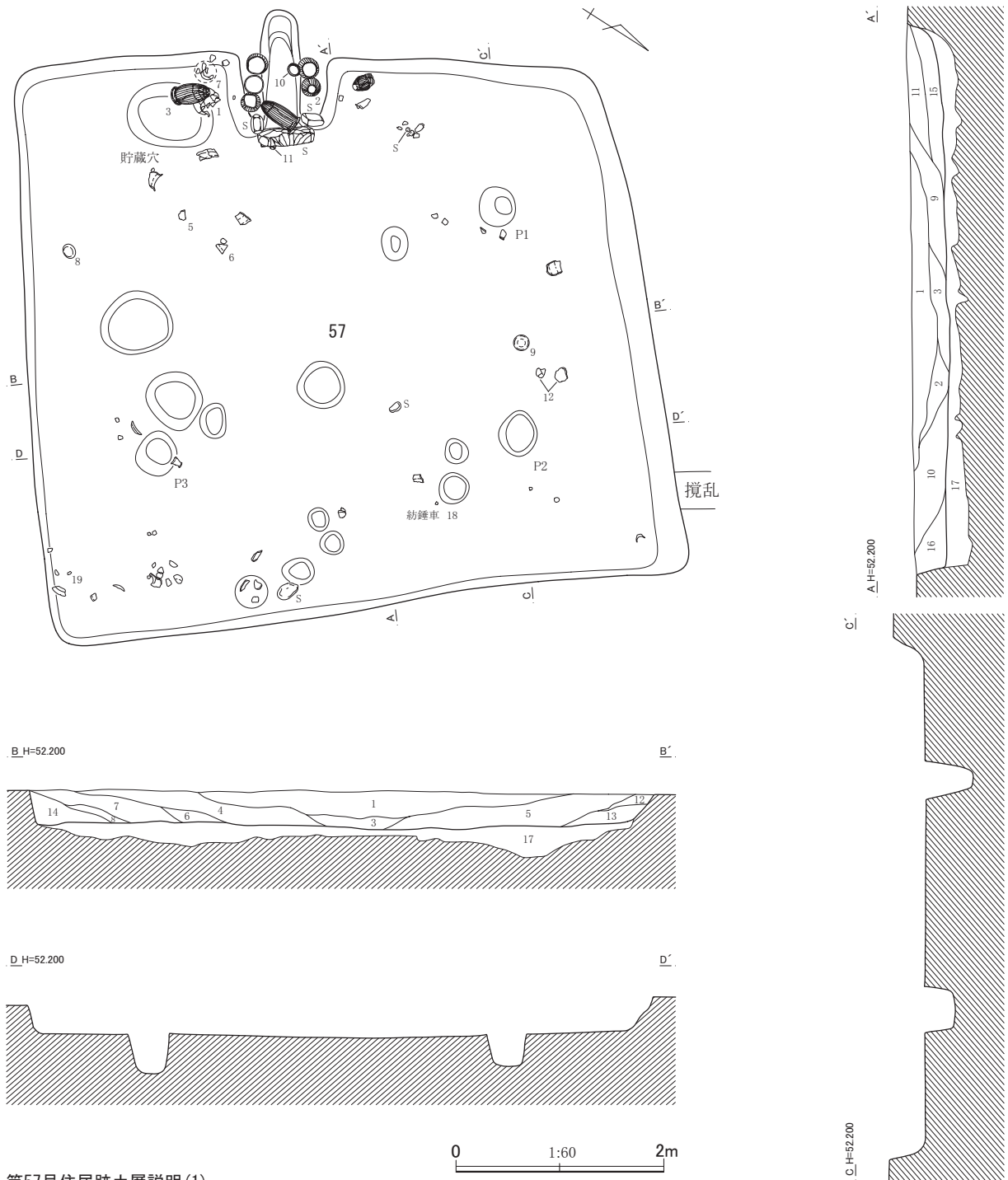
調査地点の中央、若干南西寄り、P10・11、Q11グリッドに位置し、F群に含まれる住居跡である。第124・151・181・182・296号住居跡を切っており、第424号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、やや不整な横長の長方形と見られる。規模は、主軸方向で5.27m、副軸方向で6.03m、主軸方位はS-49°-Wである。床面は、部分的に硬化しているが、全体的には軽微であり、微かな凹凸が見られる。壁の立ち上がりは、南西壁、北西壁がゆるやかで、南東壁、北東壁は比較的急である。壁高は、南東壁で34cm、南西壁で23cm、北東壁で29cm、北西壁で26cmである。

P1～P3は、支柱穴であろう。平面形は楕円形で、深さは、P1が47cm、P2が33cm、P3が38cmである。左袖脇のピットは、貯蔵穴であろう。平面形は楕円形で、長径83cm、短径は62cmである。丸みのあるバケツ状に掘り込まれており、深さは47cmである。ローム粒やローム小塊を顕著に含む暗褐色土が不規則に堆積しており、埋め戻されたかにも見える。

カマドは、南西壁のやや南隅に寄った位置に設けられている。幅広の両袖に挟まれたかなり細長い長楕円形の燃焼部が残存する。奥壁は段差をなし、煙道に連なるのであろう。袖端と奥壁端を燃焼部の末端とするなら、燃焼部の長さは113cm、横幅は33cmである。燃焼面は、極わずかではあるが、掘りくぼめられているようである。左袖には、3個体の甕がわずかな間隔をあげ並列され袖甕として埋め込まれており、右袖には、2個体の甕が口縁部を接して同様に埋置されている。両袖端には、長さが32cm、36cmほどの部分的に敲打された長円礫、長方形礫2個が立てた状態で袖に埋め込まれており、長さが55cmほどの敲打加工された角柱状の礫が焚口を塞いで横倒しで出土している。角柱状の礫は、おそらく両袖先端に門柱のように埋め込まれた礫の上に置かれ、アーチ状の焚口をなしていたと推定できる。燃焼部の側壁、奥壁の一部は、被熱赤化している。

覆土は、暗褐色土を主とする16層に分けられた。壁際のロームの目立つ第10～16層が堆積した後、総じて層厚の厚い第1～9層が堆積して埋まった模様である。第17層は、暗褐色土とロームの混合土



第57号住居跡土層説明(1)

- | | |
|---|--|
| 第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～5mm)を少量含む。 | 第6層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～10mm)を中量含む。 |
| 第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～5mm)を少量含む。 | 第7層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～20mm)を少量含む。 |
| 第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含み、焼土粒(～5mm)を微量含む。 | 第8層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～10mm)を少量含む。 |
| 第4層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・焼土粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)を少量含む。 | 第9層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を中量、焼土粒(～5mm)を微量含む。 |
| 第5層：暗褐色土。 | |

第82図 第57号住居跡平面・断面図(1)

C地点

第57号住居跡土層説明(2)

第10層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を中量、焼土粒(～5mm)を微量含む。

第11層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・粘土粒(～5mm)・粘土小塊(～50mm)・焼土粒(～5mm)を少量含み、ローム小塊(～20mm)を微量含む。

第12層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～10mm)を少量含む。

第13層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・焼土粒(～5mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を中量含む。

第14層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～10mm)

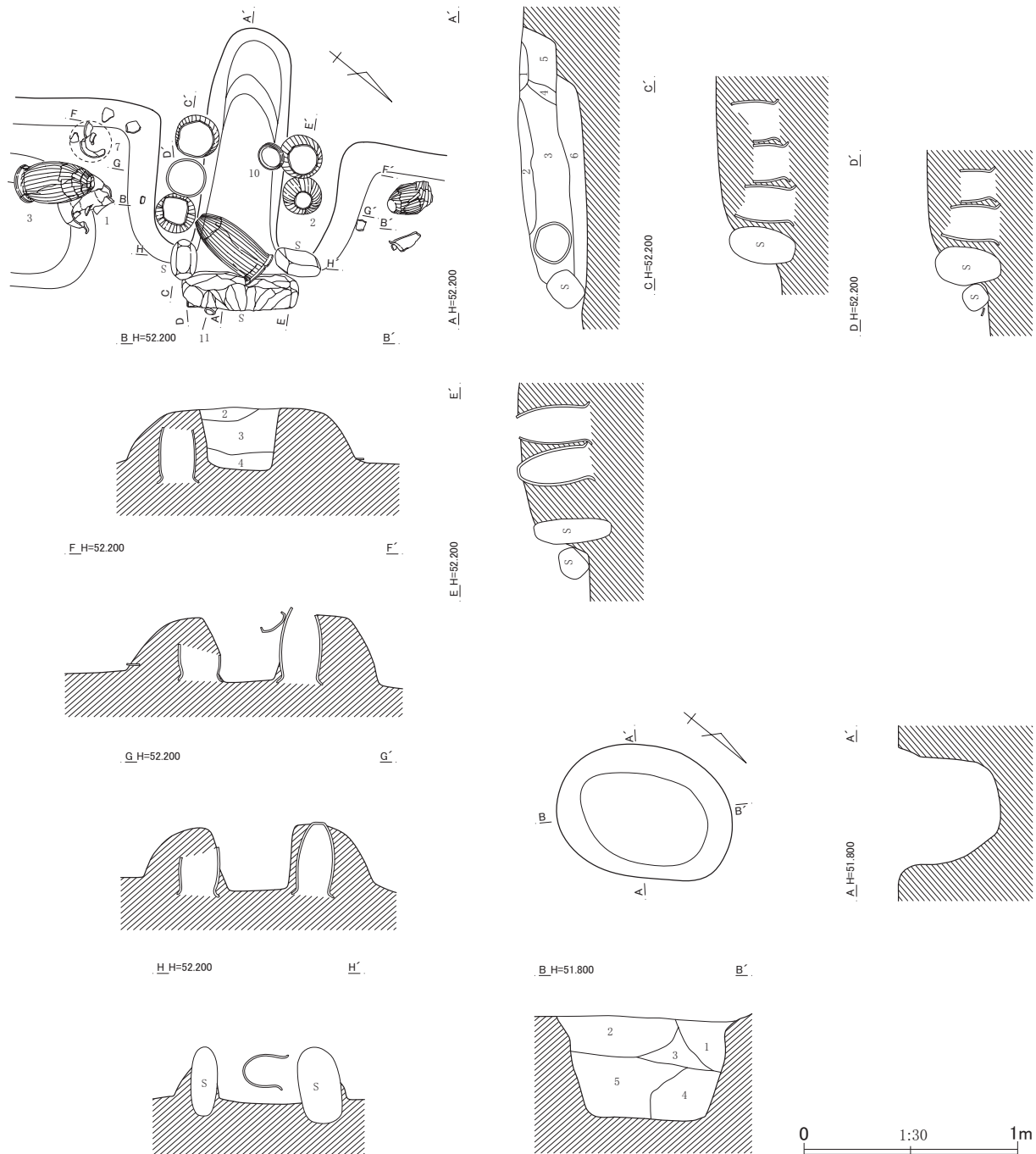
を中量含む。

第15層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～10mm)・粘土粒(～5mm)を少量含み、粘土小塊(～20mm)を中量、焼土粒(～5mm)を微量含む。

第16層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を微量含み、焼土粒(～5mm)を少量含む。

〈掘り方埋土〉

第17層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)を中量含み、ローム小塊(～30mm)を微量含む。ややしまっており、粘性は弱い。



第83図 第57号住居跡平面・断面図(2)

第57号住居跡カマド土層説明

第1層：暗灰褐色土。暗灰褐色土を主体とし、焼土粒子(～4mm)を少量含む。しまりやや軟らかく、粘性は普通。

第2層：暗灰褐色土。暗灰褐色土を主体とし、粘土粒子(～8mm)・粘土小塊(～10mm)を中量含む、焼土粒子(～4mm)を少量含む。しまりやや軟らかく、粘性は高い。

第3層：明黄赤褐色土。焼土粒子(～4mm)・焼土小塊(～20mm)を多量含む。しまりやや軟らかく、粘性は高い。

第4層：黄灰褐色土。黄褐色粘土を主体とし、焼土粒子(～2mm)を微量含む。しまりやや軟らかく、粘性は高い。

第5層：暗褐色土。暗褐色土を主体とする。

第6層：暗褐色土。暗褐色土を主体とし、粘土粒子(～0.5mm)を少量含む、炭化物粒子(～2mm)・焼土粒子(～4mm)

を中量含む。しまりやや軟らかく、粘性は普通。

第57号住居跡貯蔵穴土層説明

第1層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)を中量含む、ローム小塊(～30mm)を微量含む。粘性は弱い。

第2層：暗褐色土。ローム小塊(～15mm)・ローム小塊(～30mm)を中量含む。粘性は弱い。

第3層：暗褐色土。ローム粒(～10mm)を少量含む。粘性は弱い。

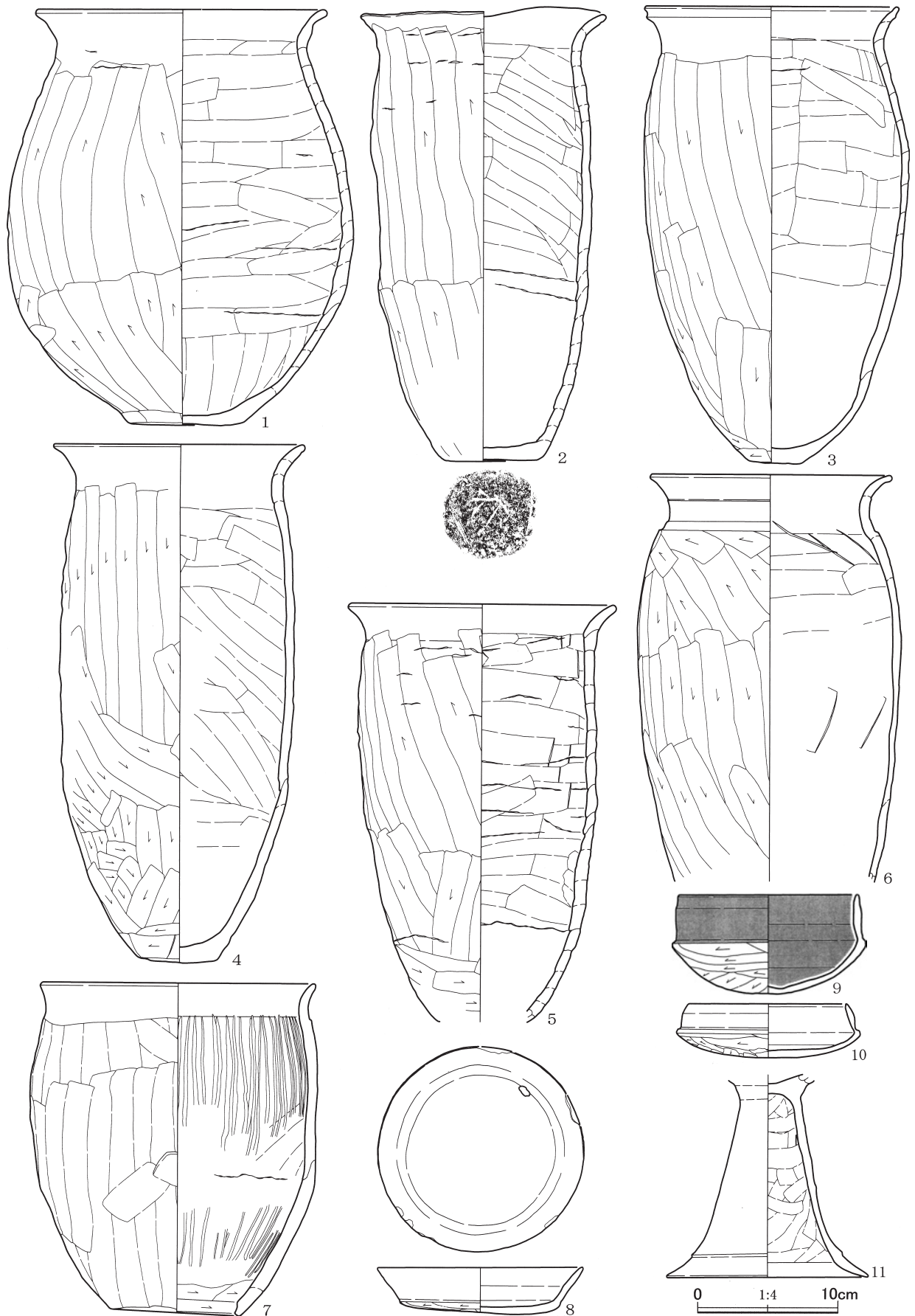
第4層：暗褐色土。ローム小塊(～20mm)を中量含む、ローム小塊(～50mm)を多量に含む。粘性は弱い。

第5層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～20mm)を少量含む。粘性は弱い。

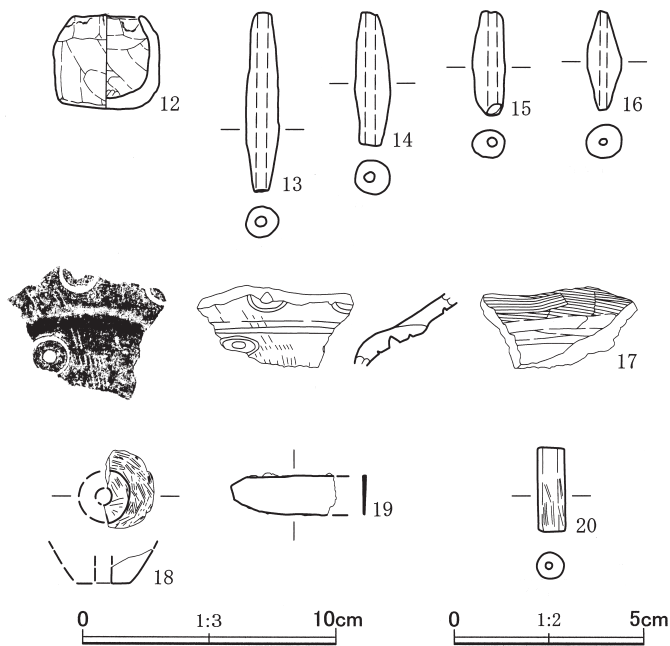
第84図 第57号住居跡平面・断面図(3)

第39表 第57号住居跡出土遺物観察表(1)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 21.3 底径 8.4 器高 31.2	口縁部は外反する。胴部は中～下位に丸みをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	角閃石・石英・白色粒・黒色粒 内外－橙色	ほぼ完形
2	甕	口径 18.0 底径 6.8 器高 32.0	口縁部は外反する。胴部は膨らみをもたない。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。底部木葉痕、周縁ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	片岩・石英・白色粒・黒色粒 内外－橙色	胴部下位1/4欠損
3	甕	口径 18.8 底径 4.0 器高 34.2	口縁部は外反し、上端で短く直立する。口唇部は外面に凹線がめぐる。胴部は中位にわずかな膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	片岩・石英・白色粒・赤褐色粒 内外－橙色	ほぼ完形
4	甕	口径 (18.6) 底径 5.8 器高 37.0	口縁部は外反する。胴部は膨らみをもたない。平底で丸みを帯びる。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	角閃石・石英・白色粒・赤褐色粒 内外－黄橙色	3/4残存
5	甕	口径 19.5 底径 — 器高 [31.3]	口縁部は外反する。胴部は膨らみをもたない。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	片岩・石英・角閃石・白色粒 内外－橙色	底部欠損
6	甕	口径 17.7 底径 — 器高 [30.5]	口縁部は強く外反する。胴部は口縁部との境に稜をもち、上位がわずかに膨らむ。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	石英・角閃石・白色粒・赤褐色粒 内外－にぶい橙色	口縁部～胴部下位
7	甗	口径 20.3 底径 (9.5) 器高 23.6	口縁部は外反する。胴部は中位にやや膨らみをもつ。底部は筒抜け。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ後ミガキ。端部ヘラケズリ。	片岩・石英・白色粒・礫 内外－にぶい橙色	胴下部1/2欠損 内面胴部中位は帯状に磨耗
8	坏	口径 15.4 底径 — 器高 3.5	平底気味。体部は浅く、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外－橙色	ほぼ完形 底部穿孔(孔径1.0×0.6cm)
9	坏	口径 13.3 底径 — 器高 7.4	丸底。体部は深く、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は長く、内傾気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。口縁部黒色処理。内面－口縁部～体部上半ヨコナデ。体部下半～底部ヘラナデ。黒色処理。	白色粒・石英 外－橙色 内－黒褐色	ほぼ完形
10	坏	口径 11.8 底径 — 器高 4.0	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって内傾する。口唇部は内側に面をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・角閃石 内外－橙色	完形
11	高坏	口径 — 底径 15.0 器高 [15.2]	脚部は下方へ向かって開き、裾部との境に稜をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面－脚部ナデ。裾部ヨコナデ。内面－脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。	白色粒・黒色粒 外－にぶい橙色 内－橙色	脚部 外面に粘土付着



第85図 第57号住居跡出土遺物 (1)



第86図 第57号住居跡出土遺物(2)

子片かと思われる鉄片は、東隅の近くから出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期後葉後半の遺構と考えられる。

第40表 第57号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
12	手捏ね土器	口径 (2.8) 底径 3.5 器高 3.9	平底から体部は直立する。口縁部は未調整で整っていない。手捏ね成形。	外面-口縁部~底部ナデ。内面-口縁部~底部ナデ。	白色粒・石英 外-にぶい黄橙色 内-暗灰黄色	2/3残存
17	壺	口径 — 底径 — 器高 —	口縁部に段を有する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部縦ハケ後ヨコナデ。竹管による円形文。内面-口縁部横ハケ後ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外-にぶい黄橙色	口縁部破片混入
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
13	土錘	長さ7.4、幅1.4、厚さ1.3、重さ12.63g。胎土：白色粒。色調：にぶい黄褐色。				完形
14	土錘	長さ5.5、幅1.5、厚さ1.4、重さ10.14g。胎土：白色粒。色調：橙色。				ほぼ完形
15	土錘	長さ4.3、幅1.4、厚さ1.1、重さ6.71g。胎土：白色粒・角閃石。色調：橙色。				完形
16	土錘	長さ4.1、幅1.4、厚さ1.3、重さ5.72g。胎土：白色粒。色調：にぶい黄褐色。				完形
18	石製紡錘車	上面径一、下面径(2.1)、孔径(0.7×0.7)、厚さ[1.3]、重さ[8.68]g。石材：粘板岩。調整：丁寧な研磨。				破片
19	鉄製品刀子?	長さ[4.3]、幅1.8、厚さ0.1、重さ[3.84]g。				破片
20	石製品管玉	長さ2.3、幅0.8、穿孔幅0.2、重さ2.64g。石材：粘板岩。調整：丁寧な研磨。				完形

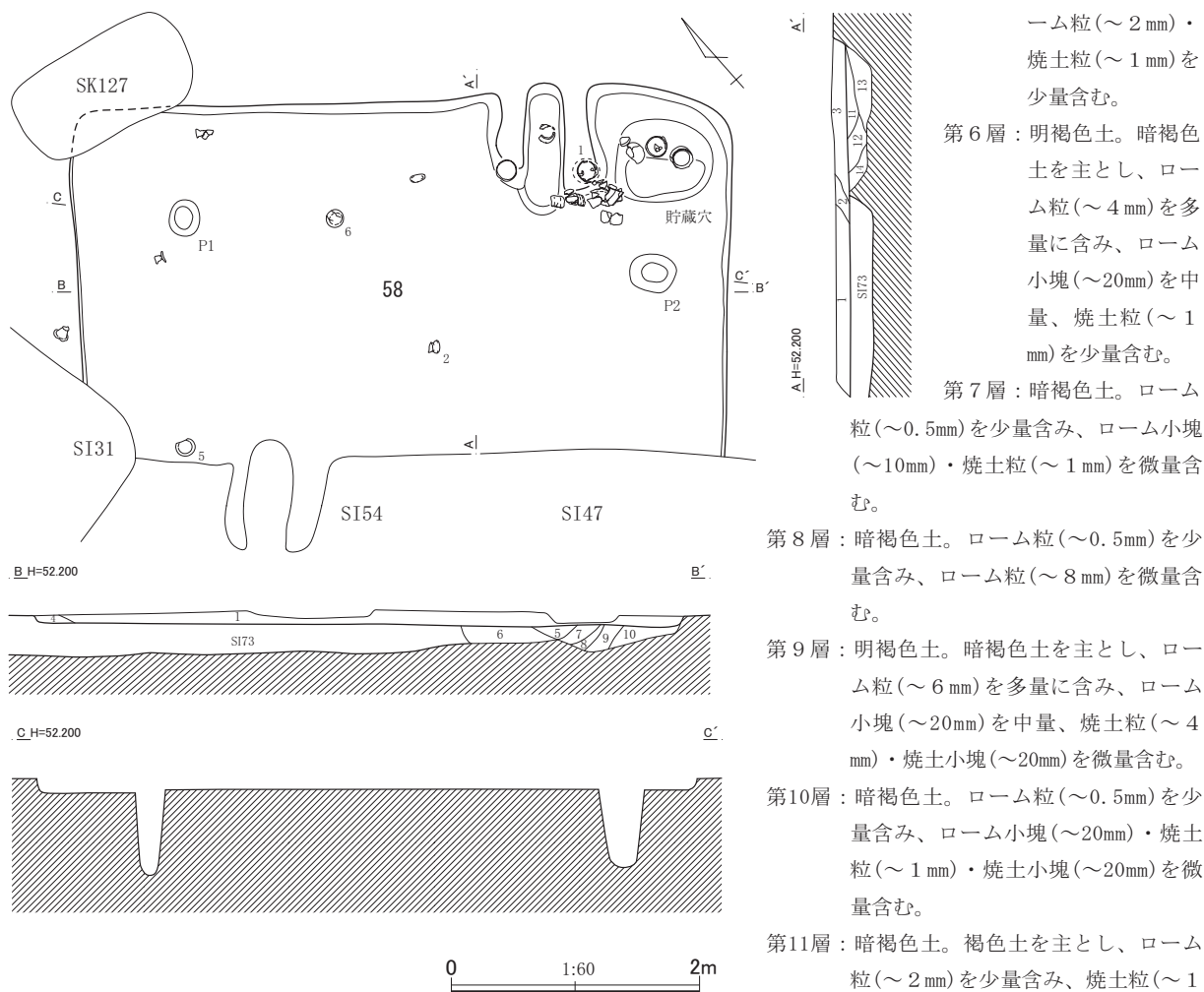
第58号住居跡(第87~89図、第41・42表、図版14・120)

調査地点の南西半の中央の南寄り、N12、O12グリッドに位置し、J群に含まれる住居跡である。第73・75・87号住居跡を切っており、第31・47・54号住居跡、第127号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、方形ないしは長方形になろうか。規模は、主軸方向の現存長で2.87m、副軸方向で5.23m、主軸方位はN-43°-Eである。床面はほぼ平坦であり、カマド前面から南東壁にかけて硬化している。壁の立ち上がりはわずかであり、壁高は、最も残りのよい北東壁でも10cmに満たない。

である掘り方埋土である。

第85図4は、右袖甕として用いられた土器である。2の甕、10の坏は、カマド内から、11の高坏脚部は、上記したカマド焚口の角柱状の礫の下から出土している。なお、5・6の甕も袖甕と思われるが、出土位置を確定することができなかった。1・3の甕、7の甗は、貯蔵穴から左袖にかけての下層~最下層から出土している。8・9の坏、12のミニチュア土器や土師器片などの遺物は、とくに1箇所に集中することなく分散して、主に上・中層から出土している。8の皿に近い坏は、混入した遺物の可能性も考えられるが、断定できない。18の石製紡錘車は、北西壁寄りの中央から、19の刀



第58号住居跡土層説明

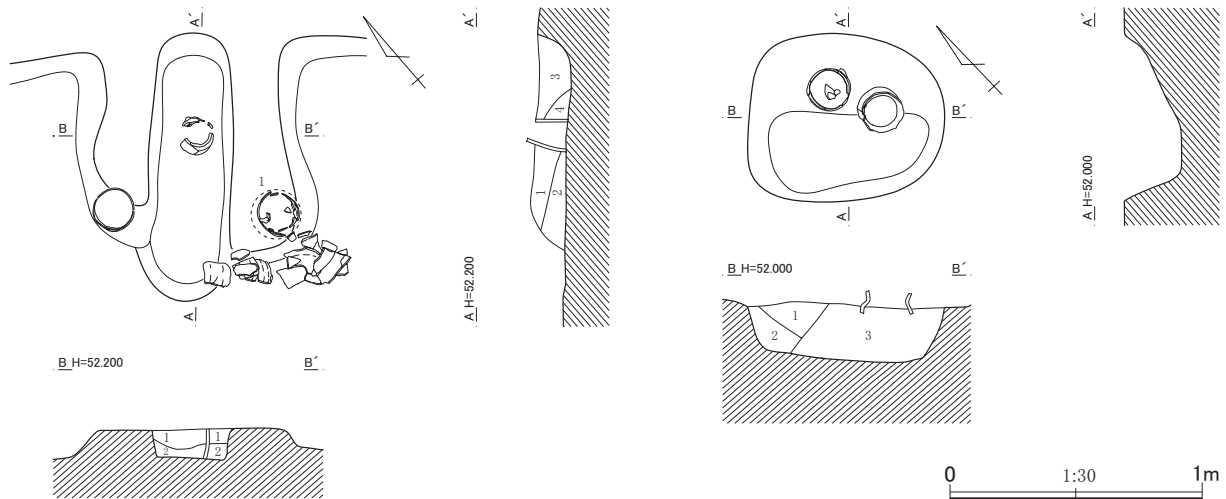
- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)・ローム小塊(～10mm)を少量含み、焼土粒(～4mm)を微量含む。
- 第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～6mm)・ローム小塊(～20mm)を中量含み、焼土粒(～2mm)を少量、焼土小塊(～10mm)を微量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・ローム小塊(～20mm)を少量含み、焼土粒(～4mm)を微量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を少量含む。
〈掘り方埋土〉
- 第5層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～0.5mm)を中量含み、ロ

- ーム粒(～2mm)・焼土粒(～1mm)を少量含む。
- 第6層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を多量に含み、ローム小塊(～20mm)を中量、焼土粒(～1mm)を少量含む。
- 第7層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～1mm)を微量含む。
- 第8層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を少量含み、ローム粒(～8mm)を微量含む。
- 第9層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～6mm)を多量に含み、ローム小塊(～20mm)を中量、焼土粒(～4mm)・焼土小塊(～20mm)を微量含む。
- 第10層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を少量含み、ローム小塊(～20mm)・焼土粒(～1mm)・焼土小塊(～20mm)を微量含む。
- 第11層：暗褐色土。褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)を少量含み、焼土粒(～1mm)を微量含む。
- 第12層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)を中量含み、ローム小塊(～15mm)・焼土粒(～4mm)を微量含む。
- 第13層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～6mm)を中量含み、ローム小塊(～8cm)・焼土粒(～2mm)・焼土小塊(～20mm)を微量含む。
- 第14層：明褐色土。ローム土を主とし、暗褐色土小塊(～40mm)を少量含む。

第87図 第58号住居跡平面・断面図(1)

P1・P2は、支柱穴であろう。平面形は、やや不整な楕円形で、深さは、P1が78cm、P2が58cmである。カマドの右袖と東隅の間にあるピットは、貯蔵穴であろう。平面形はやや不整な楕円形で、長径78cm、短径66cmである。丸みをもって掘り込まれており、底面には段差がある。最深部での深さは23cmである。

カマドは、北東壁の著しく東隅に偏した位置に設けられている。長短のある両袖に挟まれた細長い長楕円形の燃焼部が残存する。燃焼面は、浅く掘りくぼめ造作されている。燃焼部の長さは107cm、



第58号住居跡カマド土層説明

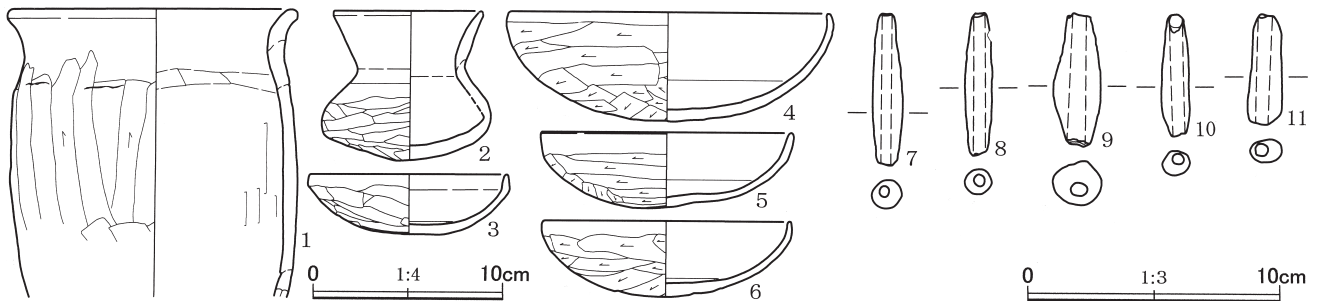
- 第1層：明灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～4mm)・粘土小塊(～10mm)・焼土粒(～6mm)を少量含む。粘性はやや強い。
- 第2層：暗褐色土。粘土粒(～2mm)・炭化物粒(～8mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む、粘土粒(～8mm)を微量含む。粘性はやや強い。
- 第3層：暗褐色土。粘土粒(～2mm)・焼土粒(～2mm)を少量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・ローム粒(～8mm)を

少量含む、焼土粒(～2mm)を微量含む。

第58号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土。粘土粒(～0.5mm)を少量含む、焼土粒(～2mm)を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を少量含む、ローム小塊(～20mm)を微量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・炭化物粒(～2mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む、ローム小塊(～10mm)を微量含む。

第88図 第58号住居跡平面・断面図(2)



第89図 第58号住居跡出土遺物

第41表 第58号住居跡出土遺物観察表(1)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手の特徴	調整・装飾手の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 15.3 底径 — 器高 [15.8]	口縁部は強く外反する。胴部は膨らみをもたない。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	角閃石・石英・白色粒 内外—にぶい褐色	口縁部～胴部中位
2	小型壺	口径 8.2 底径 — 器高 8.3	口縁部は外傾する。体部は中位で大きく張る。丸底。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部上位ナデ、体部中位～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部ナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・雲母 内外—赤褐色	口縁部5/6欠損
3	坏	口径 (10.9) 底径 — 器高 3.4	丸底。体部は浅く、口縁部は短く直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・角閃石 内外—橙色	1/2残存
4	坏	口径 (17.6) 底径 — 器高 6.0	丸底。体部は内彎し、口縁部は短く内屈する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部上半ヨコナデ。体部下半～底部ヘラナデ。	白色粒・角閃石・石英 内外—橙色	1/2残存

C地点

第42表 第58号住居跡出土遺物観察表（2）

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
5	坏	口径 13.9 底径 — 器高 4.2	丸底。体部は内彎し、口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・角閃石・石英 内外—橙色	4/5残存
6	坏	口径 13.6 底径 — 器高 4.2	丸底。体部は内彎し、口縁部は短く直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・角閃石・石英 内外—橙色	完形
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
7	土錘	長さ6.3、幅1.2、厚さ1.2、重さ9.07g。胎土：白色粒・角閃石。色調：にぶい橙色。				完形
8	土錘	長さ5.9、幅1.1、厚さ1.0、重さ[6.38]g。胎土：白色粒。色調：にぶい橙色。				ほぼ完形
9	土錘	長さ5.5、幅2.0、厚さ1.8、重さ15.85g。胎土：白色粒・角閃石。色調：灰褐色。				完形
10	土錘	長さ5.0、幅1.2、厚さ1.0、重さ5.60g。胎土：白色粒。色調：灰褐色。				ほぼ完形
11	土錘	長さ4.6、幅1.3、厚さ0.5、重さ6.34g。胎土：白色粒。色調：にぶい黄橙色。				完形

横幅は34cmである。右袖には、第89図1の甕が埋め込まれている。側壁から奥壁にかけて、局所的に被熱赤化している。

覆土は、暗褐色土を主とする4層に分けられた。第5～14層は、掘り方の埋土である。壁際を深く掘り下げ粗掘り面とし、暗褐色土とロームの混合土で埋めて床を作出している。

第89図1の甕は、カマド右袖の袖甕である。5の坏は、第54号住居跡に切られた部分の直ぐ脇のから、6の坏は、奥壁寄りのカマドとP1の間の床面直上から出土した。また、貯蔵穴の上から2個体分の甕片が出土しているが、図化していない。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末期後葉の遺構と考えられる。

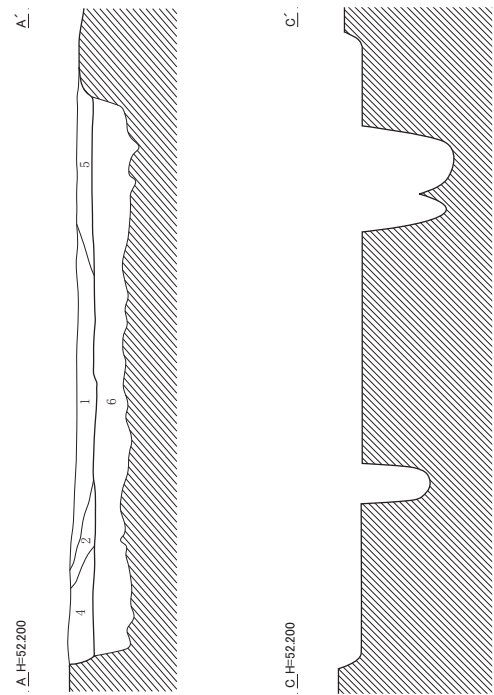
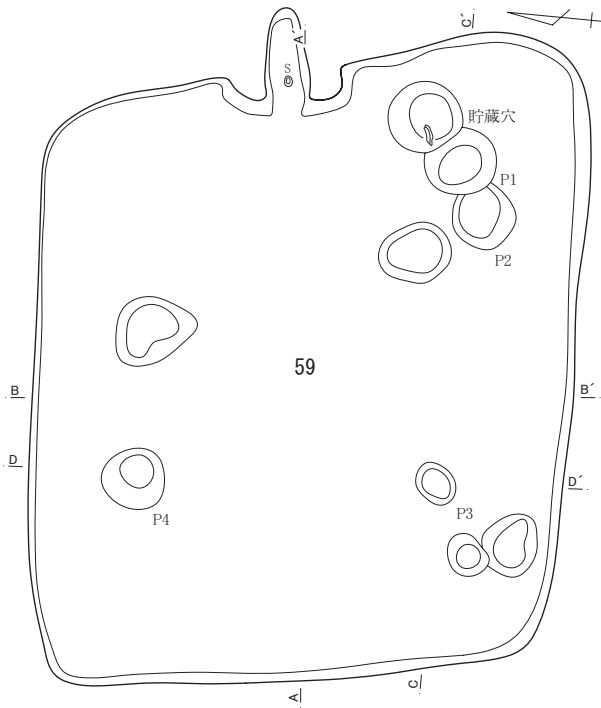
第59号住居跡（第90～92図、第43表、図版14・120）

調査地点の西半のほぼ中央、Q10・11グリッドに位置し、F群に含まれる住居跡である。第182・296号住居跡を切っており、第423～426号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、南東隅がかなり鋭角をなすため、歪な長方形ないしは台形に近い形態である。規模は、対称軸に近い部分の主軸方向で4.80m、副軸方向で4.24mであるが、南壁近くでの主軸方向での長さは、5m弱になり、歪みが著しいことが判る。主軸方位は、N-6°-Wである。床面の硬化は、顕著ではない。壁の立ち上がりは比較的急であり、南北壁、東壁で12、13cm、西壁で19cmである。

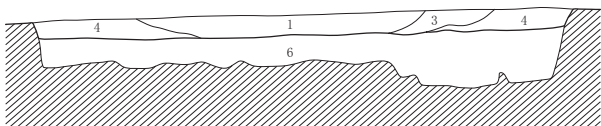
支柱穴の可能性のあるピットは、位置的に見て、P1～P4の4つである。P1、P2は重複するが、柱の付け替え、ないしはどちらかが本住居跡に伴わないのか、決めかねる。平面形は、いずれもやや歪な楕円形で、深さは、P1が57cm、P2が56cm、P3が40cm、P4が66cmである。カマドの右袖脇のピットは、貯蔵穴であろう。平面形は円形で、径57cm前後である。丸みをもって掘り込まれており、深さは40cmである。他に床面で検出したピットが4つあるが、本住居跡に伴わない可能性も残るようである。

カマドは、東壁の中央、若干北東隅に寄った位置に設けられている。細長い燃焼部を有し、短い袖が付く形態である。燃焼部の長さは84cm、横幅は35cmである。燃焼面は、床面とほぼ同じ高さで、左袖側の側壁、奥壁が被熱赤化している。燃焼面の中央、焚口寄りで見え置かれたような状態で出土した円礫は、支脚であろう。カマド覆土の第1～3層は、暗灰褐色粘土を主とし、天井部や側壁の崩落



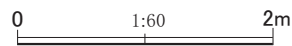
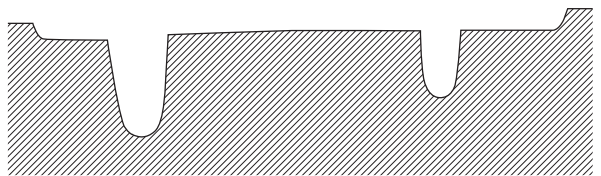
B H=52.200

B'



D H=52.200

D'



第59号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)・焼土粒(～2mm)を微量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含み、炭化物粒(～0.5mm)を中量、焼土粒(～2mm)を微量含む。

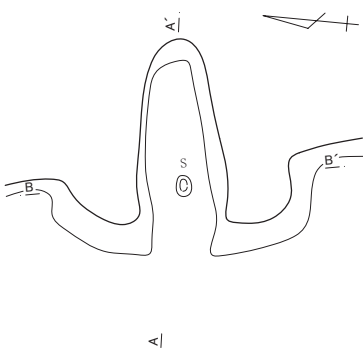
第3層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を微量含む。

第4層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を中量含み、ローム粒(～6mm)・焼土粒(～2mm)を少量含む。

第5層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・炭化物粒(～1mm)を少量含み、焼土粒(～2mm)を中量含む。粘性はやや強い。

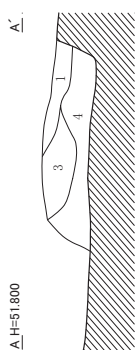
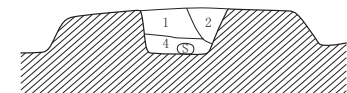
(掘り方埋土)

第6層：暗褐色土。ローム小塊(～30mm)を中量含み、ローム小塊(～50mm)を少量含む。ややしまっており、粘性は弱い。

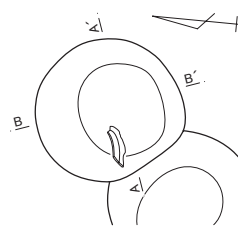


B H=51.800

B'

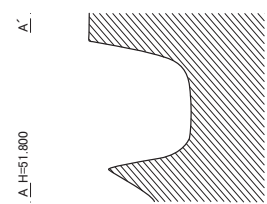
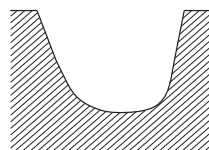


A H=51.800



B H=51.800

B'



A H=51.800



第90図 第59号住居跡平面・断面図(1)

C地点

第59号住居跡カマド土層説明

第1層：暗赤褐色土。暗灰褐色粘土を主とし、焼土粒(～6mm)・焼土小塊(～20mm)を中量含む。粘性はやや強い。
 第2層：暗赤褐色土。暗灰色粘土を主とし、焼土粒(～6mm)・焼土小塊(～10mm)を多量に含む。粘性はやや強い。
 第3層：暗灰褐色土。暗灰色粘土を主とし、ローム粒(～2mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。粘性はやや強い。
 第4層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含む、焼土粒(～2mm)を中量、焼土粒(～6mm)を微量含む。

第91図 第59号住居跡平面・断面図(2)

第43表 第59号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 13.6 底径 — 器高 3.3	丸底。体部は浅く、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反し、中位に弱い段を有する。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・角閃石 内外一灰黄褐色	口縁部1/3欠損
2	坏	口径 (10.6) 底径 — 器高 3.1	丸底。体部は内彎し、口縁部は短く内彎する。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。体部ナデ。底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外一にぶい橙色	1/3残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
3	土錘	長さ5.2、幅1.5、厚さ1.3、重さ[10.61]g。胎土：白色粒・黒色粒・角閃石。色調：橙色。				一部欠損
4	土錘	長さ5.2、幅1.4、厚さ1.2、重さ[8.61]g。胎土：白色粒・黒色粒・角閃石。色調：橙色。				ほぼ完形
5	土錘	長さ5.1、幅1.4、厚さ1.3、重さ6.51g。胎土：白色粒。色調：にぶい橙色。				完形
6	土錘	長さ4.9、幅1.3、厚さ1.2、重さ6.71g。胎土：白色粒・黒色粒・赤褐色粒。色調：にぶい橙色。				完形
7	土錘	長さ4.8、幅1.1、厚さ0.9、重さ4.62g。胎土：白色粒。色調：褐灰色。				完形

土を含む層と思われる。

覆土は、暗褐色土を主とする5層に分けられた。第6層は、暗褐色土とロームの混合土からなる掘り方の埋土である。

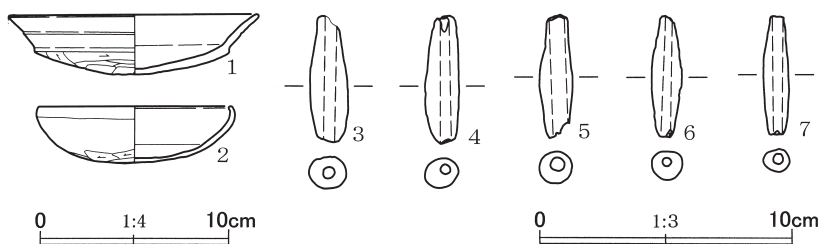
第92図1・2の坏は、覆土中から出土した。2は、1/3

程度が遺存する破片資料である。他には、覆土中から土師器小片を主とする遺物が出土しているのみである。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期後葉後半の遺構である可能性を考えたい。

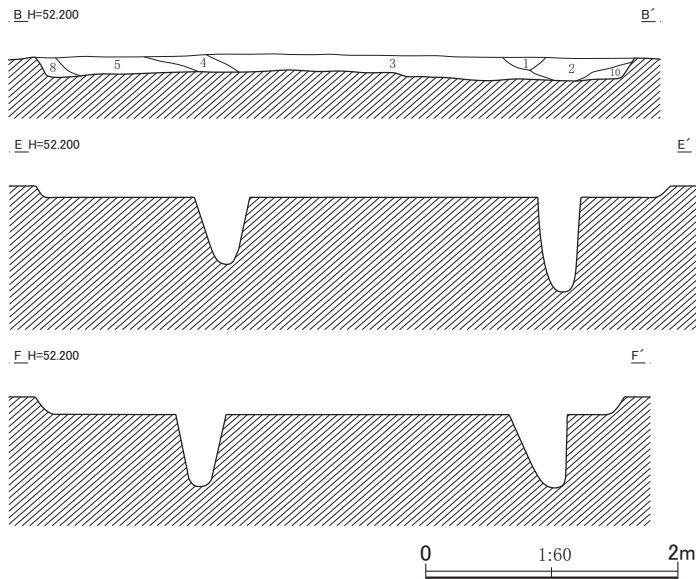
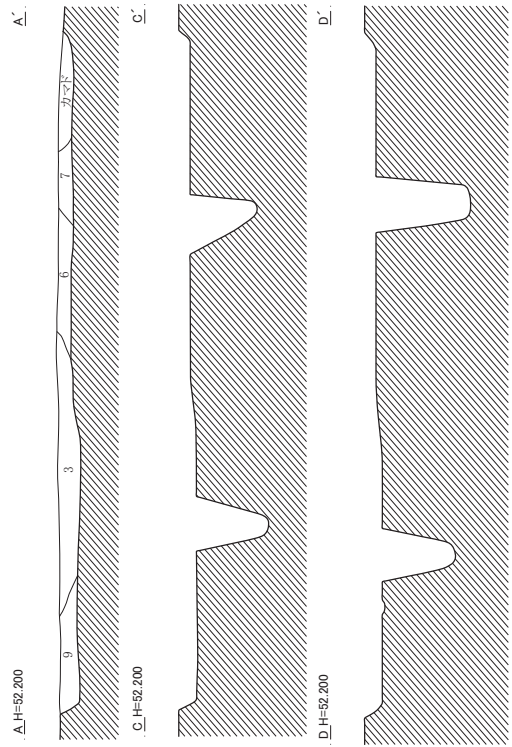
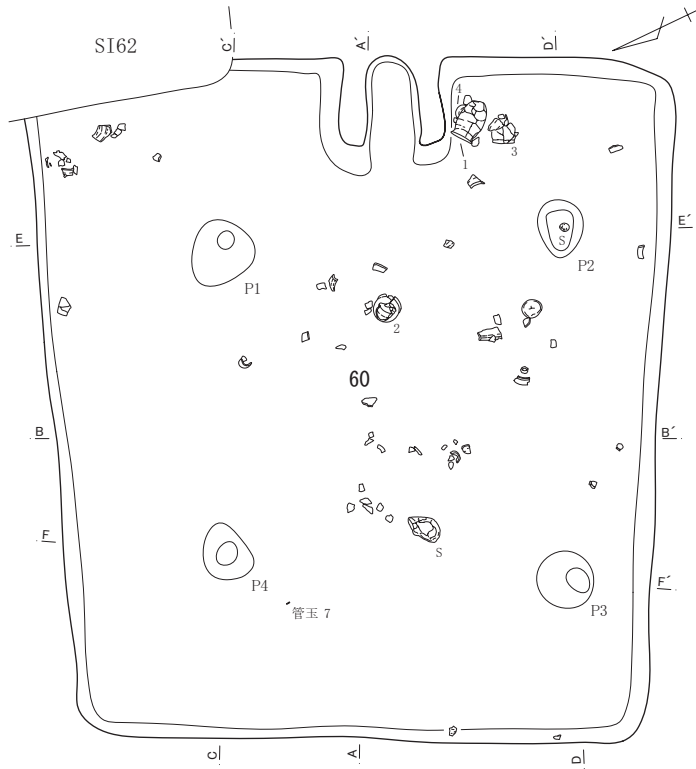
第60号住居跡(第93～95図、第44・45表、図版15・120)

調査地点の南縁近くの中央、やや西寄り、P13グリッドに位置し、I群に含まれる住居跡である。第156・160・186・203・263号住居跡を切り、それら住居跡の上部に造られた住居跡である。また、第62号住居跡に切られ、遺構の一部を壊され、第269号土坑が覆土を切り込んでいる。また、第178号住居跡とも重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、ややカマド側の横幅の広い長方形である。規模は、主軸方向で5.37m、副軸方向で4.76m、主軸方位はS-65°-Eである。床面は中央が微妙に高く、凸凹している。また、カマド前面がやや広く硬化している以外は、床面の硬化は顕著ではない。壁の立ち上がりは、奥壁、南西壁がゆるく、北東壁、北西壁がやや急である。壁高は、北東壁で15cm、南東壁で10cm、北西壁、南西壁で16cmである。



第92図 第59号住居跡出土遺物



- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を少量、焼土粒(～2mm)を微量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を微量含む。
- 第5層：暗褐色土。ローム粒(～6mm)・ローム小塊(～10mm)を少量含む。
- 第6層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)・炭化物粒(～1mm)・焼土粒(～4mm)を微量含む。
- 第7層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・粘土粒(～2mm)を中量含み、焼土粒(～2mm)を少量、ローム小塊(～10mm)を微量含む。粘性はやや強い。
- 第8層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～0.5mm)を中量含み、ローム粒(～4mm)を少量含む。

第60号住居跡土層説明

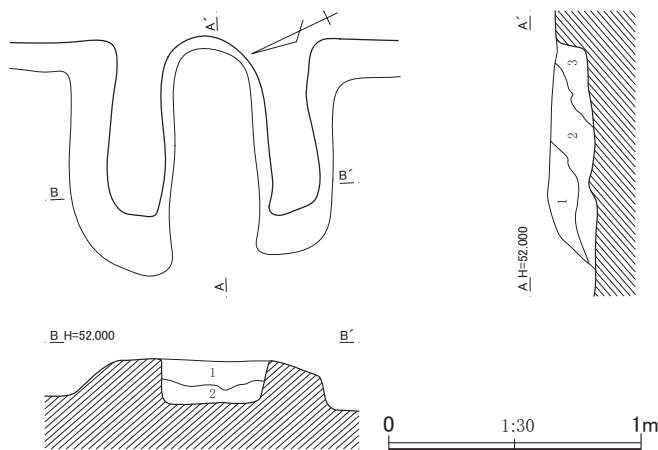
- 第1層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を中量含む。

- 第9層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)・ローム粒(～8mm)を中量含む。
- 第10層：暗褐色土。ローム粒(～0.8mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)を微量含む。粘性は弱い。

第93図 第60号住居跡平面・断面図(1)

P1～P4は、支柱穴と思われるピットである。平面形は、いずれもやや不整な円形、楕円形で、深さは、P1が54cm、P2が73cm、P3、P4が58cmである。

カマドは、南東壁のほぼ中央に設けられている。両袖に挟まれた縦長の燃焼部が残存する。燃焼部



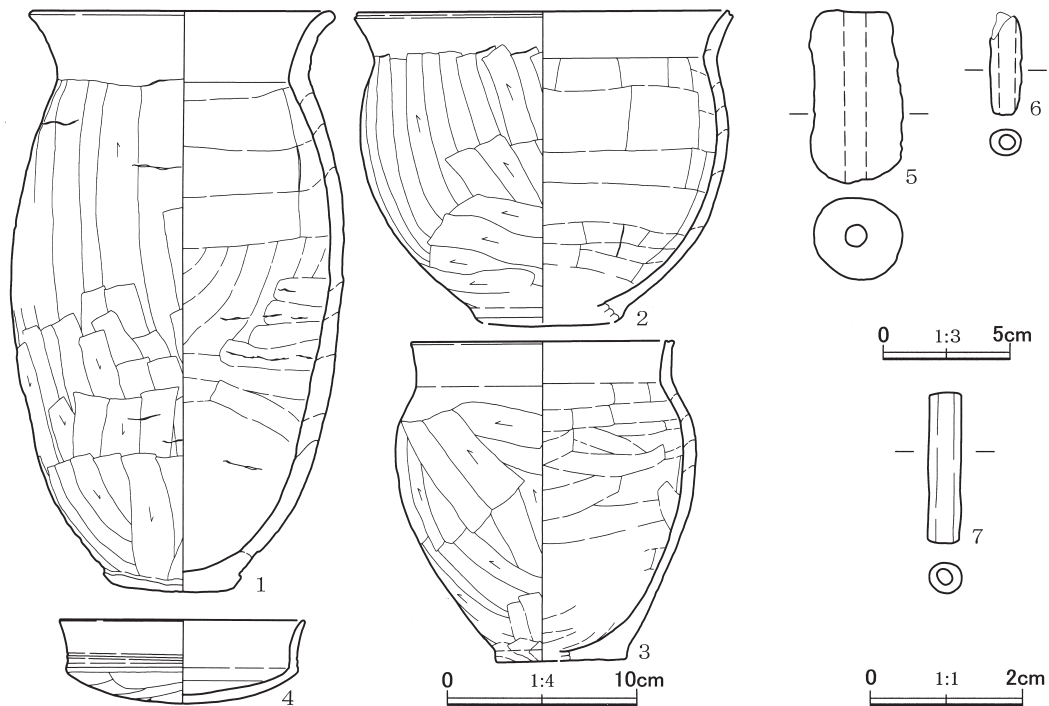
第60号住居跡カマド土層説明

第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～5mm)・焼土粒(～8mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を少量含む。

第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～5mm)・焼土粒(～5mm)を中量含み、焼土小塊(～10mm)を少量含む。

第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、炭化物粒(～1mm)を少量含む。

第94図 第60号住居跡平面・断面図(2)



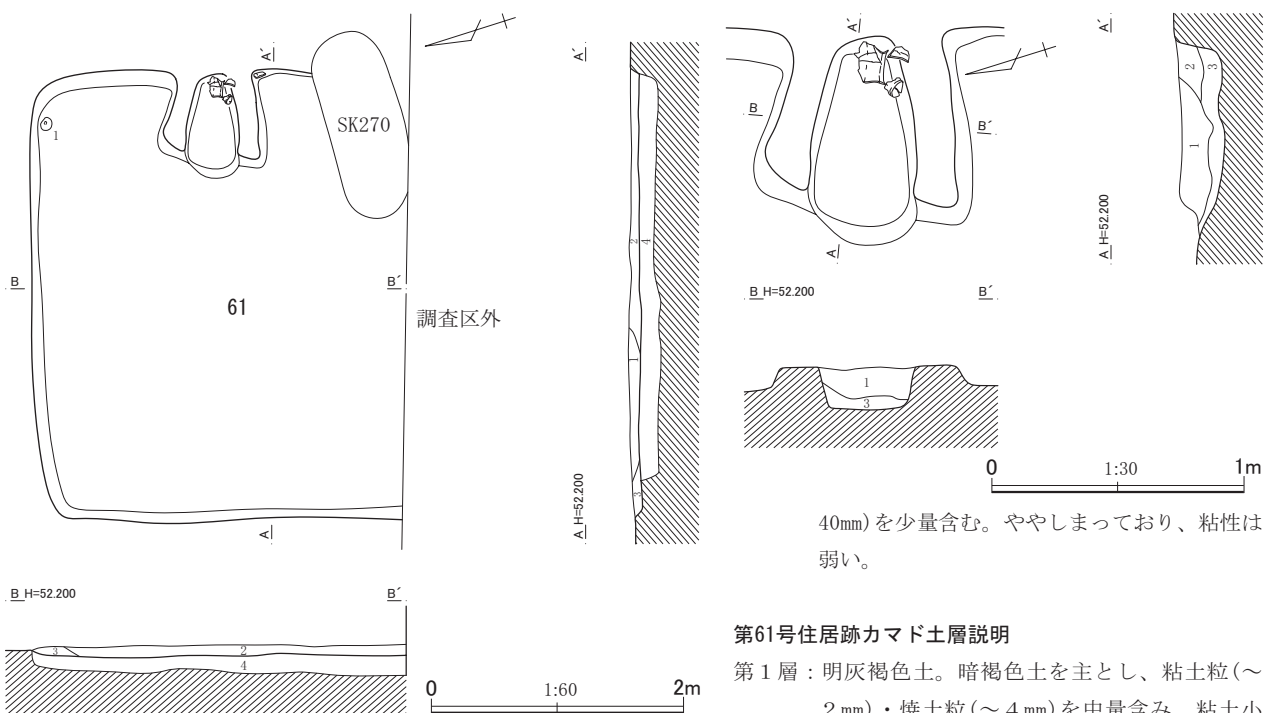
第95図 第60号住居跡出土遺物

第44表 第60号住居跡出土遺物観察表(1)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 16.4 底径 (6.7) 器高 30.6	口縁部は外反する。胴部は中位にわずかな膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。底部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・角閃石・礫 内外-橙色	胴部1/4欠損
2	甕	口径 20.4 底径 — 器高 [16.4]	口縁部は外傾する。口唇部は外側に平坦面をもち凹線がめぐる。胴部は中位に丸みをもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・石英 内外-にぶい黄橙色	底部欠損
3	小型甕	口径 14.5 底径 7.1 器高 17.7	口縁部は直立し、口唇部は平坦面をもち凹線がめぐる。胴部は上～中位に膨らみをもつ。平底。粘土積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	片岩・白色粒・黒色粒 内外-にぶい橙色	胴部1/5欠損

第45表 第60号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
4	坏	口径 13.4 底径 — 器高 4.6	丸底。体部は浅く、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立して上位で外反し、下位に弱い凹線がめぐる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・雲母 内外—橙色	2/3残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
5	土錘	長さ7.2、幅3.8、厚さ3.4、重さ109.92g。胎土：白色粒・黒色粒・赤褐色色粒。色調：橙色。				完形
6	土錘	長さ[4.2]、幅1.3、厚さ1.1、重さ[5.70]g。胎土：白色粒・角閃石。色調：にぶい黄橙色。				端部欠損
7	石製品 管玉	長さ2.1、幅0.4、穿孔幅0.2、重さ0.72g。石材：蛇紋岩。調整：丁寧な研磨。				完形



第61号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を中量含み、ローム粒(～6mm)を微量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～4mm)を少量、焼土粒(～8mm)を微量含む。

第3層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含む。

(掘り方埋土)

第4層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)を中量含み、ローム小塊(～

第61号住居跡カマド土層説明

第1層：明灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～2mm)・焼土粒(～4mm)を中量含み、粘土小塊(～30mm)を多量に、焼土小塊(～10mm)を少量含む。粘性はやや強い。

第2層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を中量含み、粘土粒(～0.5mm)を少量含む。粘性はやや強い。

第3層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・粘土粒(～0.5mm)・粘土小塊(～10mm)を少量含み、ローム小塊(～20mm)を微量、焼土粒(～2mm)を中量含む。

第96図 第61号住居跡平面・断面図

の袖端までの長さは91cm、横幅は41cmである。燃焼面と床面は、ほぼ同じ高さである。燃焼面には凹凸が目立つようである。被熱赤化の痕跡は不明瞭である。

覆土は、暗褐色土を主とする10層に分けられた。土層断面図からは、主に北東側、北側から土が流入し埋まったような過程を復元することができる。

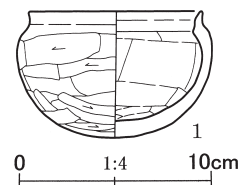
第95図1・3の甕、4の坏は、右袖脇の床面直上から、2の甕はカマド前面の住居跡中央の下層か

C地点

第46表 第61号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	埴	口径 9.4 底径 — 器高 6.9	丸底。体部は内彎する。口縁部は短く直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・雲母 外—橙色 内—明赤褐色	ほぼ完形

ら出土している。7の蛇紋岩製の管玉は、P4の東脇の床面よりやや浮いた位置から出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期後葉前半の遺構と考えられる。



第97図 第61号
住居跡出土遺物

第61号住居跡（第96・97図、第46表、図版15・120）

調査地点の南縁沿いの中央、やや西寄り、O14、P14グリッドに位置し、I群に含まれる住居跡である。第88・146・155・191住居跡を切り、それら住居跡の上部に造られた住居跡である。第270号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。また、第160号住居跡と重複する。なお、遺構の南側、南壁を含むかなりの範囲が調査範囲外である。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

第270号土坑に壊されている範囲に、南東隅が収まることからすれば、東壁に比べ、やや西壁の長い長方形、あるいは台形に近い平面形と推定できる。規模は、主軸方向で3.60m、副軸方向での現存値は2.97mである。主軸方位は、N-73°-Wである。床面はほぼ平坦である。壁際を除いて、床面全体が硬化しているが、かなりむらがあるようである。覆土がわずかに残るのみであり、残存する部分での壁高は、5、6cmに過ぎない。

カマドは、東壁に設けられている。ハの字形に開く両袖に挟まれた、やや角張った長楕円形の燃焼部を有する形態で、掘りくぼめて燃焼面が作出されている。燃焼部の長さは82cm、横幅は42cmである。燃焼面および側壁の一部が被熱赤化している。

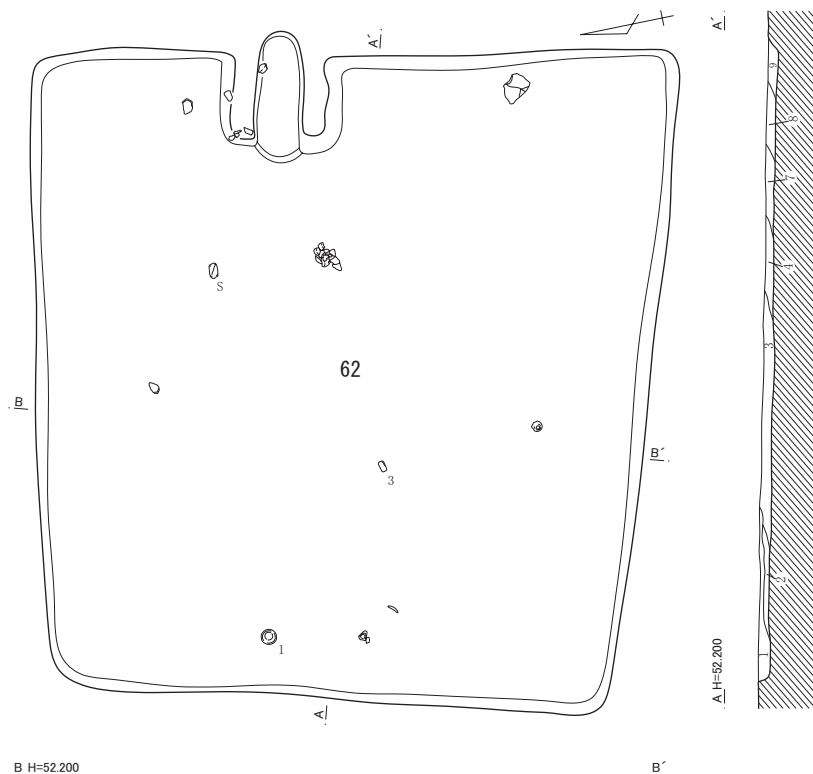
覆土は、暗褐色土を主とする3層に分けられた。第4層は、暗褐色土とロームの混合土からなる掘り方の埋土である。

第97図1の埴は、北東隅近くの床面直上より出土した。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期初頭あるいは前葉の遺構であろうか。

第62号住居跡（第98・99図、第47表、図版15・120）

調査地点の南縁寄りの中央、P13、Q13グリッドに位置し、I群に含まれる住居跡である。第60号住居跡を切っており、第156・197・203号住居跡の上部に造られた住居跡である。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

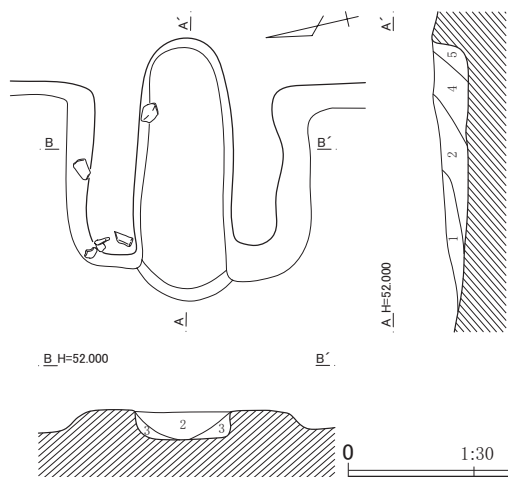
平面形は、東壁に比し、西壁が短い、台形に近い形態である。規模は、主軸方向で5.10m、副軸方向で4.79m、主軸方位はS-78°-Eである。床面には微妙な凹凸があり、北壁近辺を除いて、硬化している。覆土がわずかに残るのみであり、壁高は、南北壁で4、5cm、東西壁で8cm前後である。



- 20mm)・焼土粒(～2mm)を微量含む。粘性は強い。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・焼土粒(～4mm)を中量含み、粘土粒(～4mm)・焼土小塊(～10mm)を少量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を中量含み、ローム粒(～4mm)・焼土粒(～2mm)を微量、炭化物粒(～2mm)を少量含む。
- 第5層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を中量含み、ローム粒(～8mm)・焼土粒(～1mm)を微量含む。
- 第6層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を微量含む。
- 第7層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)・粘土粒(～0.5mm)を中量含み、粘土粒(～4mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。粘性はやや強い。
- 第8層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～0.5mm)・粘土粒(～0.5mm)・粘土粒(～4mm)を中量含み、焼土粒(～1mm)を微量含む。粘性はやや強い。

第62号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を微量含み、焼土粒(～2mm)を少量、粘土粒(～0.5mm)を中量含む。粘性は強い。
- 第2層：暗褐色土。粘土粒(～4mm)を少量含み、粘土小塊(～
- 第9層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含み、ローム小塊(～20mm)を微量含む。
- 第10層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。

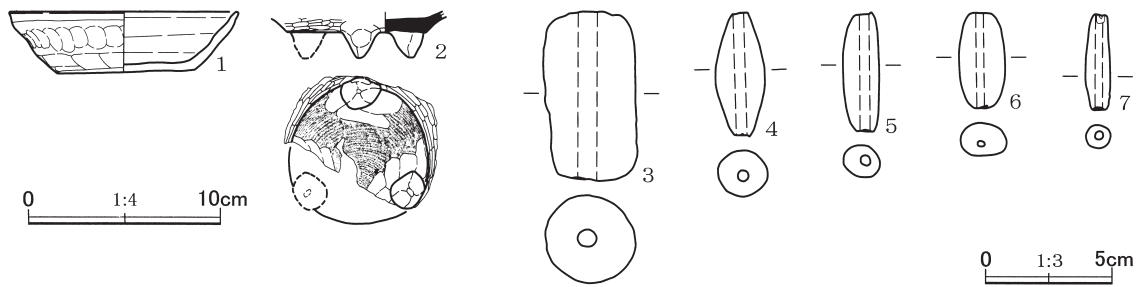


第62号住居跡カマド土層説明

- 第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を少量、焼土粒(～2mm)を微量含む。
- 第2層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～0.5mm)・焼土小塊(～10mm)を少量含み、焼土粒(～1mm)を中量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含み、焼土粒(～4mm)を微量含む。
- 第4層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)・焼土粒(～2mm)を少量含み、ローム小塊(～15mm)を微量、粘土粒(～1mm)を中量含む。
- 第5層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～0.5mm)を中量含む。

第98図 第62号住居跡平面・断面図

カマドは、東壁の北東隅にかなり寄った位置に設けられている。両袖に挟まれた長楕円形の燃焼部が残存する。燃焼面は、焚口から奥壁に向かいゆるやかな傾斜をもって掘りくぼめられ作出されている。燃焼部の長さは95cm、横幅は38cmである。奥壁、側壁の極わずかな部分が被熱赤化しているのみ



第99図 第62号住居跡出土遺物

第47表 第62号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 12.4 底径 7.5 器高 3.4	平底。体部は直線的に開く。口縁部はわずかに外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部上半ナデ後指頭圧痕、体部下半ヘラナデ。底部ヘラケズリ。内面—口縁部～底部回転ナデ。	白色粒・角閃石 外—浅黄色 内—にぶい黄橙色	ほぼ完形
2	須恵器 三足坏	口径 — 底径 (7.6) 器高 [2.5]	平底。脚3カ所貼付。体部は直線的に開く。ロクロ成形。	外面—体部下位ミガキ。底部回転糸切り、脚貼付時周縁指ナデ。内面—ロクロナデ。	白色粒 内外—灰黄色	底部2/3残存 還元焰焼成
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
3	土錘	長さ7.0、幅3.8、厚さ3.6、重さ110.96g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい黄橙色。				ほぼ完形
4	土錘	長さ5.1、幅2.1、厚さ1.9、重さ16.32g。胎土：白色粒。色調：褐灰色。				完形
5	土錘	長さ4.9、幅1.5、厚さ1.3、重さ10.37g。胎土：片岩・白色粒。色調：にぶい褐色。				ほぼ完形
6	土錘	長さ3.9、幅1.9、厚さ1.4、重さ11.22g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい橙色。				完形
7	土錘	長さ4.0、幅1.0、厚さ1.0、重さ3.87g。胎土：白色粒。色調：灰黄色。				ほぼ完形

である。

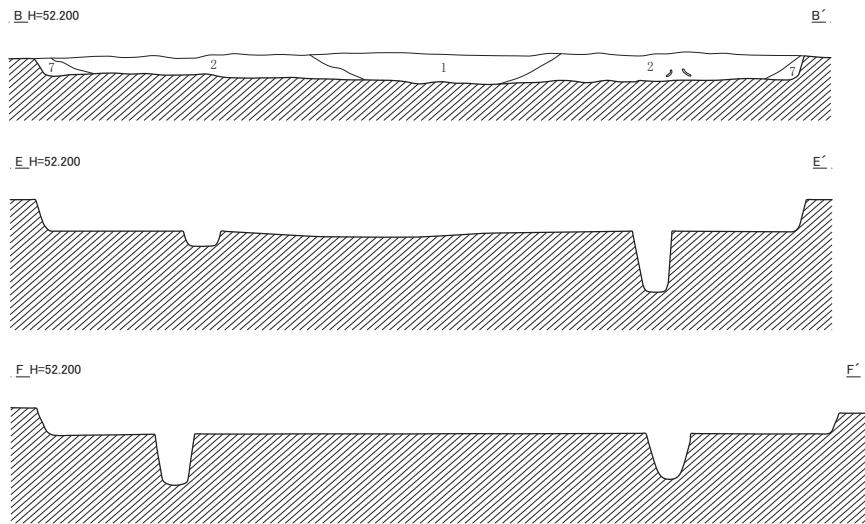
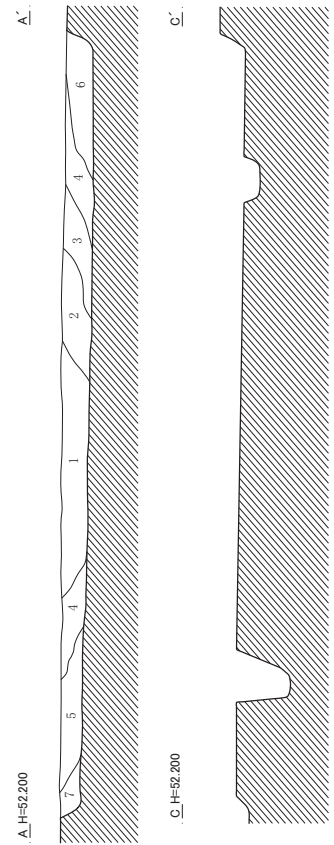
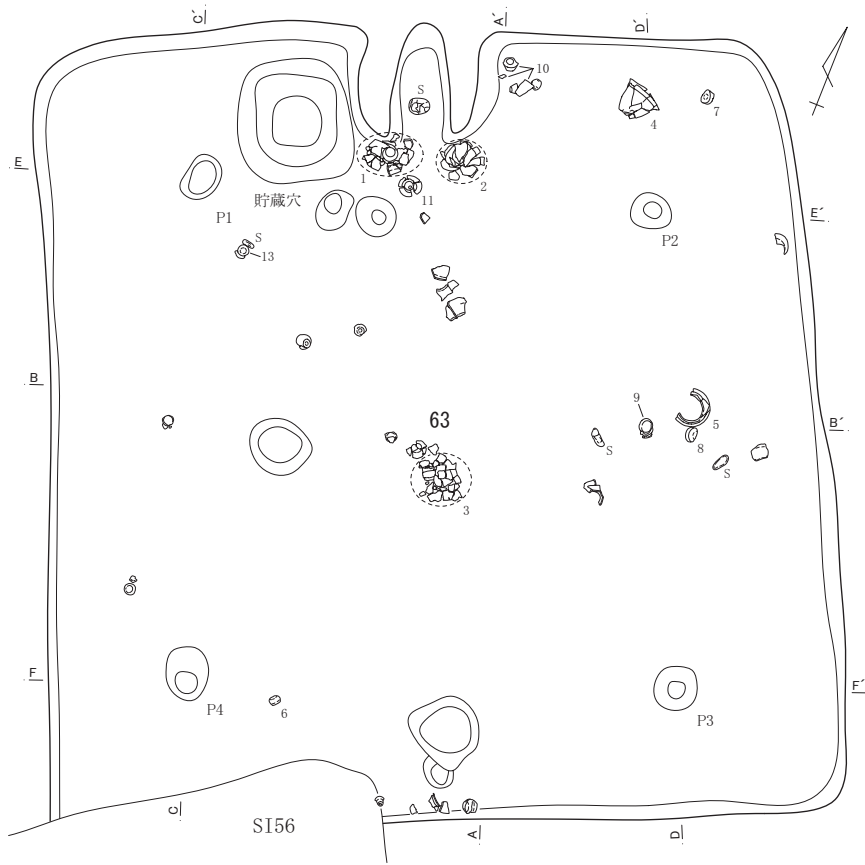
覆土は、暗褐色土を主とする10層に分けられた。全体に焼土や粘土を含む層が目立つようであった。第99図1の坏は、西壁近くの床面よりやや浮いた位置で出土した。3の大きめの土錘は、住居跡中央から出土している。重複関係、出土遺物から見て、平安時代前期末から中期初頭にかけての遺構であろうか。

第63号住居跡（第100～102図、第48表、図版15・16・121）

調査地点の南縁近くの中央、やや西寄り、O12・13、P12・13グリッドに位置し、I群に含まれる住居跡である。第56号住居跡に切られ、遺構の一部を壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、微妙に歪ではあるが、方形と見てよいであろう。規模は、主軸方向で6.29m、副軸方向で6.12m、主軸方位はN-24°-Wである。主柱穴を結ぶ範囲内の床面は、顕著に硬化している。壁の立ち上がりは、比較的急である。残りのよいところでの壁高は、北壁で20cm、東壁で24cm、南壁で15cm、西壁で13cmである。

P1～P4は、主柱穴であろう。平面形は、円形に近いP3以外は、いずれも楕円形である。深さは、P1が12cm、P2が49cm、P3が35cm、P4が40cmである。他に床面で、5個、ないしは6個のピットを検出している。カマドの左袖脇のピットは、貯蔵穴であろう。上端での平面形は、やや角張った不整な円形であるが、中間端、底面もまた微妙に辺があるような角張った形態である。北西—南東方



第63号住居跡土層説明(1)

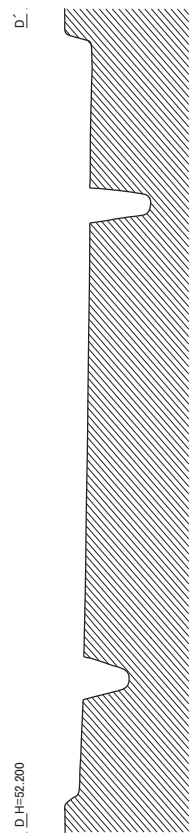
第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～4mm）を多量に含み、ローム小塊（～10mm）を中量、焼土粒（～4mm）を少量、粘土粒（～1mm）を微量含む。

第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～0.5mm）・ローム粒（～8mm）を中量含み、炭化物粒（～1mm）・焼土粒（～1mm）

を少量含む。

第3層：明灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～4mm）・粘土小塊（～20mm）を少量含み、粘土粒（～6mm）・焼土粒（～8mm）を中量含む。粘性はやや強い。

第4層：暗褐色土。ローム粒（～0.5mm）を少量含む。



第100図 第63号住居跡平面・断面図(1)

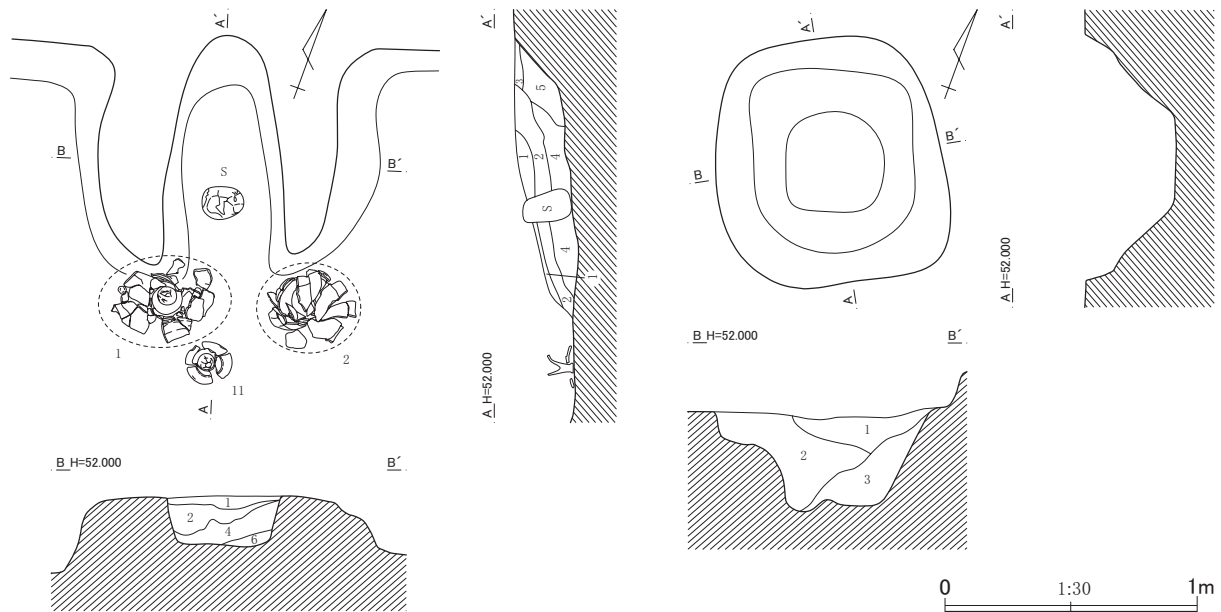
C地点

第63号住居跡土層説明(2)

- 第5層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～0.5mm)・ローム小塊(～15mm)を少量含む。
 第6層：明灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～0.5mm)

を多量に含み、粘土小塊(～20mm)・焼土粒(～4mm)を中量含む。粘性はやや強い。

- 第7層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を少量含む。



第63号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗黄褐色土。黄褐色粘土を主とし、暗褐色土粒子(～6mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。粘性はやや強い。
 第2層：暗赤褐色土。黄褐色粘土を主とし、暗褐色土小塊(～10mm)を少量含み、焼土粒(～8mm)を多量に含む。粘性はやや強い。
 第3層：黄褐色土。黄褐色粘土を主とし、焼土粒(～1mm)を微量含む。粘性はやや強い。
 第4層：暗赤褐色土。黄褐色粘土を主とし、ローム粒(～1mm)を少量含み、焼土粒(～4mm)を中量含む。粘性はやや強い。
 第5層：明褐色土。黄褐色粘土を主とし、黄褐色粘土小塊(～10mm)・ローム粒(～1mm)・焼土小塊(～20mm)を

少量含み、焼土粒(～4mm)を中量含む。粘性はやや強い。

- 第6層：黄褐色土。黄褐色粘土を主とし、焼土粒(～1mm)を少量含む。粘性はやや強い。

第63号住居跡貯蔵穴土層説明

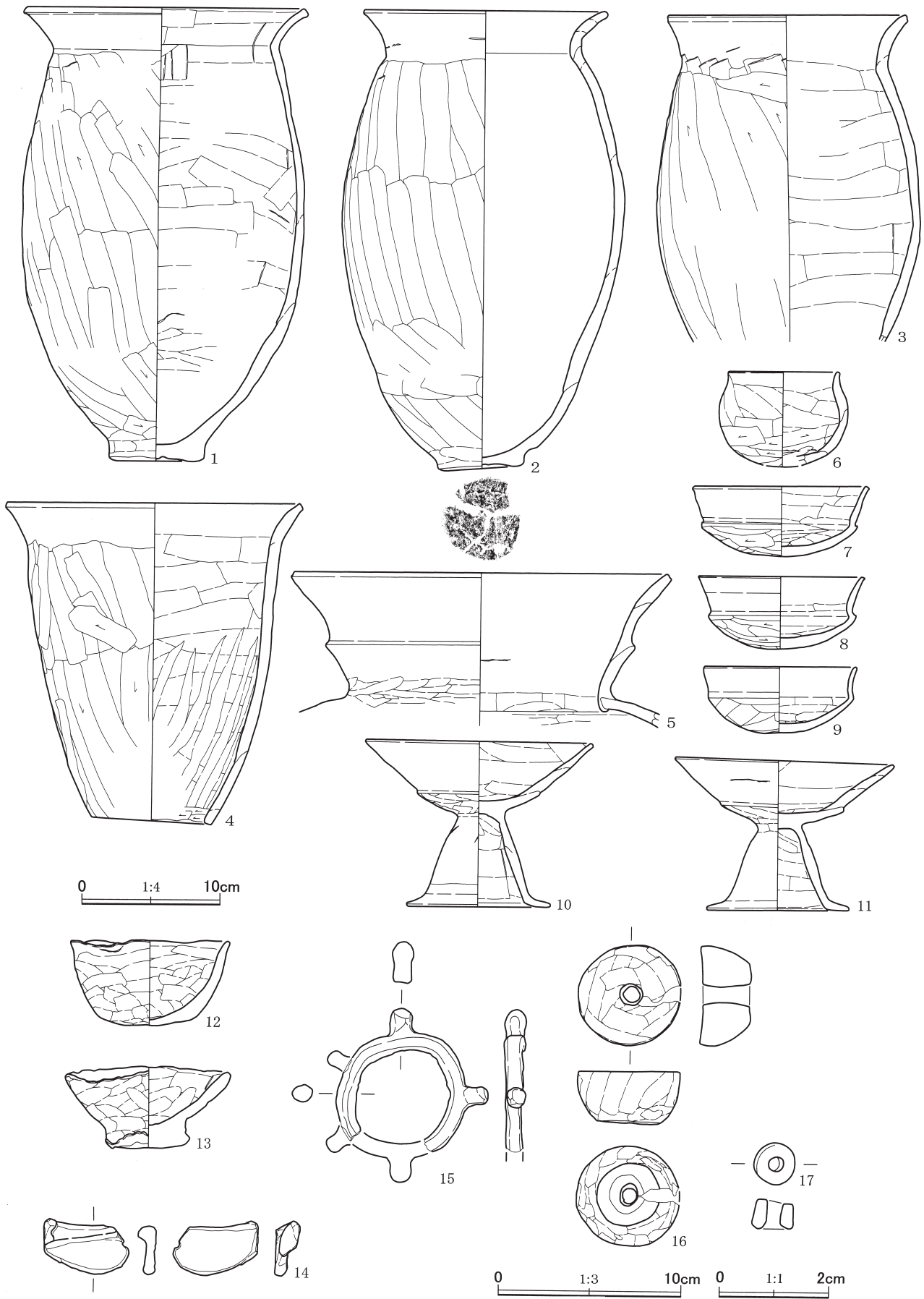
- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を少量含み、ローム粒(～8mm)を微量含む。ややしまっている。
 第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を多量に含み、ローム小塊(～30mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。
 第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～20mm)を中量含む。

第101図 第63号住居跡平面・断面図(2)

向での径は、97cmである。側壁はかなり凸凹して掘り込まれており、最深部での深さは39cmである。

カマドは、北壁の中央に設けられている。先細りの細長い袖に挟まれた燃焼部が残存する。燃焼面はかすかに掘りくぼめられ作出されているようである。袖端を末端と見るなら、燃焼部の長さは96cm、横幅は48cmである。側壁の上部および奥壁の一部が、被熱赤化している。燃焼面の中央に据え置かれたような状態で出土した楕円礫は、支脚であろう。カマド覆土は、いずれも黄褐色粘土を主とし、その多くは、天井部や側壁の崩落土を含む層と思われる。

覆土は、暗褐色土を主とする7層に分けられた。壁際の第6・7層の堆積後に、比較的層厚の厚い第1～5層が堆積して、住居跡が埋まった模様である。



第102图 第63号住居迹出土遗物

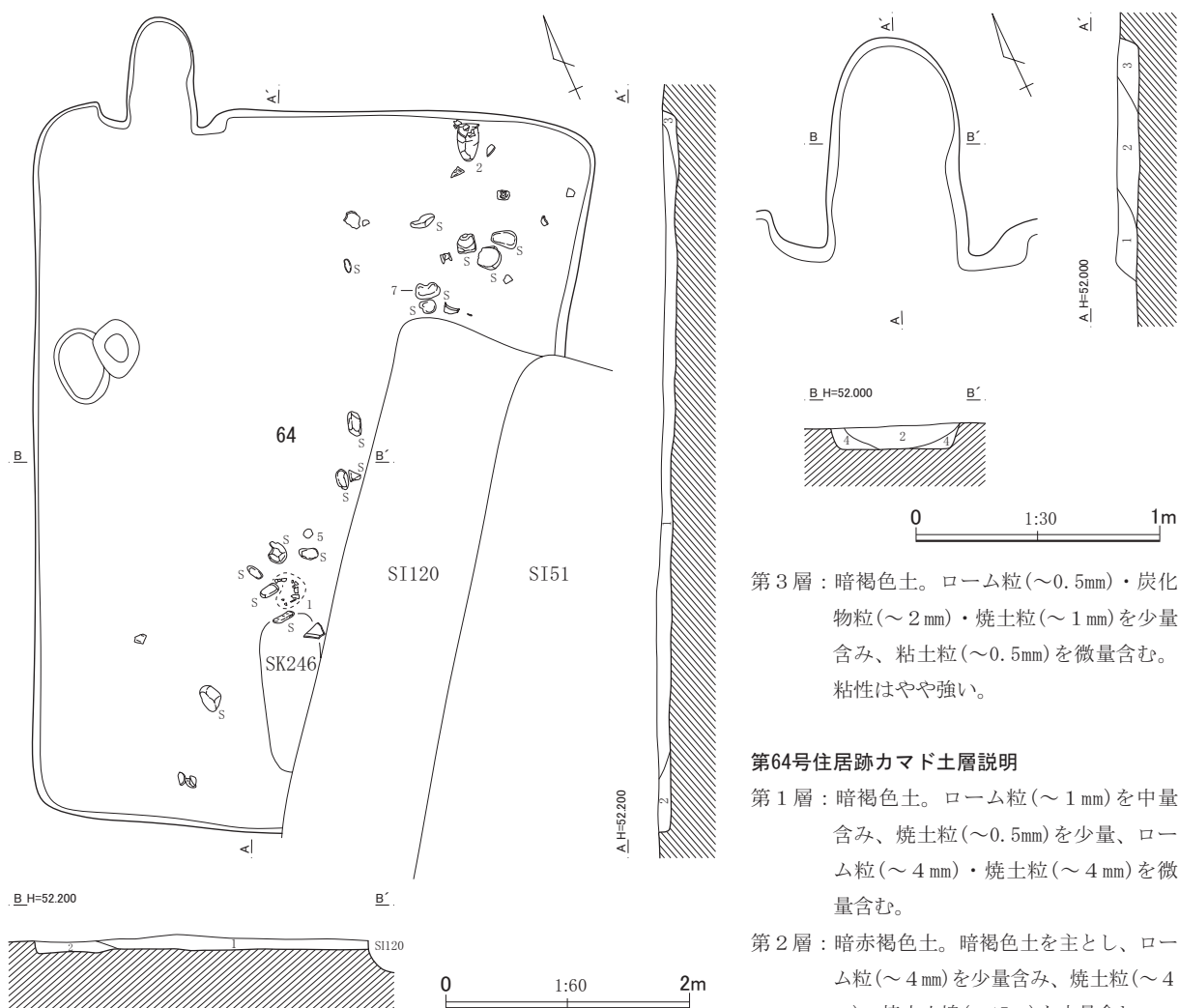
第48表 第63号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 (20.9) 底径 7.1 器高 33.0	口縁部は外反し、口唇部は肥厚する。胴部は中位に膨らみをもつ。平底で輪台状。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラケズリ、胴部下端ナデ。内面－口縁部～底部ヘラナデ。	白色粒・角閃石・石英・礫 外－にぶい黄橙色 内－にぶい橙色	口縁部～胴部1/2欠損
2	甕	口径 18.4 底径 6.5 器高 33.3	口縁部は外反する。胴部は中位に膨らみをもつ。平底で上げ底気味。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ、下端部ナデ。底部木葉痕、周縁ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・石英 内外－にぶい橙色	一部欠損
3	甕	口径 17.9 底径 — 器高 [25.0]	口縁部は外反する。口唇部は外面に平坦面をもち凹縁がめぐる。胴部は中位に膨らみをもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・角閃石・石英 外－橙色 内－にぶい橙色	口縁部～胴部下位
4	甗	口径 22.2 底径 (9.0) 器高 23.1	口縁部は外反し、口唇部は外側に平坦面をもつ。胴部は膨らみをもたない。底部は筒抜け。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ後、下半ヘラナデ。端部ヘラケズリ。	白色粒・黒色粒・雲母 内外－橙色	一部欠損
5	壺	口径 28.5 底径 — 器高 [11.6]	口縁部は外反し、中位に段を有する。口唇部は外側に平坦面をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。頸部ヘラナデ。内面－口縁部ヨコナデ。頸部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外－橙色	口縁部2/3残存
6	埴	口径 (8.2) 底径 — 器高 (7.2)	丸底。体部は丸みをもつ。口縁部は短く外反気味に直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部上半ヘラナデ、体部下半～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。体部上半ヘラナデ、体部下半～底部ヘラケズリ。	白色粒・黒色粒・石英 内外－にぶい赤褐色	1/3残存
7	坏	口径 13.0 底径 — 器高 5.3	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外反する。口唇部は平坦面をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 外－明赤褐色 内－にぶい橙色	2/3残存
8	坏	口径 12.4 底径 — 器高 5.5	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外反する。口唇部は平坦面をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・石英 内外－橙色	口縁部一部欠損
9	坏	口径 11.5 底径 — 器高 5.1	丸底。口縁部は体部との境に弱い稜をもって外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・雲母 内外－明赤褐色	口縁部1/3欠損
10	高坏	口径 17.1 底径 (10.8) 器高 12.7	口縁部は直線的に開き、坏部との境に稜をもつ。脚部は下方へ向かって開き、裾部は短く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。坏部～脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。内面－口縁部～坏部ヘラナデ。脚部ヘラナデ、上端は指ナデ。裾部ヨコナデ。	白色粒・雲母 外－明赤褐色 内－橙色	2/3残存
11	高坏	口径 16.4 底径 (10.7) 器高 11.7	口縁部は直線的に開き、坏部との境に稜をもつ。脚部は下方へ向かって開き、裾部は短く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。坏部～脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。内面－口縁部～坏部ヘラナデ。脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。	白色粒・雲母 外－橙色 内－明赤褐色	裾部2/3欠損
12	手捏ね土器	口径 8.9 底径 5.5 器高 4.9	丸底気味。体部は内彎する。口縁部は整わず、わずかに外反する。手捏ね成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。底部ヘラケズリ。内面－口縁部～底部ヘラナデ。	白色粒 内外－にぶい黄橙色	口縁部1/3欠損
13	手捏ね土器	口径 9.1 底径 4.8 器高 4.7	厚い平底から、体部は直線的に開く。口縁部は未調整で整っていない。手捏ね成形。	外面－口縁部～底部ヘラナデ。内面－口縁部～底部ヘラナデ。	白色粒・角閃石・石英 内外－にぶい橙色	ほぼ完形
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
14	土製品不明	長さ2.8、幅4.9、厚さ1.0、重さ13.88g。胎土：白色粒。色調：橙色。調整：ナデ。				完形
15	土製品鈴付釧	長さ[8.2]、幅[8.6]、厚さ1.2、重さ[27.50]g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：橙色。調整：ナデ。5鈴か。				3/4残存
16	土製紡錘車	上面径5.7、下面径3.6、孔径1.2、厚さ2.9、重さ100.75g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：明赤褐色。調整：ナデ。				一部欠損
17	石製品白玉	長さ0.8、幅0.8、孔径0.25、厚さ0.55、重さ0.46g。石材：滑石。調整：全体的に研磨。				完形

カマド左袖の先端からは、第102図1の甕が、右袖の先端からは、2の甕が出土している。1・2の甕は、本来袖甕であった可能性もあるように思われる。1の甕のそばから11の高坏が出土している。10の高坏は、カマド右袖脇から、3の甕、4の甗、5の大型壺、7～9の坏は、住居跡中央から東半の覆土中から出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期中葉の遺構と考えられる。

第64号住居跡（第103・104図、第49表、図版16・122）

調査地点の中央、やや南西寄り、O11、P11グリッドに位置し、E群に含まれる住居跡である。第79・89・122・124・136号住居跡と重複し、それらの住居跡の上部に造られている。また、第51・120号住居跡、第246号土坑に切られ、南隅周辺から南東壁のかなりの範囲を壊されている。第69号住居跡と重複している。確認面は、黄褐色のローム層上面である。



第64号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒（～4mm）・焼土粒（～8mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）を少量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒（～1mm）を多量に含み、ローム小塊（～10mm）を中量、焼土粒（～2mm）を微量含む。

第3層：暗褐色土。ローム粒（～0.5mm）・炭化物粒（～2mm）・焼土粒（～1mm）を少量含み、粘土粒（～0.5mm）を微量含む。粘性はやや強い。

第64号住居跡カマド土層説明

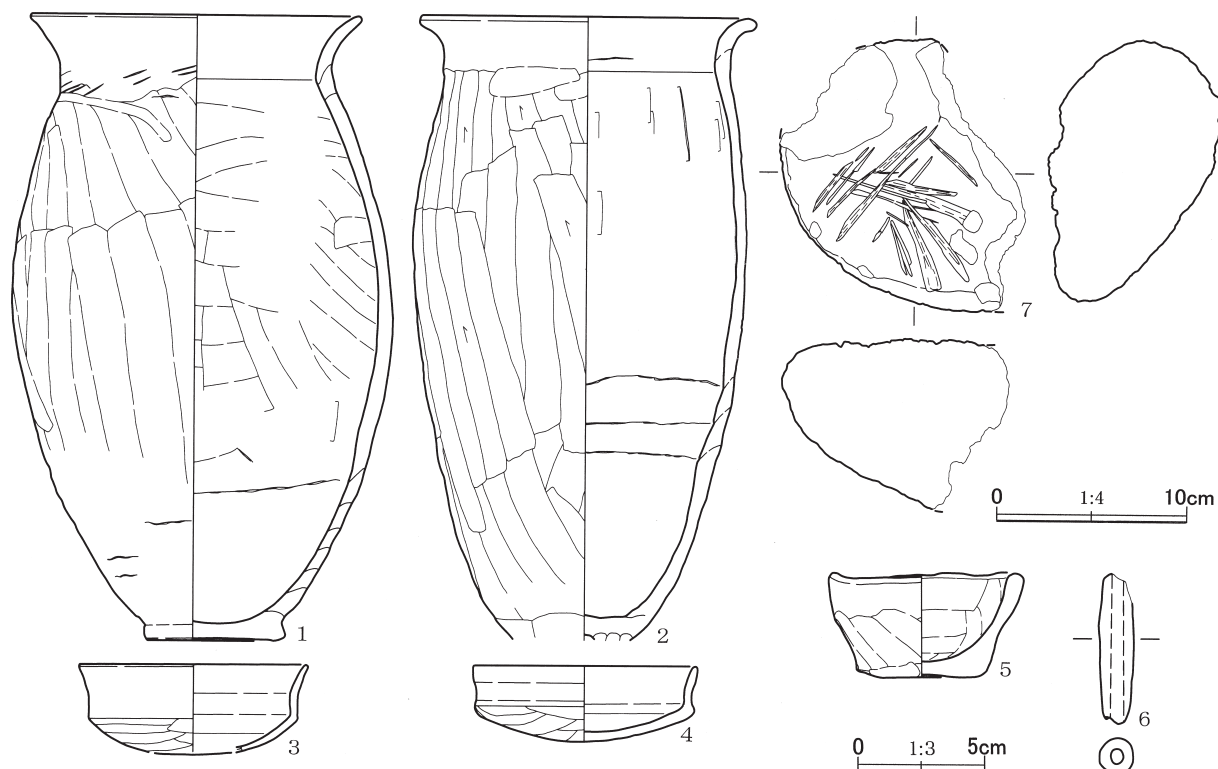
第1層：暗褐色土。ローム粒（～1mm）を中量含み、焼土粒（～0.5mm）を少量、ローム粒（～4mm）・焼土粒（～4mm）を微量含む。

第2層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～4mm）を少量含み、焼土粒（～4mm）・焼土小塊（～15mm）を中量含む。

第3層：暗褐色土。ローム粒（～1mm）・粘土小塊（～10mm）を微量含み、粘土粒（～0.5mm）を少量含む。粘性はやや強い。

第4層：暗褐色土。焼土粒（～1mm）を少量含む。

第103図 第64号住居跡平面・断面図



第104図 第64号住居跡出土遺物

第49表 第64号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 17.9 底径 7.5 器高 33.3	口縁部は外反する。胴部は中位に膨らみをもつ。底部は輪状で平底を呈する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。底部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部~底部ヘラナデ。	白色粒・角閃石・石英 内外-にぶい橙色	一部欠損
2	甕	口径 18.1 底径 — 器高 [34.4]	口縁部は直立し、上端で強く外反する。胴部は膨らみをもたない。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ、上位一部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・角閃石・石英 内外-橙色	底部欠損
3	坏	口径 (12.4) 底径 — 器高 [4.8]	丸底。口縁部は直立し、中位で外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部~体部上半ヨコナデ。体部下半~底部ヘラナデ。	白色粒 内外-明赤褐色	1/3残存
4	坏	口径 12.2 底径 — 器高 4.2	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって彎曲気味に直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部~体部上位ヨコナデ。体部中位~底部ヘラナデ。	白色粒・赤褐色粒・石英 内外-橙色	口縁部一部欠損
5	手捏ね土器	口径 7.6 底径 5.1 器高 4.4	平底。体部から口縁部にかけて彎曲して立ち上がる。口縁部は整っていない。手捏ね成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ナデ。内面-口縁部~底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・石英・金雲母 外-橙色 内-明赤褐色	ほぼ完形
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
6	土錘	長さ[6.2]、幅1.4、厚さ1.4、重さ[10.82]g。胎土：白色粒・黒色粒・赤褐色粒・石英。色調：橙色。				端部欠損
7	砥石	長さ[13.55]、幅[15.0]、厚さ9.45、重さ[809.98]g。石材：角閃石安山岩。調整：上面のみ使用。下面は被熱により黒色化。				破片

平面形は、奥壁側が長い台形ないしは歪な長方形になりそうである。規模は、主軸方向で5.95m、副軸方向の残りのよい部分で4.38m、主軸方位は、N-26°-Eである。カマド前面から住居跡の中央にかけて、床面は軽微ながら硬化している。壁高は、四壁いずれも10cm前後であるが、壁の立ち上がりは比較的急である。

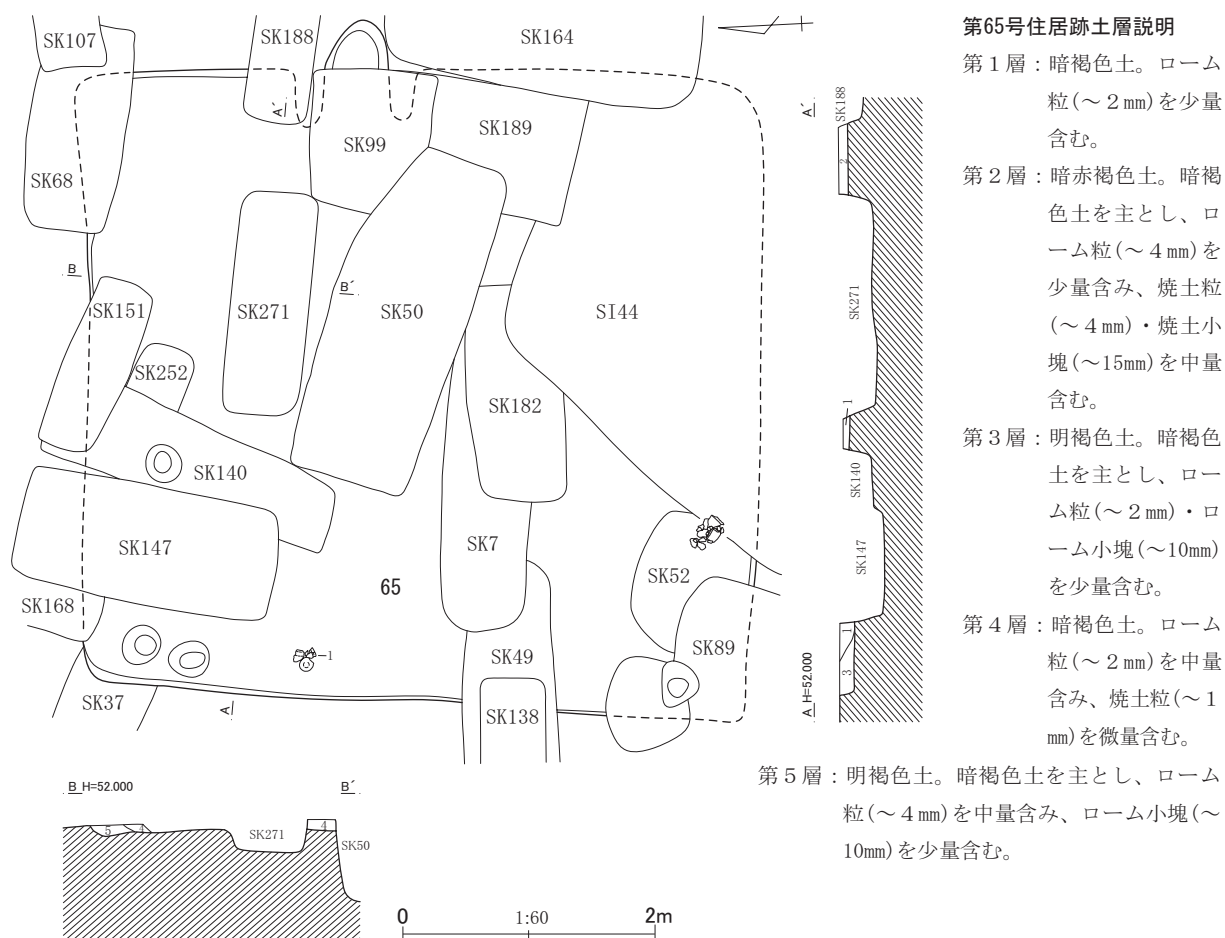
床面で確認できたピットは、6個あるが、位置的に見て、支柱穴の可能性のあるピットはないようである。カマドは、北東壁の北隅に近接した位置に設けられている。奥壁を丸く掘り抜いた燃焼部に、短い袖が付く形態である。袖端を末端とするなら、燃焼部の長さは93cm、横幅は53cmである。燃焼面は、床面とほぼ同じ高さで、燃焼面と奥壁の極々一部が被熱赤化している。カマド覆土の第2層は、焼土を多く含み、天井部や側壁の崩落土を含む層と思われる。

覆土は、暗褐色土を主とする3層に分けられた。壁際の第2・3層堆積後、第1層が流入、堆積し埋まったものであろう。

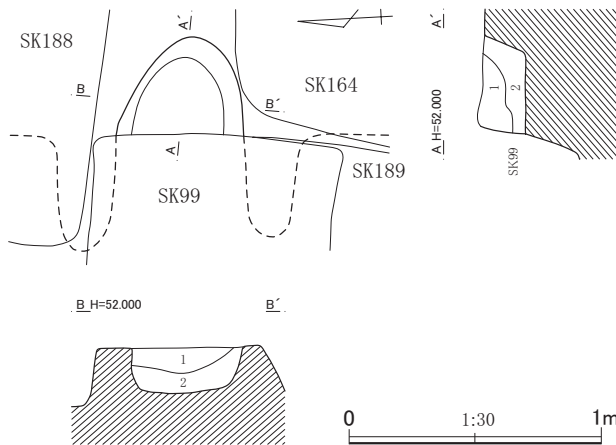
第104図1の甕、5の手捏ね土器は、南半の第246号土坑に切られた部分の脇から、2の甕、7の砥石は、東隅寄りの床面直上から出土した。この周辺の床面からは、他に高坏脚部片や土師器大型片や大きな礫などが出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期後葉前半の遺構であろうか。

第65号住居跡（第105～107図、第50表、図版16・122）

調査地点の西縁近くの中央、やや南寄り、M10・11、N10・11グリッドに位置し、E群に含まれる住居跡である。この一帯は土坑の密集域にあたり、重複する土坑のほとんどは、本住居跡の床面を掘り抜いており、土坑間の隙間にカマドの一部と、壁や床面がわずかに残る状態であった。第71号住居



第105図 第65号住居跡平面・断面図（1）



第65号住居跡カマド土層説明

第1層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)・粘土小塊(～10mm)を少量含み、粘土粒(～1mm)を中量含む。粘性はやや強い。

第2層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～15mm)を少量含み、粘土粒(～4mm)を中量含む。

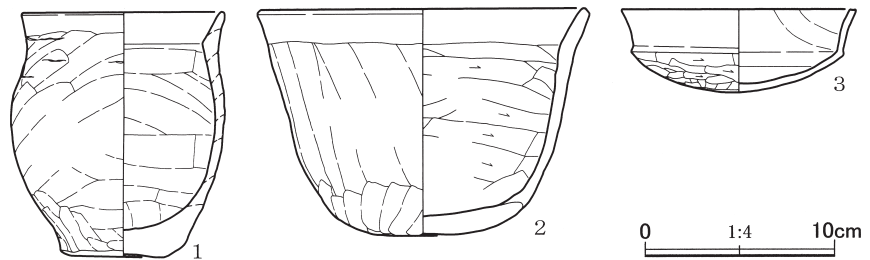
第106図 第65号住居跡平面・断面図(2)

跡を切っており、第96号住居跡と重複するが、後者との新旧関係は不明である。また、第44号住居跡、第7・37・38・49～52・68・87・89・99・140・147・151・164・168・182・188・189・252・271号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

残存する壁が極わずかなため、平面形を推定することが困難であるが、方形に近い形態と見るのが無難であろう。規模は、主軸方向で5.05m、副軸方向では、推定で5.35m前後になりそうである。主軸方位も推定でN-84°-Wあたりとなる。床面の硬化は、顕著ではない。壁高は9～11cmである。

カマドは、東壁の中央付近に付設されていたようである。燃烧部の奥壁側のみ残存する。縦方向での現存値は38cm、残存する部分の端での横幅は、51cmである。被熱赤化の痕跡は、不明瞭である。覆土は、暗褐色土を主とする5層に分けられた。

第107図1の小型甕は、西壁近くの床面よりやや浮いた位置から出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期後葉前半の遺構であろう。



第107図 第65号住居出土遺物

第50表 第65号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	小型甕	口径 10.4 底径 5.7 器高 13.4	口縁部は外傾する。胴部は中に膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・角閃石・石英 内外-にぶい橙色	口縁部～胴部1/5欠損
2	鉢	口径 18.0 底径 — 器高 12.4	丸底気味。体部は膨らみをもたない。口縁部は外傾し、口唇部に平坦面をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・石英 内外-橙色	体部1/4欠損
3	坏	口径 12.9 底径 — 器高 4.1	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外反する。口唇部は平坦面をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面-口縁部～体部上半ヨコナデ。体部下半～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外-橙色	2/3残存

第66号住居跡（第108～110図、第51・52表、図版16・122）

調査地点の西半中央の西寄り、N10、O10グリッドに位置し、E群に含まれる住居跡である。第70・72・84・93・96・98号住居跡を切っており、第50号住居跡、第91・110～112・220・225・227・230・265号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。とくに東半部分は、かなりの範囲にわたって、第50号住居跡に壊されている。また、第39号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、東壁に比し西壁の短い台形に近い形態と推定されるが、北壁は、カマドを境に左右の壁が折れるため、やや変則的な形態である。規模は、主軸方向での推定値で6.40m前後、副軸方向の残

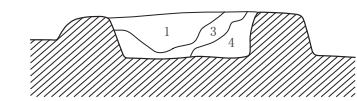
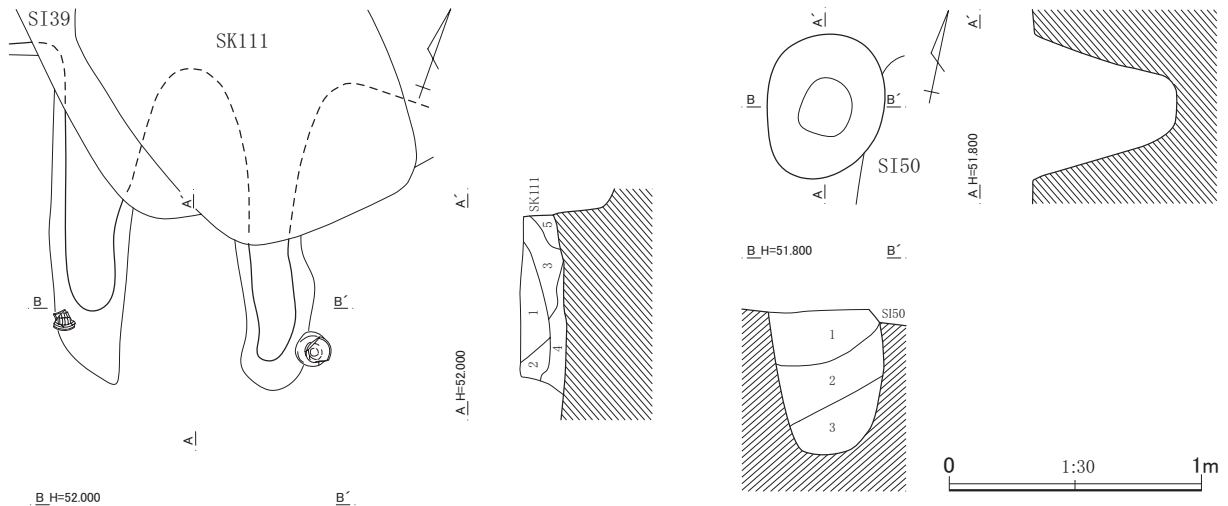


第66号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒（～1mm）を中量含み、ローム粒（～8mm）・焼土粒（～4mm）を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒（～0.5mm）・焼土粒（～1mm）を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒（～0.5mm）を少量含み、ローム粒（～2mm）・焼土粒（～0.5mm）を微量含む。

- 第4層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～1mm）・焼土粒（～2mm）を少量含み、ローム小塊（～15mm）を微量、粘土粒（～1mm）を中量含む。粘性はやや強い。
- 第5層：暗褐色土。ローム粒（～1mm）・ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第6層：暗褐色土。ローム粒（～1mm）を微量含む。

第108図 第66号住居跡平面・断面図（1）



第66号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)・焼土粒(～2mm)を中量含み、ローム粒(～8mm)を微量、粘土粒(～0.5mm)を多量に、粘土小塊(～10mm)を少量含む。粘性はやや強い。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を微量含み、粘土粒(～0.5mm)を少量含む。粘性はやや強い。
- 第3層：明赤灰褐色土。灰褐色粘土を主とし、暗褐色土粒子(～0.5mm)・焼土小塊(～15mm)を少量含み、焼

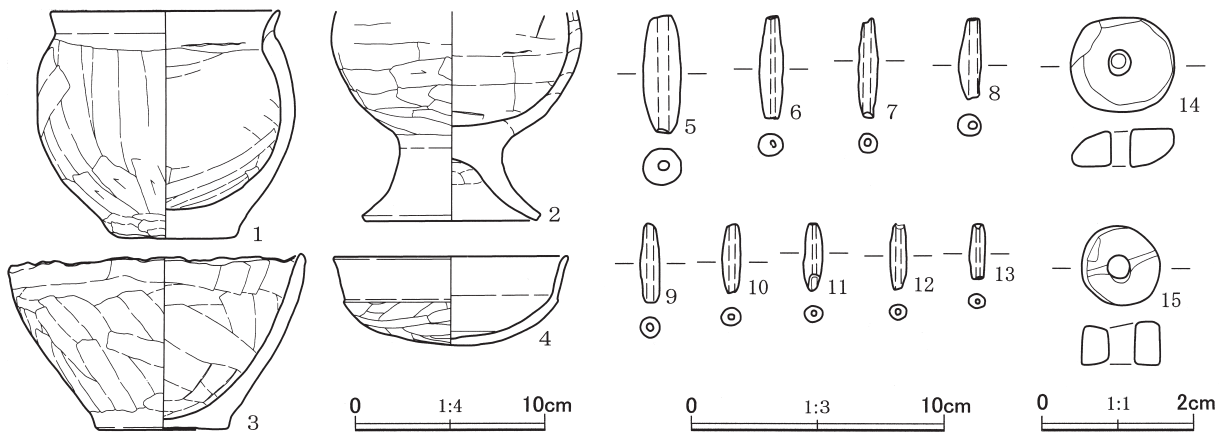
土粒(～4mm)を中量、ローム粒(～1mm)を微量含む。粘性はやや強い。

- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を少量含み、ローム粒(～8mm)を中量含む。
- 第5層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を中量含み、焼土粒(～2mm)を少量含む。

第66号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を中量含み、焼土粒(～4mm)を少量、ローム小塊(～10mm)を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を中量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を中量含む。

第109図 第66号住居跡平面・断面図(2)



第110図 第66号住居跡出土遺物

第51表 第66号住居跡出土遺物観察表(1)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	小型甕	口径 (12.4) 底径 6.5 器高 12.0	口縁部は短く外傾する。胴部は中位に丸みをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ、下位ヘラケズリ。底部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・角閃石・石英 内外-にぶい橙色	口縁部～胴部2/3欠損

第52表 第66号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
2	台付土器	口径 — 底径 (9.5) 器高 [11.5]	胴部は中位に膨らみをもつ。台部はハの字形に開く。粘土紐積み上げによる成形。	外面—胴部ヘラケズリ。台部ヨコナデ。内面—胴部ヘラナデ。台部上位ナデ、下位ヨコナデ。	片岩・白色粒・石英 内外—明赤褐色	口縁部欠損
3	鉢	口径 16.0 底径 7.0 器高 9.6	平底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。口縁部は整っていない。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部～体部ヘラナデ、下端ナデ。底部ヘラケズリ。内面—口縁部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・石英 内外—にぶい黄橙色	3/4残存
4	坏	口径 12.8 底径 — 器高 4.9	丸底。口縁部は体部との境に弱い稜をもって外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・赤褐色粒 内外—橙色	口縁部1/4欠損
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
5	土錘	長さ4.9、幅1.6、厚さ1.5、重さ10.97g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：橙色。				完形
6	土錘	長さ4.3、幅1.0、厚さ0.9、重さ4.08g。胎土：白色粒。色調：黒褐色。				完形
7	土錘	長さ4.2、幅0.8、厚さ0.8、重さ2.63g。胎土：白色粒。色調：にぶい黄褐色。				完形
8	土錘	長さ3.4、幅1.0、厚さ0.9、重さ2.61g。胎土：白色粒・石英。色調：にぶい黄褐色。				完形
9	土錘	長さ3.3、幅0.8、厚さ0.8、重さ2.31g。胎土：白色粒。色調：にぶい黄褐色。				完形
10	土錘	長さ2.9、幅0.8、厚さ0.8、重さ1.56g。胎土：白色粒。色調：橙色。				完形
11	土錘	長さ2.8、幅0.8、厚さ0.7、重さ1.52g。胎土：白色粒。色調：灰黄褐色。				ほぼ完形
12	土錘	長さ[2.7]、幅0.7、厚さ0.6、重さ[1.35]g。胎土：白色粒。色調：にぶい黄褐色。				端部欠損
13	土錘	長さ2.2、幅0.7、厚さ0.6、重さ0.90g。胎土：白色粒。色調：灰黄褐色。				完形
14	石製品 白玉	長さ1.3、幅1.45、孔径0.25×0.25、厚さ0.53、重さ1.73g。石材：滑石。調整：全体的に研磨。				完形
15	石製品 白玉	長さ1.12、幅1.1、孔径0.35×0.35、厚さ0.6、重さ1.25g。石材：滑石。調整：全体的に研磨。				ほぼ完形

りのよい部分で6.47m、主軸方位はN-17°-Wである。床面は、支柱穴を結ぶ範囲からカマドにかけて明瞭に硬化している。壁の立ち上がりは比較的急で、壁高は13～15cmである。

支柱穴の可能性のあるピットは、位置的に見て、P1、P2の2つである。平面形は、やや不整な楕円形で、深さは、P1が34cm、P2が24cmである。他に床面でピットを3個検出している。カマドの斜め右のピットは、貯蔵穴であろうか。平面形は楕円形で、長径59cm、短径48cmである。やや丸みをもって先細りの形に掘り込まれており、深さは57cmである。

カマドは、北壁のほぼ中央に設けられている。第39号住居跡、第111号土坑に壊され、細長い両袖の先の方だけ残存する。残存部分には、被熱赤化の痕跡は見られない。

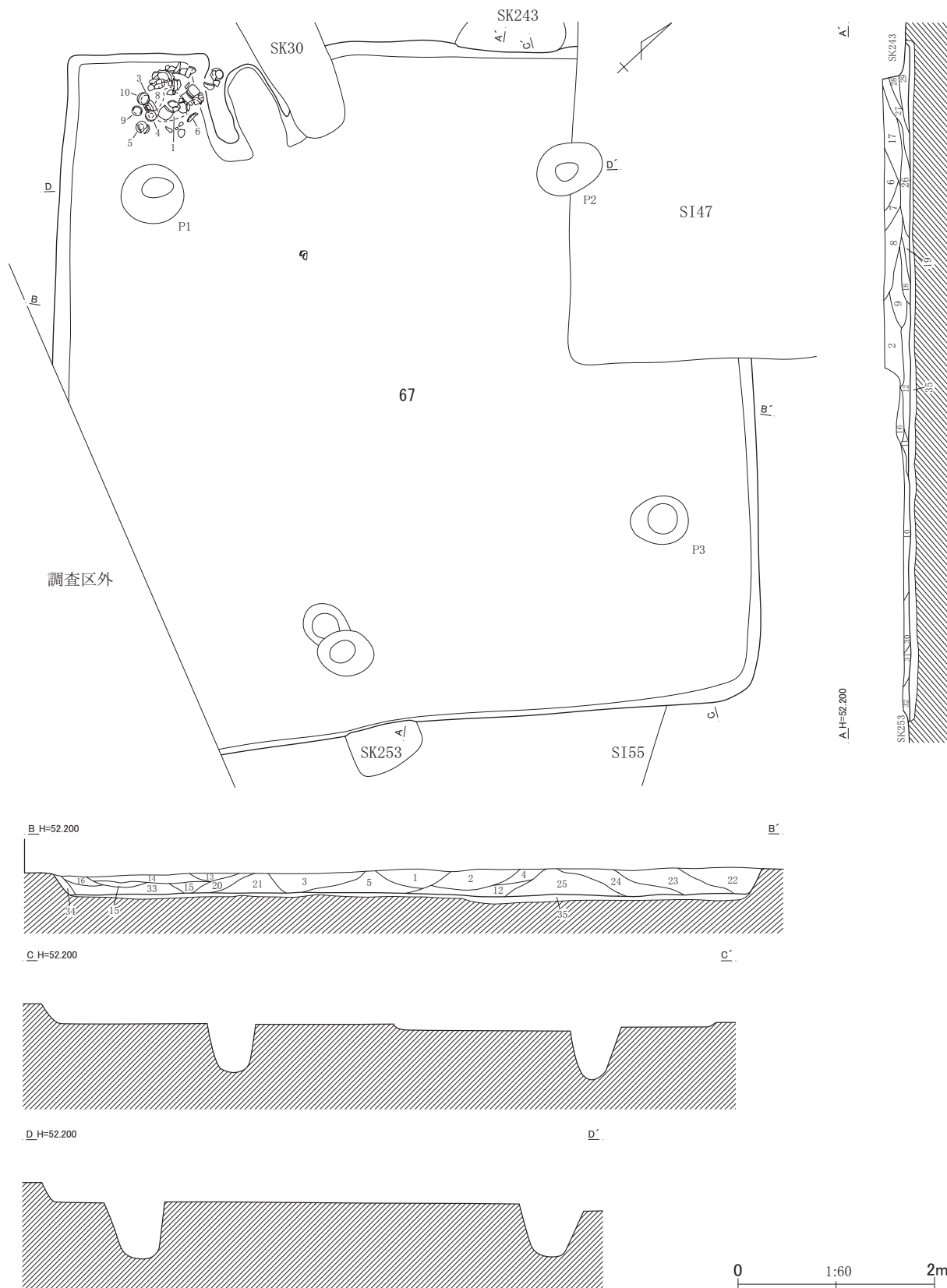
覆土は、暗褐色土を主とする6層に分けられた。第4層は、カマド覆土に由来する土層である。

第110図2の台付土器は、カマド右袖上面から、4の坏は、右袖脇から出土した。3の鉢は南壁近くの覆土中から出土している。重複関係、出土遺物から、古墳時代後期後葉前半の遺構と考えられる。

第67号住居跡(第111～114図、第53・54表、図版17・122・123)

調査地点の西半の南縁沿いのほぼ中央、N13、O13グリッドに位置し、J群に含まれる住居跡である。第82号住居跡を切っており、第47・55号住居跡、第30・243・253号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。また、第74・140号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、かなり歪ではあるが、方形と見てよいであろう。規模は、主軸方向で7.10m、副軸方向で7.08m、主軸方位はN-50°-Wである。床面は、所々硬化しているようであるが、全体としては顕著ではない。壁の立ち上がりは比較的急であり、壁高は、北西壁、北東壁で26cm、南西壁で20cmである。



第67号住居跡土層説明(1)

第1層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含み、ローム粒(～4mm)・焼土粒(～2mm)を微量含む。 第2層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を中量含み、ローム小塊(～30mm)を少量、焼土粒(～4mm)を微量含む。

第111図 第67号住居跡平面・断面図(1)

第67号住居跡土層説明(2)

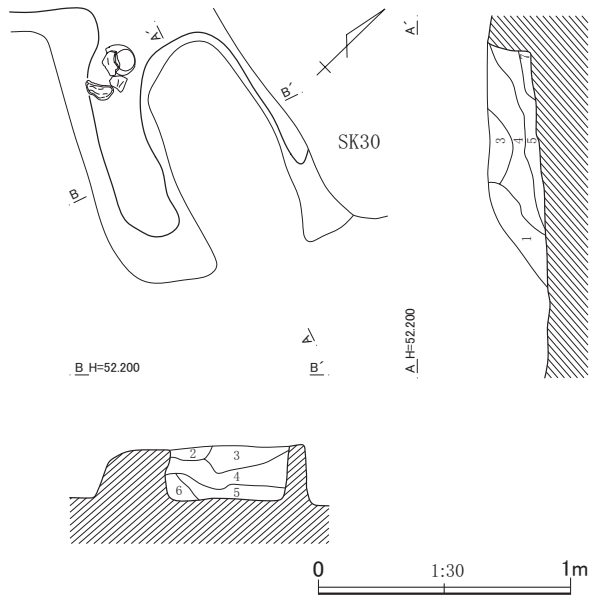
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)・ローム粒(～2mm)を中量含み、焼土粒(～4mm)を多量に含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を少量含み、ローム粒(～8mm)・焼土粒(～2mm)を微量含む。
- 第5層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を多量に含み、焼土粒(～4mm)を少量、ローム小塊(～10mm)を微量含む。
- 第6層：暗褐色土。ローム粒(～8mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)を少量含む。
- 第7層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を微量含む。
- 第8層：暗褐色土。ローム粒(～6mm)・焼土粒(～4mm)を少量含み、ローム小塊(～20mm)を微量含む。
- 第9層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を中量含み、ローム小塊(～30mm)を微量含む。
- 第10層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を中量含み、ローム小塊(～30mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。
- 第11層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・粘土粒(～2mm)を少量含む。
- 第12層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・粘土粒(～2mm)・粘土粒(～8mm)を少量含む。粘性はやや強い。
- 第13層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～0.5mm)・ローム小塊(～40mm)を少量含む。
- 第14層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を多量に含み、ローム小塊(～30mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。
- 第15層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・炭化物粒(～1mm)を少量含む。
- 第16層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含む。
- 第17層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を多量に含み、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～2mm)を少量含む。
- 第18層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～8mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)を少量含む。
- 第19層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・焼土粒(～1mm)を少量含む。
- 第20層：黄褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～8mm)を中量含み、焼土粒(～4mm)を少量含む。
- 第21層：暗褐色土。ローム土を主とし、暗褐色土小塊(～10mm)・焼土粒(～2mm)を微量含む。
- 第22層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を多量に含み、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～2mm)を微量含む。
- 第23層：暗褐色土。ローム小塊(～30mm)を少量含む。粘性は弱い。
- 第24層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を多量に含み、炭化物粒(～1mm)を少量、ローム小塊(～20mm)・焼土粒(～4mm)を微量含む。
- 第25層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を多量に含み、焼土粒(～8mm)を少量、ローム小塊(～50mm)を微量含む。
- 第26層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を中量含み、焼土粒(～4mm)を微量含む。
- 第27層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・ローム小塊(～15mm)を少量含む。
- 第28層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を少量含み、炭化物粒(～2mm)・焼土粒(～2mm)を微量含む。
- 第29層：暗褐色土。ローム粒(～6mm)を中量含む。
- 第30層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)を少量含む。
- 第31層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を中量含む。
- 第32層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を微量含む。
- 第33層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を少量含む。
- 第34層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。
(掘り方埋土)
- 第35層：暗褐色土。ローム小塊(～20mm)を少量含み、ローム小塊(～50mm)を中量含む。ややしまっており、粘性は弱い。

第112図 第67号住居跡平面・断面図(2)

主柱穴の可能性のあるピットは、位置的に見て、P1～P3の3つである。平面形は、いずれも楕円形、卵形で、深さは、P1、P3が43cm、P2が58cmである。他に床面で検出したピットが6つある。

カマドは、北西壁の西隅に著しく偏した位置に斜行して設けられている。第30号土坑に右袖の大半を壊されている。丸みのある燃焼部を袖が馬蹄形に囲む形態である。袖端を末端とすれば、燃焼部の長さは94cm、横幅は48cmである。燃焼面は、床面とほぼ同じ高さで、細かな凹凸が見られる。燃焼面や側壁、奥壁のかなりの範囲にわたって被熱赤化しているが、かなりむらがあるようである。

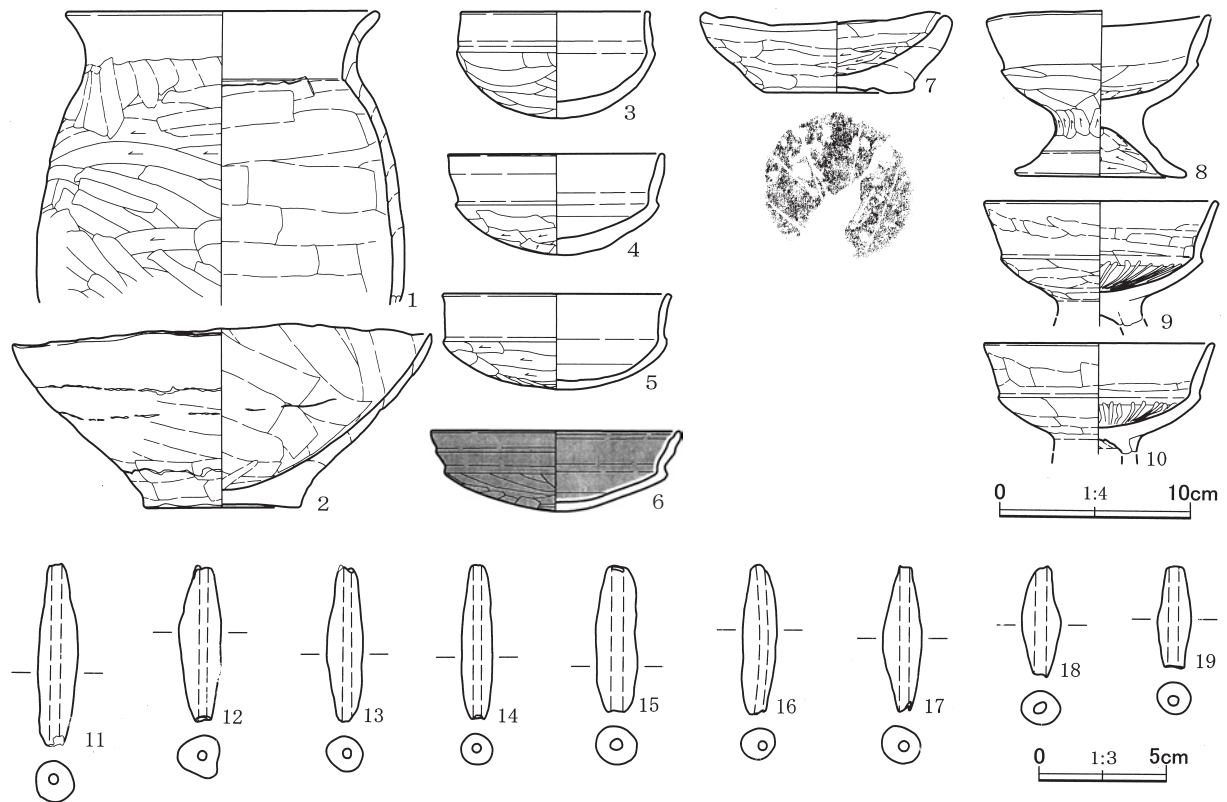
覆土は、暗褐色土を主とし、ロームや焼土、炭化物の多寡により細かな分層が可能であった。様々な土が小さな単位をなし、埋め戻されたかの観を呈する。第35層は、暗褐色土とロームの混合土からなる掘り方の埋土である。



第67号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・粘土小塊(～10mm)を少量含み、粘土粒(～2mm)を中量含む。粘性はやや強い。
- 第2層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～2mm)を中量含み、焼土粒(～8mm)を微量含む。粘性はやや強い。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・粘土粒(～8mm)を少量含む。粘性はやや強い。
- 第4層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～8mm)・粘土小塊(～20mm)・焼土小塊(～10mm)を中量含み、焼土小塊(～20mm)を少量含む。粘性はやや強い。
- 第5層：赤褐色土。焼土を主とし、暗褐色土を少量含み、粘土粒(～6mm)・粘土小塊(～15mm)を中量含む。粘性はやや強い。
- 第6層：暗褐色土。焼土粒(～4mm)を微量含む。
- 第7層：暗褐色土。焼土粒(～1mm)を少量含み、焼土粒(～6mm)を微量含む。

第113図 第67号住居跡平面・断面図(2)



第114図 第67号住居跡出土遺物

第53表 第67号住居跡出土遺物観察表(1)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 17.0 底径 — 器高 [16.2]	口縁部は外反する。胴部は中位に膨らみをもつ。粘土細積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ後、上位ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・石英・雲母 外—橙色 内—ぶい橙色	口縁部～胴部 中位2/3残存

第54表 第67号住居跡出土遺物観察表(2)

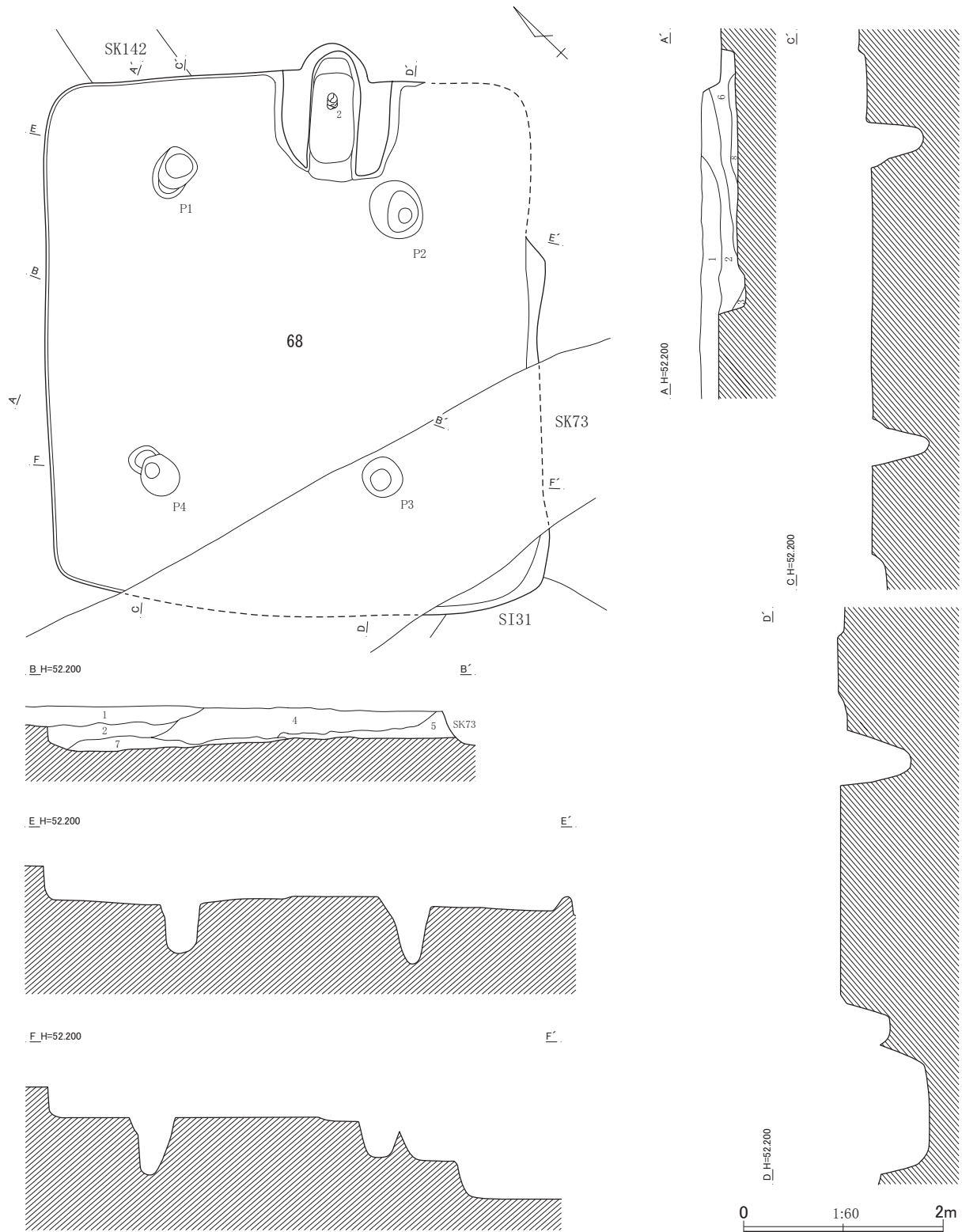
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
2	鉢	口径 23.0 底径 8.4 器高 10.1	平底。体部から口縁部にかけて内彎気味に開く。口縁部は整っていない。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部～体部ヘラナデ。底部ヘラケズリ。内面－口縁部～底部ヘラナデ。	白色粒・雲母 外－にぶい黄橙色 内－にぶい橙色	口縁部一部欠損
3	坏	口径 10.3 底径 — 器高 5.9	丸底。口縁部は体部との境に稜をもってやや内傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。体部～底部磨耗。	白色粒・雲母 内外－にぶい黄橙色	完形
4	坏	口径 11.8 底径 — 器高 5.6	丸底。口縁部は体部との境に稜をもってやや外傾し、上位で直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部～体部上半ヨコナデ。体部下半～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外－橙色	完形
5	坏	口径 12.4 底径 — 器高 5.3	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって直立し、上端で外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部～体部上半ヨコナデ。体部下半～底部ヘラナデ。	白色粒・石英 外－にぶい橙色 内－橙色	ほぼ完形
6	坏	口径 (13.6) 底径 — 器高 4.4	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外傾し、段を有する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。黒色処理。内面－口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。黒色処理。	白色粒・角閃石 内外－にぶい黄橙色	1/2残存
7	鉢	口径 13.3 底径 8.2 器高 4.5	上げ底。体部から口縁部にかけて内彎気味に開く。口縁部は整っていない。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。底部木葉痕。内面－口縁部ヘラナデ。体部～底部ヘラケズリ。	白色粒・黒色粒・石英 内外－にぶい黄橙色	ほぼ完形
8	高坏	口径 12.1 底径 9.0 器高 9.2	口縁部はやや外傾し、坏部との境に稜をもつ。脚部はハの字形に開き、弱い段を有する。裾部は短く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。坏部～脚部上半ヘラケズリ。脚部下半ナデ。裾部ヨコナデ。内面－口縁部ヨコナデ。坏部ヘラナデ。脚部ヘラケズリ後、上位ヘラナデ。裾部ヨコナデ。	白色粒・黒色粒 内外－にぶい黄橙色	ほぼ完形
9	高坏	口径 12.6 底径 — 器高 [6.9]	口縁部は坏部との境に稜をもって外傾する。口唇部は平坦面をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ後中位ヘラナデ。坏部ヘラナデ。内面－口縁部上半ヨコナデ、下半ヘラナデ。坏部ヘラナデ後放射状暗文。	白色粒・雲母 外－にぶい黄橙色 内－にぶい橙色	坏部
10	高坏	口径 12.5 底径 — 器高 [6.1]	口縁部は坏部との境に稜をもって外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ後中位ヘラナデ。坏部ヘラナデ。内面－口縁部上半ヨコナデ、下半ヘラナデ。坏部ヘラナデ後放射状暗文。	白色粒・雲母 外－にぶい橙色 内－明赤褐色	坏部
No.	器種	法量(cm)・特徴			備考	
11	土錘	長さ7.5、幅1.6、厚さ1.7、重さ18.52g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：褐色。			ほぼ完形	
12	土錘	長さ6.5、幅1.7、厚さ1.7、重さ16.74g。胎土：白色粒。色調：黒褐色。			完形	
13	土錘	長さ6.5、幅1.5、厚さ1.5、重さ12.08g。胎土：白色粒。色調：灰黄褐色。			ほぼ完形	
14	土錘	長さ6.3、幅1.3、厚さ1.3、重さ10.13g。胎土：白色粒。色調：にぶい橙色。			完形	
15	土錘	長さ6.1、幅1.7、厚さ1.6、重さ15.91g。胎土：白色粒。色調：にぶい橙色。			完形	
16	土錘	長さ6.2、幅1.4、厚さ1.3、重さ10.50g。胎土：白色粒。色調：にぶい橙色。			ほぼ完形	
17	土錘	長さ6.0、幅1.6、厚さ1.6、重さ11.23g。胎土：白色粒。色調：黒色。			完形	
18	土錘	長さ4.5、幅1.6、厚さ1.4、重さ7.32g。胎土：白色粒。色調：暗灰色。			完形	
19	土錘	長さ4.2、幅1.4、厚さ1.3、重さ6.37g。胎土：白色粒。色調：暗灰色。			完形	

第114図1の甕、3～6の坏、8～10の高坏は、カマド左袖の脇から、上下幅をもちながらもまとまって出土した。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期中葉の遺構と考えられる。

第68号住居跡(第115～117図、第55表、図版17・123)

調査地点の南西部の中央、西縁寄り、N11・12、O11グリッドに位置し、E群に含まれる住居跡である。第43・44・112号住居跡を切っており、第31号住居跡、第73・142号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。また、第37・42号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、長方形になろうか。規模は、主軸方向での推定長で5.43m前後、副軸方向での横幅は



第68住居跡土層説明(1)

第1層：暗褐色土。ローム粒(～3mm)を多量に含み、焼土粒(～5mm)を中量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒(～3mm)・焼土粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)を微量含む。

第3層：暗褐色土。ローム小塊(～20mm)を中量含み、ローム

小塊(～40mm)・焼土小塊(～10mm)を少量含む。

第4層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～5mm)を少量含む。

第5層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～20mm)を中量含み、焼土粒(～5mm)を微量含む。

第115図 第68号住居跡平面・断面図(1)

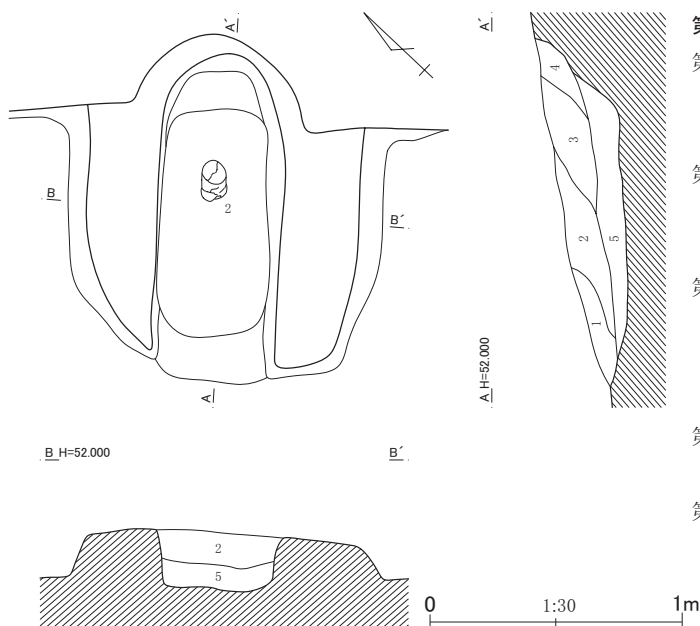
第68号住居跡土層説明(2)

第6層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を少量含む。

第7層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を多量に含み、ローム

小塊(～20mm)を少量、焼土粒(～5mm)を微量含む。

第8層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)を中量含み、ローム小塊(～25mm)を少量含む。



第68住居跡カマド土層説明

第1層：明灰褐色土。灰褐色粘土を主とし、暗褐色土粒子(～0.5mm)・暗褐色土小塊(～10mm)を少量含む。粘性は強い。

第2層：明赤灰褐色土。灰褐色粘土を主とし、暗褐色土粒子(～0.5mm)・焼土粒(～4mm)を少量含み、焼土粒(～2mm)を中量含む。粘性は強い。

第3層：明赤灰褐色土。灰褐色粘土を主とし、暗褐色土粒子(～8mm)を少量含み、暗褐色土小塊(～15mm)・焼土粒(～8mm)を中量、焼土小塊(～15mm)を微量含む。粘性は強い。

第4層：暗灰褐色土。暗褐色粘土・灰褐色粘土を主とし、焼土粒(～4mm)を少量含む。粘性は強い。

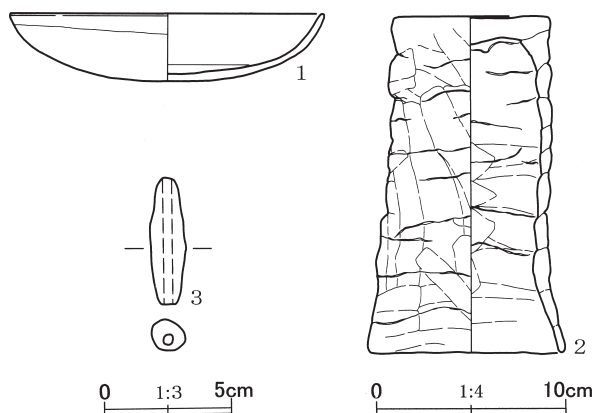
第5層：暗灰褐色土。灰褐色粘土を主とし、暗褐色土粒子(～0.5mm)・暗褐色土小塊(～10mm)・ローム粒(～0.5mm)・ローム小塊(～10mm)を少量含み、焼土粒(～8mm)を微量含む。粘性は強い。

第116図 第68号住居跡平面・断面図(2)

4.95m、主軸方位はN-47°-Eである。床面にはかなり凹凸があり、床面の中央からカマド前面にかけて帯状に硬化している。壁の立ち上がりは比較的急であり、壁高は、北西壁で23cm、北東壁で10cm前後である。

P1～P4は、支柱穴であろう。平面形は、円形、楕円形であるが、P1、P4では、側壁の途中に段が見られる。深さは、P1が50cm、P2が67cm、P3が42cm、P4が58cmである。

カマドは、北東壁の中央、やや東隅に寄った位置に設けられている。比較的幅広の両袖に挟まれ



第117図 第68号住居跡出土遺物

第55表 第68号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	皿	口径(17.2) 底径 — 器高 3.7	丸底。体部は浅く開き、口縁部は内彎気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面-口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒 内外-橙色	2/3残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
2	土製品 支脚	長さ18.5、上面径(8.6)、下面径(10.6)。	成形：粘土紐積み上げによる成形。	調整：内外面ナデ。	胎土：白色粒・石英。色調：外-にぶい黄橙色、内-明赤褐色。	3/4上面磨耗
3	土錘	長さ5.0、幅1.5、厚さ1.3、重さ8.98g。	胎土：白色粒。色調：明赤褐色。			完形



第118図 第69号住居跡平面・断面図(1)

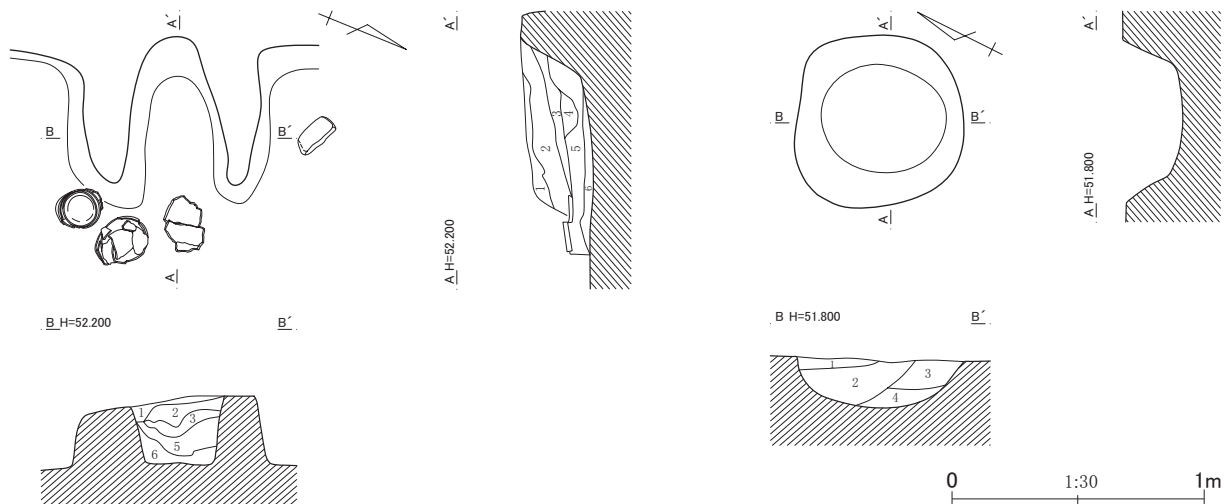
た長楕円形の燃焼部が残存する。燃焼面は、浅く掘りくぼめ造作されている。奥壁の中段には段を有し、煙道に連なるようである。燃焼部の長さは130cm、中央での横幅は50cmである。燃焼部から奥壁の一部にかけて、部分的に被熱赤化している。燃焼面の中央、やや奥壁寄りの位置に、第117図2の土製支脚が正位の状態に据え置かれていた。カマドの覆土には、全体的に灰褐色粘土が多く含まれるが、とくに第1～3層には、天井部や側壁の崩落土が多量に含まれるようである。

第1層は、遺構を被覆する表土の一部であり、本住居跡の覆土自体は、暗褐色土を主とする第2～7層の6層である。暗褐色土を主とし、総じてローム粒やロームの小塊が目立つ土層である。

第117図1の皿は、カマド内から出土した。他には、カマド内や覆土中から、土師器片を主とする遺物が散漫に出土したのみである。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末期から奈良時代初頭にかけての遺構であろうか。

第69号住居跡(第118～120図、第55表、図版17・123)

調査地点の中央の南西寄り、P11・12グリッドに位置し、E群に含まれる住居跡である。第80・89



第69号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒（～4mm）を中量含み、粘土小塊（～10mm）・焼土粒（～4mm）を少量含む。粘性はやや強い。
- 第2層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、焼土粒（～4mm）を多量に含み、粘土粒（～4mm）・粘土小塊（～10mm）・焼土小塊（～30mm）を中量含む。粘性はやや強い。
- 第3層：暗褐色土。粘土粒（～0.5mm）・粘土小塊（～10mm）・焼土粒（～2mm）を少量含む。粘性はやや強い。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒（～2mm）・焼土粒（～1mm）を少量含む。
- 第5層：暗褐色土。粘土小塊（～10mm）・焼土粒（～8mm）を中量含み、粘土粒（～4mm）を少量、焼土小塊（～30mm）

を微量含む。

- 第6層：暗褐色土。ローム粒（～4mm）・焼土粒（～4mm）を少量含む。

第69号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒（～0.5mm）を中量含む。
- 第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～2mm）を多量に含み、ローム粒（～8mm）を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒（～1mm）を少量含み、ローム粒（～4mm）を微量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒（～1mm）を少量含み、ローム粒（～6mm）を微量含む。

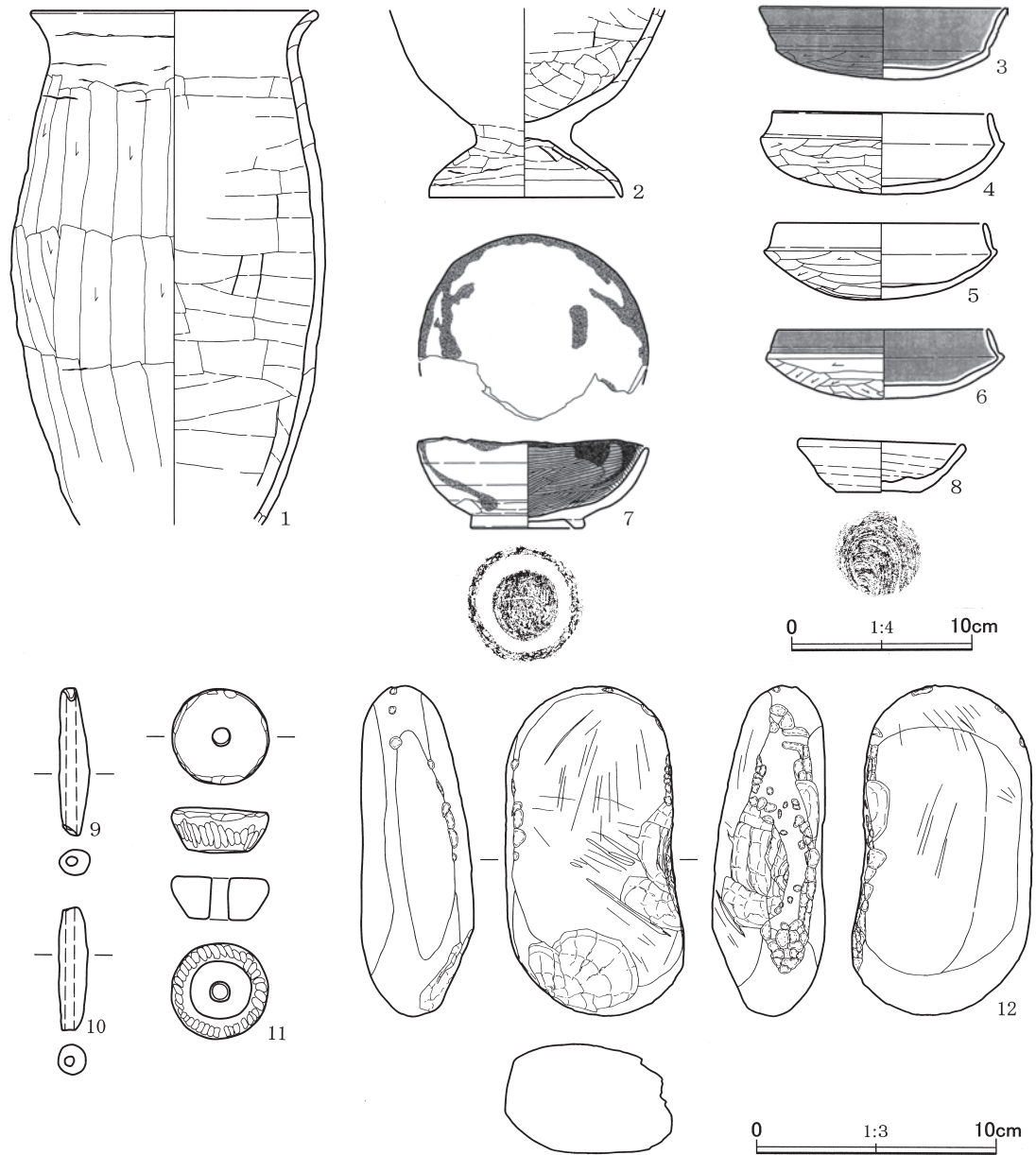
第119図 第69号住居跡平面・断面図（2）

号住居跡を切っており、第51・120号住居跡、第285・286号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。また、第48・64号住居跡と重複する。なお、第123・124号住居跡と重複するが、第89号住居跡が介在するため、直接切り合い関係にはない。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、南隅と東隅が鋭角をなす歪な台形に近い形態である。規模は、主軸方向で6.15m、副軸方向の残りのよい部分で5.40mであるが、対面する北西壁、南東壁の長さを測ると、前者は5.40m、後者は6.74mとなり、著しく対称性を欠くことが判る。主軸方位は、S-57°-Wである。床面はほぼ平坦であり、中央部のみ硬化している。壁の立ち上がりは、同じ壁の中でも緩急があり、壁高は、南西壁、南東壁で7cm、北西壁で5cm、北東壁で28cmである。

カマド左袖と南東壁の間にあるピットは、貯蔵穴であろう。平面形はやや不整な円形で、最大径は74cmである。丸みをもって掘り込まれており、最深部での深さは20cmである。ローム小塊を目立って含む特徴的な覆土である。

カマドは、南西壁のやや南隅に寄った位置に設けられている。短い袖に挟まれた燃焼部は、焚口側がやや開く形態である。燃焼面は、かすかにくぼむように造作されている。袖端を末端とするなら、燃焼部の長さは67cm、横幅は37cmである。側壁の上部がわずかに被熱赤化している。カマド覆土の第1・2層は、天井部や側壁の崩落土を含むようである。



第120図 第69号住居跡出土遺物

第56表 第69号住居跡出土遺物観察表(1)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 16.4 底径 — 器高 [30.0]	口縁部は外反する。胴部は中位に膨らみをもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・角閃石・石英 外—橙色 内—にぶい橙色	底部欠損
2	台付甕	口径 — 底径 (11.2) 器高 [11.0]	胴部はわずかに膨らみをもつ。台部はハの字形に開き、端部で内屈する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—胴部ヘラナデ。台部ヘラナデ、端部ヨコナデ。内面—胴部ヘラナデ。台部ヘラナデ、端部ヨコナデ。	白色粒・石英・礫 内外—明赤褐色	胴部下半～台部3/4
3	坏	口径 14.4 底径 — 器高 4.2	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外傾し、中位に段を有する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ黒色処理。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。黒色処理。	白色粒・黒色粒 内外—黒色	一部欠損
4	坏	口径 12.7 底径 — 器高 4.8	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって内傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—橙色	完形

第57表 第69号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
5	坏	口径 12.1 底径 — 器高 4.4	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって内傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・石英 外—橙色 内—オリーブ黒色	口縁部一部欠損
6	坏	口径 12.3 底径 — 器高 4.0	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって内傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。口縁部黒色処理。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。黒色処理。	白色粒・黒色粒 外—にぶい褐色 内—黒褐色	4/5残存
7	須恵器 埴	口径 13.3 底径 6.4 器高 5.3	高台部は台形を呈し、端部は丸みを帯びる。体部は丸みをもつ。口縁部は整わない。ロクロ成形。	外面—ロクロナデ。体部下端ヘラナデ。底部回転糸切り。高台貼付時周縁ナデ。内面—ロクロナデ後ミガキ。黒色処理。	石英・白色粒・黒色粒 外—灰黄色 内—黒色	口縁部1/3欠損、酸化焰焼成炭化物付着
8	カワラケ	口径 9.4 底径 4.9 器高 3.1	平底。体部から口縁部へ直線的に開き、口唇部は肥厚する。ロクロ成形。	外面—ロクロナデ。底部左回転糸切り。内面—ロクロナデ。	角閃石・片岩・白色粒 内外—にぶい橙色	口縁部1/4欠損
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
9	土錘	長さ6.4、幅1.3、厚さ1.1、重さ8.38g。	胎土：白色粒・黒色粒。色調：明赤褐色。			完形
10	土錘	長さ5.4、幅1.3、厚さ1.3、重さ9.38g。	胎土：白色粒・黒色粒・石英。色調：橙色。			完形
11	石製 紡錘車	上面径4.25、下面径2.6、孔径0.9、厚さ1.95、重さ51.60g。石材：片岩。調整：全体的に丁寧な研磨。側面は研磨後に縦位のケズリ。				完形
12	砥石	長さ14.3、幅7.8、厚さ4.95、重さ[781.81]g。石材：安山岩。調整：4面使用。3面は砥面で非常に平滑、1面は敲打面。				ほぼ完形

覆土は、暗褐色土を主とする7層に分けられた。全体にロームの混入が顕著である。

第120図1の甕、4～6の坏は、カマド左袖先端から焚口にかけてやや浮いた状態で出土した。3の坏、9の土錘、12の角閃石安山岩製の砥石は、北東壁寄りの上～中層から礫などとともに出土している。7の高台付埴は、この遺物のまとまりに含まれるが、最上層からの出土であり、混入した遺物であろう。8のカワラケは、北隅近くから拳大～人頭大の礫とともに出土しているが、まとまりをなし出土している礫の多くとともに、最上層～上層出土であり、あるいは礫を伴う時期の新しい遺構に伴存する遺物である可能性があるのかもしれない。11の石製紡錘車は、カマドの左袖近くから出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期後葉前半～後半の遺構と考えられる。

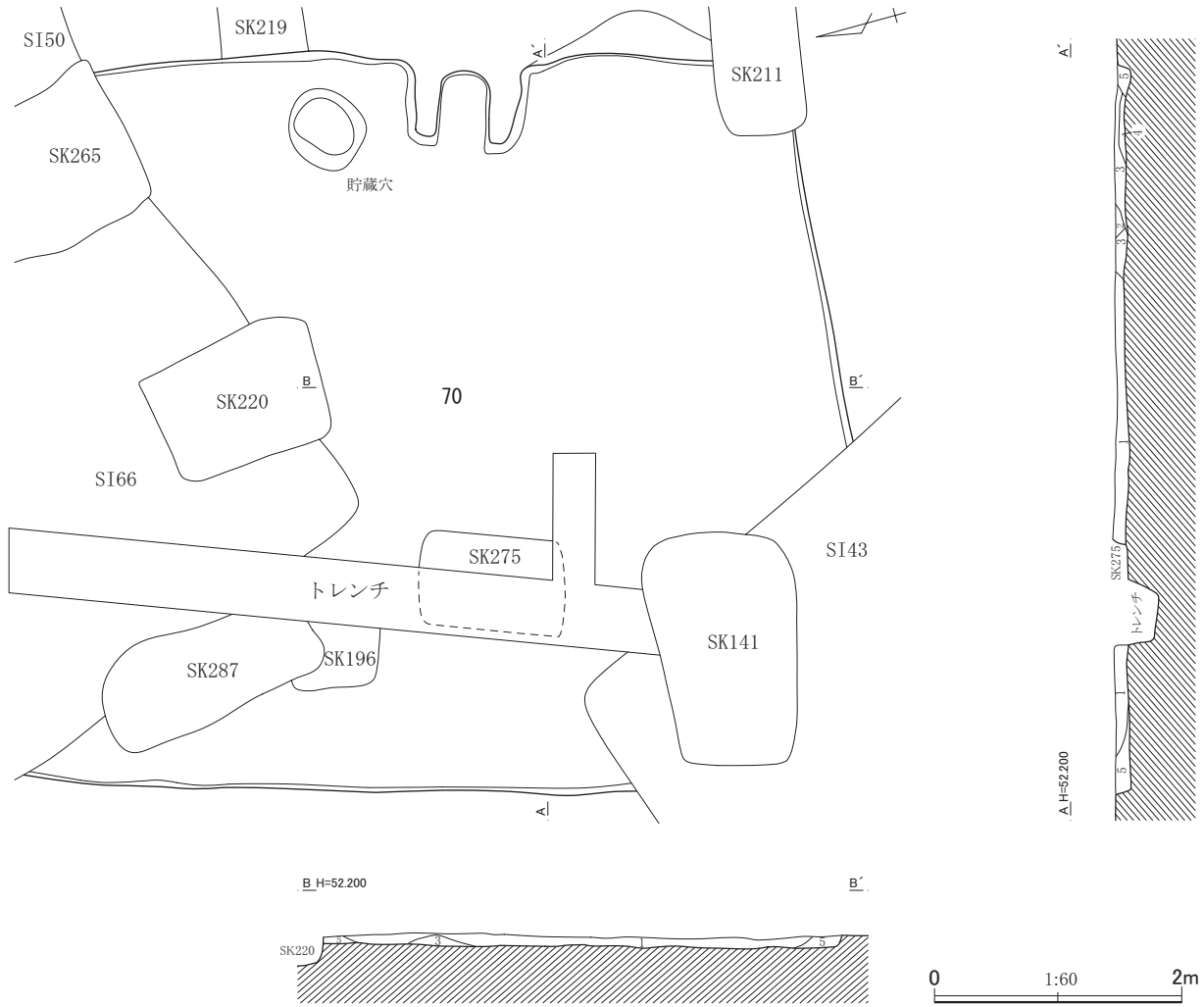
第70号住居跡(第121～123図、第58表、図版17・123)

調査地点の西半の中央の南西寄り、N10・11、O10・11グリッドに位置し、E群に含まれる住居跡である。第95・98号住居跡を切っており、第43・66号住居跡、第141・196・211・219・220・265・275・287号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。また、第72・84号住居跡と重複する。なお、第50・98号住居跡とも重複するが、他の遺構が介在するため、直接切り合い関係にはない。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、横長の台形様の形態になろうか。規模は、主軸方向で5.96m、副軸方向で残りのよい部分での横幅は4.93m、主軸方位はS-75°-Eである。床面の、主に中央部分が部分的に硬化している。なお、床面には微妙な凹凸が目立つ。壁の立ち上がりはわずかであり、壁高は、南壁で9cm、西壁で12cmである。

カマドの左袖の脇にあるピットは、貯蔵穴であろう。平面形はやや不整な楕円形で、長径64cm、短径59cmである。丸みをもって掘り込まれており、最深部での深さは38cmである。

カマドは、残存する南壁のほぼ中央に設けられている。比較的短い袖を有し、側壁が直線的で奥壁が丸みをもつ形態である。燃焼面は、床面よりわずかであるが高くなっており、焚口と奥壁寄りに微段



第70号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含み、焼土粒（～3mm）を少量含む。

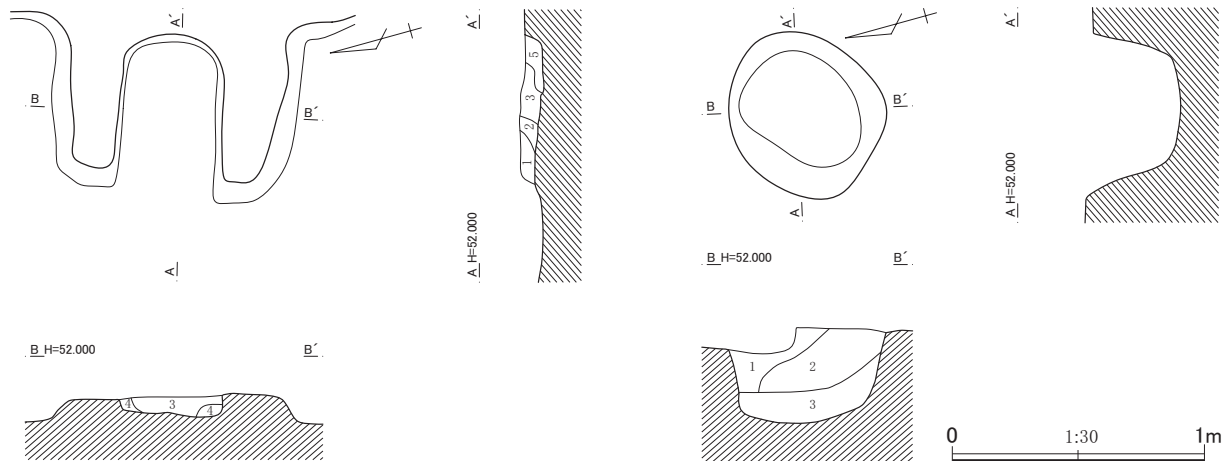
第2層：暗褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第3層：暗褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含み、焼土粒（～

5mm）を微量含む。

第4層：暗褐色土。ローム粒（～3mm）・ローム小塊（～10mm）を微量含む。

第5層：暗褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。



第121図 第70号住居跡平面・断面図（1）

第70号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)を微量含み、ローム粒(～5mm)を少量、焼土小塊(～15mm)を中量、焼土粒(～4mm)を多量に含む。粘性はやや強い。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を微量含み、焼土粒(～5mm)を少量含む。粘性はやや強い。
- 第3層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、焼土小塊(～10mm)を中量含み、ローム粒(～5mm)・焼土小塊(～30mm)を少量含む。粘性はやや強い。
- 第4層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)を少量含み、ローム小塊(～20mm)を微量、焼土粒(～5mm)を中量含む。

粘性はやや強い。

- 第5層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～20mm)を多量に含む。

第70号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～20mm)を少量含む。
- 第3層：明褐色土。ローム土を主とし、暗褐色土粒子(～0.5mm)を少量含む。

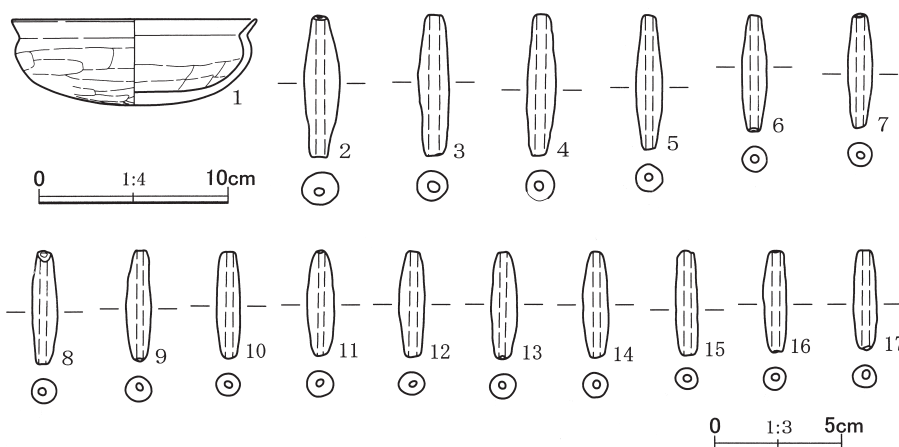
第122図 第70号住居跡平面・断面図(2)

第58表 第70号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 13.4 底径 — 器高 4.7	丸底。体部は丸みをもつ。口縁部は短く外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外一橙色	口縁部1/4欠損
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
2	土錘	長さ5.9、幅1.5、厚さ1.3、重さ11.04g。	胎土：白色粒。色調：にぶい橙色。		完形	
3	土錘	長さ5.9、幅1.3、厚さ1.3、重さ8.86g。	胎土：白色粒。色調：にぶい橙色。		完形	
4	土錘	長さ5.9、幅1.2、厚さ1.2、重さ8.58g。	胎土：白色粒・角閃石。色調：橙色。		ほぼ完形	
5	土錘	長さ5.6、幅1.1、厚さ1.1、重さ5.96g。	胎土：白色粒・黒色粒。色調：橙色。		完形	
6	土錘	長さ4.7、幅1.1、厚さ1.0、重さ5.46g。	胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい橙色。		完形	
7	土錘	長さ4.5、幅1.0、厚さ1.0、重さ4.67g。	胎土：白色粒・角閃石。色調：にぶい黄褐色。		完形	
8	土錘	長さ4.7、幅1.1、厚さ1.0、重さ4.90g。	胎土：白色粒・角閃石。色調：にぶい褐色。		完形	
9	土錘	長さ4.5、幅1.0、厚さ1.0、重さ5.03g。	胎土：白色粒。色調：灰黄褐色。		完形	
10	土錘	長さ4.4、幅1.0、厚さ0.9、重さ4.27g。	胎土：白色粒・黒色粒。色調：灰黄褐色。		完形	
11	土錘	長さ4.3、幅1.1、厚さ1.1、重さ5.58g。	胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい褐色。		完形	
12	土錘	長さ4.4、幅1.1、厚さ0.9、重さ4.51g。	胎土：白色粒。色調：にぶい黄褐色。		完形	
13	土錘	長さ4.5、幅1.1、厚さ1.0、重さ5.31g。	胎土：白色粒。色調：橙色。		完形	
14	土錘	長さ4.4、幅1.0、厚さ1.0、重さ4.81g。	胎土：白色粒。色調：灰黄褐色。		完形	
15	土錘	長さ4.4、幅0.9、厚さ0.9、重さ3.73g。	胎土：白色粒。色調：にぶい橙色。		完形	
16	土錘	長さ4.2、幅1.0、厚さ1.0、重さ3.99g。	胎土：白色粒。色調：灰黄褐色。		完形	
17	土錘	長さ4.1、幅0.9、厚さ0.9、重さ3.89g。	胎土：白色粒・黒色粒。色調：明褐色。		完形	

がある。燃焼部の長さは65cm、横幅は42cmである。燃焼面や側壁、奥壁の一部のみではあるが、被熱赤化している。

覆土は、暗褐色土を主とする5層に分けられた。第1・3層は、ロームの混入



第123図 第70号住居跡出土遺物

C地点

が目立つ土層である。

土錘が覆土中より17点出土している。重複関係、出土遺物から、古墳時代後期初頭（新相）の遺構と考えられる。

第71号住居跡（第124図、図版17）

調査地点の南西部の西縁沿い中央、M10・11グリッドに位置し、E群に含まれる住居跡である。第30・65号住居跡、第49・51・89・116・284土坑に切られており、遺構の西側部分は調査範囲外である。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

硬化した床面と南北壁の極一部のみ捉ええた遺構である。規模は、南北壁間で4.91m前後である。壁の立ち上がりは、比較的急であり、壁高は、南北壁ともに10cm前後である。南北壁間のほぼ真ん中の床面で、ピットを1つ検出している。平面形は、やや不整な楕円形で、深さは15cmである。

土師器片を主とする遺物が、覆土中より少数出土している。重複関係から見て、古墳時代後期後葉前半以前の遺構であろうか。

第72号住居跡（第125・126図、第59表、図版18・124）

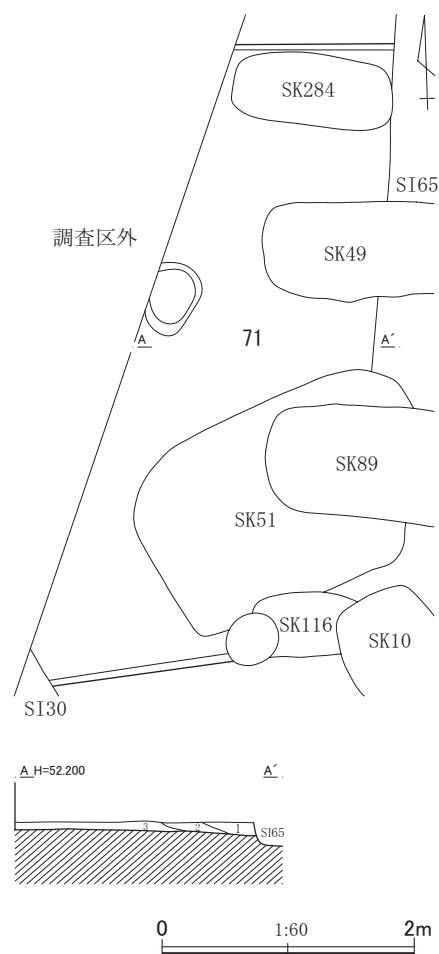
調査地点の西縁近くのほぼ中央、N10、O10グリッドに位置し、E群に含まれる住居跡である。第93・95・96号住居跡を切り、第66・84号住居跡、第42・91・97・110・112・153・166・196・197・220・223・227・287号土坑と重複し、遺構の一部を壊されている。また、第70号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

残存部分が乏しく全形を推し量ることが困難であるが、ひとまず不整な台形に近い平面形と推定しておきたい。規模は、主軸方向での推定値で5.05m、副軸方向の残りのよい部分での横幅は、6.03mである。主軸方位は、N-70°-E前後であろう。

壁の立ち上がりは、比較的急峻で、壁高は、北壁で10cm、西壁で16cm、南壁で11cmである。立ち上がりも急峻である。床面は中央が微妙に高くなるようであり、カマド推定範囲の前面から中央にかけて、軽微ではあるが、硬化している。

P1～P3は、支柱穴であろう。平面形は、いずれもやや不整な円形である。

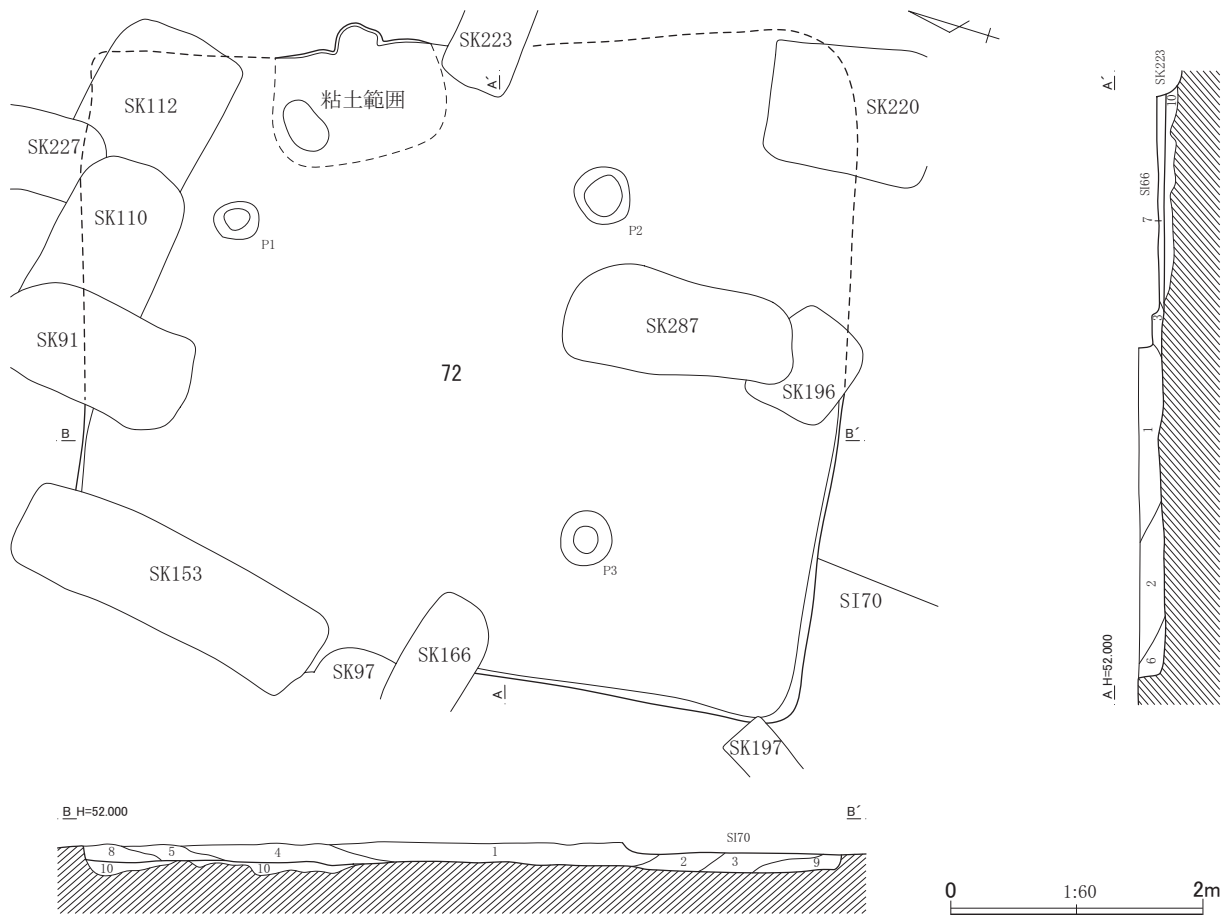
住居跡の東側、66号住居跡に切られた範囲に、粘土が明瞭に分布する部分があり、ここにカマドがあったと考えた。また、この推定に基づき、東壁の位置を推定している。粘土の分布範囲は、東西方向で109cm、南北方向で138cmである。



第71号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含み、焼土粒（～5mm）を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）・粘土小塊（～30mm）を少量含む。

第124図 第71号住居跡平面・断面図

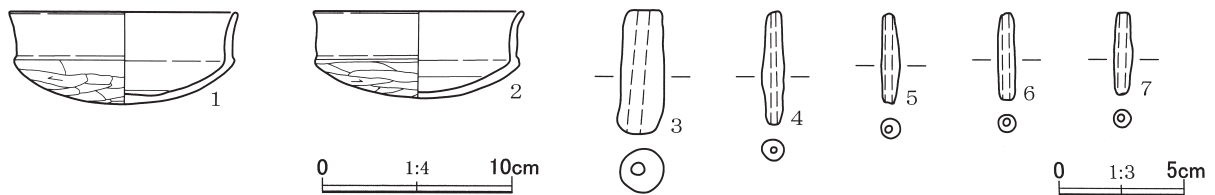


第72号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を中量含み、焼土粒(～4mm)を少量、ローム小塊(～10mm)を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)・ローム粒(～6mm)を少量含み、焼土粒(～4mm)を微量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・焼土粒(～1mm)を微量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含み、ローム小塊(～20mm)・焼土粒(～2mm)を微量含む。
- 第5層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・焼土粒(～4mm)を微量含む。
- 第6層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を

- 多量に含み、ローム小塊(～10mm)を少量含む。
- 第7層：暗褐色土。粘土粒(～0.5mm)を中量含み、ローム粒(～4mm)・粘土小塊(～20mm)を少量、ローム小塊(～10mm)を微量含む。粘性は強い。
- 第8層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を中量含み、ローム粒(～6mm)を少量含む。
- 第9層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～6mm)を多量に含み、ローム小塊(～20mm)を少量含む。
- 〈掘り方埋土〉
- 第10層：黄褐色土。ローム土を主とし、暗褐色土粒子(～4mm)を少量含む。しまっている。

第125図 第72号住居跡平面・断面図



第126図 第72号住居跡出土遺物

C地点

第59表 第72号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 12.4 底径 — 器高 5.1	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって直立し、上位で外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・雲母 内外—橙色	ほぼ完形
2	坏	口径 11.5 底径 — 器高 4.8	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって直立し、上位で外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部上半ヨコナデ。体部下半～底部ヘラナデ。	白色粒・赤褐色粒 内外—橙色	ほぼ完形
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
3	土錘	長さ5.1、幅1.8、厚さ1.8、重さ21.12g。胎土：白色粒。色調：にぶい橙色。				完形
4	土錘	長さ4.7、幅0.9、厚さ0.9、重さ3.71g。胎土：白色粒・石英。色調：橙色。				完形
5	土錘	長さ3.7、幅0.8、厚さ0.8、重さ2.20g。胎土：白色粒。色調：黒色。				完形
6	土錘	長さ3.6、幅0.7、厚さ0.7、重さ2.27g。胎土：白色粒。色調：灰黄色。				完形
7	土錘	長さ3.4、幅0.8、厚さ0.7、重さ1.84g。胎土：白色粒。色調：にぶい黄色。				完形

覆土は、暗褐色土を主とする9層に分けられた。第7層には、粘土がかなり含まれるようであった。第10層は、掘り方の埋土である。暗褐色土にロームを混ぜた土で掘り方を埋めており、薄層をなす明瞭な貼床層と呼べるような層は見られなかった。

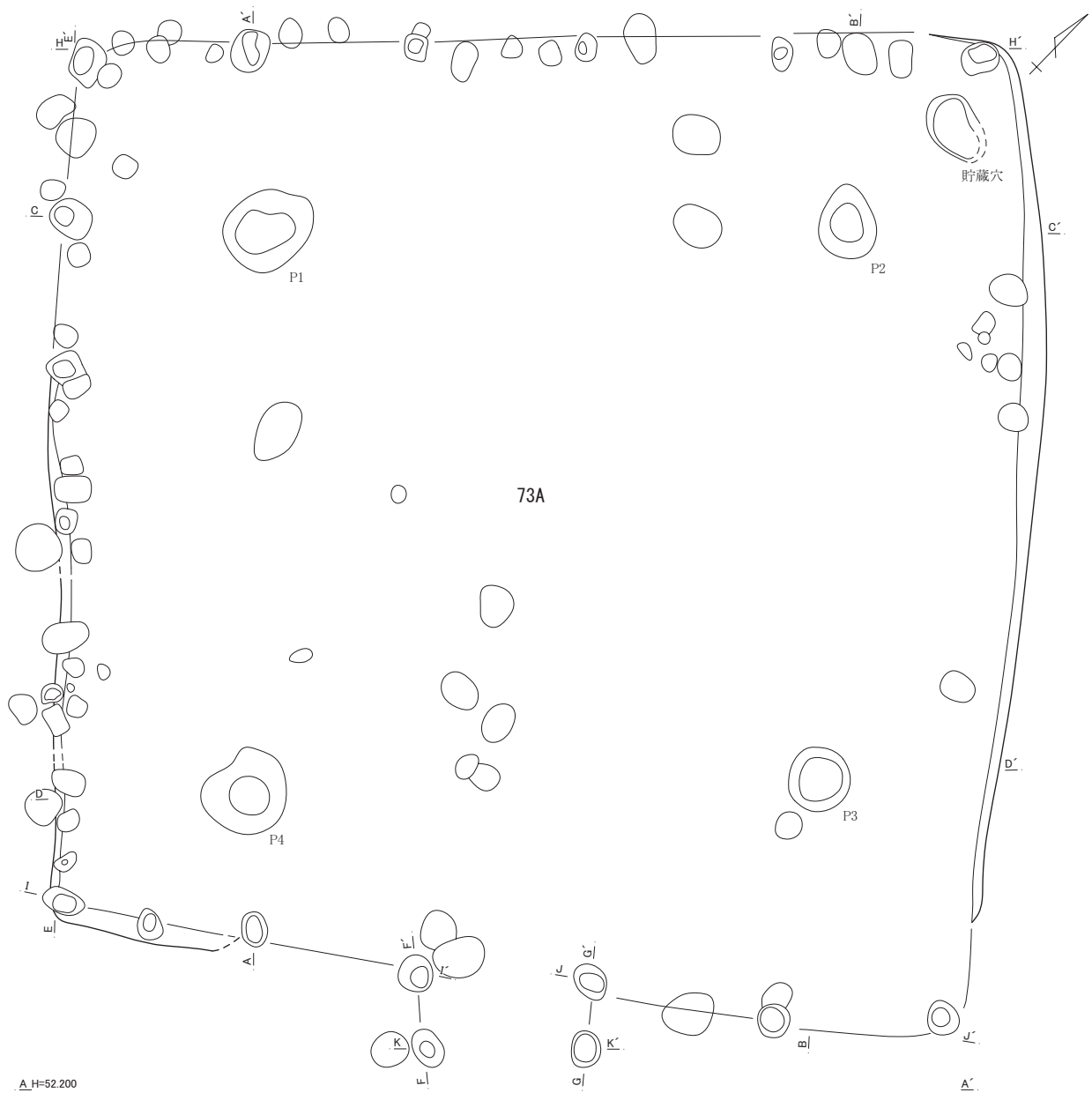
第126図1・2の坏は、覆土中から出土した土器である。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期中葉の遺構であろう。

第73号住居跡（第127～134図、第60表、図版18・124）

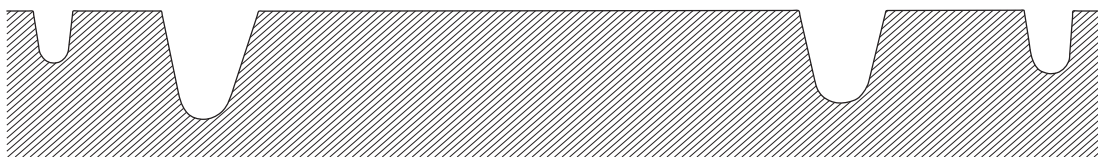
調査地点の南西隅近く、M12、N12・13、O12グリッドに位置し、J群に含まれる住居跡である。第76・77号住居跡を切っており、第31・32・47・54・58号住居跡、第127号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。なお、位置的には、第75・87号住居跡と重複するが、他の遺構が介在しており、直接切り合い関係にない。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

壁が残存していたのは、北隅から北東壁、南東壁の端から南西壁の一部であるが、粗掘り面を精査したところ支柱穴や壁柱穴、貯蔵穴と思われる多数のピットを検出するに至った。支柱穴に関しては、3組あり、3軒の住居跡の重複例と考えられた。また、南東辺では、支柱穴と同じく、3組の壁柱穴列があり、少なくともこの場所で2回住居が建て直され、結果として3段階にわたる住居跡が重複して残されたことを裏付けている。3組の支柱穴は、東から西へ、あるいは西から東へと、支柱穴を移し、住居を建て替えた跡と思われるが、最終段階と思われる壁をもった住居の段階の平面形に、位置的に最も無理なく収まる支柱穴は、東端の一組であることから、西から東へと段階を追って、住居は建て替えられたと見られる。この支柱穴3組の推移に、南東辺の柱穴列の3つの並びを結びつけて考えれば、南東辺に関しては、最初に内側の並び、続いてその外側、最終的にさらに外側の並びを用いた住居跡を考えることができる。つまり、南東辺の壁柱穴列による限り、住居は拡張を繰り返したことになる。また、3段階の真ん中の段階には、住居の平面形に変更が加えられており、壁柱穴間の間隔もかなり異なることが分かる。この段階の支柱穴が他の段階の支柱穴と比べて小さいことも、このことと関わるのかもしれない。

以上の推定、とくに南東辺の壁柱穴の推移についての推定が妥当であるとして、また、それぞれの住居跡の推移の段階毎に壁柱穴間の間隔、深さなどにもある程度共通性があるとすれば、南東辺の柱

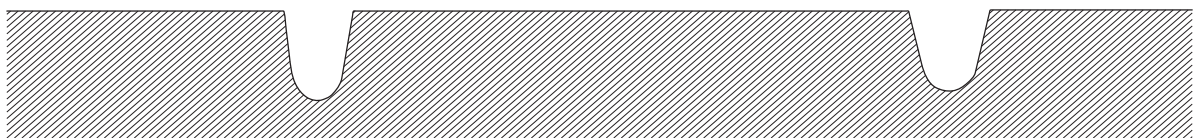


A H=52.200



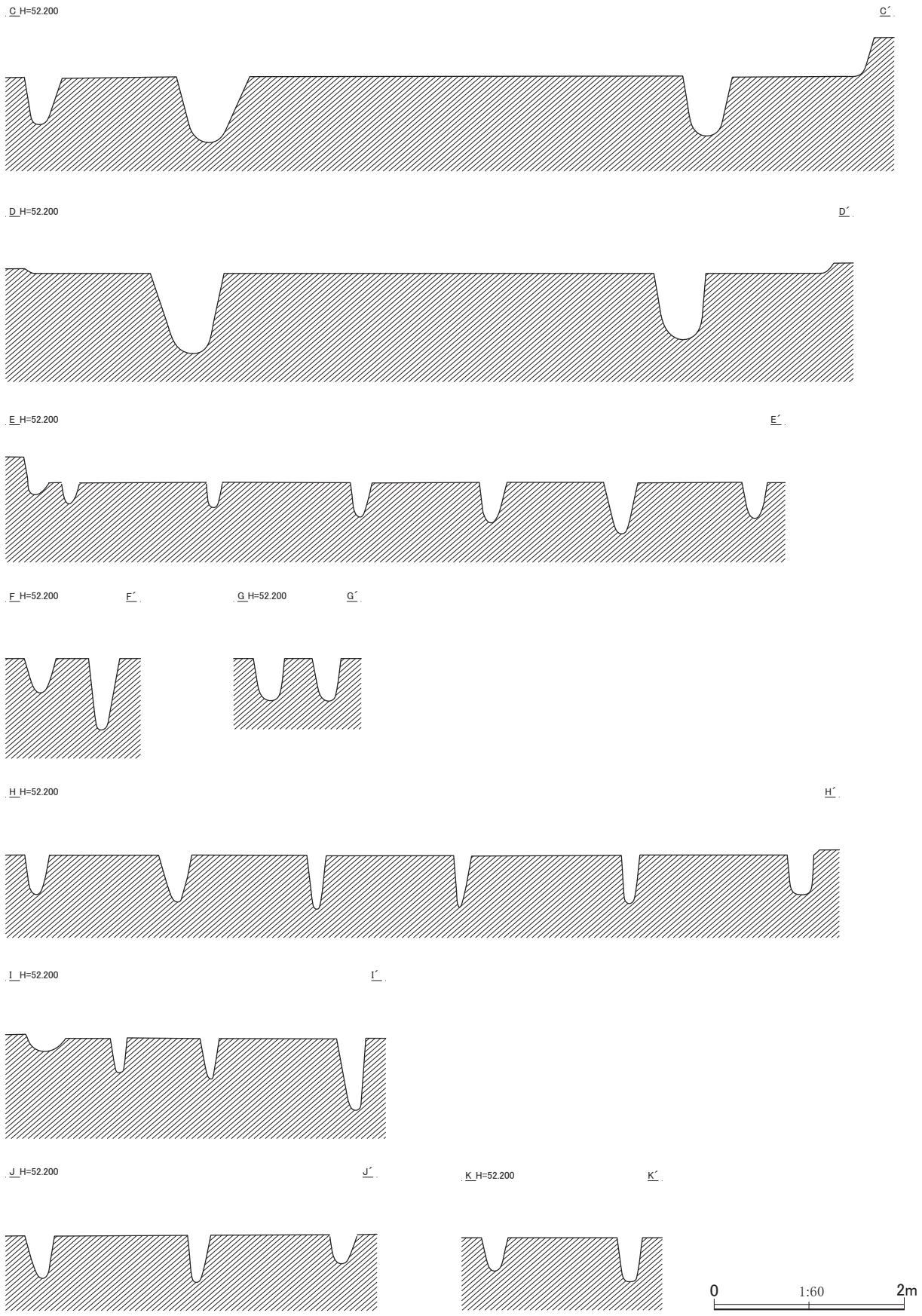
B H=52.200

B'



0 1:60 2m

第127图 第73A号住居跡平面・断面图(1)



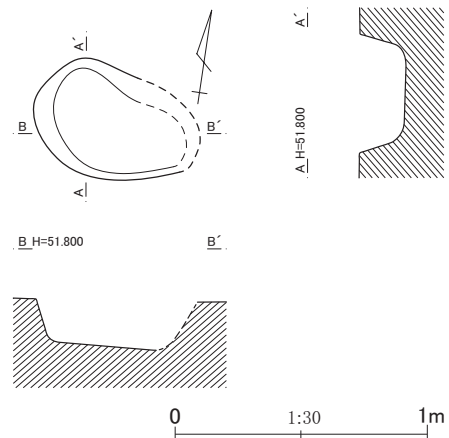
第128图 第73A号住居跡平面・断面图(2)

穴の並びや深さを手掛かりに、他の2辺、南西辺、北西辺の柱穴列もやはり3組みの壁柱穴列に選り分けられる可能性があることになる。以上の推定に基づき、第73号住居跡を、第73C号住居跡、第73B号住居跡、第73A号住居跡と段階を追って建て替えられた重複例とし、以下各住居跡について順に記す。壁柱穴に関しては、すべてのピットを拾い切れていないため多々問題も残るが、一試案として書き留めることにしたい。

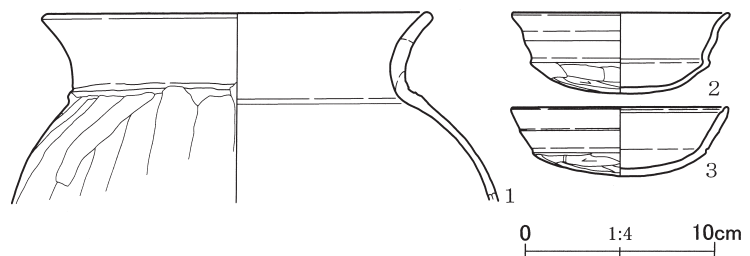
第73A号住居跡は、最終段階にあたる住居跡である。壁柱穴に関しては、南東辺の壁柱穴を参考に、北西辺、南西辺も同じような間隔で壁柱穴が並んでいたと仮定し、該当するピットを選択した。また、南東辺の中央の2つの壁柱穴には、外側に対応するような2つのピットがあり、入口部の施設をなすものと考えられた。

平面形は、やや不整な方形である。ただし、南隅、西隅はいくらか開き気味で、東隅はやや鋭角をなすようであり、台形により近いと見ることもできる。規模は、主軸方向で8.64m、副軸方向で8.88m、主軸方位は、N-45°-W前後である。先の入口部の推定を採るなら、主軸方向での入口部を含めた長さは、9.25m前後である。床面の硬化は不明瞭である。残存する北東壁、南東壁、南西壁は、比較的立ち上がりも急峻で、残りのよい部分での壁高は、北東壁で40cm、南東壁で25cm、南西壁で10cmである。一部でも壁の残存する北東壁、南東壁、南西壁には、本来壁があったと推定してよいであろう。

北東壁を除いて、北西辺、南東辺、南西壁には、壁柱穴が巡らされている。南東壁の壁柱穴の並びをもとに、類似した間隔のピットを選び出したえか、結果的に選択したピットは、北西辺側のそれと南東辺側のそれとが対になるかのように並び、南西壁側の壁柱穴のみやや間隔が狭くなっている。柱



第129図 第73A号住居跡平面・断面図(3)



第130図 第73号住居跡出土遺物

第60表 第73号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 21.1 底径 — 器高 [10.4]	口縁部は外反する。胴部上位は張る。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。頸部棒状工具による横位ナデ、胴部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	片岩・石英・白色粒・黒色粒・赤褐色 内外-橙色	口縁部～胴部上位
2	坏	口径 11.9 底径 — 器高 4.5	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外反し、中位に弱い段を有する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面-口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・礫 内外-橙色	一部欠損
3	坏	口径 11.9 底径 — 器高 3.8	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外傾し、弱い段を有する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外-橙色	1/2残存

C地点

穴底面の中心間で測った柱穴間の長さ、間隔は、北西辺で150～182cm、南東辺で80～170cm、南西壁で137～153cmである。南東辺の柱穴間の間隔のみかなり広狭があるように見えるが、これは、西端の3つの壁柱穴間の間隔が、南隅側から80cm、94cmと例外的に狭いためである。これらを除くと、柱穴間の間隔は、153～170cmとなり、おおむね北西辺の柱穴間の間隔の広狭の幅と重なるようである。壁柱穴の平面形は、やや不整な円形あるいは楕円形で、いずれも上端径に比べ底径の小さい先細り状である。南東壁の壁柱穴は、深さが13～75cmとかなり幅があるが、これは南隅、東隅のピットがそれぞれ深さ30cm、13cmと他のピットに比べ浅いこと、入口部と関連する可能性のある中央左側のピットが深さ75cmと極端に深いことが一因している。因みにこの3つのピットを除いた、ピットの深さは37～50cmである。先に「入口部の施設」とした2つピットの上端の平面形は、やや歪な円形で、深さは左側のピットが36cm、右側のピットが48cmである。北西辺の壁柱穴の深さは、西隅のピットが37cm、北隅のピットが42cmで、他のピットは50～57cmである。南隅、西隅のピットを除いた南東壁の壁柱穴の深さは、21～54cmである。

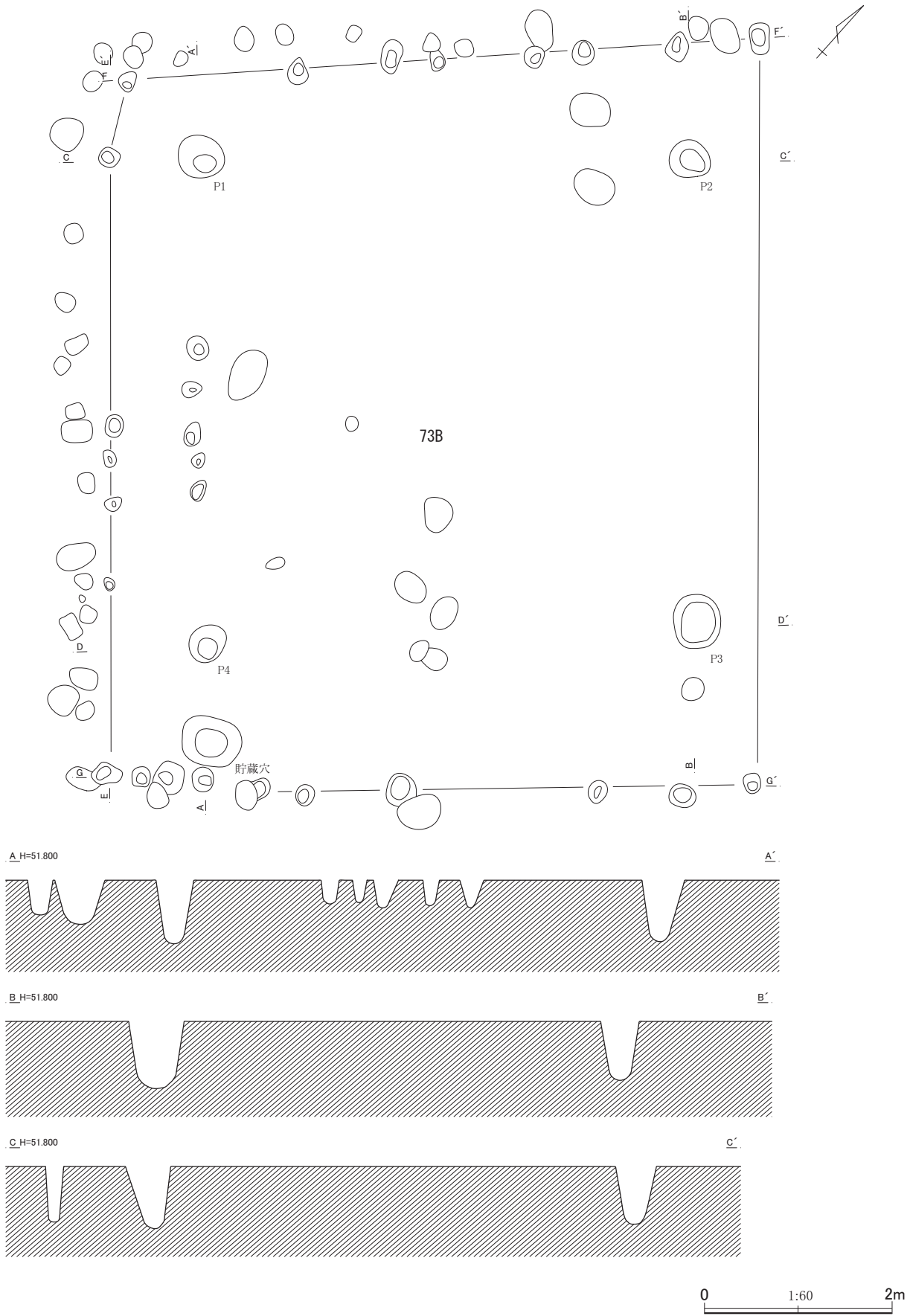
P1～P4は、主柱穴であろう。平面形は、ほぼ円形のP3以外は、不整な楕円形で、いずれも底面の丸い、断面形がU字形に近い形に掘り込まれている。深さは、P1が74cm、P2が63cm、P3が71cm、P4が86cmである。北隅近くのピットは、貯蔵穴であろう。住居跡の範囲内という点で、この貯蔵穴が、本住居跡に帰属することは間違いない。平面形は、やや歪な楕円形あるいは卵形で、底面が平坦な盥のような形に掘り込まれている。長径68cm、短径44cm、深さは19cmである。

第130図1の甕、2・3の坏は、本住居跡に伴う可能性のある遺物である。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末期前葉の遺構である可能性が考えられる。

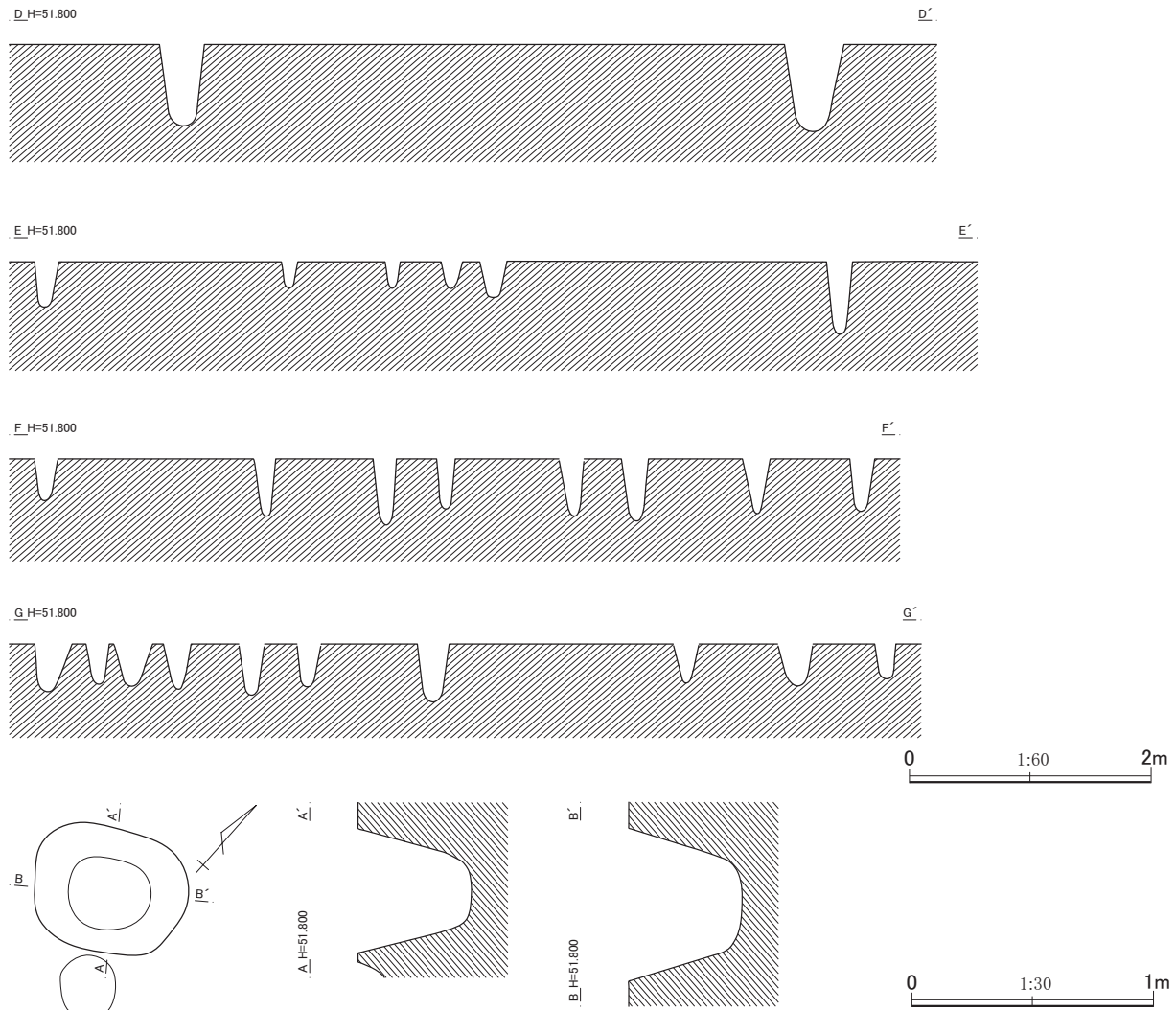
第73B号住居跡は、第73A号住居跡の前段階と考えた。壁柱穴に関しては、南東辺の壁柱穴の並びや深さを勘案し、北西辺、南西辺も同じような間隔で壁柱穴が並んでいたと仮定し、該当するピットを選んだ。第74A号住居跡、後述する第73C号住居跡が、住居平面形においても類似した台形に近い形態であり、壁柱穴もある程度類似した間隔で配されているのに対し、本住居跡の場合、平面形も異なり、また壁柱穴の間隔も狭く特異な並びを示すと推定される。と言うより、端的に言えば、第74A・73C号住居跡の壁柱穴とは、並び、柱穴の間隔の異なる壁柱穴あるいはピットを拾うことができ、そうした壁柱穴の配置をもって、本住居跡を推定復元したということになる。以下、第74A・73C号住居跡と同様に、主軸方向は北西－南東方向であるとして記載する。

平面形は、北西－南東方向の長い長方形である。規模は、壁柱穴の端から端まで、あるいは壁柱穴の端から壁柱穴を結ぶ直線までということになるが、主軸方向で8.13m、副軸方向で7.05mである。主軸方位は、N-43°-W前後と推定される。

北東辺を除いて、北西辺、南東辺、南西辺には、壁柱穴が並ぶが、所々浅く痕跡を留めないか、あるいは欠落するかに見え、とくに南西辺では、欠落する壁柱穴の方が多いように見受けられる。底面の中心間で測った壁柱穴の間隔は、第74A号住居跡では、150cm前後のものが多いのに対し、本住居跡では、全体に間隔が狭く、しかも不規則である。南東辺では、中央の間隔の広い部分で、南西から柱間隔105cm、215cm、93cm、75cmを測り、南隅寄りの壁柱穴では、柱間隔26～60cmとなる。南西辺の中央の並びでは、北西から37cm、47cm、85cmを測る。北東壁では、間隔の広い壁柱穴間では、90～104cm、狭い壁柱穴間では、50cm前後である。



第131图 第73B号住居跡平面・断面图(1)



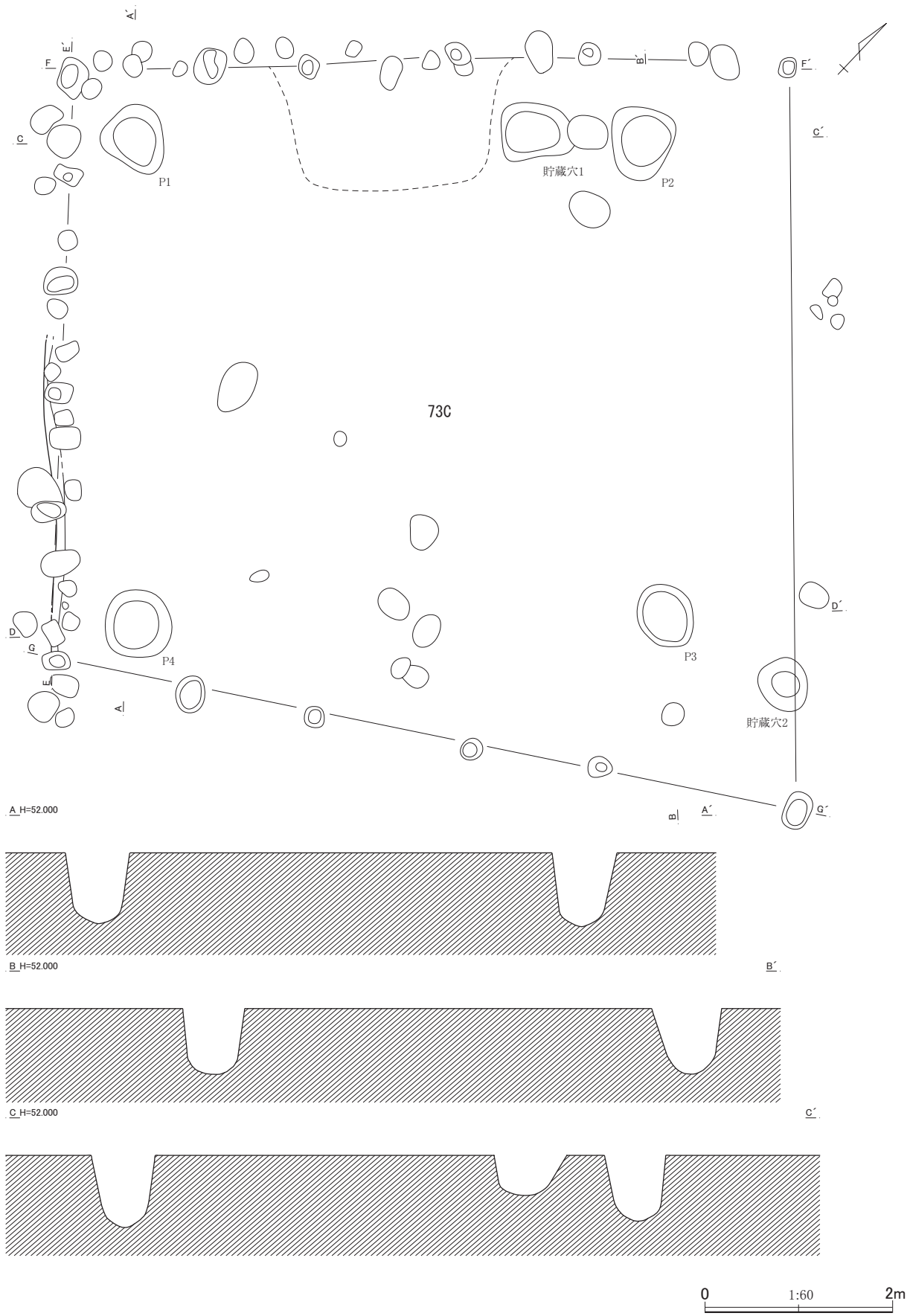
第132図 第73B号住居跡平面・断面図（2）

壁柱穴の平面形は、やや不整な円形あるいは楕円形で、断面形は、いずれも先細り状である。壁柱穴の深さは、北西辺で30～54cm、南東辺で29～48cm、南隅、東隅のピットを除いた南西辺の壁柱穴の深さは、21～60cmである。また、南西辺の内側には、壁柱穴列に並行して並ぶピットが5個見られる。壁柱穴と同様にして測ったこれらのピットの間隔は、25～54cm、深さは24～30cmである。間隔が狭いという点で、本住居跡の壁柱穴に似ており、本住居跡に伴う可能性があると考えて無理はない。

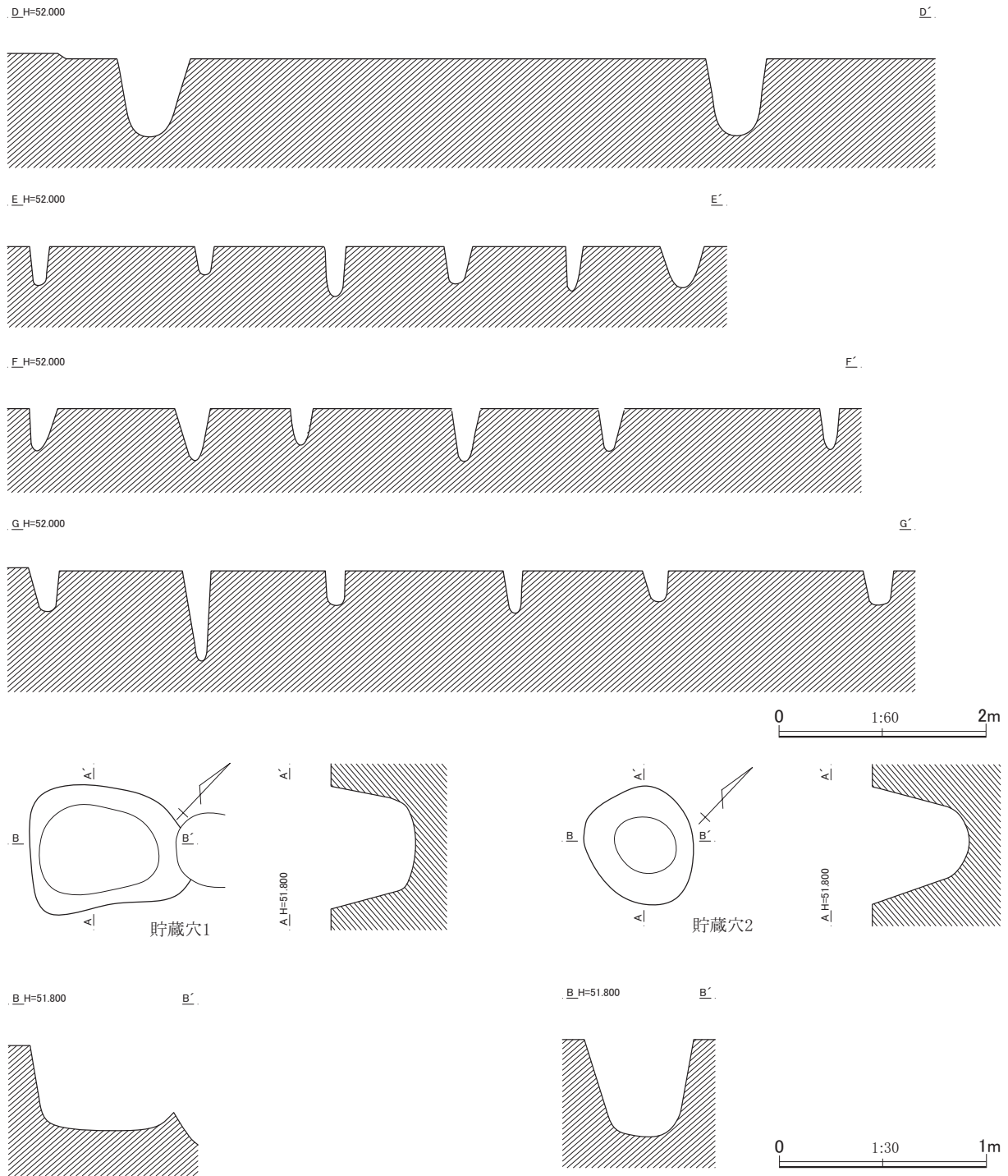
主柱穴は、P1～P4と思われる。平面形は、やや歪んだ円形、楕円形で、いずれも底面の丸い、断面形がU字形に近い形に掘り込まれている。深さは、P1が66cm、P2が62cm、P3が72cm、P4が77cmである。南隅近くのピットは、貯蔵穴であろう。位置的に、第73A号住居跡か、本住居跡に帰属するのであろうが、第73A号住居跡の主柱穴に近接し過ぎ、本住居跡の貯蔵穴である可能性が高い。平面形は、微妙に辺のある楕円形で、底面が丸みをもって掘り込まれている。長径55cm、短径52cm、深さは47cmである。

出土遺物は、貯蔵穴や主柱穴、壁柱穴などから少数の土師器片が出土したのみである。重複関係から見て、古墳時代終末期前葉頃の遺構である可能性が考えられる。

第73C号住居跡は、第73A・73B号住居跡と重複する最初の段階の住居跡である。ただし、平面形の



第133图 第73C号住居跡平面・断面图(1)



第134図 第730号住居跡平面・断面図（2）

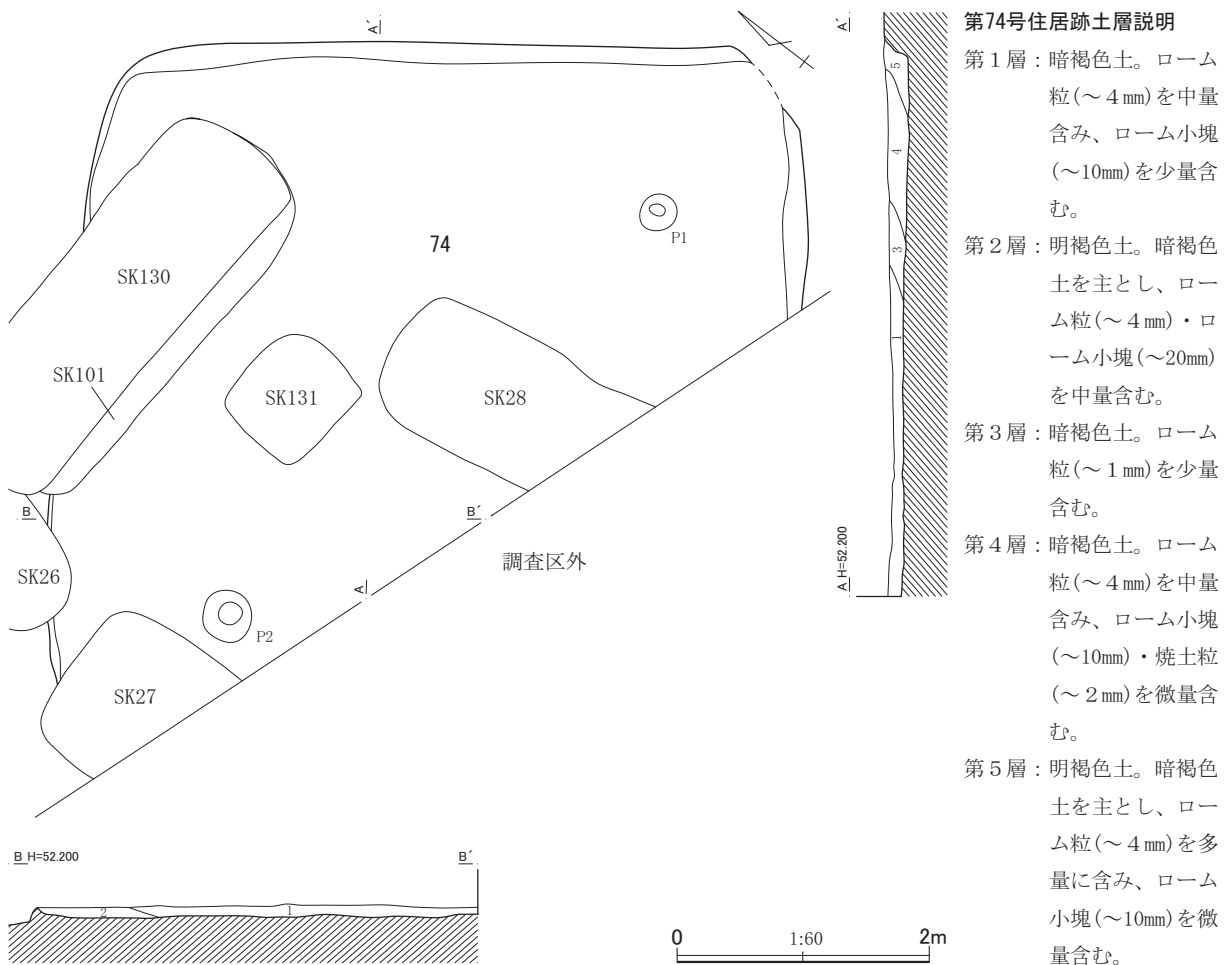
類似、北西辺、南西辺の壁柱穴がほぼ同じ列をなすことなど、第73A号住居跡との共通点が見られる。ピットの切り合いなど直接の証左を欠くため、第73B号住居跡との前後関係は、なお検討の余地を残すように思われる。

壁柱穴に関しては、南東辺の壁柱穴の並びや深さを念頭に、北西辺、南西辺も同じような間隔で壁柱穴が並んでいたと仮定し、ピットを選んだ。平面形は、第73A号住居跡に類似した台形様の形態である。規模は、壁柱穴の端から端まで、あるいは壁柱穴の端から壁柱穴を結ぶ直線までということに

なるが、主軸方向で7.30m、副軸方向で8.00mである。北西辺側の中央にカマドの痕跡かと思われる粘土のかすかな分布が見られ、それを抛り所とすれば、主軸方位は、 $N-44^{\circ}-W$ 前後と推定される。

北東辺を除いて、北西辺、南東辺、南西辺には、壁柱穴が配されている。北西辺、南西辺では、本住居跡の壁柱穴が、第73A号住居跡の壁柱穴の間に収まる形で並ぶことになり、底面の中心間で測った壁柱穴の間隔は、かなり広狭があるが、全体として見るなら、北西辺、南東辺が広く、南西辺が狭い傾向が看取できる。北西辺、南東辺ともに東端の2個の壁柱穴間が216cm、217cmと広がっている。これらを除いた壁柱穴間の間隔は、北西辺で134～162cm南東辺で136～170cmである。南西辺の壁柱穴間の間隔は、105～158cmである。壁柱穴の平面形は、やや不整な円形あるいは楕円形で、断面形は、いずれも先細り状である。壁柱穴の深さは、北西辺で36～51cm、南東辺で30～81cm、南隅、東隅のピットを除いた南西辺の壁柱穴の深さは、28～49cmである。

支柱穴は、P1～P4と思われる。平面形は、やや歪んだ円形、楕円形で、いずれも底面の丸い、断面形がU字形に近い形に掘り込まれている。深さは、P1が78cm、P2が70cm、P3が70cm、P4が76cmである。P2の脇にあるピット、およびP3の脇、東隅近くのピットは、貯蔵穴であろうか。前者を貯蔵穴1、後者を貯蔵穴2とする。貯蔵穴1の平面形は、微妙に辺のある楕円形で、長径71cm、



第135図 第74号住居跡平面・断面図

C地点

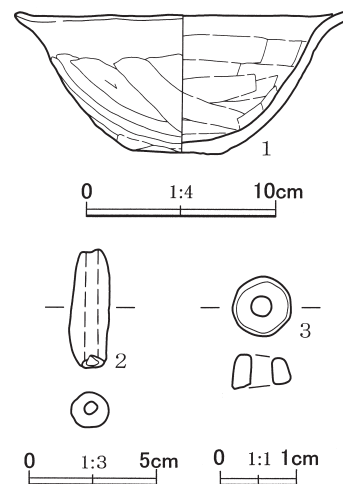
短径59cmである。断面形はU字形に近く、深さは41cmである。貯蔵穴2の平面形は、やや歪な楕円形で、長径57cm、短径50cmである。断面形はU字形で、深さは47cmである。

出土遺物は、貯蔵穴、支柱穴、壁柱穴から少数の土師器片が出土したのみである。重複関係から見て、古墳時代終末期前葉頃の遺構である可能性が考えられる。

第74号住居跡（第135・136図、第61表、図版18・124）

調査地点の南西隅近くの南縁沿い、M13、N13グリッドに位置し、J群に含まれる住居跡である。第76・90号住居跡を切っており、第26～28・101・130・131号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。また、第67号住居跡と重複する。なお、遺構の南半のかなりの部分が調査範囲外である。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、方形ないしは長方形になる。いずれも最も残りのよい部分での現存値になるが、北東－南西方向での長さは、5.06m、北西－南東方向での長さは、5.75mである。北東－南西方向での中軸線の方位は、N-53°-Eである。床面は、南東半を中心に硬化している。覆土はわずかしか残っていないが、残存する壁はゆるやかに立ち上がるようである。壁高は、北西壁、南東壁で4、5cm、北東壁で19cmである。覆土は、第1～5層の5層で、総じて暗褐色土を主とする土である。



第136図 第74号住居跡出土遺物

重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期後葉後半の遺構であろうか。

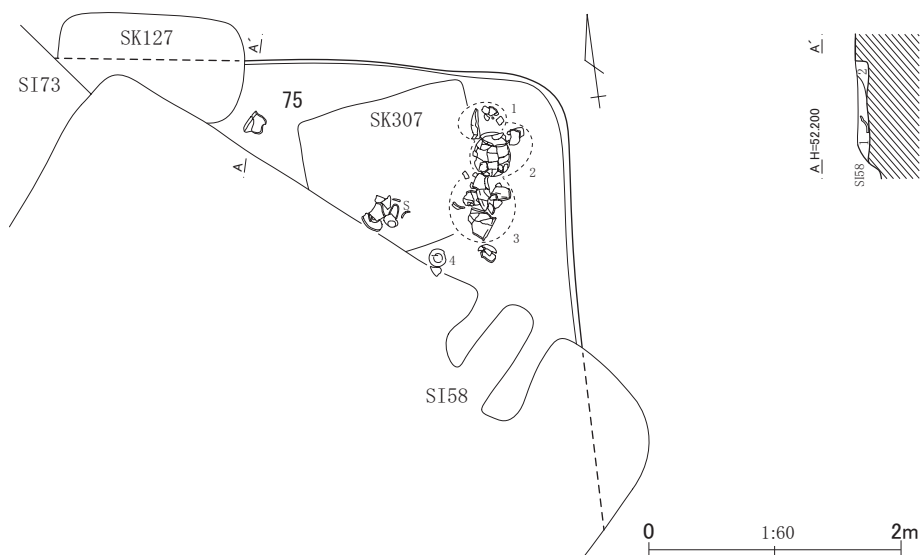
第61表 第74号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	鉢	口径 18.1 底径 5.0 器高 7.9	平底。体部から口縁部にかけて内彎気味に開く。口縁部は強く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ、体部下位一部ナデ。内面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・赤褐色粒・礫 内外－にぶい赤褐色	4/5残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
2	土錘	長さ4.9、幅1.6、厚さ1.5、重さ11.01g。	胎土：白色粒・黒色粒。色調：褐色。			完形
3	石製品 白玉	長さ0.8、幅0.8、孔径0.25×0.25、厚さ0.45、重さ0.36g。	石材：滑石。調整：全体的に研磨。			完形

第75号住居跡（第137・138図、第61表、図版18・124）

調査地点の南西隅近くの南縁寄り、N12、O12グリッドに位置し、J群に含まれる住居跡である。第58号住居跡、第127・307号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。位置的に見て、第54・73・87号住居跡と重複する位置にあるが、第58号住居跡、第127号土坑が介在しており、直接切り合わない。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

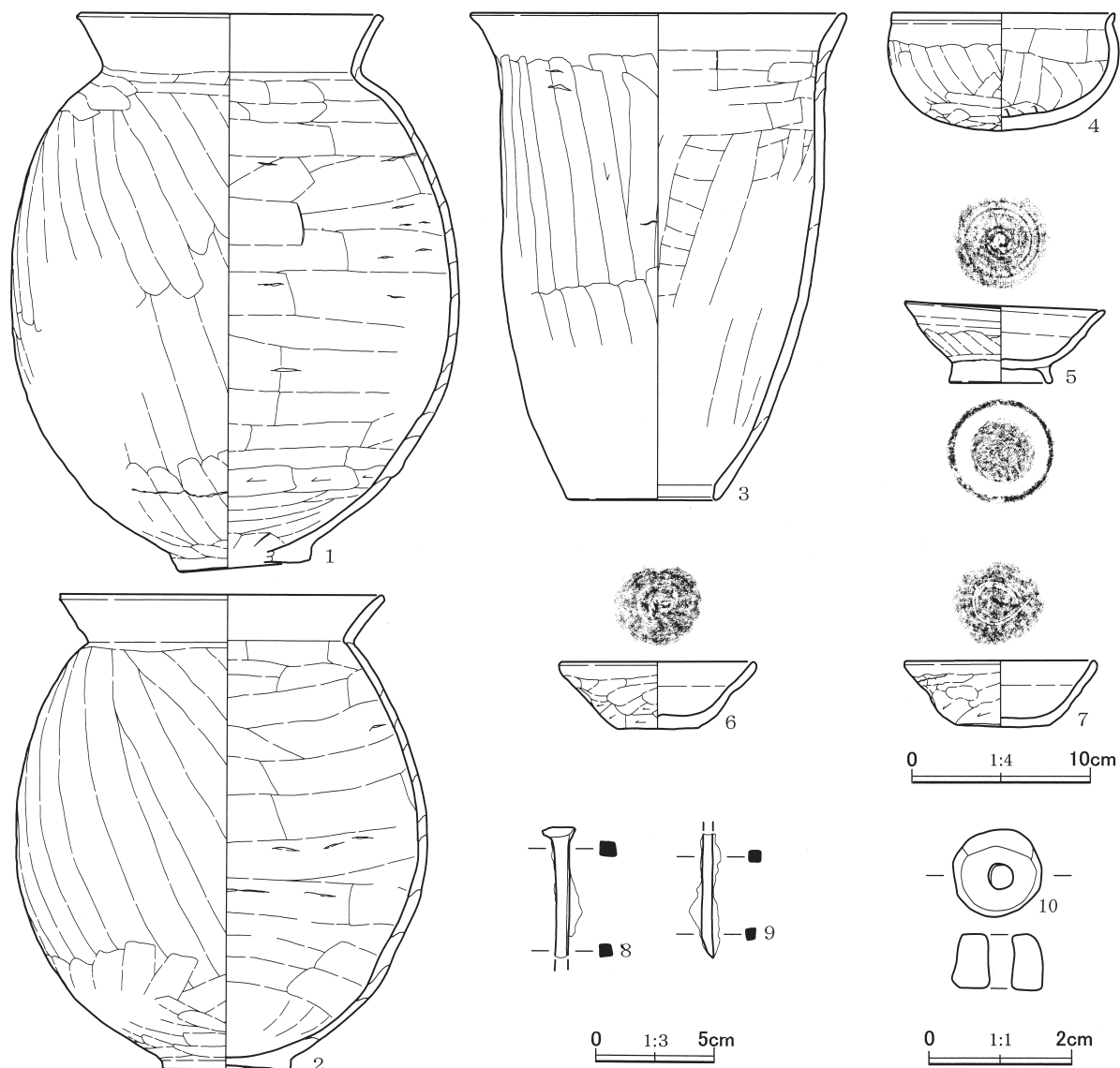
平面形は、不明である。規模はいずれも残りのよい部分での現存値になるが、南北方向での長さは、2.15m、東西方向での長さは、2.56m、東壁の向きは、ほぼ南北である。床面はおおむね平坦で、所々硬化している。壁の残存する部分は限られるが、残存する壁は比較的急峻で、北壁の壁高は10cm前後である。覆土は2層で、暗褐色土を主とする。



第75号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を中量含む。
 第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)を中量含み、ローム粒(～8mm)を少量含む。ややしまっている。

第137図 第75号住居跡平面・断面図



第138図 第75号住居跡出土遺物

C地点

第62表 第75号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 17.4 底径 7.6 器高 31.5	口縁部は外傾する。胴部は中位に丸みをもつ。底部は輪台状で上げ底気味。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。底部ナデ。内面一口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。胴部下位は一部ヘラケズリ。	白色粒・黒色粒・石英 外-浅黄色 内-灰黄色	3/4残存
2	甕	口径 18.8 底径 7.4 器高 27.9	口縁部は外傾する。胴部は中位に丸みをもつ。底部は輪台状で上げ底気味。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。底部ナデ。内面一口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・石英 内外-ぶい橙色	ほぼ完形
3	甗	口径 21.8 底径 (8.5) 器高 28.7	口縁部は外反する。胴部は膨らみをもたない。底部は筒抜け。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ、端部ヘラケズリ。	白色粒・石英 内外-明赤褐色	胴部下半～底部3/4欠損
4	坏	口径 13.0 底径 — 器高 6.9	丸底。体部は内彎する。口縁部は短く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。内面一口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・角閃石 内外-明赤褐色	一部欠損
5	須恵器高台付坏	口径 11.5 底径 5.8 器高 4.8	高台部は方形を呈し、端部は丸みを帯びる。体部はやや丸みをもつ。口縁部は外反する。ロクロ成形。	外面一ロクロナデ。体部ヘラナデ。底部右回転糸切り。高台貼付時回転ナデ。内面一ロクロナデ。	白色粒・赤褐色粒 内外-橙色	口縁部一部欠損 酸化焰焼成
6	坏	口径 11.3 底径 4.8 器高 4.0	平底。体部から口縁部にかけて外反して開く。粘土紐積み上げによる成形。	外面一体部ヘラケズリ後、上半部指ナデ。底部ヘラケズリ。内面一回転ナデ。	白色粒・石英 内外-明赤褐色	完形
7	坏	口径 11.0 底径 5.5 器高 3.9	平底。体部から口縁部にかけて外反して開く。口唇部はやや肥厚する。粘土紐積み上げによる成形。	外面一体部ヘラケズリ後、上半部指ナデ。底部ヘラケズリ。内面一回転ナデ。	白色粒・石英 外-橙色 内-明赤褐色	完形
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
8	鉄釘	全長[5.7]、頭部幅1.4、頭部厚0.6、棒状部幅0.5～0.7、棒状部厚0.5～0.6、重さ[9.00]g。				先端部欠損
9	鉄釘	全長[5.4]、棒状部幅0.4～0.5、棒状部厚0.4～0.5、重さ[5.76]g。				頭部欠損
10	石製品白玉	長さ1.3、幅1.3、孔径0.35×0.35、厚さ0.8、重さ2.07g。石材：滑石。調整：全体的に研磨。				完形

床面直上から、第138図1・2の甕や3の甗、4の坏などが出土している。5の須恵器の高台付の坏、6・7の坏は、本住居跡を切る第307号土坑に伴う遺物であろう。第8・9の角釘も第307号土坑に伴うものかもしれない。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期初頭の遺構と考えられる。

第76号住居跡（第139図、図版18）

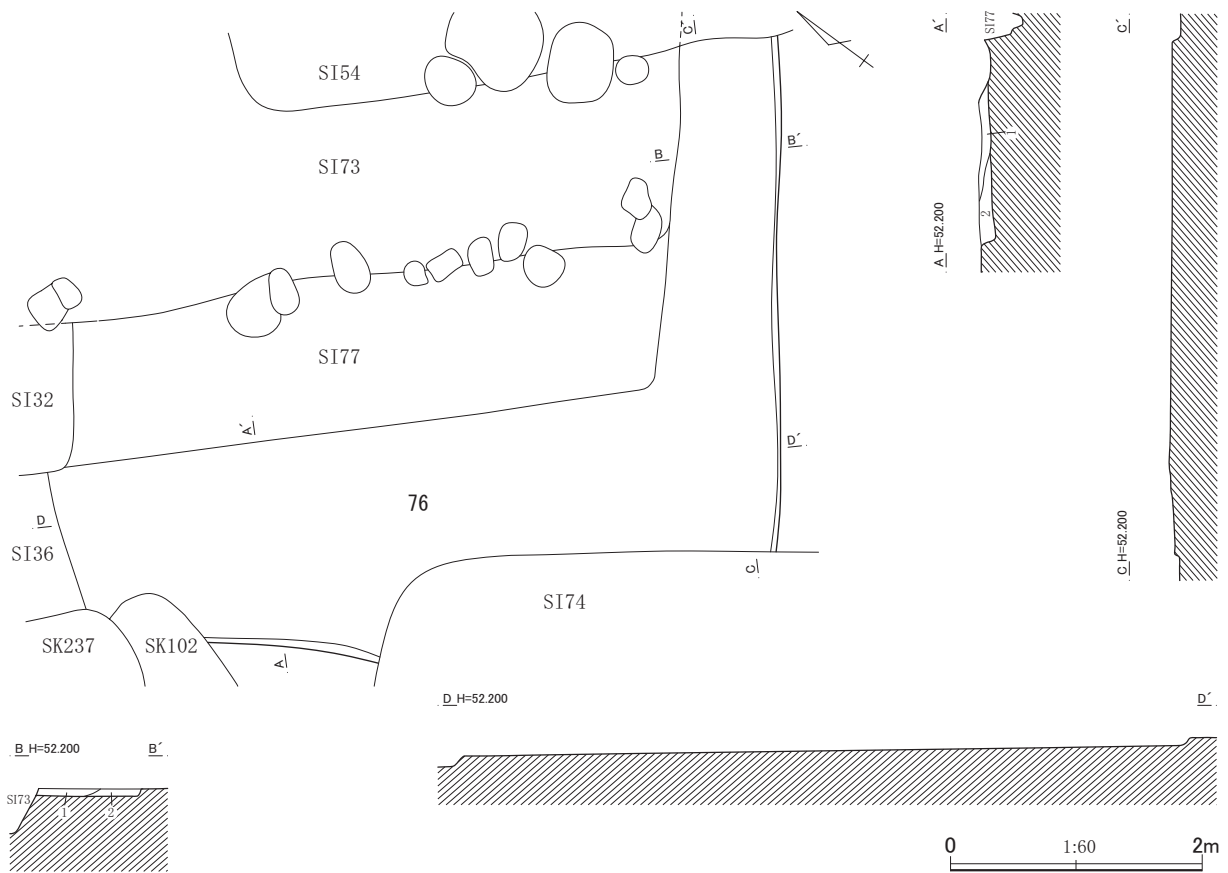
調査地点の南西隅近くの西縁寄り、M12・13、N12・13グリッドに位置し、J群に含まれる住居跡である。第32・36・54・73・74・77号住居跡、第102・237号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、方形ないしは長方形になるうか。規模は、いずれも残存値になるが、南東壁の長さは、4.10m、北西-南東方向での残存部分の長さは、5.85mである。南東壁の向きは、N-55°-E前後である。床面は部分的に硬化している。壁高は、南東壁で6cm、南西壁で12cmである。覆土は、暗褐色土を主とする2層である。

土師器片を主とする遺物が、覆土中から少量出土している。重複関係から見て、古墳時代後期初頭以前の遺構である可能性が考えられる。

第77号住居跡（第140図、図版18）

調査地点の南西隅近くの南縁寄り、N12・13グリッドに位置し、J群に含まれる住居跡である。第76号住居跡を切っており、第32・36・73号住居跡に切られ、遺構の一部を壊されている。確認面は、

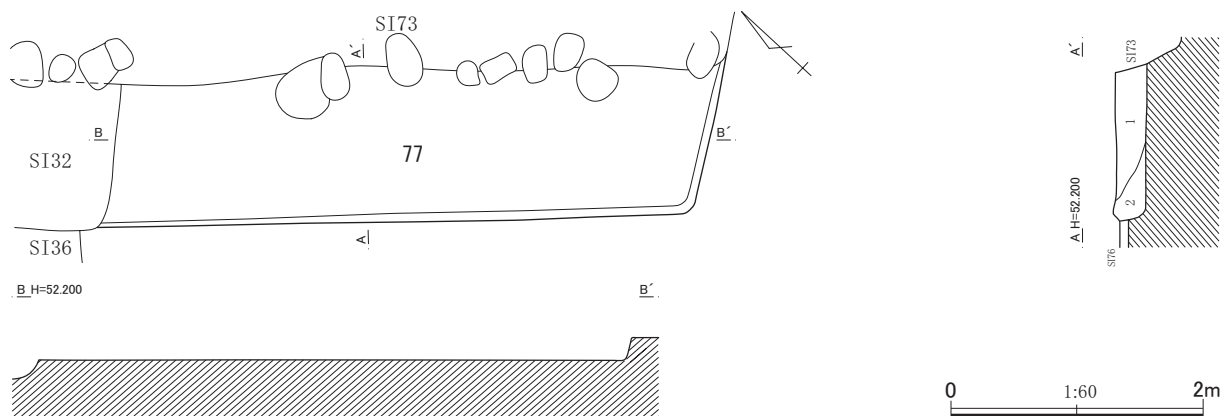


第76号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を中量含み、ローム粒(～8mm)を少量含む。ややしまっている。多量に含み、ローム小塊(～10mm)を中量含む。ややしまっている。

第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を

第139図 第76号住居跡平面・断面図



第77号住居跡土層説明

第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を多量に含み、ローム小塊(～10mm)を少量、焼土粒(～4mm)を微量含む。ややしまっている。

第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を多量に含み、ローム小塊(～25mm)を中量含む。ややしまっている。

第140図 第77号住居跡平面・断面図

C地点

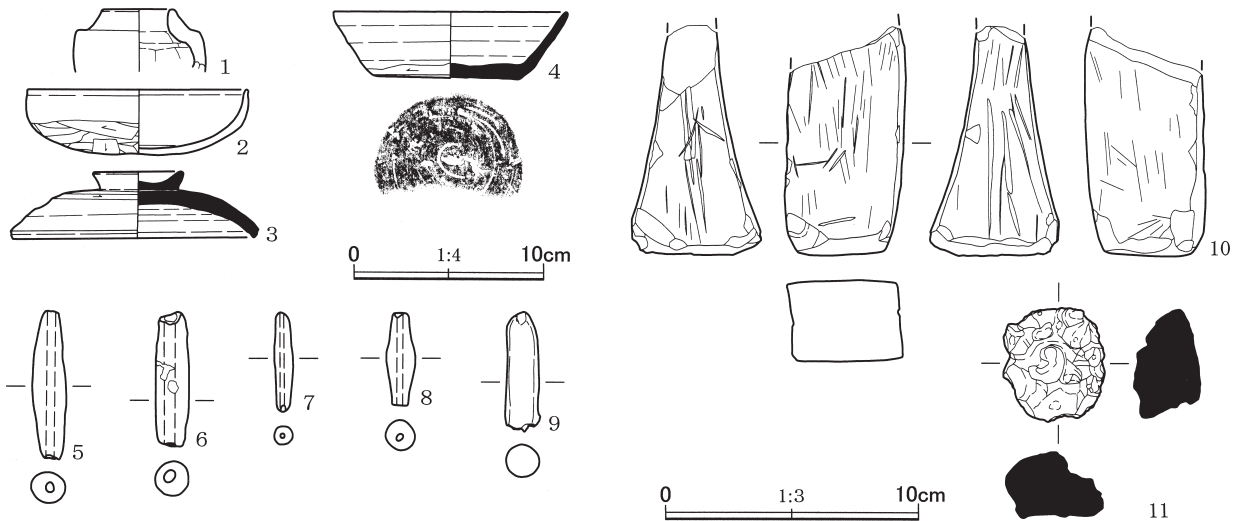
黄褐色のローム層上面である。

平面形は不明であるが、南隅は明瞭に鈍角に開くようである。規模は、いずれも現存値になるが、南西壁の長さは、4.70m、北東-南西方向での残存部分の長さは、1.24mである。南西壁の向きは、N-45°-Wである。床面は部分的に硬化している。南西壁の壁高は、18cmである。覆土は、暗褐色土を主としロームをかなり含む2層である。

土師器片を主とする遺物が、覆土中から少量出土している。重複関係から見て、古墳時代後期初頭以前の遺構である可能性が考えられる。

第78号住居跡（第141～144図、第63表、図版19・124）

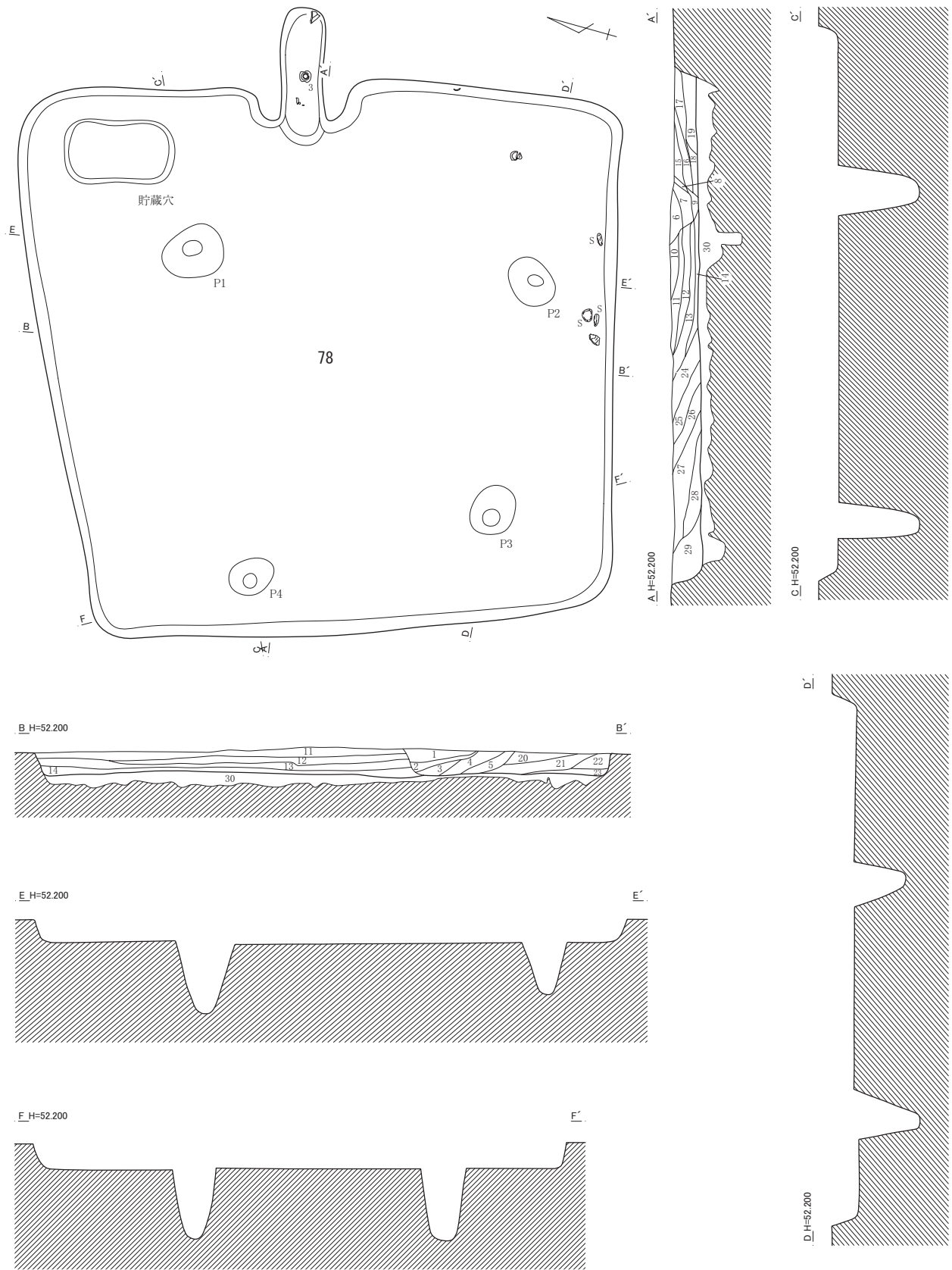
調査地点の南縁寄りのほぼ中央、Q14・15グリッドに位置し、I群に含まれる住居跡である。第147・159・173・175・192・193号住居跡を切って造られている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。



第141図 第78号住居跡出土遺物

第63表 第78号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	小型壺	口径 3.8 底径 — 器高 [3.4]	口縁部は内傾する。肩部は張る。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 外-にぶい橙色 内-にぶい褐色	口縁部～胴部 2/3残存
2	坏	口径 12.0 底径 — 器高 3.6	丸底。体部は内彎する。口縁部は短く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面-口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・赤褐色粒 内外-橙色	2/3残存
3	須恵器蓋	口径 13.2 摘み径 4.8 器高 3.6	口縁部の折れは短い。環状摘み。ロクロ成形。	外面-ロクロナデ。天井部回転ヘラケズリ。摘み貼付時周縁ナデ。内面-ロクロナデ。	白色粒・礫 外-にぶい黄色 内-暗灰黄色	口縁部1/3欠損、酸化焰焼成気味
4	須恵器坏	口径 12.9 底径 7.8 器高 3.7	平底。体部から口縁部にかけて直線的に開く。ロクロ成形。	外面-ロクロナデ。体部下端は手持ちヘラケズリ。底部回転ヘラケズリ。内面-ロクロナデ。	白色粒 内外-灰色	2/3残存 還元焰焼成
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
5	土錘	長さ6.1、幅1.5、厚さ1.3、重さ10.50g。胎土：片岩・白色粒。色調：にぶい褐色。				完形
6	土錘	長さ5.6、幅1.4、厚さ1.4、重さ12.35g。胎土：白色粒・雲母。色調：灰褐色。				完形
7	土錘	長さ4.1、幅0.7、厚さ0.8、重さ2.54g。胎土：白色粒・角閃石。色調：にぶい褐色。				完形
8	土錘	長さ3.9、幅1.2、厚さ1.3、重さ4.59g。胎土：白色粒。色調：にぶい黄橙色。				完形
9	土製品棒状品	長さ4.9、幅1.5、厚さ1.3、重さ10.34g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい橙色。				完形
10	砥石	長さ[9.5]、幅5.0、厚さ5.4、重さ[272.50]g。石材：文紋岩。調整：4面使用。				上端部欠損
11	鉄滓	長さ4.7、幅4.25、厚さ2.75、重さ72.59g。				完形



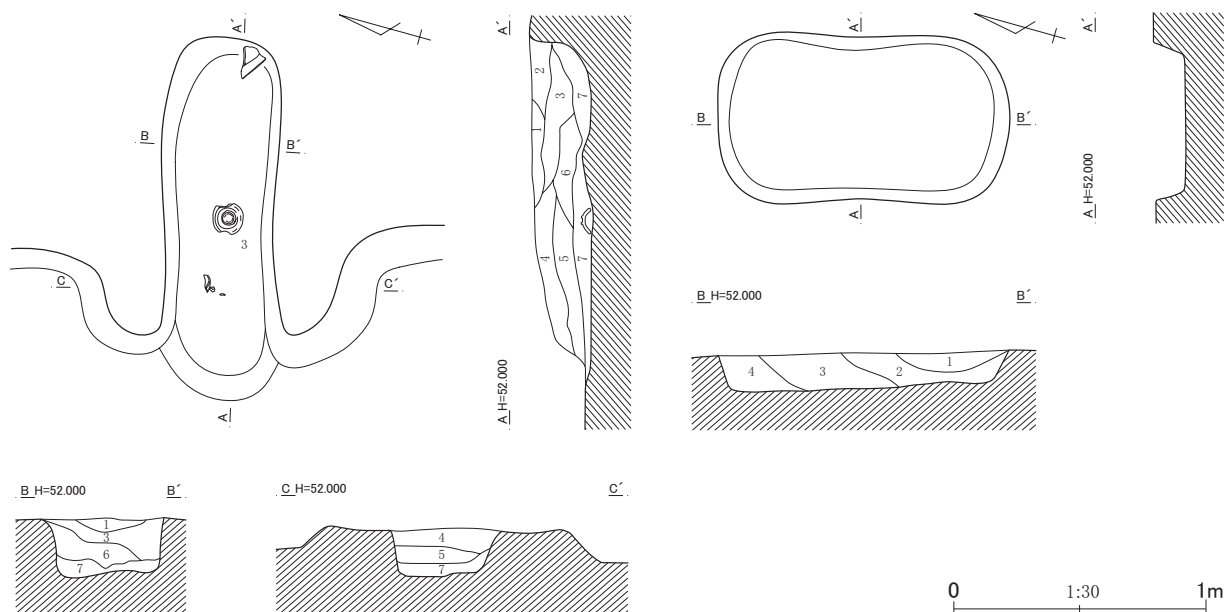
第142図 第78号住居跡平面・断面図(1)

C地点

第78号住居跡土層説明

- 第1層：暗黄灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)・粘土粒(～2mm)・炭化物粒(～1mm)・焼土粒(～4mm)を少量含み、粘土小塊(～30mm)を中量、焼土小塊(～10mm)を微量含む。粘性はやや強い。
- 第2層：暗黄灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)を微量含み、粘土粒(～6mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。粘性はやや強い。
- 第3層：暗黄灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)・粘土粒(～4mm)・粘土小塊(～20mm)・焼土粒(～2mm)を少量含み、炭化物粒(～1mm)を微量含む。粘性はやや強い。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・粘土粒(～1mm)・炭化物粒(～1mm)を少量含み、焼土粒(～1mm)を微量含む。粘性はやや強い。
- 第5層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・ローム小塊(～10mm)・粘土粒(～2mm)・粘土小塊(～10mm)を少量含み、焼土粒(～1mm)を微量含む。粘性はやや強い。
- 第6層：暗黄灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～2mm)を中量含み、粘土小塊(～15mm)・炭化物粒(～1mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。粘性はやや強い。
- 第7層：黄灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～6mm)を微量含み、粘土小塊(～40mm)・粘土粒(～4mm)を少量、炭化物粒(～2mm)を中量、粘土粒(～6mm)を多量に含む。粘性はやや強い。
- 第8層：暗褐色土。粘土粒(～2mm)を少量含み、炭化物粒(～1mm)を微量含む。粘性はやや強い。
- 第9層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を中量含み、粘土粒(～2mm)を多量に、焼土粒(～4mm)を微量含む。粘性はやや強い。
- 第10層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～0.5mm)を多量に含み、層状の炭化物粒(～0.5mm)・炭化物粒(～4mm)を中量、焼土粒(～4mm)を少量含む。ややしまっており、粘性はやや強い。
- 第11層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～0.5mm)を多量に含み、炭化物粒(～0.5mm)・炭化物粒(～4mm)を中量、焼土粒(～4mm)を少量含む。ややしまっており、粘性はやや強い。
- 第12層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～0.5mm)を多量に含み、炭化物粒(～0.5mm)・炭化物粒(～4mm)を中量、焼土粒(～4mm)を少量含む。ややしまっており、粘性はやや強い。
- 第13層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～0.5mm)を多量に含み、炭化物粒(～0.5mm)・炭化物粒(～4mm)を中量、焼土粒(～4mm)を少量含む。ややしまっており、粘性はやや強い。
- 第14層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～0.5mm)を多量に含み、炭化物粒(～0.5mm)・炭化物粒(～4mm)を中量、焼土粒(～4mm)を少量含む。ややしまっており、粘性はやや強い。
- 第15層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～0.5mm)を多量に含み、炭化物粒(～0.5mm)・炭化物粒(～4mm)を中量、焼土粒(～4mm)を少量含む。ややしまっており、粘性はやや強い。
- 第16層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～0.5mm)を多量に含み、炭化物粒(～0.5mm)・炭化物粒(～4mm)を中量、焼土粒(～4mm)を少量含む。ややしまっており、粘性はやや強い。
- 第17層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～1mm)・炭化物粒(～1mm)を中量含み、焼土粒(～4mm)を微量含む。粘性はやや強い。
- 第18層：明灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)を少量含み、粘土小塊(～10mm)を中量、粘土粒(～2mm)を多量に含む。粘性はやや強い。
- 第19層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～0.5mm)を多量に含み、炭化物粒(～0.5mm)・炭化物粒(～4mm)を中量、焼土粒(～4mm)を少量含む。ややしまっており、粘性はやや強い。
- 第20層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～20mm)を少量含み、焼土粒(～4mm)を微量含む。
- 第21層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を中量含み、ローム粒(～4mm)・焼土粒(～2mm)を微量含む。
- 第22層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・焼土粒(～4mm)を微量含む。
- 第23層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を中量含み、ローム粒(～6mm)を少量、炭化物粒(～1mm)・焼土粒(～2mm)を微量含む。
- 第24層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)を中量含み、炭化物粒(～2mm)・焼土粒(～2mm)を少量含む。
- 第25層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を多量に含み、ローム粒(～4mm)・炭化物粒(～1mm)・焼土粒(～2mm)を少量含む。
- 第26層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を多量に含み、焼土粒(～2mm)を中量、ローム小塊(～20mm)・粘土粒(～1mm)・焼土小塊(～2mm)を少量含む。
- 第27層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)・粘土粒(～2mm)・焼土粒(～1mm)を少量含む。
- 第28層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・ローム小塊(～15mm)を中量含み、焼土粒(～4mm)を少量含む。
- 第29層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・ローム小塊(～30mm)・粘土粒(～2mm)を中量含み、焼土粒(～4mm)を少量含む。
- (掘り方埋土)
- 第30層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～10mm)を多量に含み、ローム小塊(～40mm)を中量含む。ややしまっている。

第143図 第78号住居跡平面・断面図(2)



第78号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒（～2mm）を多量に含み、焼土粒（～4mm）を中量含む。粘性はやや強い。
- 第2層：明灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～0.5mm）を多量に含み、焼土小塊（～10mm）を少量、焼土粒（～4mm）を微量含む。粘性はやや強い。
- 第3層：明灰赤褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～0.5mm）・焼土小塊（～15mm）を多量に含み、ローム小塊（～20mm）・焼土粒（～4mm）を中量含む。粘性はやや強い。
- 第4層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～0.5mm）・ローム小塊（～20mm）・焼土粒（～4mm）を中量含む。粘性はやや強い。
- 第5層：暗褐色土。ローム粒（～2mm）・焼土粒（～1mm）を少量含み、粘土粒（～2mm）を中量含む。粘性はやや強い。

- 第6層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒（～2mm）・焼土粒（～4mm）を中量含み、粘土小塊（～10mm）・焼土小塊（～10mm）を少量含む。粘性はやや強い。
- 第7層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒（～0.5mm）・焼土粒（～1mm）を少量含む。

第78号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～2mm）を多量に含み、ローム小塊（～20mm）を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒（～6mm）・ローム小塊（～15mm）を少量含む。
- 第4層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～8mm）・ローム小塊（～20mm）を多量に含む。

第144図 第78号住居跡平面・断面図（3）

平面形は、やや歪な方形である。規模は、主軸方向で5.78m、副軸方向で5.96m、主軸方位はS-72°-Eである。床面はややほぼ平坦で、壁際以外は明瞭に硬化している。壁は比較的急峻に立ち上がり、壁高は、南北壁で23cm、東壁で27cm、西壁で30cmである。

P1～P4は、支柱穴であろうか。平面形は、いずれもやや不整な楕円形で、深さはP1が75cm、P2が54cm、P3が73cm、P4が66cmである。北東隅近くのピットは、貯蔵穴であろう。平面形は隅丸長方形に近い形態で、南北方向での長さは116cm、東西方向での横幅は64cmである。底面は比較的平坦で、側壁も急峻に立ち上がる。深さは14cm前後である。

カマドは、東壁の中央、やや北東隅寄りの位置に設けられている。短い袖に挟まれたかなり細い長楕円形の燃焼部が残存する。燃焼部の長さは144cm、横幅は43cmである。燃焼面は、床面を浅く掘りくぼめ造作されている。燃焼面や奥壁、側壁は、部分的に被熱赤化している。カマド覆土の1～3層は、天井部や側壁の崩落土を含む層であろう。燃焼部のほぼ中央、燃焼面に接するような状態で、須

C地点

恵器蓋が出土している。

覆土は、29層に分けられた。遺構検出面においても、覆土中に多量の粘土が含まれ、それが不規則に雲状に広がる様が面的に観察できたが、土層断面においても、部分的に厚い層をなし、あるいは薄層をなして乱れ入る粘土が観察できた。また、粘土とともに、炭化物や焼土が万遍なく含まれ、第10層では、炭化物が層状に堆積していた。土層断面による限り、主に東西方向から粘土を多量に含み炭化物や焼土を含む土が、繰り返し住居跡内に流入、投棄されて、埋められたと見ることができる。なお、A-A'断面の第6～9層、B-B'断面の第1～5層は、暗黄灰褐色、黄灰褐色と表現される土層が主で、あるいは覆土を切り込む土坑の覆土の可能性がある。第30層は、掘り方の埋土である。凹凸がそのまま残る粗掘り面のまま、暗褐色土とロームの混合土で無造作に埋めたかに見える。

第141図3の須恵器蓋は、カマドの燃焼部のほぼ中央の燃焼面よりわずかに浮いた位置で、正位の状態で出土している。この須恵器蓋、4の須恵器坏、および重複関係から見て、奈良時代前半の遺構である可能性が考えられる。

第79号住居跡（第145～148図、第64～66表、図版19・125・126）

調査地点の南世部のほぼ中央、O11・12、P11・12グリッドに位置し、E群に含まれる住居跡である。第80号住居跡を切っており、第37・64・69号住居跡、第260号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

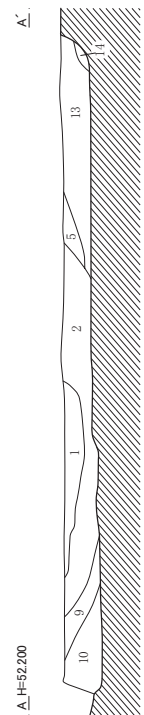
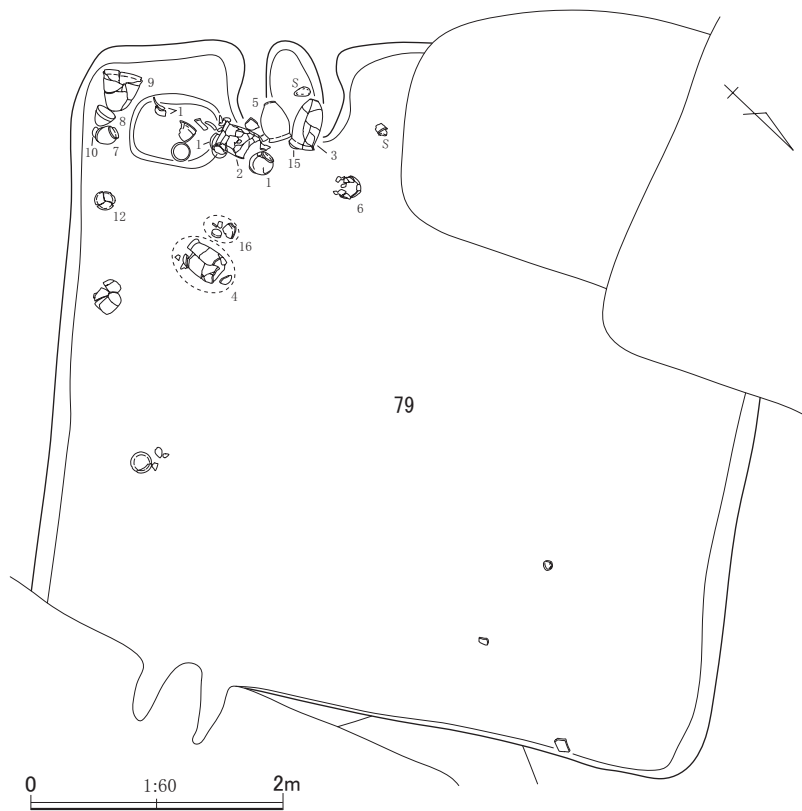
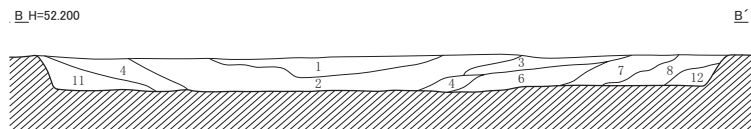
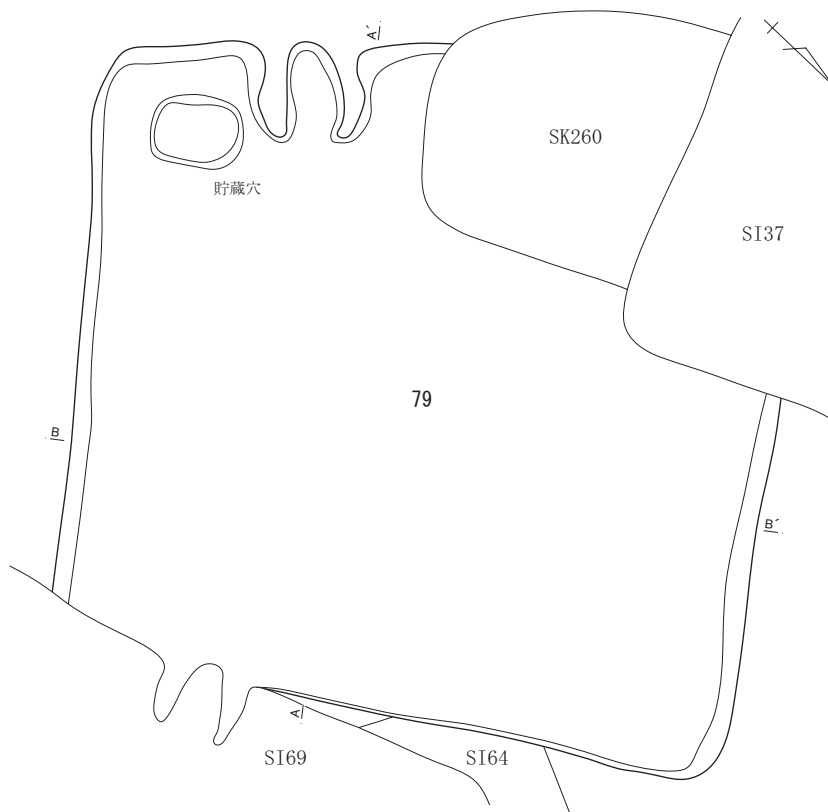
平面形は、北西壁に比し南東壁が短い台形に近い形態と推定できる。規模は、主軸方向で5.15m、副軸方向で5.60m、主軸方位はS-52°-Wである。床面中央を中心に硬化している部分が明瞭に見られるが、かなりむらがあるようであり、全体的に凹凸も顕著である。壁の立ち上がりは比較的ゆるやかであり、残存状態の良い部分での壁高は、南西壁で20cm、北東壁で32cm、北西壁、南東壁で25cmである。

カマドと南隅の間のピットは、貯蔵穴であろう。平面形は小判形とも呼ぶべき形態で、長軸長は73cm、短軸長は57cmである。最深部での深さは11cmである。

カマドは、南西壁の南隅に著しく偏した位置に設けられている。楕円形の燃焼部を有し、基部のややくびれた左右袖の付く形態である。燃焼面は、床面からわずかに掘りくぼめ造られている。燃焼部の長さは80cm、横幅は44cmである。側壁、奥壁の上部が、部分的に被熱赤化している。カマド内から第3・5の2個体の甕、15の坏および楕円礫1点が出土しているが、いずれも燃焼面よりかなり浮いた位置である。カマド覆土の第1・3層には、側壁や奥壁の崩落土が含まれると見てよいようである。

覆土は、暗褐色土を主に、ロームの多寡により14層に分層した。第13・14層には、カマドの構築材である粘土や炭化物、焼土がかなり含まれるようである。

第147図1・2・4・6・7の甕、8・9の甗、10の壺、12・16の坏が、カマドの前面から南隅、南東壁沿いにかけて、かなり上下幅をもって出土している。その他の図示した遺物は、覆土中から出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期後葉前半の遺構と考えられる。



第79号住居跡土層説明（1）

- 第1層：暗褐色土。ローム粒（～1mm）を中量含み、ローム粒（～8mm）・焼土粒（～4mm）を少量含む。
- 第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～4mm）・ローム小塊（～20mm）を中量含み、焼土粒（～4mm）を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒（～1mm）を少量含み、焼土粒（～1mm）を微量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒（～4mm）・ローム小塊（～10mm）を微量含む。
- 第5層：暗褐色土。ローム粒（～0.5mm）を少量含み、ローム粒（～4mm）を微量含む。
- 第6層：暗褐色土。ローム粒（～8mm）を中量含み、ローム小塊（～15mm）・焼土粒（～4mm）・焼土小塊（～10mm）を微量含む。
- 第7層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～6mm）を中量含み、ローム小塊（～50mm）を少量、焼土粒（～4mm）を微量含む。
- 第8層：暗褐色土。ローム粒（～8mm）を少量含む。粘性はやや強い。
- 第9層：暗褐色土。ローム粒（～6mm）を中量含む。

第145図 第79号住居跡平面・断面図（1）

C地点

第79号住居跡土層説明(2)

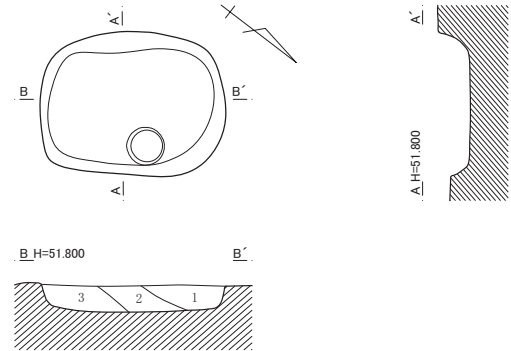
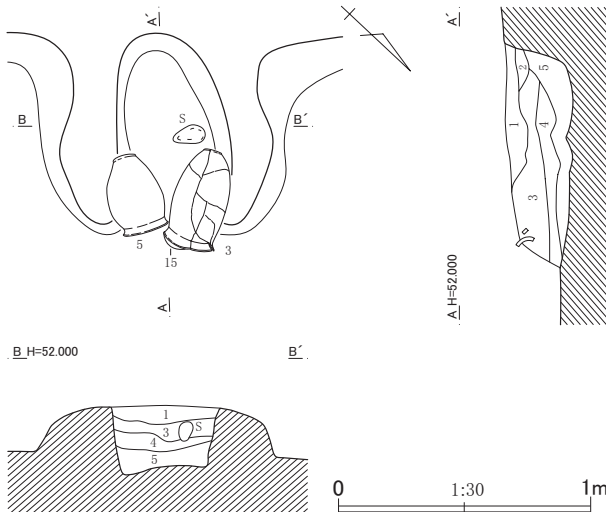
第10層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)を少量含む。

第11層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～20mm)を少量含む。

第12層：暗褐色土。ローム粒(～6mm)を中量含み、粘土粒(～0.5mm)を少量、粘土小塊(～20mm)を微量含む。粘性はやや強い。

第13層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・粘土粒(～0.5mm)を中量含み、粘土小塊(～10mm)を少量含む。粘性はやや強い。

第14層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を微量含み、炭化物小塊(～20mm)を少量、焼土粒(～2mm)を中量、粘土粒(～0.5mm)を多量に含む。粘性はやや強い。



第4層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含み、焼土小塊(～10mm)を多量に含む。粘性はやや強い。

第5層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・炭化物粒(～1mm)を少量含み、焼土粒(～1mm)を中量含む。

第79号住居跡カマド土層説明

第1層：赤褐色土。黄色粘土を主とし、焼土小塊(～10mm)・焼土小塊(～20mm)を多量に含む。粘性は強い。

第2層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を微量含み、焼土粒(～2mm)を少量含む。

第3層：黄褐色土。黄色粘土を主とし、ローム小塊(～10mm)を多量に含み、焼土粒(～8mm)を中量含む。粘性はやや強い。

第79号住居跡貯蔵穴土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。

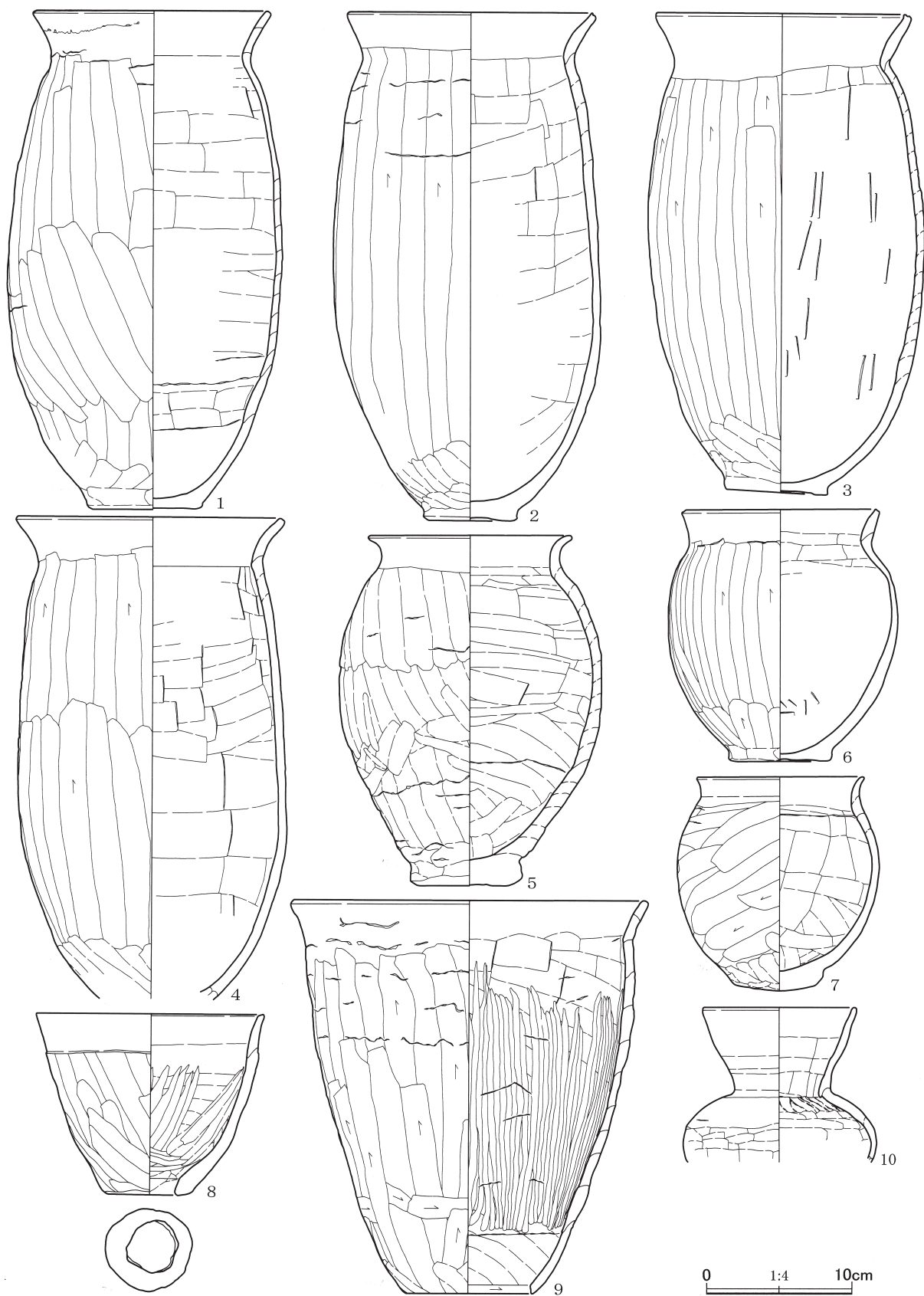
第2層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～10mm)・粘土粒(～1mm)・粘土小塊(～10mm)を少量含み、焼土粒(～4mm)を微量含む。

第3層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・焼土粒(～4mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)・粘土小塊(～10mm)を微量、粘土粒(～2mm)を中量含む。粘性はやや強い。

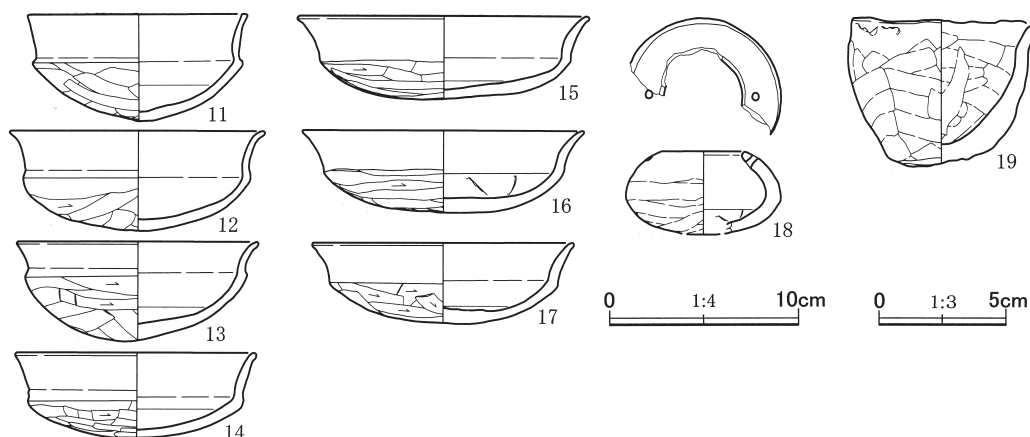
第146図 第79号住居跡平面・断面図(2)

第64表 第79号住居跡出土遺物観察表(1)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 16.6 底径 7.9 器高 36.0	口縁部は外傾する。胴部は下位にわずかな膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ、下端ヘラナデ。底部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・角閃石・石英 内外-橙色	口縁部～胴部1/5欠損
2	甕	口径 17.4 底径 6.7 器高 36.5	口縁部は外傾し、口唇部に凹線がめぐる。胴部は下位にわずかな膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ、下端ヘラナデ。底部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・石英 内外-橙色	4/5残存
3	甕	口径 17.7 底径 (7.4) 器高 34.7	口縁部は外傾し、口唇部に凹線がめぐる。胴部は下位にわずかな膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ、下端ヘラナデ。底部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・石英・片岩 内外-橙色	底部1/2欠損
4	甕	口径 18.8 底径 — 器高 [34.8]	口縁部は外傾する。胴部は下位にわずかな膨らみをもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ、下端ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	片岩・白色粒・石英 内外-にぶい橙色	底部欠損



第147图 第79号住居跡出土遺物(1)



第148図 第79号住居跡出土遺物(2)

第65表 第79号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
5	甕	口径 14.4 底径 8.0 器高 25.2	口縁部は強く外反する。胴部は上～中位に膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。底部ナデ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・石英 内外－にぶい橙色	完形
6	小型甕	口径 13.6 底径 7.2 器高 18.1	口縁部は外傾し、口唇部に平坦面をもつ。胴部は中位に膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ、下端ヘラナデ。底部ナデ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	片岩・白色粒・石英 内外－にぶい橙色	口縁部～胴部1/4欠損
7	小型甕	口径 11.9 底径 5.9 器高 15.4	口縁部は外反する。胴部は中位に膨らみをもつ。丸底気味。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ、下端ヘラナデ。底部ナデ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	片岩・白色粒・赤褐色粒・石英 外－橙色 内－にぶい橙色	口縁部1/2欠損
8	小型甕	口径 16.3 底径 5.6 器高 13.1	口縁部は外反する。胴部は膨らみをもたない。平底で孔径3.5cmの円孔が開く。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。底部ナデ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ後ミガキ、端部ヘラナデ。	白色粒・赤褐色粒・石英・金雲母 内外－にぶい黄橙色	完形
9	甕	口径 25.1 底径 9.0 器高 28.4	口縁部は外傾する。胴部は膨らみをもたない。底部は筒抜け。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ、下端ヘラナデ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ後ミガキ、端部ヘラケズリ。	白色粒・黒色粒・石英・金雲母 内外－橙色	口縁部1/4欠損
10	壺	口径 10.9 底径 — 器高 [11.1]	口縁部は内彎気味に外傾する。体部は張る。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。内面－口縁部上半ヨコナデ、下半ヘラナデ。体部ヘラナデ、上位絞り目。	白色粒・石英 内外－明赤褐色	口縁部～体部上半
11	坏	口径 12.0 底径 — 器高 5.9	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外反し、口唇部に平坦面をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部～体部上半ヨコナデ。体部下半～底部ヘラナデ。	白色粒・雲母 内外－橙色	2/3残存
12	坏	口径 13.9 底径 — 器高 5.5	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外－明赤褐色	口縁部一部欠損
13	坏	口径 13.2 底径 — 器高 5.5	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部～体部上半ヨコナデ。体部下半～底部ヘラナデ。	白色粒・雲母 外－橙色 内－暗灰黄色	2/3残存
14	坏	口径 13.2 底径 — 器高 4.8	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部～体部上位ヨコナデ。体部中位～底部ヘラナデ。	白色粒・雲母 内外－橙色	完形
15	坏	口径 15.9 底径 — 器高 4.1	丸底。体部は大きく開く。口縁部は外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・石英 外－にぶい橙色 内－橙色	口縁部1/5欠損
16	坏	口径 15.5 底径 — 器高 4.5	丸底。体部は大きく開く。口縁部は外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・石英 内外－橙色	ほぼ完形

第66表 第79号住居跡出土遺物観察表(3)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
17	坏	口径 14.4 底径 — 器高 4.3	丸底。口縁部は体部との境に弱い稜をもって外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・雲母 内外—にぶい橙色	口縁部1/3欠損
18	無頸壺	口径 (4.6) 底径 — 器高 [4.5]	丸底。体部は張る。口縁部は内傾する。口縁部に小孔2カ所、孔径0.4cm。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。内面—口縁部～体部中位ヨコナデ。体部下位ヘラナデ。	白色粒 外—にぶい橙色 内—橙色	1/3残存
19	手捏ね土器	口径 (7.4) 底径 4.4 器高 6.1	丸底気味。体部は内彎する。口縁部は整わず、短く外反する。手捏ね成形。	外面—口縁部ナデ。体部ヘラナデ。底部ナデ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・石英 内外—にぶい黄橙色	口縁部1/2欠損

第80号住居跡(第149図、図版20)

調査地点の南西部の中央やや東寄り、O11・12、P11・12グリッドに位置し、E群に含まれる住居跡である。第48・51～53・69・79・89・120号住居跡と重複するが、これらの住居跡の大半の床面は、本住居跡の床面よりも上位にあり、直接本遺構の床面を壊しているのは、48・89号住居跡である。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、長方形ないしは平行四辺形と見ることができる。規模は、南北方向で5.18m、東西方向で7.15mである。南北方向での中軸線は、おおよそN-21°-Wあたりを指すようである。床面には凹凸が目立つが、中央部分は、明瞭に硬化している。最も残りのよい南壁での壁高は、32cmである。南東隅近くのピットは、貯蔵穴であろうか。平面形は、小判形で、長軸長は82cm、短軸長は66cm、深さは19cmである。

覆土は、暗褐色土を主とする12層に分けられた。全体に粘土小塊や焼土、炭化物の混入が目立ち、種々の土が乱れ入るような堆積状態を示すようである。

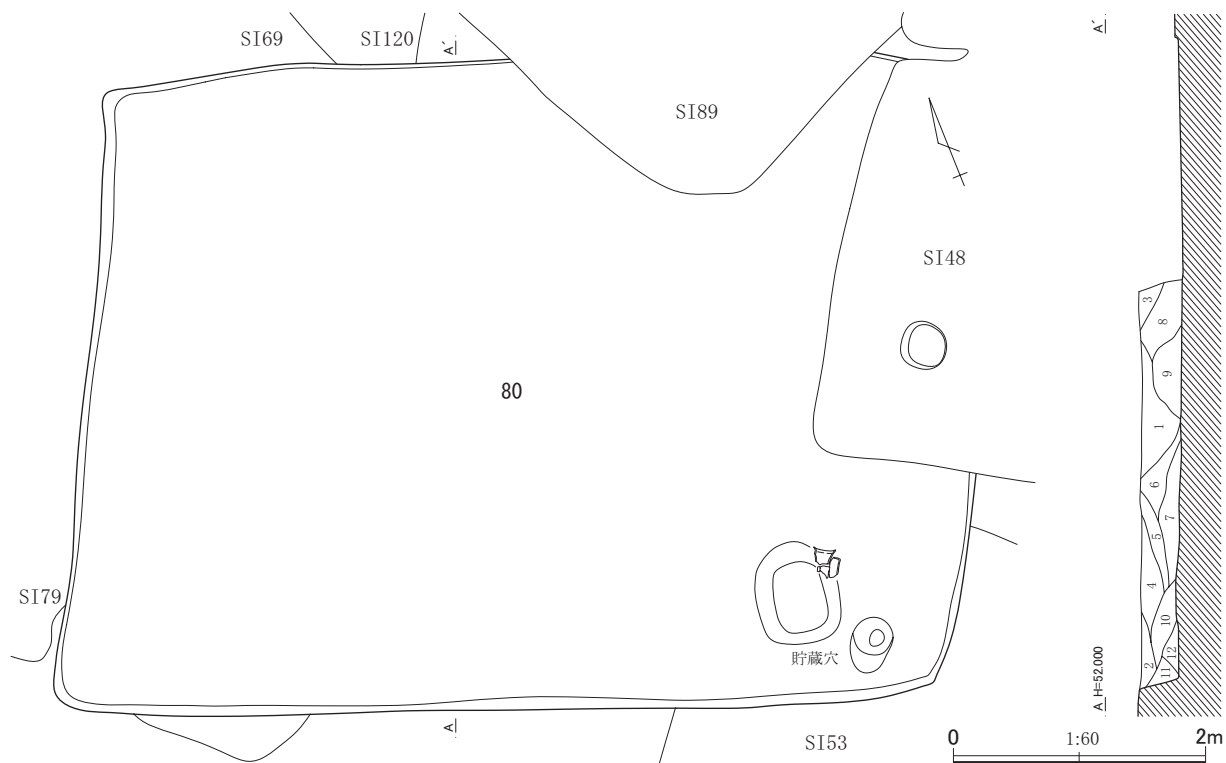
土師器片を主とする遺物が、覆土中から少数出土しているのみである。重複関係から見て、古墳時代後期中葉以前の遺構と考えられる。

第81号住居跡(第150～152図、第67表、図版20・126)

調査地点の中央からやや西に寄った位置、O10・11、P10・11グリッドに位置し、E群に含まれる住居跡である。第97・121・122・126号住居跡を切っており、第209・212・216・262～264・296号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。確認面は、黄褐色のローム上面である。

平面形は、やや歪な横長の長方形ないしは隅丸長方形と見ることができる。規模は、主軸方向で5.12m、副軸方向で5.81m、主軸方位はS-42°-Wである。床面はほぼ平坦で、中央部分が明瞭に硬化している。残存する部分での壁高は、南西壁で30cm、南東壁で25cm、北西壁で18cm、北東壁で29cmである。

P1～P4は、支柱穴であろう。平面形は、歪な円形、楕円形で、深さは、P1が38cm、P2が74cm、P3が66cmである。P4が62cmである。P2以外の柱穴には、近接してあるいは接近して複数のピットが見られ、柱穴の掘り直しがなされている可能性がある。カマドの右脇のピットは、貯蔵穴であろう。平面形はかなり角張った不整な円形で、最大径は70cmである。底面はほぼ平坦に掘り上げられており、最深部での深さは36cmである。



第80号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を中量含み、ローム小塊(～15mm)を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)を微量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含む。
- 第4層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を中量含み、ローム小塊(～30mm)を少量、炭化物粒(～1mm)を微量含む。
- 第5層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～10mm)を中量含み、炭化物粒(～4mm)を少量、炭化物小塊(～20mm)を微量含む。
- 第6層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・ローム粒(～8mm)を少量含む。
- 第7層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)を多量に含み、ローム小塊(～40mm)・炭化物小塊(～

40mm)を少量、炭化物粒(～2mm)・焼土粒(～1mm)・焼土小塊(～40mm)を微量含む。

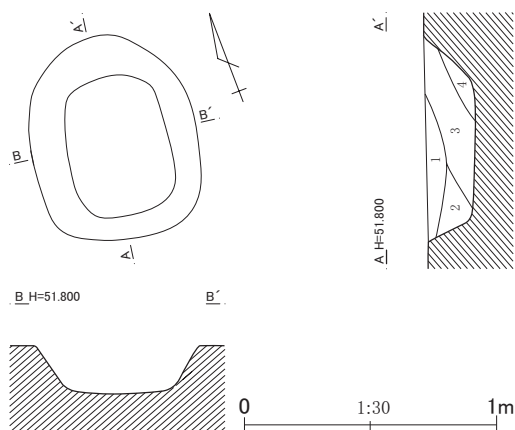
第8層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)を多量に含み、ローム小塊(～15mm)を少量、焼土粒(～2mm)を微量含む。

第9層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～8mm)を多量に含み、ローム小塊(～20mm)を中量、焼土粒(～4mm)を微量含む。

第10層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を多量に含み、ローム小塊(～30mm)を少量含む。

第11層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～40mm)を多量に含み、ローム小塊(～10mm)を中量含む。

第12層：暗褐色土。ローム小塊(～40mm)多量に含み、ローム小塊(～10mm)を少量、ローム小塊(～20mm)を微量含む。



第80号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含み、粘土粒(～10mm)を微量含む。
- 第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～6mm)を多量に含み、ローム小塊(～30mm)を微量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を微量含む。

第149図 第80号住居跡平面・断面図

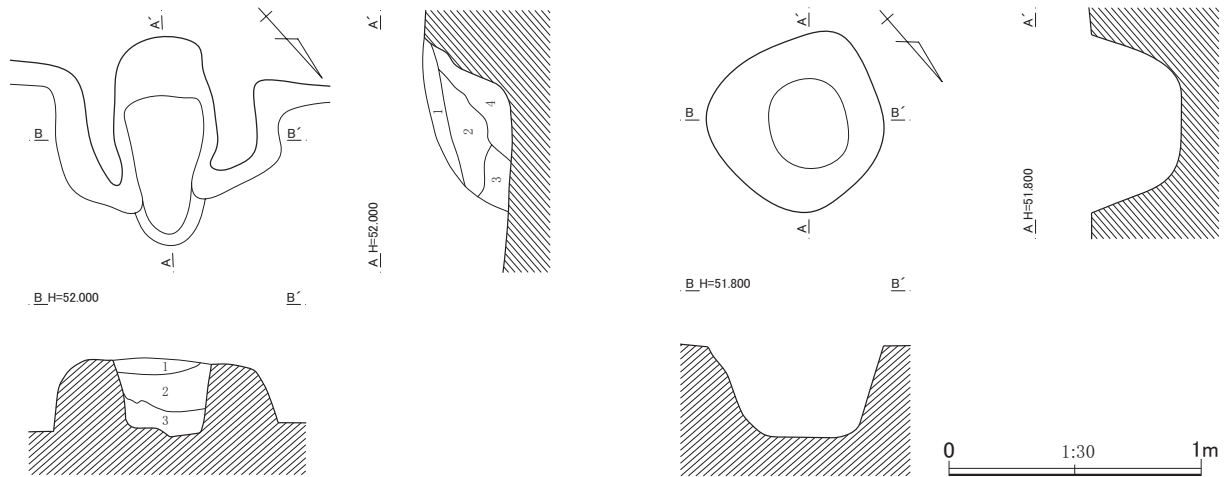


第81号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～8mm)を中量含み、ローム小塊(～30mm)を少量、焼土粒(～4mm)を微量含む。
 第2層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を中量含み、ローム小塊(～50mm)を少量含む。

第3層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を多量に含み、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～1mm)を微量含む。
 第4層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を中量含み、ローム小塊(～30mm)を少量含む。

第150図 第81号住居跡平面・断面図(1)

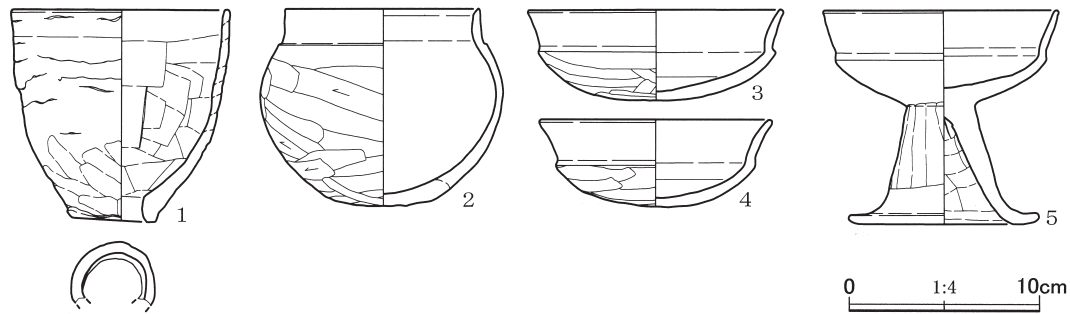


第81号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)
 ・粘土小塊(～10mm)・焼土粒(～4mm)を少量含み、
 粘土粒(～0.5mm)を中量含む。
- 第2層：暗灰赤褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～4mm)
 ・焼土粒(～8mm)・焼土小塊(～15mm)を中量含み、
 粘土小塊(～20mm)を少量、炭化物粒(～1mm)を微量

- 含む。粘性はやや強い。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・焼土粒(～4mm)を少
 量含み、粘土粒(～0.5mm)を中量、粘土小塊(～
 10mm)を微量含む。粘性はやや強い。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を中量含み、焼土粒(～
 2mm)を少量含む。

第151図 第81号住居跡平面・断面図(2)



第152図 第81号住居跡出土遺物

第67表 第81号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	小型甌	口径 11.9 底径 4.6 器高 11.6	口縁部は直立する。胴部は膨らみをもたない。平底で孔径3.5cmの円孔が開く。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部～底部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。端部ヘラケズリ。	白色粒・黒色粒・石英・礫 外-橙色 内-にぶい黄橙色	5/6残存
2	短頸壺	口径 10.7 底径 — 器高 10.9	丸底。体部は中位が張る。口縁部は内傾気味に立ち上がり、口唇部内側に面をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・石英・雲母 内外-橙色	底部1/3欠損
3	坏	口径 14.0 底径 — 器高 4.9	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面-口縁部～体部上半ヨコナデ。体部下半～底部ヘラナデ。	白色粒・雲母 内外-橙色	口縁部1/4欠損
4	坏	口径 12.7 底径 — 器高 4.8	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面-口縁部～体部上半ヨコナデ。体部下半～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・雲母 内外-にぶい黄褐色	口縁部1/5欠損
5	高坏	口径 (12.9) 底径 10.4 器高 11.7	口縁部は坏部との境に稜をもって外傾する。脚部は下方へ開き、裾部は短く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。坏部～脚部ナデ。脚部下位～裾部ヨコナデ。内面-口縁部～坏部磨滅。脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。	白色粒・雲母 内外-橙色	1/2残存

カマドは、南西壁のほぼ中央に付設されている。幅広のやや短い両袖に挟まれた楕円形の燃焼部が残存する。燃焼面は、床面よりわずかに掘りくぼめられ作出されている。燃焼部の長さは83cm、横幅は41cmである。側壁、奥壁の一部は、被熱赤化している。

覆土は、ロームを含む暗褐色土の4層である。壁際の堆積土以外は、第1層により住居跡は埋まっている。

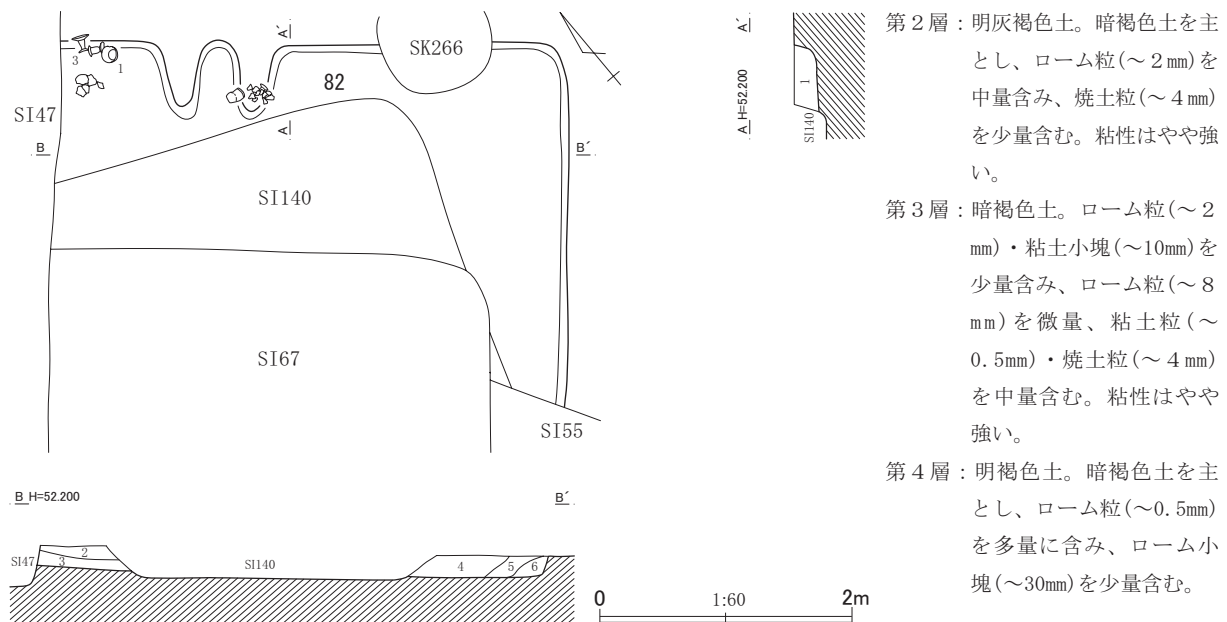
第152図1の甗や3の坏は、カマドの左袖脇、5の高坏は、西隅近くの床面よりやや浮いた位置から、4の坏は、P1内から出土している。2の短頸壺は南東壁沿いの上層から出土している。2の短頸壺には、時期的に新しい様相が見られるが、その他の土器は、おおむね古墳時代後期後葉前半に属すると見られる。よって、古墳時代後期後葉前半の遺構である可能性を考えたい。

第82号住居跡（第153～155図、第68表、図版20・126）

調査地点の南西隅近くの南縁寄り、O13グリッドに位置し、J群に含まれる住居跡である。第47・55・67・140号住居跡、第266号土坑に切られ、遺構の大半が失われている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

残存状態が悪く、平面形は不明である。規模を壁の長さで示すなら、北東壁の長さは4.03m、南東壁の長さは2.94mである。南東壁の方向は、N-40°-Eであり、主軸方位はこれに近いものになるであろう。床面の硬化は顕著ではない。壁高は、北東壁で18cm、南東壁で15cmである。

カマドは、北東壁に付設されている。短い両袖に挟まれた奥壁側が丸みをもった燃焼部が残存する。燃焼面は、床面をわずかに掘りくぼめて造られている。袖の端から奥壁までの燃焼部の長さは63cm、



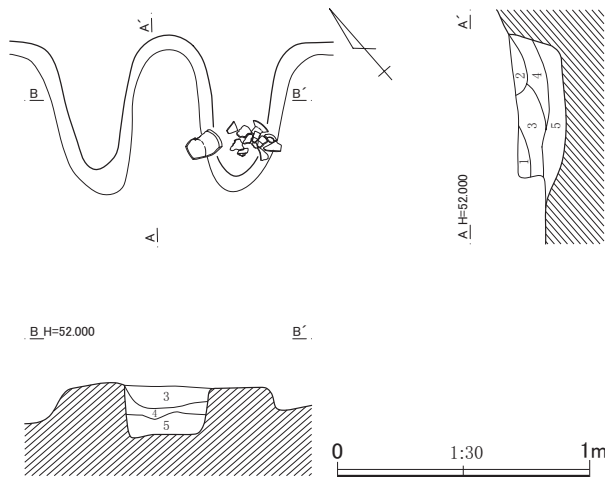
第82号住居跡土層説明

第1層：明灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)を多量に含み、ローム粒(～8mm)を中量含む。粘性はやや強い。

第5層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～0.5mm)を多量に含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。

第6層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～15mm)を微量含む。

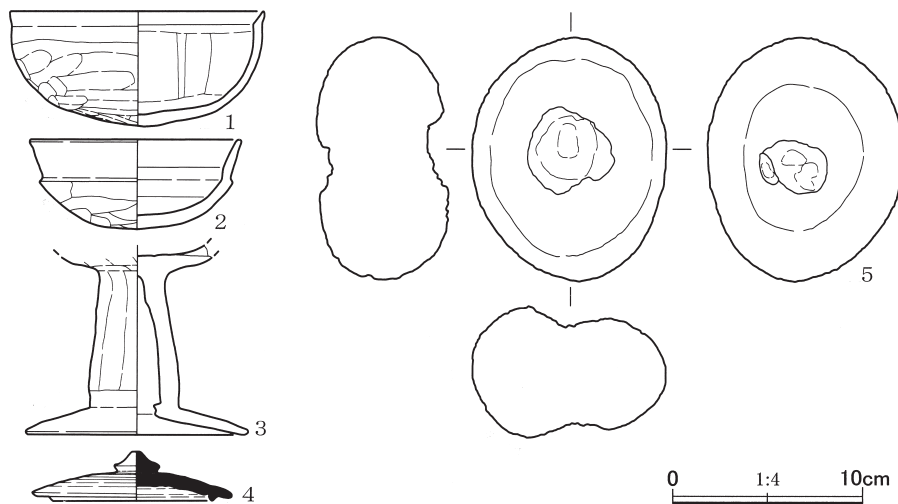
第153図 第82号住居跡平面・断面図(1)



第82号住居跡カマド土層説明

- 第1層：黄褐色土。粘土粒(～0.5mm)・粘土粒(～4mm)を主とする。粘性はやや強い。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～1mm)を少量含む。粘性はやや強い。
- 第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～0.5mm)・ローム粒(～2mm)を多量に含み、焼土粒(～4mm)を中量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～8mm)・ローム小塊(～20mm)を少量含む。
- 第5層：暗褐色土。粘土粒(～0.5mm)・焼土粒(～4mm)を中量含む。

第154図 第82号住居跡平面・断面図(2)



横幅は36cmである。燃焼部の被熱赤化の痕跡は、不明瞭である。

第155図1の杯、3の高杯は北東壁沿いのカマド左袖近くの上層あるいは最上層から出土している。出土遺物には、古墳時代中期の古い段階から古墳時代終末期までの幅がある。

第155図 第82号住居跡出土遺物

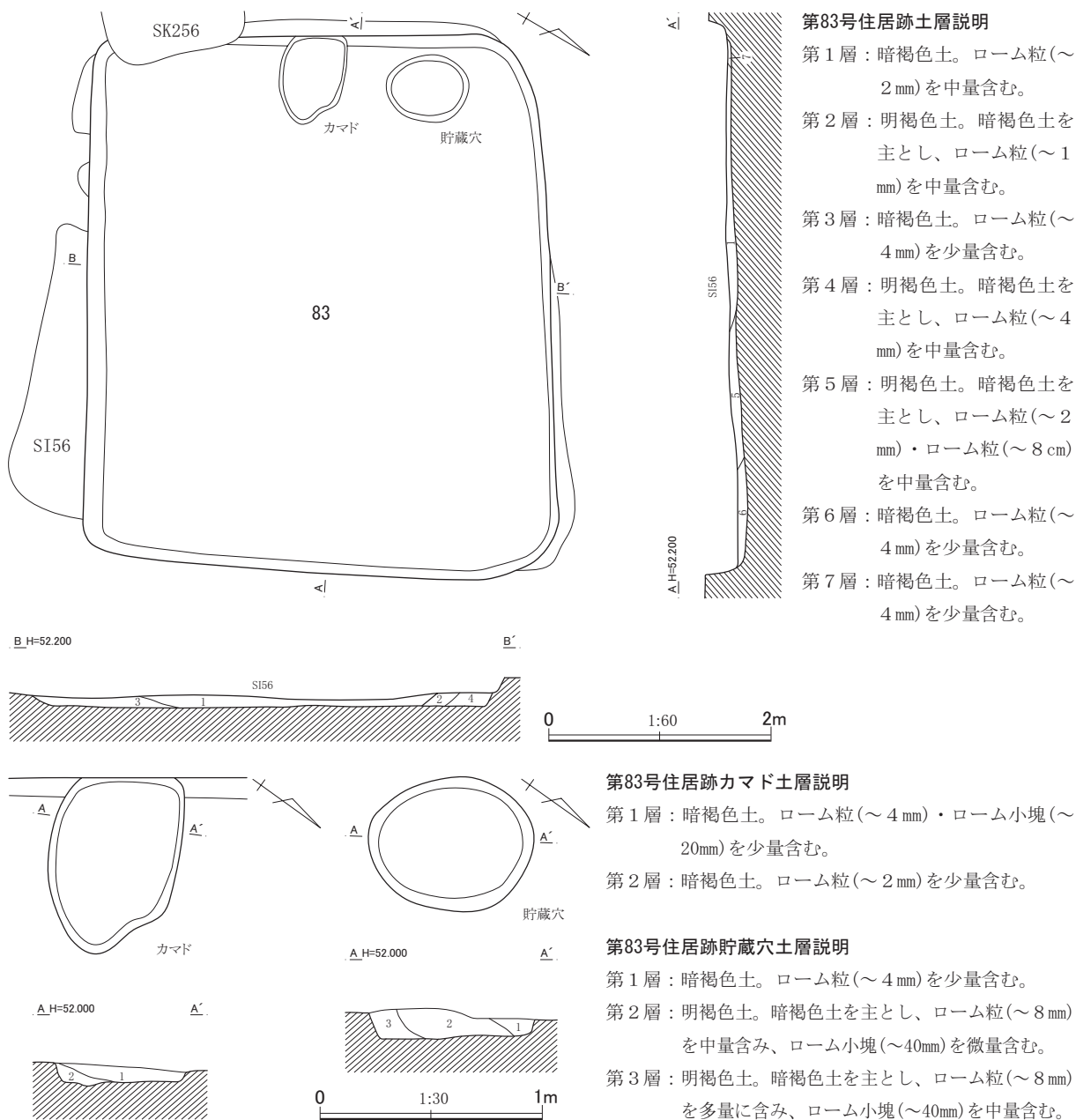
第68表 第82号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	杯	口径 13.9 底径 — 器高 6.3	丸底。体部は内彎する。口縁部は短く外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ナデ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・雲母 内外—橙色	口縁部一部欠損
2	杯	口径 11.5 底径 — 器高 5.0	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部上半ヨコナデ。体部下半～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・雲母 内外—橙色	口縁部1/2欠損
3	高杯	口径 — 底径 12.1 器高 [10.4]	脚部は下位にわずかな膨らみをもつ。裾部は内彎気味に大きく広がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。内面—脚部絞り目。裾部ヨコナデ。	白色粒・雲母 内外—明赤褐色	脚部
4	須恵器蓋	口径 11.0 摘み径 2.5 器高 2.7	返りをもつ。擬宝珠形摘み。ロクロ成形。	外面—ロクロナデ。天井部回転ヘラケズリ。摘み貼付時周辺ナデ。内面—ロクロナデ。	白色粒 内外—灰色	完形 還元焰焼成
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
5	凹み石	長さ13.3、幅10.75、厚さ7.3、重さ571.67g。石材：角閃石安山岩。調整：両面に凹みあり。全体的にザラザラシ、平滑でない。				完形

重複関係から、古墳時代後期中葉以前の遺構である可能性が考えられ、一応同時期頃の遺構と考えたい。

第83号住居跡（第156・157図、第69表、図版20・126）

調査地点の南縁近くの中央、西寄り、O13・14、P13グリッドに位置し、I群に含まれる住居跡である。第263号住居跡を切っており、第56号住居跡が本住居跡の上部に大きく重なり、壁をわずかに残すみの状態となっている。また、第256号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。第63号住居跡とも重複する位置にあるが、第56号住居跡が介在し、直接切り合わない。確認面は、黄褐色のローム層上面である。



第156図 第83号住居跡平面・断面図

C地点

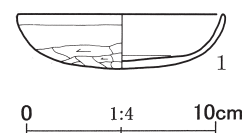
平面形は、隅の比較的丸い長方形である。規模は、主軸方向で4.85m、副軸方向で4.18m、主軸方位はS-64°-Wである。床面にはかなり凹凸が目立ち、硬化は顕著ではない。壁高は、南西壁で2cmほど、南東壁で8cm、北西壁で12cm、北東壁で5cmである。

南西脇の西隅寄りのピットあるいは土坑は、貯蔵穴であろうか。平面形は、楕円形で、長径75cm、短径61cm、深さは11cmである。

南西壁のほぼ中央の掘り込みは、燃焼部のみ残るカマドの残欠と考えられる。燃焼部の平面形はやや不整な楕円形で、燃焼面は、浅く掘りくぼめられ作出されている。燃焼部の長さは80cm、横幅は58cmである。被熱による赤化は見られないが、燃焼面のロームは硬化している。

住居跡の覆土は、主に暗褐色土からなる7層に分けられた。主に暗褐色土からなる覆土で、全体にロームを多く含むようであった。

貯蔵穴の上からやや大型の土師器甕片が出土している以外は、覆土中より土師器片を主とする遺物が少量出土しているのみである。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末期末から奈良時代初頭にかけての遺構と考えられる。



第157図 第83号
住居跡出土遺物

第69表 第83号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 (11.2) 底径 — 器高 3.0	丸底。体部は浅く開き、口縁部は内彎気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部上半ナデ。体部下半~底部ヘラケズリ。内面—口縁部~体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・石英 内外—にぶい褐色	1/2残存

第84号住居跡（第158・159図、第70表、図版21・126）

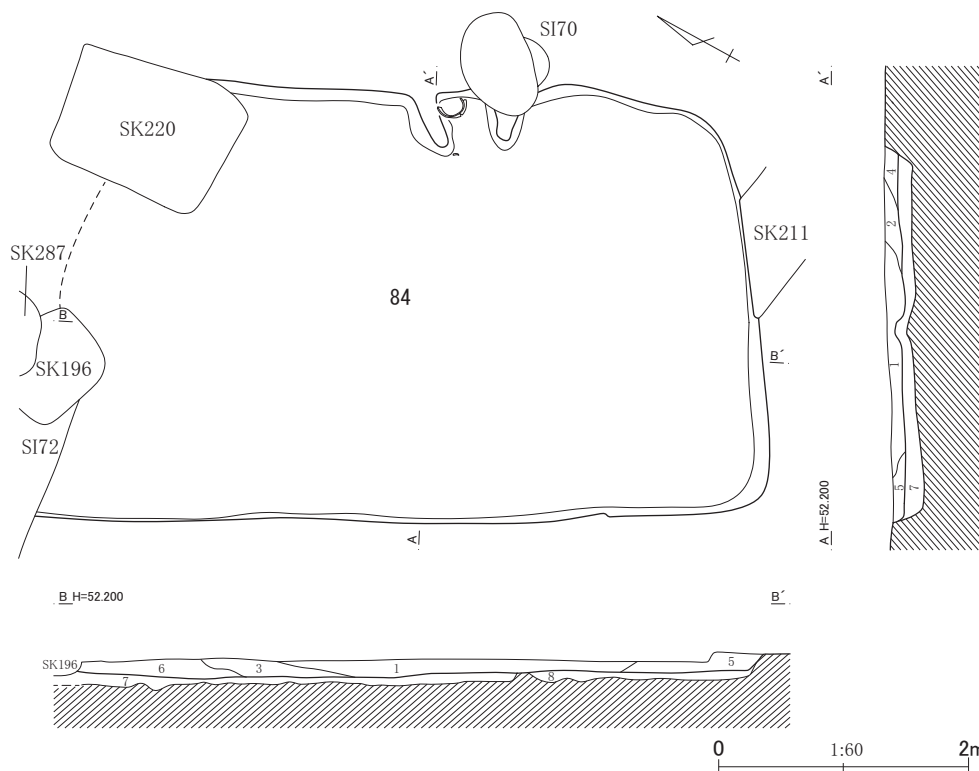
調査地点の南西部の中央、やや北西寄り、N10・11、O10・11グリッドに位置し、E群に含まれる住居跡である。第72・95・96・112号住居跡を切っており、第196・211・220・287号土坑に切られている。北西側は、かなりの範囲がそれらの土坑に壊され、床面がどこまでか判然としない。また、第66・70号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム上面である。

平面形は、やや歪な横長の長方形と見ることができる。規模は、主軸方向で3.45mである。副軸方向での規模は、現存値で5.9m前後、主軸方位はN-61°-Eである。床面には凹凸がかなり顕著である。床面の中央からカマド前面にかけて硬化している。残存する部分での壁高は、北東壁で10cm、南東壁で12cm、南西8cmである。

カマドは、現存する北東壁のほぼ中央にやや斜行して設けられている。短い両袖に挟まれた角張った形の燃焼部が残存する。燃焼面は、床面よりわずかに掘りくぼめられ作出されている。燃焼部の長さは51cm、横幅は43cmである。左袖側の側壁および奥壁の一部は、被熱赤化している。

覆土は、6層に分けられた。第1層は、粘土を主とする灰褐色土で、壁際、壁寄りに暗褐色土の第2~6層が堆積し、中央がくぼんだ状態の住居跡にまとまって流入、あるいは投棄された特異な土である。第7層は、暗褐色土とロームの混合土の掘り方の埋め土である。

カマド内の奥壁寄りの位置で、燃焼面よりやや浮いた状態で甕破片が出土している。他の遺物は、



- 第3層：暗褐色土。
ローム粒(～0.5mm)を中量含み、ローム粒(～8mm)・粘土粒(～0.5mm)・焼土粒(～6mm)を少量含む。粘性はやや強い。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含み、粘土粒(～0.5mm)を中量含む。粘性はやや強い。
- 第5層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を中量

第84号住居跡土層説明

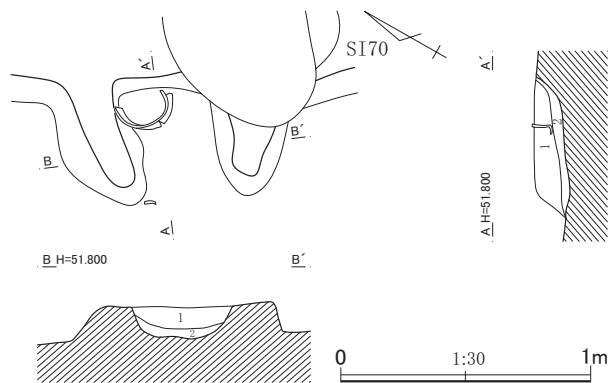
- 第1層：灰褐色土。粘土を主とし、暗褐色土小塊(～30mm)・ローム粒(～4mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。粘性はやや強い。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を中量含み、ローム小塊(～30mm)を少量、焼土粒(～1mm)を微量含む。粘性はやや強い。

含み、ローム小塊(～10mm)を少量含む。

- 第6層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～40mm)を少量含む。

〈掘り方埋土〉

- 第7層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～15mm)を中量含む。ややしまっている。

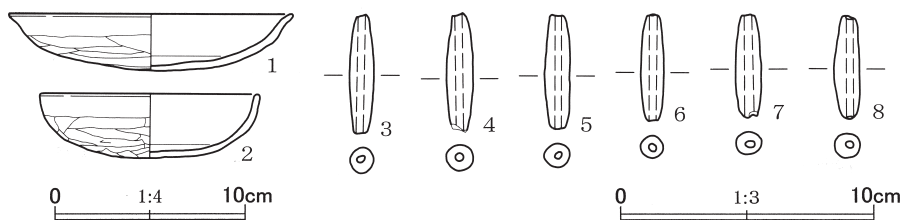


第84号住居跡カマド土層説明

- 第1層：明灰褐色土。明褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を少量含み、粘土粒(～4mm)・焼土粒(～4mm)を中量、粘土小塊(～20mm)を微量含む。粘性はやや強い。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・炭化物粒(～1mm)を少量含む。

第158図 第84号住居跡平面・断面図

覆土中出土である。出土遺物から見て、古墳時代終末期末から奈良時代初頭にかけての遺構と考えられる。



第159図 第84号住居跡出土遺物

C地点

第70表 第84号住居跡出土遺物観察表

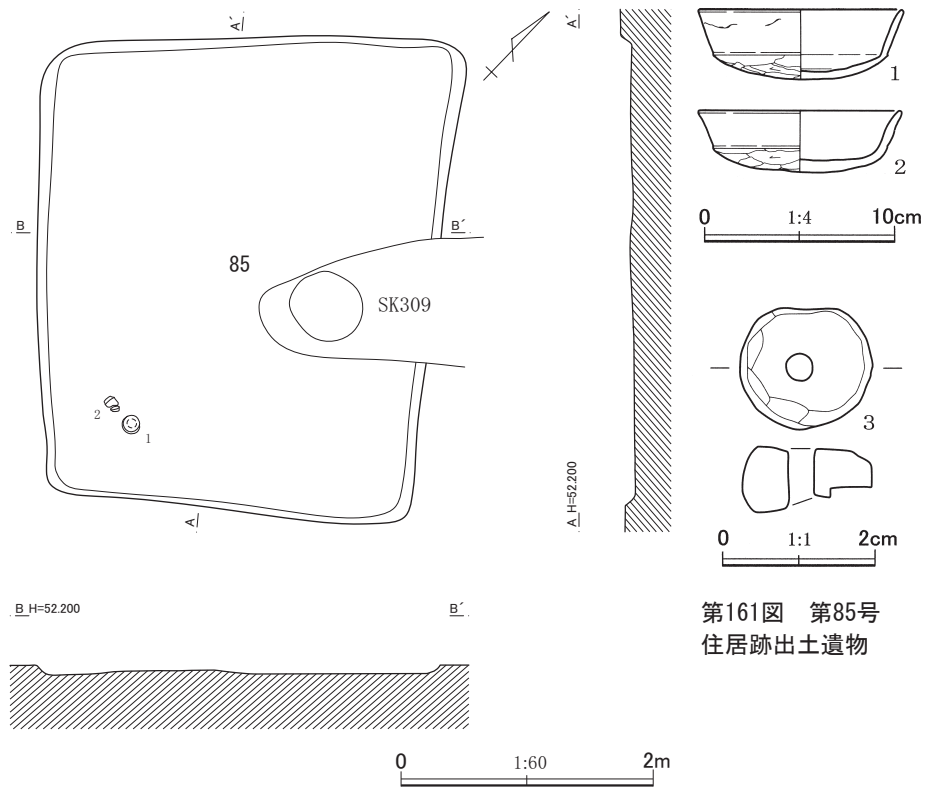
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	皿	口径 15.5 底径 — 器高 3.1	丸底。体部は大きく開く。口縁部は外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・角閃石 内外—橙色	1/2残存
2	坏	口径 12.0 底径 — 器高 4.0	丸底。体部は内彎する。口縁部は外傾気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—橙色	ほぼ完形
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
3	土錘	長さ4.9、幅1.0、厚さ1.1、重さ5.18g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい橙色。				完形
4	土錘	長さ[4.9]、幅1.1、厚さ1.1、重さ[5.65]g。胎土：白色粒。色調：にぶい橙色。				端部欠損
5	土錘	長さ4.7、幅1.0、厚さ1.0、重さ4.96g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい橙色。				完形
6	土錘	長さ4.4、幅1.1、厚さ0.9、重さ4.23g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい褐色。				完形
7	土錘	長さ4.3、幅1.1、厚さ0.9、重さ4.05g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい褐色。				ほぼ完形
8	土錘	長さ4.2、幅1.1、厚さ1.0、重さ4.54g。胎土：白色粒。色調：にぶい褐色。				完形

第85号住居跡

(第160・161図、第71表、図版21・126)

調査地点の中央やや南寄り、Q12・13グリッドに位置し、F群に含まれる住居跡である。

第103・113・114号住居跡と重複しているが、それらの床面は、本住居跡の床面よりも下位にある。第309号土坑に切られ、一部を壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

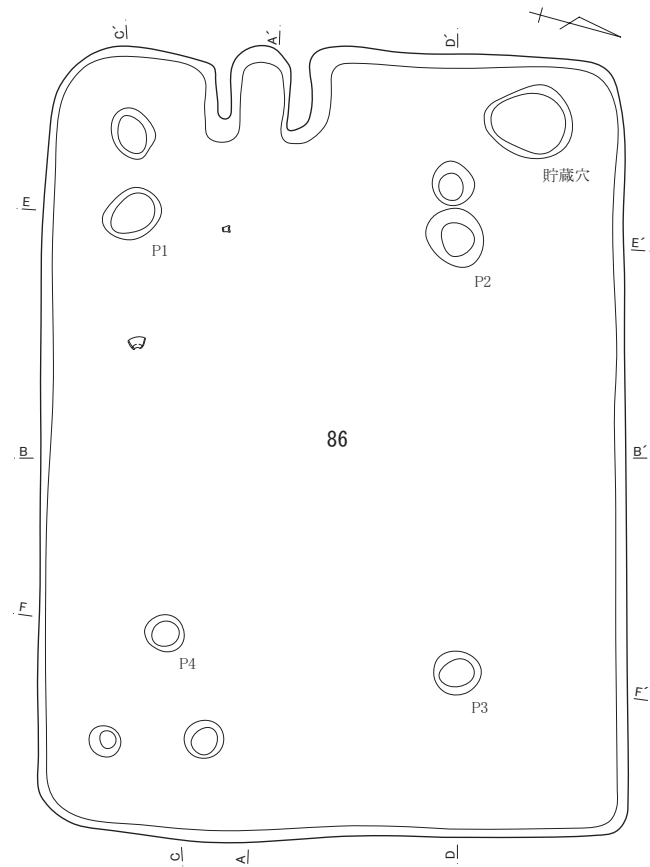


第161図 第85号住居跡出土遺物

第160図 第85号住居跡平面・断面図

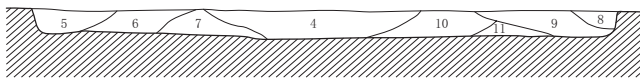
第71表 第85号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 11.1 底径 — 器高 3.9	丸底。口縁部は体部との境に弱い稜をもって外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・石英 内外—橙色	口縁部1/4欠損
2	坏	口径 11.0 底径 — 器高 3.4	丸底。口縁部は体部との境に弱い稜をもって外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒 内外—橙色	3/4残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
3	石製品 白玉	長さ1.9、幅1.82、孔径0.35×0.35、厚さ0.9、重さ3.93g。石材：片岩。調整：全体的に研磨。				完形



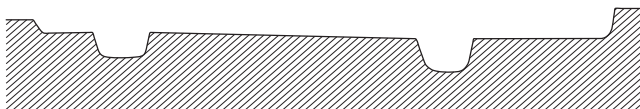
B H=52.200

B'



E H=52.200

E'



F H=52.200

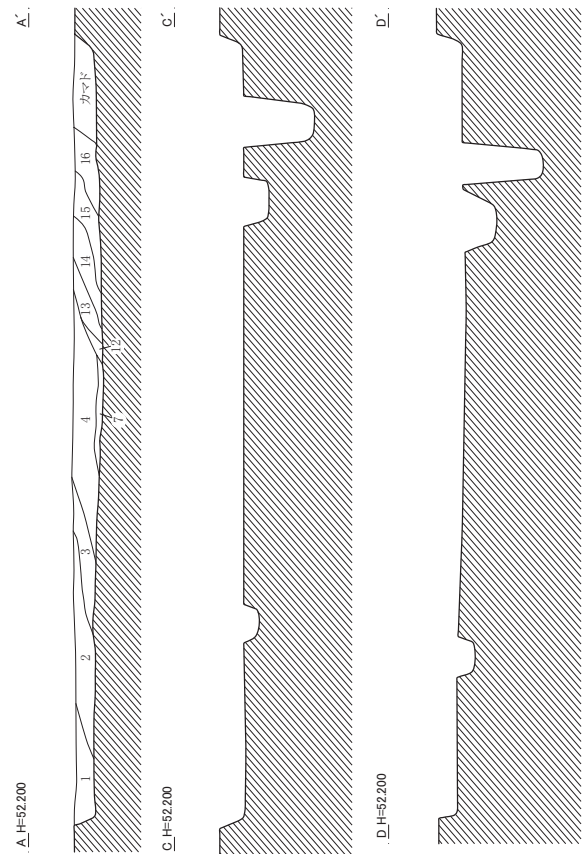
F'



0 1:60 2m

第86号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含み、ローム小塊(～15mm)を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を中量含み、ローム小塊(～25mm)を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・焼土粒(～4mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。
- 第4層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～25mm)を中量含み、炭化物粒(～1mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。



- 第5層：暗褐色土。ローム粒(～6mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～8mm)を微量含む。
- 第6層：暗褐色土。ローム粒(～8mm)を少量含み、ローム小塊(～30mm)・焼土粒(～4mm)を微量含む。
- 第7層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を少量含み、ローム粒(～8mm)・焼土粒(～2mm)を微量含む。
- 第8層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を少量含み、焼土粒(～2mm)を微量含む。
- 第9層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を少量含み、ローム小塊(～15mm)・焼土粒(～6mm)を微量含む。
- 第10層：暗褐色土。ローム粒(～8mm)を中量含み、ローム小塊(～40mm)を微量含む。
- 第11層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を少量含み、ローム粒(～4mm)・焼土粒(～4mm)を微量含む。
- 第12層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を多量に含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。
- 第13層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)を多量に含み、焼土粒(～2mm)を少量含む。
- 第14層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を多量に含み、ローム小塊(～40mm)・炭化物粒(～2mm)・焼土粒(～2mm)を少量含む。
- 第15層：明褐色土。ローム粒(～6mm)を多量に含み、焼土粒(～4mm)を微量含む。
- 第16層：明褐色土。ローム粒(～8mm)を中量含み、ローム小塊(～30mm)を微量、焼土粒(～8mm)を少量含む。

第162図 第86号住居跡平面・断面図(1)

C地点

平面形は、やや不整な方形と見てよいであろう。規模は、北西－南東方向で3.73m、北東－南西方向で3.22mである。北西－南東方向での中軸線は、N-39°-Wを指す。床面にはゆるやかな凹凸が見られ、中央部分がいくらか硬化しているようである。壁高は、北西壁で9cm、南西壁で8cm、南東壁で2cmである。

第161図1・2の坏は、南隅寄りの位置から出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末期前葉の遺構であろうか。

第86号住居跡（第162～164図、第72表、図版21・126）

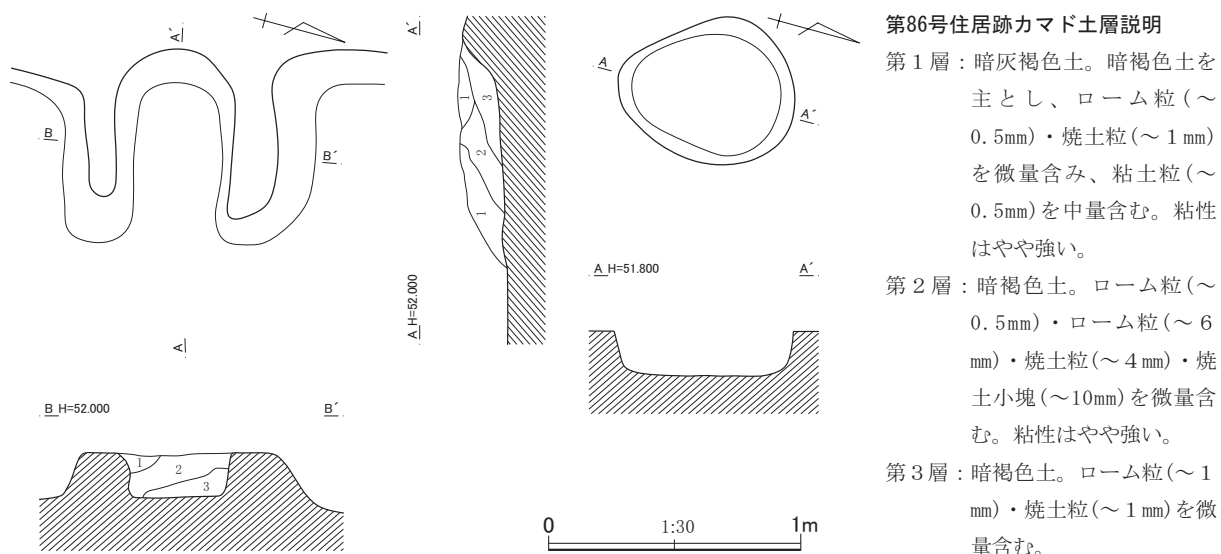
調査地点のほぼ中央、Q12、R11・12グリッドに位置し、F群に含まれる住居跡である。第118・137・162・184号住居跡を切って造られている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、長方形である。規模は、主軸方向で6.32m、副軸方向で4.15mである。主軸方位は、S-74°-Wである。床面はおおむね平坦であり、遺構の東半やカマドの北側では、部分的に床面が硬化している。壁高は、西壁、北壁で18cm、東壁、南壁で19cmである。

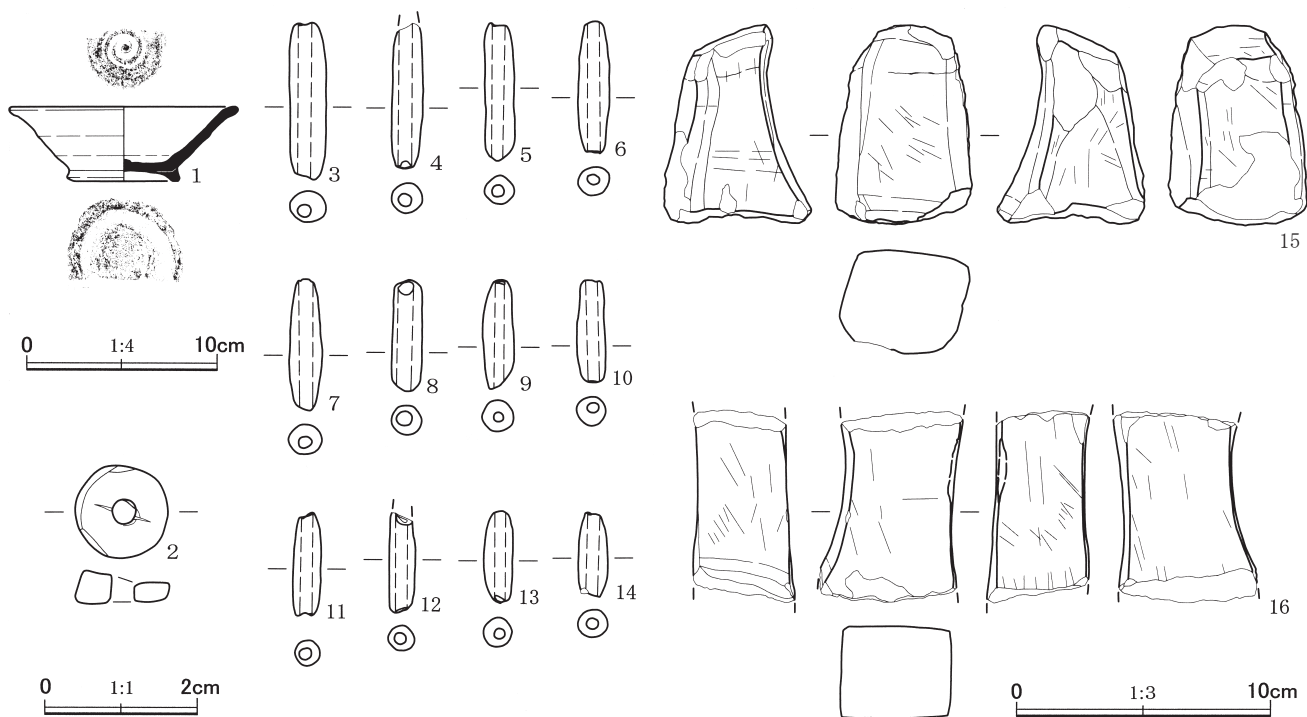
P1～P4は、支柱穴であろう。平面形は、やや不整な円形、楕円形で、深さは、P1が20cm、P2が26cm、P3が16cmである。P4が12cmである。他に床面で5個のピットを検出している。北西隅近くのピットは、貯蔵穴であろう。平面形は卵形、あるいは楕円形で、底面はほぼ平坦に掘り上げられており、たらいのような断面形である。長径51cm、短径40cm、深さは18cmである。

カマドは、西壁の南西隅にやや寄った位置に設けられている。半島状に突き出た両袖に挟まれた楕円形の燃焼部が残存する。燃焼面は、床面とほぼ同じ高さである。袖端を端と見るなら、燃焼部の長さは77cm、横幅は47cmである。側壁、奥壁の上部、燃焼面の極一部は、被熱赤化している。

覆土は、暗褐色土、明褐色土からなる16層に分けられた。カマド側から漸次埋まり、埋められていたのであろうか、東西方向の断面A-A'では、いわゆる刺身状の土層の重なりが明瞭にみとめら



第163図 第86号住居跡平面・断面図（2）



第164図 第86号住居跡出土遺物

第72表 第86号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	須恵器 高台付 埴	口径 (12.4) 底径 5.7 器高 4.1	高台はハの字形を呈する。体部は直線的に開き、口縁部は強く外反する。ロクロ成形。	外面—ロクロナデ。底部回転糸切り。高台貼付時周縁ナデ。内面—ロクロナデ。	白色粒 内外—灰黄色	1/2残存 還元焰焼成
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
2	石製品 白玉	長さ1.3、幅1.3、孔径0.3×0.3、厚さ0.45、重さ1.04g。石材：滑石。調整：全体的に研磨。				ほぼ完形
3	土錘	長さ6.5、幅1.55、厚さ1.3、重さ14.08g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい黄橙色。				完形
4	土錘	長さ[6.0]、幅1.3、厚さ1.25、重さ[9.45]g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい橙色。				端部欠損
5	土錘	長さ5.7、幅1.3、厚さ1.2、重さ9.46g。胎土：白色粒。色調：明赤褐色。				完形
6	土錘	長さ5.45、幅1.35、厚さ1.2、重さ8.01g。胎土：白色粒。色調：灰褐色。				完形
7	土錘	長さ5.45、幅1.4、厚さ1.22、重さ8.08g。胎土：白色粒。色調：にぶい赤褐色。				完形
8	土錘	長さ4.6、幅1.25、厚さ1.2、重さ6.37g。胎土：白色粒。色調：橙色。				完形
9	土錘	長さ4.5、幅1.35、厚さ1.3、重さ7.33g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：橙色。				完形
10	土錘	長さ4.2、幅1.2、厚さ1.2、重さ5.65g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：灰黄褐色。				完形
11	土錘	長さ4.3、幅1.15、厚さ1.05、重さ4.90g。胎土：白色粒。色調：橙色。				完形
12	土錘	長さ[4.15]、幅1.1、厚さ1.0、重さ[4.25]g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい橙色。				端部欠損
13	土錘	長さ3.8、幅1.2、厚さ1.2、重さ4.82g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい橙色。				完形
14	土錘	長さ3.5、幅1.2、厚さ1.15、重さ4.68g。胎土：白色粒・褐色粒。色調：橙色。				ほぼ完形
15	砥石	長さ8.6、幅5.7、厚さ6.1、重さ285.40g。石材：流紋岩。調整：4面使用。				一部欠損
16	砥石	長さ[7.85]、幅[5.95]、厚さ4.2、重さ[278.94]g。石材：流紋岩。調整：4面使用。				上下端部欠損

れる。

重複関係、出土遺物から見て、平安時代前期末から中期初頭にかけての遺構である可能性が考えられる。

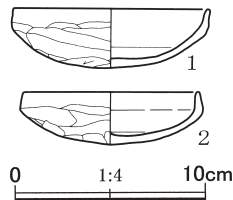
C地点

第87号住居跡（第165・166図、第73表、図版21・127）

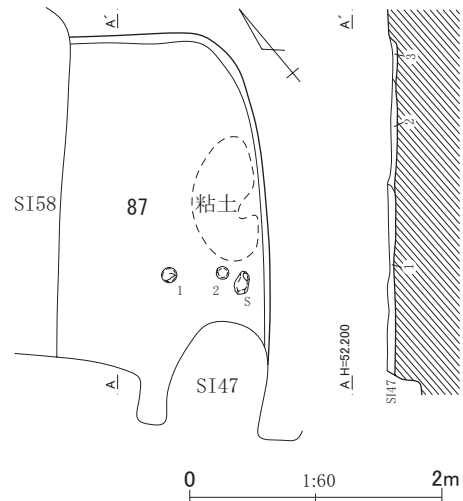
調査地点の南西部の中央、南縁寄り、O12グリッドに位置し、J群に含まれる住居跡である。第58号住居跡に切られ、遺構の大半を壊され、東隅周辺のみわずかに残存する。また、第47号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム上面である。

規模は、いずれも現存値ということになるが、北東-南西方向で2.62m、北西-南東方向で1.64m、南東壁の方向は、N-39°-Eあたりになるようである。床面は壁際を除いて硬化しており、全体に凸凹している。壁高は、北東壁で5cm前後である。

南東壁沿いの覆土上層から、小塊状をなした粘土がまとまって出土している。粘土は、火を受けているようにも見え、あるいはカマドの廃材のようなものなのかもしれない。粘土の分布範囲の南西脇で、第166図1・2の2個体の坏が出土している。いずれも床面よりかなり高い位置である。



第165図 第87号住居跡出土遺物



第87号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。粘土粒(～0.5mm)を中量含み、焼土粒(～4mm)を微量含む。粘性はやや強い。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～0.5mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)を少量含む。

第166図 第87号住居跡平面・断面図

重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末期中葉の遺構と考えられる。

第73表 第87号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 10.5 底径 — 器高 3.3	丸底。体部は浅く、口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面-口縁部～体部上半ヨコナデ。体部下半～底部ヘラナデ。	白色粒・角閃石・礫 内外-橙色	完形
2	坏	口径 9.6 底径 — 器高 2.9	丸底。体部は浅く、口縁部は内傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面-口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・角閃石 外-にぶい黄橙色 内-橙色	ほぼ完形

第88号住居跡（第167図）

調査地点の南縁沿い中央、西寄り、O13・14、P13・14グリッドに位置し、I群に含まれる住居跡である。第155号住居跡を切っており、第56・61・83号住居跡、第270号土坑に切られている。第146・263号住居跡と重なる位置にあるが、他の遺構が介在し、直接の切り合い関係にはない。また、第160号住居跡と重複する。なお、南西付近から南壁にかけての大半は、調査範囲外である。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、方形と見ることができる。規模は、最も残りのよい部分での計測値になるが、南北方向で4.68m、東西方向で5.19mである。南北方向での中軸線は、おおよそN-10°-Wあたりを指すようである。床面には、凹凸が顕著である。壁高は、西壁で2cm、東壁で5cmである。

覆土は、暗褐色土を主とする4層に分けられた。全体にロームや粘土の混入が目立つようである。

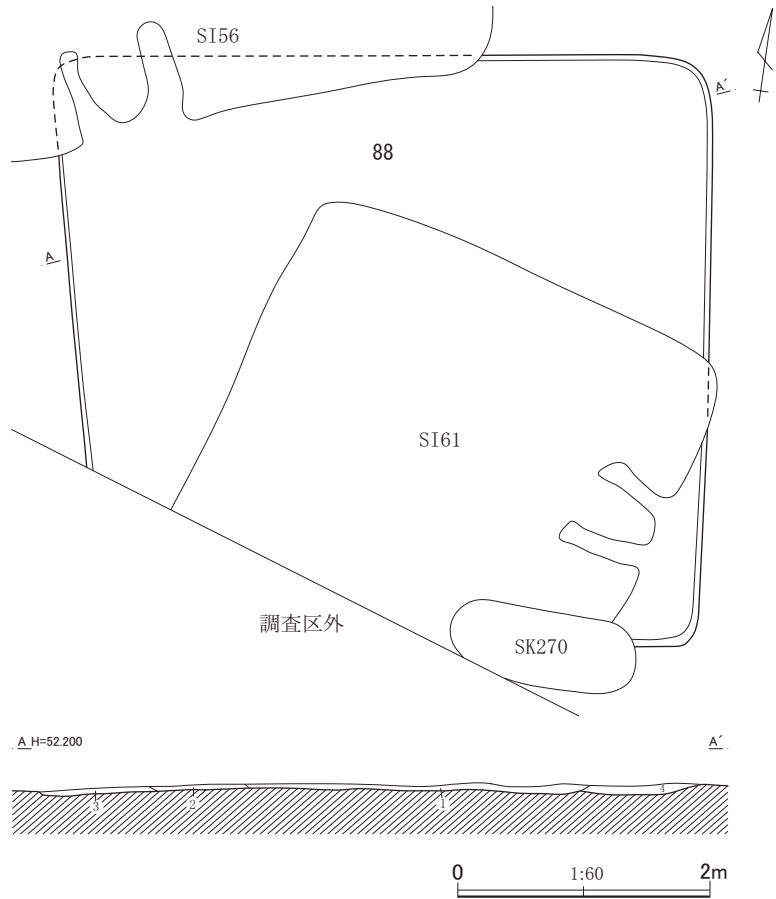
土師器片を主とする遺物が、覆土中から少量出土している。重複関係から見て、古墳時代後期初頭あるいは前葉以前の遺構である可能性が考えられる。

第89号住居跡（第168～170図、第74表、図版21・127）

調査地点の中央の南西寄り、O11、P11グリッドに位置し、E群に含まれる住居跡である。第80・124号住居跡を切っており、第48号住居跡、第285・286号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。第123号住居跡とも重複するが、新旧関係は確定できなかった。第51・64・69・120号住居跡と重複するが、これらの住居跡の床面は、本住居跡の床面よりも上位にあり、直接本遺構の床面を壊していない。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、胴の張る方形と見られる。規模は、主軸方向で4.97m、副軸方向で5.31mである。主軸方位は、N-27°-Wである。床面はほぼ平坦で、主に支柱穴を結ぶ範囲内が硬化している。壁高は、北西壁で25cm、北東壁で37cm、南西壁で14cm、南東壁で15cmである。

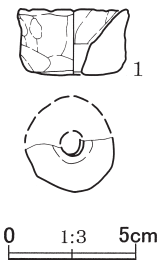
P1～P3は、支柱穴であろう。平面形は、やや不整な円形、楕円形で、深さはP1が48cm、P2が56cm、P3が57cmである。呼称を与えていないが、P



第88号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)・粘土粒(～0.5mm)を少量含む。
- 第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を少量含み、粘土粒(～0.5mm)を多量に含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を微量含む。

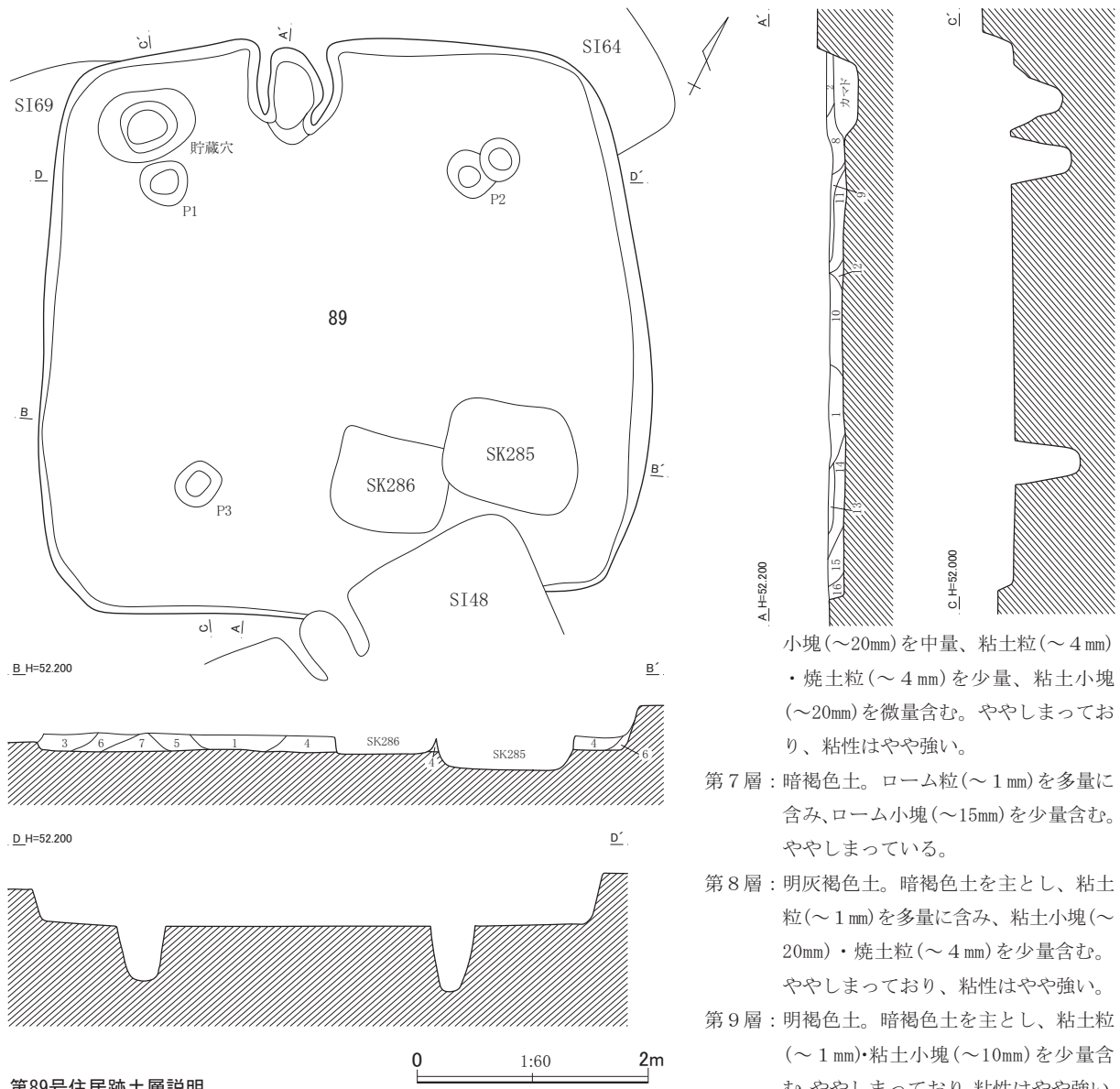
第167図 第88号住居跡平面・断面図



第168図 第89号住居跡出土遺物

第74表 第89号住居跡出土遺物観察表

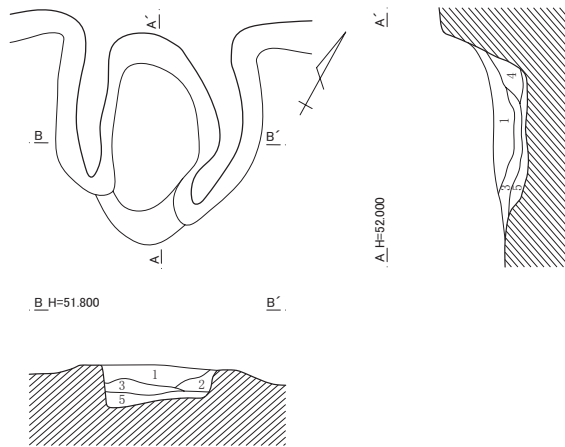
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	手捏ね土器	口径 (4.4) 底径 (3.5) 器高 2.7	口縁部は不整形。底部は平底で厚く、孔径(1.0)cmの円孔が開く。手捏ね成形。	外面-口縁部～底部ナデ。口縁部指頭圧痕。内面-口縁部～底部ナデ。	白色粒・石英 外-橙色 内-にぶい褐色	1/2残存



第89号住居跡土層説明

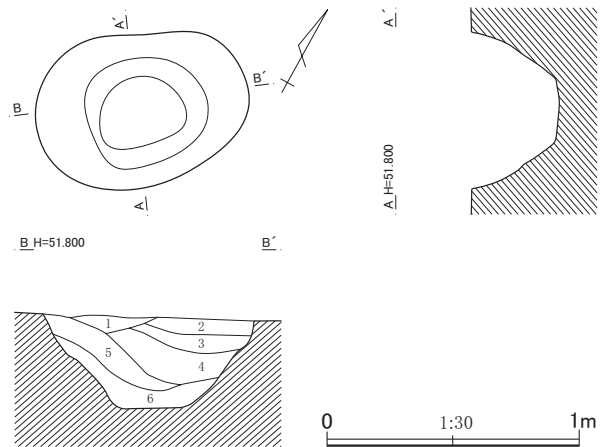
- 第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)を多量に含み、ローム小塊(～15mm)を中量、焼土粒(～1mm)を少量含む。ややしまっている。
- 第2層：明灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～4mm)を中量含み、粘土小塊(～10mm)・焼土粒(～4mm)を少量、焼土小塊(～15mm)を微量含む。ややしまっており、粘性はやや強い。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・ローム小塊(～20mm)・焼土粒(～4mm)・焼土小塊(～15mm)を少量含み、炭化物粒(～1mm)を微量含む。ややしまっている。
- 第4層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～8mm)を多量に含み、ローム小塊(～20mm)・炭化物粒(～1mm)を中量含む。
- 第5層：暗褐色土。ローム粒(～8mm)を少量含み、ローム小塊(～20mm)・焼土粒(～4mm)を微量含む。
- 第6層：明褐色土。ローム粒(～8mm)を多量に含み、ローム小塊(～20mm)を中量、粘土粒(～4mm)を少量、焼土粒(～4mm)を少量、粘土小塊(～20mm)を微量含む。ややしまっており、粘性はやや強い。
- 第7層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を多量に含み、ローム小塊(～15mm)を少量含む。ややしまっている。
- 第8層：明灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～1mm)を多量に含み、粘土小塊(～20mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。ややしまっており、粘性はやや強い。
- 第9層：明褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～1mm)・粘土小塊(～10mm)を少量含む。ややしまっており、粘性はやや強い。
- 第10層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～0.5mm)を中量含み、ローム小塊(～40mm)を少量含む。ややしまっている。
- 第11層：明褐色土。ローム土を主とし、暗褐色土粒子(～4mm)を中量含み、粘土粒(～1mm)を少量、粘土小塊(～15mm)を微量含む。ややしまっており、粘性はやや強い。
- 第12層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を微量含む。ややしまっている。
- 第13層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を少量含み、焼土粒(～1mm)を微量含む。ややしまっている。
- 第14層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)・ローム小塊(～30mm)を少量含む。ややしまっている。
- 第15層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～40mm)・焼土粒(～8mm)を少量含む。ややしまっている。
- 第16層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を少量含み、ローム小塊(～15mm)を微量含む。ややしまっている。

第169図 第89号住居跡平面・断面図(1)



第89号住居跡カマド土層説明

- 第1層：赤褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～5mm)を少量含み、焼土小塊(～10mm)を中量、焼土粒(～2mm)を多量に含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・粘土粒(～1mm)・粘土小塊(～10mm)を少量含み、焼土粒(～2mm)を中量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含み、ローム粒(～5mm)を中量含む。
- 第5層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・炭化物粒(～1mm)を少量含み、焼土粒(～2mm)を中量含む。



第89号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含み、ローム粒(～8mm)・炭化物粒(～4mm)を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・炭化物粒(～8mm)を少量含み、ローム小塊(～20mm)を微量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・ローム小塊(～10mm)を微量含む。
- 第4層：明褐色土。ローム粒(～8mm)を多量に含み、ローム小塊(～40mm)を中量、炭化物粒(～8mm)を少量含む。
- 第5層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～10mm)を中量含む。
- 第6層：明褐色土。ローム粒(～8mm)を多量に含み、ローム小塊(～40mm)を中量、炭化物粒(～8mm)を少量含む。

第170図 第89号住居跡平面・断面図(2)

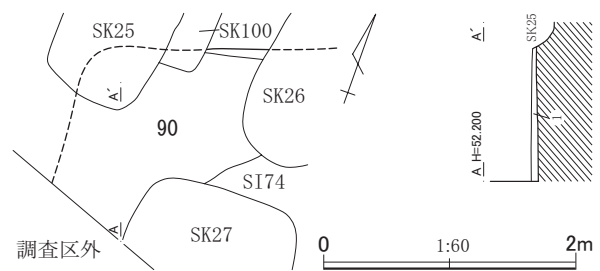
2に接して、同じような大きさ、深さのピットを検出している。P2に関しては、柱の付け替えが行なわれた模様である。西隅とP1の間のピットは、貯蔵穴であろう。平面形は、歪な楕円形で、長径は85cm、短径は61cm、深さは35cmである。

覆土は、主に暗褐色土からなる16層に分けられた。全体にローム小塊、粘土小塊や焼土、炭化物の混入が目立ち、種々の土が乱れ入るような堆積状態であった。

土師器片を主とする遺物が、覆土中から出土している。重複関係から見て、古墳時代中期後葉以降、古墳時代後期後葉前半以前の遺構と考えられる。

第90号住居跡(第171図)

調査地点の南西隅近くの南縁沿い、M13グリッドに位置し、J群に含まれる住居跡である。第91号住居跡を切っているらしく、第74号住居跡、第25～27・100号土坑に切られ、遺構の一部を壊されて



第90号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を中量含む。

第171図 第90号住居跡平面・断面図

C地点

いる。なお、住居跡の南側部分は、調査範囲外である。確認面は、黄褐色のローム上面である。

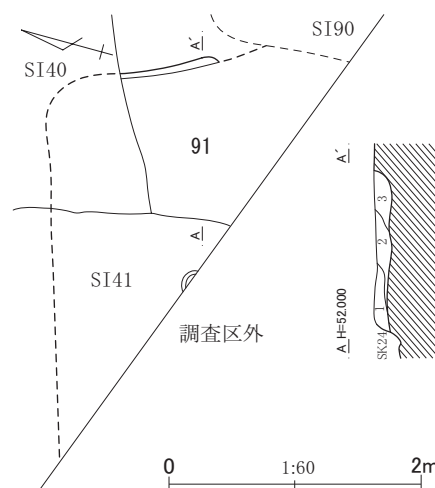
北壁の極一部とほんのわずかな範囲の床面のみ残る住居跡である。床面はほぼ平坦で、部分的に硬化している。土師器片を主とする遺物が、覆土中から少量出土している。重複関係から見て、古墳時代後期後葉後半以前の遺構の可能性はある。

第91号住居跡（第172図）

調査地点の南西隅近くの南縁沿い、L13、M13グリッドに位置し、J群に含まれる住居跡である。第40・41・90号住居跡、第24・25・100号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。住居跡の南側部分は、調査範囲外である。確認面は、黄褐色のローム上面である。

東壁の極一部とわずかな範囲の床面のみ残る住居跡である。床面は凹凸があり、部分的に硬化している。土師器片を主とする遺物が、覆土中から少量出土している。

重複関係からは、古墳時代後期後葉後半以前の遺構ということまでしか判らない。



第91号住居跡土層説明

第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～4mm）を少量含み、ローム小塊（～20mm）を微量含む。

第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～0.5mm）を多量に含み、ローム小塊（～10mm）を少量含む。

第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～6mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）を少量含む。

第172図 第91号住居跡平面・断面図

第92号住居跡（第173・174図、図版22）

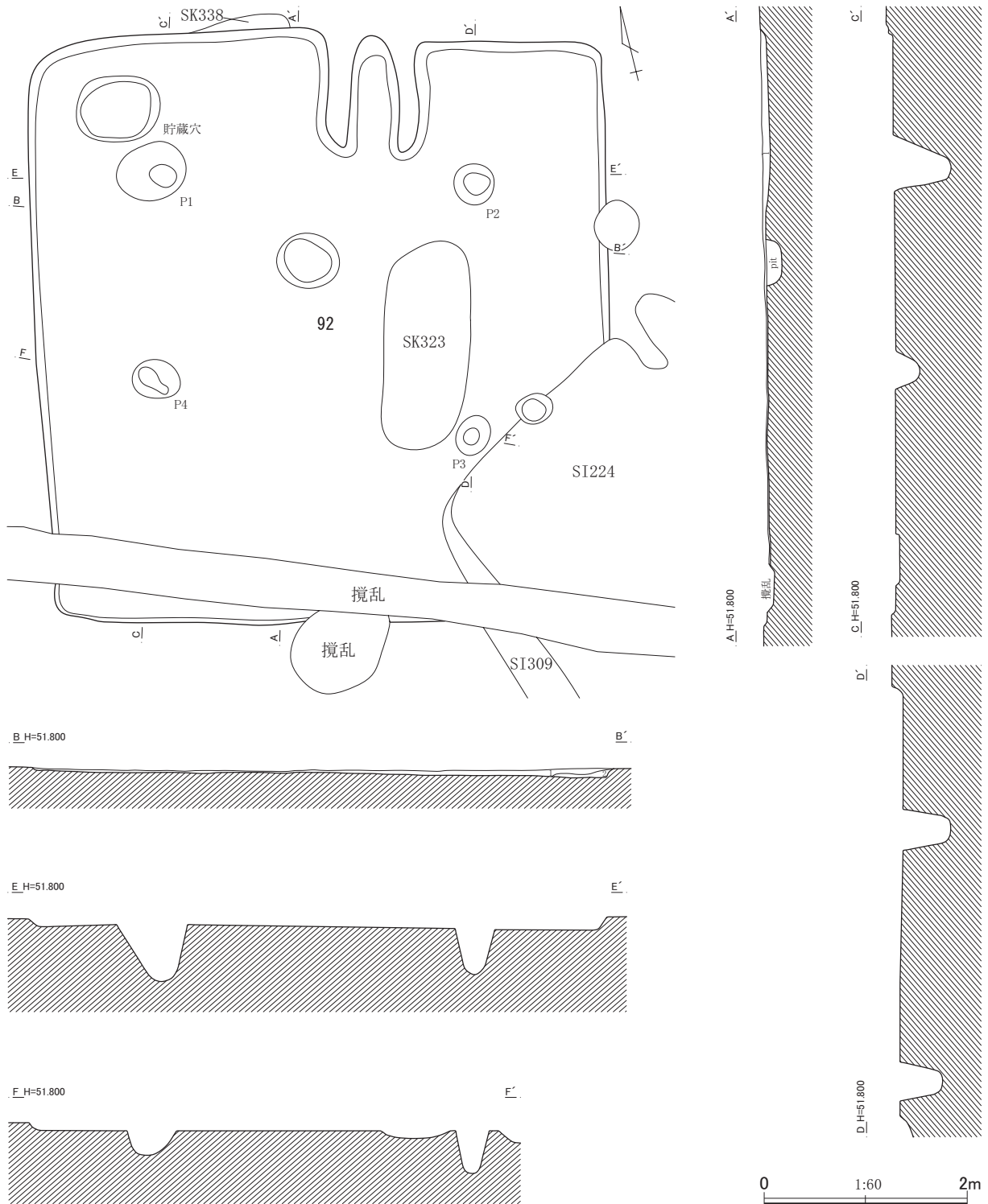
調査地点の北西部の中央、南寄り、O9・10、P9・10グリッドに位置し、D群に含まれる住居跡である。第99・309号住居跡を切っており、第224号住居跡に南東隅周辺を壊されている。また、第323・338号土坑および溝状の攪乱と重複し、遺構の一部を壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は方形である。規模は、主軸方向で5.84m、副軸方向で5.68m、主軸方位はN-14°-Eである。床面は、支柱穴を結ぶ範囲内からカマド前面にかけて硬化している。壁はわずかに残るのみで、最も残りのよい東壁でも壁高は7cmほどしかない。

P1～P4は支柱穴である。平面形は、楕円形、円形で、深さは、P1が56cm、P2が46cm、P3が42cm、P4が23cmである。貯蔵穴は北西隅近くで検出した。平面形は楕円形で、長径82cm、短径65cmである。底面の中央がピット状に深くなっており、最深部での深さは24cmである。

カマドは、北壁の中央、わずかに東に寄った位置に設けられている。細長く伸びた両袖に挟まれた、縦長の燃焼部が残存する。燃焼面は床面よりも微妙にくぼんでいる。袖端を焚口の前端と見るなら、燃焼部の長さは121cm、横幅は48cmである。燃焼部の被熱赤化は顕著ではない。カマド覆土の第2層は、天井部などの崩落土からなる焼土層である。

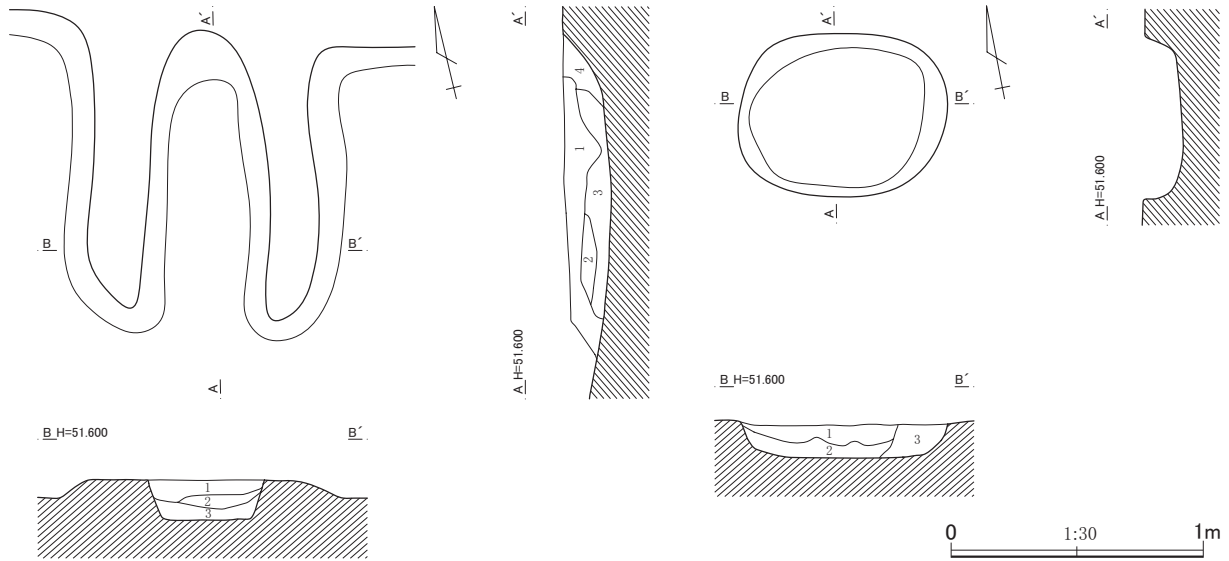
土師器片を主とする遺物が、覆土中から少量出土している。重複関係から見て、古墳時代中期中葉以後の遺構であろう。



第92号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～15mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)を少量含む。
 第2層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を少量含む。

第173図 第92号住居跡平面・断面図(1)



第92号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒（～10mm）を少量含み、焼土粒（～10mm）を中量含む。
- 第2層：赤褐色土。焼土層。天井部の崩落土。ややしまっている。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒（～10mm）・焼土粒（～8mm）を少量含む。
- 第4層：暗褐色土。暗褐色土とローム土との混交土。

第92号住居跡貯蔵穴土層説明

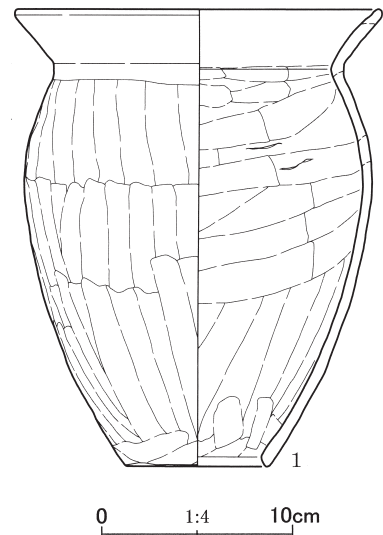
- 第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊（～50mm）を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム小塊（～50mm）・小礫を少量含む。
- 第3層：黄褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊（～30mm）を多量に含む。

第174図 第92号住居跡平面・断面図（2）

第93号住居跡（第175・176図、第75表、図版22・127）

調査地点の西半中央の西寄り、O10グリッドに位置し、E群に含まれる住居跡である。第38・39・50・66・72号住居跡、第111・225・230号土坑に切られ、遺構の大半を失っており、残存するのは、北東隅の周辺とその南側に飛び地のように残されたわずかな範囲の床面と支柱穴と推定されるピット3個のみである。なお、第98号住居跡を切っているようである。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、支柱穴の並びをも考慮するなら、長方形に近い縦長の形態になりそうである。最も残りのよい部分で計測した規模は、南北方向で1.56m、東西方向で2.14mであるが、支柱穴の配置から見て、本来は、南北方向5.5m余、東西方向4m弱ほどの住居跡と推



第175図 第93号住居跡出土遺物

第75表 第93号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甗	口径 (19.8) 底径 (7.6) 器高 25.2	口縁部は外傾する。胴部は上位に膨らみをもつ。底部は筒抜け。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ、端部ナデ。	白色粒・黒色粒・石英 内外－橙色	1/2残存



第93号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)を少量含む。
 第2層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を少量含む。

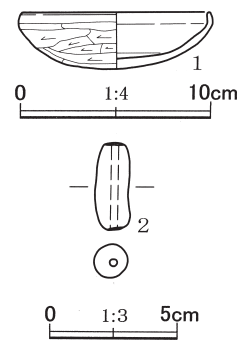
第176図 第93号住居跡平面・断面図(2)

定できる。残存する東壁の向きは、おおよそN-16°-E前後である。床面はほぼ平坦であるが、硬化は顕著ではない。北壁、東壁の壁高は、10cm前後である。

覆土中から土師器片を主とする遺物が少量出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代中期後葉の遺構である。

第94号住居跡(第177・178図、第76表、図版127)

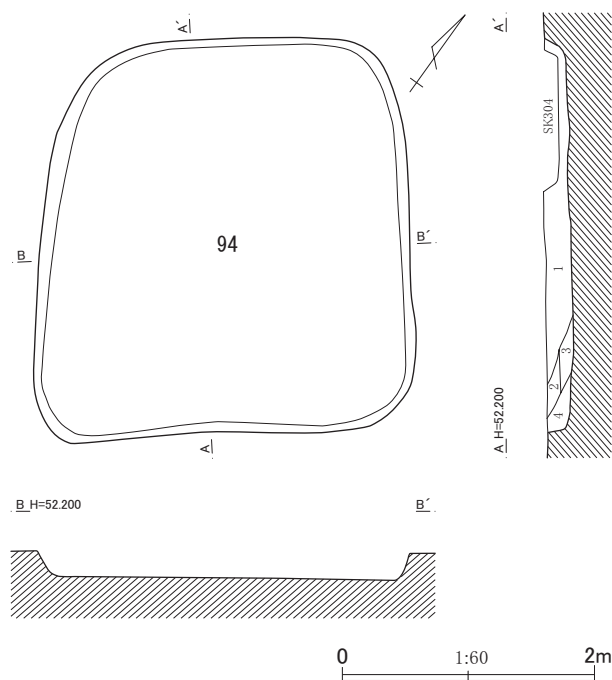
調査地点の中央の南西寄り、P12、Q12グリッドに位置し、F群に含まれる住居跡である。第103・119号住居跡を切って造られた小型の住居跡である。確認面は、黄褐色のローム層上面である。



第177図 第94号住居跡出土遺物

第76表 第94号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 10.2 底径 — 器高 3.1	丸底。体部は浅く、口縁部は短く内屈する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面-口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外-橙色	ほぼ完形
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
2	土錘	長さ3.6、幅1.4、厚さ1.4、重さ8.20g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい黄橙色。				完形



第94号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～10mm)・焼土小塊(～20mm)を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～20mm)・ローム小塊(～20mm)を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)を少量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)を少量含む。

第178図 第94号住居跡平面・断面図

平面形は、北西壁に比し南東壁がやや長い隅丸方形である。規模は、北西－南東軸方向で3.14m、北東－南西軸方向で2.93mである。北西－南東方向での中軸線は、N-34°-Wである。壁の立ち上がりは比較的急峻であり、壁高は、北西壁で17cm、北東壁で21cm、南西壁で20cm、南東壁で14cmである。覆土は、第1～4層の4層に分けられた。総じて暗褐色土を主とし、ロームの多寡により分けられた。

覆土中から土師器片を主とする遺物が少量出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末期中葉から後葉にかけての遺構と考えられる。

第95号住居跡 (第179・180図、第77表、図版22・127)

調査地点の南西部の中央、西縁寄り、N10・11、O10・11グリッドに位置し、E群に含まれる住居跡である。床面のわずかな範囲、南壁の50cmほどの範囲と伴う可能性のある3個の支柱穴のみから推定される住居跡である。第43・70・72・84・96号住居跡、第95・113・117・141・186・188・194・197号土坑に切られているが、これらの遺構は、直接本住居跡を切る遺構であり、遺構の推定範囲によっては、より多くの遺構と重複するものと思われる。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は不明であるが、支柱穴の配置から見て、南北方向に長い形態と考えられる。北壁側にカマドがあったとすれば、主軸方位は、やや西に振れた南北方向を指すと見られる。中央付近と見られる残存する床面は、明瞭に硬化している。南壁の残存する壁の壁高は、19cm前後である。

P1～P3は、支柱穴と推定されるピットである。いずれも平面形は、円形、楕円形で、残存する部分の深さは、P1が50cm、P2が37cm、P3が56cmである。

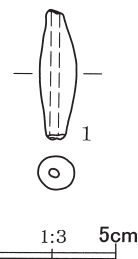
土師器片を主とする遺物が覆土中より微量出土している。重複関係から見て、古墳時代後期初頭以前の遺構である可能性が考えられる。



第179図 第95号住居跡平面・断面図

第96号住居跡 (第180・181図、第77表、図版22・127)

調査地点の西縁近くのはぼ中央、N10、O10グリッドに位置し、E群に含まれる住居跡である。第43・72号住居跡、第69・87・95・113・117・164・166・188・197号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。また、残存する壁と主柱穴と考えられるピットなどから推定される全形からするなら、第66号住居跡、第141・186・193・196・287号土坑と重複する可能性がある。確認面は、黄褐色のローム層上面である。



第180図 第95・96号住居跡出土遺物

第77表 第95・96号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
1	土錘	長さ5.3、幅1.5、厚さ1.4、重さ10.33g。胎土：白色粒・角閃石。色調：灰黄褐色。	完形



第181図 第96号住居跡平面・断面図

主柱穴と思しきピットの配置から見るなら、平面形は、北東—南西方向に長い形態になりそうである。さらに推定を重ねれば、北東—南西方向で6 m余、北西—南東方向で4 m余の規模に復元できそうである。

残存する部分はほんのわずかではあるが、床面はおおむね平坦で、中央は硬化が顕著である。北西壁の残存部分での壁高は、23cmである。

土師器片を主とする遺物が、覆土中から少量出土している。重複関係から見て、古墳時代後期中葉以前の遺構である可能性が考えられる。

第97号住居跡 (第182図、図版22)

調査地点の南西部のほぼ中央、O 10・11グリッドに位置し、E群に含まれる住居跡である。第81号住居跡、第190・208・209・213・215・216・261・296・305号土坑に切られ、遺構の一部を壊されており、西壁のわずかな範囲と南壁の一部のみ残存する遺構である。なお、第122号住居跡を切るが、床面に高さの差があるため、直接床面を壊してはいない。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

規模は、いずれも推定辺長になるが、南北方向で4.15m、東西で4.24mである。床面は、中央に近い部分のみ硬化している。南壁は、比較的ゆるやかに立ち上がり、壁高も5cmほどである。

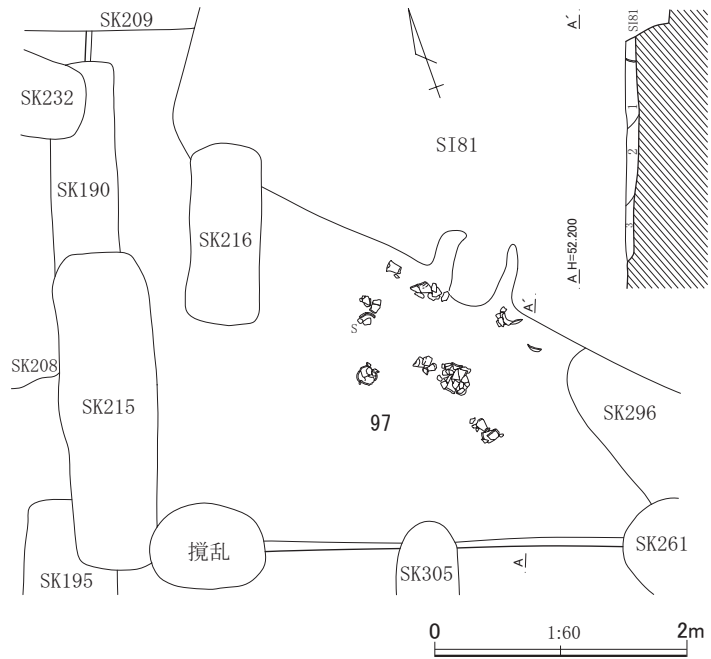
残存する床面の中央東寄りの下層～床面から、土師器の甕胴部片や高坏脚部片が所々まとまりをなし出土している。図化していないが、高坏脚部片の形態から見るなら、古墳時代中期後葉あたりの遺構である可能性が考えられる。

第98号住居跡 (第183図、図版22)

調査地点の西半の中央、やや西寄り、O10グリッドに位置し、E群に含まれる住居跡である。第121号住居跡を切っており、第50号住居跡、第230・265・272～274号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。また、第93号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、残存する南西隅、西壁と北壁の位置、貯蔵穴の配置から見て、正方形に近い形態と推定できる。いずれも推定復元になるが、規模は、主軸方向、副軸方向ともに5m前後、主軸方向の方がいくらか長くなりそうである。主軸方位もやはり推定でS-71°-Wあたりになると思われる。床面は部分的に硬化している。残存部分での壁は、比較的急峻に立ち上がるようである。西壁の壁高は、29cmである。

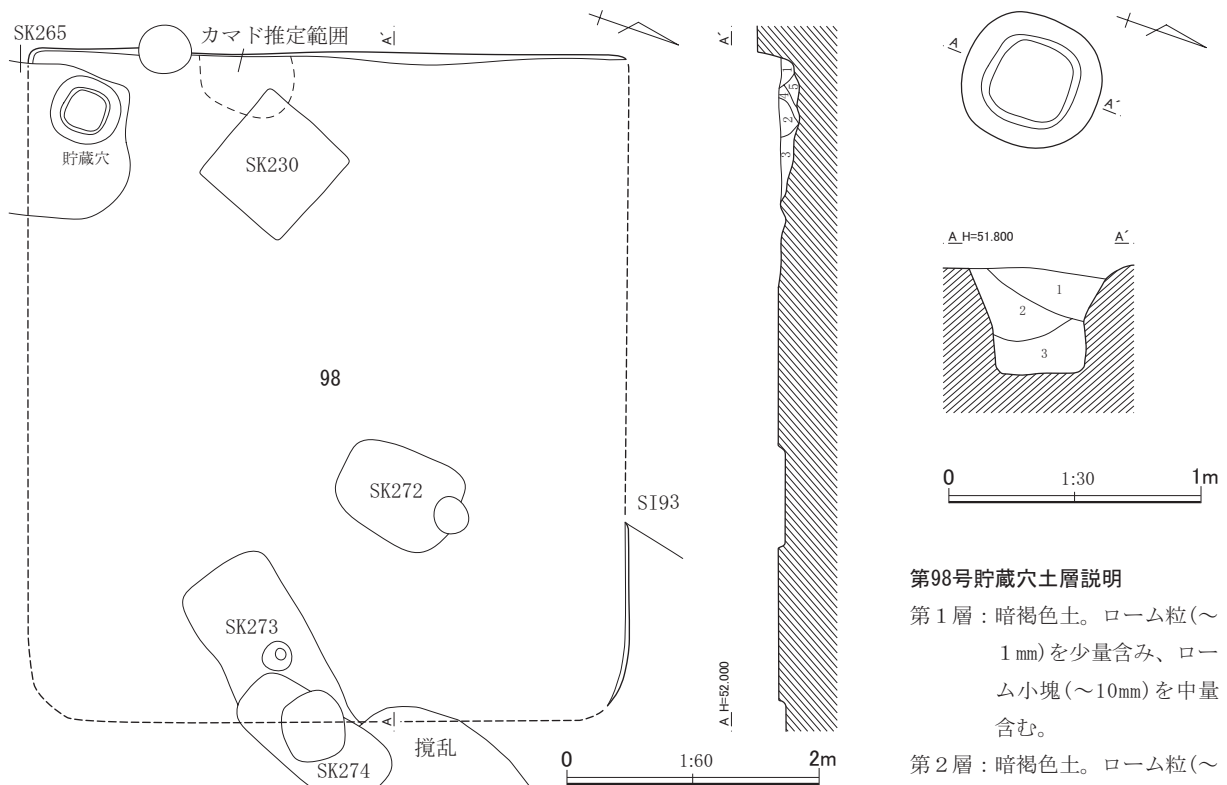
南西隅近くの、第265号土坑に切られたピットは、貯蔵穴であろう。上端での平面形は、やや不整



第97号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を少量含み、焼土粒(～4mm)を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を中量含み、ローム小塊(～15mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。
- 第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～0.5mm)を多量に含み、ローム粒(～6mm)を少量含む。

第182図 第97号住居跡平面・断面図



第98号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～3mm)を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～8mm)・ローム小塊(～20mm)を微量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～10mm)を少量含む。
- 第5層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含む、ローム小塊(～20mm)を微量含む。

第98号貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含む、ローム小塊(～10mm)を中量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～30mm)を微量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)を少量含む、ローム小塊(～20mm)を微量含む。

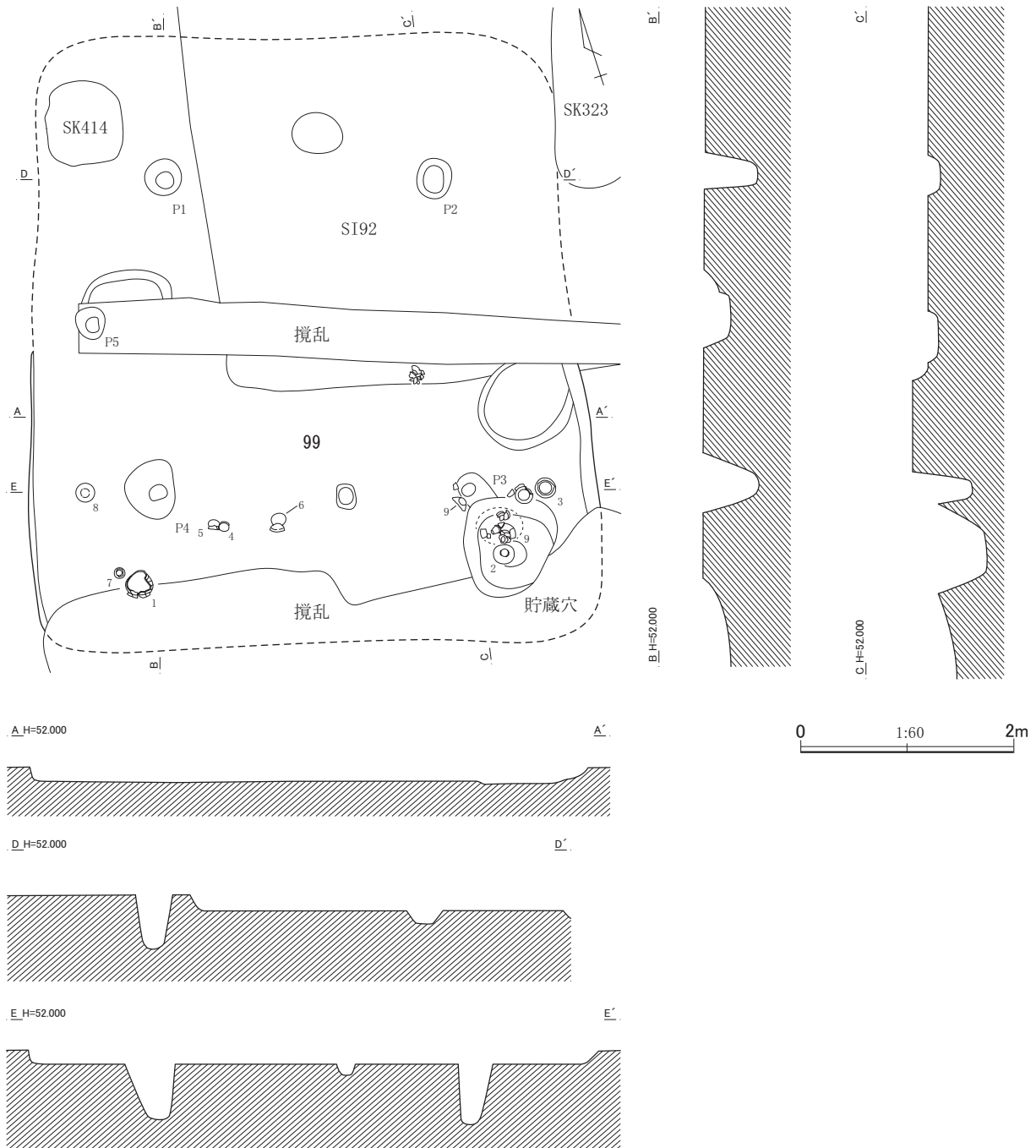
第183図 第98号住居跡平面・断面図

な円形であるが、底面はやや角張っており、方形に近い。南北方向での長さは52cm、東西方向での長さは51cm、深さは43cmである。カマドは、西壁の著しく南西隅に偏した位置にあったようであるが、焼土が痕跡として残るのみである。覆土の断面観察ができたのは、西壁沿いの一角で、5層に分けられた。暗褐色土を主とし、ロームの多寡により分層できた。

覆土中から土師器片を主とする遺物が少量出土しているのみである。重複関係から見ると、古墳時代後期後葉前半頃の遺構である可能性が考えられる。

第99号住居跡 (第184～186図、第78表、図版22・127)

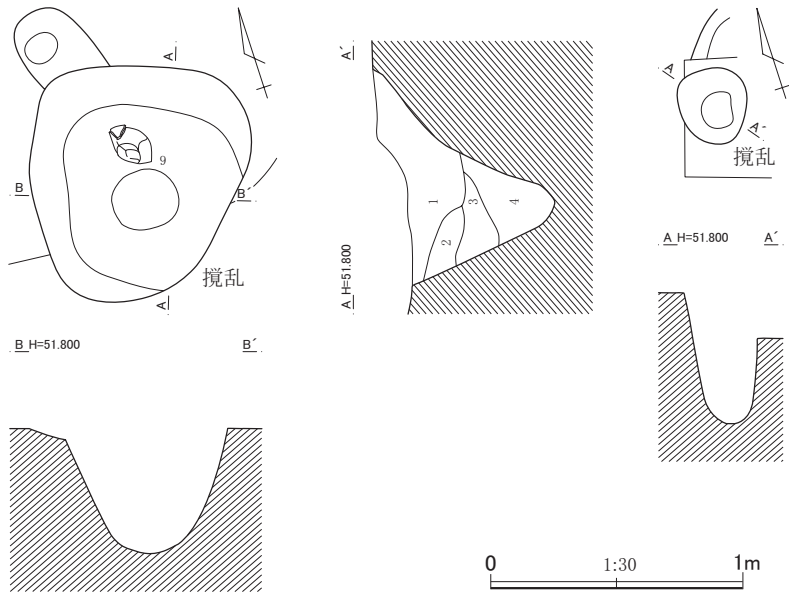
調査地点の西半のほぼ中央、O9・10、P9・10グリッドに位置し、D群に含まれる住居跡である。第92号住居跡に切られており、南壁は、攪乱により壊されている。推定復元した遺構北半の輪郭線が妥当であるなら、第323・414号土坑と重複することになる。確認面は、黄褐色のローム層上面である。平面形は不明であるが、残存する壁、支柱穴の配置から見て、南北にやや長い長方形、隅丸長方形と推定できる。東西方向での残存する壁間の長さは、5.30mである。一応主軸方位は、南北方向に近いものとなる可能性があると考えられる。残存する床面の中央付近を中心に、床面は、軽微ながら硬化しているようである。壁高は、東壁で10cm、西壁で12cmである。



第184図 第99号住居跡平面・断面図(1)

P 1 ~ P 4 は、支柱穴であろう。いずれも平面形は、やや不整な円形、楕円形で、残存する部分の深さは、P 1・P 3 が51cm、P 2 が12cm、P 4 が56cmである。P5は、西壁脇の中央に位置するピットである。上端での平面形は、やや歪な円形で、床面からの深さは、33cmである。攪乱により壊された南東隅近くのピットは、貯蔵穴であろうか。平面形はやや角張った円形に近く、南北方向での径は93cm、東西方向での径は87cmである。丸く深くなっている底面中央に向かって凸凹しながら掘り込まれており、最深部で深さは122cmである。貯蔵穴の覆土は、暗褐色土を主に、ロームや粘土粒子、粘土小塊、炭化物粒子を不規則に含む、埋め戻されたかとも見える土である。

第186図1の甕、4の中型壺、5・6の小型の直口壺、8の鉢は、残存する床面南半から南西隅に



第99号貯蔵穴土層説明

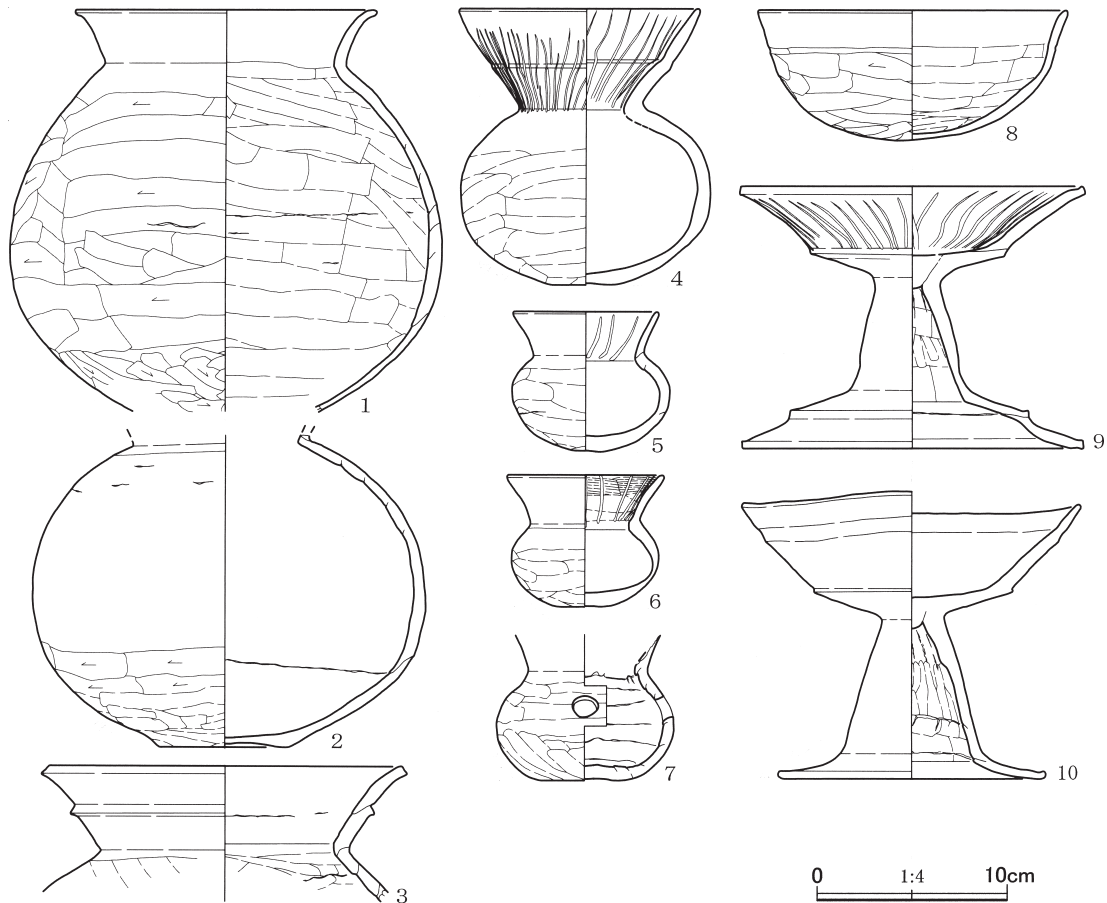
第1層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を中量含み、粘土粒(～4mm)・粘土小塊(～15mm)を少量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を少量含み、ローム粒(～0.5mm)・粘土粒(～1mm)を中量含む。

第3層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・炭化物粒(～1mm)を少量含み、粘土粒(～4mm)・粘土小塊(～10mm)を中量含む。

第4層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含む。

第185図 第99号住居跡平面・断面図(2)



第186図 第99号住居跡出土遺物

かけての覆土下層から床面直上で出土している。2・3の壺、9の有段高坏は、貯蔵穴の上部の住居跡覆土中から出土しているが、9の破片の一部は、貯蔵穴内からも出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代中期後葉の遺構と考えられる。

第78表 第99号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 16.5 底径 — 器高 [22.1]	口縁部は外傾し、端部で短く外反する。胴部は中位が大きく張る。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・赤褐色粒・石英 内外—ぶい黄橙色	胴部1/2、底部欠損
2	壺	口径 — 底径 7.1 器高 [17.2]	胴部は中位が大きく張る。底部は平底で上げ底。粘土紐積み上げによる成形。	外面—胴部上半ナデ、下半ヘラケズリ後下位ヘラナデ。底部ヘラケズリ。内面—胴部ヘラナデ。	雲母・白色粒・石英 内外—橙色	口縁部欠損
3	壺	口径 19.4 底径 — 器高 [7.4]	口縁部は外反し、中位に段を有する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・石英 内外—橙色	口縁部
4	壺	口径 (13.2) 底径 3.5 器高 15.2	口縁部は内彎気味に外傾し、段を有する。体部は張る。上げ底気味の平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ後放射状暗文。体部ヘラナデ。底部ナデ。内面—口縁部ヨコナデ後放射状暗文。体部～底部ナデ。	雲母・白色粒 外—橙色 内—明赤褐色	口縁部1/2欠損
5	壺	口径 7.9 底径 — 器高 7.7	口縁部は外傾する。体部は張る。丸底。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ後放射状暗文。体部～底部ナデ。	雲母・白色粒 内外—ぶい褐色	口縁部1/2欠損
6	壺	口径 8.5 底径 2.3 器高 7.3	口縁部は外反気味に開く。体部は張る。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。底部ナデ。内面—口縁部ヘラナデ後放射状暗文。体部～底部ナデ。	雲母・白色粒 内外—ぶい褐色	完形
7	甕	口径 — 底径 4.5 器高 [8.0]	口縁部は外傾する。体部は張り、上位に孔径1.1×1.45cmの円孔。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。底部ナデ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。輪積み痕明瞭。	金雲母・白色粒・褐色粒 外—浅黄橙色 内—ぶい黄橙色	口縁部欠損
8	鉢	口径 17.0 底径 — 器高 7.2	丸底。内彎する体部から、口縁部は外反気味に開く。体部との境に弱い凹線がめぐる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	雲母・石英・白色粒 内外—橙色	完形
9	高坏	口径 (18.8) 底径 (18.8) 器高 14.5	口縁部は坏部との境に稜をもち、外反して開く。脚部は中位にやや膨らみをもち、裾部は段を有する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ後放射状暗文。坏部～脚部ナデ。裾部ヨコナデ。内面—口縁部～坏部ヨコナデ後放射状暗文。脚部ヘラナデ、上位に絞り目。裾部ヨコナデ。	白色粒・褐色粒 内外—橙色	3/4残存
10	高坏	口径 18.5 底径 (14.4) 器高 14.8	口縁部は坏部との境に稜をもち、内彎気味に開き、弱い段を有する。脚部は下方へ開き、裾部は水平に近く開く。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。坏部～脚部ナデ。裾部ヨコナデ。内面—口縁部ヨコナデ。坏部磨滅。脚部ヘラナデ、上位に絞り目。裾部ヨコナデ。	石英・白色粒・褐色粒 内外—橙色	裾部2/3欠損

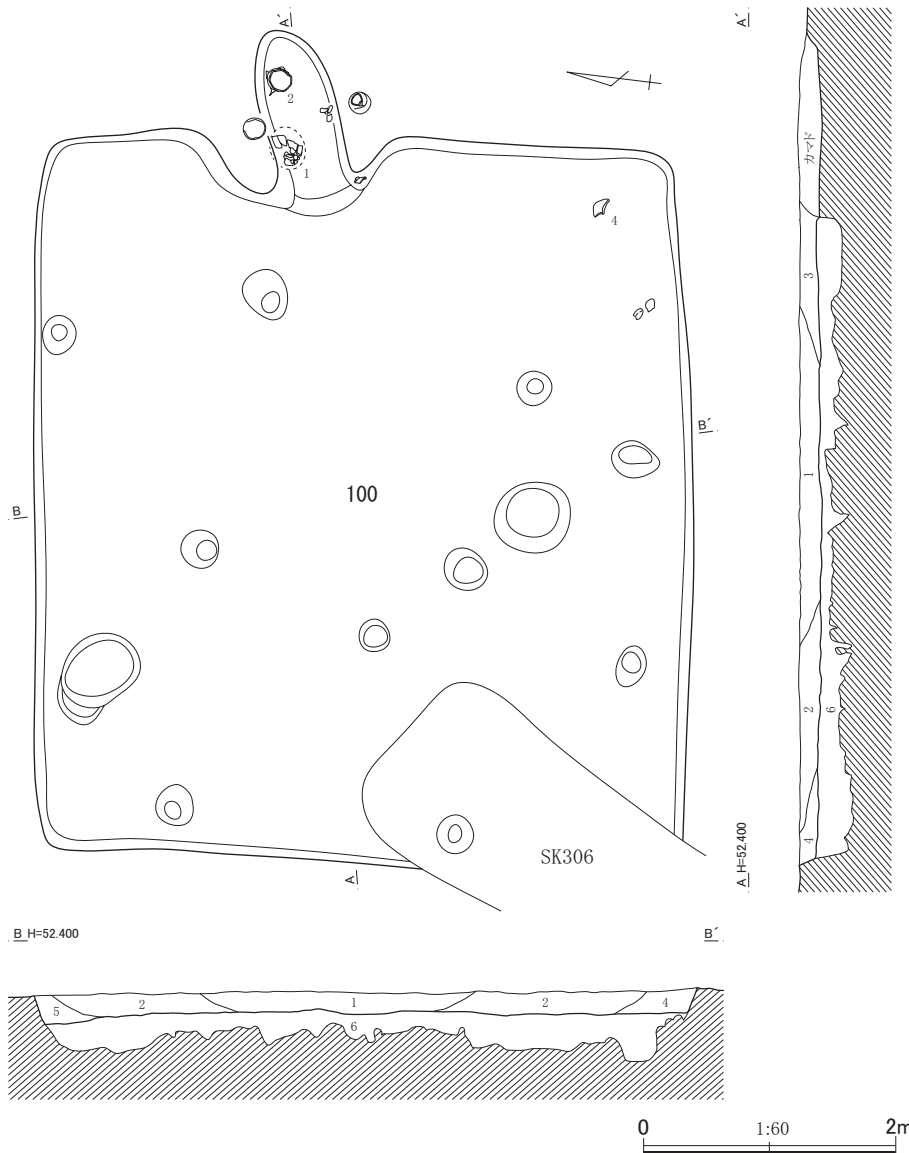
第100号住居跡（第187～189図、第79・80表、図版23・127）

調査地点の南縁近くの中央、P14、Q14グリッドに位置し、I群に含まれる住居跡である。第145・152・172・175・187・189・194・199号住居跡を切って造られている。第306号土坑に切られ、西壁から南西隅にかけての一角を壊されている。また、第144・158号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、長方形である。規模は、主軸方向で5.77m、副軸方向で5.23m、主軸方位は、N-83°-Eである。床面中央を中心に、軽微ではあるが、硬化している。壁の立ち上がり具合は、ややゆるやかな東壁以外は、比較的急峻で、壁高は、東・西壁で13cm、南壁で20cm、北壁で24cmである。

本住居跡に伴うと思われるピットを、床面および第306号土坑の底面で12個検出したが、位置的に見て、支柱穴や貯蔵穴などの通有の、あるいは定型的なピットは含まれないようである。

カマドは、東壁のやや北東隅寄りの位置に斜行して付設されている。短い両袖に挟まれた長楕円形の燃焼部が残存する。燃焼面は浅く掘りくぼめられ作出されており、袖の基部およびさらに奥まった位置に袖甕が倒置して埋設されている。燃焼部の長さは152cm、横幅は61cmである。側壁、奥壁の極



第100号住居跡土層説明

第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)・炭化物粒(～1mm)を微量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を少量含み、焼土粒(～2mm)を中量含む。

第3層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)・粘土粒(～4mm)・焼土粒(～4mm)を中量含み、粘土小塊(～10mm)を少量含む。

第4層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)・ローム小塊(～30mm)・焼土粒(～4mm)を中量含む。

第5層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を少量含む。

〈掘り方埋土〉

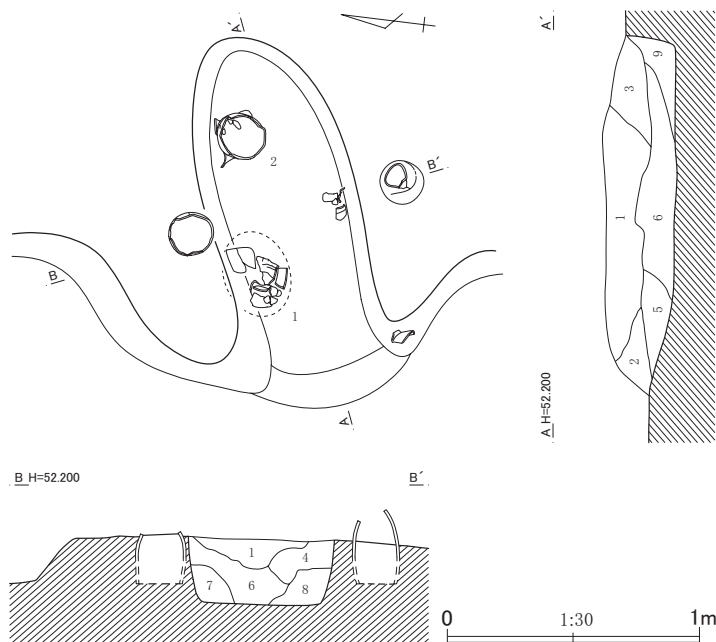
第6層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～20mm)・ローム小塊(～40mm)を多量に含む。しまっている。

第187図 第100号住居跡平面・断面図(1)

一部が、被熱赤化している。カマド覆土は、9層に分けられた。ロームや焼土が際立って多い第4・6層は、天井部や側壁の崩落土層と見られる。

覆土は、暗褐色土を主に、ロームや焼土、粘土の多寡により5層に分けられた。壁側より埋まりはじめ、中央部が最後に埋まる、典型的な堆積過程を示すようである。第6層は、掘り方の埋土である。凹凸の著しい粗掘り面のまま、ロームと暗褐色土の混合土により床下を埋め、床面を作り上げているようである。

多時期にわたる土器が混在するようであるが、第189図1・2の甕は、カマド内から出土した。3の灰釉の高台付碗は、覆土中からの出土であり、混入品である。4の坏は、南東隅寄りの覆土の中層くらいから出土したが、混入した遺物と見てよいであろう。カマド内から出土した甕から見て、奈良時代後半の遺構であると考えられる。

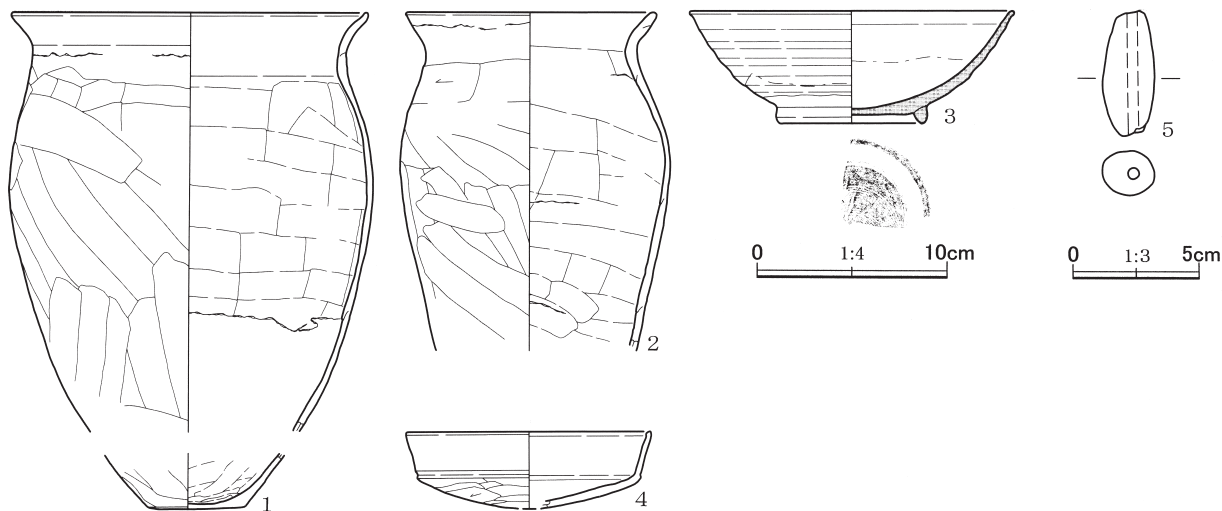


第100号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土。粘土粒(～4mm)・粘土小塊(～40mm)を多量に含み、焼土粒(～4mm)・焼土小塊(～30mm)を少量含む。粘性はやや強い。
- 第2層：暗褐色土。粘土粒(～1mm)を中量含み、粘土小塊(～30mm)

- を少量含む。粘性はやや強い。
- 第3層：暗褐色土。粘土粒(～0.5mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。粘性はやや強い。
- 第4層：暗褐色土。粘土小塊(～20mm)を多量に含み、粘土粒(～6mm)・焼土粒(～4mm)・焼土小塊(～10mm)を中量含む。粘性はやや強い。
- 第5層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～20mm)を微量含み、焼土粒(～4mm)を少量、粘土粒(～6mm)・粘土小塊(～20mm)を中量含む。粘性はやや強い。
- 第6層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)・ローム小塊(～20mm)を多量に含み、焼土粒(～4mm)・焼土小塊(～40mm)を少量含む。粘性はやや強い。
- 第7層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・粘土粒(～0.5mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。粘性はやや強い。
- 第8層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・粘土粒(～0.5mm)を少量含み、焼土粒(～4mm)を微量含む。粘性はやや強い。
- 第9層：暗褐色土。粘土粒(～0.5mm)・焼土粒(～4mm)を中量含む。

第188図 第100号住居跡平面・断面図(2)



第189図 第100号住居跡出土遺物

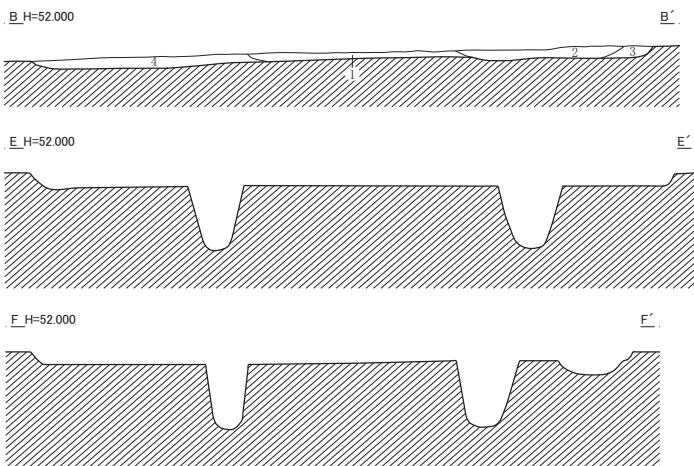
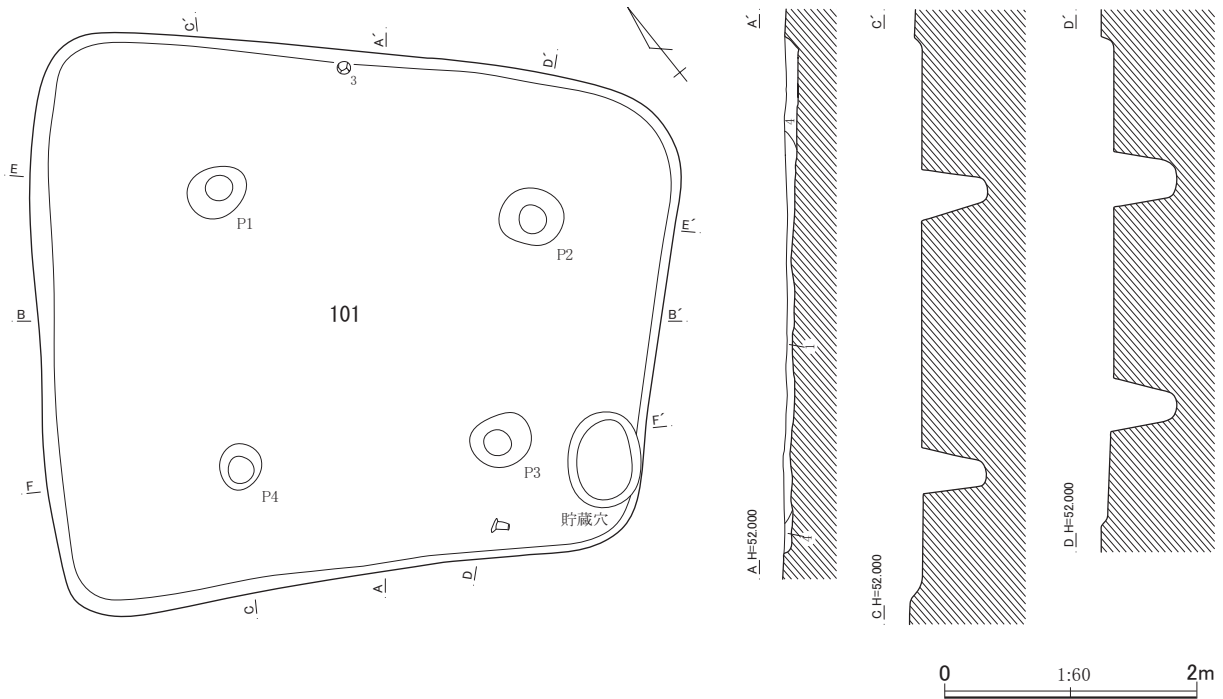
第79表 第100号住居跡出土遺物観察表(1)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 19.4 底径 5.4 器高 (27.5)	口縁部は外傾し、上端で直立する。胴部は上位にやや膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒 内外-橙色	口縁部～胴部下位3/4、胴部下端～底部
2	甕	口径 13.6 底径 — 器高 [17.0]	口縁部は外反する。胴部は上位に膨らみをもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外-にぶい黄橙色	口縁部～胴部下位

C地点

第80表 第100号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
3	灰釉陶器壺	口径 (17.9) 底径 7.9 器高 6.2	高台は端部が丸みを帯びる。体部は下位に膨らみをもつ。口縁部は短く外反する。ロクロ成形。	外面-ロクロナデ。底部回転系切り。高台貼付時回転ナデ。内面-ロクロナデ。	細砂粒 外-灰白色 内-灰黄色	1/4残存 灰釉漬け掛け
4	坏	口径 (13.4) 底径 — 器高 [4.2]	丸底。体部は浅く開き、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外-橙色	1/2残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
5	土錘	長さ5.2、幅2.2、厚さ1.9、重さ20.52g。胎土：白色粒・黒色粒・石英。色調：にぶい橙色。				完形



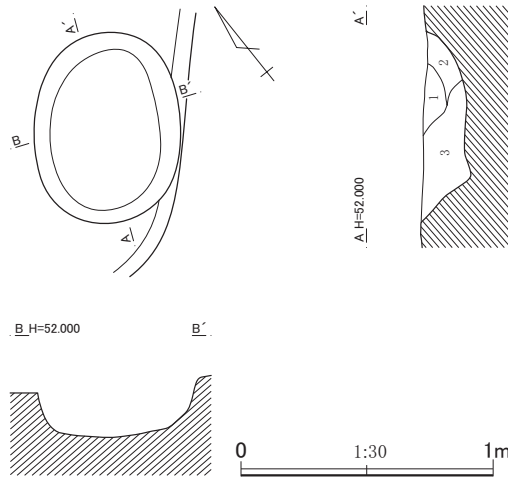
第101号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)・ローム小塊(～20mm)を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を微量含み、ローム小塊(～10mm)を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)・粘土粒(～2mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。
- 第4層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)を少量含む。

第190図 第101号住居跡平面・断面図(1)

第101号住居跡(第190～192図、第81表、図版23・128)

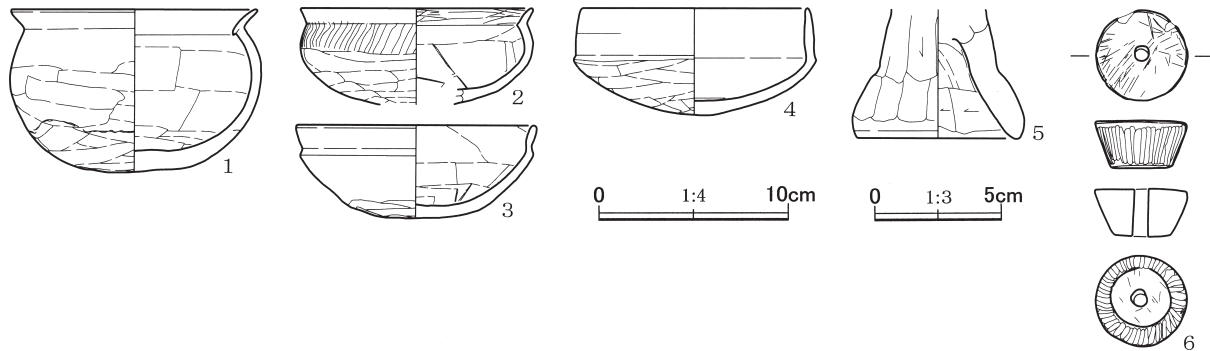
調査地点の南縁近くの中央、Q14、R14グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第317・318号土坑に切られており、第127・167・168号住居跡と重複関係にある。第127号住居跡が介在



第101号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・ローム粒(～6mm)を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・ローム小塊(～20mm)を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を少量含む。

第191図 第101号住居跡平面・断面図(2)



第192図 第101号住居跡出土遺物

第81表 第101号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	鉢	口径 13.5 底径 — 器高 9.0	丸底。体部は中位が張り、口縁部は外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・雲母・石英 外-にぶい黄褐色 内-にぶい褐色	口縁部1/3欠損
2	坏	口径 (12.8) 底径 — 器高 [5.3]	体部は丸みをもつ。口縁部は短く外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ、上位はヘラナデ時の工具痕明瞭。内面-口縁部ハケメ。体部ヘラナデ。	雲母・白色粒・黒色粒 内外-明赤褐色	口縁部～体部1/2残存
3	坏	口径 13.2 底径 — 器高 5.1	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部ナデ。底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	雲母・白色粒・黒色粒 内外-橙色	4/5残存
4	坏	口径 (12.5) 底径 — 器高 5.9	丸底。口縁部は体部との境に稜をもち、内傾気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。内面-口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外-橙色	2/3残存
5	脚部片状	口径 — 底径 (6.7) 器高 [5.3]	脚部は下方へ開く。粘土紐積み上げによる成形。	外面-脚部ヘラケズリ、端部ナデ。内面-脚部上位ヘラナデ、下位ヘラケズリ。	白色粒・石英 外-灰白色 内-にぶい褐色	破片
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
6	石製紡錘車	上面径3.8、下面径2.5、孔径0.6×0.6、厚さ1.95、重さ40.65g。石材：蛇紋岩。調整：上下面は丁寧な研磨。側面は研磨後、縦位のケズリ。				ほぼ完形

するため直接切り合わないが、第171号住居跡とも重複関係にあったようである。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

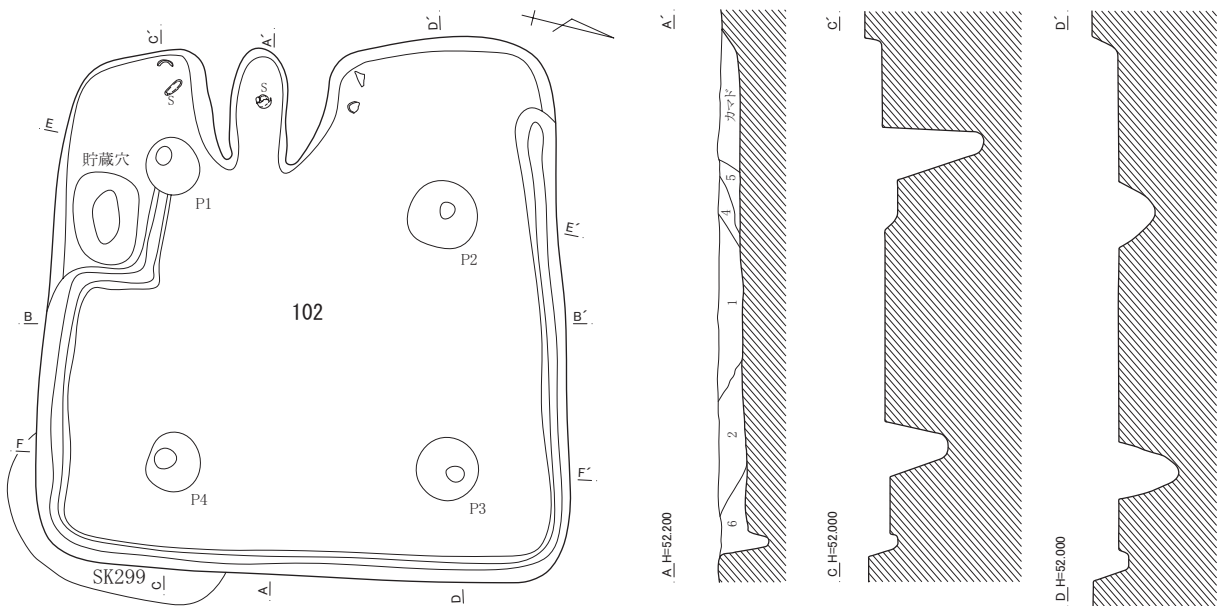
平面形は、北西-南東方向の長さが、北東-南西方向の長さに対し、かなり長い、歪んだ台形に近

C地点

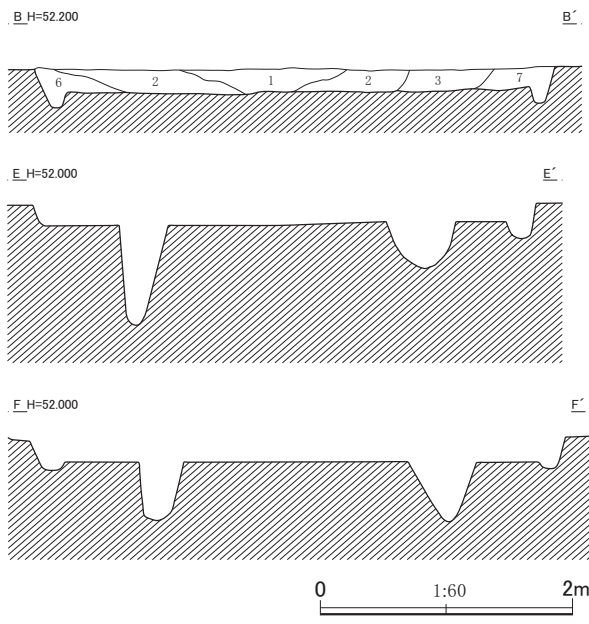
い形態である。規模は、北東－南西方向で4.20m、北西－南東方向で4.97mである。北東－南西方向での軸方位は、N-40°-Eである。床面はほぼ平坦で、主に支柱穴を結ぶ範囲を中心に硬化している。覆土がわずかに残るのみで、壁の残存状態も良好ではない。壁高は、北東壁で10cm、北西・南西壁で5cm、南東壁で8cmに過ぎない。

P1～P3は、支柱穴であろう。平面形は、いずれもやや不整な円形、ないしは楕円形と呼びうる形態で、深さは、P1・P3・P4が52cm、P2が50cmである。南隅近くのピットは、貯蔵穴であろう。平面形は楕円形で、長径74cm、短径58cm、最深部での深さは19cmである。

第192図3の坯は、北東壁沿いの床面直上から出土している。重複関係、覆土、出土遺物から見て、古墳時代後期初頭（新相）の遺構と考えられる。

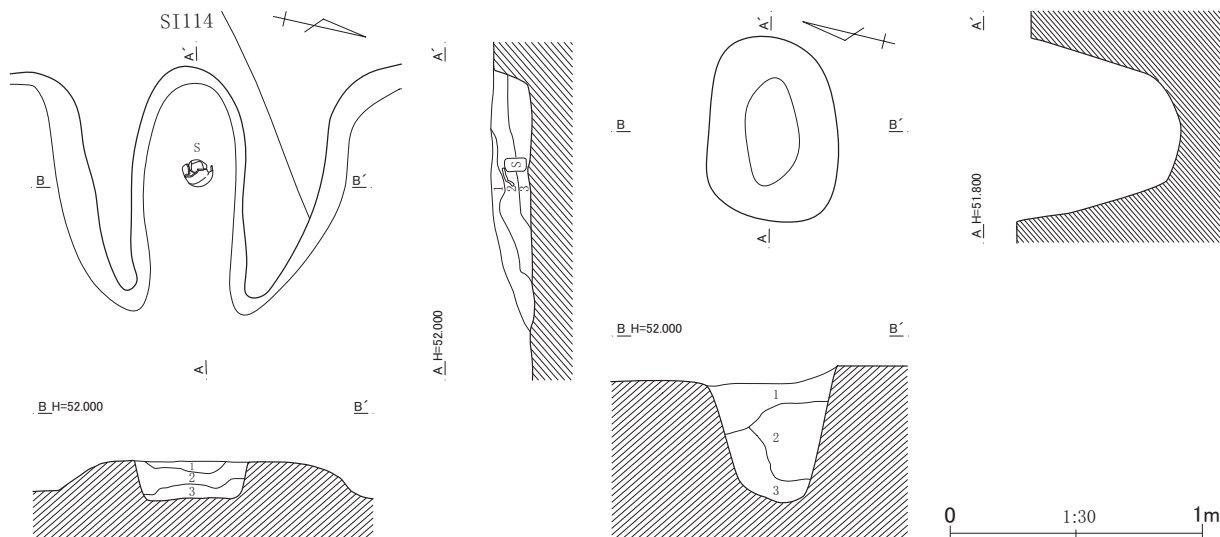


第102号住居跡土層説明



- 第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を中量含み、ローム小塊(～40mm)・粘土粒(～4mm)を少量、粘土小塊(～50mm)を微量含む。粘性はやや強い。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を中量含み、炭化物粒(～2mm)を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を少量含み、ローム小塊(～35mm)・粘土粒(～4mm)を微量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・粘土粒(～2mm)を少量含み、ローム小塊(～15mm)を微量含む。粘性はやや強い。
- 第5層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)・ローム小塊(～20mm)・粘土粒(～2mm)・焼土粒(～1mm)を少量含み、粘土小塊(～15mm)を微量含む。粘性はやや強い。
- 第6層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～30mm)を少量含む。
- 第7層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)・炭化物粒(～1mm)・炭化物小塊(～10mm)を少量含む。

第193図 第102号住居跡平面・断面図(1)



第102号住居跡カマド土層説明

第1層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～0.5mm)を少量含み、ローム粒(～4mm)・焼土粒(～1mm)を微量、粘土粒(～0.5mm)・粘土小塊(～40mm)を多量に含む。粘性は強い。

第2層：暗灰赤褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)・ローム粒(～8mm)・焼土小塊(～40mm)を少量含み、粘土粒(～4mm)・粘土小塊(～30mm)を多量に、焼土粒(～4mm)を中量含む。粘性はやや強い。

第3層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含み、ローム小

塊(～20mm)を微量含む。

第102号住居跡貯蔵穴土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)・ローム小塊(～10mm)を少量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)を少量含む。

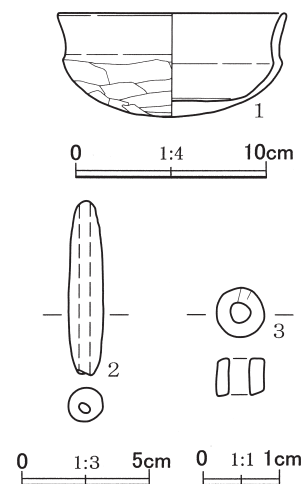
第3層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～10mm)・炭化物粒(～1mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。

第194図 第102号住居跡平面・断面図(2)

第102号住居跡(第193～195図、第82・83表、図版103・128)

調査地点の中央の南寄り、Q12・13、R12・13グリッドに位置し、F群に含まれる住居跡である。第114号住居跡を切っており、第299号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。また、第115号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、南壁に比し、北壁が長い、やや不整な方形に近い形態である。規模は、主軸方向で4.15m、副軸方向で4.12mである。主軸方位は、S-77°-Wである。床面は微妙な凹凸があり、P1・P2-P3・P4間の南北に伸びる帯状の範囲が、目立って硬化している。壁高は、西・南壁で17cm、北壁で14cm、東壁で21cmである。北西隅を除く北壁、東壁、南壁の一部に沿って、断面形がU字形の壁溝が巡らされている。壁溝は、南壁中



第195図 第102号住居跡出土遺物

第82表 第102号住居跡出土遺物観察表(1)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 12.4 底径 — 器高 5.8	丸底。口縁部は体部との境に弱い稜をもち、外反して立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面-口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・石英・角閃石 外-灰黄褐色 内-にぶい橙色	2/3残存

C地点

第83表 第102号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
2	土錘	長さ7.2、幅1.5、厚さ1.4、重さ15.18g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい黄橙色。	完形
3	石製品 白玉	長さ0.65、幅0.68、孔径0.3×0.3、厚さ0.5、重さ0.35g。石材：滑石。調整：全体的に研磨。	完形

央で鉤の手に折れ、貯蔵穴に沿ってクランク状を成し、支柱穴P1と連結している。

P1～P4は、支柱穴である。平面形は、いずれもやや不整な円形で、深さは、P1が80cm、P2が36cm、P3が49cm、P4が48cmである。P1と南壁間のピットは、貯蔵穴である。平面形はやや角張った楕円形で、長径73cm、短径52cm、深さは53cmである。

カマドは、西壁の中央、南西隅寄りに設けられている。長楕円形の燃焼部が残存する。燃焼部の長さは97cm、横幅は45cmである。側壁上部が極局所的に被熱赤化しているのみである。

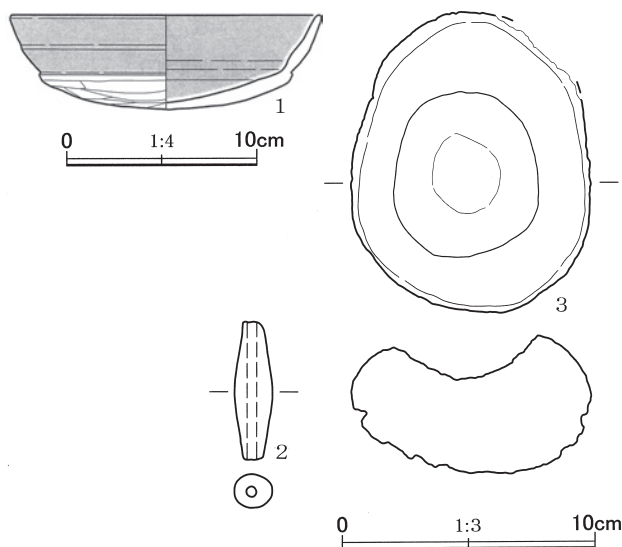
覆土は、主に暗褐色土からなり、ローム、焼土、粘土などの多寡により7層に分けられた。重複関係、覆土、出土遺物から見て、古墳時代後期中葉の遺構と考えられる。

第103号住居跡(第196～198図、第84表、図版24・128)

調査地点のほぼ中央、南寄り、P12、Q12グリッドに位置し、F群に含まれる住居跡である。第119号住居跡を切っており、第85・94号住居跡に切られ、遺構の一角を壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、横長の長方形に近いが、各辺平行とはいいがたく、南隅、東隅は鋭角、北隅、西隅は鈍角をなし、かなり歪な形態である。規模は、主軸方向で4.00m、副軸方向で5.38m、主軸方位は、N-35°-Wである。床面中央からカマド前面にかけて、部分的かつ軽微ながらも硬化している。壁の立ち上がり具合は、北西壁、南西壁は比較的急峻で、他はゆるやかである。壁高は、北東・南東壁で10cm、北西壁で14cm、南西壁で11cmである。

P1～P4は、支柱穴と思われるピットである。平面形は、やや不整な円形、楕円形で、深さは、P1・P2が41cm、P3が15cm、P



第196図 第103号住居跡出土遺物

第84表 第103号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手の特徴	調整・装飾手の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径(16.9) 底径 — 器高 5.2	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって内彎気味に開き、中位に段を有する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。口縁部黒色処理。内面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。黒色処理。	白色粒・黒色粒・褐色粒 外-灰黄褐色 内-黒褐色	1/4残存
No.	器種	法量(cm)・特徴			備考	
2	土錘	長さ5.7、幅1.6、厚さ1.4、重さ11.02g。胎土：白色粒・雲母。色調：褐色。			完形	
3	凹み石	長さ12.4、幅9.95、厚さ5.7、重さ400.72g。石材：角閃石安山岩。調整：片面に凹みあり。全体的にザラザラし、平滑でない。			一部欠損	



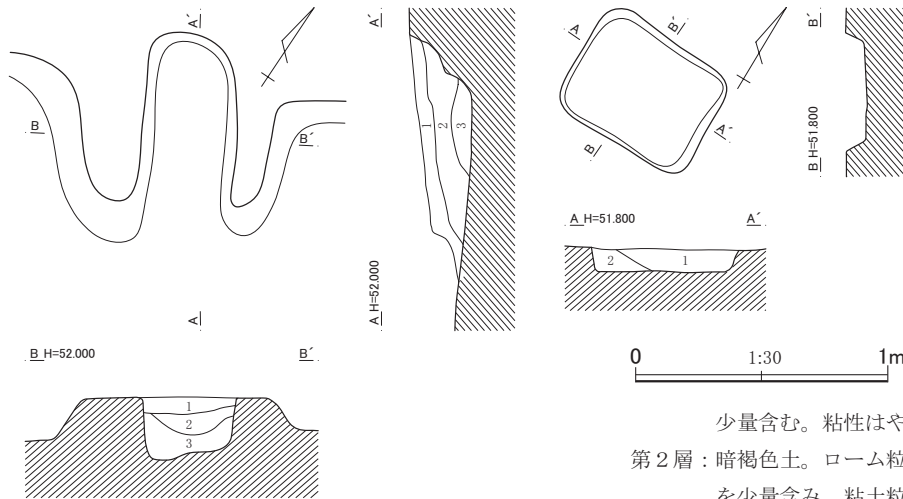
第103号住居跡土層説明

- | | |
|--|--|
| 第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～20mm)を中量含み、焼土粒(～2mm)を微量含む。 | を微量含む。 |
| 第2層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・ローム小塊(～15mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。 | 第4層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)・ローム小塊(～15mm)・粘土粒(～2mm)を少量含む。粘性はやや強い。 |
| 第3層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)・ローム粒(～6mm)を少量含み、焼土粒(～4mm)・ローム小塊(～10mm) | 第5層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・粘土粒(～2mm)を少量含む。 |
| | 第6層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～10mm)を中量含む。 |

第197図 第103号住居跡平面・断面図(1)

4が48cmである。北隅近くのピットは、貯蔵穴であろう。平面形は、方形、隅丸方形で、たらいのように底面が平らに仕上げられている。長軸長59cm、短軸長46cm、深さは10cmである。他に本住居跡に伴うと思われるピットを、床面で10個検出したが、何らかの住居施設に関わるものか特定できない。

カマドは、北西壁の中央、北隅にやや寄った位置に付設されている。短い両袖に挟まれた縦長の燃焼部が残存する。燃焼面は浅く掘りくぼめられ作出されている。袖端を燃焼部の口と見るなら、燃



第103号住居跡貯蔵穴土層

説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を中量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・ローム小塊(～10mm)を少量含む。

第103号住居跡カマド土層説明

第1層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～1mm)・粘土小塊(～20mm)を多量に含み、焼土粒(～4mm)を

少量含む。粘性はやや強い。

第2層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)・ローム小塊(～30mm)を少量含み、粘土粒(～4mm)・粘土小塊(～30mm)を中量、焼土粒(～4mm)を微量含む。粘性はやや強い。

第3層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・粘土粒(～0.5mm)を少量含み、粘土粒(～4mm)を微量含む。粘性はやや強い。

第198図 第103号住居跡平面・断面図(2)

焼部の長さは81cm、横幅は38cmである。奥壁、燃焼面は、部分的に被熱し硬化しているようであるが、赤化は顕著ではない。カマド覆土は、3層に分けられた。焼土や粘土がかなり含まれる第1層は、天井部や側壁の崩落土層と見られる。

覆土は、暗褐色土を主に、ロームや焼土、粘土の多寡により6層に分けられた。壁側より埋まりはじめ、中央部が最後に埋まったようである。

土師器片を主とする遺物が、覆土中より出土している。重複関係、覆土、出土遺物から見て、古墳時代後期後葉後半の遺構と考えられる。

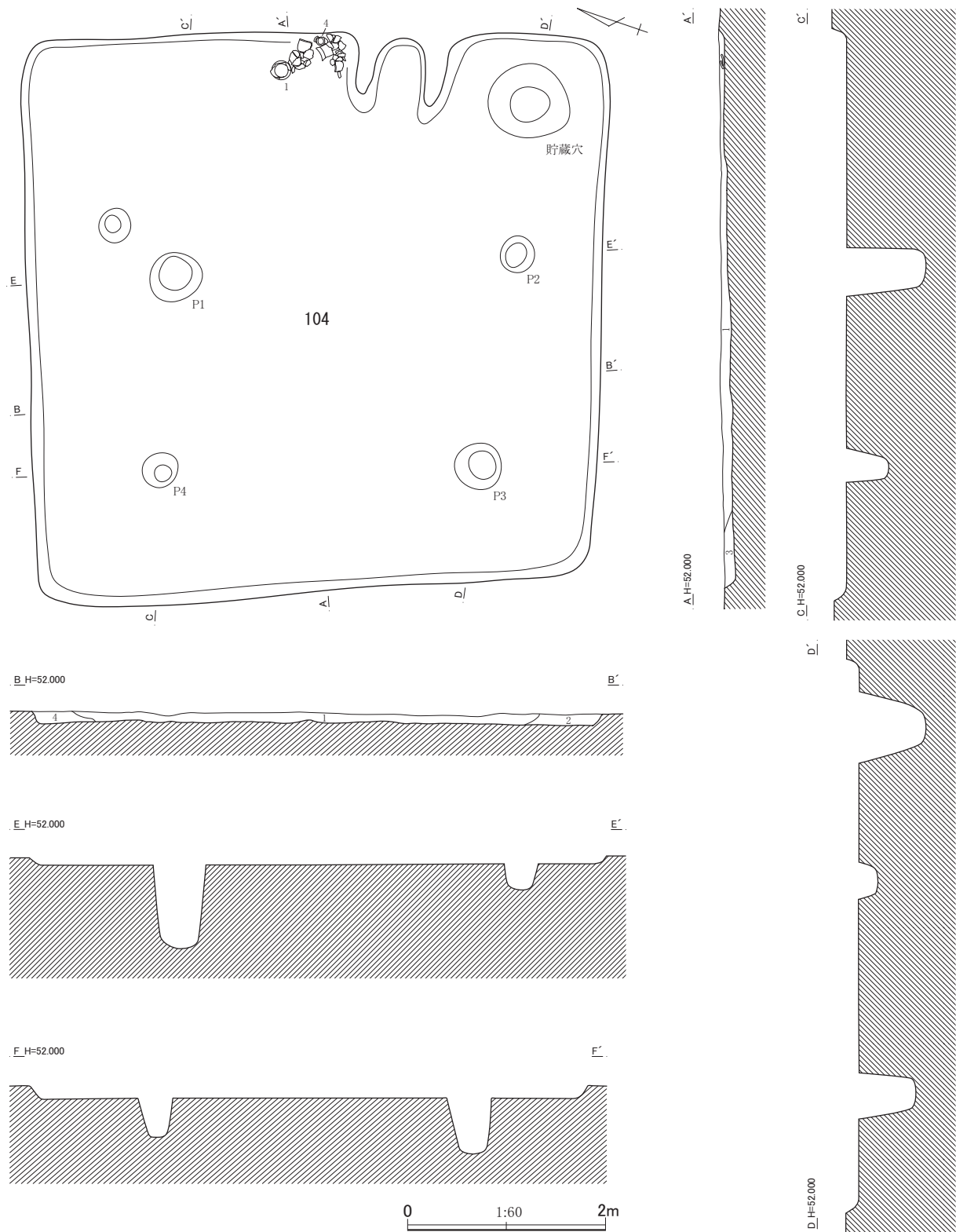
第104号住居跡(第199～201図、第85表、図版24・128)

調査地点の東半の中央、やや南寄り、S12・13グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第125・128号住居跡を切って造られている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は方形である。規模は、主軸方向で5.62m、副軸方向で5.82m、主軸方位は、N-69°-Eである。床面には微妙な凹凸が見られ、支柱穴を結ぶ範囲からカマド前面にかけて、軽微ではあるが、部分的に硬化している。壁の立ち上がり具合は、比較的ゆるやかである。壁高は、東壁で5～12cm、南壁で11cm、西壁で10cm、北壁で13cmである。

P1～P3は、支柱穴であろうか。平面形は、いずれもほぼ円形で、深さは、P1が50cm、P2が56cm、P3が40cmである。南東隅脇のピットは、貯蔵穴である。平面形は、やや不整な楕円形、あるいは卵形で、長径84cm、短径76cm、深さは60cmである。貯蔵穴の覆土は3層で、全体にロームをかなり含む暗褐色土が主となるようである。他に本住居跡に伴うと思われるピットを、床面で2個検出している。深さは、北側のピットが74cm、南側のピットが20cmである。住居跡の中央付近に左右に振り分けられているようにも見え、支柱を補うような柱の穴なのかもしれない。

カマドは、東壁のやや南東隅寄りの位置に付設されている。短い両袖に挟まれた燃焼部が残存する。



第104号住居跡土層説明

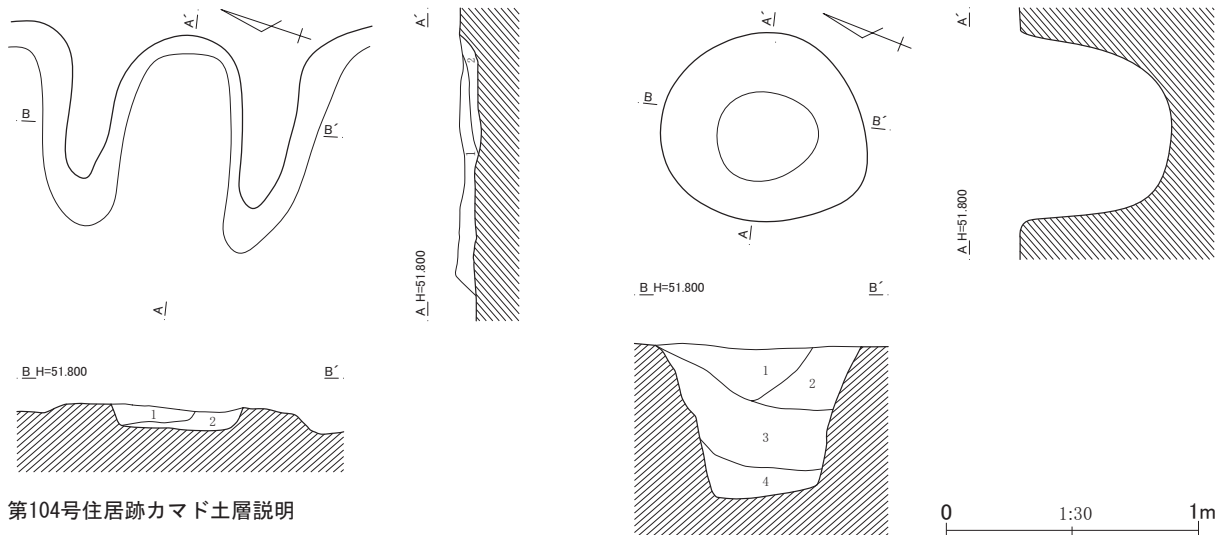
第1層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)・粘土粒(～1mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・ローム小塊(～30mm)・焼土粒(～1mm)を少量含む。

第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～0.5mm)を多量に含み、ローム小塊(～10mm)を少量含む。

第4層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含む。

第199図 第104号住居跡平面・断面図(1)



第104号住居跡カマド土層説明

第1層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～0.5mm)・焼土粒(～1mm)を多量に含む。粘性はやや強い。
 第2層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・ローム小塊(～10mm)を少量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～20mm)を少量含み、焼土粒(～1mm)を微量含む。
 第3層：暗褐色土。ローム粒(～8mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)を微量含む。
 第4層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を少量含む。

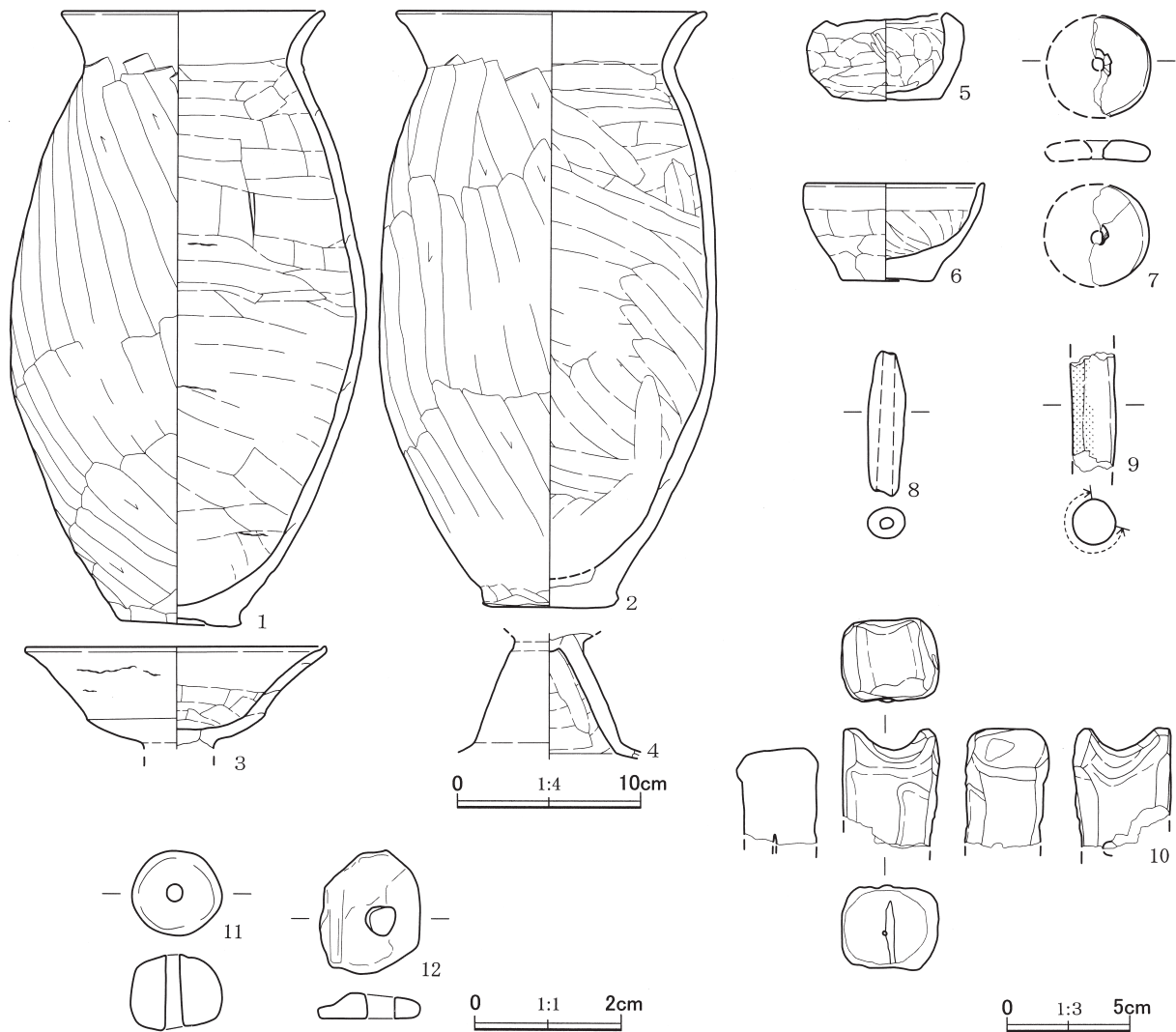
第104号住居跡貯蔵穴土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。

第200図 第104号住居跡平面・断面図(2)

第85表 第104号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法的特徴	調整・装飾手法的特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 (14.7) 底径 6.8 器高 35.2	口縁部は外反する。胴部は中位に膨らみをもつ。平底で上げ底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。底部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・雲母 内外-橙色	口縁部～胴部上位2/3欠損
2	甕	口径 (17.5) 底径 7.8 器高 34.0	口縁部は外反する。胴部は中位に膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ、下端ヘラナデ。底部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外-明黄褐色	口縁部～胴部1/2欠損
3	高坏	口径 (17.0) 底径 — 器高 [4.8]	口縁部は坏部との境にわずかな稜をもち、外反気味に開く。口唇部内側に弱い凹線がめぐる。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。坏部磨耗。内面-口縁部上半ヨコナデ。口縁部下半～坏部ヘラナデ。	白色粒 内外-にぶい橙色	坏部2/3残存
4	高坏	口径 — 底径 — 器高 [7.2]	脚部はハの字形に開く。粘土紐積み上げによる成形。粘土紐積み上げによる成形。	外面-脚部ナデ。内面-脚部ヘラナデ。	白色粒・雲母 内外-橙色	脚部のみ、裾部は欠損
5	手捏ね土器	口径 5.2 底径 4.6 器高 3.7	平底。体部から口縁部にかけて内彎する。口縁部は整っていない。手捏ね成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ後不規則なミガキ。内面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・雲母 内外-にぶい赤褐色	完形
6	手捏ね土器	口径 (7.6) 底径 3.8 器高 4.2	厚い平底から内彎して立ち上がる。口唇部は内側に面をもつ。手捏ね成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・雲母、 内外-にぶい赤褐色	口縁部～体部1/3欠損
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
7	土製品 円板状	長さ[4.3]、幅[2.55]、孔径(0.5)×(0.5)、厚さ0.9、重さ[9.11]g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい褐色。調整：ナデ。				1/2残存
8	土錘	長さ6.2、幅1.6、厚さ1.35、重さ12.63g。胎土：白色粒・赤褐色粒。色調：にぶい赤褐色。				完形
9	棒状 土製品	第968図2、第437表参照。				No.2
10	土製品 棒受状	長さ[5.0]、幅4.1、厚さ3.6、重さ[79.47]g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：橙色。調整：ナデ。				下部欠損
11	土玉	長さ1.2、幅1.3、孔径0.2×0.25、厚さ1.05、重さ1.75g。胎土：白色粒。色調：黒褐色。調整：ナデ。				完形
12	石製品 白玉	長さ1.75、幅1.45、孔径0.4×0.4、厚さ0.35、重さ1.34g。石材：滑石。調整：全体的に研磨。				完形



第201図 第104号住居跡出土遺物

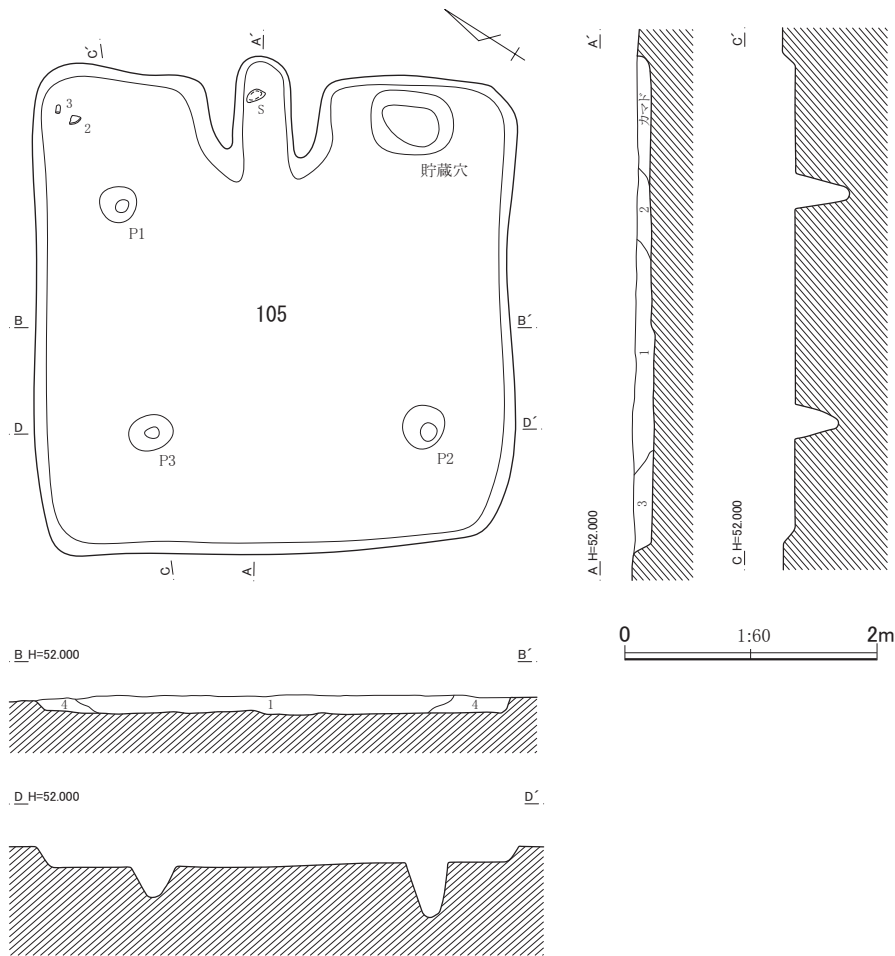
燃焼面は床面とほぼ同じ高さで、袖端を焚口側の端と見るなら、燃焼部の長さは82cm、横幅は54cmである。奥壁から側壁にかけて、部分的に被熱赤化しており、燃焼面の一部も赤化している。カマド覆土は2層で、粘土や焼土を多量に含む第1層は、側壁や天井部の崩落土であろう。

第201図1・2の甕、4の高坏脚部片は、カマド左袖基部周辺の下層～床面直上から出土している。重複関係、覆土、出土遺物から見て、古墳時代後期中葉の遺構と考えられる。

第105号住居跡（第202～204図、第86・87表、図版24・128）

調査地点の東半のほぼ中央、S11・12グリッドに位置し、F群に含まれる住居跡である。第195・201・249号住居跡を切って造られている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は正方形である。規模は、主軸方向で3.80m、副軸方向で3.76m、主軸方位は、N-58°-Eである。床面は、いくらか凸凹しており、支柱穴を結ぶ範囲からカマド・貯蔵穴前面にかけて硬化している。壁の立ち上がり具合は、比較的急峻であり、壁高は、東壁で9cm、南壁で12cm、西壁で13cm、北壁で10cmである。



第105号住居跡土層説明

第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を中量含み、ローム小塊(～40mm)を少量含む。

第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)・焼土粒(～2mm)を中量含み、ローム小塊(～15mm)を少量含む。粘性はやや強い。

第3層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)を微量含む。

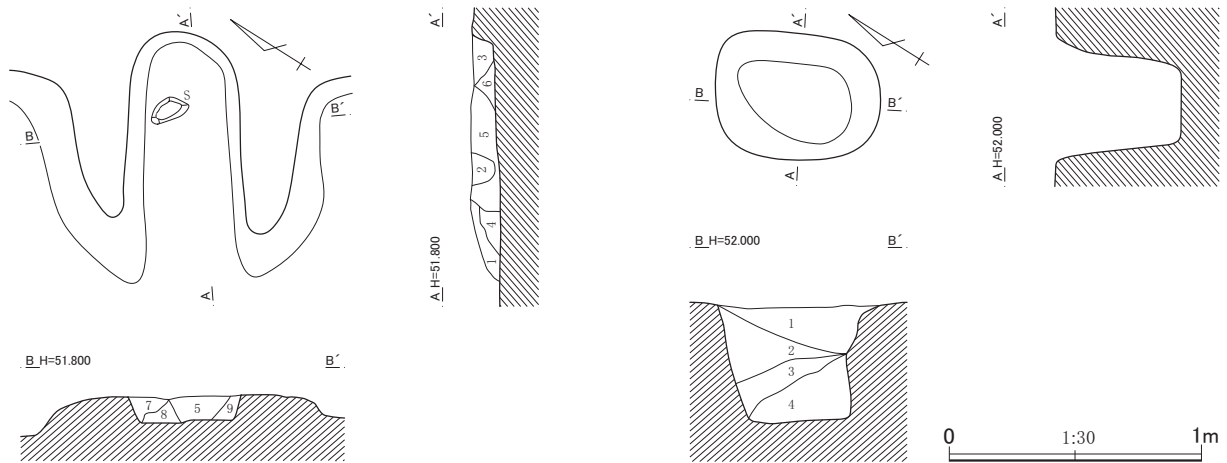
第4層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を中量含む。

第202図 第105号住居跡平面・断面図(1)

P1～P3は、支柱穴であろう。平面形は、やや不整な円形、楕円形で、深さは、P1が44cm、P2が46cm、P3が25cmである。カマドと南東隅間で検出したピットは、貯蔵穴と考えられる。平面形は、かなり不整な楕円形、あるいは小判のような形態であり、長径66cm、短径50cm、深さは46cmを測る。カマドは、北西壁の中央に設けられており、細長い両袖に挟まれた縦長の燃焼部が残存する。燃焼面は床面とほぼ同じ高さで、袖端を焚口端とするなら、燃焼部の長さは98cm、横幅は46cmである。側壁の上部と燃焼面の一部は、被熱赤化している。カマド覆土は、9層に分けられた。粘土小塊を多量に含む第4層や灰褐色の粘土を主とする第5・7層は、カマドの構築材が崩れてできた土層と考えられる。

覆土は、暗褐色土を主とする4層で、壁際堆積土である第3・4層堆積後、中央部に第1層が流入し埋まった模様である。

第204図2のガラス小玉鋳型片、3の棒状土製品は、北隅近くの覆土最上層から出土している。他には、土師器小片を主とする遺物が、覆土中から出土しているのみである。重複関係、出土遺物から見て、おおむね古墳時代後期後葉後半から終末期前葉にかけての遺構であると考えてよいであろう。



第105号住居跡カマド土層説明

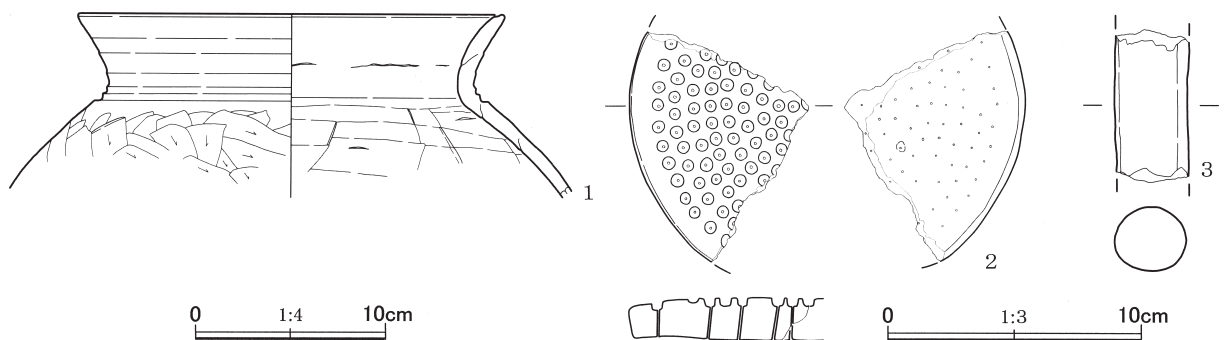
- 第1層：暗褐色土。ローム粒（～4mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）を多量に、焼土粒（～1mm）を微量含む。粘性はやや強い。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒（～2mm）・粘土粒（～1mm）を少量含み、焼土粒（～1mm）を微量含む。粘性はやや強い。
- 第3層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒（～1mm）・焼土粒（～4mm）を少量含み、粘土小塊（～20mm）を中量含む。粘性はやや強い。
- 第4層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土小塊（～10mm）を多量に含み、粘土粒（～2mm）を中量、焼土粒（～2mm）を少量、焼土小塊（～10mm）を微量含む。粘性はやや強い。
- 第5層：灰褐色土。灰褐色粘土を主とし、暗褐色土粒子（～2mm）・焼土小塊（～10mm）を少量含む。粘性は強い。
- 第6層：暗褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含み、焼土粒（～4mm）を中量含む。粘性はやや強い。

- 第7層：灰褐色土。灰褐色粘土を主とし、暗褐色土粒子（～2mm）・焼土小塊（～10mm）を少量含む。粘性は強い。
- 第8層：暗褐色土。ローム粒（～4mm）を中量含み、粘土粒（～4mm）を多量に、粘土小塊（～10mm）を少量含む。粘性はやや強い。
- 第9層：暗褐色土。ローム小塊（～10mm）を少量含み、焼土粒（～1mm）を微量、粘土粒（～1mm）を多量に含む。粘性は強い。

第105号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒（～2mm）を中量含み、粘土粒（～8mm）を少量含む。
- 第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～0.5mm）・ローム小塊（～15mm）を中量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒（～4mm）を少量含む。
- 第4層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～8mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）を多量に含む。

第203図 第105号住居跡平面・断面図（2）



第204図 第105号住居跡出土遺物

第86表 第105号住居跡出土遺物観察表（1）

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 (23.4) 底径 — 器高 [10.1]	口縁部は外反する。口唇部は内側に面をもち、弱い凹線がめぐる。胴部は張る。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・石英 内外－橙色	口縁部～胴部上位1/3残存

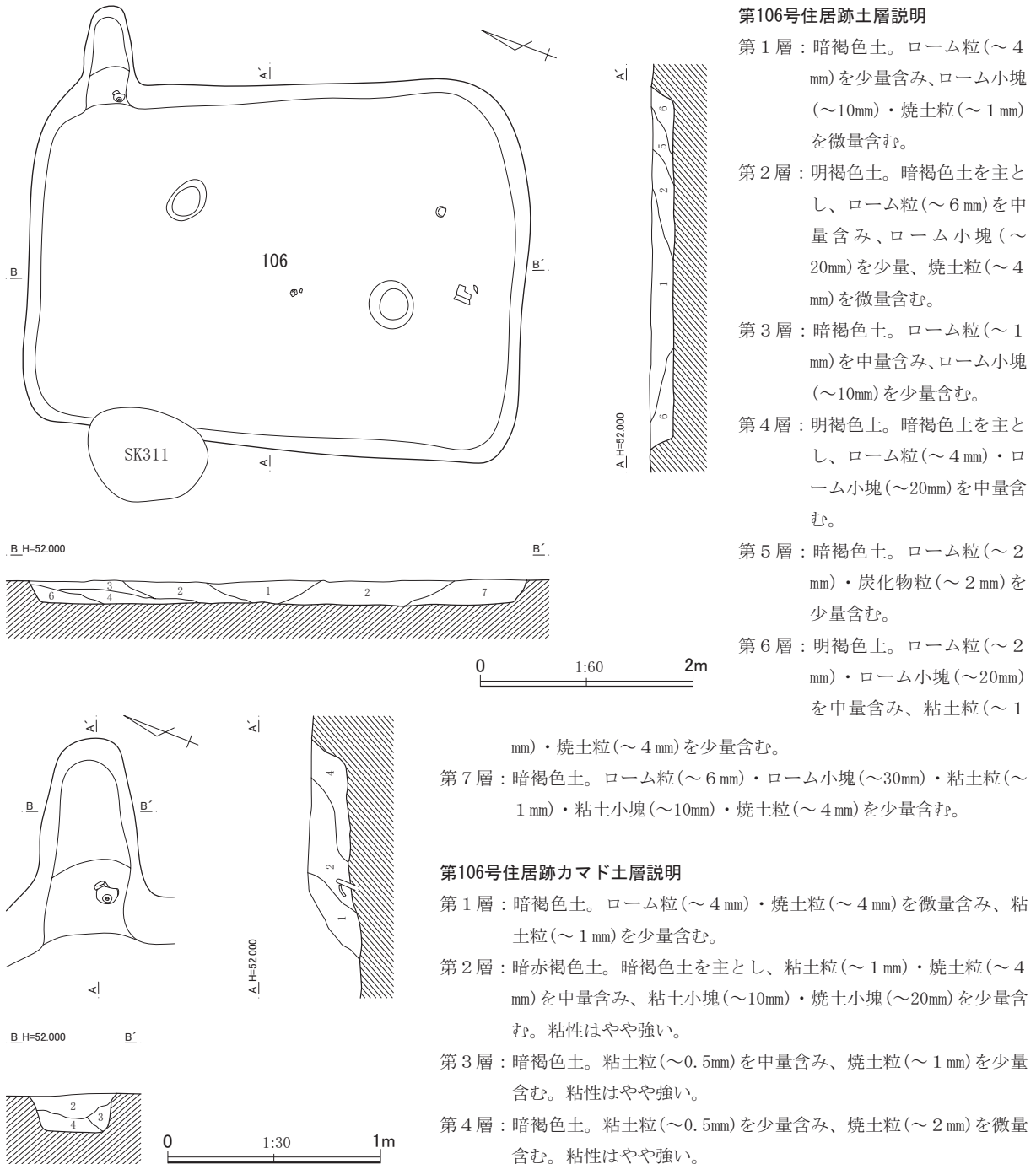
C地点

第87表 第105号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
2	ガラス小玉 鑄型	第948図3、第427表参照。	No.3
3	棒状 土製品	第968図3、第437表参照。	No.3

第106号住居跡 (第205・206図、第88表、図版25・129)

調査地点の東縁近くのほぼ中央、T13、U13グリッドに位置し、G群に含まれる住居跡である。第212・252～254号住居跡を切って造られている。また、第306号土坑に切られ、西壁の一部を壊され



第205図 第106号住居跡平面・断面図

ている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

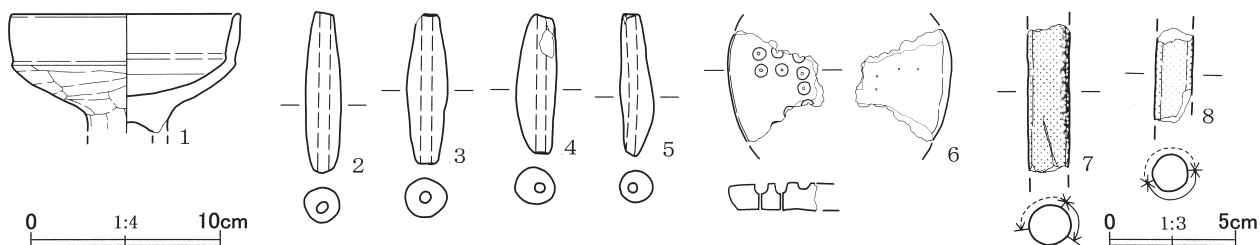
平面形は横長の長方形と見られるが、北壁と南壁では長さかなり異なり、また南東隅は著しく丸みをもっている。規模は、主軸方向、東西で4.69m、副軸方向で3.43m、主軸方位は、N-73°-Eである。床面中央付近が所々かすかに硬化しているのみで、全体に硬化は軽微である。壁の立ち上がり具合は、総じてゆるやかで、壁高は、東・西・北壁で20cm、南壁で21cmである。

本住居跡に伴うと思われるピットを、2個検出したが、位置的に見て、主柱穴などの通有のピットではないようである。因みに深さのみ記すなら、カマド手前のピットが23cm、南側のピットが27cmである。

カマドは、東壁の、ほとんど北東隅に接する位置に付設されている。袖をもたない縦長の燃焼部を有する形態になるうか。あるいは、床面側から斜面をなし、奥壁寄りに床面よりやや高い平場を有することから、本来の焚口を含む燃焼部の前方側が失われている可能性もないではないようである。現存値を記すなら、燃焼部の長さは92cm、横幅は46cmである。燃焼面と奥壁の極一部がかすかに被熱赤化しているのみである。カマド覆土は、4層に分けられた。焼土や粘土がやや多い第2層は、天井部や側壁の崩落土層を含む層であろう。

覆土は、暗褐色土を主に、ロームや焼土、粘土の多寡により7層に分けられた。壁側よりロームや粘土、焼土が目立つ第6・7層などにより埋まりはじめ、中央部が最後に埋まった模様である。

図化した土器は、第206図1の古墳時代後期前葉～中葉の高坏のみであるが、住居形態、重複関係と整合しない。重複関係から見ると、より新しい時期(古墳時代終末期中葉以降)の遺構である可能性が考えられる。



第206図 第106号住居跡出土遺物

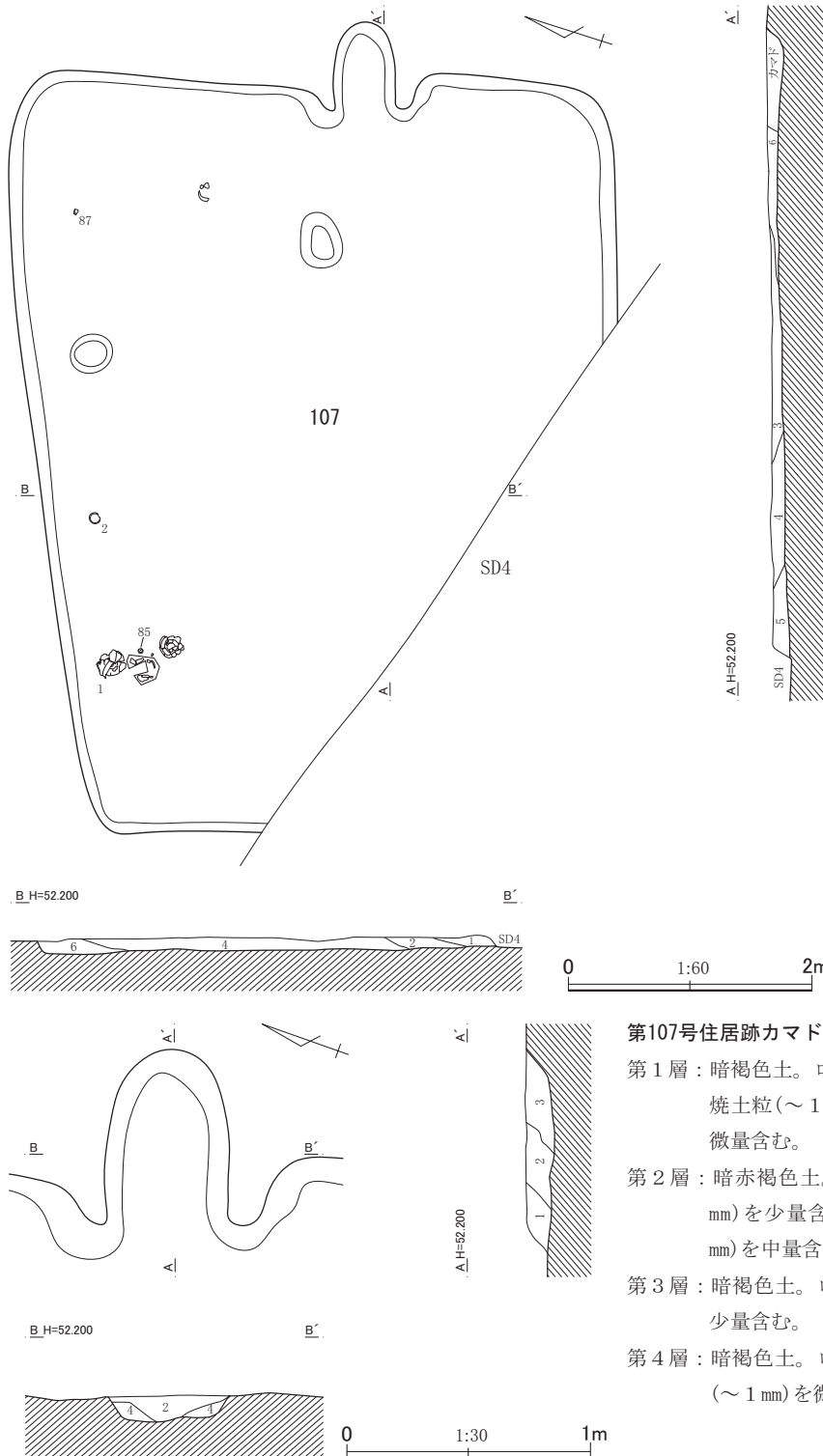
第88表 第106号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	高坏	口径 12.4 底径 — 器高 [6.5]	口縁部は坏部との境に稜をもって直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。坏部ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ。坏部ヘラナデ。	白色粒・雲母 内外-橙色	坏部2/3残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
2	土錘	長さ6.7、幅1.5、厚さ1.5、重さ13.66g。胎土：白色粒。色調：橙色。				完形
3	土錘	長さ6.2、幅1.7、厚さ1.6、重さ[14.90]g。胎土：白色粒。色調：にぶい黄橙色。				端部一部欠損
4	土錘	長さ5.8、幅1.7、厚さ1.5、重さ14.51g。胎土：白色粒。色調：黄灰色。				ほぼ完形
5	土錘	長さ5.8、幅1.4、厚さ1.3、重さ8.72g。胎土：片岩・白色粒。色調：にぶい褐色。				ほぼ完形
6	ガラス小玉 錘型	第948図4、第427表参照。				No.4
7	棒状 土製品	第968図4、第437表参照。				No.4
8	棒状 土製品	第968図5、第437表参照。				No.5

C地点

第107号住居跡（第207～209図、第89～91表、図版25・129）

調査地点の南東隅近くの南縁沿い、S15、T15グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第153・165・166・188号住居跡を切って造られている。第4号溝に南西半を大きく切られ、南西隅周辺は、調査範囲外である。確認面は、黄褐色のローム層上面である。



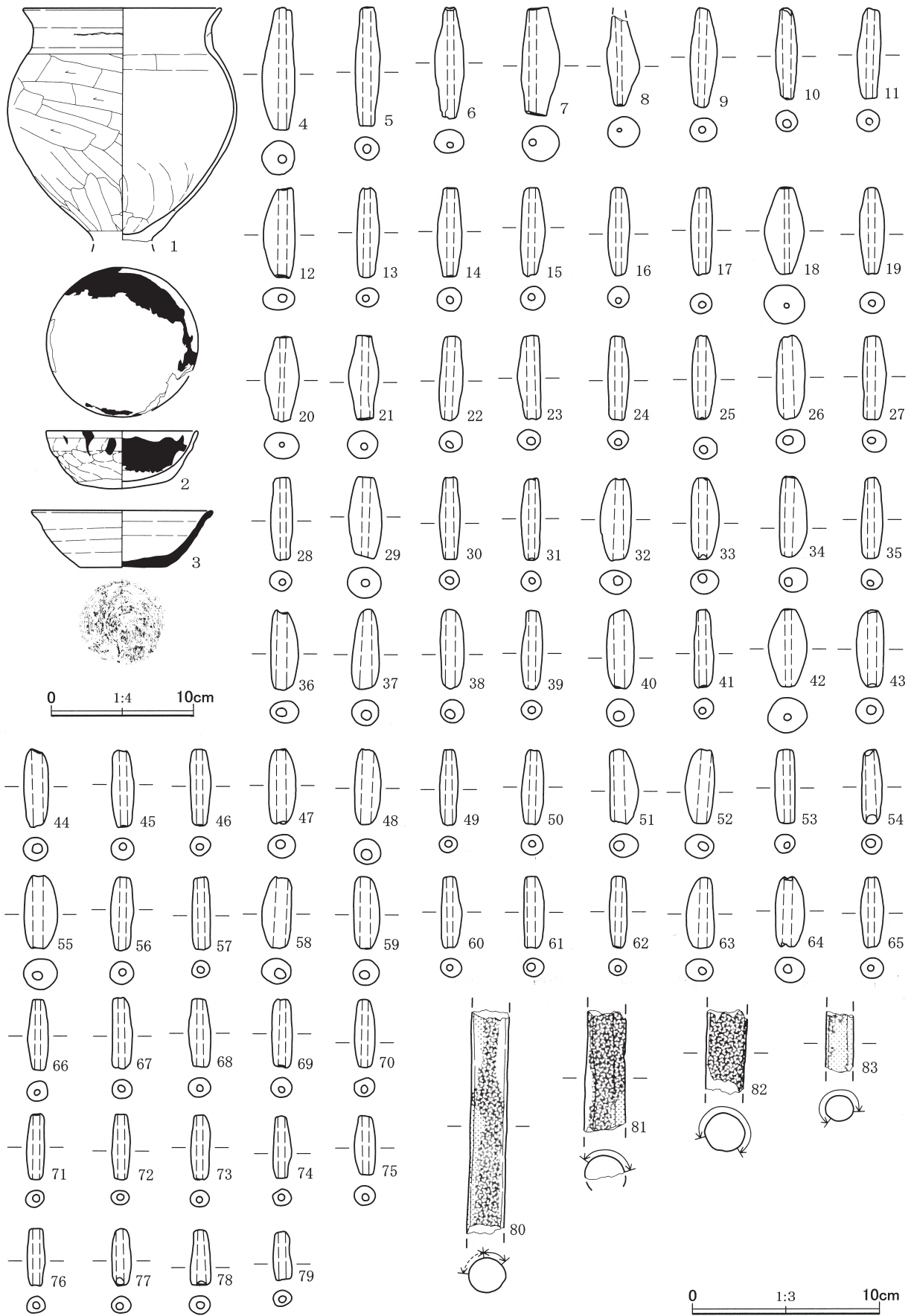
第107号住居跡土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～0.5mm）・炭化物粒（～1mm）・焼土粒（～1mm）を少量含み、粘土粒（～1mm）を中量含む。粘性はやや強い。
- 第2層：暗褐色土。炭化物粒（～4mm）・炭化物小塊（～10mm）を多量に含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒（～0.5mm）・焼土粒（～2mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒（～2mm）を中量含み、炭化物粒（～4mm）・炭化物小塊（～15mm）・焼土粒（～4mm）を少量含む。
- 第5層：暗褐色土。ローム粒（～1mm）・ローム小塊（～10mm）を少量含み、焼土粒（～4mm）を微量含む。
- 第6層：暗褐色土。ローム粒（～2mm）を中量含む。

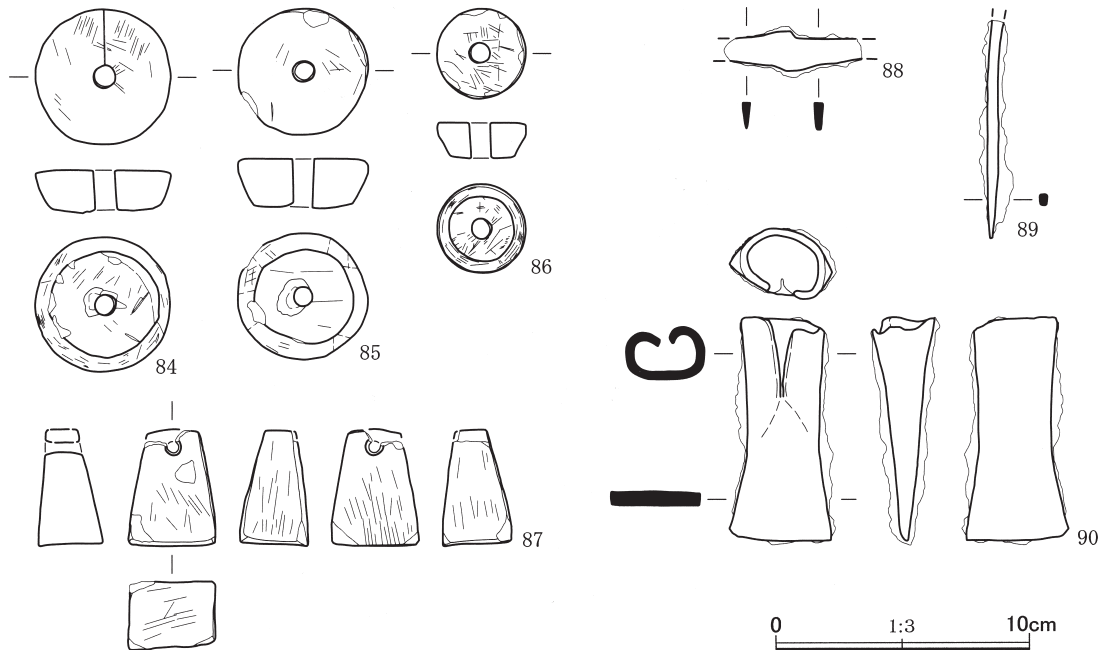
第107号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒（～0.5mm）・粘土粒（～1mm）・焼土粒（～1mm）を少量含み、ローム粒（～8mm）を微量含む。
- 第2層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～1mm）を少量含み、粘土粒（～0.5mm）・焼土粒（～2mm）を中量含む。粘性はやや強い。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒（～1mm）・焼土粒（～1mm）を少量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含み、焼土粒（～1mm）を微量含む。

第207図 第107号住居跡平面・断面図



第208图 第107号住居跡出土遺物(1)



第209図 第107号住居跡出土遺物（2）

第89表 第107号住居跡出土遺物観察表（1）

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	台付甕	口径 (14.5) 底径 — 器高 [17.3]	口縁部はコの字形を呈する。肩部が張る。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・角閃石 外－灰褐色 内－明赤褐色	口縁部～胴部 1/4残存
2	坏	口径 (11.1) 底径 7.0 器高 4.3	丸底気味。体部から口縁部にかけて内彎気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部ナデ後指頭圧痕。底部ヘラケズリ。内面－口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	片岩・白色粒・黒色粒 内外－橙色	口縁部一部欠損 内外面に漆付着
3	須恵器 坏	口径 13.2 底径 6.5 器高 4.2	平底。体部は内彎気味に開き、口縁部は外反する。ロクロ成形。	外面－ロクロナデ。底部右回転糸切り。内面－ロクロナデ。	白色粒・褐色粒 外－灰黄色 内－黄灰色	口縁部1/2欠損 還元焰焼成
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
4	土錘	長さ6.8、幅1.8、厚さ1.9、重さ18.62g。胎土：白色粒。色調：橙色。				ほぼ完形
5	土錘	長さ6.6、幅1.4、厚さ1.3、重さ10.82g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい褐色。				完形
6	土錘	長さ6.2、幅1.6、厚さ1.3、重さ12.41g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい赤褐色。				完形
7	土錘	長さ6.05、幅2.15、厚さ1.95、重さ23.36g。胎土：白色粒・雲母。色調：橙色。				完形
8	土錘	長さ[5.0]、幅1.85、厚さ1.2、重さ[10.91]g。胎土：白色粒。色調：にぶい黄褐色。				端部欠損
9	土錘	長さ5.55、幅1.5、厚さ1.3、重さ10.39g。胎土：白色粒・雲母。色調：にぶい褐色。				完形
10	土錘	長さ5.1、幅1.2、厚さ1.15、重さ5.74g。胎土：白色粒。色調：にぶい黄橙色。				完形
11	土錘	長さ5.05、幅1.3、厚さ1.2、重さ7.44g。胎土：黒色粒。色調：にぶい黄橙色。				完形
12	土錘	長さ5.0、幅1.8、厚さ1.2、重さ10.10g。胎土：黒色粒。色調：にぶい褐色。				完形
13	土錘	長さ5.0、幅1.25、厚さ1.05、重さ6.44g。胎土：白色粒・雲母。色調：にぶい黄橙色。				完形
14	土錘	長さ4.95、幅1.4、厚さ1.3、重さ8.33g。胎土：白色粒・雲母。色調：明赤褐色。				完形
15	土錘	長さ4.9、幅1.3、厚さ1.3、重さ8.20g。胎土：白色粒。色調：明褐色。				完形
16	土錘	長さ4.9、幅1.2、厚さ1.15、重さ6.69g。胎土：白色粒・雲母。色調：明黄褐色。				完形
17	土錘	長さ4.9、幅1.2、厚さ1.1、重さ6.54g。胎土：白色粒。色調：橙色。				完形
18	土錘	長さ4.85、幅2.2、厚さ2.15、重さ19.79g。胎土：白色粒・雲母。色調：にぶい褐色。				完形
19	土錘	長さ4.8、幅1.37、厚さ1.16、重さ7.64g。胎土：黒色粒。色調：にぶい赤褐色。				完形
20	土錘	長さ4.7、幅1.9、厚さ1.45、重さ12.53g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：明赤褐色。				完形
21	土錘	長さ4.7、幅1.65、厚さ1.5、重さ10.11g。胎土：白色粒。色調：にぶい褐色。				完形
22	土錘	長さ4.7、幅1.3、厚さ1.15、重さ7.36g。胎土：白色粒。色調：明赤褐色。				完形
23	土錘	長さ4.7、幅1.27、厚さ1.1、重さ6.02g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい褐色。				完形
24	土錘	長さ4.7、幅1.2、厚さ1.05、重さ5.97g。胎土：白色粒。色調：橙色。				完形
25	土錘	長さ4.65、幅1.3、厚さ1.2、重さ6.86g。胎土：白色粒・雲母。色調：にぶい褐色。				完形

第90表 第107号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
26	土錘	長さ4.65、幅1.58、厚さ1.3、重さ8.96g。胎土：白色粒・雲母。色調：にぶい褐色。	完形
27	土錘	長さ4.65、幅1.33、厚さ1.2、重さ7.21g。胎土：白色粒。色調：にぶい黄褐色。	完形
28	土錘	長さ4.6、幅1.2、厚さ1.1、重さ6.21g。胎土：白色粒・雲母。色調：にぶい黄褐色。	完形
29	土錘	長さ4.55、幅1.83、厚さ1.7、重さ14.33g。胎土：白色粒。色調：橙色。	完形
30	土錘	長さ4.55、幅1.15、厚さ1.05、重さ4.76g。胎土：白色粒。色調：明黄褐色。	完形
31	土錘	長さ4.55、幅1.1、厚さ1.1、重さ5.24g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい褐色。	完形
32	土錘	長さ4.5、幅1.75、厚さ1.3、重さ9.61g。胎土：白色粒。色調：にぶい黄褐色。	完形
33	土錘	長さ4.5、幅1.6、厚さ1.3、重さ9.28g。胎土：白色粒・雲母。色調：にぶい褐色。	完形
34	土錘	長さ4.5、幅1.55、厚さ1.32、重さ8.56g。胎土：白色粒・雲母。色調：にぶい黄褐色。	完形
35	土錘	長さ4.5、幅1.2、厚さ1.1、重さ6.15g。胎土：白色粒。色調：明赤褐色。	完形
36	土錘	長さ4.43、幅1.53、厚さ1.22、重さ9.92g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：褐色。	完形
37	土錘	長さ4.43、幅1.5、厚さ1.4、重さ9.03g。胎土：白色粒。色調：にぶい黄褐色。	完形
38	土錘	長さ4.4、幅1.3、厚さ1.25、重さ6.90g。胎土：白色粒。色調：にぶい褐色。	完形
39	土錘	長さ4.4、幅1.15、厚さ1.05、重さ5.25g。胎土：白色粒。色調：にぶい褐色。	完形
40	土錘	長さ4.38、幅1.5、厚さ1.52、重さ9.65g。胎土：白色粒・雲母。色調：にぶい褐色。	完形
41	土錘	長さ4.35、幅1.1、厚さ1.12、重さ4.61g。胎土：白色粒。色調：明赤褐色。	完形
42	土錘	長さ4.3、幅2.15、厚さ1.95、重さ14.84g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：明赤褐色。	完形
43	土錘	長さ4.3、幅1.5、厚さ1.4、重さ9.47g。胎土：白色粒・雲母。色調：にぶい褐色。	完形
44	土錘	長さ4.3、幅1.35、厚さ1.3、重さ7.07g。胎土：白色粒。色調：にぶい褐色。	完形
45	土錘	長さ4.3、幅1.28、厚さ1.2、重さ5.87g。胎土：白色粒。色調：にぶい褐色。	完形
46	土錘	長さ4.25、幅1.2、厚さ1.05、重さ5.02g。胎土：白色粒。色調：にぶい黄褐色。	完形
47	土錘	長さ4.2、幅1.5、厚さ1.3、重さ7.90g。胎土：白色粒・雲母。色調：にぶい褐色。	完形
48	土錘	長さ4.2、幅1.45、厚さ1.4、重さ8.48g。胎土：白色粒・雲母。色調：にぶい黄褐色。	完形
49	土錘	長さ4.2、幅1.02、厚さ0.9、重さ3.23g。胎土：白色粒。色調：にぶい褐色。	完形
50	土錘	長さ4.18、幅1.22、厚さ1.15、重さ5.68g。胎土：白色粒。色調：にぶい黄褐色。	完形
51	土錘	長さ4.15、幅1.6、厚さ1.3、重さ7.67g。胎土：白色粒。色調：にぶい褐色。	完形
52	土錘	長さ4.15、幅1.55、厚さ1.3、重さ8.10g。胎土：白色粒・雲母。色調：にぶい褐色。	完形
53	土錘	長さ4.14、幅1.15、厚さ1.03、重さ5.25g。胎土：白色粒・雲母。色調：褐色。	完形
54	土錘	長さ4.12、幅1.12、厚さ1.08、重さ4.38g。胎土：白色粒。色調：明褐色。	完形
55	土錘	長さ4.1、幅1.85、厚さ1.7、重さ11.81g。胎土：白色粒。色調：灰色。	完形
56	土錘	長さ4.1、幅1.3、厚さ1.25、重さ5.68g。胎土：白色粒。色調：褐色。	完形
57	土錘	長さ4.05、幅1.0、厚さ0.95、重さ4.12g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい褐色。	完形
58	土錘	長さ4.0、幅1.6、厚さ1.4、重さ8.46g。胎土：白色粒・雲母。色調：にぶい褐色。	完形
59	土錘	長さ4.0、幅1.45、厚さ1.4、重さ8.13g。胎土：白色粒。色調：褐色。	完形
60	土錘	長さ4.0、幅1.15、厚さ1.02、重さ4.62g。胎土：白色粒・雲母。色調：にぶい赤褐色。	完形
61	土錘	長さ4.0、幅1.15、厚さ1.0、重さ4.72g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：褐色。	完形
62	土錘	長さ3.98、幅1.0、厚さ0.9、重さ3.53g。胎土：白色粒・雲母。色調：褐色。	完形
63	土錘	長さ3.95、幅1.55、厚さ1.2、重さ6.95g。胎土：白色粒・雲母。色調：褐色。	完形
64	土錘	長さ3.9、幅1.6、厚さ1.4、重さ8.86g。胎土：白色粒・雲母。色調：にぶい褐色。	完形
65	土錘	長さ3.9、幅1.25、厚さ1.1、重さ5.50g。胎土：白色粒・角閃石。色調：にぶい赤褐色。	完形
66	土錘	長さ3.9、幅1.13、厚さ1.1、重さ4.79g。胎土：白色粒。色調：褐色。	完形
67	土錘	長さ3.9、幅1.1、厚さ1.05、重さ4.82g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：明赤褐色。	完形
68	土錘	長さ3.8、幅1.23、厚さ1.05、重さ4.79g。胎土：白色粒・雲母。色調：にぶい黄褐色。	完形
69	土錘	長さ3.8、幅1.13、厚さ1.1、重さ5.11g。胎土：白色粒・雲母。色調：明赤褐色。	完形
70	土錘	長さ3.8、幅1.12、厚さ1.05、重さ4.21g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：褐色。	完形
71	土錘	長さ3.68、幅1.0、厚さ0.9、重さ3.40g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：褐色。	完形
72	土錘	長さ3.65、幅1.0、厚さ0.8、重さ2.90g。胎土：白色粒。色調：にぶい黄褐色。	完形
73	土錘	長さ3.6、幅1.1、厚さ0.9、重さ3.64g。胎土：白色粒。色調：明褐色。	完形
74	土錘	長さ3.5、幅1.03、厚さ0.9、重さ3.02g。胎土：白色粒。色調：明赤褐色。	完形
75	土錘	長さ3.3、幅1.2、厚さ1.08、重さ3.88g。胎土：白色粒。色調：褐色。	完形
76	土錘	長さ3.2、幅1.0、厚さ0.9、重さ2.80g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：褐色。	完形
77	土錘	長さ3.2、幅1.1、厚さ0.9、重さ2.84g。胎土：白色粒。色調：褐色。	完形
78	土錘	長さ3.1、幅1.13、厚さ1.0、重さ3.29g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい褐色。	完形
79	土錘	長さ2.7、幅1.1、厚さ0.9、重さ2.17g。胎土：白色粒。色調：にぶい褐色。	完形

C地点

第91表 第107号住居跡出土遺物観察表(3)

No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
80	棒状土製品	第968図6、第437表参照。	No.6
81	棒状土製品	第968図7、第437表参照。	No.7
82	棒状土製品	第968図8、第437表参照。	No.8
83	棒状土製品	第968図9、第437表参照。	No.9
84	石製紡錘車	上面径5.55、下面径4.5、孔径0.9×0.9、厚さ1.75、重さ73.87g。石材：角閃石安山岩。調整：全体的に丁寧な研磨。特に上面は平滑。	ほぼ完形
85	石製紡錘車	上面径5.4、下面径4.1、孔径0.9×0.9、厚さ2.05、重さ75.31g。石材：角閃石安山岩。調整：側面を縦位に面取り後、全体的に丁寧な研磨。特に上面は平滑。	ほぼ完形
86	石製紡錘車	上面径3.7、下面径2.7、孔径0.85×0.85、厚さ1.45、重さ33.07g。石材：蛇紋岩。調整：全体的に丁寧な研磨。	完形
87	権状石製品	長さ[4.8]、幅3.6、厚さ2.8、重さ[60.89]g。石材：安山岩。調整：5面すべて、平滑。	一部欠損
88	鉄製品刀子?	長さ[5.7]、幅0.9～1.6、厚さ0.4、重さ[10.39]g。	破片
89	鉄製品不明	長さ[8.9]、幅0.45、厚さ0.5、重さ[11.36]g。	破片
90	鉄斧	全長9.4、袋柄幅3.4、袋柄厚0.3、刃幅4.2、重さ153.30g。袋状鉄斧。	ほぼ完形

平面形は、長方形である。規模は、いずれも現存部分での値になるが、主軸方向で6.15m、副軸方向で4.95m、主軸方位は、N-72°-Eである。床面中央からカマド前面にかけて、かなり不規則に、所々島状に硬化している。壁は、東・南壁はややゆるやかに立ち上がり、西・北壁は比較的急峻である。壁高は、いずれも10cm前後である。

本住居跡に伴うと思われるピットを、床面で2個検出したが、位置的に見て、支柱穴などの通常のピットではないようである。

カマドは、東壁の中央、若干南東隅寄りの位置に付設されている。短小な袖に挟まれた縦長の燃焼部が残存する。燃焼面はかすかに掘りくぼめられ作出されている。袖端を焚口端と見るなら、燃焼部の長さは84cm、横幅は52cmである。燃焼面、側壁、奥壁の極一部が、かすかに被熱赤化している。

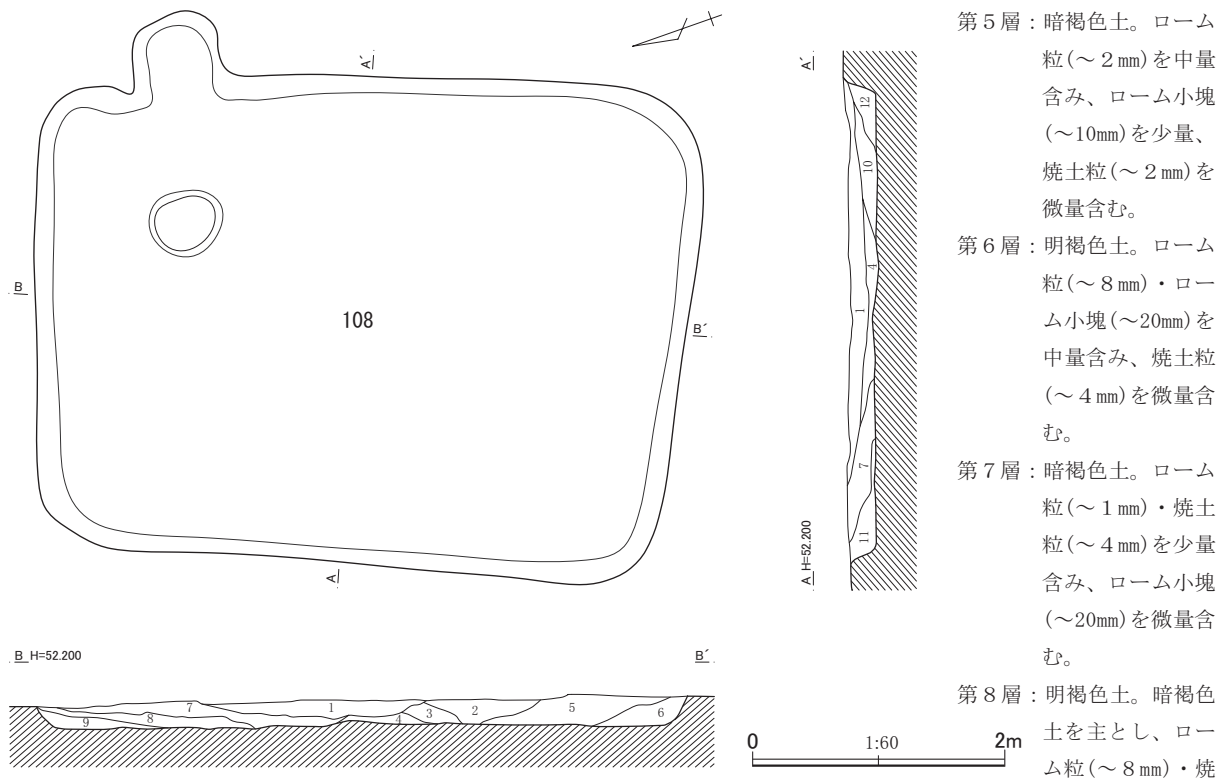
覆土は、暗褐色土を主に、ロームや焼土、炭化物などの多寡により7層に分けられた。第2・4層は、炭化物が目立つ特徴的な覆土である。

第208図1の台付甕、2の内面に漆の付着した坏、85の石製紡錘車は、北壁近くの床面直上から出土している。87の権状石製品は、北壁近くの北東隅寄りのやはり床面直上から出土している。重複関係、出土遺物から見て、平安時代前期後半の遺構と考えられる。

第108号住居跡(第210～212図、第92・93表、図版26・130)

調査地点の南東隅近く、T14・15グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第134・143・165・166・185・198・226・255号住居跡を切って造られている。確認面は、黄褐色のローム層上面であるが、本住居跡の上面は、部分的に粘土を含む土に覆われており、その粘土の広がりからも住居跡をある程度視認することができた。粘土を含む層の広がり、住居跡の範囲より広いため、断面図では覆土から除き図化している。

平面形は横長の長方形と見てよいのであろうが、北東壁と南西壁では、長さがかなり異なっている。規模は、主軸方向で3.87m、副軸方向で5.16m、主軸方位は、S-66°-Eである。床面中央からカ



第108号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を中量含み、焼土粒(～4mm)を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を中量含み、炭化物粒(～2mm)を少量、焼土粒(～4mm)を微量含む。
- 第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～6mm)・ローム小塊(～20mm)を中量含み、焼土粒(～2mm)を微量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含み、炭化物粒(～2mm)を微量含む。

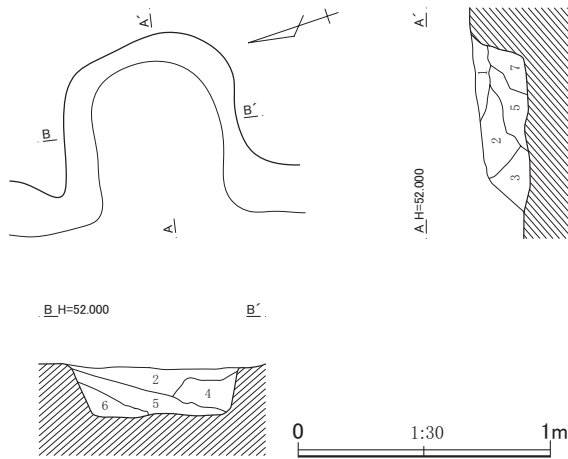
第210図 第108号住居跡平面・断面図(1)

マド前面にかけて、不規則に硬化している。壁の立ち上がり具合は、比較的ゆるやかで、壁高は、北西・南西壁で21cm、北東壁で19cm、南東壁で25cmである。

本住居跡に伴うかと思われる深さ10cmのピットを、カマド前面で1個検出したが、位置的に見て、主柱穴や貯蔵穴などの通有のピットではないようである。

カマドは、南東壁の東隅近くに付設されている。U字形に壁を掘り込んで造られており、袖は見られない。燃焼面はかすかに掘りくぼめられ作出されている。燃焼部の長さは70cm、横幅は50cmである。奥壁の裾が局所的に被熱赤化している。カマドの覆土は、7層に分けられた。ロームや焼土、粘土が不規則に含まれることが特徴になる。第2・3層にかなりの量含まれる粘土粒は、カマド構築材が崩れたものであろう。

覆土は、暗褐色土を主に、ロームや焼土、炭化物の多寡により12層に分けられた。第3・6・8層は、ロームをかなり含む特徴的な覆土である。重複関係、出土遺物から見て、平安時代前期後半の遺構と考えられる。



第108号住居跡カマド土層説明

第1層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)を多量に含み、ローム小塊(～20mm)を少量、焼土粒

(～1mm)を微量含む。粘性はやや強い。

第2層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)・粘土小塊(～20mm)・焼土粒(～2mm)を少量含み、粘土粒(～1mm)を中量含む。粘性はやや強い。

第3層：暗褐色土。粘土粒(～1mm)・炭化物粒(～2mm)・焼土粒(～1mm)を少量含み、粘土粒(～6mm)を中量含む。

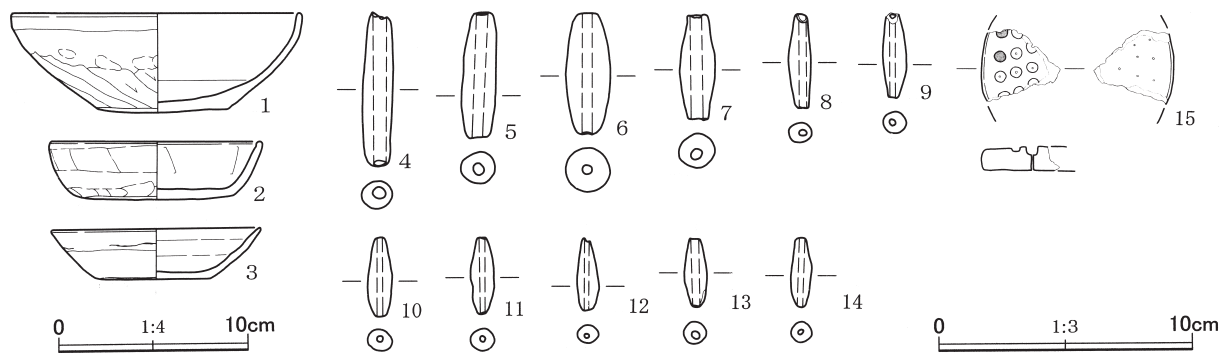
第4層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・炭化物粒(～2mm)・焼土粒(～1mm)を少量含み、焼土小塊(～4mm)を微量含む。

第5層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含み、焼土粒(～2mm)を微量含む。

第6層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)・粘土粒(～1mm)・焼土粒(～1mm)を少量含む。

第7層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含み、焼土粒(～2mm)を中量含む。

第211図 第108号住居跡平面・断面図(2)



第212図 第108号住居跡出土遺物

第92表 第108号住居跡出土遺物観察表(1)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	鉢	口径 15.6 底径 7.4 器高 5.5	丸みを帯びた平底。体部は内彎気味に開き、口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部上半ナデ後指頭圧痕。体部下半～底部ヘラケズリ。内面-口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・石英 内外-橙色	口縁部～体部2/3欠損
2	坏	口径 11.5 底径 8.0 器高 3.2	平底。体部から口縁部にかけて内彎気味に立ち上がる。口唇部内側に凹線がめぐる。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。底部ヘラケズリ。内面-口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒 内外-橙色	3/4残存
3	坏	口径 11.5 底径 6.4 器高 2.8	平底。体部から口縁部にかけて直線的に開く。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部ナデ。底部ヘラケズリ。内面-回転ナデ。	白色粒・黒色粒 内外-橙色	完形
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
4	土錘	長さ6.4、幅1.28、厚さ1.13、重さ8.60g。	胎土：白色粒。色調：褐灰色。			完形
5	土錘	長さ5.2、幅1.48、厚さ1.3、重さ10.18g。	胎土：白色粒。色調：明褐色。			完形
6	土錘	長さ5.0、幅1.85、厚さ1.8、重さ15.35g。	胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい橙色。			完形
7	土錘	長さ4.4、幅1.5、厚さ1.4、重さ7.95g。	胎土：白色粒。色調：黒色。			完形
8	土錘	長さ3.9、幅0.95、厚さ0.8、重さ3.00g。	胎土：白色粒・角閃石。色調：にぶい赤褐色。			ほぼ完形
9	土錘	長さ3.53、幅1.0、厚さ0.9、重さ3.11g。	胎土：白色粒。色調：明赤褐色。			完形
10	土錘	長さ3.25、幅1.0、厚さ0.85、重さ2.92g。	胎土：黒色粒。色調：黄灰色。			完形
11	土錘	長さ3.15、幅1.0、厚さ0.9、重さ2.62g。	胎土：白色粒。色調：灰黄色。			完形
12	土錘	長さ3.0、幅0.9、厚さ0.75、重さ1.71g。	胎土：白色粒。色調：にぶい橙色。			完形

第93表 第108号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
13	土錘	長さ2.8、幅0.95、厚さ0.9、重さ2.18g。胎土：黒色粒。色調：橙色。	ほぼ完形
14	土錘	長さ2.9、幅0.9、厚さ0.85、重さ1.81g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい黄橙色。	完形
15	ガラス小玉 鋳型	第948図5、第427表参照。	No.5

第109号住居跡(第213～215図、第94表、図版26・130)

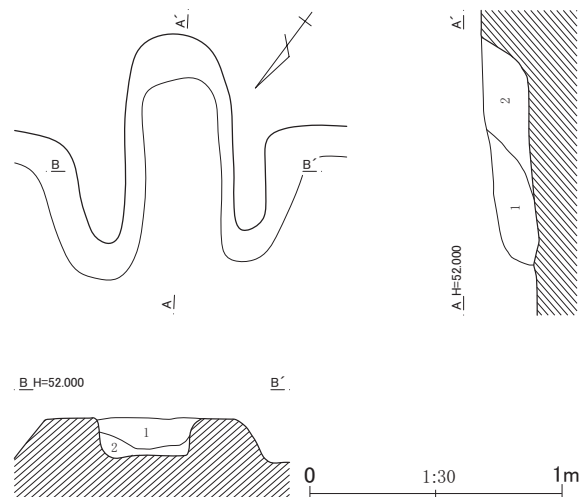
調査地点の南東隅近く、S14・15、T14グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第130・149・154・161・166・188・198・239号住居跡を切って造られている。また、第135号住居跡と重複する。なお、第141・185・239号住居跡とは、他の住居跡が介在し、直接切り合い関係にはないが、位置的には、重複する可能性が高いようである。

確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、正方形に近いと見てよいであろう。規模は、主軸方向で4.60m、副軸方向で4.45m、主軸方位は、S-32°-Eである。床面中央を中心に、軽微ではあるが、硬化している。壁は、比較的ゆるやかに立ち上がり、壁高は、南東壁で18cm、南西壁で31cm、北西壁で29cm、北東壁で20cmである。

P1～P4は、支柱穴であろう。平面形は、いずれも円形に近く、深さは、P1が35cm、P2が40cm、P3が14cm、P4が22cmである。

カマドは、南東壁のほぼ中央に微妙に斜行して付設されている。短い両袖に挟まれた縦長の燃焼部が残存する。燃焼面は、かすかに掘りく



第109号住居跡カマド土層説明

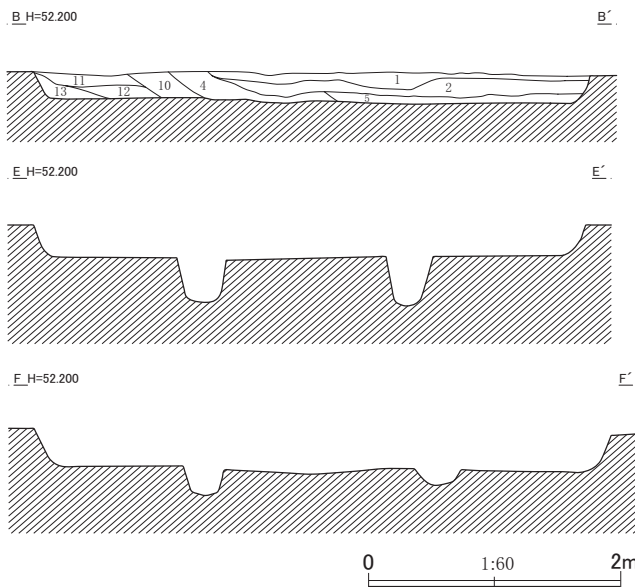
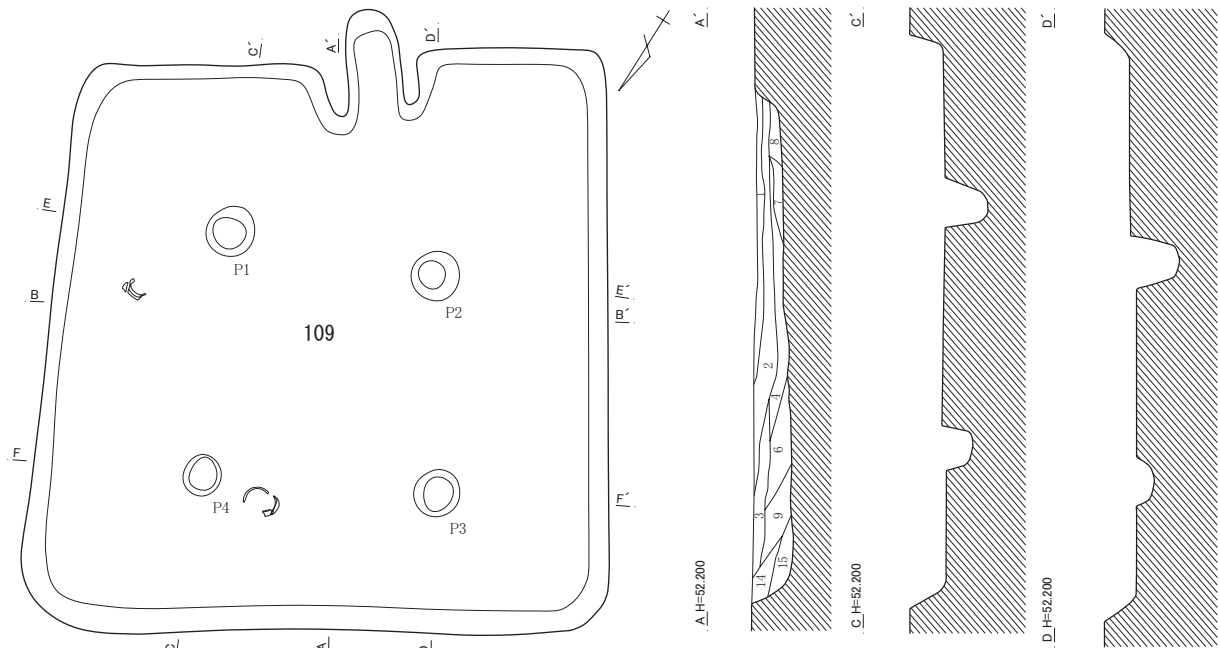
第1層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・焼土粒(～1mm)を少量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含み、ローム粒(～8mm)を微量、焼土粒(～4mm)を中量含む。

第213図 第109号住居跡平面・断面図(1)

第94表 第109号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手の特徴	調整・装飾手の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 12.4 底径 — 器高 3.2	丸底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。体部ナデ。底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外一灰黄色	3/4残存
2	須恵器 坏	口径 12.8 底径 7.8 器高 3.5	平底。体部から口縁部にかけて内彎気味に開く。ロクロ成形。	外面一ロクロナデ。底部回転糸切り後、周縁回転ヘラケズリ。内面一ロクロナデ。	片岩・白色粒 外一灰白色 内一にぶい褐色	口縁部1/5欠損、酸化焰焼成気味
No.	器種	法量(cm)・特徴			備考	
3	土錘	長さ6.4、幅1.4、厚さ1.3、重さ11.62g。胎土：白色粒・赤褐色粒。色調：明赤褐色。			完形	
4	ガラス小玉 鋳型	第948図6、第427表参照。			No.6	
5	棒状 土製品	第968図10、第437表参照。			No.10	
6	棒状 土製品	第968図11、第437表参照。			No.11	
7	棒状 土製品	第968図12、第437表参照。			No.12	
8	棒状 土製品	第968図13、第437表参照。			No.13	
9	棒状 土製品	第968図14、第437表参照。			No.14	



第109号住居跡土層説明

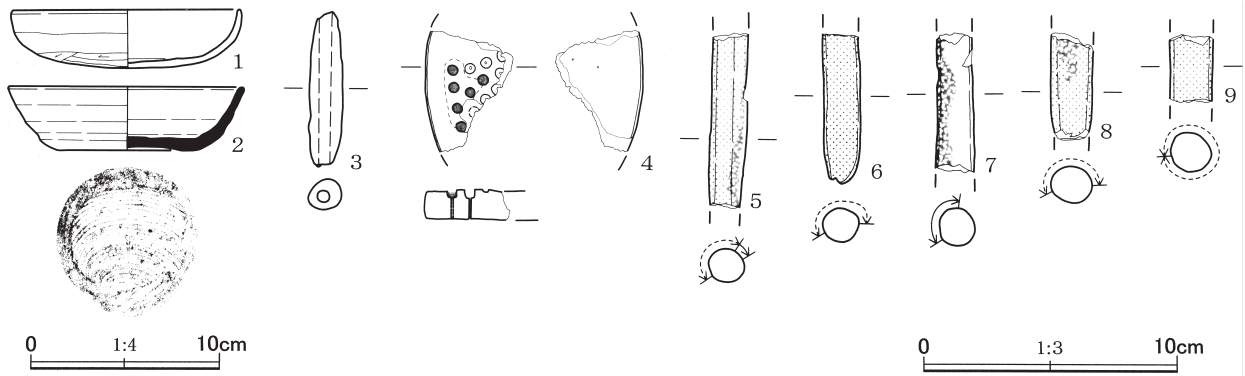
- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・焼土粒(～4mm)を少量含み、焼土小塊(～10mm)を微量含む。
- 第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)・粘土粒(～4mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)・粘土小塊(～50mm)を少量、焼土粒(～4mm)を微量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・焼土粒(～4mm)を微量含む。

- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含み、ローム小塊(～15mm)・焼土粒(～4mm)を微量含む。
- 第5層：暗褐色土。ローム粒(～6mm)を中量含み、ローム小塊(～15mm)・焼土粒(～2mm)を微量含む。
- 第6層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～0.5mm)を中量含み、炭化物粒(～1mm)を少量、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～4mm)・焼土小塊(～10mm)を微量含む。
- 第7層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～0.5mm)を中量含み、粘土小塊(～10mm)を微量含む。粘性はやや強い。
- 第8層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～1mm)・粘土小塊(～20mm)を中量含む。粘性はやや強い。
- 第9層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・焼土粒(～2mm)を少量含む。
- 第10層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～0.5mm)・ローム小塊(～10mm)を中量含む。
- 第11層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を微量含む。
- 第12層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を中量含み、焼土粒(～2mm)を微量含む。
- 第13層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～15mm)を中量含む。
- 第14層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を微量含む。
- 第15層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～15mm)を少量含む。

第214図 第109号住居跡平面・断面図(2)

ぼめられ作出されている。被熱赤化の痕跡は明瞭ではない。

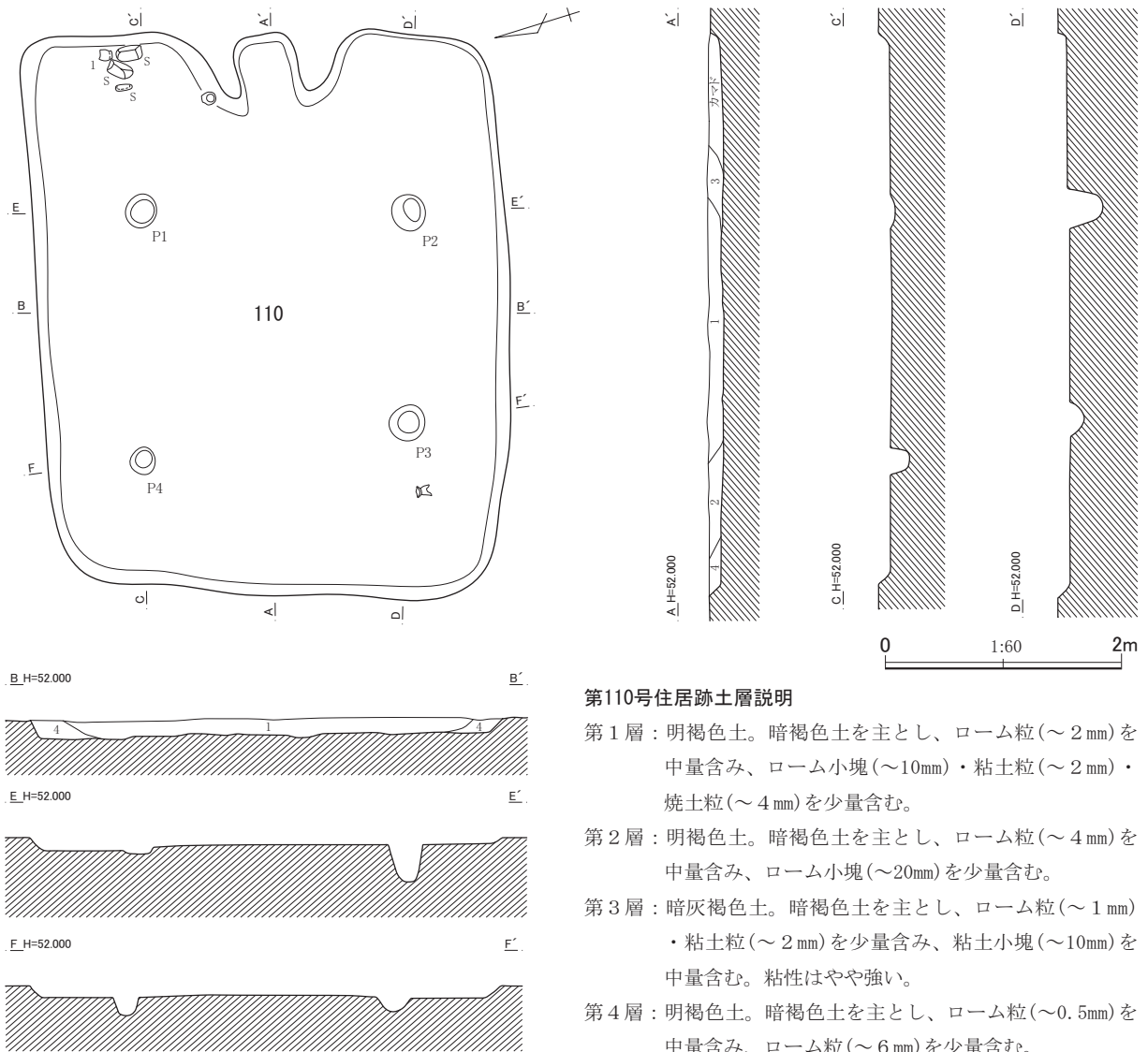
覆土は、暗褐色土を主に、ロームや焼土、粘土の多寡により15層に分けられた。埋没過程の初期には、北西、北東方向から漸次土が流入し、ある段階以降、一転してロームや粘土の塊の混じる土(第1・



第215図 第109号住居跡出土遺物

2層)が、南西、南東方向から流入して埋没した模様である。

図化していないが、甕破片が、P4脇の床面と北東壁近くの中央から出土している。重複関係、覆土、出土遺物から見て、奈良時代後半の遺構と考えられる。



第110号住居跡土層説明

第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)・粘土粒(～2mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。

第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)を少量含む。

第3層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)・粘土粒(～2mm)を少量含み、粘土小塊(～10mm)を中量含む。粘性はやや強い。

第4層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～0.5mm)を中量含み、ローム粒(～6mm)を少量含む。

第216図 第110号住居跡平面・断面図(1)

C地点

第110号住居跡（第216～218図、第95表、
図版26・130）

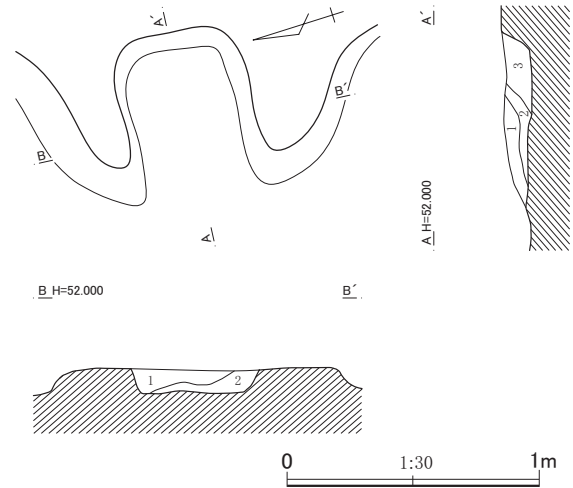
調査地点の南東隅近くのやや北西寄り、S13、
T13グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡
である。第125・205・216号住居跡を切って造
られている。確認面は、黄褐色のローム層上面
である。

平面形は、長方形である。規模は、主軸方向
で4.80m、副軸方向で5.23m、主軸方位は、S
-72° - Eである。床面には微妙な凹凸が見ら
れ、床面中央からカマドの左袖前面にかけて、
不規則に島状に硬化している。壁高は、東・西
壁で10cm、北壁で15cm、南壁で11cmである。

P1～P4は、支柱穴であろう。平面形は、
いずれも円形に近く、深さは、P1が6cm、P
2が33cm、P3が12cm、P4が15cmである。

カマドは、東壁のほぼ中央にやや斜行して付
設されている。短く太い両袖に挟まれた、やや
角張った燃焼部を有する形態で、
燃焼面はかすかに掘りくぼめら
れ作出されている。燃焼部の長
さは66cm、横幅は51cmである。
被熱赤化の痕跡は、不明瞭であ
る。

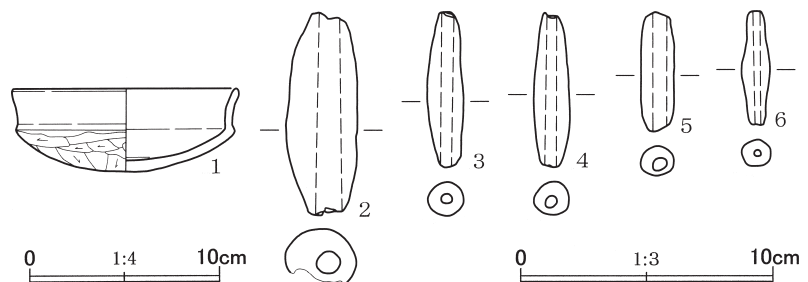
第218図1の坏は、カマド左
袖脇の東壁沿いの床面直上から、
人頭大を超える大きさの礫とともに出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期後葉
前半の遺構であろうか。



第110号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土。粘土粒（～1mm）を中量含み、焼土粒（～1mm）を少量含む。粘性はやや強い。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒（～1mm）・粘土粒（～0.5mm）を少量含み、焼土粒（～1mm）を微量含む。粘性はやや強い。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。

第217図 第110号住居跡平面・断面図（2）



第218図 第110号住居跡出土遺物

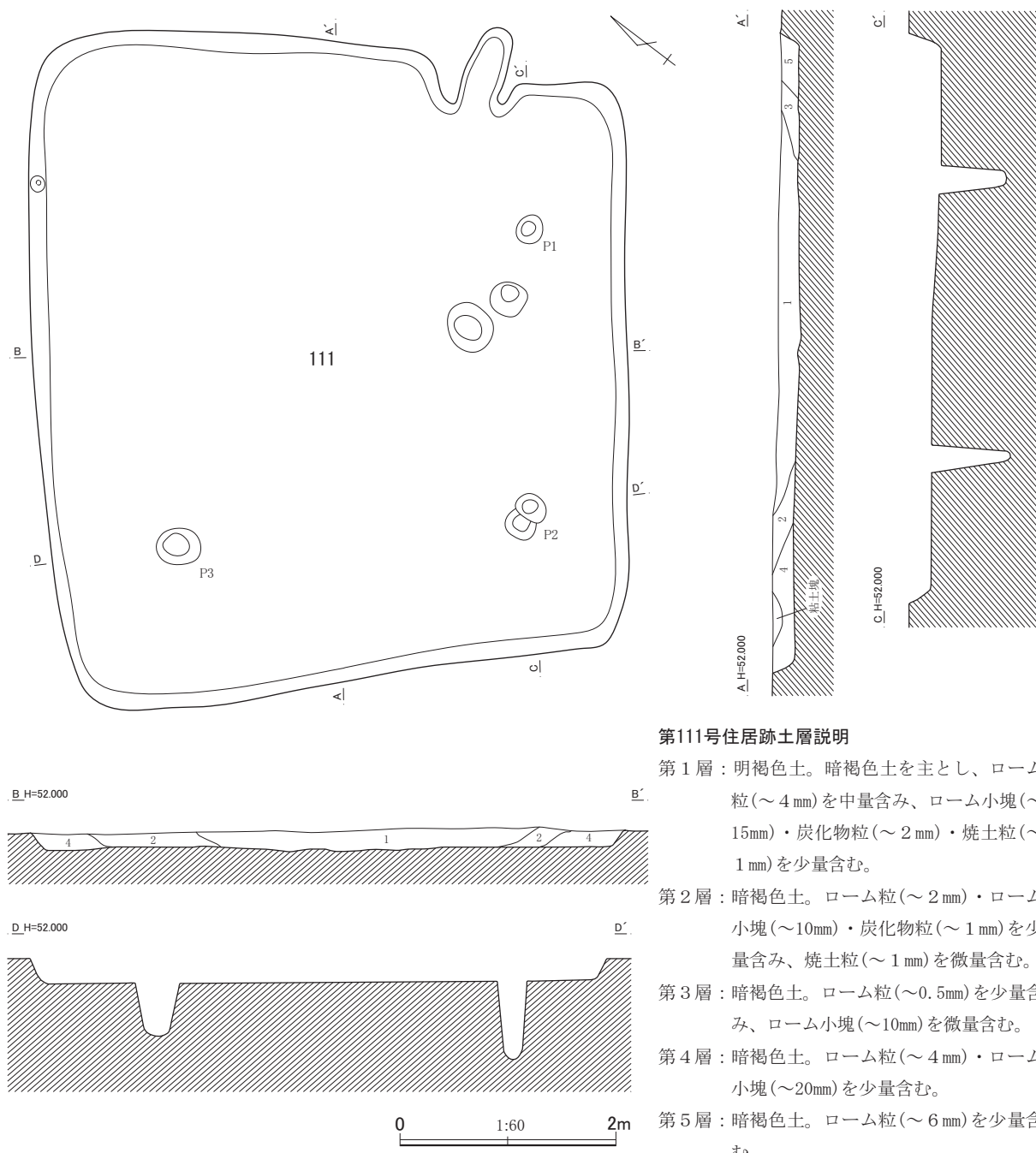
第95表 第110号住居跡土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手の特徴	調整・装飾手の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 (12.2) 底径 — 器高 4.5	丸底。口縁部は体部との境に稜をもち、外反気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒 外—にぶい褐色 内—にぶい橙色	2/3残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
2	土錘	長さ8.3、幅2.95、厚さ[2.25]、重さ[48.38]g。	胎土：白色粒・黒色粒。色調：橙色。		一部欠損	
3	土錘	長さ6.4、幅1.5、厚さ1.4、重さ12.11g。	胎土：白色粒・黒色粒。色調：明赤褐色。		完形	
4	土錘	長さ6.35、幅1.5、厚さ1.35、重さ12.51g。	胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい橙色。		完形	
5	土錘	長さ4.9、幅1.4、厚さ1.25、重さ7.83g。	胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい橙色。		完形	
6	土錘	長さ4.7、幅1.2、厚さ1.1、重さ5.33g。	胎土：白色粒。色調：褐灰色。		完形	

第111号住居跡（第219～222図、第96～98表、図版26・130・131）

調査地点の東縁脇の中央、U12・13グリッドに位置し、G群に含まれる住居跡である。第223・253・254・261・275号住居跡を切って造られている。また、第202・266・276号住居跡と重複関係にある。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、長方形と見てよいであろうが、対面する北西壁と南東壁の長さは、かなり異なっている。規模は、主軸方向で5.95m、副軸方向で5.53m、主軸方位は、N-51°-Eである。床面は微妙に凸凹しており、床面中央を中心に、ごく軽微ながらも、硬化している。壁の立ち上がりは、全体に比較的ゆるやかで、壁高は、北東壁で18cm、南東・北西壁で16cm、南西壁で21cmである。



第219図 第111号住居跡平面・断面図（1）

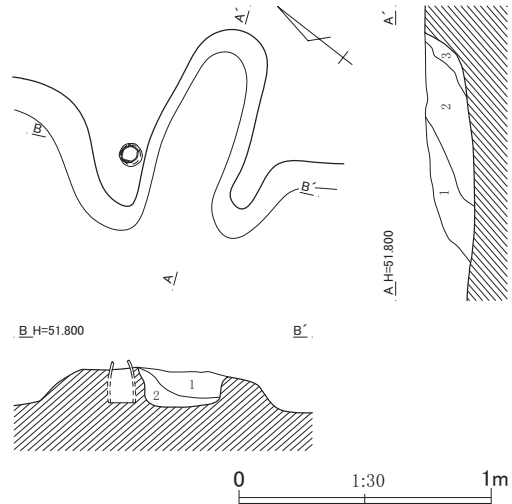
C地点

P 1～P 3は、支柱穴であろう。平面形はやや不整な楕円形で、深さは、P 1が63cm、P 2が73cm、P 3が50cmである。

カマドは、北東壁の中央よりかなり東壁に偏した位置に、かなり斜行して付設されている。短い袖に挟まれた縦長の燃焼部が残存する。左袖には、甕胴部片が埋め込まれている。燃焼部の長さは85cm、横幅は38cmである。側壁、奥壁の上部は、部分的に強く被熱赤化している。

住居跡の覆土は、暗褐色土を主とする5層に分けられた。壁際から埋まりはじめ、最終的にロームを比較的多く含む第1層が流入して埋没した模様である。

多数のガラス小玉鑄型片、棒状土製品が出土しているが、大半は、「床下」から出土したとされている。本住居跡は、掘り方に相当する床下の掘り込みを有さないため、「床下」出土遺物の多くは、本住居跡が切っている第275住居跡の覆土に含まれていた可能性が高いと思われる。図化しえたのは、覆土出土の3個体の坏であるが、3個体とも時期が異なる。重複関係および時期の最も新しい第221図3の坏から、古墳時代終末期後葉から奈良時代初頭にかけての遺構であるとした。



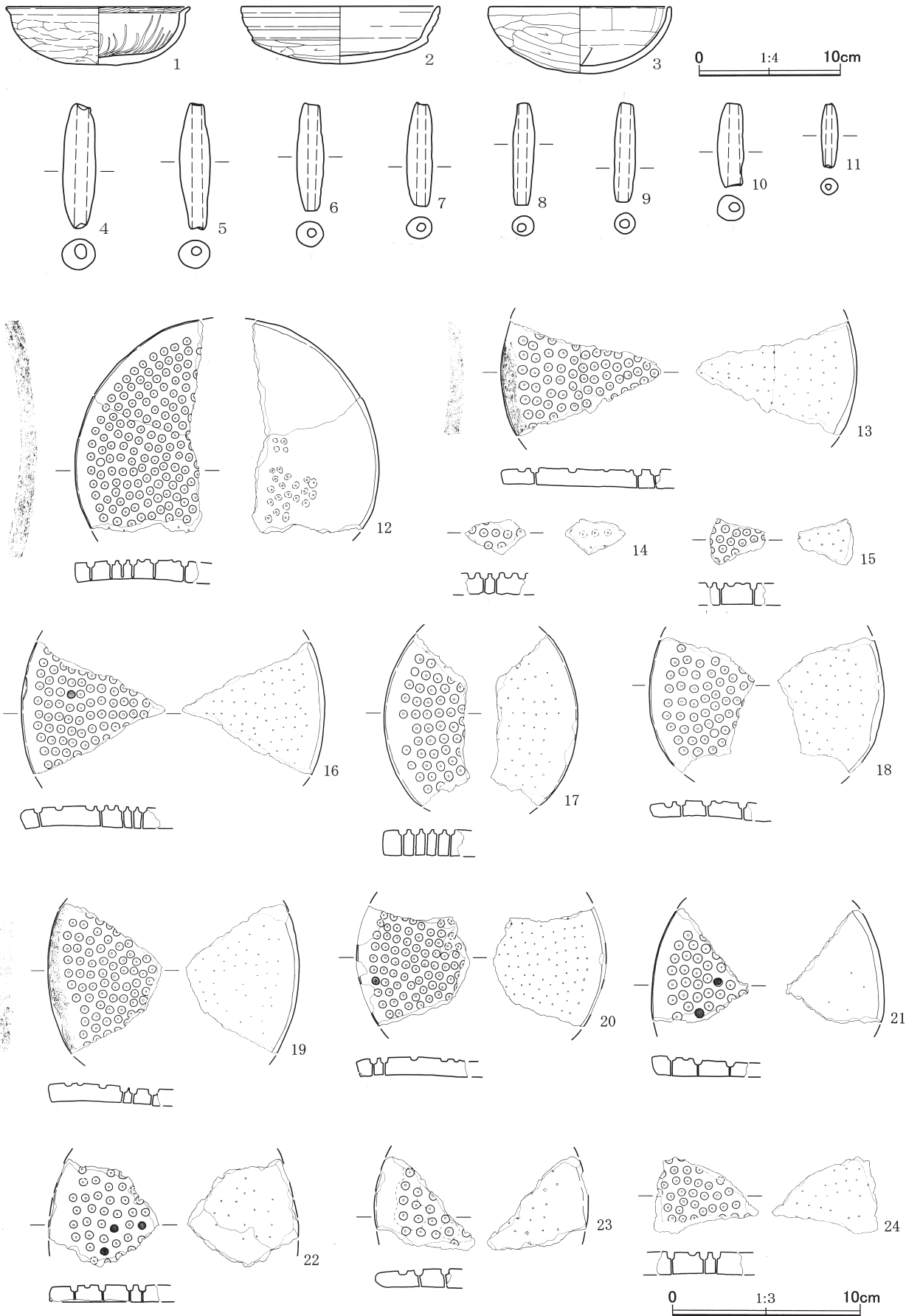
第111号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含み、焼土粒(～1mm)を微量含む。粘性はやや強い。
- 第2層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～6mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を微量、粘土粒(～4mm)・粘土小塊(～20mm)を少量含む。粘性はやや強い。
- 第3層：暗褐色土。焼土粒(～2mm)を少量含む。粘性はやや強い。

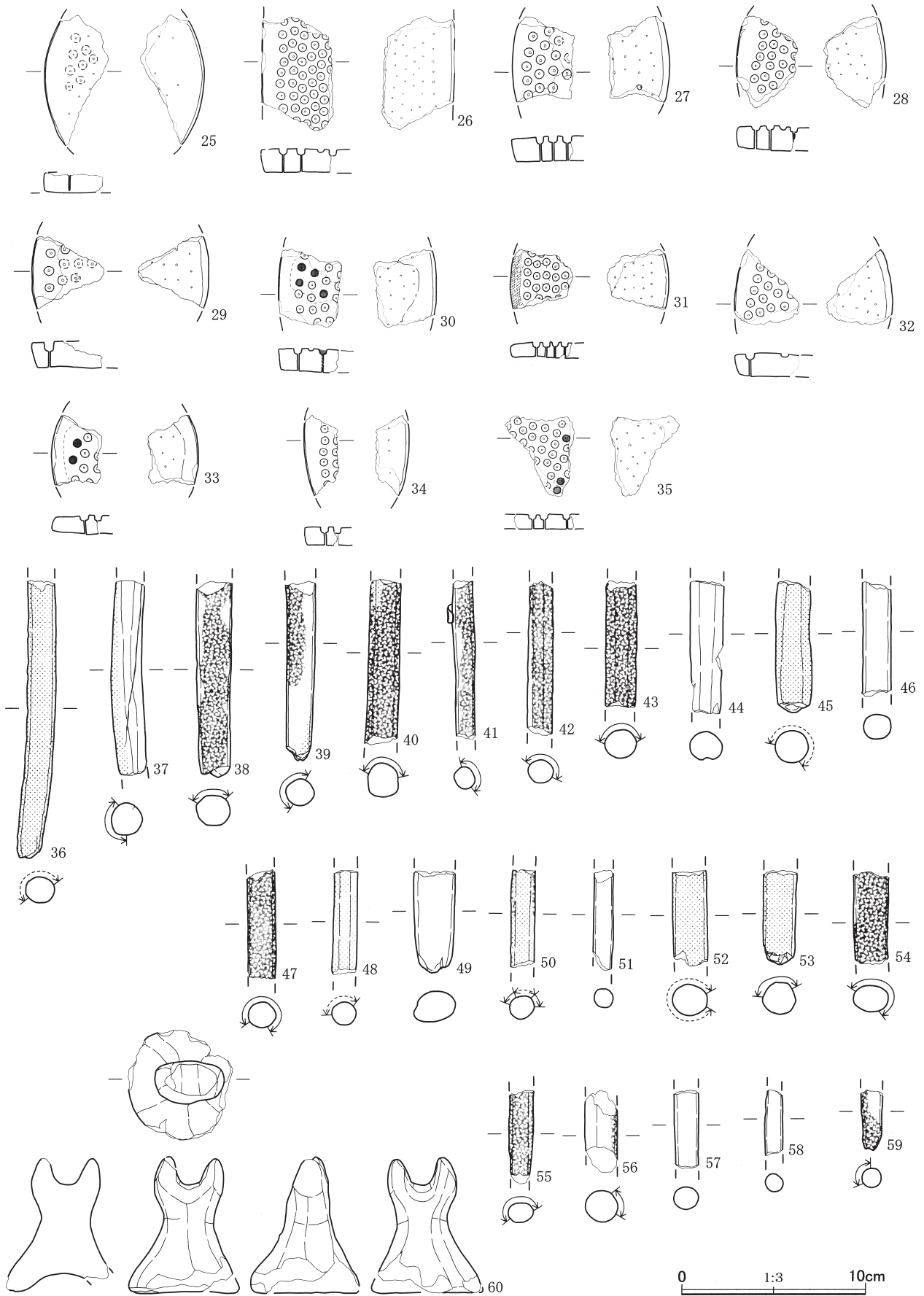
第220図 第111号住居跡平面・断面図(2)

第96表 第111号住居跡出土遺物観察表(1)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手の特徴	調整・装飾手の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 13.6 底径 — 器高 4.4	丸底。体部は彎曲し、口縁部は短く外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ、下端ヘラケズリ。底部ナデ。内面—口縁部木口状工具によるナデ。体部～底部ナデ後放射状暗文。	白色粒 内外—明赤褐色	2/3残存
2	坏	口径 14.8 底径 — 器高 3.8	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって内彎気味に開き、段を2段有する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—明赤褐色	口縁部1/4欠損
3	坏	口径 13.5 底径 — 器高 5.0	丸底。体部は彎曲し、口縁部は短く直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—明赤褐色	1/2残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
4	土錘	長さ7.0、幅1.85、厚さ1.2、重さ21.30g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：赤褐色。				完形
5	土錘	長さ7.1、幅1.75、厚さ1.55、重さ15.15g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：橙色。				完形
6	土錘	長さ6.0、幅1.5、厚さ1.4、重さ11.46g。胎土：白色粒。色調：橙色。				完形
7	土錘	長さ5.8、幅1.45、厚さ1.2、重さ10.37g。胎土：白色粒。色調：橙色。				完形
8	土錘	長さ5.7、幅1.2、厚さ1.1、重さ6.97g。胎土：白色粒・褐色粒。色調：黒褐色。				完形
9	土錘	長さ5.55、幅1.2、厚さ1.15、重さ7.95g。胎土：白色粒。色調：灰褐色。				完形
10	土錘	長さ4.7、幅1.5、厚さ1.4、重さ9.58g。胎土：白色粒。色調：にぶい黄褐色。				完形
11	土錘	長さ3.6、幅0.95、厚さ0.9、重さ2.70g。胎土：白色粒・黒色粒・褐色粒。色調：橙色。				完形
12	ガラス小玉鑄型	第948図7、第427表参照。				No.7
13	ガラス小玉鑄型	第948図8、第427表参照。				No.8



第221图 第111号住居跡出土遺物（1）



第222图 第111号住居跡出土遺物 (2)

第97表 第111号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
14	ガラス小玉 鋳型	第948図9、第427表参照。	No.9
15	ガラス小玉 鋳型	第948図10、第427表参照。	No.10
16	ガラス小玉 鋳型	第949図11、第427表参照。	No.11
17	ガラス小玉 鋳型	第949図12、第427表参照。	No.12
18	ガラス小玉 鋳型	第949図13、第427表参照。	No.13
19	ガラス小玉 鋳型	第949図14、第427表参照。	No.14
20	ガラス小玉 鋳型	第949図15、第427表参照。	No.15
21	ガラス小玉 鋳型	第949図16、第427表参照。	No.16
22	ガラス小玉 鋳型	第949図17、第427表参照。	No.17
23	ガラス小玉 鋳型	第949図18、第427表参照。	No.18
24	ガラス小玉 鋳型	第950図19、第427表参照。	No.19
25	ガラス小玉 鋳型	第950図20、第427表参照。	No.20
26	ガラス小玉 鋳型	第950図21、第428表参照。	No.21
27	ガラス小玉 鋳型	第950図22、第428表参照。	No.22
28	ガラス小玉 鋳型	第950図23、第428表参照。	No.23
29	ガラス小玉 鋳型	第950図24、第428表参照。	No.24
30	ガラス小玉 鋳型	第950図25、第428表参照。	No.25
31	ガラス小玉 鋳型	第950図26、第428表参照。	No.26
32	ガラス小玉 鋳型	第950図27、第428表参照。	No.27
33	ガラス小玉 鋳型	第950図28、第428表参照。	No.28
34	ガラス小玉 鋳型	第950図29、第428表参照。	No.29
35	ガラス小玉 鋳型	第951図30、第428表参照。	No.30
36	棒状 土製品	第968図15、第437表参照。	No.15
37	棒状 土製品	第968図16、第437表参照。	No.16
38	棒状 土製品	第968図17、第437表参照。	No.17
39	棒状 土製品	第968図18、第437表参照。	No.18
40	棒状 土製品	第968図19、第437表参照。	No.19
41	棒状 土製品	第968図20、第437表参照。	No.20
42	棒状 土製品	第968図21、第437表参照。	No.21
43	棒状 土製品	第968図22、第437表参照。	No.22
44	棒状 土製品	第969図23、第437表参照。	No.23
45	棒状 土製品	第969図24、第437表参照。	No.24
46	棒状 土製品	第969図25、第437表参照。	No.25
47	棒状 土製品	第969図26、第437表参照。	No.26
48	棒状 土製品	第969図27、第437表参照。	No.27
49	棒状 土製品	第969図28、第437表参照。	No.28
50	棒状 土製品	第969図29、第437表参照。	No.29
51	棒状 土製品	第969図30、第437表参照。	No.30
52	棒状 土製品	第969図31、第437表参照。	No.31
53	棒状 土製品	第969図32、第437表参照。	No.32

C地点

第98表 第111号住居跡出土遺物観察表(3)

No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
54	棒状土製品	第969図33、第437表参照。	No.33
55	棒状土製品	第969図34、第437表参照。	No.34
56	棒状土製品	第969図35、第438表参照。	No.35
57	棒状土製品	第969図36、第438表参照。	No.36
58	棒状土製品	第969図37、第438表参照。	No.37
59	棒状土製品	第969図38、第438表参照。	No.38
60	土製品 棒受状	長さ7.7、幅5.9、厚さ6.2、重さ[127.92]g。胎土：白色粒・黒色粒・褐色粒。色調：橙色。調整：ナデ。	端部欠損

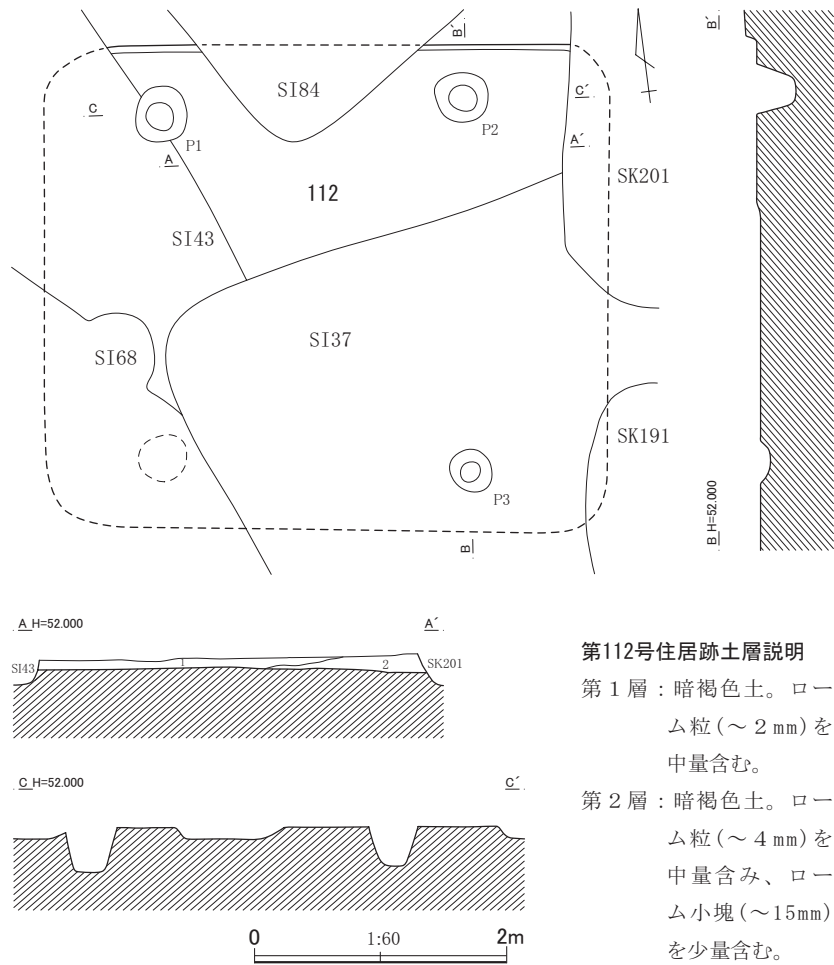
第112号住居跡(第223図)

調査地点の南西部のほぼ中央、N11、O11グリッドに位置し、E群に含まれる住居跡である。第37・43・68・84号住居跡、第191・201号土坑に切られ、遺構の大半は失われている。壁と床面からなるごくわずかな範囲と支柱穴の可能性のある3個のピットから住居跡と認定した遺構である。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

北壁の現存長は3.69mである。北壁と支柱穴の可能性のあるピットから見て、東西方向の方が長い、長方形に近い平面形を想定するのが無難であろう。床面はほぼ平坦で、明瞭に硬化している。北壁は比較的急峻

に立ち上がり、壁高は9cmである。P1～P3は、支柱穴の可能性のあるピットである。いずれも平面形は、やや不整な円形で、深さは、P1が36cm、P2が31cm、P3が7cmである。覆土は、暗褐色土を主とする第1・2層で、ともにロームをかなり含むことが特徴になる。

土師器片を主とする遺物が、覆土中より少量出土している。重複関係から見て、古墳時代後期後葉後半以前の遺構である可能性が考えられる。



第112号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を中量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を中量含む、ローム小塊(～15mm)を少量含む。

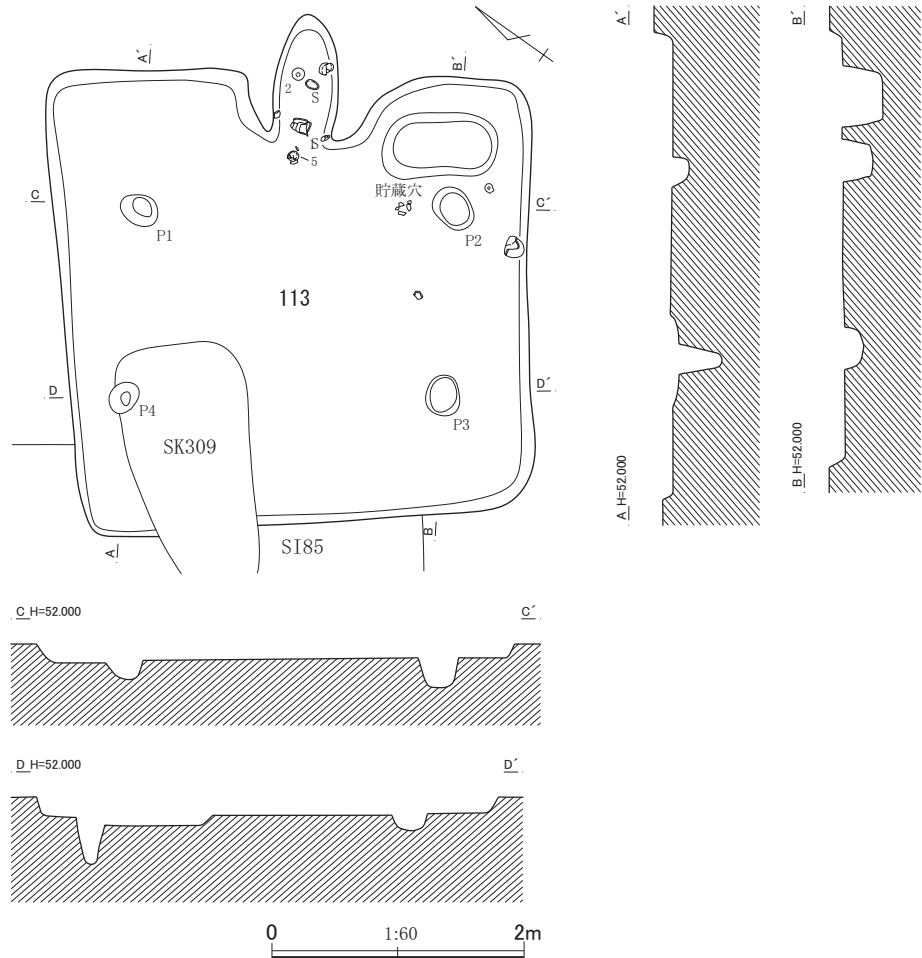
第223図 第112号住居跡平面・断面図

第113号住居跡

(第224～226図、第99表、図版26・132)

調査地点の南半のほぼ中央、Q12グリッドに位置し、F群に含まれる住居跡である。第114・137号住居跡を切り、第85号住居跡、第309号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、正方形である。規模は、主軸方向で3.60m、副軸方向で3.68m、主軸方位は、N-52°-Eである。床面はほぼ平坦で、床面中央は軽微ながらも硬化している。四壁は総



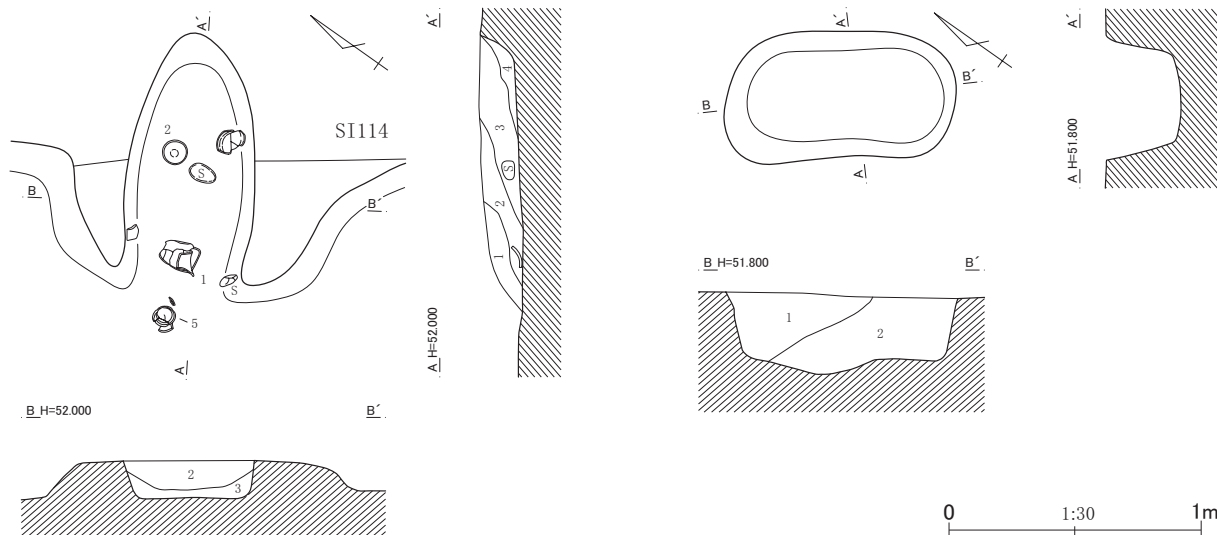
第224図 第113号住居跡平面・断面図(1)

じて急峻に立ち上がり、壁高は、北東・北西壁で14cm、南東壁で11cm、南西壁で7cmである。

P1～P4は支柱穴であろう。平面形は、いずれもやや不整な楕円形で、深さは、P1が15cm、P

第99表 第113号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 18.0 底径 4.6 器高 35.6	口縁部は外反する。胴部は上位にわずかな膨らみをもつ。丸みを帯びた平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 内外-にぶい黄橙色	1/3残存
2	台付甕	口径 14.1 底径 8.9 器高 16.1	口縁部は直立する。胴部は中位にわずかな膨らみをもつ。台部は内彎気味に開く。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部～台部上半ヘラケズリ。台部下半ナデ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部～台部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・石英 内外-にぶい黄橙色	ほぼ完形
3	短頸壺	口径 12.4 底径 — 器高 12.8	丸底。体部は中位に丸みをもつ。口縁部は内傾し、口唇部内側に凹線がめぐる。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・石英 内外-にぶい黄橙色	ほぼ完形
4	坏	口径 12.0 底径 — 器高 4.1	丸底。口縁部は体部との境に弱い稜をもって外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面-口縁部～体部上半ヨコナデ。体部下半～底部ヘラナデ。	褐色粒 内外-橙色	3/4残存
5	坏	口径 12.2 底径 — 器高 4.3	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外傾し、中位に段を有する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。口縁部黒色処理。内面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。黒色処理。	白色粒・角閃石・石英 内外-黒褐色	口縁部1/4欠損
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
6	土錘	長さ7.1、幅2.2、厚さ2.0、重さ33.22g。胎土：白色粒・黒色粒・褐色粒・雲母。色調：橙色。				完形
7	棒状土製品	第969図39、第438表参照。				No.39



第113号住居跡カマド土層説明

第1層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒（～0.5mm）を中量含み、焼土粒（～1mm）を少量含む。粘性はやや強い。

第2層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒（～4mm）を中量含み、粘土小塊（～20mm）を多量に、焼土粒（～4mm）を少量、炭化物粒（～2mm）を微量含む。粘性はやや強い。

第3層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒（～4mm）・粘土小塊（～20mm）を中量含み、焼土粒（～4mm）・焼

土小塊（～15mm）を少量含む。

第4層：暗褐色土。粘土粒（～0.5mm）を少量含み、焼土粒（～4mm）を微量含む。粘性はやや強い。

第113号住居跡貯蔵穴土層説明

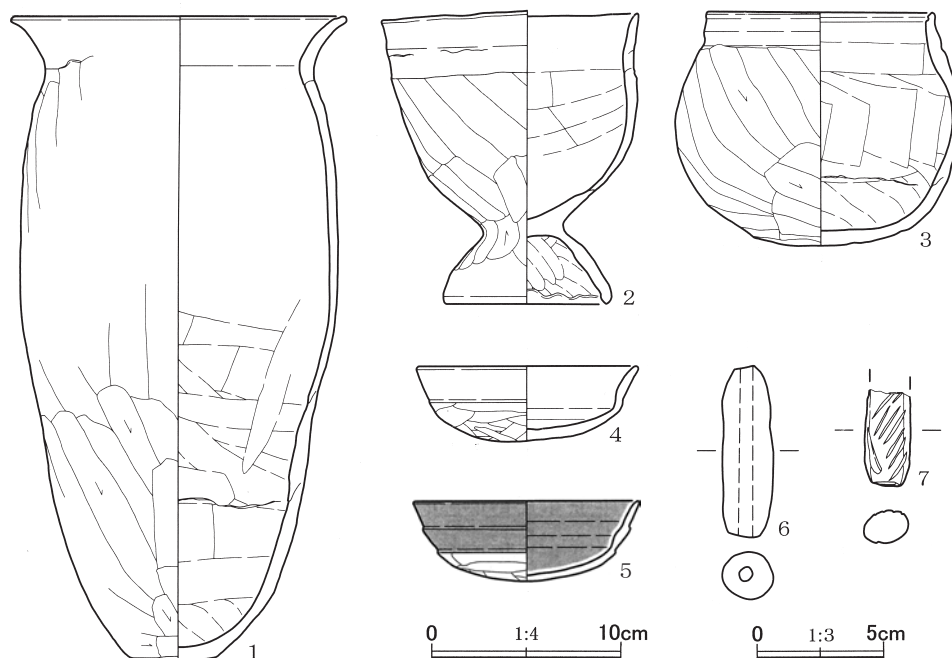
第1層：暗褐色土。ローム粒（～4mm）を中量含み、焼土粒（～1mm）を微量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒（～2mm）・ローム小塊（～20mm）を中量含む。

第225図 第113号住居跡平面・断面図（2）

2が24cm、P 3が14cm、P 4が40cmである。東隅と右袖の間にピットは、貯蔵穴であろう。平面形は、長楕円形で、長径93cm、短径50cm、深さは32cmである。底面はかなり凸凹している。総じてロームを多く含む覆土で、とくに第2層とした下部の土層は、ロームが多い。

カマドは、北東



第226図 第113号住居跡出土遺物

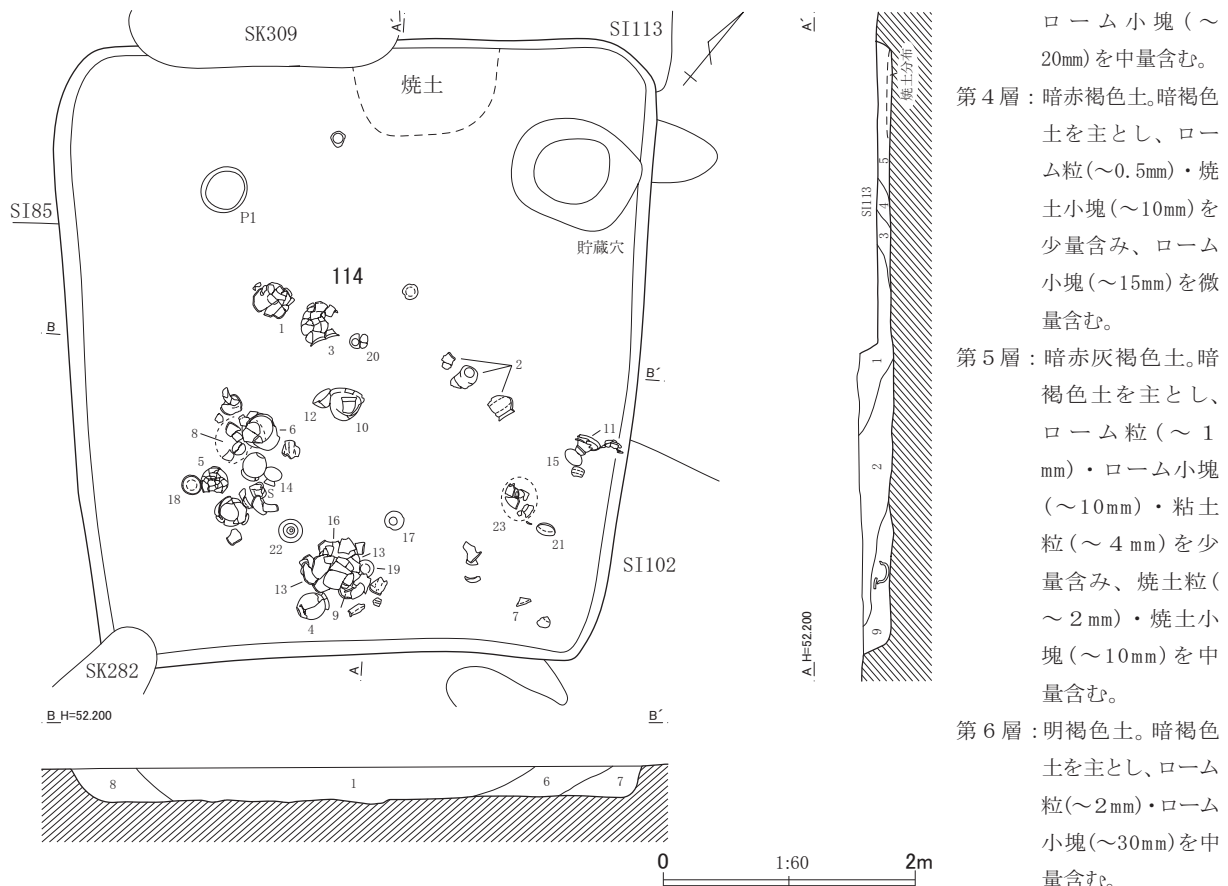
壁の中央に微妙に斜行して付設されている。半島状に突き出た袖に挟まれた縦長の燃焼部が残存する。燃焼面は、かすかに掘りくぼめて作出されている。袖端を末端とすれば、燃焼部の長さは103cm、横幅は51cmである。側壁、奥壁は、軽微ながらも被熱赤化している。

第226図1の甕、2の小型台付甕、5の有段口縁坏は、カマド内から出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期後葉後半の遺構である。

第114号住居跡（第227～230図、第100～102表、図版27・132・133）

調査地点の南半のほぼ中央、Q12・13グリッドに位置し、F群に含まれる住居跡である。第85・102・113号住居跡、第282・309号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。また、第137号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、長方形に近いが、北西壁が南東壁に比しかなり長く歪である。規模は、主軸方向で4.86m、副軸方向で4.56m、主軸方位はN-39°-Wである。床面は、主に北隅と南隅を結ぶ幅広の帯状の範囲が硬化しており、とくにその帯状の住居跡中央の硬化が顕著である。壁の立ち上がり具合は、



第114号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～6mm)を少量含み、ローム小塊(～30mm)を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～25mm)・炭化物粒(～1mm)・炭化物小塊(～10mm)を少量含む。
- 第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)・

- 第4層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～0.5mm)・焼土小塊(～10mm)を少量含み、ローム小塊(～15mm)を微量含む。
- 第5層：暗赤灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)・ローム小塊(～10mm)・粘土粒(～4mm)を少量含み、焼土粒(～2mm)・焼土小塊(～10mm)を中量含む。
- 第6層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)・ローム小塊(～30mm)を中量含む。
- 第7層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。
- 第8層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・ローム小塊(～30mm)を少量含む。
- 第9層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を少量含む。

第227図 第114号住居跡平面・断面図(1)

C地点

北西・北東壁が比較的急で、南西・南東壁はややゆるやかである。壁高は、北西壁で12cm、北東壁で24cm、南東壁で22cm、南西壁で26cmである。

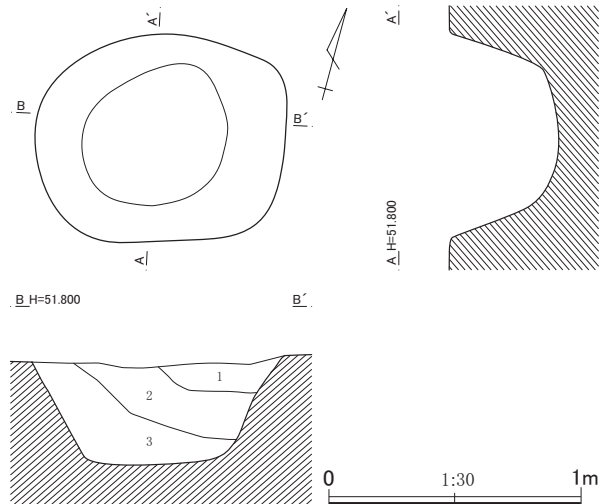
P 1は、支柱穴であろうか。平面形は、やや不整な円形で、深さは21cmである。北隅近くの北東壁に接するピットは、貯蔵穴であろう。

平面形は、かなり歪な楕円形で、長径98cm、短径83cm、深さは43cmである。

カマドは、北西壁の中央の多少北隅寄りに設けられていたらしく、その部分に焼土がかなり集中して残るとともに、粘土小塊が散っていた。

覆土は、暗褐色土を主とする9層で、第5層は、カマドの痕跡をとどめる部分の覆土である。

第229図1～5・7・8の大型・小型の甕、9の小型台付甕、6・10～12の甑、13の大型壺、14・15の直口壺、16～21の鉢、22・23の高坏などの完形、半完形の多量の土器が、住居跡中央から南東壁側にかけての、上層から床面にわたる高低の幅をもって出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代中期末葉の遺構と考えられる。



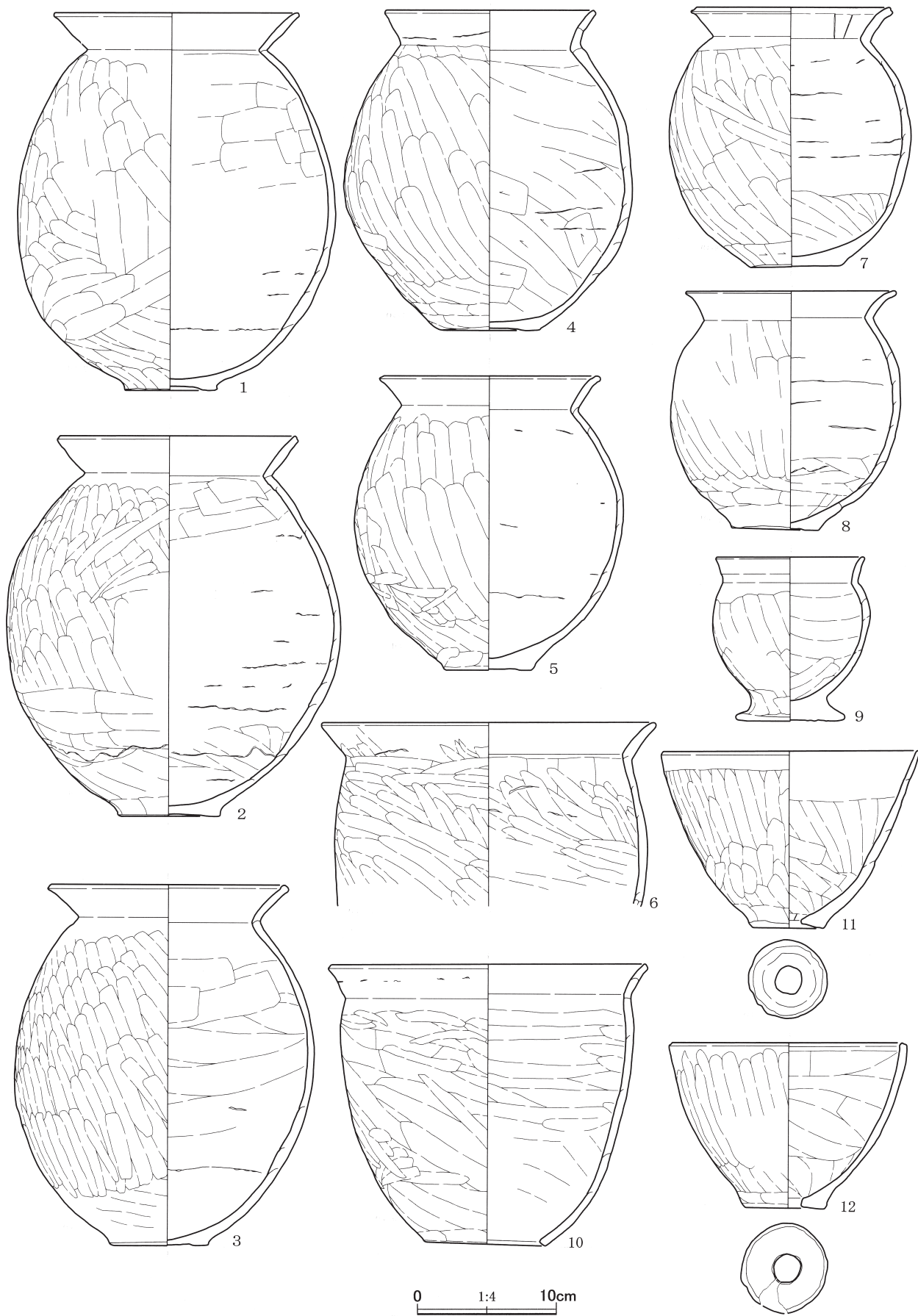
第114号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を中量含み、炭化物小塊(～10mm)を微量含む。
- 第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を多量に含み、ローム小塊(～10mm)を中量、焼土粒(～2mm)を少量含む。

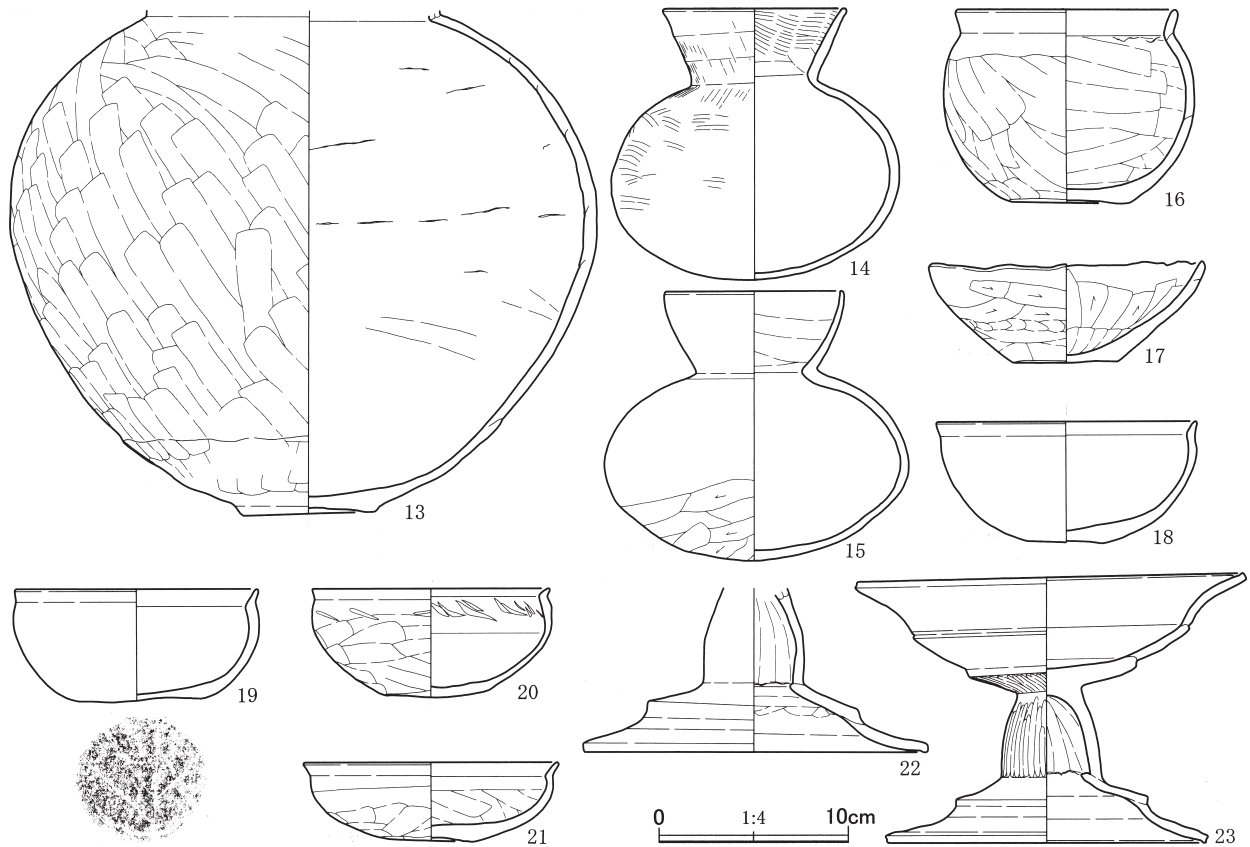
第228図 第114号住居跡平面・断面図(2)

第100表 第114号住居跡出土遺物観察表(1)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 (18.0) 底径 6.7 器高 28.3	口縁部は外反する。胴部は中位に膨らみをもつ。底部は上げ底気味。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・角閃石・雲母 内外－橙色	2/3残存
2	甕	口径 (17.5) 底径 7.3 器高 28.5	口縁部は外反する。胴部は中位に膨らみをもつ。底部は上げ底気味。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・チャート 外－にぶい橙色 内－にぶい褐色	口縁部3/4欠損
3	甕	口径 17.9 底径 6.8 器高 27.1	口縁部は外反する。胴部は中位に膨らみをもつ。底部は上げ底気味。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・角閃石・雲母 外－明赤褐色 内－橙色	ほぼ完形
4	甕	口径 15.7 底径 6.3 器高 23.0	口縁部は外反する。胴部は中位に膨らみをもつ。底部は上げ底気味。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。胴部下位ヘラケズリ。	白色粒・黒色粒・雲母 内外－にぶい黄橙色	ほぼ完形
5	甕	口径 (16.0) 底径 6.7 器高 22.0	口縁部は外反する。胴部は中位に膨らみをもつ。底部は上げ底気味。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・赤褐色粒・角閃石 内外－橙色	口縁部1/2欠損
6	甑	口径 24.8 底径 — 器高 [13.8]	胴部は上～中位に膨らみをもつ。口縁部は外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・雲母 内外－明赤褐色	胴部中位～底部欠損



第229图 第114号住居跡出土遺物(1)



第230図 第114号住居跡出土遺物（2）

第101表 第114号住居跡出土遺物観察表（2）

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
7	小型甕	口径 14.4 底径 6.7 器高 19.5	口縁部は外反する。口唇部は外側に面をもち、凹線がめぐる。胴部は中位に膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ、下端ヘラケズリ。底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・赤褐色粒・角閃石 外－にぶい橙色 内－灰褐色	完形
8	小型甕	口径 (15.5) 底径 6.5 器高 17.9	口縁部は外反する。胴部は中位に膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・赤褐色粒・角閃石 内外－橙色	口縁部1/2欠損
9	小型台付甕	口径 10.9 底径 8.2 器高 12.3	口縁部は短く外反する。胴部は上～中位に膨らみをもつ。台部は中実で「ハ」字状に開く。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部～台部ヘラナデ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒 外－にぶい黄橙色 内－灰黄色	一部欠損
10	甕	口径 23.4 底径 9.0 器高 21.0	口縁部は外反する。胴部は膨らみをもたない。底部は筒抜け。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ、下端ヘラケズリ。	白色粒・赤褐色粒 内外－橙色	ほぼ完形
11	小型甕	口径 19.0 底径 5.2 器高 13.3	胴部から口縁部にかけて直線的に外傾する。平底で孔径2.1×2.0cmの円孔が開く。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ、端部ヘラケズリ。	白色粒 内外－橙色	ほぼ完形
12	小型甕	口径 17.2 底径 5.9 器高 12.4	胴部から口縁部にかけて緩やかに内彎する。平底で孔径2.1×2.05cmの円孔が開く。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ、端部ヘラケズリ。	白色粒・赤褐色粒 外－明赤褐色 内－にぶい橙色	一部欠損
13	大型壺	口径 — 底径 7.2 器高 [27.5]	胴部は中位が張る。底部は上げ底気味。粘土紐積み上げによる成形。	外面－胴部ヘラナデ。底部ヘラケズリ。内面－胴部～底部ナデ。	白色粒 外－赤色 内－明赤褐色	口縁部～頸部欠損
14	壺	口径 9.8 底径 — 器高 14.9	口縁部は外反する。胴部は中位が大きく膨らむ。丸底。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ハケメ後ナデ。胴部～底部ナデ後ミガキ。内面－口縁部ハケメ後ナデ。胴部～底部ナデ。	白色粒 内外－橙色	完形

第102表 第114号住居跡出土遺物観察表(3)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
15	壺	口径 9.8 底径 — 器高 14.8	口縁部は内彎気味に外傾する。胴部は中位が大きく膨らむ。丸底。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部上位ナデ。胴部下位～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部～底部ナデ。	白色粒・雲母 内外—橙色	ほぼ完形
16	鉢	口径 (11.9) 底径 6.8 器高 10.8	平底。体部は中位に膨らみをもつ。口縁部は短く外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ナデ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・雲母 外—灰褐色 内—にぶい赤褐色	一部欠損
17	鉢	口径 14.9 底径 5.8 器高 5.6	平底。体部は強く外傾し、口縁部は緩やかに内彎する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ナデ。体部ヘラケズリ後、下半ナデ。底部ナデ。内面—口縁部ナデ。体部ヘラケズリ、下半～底部ナデ。	白色粒・角閃石 内外—赤褐色	ほぼ完形
18	鉢	口径 14.2 底径 4.2 器高 6.7	上げ底気味の平底。体部は彎曲し、口縁部は短く外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ナデ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ナデ。	白色粒・角閃石 内外—にぶい赤褐色	ほぼ完形
19	鉢	口径 13.3 底径 6.8 器高 6.2	上げ底気味の平底。体部は彎曲し、口縁部は短く外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ナデ。底部木葉痕。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ナデ。	白色粒・角閃石 内外—灰褐色	ほぼ完形
20	鉢	口径 13.1 底径 5.6 器高 6.0	丸底気味。体部は彎曲し、口縁部は短く外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ナデ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ナデ。	白色粒・雲母 外—灰褐色 内—赤褐色	一部欠損
21	鉢	口径 14.0 底径 4.4 器高 4.4	上げ底気味の平底。体部は彎曲し、口縁部は短く外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ナデ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ナデ。	白色粒・雲母 内外—にぶい赤褐色	一部欠損
22	高坏	口径 — 底径 18.8 器高 [9.0]	脚部は膨らみをもつ。裾部は段を有する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—脚部ナデ。裾部ヨコナデ。内面—脚部～裾部上位ナデ。裾部下位ヨコナデ。	白色粒・雲母 内外—橙色	坏部欠損
23	高坏	口径 (21.2) 底径 (17.4) 器高 (14.8)	口縁部は外反し、中位に段を有する。坏部との境に稜をもつ。脚部は短く、裾部は段を有する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。坏部～脚部ミガキ。裾部ヨコナデ。内面—口縁部～坏部ヨコナデ。坏底部ナデ。脚部ナデ。裾部ヨコナデ。	白色粒・雲母 内外—橙色	1/2残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
24	炭化種子	長さ[1.5]、幅[1.2]、厚さ[1.1]、重さ[0.82]g。バラ科植物(モモまたはウメ)の種子の破片				写真のみ

第115号住居跡(第231・232図、第103・104表、図版27・133)

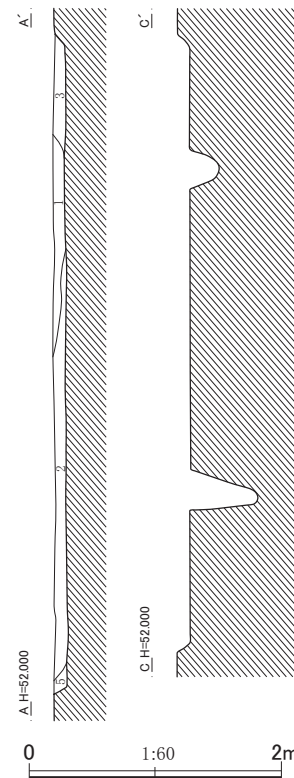
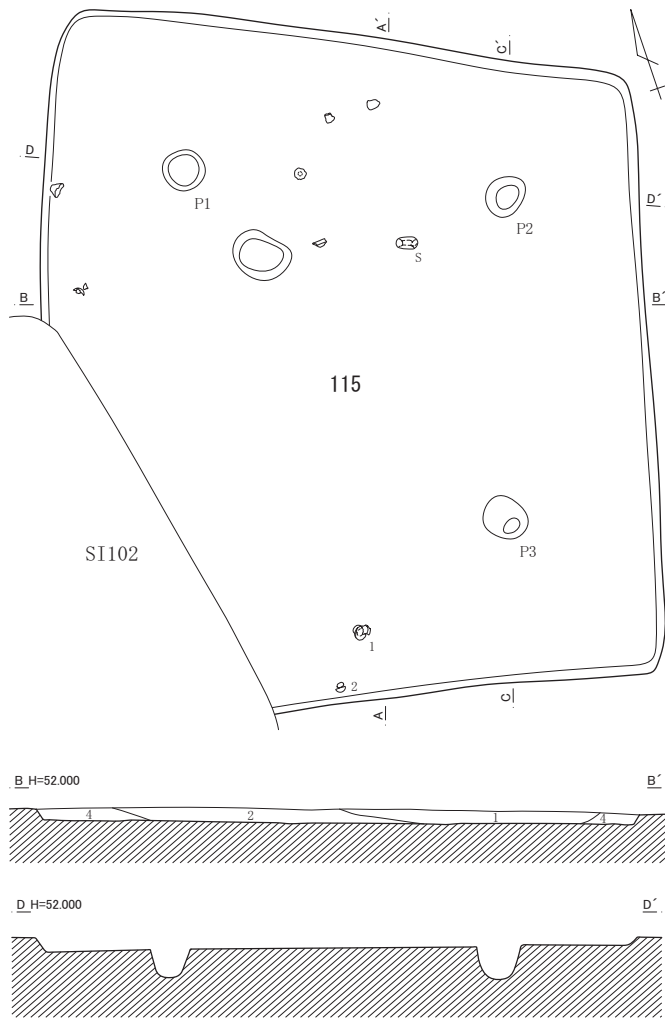
調査地点の南半のほぼ中央、R12・13グリッドに位置し、F群に含まれる住居跡である。第133号住居跡を切っており、第299号土坑に切られ、南西隅周辺を大きく壊されている。また、第102号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、南北方向に長い長方形と見てよいのであろうが、北東隅が鈍角なためかなり歪な形である。規模は、南北方向で5.25m、東西方向で4.81m、南北方向を主軸と見るなら、主軸方位はN-19°-Eである。床面は、中央から北壁際にかけて、軽微でむらがあるが、硬化している。壁の立ち上がり具合は、北壁がややゆるやかで、他は比較的急峻である。壁高は、北壁で8cm、東壁で7cm、南・西壁で9cmである。

P1～P3は、支柱穴である。平面形はいずれもやや不整な円形で、深さは、P1が24cm、P2が26cm、P3が53cmである。4つ目の支柱穴が、第102号住居跡に壊された範囲にあったとすれば、南西隅はかなり鋭角で突き出した形態となり、支柱穴の配置も変則的なものだったことになる。

覆土は、暗褐色土を主とする5層に分けられた。壁際にロームの多い第4層が堆積した後、ロームや焼土を含む第2層が南側、西側から流入した模様である。

第232図1の小型台付甕、2の坏は、南壁近くの床面直上から出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期後葉後半頃の遺構と考えられる。



第115号住居跡土層

説明

第1層：暗褐色土。
 ローム粒（～4mm）を中量含み、
 ローム小塊（～15mm）・
 焼土粒（～4mm）を微量含む。

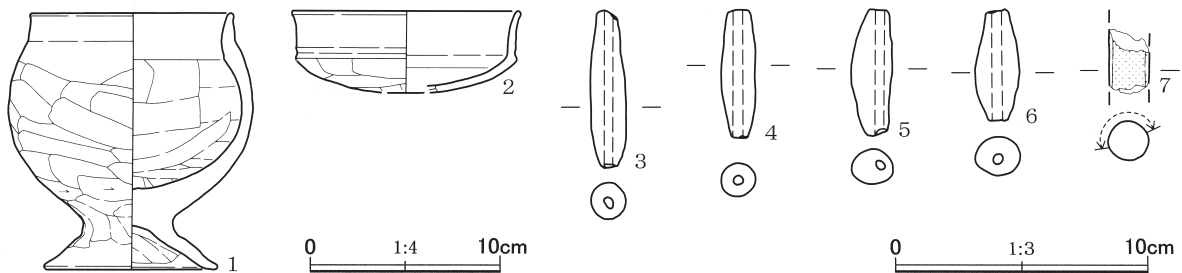
第2層：暗褐色土。
 ローム粒（～1mm）・
 ローム小塊（～10mm）を少量含み、
 焼土粒（～1mm）を微量含む。

第3層：暗褐色土。ローム粒（～0.5mm）・焼土粒（～4mm）を少量含む。

第4層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～4mm）を中量含み、ローム小塊（～15mm）を少量含む。

第5層：暗褐色土。ローム粒（～0.5mm）を微量含む。

第231図 第115号住居跡平面・断面図



第232図 第115号住居跡出土遺物

第103表 第115号住居跡出土遺物観察表（1）

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	小型 台付甕	口径 10.8 底径 9.4 器高 14.0	口縁部は短く直立する。胴部は中位に膨らみをもつ。台部は「ハ」字状に開く。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。台部ナデ、下端ヨコナデ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ナデ。台部ヘラナデ、下端ヨコナデ。	白色粒・角閃石 内外－橙色	一部欠損
2	坏	口径 12.4 底径 — 器高 4.5	丸底。口縁部は体部との境に弱い稜をもち、外反気味に直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部～体部上半ヨコナデ。体部下半～底部ナデ。	白色粒・雲母 内外－にぶい橙色	一部欠損

第104表 第115号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
3	土錘	長さ6.5、幅1.5、厚さ1.5、重さ14.28g。胎土：白色粒・雲母。色調：橙色。	完形
4	土錘	長さ5.3、幅1.4、厚さ1.4、重さ11.07g。胎土：白色粒・角閃石。色調：橙色。	完形
5	土錘	長さ5.3、幅1.7、厚さ1.5、重さ11.84g。胎土：白色粒・雲母。色調：橙色。	完形
6	土錘	長さ4.6、幅1.9、厚さ1.6、重さ12.49g。胎土：白色粒・雲母。色調：橙色。	ほぼ完形
7	棒状土製品	第969図40、第438表参照。	No.40

第116号住居跡(第233～236図、第105～108表、図版28・134・135)

調査地点の南半中央のやや南寄り、Q13、R13グリッドに位置し、F群に含まれる住居跡である。第279・283号土坑に切られ、西隅周辺を壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、北東-南西方向に対し北西-南東方向がいくらか長い長方形と見られるが、北西壁に比べ南東壁が長くかなり歪な形である。規模は、主軸方向で5.35m、副軸方向で5.78m、主軸方位はN-35°-Eである。床面はほぼ平坦で、支柱穴を結ぶ範囲からカマド周辺にかけて、明瞭に硬化している。壁の立ち上がりは、全体に比較的ゆるやかである。壁高は、北東壁で13cm、南東壁で8cm、南西壁で14cm、北西壁で18cmである。

P1～P4は、支柱穴であろう。平面形は、P2が楕円形、P1・P3・P4は、円形に近い。深さは、P1が56cm、P2が55cm、P3が21cm、P4が45cmである。右袖脇のピットは、貯蔵穴であろう。平面形は、やや角張った長楕円形で、長径123cm、短径80cmである。中段に平場を有し、中央が丸く深く掘り込まれており、最深部での深さは、50cmである。覆土は、暗褐色土を主とする4層で、とくに第3・4層は、ローム粒やローム小塊を不規則に含む自然流入土とは思えない土である。

カマドは、北東壁の中央、やや東隅の位置に付設されている。細長い両袖に挟まれた縦長の燃焼部が残存する。燃焼面は、ほぼ床面と同じ高さで、奥壁近くがわずかに深くなっている。袖端を焚口と見るなら、燃焼部の長さは95cm、横幅は36cmである。奥壁、燃焼面の一部および側壁は、顕著に被熱赤化している。

覆土は、暗褐色土を主とする5層で、壁際に第2・3・5層や粘土を含む第4層が堆積した後、第1層が流入して埋まり切ったようである。

カマド内やカマド周辺、貯蔵穴内から、完形、半完形の多量の土師器が出土している。31(以下、第235・236図)の高坏は、カマド内中央の右側壁沿いから倒置した状態で出土した。支脚のような用途のために置かれたのであろうか。この高坏の下から、13・14の2個体の坏が2枚重ねで、やはり伏せた状態で出土している。26・27の2個体の坏は、カマド右袖上から出土しており、あるいは本来カマド中に埋め込まれていたのかもしれない。

1・2の甕、4の小型甕、9の壘、12・15・18の坏、33の高坏脚部は、左袖脇の下層～床面直上から出土した。3の小型甕、5の小型甌、7・8の直口壺2個体は、右袖と貯蔵穴の間の床面直上から出土した。

6の大型甌1個体、11・17・20・21・24の坏5個体、25の鉢、28の脚付鉢、29・30の高坏2個体、36の須恵器把手付壘、37の須恵器坏は、貯蔵穴の上層～中層から、35の須恵器甌は、中層から出土している。なお、17の坏、28の脚付鉢、32の高坏坏部に関しては、貯蔵穴内の重なり合った土器の下の



第116号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～20mm)を少量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を少量含む、ローム小塊(～20mm)を微量含む。

第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)を

多量に含む、ローム小塊(～30mm)を少量含む。

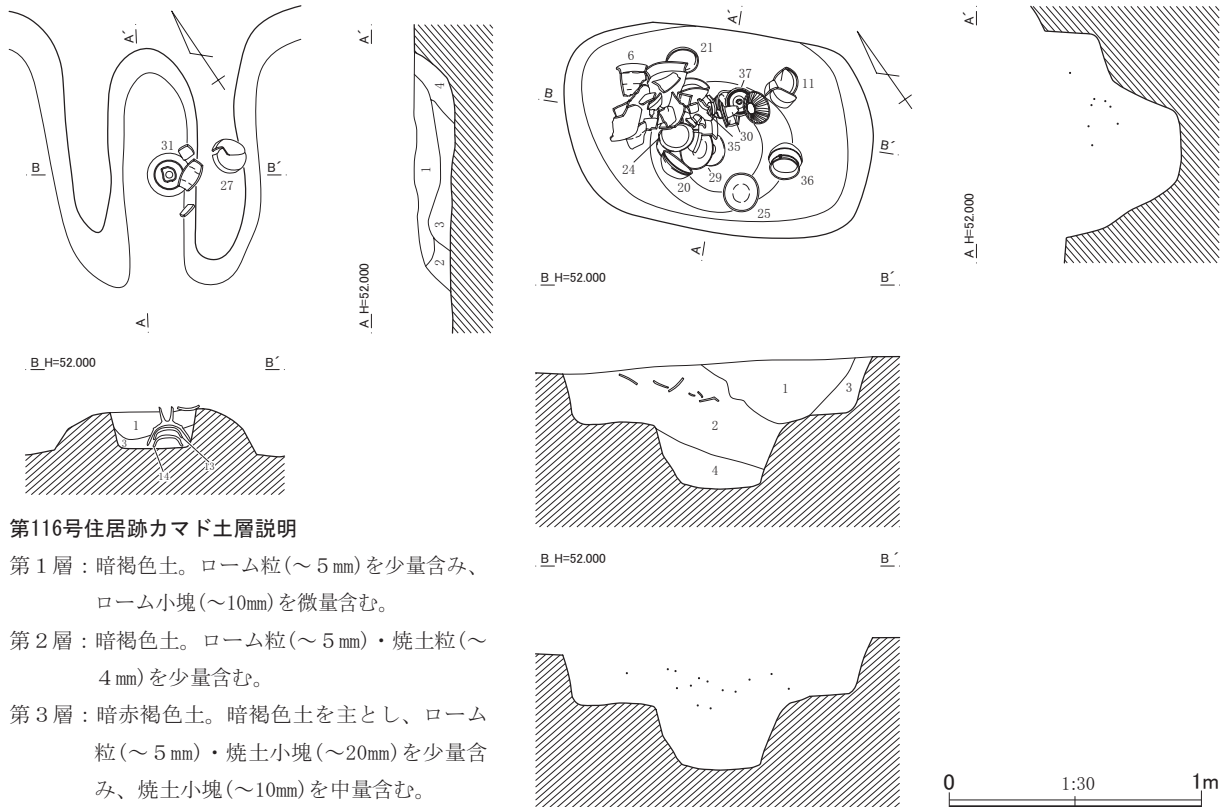
第4層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・粘土粒(～2mm)を少量含む。

第5層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)を多量に含む、ローム小塊(～20mm)を中量含む。

第233図 第116号住居跡平面・断面図(1)

方から出土したが、図が煩雑になるため番号を付していない。

重複関係および上記多数の出土遺物から見て、古墳時代後期初頭(古相)の遺構と考えられる。



第116号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。
- 第3層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～5mm)・焼土小塊(～20mm)を少量含み、焼土小塊(～10mm)を中量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含む。

第116号住居跡貯蔵穴土層説明

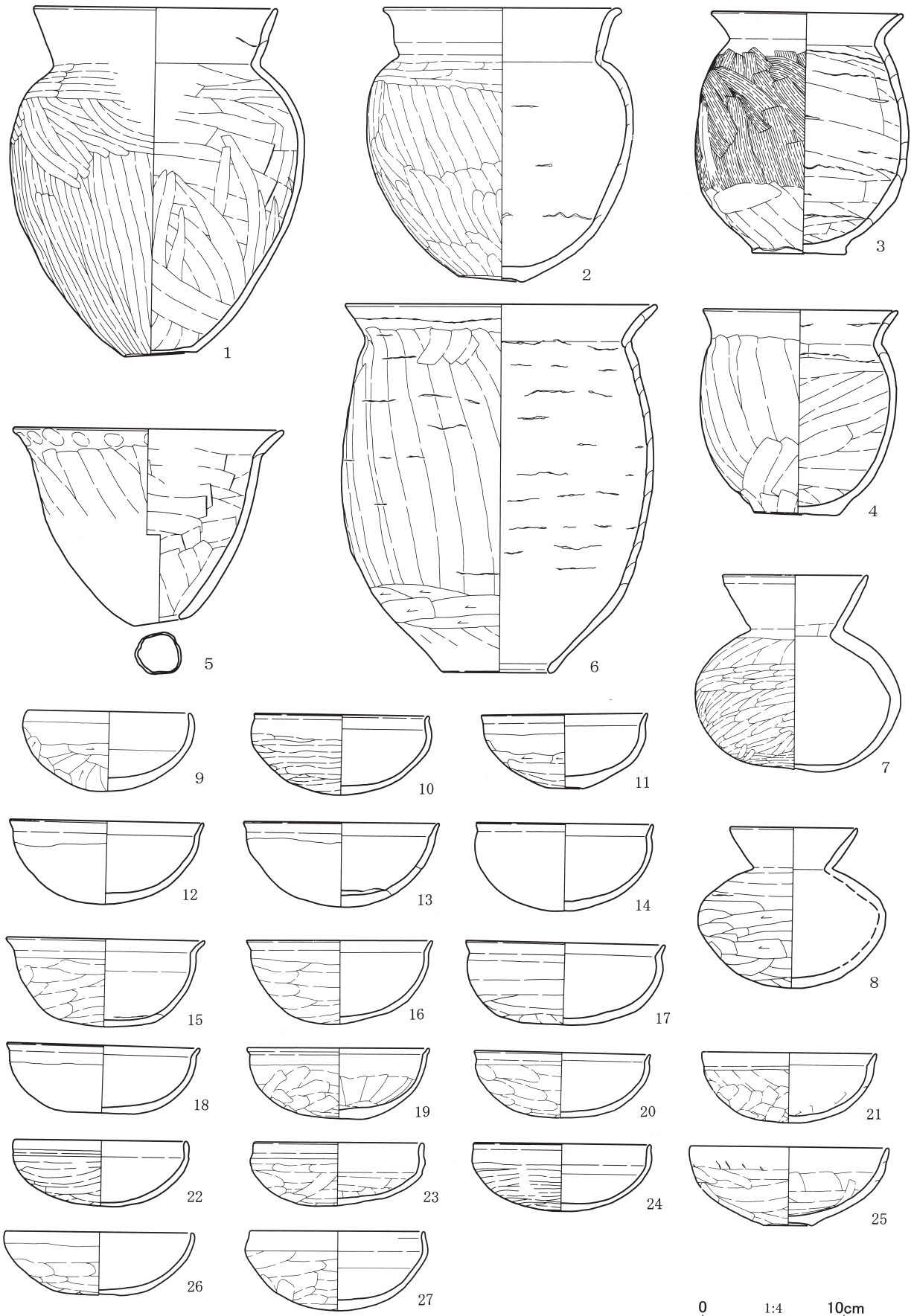
- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を中量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を少量含む。

- 第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を多量に含み、ローム小塊(～10mm)を中量含む。
- 第4層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～6mm)を多量に含み、ローム小塊(～40mm)を少量含む。

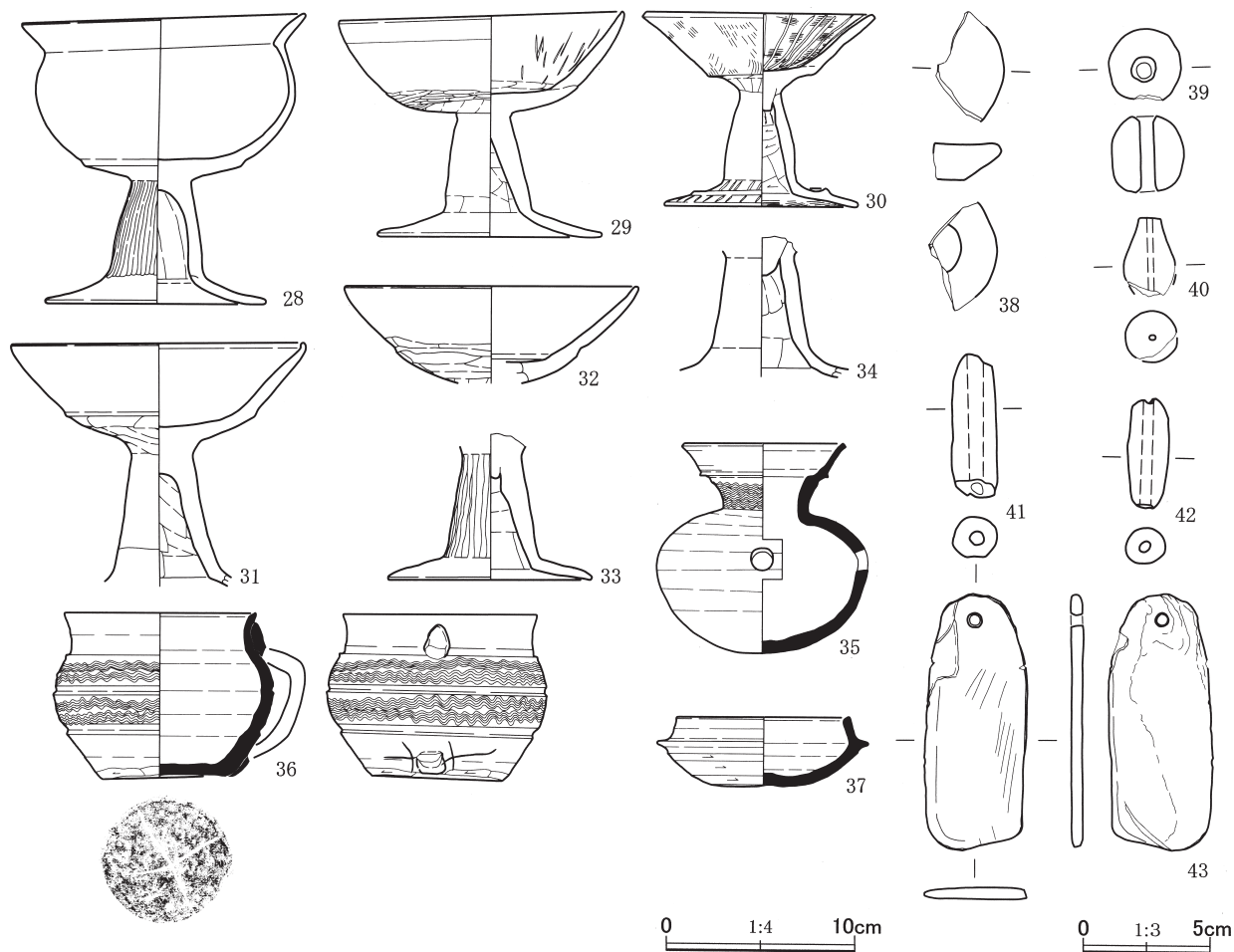
第234図 第116号住居跡平面・断面図(2)

第105表 第116号住居跡出土遺物観察表(1)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 17.9 底径 5.3 器高 25.9	口縁部はわずかに外傾する。胴部は上位に膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部～底部幅の狭い工具によるナデ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒 外-橙色 内-明赤褐色	2/3残存
2	甕	口径 17.8 底径 4.8 器高 20.3	口縁部は直立し、端部で外屈する。胴部は中位に膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部～底部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部～底部ナデ。	白色粒・角閃石 外-にぶい橙色 内-灰褐色	ほぼ完形
3	小型甕	口径 14.2 底径 6.9 器高 17.9	口縁部は外傾する。胴部は下位にわずかな膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部上～中位木口状工具によるナデ、下位ヘラナデ。底部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	石英・チャート・白色粒 外-明赤褐色 内-にぶい褐色	ほぼ完形
4	小型甕	口径 14.4 底径 6.3 器高 15.2	口縁部は外反する。胴部は中位にわずかな膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒 内外-明赤褐色	ほぼ完形
5	小型甕	口径 19.7 底径 3.4 器高 14.6	口縁部は外反する。胴部は膨らみをもたない。底部は筒抜け。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデの後、指頭圧痕。胴部ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ、下端ナデ。	石英・角閃石・白色粒 内外-明赤褐色	ほぼ完形 外面胴部下 半は器表面荒れ
6	甕	口径 23.2 底径 (8.0) 器高 27.3	口縁部は外反する。胴部は中～下位にわずかな膨らみをもつ。底部は筒抜け。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデの後、下位ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ、下端ヘラケズリ。	片岩・石英・白色粒 外-にぶい黄褐色 内-にぶい橙色	底部1/4欠損



第235图 第116号住居跡出土遺物(1)



第236図 第116号住居跡出土遺物（2）

第106表 第116号住居跡出土遺物観察表（2）

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
7	壺	口径 10.6 底径 — 器高 14.6	口縁部は直線的に外傾する。胴部は中位に大きく膨らみをもつ。丸底。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ナデ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ナデ。	白色粒・雲母 内外－橙色	完形
8	壺	口径 (9.3) 底径 — 器高 11.9	口縁部は外傾する。胴部は中位が張る。丸底。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部上位ヘラナデ、胴部中位～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒・褐色粒 内外－橙色	口縁部2/3欠損
9	碗	口径 11.9 底径 — 器高 5.9	丸底。体部から口縁部にかけて内彎する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外－明赤褐色	完形
10	坏	口径 12.8 底径 — 器高 6.0	丸底。体部は彎曲して上位でやや内傾する。口縁部は短く外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。内面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒 外－明赤褐色 内－にぶい褐色	3/4残存
11	坏	口径 12.2 底径 2.3 器高 5.6	上げ底。彎曲する体部から、口縁部は短く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部上位ナデ、体部中位ヘラケズリ、体部下位～底部ヘラナデ。内面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒 内外－明赤褐色	ほぼ完形
12	坏	口径 14.2 底径 — 器高 6.2	丸底。彎曲する体部から、口縁部は短く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ナデ。内面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	雲母・白色粒 内外－明赤褐色	ほぼ完形
13	坏	口径 (14.4) 底径 — 器高 6.3	丸底。彎曲する体部から、口縁部は短く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ナデ。内面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	雲母・白色粒 内外－橙色	2/3残存

C地点

第107表 第116号住居跡出土遺物観察表(3)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
14	坏	口径 13.0 底径 1.8 器高 6.5	小さい平底。彎曲する体部から、口縁部は短く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。	雲母・白色粒 内外-明赤褐色	3/4残存
15	坏	口径 14.5 底径 — 器高 6.5	丸底。体部は内彎し、口縁部は外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。内面-口縁部~体部上位ヨコナデ。体部中位~底部ヘラナデ。	白色粒・石英・雲母 内外-明赤褐色	完形
16	坏	口径 13.7 底径 — 器高 6.2	丸底。体部は内彎し、口縁部は外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・雲母 内外-明赤褐色	口縁部~体部1/3欠損
17	坏	口径 14.8 底径 — 器高 6.1	丸底。彎曲する体部から、口縁部は短く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。	白色粒 内外-明赤褐色	ほぼ完形
18	坏	口径 (14.1) 底径 — 器高 5.0	丸底。彎曲する体部から、口縁部は短く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。	白色粒 内外-明赤褐色	1/3残存
19	坏	口径 13.4 底径 — 器高 5.3	丸底。体部は内彎し、口縁部は短く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外-にぶい橙色	口縁部1/4欠損
20	坏	口径 13.0 底径 — 器高 4.9	丸底。体部は内彎し、口縁部は短く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。	白色粒・雲母 内外-明赤褐色	完形
21	坏	口径 12.8 底径 — 器高 5.2	丸底。体部は内彎し、口縁部は短く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外-橙色	完形
22	坏	口径 (12.6) 底径 — 器高 4.9	丸底。彎曲する体部から、口縁部は内傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外-明赤褐色	3/4残存
23	坏	口径 (12.5) 底径 — 器高 4.7	丸底。体部は内彎し、口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外-明赤褐色	口縁部2/3欠損
24	坏	口径 13.0 底径 — 器高 5.0	丸底。体部は彎曲して上位でやや内傾する。口縁部は短く外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外-赤褐色	ほぼ完形
25	鉢	口径 14.6 底径 3.5 器高 5.8	上げ底。体部は内彎し、口縁部は外傾気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・雲母 内外-橙色	完形
26	坏	口径 13.8 底径 — 器高 4.7	丸底。内彎する体部から口縁部は短く内屈する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。	白色粒・雲母 内外-明赤褐色	ほぼ完形
27	坏	口径 12.9 底径 — 器高 5.9	丸底。体部は内彎し、口縁部は内傾して立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。内面-口縁部~体部上位ヨコナデ。体部中位~底部ヘラナデ。	白色粒・雲母 内外-明赤褐色	完形
28	脚付鉢	口径 15.6 底径 12.0 器高 16.1	口縁部は外反する。坏部は丸みを持ち、坏底部に稜を有する。脚部は筒状を呈する。裾部は広がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。坏部ヘラナデ。脚部ミガキ。裾部ヨコナデ。内面-口縁部ヨコナデ。坏部ヘラナデ。脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。	雲母・白色粒・黒色粒 外-明赤褐色 内-にぶい橙色	4/5残存
29	高坏	口径 15.7 底径 12.1 器高 12.5	口縁部は内彎気味に開く。脚部は中位にわずかな膨らみを持ち、裾部は外反気味に広がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。坏部ミガキ。脚部ナデ。裾部ヨコナデ。内面-口縁部~坏部ヘラナデ。脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。	白色粒・雲母 内外-橙色	完形
30	高坏	口径 13.0 底径 10.7 器高 10.7	口縁部は坏部との境に弱い稜を持ち、直線的に外傾する。脚部は中位にわずかな膨らみを持つ。裾部は段を有する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ハケメ。坏部~脚部ナデ。裾部放射状暗文。内面-口縁部~坏部ハケメ後、放射状暗文。脚部ヘラケズリ。裾部ハケメ。	白色粒・雲母 内外-明赤褐色	ほぼ完形
31	高坏	口径 16.0 底径 — 器高 [13.4]	口縁部は坏部との境に稜をもって外傾し、端部でわずかに内屈する。脚部は筒状を呈する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。坏部ヘラナデ。脚部ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ。坏部ヘラナデ。脚部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外-明赤褐色	裾部欠損
32	高坏	口径 16.1 底径 — 器高 [5.4]	口縁部は坏部との境に稜をもって内彎気味に開く。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。坏部ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ。坏部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外-明赤褐色	坏部2/3残存

第108表 第116号住居跡出土遺物観察表(4)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
33	高坏	口径 — 底径 11.2 器高 [8.0]	脚部は筒状を呈する。裾部は内彎気味に広がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—脚部ミガキ。裾部ヨコナデ。内面—脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。	雲母・白色粒・黒色粒 内外—明赤褐色	脚部～裾部のみ残存
34	高坏	口径 — 底径 — 器高 [7.7]	脚部は筒状を呈する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—脚部ヘラナデ。内面—脚部ヘラナデ。	雲母・白色粒・黒色粒 内外—明赤褐色	脚部
35	須恵器 甗	口径 8.8 底径 — 器高 11.6	丸底。体部は中位に膨らみをもつ。孔径1.2×1.2cmの円孔。口縁部は外反し、中位に稜をもつ。口唇部は外側に面をもつ。ロクロ成形。	外面—ロクロナデ。頸部12条1単位の工具による波状文。体部下位～底部丁寧なナデ。内面—ロクロナデ。	白色粒 内外—灰色	完形 還元焰焼成
36	須恵器 把手付 埴	口径 10.6 底径 7.2 器高 9.2	平底。体部は中位に膨らみをもつ。口縁部は外反し、口唇部は内側に面をもつ。ロクロ成形。	外面—ロクロナデ。体部2条の横位沈線間に4～5条1単位の工具による波状文を2段。体部下端は手持ちヘラケズリ。把手両脇に「十」の線刻。底部ナデ、「×」の線刻。内面—ロクロナデ。	白色粒 内外—灰色	把手欠損 還元焰焼成 内外面に自然釉付着
37	須恵器 坏	口径 9.6 底径 — 器高 3.9	丸底。口縁部は内傾し、口唇部は内側に面をもつ。受部は横に開く。ロクロ成形。	外面—ロクロナデ。体部～底部回転ヘラケズリ。内面—ロクロナデ。	白色粒 内外—灰色	完形 還元焰焼成
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
38	土製 紡錘車	上面径(5.8)、下面径(2.3)、厚さ1.6、重さ14.73g。胎土：白色粒。色調：明赤褐色。調整：ナデ。				1/4残存
39	土玉	長さ3.1、幅3.0、厚さ2.9、孔径1.0×1.0、重さ[27.79]g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい褐色。				一部欠損
40	土錘	長さ[3.2]、幅2.1、厚さ[2.0]、重さ[11.47]g。胎土：白色粒・黒色粒・石英。色調：にぶい橙色。				1/2残存
41	土錘	長さ5.9、幅1.9、厚さ1.7、重さ19.22g。胎土：白色粒。色調：浅黄色。				完形
42	土錘	長さ4.5、幅1.7、厚さ1.5、重さ12.86g。胎土：白色粒。色調：明褐色。				完形
43	石製 模造品	長さ10.7、幅4.3、厚さ0.5、孔径0.6×0.6、重さ34.68g。石材：砂岩(変成)。調整：丁寧な研磨。				完形

第117号住居跡(第237～239図、第109・110表、図版28・135)

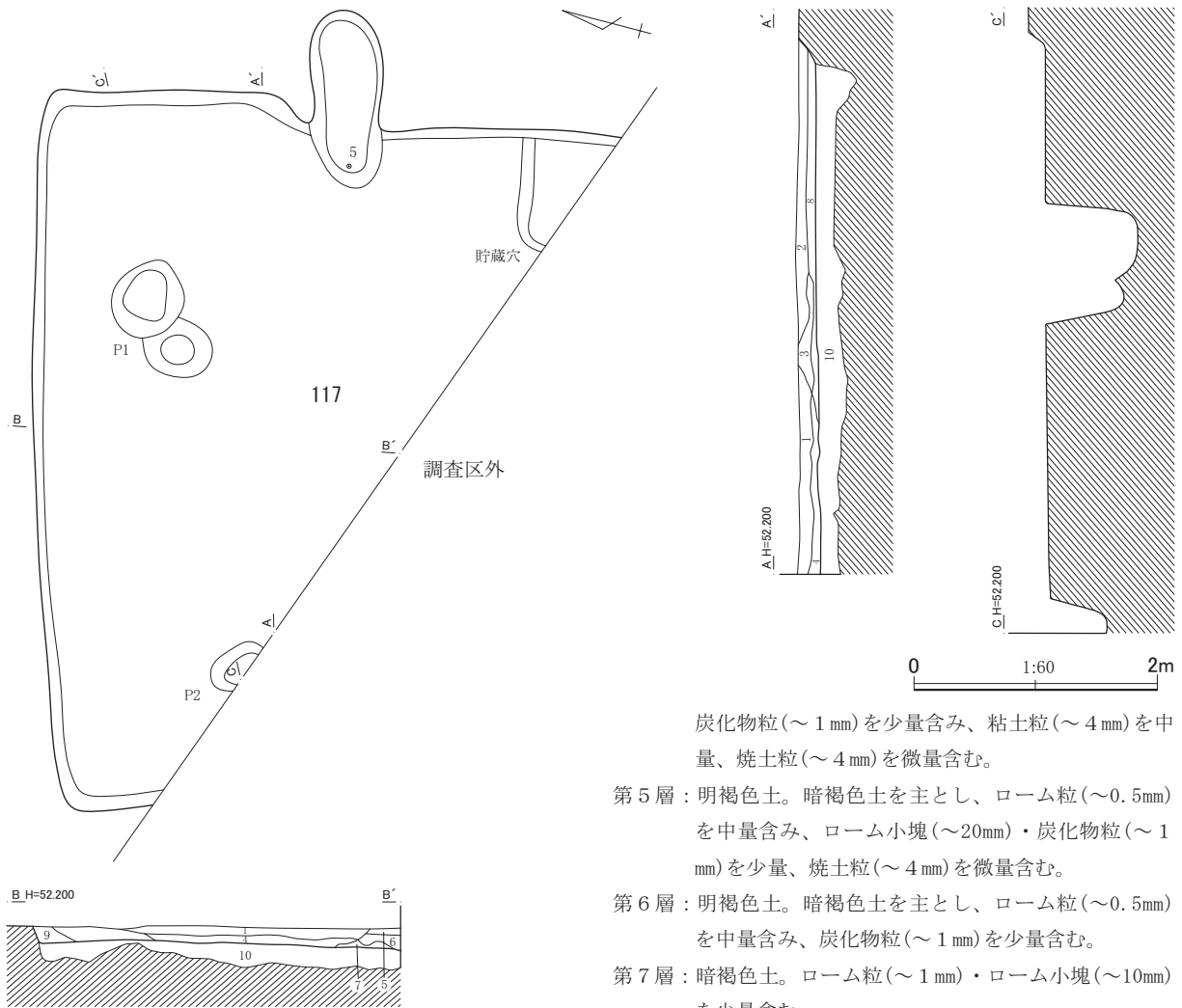
調査地点の南縁沿いの中央、P15、Q15グリッドに位置し、I群に含まれる住居跡である。第159・174号住居跡を切って造られている。第174号住居跡が介在し、直接切り合わないが、第173・194号住居跡とは一部重複する位置にある。また、南半、南西半の大部分が、調査範囲外である。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

南東隅が調査範囲外のため、平面形は推定にならざるを得ないが、方形に近いと見てよいであろう。規模は、主軸方向で5.90m、副軸方向は現存値で4.85mである。主軸方位はN-75°-Eである。床面は、P1、P2とカマドを結ぶ範囲内を中心に、明瞭に硬化している。壁の立ち上がりは、比較的急峻であり、壁高は、東壁で13cm、北壁で14cmである。

P1・P2は、支柱穴であろう。P1は、2つのピットが重複しており、北東側のピットをP1a、南西側のピットをP1bと仮称する。いずれのピットも平面形は、楕円形で、深さは、P1aが76cm、P1bが63cm、P2は47cmである。

南東の隅にあるピットは、貯蔵穴であろう。直線的な辺と直角に近い隅から見て、平面形は、長方形や正方形に近い形になりそうである。東西方向での長さは93cm、南北方向での現存部分の長さは80cmである。底面はほぼ平らで、床面からの深さは、16cmである。

カマドは、東壁の現存部分のほぼ中央に付設されている。わずかに突き出た両袖に挟まれた長楕円形の燃焼部が残存する。燃焼面は、船底形に掘り込んで作出されており、中央やや奥壁寄りに段が



第117号住居跡土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、炭化物粒(～1mm)・炭化物粒(～4mm)を多量に含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)・ローム粒(～4mm)を少量含む、炭化物粒(～2mm)を中量含む。
- 第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)・粘土粒(～1mm)を中量含む、炭化物粒(～1mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。
- 第4層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)・

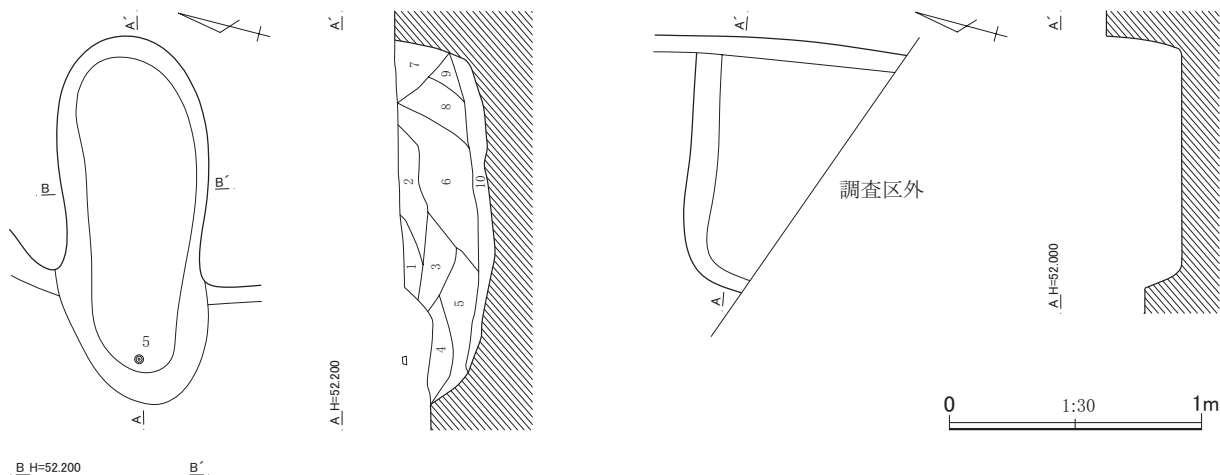
- 炭化物粒(～1mm)を少量含む、粘土粒(～4mm)を中量、焼土粒(～4mm)を微量含む。
- 第5層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～0.5mm)を中量含む、ローム小塊(～20mm)・炭化物粒(～1mm)を少量、焼土粒(～4mm)を微量含む。
- 第6層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～0.5mm)を中量含む、炭化物粒(～1mm)を少量含む。
- 第7層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・ローム小塊(～10mm)を少量含む。
- 第8層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～10mm)・焼土小塊(～10mm)を多量に含む、炭化物粒(～5mm)を少量含む。
- 第9層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を多量に含む、ローム小塊(～10mm)を少量含む。
(掘り方埋土)
- 第10層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～10mm)を中量含む、ローム小塊(～30mm)を多量に含む。ややしまっている。

第237図 第117号住居跡平面・断面図(1)

見られる。燃焼部の長さは146cm、横幅は58cmである。側壁上部の極一部、および奥壁の中位以上は、被熱赤化している。カマド覆土は、10層で、焼土や粘土がかなりまとまって混じる第2・5・7・8層は、天井部や側壁の崩落土を含む層であろう。

覆土は、暗褐色土を主とする9層に分けられた。炭化物が多く含む第1・2層、粘土を著しく含む第3・4・8層など特異な堆積土によって埋まったようであり、自然に流入した土ではないようである。第10層は、暗褐色土とロームの混合土からなる掘り方の埋め土である。

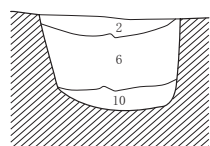
第239図5の石製紡錘車は、カマド焚口部付近の最上層、住居跡の確認面に近いレベルで出土した。



B.H=52.200

B'

第117号住居跡カマド土層説明



第1層：暗褐色土。粘土粒（～0.5mm）を中量含み、炭化物粒（～0.5mm）を多量に含む。粘性はやや強い。

第2層：暗赤灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒（～1mm）・粘土小塊（～20mm）・焼土粒（～8mm）・焼土小塊（～15mm）を中量含む。粘性はやや強い。

第3層：暗褐色土。ローム粒（～6mm）・粘土粒（～0.5mm）・粘土小塊（～10mm）・焼土粒（～4mm）を少量含む。

第4層：明灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～4mm）を多量に含み、炭化物粒（～1mm）・焼土粒（～2mm）を少量含む。粘性はやや強い。

第5層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～4mm）・炭化物粒（～8mm）・焼土粒（～4mm）を少量含み、

粘土粒（～2mm）・粘土小塊（～10mm）を中量含む。粘性はやや強い。

第6層：明灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～4mm）・炭化物粒（～2mm）・焼土粒（～4mm）・粘土小塊（～15mm）を少量含む。粘性はやや強い。

第7層：暗赤灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒（～5mm）・粘土小塊（～20mm）・焼土粒（～8mm）を中量含む。粘性はやや強い。

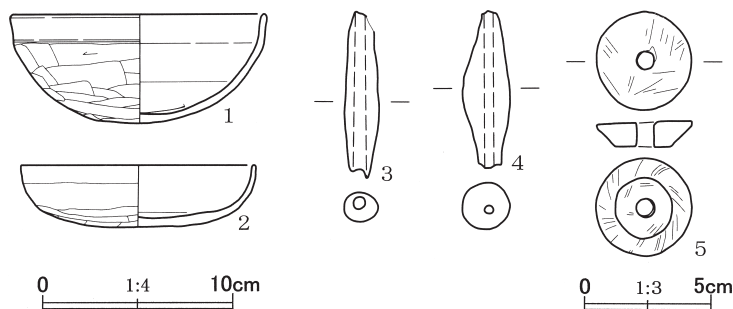
第8層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、焼土粒（～8mm）・粘土小塊（～20mm）を多量に含み、粘土小塊（～10mm）を中量含む。粘性はやや強い。

第9層：暗褐色土。ローム粒（～4mm）・焼土粒（～1mm）を少量含み、粘土粒（～1mm）を中量含む。

第10層：暗褐色土。ローム粒（～8mm）を中量含み、炭化物粒（～4mm）・焼土粒（～4mm）を少量含む。

第238図 第117号住居跡平面・断面図（2）

第239図1・2は、覆土中から出土した口縁部の一部を欠く坏である。他には、土師器片を主とする遺物が、覆土中からかなりの量出土している。重複関係から見て、2の坏の時期、奈良時代後半から平安時代前期初頭にかけての遺構である可能性が考えられる。



第239図 第117号住居跡出土遺物

第109表 第117号住居跡出土遺物観察表（1）

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手の特徴	調整・装飾手の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 13.8 底径 — 器高 6.0	丸底。体部は内彎し、口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—明赤褐色	口縁部4/5欠損
2	坏	口径 12.8 底径 — 器高 3.4	平底気味。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ナデ。底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・石英 外—にぶい橙色 内—橙色	口縁部2/3欠損

C地点

第110表 第117号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
3	土錘	長さ6.8、幅1.4、厚さ1.2、重さ11.27g。胎土：白色粒。色調：黄褐色。	ほぼ完形
4	土錘	長さ6.5、幅2.0、厚さ1.9、重さ17.25g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：褐色。	完形
5	石製紡錘車	上面径4.0、下面径2.35、孔径0.7×0.7、厚さ1.1、重さ24.61g。石材：粘板岩。調整：全体的に丁寧な研磨。	完形

第118号住居跡(第240～243図、第111～113表、図版29・135・136)

調査地点の中央、Q11、R11・12グリッドに位置し、F群に含まれる住居跡である。第180・210・211・282・291・323号住居跡を切っており、第86号住居跡、第319号土坑に切られ、南西隅周辺および北壁の一部を壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、東西方向に比し、南北方向が長い横長の長方形である。規模は、主軸方向で5.50m、副軸方向の残存部分で6.68m、主軸方位はN-74°-Eである。床面はほぼ平坦であり、中央からカマド前面にかけて、軽微ながらも硬化している。壁の立ち上がりは比較的ゆるやかで、壁高は、東壁で16cm、南壁で19cm、西壁で14cm、北壁で18cmである。

P1～P4は、支柱穴である。平面形は、いずれもやや不整な円形、楕円形で、深さは、P1が44cm、P2・P3が26cm、P4が36cmである。

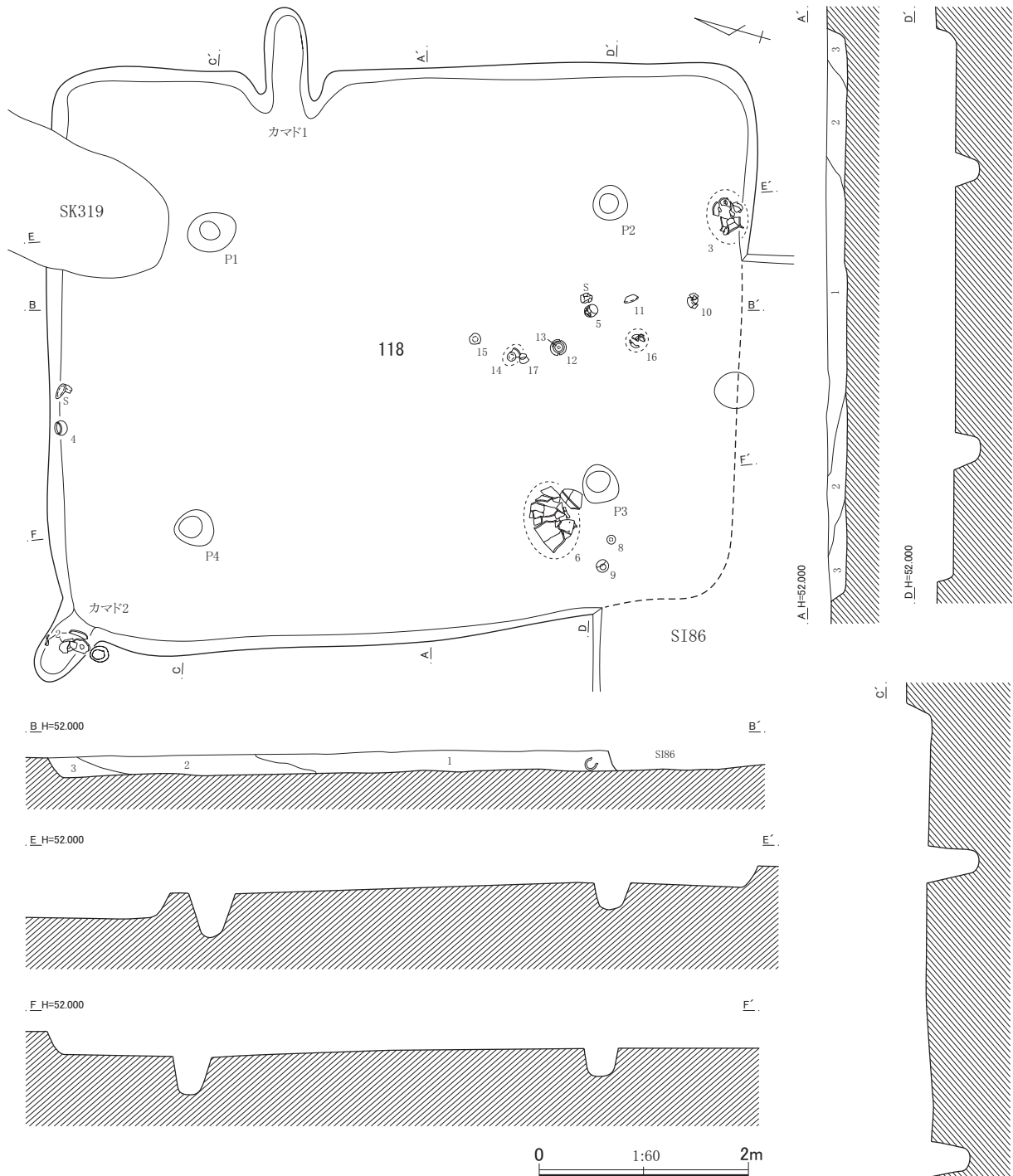
カマドは、東壁と北西隅で検出した。前者をカマド1、後者をカマド2と呼称する。カマド2には袖が見られないことから、カマド2を廃用後、埋めるなどして、新たにカマド1を付設したと考えるのも一法であろう。

カマド1は、東壁の北東隅にかなり偏した位置に付設されている。短い袖に挟まれた縦長の燃焼部が残存する。燃焼面は、奥壁側がわずかに高く傾斜面を成すように造られている。燃焼部の長さは103cm、横幅は41cmである。側壁上部、燃焼面の奥壁寄り、部分的にかすかに被熱赤化している。カマド1の覆土は4層で、焼土を夥しく含む第2層には、天井部や側壁の崩落土が含まれると見られる。

カマド2は、北西隅にほぼ対角線の方角で付設されている。袖なしで、縦長の燃焼部のみ残っている。左側の側壁内には、甕が埋め込まれている。燃焼面は、カマド1同様に、奥壁側がわずかに高く緩斜面をなすように造作されている。燃焼部の長さは68cm、横幅は42cmである。側壁から奥壁にかけて、上端がわずかに被熱赤化している。カマド2の覆土は、9層に分けられた。黄灰色粘土を主とする第2層や同種の粘土をかなり含む第3・5層は、天井部や側壁の崩落土を含む土層であろう。

覆土は、暗褐色土を主とする3層に分けられた。壁側から埋まりはじめ、最終的に住居跡中央が埋まった模様であり、総じてロームが多く含まれることが覆土の特徴になるようである。

第242図2の甕は、カマド2の燃焼部から、3の甕は、南壁沿いの上・中層から、4の小型甕は、北壁沿いの下層から出土した。第242図5の小型台付甕、8・14の土師器坏、12・13・15～17の須恵器坏、埴は、P2とP3の間の、下層～床面直上から出土した。11の坏のみ同じ土器集中部の上層出土である。6の須恵器甕、9・10の土師器坏は、P3脇の下層～床面直上から出土している。多時期の土器が混在するかに見えるが、まず、時期的に古い1・3の甕、4の小型甕、7の坏は、混入した遺物であろう。カマド2から出土した2の甕とその他の小型甕、甕、坏に時期的な懸隔が見られることについては、カマド2が住居跡本体とは、異なった時期に造られたと考える他ないかと思う。出土遺物の多くから見て、平安時代前期末から中期初頭にかけての遺構と考えられる。

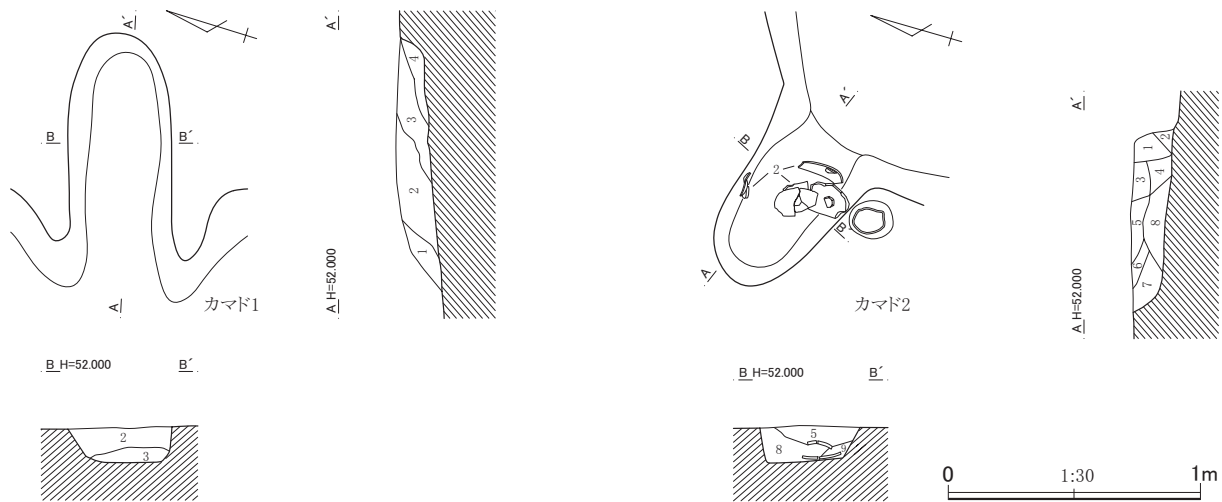


第118号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を中量含み、ローム小塊(～15mm)・焼土粒(～2mm)を少量含む。
 第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を中量含み、ローム小塊(～

20mm)・焼土粒(～2mm)を少量含む。
 第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を多量に含み、ローム小塊(～20mm)を中量、焼土粒(～2mm)を少量含む。

第240図 第118号住居跡平面・断面図(1)



第118号住居跡カマド1土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒（～1mm）を少量含み、ローム粒（～4mm）を微量含む。
- 第2層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～1mm）を少量含み、焼土粒（～2mm）を多量に、ローム小塊（～10mm）を微量含む。
- 第3層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～1mm）・焼土小塊（～20mm）を少量含み、焼土粒（～4mm）を中量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒（～1mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。

- 第3層：暗褐色土。粘土粒（～2mm）・粘土小塊（～10mm）を中量含み、焼土粒（～4mm）を少量含む。粘性はやや強い。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒（～1mm）・粘土粒（～2mm）を少量含み、焼土粒（～1mm）を微量含む。粘性はやや強い。
- 第5層：暗褐色土。粘土粒（～2mm）・粘土小塊（～15mm）を中量含む。粘性はやや強い。
- 第6層：暗褐色土。ローム粒（～4mm）を微量含み、ローム小塊（～20mm）を少量含む。粘性はやや強い。
- 第7層：暗褐色土。粘土粒（～2mm）を少量含む。粘性はやや強い。
- 第8層：暗褐色土。粘土粒（～1mm）・粘土小塊（～10mm）を少量含む。粘性はやや強い。
- 第9層：暗褐色土。粘土粒（～1mm）を少量含む。粘性はやや強い。

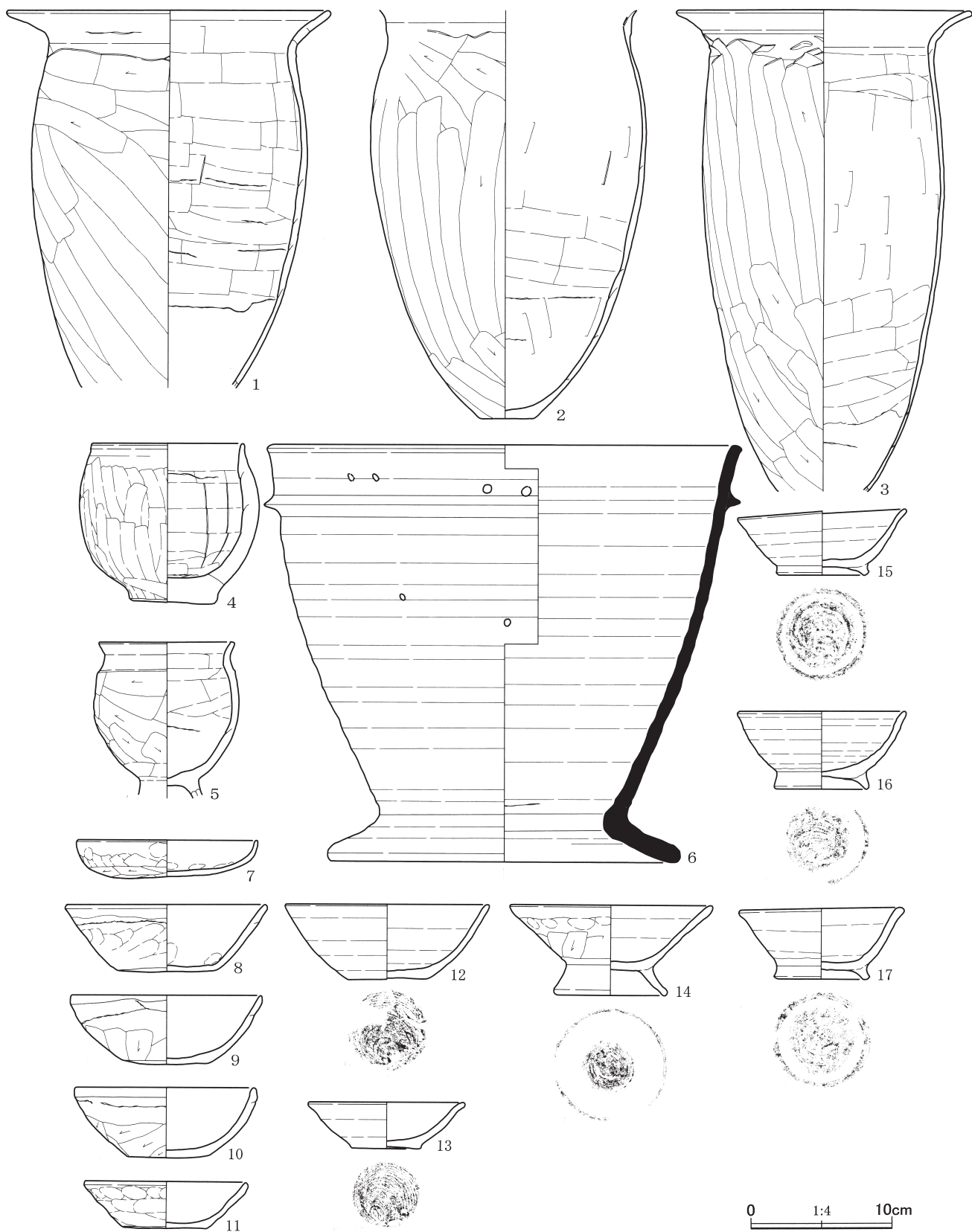
第118号住居跡カマド2土層説明

- 第1層：黄灰褐色土。黄灰色粘土を主とし、暗褐色土粒子（～1mm）を少量含む。粘性は強い。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒（～1mm）を中量含む。粘性はやや強い。

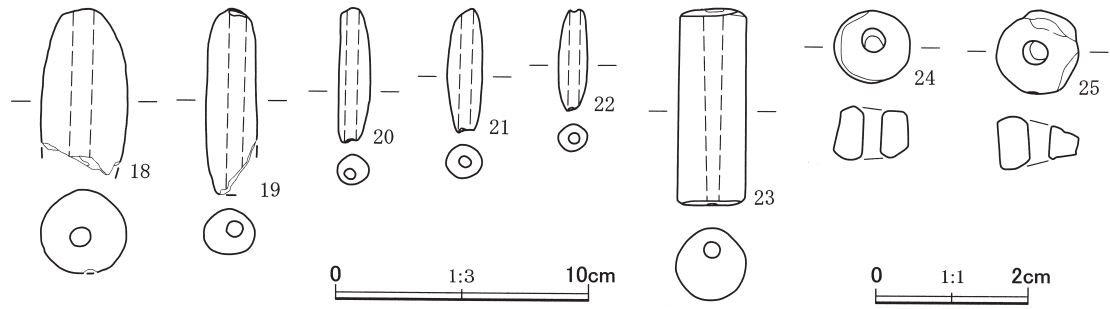
第241図 第118号住居跡平面・断面図（2）

第111表 第118号住居跡出土遺物観察表（1）

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手の特徴	調整・装飾手の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 (23.6) 底径 — 器高 [28.0]	口縁部は外反する。胴部は中位にわずかな膨らみをもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ、下位は丁寧なナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 内外—橙色	口縁部～胴部下位
2	甕	口径 — 底径 (4.0) 器高 [30.3]	胴部は中位にわずかな膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面—胴部ヘラケズリ。底部ナデ。内面—胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 外—橙色 内—明黄褐色	胴部～底部4/5
3	甕	口径 21.5 底径 — 器高 [36.7]	口縁部は外反する。胴部は膨らみをもたない。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ、下位は丁寧なナデ。	白色粒・黒色粒・片岩 内外—橙色	口縁部～胴部下位2/3
4	小型甕	口径 11.1 底径 6.3 器高 11.9	口縁部は短く直立する。胴部は中位に膨らみをもつ。底部は輪台状の平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。底部ナデ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・石英 外—にぶい橙色 内—にぶい黄褐色	完形
5	小型台付甕	口径 9.9 底径 — 器高 [11.6]	口縁部は外反する。胴部は中位に膨らみをもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ、下端ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ、下位は丁寧なナデ。	白色粒 外—明赤褐色 内—にぶい橙色	台部欠損



第242図 第118号住居跡出土遺物(1)



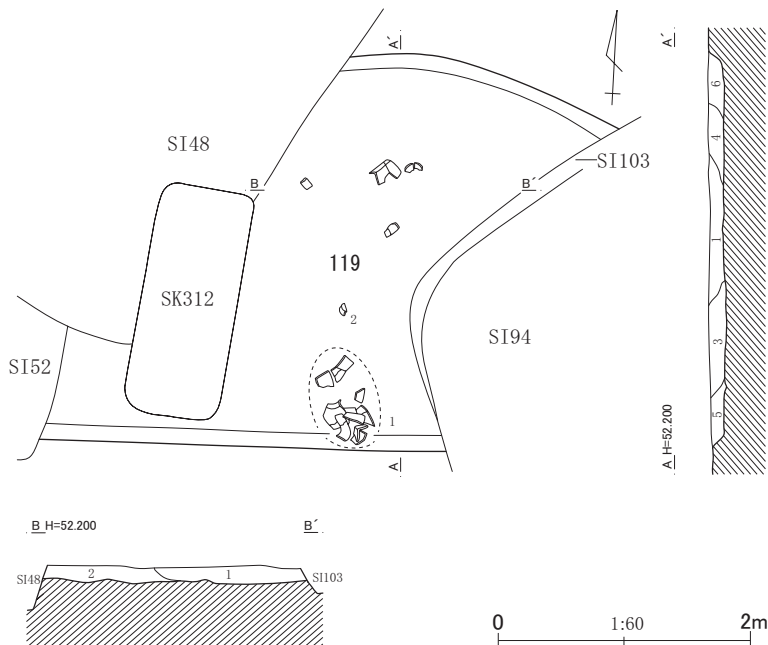
第243図 第118号住居跡出土遺物(2)

第112表 第118号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
6	須恵器 大型甌	口径 34.2 底径 (25.5) 器高 30.8	鏝は断面三角形を呈す。ロクロ成形。口縁部に2個1対で4カ所、胴部中位に単独で3カ所の小孔あり。補修孔カ。孔径0.6～0.7cm。	外面ーロクロナデ。鏝貼付。内面ーロクロナデ。	白色粒・石英 内外ー灰白色	2/3残存 還元焰焼成
7	坏	口径 13.2 底径 — 器高 2.9	平底気味。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面ー口縁部ヨコナデ、指頭圧痕。体部へラナデ。底部へラケズリ。内面ー口縁部～体部ヨコナデ、指頭圧痕。底部へラナデ。	白色粒 内外ー橙色	4/5残存
8	坏	口径 13.1 底径 6.2 器高 5.3	平底。体部は内彎気味に開き、口縁部は短く直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面ー口縁部ヨコナデ。体部上半ナデ、体部下半～底部へラケズリ。内面ー回転ナデ。	白色粒・黒色粒・石英 内外ー明赤褐色	完形
9	坏	口径 14.0 底径 6.7 器高 5.1	平底。体部は内彎気味に開き、口縁部は短く直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面ー口縁部ヨコナデ。体部上半ナデ、体部下半～底部へラケズリ。内面ー回転ナデ。	白色粒・黒色粒・石英 内外ー橙色	完形
10	坏	口径 14.6 底径 7.2 器高 5.0	平底。体部から口縁部にかけて直線的に開く。粘土紐積み上げによる成形。	外面ー口縁部ヨコナデ。体部へラナデ。底部器表面剥離。内面ー回転ナデ。体部下位指頭圧痕。	白色粒・黒色粒・石英 内外ー明赤褐色	1/2残存
11	坏	口径 11.8 底径 6.1 器高 3.5	平底。体部から口縁部にかけて直線的に開く。粘土紐積み上げによる成形。	外面ー口縁部ヨコナデ。体部上半指頭圧痕、下半ナデ。底部へラケズリ。内面ー回転ナデ。	白色粒・黒色粒・石英 内外ー橙色	完形
12	須恵器 坏	口径 14.9 底径 5.8 器高 5.6	平底。体部から口縁部にかけて内彎気味に開く。ロクロ成形。	外面ーロクロナデ。底部右回転糸切り。内面ーロクロナデ。	白色粒・雲母 外ー灰黄色 内ー灰白色	ほぼ完形 酸化焰焼成
13	須恵器 坏	口径 11.4 底径 5.0 器高 3.5	平底。体部はわずかに膨らみをもち、口縁部は緩やかに外反する。ロクロ成形。	外面ーロクロナデ。底部右回転糸切り。内面ーロクロナデ。	白色粒 内外ー灰色	完形 酸化焰焼成気味
14	高台付 坏	口径 (14.8) 底径 8.0 器高 6.7	高台部は高く、ハの字形に開く。体部から口縁部にかけて直線的に開く。ロクロ成形。	外面ーロクロナデ。体部上半指頭圧痕、下半へラケズリ。底部回転糸切り、高台貼付時ナデ。内面ーロクロナデ。	白色粒・黒色粒 内外ー明褐色	口縁部～体部 3/4欠損
15	須恵器 高台付 坏	口径 12.3 底径 6.3 器高 4.9	高台部は低い。体部はわずかに膨らみをもち、口縁部は緩やかに外反する。ロクロ成形。	外面ーロクロナデ。底部回転糸切り。高台貼付時周縁ナデ。内面ーロクロナデ。	片岩・白色粒・黒色流・石英 外ー灰色 内ーにぶい黄褐色	口縁部一部欠損 酸化焰焼成
16	須恵器 高台付 坏	口径 (12.2) 底径 (6.6) 器高 5.8	高台部はやや高い。体部はわずかに膨らみをもち、口縁部は緩やかに外反する。ロクロ成形。	外面ーロクロナデ。底部回転糸切り。高台貼付時周縁ナデ。内面ーロクロナデ。	片岩・白色粒 内外ー灰色	2/3残存 酸化焰焼成気味
17	須恵器 高台付 坏	口径 11.8 底径 6.5 器高 5.4	高台部はやや低い。体部は膨らみをもたず、口縁部は緩やかに外反する。ロクロ成形。	外面ーロクロナデ。底部回転糸切り。高台貼付時周縁ナデ。内面ーロクロナデ。	白色粒 内外ー灰色	口縁部1/3欠損 酸化焰焼成気味
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
18	土錘	長さ[6.8]、幅3.6、厚さ3.45、重さ[84.92]g。胎土：白色粒・褐色粒。色調：にぶい橙色。				端部欠損
19	土錘	長さ[7.7]、幅2.15、厚さ1.35、重さ[32.82]g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：明赤褐色。				端部欠損
20	土錘	長さ5.55、幅1.3、厚さ1.2、重さ8.49g。胎土：白色粒・褐色粒。色調：橙色。				完形
21	土錘	長さ5.1、幅1.47、厚さ1.4、重さ9.64g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：明赤褐色。				完形
22	土錘	長さ4.2、幅1.2、厚さ1.1、重さ5.05g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：明赤褐色。				完形
23	石製品 管 玉	長さ2.6、幅0.95、孔径0.15～0.3、厚さ1.0、重さ4.61g。石材：碧玉。調整：全体的に丁寧な研磨。二次被熱。				完形

第113表 第118号住居跡出土遺物観察表（3）

No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
24	石製品 白玉	長さ1.0、幅1.05、孔径0.3×0.3、厚さ0.73、重さ1.33g。石材：滑石。調整：全体的に研磨。	完形
25	石製品 白玉	長さ1.15、幅1.15、孔径0.3×0.3、厚さ0.7、重さ0.99g。石材：滑石。調整：全体的に研磨。	完形



第119号住居跡土層説明

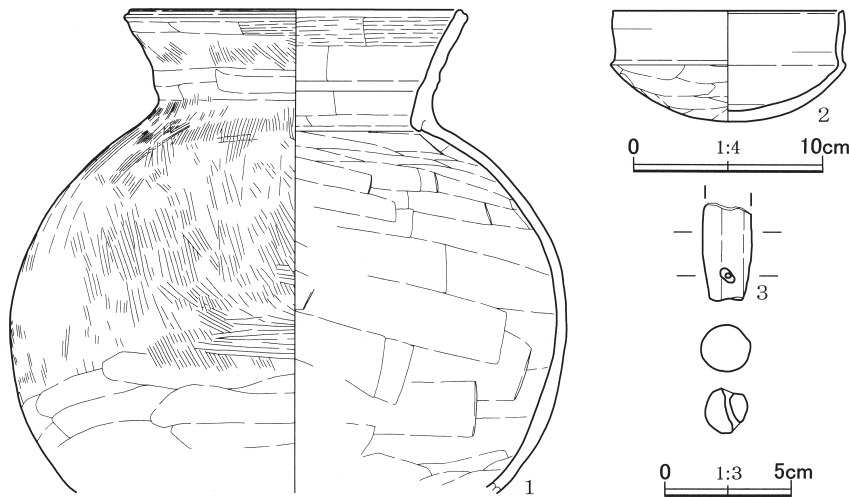
- 第1層：暗褐色土。ローム小塊（～10mm）を少量含み、ローム小塊（～40mm）を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒（～4mm）を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒（～1mm）を中量含み、ローム粒（～6mm）を微量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒（～0.5mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。
- 第5層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～0.5mm）を多量に含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。
- 第6層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～4mm）を中量含む。

第244図 第119号住居跡平面・断面図

第119号住居跡

（第244・245図、第114表、図版136）

調査地点の南半の中央、西寄り、P12、Q12グリッドに位置し、E群に含まれる住居跡である。第48・52・94・103号住居跡、第312号土坑に切られている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。



第245図 第119号住居跡出土遺物

第114表 第119号住居跡出土遺物観察表

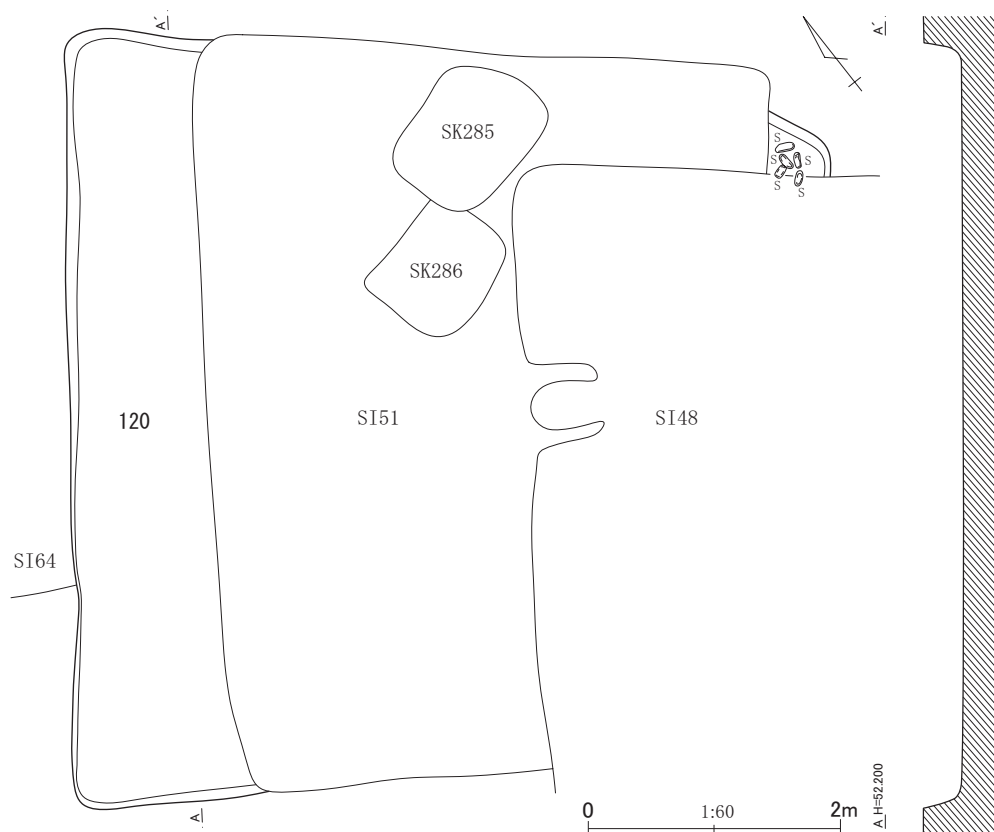
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	壺	口径 18.1 底径 — 器高 [26.7]	口縁部は外傾し、口唇部は凹線がめぐる。胴部は中位が張る。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヘラナデ後中位ハケメ。胴部ヘラナデ後ハケメ。内面－口縁部～胴部ヘラナデ。	白色粒・雲母 外－にぶい黄橙色 内－橙色	口縁部～胴部 中位4/5残存
2	坏	口径 12.7 底径 — 器高 6.1	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって直立する。口唇部は内側に面をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。内面－口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 外－にぶい橙色 内－橙色	口縁部1/3欠損
3	棒状土製品	第969図41、第438表参照。				No.41

C地点

規模は、南北方向で3.12m、東西方向の現存値で3.30mである。壁の立ち上がりはゆるく、壁高は、北壁で13cm、南壁で11cmである。

第245図1の壺は、南壁沿いから、壺の北側直ぐ傍から2の坏が出土している。

重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期前葉の遺構である可能性が考えられる。



第246図 第120号住居跡平面・断面図

第120号住居跡（第246・247図、第115表、図版137）

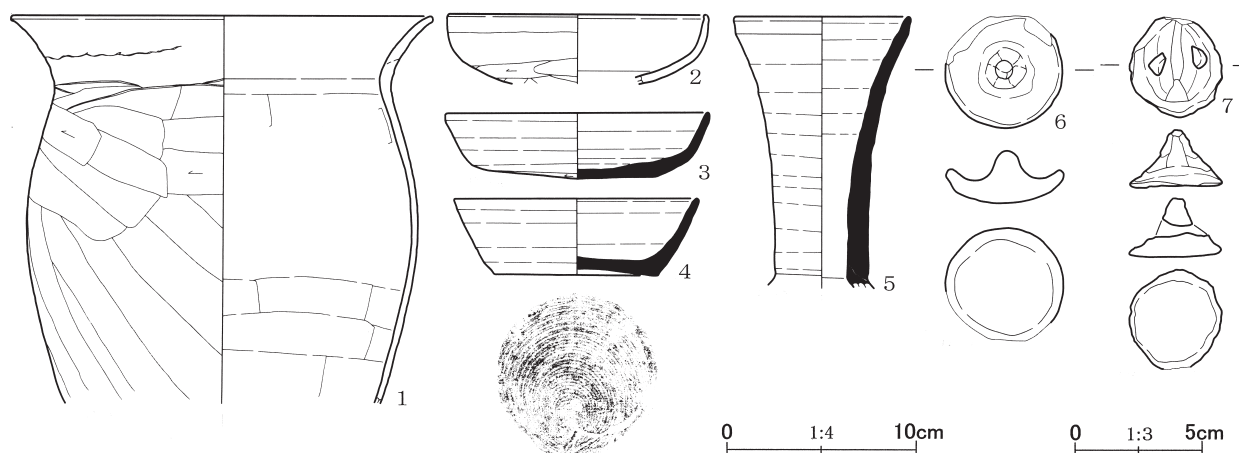
調査地点の南西部の中央やや東寄り、P11・12グリッドに位置し、E群に含まれる住居跡である。第64・69・79・80・89号住居跡を切り、第64号住居跡を除く、それら4軒の住居跡の上部に造られた住居跡である。第285・286号土坑に切られている。また、第48・51号住居跡と重複する。なお、第123・124号住居跡とも重複する位置にあるが、第89号住居跡が介在しており、直接切り合わない。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

調査時点では、本住居跡を住居跡と確定し切れず、整理作業段階に住居跡と認定した経緯があり、問題が多々残るが、作成された平面図等をそのまま示し、事実記載を行ない、最後に問題点を記しておきたい。

遺構の中央部、南東半が大きく失われており規模は、残存状態のよい部分での数値になるが、北東-南西方向で6.07m、北西壁の指す方位は、N-39°-Eである。壁際より内側の床面は、軽微ではあるが、硬化しているようである。壁の立ち上がりは、比較的急峻で、壁高は、北東壁で18cm、南西壁で16cmである。

第247図に図化したいずれの遺物も覆土中出土である。また、東隅とされた位置の床面から、編物石と思われる長円礫が5個出土している。出土遺物から見て、奈良時代後半の遺構と考えざるをえないが、以下の問題点があることを付言しておく。

調査時の所見、とくに第48号住居跡のカマドの検出状況などから見て、第48・51号住居跡に先行する遺構と見なさざるをえないが、出土遺物の時期は、明らかに本遺構の方が新しい。本遺構出土遺物



第247図 第120号住居跡出土遺物

第115表 第120号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 (23.1) 底径 — 器高 [21.3]	口縁部は外反する。胴部は上位が張る。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・片岩 内外—橙色	口縁部～胴部 中位1/3残存
2	坏	口径 (14.1) 底径 — 器高 [3.8]	丸底。口縁部は内彎する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部上半ナデ、下半ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。	白色粒・黒色粒・石英 内外—橙色	1/2残存
3	須恵器 坏	口径 (14.4) 底径 9.4 器高 3.5	平底。体部下位に丸みをもつ。口縁部は外傾する。ロクロ成形。	外面—ロクロナデ。底部回転ヘラケズリ。内面—ロクロナデ。	白色粒 内外—灰白色	2/3残存 還元焰焼成
4	須恵器 坏	口径 (13.4) 底径 9.0 器高 4.3	上げ底。体部から口縁部にかけて外傾して開く。ロクロ成形。	外面—ロクロナデ。底部右回転糸切り。内面—ロクロナデ。自然釉付着。	白色粒・黒色粒 内外—灰色	口縁部2/3欠損 還元焰焼成
5	須恵器 長頸壺 ?	口径 (9.6) 底径 — 器高 [14.9]	頸部は開き、口縁部は直立する。ロクロ成形。	外面—ロクロナデ。内面—ロクロナデ。	白色粒 内外—灰色	口縁部～頸部 還元焰焼成
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
6	土製品 不明 ナデ。	直径4.8×(4.8)、厚さ2.1、重さ[27.47]g。胎土：白色粒・角閃石・石英。色調：にぶい褐色。調整：				ほぼ完形
7	土製品 鏡？	直径(4.1)×3.8、厚さ2.4、重さ[21.45]g。胎土：白色粒・角閃石。色調：にぶい褐色。調整：ナデ。				ほぼ完形

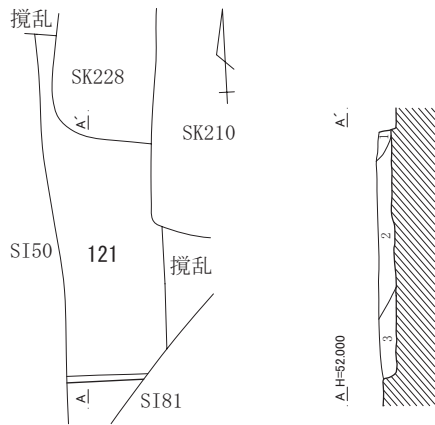
として示した遺物は、5の須恵器壺は、混入品であろうが、他は甕、坏と一応揃っており、単なる混入品と見るのはむつかしく、一つの解釈としては、土坑など重複する遺構があった可能性を考えておきたい。また、東隅とされた部分自体別の遺構である可能性もあると考えられる。

第121号住居跡 (第248・249図、第116表、図版137)

調査地点の西半のほぼ中央、O10、P10グリッドに位置し、E群に含まれる住居跡である。第50・81号住居跡、第210・228・273・274号土坑に切られ、また、北側、東側の一部を攪乱により壊されており、わずかな範囲の床面と壁を検出したのみである。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

南北方向での残存部分の長さは、2.26mである。床面は、明瞭に硬化しており、微妙な凹凸が見られる。壁高は、南壁で11cmである。

覆土中から土師器片を主とする遺物が少量出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期後葉前半の遺構であろうか。

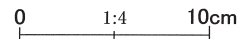
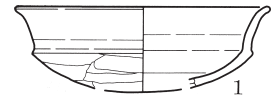


第121号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を少量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒(～6mm)・ローム小塊(～15mm)を少量含む。

第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～8mm)を中量含む。



第249図 第121号住居跡出土遺物

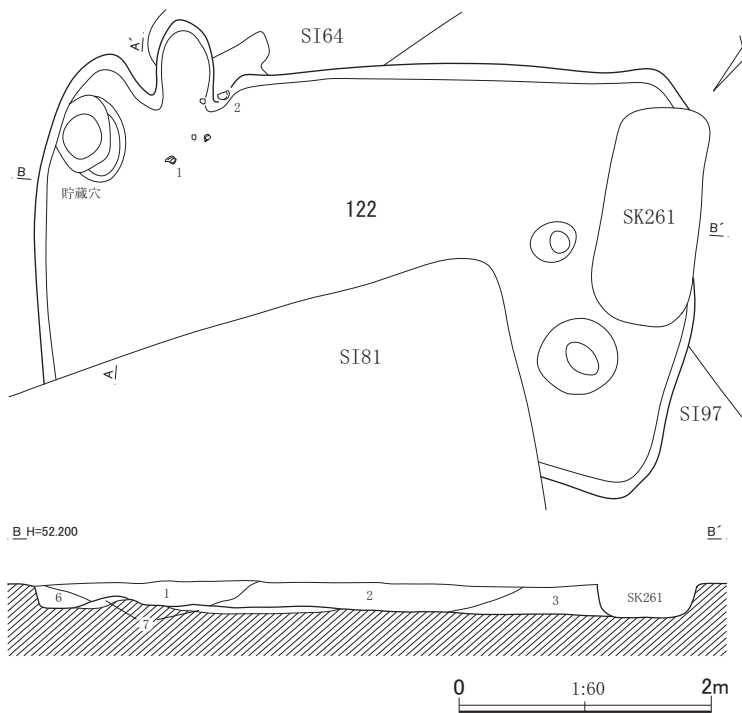
第248図 第121号住居跡平面・断面図

第116表 第121号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 (13.8) 底径 — 器高 [4.5]	口縁部は体部との境に稜をもって外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。体部へラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ。	白色粒・黒色粒 内外一橙色	口縁部～体部 1/2残存

第122号住居跡 (第250～252図、第117表、図版29・137)

調査地点の南西部の中央、O11、P11グリッドに位置し、E群に含まれる住居跡である。第136号住居跡を切り、第64・81号住居跡に切られ、とくに第81号住居跡には、北西壁の大半を壊されている。



第3層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～15mm)を中量含む、焼土粒(～2mm)を微量含む。

第4層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)・粘土粒(～2mm)を少量含む。

第5層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を中量含む、ローム小塊(～15mm)を微量、焼土粒(～2mm)を少量含む。

第6層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～30mm)を少量含む。

(掘り方埋土)

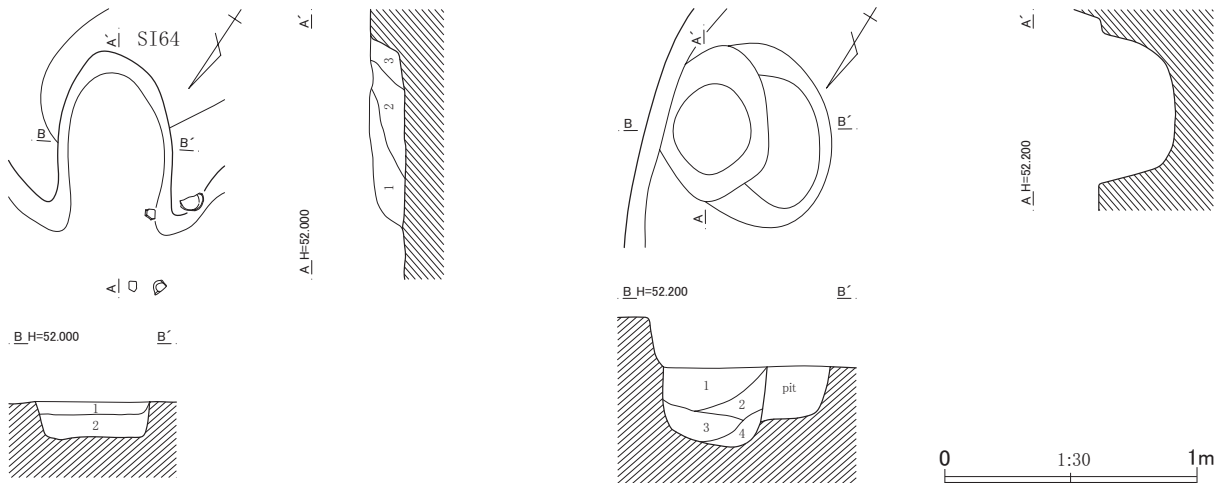
第7層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～10mm)を多量に含む。ややしまっている。

第122号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を中量含む、焼土粒(～4mm)を微量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を中量含む、ローム小塊(～40mm)を少量、焼土粒(～4mm)を微量含む。

第250図 第122号住居跡平面・断面図(1)



第122号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)を微量、焼土粒(～1mm)を少量含む。
- 第2層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)を少量含み、焼土粒(～4mm)を中量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を中量含み、ローム粒(～6mm)を少量含む。

第122号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～6mm)を多量に含み、ローム小塊(～20mm)を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)・ローム粒(～6mm)を少量含む。
- 第4層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～6mm)を多量に含み、ローム小塊(～20mm)を少量含む。

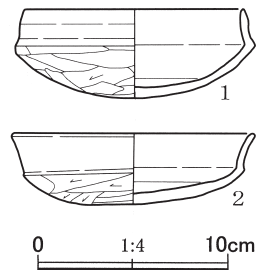
第251図 第122号住居跡平面・断面図(2)

また、第261・296号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。なお、第97号住居跡とも重複する位置にあるが、第296号土坑が介在しており、直接の切り合い関係にはない。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、横長の長方形に近い形態になるろうか。規模は、主軸方向での最大長が3.42m、副軸方向では5.25m、主軸方位は、推定でS-28°-Eである。床面は凹凸がかなり顕著であるが、壁際以外は硬化している。壁の立ち上がりは比較的ゆるやかで、壁高は、南東壁で22cm、南西壁で24cm、北東壁で18cmである。

南東壁の東隅に寄った位置のピットは、貯蔵穴であろうか。ピットと重複しており、断面形はU字状に丸く掘り込まれている。平面形は楕円形で、長径62cm、短径43cm、最深部での深さは32cmである。他に床面で2個のピットを検出している。

カマドは、北東壁のほとんど東隅に接するような位置に付設されている。短小な袖に挟まれた丸みのある燃焼部が残存する。燃焼面はほぼ床面と同じ



第252図 第122号住居跡出土遺物

第117表 第122号住居跡出土遺物観察表

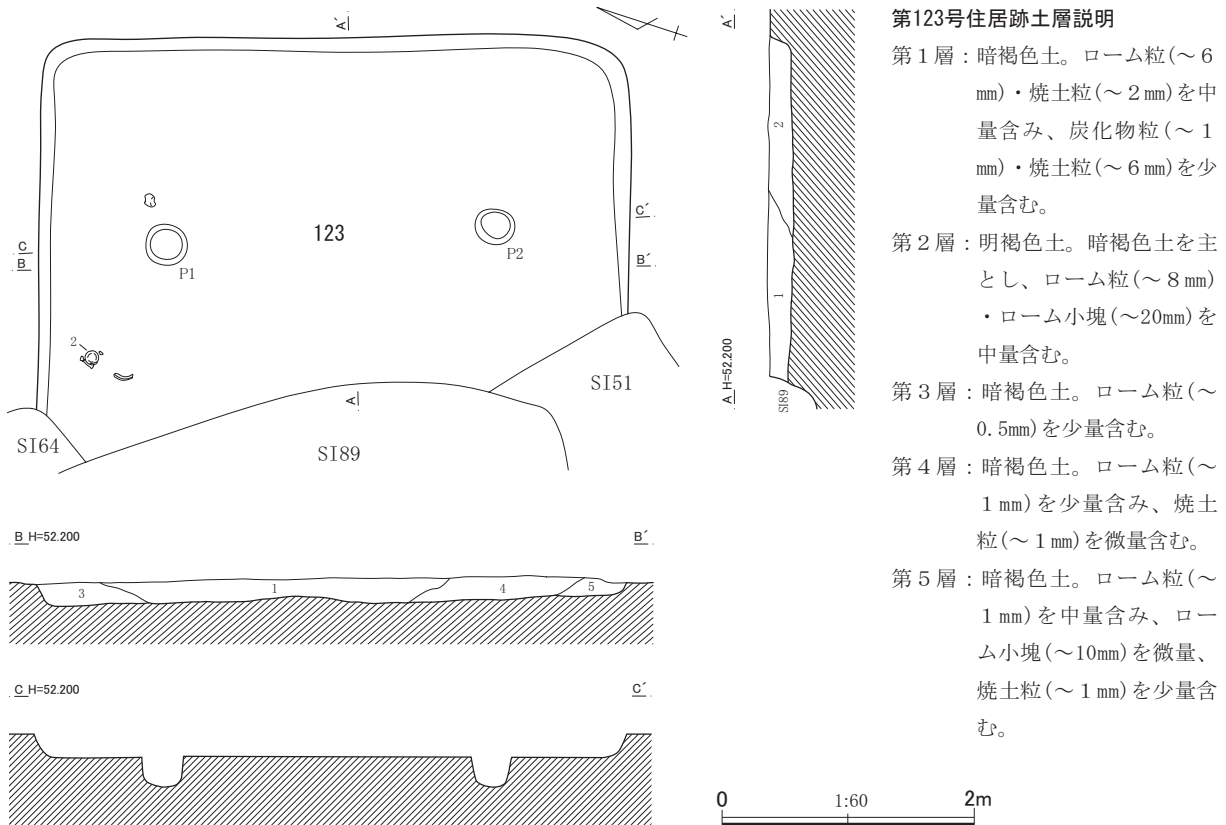
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 12.0 底径 — 器高 4.9	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって内傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面-口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 外-橙色 内-明赤褐色	3/4残存
2	坏	口径 13.2 底径 — 器高 3.9	丸底。口縁部は体部との境に弱い稜をもって外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面-口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外-橙色	口縁部1/3欠損

C地点

高さで、燃焼部の長さは72cm、横幅は46cmである。奥壁から右側壁にかけて、局所的に被熱赤化している。カマド覆土の第2層には、天井部や側壁の崩落土が含まれるようである。

覆土は、暗褐色土を主とする6層に分けられた。主に西側からの流入土などで埋まった模様である。

第252図1の坯は、カマドの前面から、2の坯は、カマドの右袖上から出土した。他には、土師器片を主とする遺物が、覆土中より散漫に出土している。住居形態からは、時期の新しい遺構と見ることができ、重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期後葉前半の遺構としたい。



第123号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～6mm)・焼土粒(～2mm)を中量含み、炭化物粒(～1mm)・焼土粒(～6mm)を少量含む。
- 第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～8mm)・ローム小塊(～20mm)を中量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を少量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含み、焼土粒(～1mm)を微量含む。
- 第5層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を微量、焼土粒(～1mm)を少量含む。

第253図 第123号住居跡平面・断面図

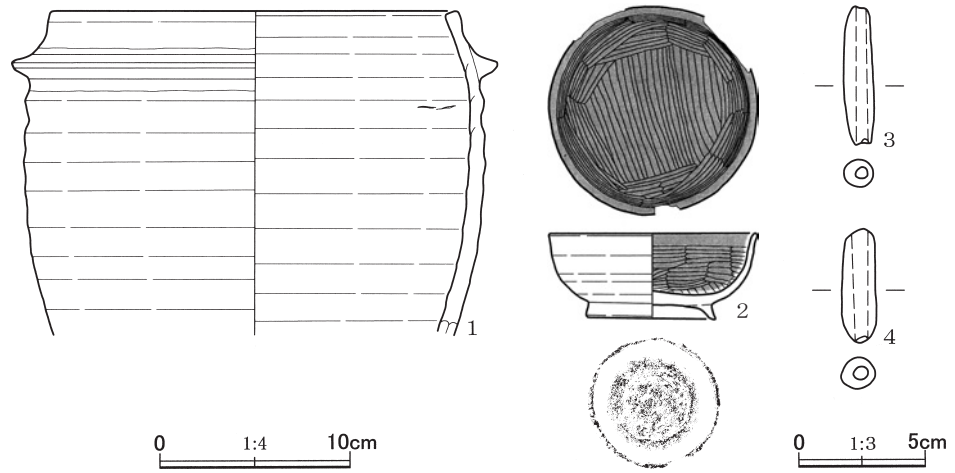
第118表 第123号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	須恵器 羽釜	口径 (22.3) 底径 — 器高 [17.8]	胴部は上位に丸みをもつ。口縁部は内傾し、口唇部はやや肥厚する。鏝は断面三角形を呈す。ロクロ成形。	外面ーロクロナデ。鏝貼付時回転ナデ。内面ーロクロナデ。	白色粒・黒色粒 内外ー橙色	口縁部～胴部1/5残存酸化焰焼成
2	須恵器 高台付 壺	口径 11.3 底径 6.9 器高 4.7	高台部は低く、ハの字形に開く。体部は下位に膨らみをもち、口縁部はわずかに外反する。ロクロ成形。	外面ーロクロナデ。底部回転糸切り。高台貼付時周縁ナデ。内面ーロクロナデ→底部一方向のミガキ後、口縁部～体部横方向のミガキ。黒色処理。	片岩・白色粒・石英 外ー橙色 内ー暗灰色	口縁部一部欠損酸化焰焼成
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
3	土錘	長さ5.7、幅1.3、厚さ1.2、重さ8.41g。胎土：白色粒・角閃石。色調：橙色。				完形
4	土錘	長さ4.7、幅1.4、厚さ1.3、重さ7.98g。胎土：白色粒。色調：にぶい黄橙色。				完形

第123号住居跡

(第253・254図、
第118表、図版29・
137)

調査地点の中央、
南西寄り、P11、Q
11グリッドに位置し、
E群に含まれる住居
跡である。第124・
129号住居跡を切り、
第89号住居跡に切ら



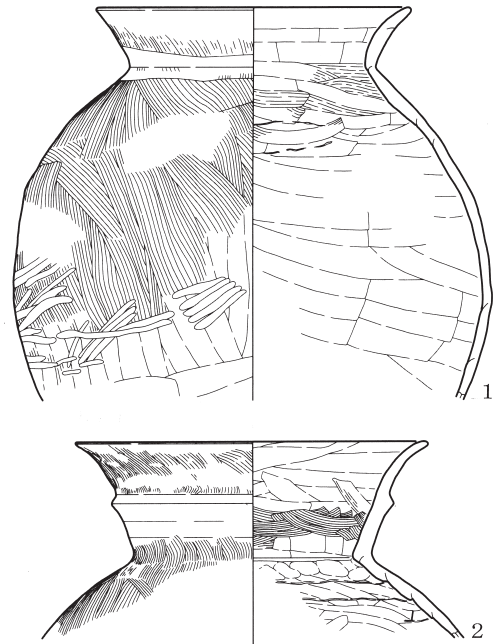
第254図 第123号住居跡出土遺物

れ、遺構西半の大部分を壊されている。第51・64号住居跡と重複する。また、第48・120・151号住居跡と重複する位置にあるが、他の住居跡が介在し、直接の切り合いはない。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、方形ないしは長方形になろう。規模は、南北方向で4.69m、東西方向の現存値で3.35m、北壁の指す方位は、N-73°-Eである。床面は微妙に凸凹しており、壁際を除いて硬化しているが、硬化はかなり軽微である。壁の立ち上がりは、南壁はやや緩やかで、その他は比較的急峻で、壁高は、東・北壁で17cm、南壁で10cmである。P1・P2は、支柱穴であろう。平面形は、ほぼ円形で、深さは、P1が22cm、P2が25cmである。

覆土は、全体的にロームをかなり含む暗褐色土を主とし、壁際から中央に向かって漸次堆積した模様である。

第254図2の高台付碗は北西壁近くから出土している。出土遺物から見て、平安時代中期の遺構と考えられる。



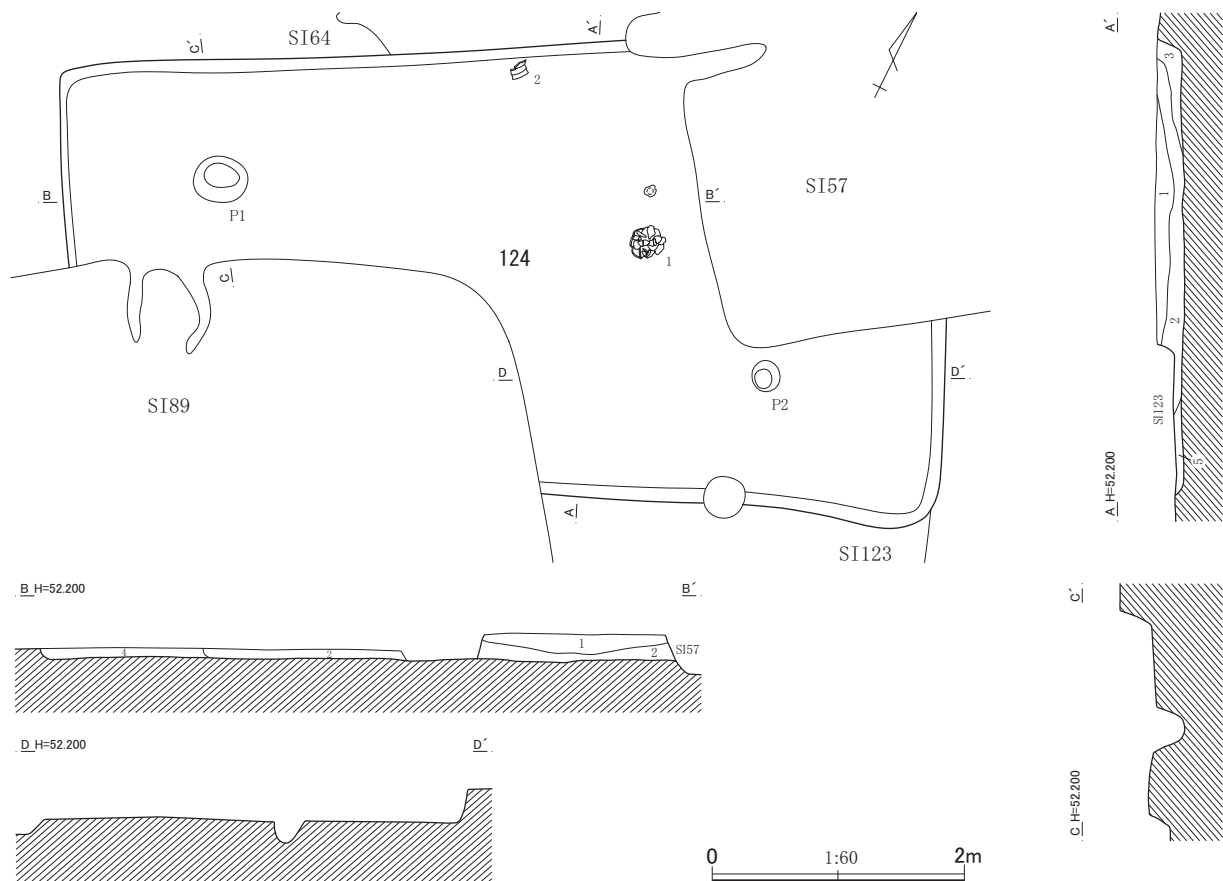
第255図 第124号住居跡出土遺物

第124号住居跡 (第255・256図、第119表、図版29・137)

調査地点の中央、南西寄り、P11グリッドに位置し、

第119表 第124号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 17.1 底径 — 器高 [21.6]	口縁部は外反する。胴部は中位が張る。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ハケメ後ヨコナデ。胴部ハケメ後、中位ミガキ。胴部下位ヘラナデ。内面-口縁部~胴部ヘラナデ。胴部上位は木口状工具によるナデ。	白色粒・石英・片岩 内外-にぶい褐色	口縁部~胴部残存
2	壺	口径 (19.2) 底径 — 器高 [10.8]	口縁部は外反し、中位に段を有する。胴部は張る。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ハケメ後ヨコナデ。胴部上位ハケメ。内面-口縁部ヘラナデ後下位ハケメ。頸部指頭圧痕。胴部ヘラナデ。	白色粒 内外-明赤褐色	口縁部~胴部上位1/3残存



第124号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～6mm)を中量含む。

第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～10mm)を中量含む、ローム小塊(～30mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。

第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～10mm)を多量に含む、ローム小塊(～30mm)を少量含む。

第4層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～20mm)を多量に含む。

第5層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を中量含む。

第256図 第124号住居跡平面・断面図

E群に含まれる住居跡である。第136号住居跡を切っており、第57・64・69・89・120・123号住居跡に切れ、遺構の北東・南西隅周辺を大きく壊されている。第151号住居跡とも重複関係にある。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、南北方向に比し、東西方向が著しく長い長方形と見ることができ、東壁と西壁とは、長さが大きく異なるらしく、かなり歪な形態である。規模は、南北方向で3.55m、東西方向で7.01mである。南北方向での軸方位は、N-26°-Wである。床面はほぼ平坦で、中央の一部が、かすかに硬化している。壁の立ち上がりは、全体にゆるやかで、壁高は、北壁で19cm、東壁で28cm、南壁で8cm、西壁で9cmである。

P1・P2は、支柱穴の可能性のあるピットである。平面形は、P1が楕円形、P2は円形で、深さは、P1が25cm、P2が18cmである。

覆土は、全体的にロームをかなり含む暗褐色土を主とする5層である。

第255図1の甕は、床面中央のやや東寄りの覆土上層からまとまって出土している。2の壺の破片の一部は、北壁沿い床面直上から出土している。かなり異様な住居形態であり、形態的には、時期の

新しい住居跡と見ることもできるようであるが、重複関係、出土遺物から見て、古墳時代中期末葉の遺構としたい。

第125号住居跡（第257図、図版30）

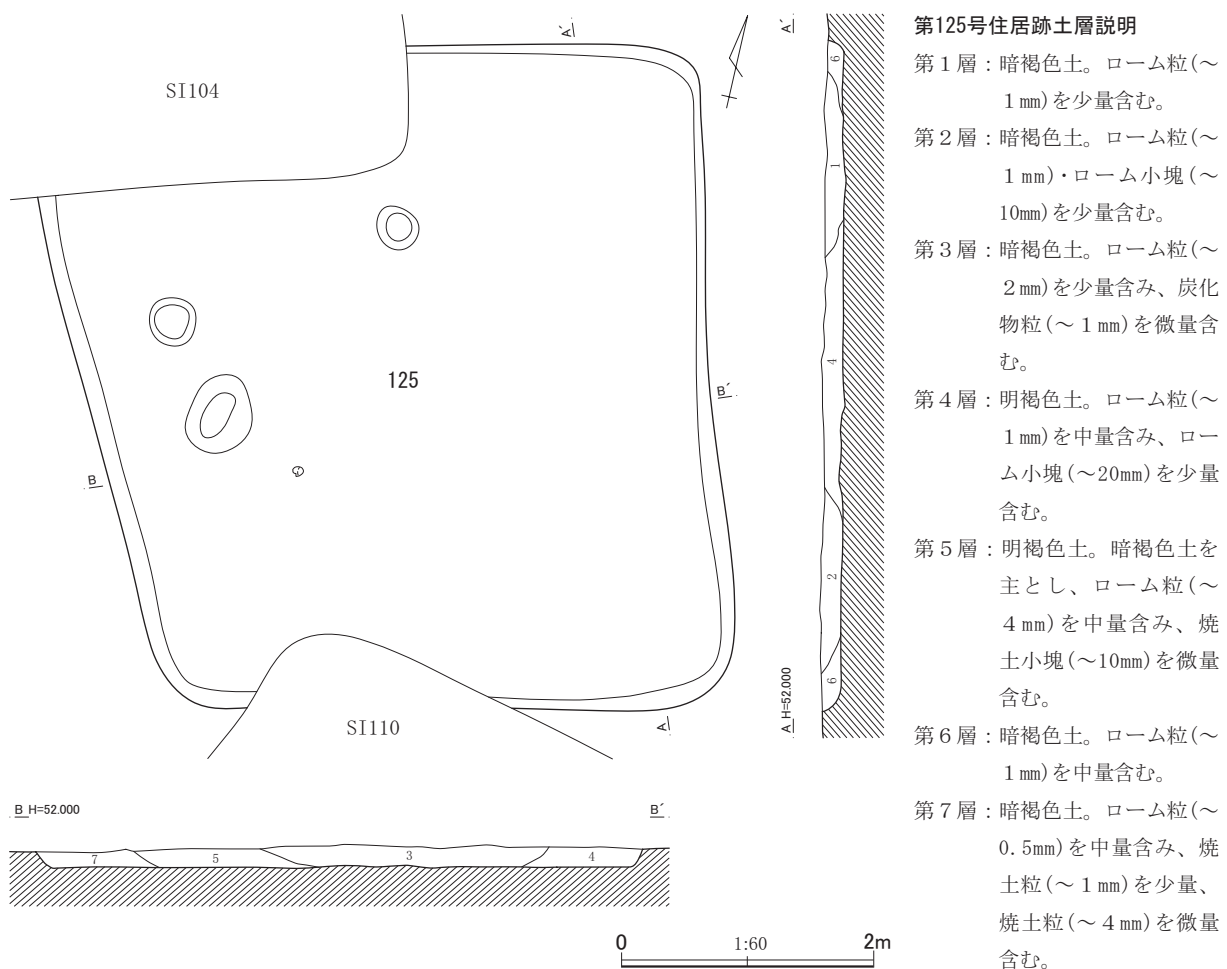
調査地点の南東部の中央、やや北東寄り、S12・13、T12・13グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第128・205号住居跡を切っており、第104・110号住居跡に切られ、北西隅周辺、南壁の一部を壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、方形と見られるが、東・西壁が平行せず、南・北壁の長さが異なり、かなり歪な形態である。規模は、南北軸方向で5.30m、東西軸方向で4.95m、南北軸の指す方位はN-21°-Wである。中央から東壁にかけて、軽微ながらも、帯状に硬化している。南東隅を除いて、壁は比較的急峻に立ち上がり、壁高は、北・西壁で12cm、南・東壁で15cmである。

床面で3個のピットを検出しているが、位置的に見て、主柱穴に該当するものはないようである。

覆土は、暗褐色土を主とする7層に分けられた。第5～7層が壁際に堆積した後、東壁側から第4層が流入し、最終的に第1～3層がくぼみを埋めるようにして、住居跡が埋まり切った模様である。

土師器片を主とする遺物が、覆土中よりかなりの量出土しており、古墳時代後期後葉前後の土器片が目につくようである。重複関係から見て、古墳時代後期後葉の遺構である可能性が考えられる。



第257図 第125号住居跡平面・断面図

C地点

第126号住居跡（第258図）

調査地点の南西部、北西部の境の中央、O10、P10グリッドに位置し、E群に含まれる住居跡である。南側、南西側を第81号住居跡、第264号土坑に切られ、北側は攪乱により損なわれており、東壁の一部に連なる床面のみ残存する遺構である。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

規模を残存部分の最大長で示すなら、南北方向で2.86m、東西方向で2.97mとなり、東壁の指す方位はほぼ真北である。床面には凹凸が目立ち、硬化も軽微である。東壁の壁高は、15cmである。

重複関係から見て、古墳時代後期後葉前半以前の遺構である可能性が考えられる。

第127号住居跡（第259～261図、第120表、図版30・137）

調査地点の南東部の南縁近くのほぼ中央、R14グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第171号住居跡を切っており、第101号住居跡に切られ、西壁の大半を壊されている。また、第167・168号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

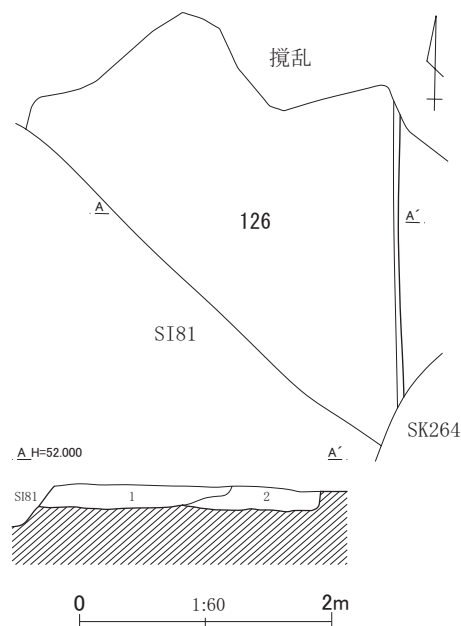
平面形は、長方形である。規模は、主軸方向で5.55m、副軸方向での推定長は、3.60m、主軸方位はS-18°-Eである。壁の立ち上がりは、比較的ゆるやかで、壁高は、南壁で10cm、東壁で11cm、北壁で8cmである。

P1～P4は、支柱穴である。平面形はやや不整な楕円形で、深さは、P1・P4が20cm、P2が27cm、P3が19cmである。右袖と南西隅に挟まれたピットは、貯蔵穴であろう。平面形は楕円形で、長径106cm、短径は82cmである。船底状に掘り込まれており、深さは12cmである。ローム粒子や大小のローム小塊を斑状に含む暗褐色土が不規則に堆積しており、埋め戻されたかに見える覆土である。

カマドは、南壁の中央、わずかに南西隅に寄った位置に付設されている。細く短い両袖に挟まれた縦長U字状の燃焼部が残存する。燃焼部は、かすかに掘りくぼめて造作されており、燃焼面はいくらか凸凹している。袖端を燃焼部の末端とするなら、燃焼部の長さは91cm、横幅は47cmである。粘土、あるいは焼土を顕著に含む第1・4・5層には、天井部や側壁の崩落土が含まれるようである。側壁、奥壁、燃焼面の奥壁寄りの部分は、かすかに被熱赤化している。

覆土は、暗褐色土を主とする2層である。第3層は、暗褐色土とロームの混合土である掘り方埋土である。凹凸の著しい掘りっ放しの粗掘り面のまま第3層の混合土を入れて、床面を作り上げている。

土師器片を主とする遺物が、覆土中より少量出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期初頭（新相）の遺構と考えられる。

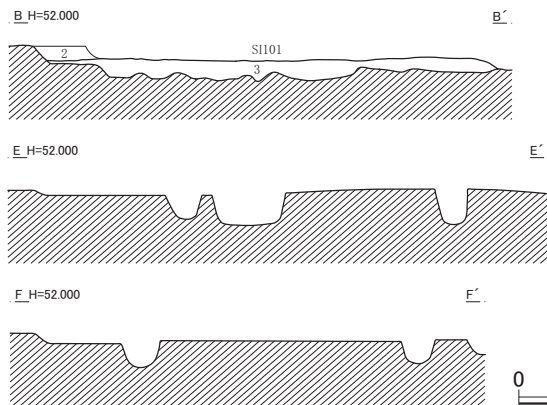
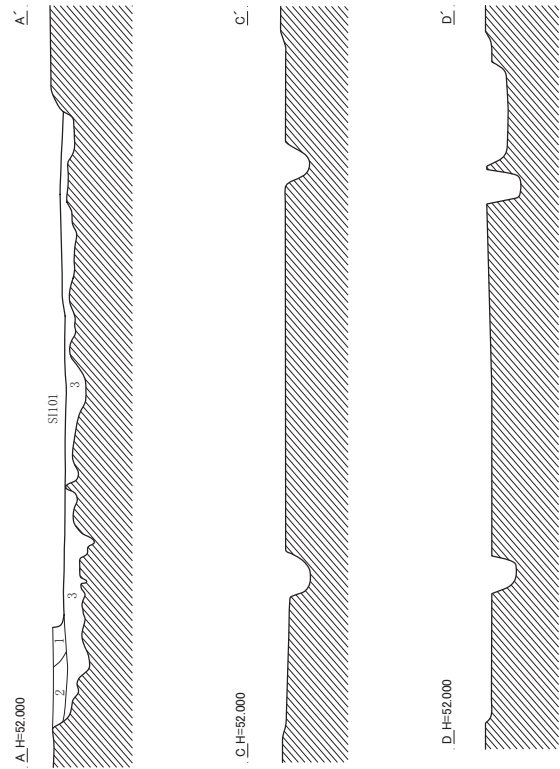
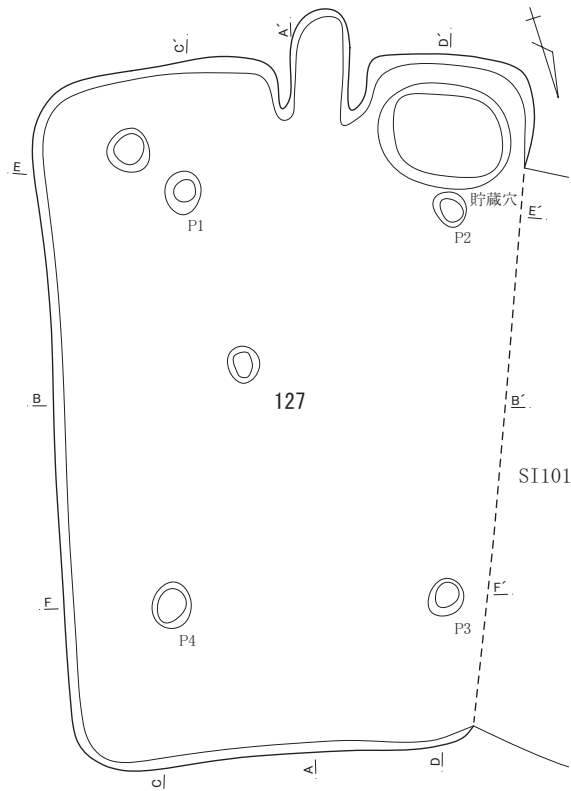


第126号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒（～2mm）を中量含み、炭化物粒（～1mm）・焼土粒（～4mm）を少量含む。

第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～4mm）を中量含み、ローム小塊（～30mm）・焼土粒（～2mm）を少量含む。

第258図 第126号住居跡出土遺物



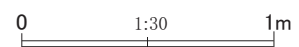
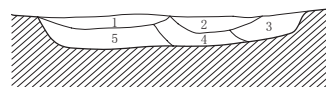
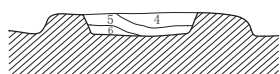
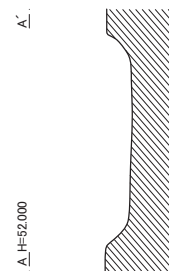
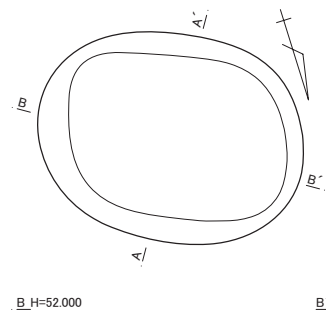
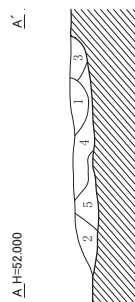
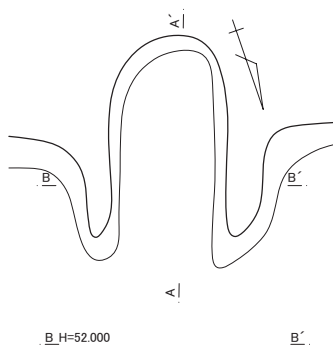
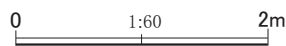
第127号住居跡土層説明

第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)を中量含み、ローム粒(～8mm)を少量、焼土粒(～4mm)を微量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。

〈掘り方埋土〉

第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～8mm)・ローム小塊(～35mm)を多量に含む。ややしまっている。



第259図 第127号住居跡平面・断面図(1)

C地点

第127号住居跡カマド土層説明

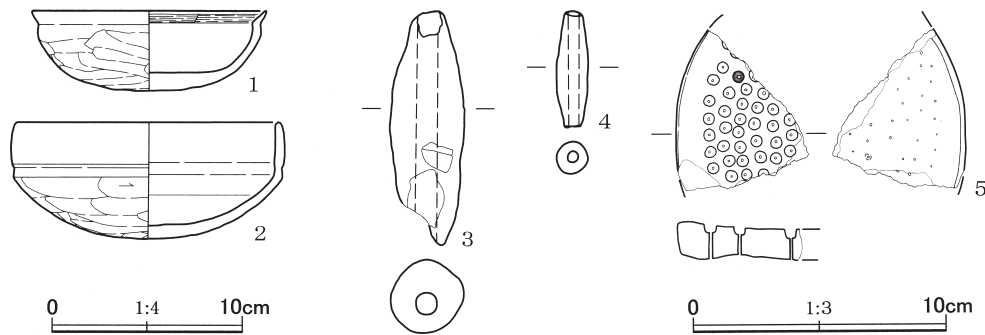
- 第1層：明赤褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～1mm)・焼土小塊(～10mm)を多量に含み、粘土小塊(～10mm)を中量含む。粘性はやや強い。
- 第2層：暗褐色土。粘土小塊(～10mm)を中量含む。粘性はやや強い。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、焼土小塊(～10mm)を少量含む。
- 第4層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～10mm)を中量含み、焼土粒(～5mm)・焼土小塊(～40mm)を少量含む。粘性はやや強い。
- 第5層：明褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～1mm)を中量含み、粘土小塊(～10mm)を少量含む。粘性はやや強い。

- 第6層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～5mm)を中量含み、焼土小塊(～20mm)を少量含む。粘性はやや強い。

第127号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)を少量含む。
- 第4層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～6mm)・ローム小塊(～30mm)を中量含む。
- 第5層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～0.5mm)・ローム小塊(～20mm)を多量に含む。

第260図 第127号住居跡平面・断面図(2)



第261図 第127号住居跡出土遺物

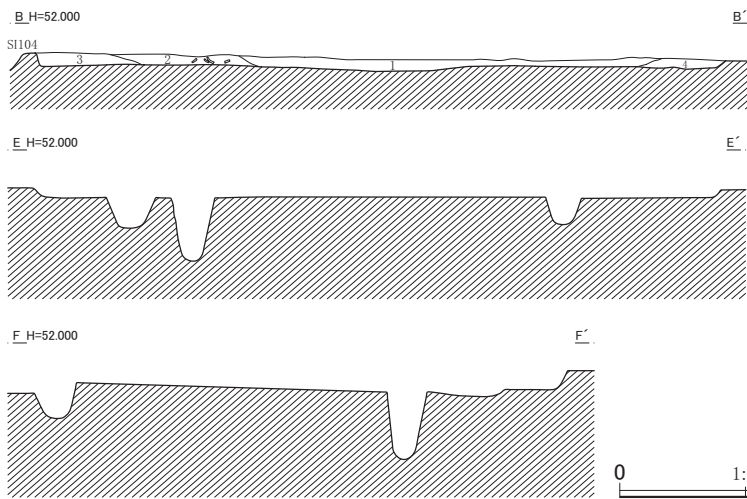
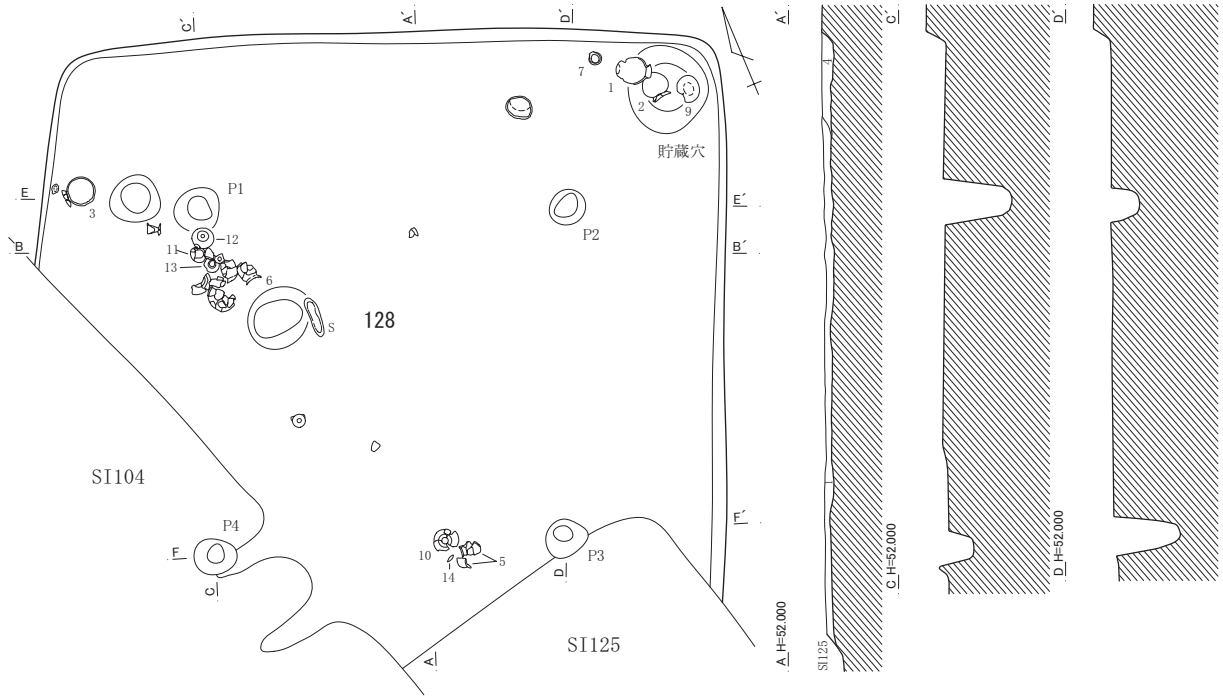
第120表 第127号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 (12.8) 底径 — 器高 4.4	丸底。体部は内彎する。口縁部は短く外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。内面-口縁部木口状工具によるナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・雲母 内外-明赤褐色	口縁部～体部 2/3欠損
2	坏	口径 (14.4) 底径 — 器高 6.4	丸底。口縁部は体部との境に稜をもち、内彎気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。内面-口縁部～体部上半ヨコナデ。体部下半～底部ヘラナデ。	白色粒・雲母 内外-赤褐色	1/3残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
3	土錘	長さ9.6、幅3.0、厚さ3.0、重さ[63.74]g。	胎土：白色粒・片岩。色調：橙色。		端部欠損	
4	土錘	長さ4.8、幅1.3、厚さ1.35、重さ7.26g。	胎土：白色粒。色調：にぶい赤褐色。		完形	
5	ガラス小玉 鑄型	第951図31、第428表参照。				No.31

第128号住居跡 (第262・263図、第121表、図版30・138)

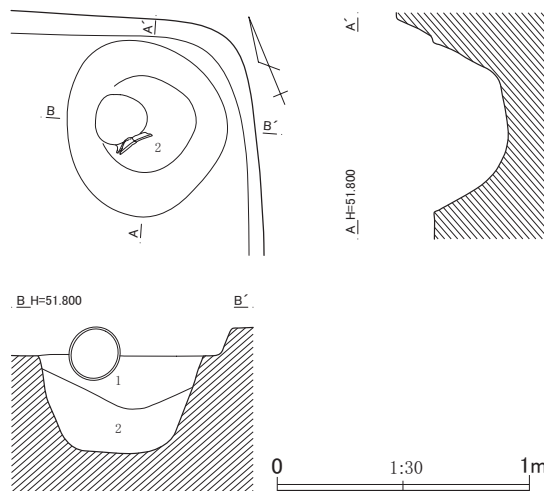
調査地点の東半のほぼ中央、S12、T12グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第104・125号住居跡に切られ、遺構の南西側、南側を大きく壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、方形ないしは長方形になろうか。規模は、北東-南西方向の現存長で5.05m、副軸方向で5.48m、北東-南西方向の軸方位は、N-25°-Eである。床面はかなり凸凹しており、支柱穴を



第128号住居跡土層説明

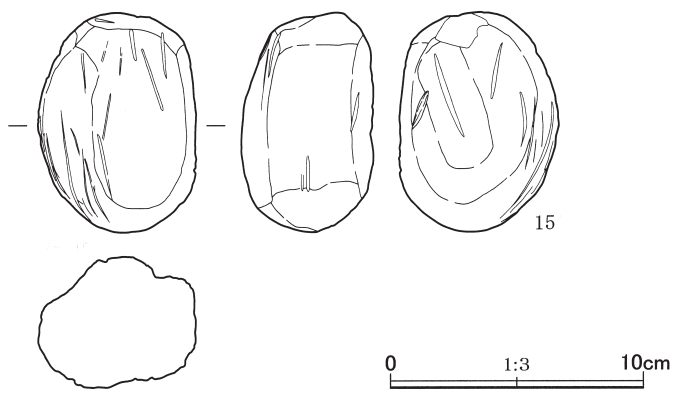
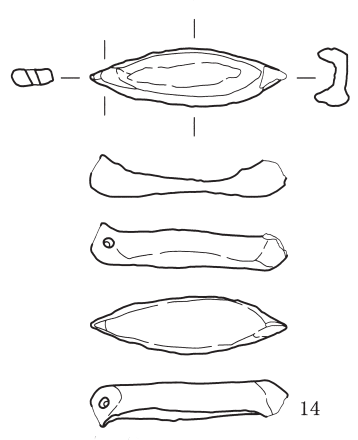
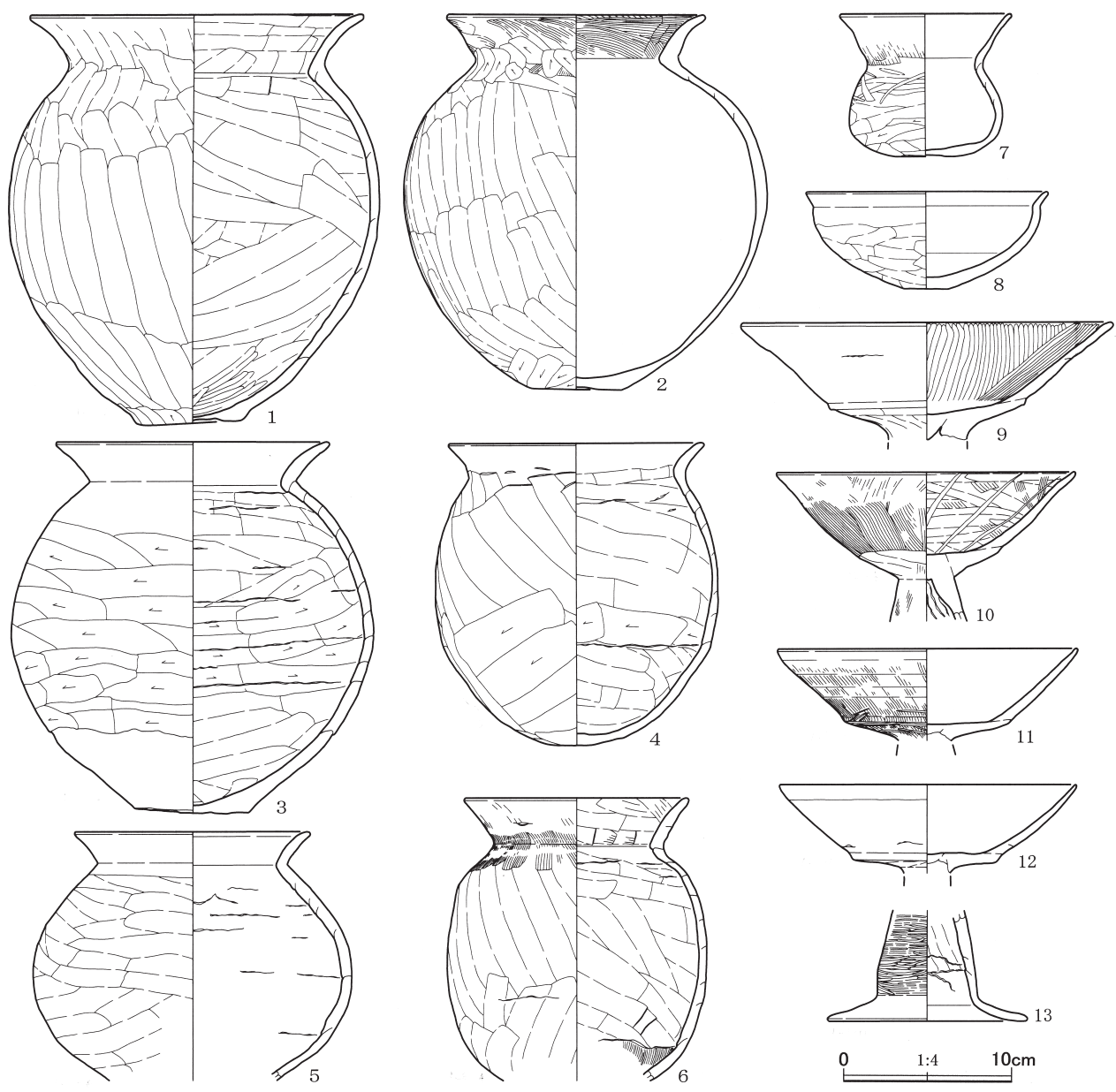
- 第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)・ローム小塊(～20mm)を少量含む。
- 第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～0.5mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を微量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含む。



第128号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～15mm)を多量に含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～6mm)を中量含み、粘土粒(～4mm)を少量、粘土小塊(～20mm)を微量含む。

第262図 第128号住居跡平面・断面図



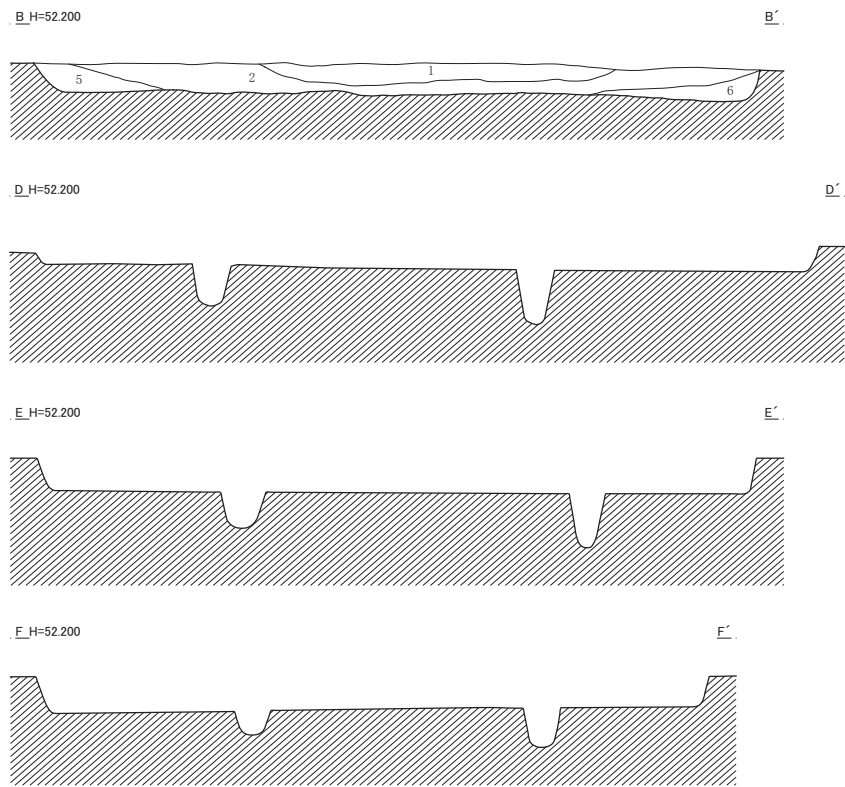
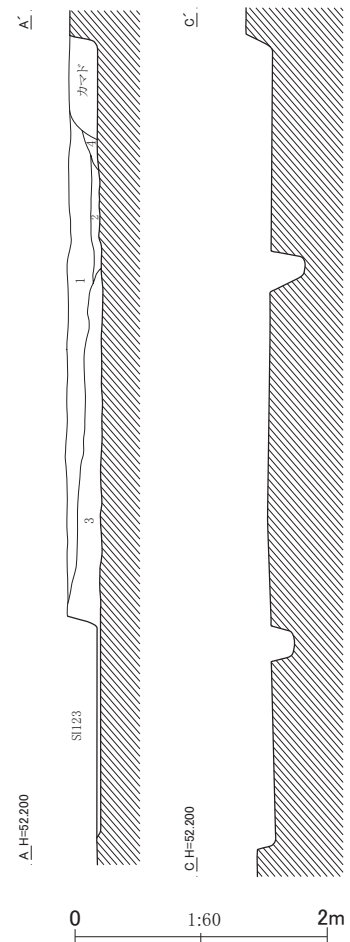
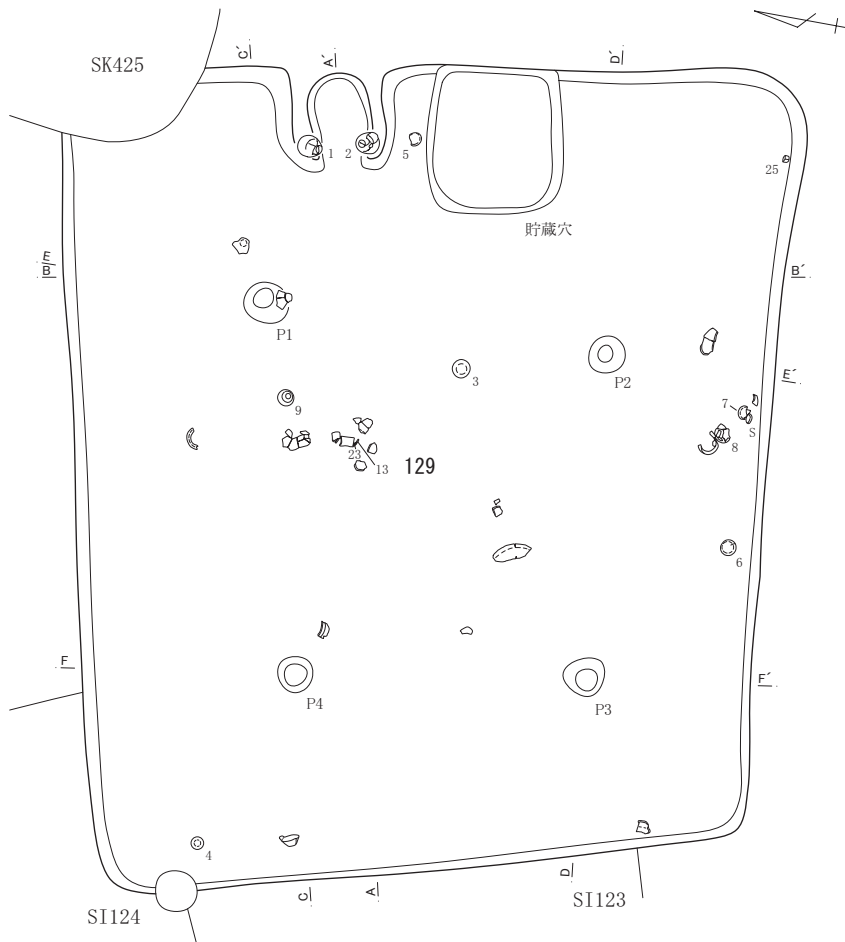
第263图 第128号住居跡出土遺物

第121表 第128号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 (20.6) 底径 6.6 器高 25.8	口縁部は外反する。胴部は中位が張る。上げ底。粘土紐積み上げによる成形。	外面ー口縁部ヨコナデ後ヘラナデ。胴部上位ヘラナデ、胴部中位～底部ヘラケズリ。内面ー口縁部～底部ヘラナデ。胴部下位～底部ミガキ。	白色粒・黒色粒・石英 内外ーにぶい黄褐色	口縁部～胴部2/3欠損
2	甕	口径 (16.0) 底径 5.9 器高 23.5	口縁部は外反する。胴部は中位が張る。上げ底気味。粘土紐積み上げによる成形。	外面ー口縁部ヨコナデ後ハケメ。頸部ヘラケズリ。胴部ヘラナデ。胴部下端～底部ヘラケズリ。内面ー口縁部ハケメ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・雲母 外ー灰褐色 内ーにぶい黄褐色	口縁部3/4欠損
3	甕	口径 (16.9) 底径 7.0 器高 23.2	口縁部は外反する。胴部は中位が張る。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面ー口縁部ヨコナデ。胴部上位ナデ、中位ヘラケズリ、下位丁寧なナデ。底部ヘラケズリ。内面ー口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。胴部中位ヘラケズリ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 内外ー橙色	口縁部～胴部1/2欠損
4	小型甕	口径 (16.0) 底径 — 器高 18.8	口縁部は外反する。胴部は丸みをもつ。丸底。粘土紐積み上げによる成形。	外面ー口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラケズリ。内面ー口縁部ヨコナデ。頸部～底部ヘラナデ、胴部下位ヘラケズリ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 外ーにぶい橙色 内ーにぶい褐色	1/2残存
5	小型甕	口径 (14.6) 底径 — 器高 [15.5]	口縁部は外反する。胴部は中位が張る。粘土紐積み上げによる成形。	外面ー口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。内面ー口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・石英・礫 内外ーにぶい橙色	口縁部～胴部1/3残存
6	小型甕	口径 13.9 底径 — 器高 [17.6]	口縁部は外反する。肩部がやや張り、胴部は張らない。粘土紐積み上げによる成形。	外面ー口縁部ハケメ後ヨコナデ。頸部ハケメ。胴部ヘラナデ。内面ー口縁部～胴部中位ヘラナデ。胴部下位ハケメ。	白色粒・雲母 外ーにぶい橙色 内ーにぶい褐色	底部欠損
7	小型壺	口径 (10.4) 底径 2.9 器高 8.9	口縁部は外反する。体部は下位が張る。底部は上げ底気味。粘土紐積み上げによる成形。	外面ー口縁部ヨコナデ後下半ヘラナデ。体部上半ナデ後ミガキ、中位ヘラナデ、下位～底部ヘラケズリ。内面ー口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	石英、白色粒・黒色粒 外ーにぶい褐色 内ーにぶい黄褐色	口縁部4/5欠損
8	鉢	口径 (14.8) 底径 (2.8) 器高 6.1	丸みを帯びた平底。体部は内彎する。口縁部は短く外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面ー口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。内面ー口縁部～体部上半ヨコナデ。体部下半～底部ヘラナデ。	白色粒・雲母 外ー明赤褐色 内ーにぶい橙色	1/2残存
9	高坏	口径 23.0 底径 — 器高 [7.3]	口縁部は坏部との境に稜をもち、外反気味に開く。粘土紐積み上げによる成形。	外面ー口縁部ヨコナデ。坏部ヘラナデ。内面ー坏部放射状暗文。坏底面ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒・片岩 内外ー橙色	坏部
10	高坏	口径 18.4 底径 — 器高 [9.2]	口縁部は外反気味に開く。粘土紐積み上げによる成形。	外面ー口縁部ハケメ後上位ヨコナデ。坏部ハケメ後ヘラナデ。脚部ハケメ。内面ー坏部ヘラナデ後部分的にハケメ→放射状暗文。脚部絞り目。	白色粒・褐色粒 内外ー橙色	坏部～脚部上位
11	高坏	口径 18.5 底径 — 器高 [5.7]	口縁部は直線的に開く。粘土紐積み上げによる成形。	外面ー口縁部ハケメ後上半ヨコナデ。坏部ハケメ後ミガキ。内面ー坏部器表面剥離のため調整不明。	石英・白色粒・黒色粒 内外ー橙色	坏部2/3残存
12	高坏	口径 18.4 底径 — 器高 [5.5]	口縁部は直線的に開く。粘土紐積み上げによる成形。	外面ー口縁部ヨコナデ。坏部ヘラナデ。内面ー口縁部ヨコナデ。坏底面ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・礫 内外ー明赤褐色	坏部
13	高坏	口径 — 底径 12.3 器高 [6.9]	脚部は下位に膨らみをもつ。裾部は広がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面ー脚部ヘラナデ後ミガキ。裾部ヨコナデ。内面ー脚部上半ヘラナデ、下半～裾部ヨコナデ。	白色粒・黒色粒 外ー橙色 内ーにぶい橙色	脚部
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
14	土製品舟形	長さ[8.1]、幅2.4、孔径0.45×0.4、重さ[24.17]g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：明赤褐色。調整：ナデ、底面はヘラケズリ。／先端に円孔あり、紐通しのためか。				一部欠損
15	砥石	長さ9.1、幅6.6、厚さ5.45、重さ114.53g。石材：軽石。調整：全体的に研磨痕が認められ、部分的に線刻あり。				ほぼ完形

結ぶ範囲を中心に顕著に硬化している。壁の立ち上がりはわずかであり、壁高は、北東壁で9cm、南東壁で6cm、北西壁で10cmである。

東隅そばのピットは、貯蔵穴であろう。平面形はやや不整な円形で、径63～69cmである。坑壁はやや凸凹して掘り込まれており、最深部での深さは38cmである。覆土の、とくに第1層には多量のロ



第129号住居跡土層説明(1)

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を少量含み、ローム小塊(～30mm)を微量、炭化物粒(～1mm)を中量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～20mm)を中量含み、炭化物粒(～1mm)・焼土粒(～1mm)を少量含む。
- 第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を多量に含み、ローム小塊(～30mm)を中量、炭化物粒(～1mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・粘土小塊(～30mm)・焼土粒(～4mm)を少量含み、粘土粒(～4mm)を中量含む。粘性はやや強い。

第264図 第129号住居跡平面・断面図

ームが不規則に含まれ、埋め戻された土と見られる。

第263図2の甕は、貯蔵穴覆土に胴部が半ば埋もれた状態で出土した。1の甕、9の高坏は、貯蔵穴上から、7の直口壺は、貯蔵穴の直ぐ脇の覆土最上層から出土している。3・6の甕、11～13の高坏は、住居跡北西半の覆土上・中層から、5の甕、10の高坏、14の船形の土製品は、P3脇の床面直上から出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代中期中葉の遺構と考えられる。

第129号住居跡（第264～266図、第122・123表、図版31・138・139）

調査地点の中央、やや南西寄り、P11・12、Q11・12グリッドに位置し、F群に含まれる住居跡である。第151・182・183・215・216・307号住居跡を切っており、第123号住居跡、第425号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。また、第124号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

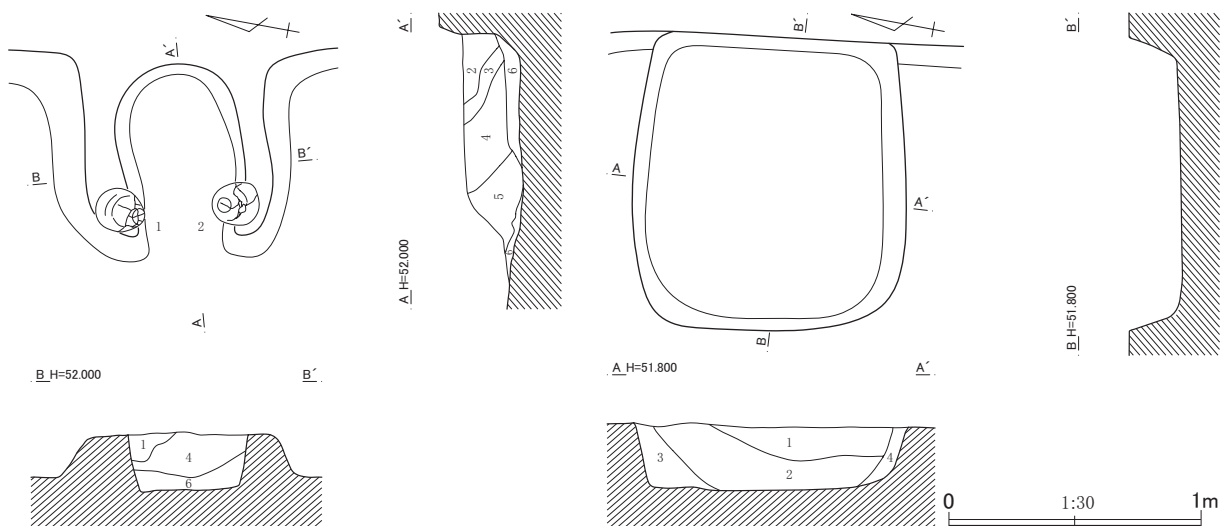
平面形は、長方形と見てよいのであろうが、南西隅が鈍角に開くため、かなり歪な形態である。規

第129号住居跡土層説明(2)

第5層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～8mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)を多量に、炭化物粒(～4mm)を少量、炭化物小塊(～10mm)・焼土粒(～

4mm)を微量含む。粘性はやや強い。

第6層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)・ローム小塊(～20mm)を少量含む。



第129号住居跡カマド土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含む。

第2層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)・粘土粒(～4mm)・粘土小塊(～10mm)を少量含み、焼土粒(～4mm)を中量、焼土小塊(～20mm)を多量に含む。粘性はやや強い。

第3層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含む。

第4層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・ローム小塊(～10mm)・粘土小塊(～20mm)・焼土粒(～4mm)を少量含み、粘土粒(～1mm)を中量含む。粘性はやや強い。

第5層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～4mm)・焼土小塊(～30mm)を少量含む。

第6層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・炭化物粒(～2mm)・焼土粒(～1mm)を少量含み、炭化物粒(～0.5mm)を中量含む。

第129号住居跡貯蔵穴土層説明

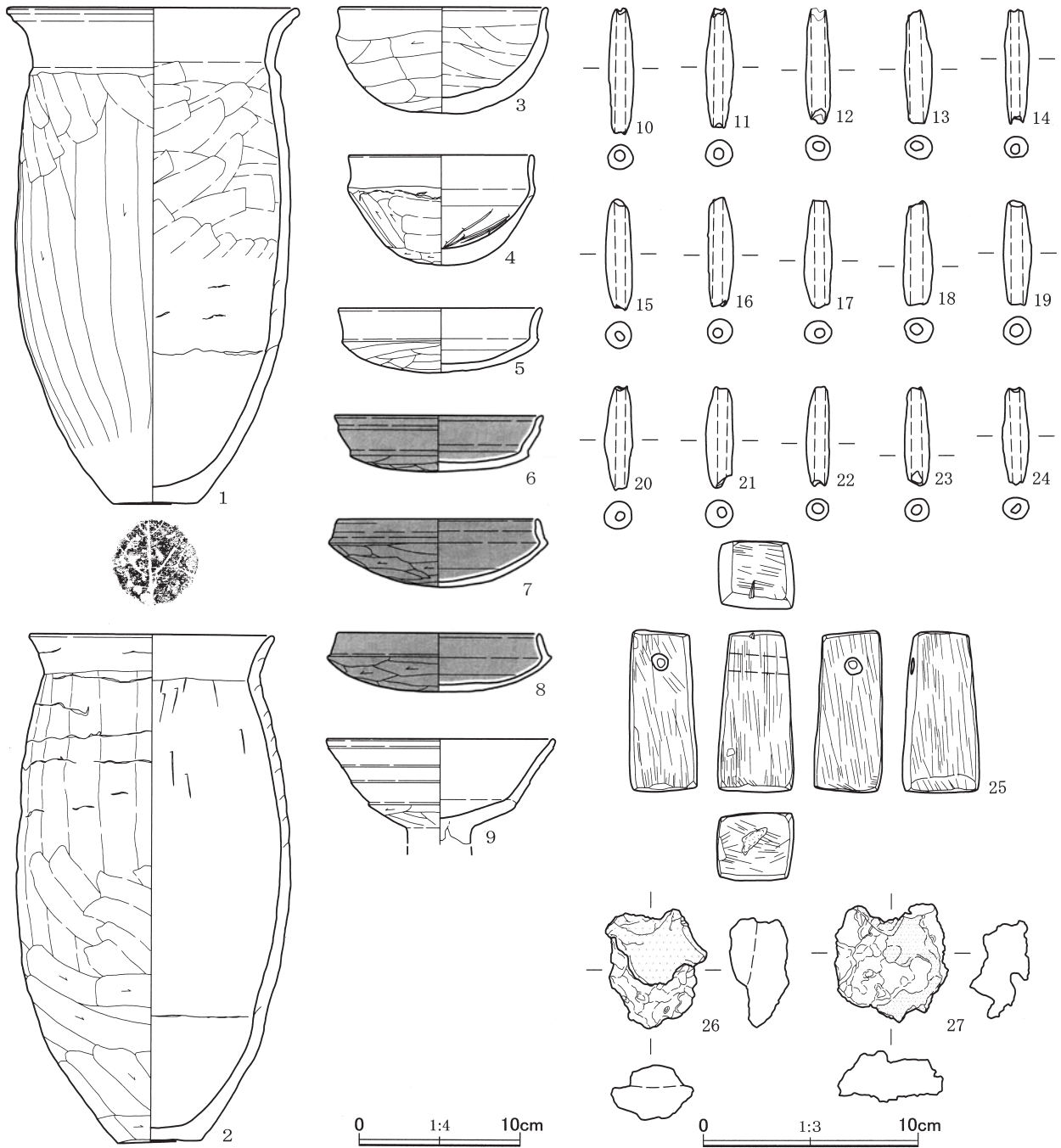
第1層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～20mm)を中量含み、焼土粒(～2mm)を少量含む。

第3層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を少量含む。

第4層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～20mm)を少量含み、焼土粒(～1mm)を微量含む。

第265図 第129号住居跡平面・断面図(2)



第266図 第129号住居跡出土遺物

第122表 第129号住居跡出土遺物観察表(1)

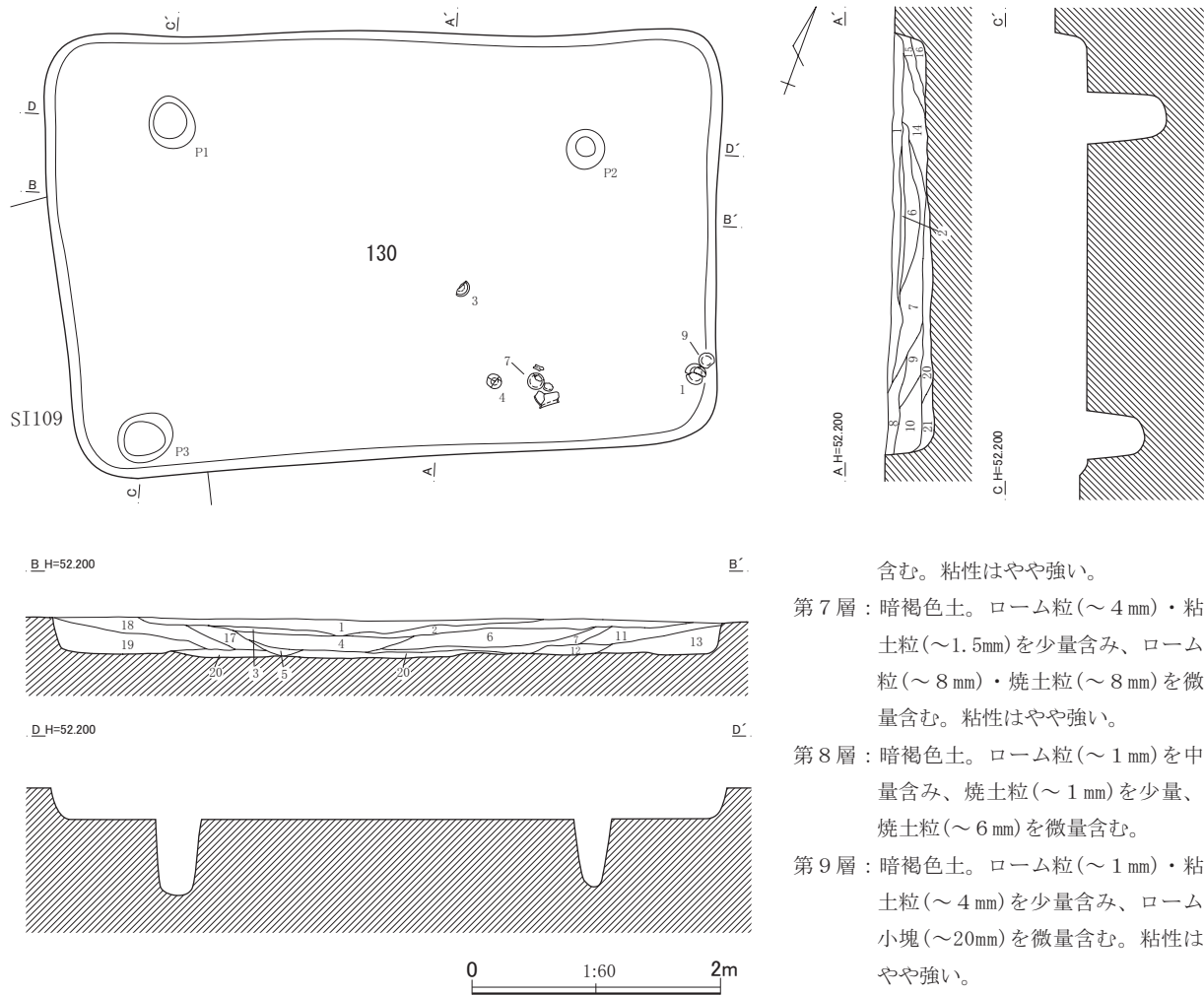
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 18.7 底径 5.4 器高 32.3	口縁部は外反し、上位に幅広の凹線がめぐる。胴部は膨らみをもたない。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ、上位はヘラナデ。底部木葉痕。内面-口縁部ヨコナデ。胴部~底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒・石英 外-橙色 内-明赤褐色	ほぼ完形 胴部下位は内外面ともに磨耗
2	甕	口径 15.6 底径 5.3 器高 33.1	口縁部は外傾する。胴部は膨らみをもたない。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部上~中位ヘラナデ、胴部下位~底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部~底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒・石英 内外-黄橙色	ほぼ完形
3	坏	口径 13.4 底径 — 器高 6.9	丸底。体部は内彎する。口縁部は外反気味に直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外-にぶい橙色	口縁部1/2欠損

第123表 第129号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
4	坏	口径 (11.9) 底径 — 器高 7.2	丸底。体部は丸みをもたない。口縁部は外反気味に直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ後、一部ナデ。内面—口縁部～体部上位ヨコナデ。体部中位～底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 外—にぶい黄橙色 内—橙色	口縁部1/2欠損
5	坏	口径 13.1 底径 — 器高 4.2	丸底。口縁部は体部との境に弱い稜をもって外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部上半ヨコナデ。体部下半～底部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外—橙色	2/3残存
6	坏	口径 13.4 底径 — 器高 3.7	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外傾する。口縁部は上位に段を有する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。黒色処理。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。黒色処理。	白色粒・黒色粒 内外—黒褐色	完形
7	坏	口径 (12.9) 底径 — 器高 4.4	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって内傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。黒色処理。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。黒色処理。	白色粒・雲母 内外—黒褐色	2/3残存
8	坏	口径 13.0 底径 — 器高 3.8	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって内傾する。口唇部は内側に面をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。黒色処理。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。黒色処理。	白色粒・黒色粒 内外—黒褐色	ほぼ完形
9	高坏	口径 (14.8) 底径 — 器高 [6.8]	口縁部は直線的に開き、弱い段を3段有する。坏部との境に稜をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。坏部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。坏部磨耗のため調整不明。	石英・白色粒・黒色粒 外—橙色 内—にぶい橙色	坏部
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
10	土錘	長さ6.1、幅1.2、厚さ1.2、重さ7.76g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：明赤褐色。				完形
11	土錘	長さ5.8、幅1.3、厚さ1.3、重さ8.68g。胎土：白色粒・雲母。色調：褐灰色。				完形
12	土錘	長さ[5.6]、幅1.2、厚さ1.2、重さ[6.71]g。胎土：白色粒・雲母。色調：にぶい赤褐色。				端部欠損
13	土錘	長さ5.5、幅1.3、厚さ1.15、重さ6.94g。胎土：白色粒・褐色粒。色調：明赤褐色。				完形
14	土錘	長さ5.6、幅1.2、厚さ1.0、重さ6.19g。胎土：褐色粒。色調：にぶい赤褐色。				完形
15	土錘	長さ5.4、幅1.3、厚さ1.3、重さ8.46g。胎土：白色粒。色調：橙色。				完形
16	土錘	長さ5.4、幅1.3、厚さ1.2、重さ6.76g。胎土：白色粒。色調：にぶい赤褐色。				完形
17	土錘	長さ5.3、幅1.3、厚さ1.1、重さ7.37g。胎土：白色粒。色調：橙色。				完形
18	土錘	長さ5.1、幅1.4、厚さ1.2、重さ7.29g。胎土：白色粒・褐色粒。色調：橙色。				完形
19	土錘	長さ5.1、幅1.4、厚さ1.3、重さ7.63g。胎土：白色粒。色調：にぶい赤褐色。				完形
20	土錘	長さ5.1、幅1.4、厚さ1.3、重さ6.44g。胎土：白色粒・褐色粒。色調：橙色。				完形
21	土錘	長さ4.9、幅1.4、厚さ1.3、重さ7.45g。胎土：白色粒。色調：にぶい黄橙色。				完形
22	土錘	長さ4.9、幅1.2、厚さ1.0、重さ5.01g。胎土：白色粒。色調：灰黄褐色。				完形
23	土錘	長さ4.8、幅1.2、厚さ1.1、重さ5.69g。胎土：白色粒・褐色粒。色調：明赤褐色。				完形
24	土錘	長さ4.7、幅1.3、厚さ1.0、重さ5.52g。胎土：白色粒。色調：褐色。				完形
25	砥石?	長さ7.85、幅3.7、厚さ3.3、孔径0.75×0.75、重さ163.24g。石材：流紋岩。調整：6面使用。平滑。紐通しのための穿孔あり。				完形
26	椀形鍛冶滓	長さ5.8、幅4.9、厚さ2.9、重さ88.78g。／含鉄部分あり。				完形
27	鉄滓	長さ5.8、幅5.6、厚さ2.9、重さ44.85g。／ガラス質化、ガスが抜けて軽くなっている。				欠損部分あり
28	種子	長さ[2.7]、幅1.5、厚さ1.2、重さ[0.74]g。バラ科植物(モモまたはウメ)の種子の破片				写真のみ

模は、主軸方向で6.43m、副軸方向で5.50m、主軸方位はN-80°-Eである。床面は、支柱穴を結ぶ範囲内が不規則に硬化している。壁の立ち上がりは比較的急であり、壁高は、東・北壁で21cm、南壁で24cm、西壁で16cmである。

P1～P4は、支柱穴であろう。平面形は、いずれもやや歪な円形で、深さは、P1が30cm、P2が42cm、P3が33cm、P4が20cmである。カマドの右袖脇の壁沿いのピットは、貯蔵穴であろう。平面形は長方形で、長軸長が117cm、短軸長が107cmである。20cm前後の深さで平坦な底面が作出されている。最深部38cmである。覆土は、暗褐色土を主とする4層で、覆土の大半を占める第2・4層は、ロームの小塊を不規則な水玉状に含む特徴的な土層である。



第130号住居跡土層説明(1)

- 第1層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)・炭化物粒(～4mm)・焼土粒(～1mm)を少量含み、粘土粒(～1mm)を中量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)を少量含み、粘土粒(～0.5mm)を多量に、シルト質砂粒子(～0.5mm)を中量含む。粘性はやや強い。
- 第3層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)を少量含み、粘土粒(～0.5mm)を多量に、シルト質砂粒子(～0.5mm)を中量含む。粘性はやや強い。
- 第4層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)を少量含み、焼土粒(～4mm)・シルト質砂粒子(～0.5mm)を中量、粘土粒(～0.5mm)・層下位にシルトを多量に含む。粘性はやや強い。
- 第5層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)・ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～10mm)を少量含み、粘土粒(～0.5mm)を多量に、シルト質砂粒子(～0.5mm)を中量含む。粘性はやや強い。
- 第6層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)・ローム小塊(～20mm)を少量含み、粘土粒(～0.5mm)を多量に、シルト質砂粒子(～0.5mm)を中量

- 含む。粘性はやや強い。
- 第7層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・粘土粒(～1.5mm)を少量含み、ローム粒(～8mm)・焼土粒(～8mm)を微量含む。粘性はやや強い。
- 第8層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を中量含み、焼土粒(～1mm)を少量、焼土粒(～6mm)を微量含む。
- 第9層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・粘土粒(～4mm)を少量含み、ローム小塊(～20mm)を微量含む。粘性はやや強い。
- 第10層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)・粘土小塊(～20mm)・焼土粒(～4mm)を微量含み、粘土粒(～4mm)を中量含む。粘性はやや強い。
- 第11層：明灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)・粘土小塊(～40mm)を少量含む。
- 第12層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・粘土小塊(～30mm)を微量含む。
- 第13層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を少量含む。
- 第14層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含み、粘土粒(～2mm)を中量、焼土粒(～1mm)を微量含む。粘性はやや強い。
- 第15層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含み、ローム小塊(～20mm)・炭化物粒(～1mm)・焼土粒(～6mm)を微量含む。粘性はやや強い。
- 第16層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)・粘土粒(～1mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)・炭化物粒(～4mm)・焼土粒(～2mm)を微量含む。粘性はやや強い。
- 第17層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・粘土小塊(～10mm)・焼土粒(～2mm)を微量含み、粘土粒(～0.5mm)を少量含む。粘性はやや強い。

第267図 第130号住居跡平面・断面図(1)

第130号住居跡土層説明(2)

第18層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・粘土小塊(～20mm)・ 焼土小塊(～10mm)を微量含み、粘土粒(～1mm)を中 量、焼土粒(～4mm)を少量含む。粘性はやや強い。	第20層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を中量含み、ローム小 塊(～10mm)を微量、炭化物粒(～4mm)・焼土粒(～ 4mm)を少量含む。
第19層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・ローム小塊(～10mm) ・焼土粒(～4mm)を微量含む。	第21層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～8mm)・ 炭化物粒(～4mm)・焼土粒(～4mm)を中量含む。

第268図 第130号住居跡平面・断面図(2)

カマドは東壁の中央、やや北東隅に偏した位置に付設されている。U字状の燃焼部を有し、細長い袖が付く形態である。燃焼部の長さは78cm、横幅は50cmである。燃焼面は、床面より若干深くなっており、側壁、奥壁の上部、奥壁寄りの燃焼面は、部分的に被熱赤化している。左右の袖の先端近くには、倒置された甕が袖甕として埋め込まれている。カマド覆土の第2層は、焼土小塊を多量に含み、奥壁や煙道などの被熱赤化した崩落土を含む層と思われる。

覆土は、暗褐色土を主とする6層に分けられた。壁際を埋める第5・6層の堆積後、第2・3層および第1層が流入し、住居跡が埋まり切ったと見られる。第4層は、カマドとかかわる土であろう。

第266図1の甕は左袖甕、2の甕は右袖甕である。5の坏は、カマド右袖脇の中層から出土している。3の坏、9の高坏、13・23の土錘は、床面中央の上～下層から、4の坏は、北西隅近くの下層から、6～8の坏は、南壁近くの上～中層から出土している。25の砥石(いわゆる権状石製品の可能性もあるか)は、南東隅近くの覆土最上層から出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期後葉後半の遺構と考えられる。

第130号住居跡(第267～269図、第124・125表、図版31・139)

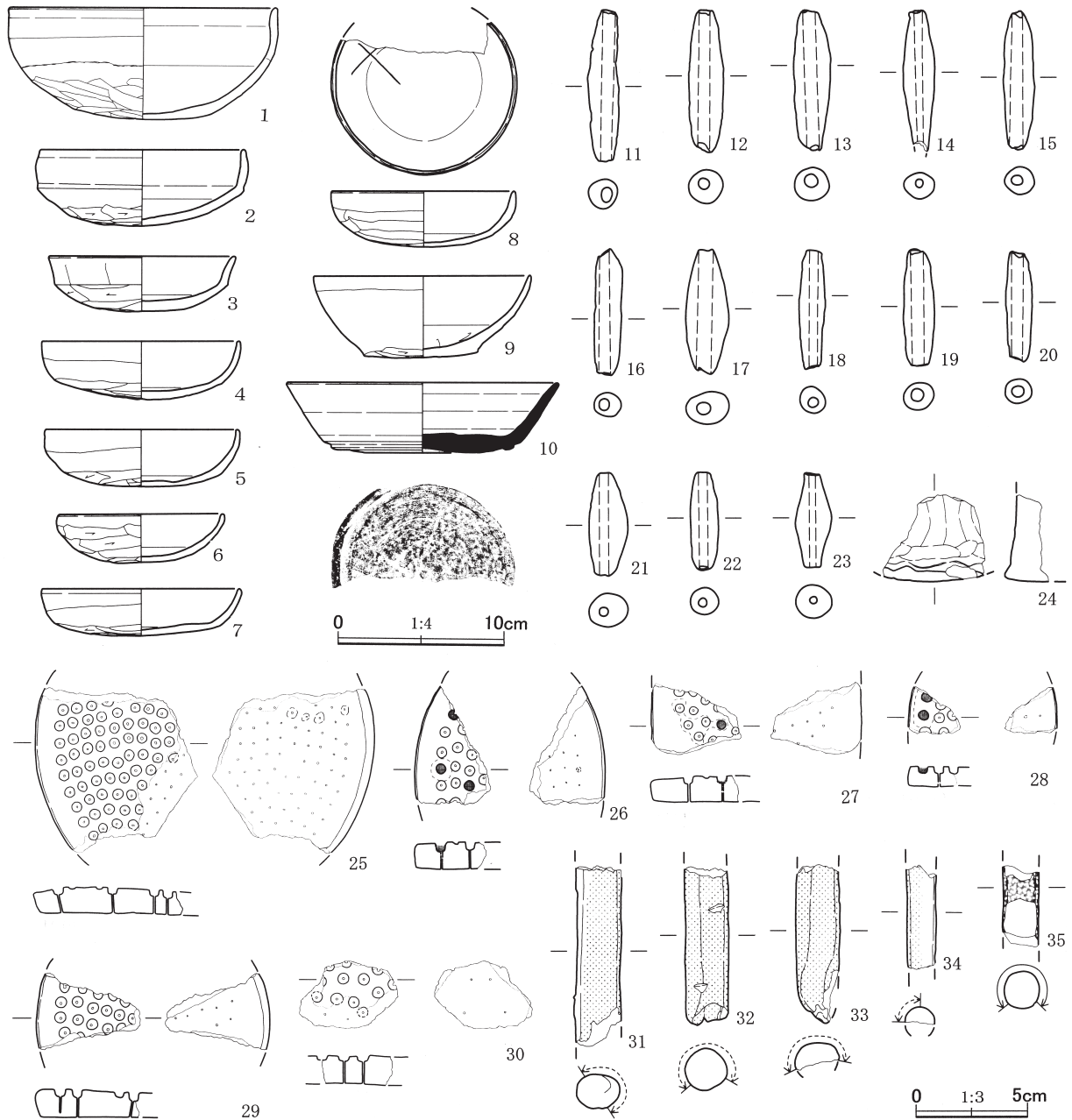
調査地点の南東隅近く、S14、T14グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第141・239・258号住居跡を切っている。第109号住居跡に切られ、南西隅周辺を壊されている。また、135・154号住居跡と重複する。なお、第185号住居跡とも重複する位置関係にあるが、他の住居跡が介在し、直接的な切り合いは見られない。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、長方形と見られる。規模は、南北軸方向で3.45m、東西軸方向で5.35m、南北軸が指す方位は、N-21°-Wである。床面はやや凸凹しており、中央から北壁にかけて硬化しているようである。壁の立ち上がりは、かなり急峻であり、壁高は、北壁で26cm、東壁で25cm、南壁で38cm、西壁で27cmである。

P1～P3は、支柱穴の可能性のあるピットである。平面形は、いずれもやや不整な円形で、深さは、P1が55cm、P2が54cm、P3が44cmである。

覆土は、暗褐色土を主とする21層に分けられた。第1～6層は、特異なひとまとまりの層で、住居跡の埋没過程のある段階に、粘土を多く含む層と粘土がそれほど多くない層とが、交互に流入したような堆積状態を示す。

第269図1の埴、9の坏2個体は、南東隅脇の東壁沿いから、3・4・7の3個体の坏は、住居跡南東部分から、いずれの土器も覆土最上層～上層中より出土している。重複関係、および出土遺物から見て、奈良時代前半の遺構と考えられる。



第269図 第130号住居跡出土遺物

第124表 第130号住居跡出土遺物観察表（1）

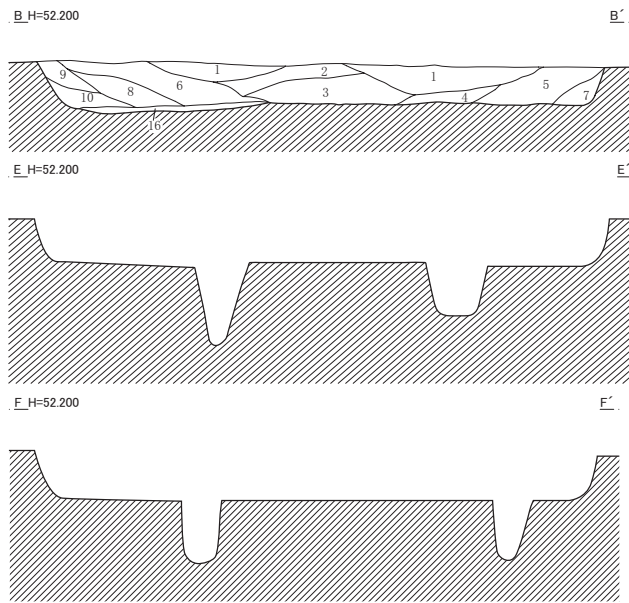
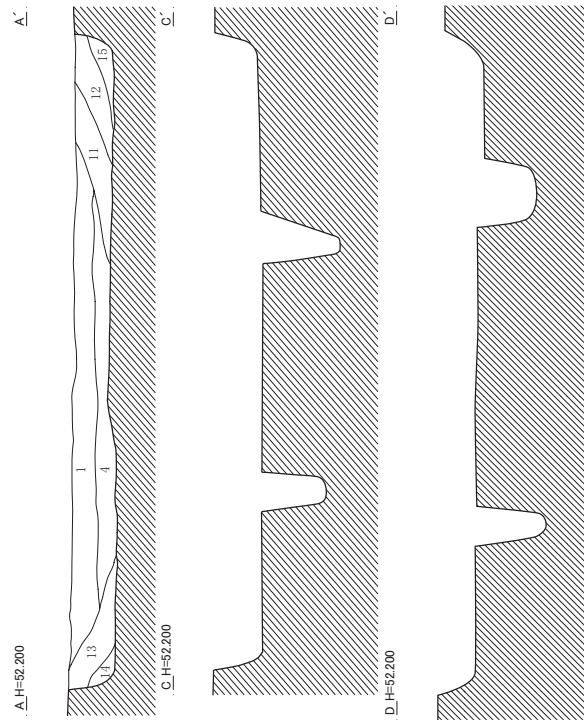
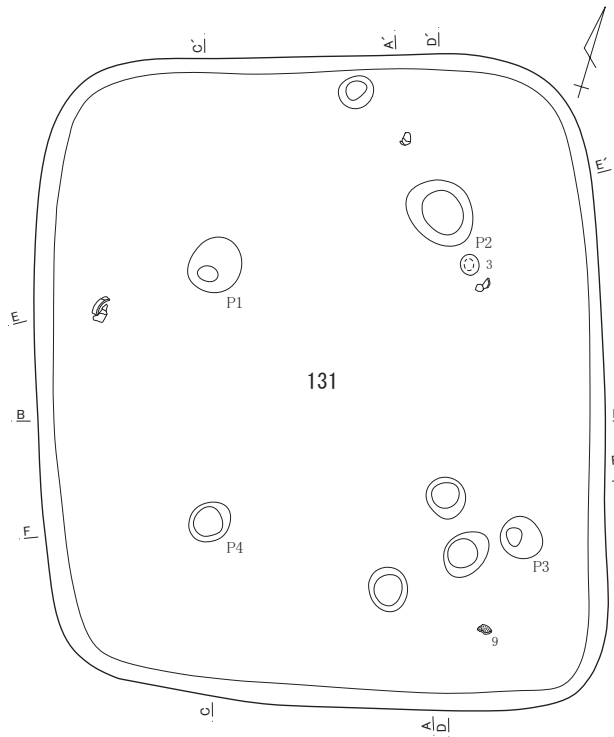
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	埴	口径 16.1 底径 — 器高 6.8	丸底。体部は内彎し、口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部上半ナデ、下半～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部上半ヨコナデ。体部下半～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 外—明赤褐色 内—橙色	口縁部一部欠損
2	坏	口径 12.8 底径 — 器高 4.8	丸底。口縁部は体部との境に稜をもち、内彎気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ナデ。底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	雲母・白色粒・小礫 内外—明赤褐色	口縁部1/2欠損
3	坏	口径 11.6 底径 — 器高 3.5	丸底。口縁部は体部との境に弱い稜をもって外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒 内外—橙色	2/3残存
4	坏	口径 12.3 底径 10.5 器高 3.7	丸みを帯びた平底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ナデ。底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外—にぶい赤褐色	口縁部一部欠損

第125表 第130号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
5	坏	口径 12.0 底径 10.1 器高 3.6	丸底気味。内彎する体部から、口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。体部ナデ。底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外一明赤褐色	2/3残存
6	坏	口径 10.2 底径 — 器高 3.1	丸底。内彎する体部から、口縁部は短く直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒 内外一橙色	2/3残存
7	坏	口径 12.2 底径 10.4 器高 2.9	丸みを帯びた平底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。体部ナデ。底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外一明赤褐色	完形
8	坏	口径 11.5 底径 — 器高 3.5	丸底。内彎する体部から、口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・角閃石 内外一橙色	3/4残存内面に「×」の線刻
9	坏	口径 13.6 底径 7.2 器高 5.1	丸みを帯びた平底。体部は内彎気味に開き、口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。体部ナデ。底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部上半ヨコナデ。体部下半～底部ヘラナデ。	白色粒・角閃石 内外一明赤褐色	口縁部1/3欠損
10	須恵器 高台付 坏	口径 (17.0) 底径 (11.6) 器高 4.4	底部は高台部より突出する。体部から口縁部にかけて直線的に開く。ロクロ成形。	外面一ロクロナデ。底部回転ヘラケズリ。高台部削り出し。内面一ロクロナデ。	白色粒 外一灰白色 内一灰黄色	1/4残存 還元焙焼成
No.	器種	法量(cm)・特徴			備考	
11	土錘	長さ7.2、幅1.4、厚さ1.4、重さ14.06g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：明赤褐色。			一部欠損	
12	土錘	長さ6.7、幅1.65、厚さ1.6、重さ16.51g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい赤褐色。			完形	
13	土錘	長さ6.6、幅1.65、厚さ1.6、重さ17.35g。胎土：白色粒。色調：にぶい赤褐色。			完形	
14	土錘	長さ[6.6]、幅1.45、厚さ1.25、重さ11.73g。胎土：白色粒。色調：褐灰色。			端部欠損	
15	土錘	長さ6.5、幅1.45、厚さ1.3、重さ11.81g。胎土：白色粒。色調：明赤褐色。			完形	
16	土錘	長さ6.0、幅1.3、厚さ1.1、重さ8.87g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：橙色。			完形	
17	土錘	長さ5.85、幅2.0、厚さ1.55、重さ15.95g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい橙色。			完形	
18	土錘	長さ5.6、幅1.3、厚さ1.3、重さ8.10g。胎土：白色粒。色調：黒褐色。			完形	
19	土錘	長さ5.5、幅1.45、厚さ1.3、重さ10.68g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：明赤褐色。			完形	
20	土錘	長さ5.2、幅1.3、厚さ1.2、重さ7.88g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい褐色。			完形	
21	土錘	長さ4.9、幅1.9、厚さ1.6、重さ13.62g。胎土：白色粒・黒色粒・褐色粒。色調：橙色。			完形	
22	土錘	長さ4.7、幅1.3、厚さ1.3、重さ7.51g。胎土：白色粒。色調：黄灰色。			完形	
23	土錘	長さ4.5、幅1.7、厚さ1.6、重さ10.13g。胎土：白色粒。色調：にぶい橙色。			完形	
24	土製品 脚状	高さ[4.1]。胎土：白色粒・黒色粒。色調：灰白色。調整：ナデ。			破片	
25	ガラス小玉 鑄型	第951図32、第428表参照。			No.32	
26	ガラス小玉 鑄型	第951図33、第428表参照。			No.33	
27	ガラス小玉 鑄型	第951図34、第428表参照。			No.34	
28	ガラス小玉 鑄型	第951図35、第428表参照。			No.35	
29	ガラス小玉 鑄型	第951図36、第428表参照。			No.36	
30	ガラス小玉 鑄型	第951図37、第428表参照。			No.37	
31	棒状 土製品	第969図42、第438表参照。			No.42	
32	棒状 土製品	第969図43、第438表参照。			No.43	
33	棒状 土製品	第969図44、第438表参照。			No.44	
34	棒状 土製品	第969図45、第438表参照。			No.45	
35	棒状 土製品	第969図46、第438表参照。			No.46	

第131号住居跡(第270～272図、第126・127表、図版140)

調査地点の南東隅近くの南壁脇、R14・15、S14・15グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第138・139・161・169・188号住居跡を切って造られている。また、第170号住居跡とも重複



第131号住居跡土層説明(1)

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)・ローム粒(～4mm)・焼土粒(～1mm)を少量含み、炭化物粒(～2mm)を微量含む。
- 第2層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)・炭化物粒(～2mm)を少量含み、焼土粒(～4mm)を中量含む。
- 第3層：黒赤褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)を少量含み、粘土粒(～1mm)・焼土粒(～4mm)を中量、粘土粒(～6mm)を微量含む。

- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・焼土粒(～2mm)を少量含み、ローム粒(～4mm)を微量含む。
- 第5層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・ローム粒(～6mm)・焼土粒(～4mm)を少量含み、焼土小塊(～20mm)を微量含む。
- 第6層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)・ローム小塊(～10mm)を中量含み、炭化物粒(～4mm)を少量含み、焼土粒(～1mm)・焼土小塊(～10mm)を微量含む。
- 第7層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)・ローム小塊(～10mm)を少量含み、焼土粒(～4mm)を中量含む。
- 第8層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)を多量に含み、ローム小塊(～10mm)を少量、炭化物粒(～4mm)・焼土粒(～4mm)を微量含む。
- 第9層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～0.5mm)・ローム粒(～4mm)を中量含む。
- 第10層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)を多量に含み、ローム小塊(～10mm)を中量含む。
- 第11層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を微量、粘土粒(～2mm)を少量含む。
- 第12層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・炭化物粒(～2mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～4mm)を微量含む。

第270図 第131号住居跡平面・断面図(1)

第131号住居跡土層説明(2)

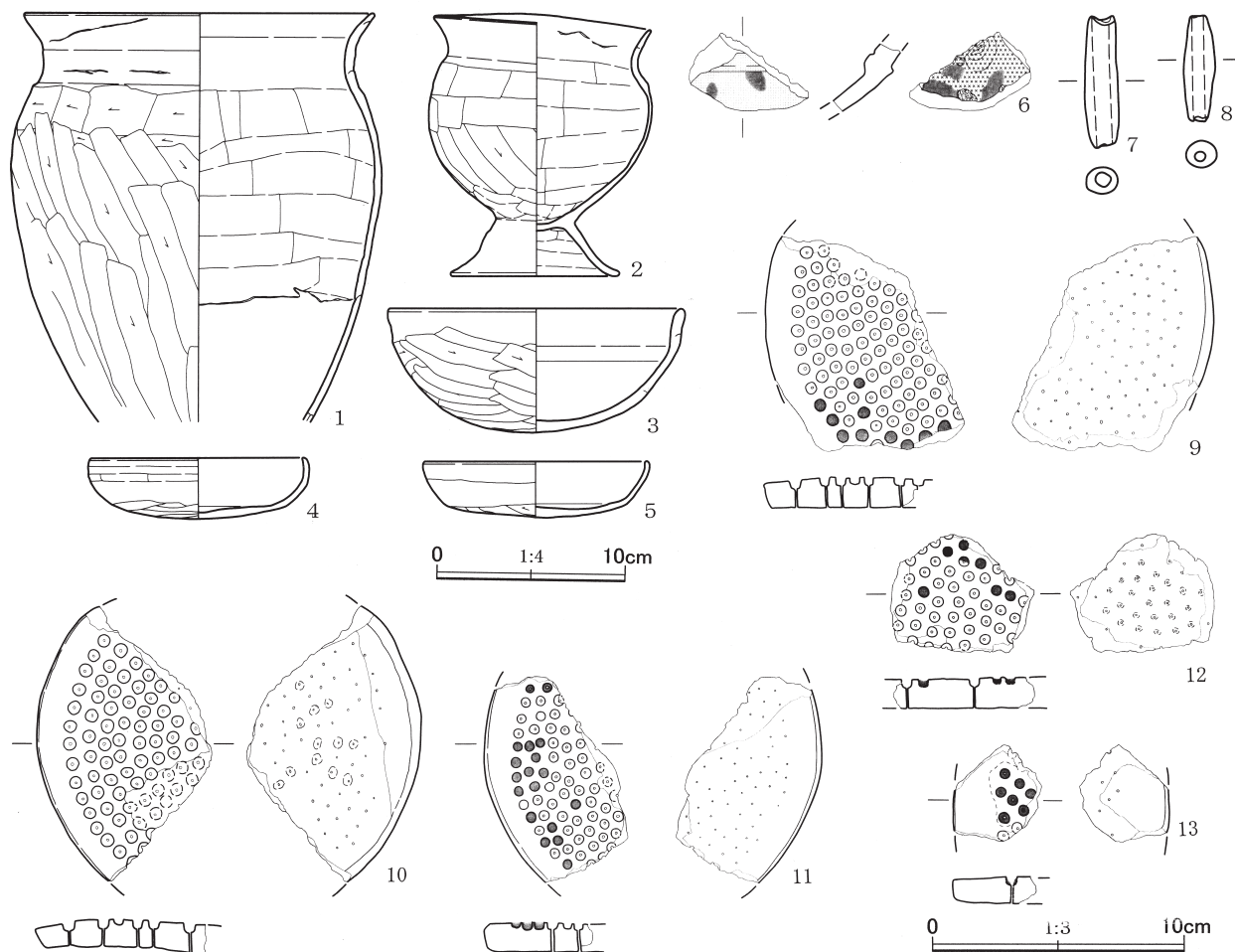
第13層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)・粘土粒(～4mm)・焼土粒(～2mm)を少量含む。

第14層：黒褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を少量含み、炭化物粒(～0.5mm)を中量含む。

第15層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を少量含み、ローム粒(～8mm)を微量含む。
(掘り方埋土)

第16層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～6mm)・ローム小塊(～20mm)を多量に含む。ややしまっている。

第271図 第131号住居跡平面・断面図(2)



第272図 第131号住居跡出土遺物

第126表 第131号住居跡出土遺物観察表(1)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 19.3 底径 — 器高 [22.6]	口縁部は直立し、上位で外傾する。胴部は上位が張る。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 外-明赤褐色 内-赤褐色	口縁部～胴部 2/3残存
2	小型台付甕	口径 12.0 底径 9.1 器高 14.5	口縁部は外反する。胴部は上～中位が張る。台部は八字状に開く。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ、下端部ヘラナデ。台部ヨコナデ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部～台部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 外-明赤褐色 内-にぶい橙色	口縁部～胴部 1/4欠損
3	埴	口径 16.2 底径 — 器高 6.9	丸底。体部は内彎し、口縁部は肥厚して直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	石英・角閃石・白色粒 内外-にぶい橙色	完形
4	坏	口径 11.8 底径 — 器高 3.4	丸底。体部はゆるやかに開き、口縁部は短く内彎する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヘラナデ。体部ナデ。底部ヘラケズリ。内面-口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外-明赤褐色	ほぼ完形

第127表 第131号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
5	坏	口径 12.3 底径 10.0 器高 3.1	丸みを帯びた平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は短く内傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部ナデ。底部ヘラケズリ。内面-口縁部~体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒・褐色粒 内外-橙色	3/4残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
6	転用 埴埴	器高[2.7]。胎土：白色粒・黒色粒。色調：外-暗灰黄色、内-暗灰黄色。外面は全体的に熱変色し、部分的に赤色化。内面は全体的にガラス質化。部分的に赤色化、緑錆付着。				坏破片
7	土錘	長さ5.5、幅1.4、厚さ1.1、重さ8.66g。胎土：白色粒。色調：黒褐色。				完形
8	土錘	長さ4.5、幅1.3、厚さ1.1、重さ6.10g。胎土：白色粒。色調：明赤褐色。				完形
9	ガラス小玉 鑄型	第951図38、第428表参照。				No.38
10	ガラス小玉 鑄型	第952図39、第429表参照。				No.39
11	ガラス小玉 鑄型	第952図40、第429表参照。				No.40
12	ガラス小玉 鑄型	第952図41、第429表参照。				No.41
13	ガラス小玉 鑄型	第952図42、第429表参照。				No.42

する可能性のある位置関係にあるが、直接切り合わない。確認面は、黄褐色ローム層上面である。

平面形は、隅丸長方形であるが、南東隅が鋭角をなすため、いくらか歪である。規模は、南北軸方向で5.15m、東西軸方向で4.50m、南北軸の指す方位は、N-18°-Wになる。床面は、かなり凹凸が目立つが、壁際を除いて、明瞭に硬化している。壁の立ち上がりは、比較的緩やかで、壁高は、北壁で29cm、東壁で30cm、南壁36cm、西壁で37cmである。

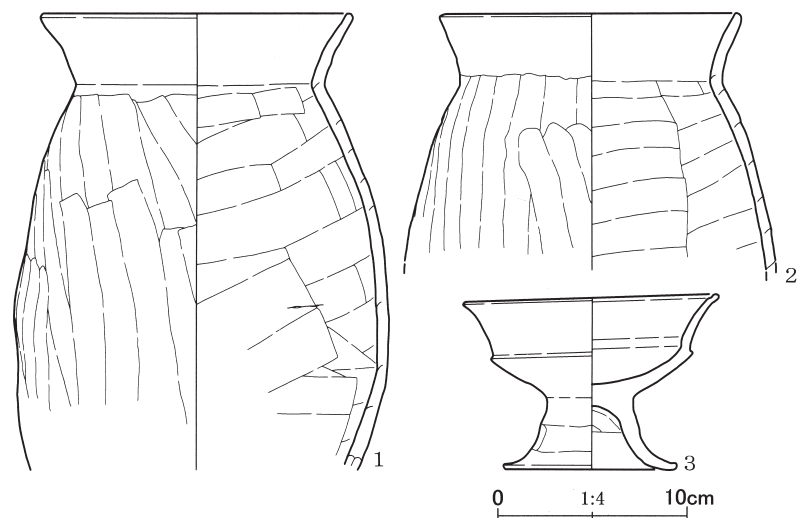
P1~P4は、支柱穴の可能性のあるピットである。平面形はやや不整な円形、楕円形で、深さは、P1が66cm、P2が44cm、P3が45cm、P4が53cmである。他に床面で、4個のピットを検出している。

住居跡の覆土は、暗褐色土を主とする15層に分けられた。壁際の堆積土である第5~15層の堆積後、くぼみとなった住居跡中央に、第1~4層が堆積したのであろうが、B-B'断面に見られるように、土層がかなり乱れている。また、第2・3・7層のように焼土や炭化物を著しく含む層が見られる。第16層は、暗褐色土とロームの混合土からなる掘り方の埋土である。

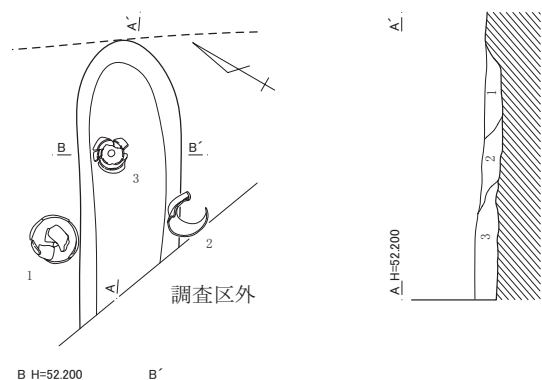
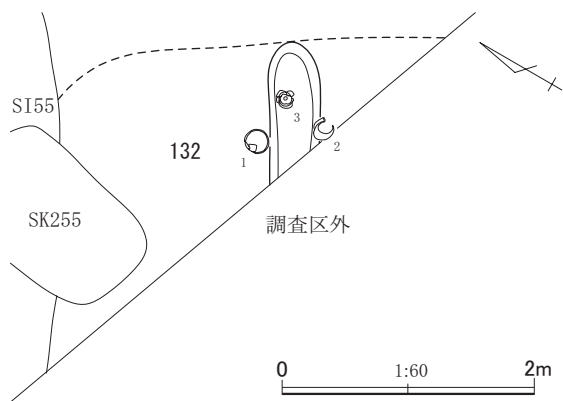
第272図3の塊は、P2の脇の上層から、9のガラス小玉鑄型は、南東隅近くの下層から出土している。重複関係、出土遺物から見て、奈良時代末から平安時代初頭にかけての遺構と考えられる。

第132号住居跡(第273・274図、第128表、図版31・140)

調査地点の南西部の南縁沿いのほぼ中央、O13・14グリッドに位置し、J群に含まれる住居跡である。第55号住居跡、第255号土坑に切られ、遺構の北西側を壊されている。なお、南側は調査範囲外である。確認面が低かったこともあり、検出で



第273図 第132号住居跡出土遺物



第132号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)・焼土粒(～4mm)を少量含み、炭化物粒(～2mm)を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・炭化物粒(～2mm)・焼土粒(～1mm)を少量含む。
- 第3層：明褐色土。ローム土を主とし、暗褐色土粒子(～4mm)を少量含む。
- 第4層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)を中量含む。

第274図 第132号住居跡平面図

第128表 第132号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 16.8 底径 — 器高 [25.1]	口縁部は外反する。胴部は中に膨らみをもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	片岩・白色粒・黒色粒 内外—橙色	口縁部～胴部5/6残存
2	甕	口径 16.0 底径 — 器高 [14.1]	口縁部は外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	片岩・石英・角閃石・白色粒 内外—橙色	口縁部～胴部上半1/2残存
3	高坏	口径 (13.9) 底径 (9.3) 器高 9.7	口縁部は外反し、坏部との境に稜をもつ。脚部はハの字状に開き、裾部は短く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。坏部～脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。内面—口縁部ヨコナデ。坏部器面剥離のため不明。脚部ナデ。裾部ヨコナデ。	角閃石・白色粒・褐色粒 内外—明赤褐色	2/3残存

きたのは、カマドの燃焼部の掘り込みと袖甕、カマド脇のわずかな範囲の床面のみである。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

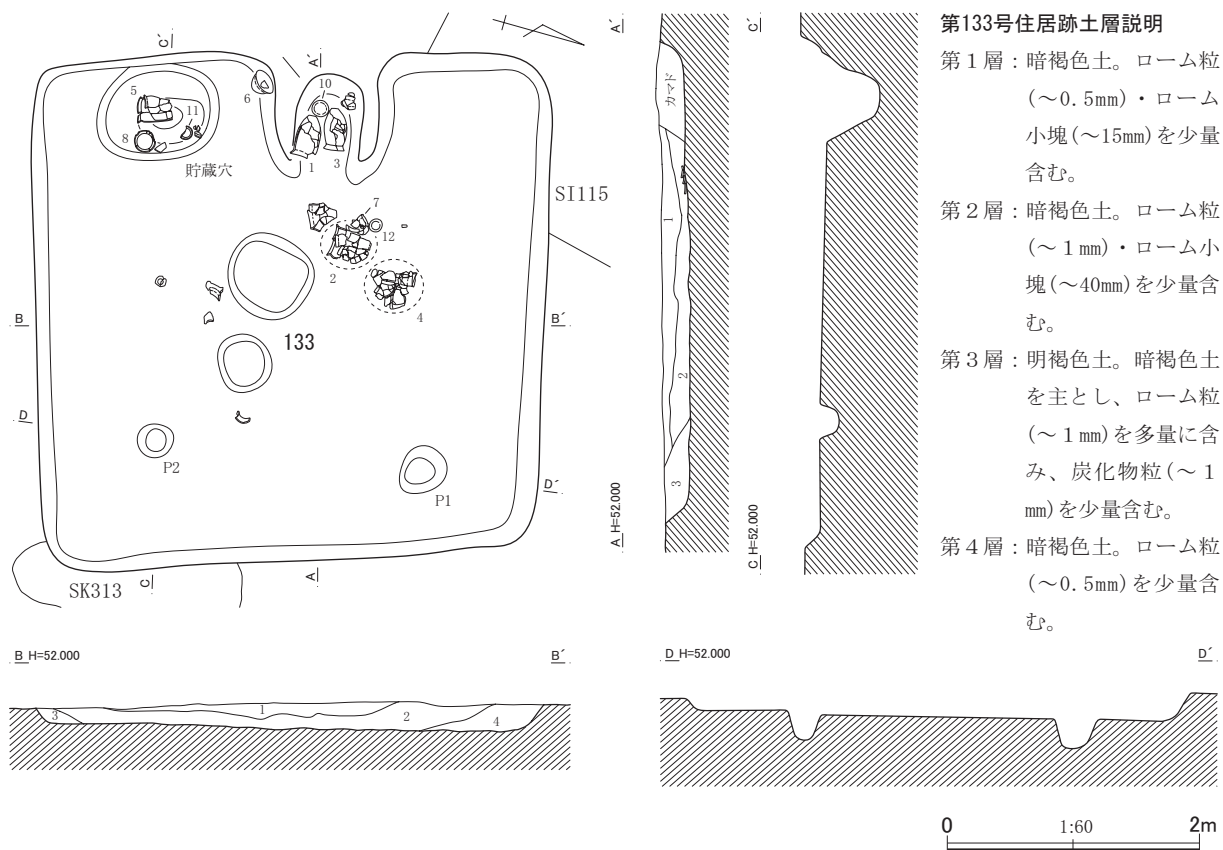
規模は、いずれも現存する部分、あるいは床面残存範囲の長さになるが、北西—南東方向で3m弱、北東—南西方向で2.5mほどである。一応カマド燃焼部の主軸の指す方位を記すなら、N—60°—Eである。床面はほぼ平坦で、軽微ではあるが、硬化している。

カマドは、北東壁に設けられていたのであろう。細長い燃焼部を有する形態で、燃焼面は明瞭に掘りくぼめられ作出されている。燃焼部の残存部分の長さは100cm、横幅は41cmである。被熱赤化の痕跡は見られない。第273図1の甕は、左袖甕、2の甕は、右袖甕である。どちらも倒置されており、本来は、袖の中に埋め込まれていたものであろう。また、燃焼部の中央やや奥壁寄りの覆土中から、3の高坏が逆位で出土している。支脚として用いられていた可能性がある。

重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期中葉の遺構と考えられる。

第133号住居跡（第275～277図、第129・130表、図版32・140・141）

調査地点の南東部の中央、西寄り、R13グリッドに位置し、H群に含まれる。第179号住居跡を切り、第115号住居跡、第313号土坑に切られている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。



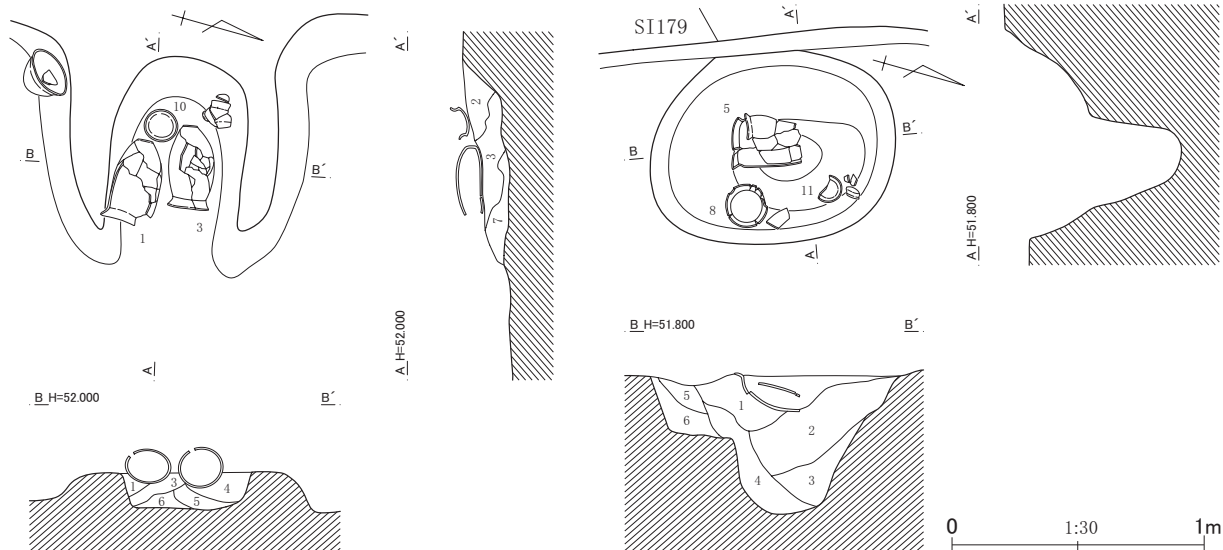
第275図 第133号住居跡平面・断面図（1）

平面形は、方形である。規模は、主軸方向で4.03m、副軸方向で4.03m、主軸方位は、S-73°-Wである。床面はほぼ平坦で、P1とP2を結ぶ範囲の西側の床面は、壁際を除いて明瞭に硬化している。壁の立ち上がりは、比較的ゆるやかで、壁高は、西・北壁で20cm、東壁で19cm、南壁で12cmである。

P1・P2は、支柱穴であろうか。平面形は、P1は不整な楕円形あるいは卵形で、P2は円形で、深さは、P1が22cm、P2は23cmである。カマド左袖と南西隅の間のピットは、貯蔵穴であろう。平面形は楕円形で、長径97cm、短径75cmである。中段に一旦平場を有し、南東壁寄りが楕円形に深く掘り込まれている。側壁や平場には、凹凸が顕著である。平場の深さは22cm、最深部での深さは55cmである。覆土は6層で、ロームの多い層が目立つようである。覆土上層から甕、坏が出土している。

他に床面中央で2個のピットを検出している。カマド寄りのピットは、最大径が68cm、深さ27cm、あるいは床下土坑の一種になるのかもしれない。

カマドは、西壁の中央やや南西隅寄りに付設されている。細長く半島状に突き出た袖に挟まれた奥壁の丸い形態で、燃焼部の長さは84cm、横幅は54cmである。燃焼面は床面とほぼ同じ高さであるが、凹凸がかなり著しい。側壁、奥壁の上部は、局所的に被熱赤化している。カマドの覆土は、7層で、焼土を顕著に含む第2・4・5層は、天井部や側壁の崩落土を含む層であろう。燃焼部内から甕や坏が出土しており、奥壁右側では、支脚として用いられたと思われる丸みのある棒状礫が立てかけられた状態で出土している。



第133号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土。粘土粒(～4mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～1mm)を微量含む。粘性はやや強い。
- 第2層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、焼土粒(～1mm)を多量に含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～10mm)を中量含む。
- 第4層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)・焼土粒(～4mm)・焼土小塊(～10mm)を少量含む。粘性はやや強い。
- 第5層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)・粘土粒(～2mm)を少量含み、焼土粒(～1mm)を中量、焼土小塊(～10mm)を微量含む。粘性はやや強い。
- 第6層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含む。
- 第7層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・焼土粒(～2mm)を少

量含む。

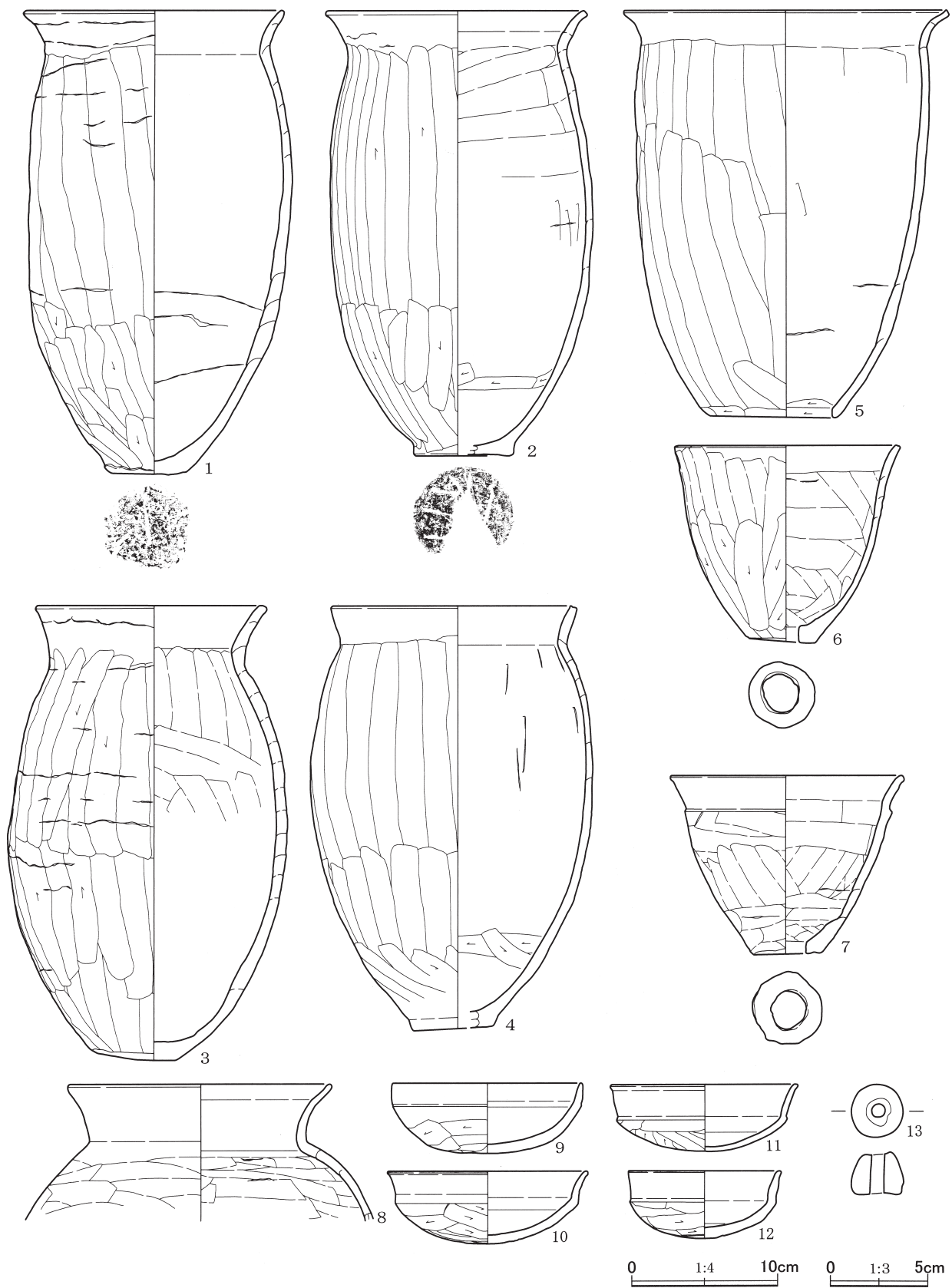
第133号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・ローム小塊(～20mm)を少量含む。
- 第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～20mm)を中量含む。
- 第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)を多量に含み、ローム小塊(～10mm)を少量含む。
- 第4層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)を多量に含み、ローム小塊(～40mm)を中量含む。
- 第5層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含み、ローム小塊(～30mm)を微量含む。しまりは弱い。
- 第6層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・ローム小塊(～20mm)を少量含む。

第276図 第133号住居跡平面・断面図(2)

第129表 第133号住居跡出土遺物観察表(1)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 18.2 底径 5.9 器高 31.6	口縁部は外反する。胴部は中位にわずかな膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。底部木葉痕、周縁ナデ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。底部ヘラナデ。	片岩・角閃石・白色粒・褐色粒 内外-にぶい黄橙色	2/3残存
2	甕	口径 18.4 底径 6.7 器高 32.1	口縁部は外反し、口唇部に平坦面をもつ。胴部は中位にわずかな膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。底部木葉痕。内面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ、下位に部分的なヘラケズリ。底部ヘラナデ。	片岩・白色粒・黒色粒 内外-橙色	胴部～底部一部欠損
3	甕	口径 15.9 底径 5.6 器高 32.7	口縁部は外反する。胴部は中位に膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	片岩・石英・角閃石・白色粒・小礫 外-橙色 内-灰黄褐色	胴部一部欠損
4	甕	口径 (17.1) 底径 (5.8) 器高 30.6	口縁部は外傾する。口唇部に平坦面をもち、凹線がめぐる。胴部は中位に膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。底部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ、下位に部分的なヘラケズリ。底部ヘラナデ。	片岩・石英・白色粒 外-橙色 内-にぶい橙色	3/4残存



第277图 第133号住居跡出土遺物

第130表 第133号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
5	甌	口径 23.1 底径 8.9 器高 29.2	口縁部は外反し、口唇部に平坦面をもつ。胴部は膨らみをもたない。底部は筒抜け。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ、端部ヘラケズリ。	片岩・石英・角閃石・白色粒 内外一橙色	口縁部1/4欠損
6	小型甌	口径 15.8 底径 4.8 器高 14.1	口縁部は外反し、口唇部に平坦面をもつ。胴部は膨らみをもたない。平底で孔径2.7cmの円孔。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。胴部上半ヘラナデ。胴部下半～底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ、端部ヘラケズリ。	石英・白色粒・褐色粒 外一にぶい橙色 内一にぶい黄橙色	完形
7	小型甌	口径 16.4 底径 4.9 器高 12.8	口縁部は外反し、胴部との境に稜をもつ。胴部は膨らみをもたない。平底で孔径2.6cmの円孔。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。底部ナデ。内面一口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ、端部ヘラケズリ。	石英・白色粒・黒色粒・金雲母 内外一橙色	口縁部一部欠損
8	甕	口径 (18.7) 底径 — 器高 [9.8]	口縁部は外反する。胴部は張る。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。内面一口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	石英・角閃石・白色粒 内外一橙色	口縁部～胴部上位2/3残存
9	坏	口径 13.6 底径 — 器高 5.1	丸底。口縁部は体部との境にわずかな稜をもって直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。体部上位ナデ。体部中位～底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒・小礫 内外一明赤褐色	3/4残存
10	坏	口径 14.3 底径 — 器高 5.2	丸底。口縁部は体部との境に弱い稜をもって外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒・小礫 外一橙色 内一にぶい橙色	ほぼ完形
11	坏	口径 13.8 底径 — 器高 4.8	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外反し、上端は外方へ突出する。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部上半ヨコナデ。体部下半～底部ヘラナデ。	石英・白色粒・褐色粒 内外一橙色	4/5残存
12	坏	口径 11.0 底径 — 器高 4.8	丸底。口縁部は体部との境に弱い稜をもって外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外一明赤褐色	ほぼ完形
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
13	土製品 土玉	長さ2.3、幅2.8、孔径0.7×0.7、厚さ2.8、重さ20.05g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい赤褐色。調整：ナデ。				完形

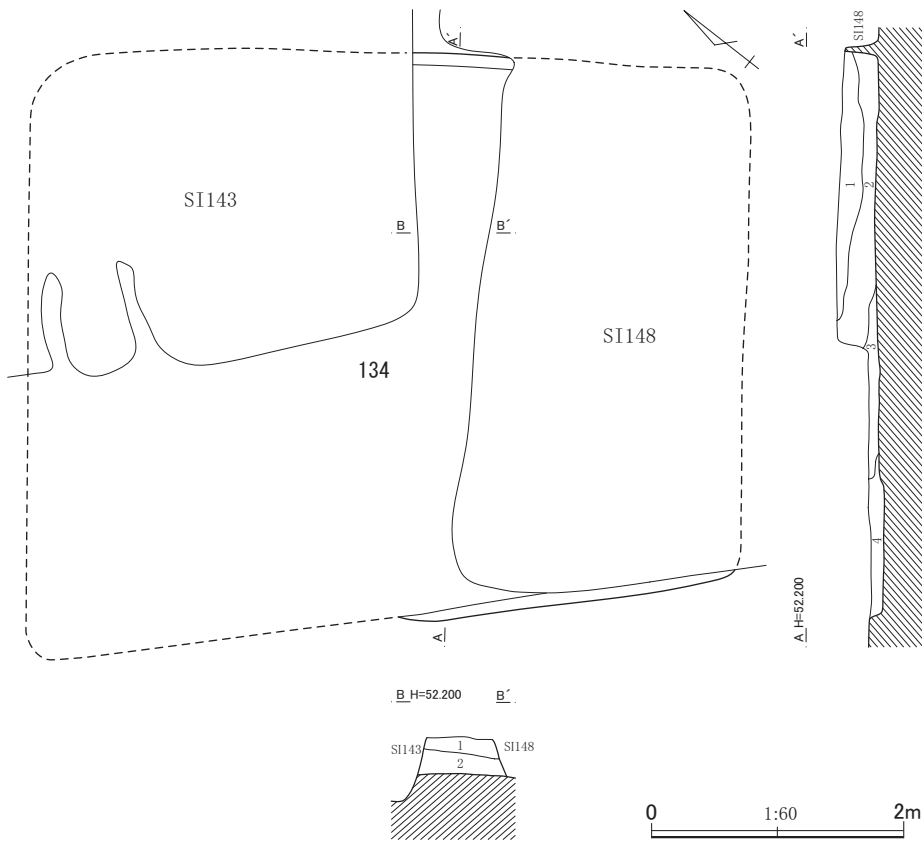
覆土は、暗褐色土を主とする4層で、壁際から中央に向かって漸次堆積した模様である。

第277図1・3の甕、10の坏は、カマド燃焼部の覆土最上層から、6の甌は、カマド左袖の基部に寄り添って出土している。5の甌、8の甕、11の坏は、貯蔵穴の覆土中から、2・4の甕、7の甌、12の坏は、カマド前面の覆土上層から、3箇所にとまって出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期中葉の遺構である。

第134号住居跡（第278・279図、第131表、図版32・141）

調査地点の南東隅近く、T15グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第164号住居跡を切って造られている。第255号住居跡と重複する位置関係にあるが、第143号住居跡が介在し、直接は切り合わない。第108・143・148号住居跡に切られ、遺構の東側から南東側、北側を大きく壊されており、西側は、壁が残存しない。また、第165号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

推定線を示したが、とくに北側から南西側にかけての壁の残存しない範囲に関しては、床面の残存範囲が確定し切れなかったこともあり、推定の域をでない。規模は、残存部分の現存値になるが、北東-南西方向で4.50mである。床面は、壁の残るA-A'断面周辺には、明瞭に硬化した床面が見られるようであるが、西側はかなり不明瞭である。壁の立ち上がりは、北東・南西壁ともに比較的急峻であり、壁高は、北東壁で27cm、南西壁で9cmである。



第134号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を中量含み、焼土粒（～5mm）を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～20mm）を多量に含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～3mm）を多量に含み、ローム小塊（～15mm）・炭化物小塊（～20mm）を少量、炭化物粒（～5mm）・焼土粒（～3mm）を中量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含み、ローム小塊（～20mm）・焼土粒（～5mm）を少量含む。

第278図 第134号住居跡平面・断面図

第131表 第134号住居跡出土遺物観察表

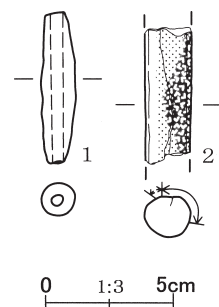
No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
1	土錘	長さ6.3、幅1.4、厚さ1.3、重さ10.93g。胎土：白色粒。色調：橙色。	完形
2	棒状土製品	第970図47、第438表参照。	No.47

覆土は、暗褐色土を主とする4層で、総じてロームがかなり目立つ覆土である。土師器片を主とする遺物が覆土中から少量出土している。重複関係から見て、古墳時代後期初頭以降、終末期後葉以前の遺構と考えられる。

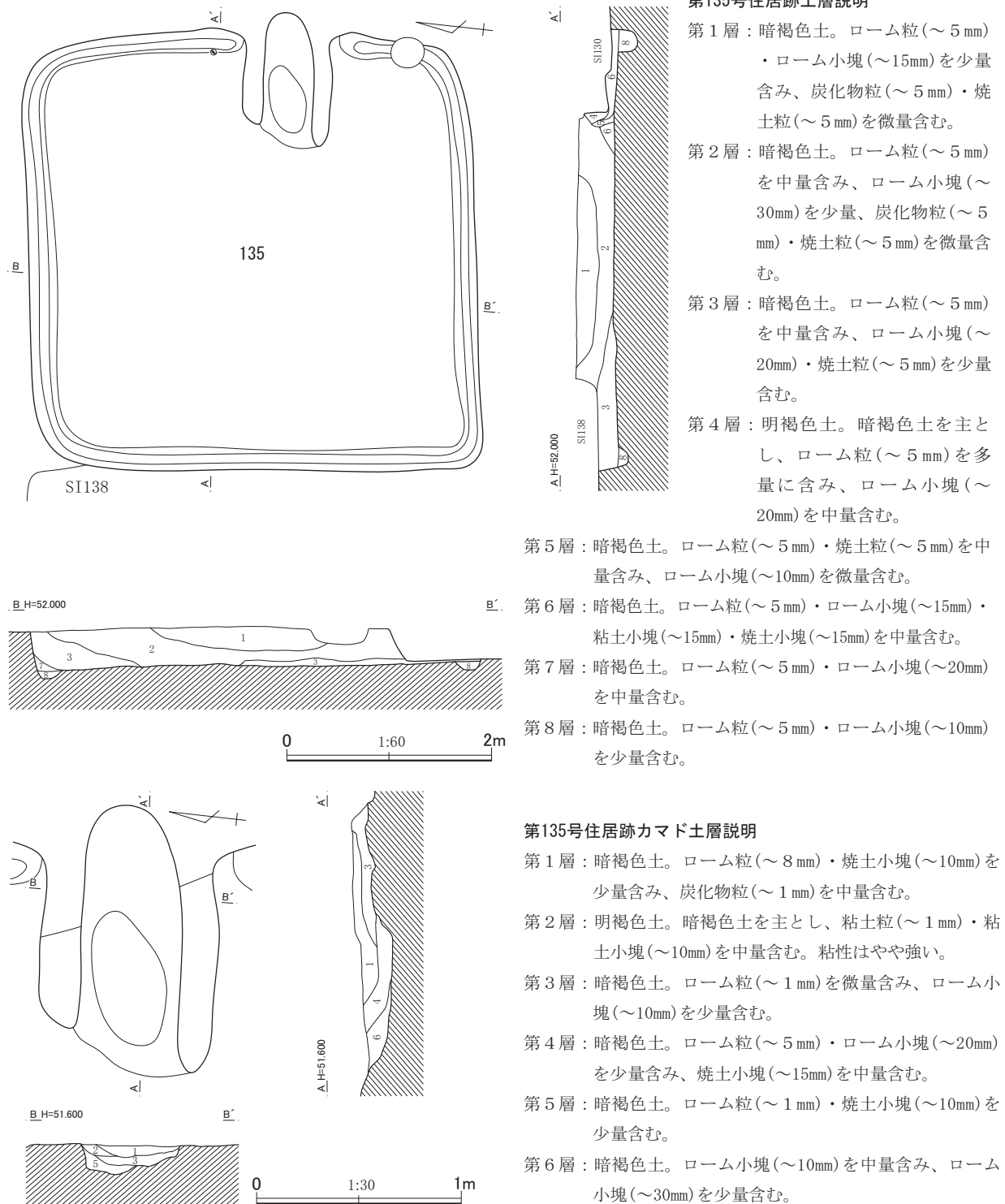
第135号住居跡（第280・281図、第132・133表、図版32・141・142）

調査地点の南東隅近く、S14グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第138・149・161・221・256号住居跡を切って造られている。第154号住居跡とも重複する位置関係にあるが、他の住居跡が介在し、直接切り合わない。また、第141号住居跡に切られ、カマドの上部、南壁の大半を壊されている。また、第109・130号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、方形である。規模は、主軸方向で4.31m、副軸方向で4.40m、主軸方位はN-83°-Eである。床面は、南東隅、南西隅および壁際を除いて、軽微ではあるが、硬化している。壁の立ち上がりは急峻であり、壁高は、東壁で34cm、西壁で18cm、北壁で38cmである。四壁に沿って、幅16～28cm、深さ7～17cmの壁溝が巡らされている。

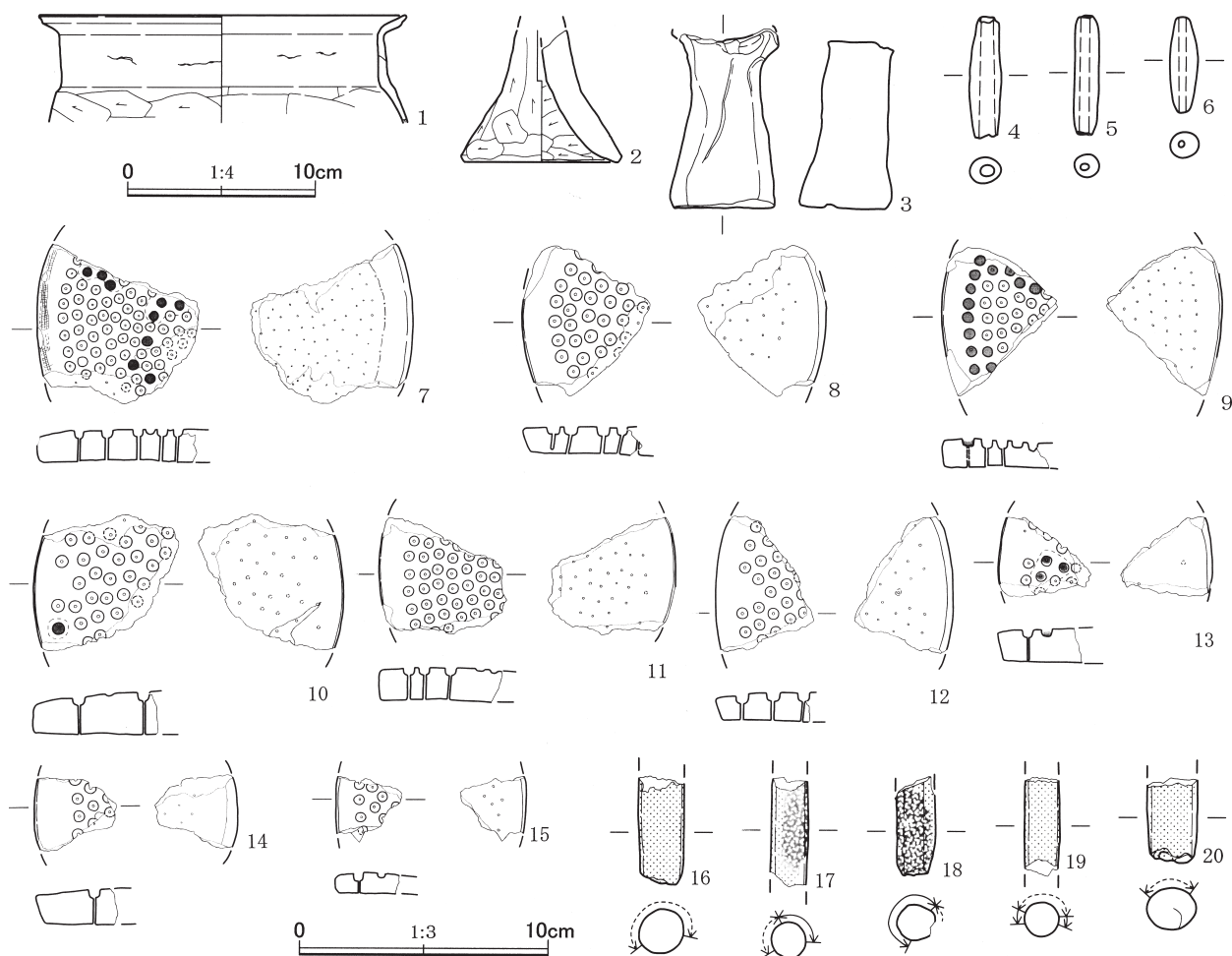


第279図 第134号住居跡出土遺物



第280図 第135号住居跡平面・断面図

カマドは、東壁の中央、南東隅にやや偏した位置に付設されている。細長く半島状に突き出した袖に挟まれた長楕円形の燃焼部が残存する。燃焼部は、手前側を掘りくぼめて燃焼面が作出されており、奥壁側は凸凹しながら立ち上がる。あるいは奥壁側は、そのまま煙道へと連なったのかもしれない。燃焼部の長さは131cm、横幅は88cmである。被熱赤化の痕跡は、不明瞭である。



第281図 第135号住居跡出土遺物

第132表 第135号住居跡出土遺物観察表(1)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 (20.5) 底径 — 器高 [6.0]	口縁部はコの字状を呈す。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。肩部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。肩部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—にぶい橙色	口縁部～肩部 1/2残存
2	土製品 脚状	口径 — 底径 (6.6) 器高 [5.5]	脚部は下方へ開く。粘土紐積み上げによる成形。	外面—脚部ヘラケズリ、端部ナデ。内面—脚部ヘラケズリ。	白色粒・黒色粒 内外—にぶい黄橙色	脚部1/3残存 SI 101 No.5に類似
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
3	土製品 棒受状	長さ[7.55]、最大幅4.4、最大厚3.8、重さ[117.52]g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい黄橙色。調整：ナデ。				上端部欠損
4	土錘	長さ5.1、幅1.35、厚さ1.1、重さ6.05g。胎土：白色粒。色調：褐色。				完形
5	土錘	長さ5.0、幅1.05、厚さ1.0、重さ5.61g。胎土：白色粒・褐色粒。色調：にぶい橙色。				完形
6	土錘	長さ4.0、幅1.2、厚さ1.1、重さ5.21g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい黄橙色。				完形
7	ガラス小玉 鋳型	第952図43、第429表参照。				No.43
8	ガラス小玉 鋳型	第952図44、第429表参照。				No.44
9	ガラス小玉 鋳型	第952図45、第429表参照。				No.45
10	ガラス小玉 鋳型	第952図46、第429表参照。				No.46
11	ガラス小玉 鋳型	第953図47、第429表参照。				No.47
12	ガラス小玉 鋳型	第953図48、第429表参照。				No.48
13	ガラス小玉 鋳型	第953図49、第429表参照。				No.49
14	ガラス小玉 鋳型	第953図50、第429表参照。				No.50

第133表 第135号住居跡出土遺物観察表(2)

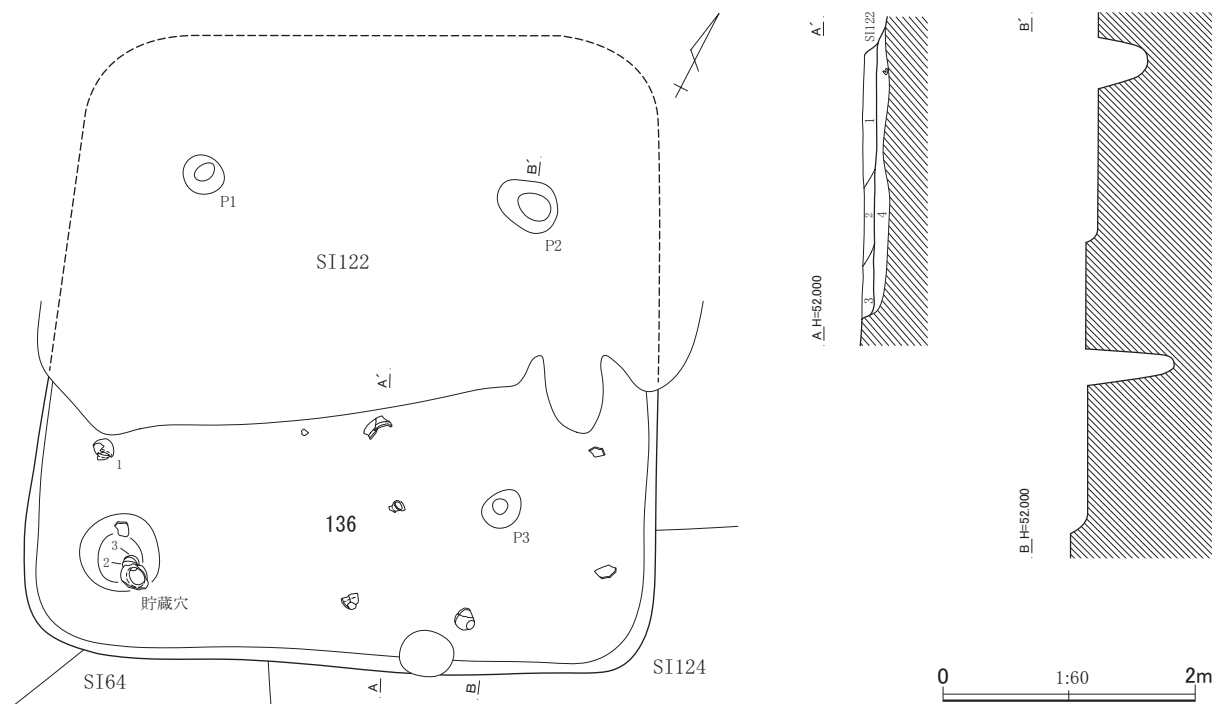
No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
15	ガラス小玉 鑄型	第953図51、第429表参照。	No.51
16	棒状 土製品	第970図48、第438表参照。	No.48
17	棒状 土製品	第970図49、第438表参照。	No.49
18	棒状 土製品	第970図50、第438表参照。	No.50
19	棒状 土製品	第970図51、第438表参照。	No.51
20	棒状 土製品	第970図52、第438表参照。	No.52

覆土は、8層に分けられた。ロームがかなり目立つ第4～6層は、カマドの袖に関わる堆積土の可能性はある。

土師器片を主とする遺物が、覆土中から出土しているのみである。重複関係、出土遺物から見て、平安時代前期前半の遺構と考えられる。

第136号住居跡(第282～284図、第134表、図版33・142)

調査地点の南西部のほぼ中央、O11、P11グリッドに位置し、E群に含まれる住居跡である。第122号住居跡に切られ、遺構の北西半を大きく壊されている。第64号住居跡にも切られているが、両住居跡の床面は、本住居跡の床面よりかなり高いため、床面を壊さずに重なっている。また、第124



第136号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～4mm)を微量含む。

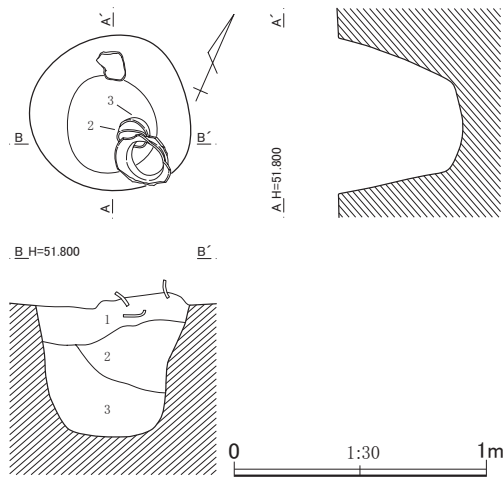
第2層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含む。

第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～0.5mm)

を中量含み、ローム小塊(～10mm)を少量含む。
(掘り方埋土)

第4層：暗褐色土。ローム小塊(～20mm)・ローム小塊(～40mm)を中量含む。

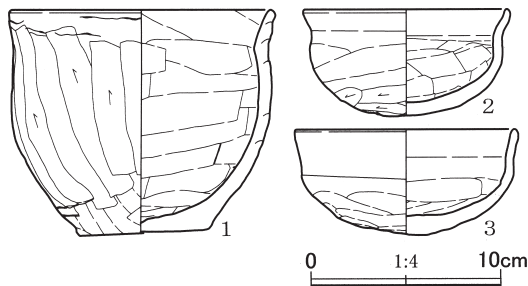
第282図 第136号住居跡平面・断面図(1)



第136号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。
 第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～20mm)を中量含む。
 第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～6mm)・ローム小塊(～30mm)を多量に含む。

第283図 第136号住居跡平面・断面図(2)



第284図 第136号住居跡出土遺物

第134表 第136号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	小型甕	口径 14.2 底径 7.0 器高 12.4	口縁部は直立する。胴部は中に膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ後ヘラケズリ。底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外-にぶい黄橙色	口縁部～胴部1/2欠損
2	鉢	口径 11.1 底径 — 器高 5.8	丸底。体部は丸みをもつ。口縁部は外傾し、上位で内彎する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外-橙色	完形
3	坏	口径 12.0 底径 — 器高 5.8	丸底。口縁部は外反気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外-にぶい橙色	ほぼ完形

第137号住居跡(第285～288図、第135・136表、図版33・142・143)

調査地点の中央、やや南寄り、Q12、R12グリッドに位置し、F群に含まれる住居跡である。第86・113号住居跡、第295号土坑に切られ、北東壁や南隅の周辺などを壊されている。また、第114・183号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

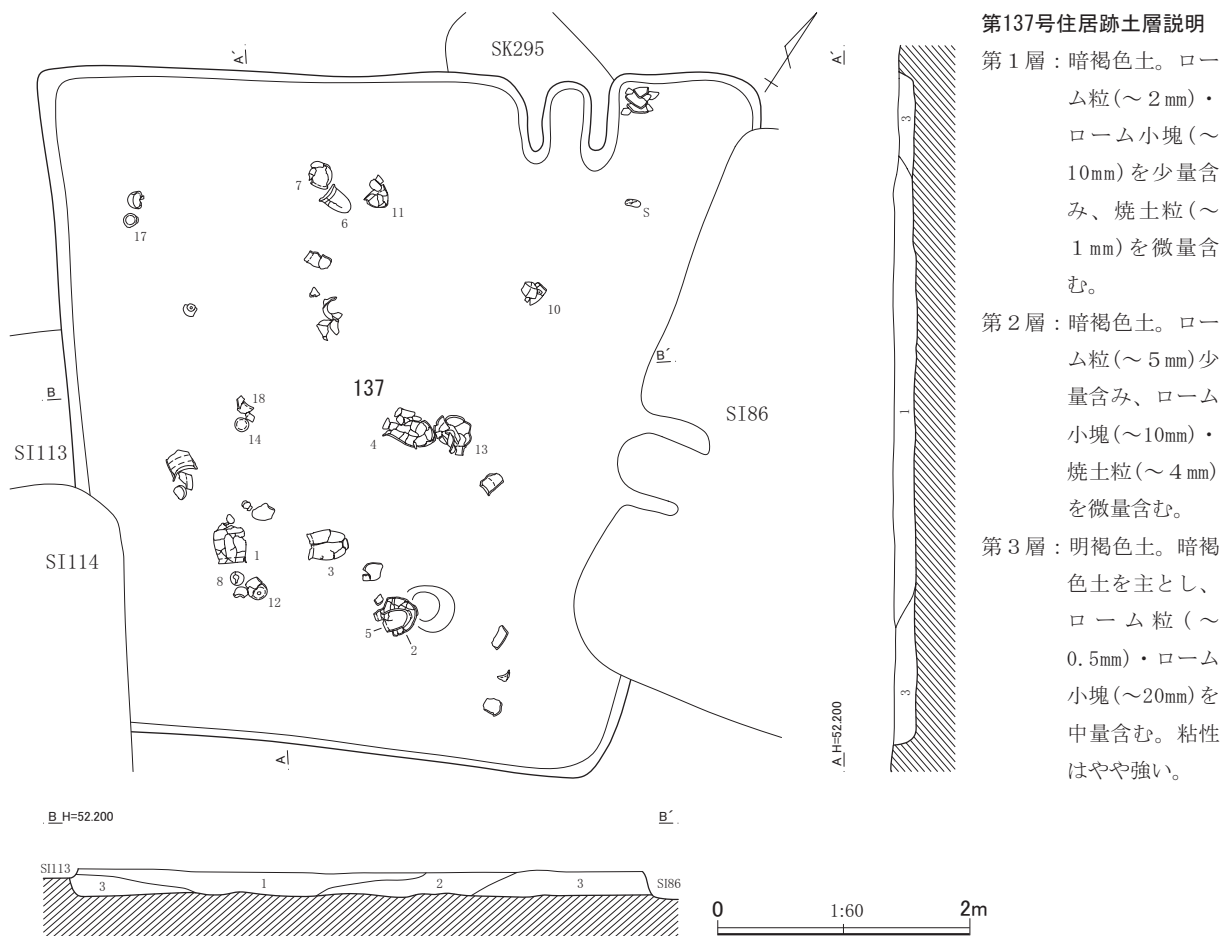
号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、支柱穴の位置などを勘案するなら、縦横5m前後の方形に近い形と推定できる。規模は、北東-南西方向で5.00m、北西-南東方向での床面残存範囲の現存値が2.02mである。北東-南西方向での軸方位はN-33°-Wである。床面はかなり凸凹しているが、壁際を除いて硬化している。壁の立ち上がりは、比較的急峻で、壁高は、北東・南東壁で9cm、南西壁で23cmである。

P1～P3は、支柱穴であろう。平面形は、いずれもやや不整な円形、楕円形である。深さは、P3が61cm、推定復元値でP1は52cm、同じくP2が42cmである。南隅近くのピットは、貯蔵穴であろうか。平面形は、ほぼ円形で、深さは、49cmである。覆土の最上層から土師器がまとまって出土している。

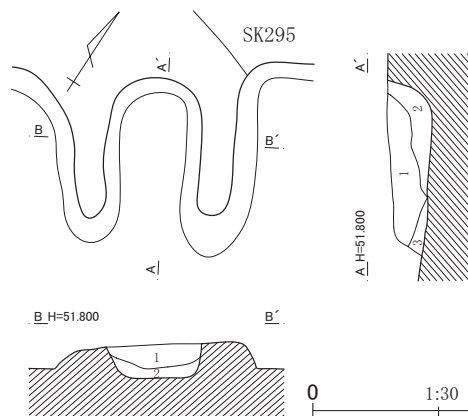
覆土は、第1～3層の暗褐色土を主とする3層で、第4層は掘り方埋土である。掘りっ放しの粗掘り面のまま暗褐色土とロームの混合土である第4層を入れて床面を造作している。

第284図1の小型甕は、貯蔵穴の近くの上層から、2の鉢、3の坏は、貯蔵穴の覆土最上層から出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期初頭(新相)の遺構と考えられる。



第285図 第137号住居跡平面・断面図(1)

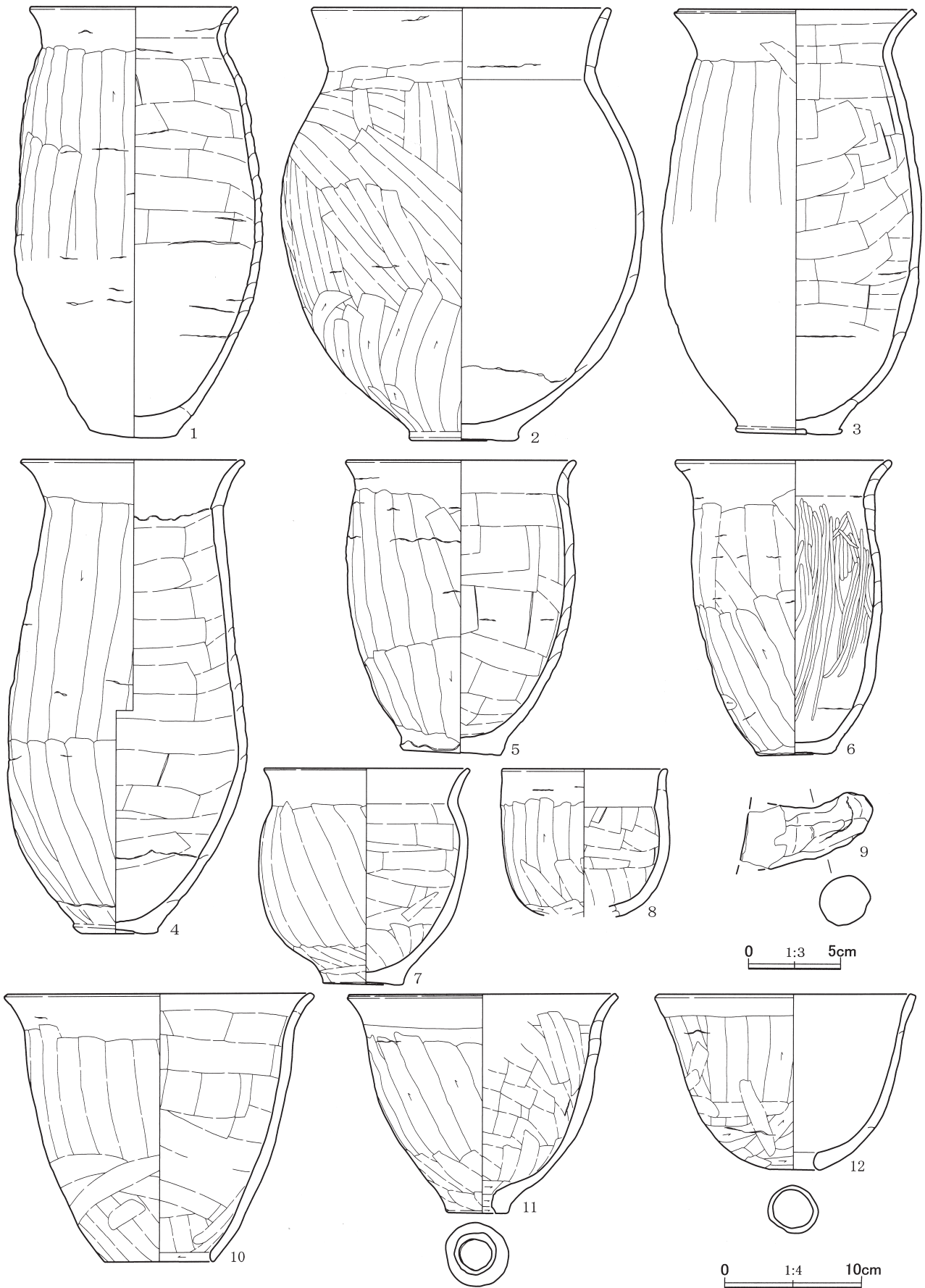
平面形は、北隅、西隅が鋭角をなし、東隅が鈍角をなす台形とも扇形とも見える、かなり不整な形態である。規模は、軸方向で5.45m、副軸方向での現存値で4.55m、主軸方位はN



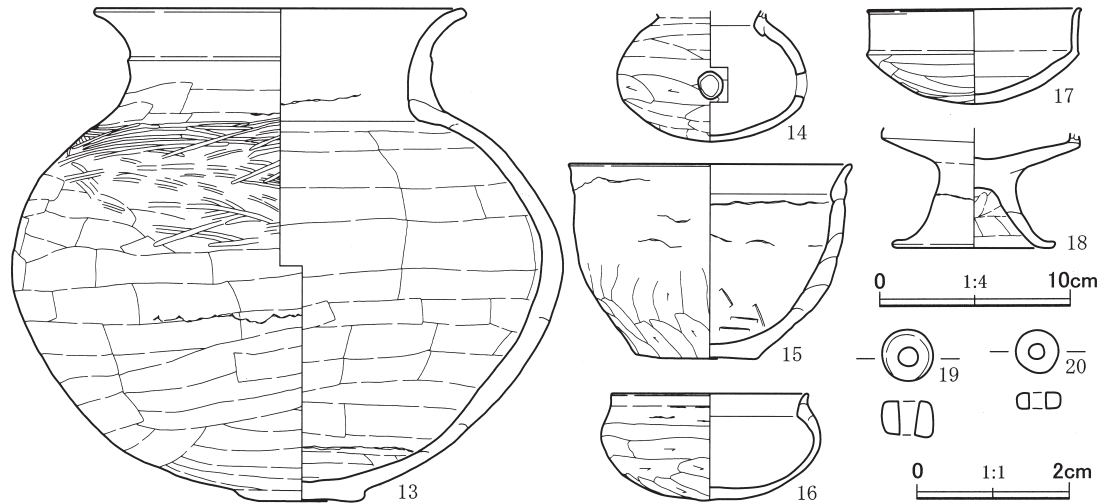
第286図 第137号住居跡平面・断面図(2)

－34°－Wである。床面は、壁際以外は、顕著に硬化している。四壁ともに比較的急峻に立ち上がり、壁高は、北西壁で12cm、北東・南東壁で18cm、南西21cmである。南東壁、東隅寄りの床面でピットを1個検出している。平面形はやや不整な円形で、深さは21cmである。

カマドは、北西壁の北隅に著しく偏した位置に付設されている。左右の袖に挟まれた奥行きのない燃焼部が残存する。焚口から微妙な傾斜をなし、一旦かすかな段差をなし、奥壁際がやや深くなるように造作されている。袖端と奥壁端を燃焼部の末端とするなら、燃焼部の長さは68cm、横幅は38cmで



第287图 第137号住居跡出土遺物



第288図 第137号住居跡出土遺物(2)

第135表 第137号住居跡出土遺物観察表(1)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 15.5 底径 (6.5) 器高 (32.8)	口縁部は外反する。胴部は中位に膨らみをもつ。平底で丸みを帯びる。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ、下半は摩耗のため不明瞭。底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部~底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 内外-橙色	胴部一部・底部4/5欠損
2	甕	口径 (22.6) 底径 7.9 器高 31.5	口縁部は外傾する。胴部は中位に膨らみをもつ。底部は上げ底気味。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ後、下位ヘラケズリ。底部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部~底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 外-にぶい橙色 内-褐灰色	口縁部~胴部2/3欠損
3	甕	口径 17.9 底径 7.9 器高 32.4	口縁部は外反する。口唇部は平坦面をもち、弱い凹線がめぐる。胴部は下位に膨らみをもつ。底部は上げ底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ、下半は摩耗のため不明瞭。底部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部~底部ヘラナデ。	片岩・石英・白色粒・黒色粒 内外-橙色	口縁部1/4・胴部一部欠損
4	甕	口径 16.7 底径 5.3 器高 36.1	口縁部は外反する。胴部は下位に膨らみをもつ。底部は上げ底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。底部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部~底部ヘラナデ。	片岩・白色粒・黒色粒 外-橙色 内-にぶい橙色	口縁部~胴部1/2欠損
5	甕	口径 (17.3) 底径 7.5 器高 22.3	口縁部は外反する。胴部は膨らみをもたない。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ、下端ナデ。底部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部~底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 外-にぶい橙色 内-橙色	口縁部~胴部1/2欠損
6	甕	口径 16.1 底径 5.5 器高 22.4	口縁部は外反する。胴部は膨らみをもたない。底部は上げ底気味。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ後、下半ヘラケズリ。底部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ後ミガキ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外-橙色	口縁部1/2欠損
7	小型甕	口径 (15.5) 底径 6.1 器高 16.4	口縁部は外反する。口唇部に平坦面をもち、凹線がめぐる。胴部は中~下位に膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。底部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部~底部ヘラナデ。	角閃石・白色粒 外-にぶい黄橙色 内-にぶい橙色	口縁部~胴部1/4欠損
8	小型甕?	口径 12.6 底径 - 器高 [11.2]	口縁部は直立し、上端でわずかに外反する。胴部は膨らみをもたない。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ後、一部ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	石英・角閃石・白色粒 内外-明黄褐色	底部欠損
9	甕	長さ7.5、幅4.4、厚さ2.7、重さ84.97g。胎土：白色粒・褐色粒。色調：明赤褐色。調整：ナデ。				把手部分
10	甕	口径 (23.6) 底径 (8.3) 器高 20.4	口縁部は外反する。胴部は膨らみをもたない。底部は筒抜け。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ、端部ヘラケズリ。	石英・白色粒・黒色粒・褐色粒 外-にぶい黄橙色 内-にぶい橙色	1/2残存
11	小型甕	口径 20.4 底径 4.8 器高 16.6	口縁部は外反する。口唇部は平坦面をもち、凹線がめぐる。胴部は中位に膨らみをもつ。平底で孔径3.2cmの円孔。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ後、下位ヘラナデ。底部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ、端部ヘラケズリ。	石英・白色粒・黒色粒 内外-橙色	口縁部一部欠損

C地点

第136表 第137号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
12	小型甕	口径 (19.2) 底径 3.7 器高 13.4	口縁部は外傾し、口唇部に平坦面をもつ。胴部は膨らみをもたない。底部は丸みをもち、孔径3.0cmの円孔。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ後、一部ヘラナデ。底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ、端部ヘラケズリ。	石英・白色粒・黒色粒 外－橙色 内－にぶい橙色	口縁部～胴部2/3欠損 内面胴部上半は器表面剥離
13	壺	口径 (20.1) 底径 6.9 器高 27.2	輪台状の平底。胴部は中位が張る。口縁部は直立し、上位で外反する。中位には弱い段を有する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ後、上位ミガキ。底部ナデ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外－橙色	口縁部～胴部1/2欠損
14	甕	口径 — 底径 — 器高 [7.2]	体部は張り、中位に口径1.5×1.3cmの円孔。丸底。粘土紐積み上げによる成形。	外面－体部ヘラナデ後、中位ヘラケズリ。底部ヘラナデ。内面－体部～底部ヘラナデ。	角閃石・白色粒・褐色粒 内外－橙色	口縁部欠損
15	鉢	口径 15.4 底径 6.8 器高 10.6	平底。体部は中位に膨らみをもつ。口縁部は短く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	角閃石・白色粒・褐色粒 内外－橙色	4/5残存 外面体部上半は磨耗
16	坏	口径 10.8 底径 — 器高 5.9	丸底。体部は丸みをもつ。口縁部は短く直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 外－にぶい橙色 内－橙色	ほぼ完形
17	坏	口径 (11.6) 底径 — 器高 5.2	丸底。口縁部は体部との境に弱い稜をもち、直線的に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 外－黄橙色 内－明赤褐色	口縁部1/2欠損
18	高坏	口径 — 底径 8.8 器高 [6.7]	脚部はハ字状に開き、裾部は短く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－坏部～脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。内面－坏部～脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 内外－橙色	口縁部欠損
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
19	石製品 白玉	長さ0.7、幅0.7、孔径0.3×0.25、厚さ0.5、重さ0.34g。表裏面研磨。石材：滑石。				完形
20	石製品 白玉	長さ0.6、幅0.6、孔径0.2×0.2、厚さ0.2、重さ0.10g。表裏面研磨。石材：滑石。				完形
21	生痕化石	長さ4.0、幅2.7、厚さ2.4、重さ23.81g。				完形、写真のみ掲載。

ある。被熱赤化の痕跡は、不明瞭である。

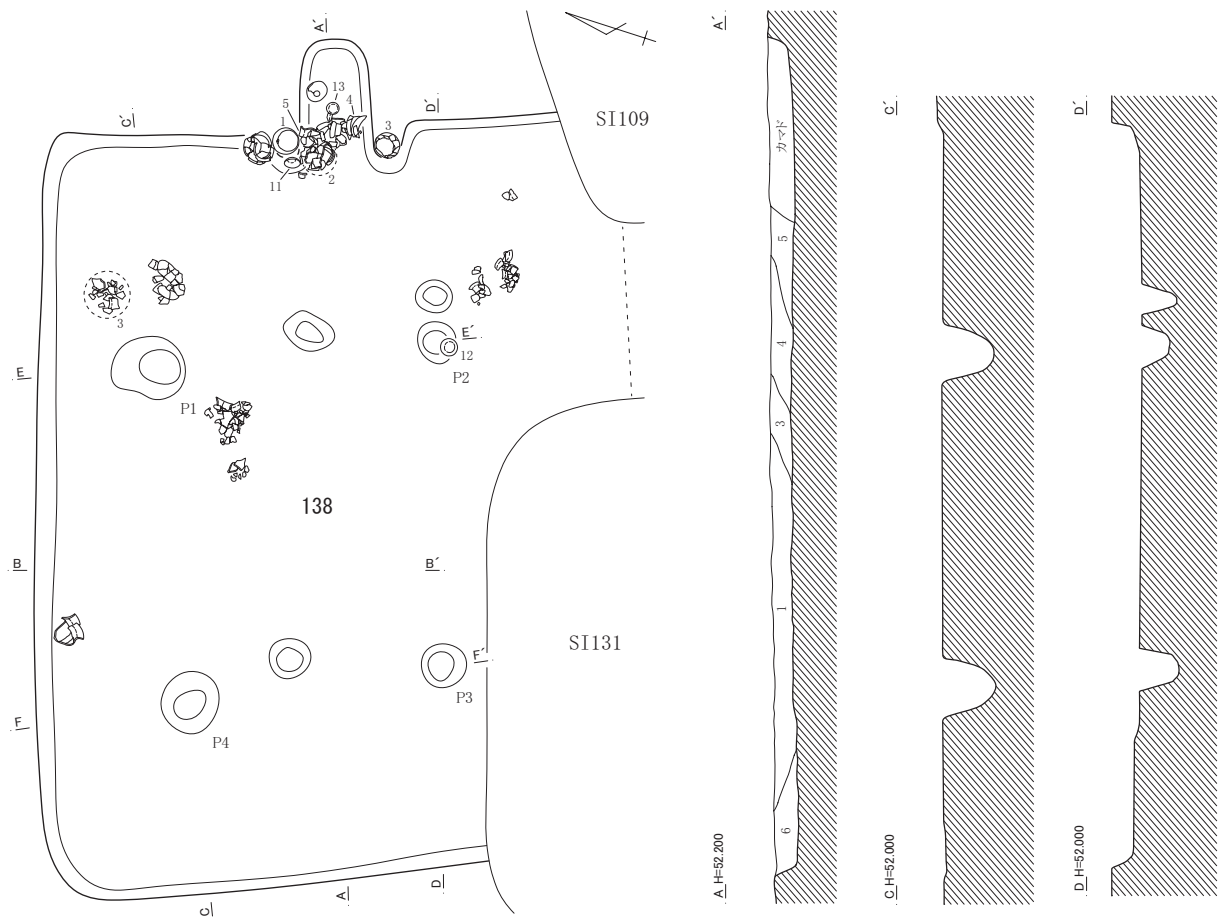
覆土は、暗褐色土を主とする3層で、壁際のロームの目立つ第3層が堆積した後、総じて層厚の厚い第1・2層が堆積して埋まった模様である。

土師器の完形品、半完形品が住居跡の中央からその周りにかけて分散して出土している。第287図1～3・5の甕、8の小型甕、12の甕、第288図14の甕、18の高坏脚部片は、住居跡の南半から、4の胴部下半に最大径のある甕、13の壺は中央から、6の甕、7の小型甕、10・11の甕、17の坏は、北半、北西半から出土している。覆土の下層～床面から出土している1の甕、8の小型甕、12の甕、14の甕、18の高坏脚部片以外は、いずれも覆土上層～中層出土である。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期前葉の遺構と考えられる。

第138号住居跡 (第289～291図、第137・138表、図版33・143・144)

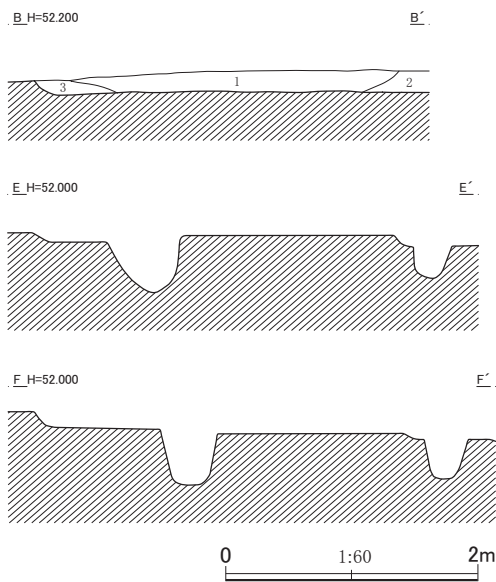
調査地点の南東半の中央の南寄り、R14、S14グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第161・233号住居跡を切っており、第109・131・135号住居跡に切られ、遺構の南半を大きく壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、やや歪ながら長方形に近い形になる。規模は、主軸方向で5.98m、副軸方向の現存長は3.57m、主軸方位はN-69°-Eである。床面はほぼ平坦であり、中央付近が部分的に硬化している。壁の立ち上がりはわずかであり、壁高は、東・西壁で17cm、北壁で12cmである。



第138号住居跡土層説明

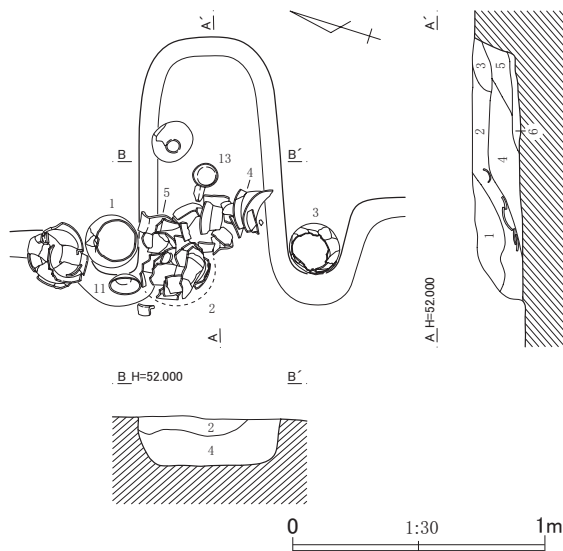
- 第1層：暗褐色土。ローム粒（～2mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～4mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）を少量、焼土粒（～1mm）を微量含む。
- 第3層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～2mm）を少量含み、炭化物粒（～1mm）を微量、焼土粒（～4mm）を中量含む。
- 第4層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～1mm）を少量含み、ローム粒（～6mm）・炭化物粒（～1mm）・焼土粒（～1mm）を微量含む。
- 第5層：暗褐色土。ローム粒（～1mm）を中量含み、ローム粒（～8mm）を微量、炭化物粒（～4mm）・焼土粒（～4mm）を少量含む。
- 第6層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～1mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）・炭化物粒（～1mm）・焼土粒（～1mm）を少量、焼土小塊（～10mm）を微量含む。



第289図 第138号住居跡平面・断面図（1）

P1～P4は、支柱穴であろう。いずれも平面形は円形に近く、深さはP1が42cm、P2が22cm、P3が31cm、P4が42cmである。

カマドは、東壁に付設されている。支柱穴の位置から見ると、南東隅にかなり寄った位置にあったと思われる。短い両袖に挟まれた細長い燃焼部が残存する。燃焼面は、ほとんど掘り込みを有さず、



第138号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗赤灰褐色土。暗褐色土を主とし、暗褐色土粒子(～4mm)を微量含み、焼土粒(～1mm)を中量含む。粘性は強い。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含み、焼土粒(～0.5mm)を中量含む。粘性はやや強い。
- 第3層：暗赤褐色土。灰色粘土を主とし、焼土粒(～2mm)を中量含む。粘性は強い。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・粘土粒(～1mm)を少量含み、焼土粒(～0.5mm)を中量含む。粘性はやや強い。
- 第5層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を微量含み、焼土粒(～0.5mm)を少量含む。粘性はやや強い。
- 第6層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、焼土粒(～0.5mm)を多量に含む。粘性は強い。

第290図 第138号住居跡平面・断面図(2)

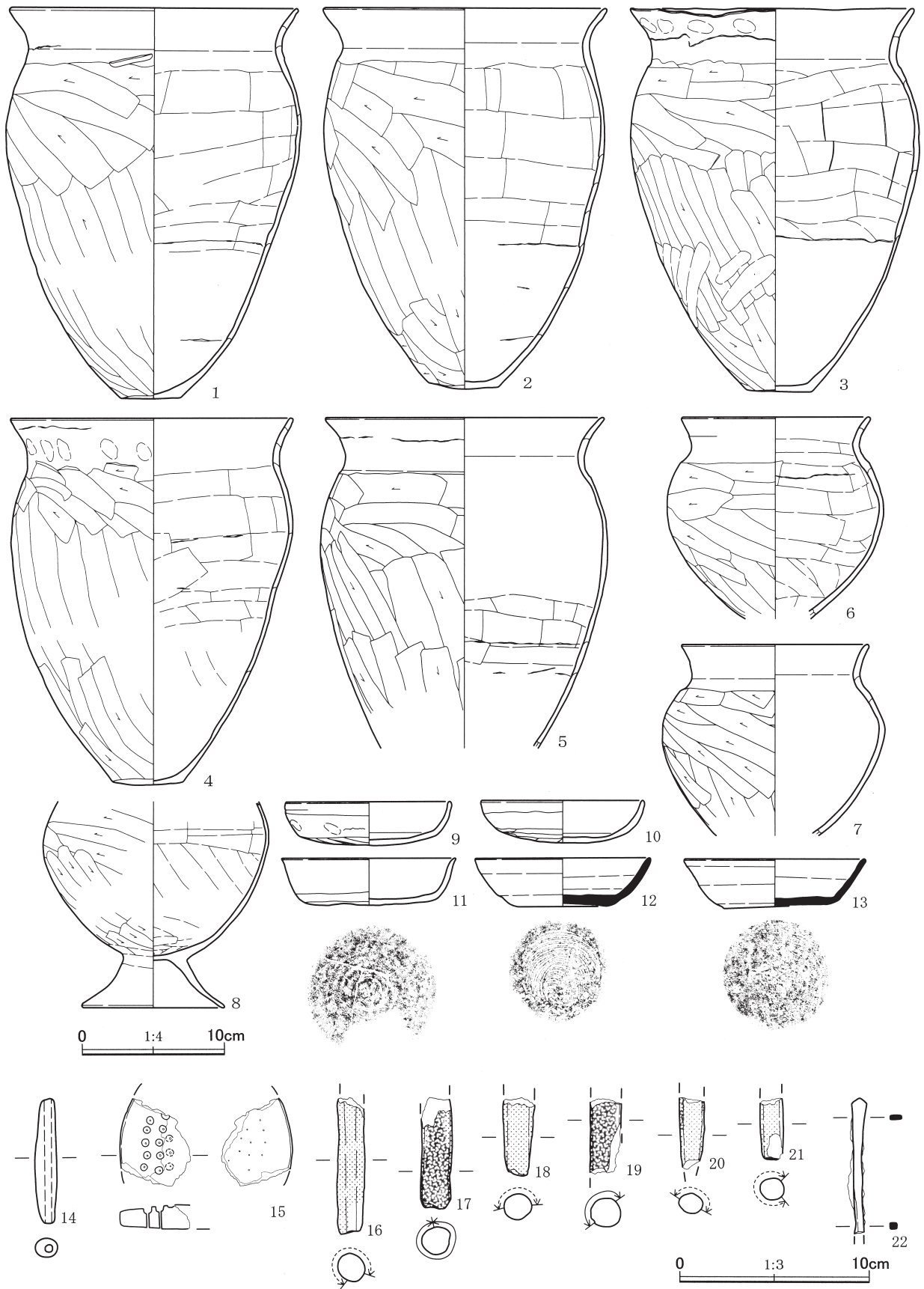
ほぼ平坦である。燃焼部の長さは103cm、横幅は53cmである。左袖には第291図1の甕が、右袖には3の甕が埋め込まれていた。左右袖の内壁の極一部が被熱赤化している。3・6層は、天井部や側壁の崩落土を含む層である。

住居跡全体の覆土は、暗褐色土を主とする6層に分けられた。ロームを比較的多く含む土層が目立つようであった。

第291図2～5の甕、13の須恵器坏は、カマド内やカマドに接する位置から、3の甕の破片は、P1の脇からも出土している。12の須恵器坏は、P2上から出土している。11の坏は、混入であろうか。重複関係、出土遺物から見て、奈良時代後半の遺構と考えられる。

第137表 第138号住居跡出土遺物観察表(1)

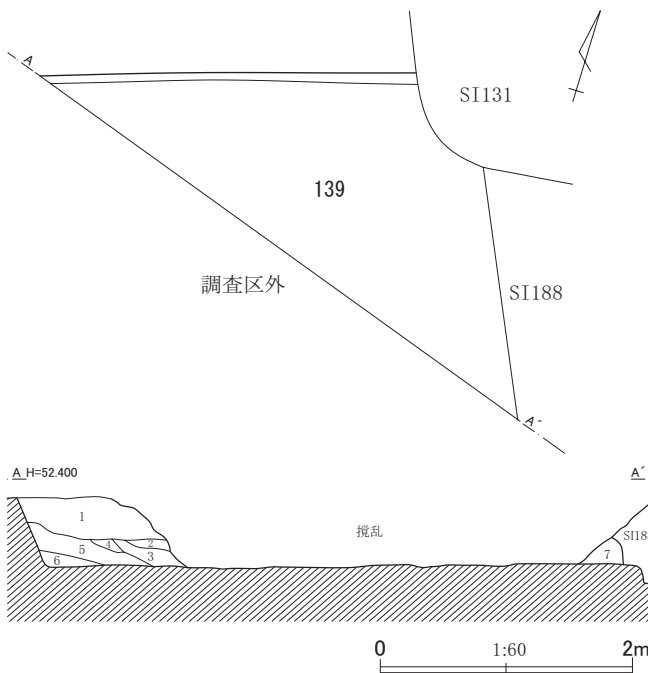
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 20.9 底径 4.3 器高 28.8	口縁部は外反する。胴部は上位にやや膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外-橙色	口縁部～胴部 1/4欠損
2	甕	口径 20.6 底径 5.1 器高 28.0	口縁部は外反する。胴部は上位にやや膨らみをもつ。丸みを帯びた平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・ 褐色粒 内外-橙色	口縁部～胴部 1/3欠損 内面胴部下 半磨耗
3	甕	口径 20.7 底径 4.8 器高 28.3	口縁部は外反する。胴部は上位にやや膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、指頭圧痕。胴部～底部ヘラケズリ、胴部下半に一部ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外-橙色	口縁部1/2欠 損
4	甕	口径 20.5 底径 5.1 器高 27.0	口縁部は外反する。胴部は上位にやや膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、指頭圧痕。胴部～底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外-橙色	口縁部～胴部 1/4欠損
5	甕	口径 20.4 底径 — 器高 [24.3]	口縁部は外反する。胴部は上位にやや膨らみをもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外-橙色	胴部下位～底 部欠損
6	小型甕	口径 13.8 底径 — 器高 [14.8]	口縁部は外反する。胴部は中位に最大径をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	石英・角閃石・白 色粒 内外-明赤褐色	口縁部～胴部
7	小型甕	口径 13.7 底径 — 器高 [14.0]	口縁部は外反する。胴部は上位に最大径をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒 色粒 内外-明赤褐色	口縁部～胴部 3/4残存



第291图 第138号住居跡出土遺物

第138表 第138号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
8	小型 台付甕	口径 — 底径 10.3 器高 [15.1]	胴部は中位に最大径をもつ。 台部はハの字状に開く。粘土 紐積み上げによる成形。	外面—胴部ヘラケズリ。台部ヨ コナデ。内面—胴部ヘラナデ。 台部ヨコナデ。	石英・白色粒・黒 色粒 内外—橙色	胴部～台部。
9	坏	口径 12.0 底径 — 器高 3.2	平底気味。体部から口縁部に かけて内彎して立ち上がる。 粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ナ デ。指頭圧痕。底部ヘラケズリ。 内面—口縁部～体部ヨコナデ。 底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒 色粒 内外—橙色	口縁部1/5欠 損
10	坏	口径 11.9 底径 — 器高 3.1	丸底。体部から口縁部にか けて内彎して立ち上がる。粘土 紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ナ デ。底部ヘラケズリ。内面—口 縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラ ナデ。	角閃石・白色粒 内外—橙色	完形
11	坏	口径 (12.9) 底径 9.8 器高 3.5	平底。体部から口縁部にか けて外傾気味に立ち上がり、端 部で短く外反する。粘土紐積 み上げによる成形。	外面—口縁部～体部回転ナデ。 底部回転ヘラケズリ後ナデ。内 面—口縁部～底部回転ナデ。	角閃石・白色粒 内外—橙色	口縁部1/2欠 損
12	須恵器 坏	口径 12.8 底径 6.7 器高 3.6	平底。体部から口縁部にか けて内彎気味に開く。ロクロ成 形。	外面—ロクロナデ。底部右回転 糸切り。内面—ロクロナデ。	白色粒・褐色粒 内外—にぶい黄橙 色	口縁部一部欠 損 還元焰焼成
13	須恵器 坏	口径 13.2 底径 7.8 器高 3.6	平底。体部から口縁部にか けて直線的に開く。ロクロ成形。	外面—ロクロナデ。底部回転糸 切り後、回転ヘラケズリ。「×」 の線刻。内面—ロクロナデ。	海綿滑針・白色 粒・黒色粒 外—灰白色 内—灰色	完形 還元焰焼成
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
14	土錘	長さ6.9、幅1.25、厚さ1.05、重さ8.63g。胎土：白色粒。色調：にぶい黄橙色。				完形
15	ガラス小玉 鑄型	第953図52、第429表参照。				No.52
16	棒状 土製品	第970図53、第438表参照。				No.53
17	棒状 土製品	第970図54、第438表参照。				No.54
18	棒状 土製品	第970図55、第438表参照。				No.55
19	棒状 土製品	第970図56、第438表参照。				No.56
20	棒状 土製品	第970図57、第438表参照。				No.57
21	棒状 土製品	第970図58、第438表参照。				No.58
22	鉄鏃	長さ[7.5]、幅0.6、厚さ0.3、重さ6.65g。鏃身形は柳葉形か。				鏃身～頸部



第292図 第139号住居跡平面・断面図

第139号住居跡土層説明

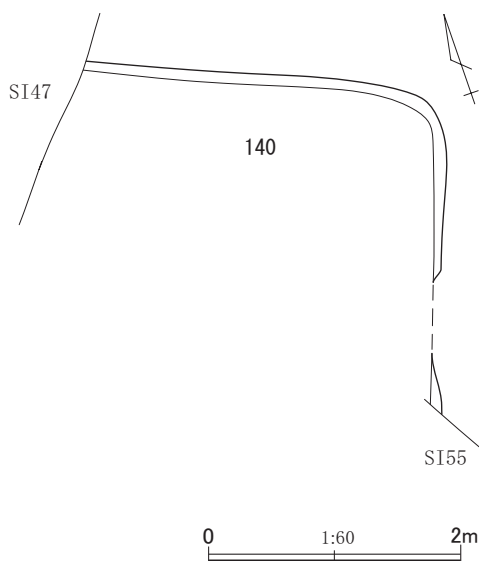
- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～8mm)・ローム小塊(～30mm)を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)を微量含む。
- 第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～15mm)・ローム小塊(～30mm)を中量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含む。
- 第5層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～5mm)を少量含む、ローム小塊(～30mm)を中量含む。
- 第6層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～8mm)を中量含む、ローム小塊(～15mm)を少量含む。
- 第7層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～20mm)を中量含む、ローム小塊(～50mm)を少量含む。

第139号住居跡（第292図、図版34）

調査地点の南東部の南縁沿いほぼ中央、R15、S15グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第131・188号住居跡に切られ、遺構の東側を失い、遺構の南西側は、第4号溝および攪乱により壊され、多くは調査区外になる。つまり、残存するのは、北壁と床面、覆土の一部のみである。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

北壁の残存する長さは、2.98m、北壁の指す方位は、N-72°-Eである。床面は、ほぼ平坦で、全体的に硬化している。壁の立ち上がりは比較的急であり、壁高は、北壁で56cmである。

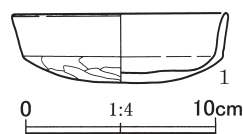
覆土中から土師器片を主とする遺物が少量出土している。重複関係から見て、平安時代前期初頭以前の遺構であることしか判らない。



第293図 第140号住居跡平面図

第140号住居跡（第293・294図、第139表、図版144）

調査地点の南西部、南縁近くのほぼ中央、O13グリッドに位置し、J群に含まれる住居跡である。調査時点で住居跡の範囲を確定することができず、図面整理作業を経て、最終的に図化した範囲のみ住居跡と認定できると見た。一応北東壁、東隅、南東壁部分と床面のみ残る住居跡と考えた。第82号住居跡を切り、第47・55号住居跡に切られ、遺構の大半を壊されている。また、第67号住居跡と重複する。



第294図 第140号住居跡出土遺物

確認面は、黄褐色のローム層上面である。残存長は、東西方向で2.88m、南北方向で1.57mである。重複関係、出土遺物から、古墳時代終末期中葉頃の遺構と見られる。

第139表 第140号住居跡出土遺物観察表

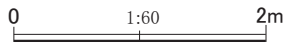
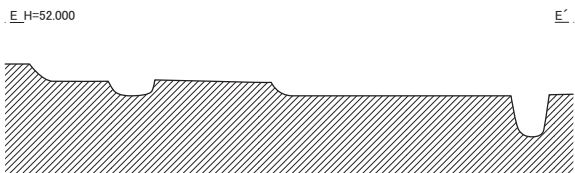
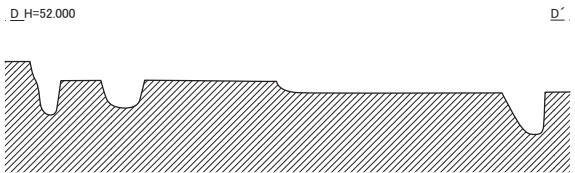
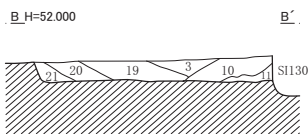
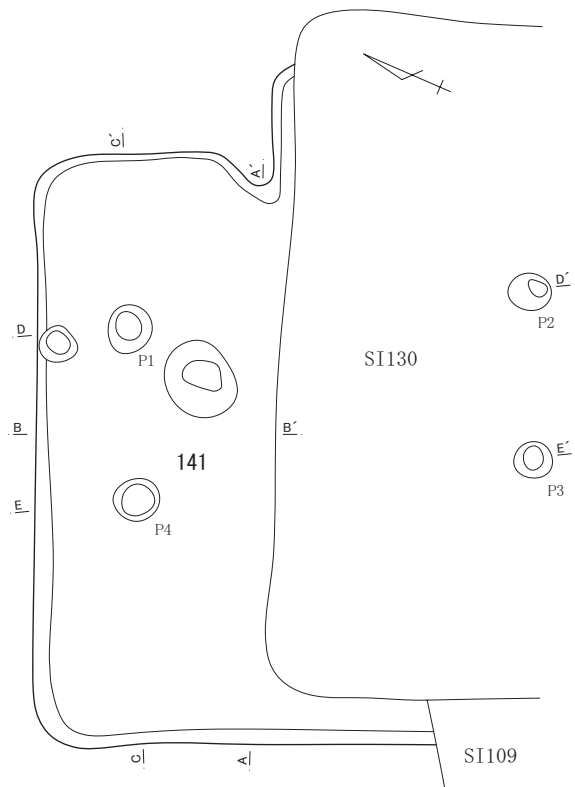
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 11.6 底径 — 器高 3.8	丸底。体部は浅く、口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—橙色	3/4残存

第141号住居跡（第295～297図、第140表、図版34・144）

調査地点の南東部の中央、やや南東寄り、S14、T14グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第216・236・256・258号住居跡を切り、第130号住居跡に切られ、遺構の大半を壊されている。第135号住居跡と重複する。また、直接切り合い関係にはないが、第109・239号住居跡とも重複する位置にある。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

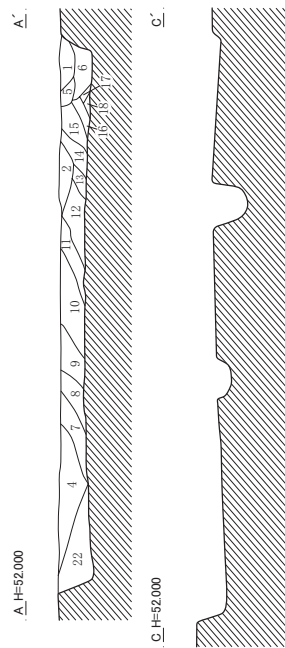
平面形は、方形になろうか。規模は、主軸方向で4.70m、副軸方向での現存値は1.91m、主軸方位はN-67°-Eである。床面はほぼ平坦であるが、中央がやや高くなるようである。床面の硬化は顕著ではない。壁高は、東壁の残りのよい部分で29cm、北壁で15cm、西壁で27cmである。

P1～P4は、支柱穴であろう。P2・P3は、第130号住居跡の床面精査時に検出したピットで



第141号住居跡土層説明

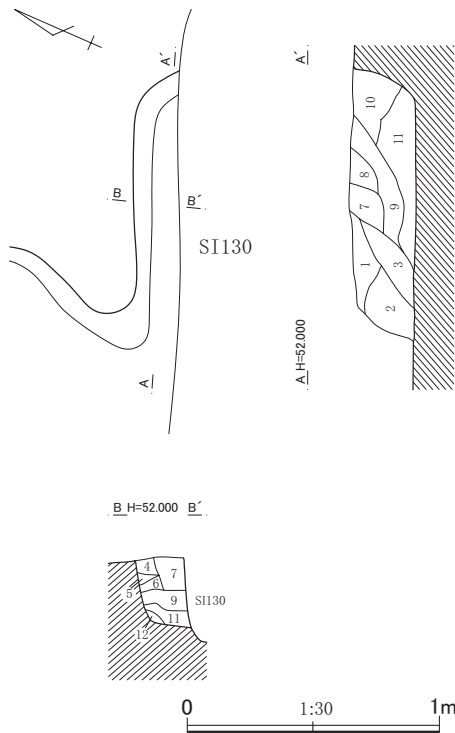
- 第1層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～0.5mm)を中量含み、粘土小塊(～20mm)を少量、焼土粒(～1mm)・焼土粒(～6mm)を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～6mm)を中量含み、焼土粒(～4mm)を少量、焼土小塊(～40mm)を微量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を中量含み、粘土粒(～2mm)を少量、焼土粒(～4mm)を微量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を中量含み、粘土粒(～3mm)を少量、焼土粒(～4mm)を微量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)・



- 焼土小塊(～15mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を中量、焼土粒(～1mm)を微量含む。粘性はやや強い。
- 第6層：灰褐色土。灰色粘土を主とし、暗褐色土小塊(～10mm)を少量含む。粘性は強い。
- 第7層：暗褐色土。粘土粒(～1mm)を少量含み、焼土粒(～1mm)を微量含む。粘性はやや強い。
- 第8層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を中量含み、ローム小塊(～15mm)を少量含む。

- 第9層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を少量含み、ローム粒(～4mm)・焼土粒(～4mm)を微量含む。
- 第10層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)・粘土粒(～1mm)を少量含み、ローム小塊(～40mm)・粘土小塊(～20mm)を微量含む。粘性はやや強い。
- 第11層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を少量含み、ローム小塊(～20mm)を微量含む。
- 第12層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・粘土粒(～4mm)・粘土小塊(～30mm)を少量含む。粘性はやや強い。
- 第13層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)・粘土粒(～1mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～1mm)を微量含む。粘性はやや強い。
- 第14層：灰褐色土。灰色粘土を主とし、暗褐色土小塊(～15mm)を少量含む。粘性はやや強い。
- 第15層：暗褐色土。粘土粒(～1mm)・粘土小塊(～30mm)を中量含む。粘性はやや強い。
- 第16層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。粘性はやや強い。
- 第17層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含む。
- 第18層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含み、ローム小塊(～30mm)を微量含む。粘性はやや強い。
- 第19層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を多量に含み、炭化物粒(～4mm)を少量を中量含む。
- 第20層：暗褐色土。ローム粒(～6mm)を少量含み、焼土粒(～1mm)を微量含む。
- 第21層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を少量含み、ローム粒(～6mm)を微量含む。
- 第22層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を多量に含み、炭化物粒(～4mm)を少量、焼土粒(～2mm)を中量含む。

第295図 第141号住居跡平面・断面図(1)



第296図 第141号住居跡平面・断面図(2)

第141号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を少量含み、ローム小塊(～20mm)・炭化物粒(～2mm)を微量含む。粘性はやや強い。
- 第2層：明灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土小塊(～10mm)を中量含み、粘土小塊(～50mm)を少量含む。粘性はやや強い。
- 第3層：明赤灰褐色土。粘土粒(～4mm)を多量に含み、焼土粒(～4mm)を中量、焼土小塊(～20mm)を少量含む。粘性はやや強い。
- 第4層：灰褐色土。暗褐色土粒子(～4mm)を微量含む。粘性は強い。
- 第5層：灰褐色土。灰色粘土を主とする。粘性は強い。
- 第6層：暗褐色土。粘土粒(～1mm)を中量含む。粘性はやや強い。
- 第7層：灰褐色粘土。暗褐色土粒子(～4mm)を少量含む。粘性は強い。
- 第8層：暗褐色土。粘土粒(～1mm)を少量含み、粘土小塊(～20mm)・焼土粒(～4mm)を微量含む。粘性はやや強い。
- 第9層：灰褐色粘土。暗褐色土粒子(～4mm)を少量含む。粘性は強い。
- 第10層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・粘土粒(～1mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。
- 第11層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・焼土粒(～4mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)・粘土小塊(～10mm)・炭化物粒(～4mm)を少量含む。
- 第12層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～10mm)を少量含む。粘性は強い。

ある。いずれも平面形は円形に近く、深さは、P 1が29cm、P 2が28cm、P 3が13cm、P 4が15cmである。

カマドは東壁に付設されており、左袖と燃焼部の北半のみ残存する。縦長の燃焼部に短い袖の付く形態であろう。燃焼面は、ほぼ平坦で、掘り込みは見られない。燃焼部の長さは110cm、残存部分の横幅は26cmである。

燃焼部側壁の上部が明瞭に被熱赤化している。カマド覆土は、12層に分けられた。第2～7・9層は、粘土や焼土を顕著に含み、天井部や側壁の崩落土であろう。

住居跡全体の覆土は、暗褐色土を主とする22層に分けられた。粘土や焼土、炭化物を含む細かなまとまりをなす土で、住居跡が埋まったこと、あるいは埋められたことが判る。

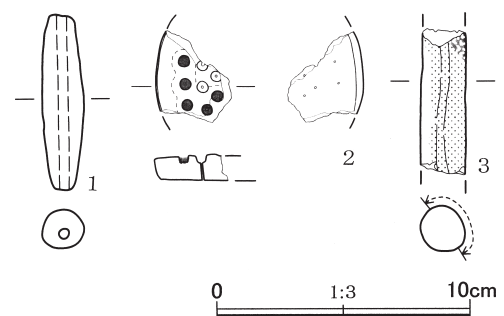
重複関係から見て、古墳時代終末期から奈良時代初頭にかけての遺構である可能性が考えられる。

第140表 第141号住居跡出土遺物観察表

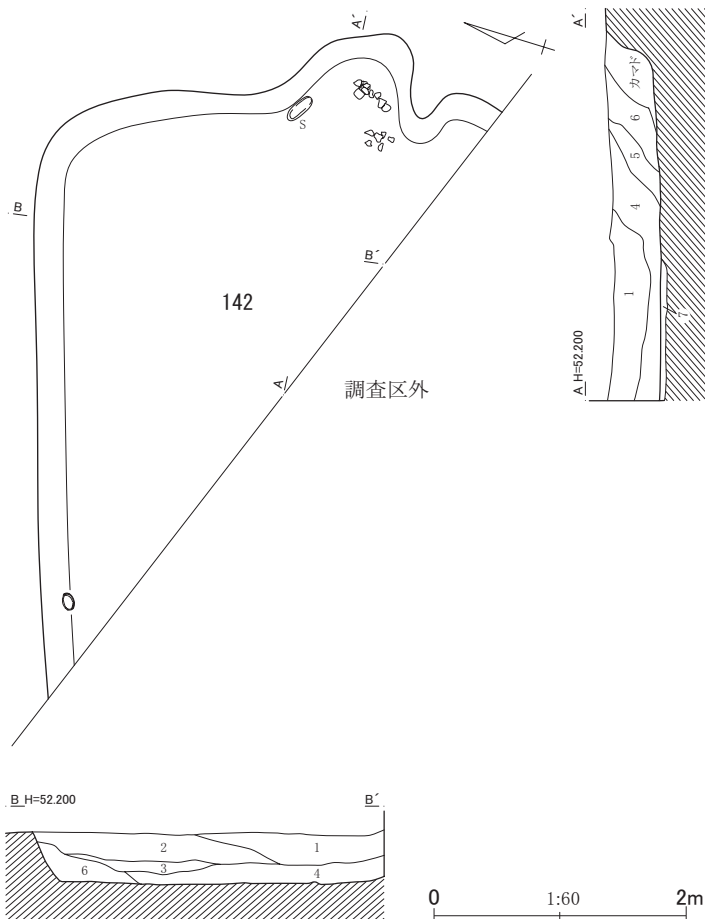
No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
1	土錘	長さ7.3、幅1.7、厚さ1.6、重さ20.64g。胎土：白色粒。色調：にぶい褐色。	完形
2	ガラス小玉 鋳型	第953図53、第429表参照。	No.53
3	棒状 土製品	第970図59、第438表参照。	No.59

第142号住居跡(第298・299図、第141表、図版34・144)

調査地点の南縁沿いのほぼ中央、Q15グリッドに位置し、I群に含まれる住居跡である。第147・163号住居跡を切っており、南半は調査範囲外である。また、第159号住居跡と重複する。確認面は、



第297図 第141号住居跡出土遺物

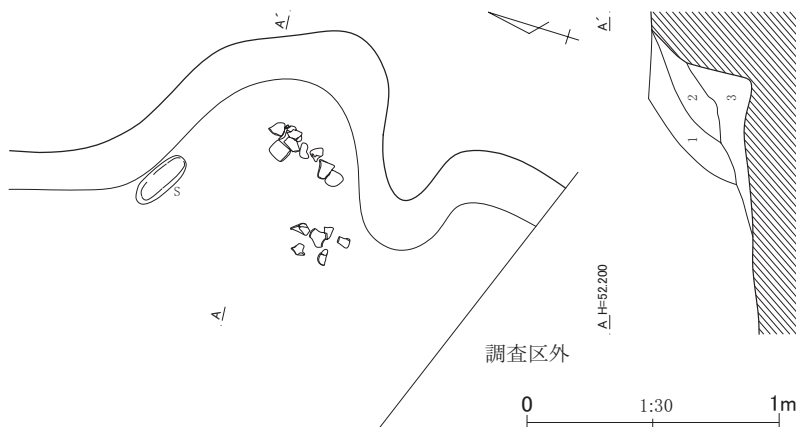


第142号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・焼土粒(～2mm)を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・焼土粒(～4mm)を微量含み、ローム小塊(～15mm)を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・炭化物粒(～1mm)を少量含み、ローム粒(～8mm)・焼土粒(～1mm)を微量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・ローム小塊(～15mm)・炭化物粒(～1mm)を少量含み、焼土粒(～4mm)を微量含む。
- 第5層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)・粘土粒(～1mm)を少量、焼土粒(～4mm)を微量含む。
- 第6層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)・粘土粒(～1mm)・焼土粒(～4mm)を少量、粘土小塊(～10mm)を微量含む。

〈掘り方埋土〉

- 第7層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～6mm)・ローム小塊(～30mm)を中量含む。ややしまっている。



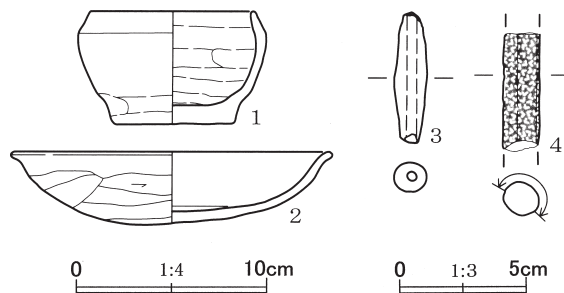
第142号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)・粘土粒(～1mm)を少量含み、焼土粒(～6mm)を中量含む。粘性はやや強い。
- 第2層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～4mm)・焼土粒(～4mm)を中量含み、粘土小塊(～40mm)・焼土小塊(～20mm)を少量含む。
- 第3層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)を中量含む。

第298図 第142号住居跡平面・断面図

黄褐色のローム層上面である。

平面形は、やや丸みのある方形、長方形になるうか。規模は、いずれも現存値になるが、主軸方向で4.55m、副軸方向で3.65m、主軸方位はN-73°-Eである。床面には微妙な凹凸があり、所々硬化している。壁高は、東・北壁ともに39cmである。



第299図 第142号住居跡出土遺物

第141表 第142号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	鉢	口径 (9.0) 底径 (6.6) 器高 6.2	平底。体部は内彎する。口縁部は内傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ナデ。内面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒 外－にぶい黄橙色 内－にぶい褐色	1/2残存
2	皿	口径 17.4 底径 — 器高 3.9	丸底。体部は大きく開く。口縁部は外販する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	角閃石・白色粒 内外－橙色	ほぼ完形
No.	器種	法量 (cm)・特徴				備考
3	土錘	長さ5.4、幅1.4、厚さ1.3、重さ7.70g。胎土：白色粒。色調：暗灰黄色。				完形
4	棒状土製品	第970図60、第438表参照。				No.60

カマドは、東壁に付設されている。右袖のみの片袖で、右袖も短く突出するのみである。焼部は壁をわずかに丸く掘りくぼめ作出されている。焼部の掘り込みも見られず、焼部の被熱赤化は極々局所的である。焼部の長さは75cm、横幅は87cmである。カマド覆土は3層で、あるいは粘土や焼土の目立つ第1・2層には、天井部や側壁の崩落土が含まれるのかもしれない。

住居跡覆土は、暗褐色土を主とする6層で、第7層は、暗褐色土とロームの混合土からなる掘り方埋土である。

カマド内から編物石かと思われる楕円礫1点、土師器片がまとまりをなし出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末期末から奈良時代初頭にかけての遺構と考えられる。

第143号住居跡 (第300～302図、第142・143表、図版35・144・145)

調査地点の南東隅近く、T14・15、U14・15グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第134・165・200・225・255号住居跡を切っており、第108号住居跡に切られ、遺構の一部を壊されている。また、直接切り合い関係にはないが、第226号住居跡とも重複する位置にある。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

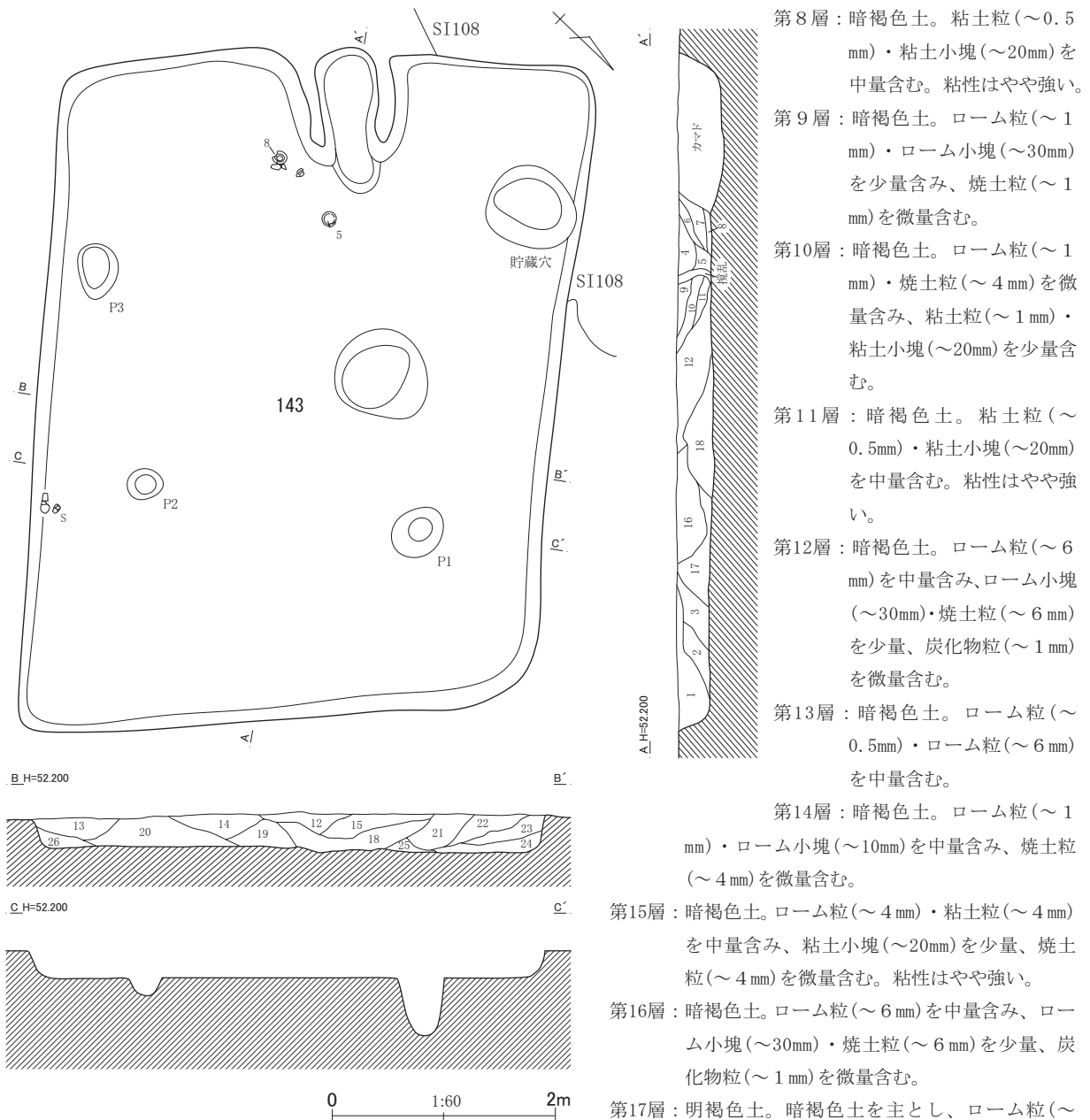
平面形は、長方形というより平行四辺形に近い。規模は、主軸方向で5.99m、副軸方向で4.65m、主軸方位はS-53°-Wである。床面は、中央部を中心に明瞭に硬化している。壁の立ち上がりは、比較的急である。残りのよいところでの壁高は、南西壁で28cm、北西壁で31cm、北東・南東壁で26cmである。

P1・P2は、支柱穴の可能性のあるピットである。上端での平面形は、やや歪な円形で、深さは、P1が52cm、P2が17cmである。P3は、深さが7、8cmの浅いピットである。西隅近くの北西壁沿いピットは、貯蔵穴であろう。上端での平面形は、やや歪な楕円形で、長径80cmである。底面は丸みをもって掘り込まれており、深さは26cmである。覆土には、ローム小塊や焼土をかなり含み埋め戻されたかのようにも見える。

カマドは、南西壁の中央に付設されている。微妙に彎曲した細長い袖に挟まれた焼部が残存し、焼部は掘りくぼめられ作出されている。焼部の長さは131cm、横幅は53cmである。側壁の上部および奥壁の一部が、被熱赤化している。カマド覆土は、10層で、黄褐色粘土を主とする第2層は、天井部や側壁の崩落土からなる層と思われる。

覆土は、主に暗褐色土からなる26層に分層できた。四周から粘土や焼土混りの土がくりかえし流入、投棄されて埋められたかのような堆積状態である。あるいは、第4・5層のように暗灰褐色土を主と

C地点



第143号住居跡土層説明(1)

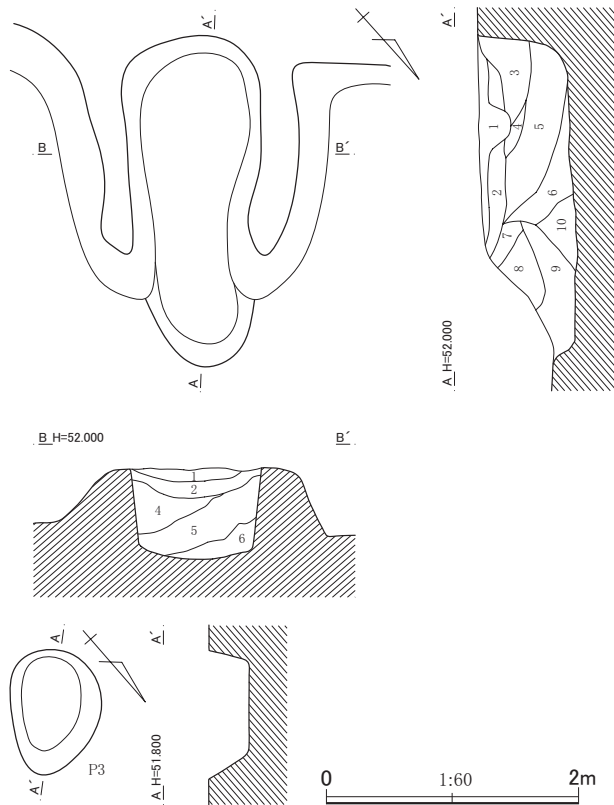
- 第1層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)・焼土粒(～4mm)を少量含み、縞状に灰色砂質土小塊(～60mm)を多量に含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を微量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含み、ローム粒(～8mm)・焼土粒(～4mm)・焼土小塊(～10mm)を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒(～1mm)を微量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒(～1mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。
- 第6層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・ローム小塊(～30mm)を少量含み、焼土粒(～1mm)を微量含む。
- 第7層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・焼土粒(～4mm)を微量含み、粘土粒(～1mm)・粘土小塊(～20mm)を少量含む。

- 第8層：暗褐色土。粘土粒(～0.5mm)・粘土小塊(～20mm)を中量含む。粘性はやや強い。
- 第9層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・ローム小塊(～30mm)を少量含み、焼土粒(～1mm)を微量含む。
- 第10層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・焼土粒(～4mm)を微量含み、粘土粒(～1mm)・粘土小塊(～20mm)を少量含む。
- 第11層：暗褐色土。粘土粒(～0.5mm)・粘土小塊(～20mm)を中量含む。粘性はやや強い。
- 第12層：暗褐色土。ローム粒(～6mm)を中量含み、ローム小塊(～30mm)・焼土粒(～6mm)を少量、炭化物粒(～1mm)を微量含む。
- 第13層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)・ローム粒(～6mm)を中量含む。
- 第14層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・ローム小塊(～10mm)を中量含み、焼土粒(～4mm)を微量含む。
- 第15層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・粘土粒(～4mm)を中量含み、粘土小塊(～20mm)を少量、焼土粒(～4mm)を微量含む。粘性はやや強い。
- 第16層：暗褐色土。ローム粒(～6mm)を中量含み、ローム小塊(～30mm)・焼土粒(～6mm)を少量、炭化物粒(～1mm)を微量含む。
- 第17層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～0.5mm)・ローム小塊(～20mm)を中量含む。
- 第18層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～10mm)・粘土粒(～5mm)・粘土小塊(～20mm)を中量含み、焼土粒(～4mm)・焼土小塊(～10mm)を少量含む。粘性はやや強い。
- 第19層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を少量含み、ローム小塊(～30mm)を多量に含む。
- 第20層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)を多量に含み、ローム小塊(～50mm)を少量含む。
- 第21層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)・ローム小塊(～10mm)を少量含む。

第300図 第143号住居跡平面・断面図(1)

第143号住居跡土層説明(2)

- 第22層：暗褐色土。ローム粒(～6mm)・ローム小塊(～20mm)・粘土小塊(～20mm)を少量含む。粘性はやや強い。
- 第23層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。
- 第24層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～10mm)

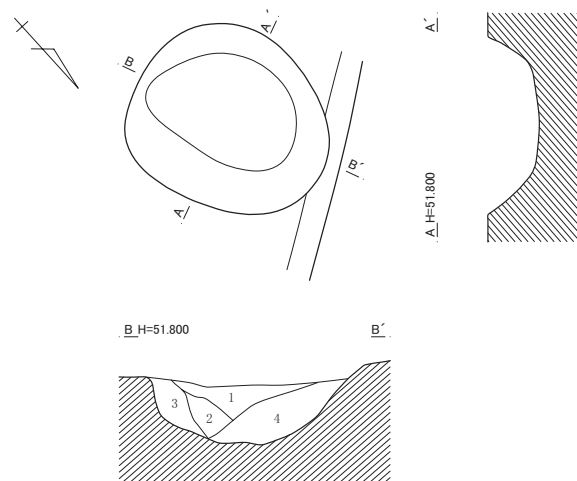


第143号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む、粘土粒(～4mm)を中量含む。粘性はやや強い。
- 第2層：黄褐色粘土。暗褐色土粒子(～6mm)を少量含む。粘性は強い。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・焼土粒(～2mm)を少量含む、粘土粒(～2mm)を中量含む。粘性はやや強い。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を中量含む、粘土粒(～6mm)・粘土小塊(～10mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。粘性はやや強い。
- 第5層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・粘土粒(～1mm)・焼

を多量に含む、ローム小塊(～40mm)を少量含む。

- 第25層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を少量含む、ローム小塊(～10mm)を微量、焼土粒(～4mm)を中量含む。
- 第26層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)・ローム粒(～6mm)を少量含む。



土粒(～6mm)を少量含む、粘土小塊(～10mm)を中量含む。

- 第6層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を微量含む、粘土粒(～4mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。
- 第7層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)・ローム小塊(～20mm)・粘土小塊(～10mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。
- 第8層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を微量含む、粘土小塊(～10mm)を少量含む。
- 第9層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を中量含む、粘土粒(～1mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。
- 第10層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を少量含む。

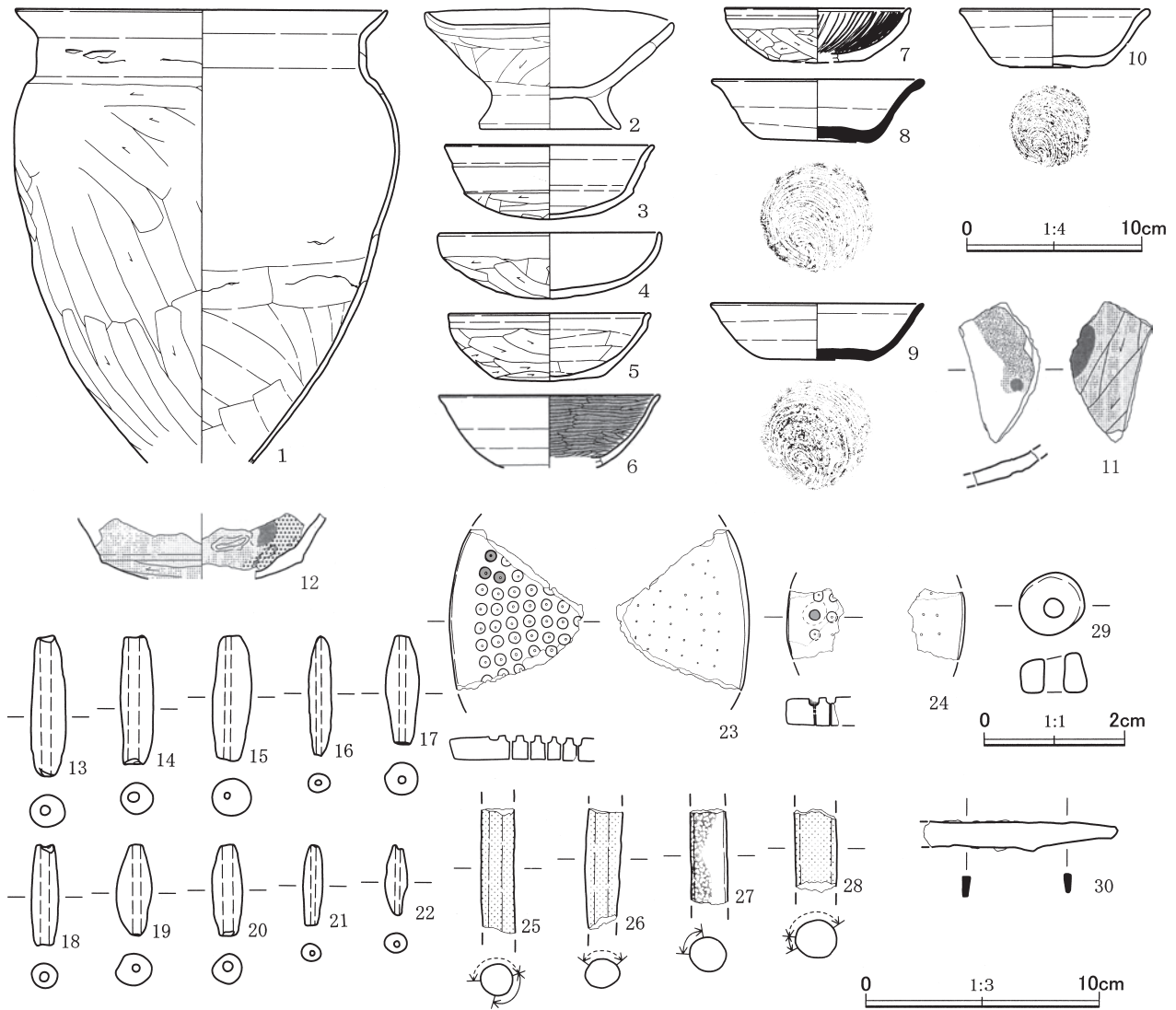
第143号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム小塊(～30mm)を少量含む、焼土小塊(～20mm)を中量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム小塊(～80mm)を多量に含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～3mm)・焼土粒(～3mm)を少量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～3mm)を多量に含む、ローム小塊(～70mm)を中量、炭化物粒(～2mm)を微量含む。

第301図 第143号住居跡平面・断面図(2)

する土は、時期的にも新しいと見ることができ、部分的に覆土が攪乱されているのかもしれない。

第302図5の土師器坏は、カマド左袖の前面の覆土最上層から、8の須恵器坏は、左袖脇の下層から出土している。また、東壁沿いから編物石かと思われる楕円礫が数点出土している。複数時期の遺物が混在しているようであり、3・4の坏は、混入した遺物であろう。



第302図 第143号住居跡出土遺物

第142表 第143号住居跡出土遺物観察表（1）

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 22.1 底径 — 器高 [27.2]	コの字状口縁。胴部は肩部が張る。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—明赤褐色	口縁部～胴部 3/4残存
2	須恵器 高台付 埴	口径 14.2 底径 8.0 器高 6.9	高台部はハの字状を呈する。体部から口縁部にかけて直線的に開く。ロクロ成形。	外面—ロクロナデ。体部ヘラケズリ。底部は高台貼付時回転ナデ。内面—ロクロナデ。	石英・白色粒 内外—明赤褐色	4/5残存 酸化焰焼成
3	坏	口径 12.4 底径 — 器高 4.5	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外傾し、中位に段を有する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・角閃石・白色粒 外—にぶい黄橙色 内—灰黄褐色	口縁部一部欠損
4	坏	口径 13.2 底径 — 器高 3.9	丸底。体部は浅く開き、口縁部は内彎気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 外—にぶい黄橙色 内—橙色	ほぼ完形
5	坏	口径 12.0 底径 6.4 器高 4.1	丸みを帯びた平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は短く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 外—橙色 内—明赤褐色	ほぼ完形
6	坏	口径 (13.1) 底径 — 器高 [4.3]	体部はやや膨らみをもって立ち上がり、口縁部は短く外反する。ロクロ成形。	外面—口縁部～体部ロクロナデ。内面—口縁部～体部ロクロナデ後ミガキ。黒色処理。	白色粒 外—にぶい橙色 内—黒色	口縁部～体部 1/4残存 酸化焰焼成
7	坏	口径 11.1 底径 — 器高 [3.2]	平底気味。体部は浅く、口縁部は短く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部放射状暗文。	白色粒・褐色粒 内外—橙色	1/4残存

第143表 第143号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
8	須恵器 坏	口径 12.4 底径 6.5 器高 3.8	体部は直線的に開く。口縁部は外反し、やや肥厚する。平底。ロクロ成形。	外面－ロクロナデ。底部右回転糸切り。内面－ロクロナデ。	片岩・白色粒・黒色粒 外－灰白色 内－灰色	口縁部一部欠損 還元焰焼成
9	須恵器 坏	口径 12.5 底径 6.3 器高 3.4	体部はやや膨らみをもって立ち上がり、口縁部は短く外反する。平底。ロクロ成形。	外面－ロクロナデ。底部右回転糸切り。内面－ロクロナデ。	白色粒・黒色粒 内外－灰白色	口縁部1/4欠損 還元焰焼成
10	須恵器 坏	口径 11.3 底径 4.8 器高 3.5	平底。体部は直線的に開き、口縁部は外反する。ロクロ成形。	外面－ロクロナデ。底部右回転糸切り。内面－ロクロナデ。	石英・黒色粒・褐色色粒 外－橙色 内－明赤褐色	口縁部1/3欠損 酸化焰焼成
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
11	転用埴 埴?	胎土：白色粒・黒色粒。色調：外－黄灰色、内－黄灰色。外面は全体的に熱変色し、部分的に赤色化。内面は緑錆が付着し、その脇は熱変成し発泡。部分的に赤色化。				坏破片
12	転用埴 埴?	器高[2.8]。胎土：白色粒・黒色粒。色調：外－黄灰色、内－黒色。外面は全体的に熱変色。内面はガラス質化および発泡。部分的に赤色化。				坏破片
13	土錘	長さ6.3、幅1.6、厚さ1.4、重さ14.64g。胎土：白色粒。色調：明褐色。				完形
14	土錘	長さ5.8、幅1.5、厚さ1.4、重さ11.83g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：橙色。				完形
15	土錘	長さ5.7、幅1.8、厚さ1.6、重さ17.24g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：橙色。				完形
16	土錘	長さ5.4、幅1.0、厚さ0.8、重さ5.59g。胎土：白色粒。色調：にぶい橙色。				一部欠損
17	土錘	長さ4.9、幅1.5、厚さ1.4、重さ9.34g。胎土：白色粒。色調：明赤褐色。				完形
18	土錘	長さ4.5、幅1.2、厚さ1.1、重さ6.13g。胎土：白色粒。色調：にぶい橙色。				完形
19	土錘	長さ4.1、幅1.6、厚さ1.4、重さ8.02g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：橙色。				完形
20	土錘	長さ4.2、幅1.4、厚さ1.3、重さ7.03g。胎土：白色粒。色調：灰黄褐色。				完形
21	土錘	長さ3.6、幅0.9、厚さ0.8、重さ2.65g。胎土：白色粒。色調：褐灰色。				完形
22	土錘	長さ3.2、幅1.0、厚さ0.9、重さ2.16g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：橙色。				完形
23	ガラス小玉 鑄型	第953図54、第429表参照。				No.54
24	ガラス小玉 鑄型	第953図55、第429表参照。				No.55
25	棒状 土製品	第970図61、第438表参照。				No.61
26	棒状 土製品	第970図62、第438表参照。				No.62
27	棒状 土製品	第970図63、第438表参照。				No.63
28	棒状 土製品	第970図64、第438表参照。				No.64
29	石製品 白玉	長さ0.6、幅1.0、孔径0.3×0.3、厚さ0.6、重さ0.91g。表裏面研磨。石材：滑石。				完形
30	鉄製品 刀子	長さ[8.7]、幅1.1、厚さ0.4、重さ14.33g。				刃部欠損

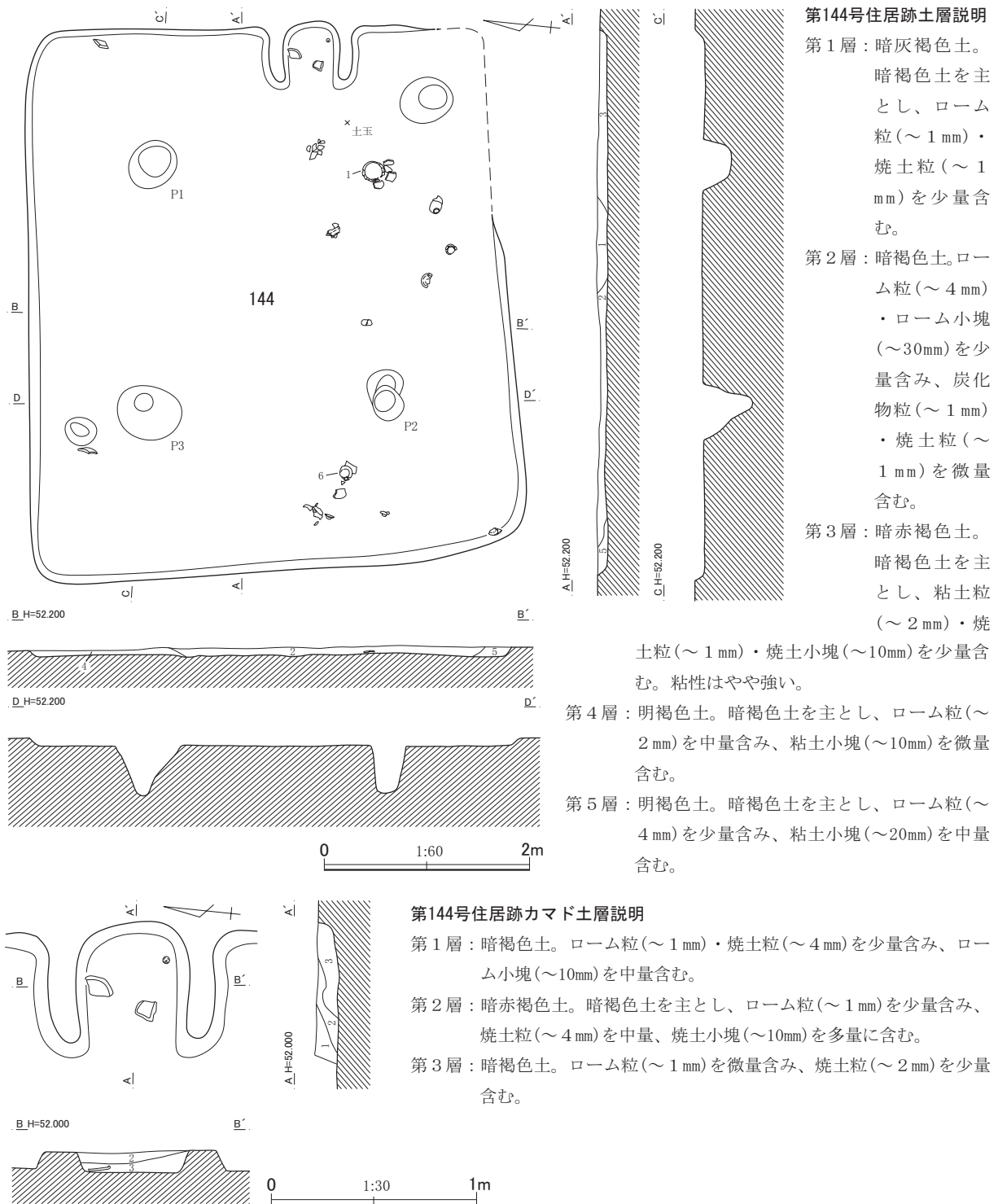
重複関係、および出土位置の確かな坏などの遺物から見て、平安時代前期前半から後半にかけての遺構としたい。

第144号住居跡(第303・304図、第144表、図版35・145)

調査地点の南縁近くの中央、P13・14グリッドに位置し、I群に含まれる住居跡である。第191号住居跡を切り、第160・172・178・189・199号住居跡と重複し、それらの住居跡の上部に造られている。また、第100号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、やや歪ではあるが、長方形と見てよいであろう。規模は、主軸方向で5.30m、副軸方向で4.18m、主軸方位はN-82°-Eである。床面の中央南寄りやP3のまわりなど、軽微ではあるが、硬化している。壁の立ち上がりは比較的ゆるやかで、壁高は、東・西壁で8cm、南壁で9cm、北壁で6cmである。

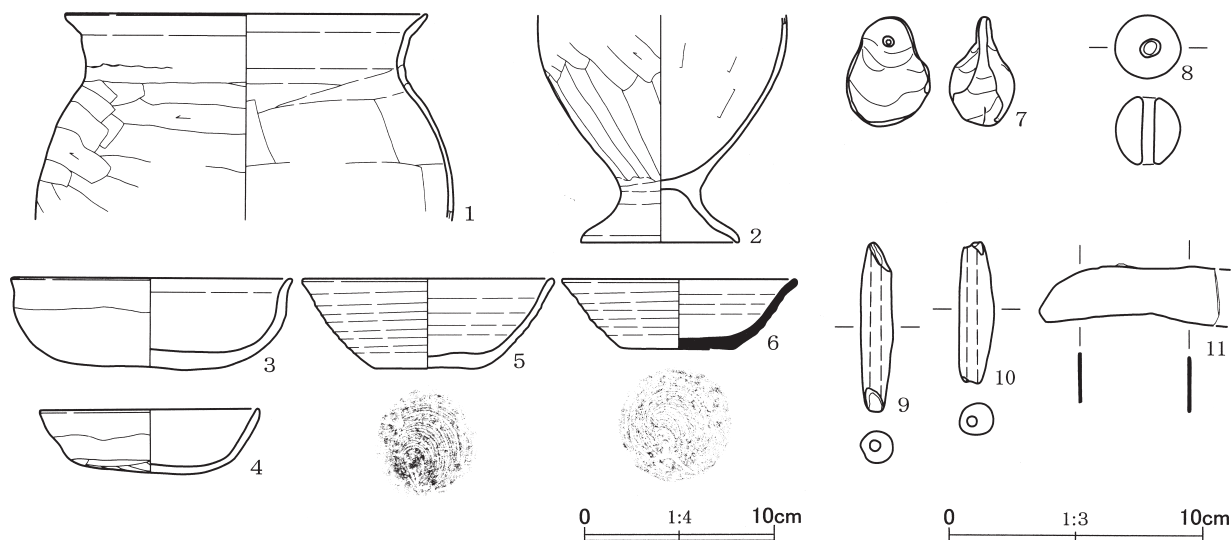
P1～P3は、主柱穴であろう。平面形は、いずれもやや不整な楕円形、円形で、深さは、P1



第303図 第144号住居跡平面・断面図

が27cm、P 2が46cm、P 3が49cmである。位置的に問題があるため、支柱穴とみなしていないが、第100号住居跡との重複部分のピットは、深さ70cmである。

カマドは、東壁の南東隅寄りの位置に付設されている。奥壁をほとんど掘りくぼめず燃焼部が作出されており、燃焼部の両側に短い袖が設けられている。袖端を末端とするなら、燃焼部の長さは67cm、横幅は54cmである。燃焼面は、床面とほぼ同じ高さで、煙道側がわずかに傾斜し高くなっている。左



第304図 第144号住居跡出土遺物

第144表 第144号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 19.9 底径 — 器高 [11.3]	コの字状口縁。胴部は肩部が張る。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	石英・白色粒 内外—橙色	口縁部～胴部 上位1/2残存
2	台付甕	口径 — 底径 (8.7) 器高 [12.5]	胴部は張る。台部はハの字状に開き、端部で内彎する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—胴部ヘラケズリ。台部ヨコナデ。内面—胴部ヘラナデ。台部ヨコナデ。	角閃石・白色粒 内外—橙色	胴部下半～台部 1/2残存
3	坏	口径 (15.4) 底径 — 器高 5.1	丸底。体部は丸みを帯びる。口縁部は直立し、端部で外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・黒色粒・小礫 内外—にぶい褐色	口縁部1/2欠損
4	坏	口径 (12.0) 底径 — 器高 3.5	平底気味。体部から口縁部にかけて外傾して開き、端部で短く内彎する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ナデ。底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—明赤褐色	口縁部1/4欠損
5	須恵器坏	口径 (13.8) 底径 5.5 器高 5.0	平底。体部は内彎気味に開き、口縁部は短く外反する。ロクロ成形。	外面—ロクロナデ。底部左回転糸切り。内面—ロクロナデ。	角閃石・白色粒・褐色粒 内外—橙色	2/3残存 酸化焰焼成
6	須恵器坏	口径 (12.8) 底径 6.2 器高 3.9	平底。体部は内彎気味に開き、口縁部は外反する。ロクロ成形。	外面—ロクロナデ。底部左回転糸切り。内面—ロクロナデ。	白色粒 内外—灰色	口縁部1/2欠損 還元焰焼成
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
7	土鈴	長さ4.5、幅3.5、厚さ2.7、重さ24.47g。胎土：石英・白色粒。色調：にぶい褐色。調整：ナデ。中に玉あり。表裏を張り合わせて成形。径0.45×0.4cmの円孔。				完形
8	土玉	長さ2.8、幅2.7、孔径0.5×0.5、厚さ2.6、重さ19.45g。胎土：白色粒。色調：にぶい褐色。調整：ナデ。				完形
9	土錘	長さ7.0、幅1.4、厚さ1.3、重さ10.41g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい褐色。				完形
10	土錘	長さ5.9、幅1.5、厚さ1.3、重さ11.30g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい褐色。				完形
11	鉄製品鎌	長さ[7.4]、幅2.3、厚さ0.1、重さ16.92g。				破片

右袖の内壁の一部がかすかに被熱赤化している。カマド覆土の第2層は、焼土を多く含み、天井部や側壁の崩落土を含む層と思われる。

覆土は、暗褐色土を主とする5層に分けられた。全体に焼土がかなり含まれるが、第3～5層には、粘土が含まれるようである。

第304図1の甕は、カマドの前面の上層から、8の土玉は、よりカマドに近い位置の下層から出土している。6の須恵器坏は、西壁近くの上層から出土している。重複関係、出土遺物から見て、平安時代前期後半の遺構と考えられる。

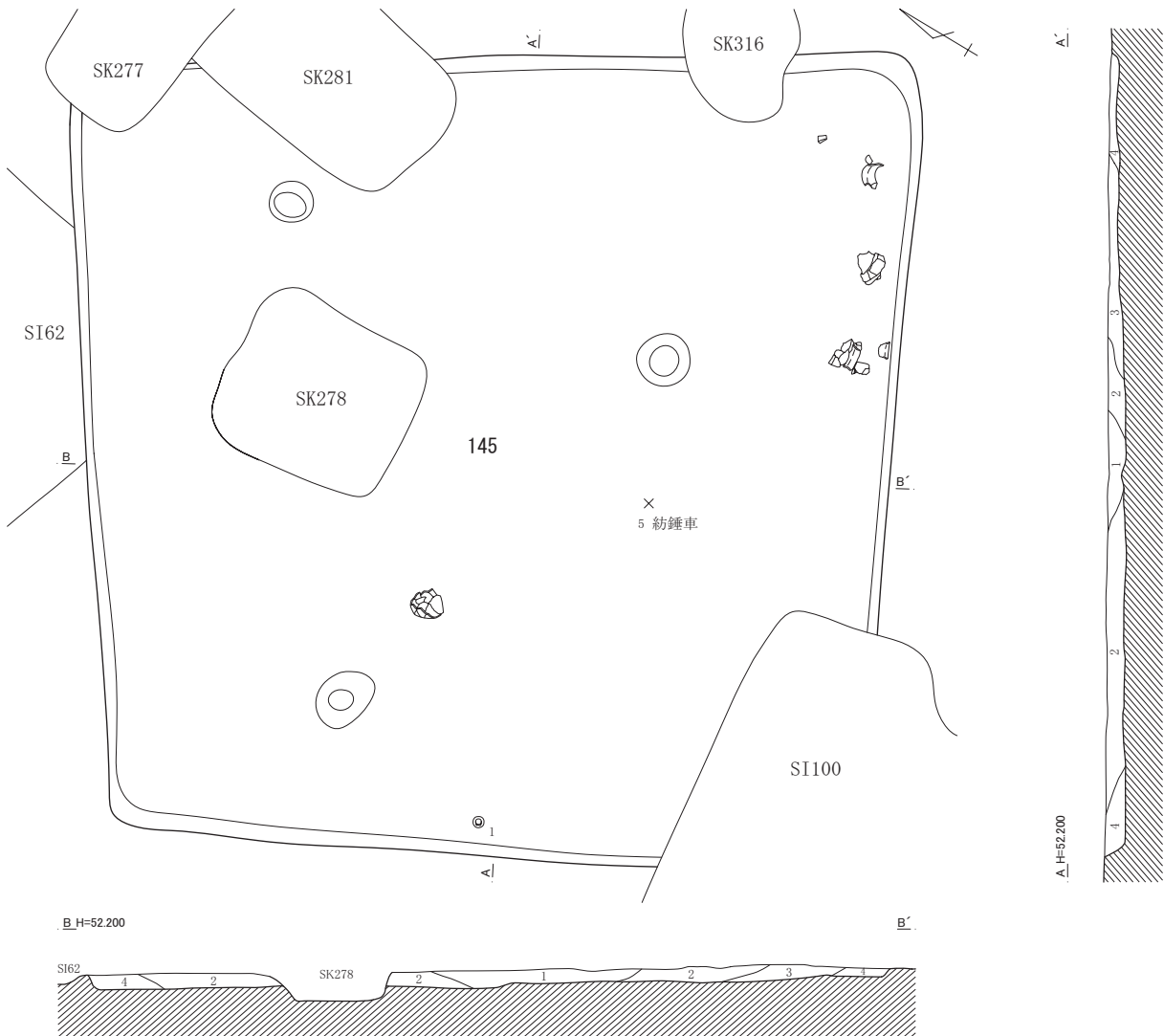
C地点

第145号住居跡（第305・306図、第145表、図版35・145）

調査地点の南縁近くの中央、P13・14、Q13・14グリッドに位置し、I群に含まれる住居跡である。第62・100号住居跡、第277・278・280・281・316号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。また、第172・197・199号住居跡とも重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、方形である。規模は、北東-南西方向で6.65m、北西-南東方向で6.67mである。カマドがあったとすれば、北東が候補となるが、とすれば、主軸方位は、N-60°-Eになる。床面は、微妙な凹凸はあるが、ほぼ平坦で、南東半部分を中心に不規則に硬化している。壁の立ち上がりは比較的しっかりしており、壁高は、北西壁で12cm、北東・南東壁で6cm、南西壁で12cmである。

検出したピットの中で、本遺構に伴う可能性のあるのは、3個である。図中左側の2つのピットは、



第145号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒（～0.5mm）を少量含む。小塊（～10mm）を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒（～1mm）を中量含む、ローム小塊（～10mm）を少量含む。第4層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～4mm）・ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒（～0.5mm）を少量含む、ローム

第305図 第145号住居跡平面・断面図

第145表 第145号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	小型壺	口径 — 底径 — 器高 [6.5]	体部は張る。丸底。粘土紐積み上げによる成形。	外面—頸部木口状工具によるナデ。体部ナデ。底部ヘラケズリ。内面—体部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—にぶい褐色	口縁部欠損
2	須恵器 高台付 埴	口径 12.3 底径 8.0 器高 3.6	高台は断面方形を呈す。体部は直立し、口縁部はわずかに外反する。ロクロ成形。	外面—ロクロナデ。底部回転ヘラケズリ後ナデ。高台貼付時周縁ナデ。内面—ロクロナデ。	角閃石・白色粒 内外—明赤褐色	口縁部一部欠損 酸化焙焼成
3	高坏	口径 (16.4) 底径 — 器高 [5.9]	口縁部は坏部との境に稜をもって外反して開く。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。坏部ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ。坏底部ヘラナデ。	石英・白色粒 外—明赤褐色 内—橙色	坏部2/3残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
4	土錘	長さ5.8、幅1.3、厚さ1.2、重さ7.38g。胎土：白色粒。色調：にぶい黄褐色。				完形
5	石製品 紡錘車	上面径7.0、下面径4.6、孔径1.1×1.0、厚さ3.6、重さ135.91g。石材：角閃石安山岩。調整：側面は9角形の面取り。上面平滑。				ほぼ完形
6	砥石	長さ7.1、幅3.85、厚さ1.8、重さ105.43g。石材：流紋岩。調整：4面使用、全て砥面で平滑。				一部欠損

位置的に支柱穴の可能性もないではないが、確証を得ることができなかった。

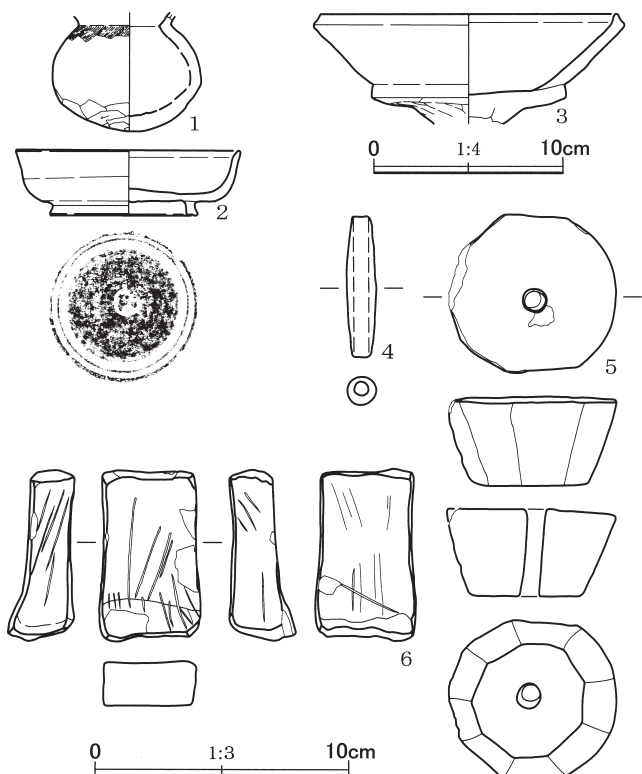
第306図1の小型直口壺は、南西壁近くの確認面から出土している。5の石製紡錘車は、遺構中央のやや南東寄りの上層から出土している。1の小型直口壺、3の高坏は、古墳時代中期中葉あるいはそれ以前、2の高台付埴は、奈良時代末～平安時代初頭の土器かと思われ、新旧の遺物が混在している。方形に近い大型住居跡であること、カマドがない可能性もあることなどを考慮し、古墳時代中期中葉の遺構と考えたい。

第146号住居跡（第307・308図、第146表、図版35・146）

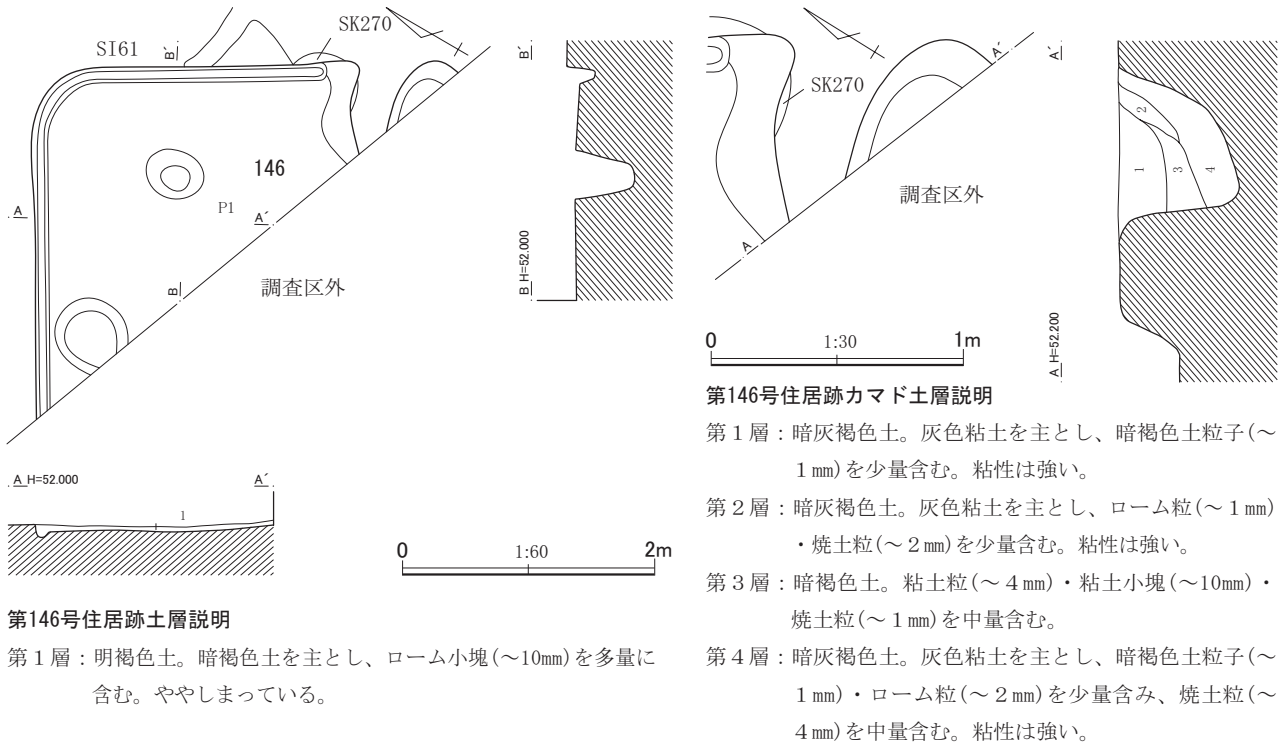
調査地点の南縁沿いの中央、やや西寄り、O14、P14グリッドに位置し、I群に含まれる住居跡である。第155・191号住居跡を切っており、第61号住居跡、第270号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。また、遺構の南半は、調査範囲外である。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、方形あるいは長方形になるうか。現存長のみ記すなら、主軸方向で2.20m、副軸方向で3.38mである。主軸方向が北西壁とほぼ並行するものとするれば、主軸方位はN-60°-E前後となるう。床面はほぼ平坦で、壁際を除いて明瞭に硬化している。北東壁、北西壁沿いには、幅12～15cm、深さ5～15cmの壁溝が掘られている。

P1は支柱穴であろう。上端での平面形は円形に近く、深さは47cmである。カマドは、北東壁に付設されている。左袖と燃焼部の一部のみしか調査することができなかった。奥壁をほとんど掘りくぼめることなく燃焼部が作出されており、粘土を混ぜた土を突き固めた袖が設けられている。軽微なが



第306図 第145号住居跡出土遺物

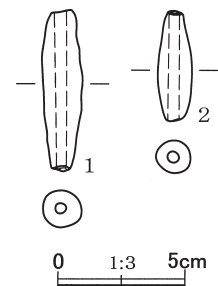


第307図 第146号住居跡平面・断面図

ら、煙道側の壁の一部が被熱赤化している。カマド覆土は、4層に分けられた。第1・2・4層は、灰色粘土を主とする天井部、側壁などの崩落土と思われ、第3層も粘土・焼土をかなり含むことから見て、同種の土と見られる。

住居跡の覆土は、暗褐色土を主とする1層で、ロームを多く含む床面上の一次堆積土であろうか。

図示した土錘などの遺物は覆土中から出土したのみである。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期初頭～前葉以前の遺構と考えられる。



第308図 第146号住居跡出土遺物

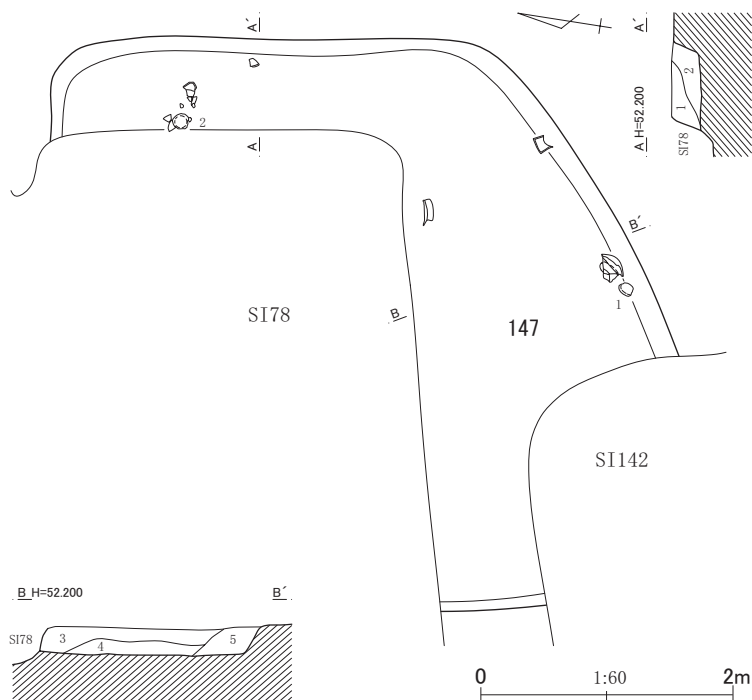
第146表 第146号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
1	土錘	長さ6.7、幅1.7、厚さ1.5、重さ15.71g。胎土：白色粒。色調：にぶい赤褐色。	完形
2	土錘	長さ4.6、幅1.4、厚さ1.3、重さ7.99g。胎土：白色粒。色調：にぶい褐色。	完形

第147号住居跡 (第309・310図、第147表、図版35・146)

調査地点の南縁近くのほぼ中央、Q15グリッドに位置し、I群に含まれる住居跡である。第78・142号住居跡に切られ、遺構の北西半、南西隅を大きく壊されている。第192号住居跡とは、わずかに壁が接する形で重複するが、新旧関係は確定しえなかった。また、第159号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、かなり歪であり、南西隅にあたる部分が突き出た台形のような形態である。規模は、東西方向で4.55m、南北方向の壁の残る部分で4.00mである。カマドがあったとすれば、第78号住居跡に壊された北壁、西壁が候補になる。床面は、ほぼ平坦であるが、硬化は顕著ではない。壁の立ち上



第147号住居跡土層説明

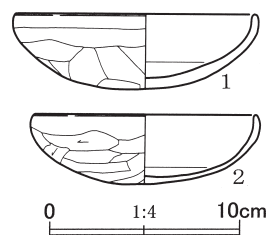
- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・焼土粒(～4mm)を中量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含む、焼土粒(～4mm)を中量含む。
- 第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)・焼土粒(～4mm)を中量含む、ローム小塊(～10mm)を微量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を中量含む、ローム粒(～4mm)を少量含む。
- 第5層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を中量含む、ローム小塊(～10mm)を微量含む。

第309図 第147号住居跡平面・断面図

がりは比較的急峻なようであり、壁高は、東壁で20cm、南壁で22cmである。

覆土は、暗褐色土を主とする5層に分けられた。壁際の一次堆積土と水平堆積に近い土層からなり、全体に焼土がやや目立つようである。

第310図1の坏は、南壁沿いの下層から、2の坏は、東壁脇の上層から出土した。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末期後葉の遺構である可能性が考えられる。



第310図 第147号住居跡出土遺物

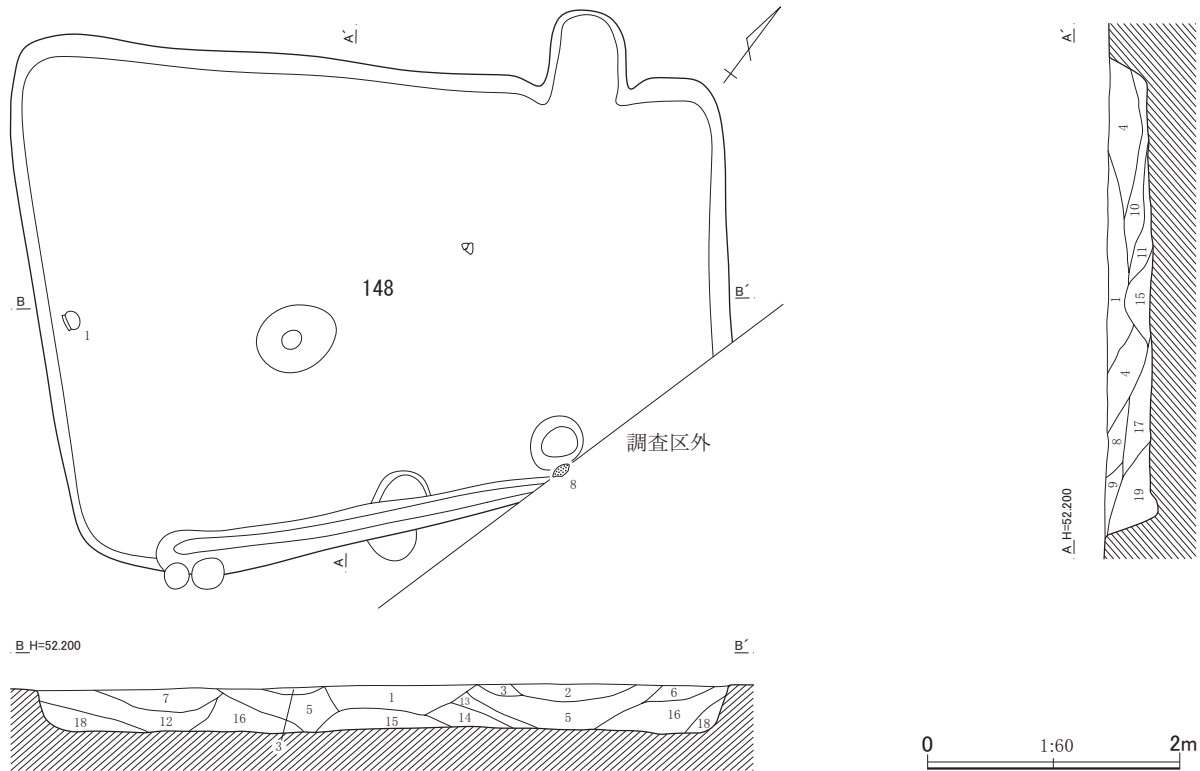
第147表 第147号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 (13.1) 底径 — 器高 4.1	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く内傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—橙色	1/2残存
2	坏	口径 12.2 底径 — 器高 3.8	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く内傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—橙色	口縁部1/6欠損

148号住居跡 (第311～313図、第148・149表、図版36・146)

調査地点の南東隅近くの東縁沿い、T15、U15グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第134・164号住居跡を切っており、東隅部分は、調査範囲外である。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、横長の長方形、というより南西辺が北東辺に比し長い台形に近い形態である。中軸線で測った規模は、主軸方向で3.72m、副軸方向で5.50m、主軸方位はN-44°-Wである。床面には微妙な凹凸が見られるが、おおむね平坦である。硬化はさほど明瞭ではない。壁の立ち上がりは比較的



第148号住居跡土層説明

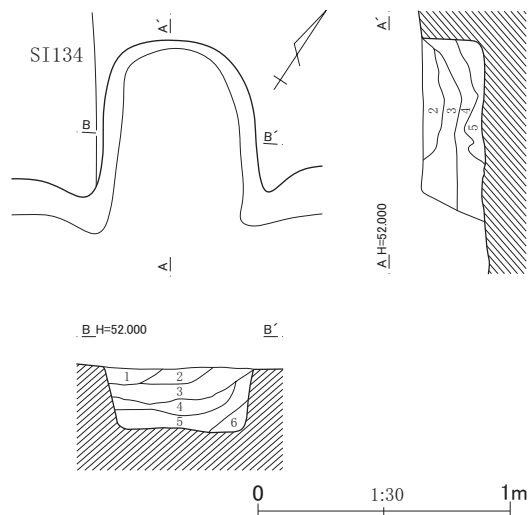
- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～3mm)を中量含み、炭化物粒(～0.1mm)を少量含む。粘性はやや強い。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～3mm)を中量含み、炭化物粒(～0.1mm)を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～3mm)を中量含み、ローム小塊(～30mm)・炭化物粒(～0.1mm)を少量含む。粘性はやや強い。
- 第4層：暗褐色土。ローム小塊(～100mm)を多量に含み、炭化物粒(～1mm)を少量、焼土粒(～1mm)を中量含む。
- 第5層：暗褐色土。ローム小塊(～100mm)を多量に含み、ローム小塊(～30mm)・炭化物粒(～1mm)を少量、焼土粒(～1mm)を中量含む。
- 第6層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を中量含み、炭化物粒(～2mm)を少量含む。
- 第7層：暗褐色土。ローム粒(～3mm)を中量含み、炭化物粒(～0.1mm)を少量含む。
- 第8層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・炭化物粒(～1mm)を少量含む。
- 第9層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を少量含む。

- 第10層：暗褐色土。ローム小塊(～60mm)を多量に含み、炭化物粒(～2mm)を少量、焼土粒(～2mm)を中量含む。粘性はやや強い。
- 第11層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・ローム小塊(～20mm)を少量含む。
- 第12層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を中量含み、炭化物粒(～2mm)を少量含む。
- 第13層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)を少量含む。
- 第14層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・ローム小塊(～20mm)を少量含む。
- 第15層：暗褐色土。ローム粒を(～1mm)を少量含み、炭化物粒(～1mm)を微量含む。
- 第16層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・ローム小塊(～20mm)を少量含み、炭化物粒(～2mm)・焼土粒(～2mm)を微量含む。
- 第17層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・ローム小塊(～20mm)を少量含み、炭化物粒(～1mm)を微量含む。
- 第18層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を中量含む。
- 第19層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を中量含む。

第311図 第148号住居跡平面・断面図(1)

急であり、壁高は、北西壁で30cm、北東・南東壁で36cm、南西壁で33cmである。南東壁には、幅20～35cm、深さ7、8cmの壁溝が設けられている。

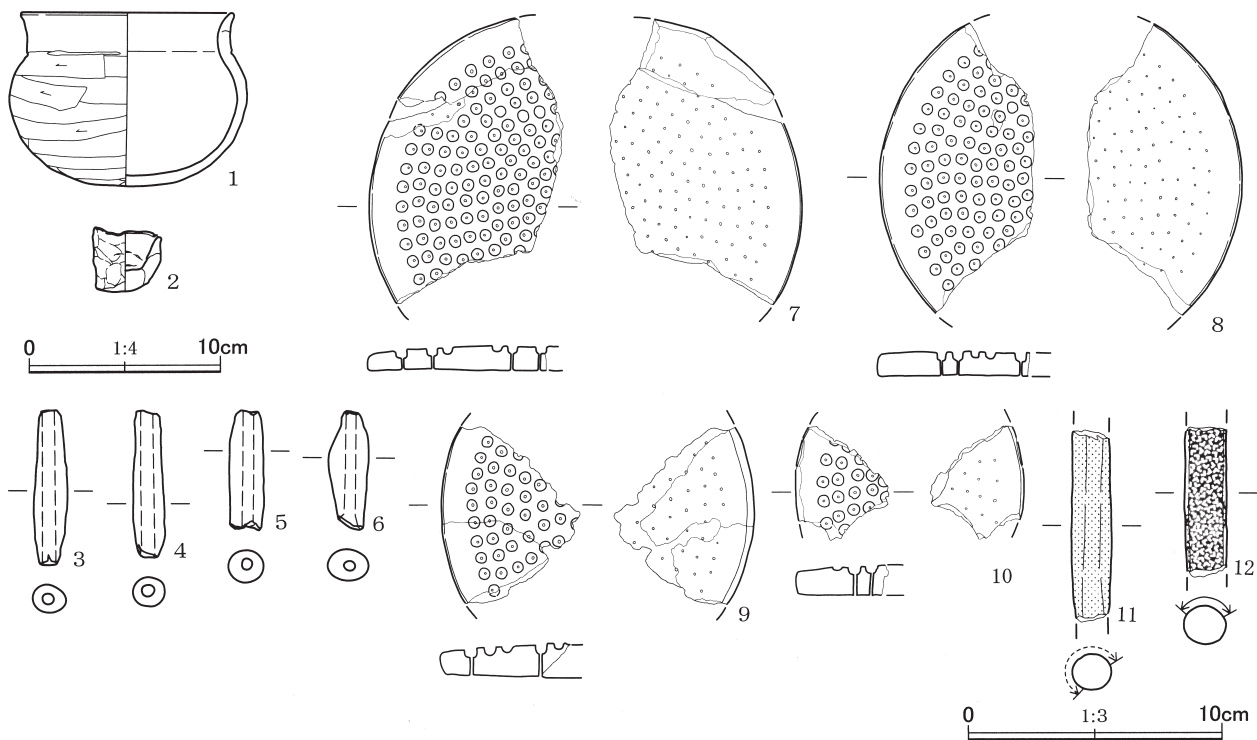
床面中央の南西寄りで上端が楕円形のピットを検出したが、住居跡に通有のピットに当てはめることができない。ピットの深さは、61cmである。



第148号住居跡カマド土層説明

- 第1層：赤褐色土。暗褐色土を主とし、焼土粒(～3mm)を多量に含み、焼土小塊(～20mm)を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～2mm)を中量含み、粘土粒(～1mm)・炭化物粒(～2mm)を少量含む。粘性はやや強い。
- 第3層：暗褐色土。ローム小塊(～50mm)・粘土粒(～7mm)・炭化物粒(～2mm)を中量含む。粘性はやや強い。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含み、粘土粒(～2mm)を中量含む。粘性はやや強い。
- 第5層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・粘土粒(～1mm)・粘土小塊(～20mm)を少量含み、ローム小塊(～50mm)を中量、炭化物粒(～1mm)を微量含む。
- 第6層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を微量含む。

第312図 第148号住居跡平面・断面図(2)



第313図 第148号住居跡出土遺物

第148表 第148号住居跡出土遺物観察表(1)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	短頸壺	口径 11.5 底径 — 器高 9.5	口縁部は直立し、上端で短く外反する。胴部は中位に膨らみをもつ。丸底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外-橙色	完形
2	手捏ね土器	口径 3.5 底径 2.3 器高 3.5	平底で厚い。口縁部にかけて直線的に立ち上がる。口縁部は不整形。手捏ね成形。	外面-口縁部～底部指ナデ。内面-口縁部～底部指ナデ。	黒色粒 外-橙色 内-にぶい黄橙色	完形
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
3	土錘	長さ6.4、幅1.4、厚さ1.1、重さ10.28g。胎土：白色粒。色調：にぶい黄橙色。				完形
4	土錘	長さ6.0、幅1.4、厚さ1.2、重さ9.50g。胎土：白色粒。色調：にぶい赤褐色。				完形
5	土錘	長さ5.0、幅1.5、厚さ1.3、重さ11.33g。胎土：白色粒。色調：明赤褐色。				完形

C地点

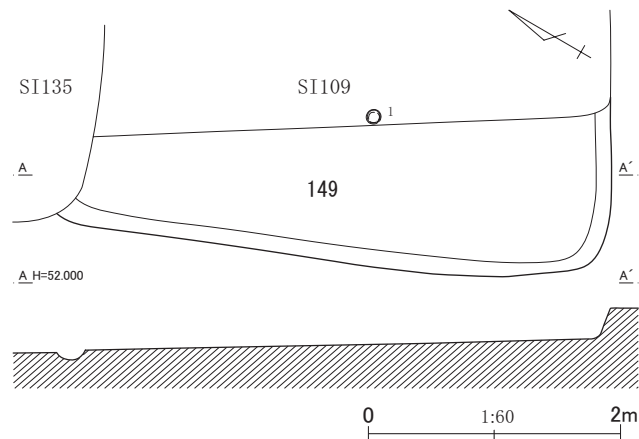
第149表 第148号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
6	土錘	長さ4.9、幅1.7、厚さ1.3、重さ10.33g。胎土：白色粒。色調：にぶい褐色。	完形
7	ガラス小玉 鑄型	第954図56、第430表参照。	No.56
8	ガラス小玉 鑄型	第954図57、第430表参照。	No.57
9	ガラス小玉 鑄型	第954図58、第430表参照。	No.58
10	ガラス小玉 鑄型	第954図59、第430表参照。	No.59
11	棒状 土製品	第970図65、第438表参照。	No.65
12	棒状 土製品	第970図66、第438表参照。	No.66

カマドは、北西壁の北隅に偏した位置に付設されている。壁を大きく掘りくぼめた燃焼部に、わずかに突出した袖を有する形態である。燃焼面は、床面とほぼ同じ高さで、奥壁、側壁ともに垂直に近く立ち上がる。燃焼部の長さは74cm、中央での横幅は61cmである。奥壁の極々一部がかすかに被熱赤化している。カマドの覆土は6層で、粘土をかなり含む第3・4層には、天井部や側壁の崩落土が含まれると見てよい。焼土を多量に含む第1層なども同種の土を含む可能性がある。

住居跡覆土は、19層に分けられた。かなり複雑な堆積状況で、四周から細かなまとまりをなす土が、流入あるいは投棄されたかの観を呈する。全体にロームをかなり含み、焼土や炭化物を多かれ少なかれ含む層が目立つようである。

第313図1の短頸壺は、南西壁脇の中央、床面よりかなり浮いた位置で出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末期後葉の遺構と考えられる。

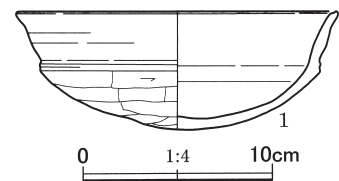


第314図 第149号住居跡平面・断面図

第149号住居跡(第314・315図、第150表、図版146)

調査地点の南東隅近く、S14・15グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。

第109・135号住居跡に切られ、南・北壁の一部と西壁およびその周辺の床面のみ残存する。第166号住居跡と重複する位置にあるが、第109号住居跡が介在するため、直接切り合い関係にはない。また、第188号住居跡と重複する。なお、第109号住居跡とは北西・南東壁が重なるため、あるいは本住居跡を建て替えて第109号住居跡が造られたと見ることもできないではないが、床面高の差が6、7cmあり、一応別の住居跡と考えたい。確認面は、黄褐色



第315図 第149号住居跡出土遺物

第150表 第149号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	罎	口径 (17.6) 底径 — 器高 6.5	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外反する。口唇部は内側に平坦面をもち、弱い凹線がめぐる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 内外—橙色	1/2残存

のローム層上面である。

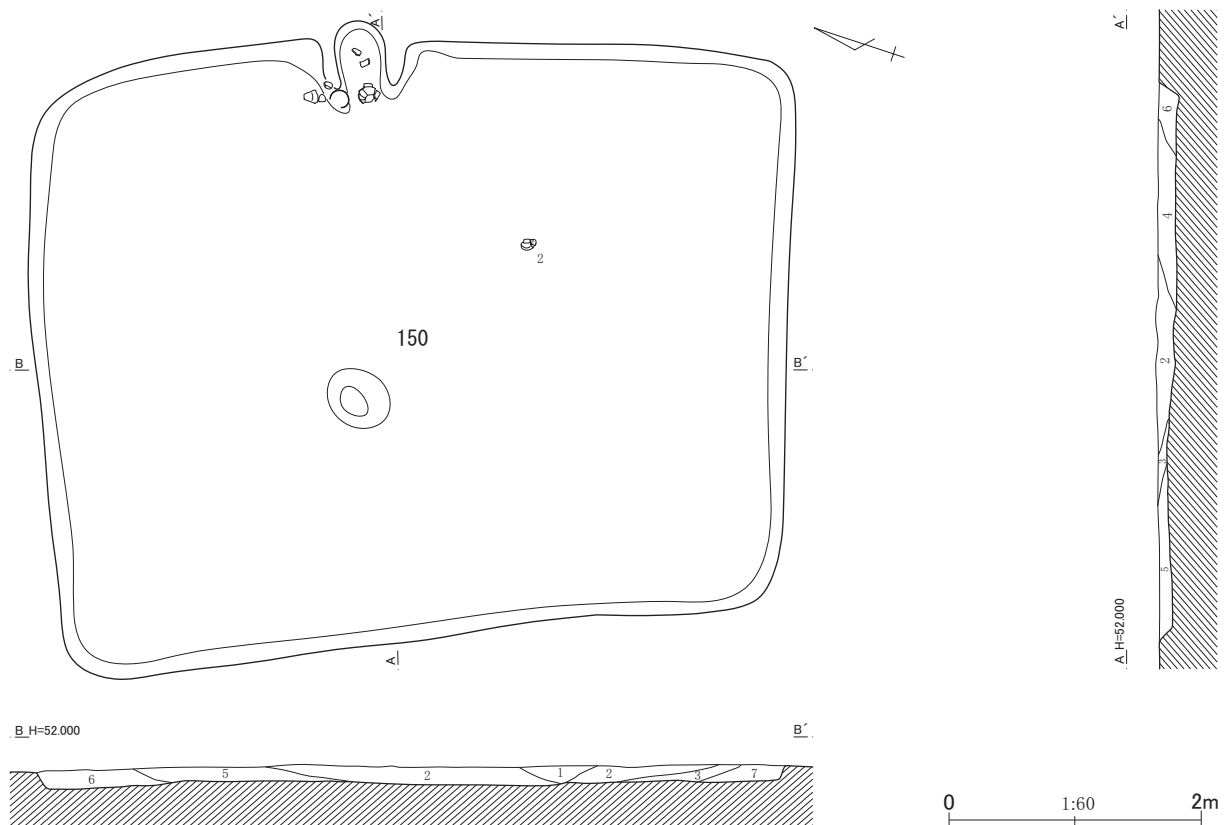
規模は、北西-南東方向で4.62m、北東-南西方向の中央での残存長は1.05mである。南西壁が指す方位は、N-21°-Wである。床面はほぼ平坦である。北西壁で35cm、南東壁で25cmである。

第315図1の坯は、本住居跡と第109号住居跡が重複する部分から出土し、帰属に不確定要素が残るが、調査者の所見に従い、本住居跡に伴うものとした。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期後葉後半から終末期前葉にかけての遺構と考えられる。

第150号住居跡（第316～318図、第151・152表、図版36・146・147）

調査地点の南東部の中央、やや南寄り、R13・14、S13・14グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第157・179・221号住居跡を切っている。また、第233号住居跡と重複する位置にあるが、第221号住居跡が介在し、直接切り合っていない。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、横長の長方形である。規模は、主軸方向で4.80m、副軸方向で5.99m、主軸方位はN-



第150号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・焼土粒(～1mm)を少量含み、ローム小塊(～50mm)を中量、炭化物粒(～1mm)を微量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・炭化物粒(～2mm)を微量含み、焼土粒(～2mm)を中量含む。

第3層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含む。

第4層：暗褐色土。ローム小塊(～70mm)・焼土粒(～5mm)を

少量含み、炭化物粒(～5mm)を微量含む。

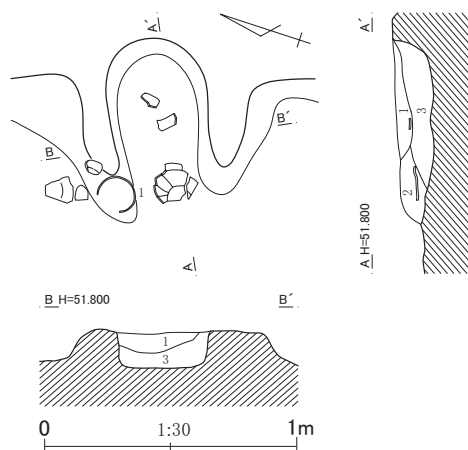
第5層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・炭化物粒(～1mm)を微量含み、焼土粒(～1mm)を少量含む。

第6層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・焼土粒(～1mm)を少量含み、ローム小塊(～20mm)・炭化物粒(～1mm)を微量含む。

第316図 第150号住居跡平面・断面図(1)

C地点

36° - Eである。床面の、壁際を除く北半部分が部分的に硬化している。床面はおおむね平坦であるが、奥壁側がやや深くなるようである。壁の立ち上がりはわずかであり、壁高は、北・東壁で15cm、南・西壁で10cmである。



第317図 第150号住居跡平面・断面図(2)

第150号住居跡カマド土層説明

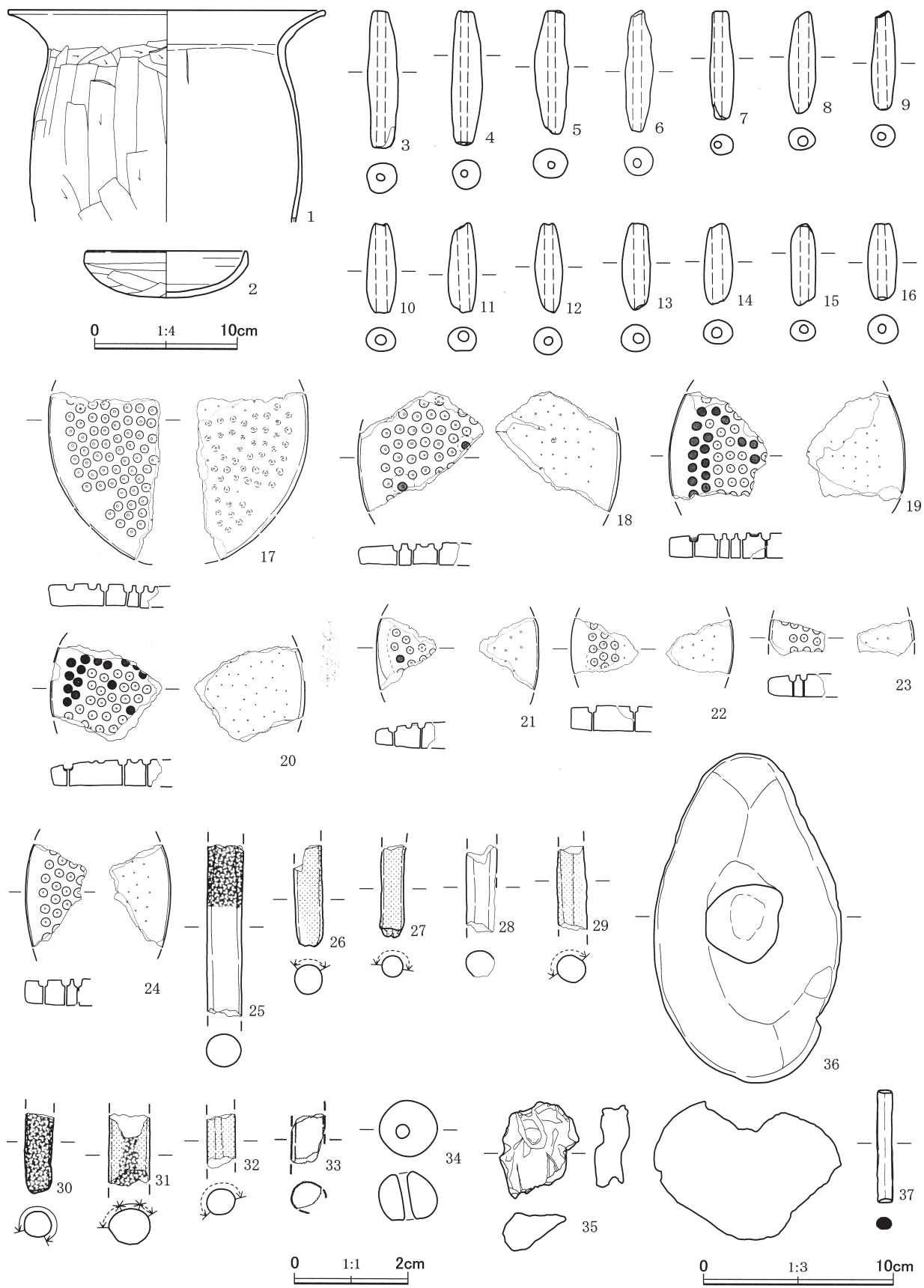
- 第1層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～4mm)・粘土小塊(～20mm)を多量に含み、焼土粒(～4mm)を少量含み、焼土小塊(～10mm)を中量含む。粘性はやや強い。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を中量含み、焼土粒(～2mm)を少量含む。

床面中央のやや西寄りに上端楕円形のピットが見られる。深さは、45cmである。カマドは、東壁のほぼ中央に付設されている。比較的幅広の袖に挟まれた、全体に丸みのある燃焼部が残存する。燃焼面は、床面を掘りくぼめ作出されている。燃焼部の長さは69cm、横幅は39cmである。奥壁、側壁の上部は、被熱赤化している。カマド覆土は3層で、粘土を多量に、焼土小塊をかなり含む第1層は、天井部や側壁の崩落土を含む層であろう。第318図1の甕は、左袖に埋め込まれた袖甕である。

第318図2の坏は、住居跡中央やや南東寄りの床面直上から出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末期末から奈良時代初頭にかけての遺構と考えられる。

第151表 第150号住居跡出土遺物観察表(1)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考	
1	甕	口径(23.2) 底径 — 器高 [15.6]	胴部は中位にわずかな膨らみをもつ。口縁部は強く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—橙色	口縁部～胴部 上半1/3残存	
2	坏	口径(11.7) 底径 — 器高 3.5	丸底。体部は浅く、口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	角閃石・白色粒 内外—橙色	1/2残存	
法量(cm)・特徴							
3	土錘	長さ7.6、幅1.7、厚さ1.6、重さ23.58g。	胎土：白色粒。色調：にぶい黄褐色。			一部欠損	
4	土錘	長さ7.5、幅1.7、厚さ1.6、重さ20.85g。	胎土：白色粒。色調：灰黄色。			完形	
5	土錘	長さ6.8、幅1.9、厚さ1.6、重さ19.25g。	胎土：白色粒。色調：黒褐色。			完形	
6	土錘	長さ6.45、幅1.5、厚さ1.5、重さ12.88g。	胎土：白色粒・黒色粒。色調：明褐色。			完形	
7	土錘	長さ6.0、幅1.3、厚さ1.1、重さ9.23g。	胎土：白色粒。色調：黄褐色。			完形	
8	土錘	長さ5.6、幅1.5、厚さ1.2、重さ9.54g。	胎土：白色粒・黒色粒。色調：赤褐色。			完形	
9	土錘	長さ5.5、幅1.3、厚さ1.2、重さ7.81g。	胎土：白色粒・黒色粒。色調：橙色。			完形	
10	土錘	長さ4.95、幅1.6、厚さ1.3、重さ10.43g。	胎土：白色粒。色調：にぶい黄褐色。			完形	
11	土錘	長さ5.0、幅1.6、厚さ1.3、重さ10.02g。	胎土：白色粒。色調：灰黄褐色。			完形	
12	土錘	長さ4.9、幅1.5、厚さ1.5、重さ9.32g。	胎土：白色粒。色調：にぶい黄褐色。			完形	
13	土錘	長さ4.8、幅1.6、厚さ1.5、重さ9.07g。	胎土：白色粒。色調：灰黄褐色。			完形	
14	土錘	長さ4.5、幅1.6、厚さ1.3、重さ8.37g。	胎土：白色粒。色調：黒褐色。			完形	
15	土錘	長さ4.5、幅1.4、厚さ1.1、重さ7.65g。	胎土：白色粒。色調：にぶい黄褐色。			完形	
16	土錘	長さ4.1、幅1.6、厚さ1.6、重さ9.37g。	胎土：白色粒。色調：橙色。			完形	
17	ガラス小玉 鑄型	第954図60、第430表参照。					No.60
18	ガラス小玉 鑄型	第954図61、第430表参照。					No.61
19	ガラス小玉 鑄型	第955図62、第430表参照。					No.62

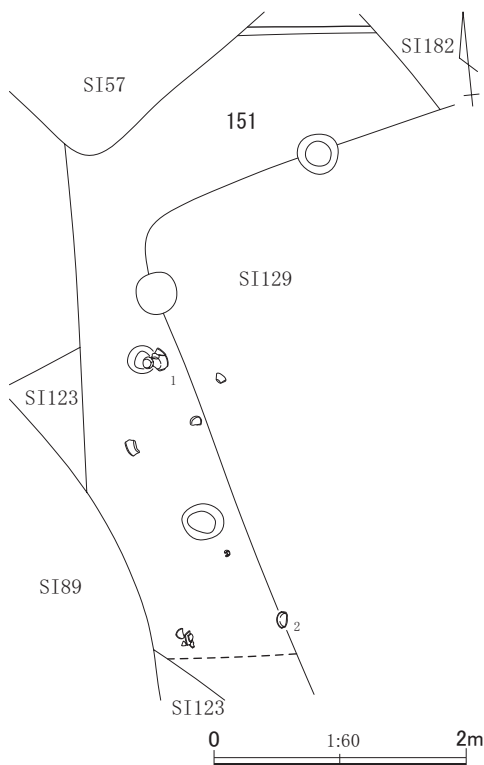


第318图 第150号住居跡出土遺物

C地点

第152表 第150号住居跡出土遺物観察表(2)

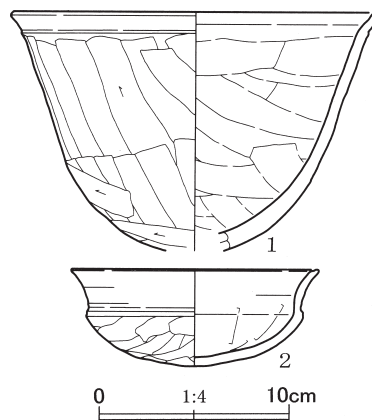
No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
20	ガラス小玉 鋳型	第955図63、第430表参照。	No.63
21	ガラス小玉 鋳型	第955図64、第430表参照。	No.64
22	ガラス小玉 鋳型	第955図65、第430表参照。	No.65
23	ガラス小玉 鋳型	第955図66、第430表参照。	No.66
24	ガラス小玉 鋳型	第955図67、第430表参照。	No.67
25	棒状 土製品	第970図67、第438表参照。	No.67
26	棒状 土製品	第970図68、第438表参照。	No.68
27	棒状 土製品	第970図69、第439表参照。	No.69
28	棒状 土製品	第970図70、第439表参照。	No.70
29	棒状 土製品	第971図71、第439表参照。	No.71
30	棒状 土製品	第971図72、第439表参照。	No.72
31	棒状 土製品	第971図73、第439表参照。	No.73
32	棒状 土製品	第971図74、第439表参照。	No.74
33	棒状 土製品	第971図75、第439表参照。	No.75
34	土製品 土玉	長さ0.9、幅1.1、孔径0.25×0.2、厚さ0.9、重さ1.10g。胎土：白色粒。色調：黒色。調整：ナデ。	完形
35	土製品 粘土塊	長さ5.3、幅4.4、厚さ2.1、重さ34.83g。胎土：白色粒・褐色粒。色調：オリーブ黒色。調整：粗いナデ。	完形
36	凹み石	長さ18.2、幅10.4、厚さ7.7、重さ635.75g。石材：角閃石安山岩。	ほぼ完形
37	銅製品	長さ6.3、幅0.9、厚さ0.6、重さ18.20g。棒状品。	完形 カマド出土



第319図 第151号住居跡平面図

第151号住居跡(第319・320図、第153表、図版36・147)

調査地点の中央、やや西寄り、P11グリッドに位置し、F群に含まれる住居跡である。第57・89・123・129・182号住居跡に切られており、床面と壁のわずかな部分を検出した住居跡である。また、第124号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。



第320図 第151号住居跡出土遺物

平面形や規模は不明である。南北方向での推定長は、床面のおおよその南限までの長さで4.83mである。床面には、凹凸が見られ、中央が部分的に硬化している。床面の中央から南側にかけて、粘土や焼土が広がっており、また、覆土にも粘土や焼土が不規則に含まれ

第153表 第151号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	小型甑	口径 (20.0) 底径 — 器高 [13.1]	口縁部は短く外反し、口唇部に平坦面をもつ。胴部は膨らみをもたない。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒・小礫 内外—橙色	口縁部～胴部 1/3残存
2	坏	口径 (13.5) 底径 — 器高 5.3	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外反する。口唇部は内側に平坦面をもち、弱い凹線がめぐる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 内外—橙色	1/2残存

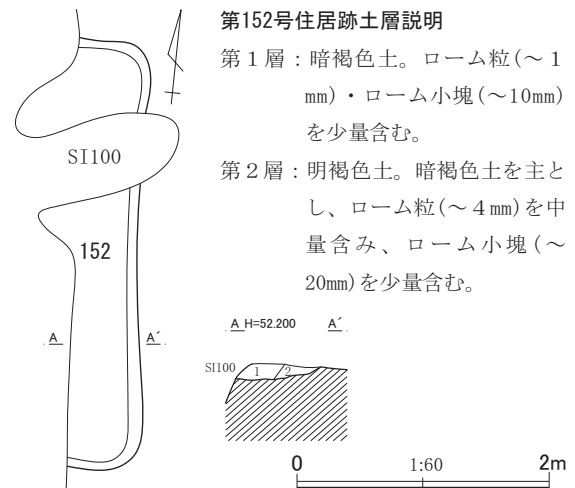
るようであった。床面で検出したピットは3個あるが、位置的に住居跡に通有のピットと断ずることができない。

第320図1の小型甑は、西壁寄り中央のピットの縁から、2の坏は、第129号住居跡との重複部分の南端の床面直上から出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期中葉から後葉前半にかけての遺構と考えられる。

第152号住居跡 (第321図、図版36)

調査地点の南縁近くの中央、Q14グリッドに位置し、I群に含まれる住居跡である。第175号住居跡を切り、第100号住居跡に切られ、壁と床面のわずかな範囲を残し壊されている。また、位置的に第158・172号住居跡と重なるが、第100号住居跡が介在し、直接の切り合い関係にはない。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

規模は、南北方向で3.30m、東西方向、中央での現存長は、53cmである。東壁はほぼ南北の方向を向いている。床面はほぼ平坦で、軽微ながらも部分的に硬化している。壁高は、10cmに満たないようである。土師器小片を主とする遺物が、覆土中より少数出土している。重複関係から見て、奈良時代後半以前の遺構である可能性が考えられる。



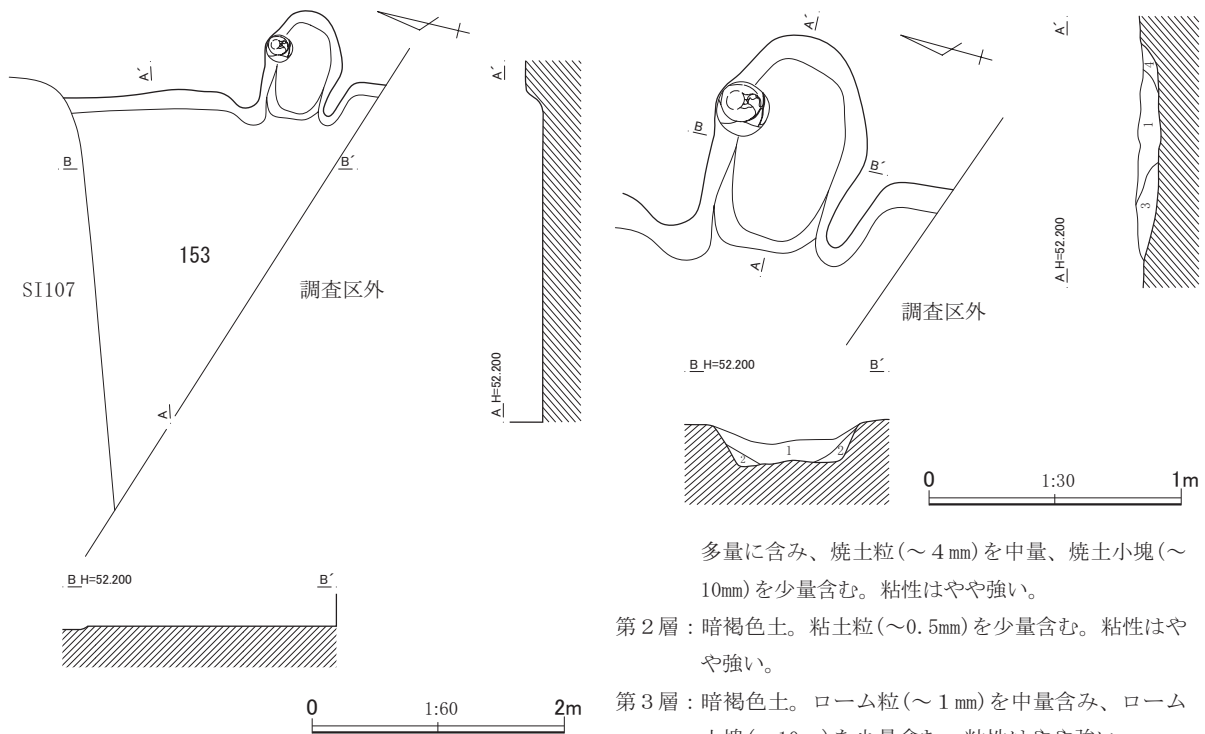
第321図 第152号住居跡平面・断面図

第153号住居跡 (第322・323図、第154表、図版36・147)

調査地点の南東隅脇の南縁沿い、S15、T15グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第107号住居跡に切られ、遺構の北西側を大きく壊されている。また、第4号溝が東西に走り抜け、南側は調査範囲外である。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

規模は、いずれも現存値になるが、主軸方向の最も残りのよい部分での長さが3.15m、北東壁の長さは2.47mである。主軸方位は、N-74°-E前後と推定される。床面はほぼ平坦で、明瞭に硬化している。壁高は、北東壁で7cmほどである。

カマドは、北東壁にやや斜行して付設されている。半島状に突き出た短い挟まれた楕円形の燃焼部が残存する。燃焼部の長さは90cm、横幅は58cmである。燃焼部は床面を盆状に掘りくぼめ作出されて



第153号住居跡カマド土層説明

第1層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～1mm)を

多量に含み、焼土粒(～4mm)を中量、焼土小塊(～10mm)を少量含む。粘性はやや強い。

第2層：暗褐色土。粘土粒(～0.5mm)を少量含む。粘性はやや強い。

第3層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を少量含む。粘性はやや強い。

第4層：暗褐色土。粘土粒(～1mm)を微量含む。粘性はやや強い。

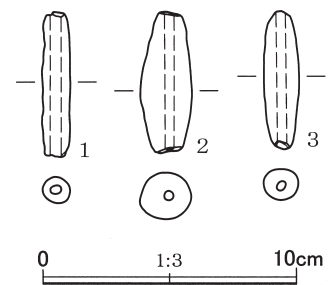
第322図 第153号住居跡平面・断面図

第154表 第153号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
1	土錘	長さ6.0、幅1.2、厚さ1.1、重さ7.39g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：橙色。	完形
2	土錘	長さ5.8、幅2.1、厚さ1.9、重さ23.66g。胎土：白色粒・褐色粒。色調：にぶい黄橙色。	完形
3	土錘	長さ5.7、幅1.5、厚さ1.3、重さ11.21g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい黄橙色。	完形

おり、燃焼面には凹凸が見られる。燃焼面、奥壁、側壁の一部が、軽微ではあるが、被熱赤化している。胴部しか残存せず、図化していないが、甕1個体が、カマド内の左側壁に接するやや浮いた位置から、倒置された状態で出土している。カマド覆土は4層で、焼土が多量に混入する第1層には、天井部や側壁の崩落土が含まれると見てよいであろう。

重複関係から見て、平安時代前期前半以前の遺構であろう。

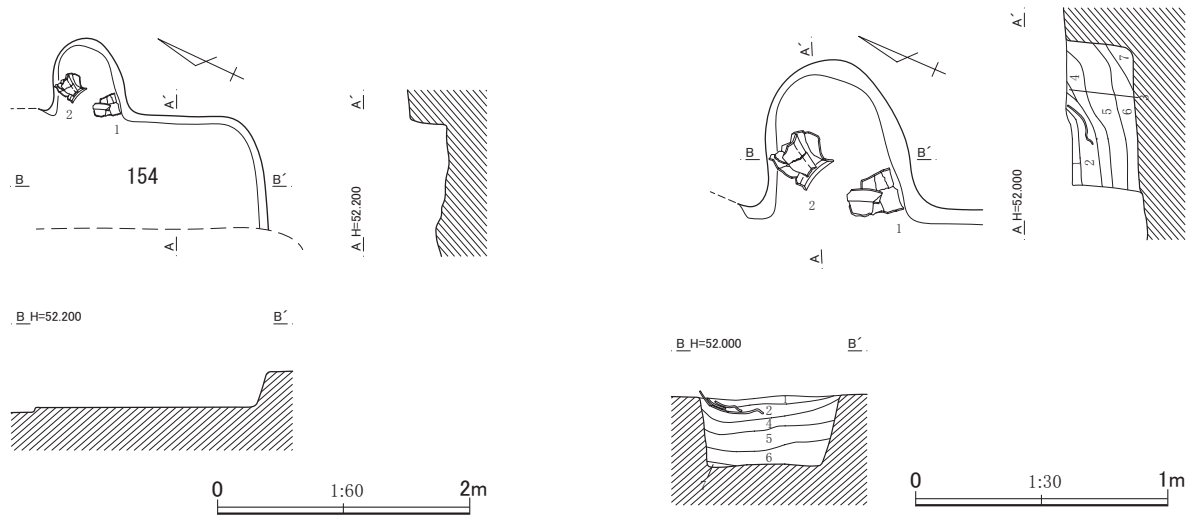


第154号住居跡 (第324・325図、第155表、図版36・37・147)

調査地点の南東部の南東隅近く、T14グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第185・198・239号住居跡を切っており、第109・130号住居跡に切られ、カマド周辺から南東隅にかけてのわずかな範囲を除く遺構の大半を壊されている。なお、位置的に第166号住居跡と重なるが、第109号住居跡が介在し、直接の切り合い関係にはない。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

規模は、いずれも現存値ということになるが、主軸方向での壁までの長さは88cm、副軸方向の最も残りのよいところでの長さは1.78m、主軸方位はN-65°-E前後と推定される。床面は所々硬化し

第323図 第151号住居跡出土遺物



第154号住居跡カマド土層説明

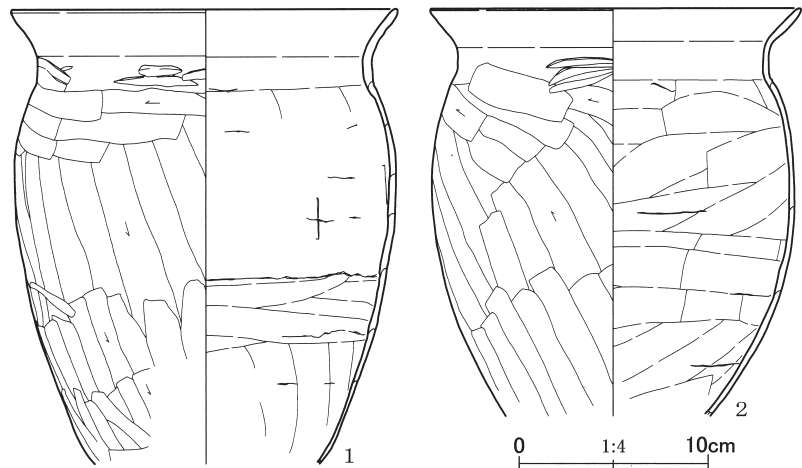
- 第1層：暗褐色土。粘土粒(～2mm)・粘土小塊(～20mm)を中量、焼土粒(～4mm)・焼土小塊(～20mm)を少量含む。
- 第2層：明赤褐色土。粘土粒(～2mm)を少量、焼土粒(～4mm)・焼土小塊(～30mm)を多量に含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・粘土粒(～2mm)を少量、焼土粒(～4mm)・焼土小塊(～30mm)を中量

- 含む。
- 第5層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・ローム小塊(～10mm)・粘土粒(～2mm)・焼土粒(～4mm)・焼土小塊(～30mm)を少量含む。
- 第6層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。
- 第7層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・ローム小塊(～30mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。

第324図 第154号住居跡平面・断面図

ている。2壁ともに壁の立ち上がりは急峻で、壁高は、北東壁で28cm、南東壁で26cmである。

カマドは、北東壁に付設されている。壁を丸く掘りくぼめて燃焼部が作出されており、燃焼面は、床面の高さと同様高さである。燃焼部の長さは62cm、横幅は54cmである。奥壁、側壁は、局所的に軽微ではあるが、被熱赤化している。カマド覆土



第325図 第154号住居跡出土遺物

第155表 第154号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 (21.2) 底径 — 器高 [25.0]	口縁部は外反する。胴部は上位が張る。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 内外—明赤褐色	口縁部～胴部 1/3残存
2	甕	口径 (20.4) 底径 — 器高 [22.3]	口縁部は直立し、上方で外傾する。胴部は上～中位が張る。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 外—橙色 内—にぶい橙色	口縁部～胴部 1/3残存

C地点

は7層で、焼土を多量に含む第2層は、天井部や側壁の崩落土を多く含む土層であろう。

第325図1・2は、カマド内の覆土上層から出土した甕である。他には、土師器小片を主とする遺物が覆土中から出土している。重複関係、出土遺物から見て、奈良時代後半の遺構と考えられる。

第155号住居跡 (第326図、図版37)

調査地点の南縁沿い中央やや西寄り、O14グリッドに位置し、I群に含まれる住居跡である。第61・88・146号住居跡に切られ、南側は調査範囲外であり、北西壁と床面の極々わずかな範囲が残存する遺構である。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

北西壁の南端は彎曲しており、あるいは住居跡の東隅にあたるのかもしれない。北西壁の残存部分の長さは、1.98m、北西-南東方向での残存部分の長さは、86cmである。床面は微妙に凸凹しており、硬化も顕著ではない。北西壁の壁高は、8cmである。覆土は3層で、壁沿いの一次的な堆積土であろう。

土師器小片を主とする遺物が覆土中から少数出土している。重複関係から見て、古墳時代後期初頭～前葉以前の遺構と考えられる。

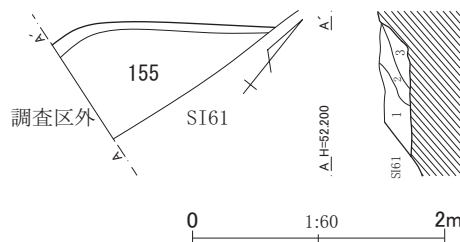
第156号住居跡 (第327～330図、第156・157表、図版37・147・148)

調査地点の中央の南縁寄り、P13、Q13グリッドに位置し、I群に含まれる住居跡である。第197号住居跡を切っており、第62号住居跡、第280号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。とくに第62号住居跡は、わずかにずれながら、本住居跡の上に造られている。また、第145号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、やや歪ながらも、方形と見てよいであろう。規模は、主軸方向で5.00m、副軸方向で4.87m、主軸方位はN-8°-Eである。床面はほぼ平坦であり、カマド前面から東壁にかけて、支柱穴を結ぶ範囲よりやや幅広の範囲が明瞭に硬化している。壁の立ち上がりは、比較的急峻で、壁高は、西壁で29cm、北壁で25cm、東壁で27cm、南壁で21cmである。

P1～P4は、支柱穴であろう。平面形は円形に近く、深さは、P1が54cm、P2が45cm、P3が51cm、P4が47cmである。左袖脇のピットは、貯蔵穴であろう。上端での平面形はレモンのような形で、長径103cm、短径は79cmである。上部が大きく開き、以下バケツ状に掘り込まれおり、深さは100cmである。ローム粒子を顕著に含む暗褐色土により埋まっている。

カマドは、西壁のほぼ中央に付設されている。幅広の袖に挟まれた縦長の燃焼部が残存する。燃焼面は、浅く掘りくぼめ造作されており、奥壁は段を有し立ち上がる。袖端を燃焼部の末端と見るなら、燃焼部の長さは100cm、横幅は45cmである。側壁、奥壁の一部が、被熱赤化している。カマド覆土は、5層に分けられた。粘土小塊や焼土小塊を多量に含む第3層は、天井部や側壁の崩落土からなる土層と思われる。第330図3・4の甕は左袖に、7の甕は右袖に、それぞれ埋め込まれていた。カマド内



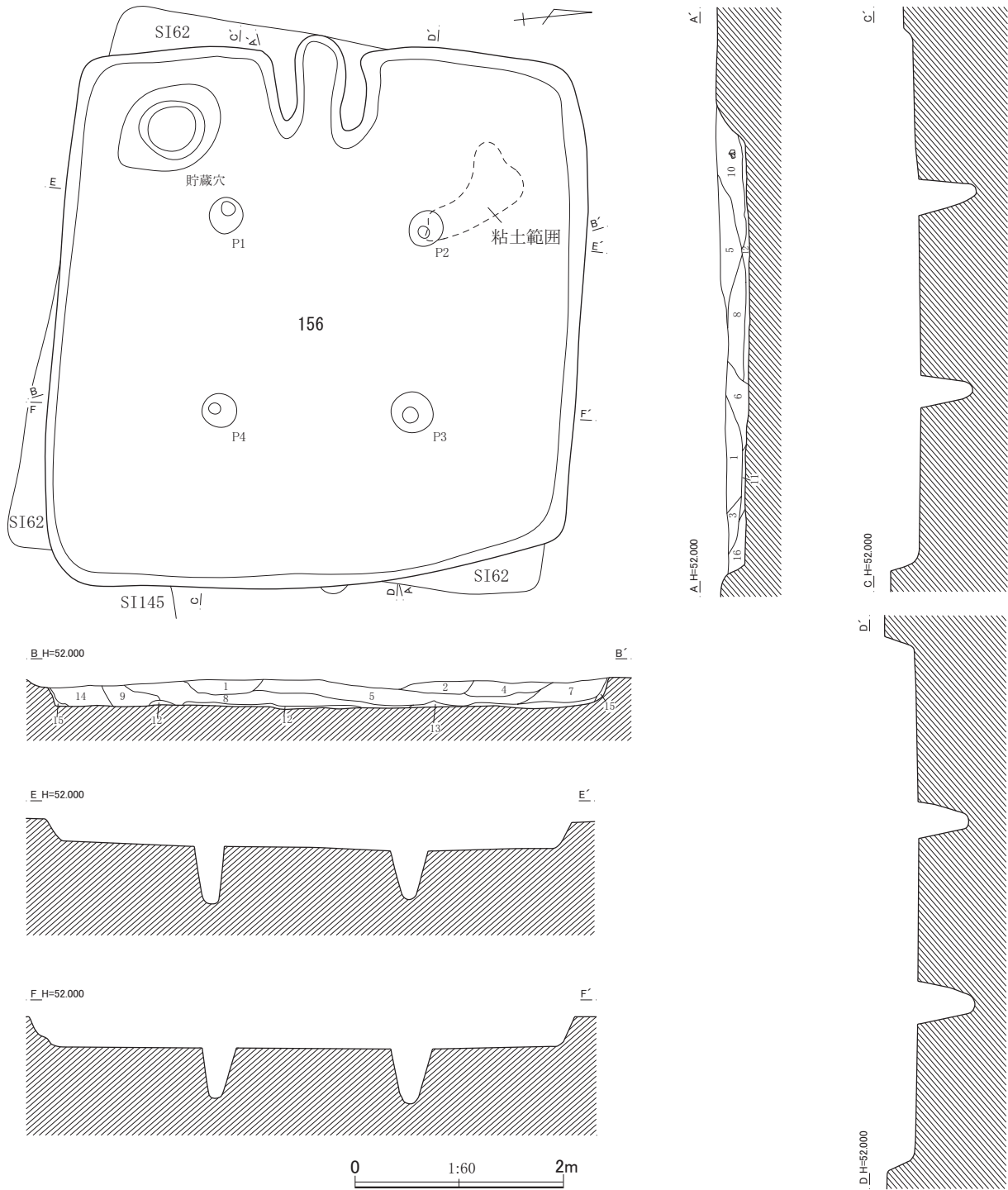
第155号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～10mm)を少量含む。

第2層：暗褐色土。ローム小塊(～15mm)を微量含む。

第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含む、ローム小塊(～40mm)を中量含む。

第326図 第155号住居跡平面・断面図

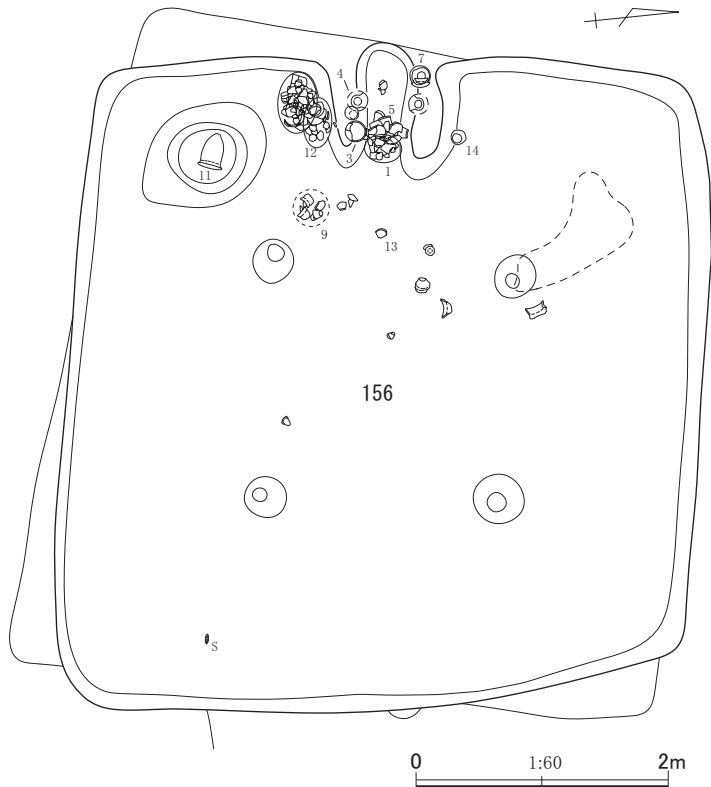


第156号住居跡土層説明(1)

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～3mm)を多量に含み、ローム小塊(～30mm)を中量、炭化物粒(～2mm)を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含み、炭化物粒(～2mm)を微量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～3mm)を中量含み、炭化物粒(～2mm)を微量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・炭化物粒(～2mm)・焼土粒(～2mm)を微量含む。

- 第5層：暗褐色土。ローム粒(～3mm)を中量含み、炭化物粒(～2mm)・焼土粒(～3mm)を少量含む。
- 第6層：暗褐色土。ローム粒(～3mm)を中量含み、炭化物粒(～2mm)・焼土粒(～3mm)を少量含む。
- 第7層：暗褐色土。ローム粒(～3mm)・粘土粒(～30mm)を少量含む。
- 第8層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・粘土粒(～3mm)・炭化物粒(～2mm)・焼土粒(～3mm)を少量含み、粘土小塊(～8cm)を中量含む。

第327図 第156号住居跡平面・断面図(1)



第156号住居跡土層説明(2)

第9層：暗褐色土。ローム粒(～3mm)を中量含み、焼土粒(～3mm)を少量、ローム小塊(～50mm)を微量含む。

第10層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・粘土粒(～3mm)・炭化物粒(～2mm)・焼土粒(～2mm)を少量含み、粘土小塊(～8cm)を中量含む。ややしまっており、粘性はやや強い。

第11層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・粘土粒(～3mm)・炭化物粒(～2mm)・焼土粒(～2mm)を少量含み、粘土小塊(～8cm)を中量含む。ややしまっており、粘性はやや強い。

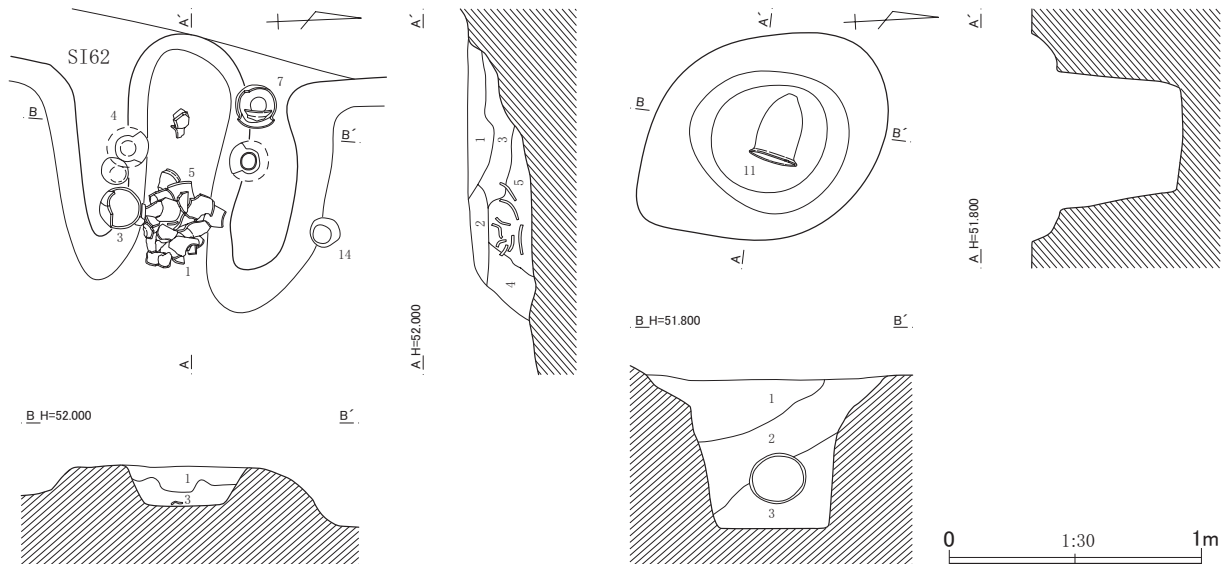
第12層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・粘土粒(～3mm)・炭化物粒(～2mm)・焼土粒(～20mm)を少量含み、粘土小塊(～8cm)を中量含む。

第13層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含み、粘土小塊(～50mm)を中量、炭化物粒(～2mm)を微量含む。ややしまっており、粘性はやや強い。

第14層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含み、ローム小塊(～30mm)・炭化物粒(～2mm)を微量含む。ややしまっており、粘性はやや強い。

第15層：暗褐色土。ローム小塊(～30mm)を多量に含む。

第16層：暗褐色土。ローム粒(～3mm)を少量含む。



第156号住居跡カマド土層説明

第1層：暗赤灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～4mm)・粘土小塊(～20mm)・焼土粒(～6mm)・焼土小塊(～30mm)を中量含む。粘性はやや強い。

第2層：暗褐色土。粘土粒(～1mm)を中量含み、粘土粒(～6mm)を少量含む。粘性はやや強い。

第3層：暗赤灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土小塊(～

10mm)・粘土小塊(～40mm)・焼土小塊(～20mm)を多量に含み、焼土小塊(～10mm)を中量含む。粘性は強い。

第4層：暗褐色土。粘土粒(～4mm)を中量含み、粘土粒(～2mm)を多量に、粘土小塊(～20mm)を少量含む。粘性はやや強い。

第5層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を少量含む。

第328図 第156号住居跡平面・断面図(2)

第156号住居跡貯蔵穴土層説明

第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を多量に含み、ローム小塊(～15mm)を微量、焼土粒(～4mm)を少量含む。粘性は強い。

第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～8mm)を中量含み、ローム小塊(～30mm)・焼土粒(～4mm)を微量含む。

第3層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含む。

第329図 第156号住居跡平面・断面図(3)

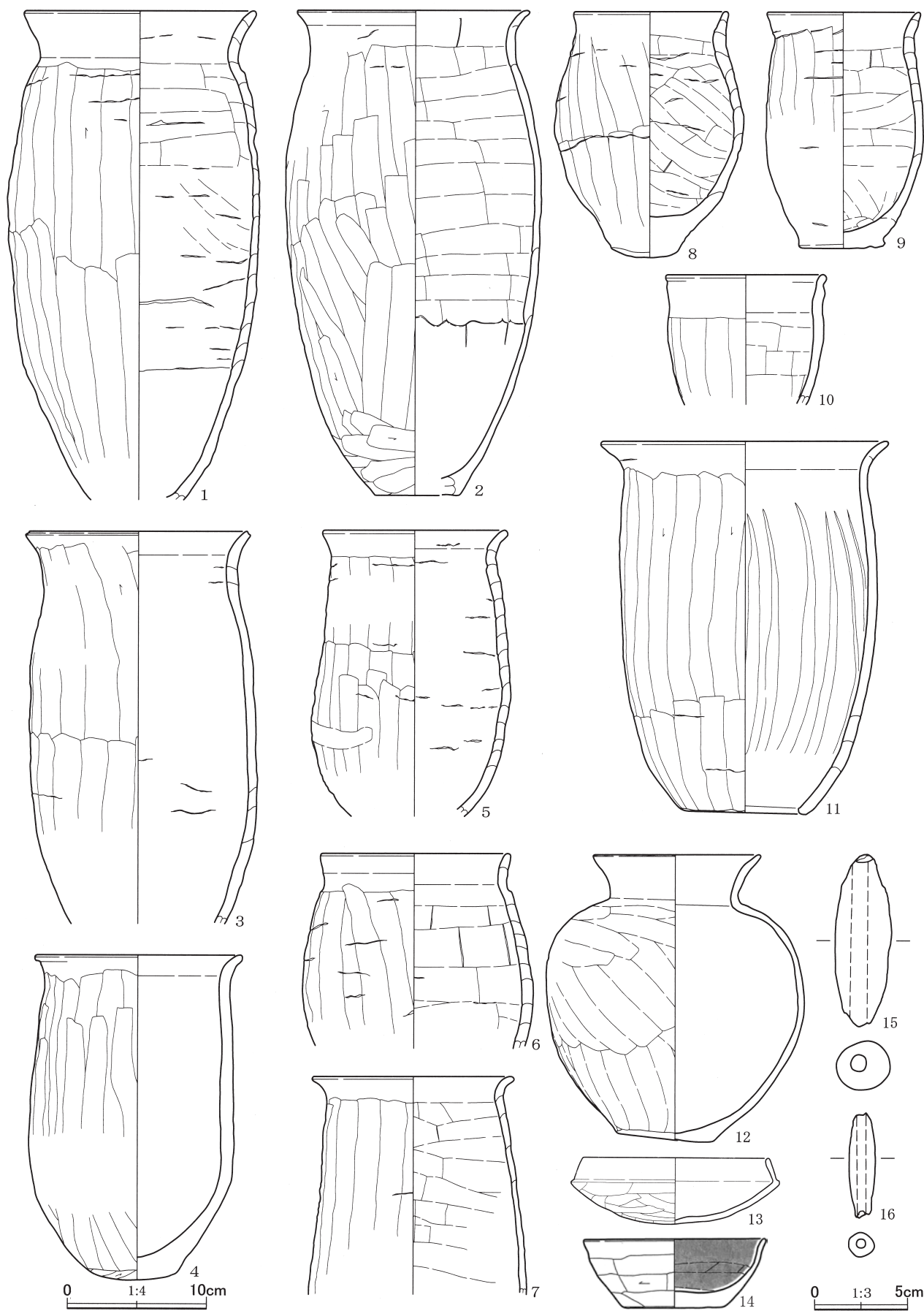
からは、他に1・5の甕が押しつぶされたような状態で出土している。

覆土は、16層に分けられた。とくにA-A'断面では、攪乱されているかのような堆積状態が見られた。また、第8・10～13層のように、粘土小塊がかなり混入する層が目立つ。第11～13層は、床面を被覆する特徴的な薄層であり、P2から北西隅にかけての床面では、粘土の広がりをも面的にとらえることができた。

第330図11は、貯蔵穴の中～下層から出土した甕である。12の壺は、カマド左袖脇から、9の小型甕、13の坏は、カマド前面から出土している。14の坏は、右袖脇のやや高い位置から出土しており、混入したものであろう。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期後葉前半の遺構と考えられる。

第156表 第156号住居跡出土遺物観察表(1)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手の特徴	調整・装飾手の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 17.2 底径 — 器高 [36.9]	口縁部は外反する。胴部は膨らみをもたない。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色 外—橙色 内—ぶい黄橙色	底部欠損
2	甕	口径 17.3 底径 (6.4) 器高 36.7	口縁部は外反する。胴部は中位にわずかな膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。底部ナデ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒・小礫 内外—橙色	胴部および口縁部・底部の一部残存
3	甕	口径 16.3 底径 — 器高 29.7	口縁部は外反する。口唇部は平坦面をもち、凹線がめぐる。胴部は膨らみをもたない。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	片岩・石英・黒色粒・褐色粒 外—赤褐色 内—明赤褐色	底部欠損 内外面ともに磨耗
4	甕	口径 15.4 底径 6.9 器高 24.4	口縁部は短く外反する。胴部は膨らみをもたない。底部は肥厚し、丸みを帯びる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	角閃石・白色粒 内外—橙色	完形
5	甕	口径 13.7 底径 — 器高 [21.6]	口縁部は外反する。胴部は膨らみをもたない。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・小礫 外—橙色 内—明赤褐色	底部欠損
6	甕	口径 14.1 底径 — 器高 [14.6]	口縁部は直立する。胴部は中位に膨らみをもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒・褐色粒 外—橙色 内—明赤褐色	口縁部～胴部上半
7	甕	口径 14.9 底径 — 器高 [15.9]	口縁部は強く外反する。胴部は膨らみをもたない。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	片岩・白色粒・黒色粒・小礫 内外—橙色	口縁部～胴部上半
8	小型甕	口径 11.3 底径 5.0 器高 18.5	口縁部は外反する。胴部は中位に膨らみをもつ。底部は肥厚し、丸みを帯びる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。底部ナデ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	片岩・白色粒・黒色粒・褐色粒 内外—橙色	完形
9	小型甕	口径 11.3 底径 6.5 器高 17.9	口縁部は外反する。胴部は膨らみをもたない。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 内外—ぶい橙色	口縁部～胴部1/2欠損
10	小型甕	口径 (11.7) 底径 — 器高 [9.7]	口縁部は直立し、上端で外屈する。胴部は膨らみをもたない。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・小礫 内外—ぶい褐色	口縁部～胴部3/4残存



第330图 第156号住居跡出土遺物

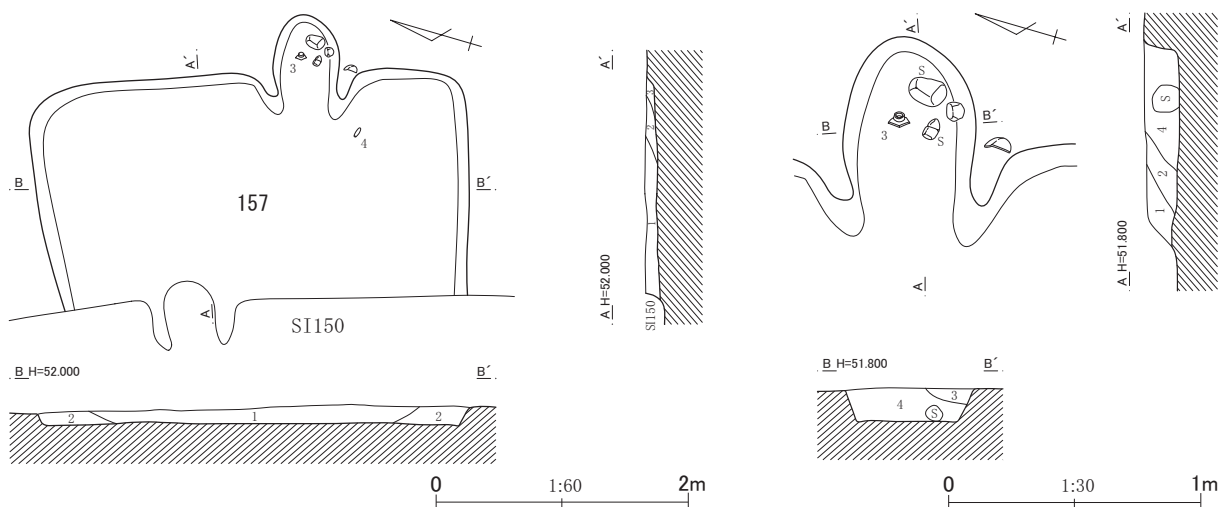
第157表 第156号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
11	甌	口径 21.4 底径 9.2 器高 28.2	口縁部は外反する。胴部は膨らみをもたない。底部は筒抜け。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ後ミガキ、端部ヘラケズリ。	石英・角閃石・白色粒 内外-橙色	口縁部1/3欠損
12	壺	口径 12.4 底径 7.3 器高 21.6	口縁部は外反する。胴部は中位に膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。底部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部~底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒・褐色粒 内外-橙色	一部欠損
13	坏	口径 (13.4) 底径 — 器高 4.8	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって内傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部~体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒 外-灰黄褐色 内-にぶい黄橙色	1/3残存
14	坏	口径 (13.7) 底径 7.4 器高 5.1	平底で厚い。体部は直線的に開く。口縁部はわずかに外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。底部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。黒色処理。	白色粒・角閃石 外-にぶい赤褐色 内-黒色	口縁部~体部1/2欠損
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
15	土錘	長さ9.8、幅3.1、厚さ2.8、重さ69.21g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：明赤褐色。				完形
16	土錘	長さ5.9、幅1.5、厚さ1.4、重さ10.88g。胎土：白色粒。色調：橙色。				完形

第157号住居跡(第331・332図、第158表、図版38・148・149)

調査地点の南東部の中央、若干南寄り、S13グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第221・237号住居跡を切っており、第150号住居跡に切られ、遺構の西半を大きく壊されている。また、第238・256号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、方形、ないしは長方形と見られる。規模は、副軸方向で3.32m、主軸方向の現存長は5.27m、



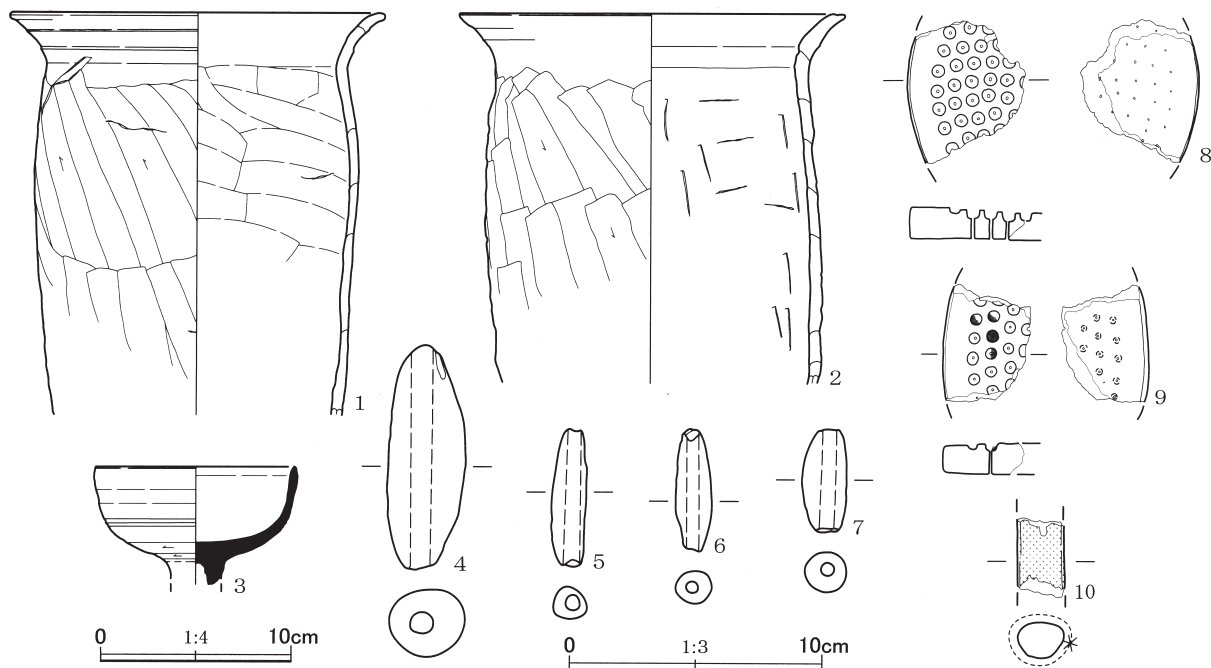
第157号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・粘土粒(～2mm)・炭化物粒(～5mm)を少量含み、粘土小塊(～5mm)を微量、焼土粒(～3mm)を多量に含む。ややしまっており、粘性はやや強い。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・粘土粒(～2mm)・焼土粒(～2mm)を少量含む。粘性はやや強い。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含み、粘土粒(～2mm)を多量に含む。粘性はやや強い。

第157号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を微量、粘土粒(～8mm)を中量含む。粘性はやや強い。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。粘土粒(～1mm)・焼土粒(～4mm)を中量含む。粘性はやや強い。
- 第4層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～6mm)・粘土小塊(～10mm)・焼土粒(～4mm)を中量含み、焼土小塊(～20mm)を少量含む。粘性はやや強い。

第331図 第157号住居跡平面・断面図



第332図 第157号住居跡出土遺物

第158表 第157号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 20.4 底径 — 器高 [22.2]	口縁部は外反し、弱い段を2段有する。胴部は膨らみをもたない。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	石英・角閃石・白色粒 内外—橙色	口縁部～胴部上半
2	甕	口径 21.2 底径 — 器高 [20.4]	胴部は膨らみをもたない。口縁部は外反する。口唇部は平坦面をもち、凹線がめぐる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	片岩・石英・白色粒・褐色粒 外—橙色 内—にぶい黄橙色	口縁部～胴部上半
3	須恵器 高 坏	口径 (10.9) 底径 — 器高 [6.5]	丸みをもつ坏部から口縁部は短く立ち上がる。ロクロ成形。	外面—ロクロナデ。坏部中位カキメ、下位回転ヘラケズリ。脚貼付時周縁ナデ。内面—ロクロナデ。	白色粒 内外—灰色	坏部2/3残存 還元焰焼成 坏部内底面に自然釉
法量(cm)・特徴						
4	土錘	長さ9.3、幅3.2、厚さ2.8、重さ80.09g。	胎土：白色粒・黒色粒。色調：橙色。		完形	
5	土錘	長さ5.7、幅1.4、厚さ1.4、重さ9.63g。	胎土：白色粒・褐色粒。色調：にぶい褐色。		完形	
6	土錘	長さ5.1、幅1.0、厚さ1.3、重さ9.37g。	胎土：白色粒。色調：にぶい黄橙色。		完形	
7	土錘	長さ4.3、幅1.7、厚さ1.7、重さ13.30g。	胎土：白色粒。色調：明赤褐色。		完形	
8	ガラス小玉 鑄型	第955図68、第430表参照。				No.68
9	ガラス小玉 鑄型	第955図69、第430表参照。				No.69
10	棒状 土製品	第971図76、第439表参照。				No.76

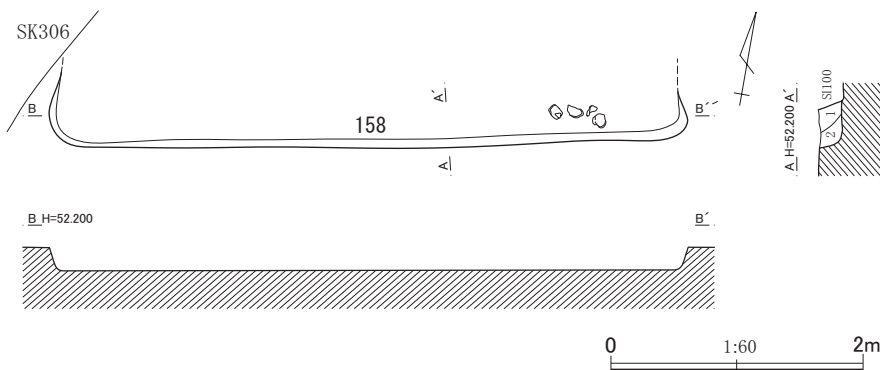
主軸方位はN-72°-Eである。床面は、カマドの左袖脇など部分的に顕著に硬化しているが、全体に硬化は軽微である。壁は残り具合が悪く、壁高は、東壁で7cm、南壁で15cm、北壁8cmである。

カマドは、東壁の中央よりやや南東隅に寄った位置に付設されている。細い短小な袖に挟まれた丸みのある燃烧部が残存する。焚口側に微妙な段差を有するものの、燃烧面はほぼ平坦である。袖端を燃烧部の末端とするなら、燃烧部の長さは78cm、横幅は51cmである。奥壁、側壁の上部は、明瞭に被熱赤化している。カマド覆土は4層で、粘土や焼土をかなり含む第3・4層は、天井部や側壁の崩落

土を含むようである。

覆土は、暗褐色土を主とする3層で、カマド周辺に粘土が分散するだけでなく、覆土全体に粘土や焼土が混入していた。

第332図3の須恵器無蓋高坏は、カマド内の上～中層から破片化した状態で出土している。カマド右袖先端脇の床面直上からは、4の大型土錘が出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期後葉後半の遺構と考えられる。



第158号住居跡土層説明

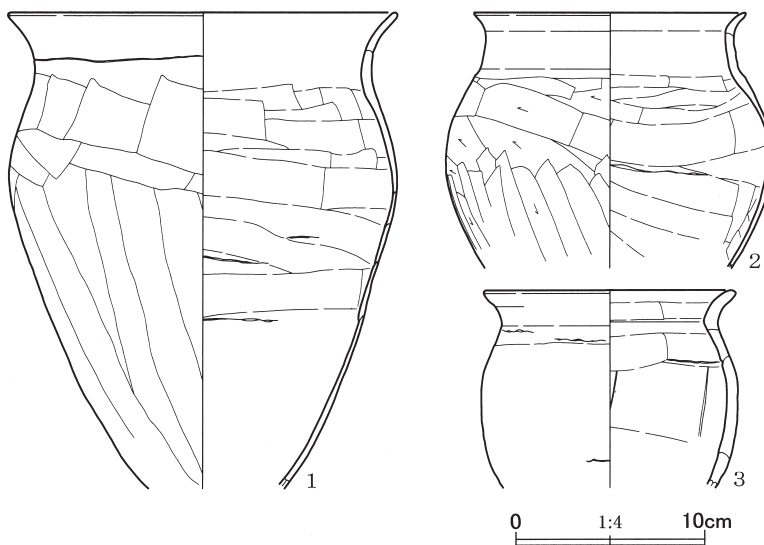
第1層：暗褐色土。ローム粒（～6mm）を少量含む。

第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊（～10mm）を中量含む、ローム小塊（～20mm）を少量含む。

第333図 第158号住居跡平面・断面図

第158号住居跡（第333・334図、第159表、図版38・149）

調査地点の南縁近くのほぼ中央、P14、Q14グリッドに位置し、I群に含まれる住居跡である。第175・187・194号住居跡を切っており、第100号住居跡、第306号土坑に切られ、南壁周辺が細長く残るのみである。なお、第152号住居跡とも重複する位置にあるが、第100号住居跡が介在し、直接切り合わない。確認面は、黄褐色のローム層上面である。



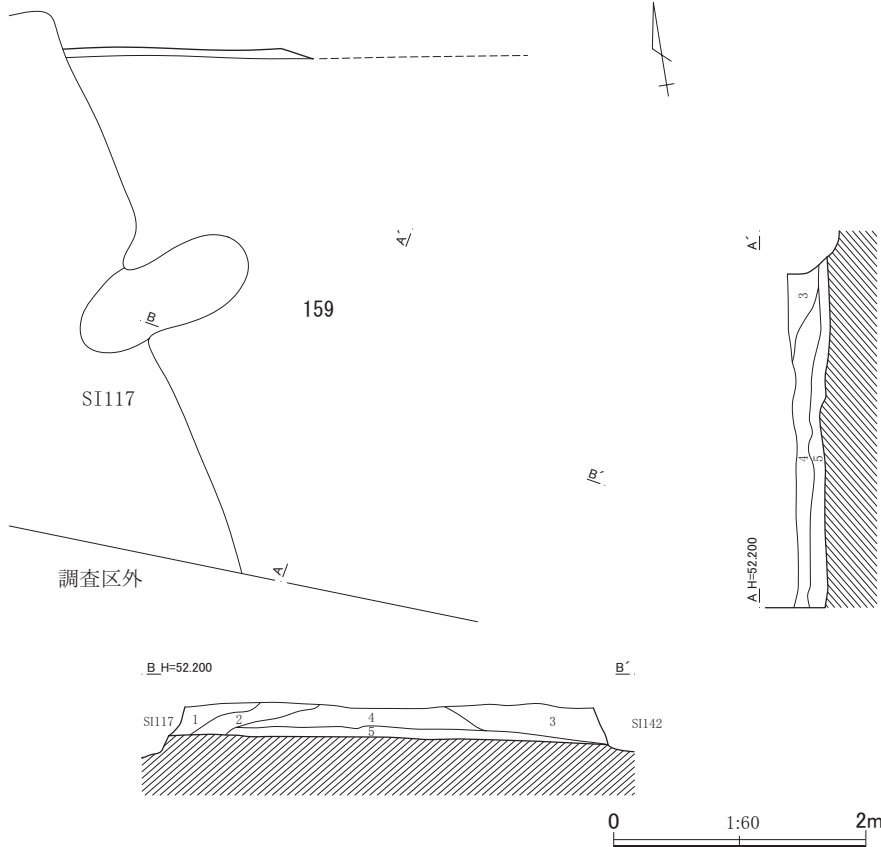
第334図 第158号住居跡出土遺物

第159表 第158号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 21.2 底径 — 器高 [26.2]	口縁部は外反する。胴部は上位が張る。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—橙色	口縁部～胴部 3/4残存
2	小型甕	口径 (15.0) 底径 — 器高 [14.0]	口縁部は内傾気味に立ち上がり、上端で強く外反する。胴部は中位が張る。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	石英・白色粒 外—にぶい褐色 内—明赤褐色	口縁部～胴部 1/4残存
3	小型甕	口径 (13.8) 底径 — 器高 [10.9]	口縁部は外反する。胴部は中位に膨らみをもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—にぶい赤褐色	口縁部～胴部 1/3残存

C地点

規模は、東西方向で4.91m、南北方向の残りのよい部分の幅は、49cmである。床面はほぼ平坦で、硬化は軽微である。壁高は、西・南壁で16cm、東壁で19cmである。第334図1～3の甕の破片の一部は、南西隅寄りの覆土中から出土しているが、出土状態に関して、個体識別がうまくできなかった。重複関係、出土遺物から見て、奈良時代の遺構と考えられる。



第159号住居跡土層説明

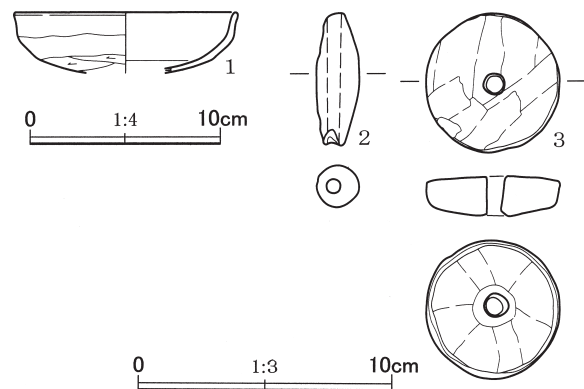
- 第1層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～5mm)を少量含み、焼土小塊(～10mm)を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)を中量含み、ローム小塊(～30mm)を少量含む。
- 第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)を少量含み、焼土小塊(～10mm)を中量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～8mm)・ローム小塊(～15mm)・焼土小塊(～10mm)を少量含む。
- 第5層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)・ローム小塊(～30mm)を少量含む。

第335図 第159号住居跡平面・断面図

第159号住居跡 (第335・336図、第160表、図版149)

調査地点の南縁沿いのほぼ中央、P15、Q15グリッドに位置し、I群に含まれる住居跡である。第173・174号住居跡を切っており、第117号住居跡に切られ、壁が残るのは、北壁の一部である。また、第78・142・147号住居跡と重複する。なお、南側の一部は、調査範囲外である。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

規模は、いずれも現存値、残存値になるが、南北方向で4.25m、東西方向で3.83mである。床面中央は、地山のロームをそのまま床面として利用している。北壁の壁高は、16cmである。

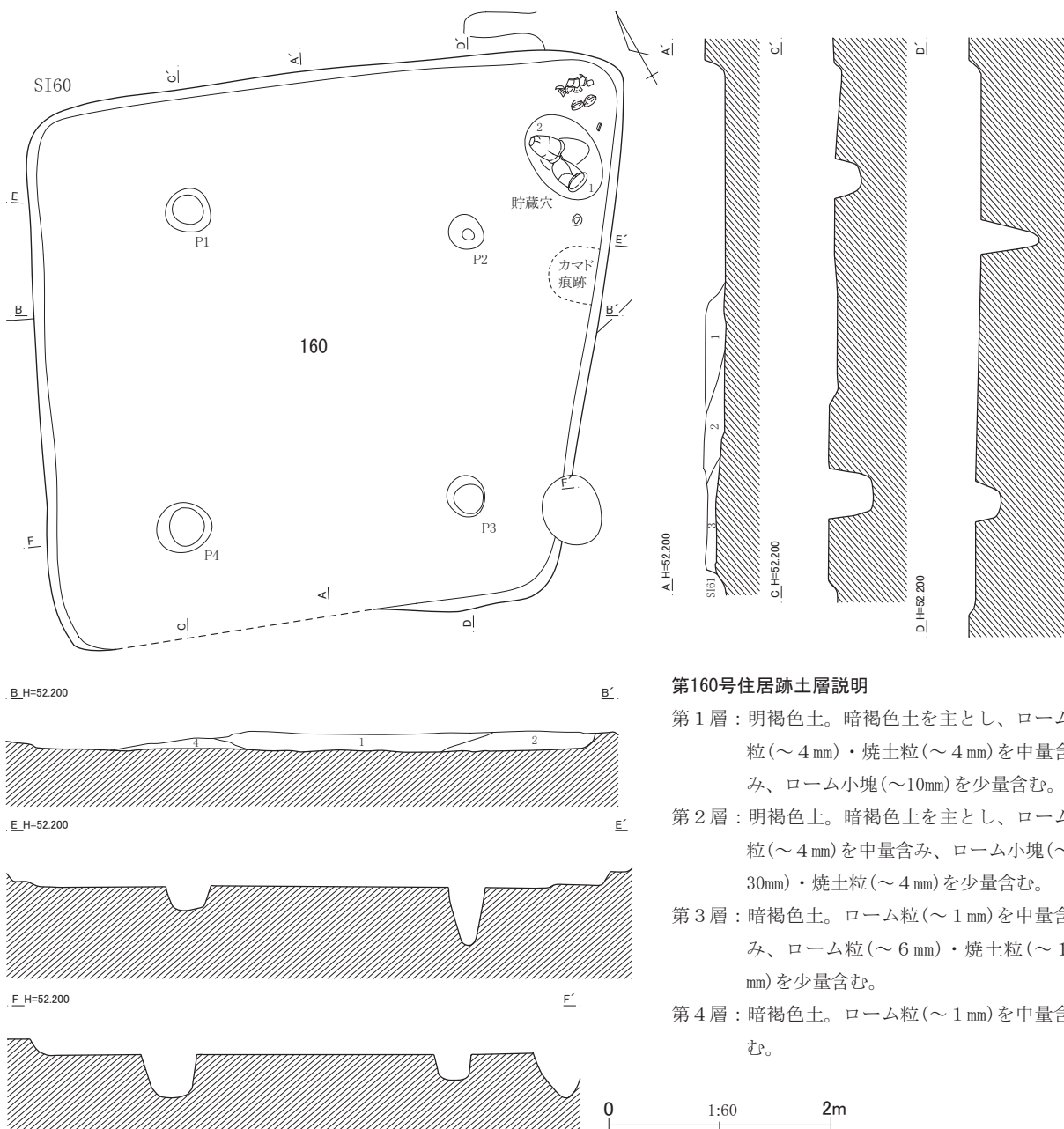


第336図 第159号住居跡出土遺物

第160表 第159号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 (12.1) 底径 — 器高 [3.3]	体部は内彎する。口縁部は外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ナデ後、下半ヘラケズリ。内面—口縁部〜体部ヨコナデ。	白色粒・黒色粒 内外—橙色	1/2残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
2	土錘	長さ5.5、幅1.8、厚さ1.8、重さ13.23g。胎土：白色粒。色調：橙色。				完形
3	土製品 紡錘車	上面径5.5、下面径5.2、孔径0.9×0.8、厚さ1.7、重さ58.19g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい黄褐色。調整：ナデ。				完形

覆土は、暗褐色土を主とする5層で、第1・3・4層は、焼土小塊がかなり目立つ土層である。重複関係、出土遺物から見て、奈良時代の遺構と考えられる。



第160号住居跡土層説明

- 第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)・焼土粒(～4mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を少量含む。
- 第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を中量含み、ローム小塊(～30mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を中量含み、ローム粒(～6mm)・焼土粒(～1mm)を少量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を中量含む。

第337図 第160号住居跡平面・断面図(1)

C地点

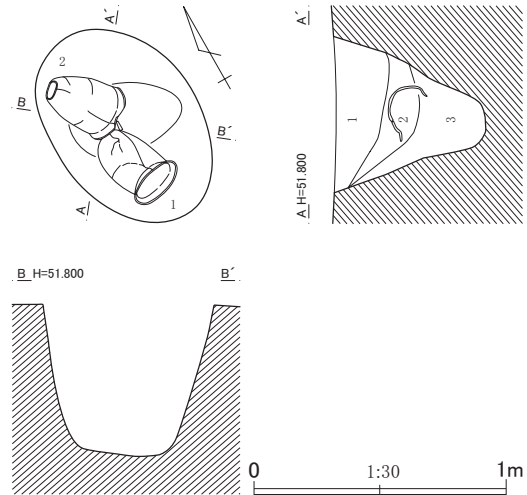
第160号住居跡（第337～339図、第161表、図版38・149）

調査地点の南縁近くの中央、若干西寄り、O13・14、P13・14グリッドに位置し、I群に含まれる住居跡である。第178・186・191・203・263号住居跡を切り、それら住居跡の上部に造られている。第60・88・144号住居跡に切られ、第61号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、菱形、凧形とも見えるが、一応方形と見ておきたい。カマドは検出できなかったが、南東壁際、貯蔵穴の直ぐ脇に、被熱した粘土がリング状に半円をなし広がる部分があり、あるいはカマドの痕跡とも考えられる。図化できなかったが、この部分にカマドがあったとすれば、南東－北西方向に主軸があることになる。この方向、南東－北西方向を主軸方向とするなら、規模は、主軸方向で4.93m、副軸方向で4.80m、主軸方位はS-66°-Eである。

床面はほぼ平坦であり、硬化は顕著ではない。壁の立ち上がりは、比較的ゆるやかで、壁高は、南東壁で14cm、南西壁で8cm、北西壁で5cm、北東壁で18cmである。

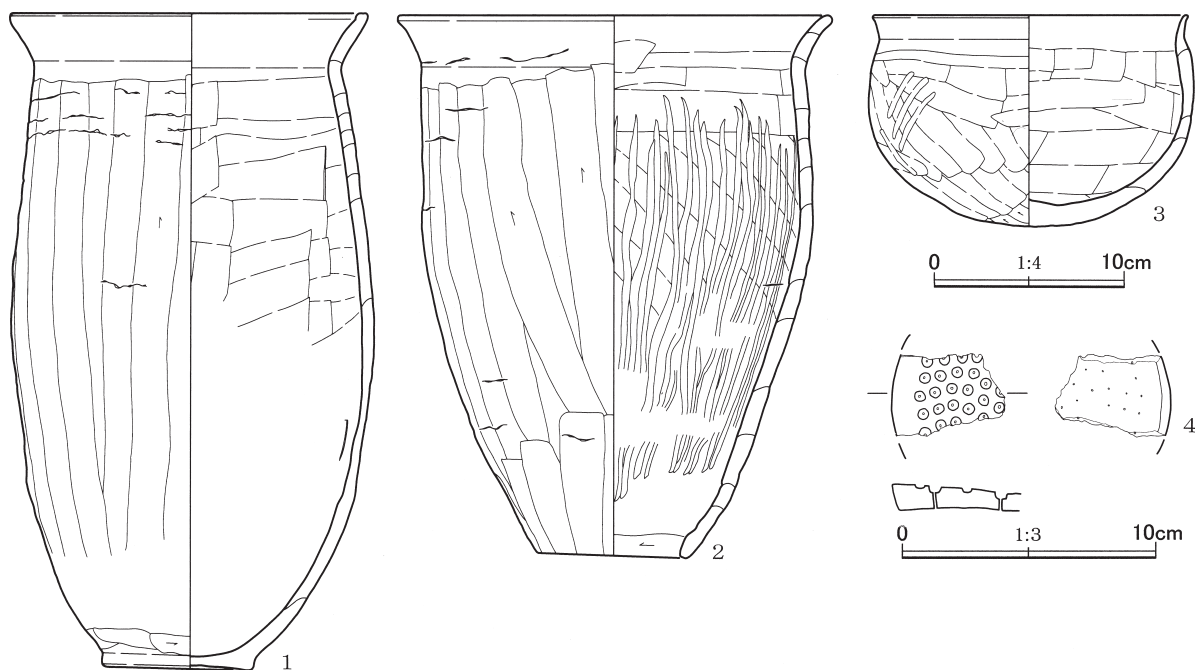
P1～P4は、支柱穴と思われるピットである。上端での平面形は、いずれもやや不整な円形、楕円形で、深さは、P1が22cm、P2が51cm、P3が23cm、P4が38cmである。東隅近くのピット、あ



第160号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～3mm)・焼土粒(～3mm)を少量含み、炭化物粒(～2mm)を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・焼土粒(～2mm)を少量含む。

第338図 第160号住居跡平面・断面図(2)



第339図 第160号住居跡出土遺物

第161表 第160号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 19.4 底径 8.3 器高 34.5	口縁部は外反し、口唇部に平坦面をもつ。胴部は中～下位にわずかな膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。底部ナデ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	片岩・白色粒・褐色粒 外－にぶい黄褐色 内－にぶい橙色	ほぼ完形
2	甗	口径 23.7 底径 8.1 器高 29.9	口縁部は外反する。胴部は膨らみをもたない。底部は筒抜け。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ後ミガキ、端部ヘラケズリ。	片岩・白色粒・黒色粒 内外－橙色	ほぼ完形
3	鉢	口径 17.2 底径 — 器高 11.6	丸底。体部は中位が張る。口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外－橙色	2/3残存
4	ガラス小玉 鑄型	第955図70、第430表参照。				No.70

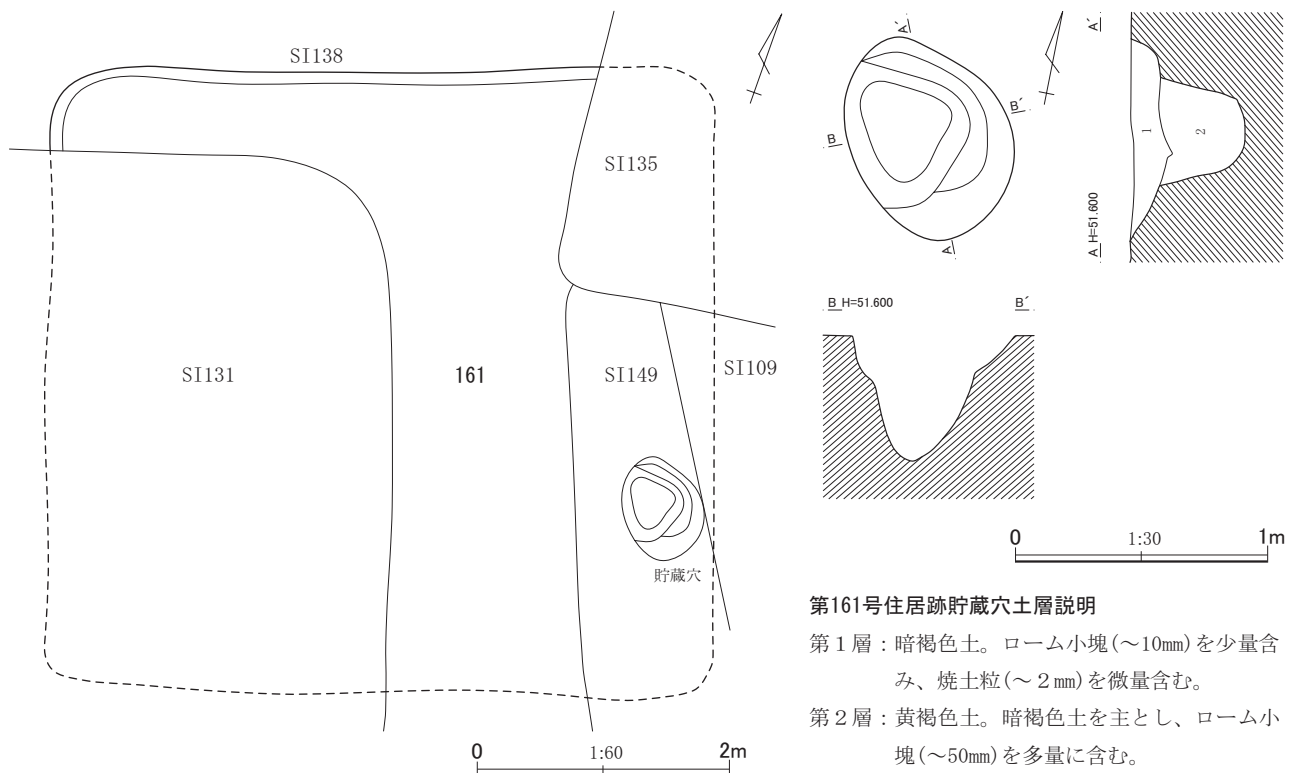
るいは土坑は、貯蔵穴であろう。上端での平面形は楕円形で、長軸長は81cm、短軸長は53cm、深さは59cmである。覆土は、暗褐色土を主とする3層で、自然に流入したかのような堆積状態であった。

南東壁の中央、やや東隅寄りには、U字状に粘土あるいは硬化したロームの分布する部分が見られた。焼土が見られないため問題も残るが、カマドの残骸の可能性が考えられる。

第339図1・2は、貯蔵穴の中～下層から出土した長胴甕と甗である。編物石かと思われる楕円礫が、貯蔵穴と東隅の間から出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期後葉前半の遺構と考えられる。

第161号住居跡（第340・341図、第162表、図版39・149）

調査地点の南東隅近くの、南縁そば、S14・15グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。



第340図 第161号住居跡平面・断面図

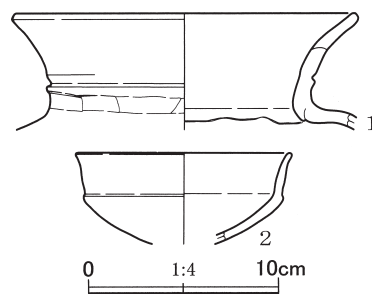
C地点

第109・131・135・138・149号住居跡に切られ、遺構の大半を壊されている。また、第188号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、方形、あるいは長方形と推定できる。規模は、北西－南東方向での床面残存範囲の長さは、4.70m、北東－南西方向での床面の残存長は、4.03mである。北西壁の指す方位は、N-70°-Eである。床面にはかなり凹凸が見られ、硬化は顕著ではない。

南東半で検出したピットは、貯蔵穴であろうか。上端での平面形は、不整な楕円形で、長軸長は79cm、短軸長は66cmである。中段に段を有し、底面に向かってすぼまるように掘り込まれている。深さは42cmである。覆土は2層で、ローム小塊を多量に含む第2層は、埋め戻された土と思われる。

重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期中葉の遺構であろう。



第341図 第161号住居跡
出土遺物

第162表 第161号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	壺	口径 18.6 底径 — 器高 [6.4]	口縁部は外反し、下位に段を有する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。頸部ヘラナデ。内面－口縁部ヨコナデ。頸部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外－橙色	口縁部～頸部
2	坏	口径 (11.7) 底径 — 器高 [5.0]	口縁部は体部との境に弱い稜をもって外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部磨耗により不明瞭。内面－口縁部～体部ヨコナデ。	白色粒・黒色粒 内外－橙色	1/3残存

第162号住居跡 (第342～344図、第163～165表、図版39・150)

調査地点の中央、若干南東寄り、R12、S12グリッドに位置し、F群に含まれる住居跡である。第184・209号住居跡を切っており、第86・180号住居跡、第300号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。また、第318号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、方形と見てよいであろう。規模は、主軸方向で6.28m、副軸方向で6.35m、主軸方位はN-50°-Eである。床面には微妙な凹凸があり、壁際を除いて、かなりむらがあるが、全的に硬化している。覆土がわずかに残るのみであり、壁高は、北東壁で13cm、南東壁で9cm、南西壁で11cmである。

P1～P4は、支柱穴であろう。上端での平面形は、やや不整な円形、楕円形で、深さは、P1が35cm、P2が44cm、P3が31cm、P4が42cmである。東隅脇の北東壁沿いのピットは、貯蔵穴である。上端での平面形は、やや歪な楕円形で、長軸長は91cm、短軸長は79cmである。中段に段を有し、以下バケツ状に掘り込まれており、丸みの強い底面に至る。深さは52cmである。

カマドは、北東壁に付設されている。推定される平面形からすれば、かなり東隅に偏した位置になるようである。低平で幅広の両袖に挟まれた長楕円形の燃焼部が残存する。燃焼面は、床面よりやや高くなっている。袖端を燃焼部の末端とするなら、燃焼部の長さは91cm、横幅は42cmである。奥壁、側壁、燃焼面は、局所的に被熱赤化している。カマド覆土は3層で、第2層には、焼土が顕著に含まれる。

覆土は、8層に分けられた。全体に焼土や炭化物を含む層が目立ち、B-B'断面の南東壁際には、流入、投棄されたのか、灰白色粘土からなる第8層が堆積していた。

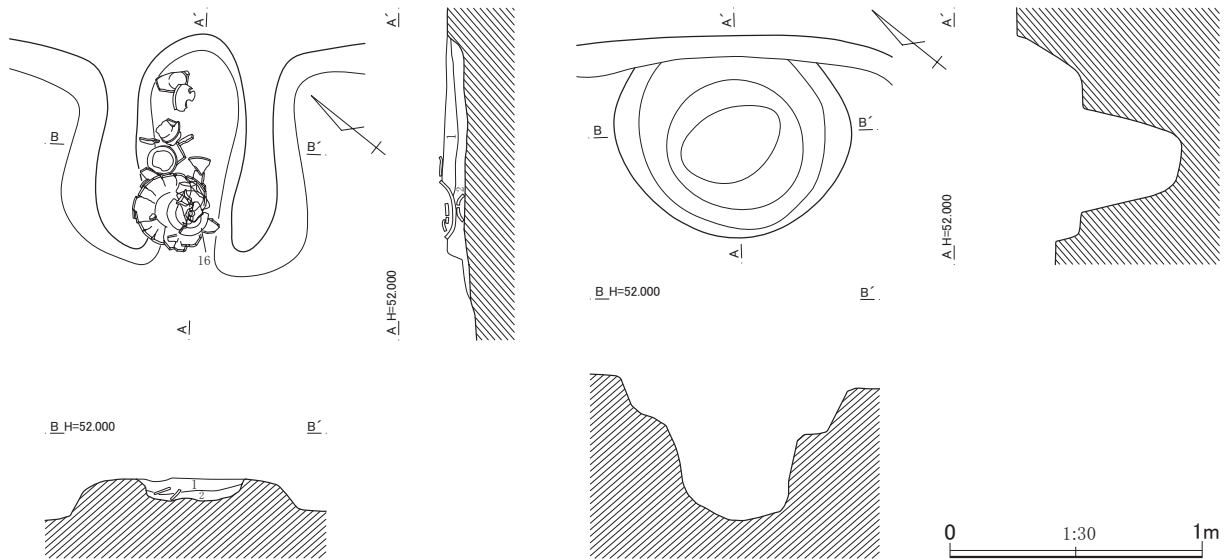


第162号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含み、炭化物粒(～2mm)・焼土粒(～2mm)を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム小塊(～30mm)を少量含み、焼土粒(～2mm)を微量含む。ややしまっている。
- 第3層：暗褐色土。ローム小塊(～30mm)を中量含み、焼土粒(～2mm)を微量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～3mm)を少量含み、ローム小塊(～20mm)・炭化物粒(～2mm)を微量含む。

- 第5層：暗褐色土。ローム小塊(～30mm)を多量に含む。
- 第6層：暗褐色土。粘土粒(～5mm)を中量含み、焼土粒(～2mm)を微量含む。粘性はやや強い。
- 第7層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・焼土粒(～2mm)を微量含み、焼土小塊(～20mm)を中量含む。粘性はやや強い。
- 第8層：灰白色粘土。ローム粒(～1mm)を微量含む。粘性は強い。

第342図 第162号住居跡平面・断面図(1)



第162号住居跡カマド土層説明

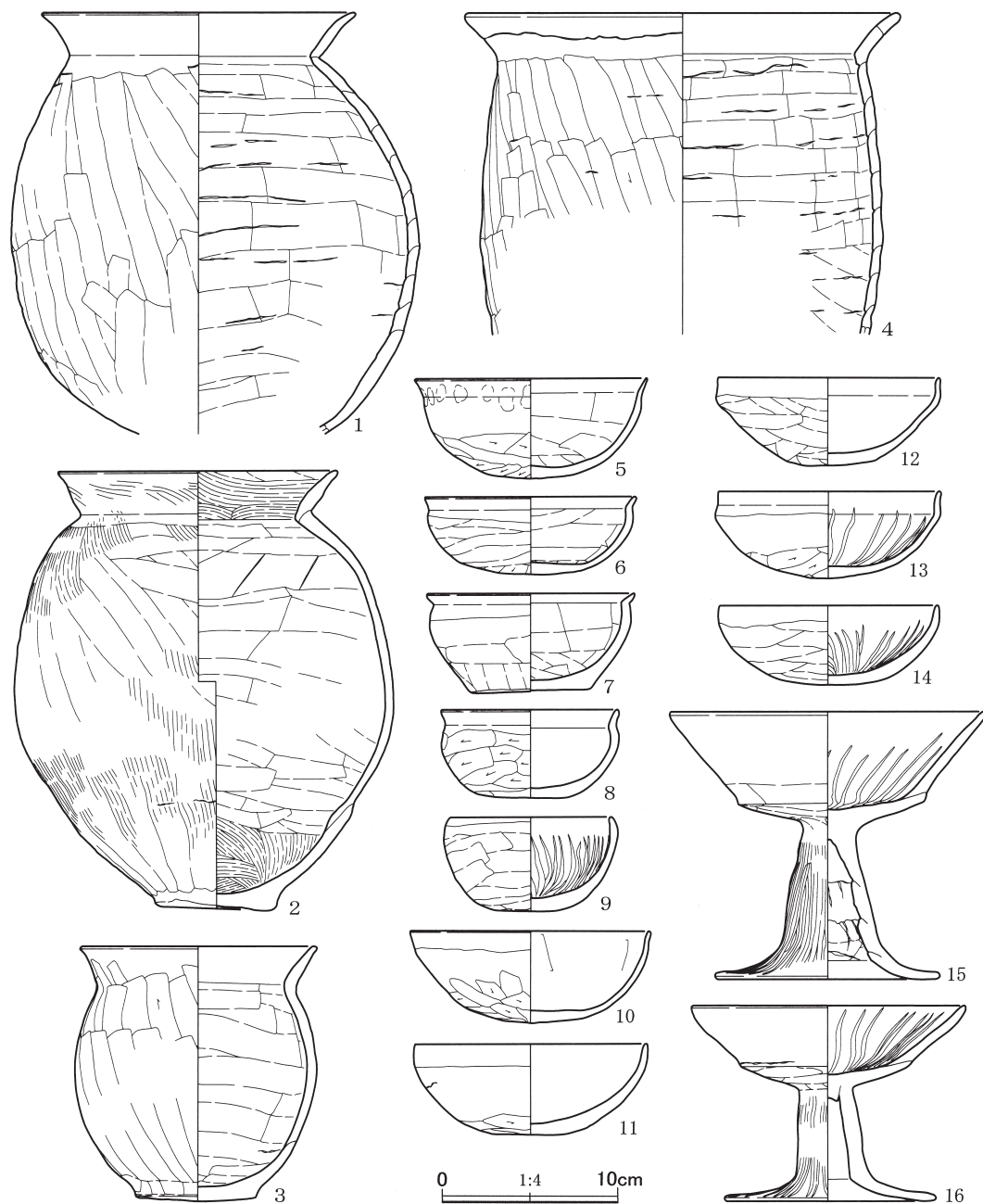
第1層：暗褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含み、粘土粒（～3mm）・炭化物粒（～2mm）・焼土粒（～2mm）を微量含む。粘性はやや強い。

第2層：暗褐色土。ローム粒（～2mm）を微量含み、焼土粒（～3mm）を中量含む。

第343図 第162号住居跡平面・断面図（2）

第163表 第162号住居跡出土遺物観察表（1）

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 18.4 底径 — 器高 [25.0]	口縁部は外反する。胴部は中位が張る。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	片岩・白色粒・黒色粒 外—浅黄褐色 内—にぶい黄褐色	口縁部～胴部4/5残存
2	甕	口径 (16.5) 底径 6.7 器高 26.1	口縁部は外傾する。胴部は中位に膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部木口状工具によるナデ。底部ヘラナデ。内面—口縁部木口状工具によるナデ。胴部上～中位ヘラナデ。胴部下位～底部木口状工具によるナデ。	石英・白色粒・黒色粒 外—暗赤褐色 内—橙色	2/3残存
3	小型甕	口径 13.6 底径 7.1 器高 15.1	口縁部は外傾する。胴部は中位に膨らみをもつ。丸みを帯びた平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。胴部下端～底部ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒・褐色粒 内外—明黄褐色	口縁部～胴部一部欠損
4	甗	口径 (25.5) 底径 — 器高 [19.1]	口縁部は外反する。胴部は膨らみをもたない。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	片岩・白色粒・褐色粒 内外—にぶい橙色	口縁部～胴部上半1/2残存
5	坏	口径 13.8 底径 — 器高 6.0	丸底。体部は丸みをもつ。口縁部は薄く、短く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ、指頭圧痕。体部ナデ。体部中位～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 外—にぶい褐色 内—明赤褐色	口縁部～体部1/3欠損
6	坏	口径 12.4 底径 — 器高 4.6	丸底。体部は丸みをもつ。口縁部は短く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—明赤褐色	口縁部一部欠損
7	鉢	口径 12.3 底径 7.1 器高 5.9	平底。体部は丸みをもつ。口縁部は短く外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ナデ。体部中位～底部ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒 内外—にぶい赤褐色	口縁部～体部1/3欠損
8	鉢	口径 10.4 底径 — 器高 5.2	平底気味。体部は丸みをもつ。口縁部は短く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒 外—明赤褐色 内—にぶい赤褐色	ほぼ完形
9	碗	口径 (9.5) 底径 — 器高 5.6	丸底。体部は丸みをもつ。口縁部は短く内彎する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。内面—口縁部～底部ヨコナデ後放射状暗文。	白色粒 内外—にぶい橙色	口縁部3/4欠損



第344図 第162号住居跡出土遺物

第164表 第162号住居跡出土遺物観察表（2）

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
10	坏	口径 14.3 底径 — 器高 5.5	丸底。体部は内彎する。口縁部は薄く、外反気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ナデ。体部中位～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—橙色	ほぼ完形
11	坏	口径 (13.8) 底径 — 器高 5.4	丸底。体部は内彎する。口縁部は内彎気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ナデ。底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—明赤褐色	口縁部1/4欠損
12	坏	口径 13.1 底径 — 器高 5.2	丸底。体部は開き、口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—橙色	口縁部1/5欠損

C地点

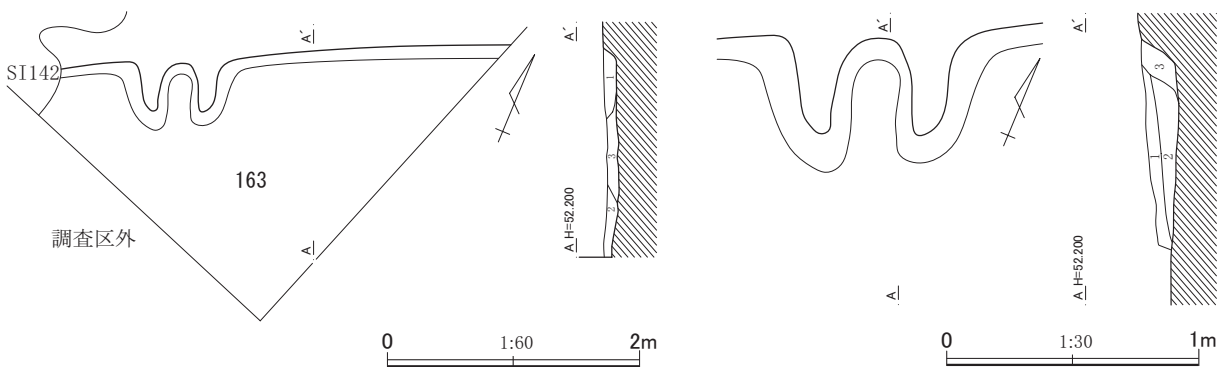
第165表 第162号住居跡出土遺物観察表（3）

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
13	坏	口径 13.1 底径 — 器高 5.2	丸底。体部は内彎する。口縁部は外反気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ナデ。体部下位～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～底部ヨコナデ後放射状暗文。	白色粒・黒色粒 内外—明赤褐色	口縁部1/4欠損
14	坏	口径 12.9 底径 — 器高 4.7	丸底。体部は内彎する。口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。内面—口縁部～底部ヨコナデ後放射状暗文。	白色粒・黒色粒 内外—明赤褐色	ほぼ完形
15	高坏	口径 (18.2) 底径 (13.1) 器高 (15.4)	口縁部は外反気味に開く。脚部は下方へ開き、裾部は水平に近く開く。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。坏部ヘラナデ。脚部～裾部ミガキ。内面—口縁部ヨコナデ後放射状暗文。脚部ナデ。裾部ヨコナデ。	白色粒 外—橙色 内—明赤褐色	坏部3/4・脚部残存
16	高坏	口径 16.1 底径 (12.4) 器高 11.6	口縁部は外反気味に開く。脚部は筒状を呈し、裾部は大きく広がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。坏部ヘラナデ。脚部～裾部ミガキ。内面—口縁部ヨコナデ後放射状暗文。脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。	白色粒 内外—橙色	裾部3/4欠損

第344図16の高坏は、カマドの最上層から出土した甕胴部片（未実測）の下から坏部を伏せた状態で出土している。1・2の甕、4の甗、7の鉢は、カマド左袖の傍から住居跡中央にかけての下層から出土している。5・6・10・12・14の坏、8の鉢、15の高坏坏部は、南東壁脇からP2周辺にかけての位置から出土している。6・8・10・14・15の坏、鉢、高坏坏部は、上・中層の層準から、5の坏は床面直上、12の坏はP2の検出面付近から出土した。9の埴、15の高坏脚部は、P3近くの上層、最上層から出土した。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代中期末葉の遺構と考えられる。

第163号住居跡（第345・346図、第166表、図版39・150）

調査地点南縁中央の南側に突き出た部分の南東隅、Q15グリッドに位置し、I群に含まれる住居跡である。西側を第142号住居跡に切られ、遺構の南西・南東側は調査範囲外であり、カマドを含む北



第163号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。粘土粒（～3mm）を少量含み、炭化物粒（～2mm）・焼土粒（～2mm）を微量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒（～3mm）・ローム小塊（～30mm）を少量含む。

第163号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒（～2mm）・炭化物粒（～2mm）を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒（～2mm）・炭化物粒（～2mm）を微量含み、ローム小塊（～30mm）を中量含む。
- 第3層：暗褐色土。粘土粒（～3mm）を少量含み、焼土粒（～3mm）を中量含む。粘性はやや強い。

第345図 第163号住居跡平面・断面図

第166表 第163号住居跡出土遺物観察表

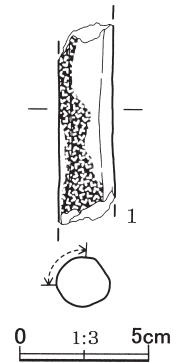
No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
1	棒状土製品	第971図77、第439表参照。	No.77

壁と三角形に残された床面のみ残存する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

規模は、いずれも残存部分の長さになるが、南北方向で2.00m、東西方向で3.46m、主軸方位はN-25°-Wあたりになると考えられる。床面にはかなり凹凸があり、軽微ではあるが、硬化している。壁高は、北壁で11cmである。

カマドは、北壁に付設されている。短小な袖に挟まれた燃焼部を有する形態で、燃焼部は、奥壁側がかすかに深くなるように掘りくぼめられている。袖端を末端と見るなら、燃焼部の長さは50cm、横幅は31cmである。側壁の上部および奥壁の一部が、被熱赤化している。

土師器小片を主とする遺物が、覆土中から少数出土しているのみである。重複関係から見て、奈良時代以前の遺構と考えられる。



第346図 第163号住居跡出土遺物

第164号住居跡 (第347～349図、第167表、図版39・150)

調査地点の南東隅の南縁沿い、T15グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第134・148・165号住居跡、第4号溝に切られ、遺構の北東半を大きく壊され、また、南西隅は、調査範囲外である。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、長方形、ないしは正方形であろう。規模は、いずれも残存部分の長さになるが、南北方向で3.97m、東西方向で6.00mである。主軸は判らないが、西壁はほぼ南北を指している。床面は、ほぼ全面的に明瞭に硬化している。壁高は、西壁で18cm、南壁で24cmである。

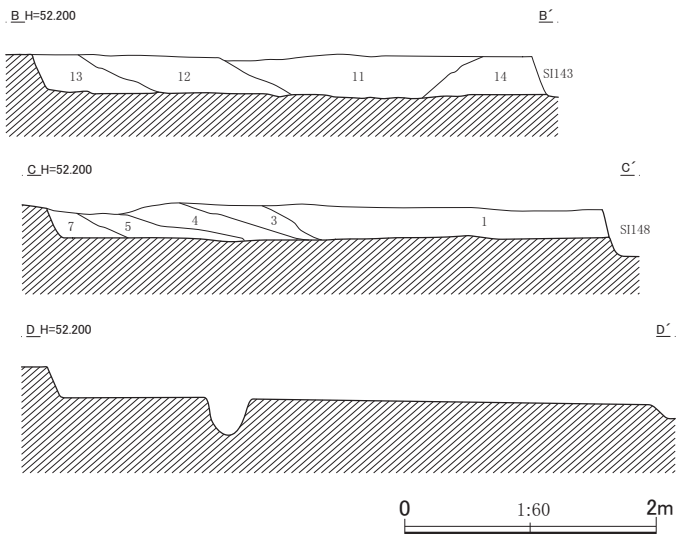
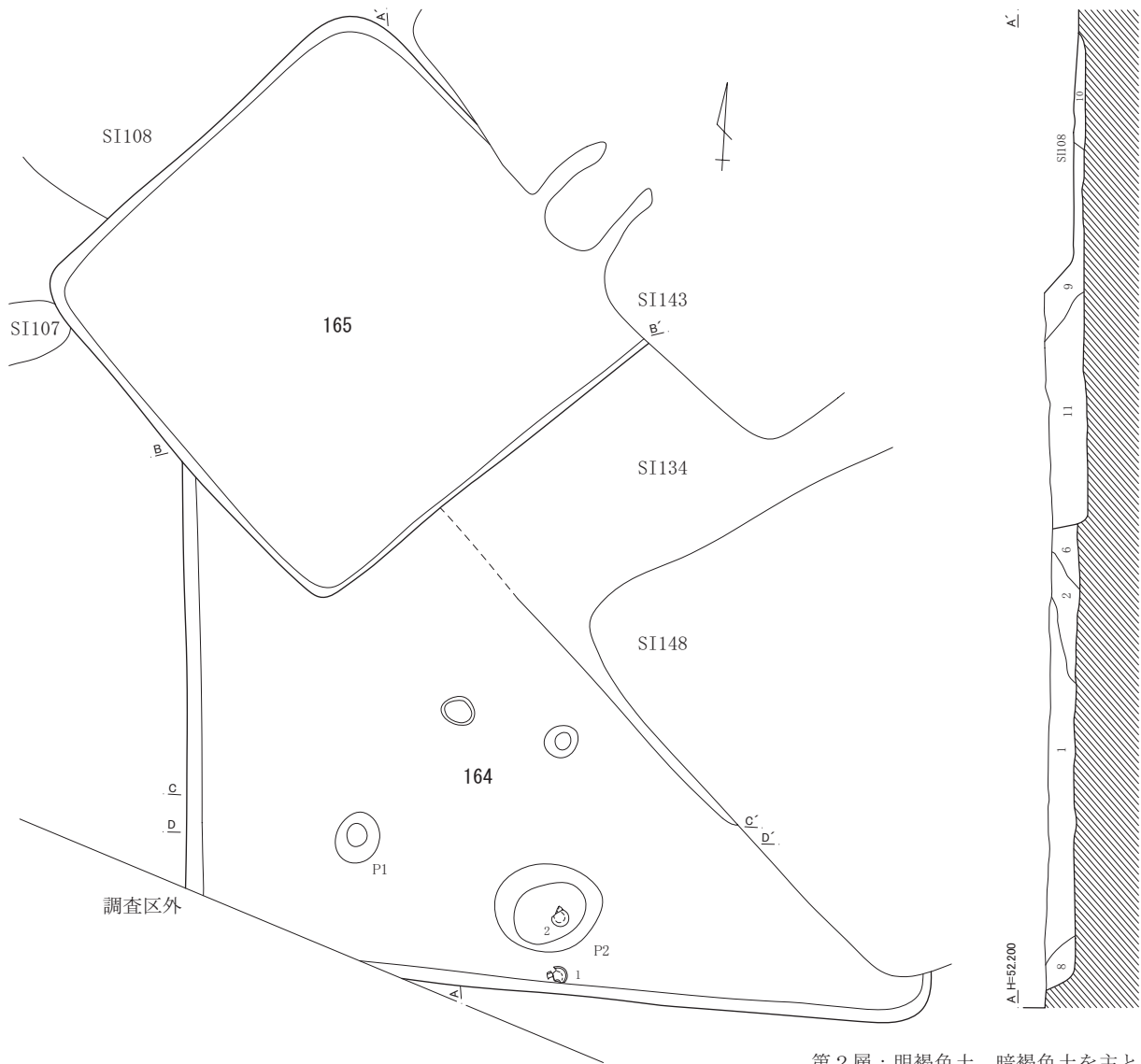
P1は、位置的に見て、支柱穴の可能性のあるピットである。上端での平面形は、ほぼ円形で、深さは29cmである。南壁中央の近くのピットは、貯蔵穴であろうか。ただし、位置的に問題が残る。上端での平面形は、楕円形で、鍋形状に掘り込まれている。長軸長は89cm、短軸長は71cm、深さは22cmである。覆土は3層で、第3層は、ロームを多量に含み、埋め戻された土とも見える土層である。

覆土は、暗褐色土を主とする8層に分けられた。焼土や炭化物を含み、ローム粒をかなり含む第1・5～8層、ローム小塊が顕著に混入する第2～4層と、いずれも自然に流入した堆積土というよりは、埋め戻された土に近いと思われる。

第349図1の坏は、貯蔵穴の南脇、南壁沿いから出土した。2の坏は、貯蔵穴の最下層、底面に接する状態で出土した。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期初頭(古相)の遺構と考えられる。

第165号住居跡 (第347・348・350図、第168表、図版40・150)

調査地点の南東隅近く、T15グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第164号住居跡を切っており、第107・108・134・143号住居跡に切られ、遺構の一部を壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。



- 第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～10mm)を中量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～15mm)を中量含む。
- 第4層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～40mm)を中量含む。
- 第5層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を中量含み、ローム小塊(～40mm)を微量含む。
- 第6層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を中量含み、ローム小塊(～30mm)を少量含む。

第164・165号住居跡土層説明(1)

〈第164号住居跡土層説明〉

第1層：暗褐色土。ローム粒(～6mm)を中量含み、ローム小塊(～40mm)を微量含む。

第347図 第164・165号住居跡平面・断面図(1)

第164・165号住居跡土層説明(2)

第7層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を中量含み、ローム小塊(～30mm)・炭化物粒(～4mm)を少量、粘土粒(～10mm)を微量含む。

第8層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～6mm)を中量含み、ローム小塊(～30mm)・焼土粒(～4mm)・焼土小塊(～20mm)を少量含む。

〈第165号住居跡土層説明〉

第9層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～0.5mm)・ローム小塊(～15mm)を中量含む。

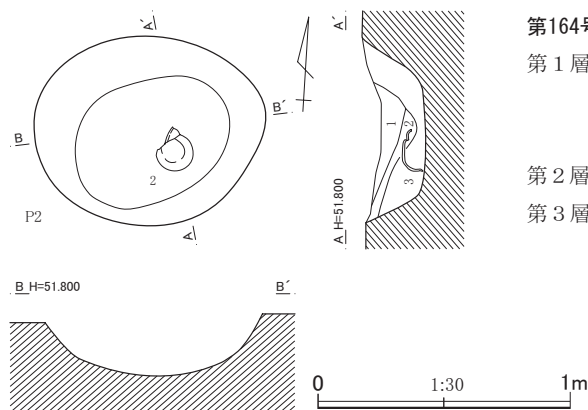
第10層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～10mm)を多量に含み、ローム小塊(～40mm)を中量含む。

第11層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を中量含む。

第12層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)・ローム小塊(～10mm)を中量含む。

第13層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)・ローム小塊(～10mm)を中量含む。

第14層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)・ローム小塊(～10mm)を中量含む。



第348図 第164・165号住居跡平面・断面図(2)

第164号住居跡P2土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)・焼土粒(～4mm)を少量含み、粘土粒(～1mm)を中量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含む。

第3層：黄褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～10mm)を多量に含む。

第167表 第164号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 16.6 底径 — 器高 6.7	丸底。体部は彎曲し、口縁部は外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ナデ。体部中位～底部ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒 内外—明赤褐色	口縁部～体部 1/2欠損
2	坏	口径 13.1 底径 2.7 器高 6.0	上げ底気味の平底。体部は彎曲し、口縁部は外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒 内外—明赤褐色	口縁部一部欠損
3	坏	口径 14.0 底径 — 器高 6.3	丸底。体部は彎曲し、口縁部は短く外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ナデ。体部中位～底部ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・小礫 内外—橙色	3/4残存

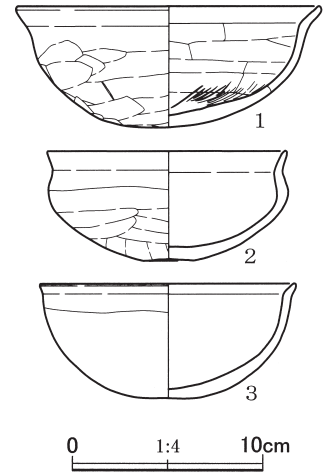
第168表 第165号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 13.5 底径 8.0 器高 3.8	平底。体部は内彎し、口縁部は外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部上位ナデ。体部中位～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—橙色	ほぼ完形
2	坏	口径 12.4 底径 9.0 器高 3.4	平底。体部から口縁部にかけて外反気味に立ち上がり、上端部で短く内屈する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ナデ。底部ヘラケズリ。内面—口縁部～底部ヨコナデ。	白色粒・黒色粒 内外—橙色	1/2残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
3	土錘	長さ6.5、幅1.5、厚さ1.4、重さ13.57g。胎土：白色粒。色調：灰褐色。				完形
4	土錘	長さ5.7、幅1.3、厚さ1.2、重さ9.05g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：明赤褐色。				完形
5	ガラス小玉 鋳型	第955図71、第430表参照。				No.71
6	ガラス小玉 鋳型	第955図72、第430表参照。				No.72
7	棒状 土製品	第971図78、第439表参照。				No.78

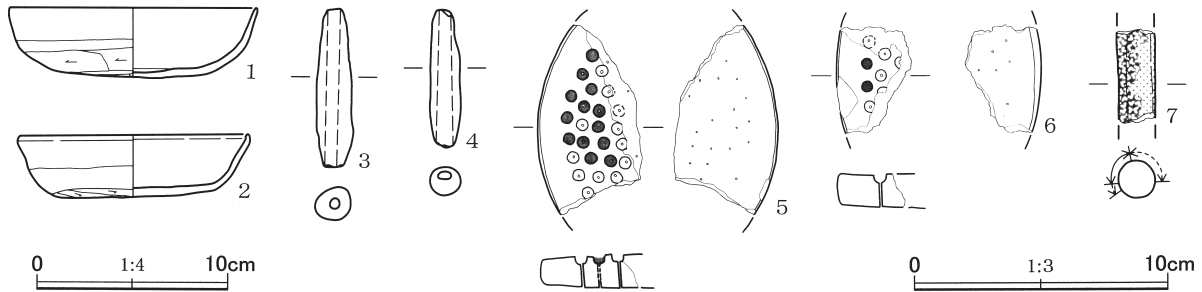
C地点

平面形は、方形である。カマドがあったとすれば、第143号住居跡に壊された北東壁中央と思われるため、北東-南西方向に主軸を想定する。規模は、主軸方向で3.79m、副軸方向で3.75mである。主軸方位は、N-44°-Eと推定される。床面は局所的に硬化しているが、床面全体が凸凹している。とくに北隅周辺は、黄褐色ローム下の礫層の礫が露出しており、凹凸が著しい。壁高は、北東壁で4、5cm、南東壁で29cm、南西壁で27cm、北西壁で24cmである。

覆土は、6層に分けられた。重複する第164号住居跡の覆土と同様にロームをかなり含む覆土である。覆土中から土師器小片を主とする遺物が少数出土しているのみである。重複関係、出土遺物から見て、奈良時代末から平安時代初頭にかけての遺構と考えられる。



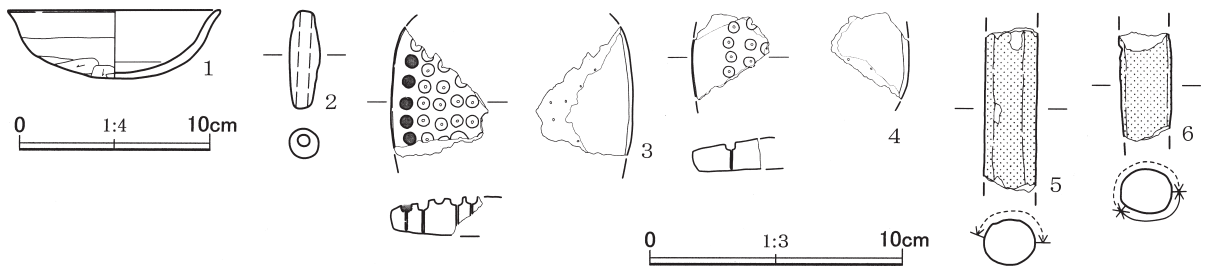
第349図 第164号住居跡出土遺物



第350図 第165号住居跡出土遺物

第166号住居跡 (第351・352図、第169表、図版151)

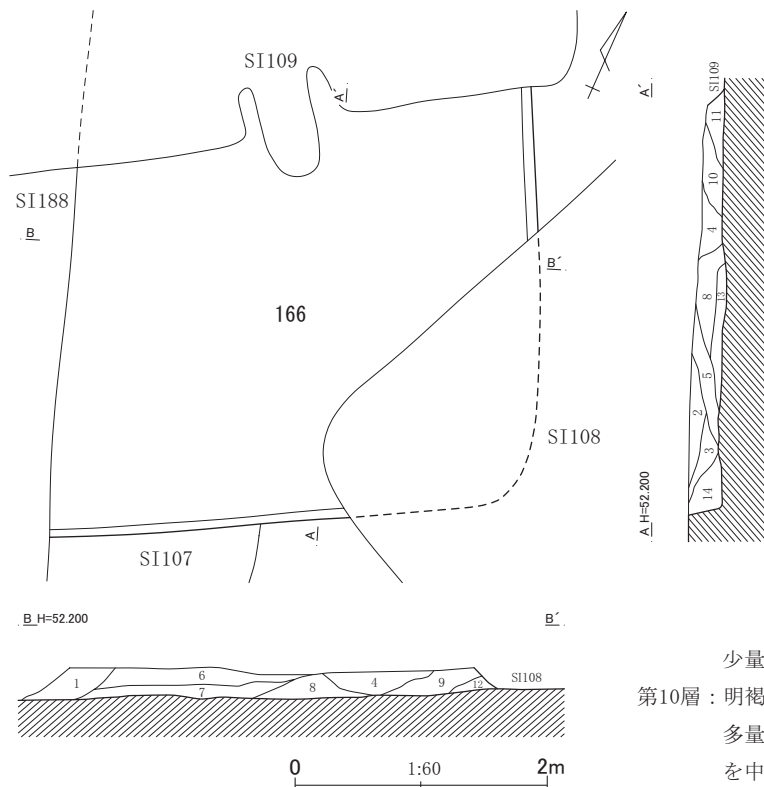
調査地点の南東隅近く、S14・15、T14・15グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第



第351図 第166号住居跡出土遺物

第169表 第166号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 11.6 底径 — 器高 3.8	丸底。口縁部は強く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部ナデ。体部下位~底部ヘラケズリ。内面-口縁部~体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外-橙色	3/4残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
2	土錘	長さ4.0、幅1.2、厚さ1.2、重さ5.39g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：浅黄橙色。				完形
3	ガラス小玉 鑄型	第956図73、第430表参照。				No.73
4	ガラス小玉 鑄型	第956図74、第430表参照。				No.74
5	棒状 土製品	第971図79、第439表参照。				No.79
6	棒状 土製品	第971図80、第439表参照。				No.80



第166号住居跡層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)を微量含む。
 第2層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)を微量含む。
 第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～15mm)・焼土小塊(～10mm)を少量含む。
 第4層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～1mm)・焼土小塊(～30mm)を少量含み、焼土小塊(～10mm)を多量に含む。粘性はやや強い。

- 第5層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～10mm)を少量含み、ローム小塊(～20mm)を微量含む。
 第6層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。
 第7層：暗褐色土。ローム粒(～8mm)を中量含み、ローム小塊(～15mm)を微量含む。
 第8層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～5mm)を少量含み、粘土粒(～10mm)を多量に、粘土小塊(～30mm)を中量、焼土小塊(～35mm)を微量含む。粘性はやや強い。
 第9層：明褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～8mm)・粘土小塊(～30mm)を中量含み、焼土小塊(～10mm)を少量含む。粘性はやや強い。
 第10層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～8mm)を多量に含み、ローム小塊(～15mm)・焼土粒(～10mm)を中量含む。
 第11層：暗褐色土。ローム粒(～10mm)を微量含み、ローム小塊(～30mm)を中量、焼土粒(～5mm)を少量含む。
 第12層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)・焼土粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)を少量含む。
 第13層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含む。
 第14層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)を少量含む。

第352図 第166号住居跡平面・断面図

198号住居跡を切っており、第107～109・188号住居跡に切られ、残存するのは、北東・南東壁の極一部と床面の一部のみである。また、第149号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

残存する部分の長さになるが、規模は、北西－南東方向で2.91m、北東－南西方向で3.65mである。床面は、かなり凸凹しており、ほとんど硬化していない。壁高は、北東壁で14cm、南東壁で25cmである。

覆土は、主に暗褐色土からなる14層に分けられた。四周から土が投棄されて埋め戻されたかのような、かなり乱れた堆積状態である。総じて各々の層にもロームや粘土、焼土が不規則に混入していた。粘土や焼土を著しく含む第4・8～13層は、住居跡が埋まる初期段階の堆積土と推定してよいであろう。

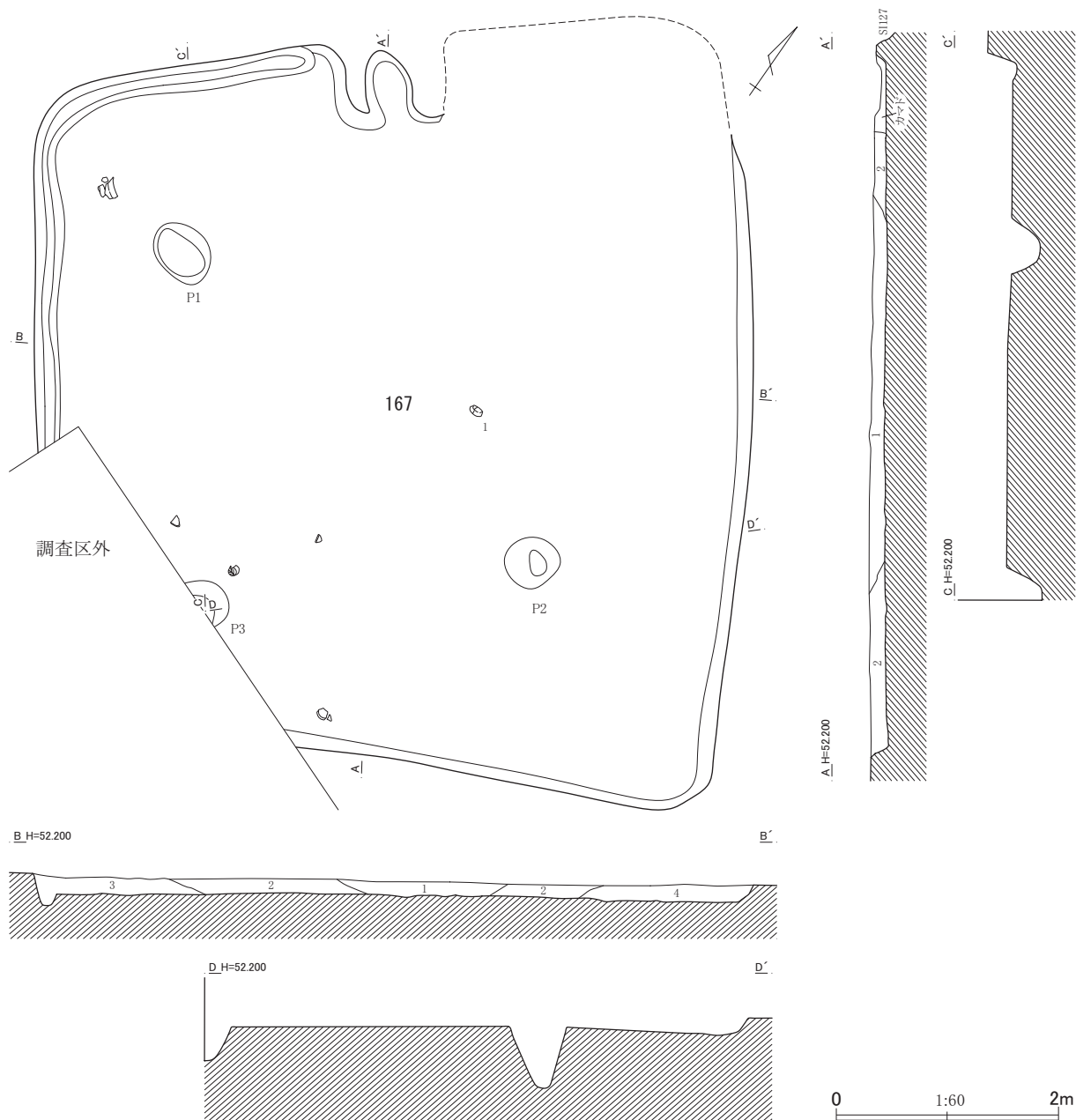
土師器小片を主とする遺物が、覆土中より出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末期中葉から後葉にかけての遺構と考えられる。

C地点

第167号住居跡（第353～355図、第170表、図版40・151）

調査地点の南東部の南縁沿い、R14・15グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第168～171号住居跡を切っている。第101号住居跡と重複する位置関係にあるが、第127号住居跡が介在し、直接切り合わない。また、第127号住居跡と重複する。南隅周辺は、調査範囲外である。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、北東壁と南西壁の長さが大きく異なり、かなり歪ではあるが、一応方形と見てよいであ



第167号住居跡土層説明

- | | |
|---|--|
| 第1層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～30mm）・焼土粒（～4mm）を少量含む。 | 小塊（～20mm）・焼土粒（～4mm）を少量含む。 |
| 第2層：暗褐色土。ローム粒（～1mm）を少量含む。 | 第4層：暗褐色土。ローム粒（～1mm）を中量含み、粘土粒（～0.5mm）・粘土小塊（～10mm）を少量含む。粘性はやや強い。 |
| 第3層：暗褐色土。ローム小塊（～10mm）を中量含み、ローム | |

第353図 第167号住居跡平面・断面図（1）

ろう。規模は、主軸方向で6.10m、副軸方向で6.08m、主軸方位はN-36°-Wである。

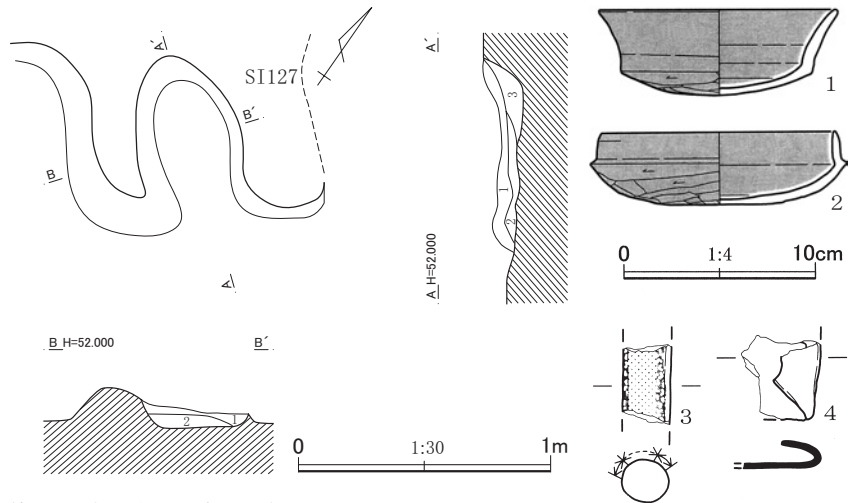
床面中央がかすかに硬化しており、全体に細かな凹凸が見られる。壁の立ち上がりは、やや緩やかな北東壁以外は、比較的急であり、壁高は、北西壁で22cm、北東・南東壁で14cm、南西壁で13cmである。

支柱穴の可能性のあるピットは、位置的に見て、P1～P3の3つである。上端での平面形は、いずれも楕円形、円形で、深さは、P1が26cm、P2が51cm、P3が31cmである。

カマドは、北西壁に微妙に斜行して付設されている。丸みのある幅の狭い燃焼部を袖が馬蹄形に囲む形態である。袖端を末端とすれば、燃焼部の長さは70cm、横幅は42cmである。燃焼面は、床面をわずかに掘りくぼめ作出されており、凹凸が著しい。奥壁や右側側壁上端のほんのわずかな範囲ではあるが、点的に被熱赤化している部分がある。カマド覆土は3層で、粘土や焼土が目立つ第1層には、天井部や側壁の崩落土が含まれるようである。

覆土は、暗褐色土を主とする4層で、周辺から流入した第2～4層土が堆積した後、中央のくぼみに第1層土が流入して、住居跡が埋まった模様である。

第355図1の坏は、住居跡中央の床面よりやや浮いた位置から出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期後葉後半の遺構と考えられる。



第167号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗赤灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)を中量含み、焼土粒(～1mm)を多量に含む。
- 第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)を中量含み。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含み、粘土粒(～1mm)を中量、焼土粒(～1mm)を微量含む。

第354図 第167号住居跡平面・断面図(2)

第355図 第167号住居跡出土遺物

第170表 第167号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 13.0 底径 — 器高 4.7	丸底。体部は浅く、口縁部は長く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。黒色処理。内面-口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。黒色処理。	白色粒・褐色粒 内外-黒褐色	口縁部1/6欠損
2	坏	口径 (12.8) 底径 — 器高 4.0	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって内傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。黒色処理。内面-口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。黒色処理。	白色粒 内外-黒褐色	1/3残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
3	棒状土製品	第971図81、第439表参照。				No.81
4	鉄斧	長さ[3.2]、幅3.2、厚さ0.2、重さ11.40g。袋状鉄斧。				破片

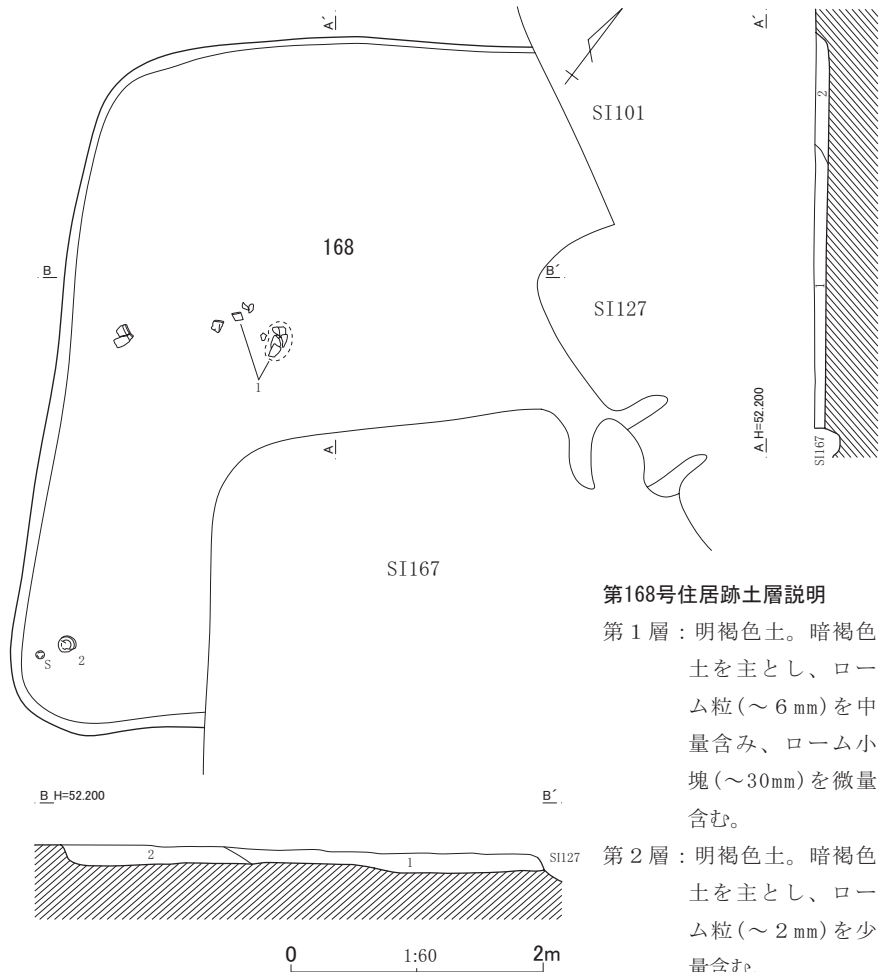
C地点

第168号住居跡（第356・357図、第171表、図版151）

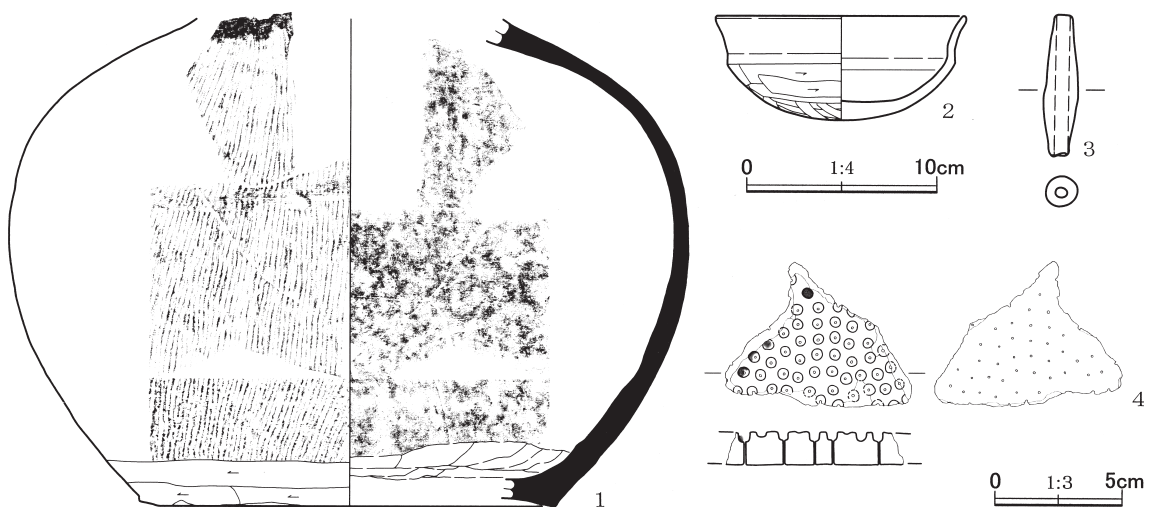
調査地点の南東部の南縁近くの中央、西寄り、Q14・15、R14・15グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第192号住居跡を切っており、第167号住居跡に切られ、遺構の東半を大きく壊されている。また、第101・127号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は確定できないが、いずれにせよ大きく歪んだ形になりそうである。規模は、残りのよい部分での残存値になるが、北西-南東方向で5.21m、北東-南西方向で4.22mである。床面中央は、軽微ではあるが、硬化している。壁高は、北西壁で10cm、南西壁で15cmである。

第357図1の須恵器甕は、住居跡中央、やや西寄りの上層ないしは最上層から、一部の



第356図 第168号住居跡平面・断面図



第357図 第168号住居跡出土遺物

第171表 第168号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	須恵器 甕	口径 — 底径 23.0 器高 [26.8]	上げ底気味の平底。胴部は中位が張る。タタキ成形。	外面—胴部平行タタキ、下端ヘラケズリ。底部ナデ。内面—胴部無文の当て具痕。胴部下端～底部ナデ。	白色粒 内外—灰色	胴部～底部 3/4残存 還元焰焼成
2	坏	口径 13.7 底径 — 器高 5.7	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒 内外—赤色	口縁部1/4欠損
No.	器種	法量(cm)・特徴			備考	
3	土錘	長さ5.8、幅1.3、厚さ1.25、重さ8.48g。胎土：白色粒。色調：橙色。			完形	
4	ガラス小玉 鋳型	第956図75、第431表参照。			No.75	

破片が散らばったような状態で出土した。2の坏は、南隅近くの床面から伏せたような状態で出土している。出土状態からすれば、2の坏が本住居跡に伴う遺物と見られる。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期中葉から後期後葉前半にかけての遺構と考えられる。

第169号住居跡（第358～360図、第172表、図版40・151）

調査地点南東部の南縁近くの中央、R14・15グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第170号住居跡を切っており、第131・138・167号住居跡に切られ、カマドを含む北壁、南壁の一部、西壁の極一部と床面を除いて、遺構の大半を壊されている。なお、第161・188号住居跡と重複するが、



第358図 第169号住居跡平面・断面図(1)

C地点

他の住居跡が介在するため、直接切り合い関係にはない。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

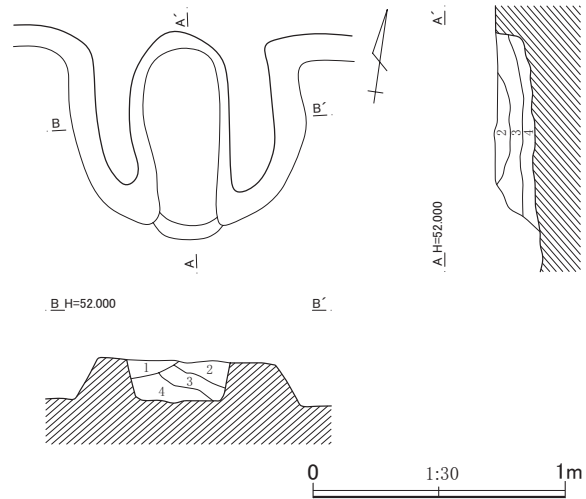
平面形は、方形、ないしは長方形になろうか。規模は、主軸方向で4.89m、副軸方向の現存値で3.61m、主軸方位はN-13°-Wである。床面は細かな凹凸があるが、ほぼ平坦である。かなりむらがあるが、壁際以外の床面は、硬化している。壁高は、北壁で18cm、南壁で16cmである。

本住居跡に伴うピットは、南西隅近くで検出したピット1個である。支柱穴ないしは貯蔵穴であろうか。2つのピットが重複しているらしく、上端での平面形は、楕円形を重ねたような形で、南側が深くなっている。深さは85cmである。下層から第360図7の須恵器蓋が出土している。

カマドは、北壁に付設されている。細長い袖に挟まれた長楕円形の燃焼部が残存する。燃焼

面は、わずかに掘りくぼめられ作出されている。燃焼面には凹凸が著しい。燃焼部の長さは82cm、横幅は40cmである。奥壁、側壁の上部は、軽微ではあるが、局所的に被熱赤化している。焼土小塊が多量に混入するカマド覆土の第1層は、天井部や側壁の崩落土を含むようである。

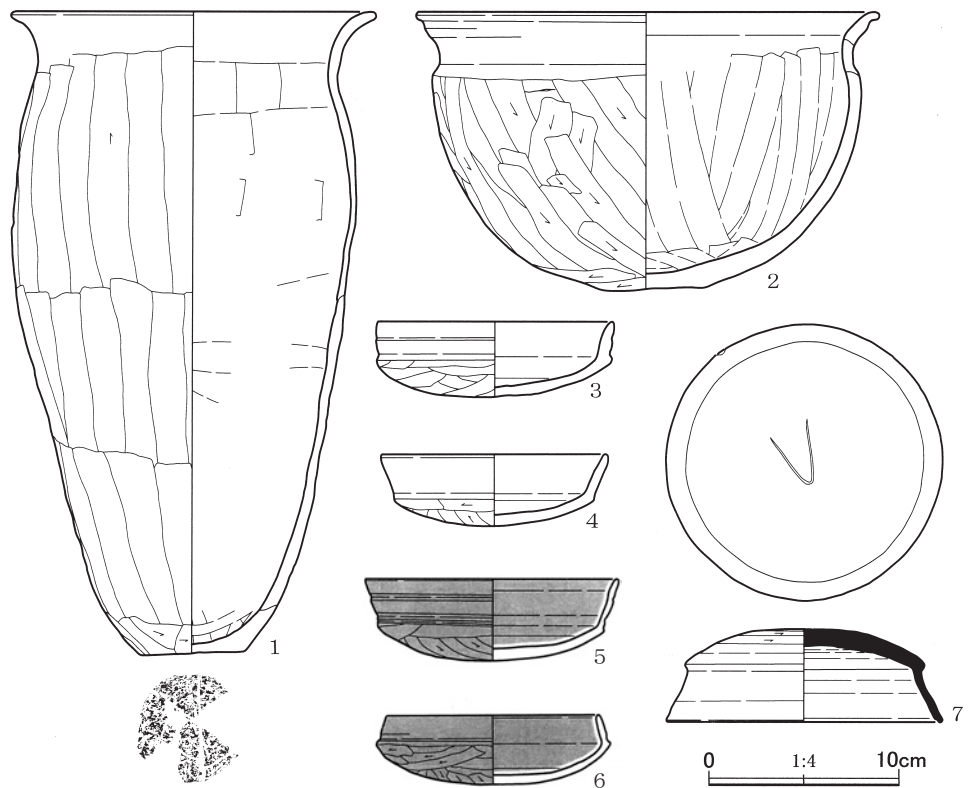
覆土は、暗褐色土、明褐色土を主とする4層に分けられた。



第169号住居跡カマド土層説明

- 第1層：明褐色土。焼土小塊(～30mm)を多量に含む。
- 第2層：明褐色土。ローム粒(～5mm)を微量含む。
- 第3層：明褐色土。ローム粒(～5mm)を微量含み、焼土小塊(～10mm)を中量含む。
- 第4層：暗褐色土。明褐色土を主とし、ローム粒(～3mm)を少量含み、焼土粒(～8mm)を中量含む。

第359図 第169号住居跡平面・断面図(2)



第360図 第169号住居跡出土遺物

第172表 第169号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 19.8 底径 5.8 器高 34.0	口縁部は強く外反する。胴部は膨らみをもたない。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。底部木葉痕。内面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外－橙色	一部欠損
2	大型鉢	口径 25.6 底径 5.8 器高 15.3	平底。体部は内彎する。口縁部は外反し、上端で強く外屈する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	片岩・白色粒・黒色粒 内外－橙色	口縁部～体部一部欠損
3	坏	口径 13.0 底径 — 器高 4.1	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって直立し、中位に段を有する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 内外－橙色	ほぼ完形
4	坏	口径 12.4 底径 — 器高 4.0	丸底。口縁部は体部との境に弱い稜をもって外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 外－橙色 内－にぶい赤褐色	口縁部一部欠損
5	坏	口径 13.8 底径 — 器高 4.5	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外傾し、中位に段を有する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。黒色処理。内面－口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。黒色処理。	白色粒・褐色粒 内外－黒褐色	完形
6	坏	口径 11.7 底径 — 器高 3.8	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって内傾する。口唇部は内側に平坦面をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。黒色処理。内面－口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。黒色処理。	海綿滑針・白色粒 内外－黒褐色	底部一部欠損
7	須恵器蓋	口径 15.0 底径 — 器高 5.1	口縁部は天井部との境に稜をもち、下方へハの字に開く。端部は内傾する段をもつ。ロクロ成形。	外面－ロクロナデ。天井部回転ヘラケズリ、「V」字状の線刻。自然釉付着。内面－ロクロナデ。	石英・白色粒 内外－灰色	ほぼ完形 還元焰焼成

第3・4層は、カマド内の土を掻き出したような土と思われる。

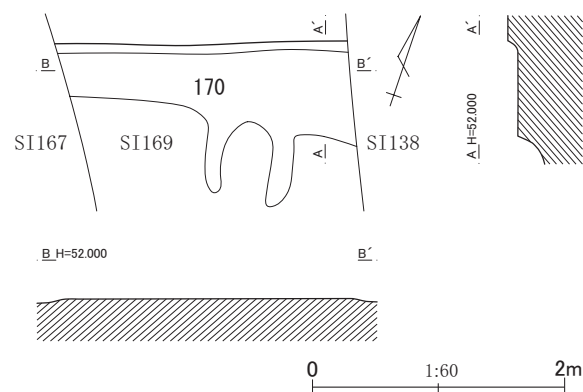
第360図1の甕、2の鉢、3～5の坏3個体は、カマド左袖脇から焚口前面にかけての範囲から、6の坏は、南壁の傍から、7の須恵器蓋は、南西隅近くのパットの从上から出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期後葉後半の遺構と考えられる。

第170号住居跡（第361図）

調査地点南東部の南縁近くの中央、R14グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第138・167・169号住居跡に大きく壊されており、北壁と床面の極わずかな範囲のみ残存する遺構である。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

規模は、北壁の残存部分の長さが2.25mであり、北壁の向きはN-70°-Eを指す。床面の硬化は顕著ではない。

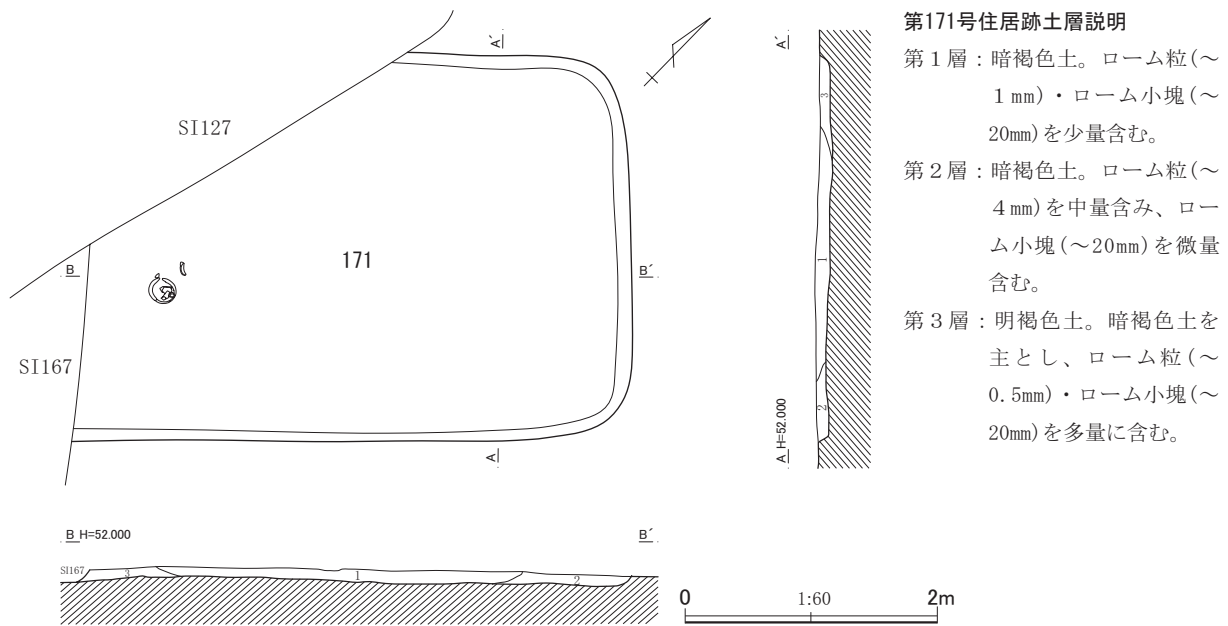
土師器小片を主とする遺物が覆土中より少数出土している。重複関係などから見て、古墳時代後期後葉後半以前の遺構と考えられる。



第361図 第170号住居跡平面・断面図

第171号住居跡（第362図）

調査地点南東部の南縁寄りの中央、R14グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第233住居跡を切り、第127・167号住居跡に切られ、遺構の南西壁～北西壁の一部を壊されて

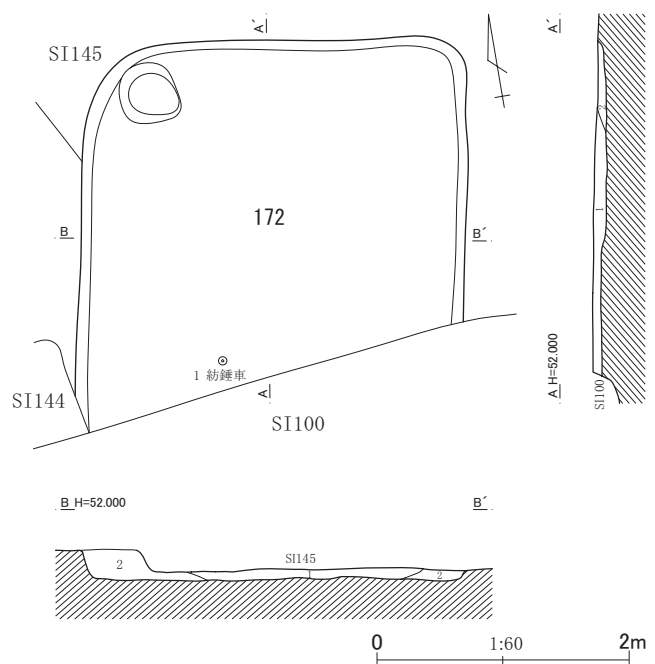


第362図 第171号住居跡平面・断面図

いる。第101号住居跡とも重複する位置にあるが、第127号住居跡が介在し直接切り合う関係にはない。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、隅に丸みのある長方形と見られる。規模は、北西－南東方向で3.00m、北東－南西方向の残存値で4.16m、北西－南東方向が主軸方向とするなら、主軸方位は、 $N-45^{\circ}-W$ になる。床面には、微妙な凹凸が見られる。壁高は、残存する3壁ともに8cmである。

住居跡の覆土は、暗褐色土を主とする3層で、第3層には、多量のロームが含まれる。図化していないが、甕胴部破片が、第127・167号住居跡に切られた部分の脇の床面から出土している。重複関係から見て、古墳時代後期初頭以前の遺構であろうか。



第172号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。明褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を少量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～10mm)を中量含む。

第363図 第172号住居跡平面・断面図

第172号住居跡（第363・364図、第173表、図版151）

調査地点の南縁近くのほぼ中央、P14、Q14グリッドに位置し、I群に含まれる住居跡である。第199号住居跡を切り、第100・144号住居跡に切られ、遺構の南半、および西壁の一部を壊されている。また、第145号住居跡とも重複する。確認面は、

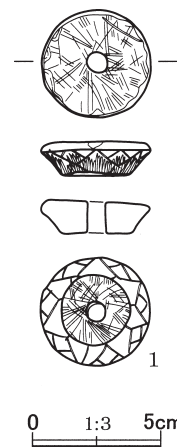
黄褐色のローム層上面である。

平面形は、長方形であろう。規模は、いずれも現存長になるが、南北方向での現存長は3.04m、東西方向での長さは2.96m、南北方向での中軸線の方位は、N-10°-Eである。床面にはやや凹凸が目立つが、中央部は、軽微ではあるが、硬化している。とくにカマドの前面は、顕著に硬化しているようである。壁は比較的急に立ち上がり、壁高は、北壁で4cm、東壁で8cm、西壁で22cmである。

北西隅沿いでピットを検出しているが、住居跡に通有のいずれかのピットと特定できない。上端での平面形は、不整な円形で、最大径は52cm、深さは23cmである。

覆土は、明褐色土、暗褐色土を主とする2層で、第2層が壁際を埋めた後、第1層が中央に堆積し住居跡が埋まっている。

第364図1の石製紡錘車は、第100号住居跡に切られた南縁近くの中央、床面直上から出土している。他には、土師器小片を主とする遺物が、覆土中より散漫に出土している。重複関係から見て、奈良時代後半以前の遺構の可能性はある。



第364図 第172号住居跡出土遺物

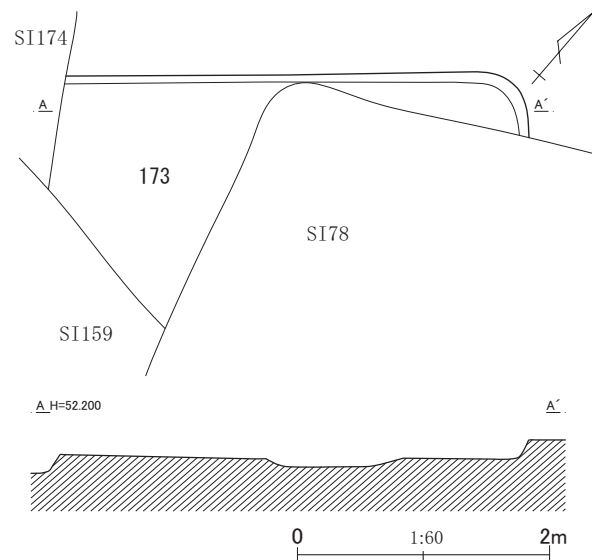
第173表 第172号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
1	石製紡錘車	上面径4.5、下面径2.8、孔径0.85×0.85、厚さ1.4、重さ38.66g。石材：蛇紋岩。調整：側面は縦方向のケズリ後に線刻。上・下面に擦痕あり。	完形

第173号住居跡（第365・366図、第174表、図版151）

調査地点の南縁近くの中央、P15、Q14・15グリッドに位置し、I群に含まれる住居跡である。第175・193・194号住居跡を切り、第78・159・174号住居跡に切られ、北西壁から北隅にかけての一角を除き、遺構の大半を壊されている。位置的に第117号住居跡と重なるが、第174号住居跡が介在し、直接の切り合い関係にはない。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

規模は、いずれも現存値ということになるが、北東-南西方向で3.59m、北西-南東方向で



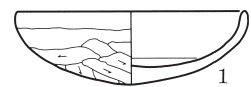
第365図 第173号住居跡平面・断面図

第174表 第173号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 12.4 底径 — 器高 4.0	丸底。体部は内彎し、口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部ナデ。体部中位~底部ヘラケズリ。内面-口縁部~体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外-橙色	完形

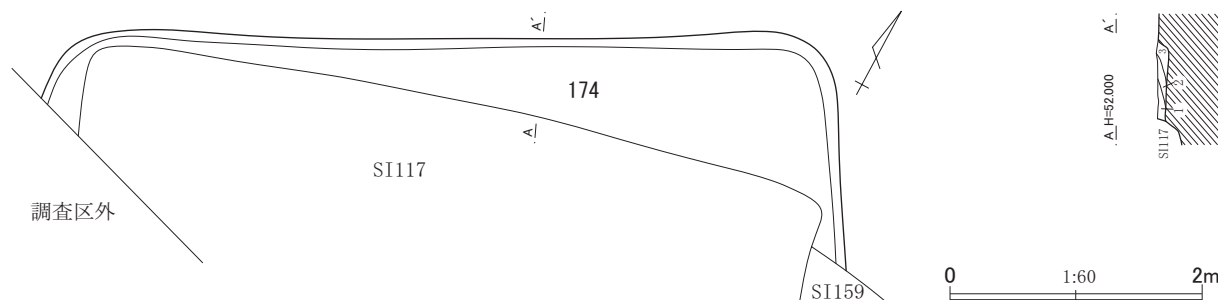
C地点

1.94mである。因みに北西壁が指す方位は、N-50°-Eである。床面はほぼ平坦である。壁高は、北西壁で15cmである。土師器小片を主とする遺物が覆土中から少数出土しているのみである。重複関係、出土遺物などから見て、おおむね古墳時代終末期末～奈良時代初頭の遺構である可能性が考えられる。



0 1:4 10cm

第366図 第173号
住居跡出土遺物



第174号住居跡土層説明

第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～0.5mm)を多量に含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。粘性はやや強い。

第2層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。

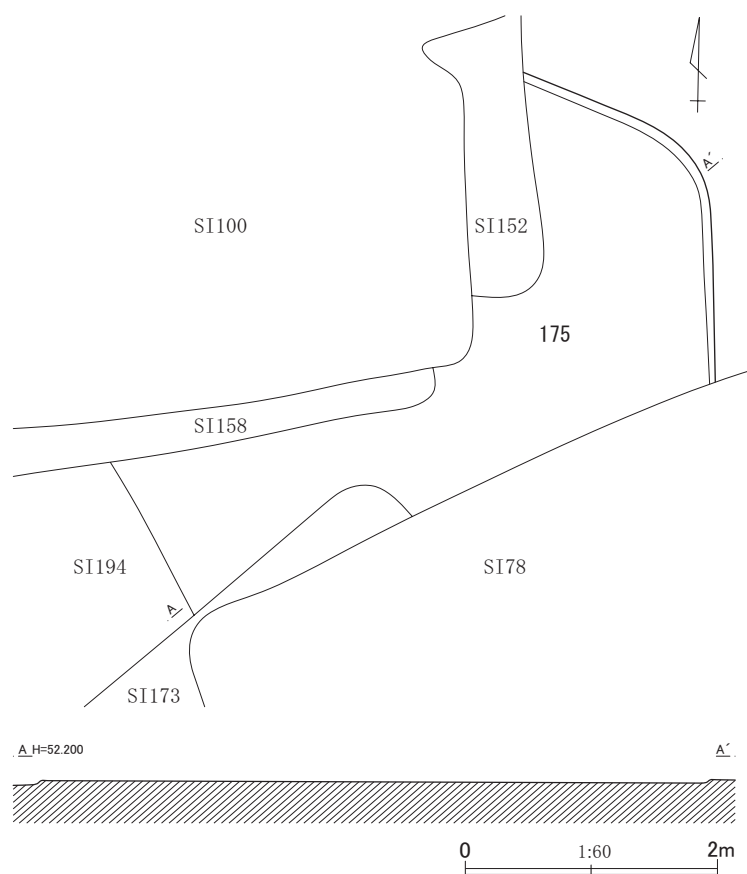
第3層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を微量含み、粘土粒(～0.5mm)を中量含む。粘性はやや強い。

第367図 第174号住居跡平面・断面図

第174号住居跡 (第367図)

調査地点の南縁沿いの中央、P15グリッドに位置し、I群に含まれる住居跡である。第173・194号住居跡を切っており、第117・159号住居跡に切られ、東隅から北西壁、北東壁の一部にかけての壁、床面を除く、遺構の大半を壊されている。また、南半部分は、調査範囲外である。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

規模は、北東-南西方向で6.00m、北西-南東方向の最も残りのよいところでの長さは1.76mである。北西壁の指す方位は、N-62°-Eである。壁高は、北西壁で9cmである。



第368図 第175号住居跡平面・断面図

土師器片を主とする遺物が覆土中より少数出土している。重複関係から見て、奈良時代頃の遺構である可能性が考えられる。

第175号住居跡（第368図）

調査地点の南縁近くのほぼ中央、Q14グリッドに位置し、I群に含まれる住居跡である。第193号住居跡を切っており、第78・100・152・158・173・194号住居跡に切られ、遺構の大半を壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

規模は、北東-南西方向での現存値で4.93mである。壁高は、北東隅付近で2、3cmである。土師器小片を主とする遺物が覆土中から少数出土している。重複関係から見て、古墳時代終末期以前の遺構である可能性が考えられる。

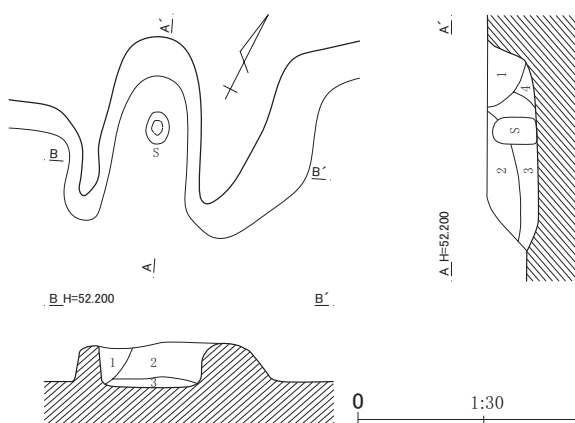
第176号住居跡（第369～371図、第175表、図版40・152）

調査地点の南縁近くの中央、P14・15グリッドに位置し、I群に含まれる住居跡である。第187・190・194号住居跡を切っており、第297・306号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。また、住居跡西隅は、調査範囲外である。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

北東・南東壁を検出し損ねたが、平面形は、方形と見てよいであろう。いずれも推定復元値になるが、規模は、主軸方向で4.84m、副軸方向で4.89mとなり、主軸方位は、N-28°-Wである。床面には微妙な凹凸が見られるが、全体としてはおおむねほぼ平坦であり、床面中央から東半、南東半にかけての床面は硬化している。壁の立ち上がりは、比較的急峻で、壁高は、北西壁で24cm、南東壁で27cm、南西壁で23cmである。

P1～P4は、主柱穴であろう。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形で、最深部での深さは、P1、P2が40cm、P3が44cm、P4が43cmである。P1、P2は、掘り込みが2段になるらしく、あるいは柱の付け替えが行なわれた模様である。

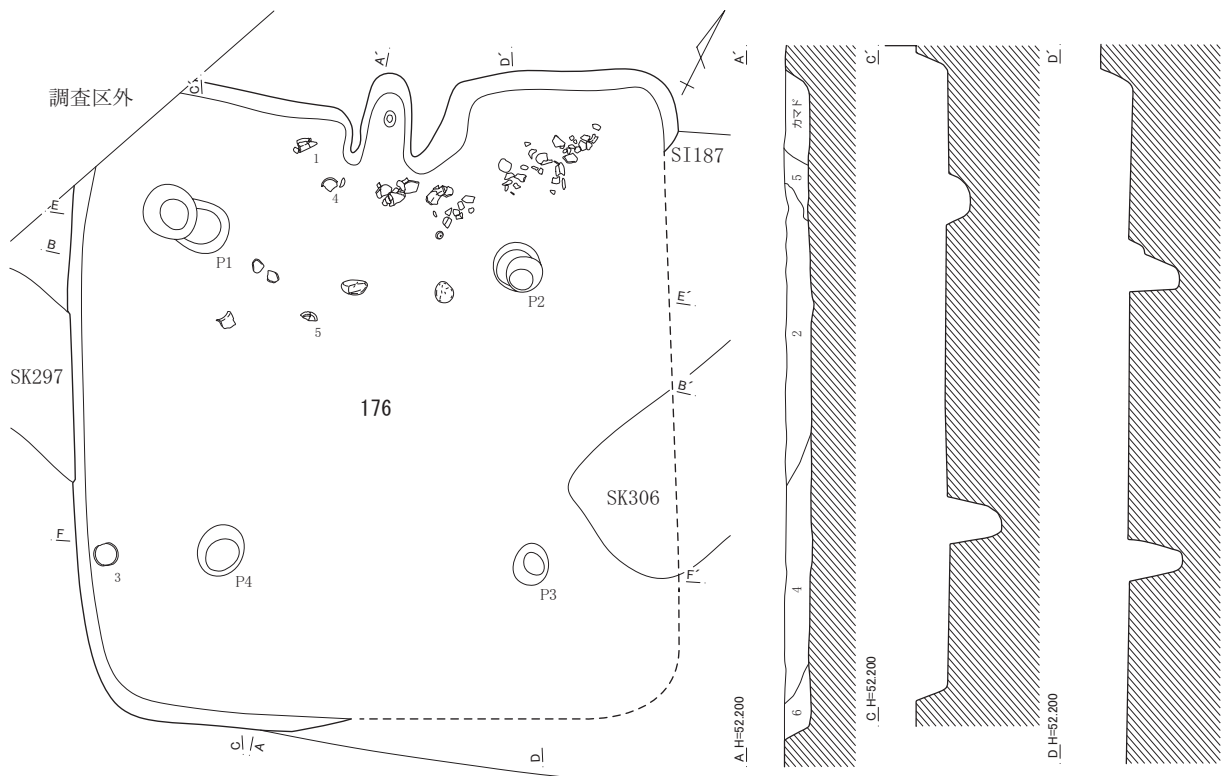
カマドは、北西壁の中央に付設されている。残存状態によるためか左袖が右袖に比べ著しく短小で、両袖に挟まれたくぼみが燃焼部をなす形態である。燃焼面は、楕円形に近い平面形で、浅く掘りくぼめ造作されている。袖端を前端とすると、燃焼部の長さは77cm、横幅は41cmである。奥壁、側壁は明



第176号住居跡カマド土層説明

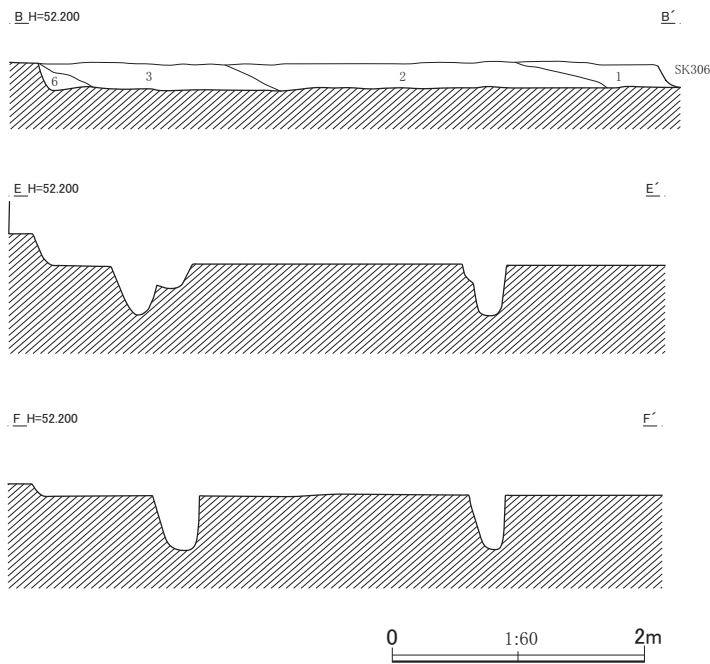
- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）・粘土粒（～10mm）・焼土粒（～4mm）を少量含む。
- 第2層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、焼土粒（～8mm）を中量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒（～6mm）を中量含み、焼土粒（～2mm）を少量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒（～1mm）を少量含む。

第369図 第176号住居跡平面・断面図（1）



第176号住居跡土層説明

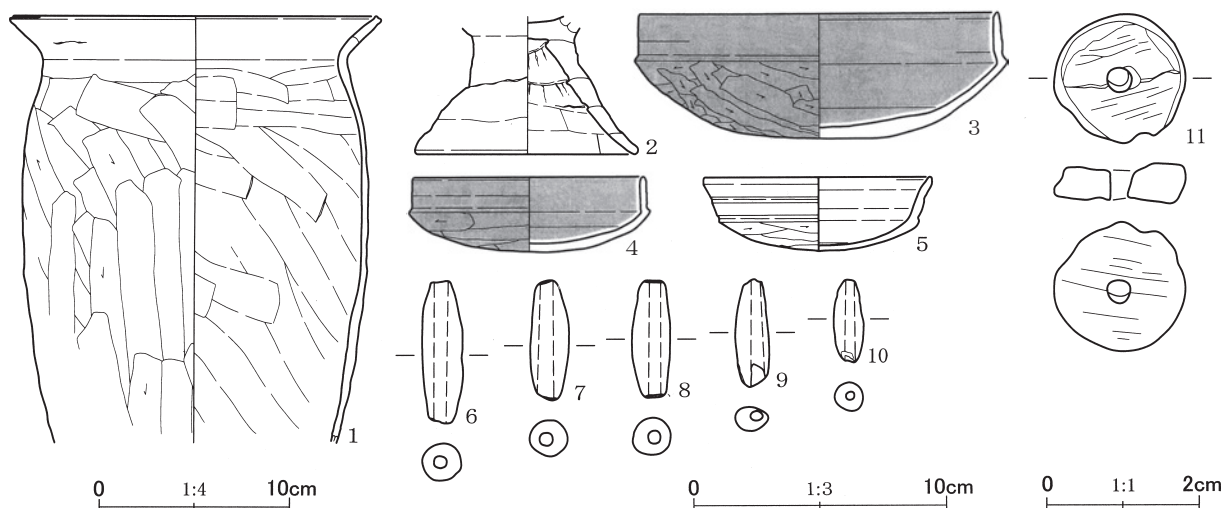
- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を少量含む。
- 第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を多量に含み、ローム小塊(～20mm)を中量、焼土粒(～4mm)を少量含む。
- 第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～40mm)を中量含む。
- 第4層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～10mm)を多量に含み、ローム小塊(～40mm)を微量、焼土粒(～4mm)を少量含む。
- 第5層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を少量含む。
- 第6層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を微量含み、ローム小塊(～30mm)・焼土粒(～1mm)を中量含む。



第370図 第176号住居跡平面・断面図(2)

瞭に被熱赤化している。支脚として用いられたと思われる楕円礫が燃焼部の中央から直立した状態で出土している。

覆土は、6層に分けられた。ローム粒、あるいはローム小塊を多量に含む第2・4層を典型として、総じてロームの混入が顕著な覆土である。



第371図 第176号住居跡出土遺物

第175表 第176号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手の特徴	調整・装飾手の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 (19.8) 底径 — 器高 [23.5]	口縁部は外反する。口唇部は外側に面をもち、凹線がめぐる。胴部は膨らみをもたない。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 内外—にぶい黄橙色	口縁部～胴部1/3残存
2	台付甕？	口径 — 底径 12.0 器高 [7.5]	脚部はハの字状に開く。粘土紐積み上げによる成形。	外面—脚部ナデ、端部ヨコナデ。内面—脚部ヘラナデ、上半絞り目。	白色粒・黒色粒 外—にぶい黄色 内—にぶい黄橙色	台部 外面被熱により磨耗
3	坏	口径 19.7 底径 — 器高 6.9	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって内傾する。口唇部は内側に面をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。黒色処理。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。黒色処理。	白色粒 内外—黒褐色	口縁部1/3欠損
4	坏	口径 (12.6) 底径 — 器高 4.1	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって内傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。黒色処理。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。黒色処理。	角閃石・白色粒 内外—黒褐色	2/3残存
5	坏	口径 12.4 底径 — 器高 4.0	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外反し、中位に段を有する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	角閃石・白色粒 内外—にぶい黄橙色	口縁部1/4欠損
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
6	土錘	長さ5.9、幅1.6、厚さ1.55、重さ15.76g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい黄橙色。				完形
7	土錘	長さ5.0、幅1.6、厚さ1.5、重さ11.25g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：灰黄褐色。				完形
8	土錘	長さ4.8、幅1.1、厚さ1.5、重さ11.65g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：明赤褐色。				完形
9	土錘	長さ4.5、幅1.4、厚さ1.0、重さ5.26g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい褐色。				完形
10	土錘	長さ3.4、幅1.2、厚さ1.2、重さ4.35g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい橙色。				ほぼ完形
11	石製品 車輪状	長さ1.8、幅1.8、孔径0.3×0.4、厚さ0.6、重さ2.34g。石材：滑石。				完形

第371図1の甕は、カマド左袖脇の上層から破片の状態、4・5の坏は、カマド前面の床面より若干浮いた位置から出土している。3の大型の坏は、南隅近くの南西壁脇から出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期後葉後半の遺構と考えられる。

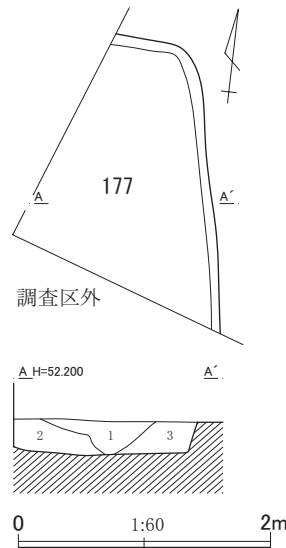
第177号住居跡 (第372図)

調査地点のほぼ中央、南縁沿い、O15、P15グリッドに位置し、I群に含まれる住居跡である。第

C地点

190号住居跡を切っており、北東隅とその近辺以外は、調査範囲外である。確認面は、黄褐色のローム層上面である。規模は、南北方向で2.19m、東西方向で1.56mである。床面は、全体的に硬化している。壁高は、東壁で23cmである。

覆土は、暗褐色土を主とし、ロームの混入の目立つ3層に分けられた。土師器片を主とする遺物が覆土中より少量出土している。重複関係から見て、古墳時代後期初頭以降の遺構と考えられる。



第177号住居跡土層説明

第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～30mm)を中量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒(～6mm)を少量含む。

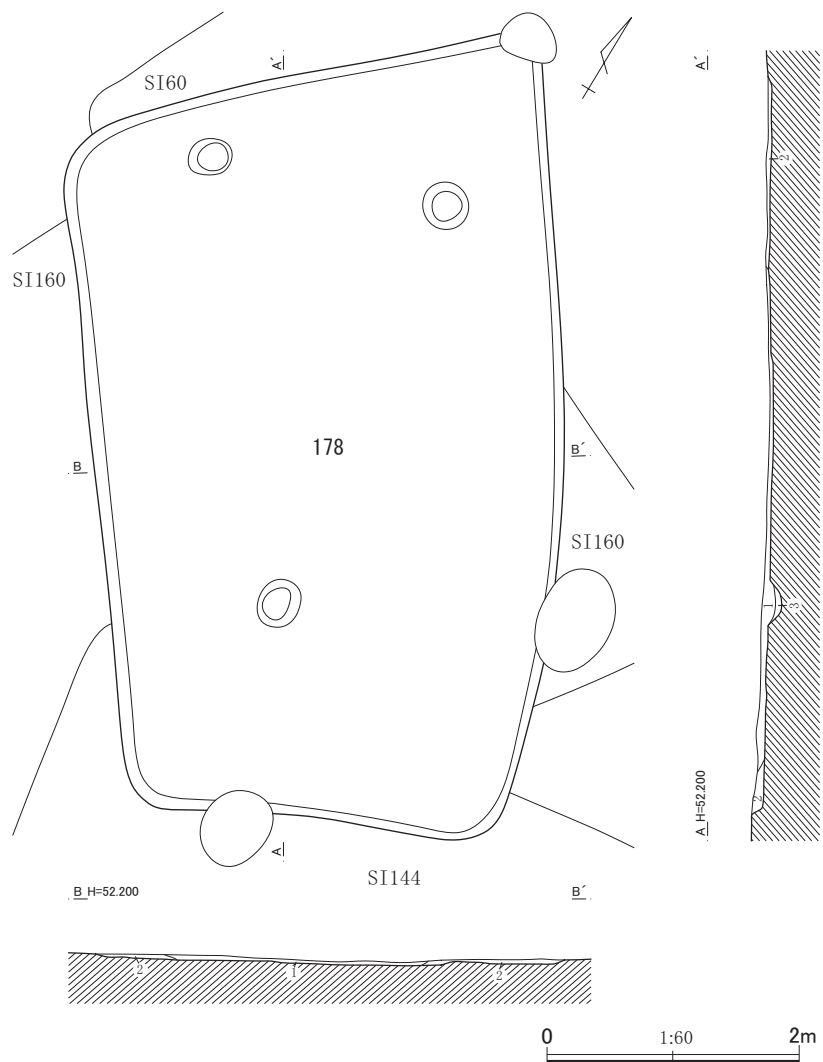
第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)を多量に含み、ローム小塊(～50mm)を中量含む。

第372図 第177号住居跡平面・断面図

第178号住居跡 (第373・374、図版41)

調査地点の南縁近くの中中央、やや西寄り、P13・14グリッドに位置し、I群に含まれる住居跡である。第186・203・263号住居跡を切っており、第88・144・160号住居跡に切られ、南東壁以外の壁はかすかな段としてしか検出することができなかった。また、第60号住居跡とも重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

北西壁と南東壁が平行せず、長さもかなり異なるためかなり歪ではあるが、平面形は、長方形と見てよいであろう。規模は、北西-南東方向で5.58m、北東-南西方向で3.55mである。北西-南東方向での中軸線の方位はN-33°-Wである。床面の硬化は顕著ではない。壁高は、最も残りの



第373図 第178号住居跡平面・断面図(1)

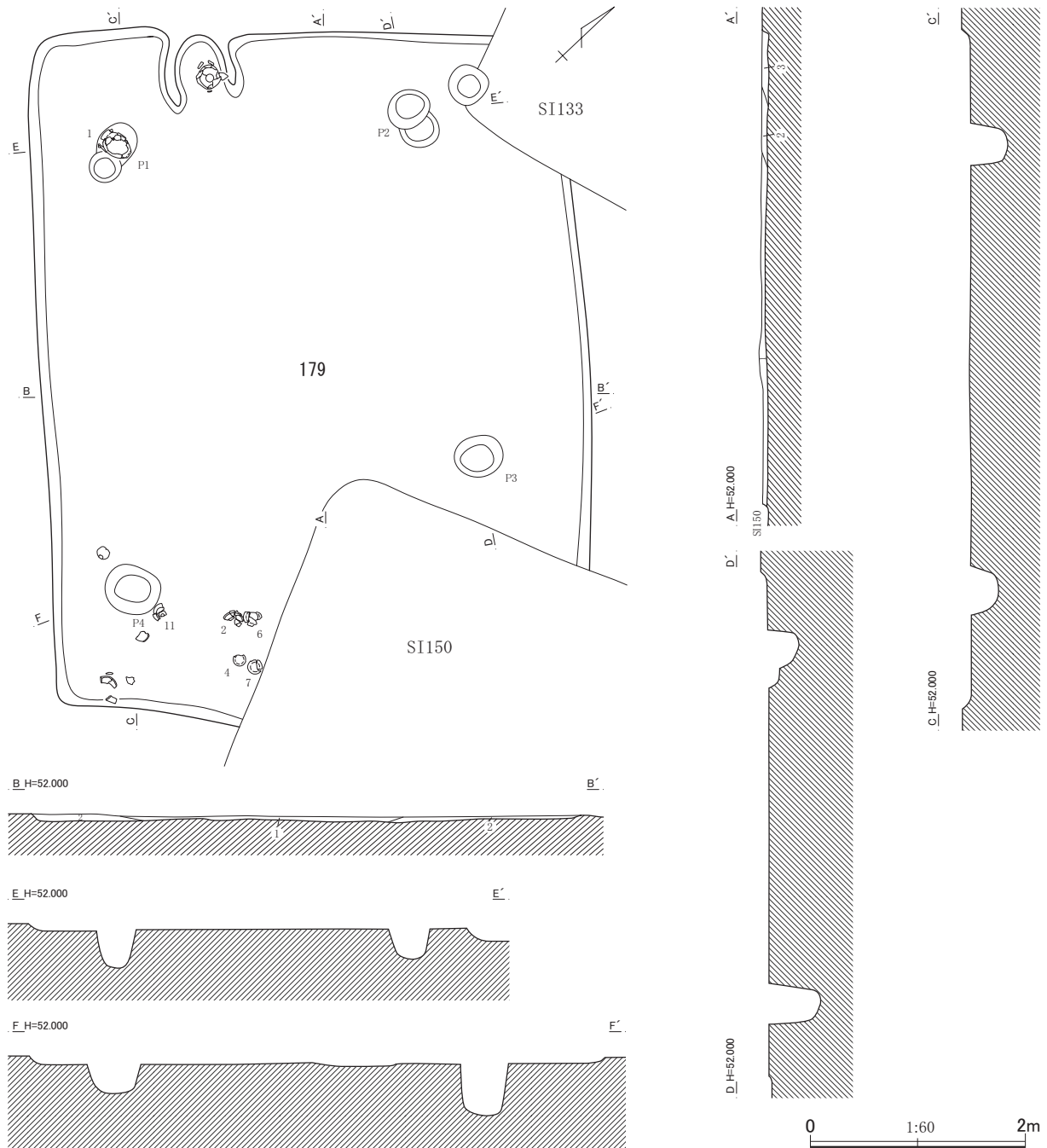
第178号住居跡土層説明

第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。

第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を中量含む。

第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を多量に含む。

第374図 第178号住居跡平面・断面図(2)



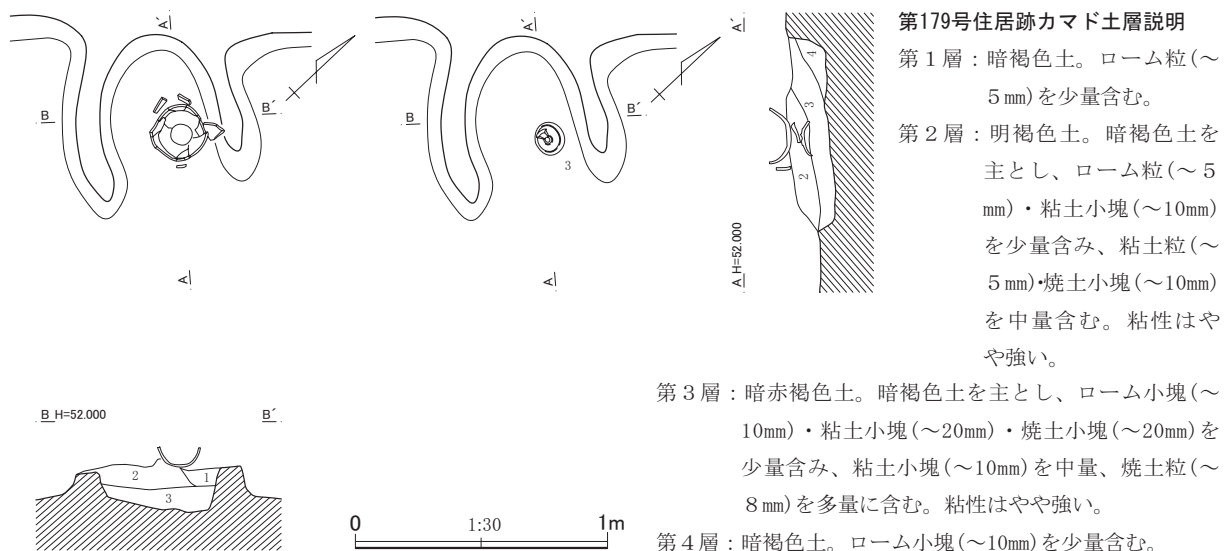
第179号住居跡土層説明

第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を多量に含み、ローム小塊(～10mm)を少量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含む。

第3層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・粘土粒(～4mm)を中量含み、焼土粒(～1mm)を少量含む。

第375図 第179号住居跡平面・断面図(1)



第376図 第179号住居跡平面・断面図(2)

よい南東壁で8cm、他の壁は2cmほどである。

本住居跡に伴う可能性のあるピットを3個検出したが、位置的に見て、支柱穴と見るのは難しいかと思われる。上端での平面形は、円形、ないしはやや不整な円形である。

土師器小片を主とする遺物が覆土中より微量出土している。重複関係から見て、古墳時代後期中葉から古墳時代後期後葉前半にかけての遺構である可能性が考えられる。

第179号住居跡(第375～377図、第176表、図版41・152)

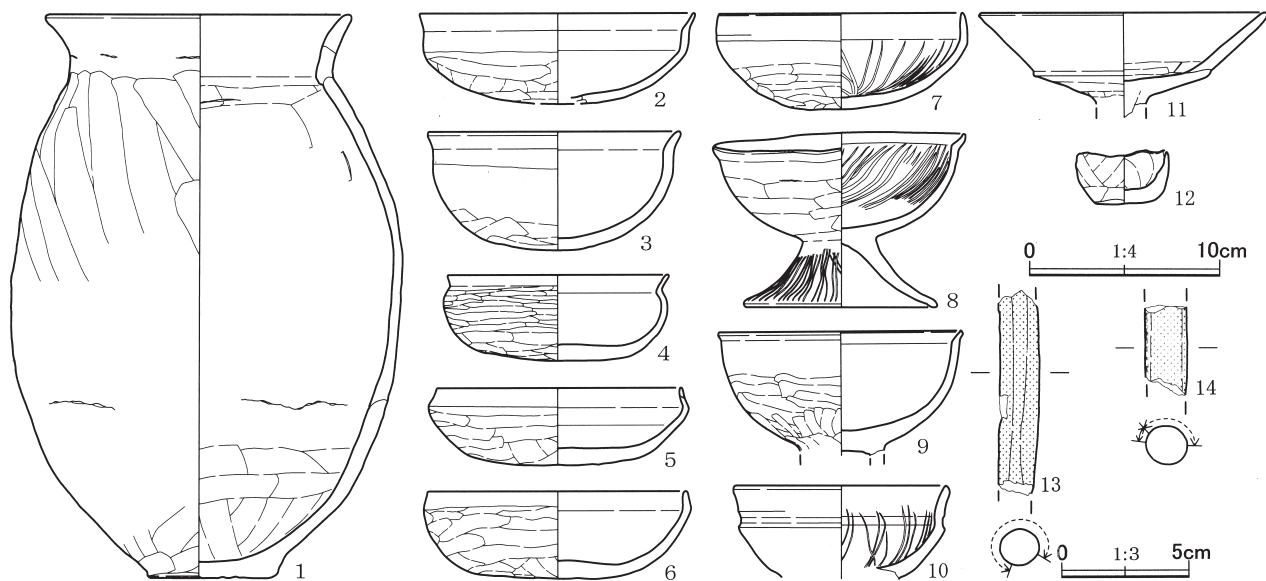
調査地点の南東部の中央、やや南西寄り、R13・14グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第250号住居跡を切っており、第133・150号住居跡に切られ、北隅、東隅近辺を壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、長方形である。規模は、主軸方向で6.29m、副軸方向で4.96m、主軸方位は、N-49°-Wである。床面は、中央を中心に、不規則に、局部的に硬化している。壁自体辛うじて残るのみであり、壁高は、北西・南西壁で5cm、北東壁で2cmである。

支柱穴の可能性のあるピットは、位置的に見て、P1～P4の4つである。上端での平面形は、いずれもやや歪な楕円形である。深さは、P1が35cm、P2が28cm、P3が49cm、P4が27cmである。

カマドは、北西壁のかなり北西隅に寄った位置に付設されている。逆U字状に彎曲した袖に挟まれた燃焼部が残存する。燃焼部の長さは75cm、横幅は46cmである。燃焼面は、床面をかなり掘り下げて設けられている。カマドの覆土は4層で、粘土小塊や焼土小塊をかなり含む焼土粒を多量に含む第3層は、天井部などの崩落土であろう。燃焼面の中央右袖寄りの位置の覆土中層から、倒置された3の坏が出土しており、その上部から丸底の土器底部が出土している(第376図)。

第377図1の甕は、P1脇の上層から、3の坏は、カマド内の中層から出土している。2・4・6・7の坏、11の高坏坏部は、P4脇から南東壁にかけての上～中層から出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期初頭(新相)の遺構と考えられる。



第377図 第179号住居跡出土遺物

第176表 第179号住居跡出土遺物観察表

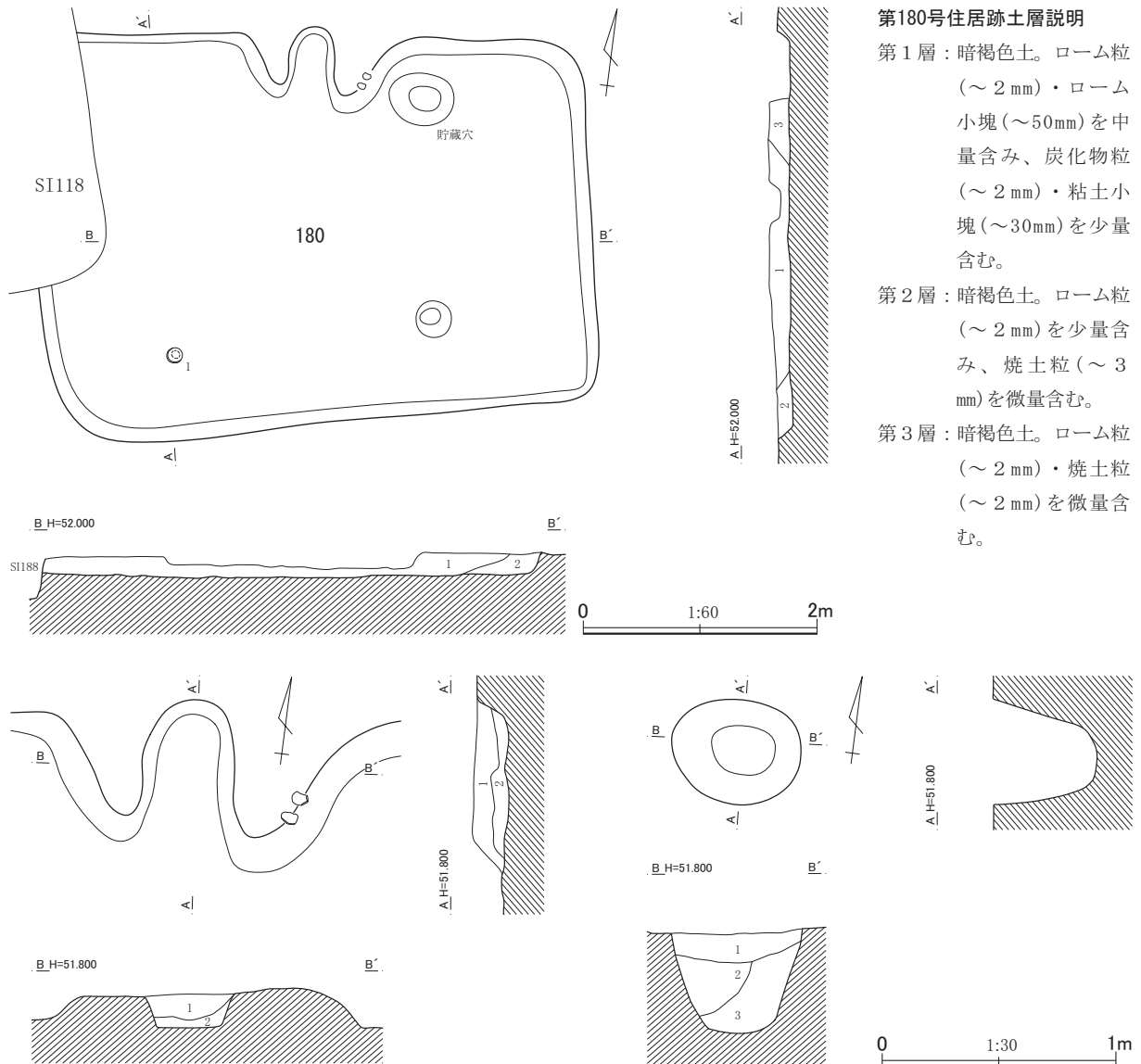
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 16.5 底径 7.1 器高 31.0	口縁部は外反する。胴部は中位に膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。底部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部~底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 外-橙色 内-明赤褐色	胴部1/4欠損
2	坏	口径 (15.1) 底径 — 器高 [4.9]	丸底。体部は彎曲し、口縁部は外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。	白色粒 外-赤色 内-明赤褐色	1/2残存
3	坏	口径 (13.9) 底径 — 器高 6.5	丸底。体部は彎曲し、口縁部は短く外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。	白色粒 内外-橙色	2/3残存
4	坏	口径 (12.1) 底径 — 器高 4.7	丸底。体部は彎曲し、口縁部は短く外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部上半ミガキ。体部下半~底部ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外-明赤褐色	2/3残存
5	坏	口径 13.5 底径 — 器高 4.3	丸底。体部は彎曲し、口縁部は内傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 外-橙色 内-明赤褐色	口縁部一部欠損
6	坏	口径 14.3 底径 — 器高 4.8	丸底。体部は彎曲し、口縁部は内傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。内面-口縁部~体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒 内外-にぶい赤褐色	口縁部~体部2/3欠損
7	坏	口径 13.5 底径 — 器高 5.3	丸底。体部は彎曲し、口縁部は内傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ。体部~底部放射状暗文。	白色粒・黒色粒 内外-橙色	口縁部一部欠損
8	高坏	口径 13.8 底径 10.4 器高 9.6	坏部は丸みもち、口縁部は短く外傾する。脚部はハの字状に開く。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。坏部ヘラナデ。脚部ヨコナデ後ミガキ。内面-口縁部ヨコナデ。坏部放射状暗文。脚部ヨコナデ。	片岩・白色粒・黒色粒・褐色粒 内外-橙色	脚部1/3欠損
9	高坏	口径 13.3 底径 — 器高 [6.8]	坏部は丸みもち、口縁部は短く外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。坏部ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ。坏部ヘラナデ。	白色粒 内外-橙色	坏部のみ
10	高坏	口径 11.6 底径 — 器高 [5.1]	口縁部は坏部との境に稜をもつて外反する。口唇部は外側に面をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。坏部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ。坏部放射状暗文。	白色粒・黒色粒・褐色粒 内外-にぶい橙色	坏部のみ
11	高坏	口径 (15.8) 底径 — 器高 [5.7]	口縁部は坏部との境に稜をもつて外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。坏部ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ。坏部ヘラナデ。	白色粒 内外-赤褐色	坏部1/3残存
12	手捏ね土器	口径 (4.9) 底径 3.4 器高 3.0	平底。体部から口縁部にかけて内彎気味に立ち上がる。手捏ね成形。	外面-口縁部~底部ナデ。内面-口縁部~底部ナデ。	白色粒・黒色粒 内外-明褐色	口縁部1/3欠損
13	棒状土製品	第971図82、第439表参照。				No.82
14	棒状土製品	第971図83、第439表参照。				No.83

C地点

第180号住居跡（第378・379図、第177表、図版41・152）

調査地点の南縁近くの中央、やや東寄り、R11・12、S11・12グリッドに位置し、F群に含まれる住居跡である。第209・305・318号住居跡を切り、それら住居跡の上部に造られた住居跡である。また、第118号住居跡に切られ、北西隅から西壁にかけて、あるいは南側の壁の上部を壊されている。なお、第162・234号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、横長の長方形である。規模は、主軸方向で3.23m、副軸方向で4.05m、主軸方位は、N-8°-Wである。床面には微妙な凹凸が目立つが、全体としてはおおむね平坦である。床面の硬化



第180号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒（～2mm）・ローム小塊（～50mm）を中量含み、炭化物粒（～2mm）・粘土小塊（～30mm）を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含み、焼土粒（～3mm）を微量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒（～2mm）・焼土粒（～2mm）を微量含む。

第180号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒（～2mm）・粘土粒（～2mm）を少量含み、焼土粒（～2mm）を微量含む。
- 第2層：黄灰褐色粘土。黄灰褐色土を主とし、粘土粒（～1mm）を多量に含み、炭化物粒（～2mm）を微量含む。粘性はやや強い。

第180号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～15mm）を少量含む。
- 第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊（～10mm）・ローム小塊（～30mm）を中量含む。

第378図 第180号住居跡平面・断面図

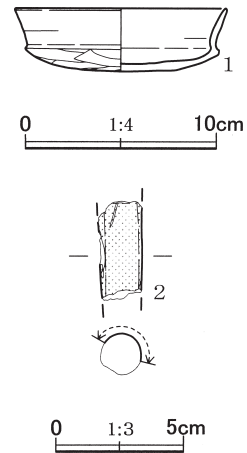
は顕著ではない。壁高は、北壁で11cm、東壁で16cm、南壁で13cmである。

貯蔵穴は、カマド右袖脇で検出した。上端での平面形は楕円形で、長径54cm、短径44cmである。丸みをもったバケツ状に掘り込まれており、深さは41cmである。覆土は3層で、第3層は、かなり大ぶりのローム小塊を水玉状に含む、埋め戻されたと思われる土である。南東半でピットを1個検出しているが、位置的に柱穴とは決めかねる。深さは23cmである。

カマドは、北壁のほぼ中央に微妙に斜行して付設されている。短い両袖に挟まれた燃焼部が残存する。燃焼部の袖端までの長さは66cm、横幅は38cmである。燃焼面は、わずかに掘りくぼめられており、凹凸が目立つようである。被熱赤化の痕跡は、全く見られない。カマドの覆土は2層で、第2層は、黄灰褐色粘土を多量に含み、カマド構築材の崩落土かと思われる土である。

覆土は、暗褐色土を主とする3層に分けられた。壁沿い、壁寄りの堆積土である第2・3層堆積後、ロームの目立つ第1層が多量に流入して住居跡が埋まった、あるいは埋められた模様である。

第379図1の坏は、住居跡南西半の覆土中から出土した。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末期前葉の遺構と考えられる。



第379図 第180号
住居跡出土遺物

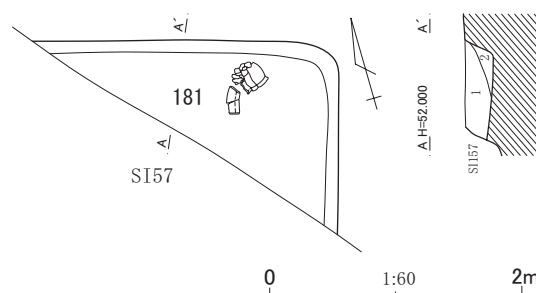
第177表 第180号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 11.5 底径 — 器高 3.5	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部—底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部—底部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 外—浅黄橙色 内—にぶい橙色	ほぼ完形 黒色処理の可能性あり
2	棒状土製品	第971図84、第439表参照。				No.84

第181号住居跡（第380・381図、第178表、図版41・152）

調査地点の中央、やや西寄り、P10、Q10・11グリッドに位置し、F群に含まれる住居跡である。第296号住居跡を切っている。第57号住居跡に切られ、残存するのは北東隅とそこから伸びる北壁、東壁からなる三角形の極わずかな範囲である。また、第182号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

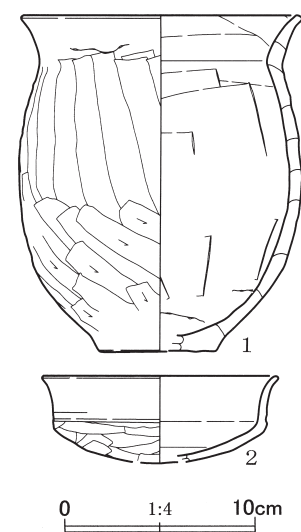
いずれも現存値になるが、規模は、南北方向で1.53m、東西方向で2.40mである。東壁はN-17°-Eを指している。



第181号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒（～4mm）を少量含む。
第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～4mm）・ローム小塊（～20mm）を中量含む。

第380図 第181号住居跡平面・断面図



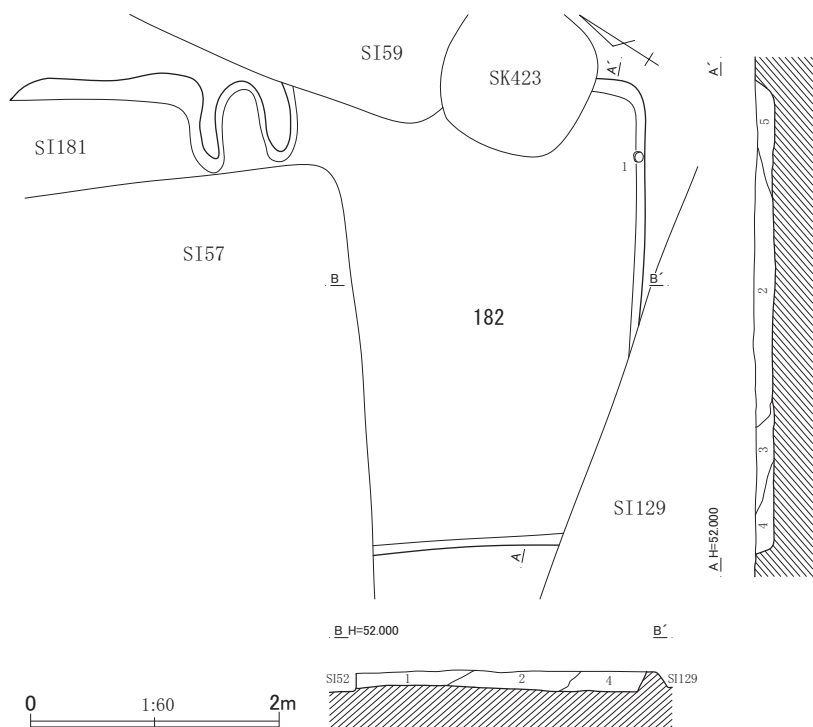
第381図 第181号
住居跡出土遺物

第178表 第181号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	小型甕	口径 (15.0) 底径 (6.3) 器高 18.5	口縁部は外反する。胴部は下位に膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。底部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部~底部ヘラナデ。	片岩・白色粒・黒色粒 外-橙色 内-にぶい橙色	口縁部1/5、 底部2/3欠損
2	坏	口径 (12.8) 底径 — 器高 [4.7]	丸底。口縁部は体部との境に弱い稜をもって立ち上がり、上端で外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部~体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 内外-橙色	1/3残存

床面はほぼ平坦で、硬化している。壁高は、北壁で23cmである。

覆土は、暗褐色土を主とする2層である。第381図1は、北壁近くの床面よりやや浮いた位置から出土した小型の甕である。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期中葉の遺構と考えられる。



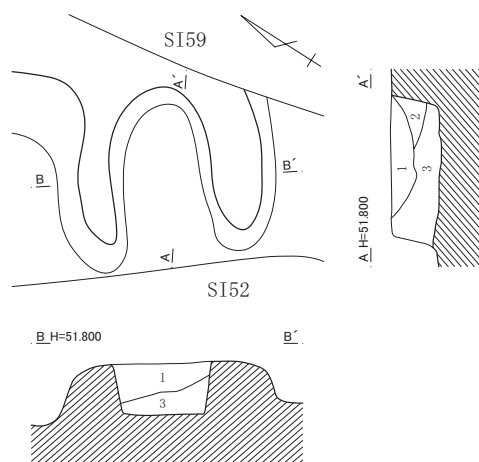
第182号住居跡土層説明

- 第1層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～6mm)・ローム小塊(～20mm)・焼土小塊(～20mm)を少量含み、焼土粒(～4mm)を中量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を中量含み、粘土粒(～2mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。
- 第3層：暗褐色土3ローム粒(～1mm)・焼土粒(～1mm)を少量含む。
- 第4層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)を多量に含み、ローム小塊(～15mm)・焼土粒(～4mm)を中量含む。
- 第5層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含む。

第382図 第182号住居跡平面・断面図(1)

第182号住居跡(第382～384図、第179表、図版41・153)

調査地点のほぼ中央、P11、Q10・11グリッドに位置し、F群に含まれる。第151号住居跡、第424号土坑を切って造られており、第57・59・129号住居跡、第423号土坑に切られ、遺構の北西半、南隅などの他、



第182号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、粘土小塊(～20mm)・焼土小塊(～30mm)を少量含む。粘性はやや強い。
- 第2層：暗褐色土。焼土粒(～2mm)を中量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～6mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。

第383図 第182号住居跡平面・断面図(2)

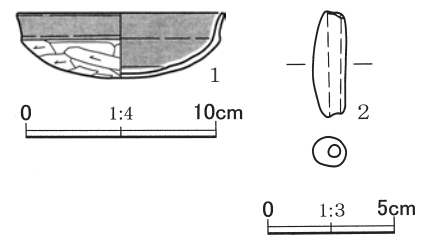
本来の壁上部の多くが失われている。また、第181号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、横長の長方形と見てよいであろう。規模は、主軸方向で3.76m、副軸方向での現存長は4.83m、主軸方位は、N-57°-Eである。床面には細かな凹凸があるが、全体的に平坦である。壁際を除く床面は、軽微ながらも硬化している。壁高は、北東・南東壁で16cm、南西壁で15cmである。

カマドは、北東壁に付設されている。両袖に挟まれた燃焼部を有する形態であり、燃焼面は、浅く掘りくぼめられ作出されている。袖端を先端と見るなら、燃焼部の長さは68cm、横幅は39cmである。燃焼部の被熱赤化は顕著ではない。カマド覆土は3層で、第1層には、粘土小塊、焼土小塊が若干含まれる。

住居跡覆土は、暗褐色土を主とする5層に分けられた。壁際、壁近くの第3～5層が堆積した後、全体にロームが多く、焼土、粘土を含む第1・2層が流入して埋まり切った模様である。

第384図1の坏は、南東壁沿いの中層から出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期後葉後半の遺構と考えられる。



第384図 第182号住居跡出土遺物

第179表 第182号住居跡出土遺物観察表

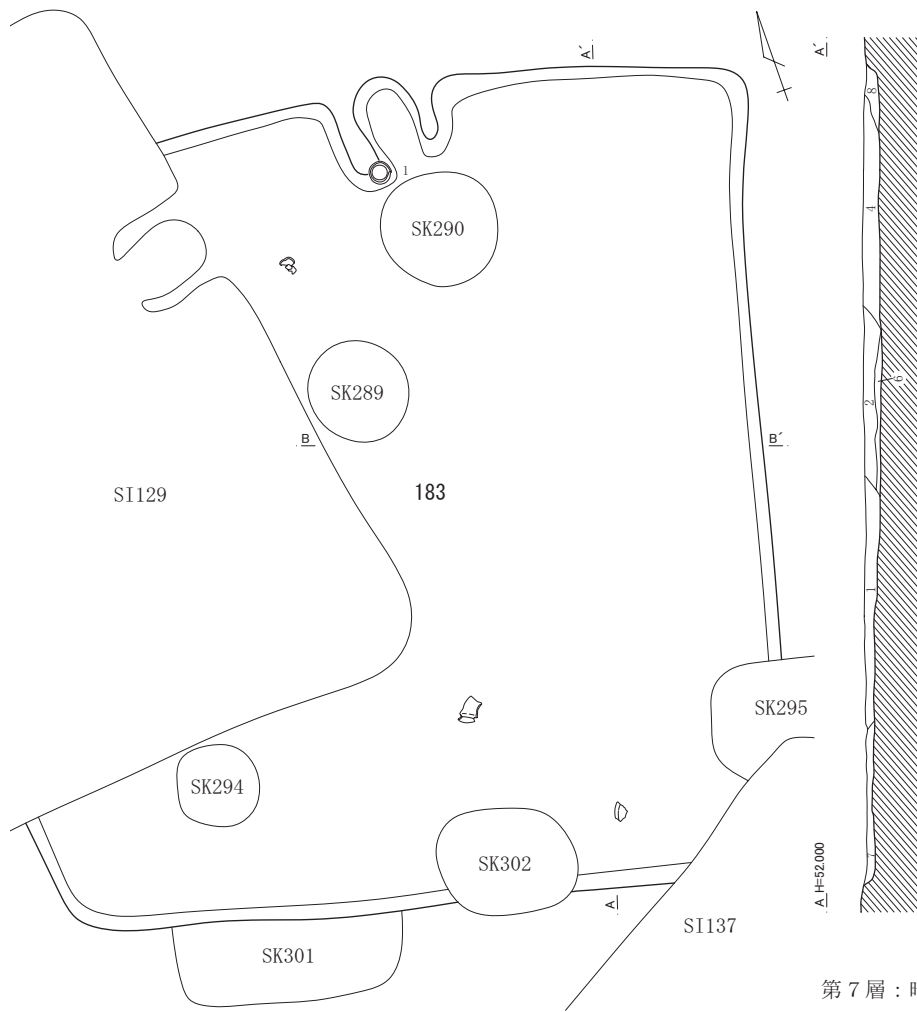
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 (11.2) 底径 — 器高 3.5	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ、黒色処理。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。黒色処理。	白色粒 外—橙色 内—黒色	1/5残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
2	土錘	長さ4.4、幅1.4、厚さ1.2、重さ6.94g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：明赤褐色。				完形

第183号住居跡（第385・386図、第180表、図版42・153）

調査地点の中央、やや南西寄り、Q11・12グリッドに位置し、F群に含まれる住居跡である。第196・215・307・323号住居跡を切っており、第129号住居跡、第289・290・294・295・301・302号土坑に切られ、遺構の北西部分や南東隅などを壊されている。また、第137・282号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

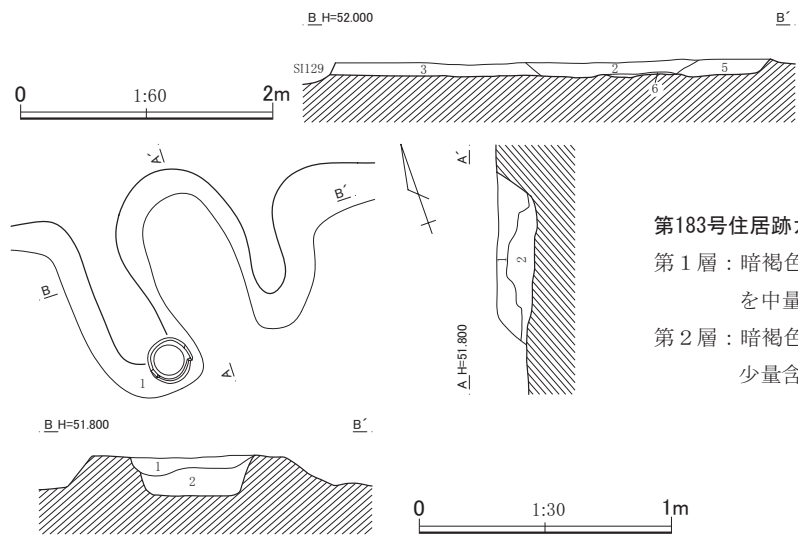
残存する壁をそのまま直線的に延長すると、平面形は、かなり歪な形と考えざるを得ない。歪ではあるが、方形に近い形態と見ることにしたい。規模は、主軸方向で6.55m、副軸方向では、南壁近くでの現存長が5.57mである。主軸方位は、N-19°-Eである。床面は、主に中央部が、不規則かつ局所的に軽微ながらも硬化している。壁高は、北壁で12cm、東壁で10cm、南壁で11cmである。

カマドは、北壁に付設されている。ほぼ北壁に直交して設けられているが、北壁西半は、南壁側に向かってかなり屈折しており、斜行するような外観を呈する。短小な袖に挟まれた燃焼部を有する形態で、燃焼部は奥壁側がやや深くなるように浅く掘りくぼめられている。袖端を末端と見るなら、燃焼部の長さは78cm、横幅は44cmである。側壁の上部は、部分的に被熱赤化している。カマド覆土は2



第183号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含み、焼土粒（～2mm）を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒（～3mm）・ローム小塊（～30mm）を少量含み、炭化物粒（～1mm）・焼土粒（～1mm）を微量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム小塊（～30mm）・炭化物粒（～2mm）を微量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム小塊（～30mm）・炭化物粒（～2mm）を少量含み、焼土小塊（～30mm）を中量含む。
- 第5層：暗褐色土。ローム小塊（～30mm）を少量含み、焼土粒（～2mm）を微量含む。
- 第6層：暗褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含む。
- 第7層：暗褐色土。ローム小塊（～30mm）を多量に含む。
- 第8層：暗褐色土。ローム粒（～2mm）・焼土粒（～20mm）を少量含み、炭化物粒（～2mm）を微量含む。



第183号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒（～3mm）・焼土小塊（～10mm）を中量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒（～3mm）・焼土粒（～5mm）を少量含む。

第385図 第183号住居跡平面・断面図

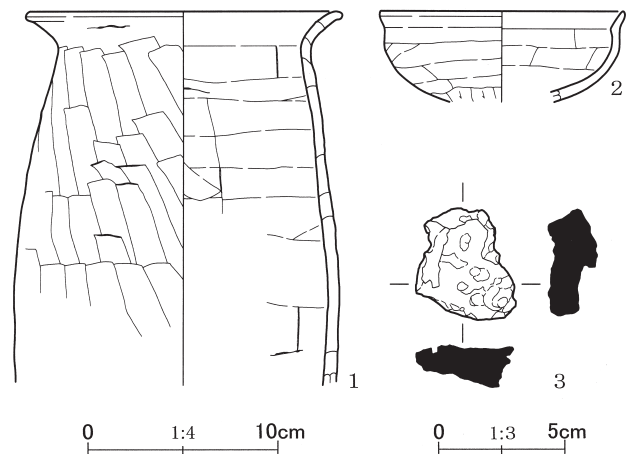
層で、第1層には、焼土小塊のまとまりが見られる。第386図1の甕は、左袖の袖甕として埋め込まれたものである。

第180表 第183号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 16.9 底径 — 器高 [20.5]	口縁部は外反する。胴部は膨らみをもたない。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—浅黄橙色	口縁部～胴部上半2/3残存
2	坏	口径 (13.4) 底径 — 器高 [5.0]	体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は短く外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外—橙色	1/3残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
3	鉄滓	長さ4.6、幅4.1、厚さ2.0、重さ33.34g。				完形

住居跡覆土は、暗褐色土を主とする8層に分けられた。全体に住居跡覆土は、暗褐色土を主とする8層に分けられた。全体に焼土や炭化物の混入が著しいことが特徴になるようである。

重複関係、カマドの袖甕から見て、古墳時代後期前葉から中葉にかけての遺構である可能性が考えられるようである。



第386図 第183号住居跡出土遺物

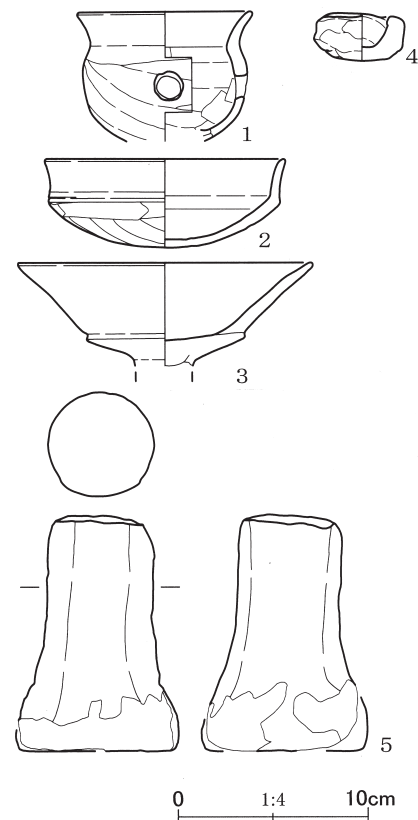
第184号住居跡（第387・388図、第181表、図版42・153）

調査地点の中央、やや南寄り、R12グリッドに位置し、F群に含まれる住居跡である。第86・115・162号住居跡に切られ、遺構の大半を壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

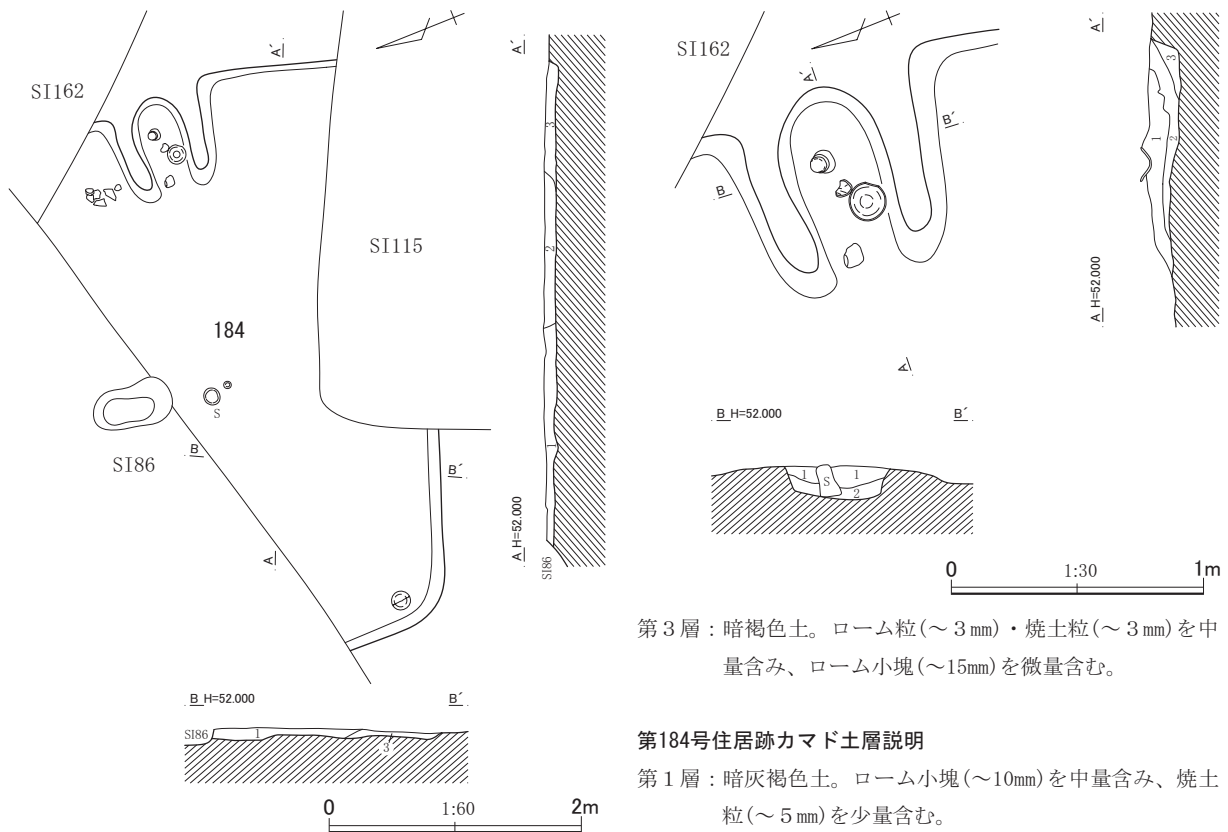
平面形は、縦長の長方形になりそうである。規模は、主軸方向で4.69m、副軸方向の残りのよい部分での現存値は2.33m、主軸方位はS-79°-Eである。カマド前面や右袖脇がかすかに硬化している。壁高は、東壁で4cm、南壁で2cmほどである。

カマドは、東壁に付設されている。住居内に奥壁が収まる形態で、細長い袖が残存している。袖端を末端とするなら、燃焼部の長さは76cm、横幅は41cmである。燃焼面は、かなり凸凹しており、奥壁付近がかすかに掘りくぼめられている。奥壁、側壁の上部は、部分的に被熱赤化している。燃焼部のやや奥壁寄りの位置に土製の支脚（第387図5）が据え置かれていた。支脚とは若干離れた右袖沿いの最上層からは、3の高坏坏部が出土している。

住居跡覆土は、暗褐色土を主とする3層で、ロームがかなり混入する特徴が見られた。



第387図 第184号住居跡出土遺物



第184号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含む、ローム小塊(～10mm)を微量含む。

第3層：暗褐色土。ローム粒(～3mm)・焼土粒(～3mm)を中量含む、ローム小塊(～15mm)を微量含む。

第184号住居跡カマド土層説明

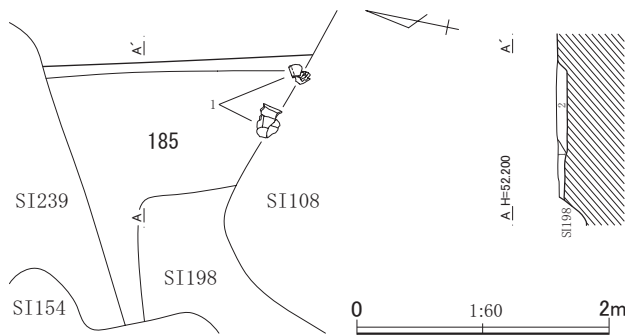
- 第1層：暗灰褐色土。ローム小塊(～10mm)を中量含む、焼土粒(～5mm)を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)を少量含む、焼土粒(～2mm)を微量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～3mm)を微量含む、焼土粒(～2mm)を少量含む。

第388図 第184号住居跡平面・断面図

第181表 第184号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 (9.4) 底径 — 器高 [7.1]	口縁部は外反する。体部はあまり張らず、中位に孔径1.7×1.6cmの円孔。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。内面－口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 外－橙色 内－明赤褐色	1/3残存
2	坏	口径 13.1 底径 — 器高 4.9	丸底。口縁部は体部との境に弱い稜をもって直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 外－明赤褐色 内－橙色	口縁部1/3欠損
3	高坏	口径 16.1 底径 — 器高 [5.6]	口縁部は坏部との境に稜をもって外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。坏部ヘラナデ。内面－口縁部ヨコナデ。坏部ヘラナデ。	白色粒 内外－橙色	坏部
4	手捏ね土器	口径 3.8 底径 — 器高 2.6	丸底気味。器厚は厚く、体部から口縁部にかけて内彎気味に立ち上がる。手捏ね成形。	外面－口縁部～底部ナデ。内面－口縁部～底部ナデ。	白色粒 内外－にぶい橙色	一部欠損
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
5	土製品支脚	長さ12.9、上面幅4.8、下面幅(8.5)、重さ767.22g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい褐色。調整：ナデ。				下端部欠損

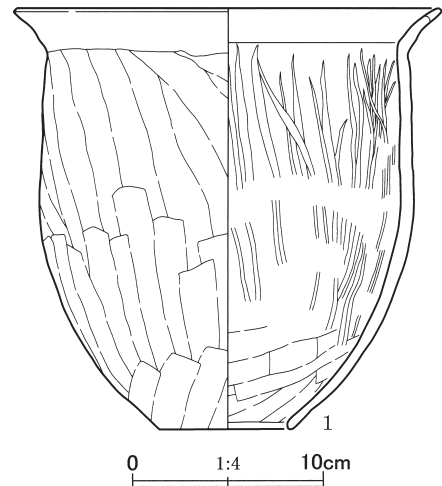
土師器片を主とする遺物が、覆土中からかなりの量出土している。古墳時代後期初頭から後期後葉前半にかけての遺物が混在しているようにも見える。重複関係の所見を勘案するなら、古墳時代後期初頭の遺構である可能性があると考えられる。



第185号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を少量含み、ローム小塊(～20mm)を微量含む。
 第2層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～30mm)を中量含む。

第389図 第185号住居跡平面・断面図



第390図 第185号住居跡出土遺物

第182表 第185号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甌	口径 (23.1) 底径 (7.3) 器高 22.1	口縁部は外反する。胴部は中位から下位へ向かって窄まる。底部は筒抜け。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。内面一口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ後ミガキ、端部ナデ。	白色粒 内外一橙色	1/3残存

第185号住居跡 (第389・390図、第182表、図版153)

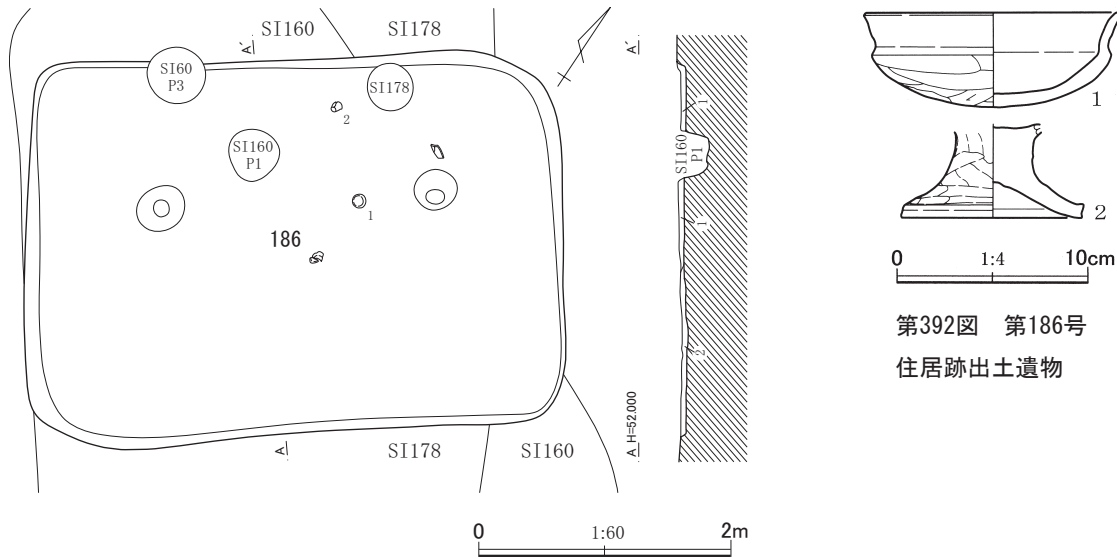
調査地点の南東隅近く、T14グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第108・154・198・239号住居跡に切られ、遺構の大半を壊されている。残存するのは、東壁と床面のほんのわずかな範囲である。第226号住居跡とも重複する。なお、第109・130・166号住居跡とも重複しておかしくない位置にあるが、他の遺構が介在しており、直接重複関係にはない。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

東壁の現存長は、2.08m、因みに東壁の指す方位は、N-15°-Wである。床面は、平坦であり、硬化している。東壁の壁高は、7cmである。第390図1の甌は、住居跡残存部分の南半の覆土上層から出土した。他には、覆土中から土師器小片を主とする遺物が少数出土しているのみである。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期初頭(古相)の遺構と考えられる。

第186号住居跡 (第391・392図、第183表、図版42・153)

調査地点の南縁近くの中央、やや西寄り、P13・14グリッドに位置し、E群に含まれる住居跡である。第203・263号住居跡を切っており、第60・88・160・178号住居跡と重複し、全体に壁がほんのわずかしかなかったり壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、長方形あるいは隅丸長方形と見られる。規模は、北西-南東方向で2.85m、北東-南西方向で4.14mである。カマドがないため主軸を定めることができないが、北西-南東方向での中軸線の方位はN-37°-Wである。床面は、中央や壁から少し離れた部分が、不規則に島状に硬化している。壁高は、北西壁で8cm、北東壁で10cm、南東壁で5cm、南西壁で14cmである。床面で検出したピ



第392図 第186号
住居跡出土遺物

第186号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を少量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を多量に含む。

第391図 第186号住居跡平面・断面図

第183表 第186号住居跡出土遺物観察表

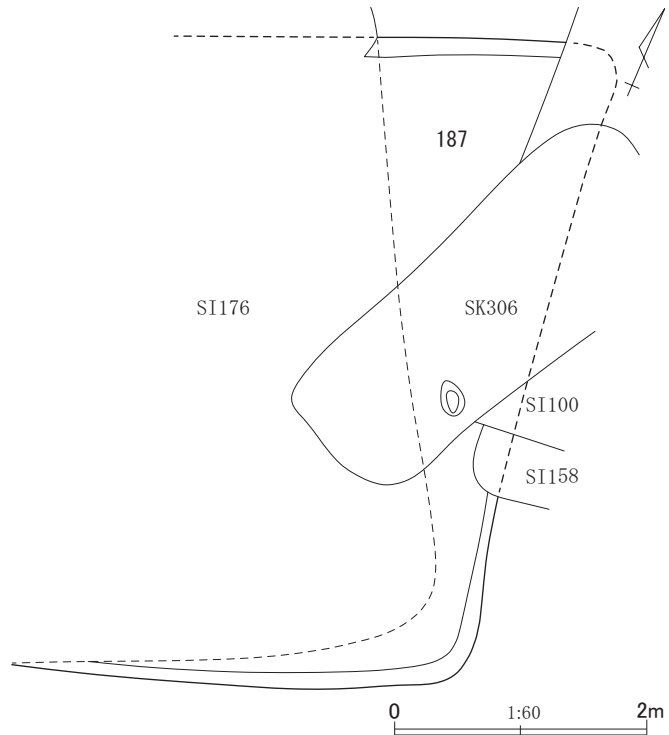
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 13.9 底径 — 器高 5.2	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 外—橙色 内—明赤褐色	口縁部一部欠損
2	高坏	口径 — 底径 9.9 器高 [5.1]	脚部は柱状を呈し、下方はハの字状に開く。端部は外側に平坦面をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—脚部ヘラナデ、端部ヨコナデ。内面—脚部ヘラナデ、端部ヨコナデ。	白色粒・黒色粒・褐色 外—にぶい橙色 内—褐灰色	脚部

ットの内、本住居跡に伴う可能性のあるのは2個であるが、柱穴と断定することができない。

第392図1の坏、2の高坏脚部片は、床面中央、北西壁寄りから出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期中葉の遺構と考えられる。

第187号住居跡 (第393図)

調査地点の南縁近くのほぼ中央、P14・15グリッドに位置し、I群に含まれる住居跡である。第189・194号住居跡を切っている。また、第100・158・176号住居跡、第306号土坑に切られ、大きく壊されており、本来の住居跡の東半の極一部のみ残存する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。



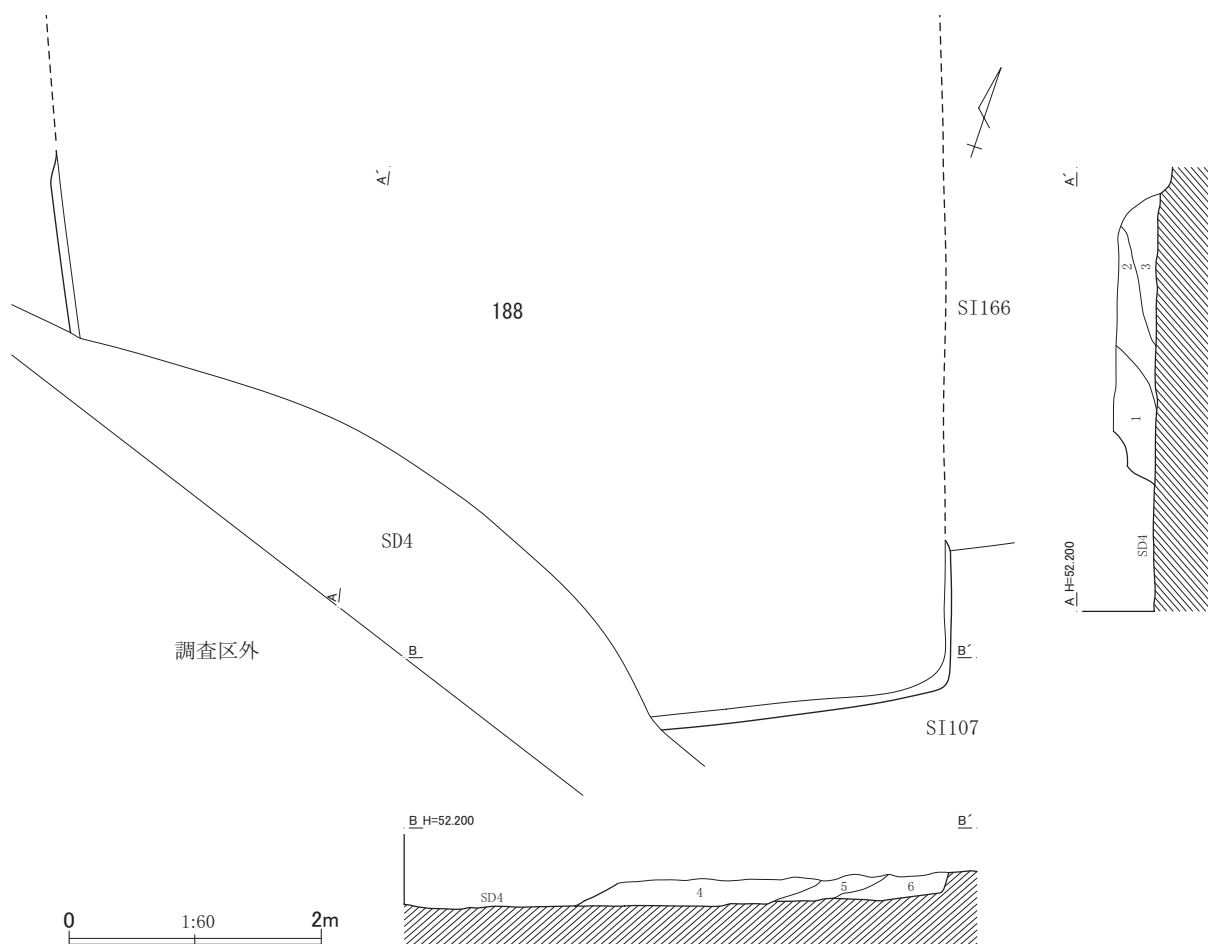
第393図 第187号住居跡平面図

平面形は不明であるが、かなり歪な形になりそうである。規模は、南北方向で4.95m、東西方向での現存長は3.50mである。北壁近くの床面は、硬化しているようである。壁高は、北壁で26cm、南壁で20cmほどである。本住居跡に伴う可能性のあるピットは、1個である。上端での平面形は、かなり不整な楕円形で、深さは32cmである。

土師器小片を主とする遺物が覆土中より出土したのみである。重複関係から見て、古墳時代後期後葉後半以前の遺構と考えられる。

第188号住居跡（第394・395図、第184表、図版42・153）

調査地点の南東隅近くの南縁沿い、S14・15グリッドに位置し、G群に含まれる住居跡である。第



第188号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を少量含み、ローム小塊(～30mm)・焼土粒(～4mm)を微量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。

第3層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を少量含み、ローム小塊(～30mm)を微量含む。

第4層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を多量に含み、ローム小塊(～30mm)を中量、焼土粒(～4mm)を少量含む。

第5層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を少量含む。

第6層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。

第④図 第188号住居跡平面・断面図

第394図 第188号住居跡平面・断面図

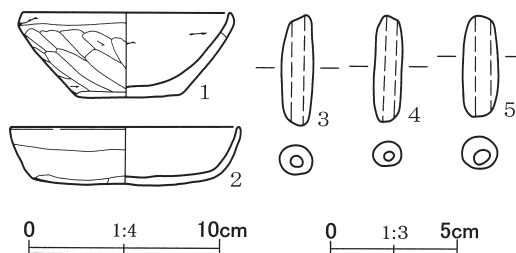
C地点

139号住居跡、第4号溝に切られ、北西隅、北東隅、南西隅など遺構のかなりの範囲を壊されている。南西隅付近は、調査範囲外である。また、第107・109・131・149・166号住居跡と重複する。なお、第169号住居跡とも重なる位置にあるが、他に遺構が介在しており、直接重複関係にはない。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、方形に近い形態と見てよいであろう。いずれも推定値になるが、規模は、南北方向で6.45m前後、東西方向で6.83m前後となる。主軸は確定できないが、南北方向での中軸線は、N-19°-Wを指すようである。床面にはかなり凹凸があり、硬化は顕著ではない。壁高は、東壁で17cmである。

覆土は、6層に分けられた。暗褐色土を主とし、総じてローム粒やロームの小塊が目立つ土層である。

第395図1の坏は、住居跡のほぼ中央の覆土最上層から出土した。2の坏は、覆土中出土である。住居跡の形態、規模などから見るなら問題が残るが、一応出土遺物から判断して、平安時代前期の遺構である可能性を考えたい。



第395図 第188号住居跡出土遺物

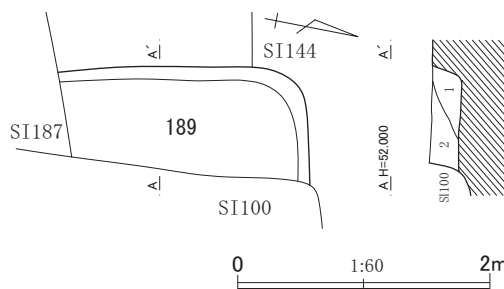
第184表 第188号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手の特徴	調整・装飾手の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 11.4 底径 5.7 器高 4.7	平底。体部は直線的に開き、口縁部は短く内彎する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部~体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外-明赤褐色	完形
2	坏	口径 12.5 底径 10.1 器高 3.2	平底。体部から口縁部にかけて内彎気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部ナデ。底部ヘラケズリ。内面-口縁部~体部ヨコナデ。底部ナデ。	白色粒・黒色粒 内外-橙色	口縁部一部欠損
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
3	土錘	長さ4.6、幅1.3、厚さ1.2、重さ6.75g。	胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい黄橙色。			完形
4	土錘	長さ4.4、幅1.2、厚さ1.0、重さ5.91g。	胎土：白色粒。色調：橙色。			完形
5	土錘	長さ4.2、幅1.5、厚さ1.4、重さ8.30g。	胎土：白色粒。色調：にぶい黄橙色。			完形

第189号住居跡 (第396図)

調査地点の南縁近くのほぼ中央、P14グリッドに位置し、I群に含まれる住居跡である。第100・144・187号住居跡に切られ、北西隅付近のわずかな範囲しか残存しない。確認面は、黄褐色のローム層上面である。いずれも現存値、残存値となるが、規模は、南北方向で1.92m、東西方向で0.87m、壁高は、西壁で21cm、北壁で13cmである。

土器器小片を主とする遺物が覆土中より少量出土しているのみで、出土遺物から時期を決めることができない。重複関係から見て、奈良時代後半以前の遺構である可能性が考えられる。



第189号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(~1mm)を少量含み、ローム小塊(~10mm)・焼土粒(~4mm)を微量含む。
- 第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(~1mm)を中量含み、ローム小塊(~30mm)を微量含む。

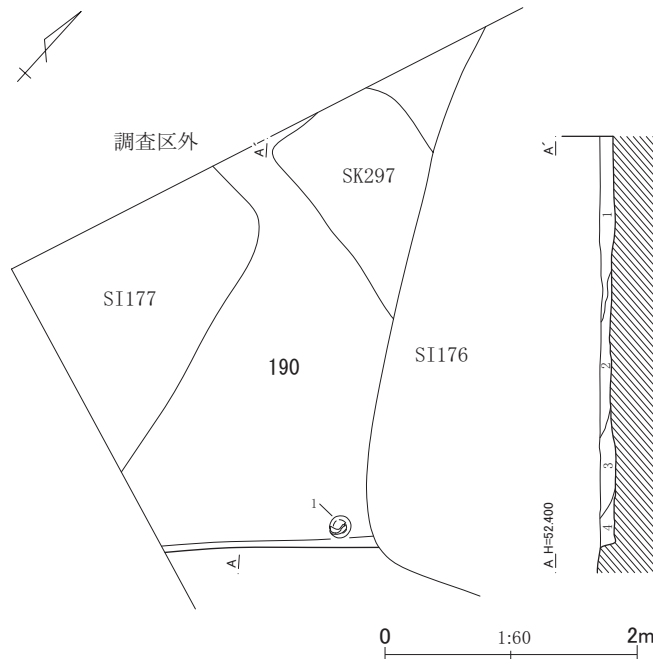
第396図 第189号住居跡平面・断面図

第190号住居跡（第397・398図、第185表、図版153）

調査地点の南縁沿いのほぼ中央、P14・15グリッドに位置し、I群に含まれる住居跡である。第176・177号住居跡、第297号土坑に切られ、遺構の大半が失われている。なお、遺構の西側、南側の部分は、調査範囲外である。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

規模と言うより床面の残存範囲ということになるが、北西-南東方向で3.13m、北東-南西方向で1.15mを測る。南東壁が指指す方位は、N-46°-Eである。床面は、硬化している。壁高は、南東壁で13cmである。

第398図1の坏は、南東壁沿いの床面直上から出土した。重複関係から見ると、古墳時代後期後葉以前の遺構と見られるため、2の坏は、混入した遺物の可能性が高い。1の坏、3の高坏から見て、古墳時代後期初頭（古相）の遺構と考えられる。



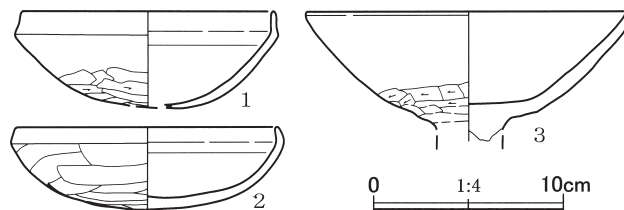
第190号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒（～4mm）を少量含み、ローム小塊（～20mm）を微量含む。
- 第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～6mm）を少量含み、ローム小塊（～40mm）を微量含む。
- 第3層：明褐色土。ローム粒（～8mm）を多量に含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒（～1mm）・ローム小塊（～10mm）を少量含む。

第397図 第190号住居跡平面・断面図

第191号住居跡（第399・400図、図版42）

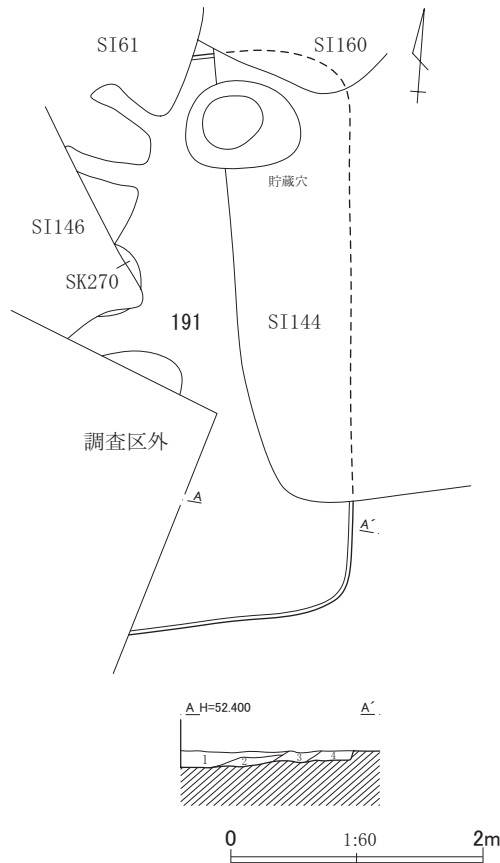
調査地点の南縁沿いの中央、やや西寄り、P14グリッドに位置し、I群に含まれる住居跡である。第61・88・144・146・160号住居跡、第270号土坑に切られ、遺構の大



第398図 第190号住居跡出土遺物

第185表 第190号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 13.8 底径 — 器高 5.3	丸底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は内傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部ナデ。体部下位～底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外-明赤褐色	5/6残存
2	坏	口径 14.3 底径 — 器高 4.5	丸底。体部は内彎気味に開く。口縁部は内屈する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外-明赤褐色	完形
3	高坏	口径 17.8 底径 — 器高 [7.1]	口縁部は内彎気味に開く。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。坏部ヘラケズリ後、下位ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ。坏部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外-橙色	坏部



第191号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を中量含み、ローム粒(～8mm)を微量含む。
- 第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～6mm)・ローム小塊(～20mm)を中量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を多量に含む。

第399図 第191号住居跡平面・断面図(1)

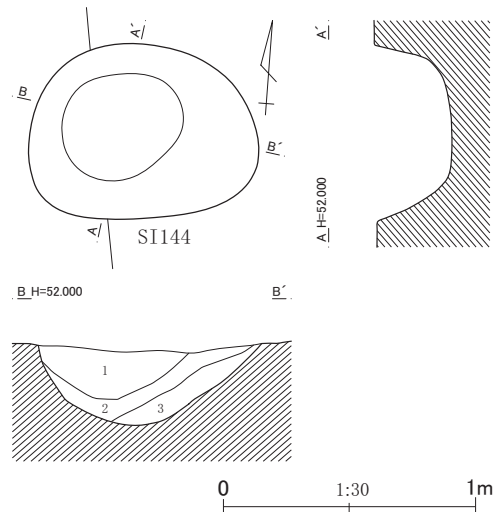
北壁寄りのピットは、貯蔵穴であろう。平面形は、やや不整な楕円形で、長径87cm、短径67cmである。丸みのある形に掘り込まれており、深さは29cmである。ローム小塊をかなり含む暗褐色土を主とする土で埋まっている。

土師器片を主とする遺物が、覆土中から出土したのみである。重複関係から見て、古墳時代後期初頭以前の遺構であろうか。

第192号住居跡(第401・402図、第186・187表、図版43・153・154)

調査地点の南縁近くの中央、やや東寄り、Q14・15、R15グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第78・147・167・168号住居跡に切られ、遺構の一部を壊されている。また、第127号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、方形と見てよいであろう。カマドは検出できなかったが、後述する南西壁沿いで長胴甕



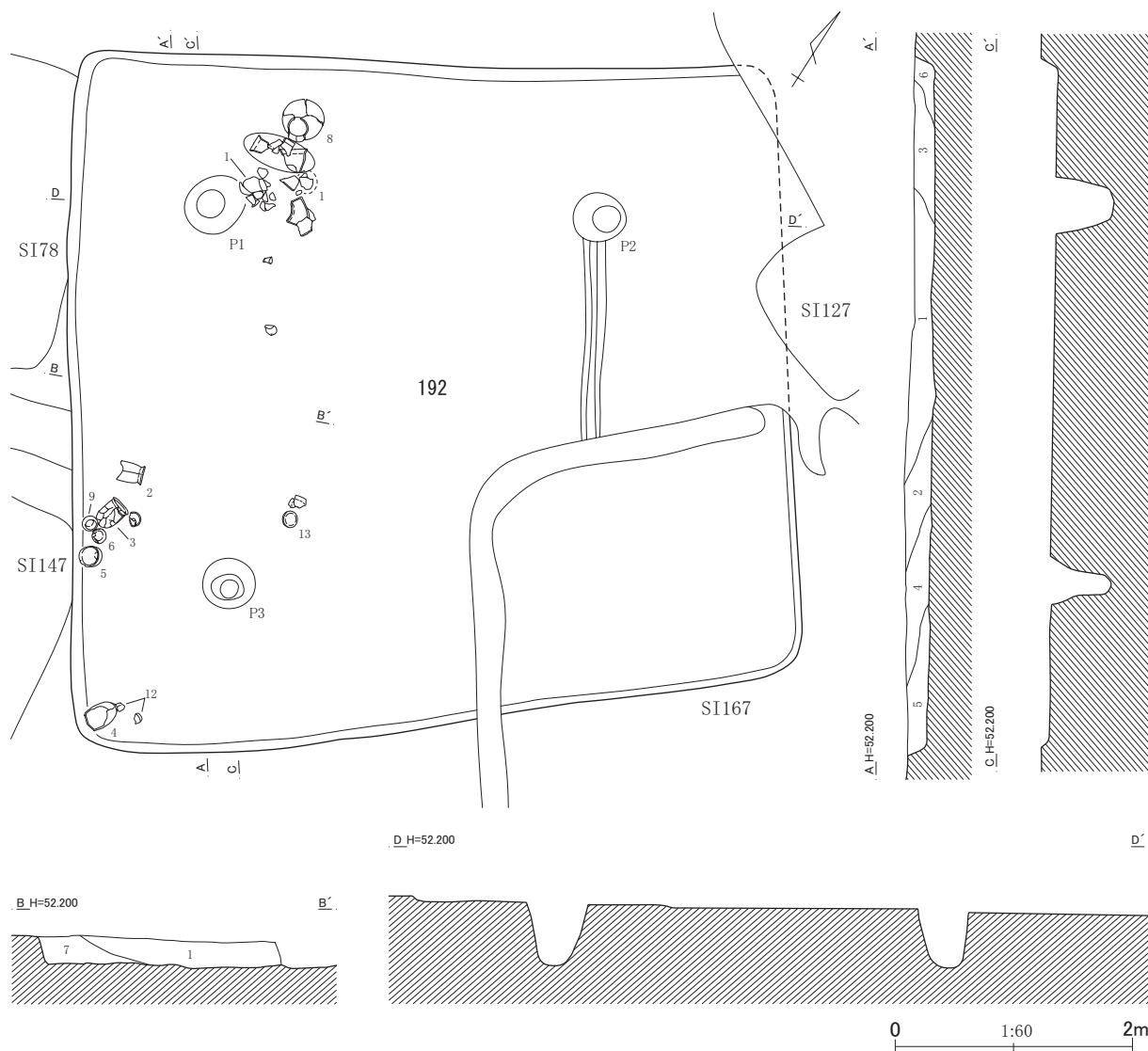
第191号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)を中量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)を中量含み、ローム小塊(～30mm)を微量含む。
- 第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～15mm)を中量含み、ローム小塊(～30mm)を少量含む。

第400図 第191号住居跡平面・断面図(2)

半が壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

規模は、南北方向で4.35m、東西方向で最も残りのよい部分での現存長は1.60mである。主軸は不明であるが、東壁はほぼ南北を向いている。床面は、微妙に凸凹しているが、明瞭に硬化している。壁高は、東壁で8cmである。



第192号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を少量、焼土粒(～5mm)を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～5mm)を微量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小

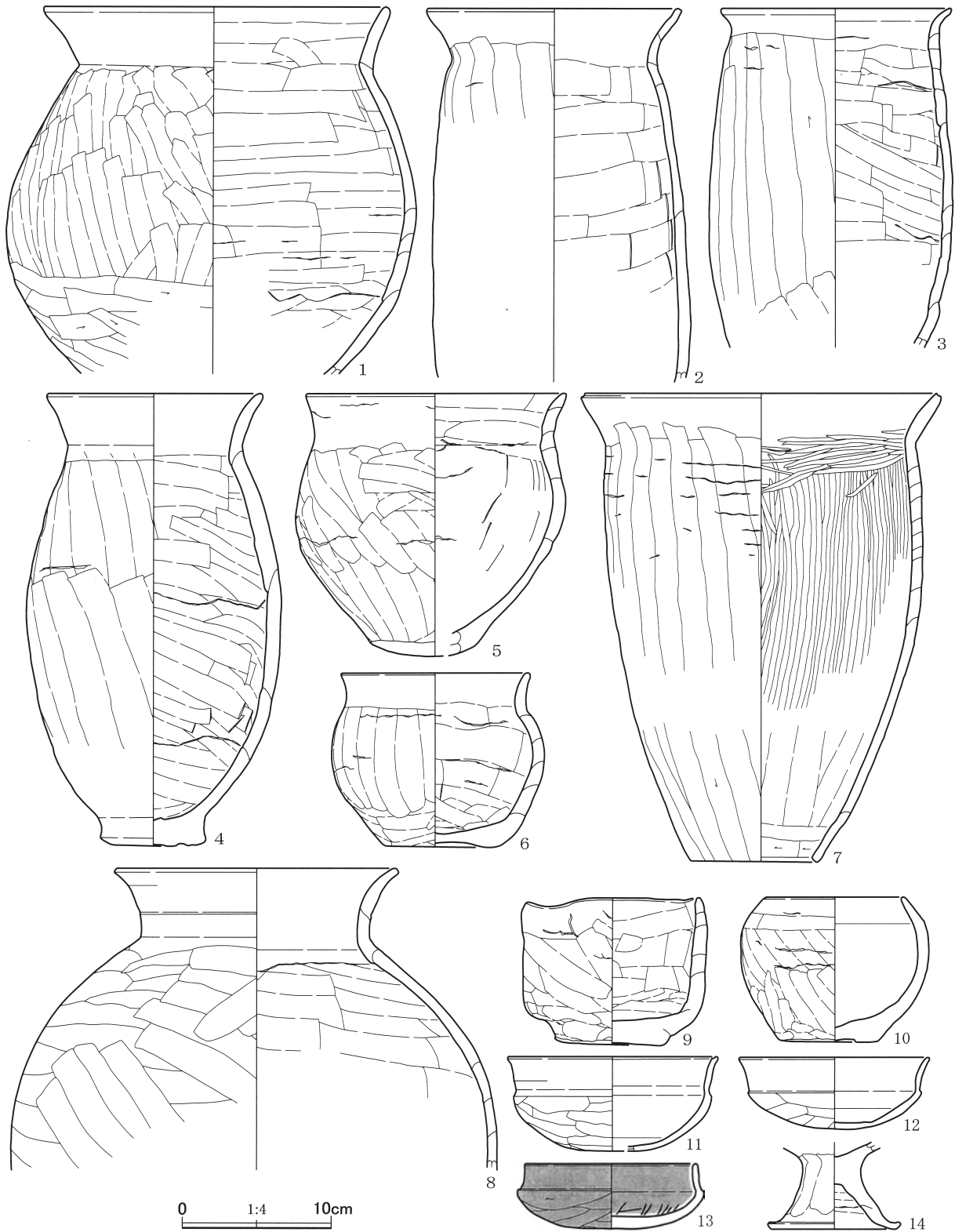
塊(～10mm)・焼土粒(～5mm)を少量含む。

- 第5層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～15mm)を中量含む。
- 第6層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含み、焼土粒(～5mm)を微量含む。
- 第7層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を多量に含み、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～5mm)を少量含む。

第401図 第192号住居跡平面・断面図

や堀などがまとまって出土した範囲では、焼土粒や焼土ブロックがまとまって分布していたようであり、南隅に偏したこの部分にカマドがあったのかもしれない。よって南西－北東を主軸の方向とし、記載を進める。規模は、主軸方向で6.07m、副軸方向で5.63m、主軸方位は、S-56°-Wと推定できる。床面は、ほぼ平坦で、支柱穴を結ぶ範囲とそれに連なる南東壁近くの帯状の範囲が、明瞭に硬化している。壁は比較的急峻に立ち上がり、壁高は、南東壁で17cm、南西壁で24cm、北西壁で18cmである。

P1～P3は、支柱穴であろう。上端での平面形は、円形、楕円形で、深さは、P1・P3が53cm、



第402図 第192号住居跡出土遺物

第186表 第192号住居跡出土遺物観察表（1）

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 (24.0) 底径 — 器高 [25.7]	口縁部は外傾する。胴部は中位が張る。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ、下半ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 内外一橙色	口縁部～胴部、口縁部は2/3欠損

第187表 第192号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
2	甕	口径 17.2 底径 — 器高 [26.2]	口縁部は外反する。口唇部は平坦面をもつ。胴部は膨らみをもたない。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒・褐色粒 外—橙色 内—にぶい黄橙色	口縁部～胴部 外面胴部は粘土付着
3	甕	口径 16.0 底径 — 器高 [23.7]	口縁部は強く外反する。胴部は膨らみをもたない。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—にぶい橙色	口縁部～胴部
4	甕	口径 (14.9) 底径 7.4 器高 30.4	口縁部は長く外反する。胴部は中位にやや膨らみをもつ。輪台状の平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。底部ナデ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 内外—橙色	口縁部～胴部 2/3欠損
5	甕	口径 18.3 底径 7.4 器高 18.4	口縁部は外反する。胴部は中位に膨らみをもつ。丸底。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。底部ナデ。内面—口縁部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—にぶい橙色	4/5残存
6	小型甕	口径 13.2 底径 7.5 器高 12.2	口縁部は外反する。胴部は中位に膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。底部ナデ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 外—にぶい赤褐色 内—にぶい褐色	口縁部1/4欠損
7	甗	口径 24.6 底径 8.8 器高 (31.4)	口縁部は外反する。口唇部は平坦面をもち、弱い凹線がめぐる。胴部は膨らみをもたない。底部は筒抜け。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ後ミガキ、端部ヘラケズリ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 内外—橙色	2/3残存
8	大型壺	口径 (19.6) 底径 — 器高 [21.1]	口縁部は外反し、下位に弱い段を有する。口唇部は面をもつ。胴部は中位が張る。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 内外—橙色	口縁部～胴部 上半、口縁部は2/3欠損
9	埴	口径 12.2 底径 7.4 器高 10.4	平底。体部は直立し、口縁部でやや内彎する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。底部ナデ。内面—口縁部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 外—にぶい黄色 内—黄灰色	4/5残存
10	埴	口径 9.6 底径 7.0 器高 10.2	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。底部ナデ後周縁ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—にぶい黄橙色	完形
11	坏	口径 (14.7) 底径 — 器高 6.6	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外反する。口唇部は内側に面をもち、弱い凹線がめぐる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 外—橙色 内—にぶい橙色	1/2残存
12	坏	口径 13.2 底径 — 器高 5.2	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—橙色	口縁部1/3欠損
13	坏	口径 12.0 底径 — 器高 4.5	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって内傾する。口唇部は内側に面をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。黒色処理。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部暗文。黒色処理。	白色粒・小礫、 内外—黒褐色	完形
14	高坏	口径 — 底径 (8.8) 器高 [6.1]	脚部はハの字状に開き、裾部は強く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。内面—脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。	白色粒・褐色粒 外—にぶい橙色 内—橙色	脚部4/5残存

P 2が48cmである。また、P 2に接続して北東壁と並行して伸びる、幅15、16cmのいわゆる間仕切り溝が掘り込まれている。

覆土は、暗褐色土を主とする7層に分けられた。壁際から第2～7層が順次堆積し、中央のくぼみを埋めるように第1層が最終的に堆積し、住居跡が埋まったようである。

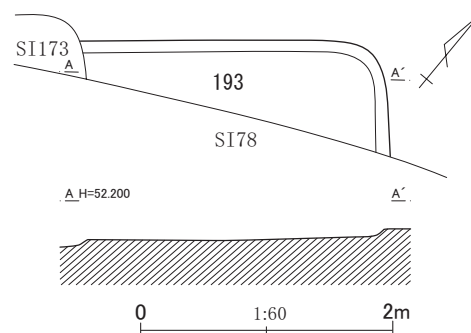
第402図1の甕、8の大型壺は、P 1脇、13の坏は、P 3近くのいずれも最下層～床面直上から出土している。2・3の長胴甕、5・6の中型あるいは小型の甕、9の特異な形態の埴は、南西壁沿いの一角から出土している。2の甕は、上層、その他は、中層～下層出土である。4の甕、12の坏は、南隅沿いの下層～床面から出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期中葉の遺構と考えられる。

C地点

第193号住居跡（第403図）

調査地点の南縁近くのほぼ中央、Q14グリッドに位置し、I群に含まれる住居跡である。第78・173・175号住居跡に切られ、北西壁から北隅にかけての極わずかな範囲を残し、遺構のほとんどが失われている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

いずれも残存部分の長さということになるが、規模は、北東-南西方向で2.36m、北西-南東方向で0.90mである。北西壁は、N-56°-Eを指す。壁高は、北東壁で7cmである。土師器片が覆土中から少量出土したのみである。重複関係から見て、古墳時代終末期後葉以前の遺構の可能性が考えられる。

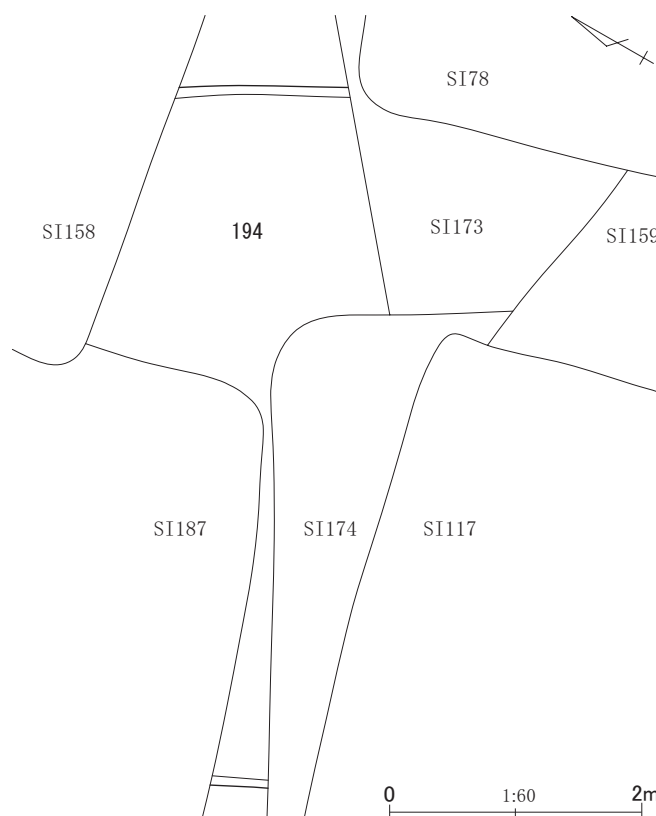


第403図 第193号住居跡平面・断面図

第194号住居跡（第404図）

調査地点の南縁近くのほぼ中央、P14・15、Q14・15グリッドに位置し、I群に含まれる住居跡である。第78・158・173・174・187号住居跡に切られ、遺構の大半が壊されている。なお、第100・117・159・176号住居跡とも重なる位置にあるが、他の住居跡が介在するため、直接切り合い関係にはない。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

規模が分かるのは唯一北東壁と南西壁間の長さであり、5.38mを測る。北東壁は、因みにN-27°-Eを指す。土師器小片を主とする遺物が少量覆土中から出土している。重複関係から見て、古墳時代終末期後葉以前の遺構の可能性がある。

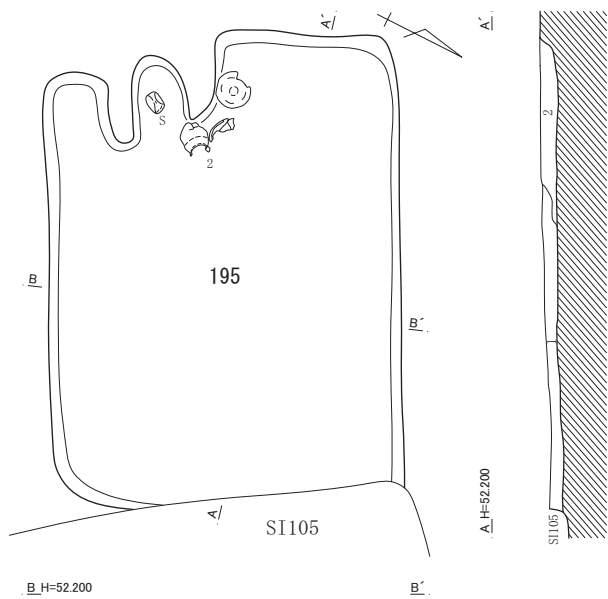


第404図 第194号住居跡平面図

第195号住居跡（第405・406図、第188表、図版43・154・155）

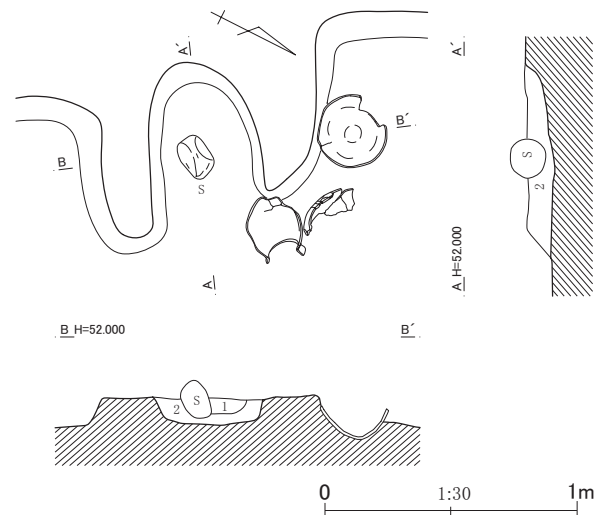
調査地点の中央、やや東寄り、S11・12グリッドに位置し、F群に含まれる住居跡である。第209号住居跡を切っており、第105号住居跡に切られ、北東壁の一部を壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、縦長の長方形である。規模は、主軸方向での現存値は3.58m、推定値で3.65m、副軸方向で2.21m、主軸方位はN-63°-Eである。床面は、壁際を除いて、軽微ではあるが、硬化してい



第195号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)を少量含む。



第2層：暗褐色土。ローム粒(～7mm)を微量含む。
 第3層：明褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含む。

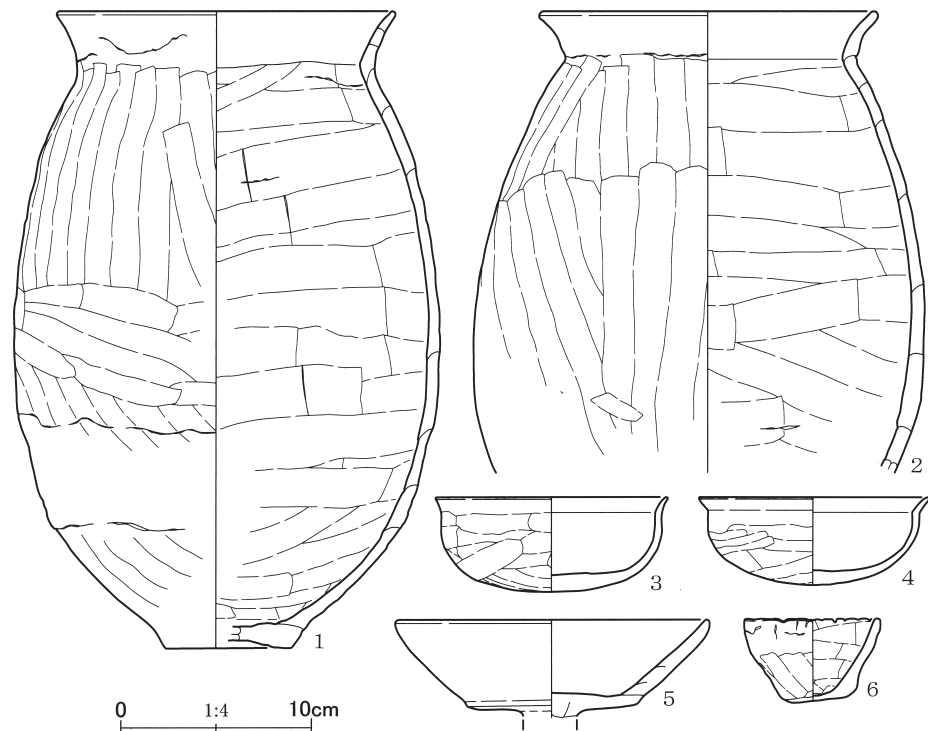
第195号住居跡カマド土層説明

第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～3mm)・
 焼土粒(～5mm)を中量含む。
 第2層：暗褐色土。ローム粒(～7mm)・焼土粒(～5mm)を少
 量含む。

第405図 第195号住居跡平面・断面図

る。床面には、微妙な凹凸が目立つが、全体的には、おおむね平坦である。壁の立ち上がりはゆるやかであり、壁高は、南西・北西壁で11cm、南東壁で5cmである。

カマドは、南西壁の南隅に著しく近接した位置に付設されている。左右の袖に挟まれた燃焼部が残存する。カマドや付帯する煙道の構造に関わるのか南西壁はカマドの左右で段差をなすように大きくずれている。その差は



第406図 第195号住居跡出土遺物

第188表 第195号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 (18.4) 底径 (6.8) 器高 33.5	口縁部は外反する。胴部は中位にやや膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。胴部下位~底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部~底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 外-にぶい黄橙色 内-橙色	1/5残存
2	甕	口径 18.3 底径 — 器高 [25.4]	口縁部は外反する。胴部は中位に膨らみをもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 内外-にぶい橙色	口縁部~胴部1/3残存
3	坏	口径 12.7 底径 — 器高 5.2	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。	白色粒 内外-明赤褐色	1/4残存
4	坏	口径 12.6 底径 — 器高 4.8	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 外-明赤褐色 内-赤褐色	2/3残存
5	高坏	口径 (17.1) 底径 — 器高 [5.4]	口縁部は坏部との境に弱い稜をもって外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。坏部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ。坏部ナデ。	白色粒 内外-明赤褐色	坏部、口縁部は1/3欠損
6	手捏ね土器	口径 7.4 底径 4.1 器高 4.6	平底。体部から底部にかけて彎曲気味に開く。手捏ね成形。	外面-口縁部~体部ヘラナデ。底部ヘラケズリ。内面-口縁部~底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 外-橙色 内-黄褐色	完形

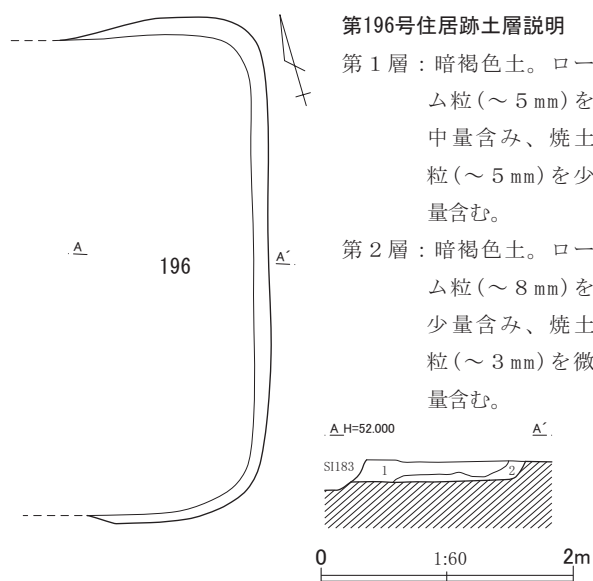
30cm前後である。燃焼面は、中央に向かってかすかに傾斜があり、中央から奥壁に向かって上向きの傾斜に変わる。袖前端を焚口と見るなら、燃焼部の長さは63cm、中央での横幅は43cmである。燃焼面、および奥壁、側壁の上部は、局所的に被熱赤化している。燃焼部のほぼ中央、燃焼面よりやや浮いた状態で、支脚かと思われる楕円礫が出土している。第406図2の甕は、右袖先端から倒置された状態で出土しており、また図化していないが、胴の張る甕か、あるいは壺の胴部下半以下の残欠が、やはり右袖脇に埋め込まれたかのような状態で出土している。2個体の土器は、本来袖甕として埋置されていた可能性もあるのかもしれない。カマド覆土は、2層である。断面ではそれほどではないが、第2層の上面では、かなり大きな焼土小塊が見え、この層の上位に天井部などの崩落土の層があったのかもしれない。

重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期初頭（新相）の遺構と考えられる。

第196号住居跡（第407・408図、第189表、図版43・155）

調査地点のほぼ中央、Q11・12、R11グリッドに位置し、F群に含まれる住居跡である。第215・307・323号住居跡を切っている。また、第183・282号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

規模は、南北方向で3.85m、東西方向での現存値は1.36mである。東壁の向きは、N-16°-Eである。床面は、所々かすかに硬化している。壁高は、北壁で21cm、東壁で15cm、南壁で13cmである。出土遺物から、古墳時代終末期前葉の遺構である可能性を考えたい。



第407図 第196号住居跡平面・断面図

第189表 第196号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	埴	口径 (11.0) 底径 — 器高 [6.4]	体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。内面—口縁部〜体部ヘラナデ。	白色粒・小礫、 外—にぶい橙色 内—にぶい黄橙色	口縁部〜体部 1/2残存
2	坏	口径 (13.8) 底径 — 器高 [3.2]	口縁部は体部との境に弱い稜をもって外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・ 褐色粒 内外—にぶい橙色	1/4残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
3	土錘	長さ6.9、幅1.7、厚さ1.6、重さ17.10g。胎土：白色粒。色調：にぶい黄橙色。				完形
4	鉄鏃	長さ[5.2]、幅0.5、厚さ0.4、重さ6.21g。				茎部

第197号住居跡 (第409図、図版43)

調査地点の南縁近くのほぼ中央、P13・14、Q13・14グリッドに位置し、I群に含まれる住居跡である。第62・156号住居跡、第278・280・281号土坑に切られ、遺構のかなりの範囲を壊されている。また、第145号住居跡とも重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

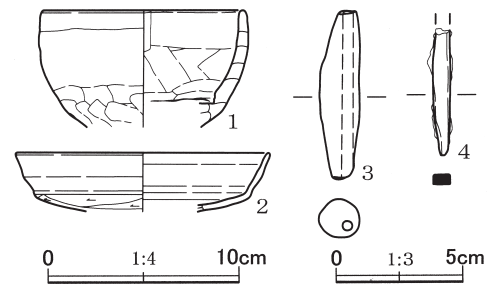
平面形は、後述する柱穴なども勘案するなら、方形と見てよいであろう。規模は、東西方向で3.80m、南北方向では、最も残りのよい東壁の長さは3.28mである。ちなみに東壁の指す方位は、N-22°-Wである。床面は、微妙に凸凹するが、おおむね平坦で、硬化は顕著ではない。壁高は、東壁で5cm、南・西壁で6cmである。

P1～P3は、主柱穴であろう。上端での平面形は、いずれも円形に近く、深さは、P1が7cm、P2が22cm、P3が14cmである。土師器小片を主とする遺物が、覆土中より少量出土している。

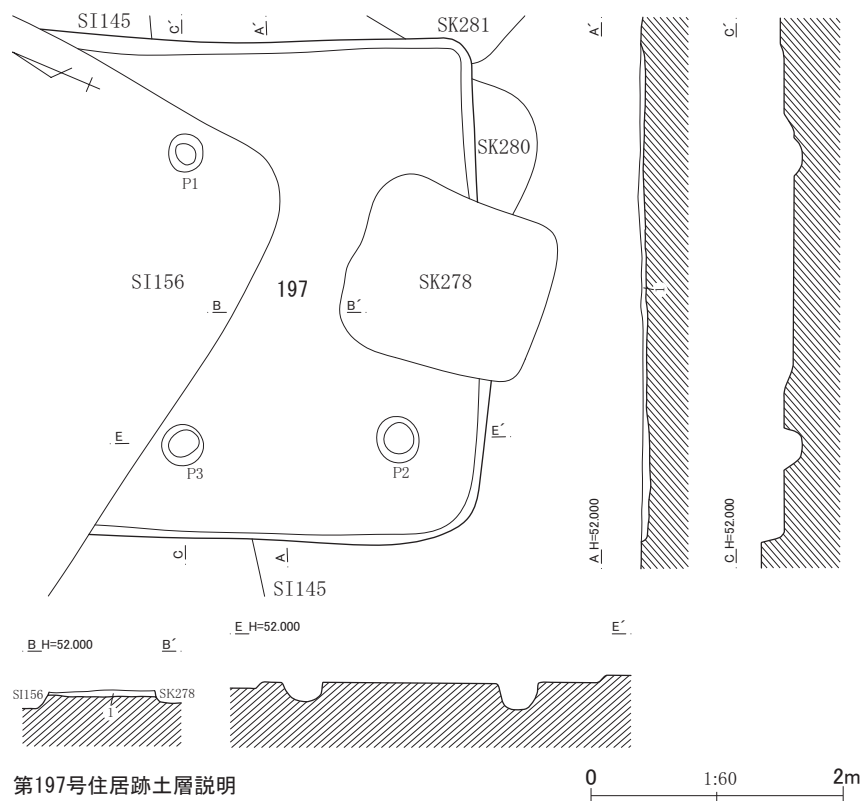
重複関係から見て、古墳時代後期後葉前半以前の遺構と考えられる。

第198号住居跡(第410図)

調査地点の南東隅近く、T14・15グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第185号住居跡を切っており、第



第408図 第196号住居跡出土遺物



第197号住居跡土層説明

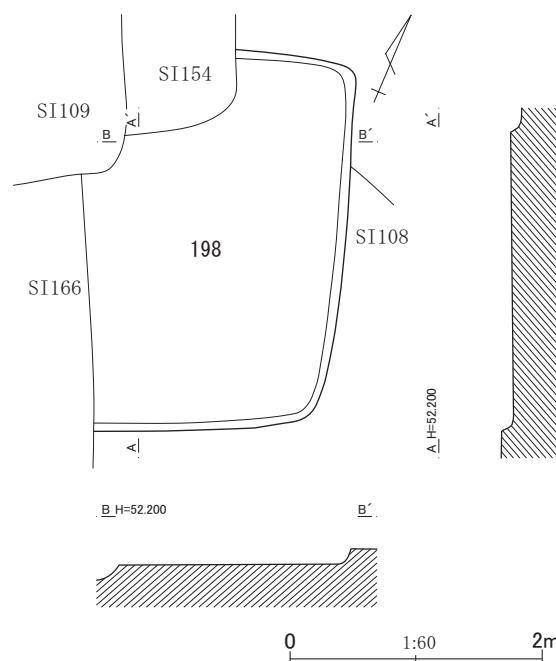
第1層：暗褐色土。ローム小塊(～20mm)を少量含む。

第409図 第197号住居跡平面・断面図

C地点

108・109・154・166号住居跡に切られ、遺構の西側が壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

規模は、南北方向で2.90m、東西方向の現存値で2.06m、東壁は、N-18°-Wを指している。床面はほぼ平坦である。壁高は、北壁で14cm、東壁で12cm、南壁で9cmである。土師器小片を主とする遺物が、覆土中より少量出土している。重複関係から見て、古墳時代後期初頭以降、終末期後葉以前の遺構と考えられる。

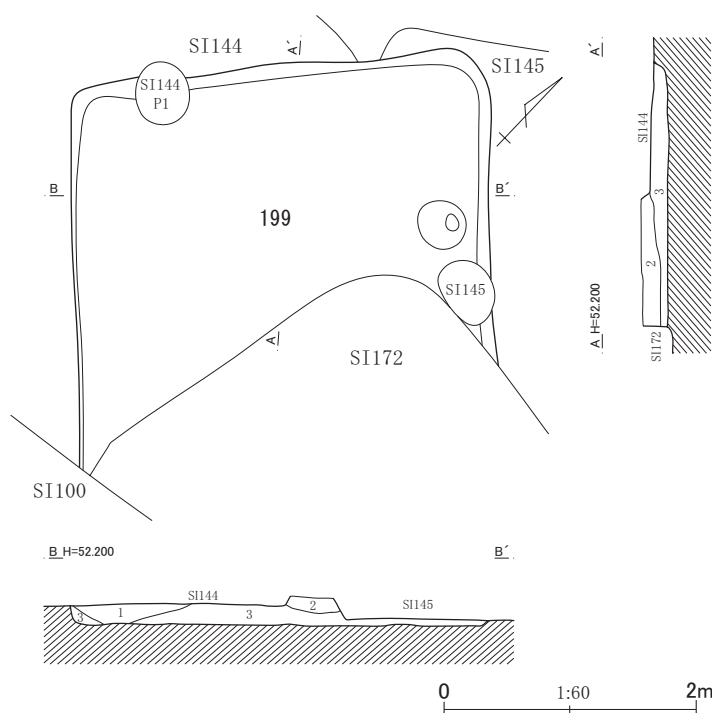


第410図 第198号住居跡平面・断面図

第199号住居跡 (第411図、図版44)

調査地点の南縁近くのほぼ中央、P13・14、Q14グリッドに位置し、I群に含まれる住居跡である。第100・144・172号住居跡に切られ、遺構の東半、南東半を大きく壊されている。また、第145号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

規模は、北東-南西方向で3.20m、北西-南東方向では最も残りのよい南西壁付近での現存長が2.88mである。南西壁は、ちなみにN-45°-Wを指している。床面の硬化は、顕著ではない。壁高は、北西壁で8cm、北東壁で4cm、南西壁で14cmである。床面で、本住居跡に伴う可能性のあるはピットを1個検出した。上端での平面形は、円形に近く、深さは24cmである。



第199号住居跡土層説明

- 第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、粘土小塊(～30mm)を中量含み、焼土粒(～5mm)を微量、小石(～7mm)を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～8mm)・焼土粒(～3mm)を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム小塊(～30mm)を少量含み、焼土粒(～5mm)を微量含む。

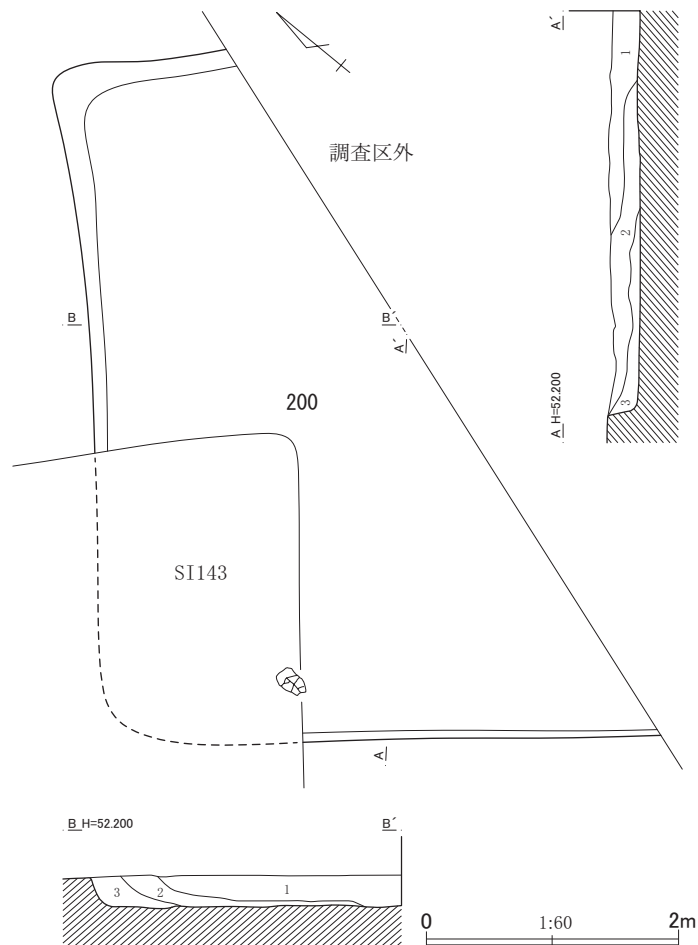
第411図 第199号住居跡平面・断面図

第200号住居跡（第412・413図、第190～192表、図版44・155）

調査地点の南東隅近くの東縁沿い、T15、U14・15グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第222号住居跡を切り、第143号住居跡に切られ、東隅付近を大きく壊されている。なお、遺構の北東半は、調査範囲外である。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、規模などを加味するならば、方形に近い形態と推定できる。規模は、いずれも推定長になるが、北東－南西方向で5.32m、北西－南東方向で4.35m、北西壁は、ちなみにN-43°-Eを指している。床面は微妙に凸凹しているが、おおむね平坦である。床面の硬化は顕著ではない。床面には、下部の礫層に由来する小礫が浮き出ている部分がある。壁の立ち上がりは、北東壁がゆるく、南西壁が急峻である。壁高は、北東壁で31cm、南西壁で22cm、北西壁で24cmである。

覆土は、暗褐色土を主とする3層に分けられた。焼土のやや目立つ第2・



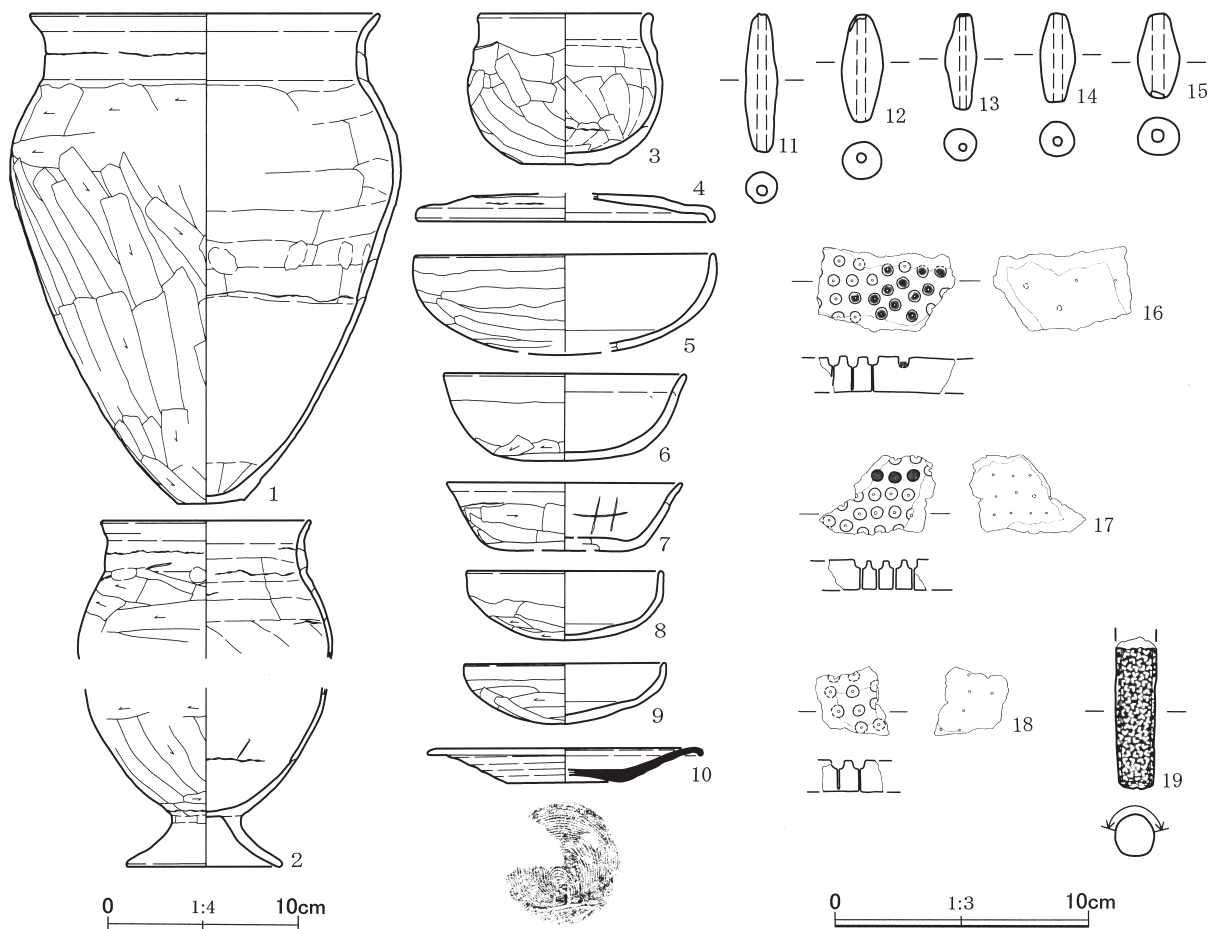
第200号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～15mm）を中量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～20mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を中量、焼土小塊（～10mm）を微量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）・焼土粒（～5mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。

第412図 第200号住居跡平面・断面図

第190表 第200号住居跡出土遺物観察表（1）

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 (19.0) 底径 3.7 器高 25.8	口縁部は直立し、上位で強く外反する。肩部が張る。丸みを帯びた平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。胴部中位に指頭圧痕。	白色粒・黒色粒 内外－明赤褐色	1/3残存
2	小型台付甕	口径 (11.3) 底径 8.4 器高 —	口縁部は直立し、上位で外反する。胴部は中位に膨らみをもつ。台部はハの字状に開く。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。頸部指頭圧痕。胴部ヘラケズリ。台部ヨコナデ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。台部ヨコナデ。	白色粒・黒色粒 内外－にぶい黄橙色	口縁部～胴部上半1/4、胴部下半～台部4/5残存
3	鉢	口径 (9.2) 底径 (5.0) 器高 8.9	丸みを帯びた平底。体部は中位に膨らみをもつ。口縁部は外反し、やや肥厚する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒 外－にぶい橙色 内－橙色	1/4残存
4	須恵器蓋	口径 (16.1) 底径 — 器高 [1.6]	天井部は平坦で、口縁部の折れは短い。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。天井部ヘラケズリ。内面－口縁部～天井部ヨコナデ。	白色粒・黒色粒 外－にぶい赤褐色 内－明赤褐色	1/3残存 酸化焙焼成



第413図 第200号住居跡出土遺物

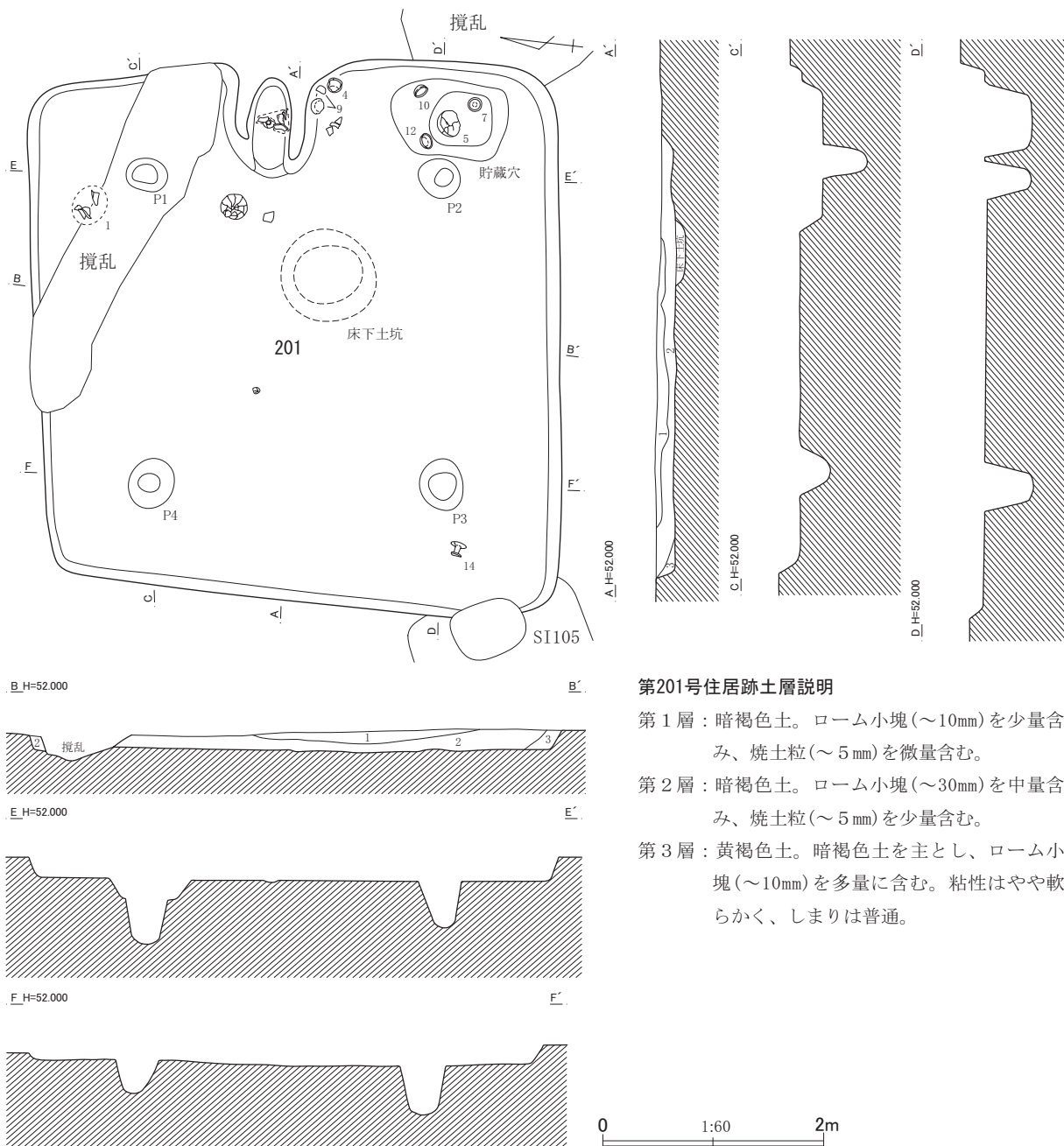
第191表 第200号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
5	坏	口径 16.5 底径 — 器高 [5.3]	丸底。体部から口縁部にかけて内彎気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。	白色粒・黒色粒 内外—橙色	1/3残存
6	坏	口径 13.3 底径 8.3 器高 4.8	平底気味。体部はわずかに丸みをもち、口縁部は緩やかに外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ナデ。体部下端～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—明赤褐色	一部欠損
7	坏	口径 (13.0) 底径 (6.0) 器高 [3.7]	平底。体部は外傾して開き、口縁部は緩やかに外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—明赤褐色	1/3残存 体部内面に刻書
8	坏	口径 10.7 底径 — 器高 3.8	丸底。体部は内彎して開き、口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—橙色	完形
9	坏	口径 11.0 底径 — 器高 3.4	丸底。体部は内彎して開き、口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—橙色	完形
10	須恵器 皿	口径 15.2 底径 6.4 器高 1.9	上げ底。体部は直線的に開き、口縁部は強く外反する。ロクロ成形。	外面—ロクロナデ。底部右回転糸切り。内面—ロクロナデ。	白色粒 内外—灰白色	3/4残存 還元焰焼成
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
11	土錘	長さ5.7、幅1.3、厚さ1.3、重さ8.98g。胎土：白色粒。色調：明赤褐色。				完形
12	土錘	長さ4.5、幅1.7、厚さ1.6、重さ11.03g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：橙色。				完形
13	土錘	長さ4.0、幅1.3、厚さ1.3、重さ5.50g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：橙色。				完形
14	土錘	長さ3.7、幅1.4、厚さ1.4、重さ6.20g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：橙色。				完形

第192表 第200号住居跡出土遺物観察表（3）

No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
15	土錘	長さ3.5、幅1.7、厚さ1.5、重さ7.60g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい褐色。	完形
16	ガラス小玉 鑄型	第956図76、第431表参照。	No.76
17	ガラス小玉 鑄型	第956図77、第431表参照。	No.77
18	ガラス小玉 鑄型	第956図78、第431表参照。	No.78
19	棒状 土製品	第971図85、第439表参照。	No.85

3層が壁際から堆積した後、中央部を埋めるようにローム小塊をかなり含む第1層が堆積した模様である。甕などの主要器種から見て、平安時代前期後半の遺構と考えられる。



第414図 第201号住居跡平面・断面図（1）

C地点

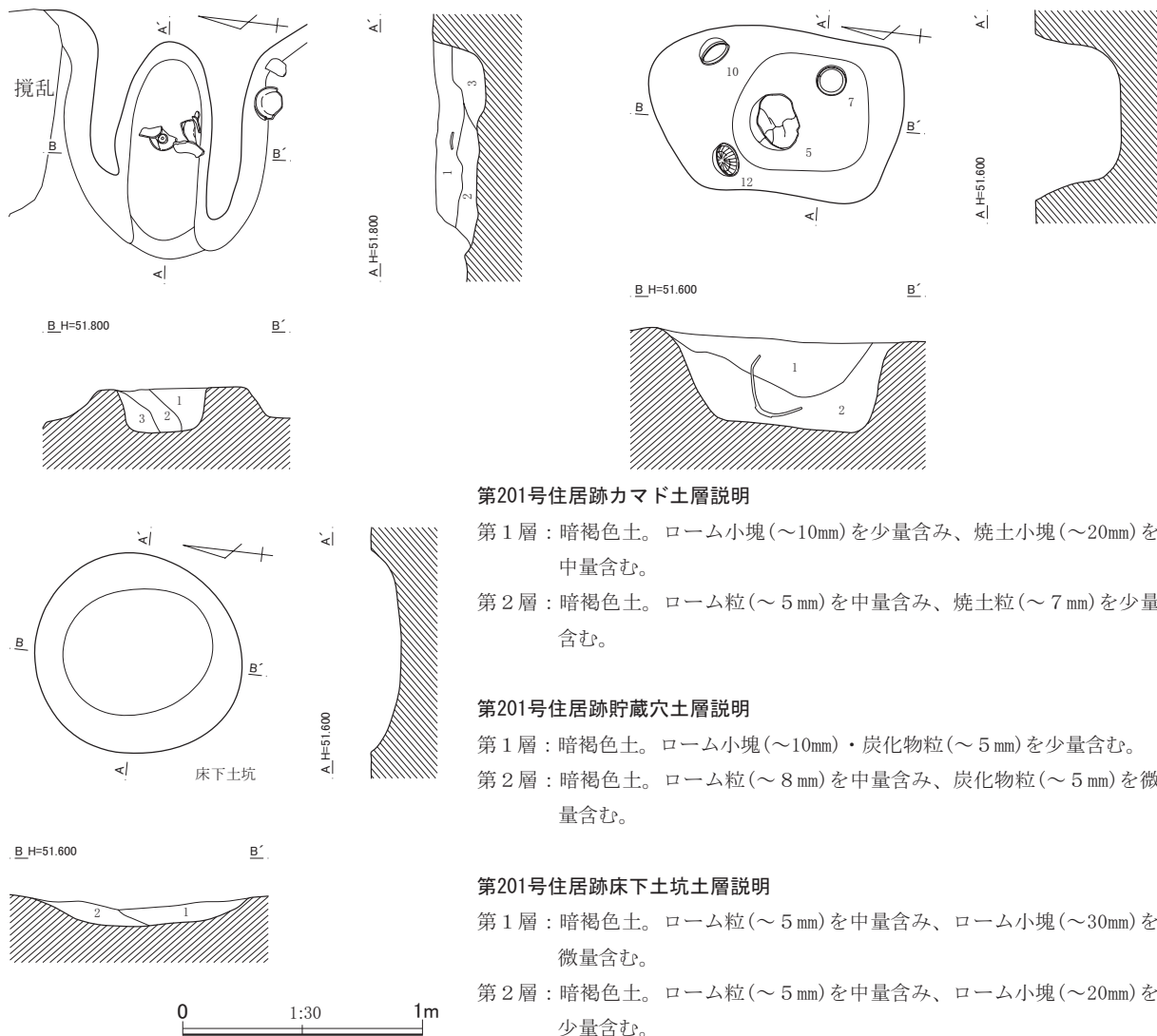
第201号住居跡（第414～416図、第193表、図版44・156）

調査地点の東半のほぼ中央、S11・12、T11・12グリッドに位置し、F群に含まれる住居跡である。第105号住居跡に切られており、第249・260号住居跡と重複関係にある。他に攪乱跡により北東側床面と、南東側壁面を壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、ほぼ正方形だが、北辺がわずかに短い台形気味である。規模は、主軸方向で4.65m、副軸方向で4.60mである。主軸方位は、N-84°-Eである。床面はほぼ平坦であり、4柱穴の内側がやや硬化している。四壁ともに比較的急峻に立ち上がり、壁高は、17～20cmである。

P1～P4は、主柱穴である。平面形は、いずれもおおむね円形で、深さは、P1が56cm、P2が40cm、P3が42cm、P4が29cmである。貯蔵穴は南東隅近くで検出した。平面形は不整な隅丸長方形で、長径98cm、短径66cmである。壁面は北側がやや緩やかだが、他壁は比較的急峻で、底面は平坦である。深さは37cmである。貯蔵穴の覆土は暗褐色土を主とし、ロームの多寡で2層に分けられ、両層ともに炭化物粒が若干含まれていた。

カマドは、東壁のほぼ中央に設けられている。燃燒面は床面よりわずかに低く、ほぼ平坦である。



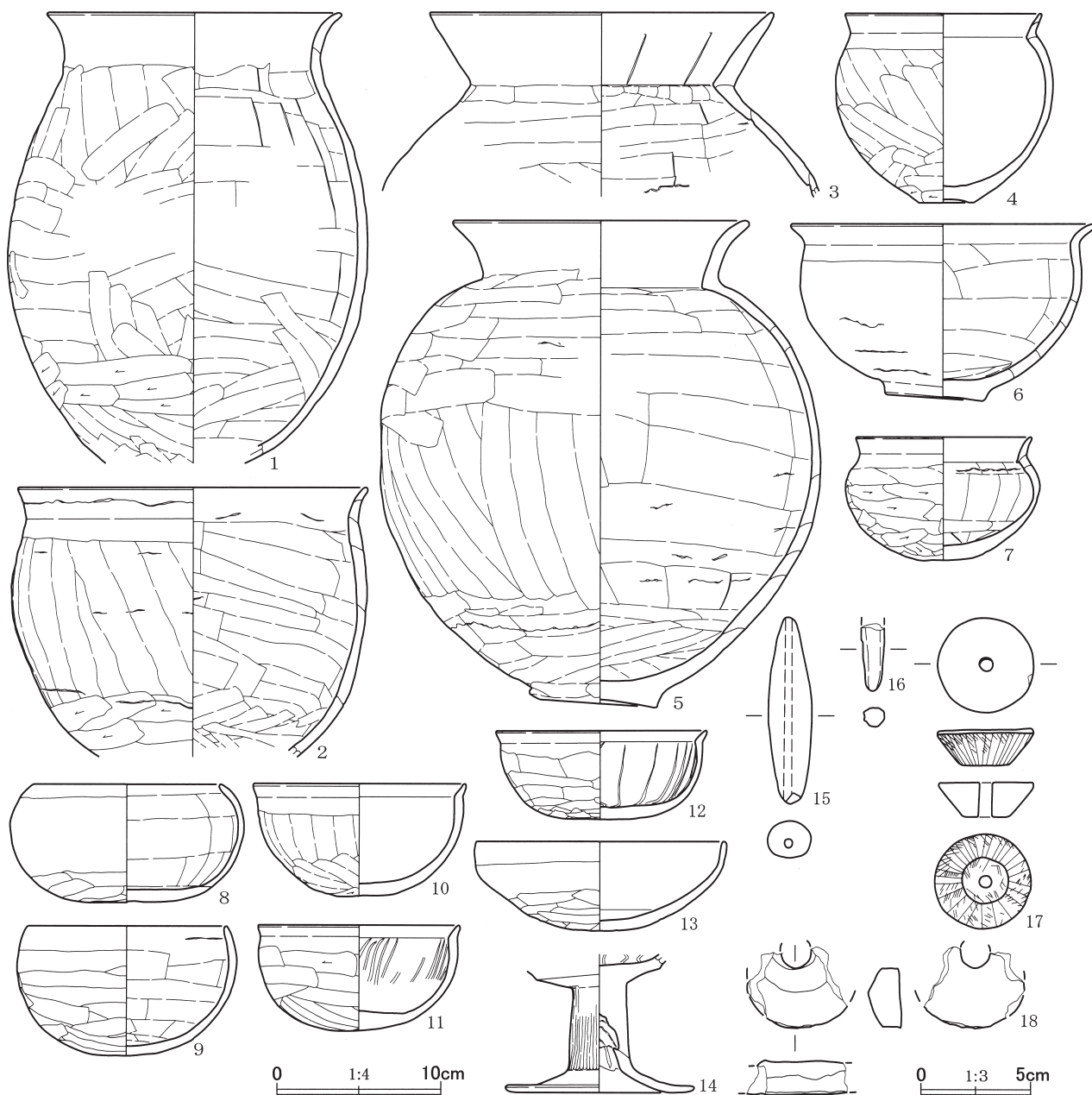
第415図 第201号住居跡平面・断面図(2)

燃焼部の長さは88cm、横幅は39cmである。燃焼面の被熱赤化はそれほど顕著ではないが、袖表面や覆土にはある程度の焼土混入が見られる。奥壁の立ち上がり角度は比較的急峻で、位置は東壁の延長部とほぼ一致する。

住居跡床面のやや東寄りに床下土坑を検出した。浅い皿状の掘り込みで、深さ12cm、長径84cm、短径80cmである。

住居跡の覆土は、3層に分けられた。南西隅壁際の第3層を除けば、暗褐色土を主とする土で、焼土が若干含まれていた。

第416図1の甕は、北東隅近くの攪乱との境目の上層から、14の高坏脚部は、P3脇の中層から、4の小型甕、9の埴は、カマド右袖沿いの上～中層から出土している。5の胴張の甕、7の鉢は、貯蔵穴の中～下層から、10・12の坏は、同じ貯蔵穴の上層から出土している。図化していないが、カマ



第416図 第201号住居跡出土遺物

C地点

下焼部部の覆土上層から高坏脚部片などがまとまって出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期初頭（古相）の遺構である。

第193表 第201号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 18.5 底径 — 器高 [28.7]	口縁部は外反する。胴部は中～下位にやや膨らみをもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ、下位は一部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒 内外－橙色	底部欠損
2	甕	口径 (22.2) 底径 — 器高 [17.1]	口縁部は外反する。胴部は中位にわずかな膨らみをもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ、下位ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外－にぶい橙色	口縁部～胴部 1/2残存
3	甕	口径 21.9 底径 — 器高 [11.7]	口縁部は外傾する。胴部は膨らみをもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外－橙色	口縁部～胴部 上位
4	小型甕	口径 12.4 底径 3.5 器高 12.1	口縁部は外傾する。胴部は中位に膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ、下端ヘラケズリ。底部ナデ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 外－にぶい橙色 内－にぶい褐色	口縁部～胴部 上位1/2欠損
5	甕	口径 18.7 底径 8.2 器高 29.8	口縁部は外反する。胴部は中位に膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。底部ヘラケズリ後周縁ナデ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外－橙色	口縁部～胴部 上半3/4欠損
6	鉢	口径 19.2 底径 6.3 器高 11.3	口縁部は強く外反する。体部は中位が張る。輪台状の平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。底部ナデ。内面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外－明赤褐色	口縁部～体部 2/3欠損
7	鉢	口径 11.1 底径 — 器高 7.8	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	片岩・白色粒・黒色粒・褐色粒 内外－橙色	完形
8	碗	口径 11.9 底径 — 器高 7.5	丸底。体部内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部ナデ。体部下端～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外－橙色	3/4残存
9	碗	口径 (12.6) 底径 — 器高 8.2	丸底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 外－橙色 内－明赤褐色	3/4残存
10	坏	口径 13.5 底径 — 器高 7.2	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外－明赤褐色	口縁部一部欠損
11	坏	口径 12.8 底径 — 器高 6.7	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ後放射状暗文。	白色粒 外－明赤褐色 内－橙色	口縁部～体部 1/3欠損
12	坏	口径 13.4 底径 — 器高 5.6	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ後放射状暗文。	白色粒・褐色粒 内外－明赤褐色	完形
13	坏	口径 16.0 底径 — 器高 5.7	丸底。体部は内彎気味に開き、口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部上半ナデ。体部下半～底部ヘラケズリ。内面－口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外－明赤褐色	2/3残存
14	高坏	口径 — 底径 12.1 器高 [8.8]	脚部は柱状を呈し、裾部は外反気味に開く。粘土紐積み上げによる成形。	外面－坏部ヘラケズリ。脚部ミガキ。裾部ヨコナデ。内面－坏部暗文。脚部絞り目。裾部ヨコナデ。	白色粒 外－にぶい褐色 内－橙色	坏底部～脚部 3/4残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
15	土錘	長さ9.0、幅2.1、厚さ1.7、重さ32.80g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい黄褐色。				完形
16	土製品 棒状品	長さ[3.2]、幅1.1、厚さ0.9、重さ3.68g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：明褐色。調整：ナデ。				破片
17	石製 紡錘車	上面径4.6、下面径2.1、孔径0.7×0.6、厚さ1.7、重さ48.07g。石材：滑石。調整：側面縦方向のケズリ。				完形
18	土製品	厚さ1.5、重さ25.27g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：明赤褐色。調整：ナデ。有孔円板状。				破片

第202号住居跡（第417・418図、第194表、図版45・156・157）

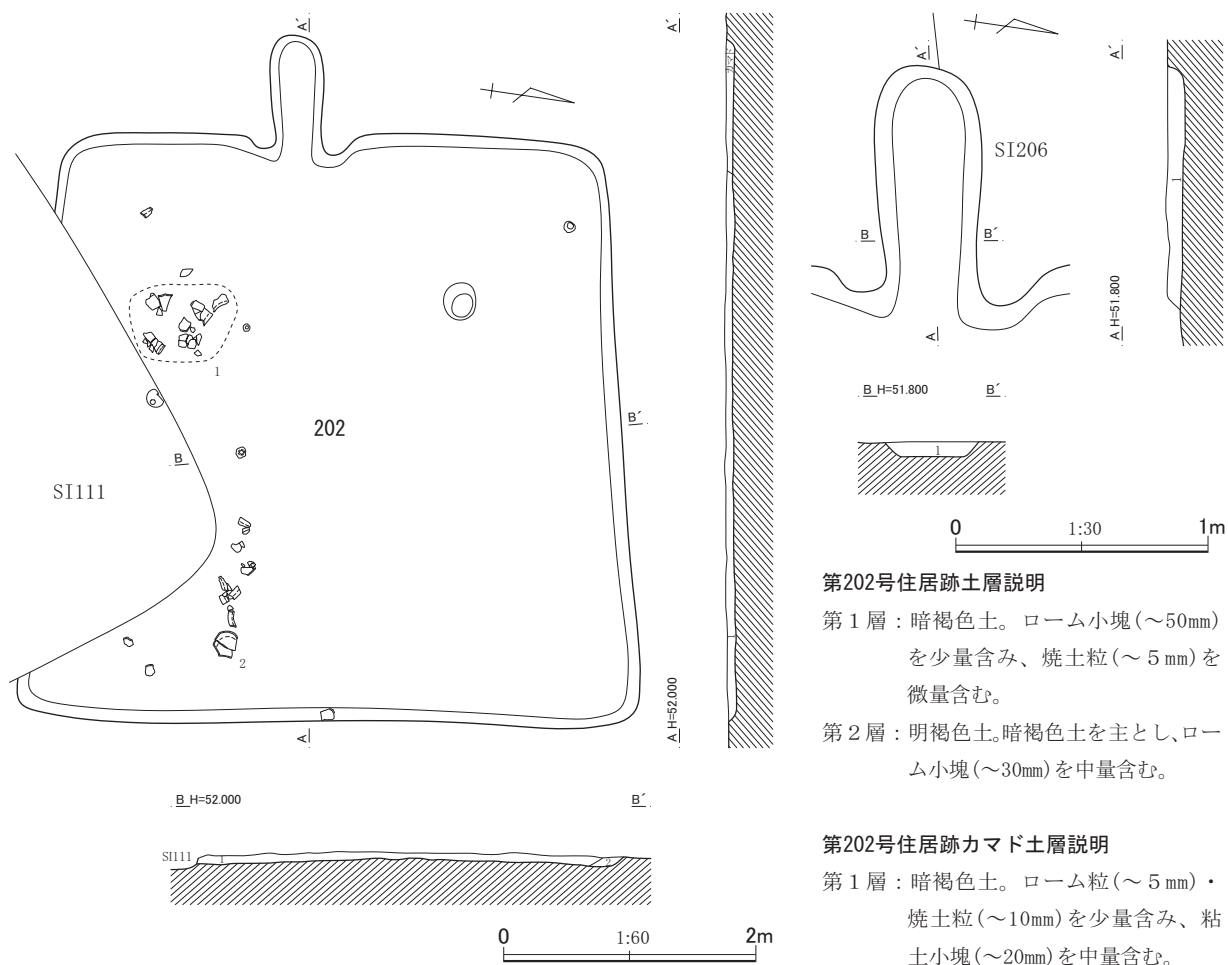
調査地点の北東隅近く、U12グリッドに位置し、G群に含まれる住居跡である。第206・271・272・275・276号住居跡を切って造られている。また、第111号住居跡と重複している。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、ほぼ正方形である。規模は、主軸方向で4.51m、副軸方向は残存する東壁付近で4.95mであり、主軸方位はN-82°-Wである。床面はおおむね平坦で、四壁は低く緩やかに立ち上がる。壁高は、6cm前後である。

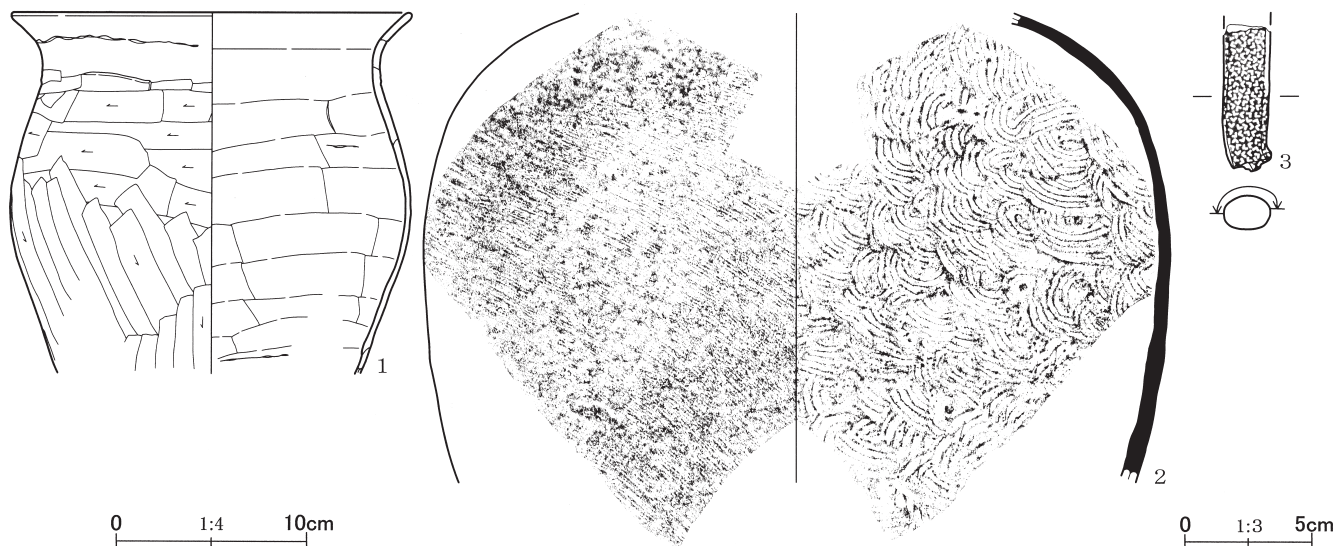
ピット、貯蔵穴等は検出されなかった。カマドは、西壁のほぼ中央に設けられている。明瞭な袖はほとんど見られないが、カマドの覆土中に粘土を含むことから、袖もしくは天井の構築土の一部が含まれる可能性がある。燃焼部は、床面とほぼ同じ高さで、奥壁まで平坦である。袖や底面の被熱赤化は顕著ではない。燃焼部の長さは約1m、横幅は40cmである。

住居跡の覆土は、2層に分けられるが、北壁周辺を除けば大部分は暗褐色土のほぼ単層と言える。

第418図1の甕は、細かな破片に割れて住居跡の南西半から、2の須恵器甕は、東壁寄りから、どちらの土器も床面より若干浮いた位置から出土している。重複関係、出土遺物から見て、奈良時代末から平安時代初頭にかけての遺構と考えられる。



第417図 第202号住居跡平面・断面図



第418図 第202号住居跡出土遺物

第194表 第202号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 (21.9) 底径 — 器高 [19.8]	口縁部は直立し、上位で強く外反する。胴部は中位が張る。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 外—にぶい橙色 内—明赤褐色	口縁部～胴部 1/3残存
2	須恵器甕	口径 — 底径 — 器高 [26.0]	肩部が張る。タタキ成形。	外面—胴部平行タタキ。肩部に自然釉付着。内面—胴部同心円の当て具痕。	石英・白色粒・黒色粒 内外—黄灰色	胴部破片 還元焰焼成
3	棒状土製品	第971図86、第439表参照。				No.86

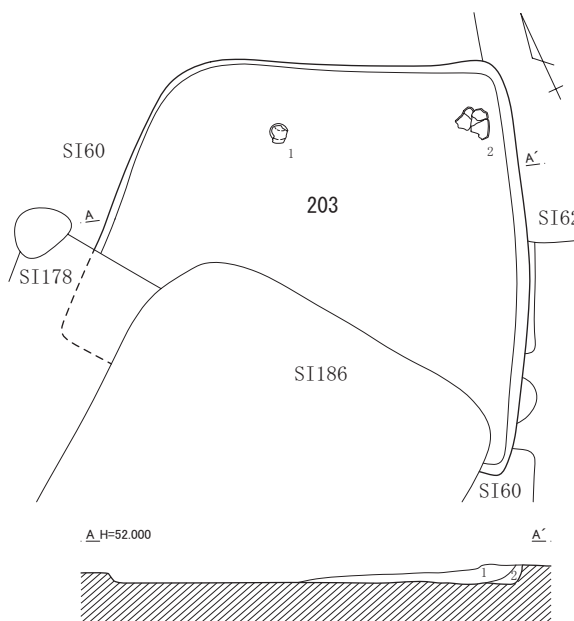
第203号住居跡 (第419・420図、第195表、図版45・157)

調査地点の南縁近く中央やや西寄り、P13グリッドに位置し、I群に含まれる住居跡である。第

60・62・160・178・186

号住居跡に切られる。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、不整四辺形と推定される。特に住居跡西隅付近は他の遺構との重複が激しく十分な観察が困難であったが、北隅の角度が大きく開いているので、いずれにせよ方形プランは想定しづらい。住居跡に伴う遺構は検出されなかったが、比較的残存状態の良い東壁



第203号住居跡土層説明

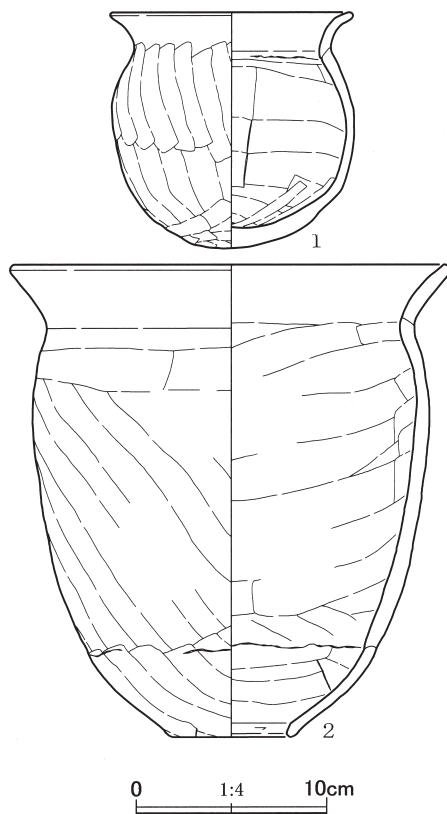
第1層：暗褐色土。ローム粒(～8mm)を少量含み、焼土粒(～3mm)を微量含む。

第2層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)を中量含み、焼土粒(～3mm)を微量含む。

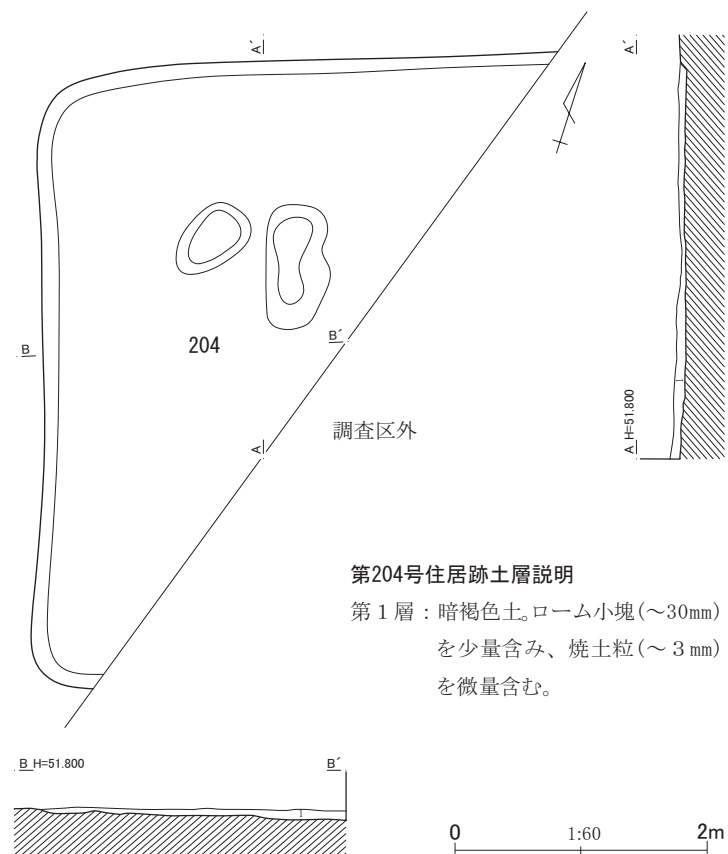
第419図 第203号住居跡平面・断面図

第195表 第203号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	小型甕	口径 (13.1) 底径 — 器高 12.9	口縁部は外反する。胴部は中にやや膨らみをもつ。丸底。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 外－にぶい橙色 内－橙色	口縁部～胴部 1/3欠損
2	甕	口径 (23.6) 底径 (6.6) 器高 24.8	口縁部は外反する。胴部は膨らみをもたず、下位へ向かって窄まる。底部は筒抜け。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。端部ヘラケズリ。	白色粒・黒色粒 外－にぶい橙色 内－にぶい褐色	1/3残存



第420図 第203号住居跡出土遺物



第204号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム小塊(～30mm)を少量含み、焼土粒(～3mm)を微量含む。

第421図 第204号住居跡平面・断面図

を仮に主軸方向と捉えると、規模は主軸方向で3.29m、副軸方向の残存長で3.29mとなり、主軸方位はN-24°-Wである。床面はおおむね平坦で、中央付近がやや硬化している。壁は緩やかに立ち上がり、壁高は東壁で14cmである。

覆土は、遺存状態が悪いが、ローム粒や焼土粒を含む暗褐色土の2層が確認された。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代中期末葉から後期初頭にかけての遺構と考えられる。

第204号住居跡 (第421・422図、第196表、図版45・157)

調査地点の東縁にかかる中央やや北寄り、V11・12グリッドに位置し、G群に含まれる住居跡である。第272・281・287号住居跡を切る。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

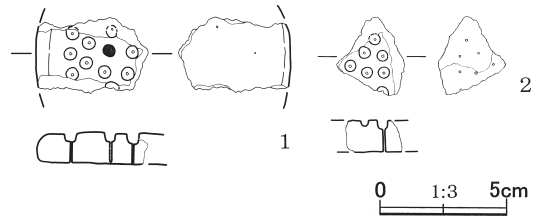
平面形はほぼ方形の様であるが、遺構のほぼ半分が調査区外となる。特に指向性のある施設が検出されていないが、南北方向を主軸とすれば、規模は、主軸方向が4.71m、副軸方向の残存長が4.05m

C地点

となり、主軸方位は、N-17° -Wである。床面にわずかな窪みが見られたため平面図に図示したが、住居跡全体の検出部分が少ないためそれ以上の判断は困難である。壁は低いがほぼ垂直に立ち上がり、壁高は4～6cmである。住居内施設と思われる遺構は特に確認されなかった。

覆土は薄く、暗褐色土を主とする単層と考えられる。

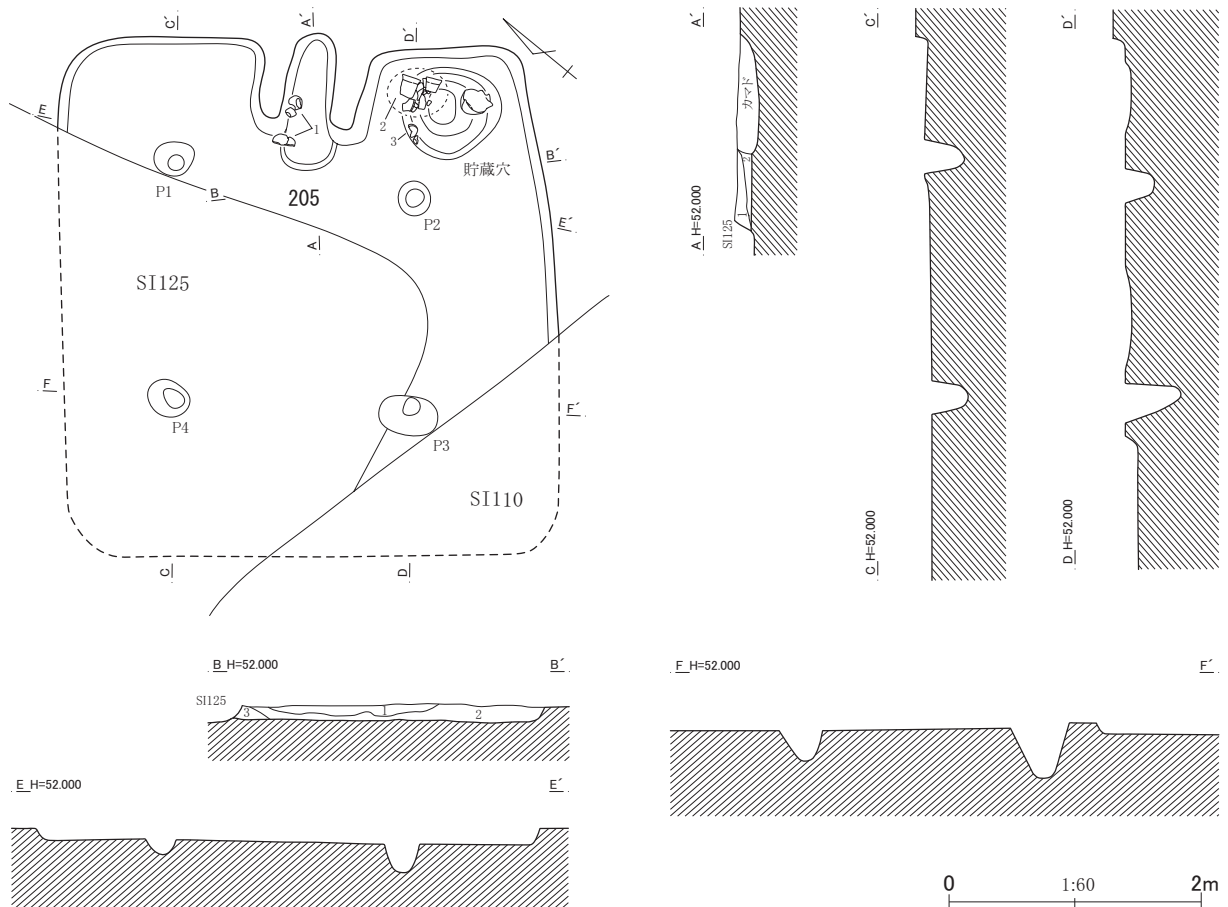
第422図 1・2のガラス鑄型片2点が住居跡内北西付近から出土している。重複関係から見て、古墳時代終末期中葉以降の遺構と考えられる。



第422図 第204号住居跡出土遺物

第196表 第204号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
1	ガラス小玉鑄型	第956図79、第431表参照。	No.79
2	ガラス小玉鑄型	第956図80、第431表参照。	No.80



第205号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含み、焼土粒(～3mm)を微量含む。

第2層：暗褐色土。ローム小塊(～30mm)を中量含み、焼土粒

(～5mm)を少量含む。

第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～10mm)を多量に含み、焼土粒(～3mm)を微量含む。

第423図 第205号住居跡平面・断面図(1)

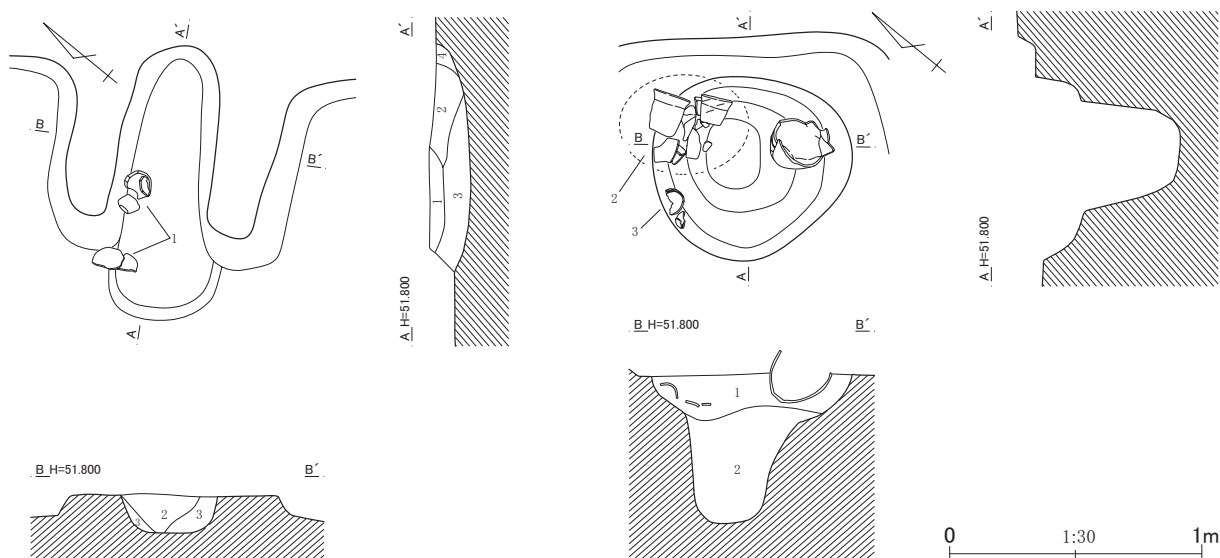
第205号住居跡（第423～425図、第197表、図版46・157）

調査地点南東部の中央、やや東寄り、T13グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第207号住居跡を切り、第110・125号住居跡に切られ、遺構の北西半～南半を大きく壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

後述する支柱穴なども勘案するなら、平面形は、方形に近い形態と見てよいであろう。規模は、北西－南東方向の残りのよい部分で3.63m、北東－南西方向での推定値で3.94mを測る。主軸方位は、N-50°-Eである。床面は、ほぼ平坦であるが、硬化は顕著ではない。壁高は、北東壁で18cm、南東壁で12cmである。

P1～P4は、支柱穴であろう。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形、楕円形で、最深部での深さは、P1が30cm、P2が23cm、P3が43cm、P4が28cmである。カマド右袖脇のピットは、貯蔵穴である。上端での平面形は、かなり不整な円形で、最大径は76cmである。中段に段を有し、中央が楕円形の底面に向かって深く掘り込まれている。深さは、52cmである。全体にロームをかなり含む暗褐色土で埋まっている。

カマドは、北東壁の中央に若干斜行して付設されている。細長い両袖に挟まれた長楕円形の燃焼部を有する形態である。燃焼面は、船底状に掘りくぼめられ作出されている。燃焼部の長さは106cm、横幅は38cmである。奥壁および側壁の上端は、部分的に被熱赤化している。カマド覆土の第1層は、粘土小塊を多量に含み、天井部などの崩落土と見られる。第425図1の甕は、カマド内から破片化し



第205号住居跡カマド土層説明

- 第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～5mm）を微量含み、粘土小塊（～30mm）を多量に、焼土小塊（～50mm）を中量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒（～3mm）・焼土粒（～8mm）を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒（～3mm）を微量含み、焼土小塊（～30mm）を少量含む。

第4層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）を微量含み、焼土粒（～5mm）を少量含む。

第205号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、焼土粒（～3mm）を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム小塊（～20mm）を中量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第424図 第205号住居跡平面・断面図（2）

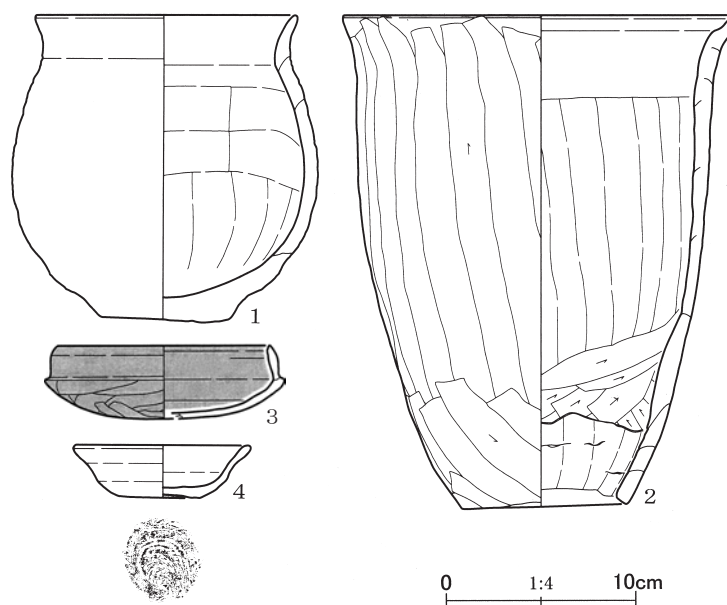
第197表 第205号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	小型甕	口径 (14.2) 底径 7.0 器高 16.9	口縁部は外反する。胴部は中～下位にやや膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部磨耗のため不明。底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色、 外－橙色 内－にぶい黄橙色	口縁部～胴部 2/3欠損
2	甕	口径 21.5 底径 9.1 器高 25.9	口縁部は外反する。胴部は膨らみをもたない。底部は筒抜け。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面－口縁部～胴部上位ヨコナデ。胴部ヘラナデ後、下位ヘラケズリ。端部ヘラケズリ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 内外－橙色	胴部下半～底部 1/4欠損
3	坏	口径 11.6 底径 — 器高 [4.0]	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって内傾する。口唇部は内側に面をもち、弱い凹線がめぐる。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。黒色処理。内面－口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。黒色処理。	白色粒・黒色粒 内外－黒褐色	1/2残存
4	カワラケ	口径 9.6 底径 4.5 器高 2.9	平底。体部から口縁部へ彎曲気味に開き、口唇部は肥厚する。ロクロ成形。	外面－ロクロナデ。底部左回転糸切り。内面－ロクロナデ。	片岩・白色粒・褐色粒 内外－橙色	口縁部1/3欠損

た状態で出土しており、同甕底部は、カマド内、左袖先端に接して出土している。

住居跡の覆土は、暗褐色土を主とする3層で、第2・3層には、かなりの量のローム小塊が含まれる。

第425図2の甕、3の坏は、甕の底部片、かなり大きな円礫、楕円礫とともに貯蔵穴の上層から出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期後葉前半の遺構であろうか。



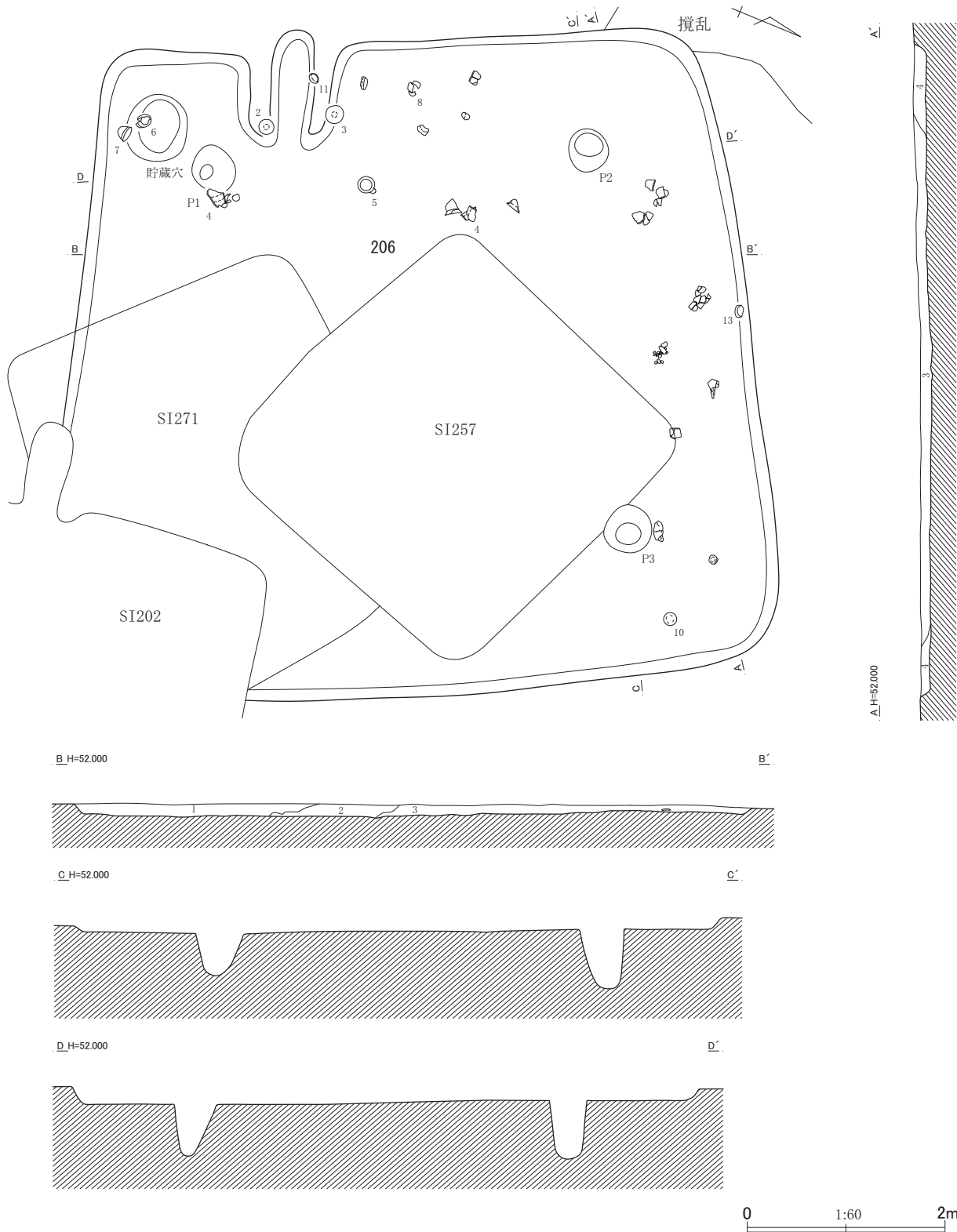
第425図 第205号住居跡出土遺物

第206号住居跡 (第426～428図、第198・199表、図版46・157・158)

調査地点の北東部と南東部の境の東縁寄り、T11・12、U11・12グリッドに位置し、G群に含まれる住居跡である。第259号住居跡を切り、第202・257号住居跡に切られ、中央東寄り部分、東隅部分を壊されている。第257号住居跡は、本住居跡を入れ子状に切る住居跡であるが、本住居跡を床面上まで掘り下げた段階に確認しえた経緯がある。また、第271号住居跡と重複する。なお、第260号住居跡とも重複する位置にあるが、攪乱が介在し、直接切り合わない。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

南西壁と北東壁の長さがかなり異なるため、平面形は、方形というより台形に近い形態である。規模は、主軸方向で6.45m、副軸方向で6.58m、主軸方位は、S-66°-Wである。壁際を除く床面は、部分的にかすかに硬化しており、細かな凹凸が目立つ。壁高は、南西壁で11cm、北西壁で5cm、北東・南東壁で10cmである。

P1～P3は、主柱穴であろう。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形で、最深部での深さ

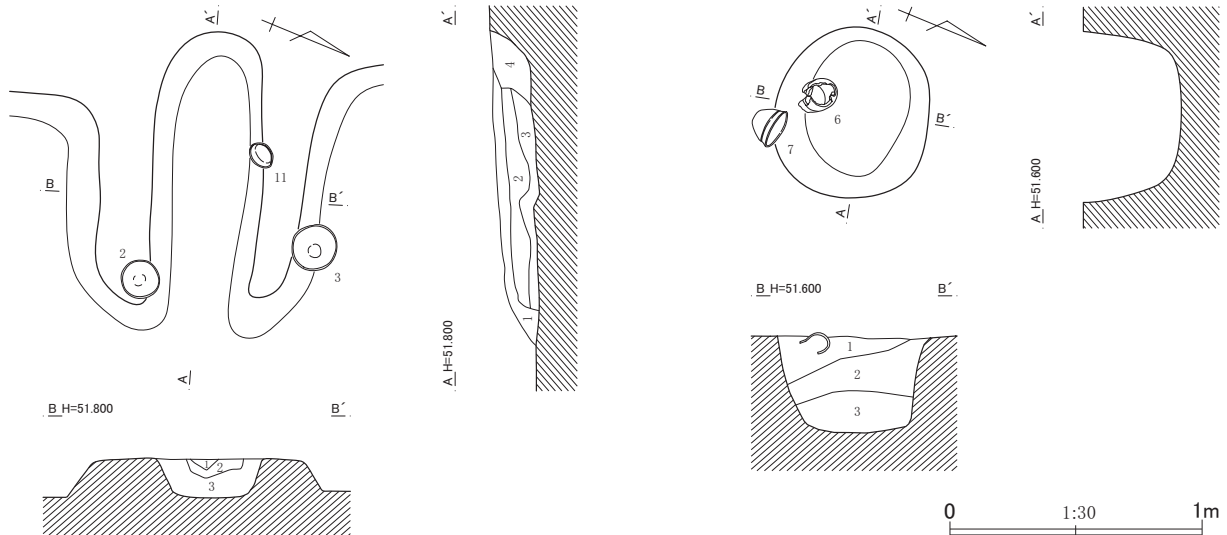


第206号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～8mm)を中量含み、焼土粒(～5mm)を少量含む。
 第2層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～7mm)を微量含み、粘土小塊(～50mm)を多量に、焼土小塊(～30mm)を少量含む。

第3層：暗褐色土。ローム小塊(～20mm)・焼土粒(～5mm)を少量含む。
 第4層：暗褐色土。ローム小塊(～20mm)を中量含み、焼土粒(～5mm)を微量含む。

第426図 第206号住居跡平面・断面図(1)



第206号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～5mm)を微量含み、焼土粒(～8mm)を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～8mm)を少量含み、焼土粒(～5mm)を中量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～5mm)・焼土粒(～5mm)を微量含み、粘土小塊(～30mm)を多量に含む。
- 第4層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～7mm)を微量含み、粘土小塊(～30mm)・焼土粒(～7mm)を

中量含む。

第206号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～5mm)を中量含み、焼土粒(～5mm)を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を多量に、焼土粒(～5mm)・焼土小塊(～10mm)を微量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含み、ローム小塊(～20mm)を中量含む。

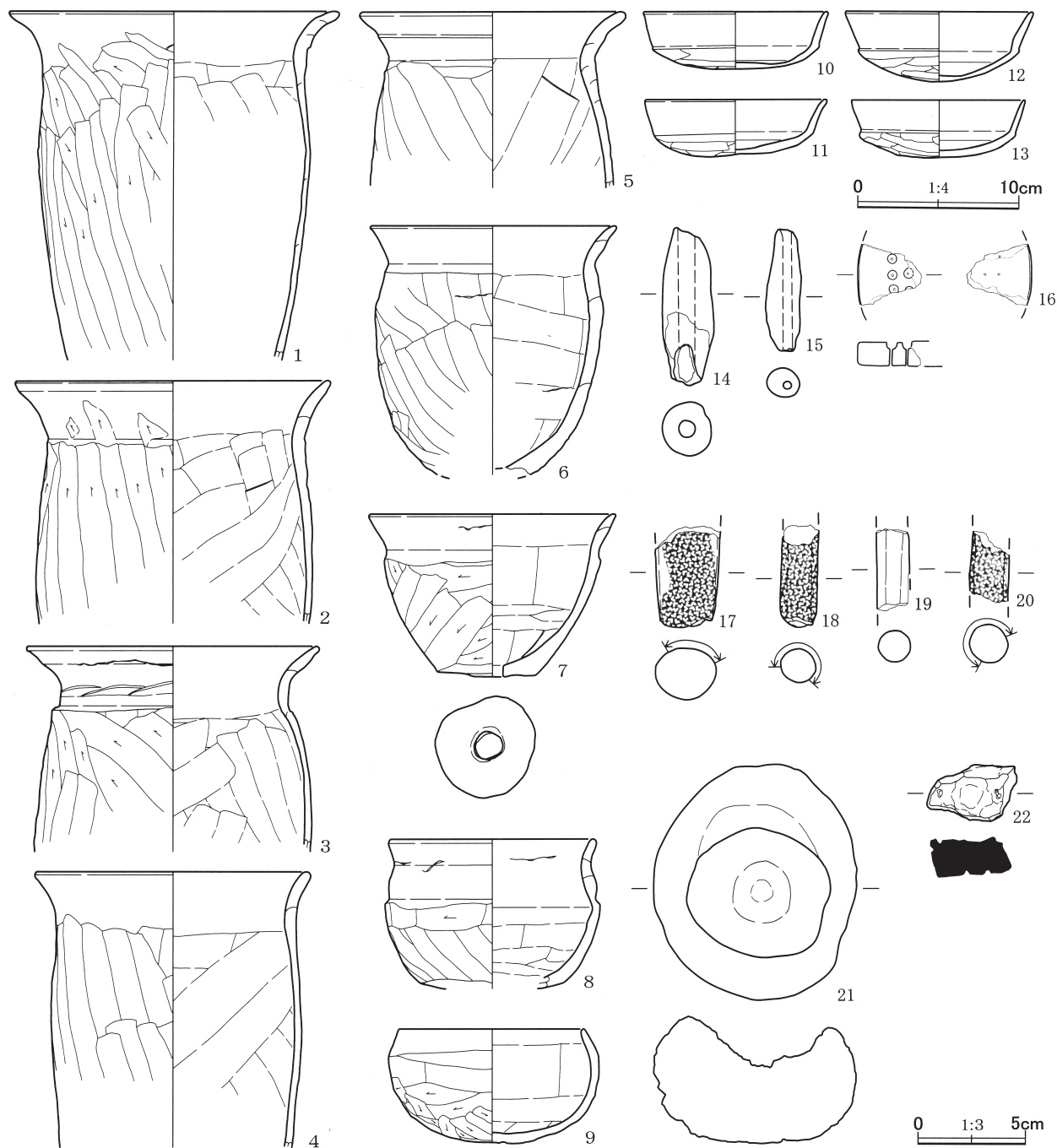
第427図 第206号住居跡平面・断面図(2)

は、P 1 が50cm、P 2 が59cm、P 3 が41cmである。南隅近くのピットは、貯蔵穴であろう。上端での平面形は、やや不整な円形で、最大径は64cmである。上端がやや広がるバケツ形に掘り込まれており、深さは37cmである。覆土は3層で、第2・3層は、ローム小塊の目立つ、埋め戻されたような土である。

カマドは、南西壁の南隅に寄った位置に付設されている。細長い両袖に挟まれた細長い燃焼部を有する形態である。燃焼面は、かすかに掘りくぼめられ、凸凹している。袖端を末端とするなら、燃焼部の長さは117cm、横幅は42cmである。側壁上端が部分的に被熱赤化している。カマド覆土の第3・4層は、粘土小塊を多量に、あるいはかなり含み、天井部などの崩落土を含むと見られる。第428図2の甕は左袖の、3は甕は右袖の、袖甕の可能性もある。

住居跡の覆土は、暗褐色土を主とする4層で、全体に焼土が目立ち、第2層には、多量に粘土小塊が混入していた。

第428図6の小型甕は、貯蔵穴の上層から、7の甕は、貯蔵穴の縁から出土している。4の甕は、P 1 脇の上層と住居跡西半の破片が接合したものである。5の甕、8の鉢、9の埴は、住居跡中央から西半にかけての最下層～床面直上から出土している。9の埴は、第257号住居跡の範囲内付近から出土しており、同住居跡に伴う可能性もある。10の埴は、北隅近くの中層から、13の埴は、北西壁沿いの上層から出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末期前葉の遺構であろう。



第428図 第206号住居跡出土遺物

第198表 第206号住居跡出土遺物観察表（1）

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 (21.2) 底径 — 器高 [22.8]	口縁部は強く外反する。胴部は膨らみをもたない。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	角閃石・白色粒 内外－橙色	口縁部～胴部 1/3残存
2	甕	口径 20.2 底径 — 器高 [15.8]	口縁部は外反する。胴部は膨らみをもたない。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	片岩・白色粒 内外－浅黄橙色	口縁部～胴部 上位
3	甕	口径 18.7 底径 — 器高 [13.4]	口縁部は外反する。胴部は膨らみをもたない。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外－にぶい黄橙色	口縁部～胴部 上位

C地点

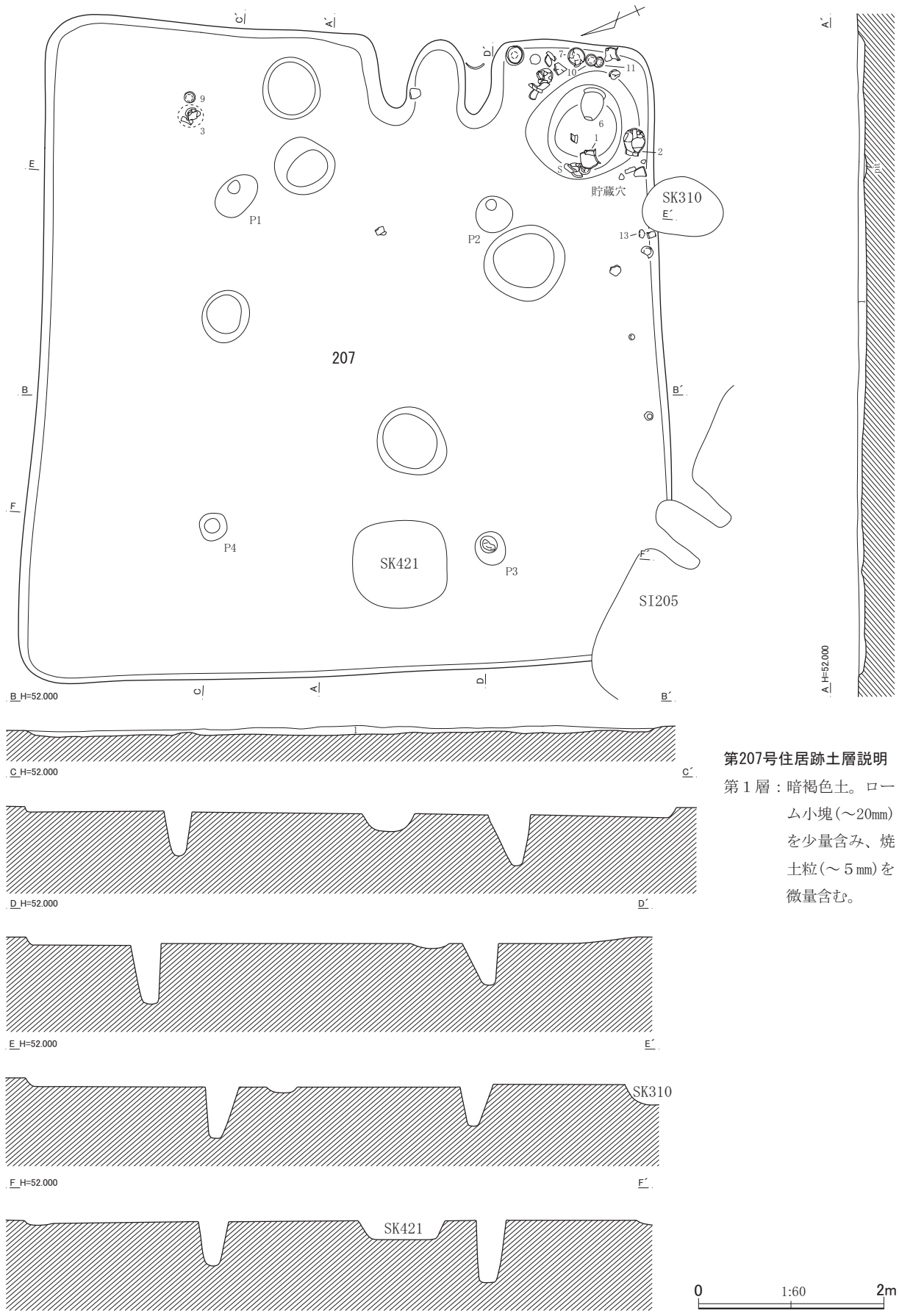
第199表 第206号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
4	甕	口径(17.8) 底径— 器高[17.9]	口縁部は外反し、肥厚する。胴部は膨らみをもたない。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	片岩・白色粒・黒色粒 外—橙色 内—にぶい橙色	口縁部～胴部 上半2/3残存
5	甕	口径 17.0 底径— 器高 [11.4]	口縁部は外反し、中位に弱い段を有する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	角閃石・白色粒 内外—橙色	口縁部～胴部 上位
6	小型甕	口径(16.0) 底径— 器高 [16.2]	口縁部は外反する。胴部は膨らみをもたない。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外—にぶい橙色	口縁部～胴部 3/4残存
7	小型甕	口径 15.9 底径 6.4 器高 10.6	口縁部は外反する。胴部は底部に向かって窄まる。平底で孔径1.9×1.8cmの円孔。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ、端部ヘラケズリ。	白色粒・褐色粒 内外—橙色	完形
8	鉢	口径(13.2) 底径(9.5) 器高 [9.7]	丸底気味。体部は丸みをもつ。口縁部は体部との境に稜をもって内傾し、上位で外反する。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 外—にぶい黄橙 内—オリーブ黒色	1/3残存
9	壺	口径 12.0 底径— 器高 7.4	丸底。体部は丸みをもつ。口縁部は内傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—にぶい橙色	ほぼ完形
10	坏	口径 11.9 底径— 器高 3.7	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外—橙色	完形
11	坏	口径 11.7 底径— 器高 3.7	丸底。体部は浅く、口縁部は外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外—にぶい橙色	口縁部一部欠損
12	坏	口径(12.1) 底径— 器高 4.6	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外—橙色	口縁部2/3欠損
13	坏	口径(11.2) 底径— 器高 3.7	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外—にぶい橙色	2/3残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
14	土錘	長さ7.7、幅2.5、厚さ2.6、重さ41.34g。胎土：片岩・白色粒。色調：橙色。				一部欠損
15	土錘	長さ6.0、幅1.7、厚さ1.4、重さ14.22g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：白色粒・黒色粒。				完形
16	ガラス小玉 鋳型	第956図81、第431表参照。				No.81
17	棒状土製品	第971図87、第439表参照。				No.87
18	棒状土製品	第971図88、第439表参照。				No.88
19	棒状土製品	第971図89、第439表参照。				No.89
20	棒状土製品	第971図90、第439表参照。				No.90
21	凹み石	長さ11.6、幅10.0、厚さ6.2、重さ580.59g。石材：角閃石安山岩。調整：片面に凹みあり。全体的にザラザラし、平滑でない。				完形
22	鉄滓	長さ2.8、幅4.4、厚さ1.9、重さ37.80g。				完形

第207号住居跡(第429～431図、第200・201表、図版47・158・159)

調査地点の北東部と南東部の境の東縁寄り、T12・13、U12・13グリッドに位置し、I群に含まれる住居跡である。第259号住居跡を切り、第205号住居跡、第310・421号土坑に切られ、西隅などを壊されている。また、第275号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

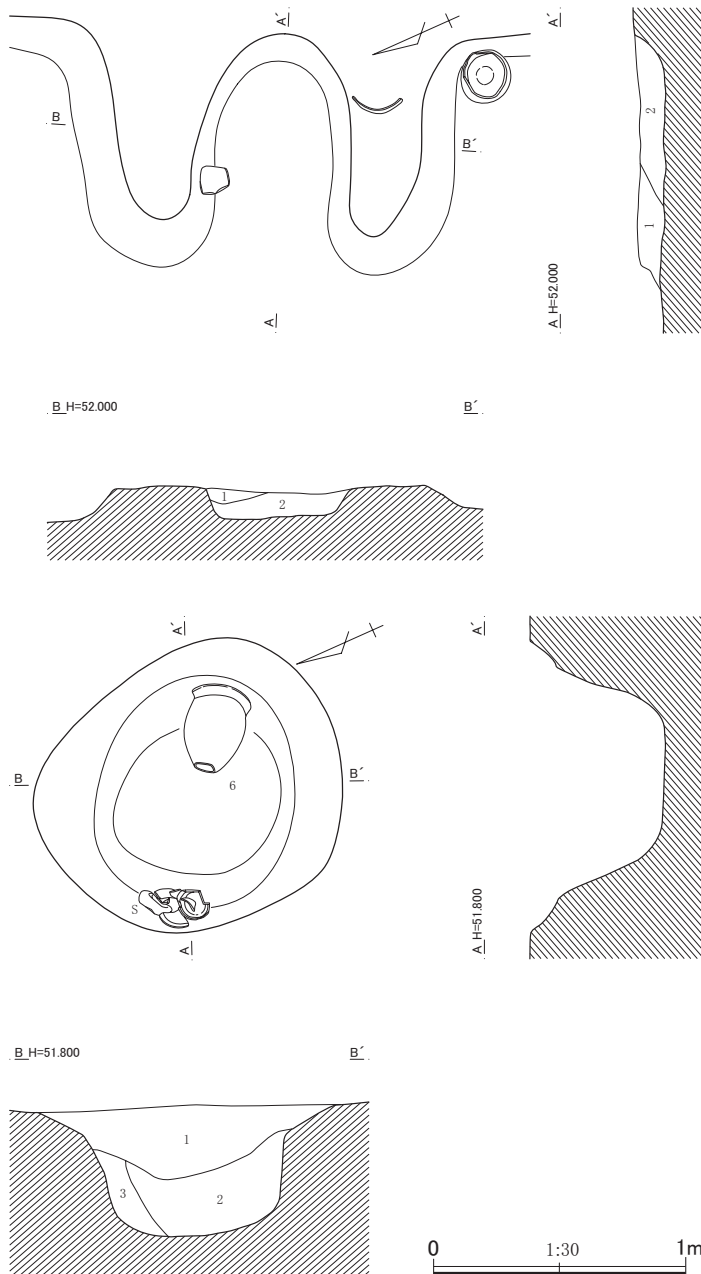
規模は、主軸方向で6.74m、副軸方向で6.54mである。主軸方位は、S-61°-Eである。中央からカマドにかけての床面は、軽微ではあるが、硬化している。壁高は、南東壁で7cm、南西壁で3cm、北西壁で6cm、北東壁で5cmである。



第207号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム小塊(～20mm)を少量含み、焼土粒(～5mm)を微量含む。

第429図 第207号住居跡平面・断面図(1)



第207号住居跡カマド土層説明

第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～8mm)を少量含む。

第2層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)を少量含む、焼土小塊(～10mm)を中量含む。

第207号住居跡貯蔵穴土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～7mm)・焼土粒(～5mm)を微量含む。

第2層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)を少量含む、焼土粒(～8mm)を微量含む。

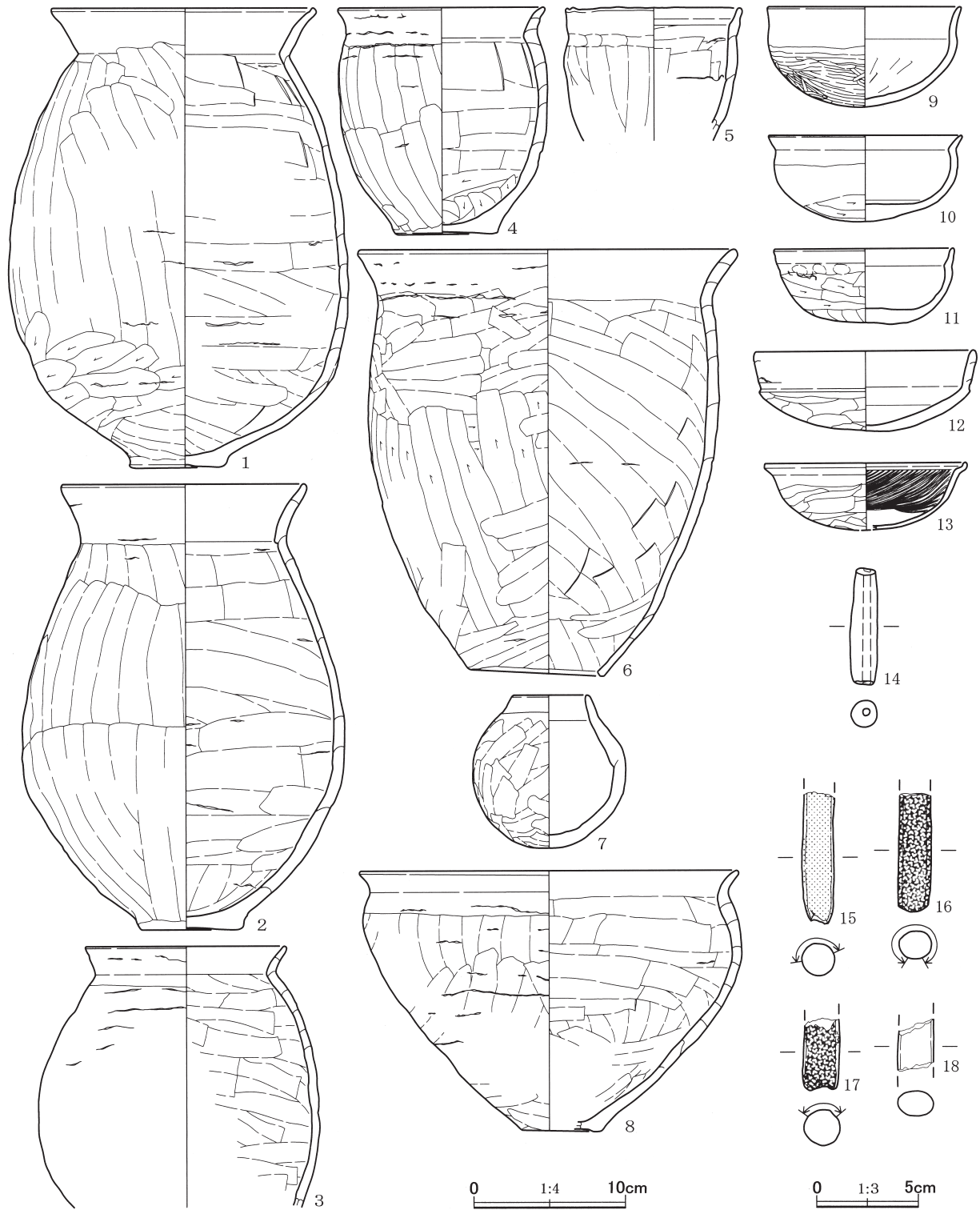
第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～30mm)を中量含む。

第430図 第207号住居跡平面・断面図(2)

P1～P3は、支柱穴であろう。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形、楕円形で、最深部での深さは、P1が55cm、P2が45cm、P3が65cm、P4が47cmである。南隅近くのピット、あるいは土坑は、貯蔵穴であろう。上端での平面形は、やや不整な楕円形で、長径は118cm、短径は102cmである。上端がやや広がるバケツ形に掘り込まれており、深さは50cmである。覆土は3層で、第2・3層には、ローム小塊が目立つ。

カマドは、南東壁の南隅にやや寄った位置に付設されている。幅広の両袖に挟まれた燃焼部が残存している。燃焼面は、凸凹している。袖端を末端とするなら、燃焼部の長さは90cm、横幅は60cmである。奥壁、側壁、燃焼面の焚口周辺は、局所的に被熱赤化している。右袖基部近くの甕破片は、袖甕の残片であろう。

第431図1の甕は、貯蔵穴の上位から上層にかけての位置から、2の甕は、貯蔵穴の上～中層から、6の甕は、貯蔵穴の中位の位置から出土している。7の無頸壺、10・11の坏は、貯蔵穴と南東壁の間の床面よりやや浮いた位置から出土している。3の甕、9の坏は、P1と南東壁の間の下層～床面直上から出土している。13の坏は、南西壁脇の床面直上から出土している。12の坏は、覆土中出土である。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期初頭(新相)の遺構と考えられる。



第431図 第207号住居跡出土遺物

第200表 第207号住居跡出土遺物観察表（1）

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 17.9 底径 6.4 器高 30.2	口縁部は外反する。胴部は下位にやや膨らみをもつ。輪台状の平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ、下位は一部ヘラケズリ。底部ナデ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外－橙色	3/4残存

C地点

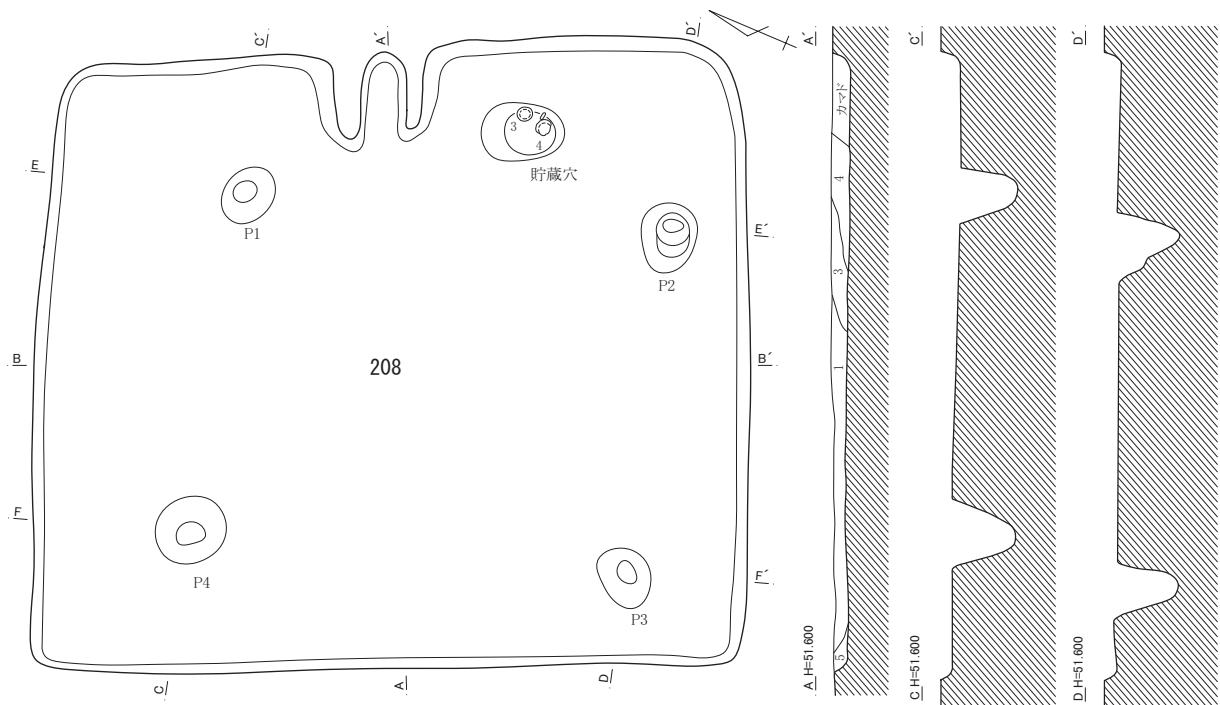
第201表 第207号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
2	甕	口径 (16.4) 底径 6.7 器高 29.3	口縁部は外反する。胴部は中位に膨らみをもつ。輪台状の平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。底部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部~底部ヘラナデ。	片岩・白色粒・褐色粒 内外-橙色	口縁部~胴部2/3欠損
3	甕	口径 (13.6) 底径 — 器高 [17.9]	口縁部は外傾する。胴部は中位に膨らみをもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒 内外-にぶい赤褐色	口縁部~胴部1/2残存
4	小型甕	口径 (14.0) 底径 7.0 器高 15.6	口縁部は外反する。胴部は膨らみをもたない。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。底部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。胴部下位~底部ヘラケズリ。	片岩・白色粒・小礫 内外-橙色	口縁部2/3欠損
5	小型甕	口径 11.9 底径 — 器高 [9.1]	口縁部は外反する。胴部は膨らみをもたない。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒 外-にぶい赤褐色 内-にぶい褐色	口縁部~胴部2/3残存
6	甕	口径 25.9 底径 9.3 器高 28.0	口縁部は外反し、口唇部に面をもつ。胴部は中位にわずかな膨らみをもつ。底部は筒抜け。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部上半ヘラナデ。胴部下半ヘラケズリ後、ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ、端部ヘラケズリ。	石英・白色粒・黒色粒 内外-橙色	底部1/2欠損
7	無頸壺	口径 (5.0) 底径 — 器高 10.5	口縁部は内傾する。胴部は中位に膨らみをもつ。丸底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部~底部ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部~底部ヘラナデ。	白色粒 外-赤褐色 内-にぶい褐色	口縁部2/3欠損
8	大型鉢	口径 (26.0) 底径 (5.5) 器高 17.0	平底。体部は上位が張り、口縁部は外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。底部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部~底部ヘラナデ。	白色粒 内外-橙色	3/4残存
9	坏	口径 (13.1) 底径 — 器高 6.9	丸底。体部は丸みをもつ。口縁部は外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部ミガキ。底部ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。	白色粒 内外-赤褐色	口縁部2/3欠損
10	坏	口径 13.2 底径 — 器高 5.9	丸底。体部は丸みをもつ。口縁部は外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部ナデ。体部下位~底部ヘラケズリ。内面-口縁部~体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外-橙色	口縁部一部欠損
11	坏	口径 12.2 底径 — 器高 5.2	丸底。体部は丸みをもつ。口縁部は内彎気味に開く。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、指頭圧痕。体部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外-橙色	口縁部1/5欠損
12	坏	口径 15.0 底径 — 器高 5.5	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部~体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外-にぶい褐色	一部欠損
13	坏	口径 (13.7) 底径 — 器高 4.6	丸底。体部は彎曲する。口縁部は短く外傾し、端部で直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。体部放射状暗文。底部ヘラナデ。	白色粒 内外-橙色	1/3残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
14	土錘	長さ6.0、幅1.4、厚さ1.4、重さ13.14g。胎土：白色粒。色調：橙色。				完形
15	棒状土製品	第971表91、第439表参照。				No.91
16	棒状土製品	第971表92、第439表参照。				No.92
17	棒状土製品	第971表93、第439表参照。				No.93
18	棒状土製品	第971表94、第439表参照。				No.94

第208号住居跡(第432~434図、第202・203表、図版47・159)

調査地点の北東部の東縁近く、U10・11グリッドに位置し、I群に含まれる住居跡である。第217号住居跡に切られており、第227号住居跡と重複している。なお、第231号住居跡と接しており、第228・268号住居跡と重なる位置にあるが、他遺構が介在し、直接切り合わない。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、横幅がやや長い方形である。規模は、主軸方向で4.76m、副軸方向で5.50m、主軸方位



第208号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～3mm)・ローム小塊(～20mm)を中量含み、焼土粒(～5mm)を少量含む。

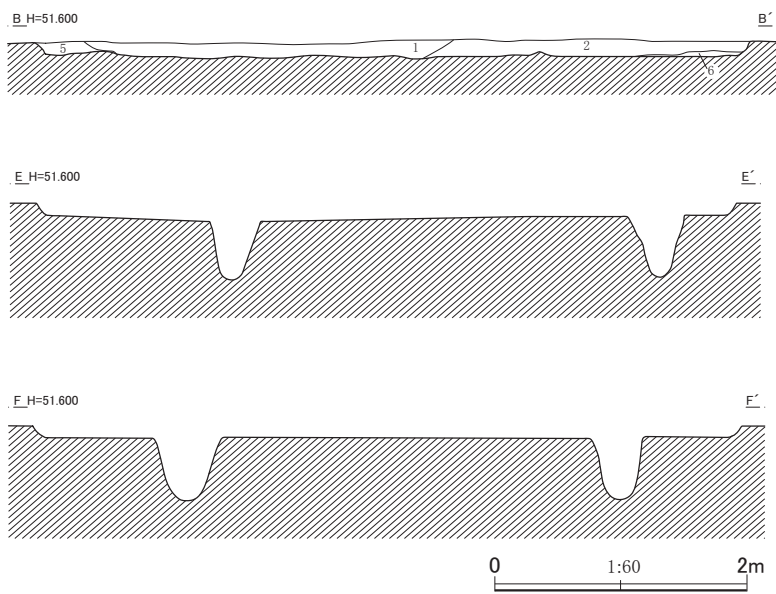
第2層：暗褐色土。ローム粒(～3mm)・ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～5mm)を少量含む。

第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を多量に含み、ローム小塊(～30mm)・焼土粒(～5mm)を少量含む。

第4層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、焼土粒(～5mm)を少量含む。

第5層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～15mm)を中量含む。

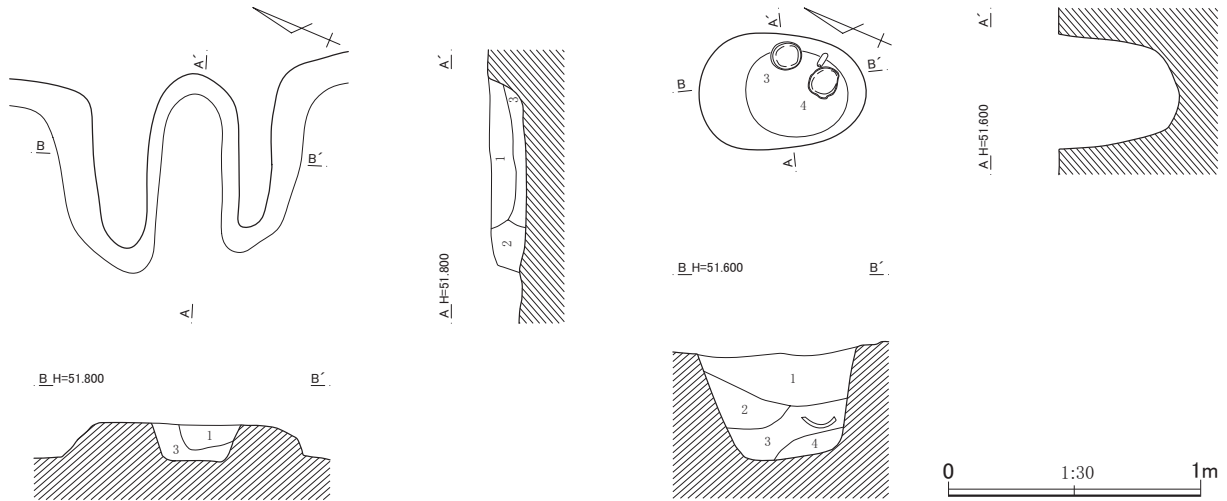
第6層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～10mm)を微量含む。



第432図 第208号住居跡平面・断面図(1)

は、N-66°-Eである。床面は、中央を中心に、所々かすかに硬化している。壁高は、東壁で13cm、南壁で11cm、西壁で10cm、北壁で9cmである。

P1～P4は、支柱穴であろう。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形、楕円形で、最深部での深さは、P1が45cm、P2が48cm、P3が49cm、P4が50cmである。カマド右袖脇のピットは、貯蔵穴であろう。上端での平面形は、楕円形で、長径は62cm、短径44cmである。バケツ形に掘り込まれており、深さは42cmである。覆土は4層で、第1・3層は、ローム小塊の目立つ、埋め戻されたような土である。



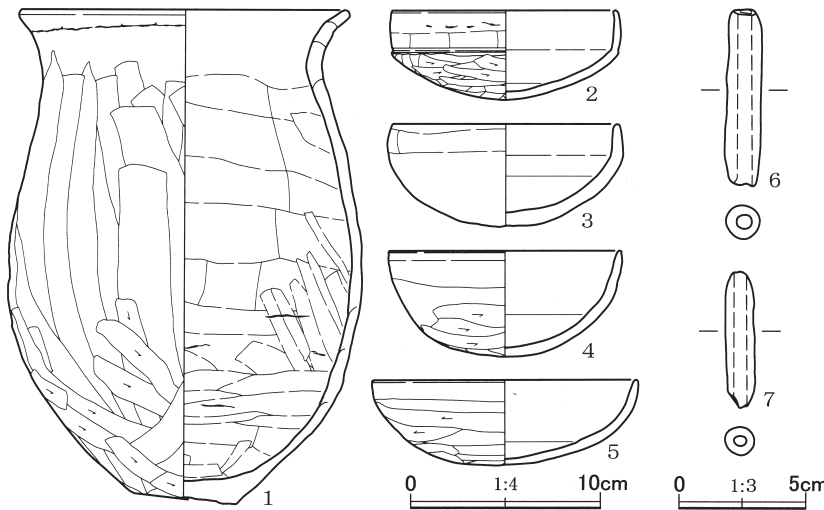
第208号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を微量含み、灰色粘土小塊(～20mm)・ローム小塊(～10mm)を少量、焼土粒(～5mm)を中量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含み、灰色粘土小塊(～15mm)・ローム小塊(～30mm)・炭化物粒(～5mm)・焼土粒(～5mm)を微量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・焼土粒(～5mm)を微量含み、ローム小塊(～10mm)を少量含む。

第208号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・焼土粒(～5mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を中量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・焼土粒(～10mm)を微量含み、ローム小塊(～20mm)を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含み、ローム小塊(～20mm)を中量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。

第433図 第208号住居跡平面・断面図(2)



第434図 第208号住居跡出土遺物

カマドは、東壁のほぼ中央に付設されている。細長い両袖に挟まれた細長い燃焼部が残存する。燃焼面は、かすかに掘りくぼめられ、微妙に凸凹している。袖端を末端とするなら、燃焼部の長さは71cm、横幅は34cmである。奥壁、側壁は、部分的に軽微であるが、被熱赤化している。カマド覆土の第1層は、粘土小塊を少量、焼土粒をかなり含み、

第202表 第208号住居跡土遺物観察表(1)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 17.8 底径 5.6 器高 25.7	口縁部は強く外反する。胴部は中～下位に膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。底部ナデ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒・礫 外-にぶい黄橙色 内-橙色	口縁部～胴部 1/2欠損
2	坏	口径 12.4 底径 — 器高 4.9	丸底。口縁部は体部との境に弱い稜をもち、内彎気味に立ち上がる。丸底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面-口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒 内外-橙色	完形

第203表 第208号住居跡土遺物観察表(2)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
3	坏	口径 12.6 底径 — 器高 5.6	丸底。口縁部は内傾気味に立ち上がる。丸底。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリだが磨耗。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外—明赤褐色	口縁部一部欠損
4	坏	口径 (12.9) 底径 — 器高 5.8	丸底。体部は深く、口縁部は外傾気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ナデ、中位～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部上位ヨコナデ。体部中位～底部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外—明赤褐色	2/3残存
5	坏	口径 (14.7) 底径 — 器高 4.6	丸底。体部は内彎する。口縁部は外傾気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒 外—にぶい褐色 内—にぶい橙色	2/3残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
6	土錘	長さ7.3、幅1.5、厚さ1.4、重さ16.91g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：明赤褐色。				完形
7	土錘	長さ5.7、幅1.2、厚さ1.2、重さ8.17g。胎土：白色粒。色調：明赤褐色。				完形
8	生痕化石	長さ6.2、幅2.5、厚さ1.7、重さ29.22g。				完形写真のみ

部分的に天井部などの崩落土を含む土層と見られる。

第434図3・4の坏2個体は、貯蔵穴の中層から出土している。5は、あるいは本住居跡を切る第217号住居跡に伴う遺物の可能性がある。

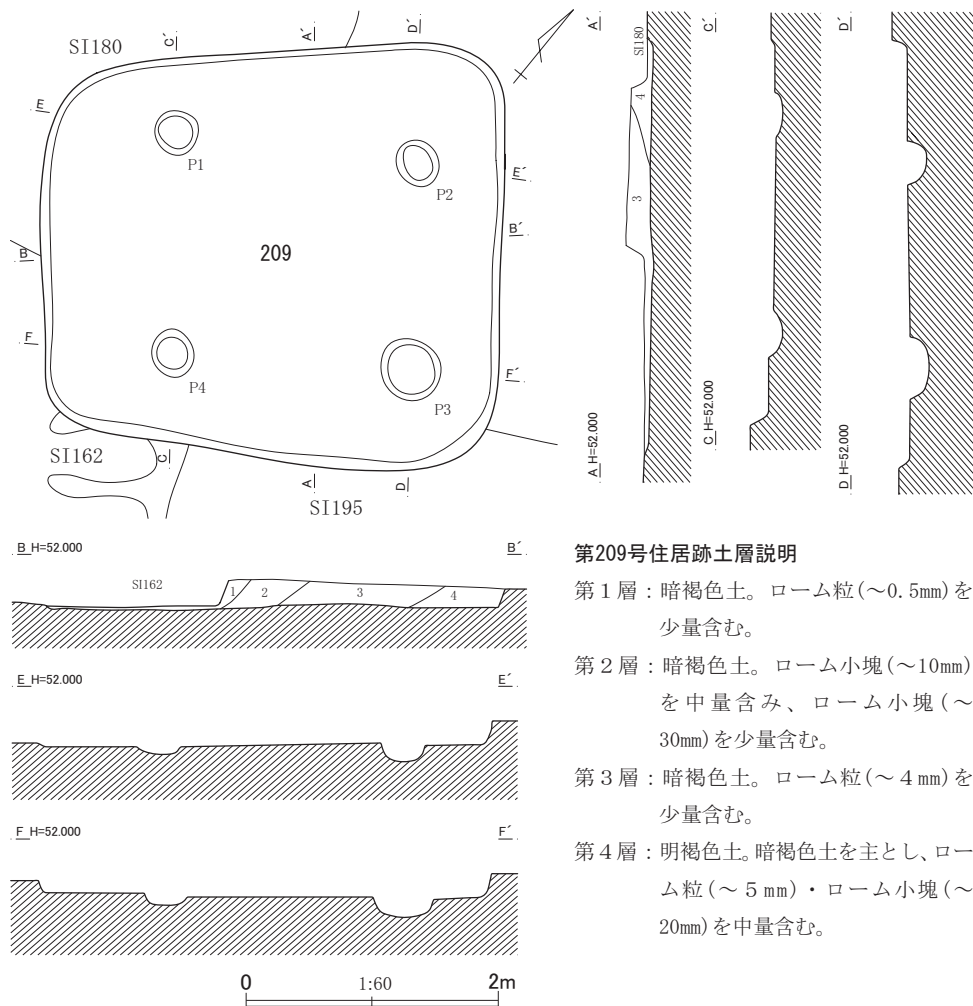
出土遺物から見て、古墳時代後期初頭(新相)の遺構と考えられる。

第209号住居跡

(第435図、図版48)

調査地点の中央の東寄り、R11・12、S11・12グリッドに位置し、F群に含まれる住居

跡である。第162・180・195号住居跡に切られ、北隅周辺を壊されている。また、第234・305・318号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。



第209号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)を中量含み、ローム小塊(～30mm)を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を少量含む。
- 第4層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～20mm)を中量含む。

第435図 第209号住居跡平面・断面図

C地点

平面形は、隅丸長方形と見られるが、ほぼ並行する北東壁と南西壁では、長さがかなり異なる。中軸線で測った規模は、北西-南東方向で3.26m、北東-南西方向で3.65mである。北西-南東方向の中軸線を主軸と仮定するなら、主軸方位は、N-37°-Wとなる。壁高は、北西壁で15cm、北東壁で17cm、南東壁で19cm、南西壁で10cmである。

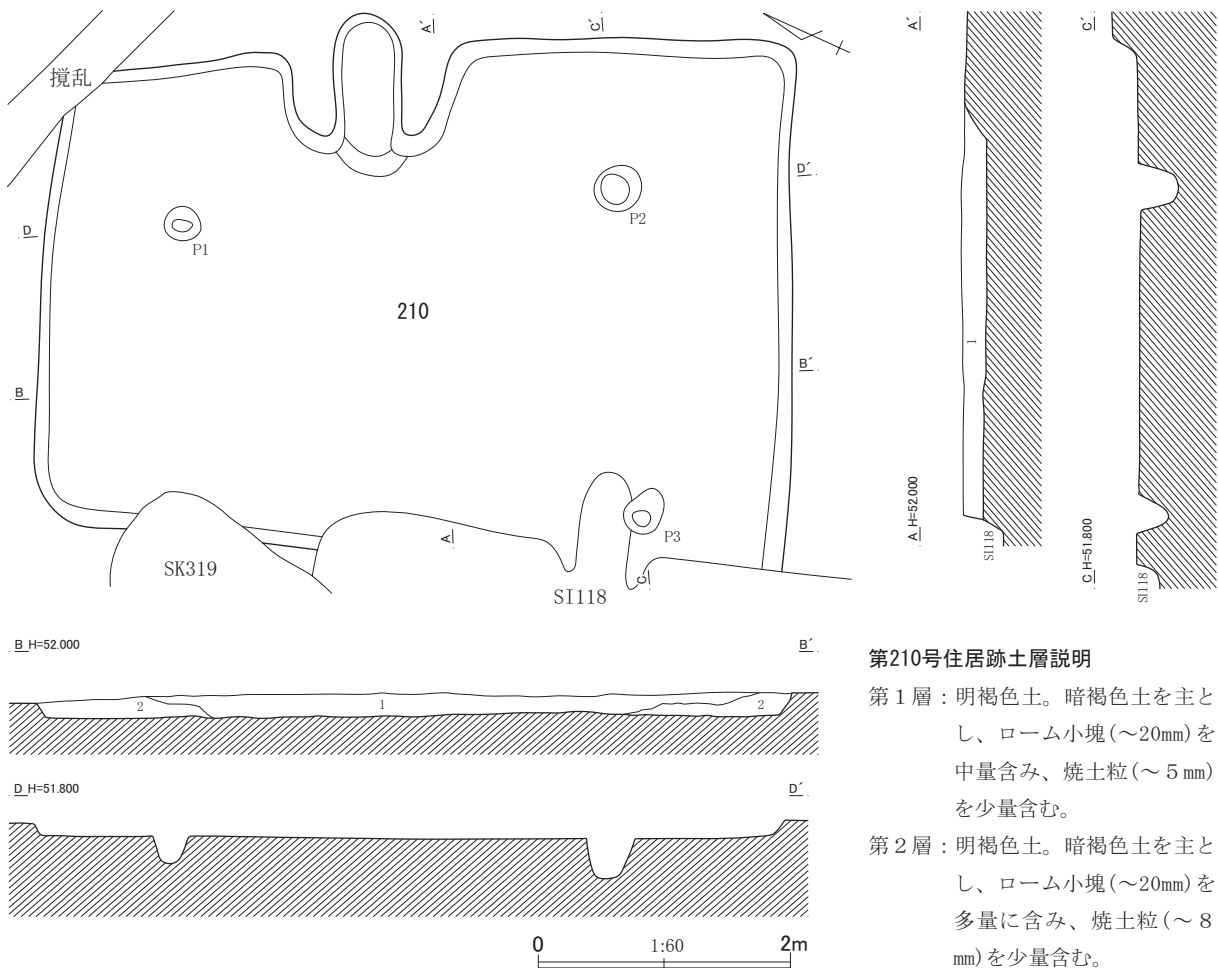
P1~P4は、支柱穴であろう。いずれも上端での平面形は、ほぼ円形で、最深部での深さは、P1が8cm、P2が17cm、P3が19cm、P4が10cmである。

土師器片を主とする遺物が覆土中から出土している。重複関係から見て、古墳時代中期末葉以前の遺構である可能性が考えられる。

第210号住居跡（第436～438図、第204表、図版48・159）

調査地点の中央、やや東寄り、R11、S11グリッドに位置し、F群に含まれる住居跡である。第234・291・305・318号住居跡を切っており、第118号住居跡、第319号土坑に切られ、東壁の大半を壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

南北壁の長さがかなり異なるが、平面形は、横長の長方形と見てよいであろう。規模は、主軸方向で4.25m、副軸方向で6.36m、主軸方位は、N-67°-Eである。床面には微妙な凹凸が見られるが、



第210号住居跡土層説明

第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～20mm)を中量含み、焼土粒(～5mm)を少量含む。

第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～20mm)を多量に含み、焼土粒(～8mm)を少量含む。

第436図 第210号住居跡平面・断面図(1)

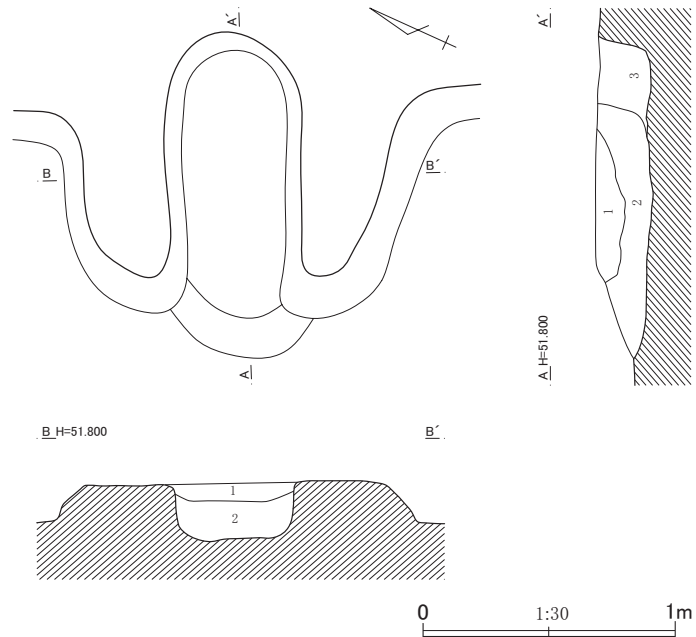
全体としてはおおむねほぼ平坦であり、P1～P3を結ぶ範囲が、軽微ではあるが、局所的に硬化している。壁の立ち上がりは、比較的ゆるやかで、壁高は、東壁で20cm、南壁で18cm、北壁で13cmである。

P1～P3は、支柱穴であろう。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形、楕円形で、最深部での深さは、P1が24cm、P2が34cm、P3が43cmである。

カマドは東壁の北東隅に偏した位置に付設されている。幅広の両袖に挟まれた楕円形の燃焼部が残存する。燃焼面は、楕円形に浅く掘りくぼめて造作されている。燃焼部の長さは128cm、横幅は54cmである。奥壁、側壁の極々一部が点的に被熱赤化している。カマド覆土は3層で、第1・2層は、ほとんど粘土質のローム、あるいは純度の低い粘土からなり、粘土の隙間に暗褐色土や焼土が混入したような層であり、天井部や側壁の崩落土と見られる。

住居跡覆土は、2層に分けられた。ローム小塊をかなりの量含み、焼土が目立つ土層である。

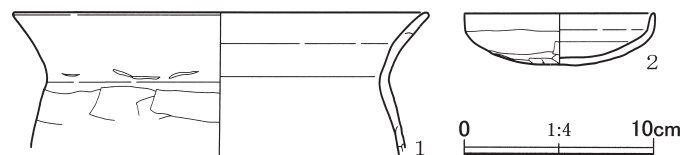
覆土中から土師器片を主とする遺物が相当量出土しているが、図化したのは、第438図の2個体である。重複関係、出土遺物から見て、奈良時代の遺構である可能性が考えられる。



第210号住居跡カマド土層説明

- 第1層：灰褐色粘土。焼土粒(～10mm)を微量含む。ややしまっている。
- 第2層：灰褐色粘土。焼土小塊(～30mm)を少量含む。ややしまっている。
- 第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～10mm)・粘土小塊(～50mm)・焼土小塊(～15mm)を少量含む。

第437図 第210号住居跡平面・断面図(2)



第438図 第210号住居跡出土遺物

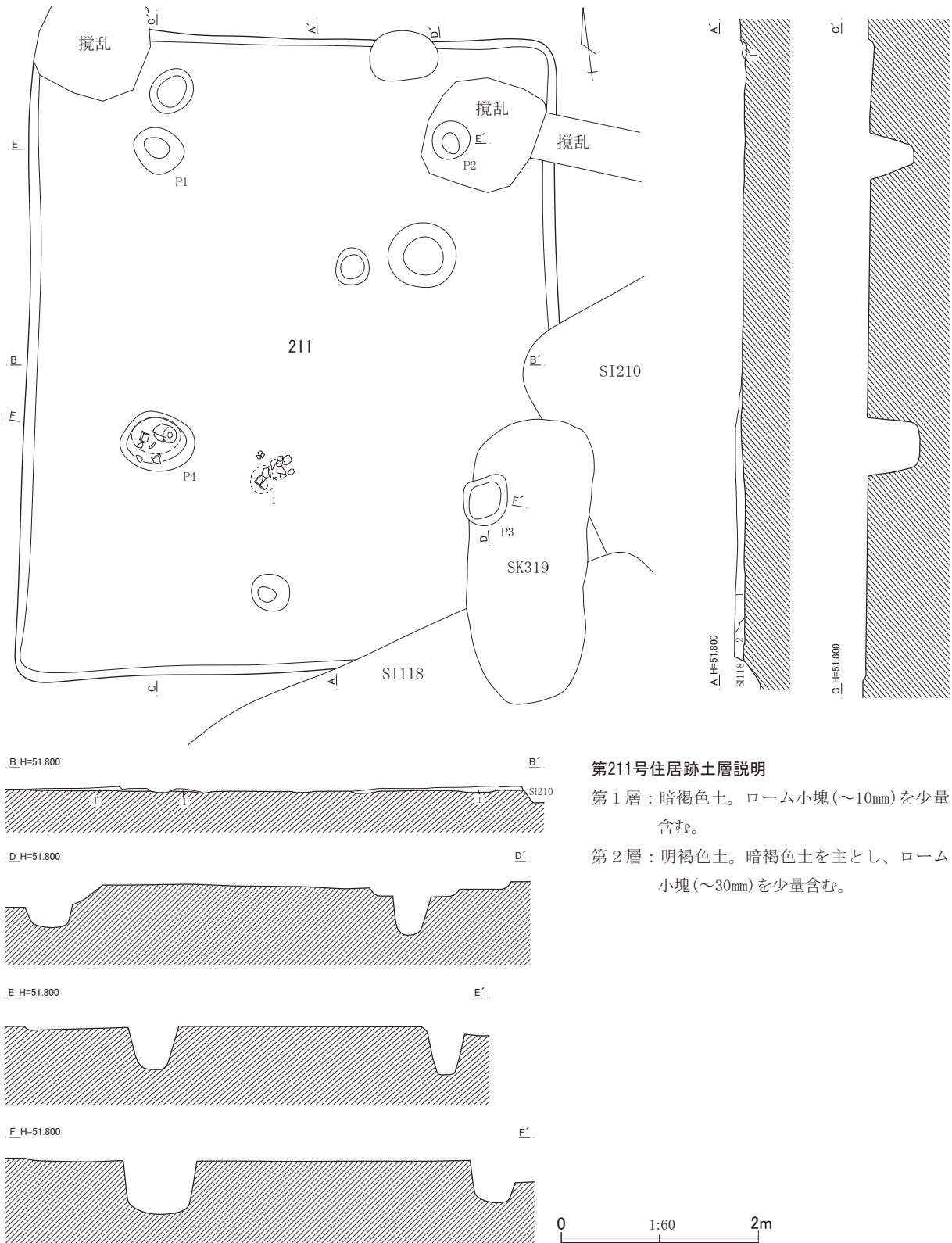
第204表 第210号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 (22.8) 底径 — 器高 [7.8]	口縁部は外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部上位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部上位ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—橙色	口縁部～胴部上位1/2残存
2	坏	口径 (10.5) 底径 — 器高 2.8	丸底。体部は浅い。口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ナデ。体部下位～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	角閃石・白色粒・礫 外—橙色 内—にぶい橙色	1/4残存

C地点

第211号住居跡（第439・440図、第205表、図版48・159）

調査地点のほぼ中央、Q10・11、R10・11グリッドに位置し、F群に含まれる住居跡である。第282・291・306号住居跡を切っており、第118・210号住居跡、第319号土坑、および攪乱に切られ、北



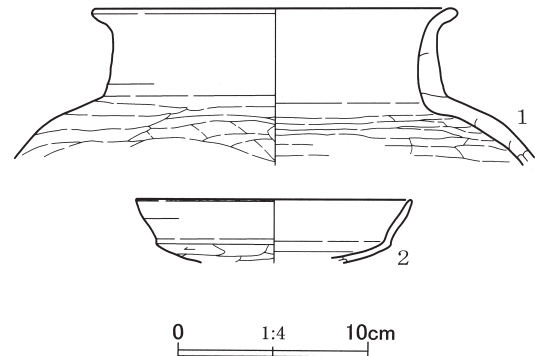
第439図 第211号住居跡平面・断面図

西隅、南東隅から東壁にかけて大きく失われている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

カマドが壊された東壁側にあったとすれば、平面形は、横長の長方形ということになる。規模は、東西方向で5.21m、南北方向で6.19mである。上記の推定からすれば、主軸方位はS-82°-Eとなる。支柱穴を結ぶ範囲の床面は、軽微ではあるが、硬化している。壁高は、最も残りのよい部分でも4、5cmしかない。

P1～P4は、支柱穴であろう。いずれも上端での平面形は、かなり不整な円形、楕円形で、最深部での深さは、P1が41cm、P2が46cm、P3が42cm、P4が52cmである。

第440図1の大型壺は、P3、P4間の床面直上から破片化した状態で出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期後葉前半の遺構である可能性が考えられる。



第440図 第211号住居跡出土遺物

第205表 第211号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	大型壺	口径 (19.6) 底径 — 器高 [8.6]	口縁部は直立し、上端で強く外反する。肩部は張る。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。肩部ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ。肩部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 内外-橙色	口縁部～胴部 上位1/3残存
2	坏	口径 (15.2) 底径 — 器高 [3.5]	口縁部は体部との境に稜をもって外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。内面-口縁部～体部ヨコナデ。	白色粒 内外-にぶい橙色	口縁部～体部 1/4残存

第212号住居跡 (第441・442図、第206表、図版48・160)

調査地点の東縁近くの中央、U13グリッドに位置し、G群に含まれる住居跡である。第252・266号住居跡を切っており、第106号住居跡に切られ、遺構の一部を壊されている。また、第253・254号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

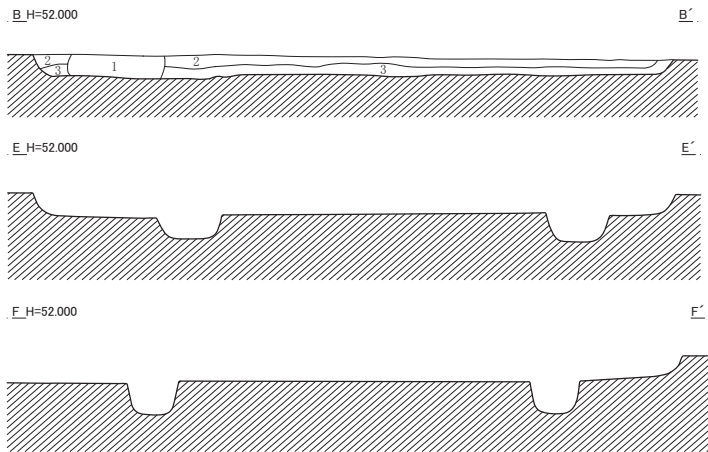
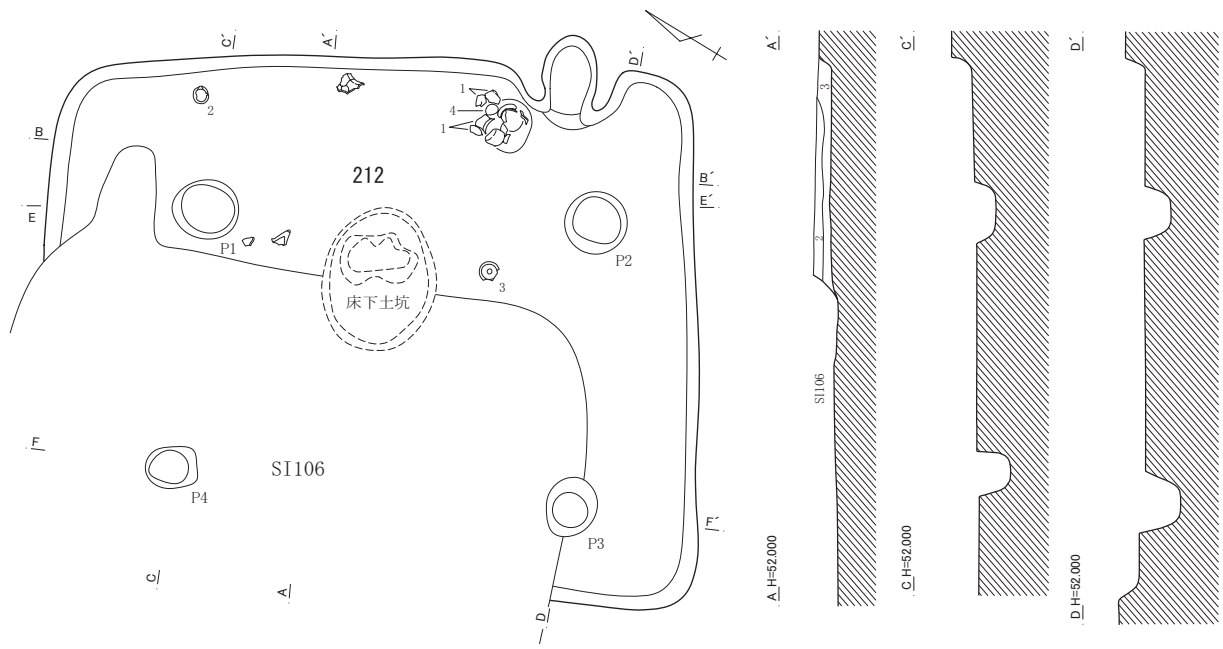
平面形は、横長の長方形と見てよいであろう。規模は、主軸方向で4.01m、副軸方向で4.97m、主軸方位はN-58°-Eである。支柱穴を結ぶ範囲の一部、およびカマド前面の床面は、硬化している。壁高は、北東壁で11cm、南東壁で10cm、南西壁で17cm、北西壁で16cmである。

P1～P4は、支柱穴であろう。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形で、最深部での深さは、P1が16cm、P2が21cm、P3、P4が25cmである。

カマドは、北東壁の東隅に著しく偏した位置に付設されている。短小な両袖に挟まれた丸みのある燃焼部のみ残存する。燃焼面は掘りくぼめられ作出されており、かなり凸凹している。袖端を末端とするなら、燃焼部の長さは64cm、横幅は42cmである。側壁の極々一部が被熱赤化している。カマド覆土は3層で、粘土小塊を多量に含む第1層は、天井部などの崩落土を含むと見られる。

P1、P2間で床下土坑を検出した。上端での平面形は、楕円形で、長径112cm、短径92cmである。鍋底形に掘り込まれており、中央が不規則な形に深くなっている。最深部での深さは、28cmである。

住居跡の覆土は、3層に分けられたが、第1層は、あるいは第106号住居跡のカマドの土になるのかもしれない。第2・3層には、ロームの混入が顕著である。

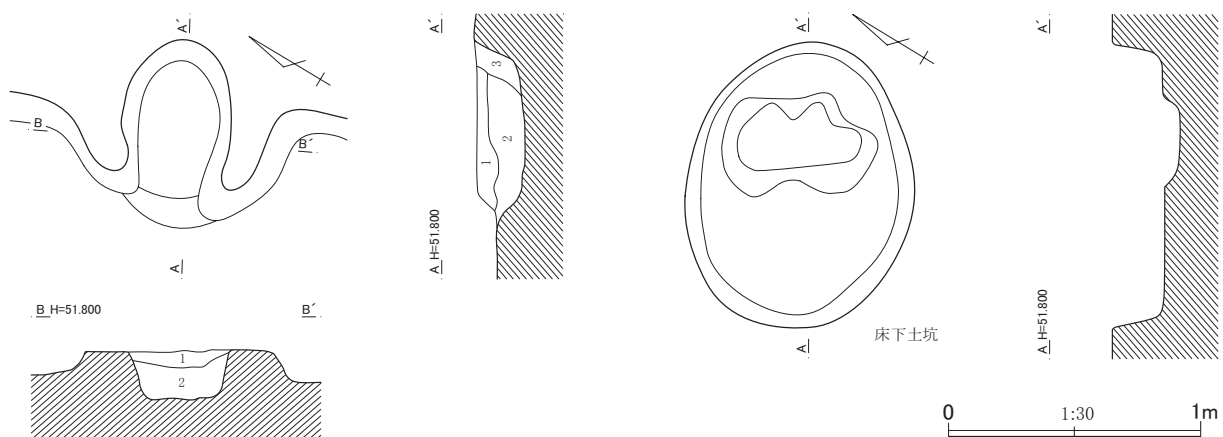


第212号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を微量含み、ローム小塊(～30mm)を少量、焼土粒(～8mm)を中量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒(～8mm)を少量含み、焼土粒(～5mm)を微量含む。

第3層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)を中量含み、焼土粒(～8mm)を微量含む。



第212号住居跡カマド土層説明

第1層：明褐色土。ローム粒(～5mm)を微量含み、粘土小塊(～50mm)を多量に、焼土小塊(～10mm)を中量含む。

第2層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)を少量含み、焼土粒

(～8mm)を中量含む。

第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含み、焼土粒(～5mm)を微量含む。

第441図 第212号住居跡平面・断面図

第206表 第212号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 (16.6) 底径 — 器高 [12.8]	口縁部は外反する。胴部は膨らみをもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部上位ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部上位ヘラナデ。	石英・白色粒・褐色粒 内外—橙色	口縁部～胴部上位2/3残存
2	甕	口径 21.0 底径 — 器高 [20.7]	口縁部は強く外反し、内面に弱い凹線がめぐる。胴部は膨らみをもたない。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	石英・角閃石・白色粒 内外—橙色	口縁部～胴部上半
3	甗	口径 — 底径 4.0 器高 [9.3]	底部に孔径2.9cmの円孔。粘土紐積み上げによる成形。	外面—胴部ヘラナデ後、下端ヘラケズリ。内面—胴部上位ヘラナデ、端部ナデ。	白色粒・褐色粒 内外—にぶい褐色	胴部下半～底部
4	坏	口径 (11.2) 底径 — 器高 3.6	丸底。口縁部は体部との境に弱い稜をもって直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒 内外—橙色	1/3残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
5	土錘	長さ5.15、幅1.5、厚さ1.45、重さ10.63g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい黄橙色。				完形
6	棒状土製品	第971図95、第439表参照。				No.95
7	棒状土製品	第971図96、第439表参照。				No.96

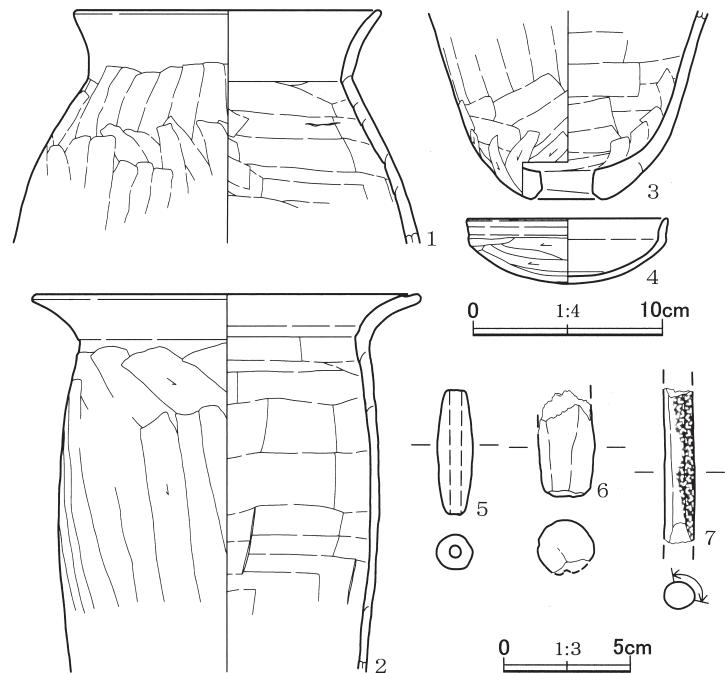
第442図1の甕、4の坏は、カマド左袖の先端付近の床面直上から出土した。2の甕は、北東壁近くから、3の甗は、P2と床下土坑の間から出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末期前葉から中葉にかけての遺構と思われる。

第213号住居跡（第443～445図、第207表、図版49・160）

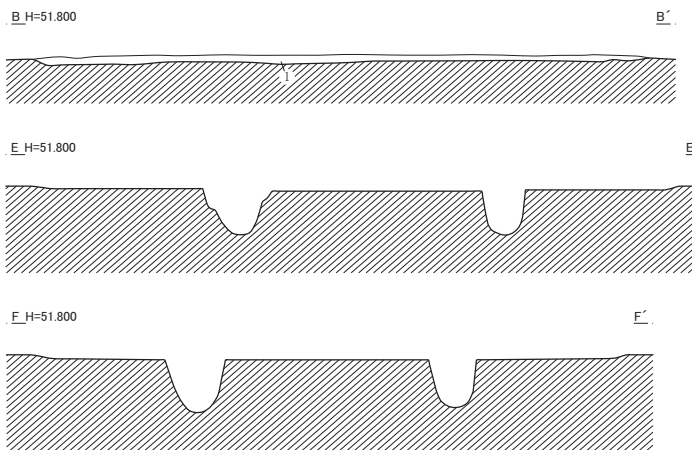
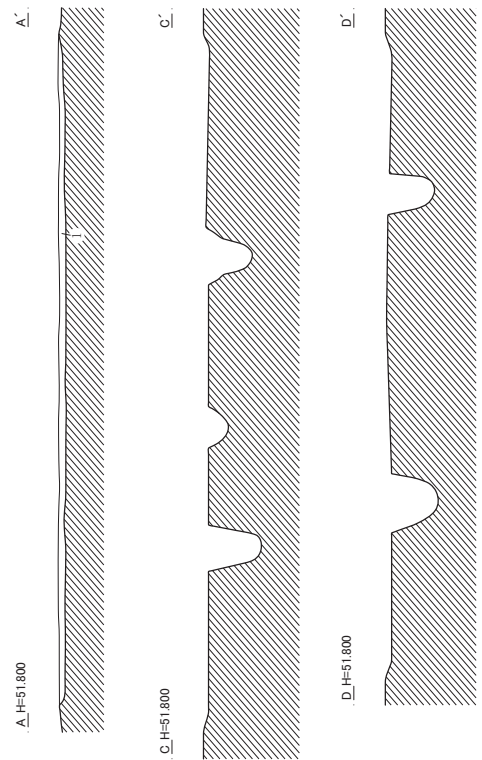
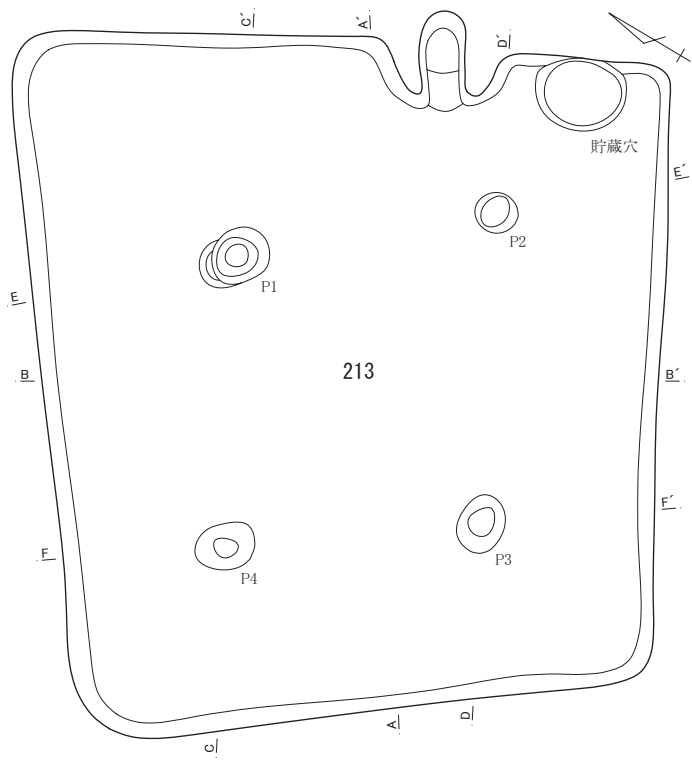
調査地点の北東部のほぼ中央、S10・11、T10グリッドに位置し、C群に含まれる住居跡である。第230・315号住居跡を切っている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、方形である。規模は、主軸方向で5.16m、副軸方向で4.24m、主軸方位は、N-59°-Eである。床面の硬化は顕著ではない。壁自体辛うじて残るのみであり、壁高は、北東壁、南東壁、南西壁で2～4cm、北西壁で6cmである。

P1～P4は、主柱穴であろう。上端での平面形は、やや歪な円形、楕円形で、深さはP1が35cm、P2が34cm、P3が37cm、P4が42cmである。P1には、中段に段があり、あるいは柱の付け替えがなされたのかもしれない。東隅近くの北東壁沿いのピットは、貯蔵穴であろう。上端での平面形は楕円形で、長径70cm、短径55cmである。鍋底形に掘り込まれており、底面には不規則な凹凸が見られる。最深部での深さは、17cmである。

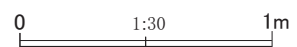
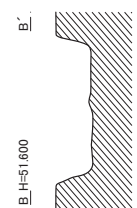
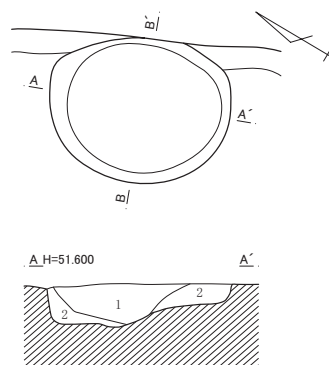
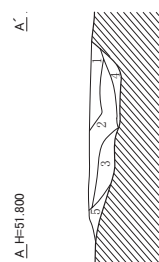
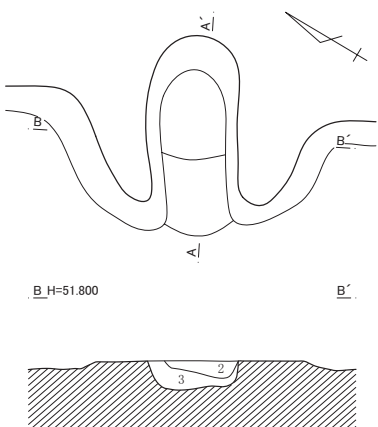
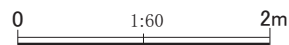


第442図 第212号住居跡出土遺物



第213号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。



第443図 第213号住居跡平面・断面図(1)

第213号住居跡カマド土層説明

第1層：灰色粘土。暗褐色土を主とし、焼土粒(～5mm)を中量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含み、炭化物粒(～5mm)を微量含む。

第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を微量、焼土小塊(～10mm)を少量含む。

第4層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含む。

第5層：灰色粘土。暗褐色土を主とする。

第213号住居跡貯蔵穴土層説明

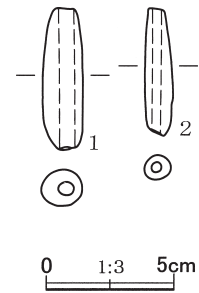
第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)・焼土小塊(～10mm)を微量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。

第444図 第213号住居跡平面・断面図(2)

カマドは、北東壁のかなり東隅に寄った位置に付設されている。短小な両袖に挟まれた燃焼部のみ残存する。燃焼部の長さは74cm、横幅は35cmである。燃焼面は、浅く掘りくぼめており、焚口から中央まで傾斜し、中央から奥壁に向かって上向きの傾斜に転じるよう造作されている。凸凹がかなり目立つ。カマドの覆土は5層で、粘土を多く含む第1・5層は、天井部などの崩落土を含む層と見られる。

土師器片を主とする遺物が覆土から少量出土している。重複関係から見て、古墳時代終末期後葉以降の遺構と考えられる。



第445図 第213号住居跡出土遺物

第207表 第213号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
1	土錘	長さ5.9、幅1.7、厚さ1.5、重さ15.86g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：橙色。	完形
2	土錘	長さ5.3、幅1.2、厚さ1.0、重さ6.75g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい橙色。	完形

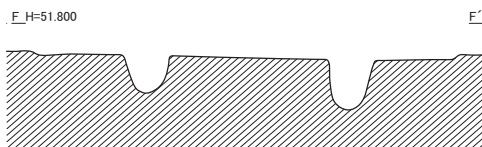
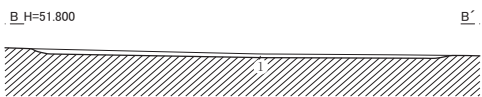
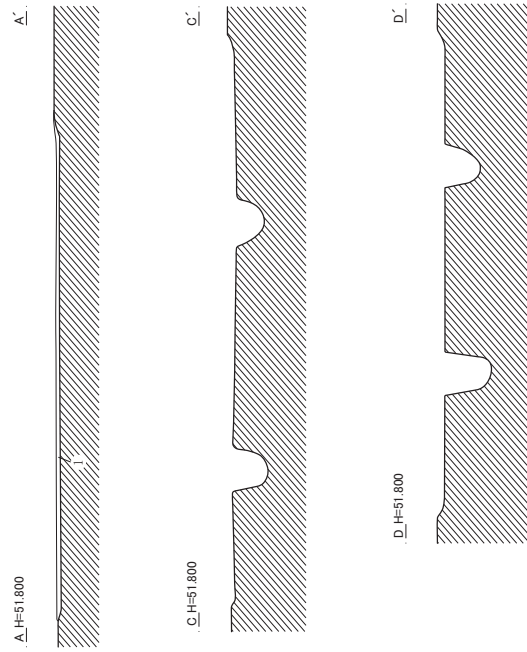
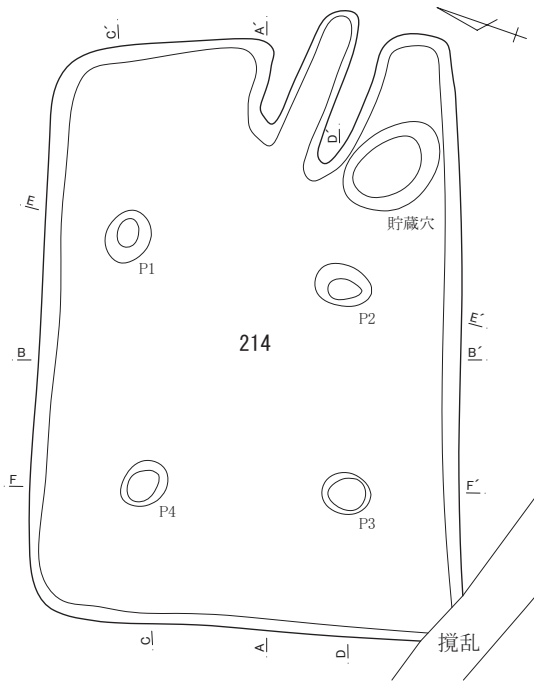
第214号住居跡(第446・447図、第208表、図版49・160)

調査地点の北東部の中央、やや西寄り、R10・11、S10・11グリッドに位置し、F群に含まれる住居跡である。第291・306・315号住居跡を切っており、南隅を溝状の攪乱により壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、縦長の長方形である。規模は、主軸方向で4.51m、副軸方向で3.24m、主軸方位は、N-71°-Eである。床面はおおむね平坦であるが、硬化は顕著ではない。壁高は、東・北壁で2cm、南・西壁で3cmである。

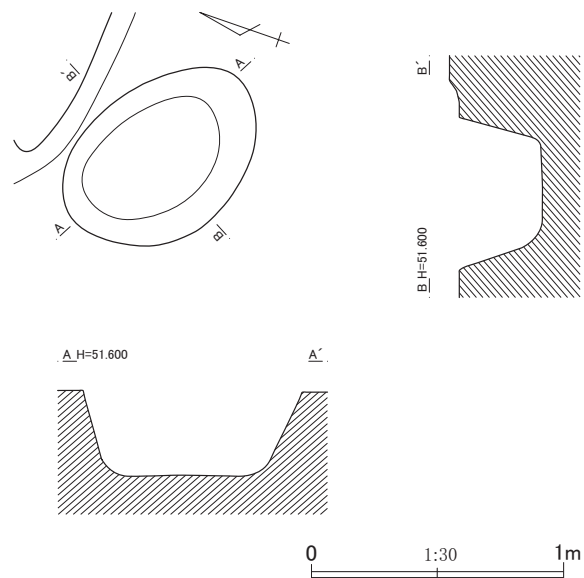
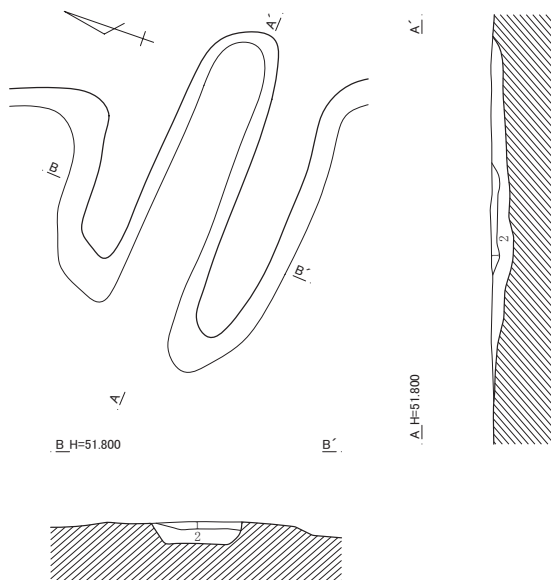
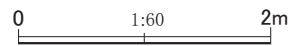
位置的にやや変則的ではあるが、P1～P4は、支柱穴と見られる。上端での平面形は、若干歪な楕円形で、深さは、P1が25cm、P2が31cm、P3が39cm、P4が30cmである。貯蔵穴は、カマド右袖と南壁に挟まれた位置で検出した。上端での平面形は楕円形で、長径82cm、短径59cmである。丸みをもったバケツ形に掘り込まれており、深さは31cmである。

カマドは、東壁の南東隅にかなり寄った位置に斜行して付設されている。細長い両袖に挟まれた細長い燃焼部が残存している。燃焼部の袖端までの長さは125cm、横幅は35cmである。燃焼面は、焚口寄りの手前がやや深くなるようにわずかに掘りくぼめられ作出されている。燃焼面には凹凸が目立つようである。被熱赤化の痕跡は、極々軽微かつ点的である。カマドの覆土は2層で、第2層には、かなりの量の粘土小塊が混入しており、天井部や側壁の崩落土かと思われる。



第214号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)・ローム小塊(～20mm)を少量含む。



第214号住居跡カマド土層説明

第1層：明褐色土。焼土粒(～3mm)を微量含む。
第2層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)を微量含む、粘土小

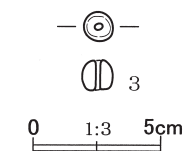
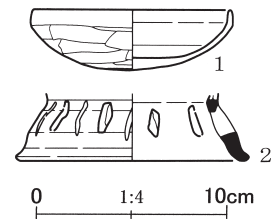
塊(～30mm)を中量、焼土粒(～8mm)を少量含む。

第446図 第214号住居跡平面・断面図

第208表 第214号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 10.8 底径 — 器高 3.3	丸底。体部は内彎する。口縁部は短く直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	角閃石・白色粒 内外—にぶい橙色	2/3残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
2	須恵器 円面硯	底径(12.5)、器高[3.7]。胎土：白色粒。色調：外—灰色、内—灰色。内外面ロクロナデ。透かしの形状は端部にやや丸みをもつ長方形。透かしと透かしの間に深い線刻を施す。				底部破片 還元焰焼成
3	土玉	長さ1.2、幅1.2、孔径0.3×0.25、厚さ1.3、重さ1.96g。胎土：白色粒。色調：黒褐色。調整：ナデ。				完形

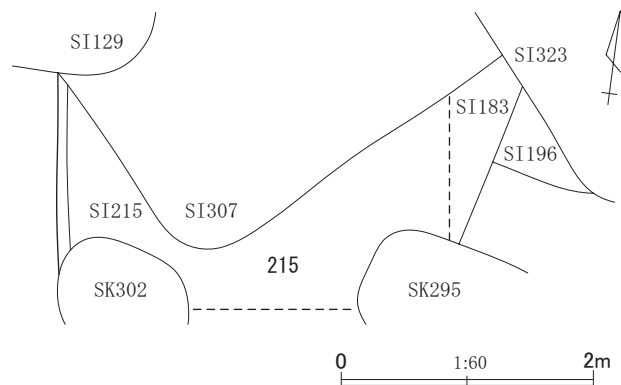
土師器小片を主とする遺物が覆土中より少量出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末期後葉から奈良時代初頭にかけての遺構と考えられる。



第447図 第214号住居跡出土遺物

第215号住居跡 (第448図)

調査地点の中央、やや南寄り、Q11・12グリッドに位置し、F群に含まれる住居跡である。第129・183・307号住居跡、第295・302号土坑に切られ、残存するのは西壁と一部の床面のみである。確認面は、黄褐色のローム層上面である。規模は、東西方向での推定値で3.09mである。西壁はほぼ北を指している。床面はほぼ平坦で、硬化している。土師器片を主とする遺物が少量覆土中から出土している。重複関係から見て、古墳時代後期中葉以前の遺構と考えられる。



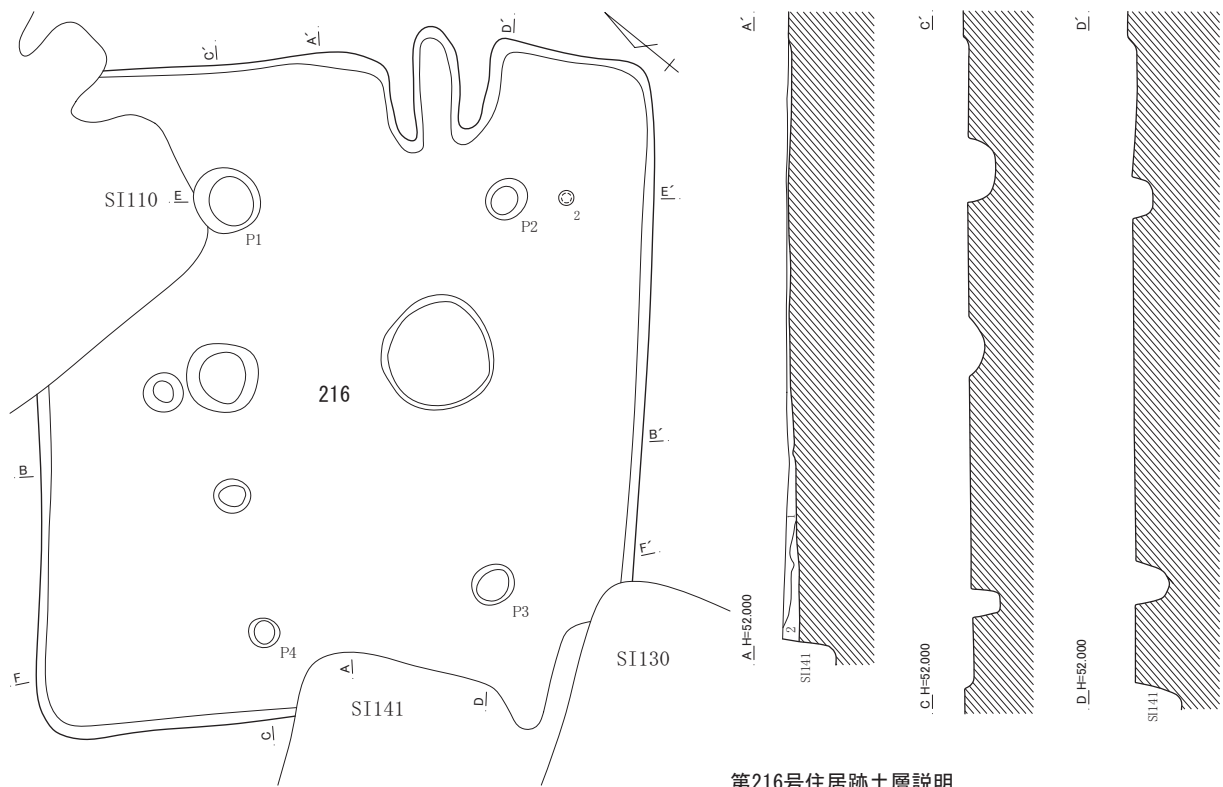
第448図 第215号住居跡平面図

第216号住居跡 (第449・450図、第209表、図版50・160)

調査地点の南東部の中央、やや南東寄り、S13・14、T13・14グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第236・258号住居跡を切っており、第130・141号住居跡に切られ、北隅、南隅の周辺を壊されている。また、第110号住居跡に切られている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

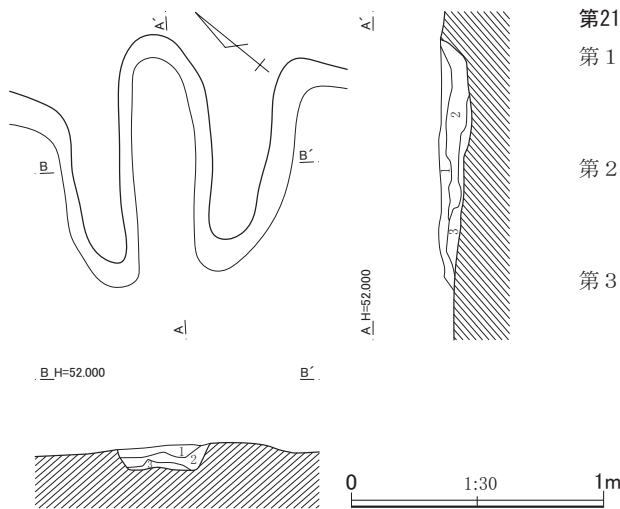
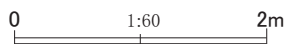
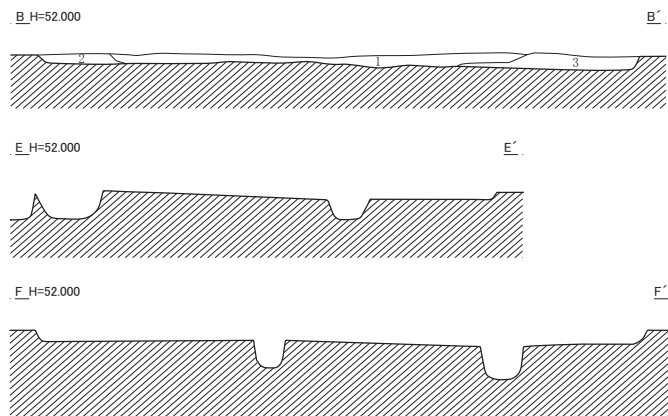
平面形は、縦長の長方形と見てよいであろう。規模は、主軸方向で5.05m、副軸方向で4.67m、主軸方位は、N-50°-Eである。床面には細かな凹凸があるが、全体的に平坦である。支柱穴を結ぶ範囲の北西半を中心に、床面は、軽微ながらも硬化している。壁高は、北東壁で2cm、南東・南西壁で8cm、北西壁で6cmである。

P1～P4は、支柱穴であろう。上端での平面形は、やや歪な円形で、深さは、P1が20cm、P2が16cm、P3が26cm、P4が22cmである。



第216号住居跡土層説明

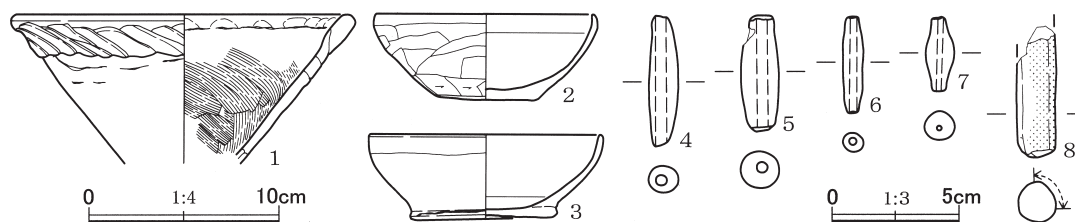
- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・焼土粒(～5mm)を中量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を多量に含み、ローム小塊(～20mm)を微量、焼土粒(～5mm)を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、焼土粒(～5mm)を少量含む。



第216号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～30mm)を微量含み、炭化物粒(～5mm)・焼土粒(～5mm)を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を微量含み、粘土小塊(～10mm)を少量、炭化物粒(～5mm)・焼土粒(～5mm)を中量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・焼土粒(～5mm)を微量含み、ローム小塊(～10mm)を少量含む。

第449図 第216号住居跡平面・断面図



第450図 第216号住居跡出土遺物

第209表 第216号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	小型甌	口径 (18.2) 底径 — 器高 [8.1]	体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。口縁部は折り返し。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部指ナデ。体部ナデだが磨耗。内面—口縁部ヨコナデ後指頭圧痕。体部木口状工具によるナデ。	白色粒 外—橙色 内—明赤褐色	口縁部～体部1/4残存
2	鉢	口径 12.0 底径 5.7 器高 4.7	平底。体部は内彎し、口縁部は短く内屈する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒 内外—明赤褐色	完形
3	鉢	口径 12.7 底径 8.1 器高 4.7	平底。体部は内彎し、口縁部は内彎気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ナデ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒 内外—橙色	口縁部～体部1/2欠損
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
4	土錘	長さ5.4、幅1.2、厚さ1.1、重さ6.85g。	胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい橙色。			完形
5	土錘	長さ4.8、幅1.6、厚さ1.5、重さ11.85g。	胎土：白色粒・黒色粒。色調：褐灰色。			一部欠損
6	土錘	長さ4.0、幅0.85、厚さ0.8、重さ2.49g。	胎土：白色粒。色調：橙色。			完形
7	土錘	長さ3.1、幅1.2、厚さ1.2、重さ3.48g。	胎土：白色粒。色調：橙色。			完形
8	棒状土製品	第971図97、第439表参照。				No.97

カマドは北東壁の東隅に寄った位置に付設されている。両袖に挟まれた細長い燃焼部が残存する。燃焼面は、奥壁側がやや深くなるように浅く掘りくぼめられ作出されている。袖端を先端と見るなら、燃焼部の長さは94cm、横幅は36cmである。燃焼部の被熱赤化はほとんど見られない。カマド覆土は3層で、第2・3層には、粘土小塊が少々含まれる。

第450図2の鉢は、P2の脇の確認面から出土した。カマドがあることに加え、住居形態、重複関係、出土遺物を考慮するなら、古墳時代中期後葉から末葉にかけての遺構と考えられる。

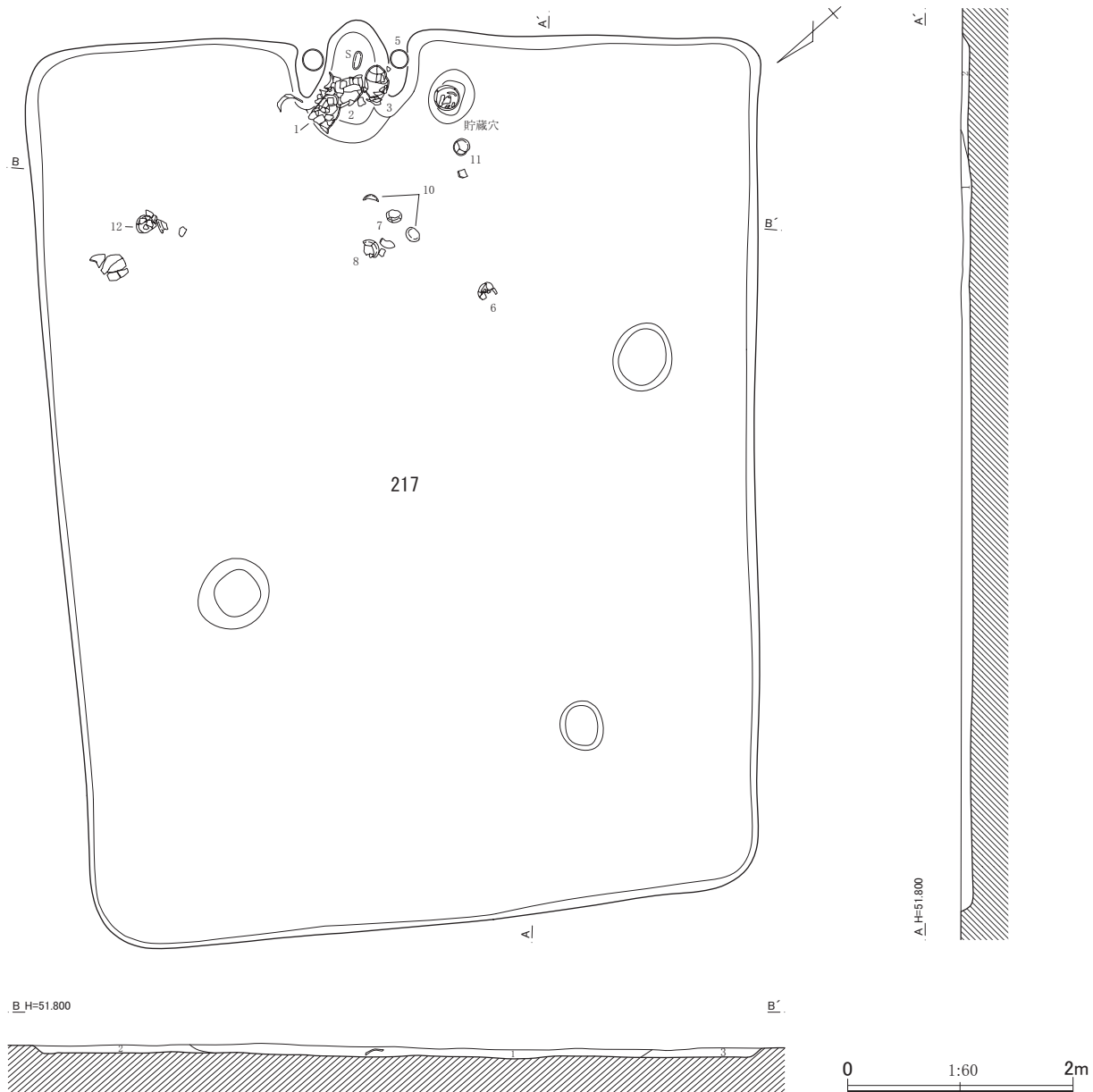
第217号住居跡 (第451～453図、第210・211表、図版50・160・161)

調査地点の北東部中央の東縁近く、U10・11、V11グリッドに位置し、G群に含まれる住居跡である。第208・227・228・268・272号住居跡を切っている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、縦長の長方形である。規模は、主軸方向で7.60m、副軸方向で6.04mである。主軸方位は、S-51°-Eである。床面は、壁際を除いて、軽微ながらも硬化している。壁高は、南東・北西壁で6cm、南西壁で8cmである。

カマド右袖脇のピットは、貯蔵穴であろう。上端での平面形は楕円形で、長径46cm、短径38cmである。丸みのある鍋底形に掘り込まれており、最深部での深さは、11cmである。

カマドは南東壁のほぼ中央、若干東隅寄りに付設されている。低平な袖に挟まれた燃焼部が残存す



第217号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。

5mm）を微量含む。

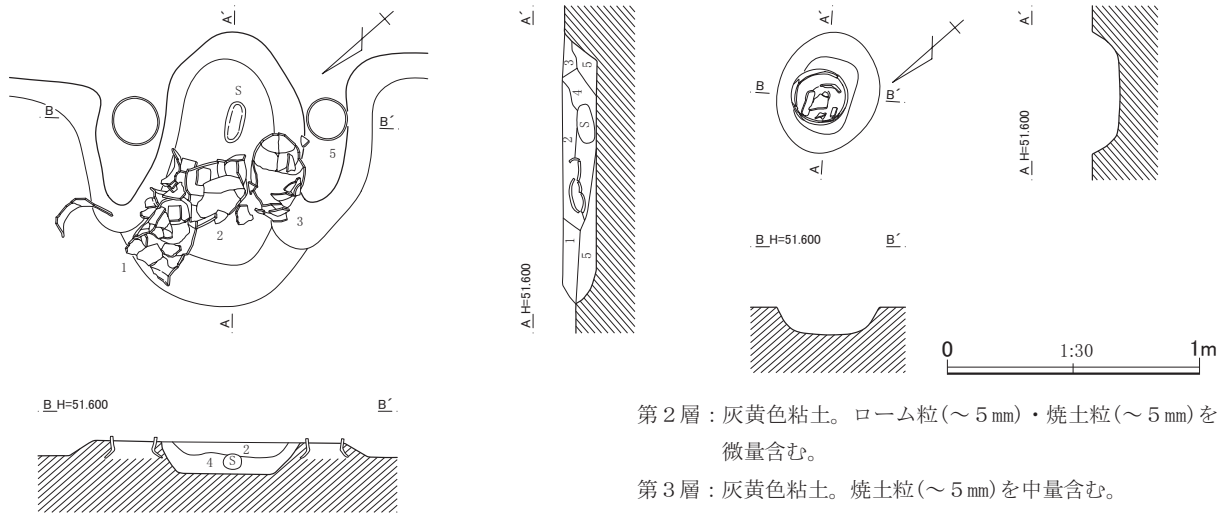
第3層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）・焼土粒（～5mm）を

第2層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、焼土粒（～

微量含み、ローム小塊（～20mm）を少量含む。

第451図 第217号住居跡平面・断面図（1）

る。燃焼面は、掘りくぼめられ作出されており、ほぼ平坦である。燃焼部の長さは80cm、横幅は55cmである。燃焼面や内壁は、あまり赤化していないが、とくに燃焼面の焚口側は、部分的に硬く硬化している。カマド覆土は5層で、第2～4層には、カマド構築材の崩落土と思われる灰黄色粘土が含まれるようである。第453図5の甕は、右袖甕として埋め込まれたものである。左袖甕は、甕胴部片であり、図化していない。1・2・3の甕は、押しつぶされたような状態で、焚口付近からまとまって出土している。また、燃焼部の奥壁寄りの位置から、支脚として用いられたと思われる楕円礫が出土している。



第217号住居跡カマド土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・焼土粒(～8mm)を少量含む。

第2層：灰黄色粘土。ローム粒(～5mm)・焼土粒(～5mm)を微量含む。

第3層：灰黄色粘土。焼土粒(～5mm)を中量含む。

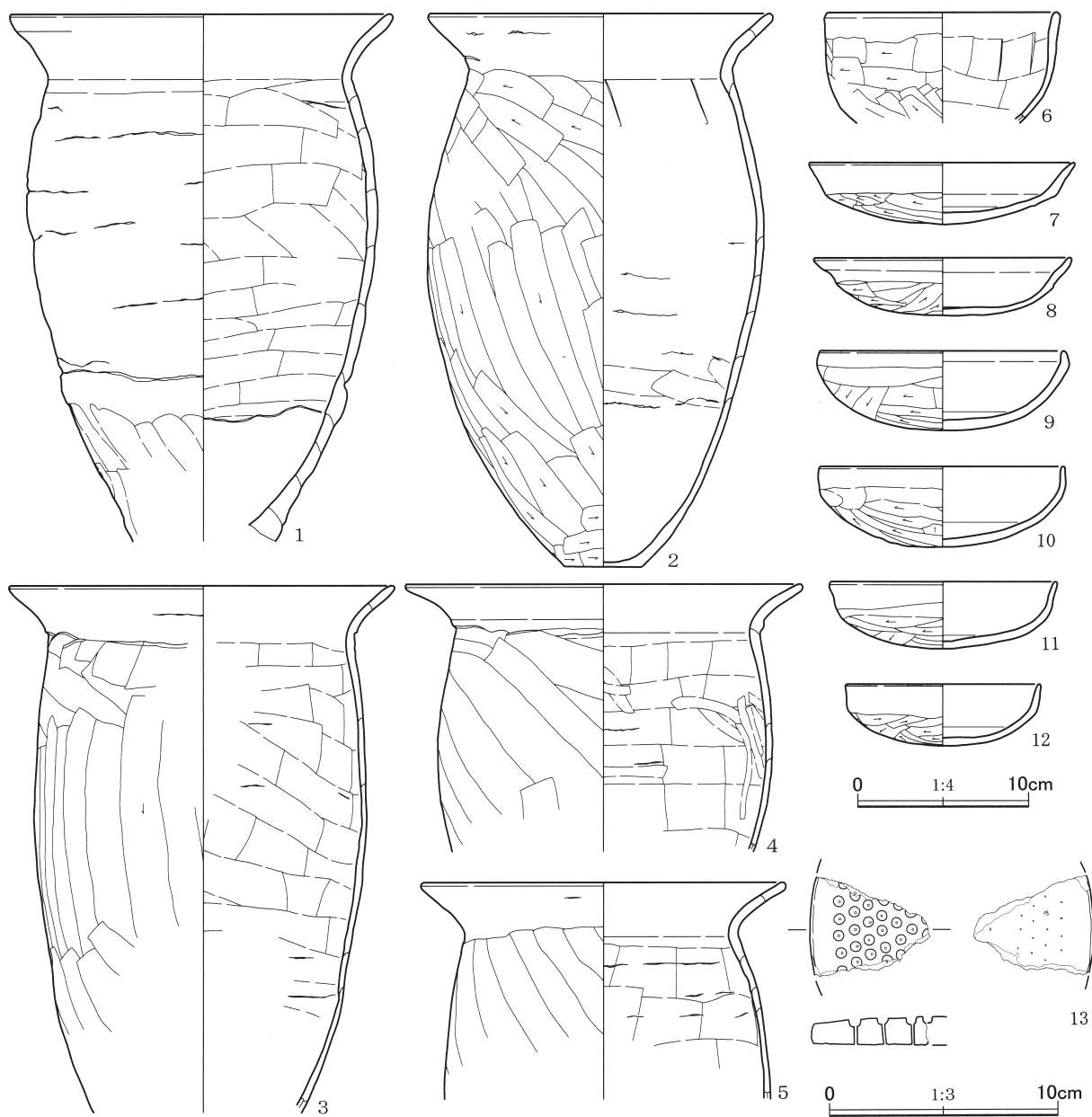
第4層：明褐色土。灰黄色粘土を混交し、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～8mm)を少量含む。

第5層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～8mm)・粘土小塊(～30mm)を少量含む。

第452図 第217号住居跡平面・断面図(2)

第210表 第217号住居跡出土遺物観察表(1)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 23.2 底径 — 器高 [32.3]	口縁部は外反する。胴部は中位にわずかな膨らみをもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ナデ、下位ヘラナデ。輪積み痕明瞭。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—明赤褐色	底部欠損
2	甕	口径 (20.8) 底径 4.7 器高 32.0	口縁部は外反する。胴部は中位にわずかな膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。底部ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 内外—橙色	口縁部～胴部上位3/4欠損
3	甕	口径 (23.2) 底径 — 器高 [32.3]	口縁部は外反する。胴部は膨らみをもたない。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 内外—橙色	口縁部～胴部中位2/3残存
4	甕	口径 24.2 底径 — 器高 [16.3]	口縁部は外反する。胴部は中位にわずかな膨らみをもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—橙色	口縁部～胴部上位
5	甕	口径 22.1 底径 — 器高 [13.2]	口縁部は外反する。胴部は膨らみをもたない。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—橙色	口縁部～胴部上位
6	鉢	口径 14.0 底径 — 器高 [6.7]	丸みをもつ体部から、口縁部はやや肥厚して立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—橙色	口縁部～体部3/4残存
7	皿	口径 16.1 底径 — 器高 3.8	丸底。体部は大きく開く。口縁部は外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・角閃石・白色粒 内外—橙色	一部欠損
8	皿	口径 15.6 底径 — 器高 3.5	丸底。体部は大きく開く。口縁部は外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—橙色	一部欠損
9	坏	口径 14.9 底径 — 器高 4.9	丸底。体部は内彎し、口縁部は短く内屈する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒 内外—橙色	ほぼ完形
10	坏	口径 15.0 底径 — 器高 4.9	丸底。体部は内彎し、口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	角閃石・白色粒・褐色粒 内外—明赤褐色	口縁部1/5欠損

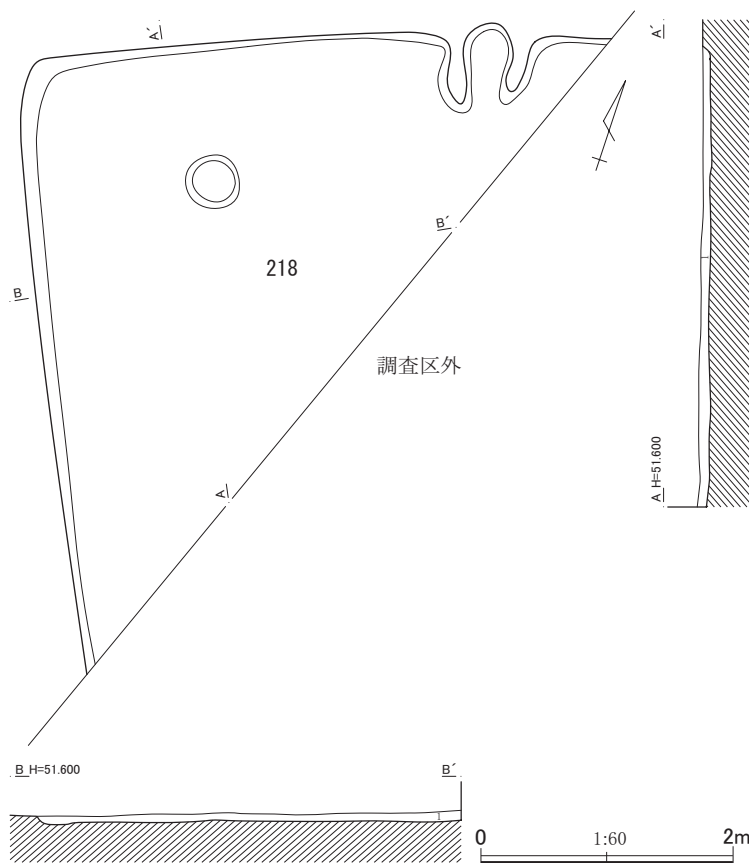


第453図 第217号住居跡出土遺物

第211表 第217号住居跡出土遺物観察表（2）

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
11	坏	口径 13.8 底径 — 器高 4.1	丸底。体部は内彎し、口縁部は外反気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	角閃石・白色粒 内外－明赤褐色	口縁部1/5欠損
12	坏	口径 11.9 底径 — 器高 3.8	丸底。体部は内彎し、口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	角閃石・白色粒 内外－明赤褐色	一部欠損
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
13	ガラス小玉 鑄型	第956図82、第431表参照。				No.82

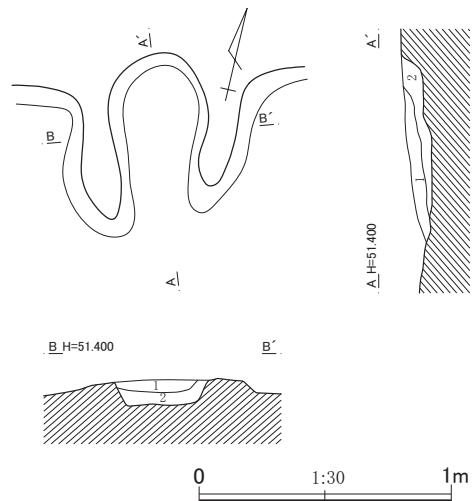
第453図6の鉢、7・8の皿、10・11の坏は、カマド前面の床面よりやや浮いた位置から、12の坏も東半の同じような高さで出土している。また、貯蔵穴の上から甕が出土しているが、胴部片であり、



第218号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム小塊（～30mm）・焼土小塊（～10mm）を少量含む。

第454図 第218号住居跡平面・断面図（1）



第218号住居跡カマド土層説明

第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～8mm）を少量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）・焼土粒（～5mm）を少量含む。

第455図 第218号住居跡平面・断面図（2）

図化していない。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末期末～奈良時代初頭の遺構である可能性が考えられる。

第218号住居跡（第454・455図、図版51）

調査地点の北東部の北東隅近くの東縁沿い、T 9、U 9・10グリッドに位置し、C群に含まれる住居跡である。第280・313・314号住居跡を切っており、遺構の東半は、調査範囲外である。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

規模は、いずれも壁の現存長ということになるが、主軸方向で4.70m、副軸方向で4.63mである。東壁の向きから推定される主軸方位は、N-26°-Wである。軽微ながらも床面は、硬化している。壁高は、北壁で6cm、西壁で7cmである。

床面で検出したピットは、1個であるが、支柱穴であろう。上端での平面形は円形で、最深部での深さは、19cmである。

カマドは、北壁に微妙に斜行して付設されている。両袖に挟まれた燃焼部が残存する。燃焼面は、焚口側から傾斜して浅く掘りくぼめられており、奥壁寄りに段差が見られる。袖端を末端とするなら、燃焼部の長さは66cm、横幅は34cmである。被熱赤化の痕跡は、ほとんど見られない。カマド覆土は2層で、焼土を含むローム混りの暗褐色土で占められている。

土師器片を主とする遺物が、覆土中から出土している。重複関係から見て、古墳時代後期初頭以降の遺構と考えられる。



第456图 第219号住居跡平面・断面图(1)

第219号住居跡（第456～458図、第212表、図版51・161）

調査地点の北東部の中央、やや西寄り、S 9・10、T 9・10グリッドに位置し、C群に含まれる住居跡である。第310号住居跡を切っている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

壁の内側に1条、古い段階の壁溝が巡っており、壁溝をもつ古い段階の住居を建て替え、わずかに拡張して壁溝のない外側の住居を造った模様である。壁溝をもつ古い段階の住居跡を「第219B号住居跡」、壁溝のない新しい段階の住居跡を「第219A号住居跡」と呼称し、以下の記載を行う。

第219A号住居跡の平面形は、やや胴の張る隅丸方形と見られる。規模は、主軸方向で5.59m、副軸方向で5.37m、主軸方位はN-65°-Eである。細かな凹凸があるが、床面は、おおむね平坦であり、壁際を除いて、硬化している。壁高は、東・南壁で7cm、西壁で14cm、北壁で8cmである。

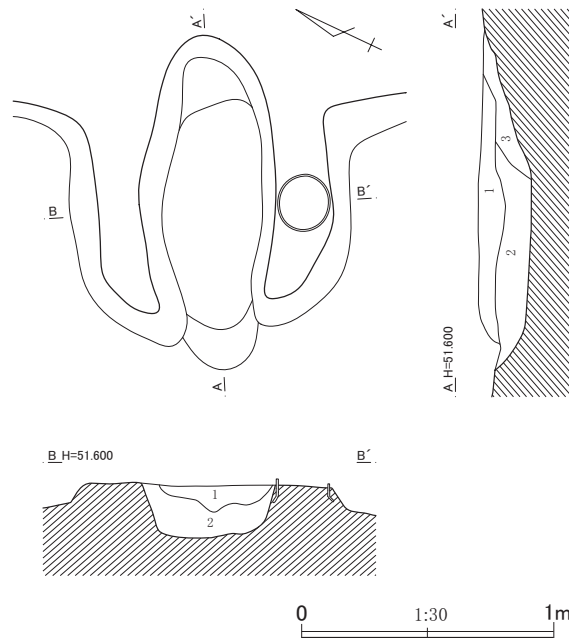
P 1～P 4は、主柱穴である。それぞれ第219B号住居跡の柱穴と重複するため、上端での平面形がはっきりしないものが多い。あるいは、旧柱穴をそのまま利用して新柱穴を掘り直すような行為がなされたためであろうか。深さは、P 1が20cm、P 2が23cm、P 3が33cm、P 4が47cmである。

カマドは、東壁の中央やや南東隅に寄った位置に付設されている。両袖に挟まれた長楕円形の燃焼部が残存する。燃焼面は、中央が深くなるように掘りくぼめられ作出されている。燃焼部の長さは127cm、横幅は54cmである。奥壁、側壁の、とくに上端付近が、局所的にかすかに被熱赤化している以外、熱変化の痕跡はほとんど見られない。カマド覆土は3層で、第1層は、灰黄色粘土を主とし、天井部

第219号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム小塊（～10mm）を少量含み、焼土粒（～7mm）を微量含む。

第2層：暗褐色土。ローム小塊（～30mm）を中量含み、焼土粒（～2mm）を微量含む。



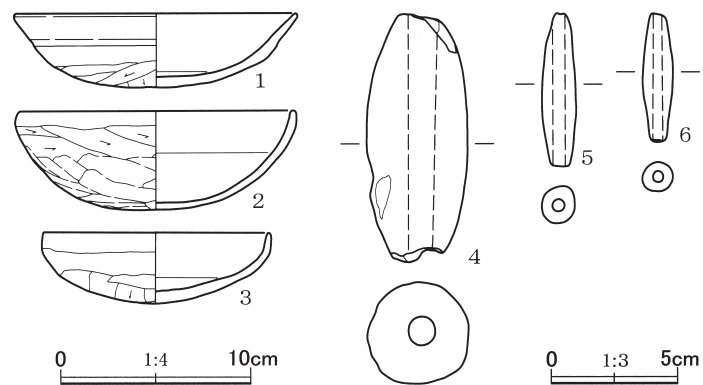
第219号住居跡カマド土層説明

第1層：灰黄色粘土。ローム粒（～5mm）を微量含み、焼土粒（～8mm）を中量含む。

第2層：暗褐色土。ローム小塊（～20mm）・焼土粒（～8mm）を少量含む。

第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～5mm）を微量含み、粘土小塊（～20mm）を中量、焼土粒（～7mm）を少量含む。

第457図 第219号住居跡平面・断面図（2）



第458図 第219号住居跡出土遺物

C地点

第212表 第219号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	皿	口径 15.5 底径 — 器高 4.1	丸底。体部は大きく開く。口縁部は外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部上位ナデ。体部下位～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	角閃石・白色粒 内外—橙色	一部欠損
2	坏	口径 15.1 底径 — 器高 5.4	丸底。内彎する体部から、口縁部は短く内屈する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ後、体部下位～底部ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—橙色	ほぼ完形
3	坏	口径 (12.4) 底径 — 器高 3.9	丸底。体部は内彎する。口縁部は短く直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部上位ナデ。体部下位～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外—橙色	1/3残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
4	土錘	長さ10.3、幅4.2、厚さ4.2、重さ175.72g。胎土：白色粒・黒色粒・小礫。色調：褐灰色。				一部欠損
5	土錘	長さ6.3、幅1.45、厚さ1.5、重さ11.40g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい橙色。				完形
6	土錘	長さ5.3、幅1.25、厚さ1.2、重さ6.92g。胎土：白色粒。色調：にぶい橙色。				完形

などの崩落土からなる土層であろう。残存状態が悪く図化していないが、胴部上半以上の甕破片が、右袖に埋置されていた。

第458図2の坏は、南壁近くの床面よりやや浮いた位置から出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末末から奈良時代初頭にかけての遺構と考えられる。

第219B号住居跡は、第219A号住居として建て替えられる前の段階の、壁溝と柱穴のみ痕跡をとどめる住居跡である。第219B号住居跡の平面形も、やや胴の張る隅丸方形と見てよいであろう。規模は、主軸方向での推定値で5.43m、副軸方向で5.32m、主軸方位は、第219A号住居跡と同じN-65°-E前後と見られる。カマド周辺から南東隅にかけての部分を除いて、幅15～28cm、深さ5～7cmの壁溝が巡らされている。

P5～P8は、支柱穴である。それぞれ第219B号住居跡の柱穴と重複する。深さは、P5が35cm、P6が48cm、P7が33cm、P8が35cmである。カマドは残存しないが、第219A号住居跡のカマドと同じ位置にあったと見てよいであろう。ただし、奥壁の位置から見て、より手前に奥壁があったと思われる。

第219A号住居跡以前とは言え、さほど大きな時間差を含むとも思えないため、同様の時期の遺構と推定される。

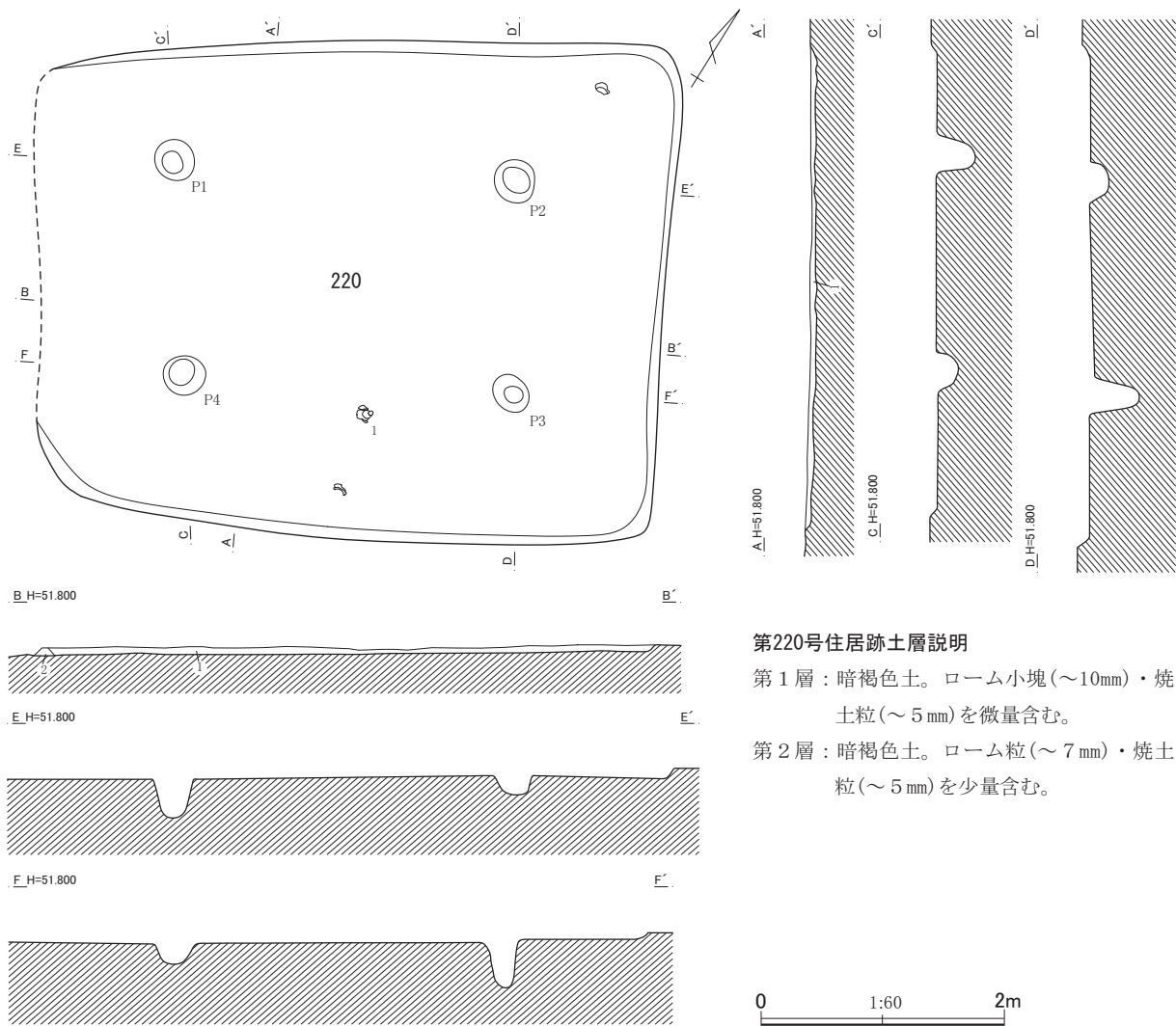
第220号住居跡（第459・460図、第213表、図版52・161）

調査地点の中央の北縁寄り、R9、S9グリッドに位置し、B群に含まれる住居跡である。第301号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、長方形である。炉跡が残っていないため、主軸方向を決めることができないが、南西壁側に炉があったと仮定し、記載する。規模は、主軸方向での推定値で5.00m、副軸方向で3.98mである。主軸方位は、S-61°-Wである。床面は、主に中央部分が、局所的にかすかに硬化している。壁高は、北西・南東壁で4cm、北東壁で5cmである。

P1～P4は、支柱穴であろう。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形で、最深部での深さは、P1が33cm、P2・P4が16cm、P3が39cmである。

第460図1の高坏は、P3、P4の間のおおむね床面直上から出土している。2の高坏は、覆土中



第220号住居跡土層説明

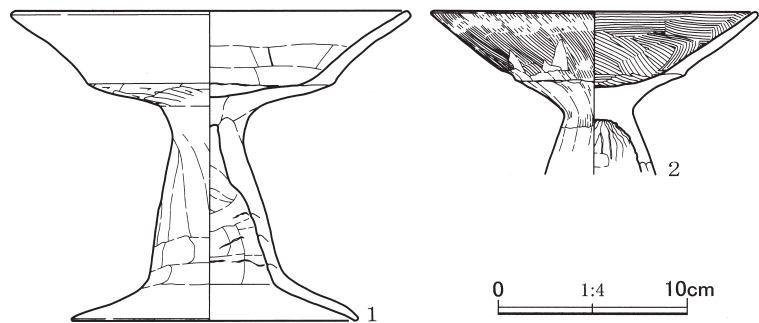
- 第1層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～5mm)を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～7mm)・焼土粒(～5mm)を少量含む。

第459図 第220号住居跡平面・断面図

第213表 第220号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	高坏	口径 (21.5) 底径 15.6 器高 17.0	口縁部は外傾して開く。脚部は下方へ広がる筒状を呈する。裾部は内彎気味に広がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。坏部ヘラケズリ。脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。内面－口縁部ヨコナデ。坏底部ヘラナデ。脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外－橙色	坏部2/3・裾部1/4欠損
2	高坏	口径 17.8 底径 — 器高 [8.9]	口縁部は坏部との境に弱い稜をもち、外傾して開く。脚部は下方へ広がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ハケメ後、上端ヨコナデ、下端ヘラナデ。坏部～脚部ヘラナデ。内面－口縁部ハケメ。坏底部ミガキ。脚部絞り目後、一部ナデ。	白色粒・黒色粒 内外－橙色	坏部～脚部上半3/4残存

出土である。他には、土師器片を主とする遺物が覆土中より少量出土したのみである。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代中期中葉の遺構である可能性が考えられる。



第460図 第220号住居跡出土遺物



第461図 第221号住居跡平面・断面図（1）

第221号住居跡（第461～464図、第214～216表、図版52・161・162）

調査地点南東部の中央、やや南寄り、R14、S13・14グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第233・237・256号住居跡を切り、第135・138・150・157号住居跡に切られ、南隅付近を大きく壊されている。第238号住居跡と重複する関係にある。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、隅に丸みのある長方形と見られる。規模は、主軸方向で7.05m、副軸方向で5.70m、主軸方位は、N-48°-Eである。床面には、微妙な凹凸が見られ、硬化は顕著ではない。四壁ともに比較的急峻に立ち上がり、壁高は、北東壁で25cm、南東壁で10cm、南西壁で22cm、北西壁で31cmである。

位置的にかなり変則的ではあるが、P1～P4は、支柱穴であろうか。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形で、最深部での深さは、P1、P2が49cm、P3が35cm、P4が24cmである。貯蔵穴は、東隅近くで検出した。上端での平面形は、おむすび形に近く、最大長は80cmである。底面自体か

第221号住居跡土層説明

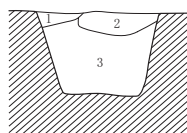
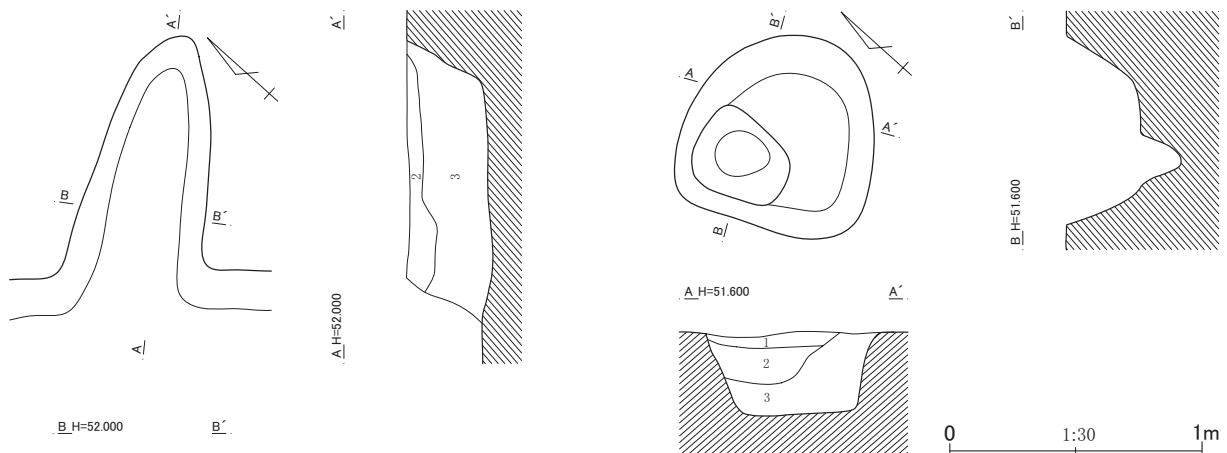
第1層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～20mm）・焼土粒（～5mm）を中量含み、炭化物小塊（～10mm）を少量、焼土小塊（～15mm）を微量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）・炭化物粒（～5mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）を中量、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第3層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～30mm）・焼土小塊（～10mm）を中量含み、焼土粒（～5mm）を少量含む。

第4層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）を中量、焼土小塊（～10mm）を微量含む。

第5層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、ローム小塊（～30mm）を中量、焼土粒（～5mm）を微量含む。



第221号住居跡カマド土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を多量に含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を多量に含む。

第3層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含み、焼土粒（～5mm）を少量、焼土小塊（～10mm）を微量含む。

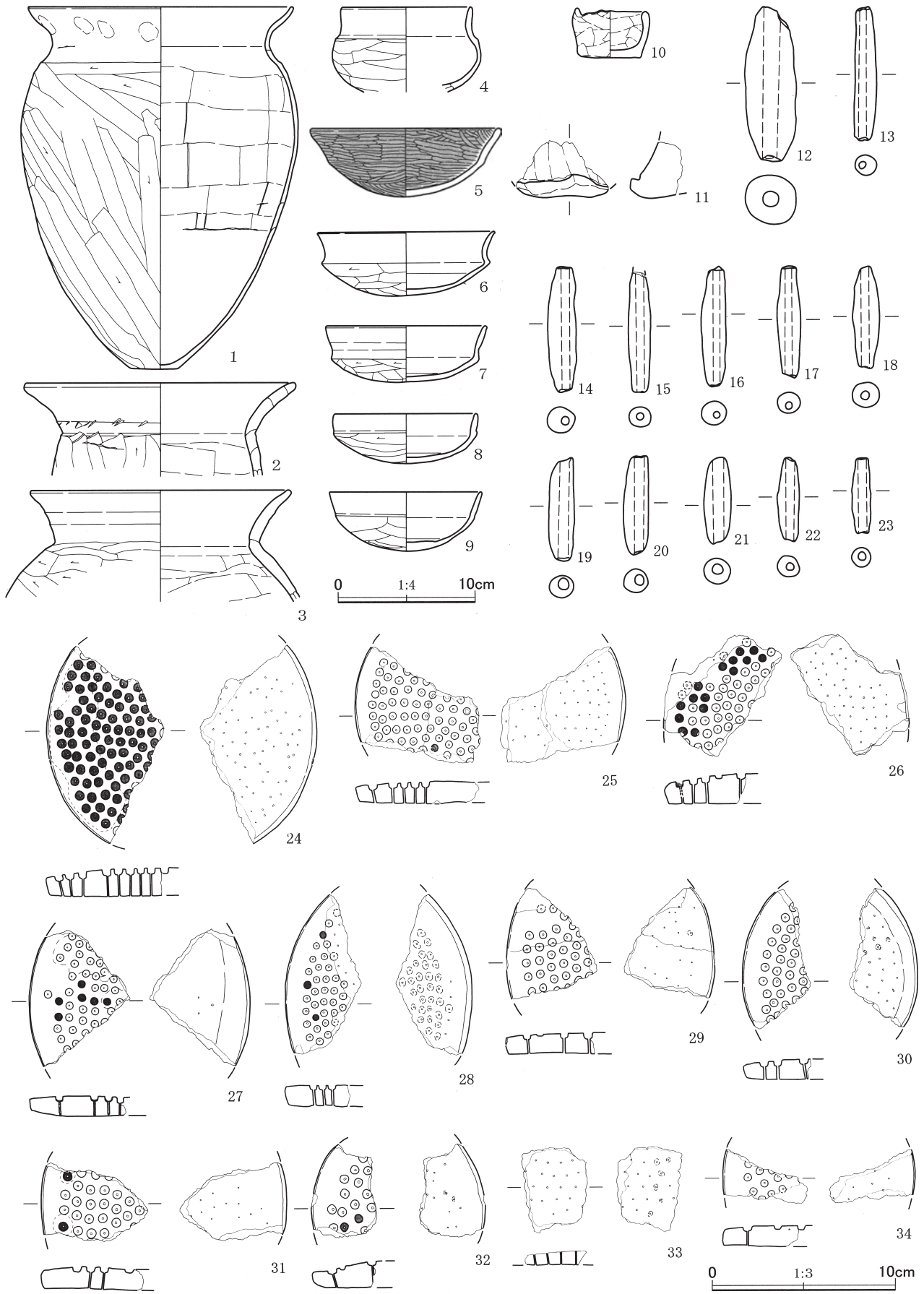
第221号住居跡貯蔵穴土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を少量含む。

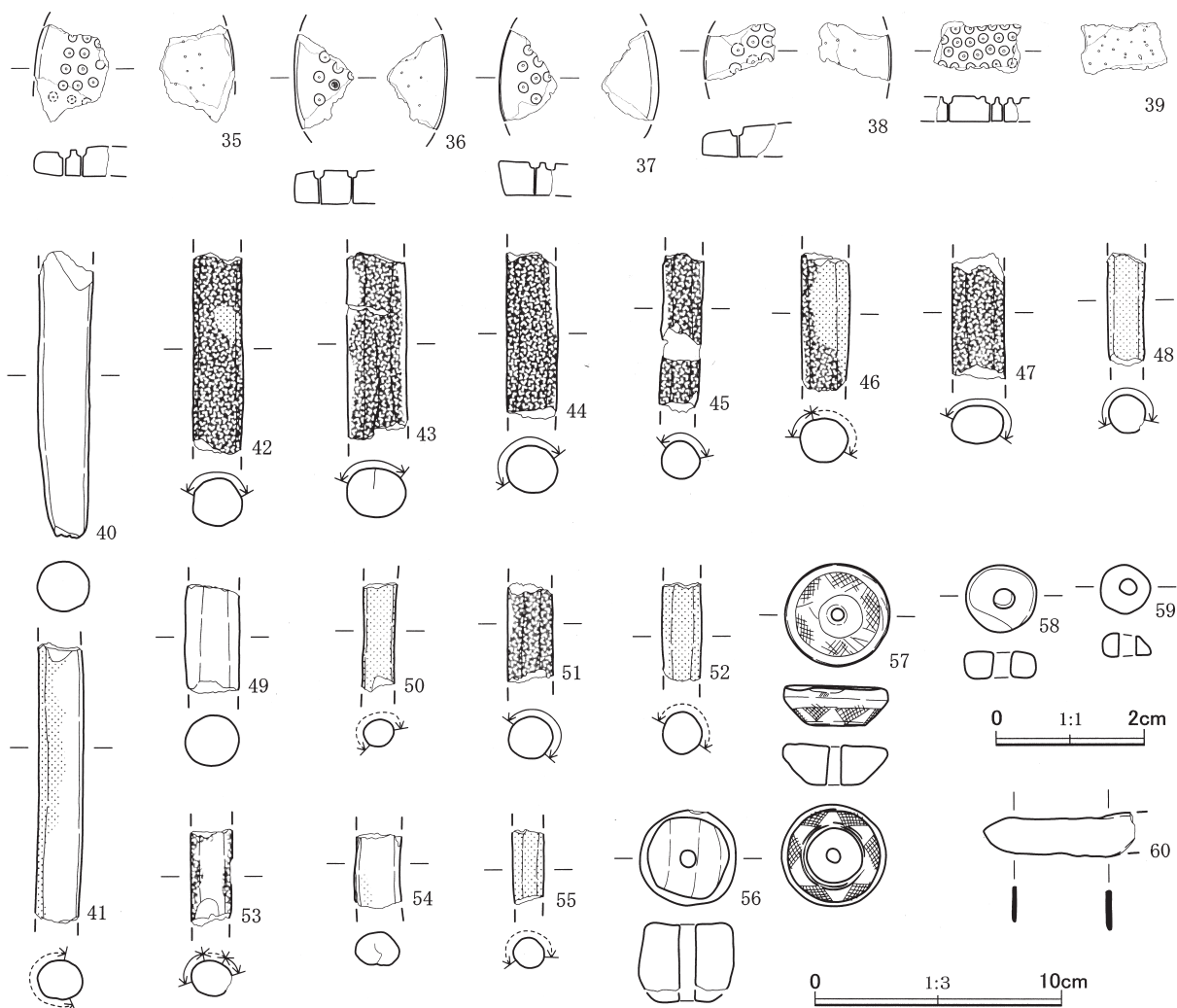
第2層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を微量、焼土粒（～5mm）を少量含む。

第3層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）・炭化物粒（～5mm）を少量含み、ローム小塊（～30mm）を中量含む。

第462図 第221号住居跡平面・断面図（2）



第463图 第221号住居跡出土遺物(1)



第464図 第221号住居跡出土遺物（2）

第214表 第221号住居跡出土遺物観察表（1）

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 (20.2) 底径 3.6 器高 26.0	口縁部は直立し、上位で彎曲気味に外反する。胴部は上位に膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、指頭圧痕。胴部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部~底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 外-にぶい黄橙色 内-にぶい橙色	口縁部~胴部 上位3/4欠損
2	甕	口径 20.5 底径 — 器高 [7.1]	口縁部は外反する。胴部は膨らみをもたない。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 外-にぶい橙色 内-橙色	口縁部~胴部 上位
3	甕	口径 19.6 底径 — 器高 [8.5]	口縁部は外反する。肩部は張る。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。肩部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。肩部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外-橙色	口縁部~肩部 2/3残存
4	短頸壺	口径 (9.8) 底径 — 器高 [6.4]	体部は中位が張る。口縁部は体部との境に稜をもって直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・小礫 内外-にぶい橙色	口縁部~体部 1/3残存
5	坏	口径 14.3 底径 — 器高 5.2	丸底。口縁部は体部との境に弱い稜をもって外傾する。口唇部はやや肥厚する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部~底部ミガキ。黒色処理。内面-口縁部~底部ミガキ。黒色処理。	石英・白色粒・黒色粒 内外-黒褐色	2/3残存
6	坏	口径 (13.4) 底径 — 器高 4.9	丸底。口縁部は強く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部~体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外-橙色	1/2残存

C地点

第215表 第221号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
7	坏	口径 12.0 底径 — 器高 4.3	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	片岩・石英・白色粒・黒色粒 内外—橙色	口縁部一部欠損
8	坏	口径 10.8 底径 — 器高 3.8	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—橙色	ほぼ完形
9	坏	口径 11.5 底径 — 器高 4.5	丸底。口縁部は体部との境に弱い稜をもって外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	黒色粒・褐色粒 内外—にぶい橙色	一部欠損
10	手捏ね土器	口径 (5.2) 底径 4.7 器高 3.8	平底。体部は直立する。口縁部は短く内彎し、口唇部は肥厚する。手捏ね成形。	外面—口縁部～体部ヘラナデ。底部ナデ。内面—口縁部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 外—にぶい黄橙色 内—にぶい黄褐色	口縁部1/2欠損
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
11	土製品 脚状品	器高[3.3]、重さ27.25g。胎土：白色粒。色調：灰白色。調整：ナデ。				破片
12	土錘	長さ8.9、幅3.0、厚さ2.8、重さ66.75g。胎土：片岩・白色粒。色調：橙色。				完形
13	土錘	長さ7.7、幅1.3、厚さ1.2、重さ11.95g。胎土：白色粒。色調：明褐色。				完形
14	土錘	長さ7.2、幅1.7、厚さ1.5、重さ19.67g。胎土：白色粒。色調：黒褐色。				完形
15	土錘	長さ[6.9]、幅1.3、厚さ1.2、重さ10.68g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：灰黄褐色。				端部欠損
16	土錘	長さ6.9、幅1.4、厚さ1.4、重さ12.68g。胎土：白色粒。色調：灰褐色。				完形
17	土錘	長さ6.4、幅1.4、厚さ1.2、重さ10.28g。胎土：白色粒。色調：にぶい赤褐色。				完形
18	土錘	長さ5.9、幅1.6、厚さ1.4、重さ12.16g。胎土：白色粒。色調：褐灰色。				完形
19	土錘	長さ5.9、幅1.4、厚さ1.3、重さ11.10g。胎土：白色粒。色調：にぶい赤褐色。				完形
20	土錘	長さ5.7、幅1.4、厚さ1.4、重さ10.82g。胎土：白色粒。色調：橙色。				完形
21	土錘	長さ5.0、幅1.5、厚さ1.5、重さ10.48g。胎土：白色粒。色調：黒褐色。				完形
22	土錘	長さ4.8、幅1.3、厚さ1.2、重さ7.01g。胎土：白色粒。色調：橙色。				完形
23	土錘	長さ4.4、幅1.1、厚さ1.1、重さ4.71g。胎土：白色粒。色調：にぶい橙色。				完形
24	ガラス小玉 鑄型	第956図83、第431表参照。				No.83
25	ガラス小玉 鑄型	第957図84、第431表参照。				No.84
26	ガラス小玉 鑄型	第957図85、第431表参照。				No.85
27	ガラス小玉 鑄型	第957図86、第431表参照。				No.86
28	ガラス小玉 鑄型	第957図87、第431表参照。				No.87
29	ガラス小玉 鑄型	第957図88、第431表参照。				No.88
30	ガラス小玉 鑄型	第957図89、第431表参照。				No.89
31	ガラス小玉 鑄型	第957図90、第431表参照。				No.90
32	ガラス小玉 鑄型	第957図91、第431表参照。				No.91
33	ガラス小玉 鑄型	第958図92、第431表参照。				No.92
34	ガラス小玉 鑄型	第958図93、第431表参照。				No.93
35	ガラス小玉 鑄型	第958図94、第432表参照。				No.94
36	ガラス小玉 鑄型	第958図95、第432表参照。				No.95
37	ガラス小玉 鑄型	第958図96、第432表参照。				No.96
38	ガラス小玉 鑄型	第958図97、第432表参照。				No.97
39	ガラス小玉 鑄型	第958図98、第432表参照。				No.98
40	棒状 土製品	第971図98、第439表参照。				No.98
41	棒状 土製品	第971図99、第439表参照。				No.99
42	棒状 土製品	第972図100、第439表参照。				No.100
43	棒状 土製品	第972図101、第439表参照。				No.101
44	棒状 土製品	第972図102、第439表参照。				No.102
45	棒状 土製品	第972図103、第440表参照。				No.103

第216表 第221号住居跡出土遺物観察表(3)

No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
46	棒状土製品	第972図104、第440表参照。	No.104
47	棒状土製品	第972図105、第440表参照。	No.105
48	棒状土製品	第972図106、第440表参照。	No.106
49	棒状土製品	第972図107、第440表参照。	No.107
50	棒状土製品	第972図108、第440表参照。	No.108
51	棒状土製品	第972図109、第440表参照。	No.109
52	棒状土製品	第972図110、第440表参照。	No.110
53	棒状土製品	第972図111、第440表参照。	No.111
54	棒状土製品	第972図112、第440表参照。	No.112
55	棒状土製品	第972図113、第440表参照。	No.113
56	土製紡錘車	上面径4.1、孔径0.7×0.7、厚さ[3.3]、重さ60.48g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：灰褐色。調整：ナデ。	下面欠損
57	石製紡錘車	上面径4.45、下面径2.3、孔径0.55×0.5、厚さ1.7、重さ50.37g。石材：滑石。調整：側面に線刻6カ所。	完形
58	石製品白玉	長さ0.95、幅1.0、孔径0.3×0.3、厚さ0.4、重さ0.644g。石材：滑石。	完形
59	石製品白玉	長さ0.70、幅0.35、孔径0.1×0.1、厚さ0.15、重さ0.015g。石材：滑石。	完形
60	鉄製品刀子	長さ[6.4]、幅1.6、厚さ0.2、重さ8.39g。	破片

なり凸凹しており、西半に不規則な形の掘り込みが見られる。底面までの深さは29cm、最深部での深さは44cmである。覆土は3層で、第3層は、かなり大ぶりの小塊を水玉状に含み、埋め戻された可能性のある土である。

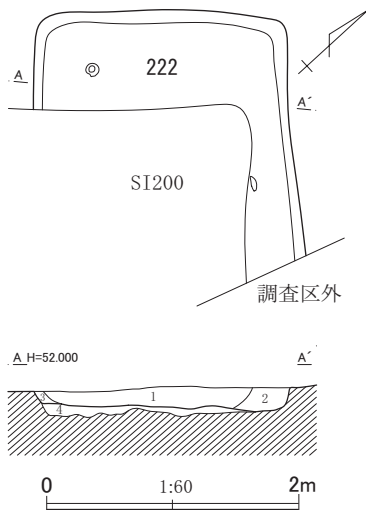
カマドは、北東壁の東隅に偏した位置にやや斜行して付設されている。袖が見られず、壁を直接掘り込んで設けられているかに見えるが、燃焼部の周囲には粘土が見られ、やはり掘り方を有し、それを粘土を含む土で埋めて燃焼部が造られている。燃焼部の長さは106cm、横幅は45cmである。側壁の上部は、局所的にかすかに被熱しているように見える。カマド覆土は3層で、第1・2層は、多量の焼土粒を含む。

住居跡覆土は、5層に分けられた。全体にローム粒やローム小塊が目立ち、また焼土の混入が顕著な特異な覆土である。

第464図57の石製紡錘車は、P3近くの床面から出土している。複数の時期にわたる土器が混在して出土しており、遺構の時期を決めることがかなり困難である。最も新しい時期の遺物である第463図1の甕を、本遺構の時期を示す遺物とすると、遺構の重複関係と齟齬をきたす。その他の遺物は、おおむね古墳時代後期後葉後半(5・6)から終末期(2～4・7～9)にかけての時期に収まることから、一応古墳時代後期後葉後半から終末期にかけての遺構と考えておきたい。

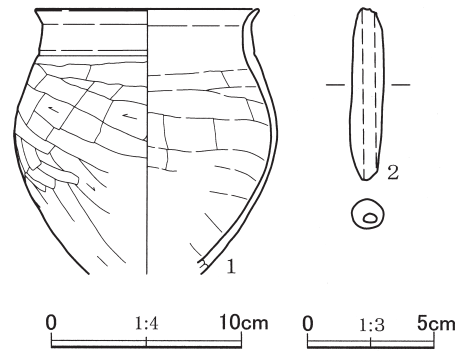
第222号住居跡(第465・466図、第217表、図版53・163)

調査地点の南東隅近くの東縁沿い、U14グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第200号住居跡に切られ、南東半を大きく壊され、遺構の東側は、調査範囲外である。なお、大きさの点で、



第222号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～10mm)を微量含み、粘土小塊(～20mm)を中量、焼土粒(～5mm)を多量に、焼土小塊(～20mm)を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、粘土小塊(～10mm)・炭化物粒(～5mm)を少量、焼土粒(～5mm)を多量に含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を微量含み、粘土小塊(～15mm)を中量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～20mm)を多量に含み、炭化物粒(～5mm)を微量含む掘り方埋土。



第465図 第222号住居跡出土遺物

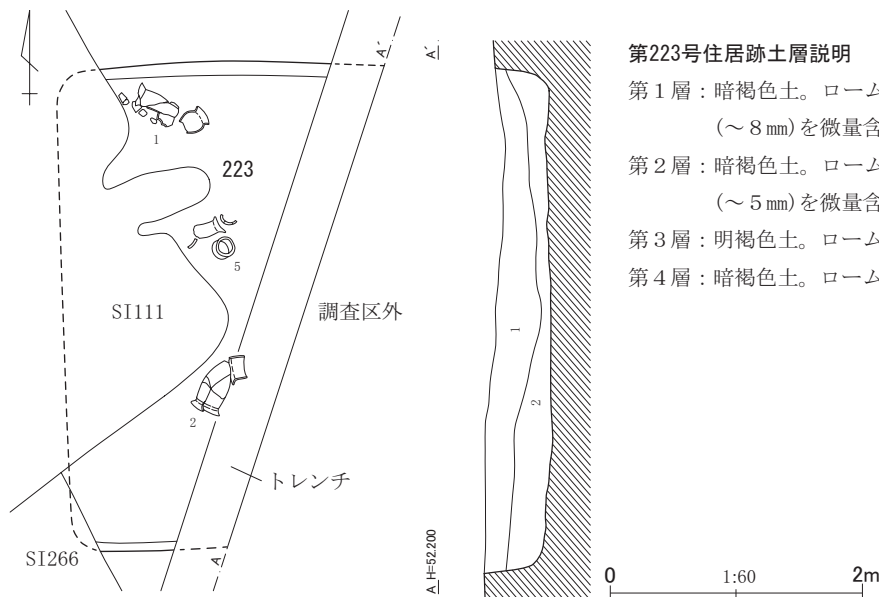
第465図 第222号住居跡平面・断面図

第217表 第222号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径(12.2) 底径— 器高[14.5]	口縁部は内傾気味に立ち上がり、上位で短く外傾する。胴部は中位に膨らみをもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	角閃石・白色粒 内外—にぶい橙色	口縁部～胴部 1/4残存
法量(cm)・特徴						
2	土錘	長さ7.05、幅1.4、厚さ1.2、重さ11.28g。胎土：白色粒。色調：明赤褐色。				完形

住居跡であるか疑問も残るが、床面状の平坦面を有するため、住居跡と認定した。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、長方形であろう。規模は、北東—南西方向で1.97m、北西—南東方向での現存長は2.03m、北西—南東方向での中軸線の方位は、N-47°-Wである。床面にはやや凹凸が目立つが、全体的にはおおむね平坦である。床面は、部分的に硬化している。壁高は、北西壁で11cm、北東壁で15cm、



第223号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム小塊(～15mm)を少量含み、焼土粒(～8mm)を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム小塊(～30mm)を中量含み、焼土粒(～5mm)を微量含む。
- 第3層：明褐色土。ローム小塊(～20mm)を少量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)を少量含む。

第467図 第223号住居跡平面・断面図

南西壁で9 cmである。

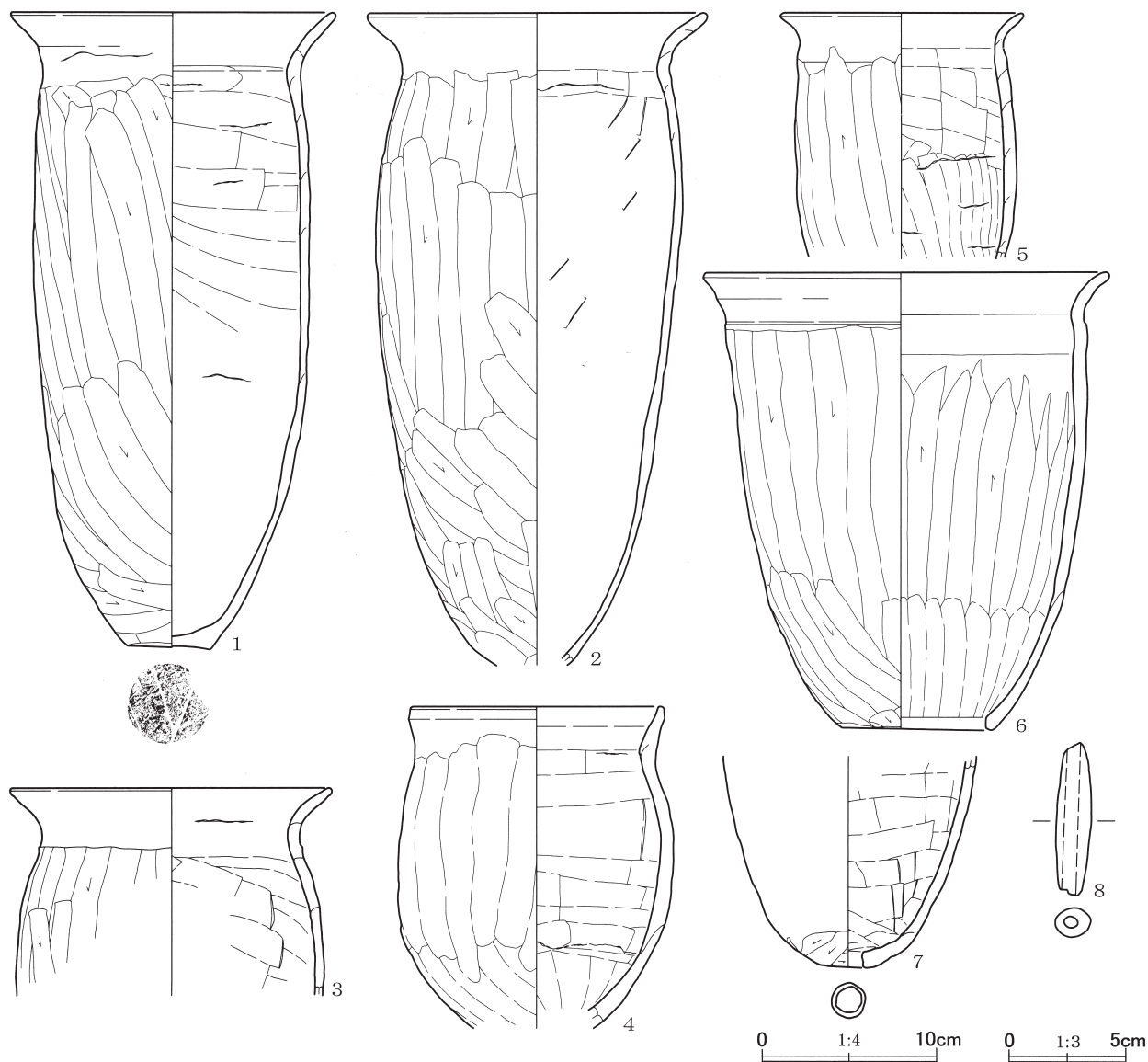
覆土は、暗褐色土を主とする3層で、第1・2層は、焼土粒を多量に、粘土小塊をかなりの量含み、第3層も粘土小塊を目立って含むなど、通常の住居跡覆土とは、いささか異なるかにも見える。第4層は、掘り方埋土である。

図示した遺物の他には、土師器片を主とする遺物が覆土中から少数出土している。重複関係、出土遺物から見て、平安時代前期前半の遺構と考えられる。

第223号住居跡（第467・468図、第218表、図版53・163）

調査地点の南縁沿いのほぼ中央、U12・13、V12グリッドに位置し、G群に含まれる住居跡である。第111号住居跡に切られ、東半は調査範囲外である。南壁の一部が第266号住居跡と重複するが、新旧を見分けることができなかった。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

規模は、南北方向で3.86m、東西方向での現存長は2.10mである。床面はかなり凸凹しているが、



第468図 第223号住居跡出土遺物

C地点

第218表 第223号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 19.2 底径 4.9 器高 38.1	口縁部は強く外反する。胴部は膨らみをもたない。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。底部木葉痕。内面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・石英 内外－橙色	ほぼ完形
2	甕	口径 20.0 底径 — 器高 [39.1]	口縁部は強く外反する。胴部は膨らみをもたない。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・石英 内外－橙色	底部欠損
3	甕	口径 (19.0) 底径 — 器高 [12.4]	口縁部は強く外反する。胴部は膨らみをもたない。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	石英・白色粒・小礫 内外－にぶい黄橙色	口縁部～胴部 上位1/4残存
4	小型甕	口径 14.9 底径 — 器高 [19.2]	口縁部は外反気味に立ち上がり、上位で直立する。胴部は下位に膨らみをもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 内外－にぶい橙色	底部欠損
5	小型甕	口径 14.3 底径 — 器高 [14.7]	口縁部は強く外反する。胴部は膨らみをもたない。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 内外－橙色	口縁部～胴部 上半
6	甗	口径 (24.0) 底径 8.9 器高 27.4	口縁部は外反する。胴部は膨らみをもたない。底部は筒抜け。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ、下端ナデ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部上～中位ヘラケズリ、下位ヘラナデ、端部ナデ。	白色粒・黒色粒 内外－橙色	口縁部～胴部 上半1/2欠損
7	甗	口径 — 底径 2.0 器高 [12.6]	胴部は膨らみをもたない。底部は丸底気味で、孔径1.5cmの円孔。粘土紐積み上げによる成形。	外面－胴部ナデ。胴部下端～底部ヘラケズリ。内面－胴部～底部ヘラナデ。	石英・黒色粒・小礫 外－橙色 内－にぶい橙色	胴部～底部
8	土錘	長さ6.85、幅1.6、厚さ1.3、重さ13.58g。	胎土：白色粒。色調：にぶい褐色。			完形

部分的に硬化している。壁は、垂直に近く立ち上がり、壁高は、北壁で44cm、南壁で47cmである。

覆土は2層で、第2層には、大きめのローム小塊が目立つ。

第468図1の甕は、北壁近く、2の甕はトレンチ沿い、5の甕は中央の、いずれも床面直上出土である。出土遺物には、時期幅があるようであるが、重複関係、主な出土遺物から見て、古墳時代終末期中葉の遺構と考えられる。

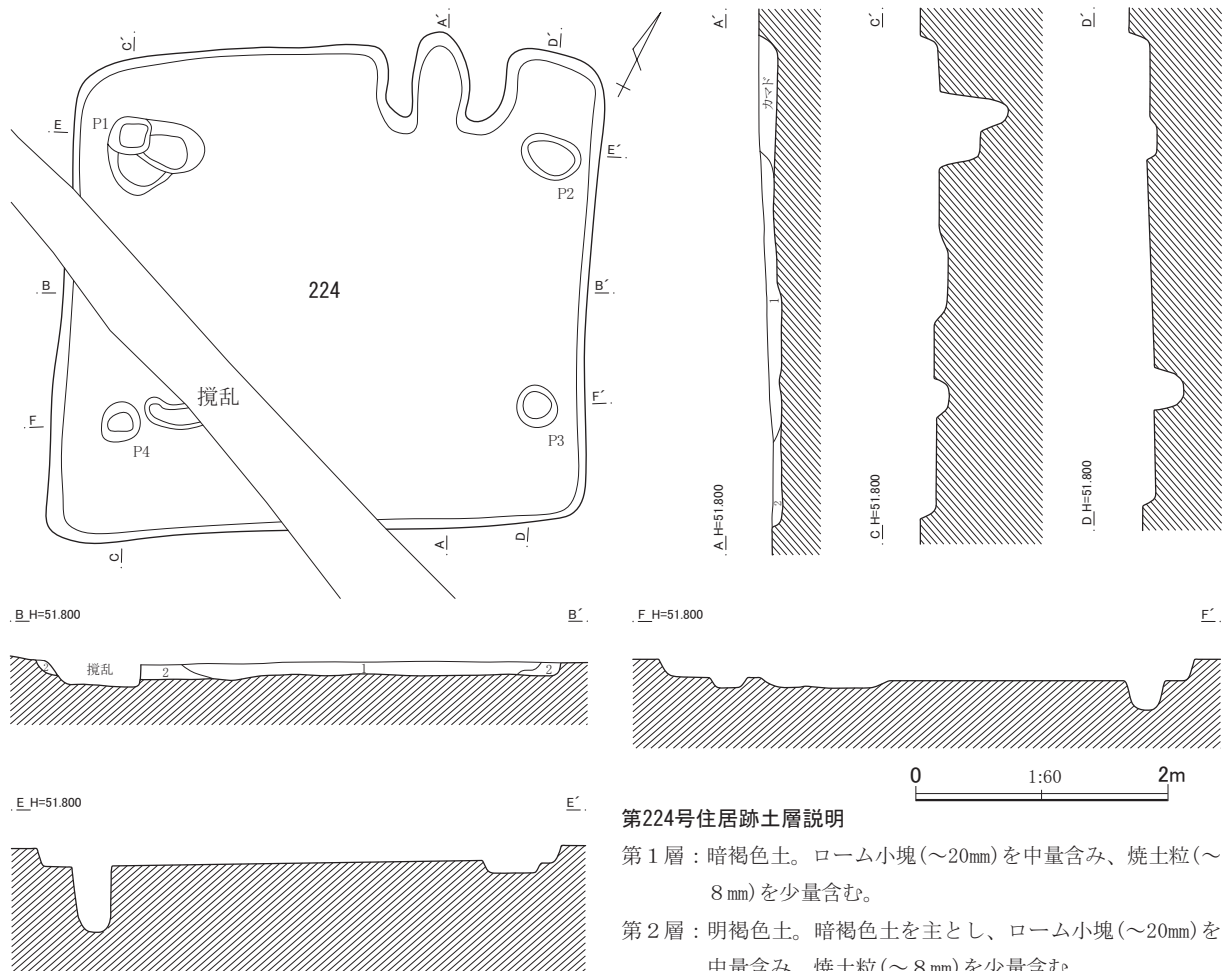
第224号住居跡（第469・470図、図版53）

調査地点の北西部の中央、やや南寄り、P9・10グリッドに位置し、D群に含まれる住居跡である。第92・277・294・309号住居跡を切って造られている。なお、南西壁から南東壁へと溝状の攪乱が抜けている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、方形である。規模は、主軸方向で3.85m、副軸方向で4.16m、主軸方位はN-27°-Wである。支柱穴を結ぶ範囲の床面は、部分的に硬化している。壁高は、北西壁で14cm、北東・南東壁で9cm、南西壁で10cmである。

P1～P4は、支柱穴であろう。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形、楕円形である。深さは、P1が54cm、P2が8cm、P3が24cm、P4が9cmであり、深浅が著しい。P1の上半には、不規則な掘り込みが重なっている。柱の抜去痕や柱の付け替えの痕跡であろうか。

カマドは、北西壁の北隅に偏した位置に付設されている。低平な袖と丸みの強い形態の燃焼部が残存する。燃焼面は、床面とほぼ同じ高さで、奥壁側がかすかに深くなっている。袖端を末端とすると、燃焼部の長さは81cm、横幅は46cmである。被熱赤化の痕跡は、ほとんど見られない。カマド覆土は2層で、第2層には、天井部などの崩落土と思われる焼土小塊が水玉状に含まれる。



第224号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム小塊(～20mm)を中量含み、焼土粒(～8mm)を少量含む。
- 第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～20mm)を中量含み、焼土粒(～8mm)を少量含む。

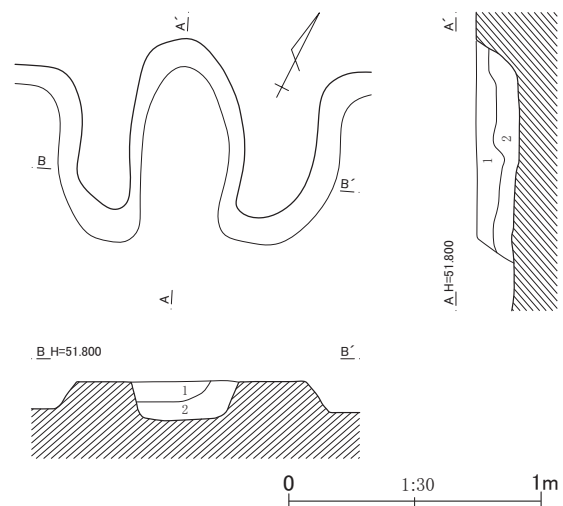
第469図 第224号住居跡平面・断面図(1)

土師器片を主とする遺物が覆土中から出土している。住居形態から見て、古墳時代の遺構と考えられる。

第225号住居跡 (第471～473図、第219・220表、図版54・164)

調査地点の南東部の南東隅近く、T14、U14グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第255号住居跡を切っており、第143号住居跡に切られている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

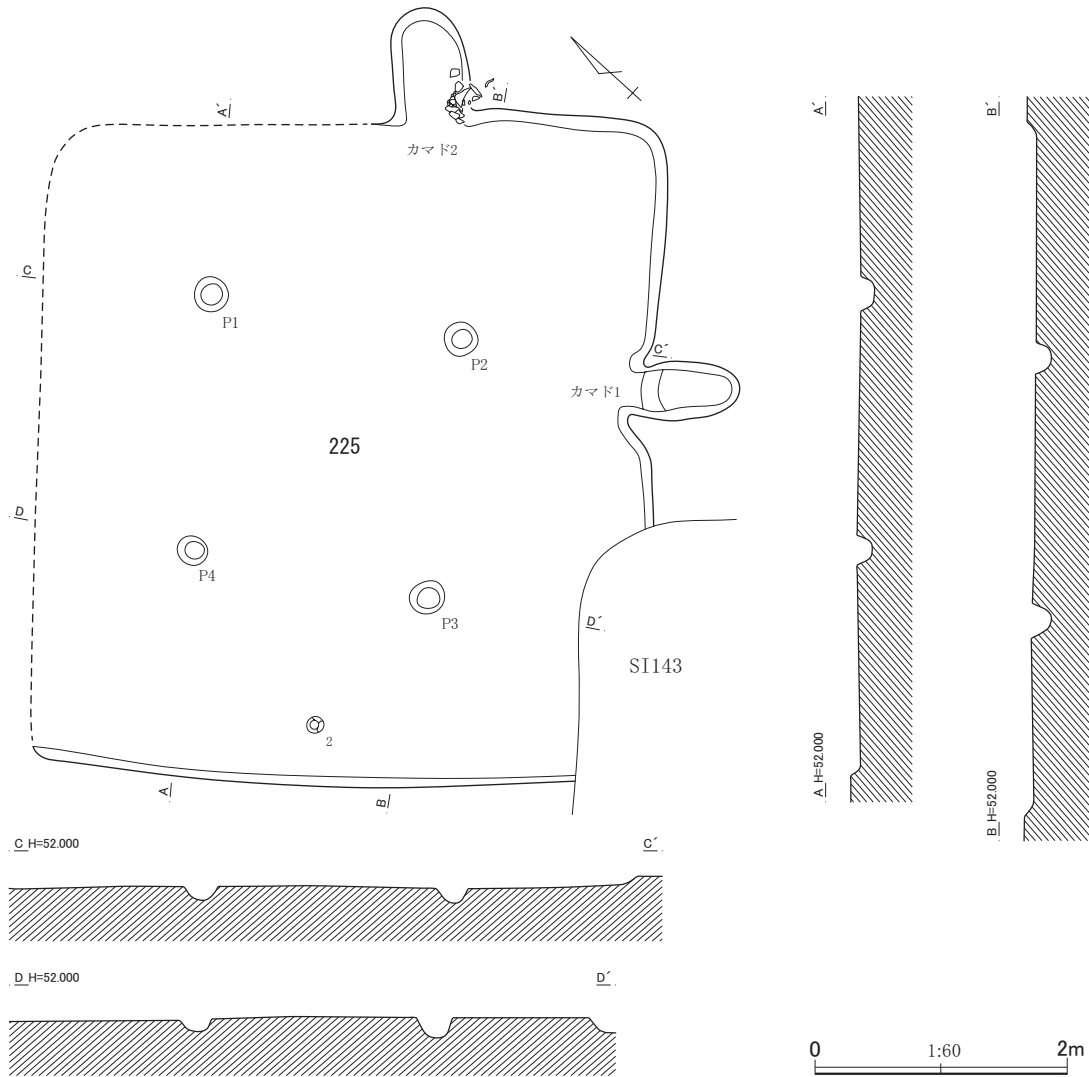
北西壁および北東壁の一部を検出することができなかったため、不確定要素が残るが、平面形は、方形と見てよいであろう。後述する新しいカマドが伴う段階での住居跡の規模は、主軸方向での推



第224号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒(～8mm)を微量含み、焼土粒(～7mm)を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム小塊(～10mm)を微量含み、焼土小塊(～10mm)を少量含む。

第470図 第224号住居跡カマド平面・断面図(2)



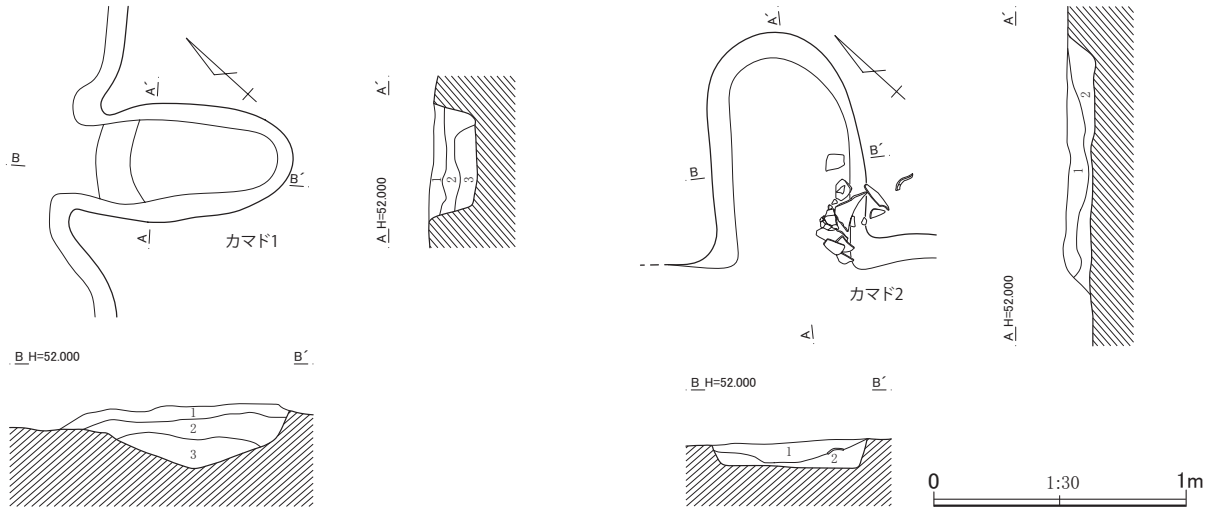
第471図 第225号住居跡平面・断面図（1）

定長4.36m、副軸方向で5.35m、主軸方位はS-40°-Eである。支柱穴を結ぶ範囲の床面は、軽微ではあるが、硬化している。壁高は、北東・南東壁で7cm、南西壁で8cmである。

位置並びともにやや変則的ではあるが、P1～P4は、支柱穴の可能性のあるピットである。いずれも上端での平面形は、ほぼ円形である。深さは、P1が11cm、P2が12cm、P3が9cm、P4が16cmである。

カマドは、南東壁と北東壁の2箇所で見出した。北東壁の袖なしのカマドは、カマド付け替え時に袖を除去した結果と推測され、とすれば、最終的に用いられたのは、わずかではあるが袖の残る南東壁のカマドと考えることができる。南東壁のカマドを「カマド1」、北東壁のカマドを「カマド2」と呼称する。「カマド2」から「カマド1」へとカマドが付け替えられたと推定する。

カマド1は、南東壁の東隅にやや偏した位置に付設されている。短小な袖と丸みをもった平面形の燃焼部が残存する。燃焼面は、中央が深くなるように掘りくぼめ造作されている。燃焼部の長さは78cm、横幅は46cmである。被熱赤化の痕跡は、ほとんど見られない。覆土は3層で、第2層には、ローム小塊や焼土小塊がかなり含まれる。カマド2は、北東壁の東隅にやや偏した位置に付設されてい



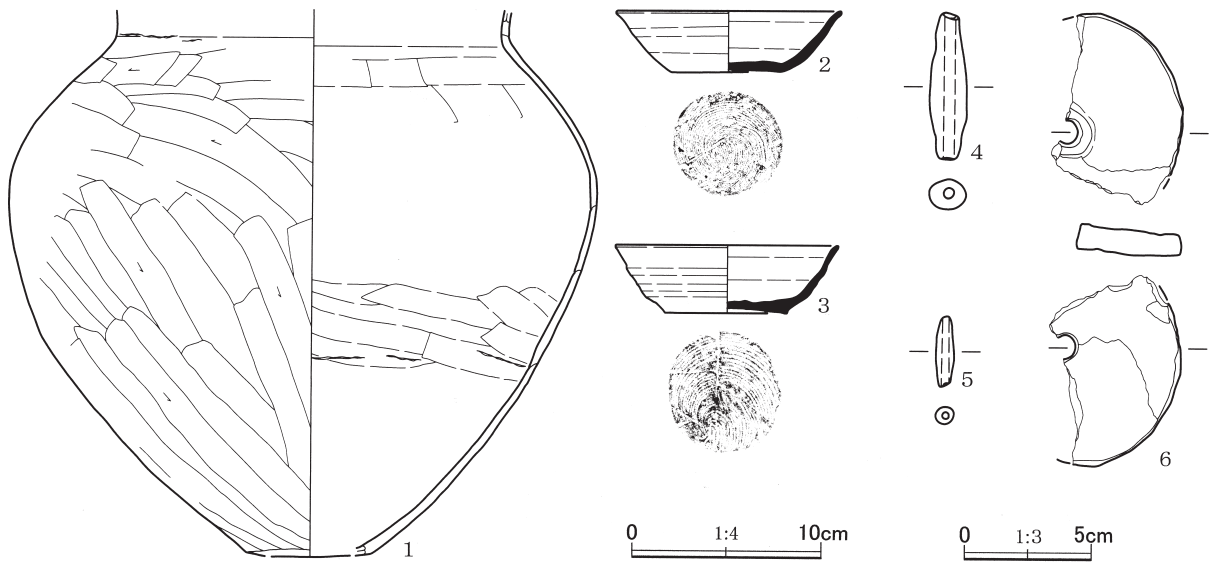
第225号住居跡カマド1土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・炭化物小塊(～10mm)を微量含み、焼土小塊(～15mm)を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)・炭化物粒(～5mm)を少量、焼土小塊(～10mm)を微量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～20mm)を少量含む。

第225号住居跡カマド2土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・焼土小塊(～20mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を微量、焼土粒(～5mm)を多量に含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～30mm)・焼土小塊(～10mm)を微量含み、焼土粒(～5mm)を少量含む。

第472図 第225号住居跡平面・断面図(2)



第473図 第225号住居跡出土遺物

第219表 第225号住居跡出土遺物観察表(1)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 — 底径 6.9 器高 [30.0]	胴部は上～中位が大きく張る。丸みを帯びた平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面－頸部ヨコナデ。胴部～底部ヘラケズリ。内面－頸部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 外－にぶい橙色 内－橙色	頸部～底部 1/2残存
2	須恵器 坏	口径 12.3 底径 6.0 器高 3.2	上げ底気味。体部は内彎気味に開き、口縁部は短く外反する。ロクロ成形。	外面－ロクロナデ。底部右回転糸切り。内面－ロクロナデ。	石英・白色粒 内外－灰色	ほぼ完形 還元焰焼成

C地点

第220表 第225号住居跡出土遺物観察表（2）

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
3	須恵器 坏	口径 (12.2) 底径 6.8 器高 3.8	上げ底。体部は内彎気味に開き、口縁部は外反する。ロク口成形。	外面－ロクロナデ。底部右回転糸切り。内面－ロクロナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外－灰白色	口縁部～体部 1/2欠損 還元焙焼成
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
4	土錘	長さ6.1、幅1.6、厚さ1.2、重さ11.98g。胎土：白色粒。色調：明赤褐色。				完形
5	土錘	長さ2.9、幅0.8、厚さ0.7、重さ1.42g。胎土：白色粒。色調：浅黄色。				完形
6	土製 紡錘車	径(8.8)、孔径(1.2)、厚さ1.3、重さ[42.66]g。胎土：石英・白色粒・黒色粒。色調：橙色。 調整：ナデ。				1/3残存

る。丸みの強い形態の燃焼部のみ残存する。燃焼面は、床面とほぼ同じ高さで、微妙な凹凸が見られる。燃焼部の長さは93cm、横幅は61cmである。被熱赤化の痕跡は、ほとんど見られない。覆土は2層で、第1層には、ローム小塊や焼土小塊が含まれる。焚口から右袖にかけての位置で、押しつぶされた状態の第473図1の甕が出土している。袖甕の可能性もあり、カマドを付け替え、袖を壊した際に出た袖甕を廃棄したかにも見える。

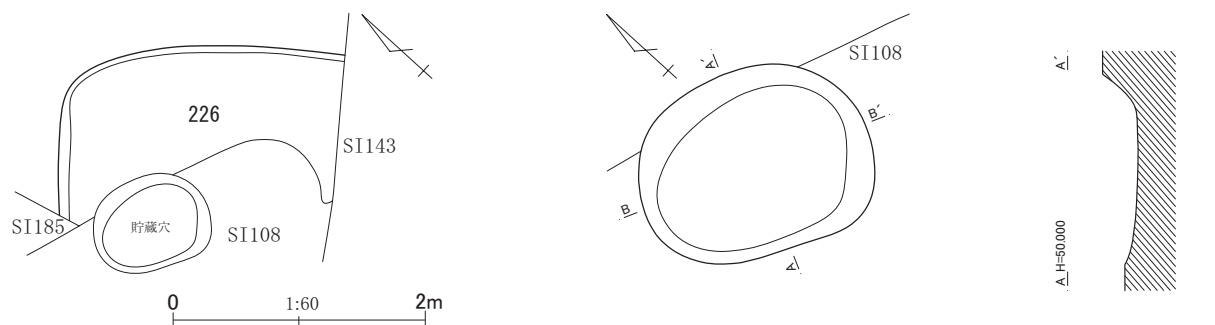
第473図2の坏は、南西壁近くの、床面よりやや浮いた位置で出土した。重複関係、出土遺物から見て、平安時代前期前半の遺構と考えられる。

第226号住居跡（第474・475図、第221表、図版54・164）

調査地点の南東隅近く、T14・15グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第255号住居跡を切っており、第108・143号住居跡に切られ、住居跡北隅付近と貯蔵穴のみ残存する。また、第185号住居跡とも重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

いずれも現存長になるが、規模は、北西－南東方向で2.29m、北東－南西方向で1.00mである。床面はかなり凸凹しており、硬化は顕著ではない。北西壁近くのピットは、貯蔵穴であろうか。上端での平面形は、楕円形で、長径94cm、短径73cmである。深さは12cmである。

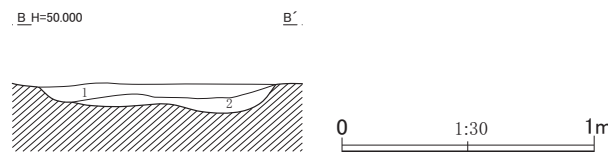
図示した土師器などの遺物は、覆土中から出土している。重複関係および第475図1の台付甕、3の坏から判断して、奈良時代後半末から平安時代初頭にかけての遺構と考えられる。



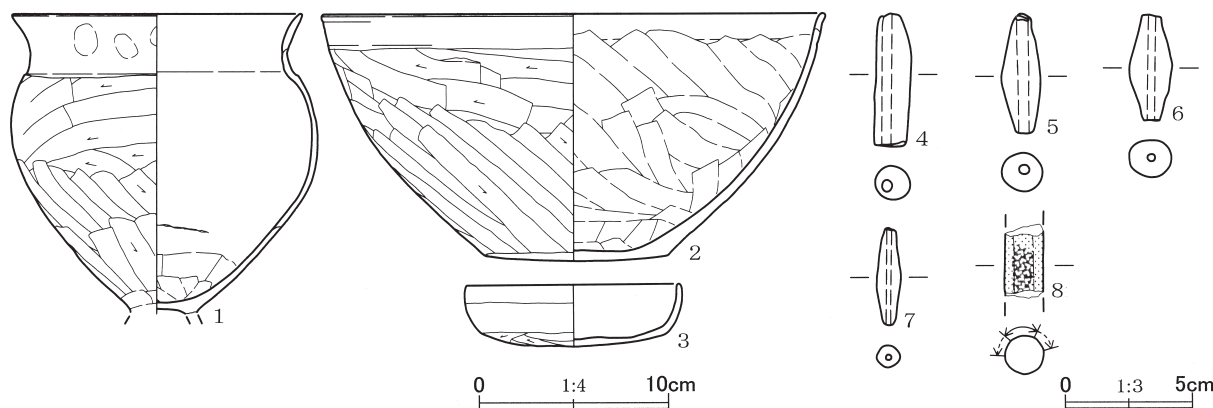
第226号住居跡貯蔵穴土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・焼土粒(～5mm)を少量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・粘土小塊(～10mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を多量に含む。



第474図 第226号住居跡平面・断面図



第475図 第226号住居跡出土遺物

第221表 第226号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	台付甕	口径 (15.8) 底径 — 器高 [16.4]	口縁部は強く外反する。胴部は上～中位が張る。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ、指頭圧痕。胴部ヘラケズリ、下端ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	石英・白色粒 外—にぶい橙色 内—にぶい赤褐色	口縁部～胴部 2/3残存、台 部欠損
2	大型鉢	口径 (27.6) 底径 10.0 器高 13.6	平底。体部から口縁部にかけて彎曲して開き、口縁部は上端で弱く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—橙色	口縁部～体部 2/3欠損
3	坏	口径 11.7 底径 10.2 器高 3.4	平底気味。体部から口縁部にかけて内彎気味に立ち上がる。曲げ成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ナデ。底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・角閃石・白色粒 内外—橙色	2/3残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
4	土錘	長さ5.5、幅1.6、厚さ1.4、重さ13.18g。胎土：白色粒。色調：にぶい赤褐色。				完形
5	土錘	長さ5.0、幅1.7、厚さ1.6、重さ10.59g。胎土：白色粒。色調：にぶい褐色。				完形
6	土錘	長さ4.4、幅1.8、厚さ1.5、重さ10.31g。胎土：白色粒。色調：橙色。				完形
7	土錘	長さ4.0、幅1.0、厚さ0.9、重さ3.03g。胎土：白色粒。色調：橙色。				完形
8	棒状土製品	第972図114、第440表参照。				No.114

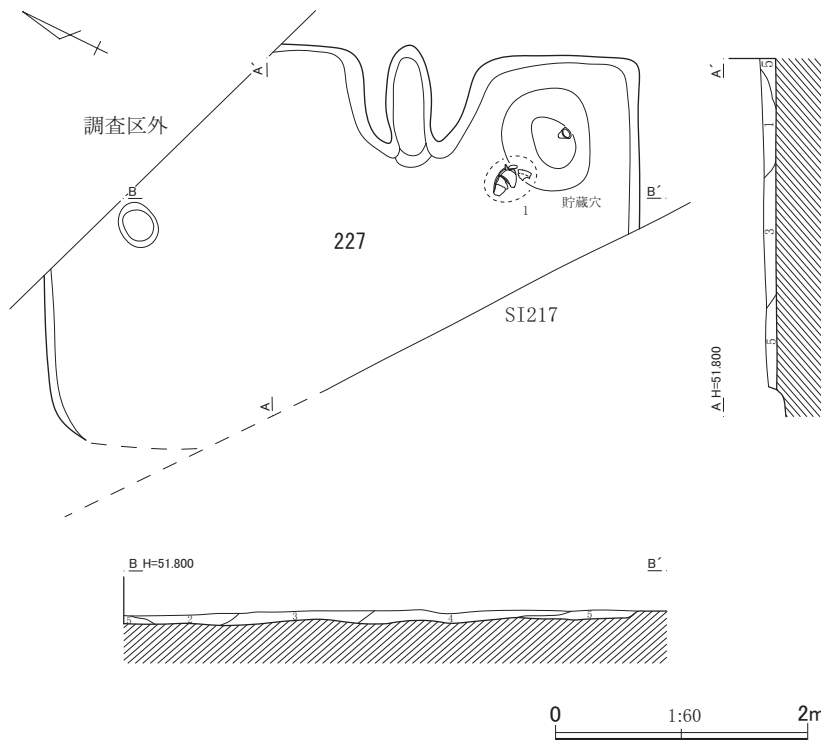
第227号住居跡 (第476・477図、第222表、図版54・164)

調査地点の北東部の曲折した北縁沿い、U10・11、V10・11グリッドに位置し、G群に含まれる住居跡である。第262・268号住居跡を切っており、第217号住居跡に切られ、南西壁から南東壁にかけて壊されている。また、第208号住居跡と重複する。なお、北隅付近は、調査範囲外である。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、横長の長方形と見られる。いずれも現存長になるが、規模は、主軸方向で2.73m、副軸方向で4.27mである。主軸方位はN-65°-Eである。床面には細かな凹凸が見られ、硬化は顕著ではない。壁高は、北東壁で12cm、北西・南東壁で6cmである。

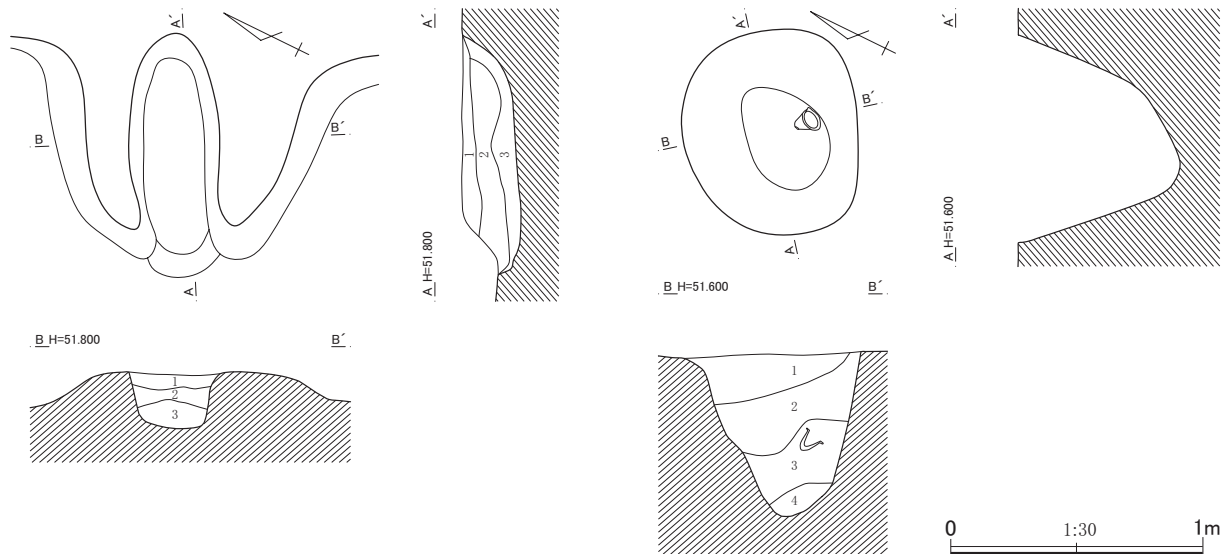
貯蔵穴は、東隅とカマド右袖の間で検出した。上端での平面形は、かなり歪な円形で、最大長は84cmである。底面が狭く先細りに掘り込まれており、最深部での深さは64cmである。覆土は4層で、第1・2層は、ロームを多量に含み、第3・4層には、ローム小塊がかなり含まれる。

カマドは、北東壁の東隅に微妙に偏した位置に付設されている。両袖に挟まれた細長い楕円形の燃焼部が残存する。燃焼面は、中央に稜を有し、丸く掘り込まれている。燃焼部の長さは97cm、横幅は



第227号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・焼土粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・炭化物粒(～5mm)を微量含み、ローム小塊(～10mm)を中量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を多量に含み、ローム小塊(～20mm)を少量、焼土粒(～5mm)を中量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～30mm)を微量、焼土粒(～5mm)を少量含む。
- 第5層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～5mm)を少量含む。



第227号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・粘土粒(～5mm)・炭化物粒(～5mm)・焼土粒(～5mm)を少量含み、焼土小塊(～30mm)を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～20mm)を中量含み、炭化物粒(～5mm)・焼土小塊(～10mm)を微量、焼土粒(～5mm)を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含み、ローム小塊(～30mm)を中量含む。

第227号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を多量に含み、ローム小塊(～10mm)を微量、焼土粒(～5mm)を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を多量に含み、ローム小塊(～20mm)・焼土粒(～5mm)を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～20mm)を中量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～20mm)を少量含む。

第476図 第227号住居跡平面・断面図

第222表 第227号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 18.1 底径 — 器高 [25.1]	口縁部は外反する。胴部は中位に膨らみをもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部～胴部木口状工具によるナデ。胴部下半ヘラケズリ。内面—口縁部木口状工具によるナデ。胴部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—にぶい黄橙色	口縁部～胴部 2/3残存
2	坏	口径 (12.9) 底径 — 器高 5.0	丸底。彎曲する体部から、口縁部は外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	石英・角閃石・白色粒 内外—にぶい黄橙色	1/5残存

35cmである。被熱赤化の痕跡は顕著ではない。カマド覆土は3層で、第1層には、粘土や炭化物、焼土が含まれ、第2・3層には、ローム小塊が目立つ。

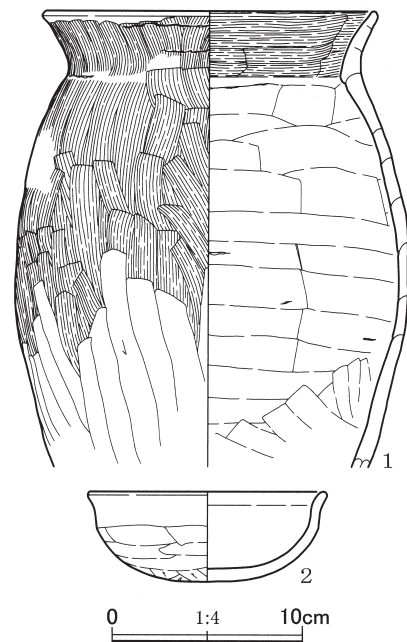
第477図1の甕は、貯蔵穴の縁から出土している。図化していないが、高坏脚部片が貯蔵穴の中層から出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期前葉の遺構と考えられる。

第228号住居跡 (第478・479図、第223表、図版55・164)

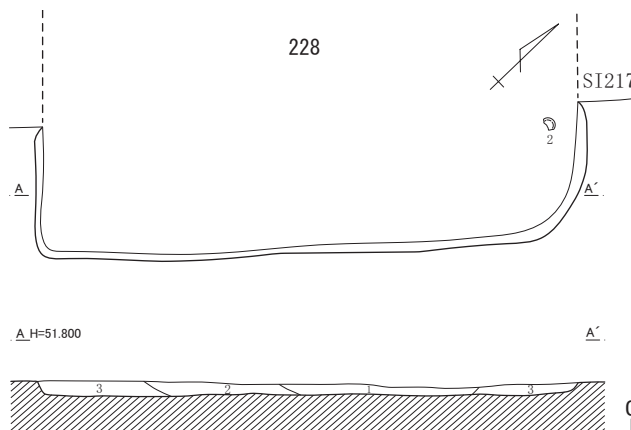
調査地点の北東部の東縁、曲折した北縁近く、U11、V11グリッドに位置し、G群に含まれる住居跡である。第272号住居跡を切っており、第208・217号住居跡に切られ、北西部分を壊されている。第217号住居跡の床面は、本住居跡の床面より高く、第217号住居跡との重複部分に関しては、壁が残存していた可能性もあるが、確認することができなかった。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

規模は、北西—南東方向での現存長が3.87m、北東—南西方向での長さは4.39mである。北西—南東方向での推定中軸線の方位はN-47°-Wあたりを指すようである。床面の硬化は顕著ではない。壁高は、北東壁で7cm、南東壁で6cm、南西壁で10cmである。

第479図2の坏は、北東壁近くの床面直上から出土している。重複関係、および2の坏の時期から判断して、古墳時代終末期後葉の遺構と考えられる。



第477図 第227号住居跡出土遺物



第478図 第228号住居跡平面・断面図

第228号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～30mm)を多量に含み、焼土粒(～5mm)を微量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～5mm)を少量含む。

第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を少量、焼土粒(～5mm)を微量含む。

C地点

第223表 第228号住居跡出土遺物観察表

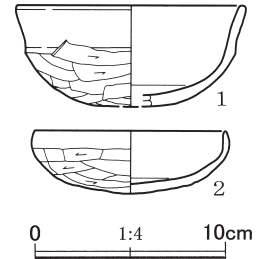
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 (12.3) 底径 — 器高 (5.5)	丸底。口縁部は体部との境に弱い稜をもって外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—橙色	1/4残存
2	坏	口径 (10.4) 底径 — 器高 3.5	丸底。体部は彎曲する。口縁部は内傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外—橙色	1/3残存

第229号住居跡 (第480図、図版55)

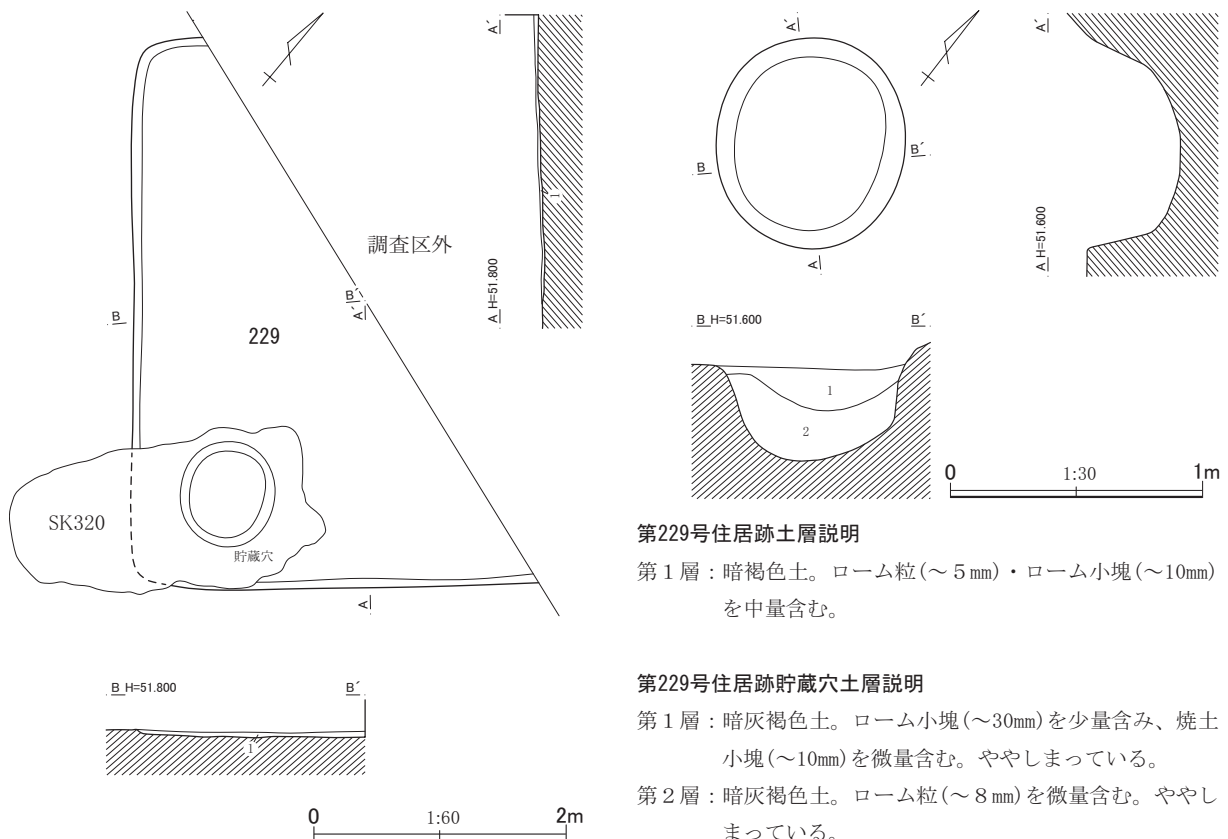
調査地点の北東部の中央、曲折した北縁沿い、U10グリッドに位置し、G群に含まれる住居跡である。第320号土坑に切られ、第231号住居跡と接している。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

南東壁が丸みを持ちはじめていることからすれば、長方形に近い平面形になりそうである。規模は、北西—南東方向で4.36m、北東—南西方向で3.28m、北西—南東方向での中軸線は、N-49°-Eを指す。床面には、細かな凹凸が見られ、硬化は顕著ではない。壁自体辛うじて残るのみであり、壁高は、南東・南西壁で1、2cmである。

南隅近くのピットは、貯蔵穴であろうか。平面形は、ほぼ円形で、径84cmである。丸く掘り込まれており、最深部での深さは、37cmである。覆土中より土師器片を主とする遺物が少量出土している。



第479図 第228号住居跡出土遺物



第229号住居跡土層説明

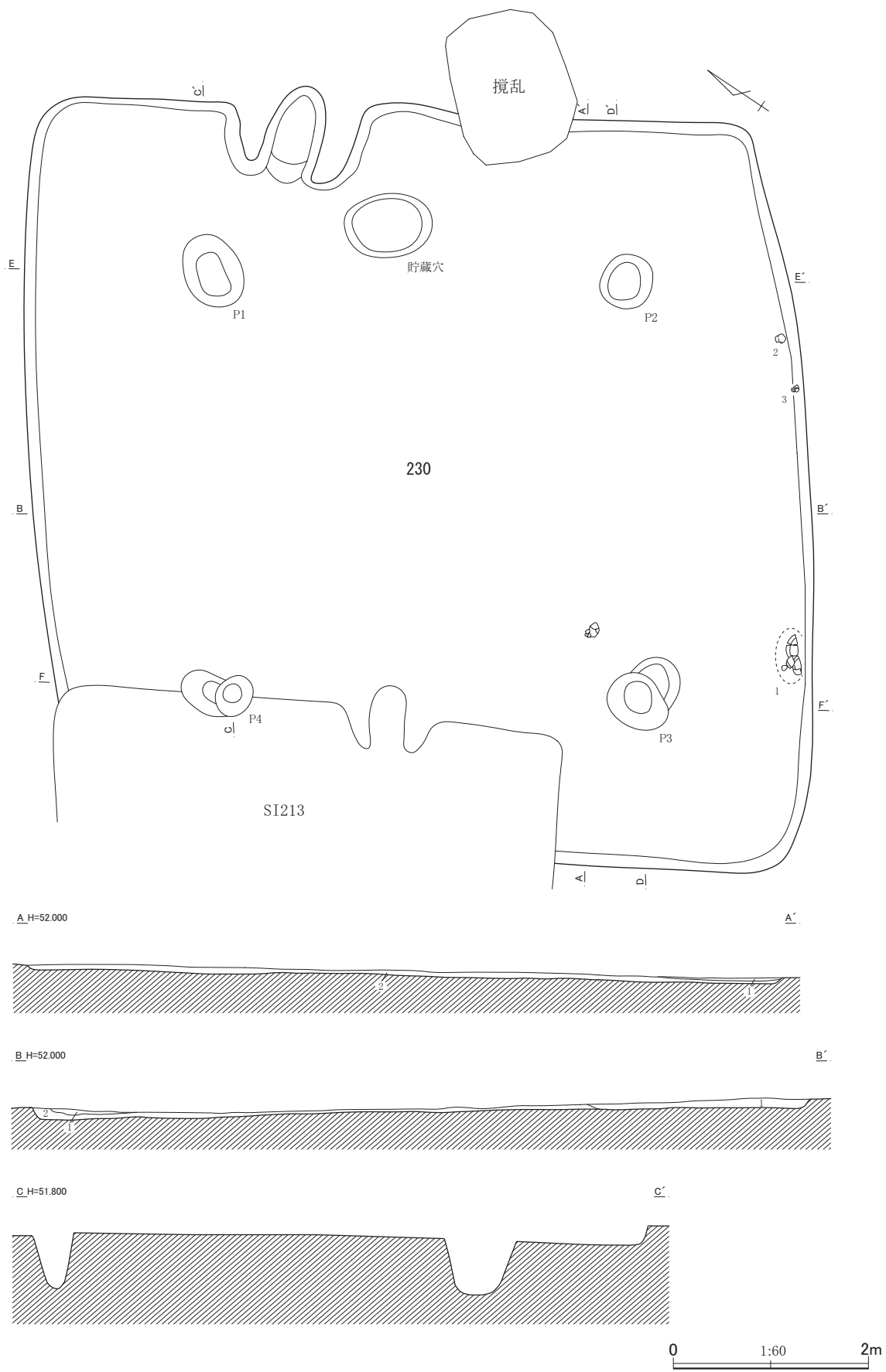
第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～10mm)を中量含む。

第229号住居跡貯蔵穴土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム小塊(～30mm)を少量含み、焼土小塊(～10mm)を微量含む。ややしまっている。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒(～8mm)を微量含む。ややしまっている。

第480図 第229号住居跡平面・断面図



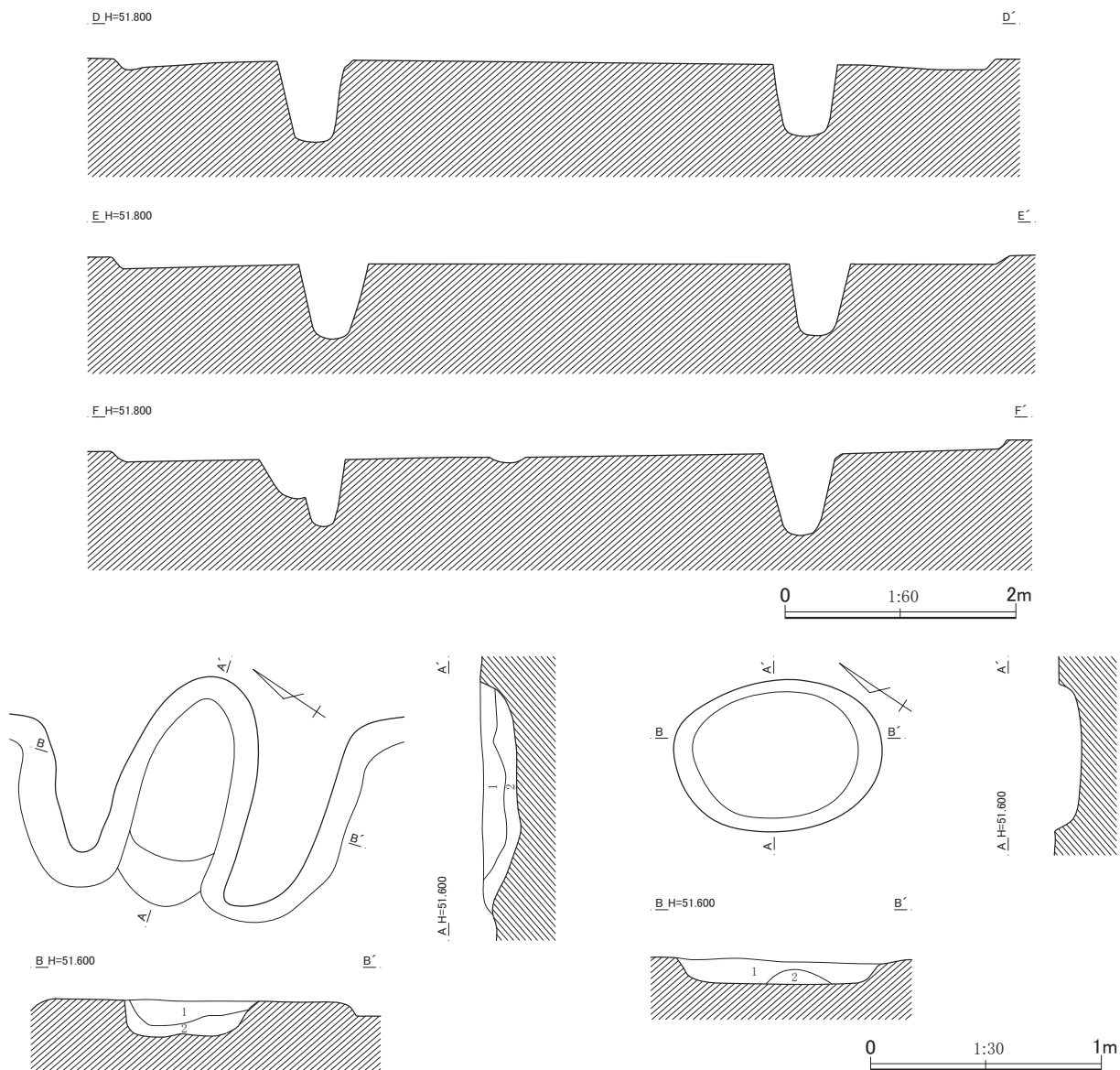
第481图 第230号住居迹平面・断面图(1)

C地点

第230号住居跡（第481～483図、第224表、図版55・164）

調査地点の北東部のほぼ中央、S10、T10・11グリッドに位置し、C群に含まれる住居跡である。第284号住居跡を切り、第213号住居跡に切られ、西隅から南西壁にかけて壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、やや胴の張る方形である。規模は、主軸方向で7.66m、副軸方向で8.00m、主軸方位は、



第230号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム小塊（～20mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。

第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊（～10mm）を少量含む、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第230号住居跡カマド土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を微量含む、焼土粒（～7mm）を少量含む。

第2層：暗褐色土。ローム小塊（～15mm）を中量含む、焼土粒（～8mm）を少量含む。

第230号住居跡貯蔵穴土層説明

第1層：暗褐色土。ローム小塊（～50mm）・焼土粒（～8mm）を少量含む。

第2層：暗褐色土。ローム小塊（～20mm）を中量含む。

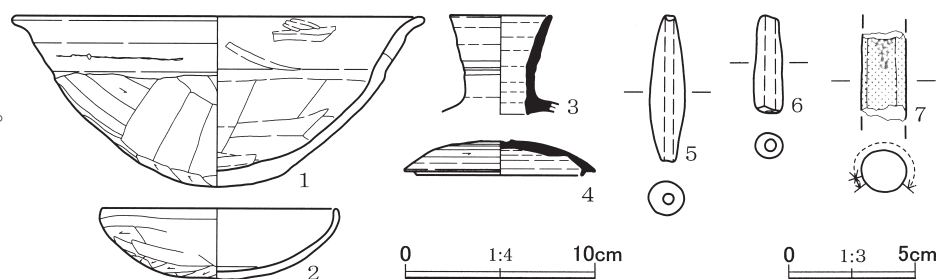
第482図 第230号住居跡平面・断面図（2）

N-57° - Eである。床面には微妙な凹凸が見られるが、全体としてはおおむね平坦である。支柱穴を結ぶ範囲を中心に、床面は硬化している。壁高は、北東壁で6cm、南東壁で9cm、南西壁で7cm、北西壁で11cmである。

P1～P4は、支柱穴であろう。上端での平面形は、いずれもやや不整な楕円形で、P3・P4は、柱の付け替えによるものか、2つのピットが重なっているように見える。深さは、P1が56cm、P2が62cm、P3が70cm、P4が57cmである。貯蔵穴は、カマドの右袖先端脇で検出した。上端での平面形は楕円形で、長径89cm、短径68cmである。盆状に掘りくぼめられており、中央部が深くなっている。最深部での深さは16cmである。覆土は2層で、第2層には、ローム小塊が水玉状に含まれる。

カマドは、北東壁の北隅に大きく偏した位置に斜行して付設されている。低平な両袖に挟まれた楕円形の燃焼部が残存する。燃焼部の袖端までの長さは102cm、横幅は57cmである。燃焼面は、焚口側が斜面をなすように掘りくぼめられており、凸凹している。被熱赤化の痕跡は、不明瞭である。カマドの覆土は2層で、第2層には、ローム小塊がかなり含まれる。

第483図1の大型の鉢は南東壁脇の下層～床面から出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末期後葉の遺構と考えられる。



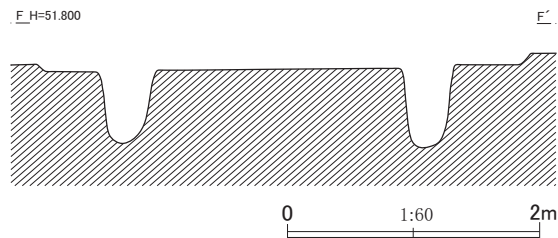
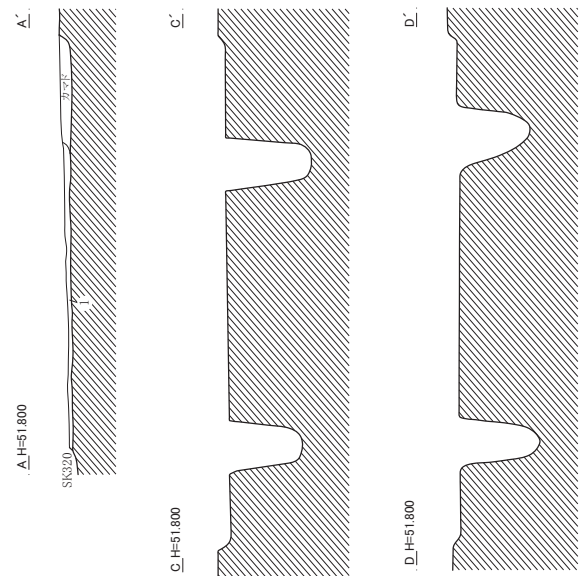
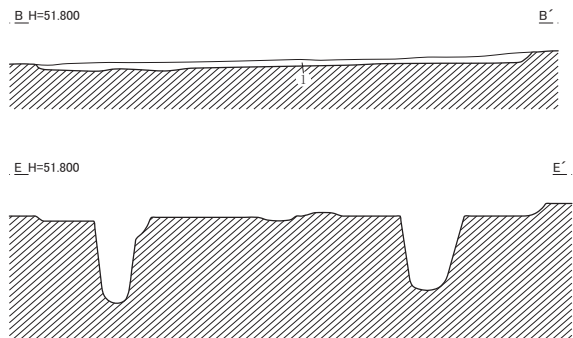
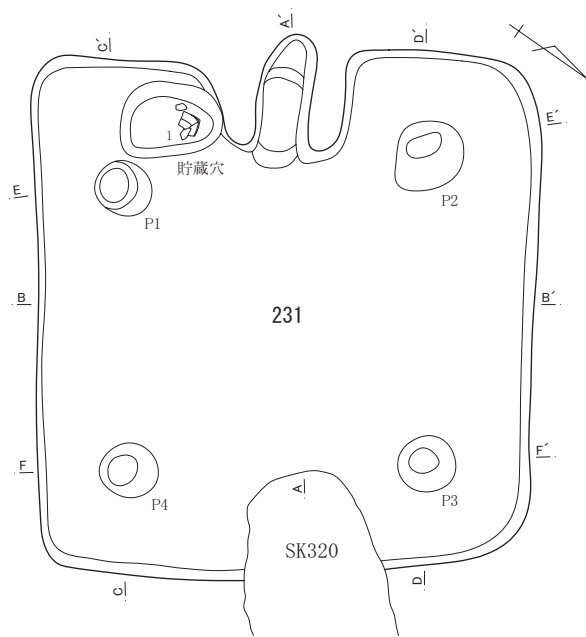
第483図 第230号住居跡出土遺物

第224表 第230号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	大型鉢	口径 22.2 底径 — 器高 9.4	丸底。体部は丸みをもって開く。口縁部は外傾し、端部で強く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外-橙色	口縁部1/4欠損
2	坏	口径 (12.8) 底径 — 器高 3.9	丸底。体部は浅く彎曲する。口縁部は短く内屈する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面-口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒 内外-明赤褐色	口縁部～体部4/5欠損
3	須恵器提瓶	口径 5.6 底径 — 器高 [5.4]	直立する頸部から、口縁部はわずかに外傾する。ロクロ成形。	外面-ロクロナデ。頸部に横位沈線2条。自然釉附着。内面-ロクロナデ。	白色粒 内外-灰色	口縁部還元焰焼成
4	須恵器蓋	口径 (9.1) 底径 — 器高 [1.9]	丸みを帯びた天井部から内彎気味に下がり、返りをもつ。ロクロ成形。	外面-ロクロナデ。天井部回転ヘラケズリ。内面-ロクロナデ。	石英・白色粒 内外-橙色	2/3残存、摘み欠失 還元焰焼成
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
5	土錘	長さ6.1、幅1.5、厚さ1.4、重さ10.31g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：橙色。				完形
6	土錘	長さ4.0、幅1.2、厚さ1.1、重さ5.17g。胎土：白色粒。色調：にぶい褐色。				完形
7	棒状土製品	第972図115、第440表参照。				No.115

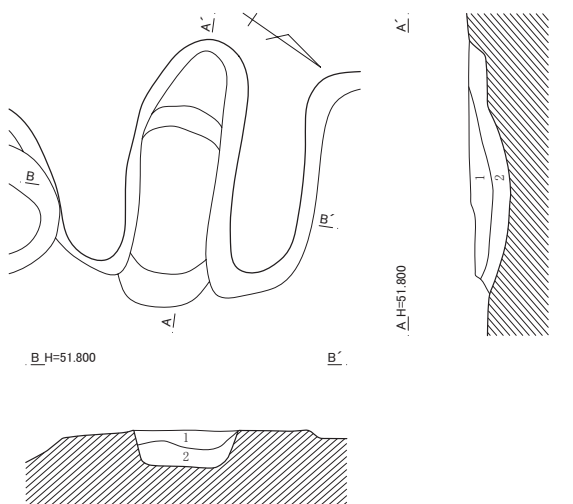
第231号住居跡 (第484・485図、第225表、図版56・165)

調査地点北東部の中央、やや東寄り、T10・11、U10・11グリッドに位置し、G群に含まれる住居跡である。第320号土坑に切られ、第229号住居跡と接している。確認面は、黄褐色のローム層上面で



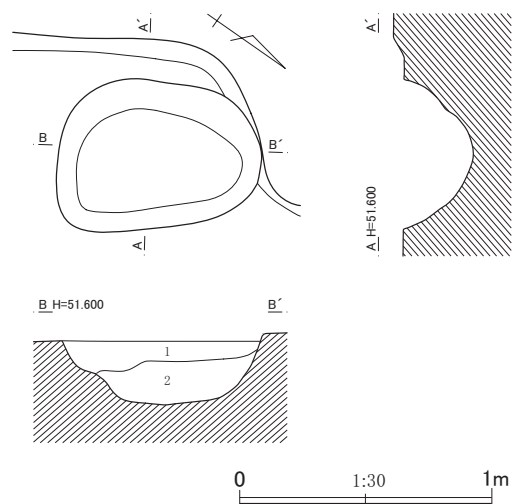
第231号住居跡土層説明

第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～8mm)を中量含む。



第231号住居跡マド土層説明

第1層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)・粘土粒(～2mm)・焼土粒(～4mm)を中量含む。
第2層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含む、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～6mm)を微量含む。



第231号住居跡貯蔵穴土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム小塊(～10mm)を中量含む、焼土粒(～5mm)を微量含む。
第2層：暗褐色土。ローム小塊(～15mm)を中量含む、焼土粒(～7mm)を微量含む。

第484図 第231号住居跡平面・断面図

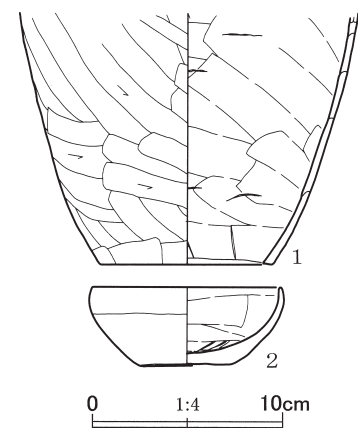
ある。

平面形は、方形である。規模は、主軸方向で4.18m、副軸方向で3.94m、主軸方位は、S-55°-Wである。支柱穴を結ぶ範囲を中心に、床面は所々硬化している。壁高は、南西壁で6cm、北西壁で8cm、北東壁で13cm、南東壁で2cmである。

P1～P4は、支柱穴である。上端での平面形は、いずれも円形、あるいは不整な円形で、深さは、P1が67cm、P2が60cm、P3が64cm、P4が57cmである。カマドの左袖に接するピットは、貯蔵穴であろう。上端での平面形は、微妙に辺のある楕円形で、長径81cm、短径59cmである。丸みのある形に掘りくぼめられており、最深部での深さは28cmである。覆土は2層で、第1・2層ともに、ローム小塊をかなり含む埋め戻されたような土である。

カマドは、南西壁のほぼ中央に付設されている。低平な両袖に挟まれた細長い楕円形の燃焼部が残存する。燃焼部の袖端までの長さは108cm、横幅は43cmである。燃焼面は、中央が深く、奥壁側は段を有し浅くなっている。全体に赤化の痕跡は顕著ではないが、カマド構築材のローム小塊が硬化している。カマドの覆土は2層で、第1層には、ロームや粘土、焼土の粒がかなり含まれ、あるいは天井部などの崩落土の一部が含まれるようである。

第485図1の甔は、貯蔵穴上の住居跡覆土中から出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代中期後葉の遺構である可能性が考えられる。



第485図 第231号住居跡
出土遺物

第225表 第231号住居跡出土遺物観察表

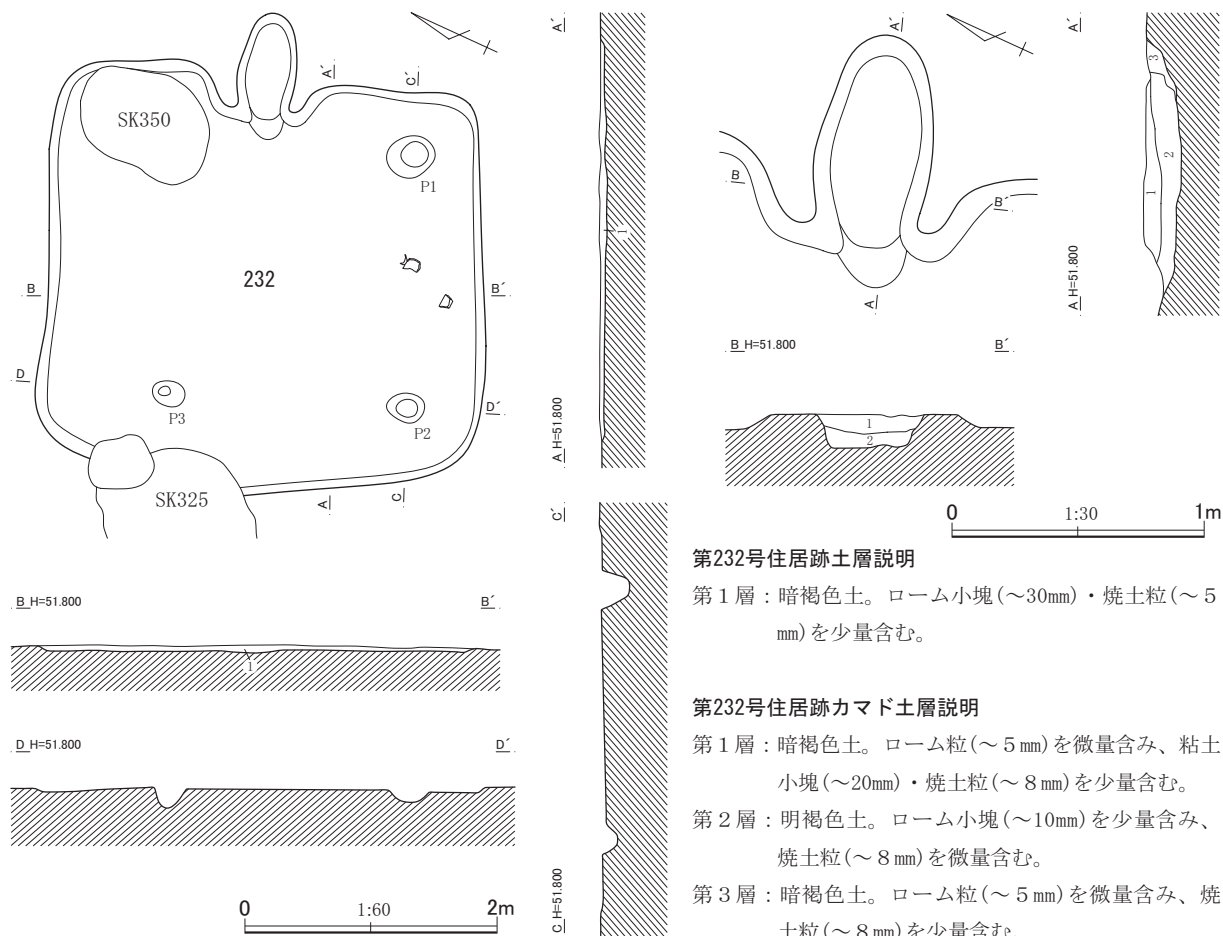
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甔	口径 — 底径 9.5 器高 [13.9]	胴部は膨らみをもたない。底部は筒抜け。粘土紐積み上げによる成形。	外面—胴部下半ヘラケズリ。内面—胴部下半ヘラナデ、端部ヘラケズリ。	石英・白色粒・黒色粒 外—灰黄褐色 内—にぶい褐色	胴部下半～底部
2	坏	口径 10.3 底径 5.0 器高 4.3	平底。外傾して開く体部から、口縁部は内彎気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ナデ。底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—明赤褐色	口縁部1/4欠損

第232号住居跡（第486・487図、第226表、図版56・165）

調査地点の中央、やや北西寄り、Q10、R10グリッドに位置し、D群に含まれる住居跡である。第325・350号土坑に切られている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、やや歪ではあるが、方形と見てよいであろう。規模は、主軸方向で3.40m、副軸方向で3.47m、主軸方位は、N-65°-Eである。床面には細かな凹凸があるが、全体的に平坦である。壁際を除く床面は、軽微ではあるが、硬化している。壁高は、四周いずれも2、3cmである。

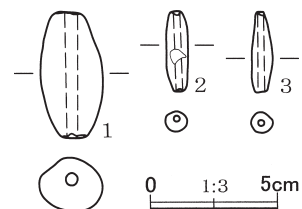
P1～P3は、支柱穴であろう。4本目の支柱穴は、第350号土坑により壊されたと考えられる。上端での平面形は、いずれもやや不整な円形で、深さは、P1が22cm、P2が12cm、P3が17cmである。カマドは東壁中央、やや北東隅寄りに付設されている。短小で低平な袖に挟まれた燃焼部が残存す



第486図 第232号住居跡平面・断面図

る。燃焼面は、中央奥壁寄りやや深く掘りくぼめられており、奥壁は曲折して立ち上がる。燃焼部の長さは101cm、横幅は46cmである。奥壁、側壁の上端は、被熱赤化している。

図化していないが、甕破片が、南壁近くから出土している。3個体の土錘の他には、土師器片を主とする遺物が覆土中から少量出土したのみである。住居形態などから見て、古墳時代の遺構と考えられる。



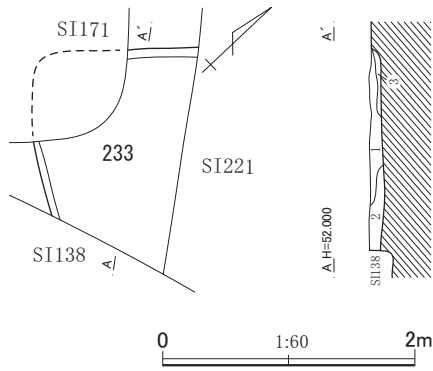
第487図 第232号住居跡出土遺物

第226表 第232号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
1	土錘	長さ5.2、幅2.6、厚さ2.2、重さ27.77g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい橙色。	完形
2	土錘	長さ3.3、幅0.9、厚さ0.8、重さ2.63g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい橙色。	一部欠損
3	土錘	長さ3.3、幅0.9、厚さ0.85、重さ2.18g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：橙色。	完形

第233号住居跡（第488・489図、第227表、図版56・165）

調査地点南東部の中央、南寄り、R14、S14グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第138・171・221号住居跡に切られ、ほんのわずかな範囲の壁と床面のみ残存する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

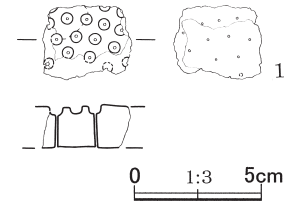


第233号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～50mm)を少量含み、焼土粒(～5mm)を微量含む。

第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。



第489図 第233号住居跡出土遺物

第488図 第233号住居跡平面・断面図

第227表 第233号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
1	ガラス小玉 鑄型	第958図99、第432表参照。	No.99

規模は、いずれも現存長ということになるが、北西-南東方向で1.77m、北東-南西方向では5.57mである。床面は軽微ながらも硬化している。壁高は、北西壁で8cmである。

覆土中から、土師器小片を主とする遺物が少量出土している。重複関係から見て、古墳時代終末期以前の遺構と考えられる。

第234号住居跡 (第490～492図、第228表、図版56・57・165)

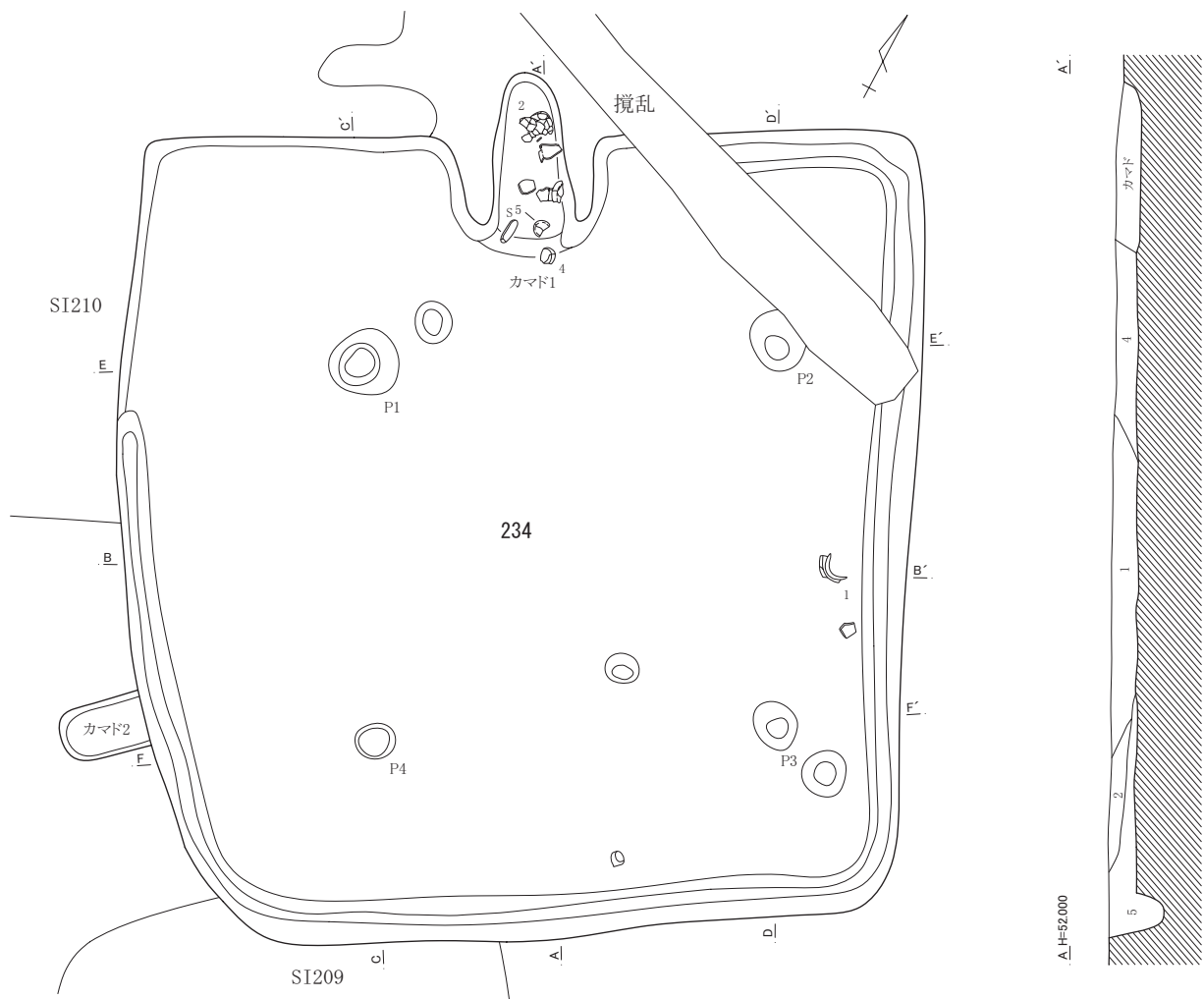
調査地点の北東部の南西端近く、やや南寄り、R11、S11グリッドに位置し、F群に含まれる住居跡である。第291・304・315・318号住居跡を切っており、第180・209・210号住居跡に切れ、遺構の一部を壊されている。また、溝状の攪乱により北隅近くを壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、方形である。規模は、主軸方向で6.55m、副軸方向で6.12m、主軸方位はN-28°-Wである。壁際を除いて、床面は硬化している。南西壁の北側から北西壁のカマド周辺までを除いて、幅23～38cm、深さ10～22cmほどの壁溝が巡らされている。壁高は、北西壁で32cm、北東壁で13cm、南東壁で22cm、南西壁で28cmである。

P1～P4は、主柱穴であろう。上端での平面形は、いずれもやや不整な円形で、深さは、P1が51cm、P2が42cm、P3が40cm、P4が43cmである。

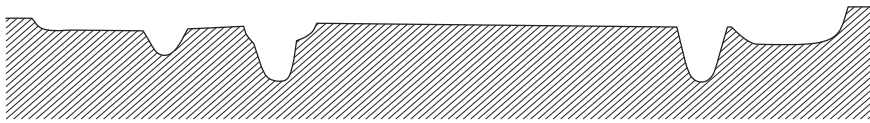
カマドは、北西壁と南西壁の2箇所検出した。一応南西壁の袖なしのカマドは、カマド付け替え時に袖を除去した結果と見、最終的に袖の残る北西壁のカマドが用いられたと考えておく。南西壁のカマドが、本住居跡に壊された住居跡のカマドである可能性もないとは言い切れないのかもしれない。北西壁のカマドを「カマド1」、南西壁のカマドを「カマド2」と呼称する。

カマド1は、北西壁のほぼ中央に付設されている。両袖に挟まれた燃焼部が残存する。燃焼部は、焚口側がやや幅広で、長さは149cm、中央での横幅は59cmである。燃焼面は、浅く掘りくぼめられ作出されており、やや凹凸が目立つ。強く赤化してはいないが、壁や燃焼面は、熱変化し、赤みを帯び



第490図 第234号住居跡平面・断面図（1）

E H=52.000



E'

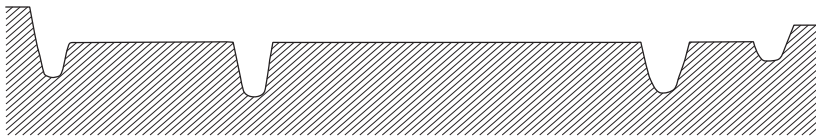
10mm)・焼土粒(～2mm)を少量含む。

第3層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・焼土粒(～1mm)を少量含む。

第4層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～6mm)を多量に含み、ローム小塊(～20mm)を中量、焼土粒(～4mm)を少量含む。

第5層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・粘土粒(～2mm)・焼土粒(～4mm)を少量含み、粘土小塊(～20mm)を微量含む。

F H=52.000



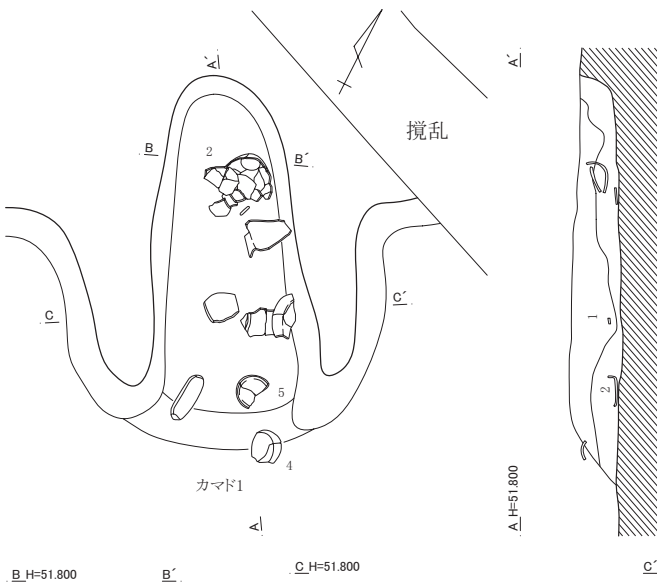
F'

0 1:60 2m

第234号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～2mm)を少量含む。

第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を中量含み、ローム小塊(～

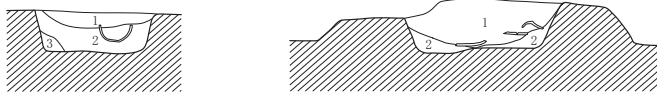


B H=51.800

B'

C H=51.800

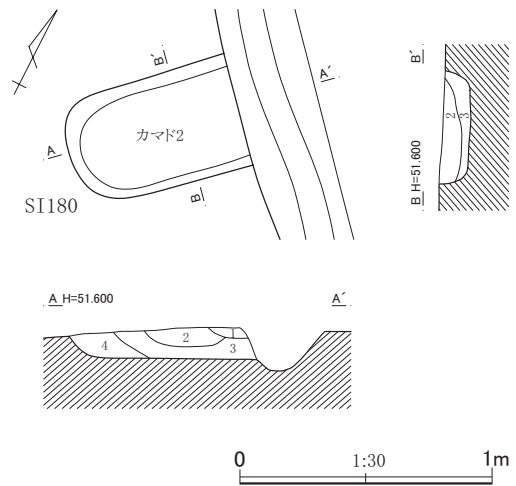
C'



第234号住居跡カマド1土層説明

第1層：灰褐色粘土。ローム粒(～8mm)を微量含み、焼土粒(～8mm)を少量含む。ややしまっている。

第2層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～7mm)・焼土小塊(～10mm)を微量含む。ややしまっている。



第3層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～8mm)を微量含む。

第234号住居跡カマド2土層説明

第1層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)を微量含み、粘土粒(～5mm)を少量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・焼土粒(～5mm)を微量含む。

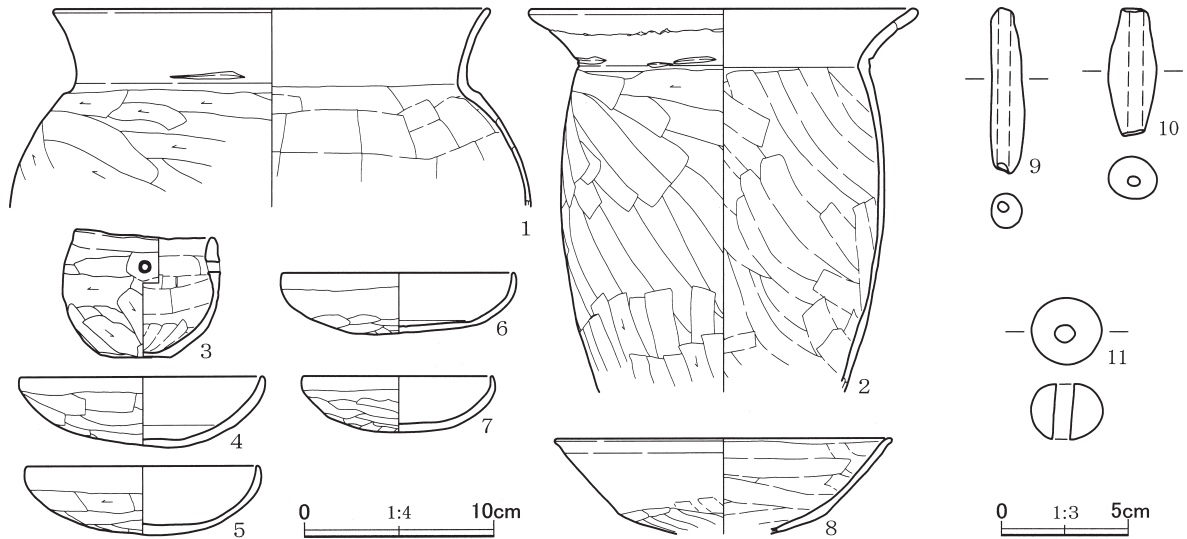
第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・焼土粒(～30mm)を中量含む。

第4層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。

第491図 第234号住居跡平面・断面図(2)

て硬化している。カマド1の覆土は3層で、第2層には、焼土小塊が含まれる。

カマド2は、南西壁の南隅近くに付設されている。焚口側は、住居壁により裁ち落されており、縦に長い燃焼部のみ残存する。燃焼部の長さは69cm、中央での横幅は44cmである。燃焼面は、掘りくぼめられ作出されている。強く赤化してはいないが、燃焼面は、硬化したロームが露出している。カマ



第492図 第234号住居跡出土遺物

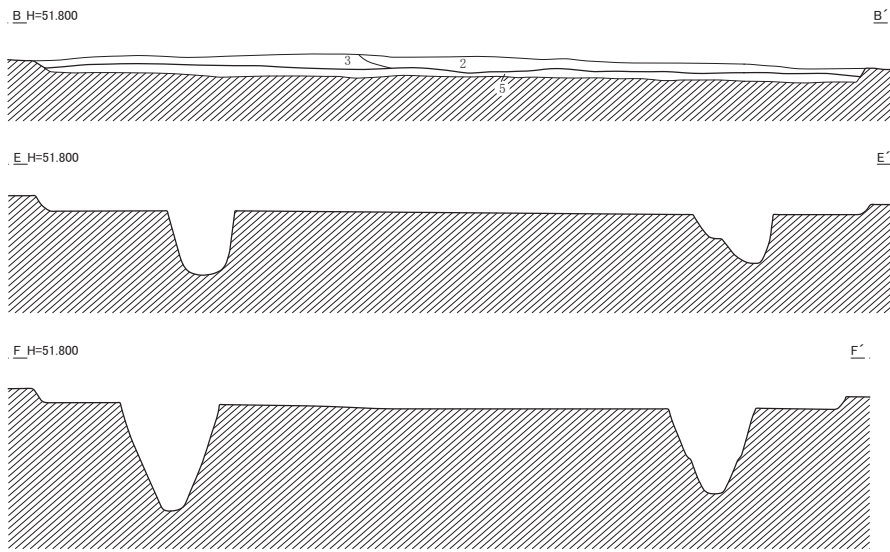
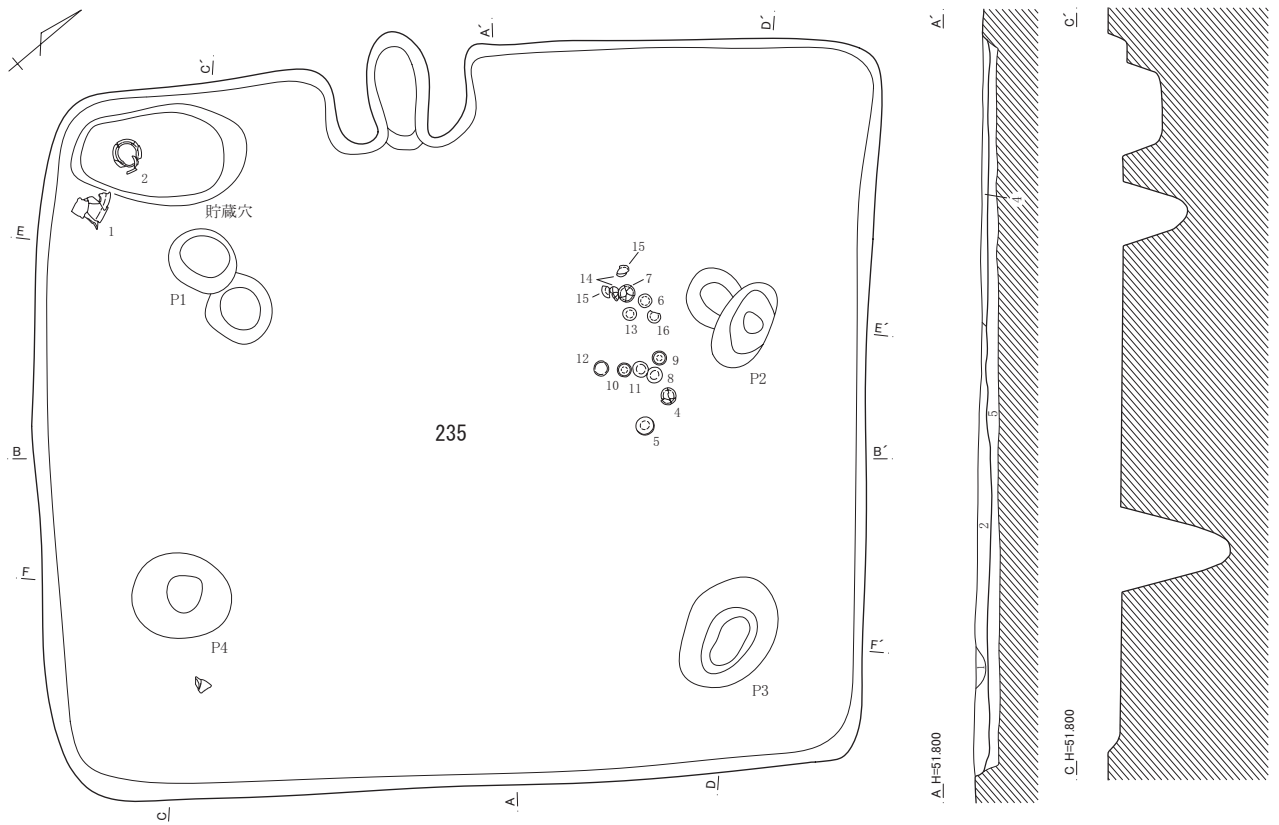
第228表 第234号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 (23.8) 底径 — 器高 [10.8]	口縁部は外反する。胴部は膨らみをもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 外—橙色 内—にぶい黄橙色	口縁部～胴部 上位1/2残存
2	甕	口径 (21.6) 底径 — 器高 [21.0]	口縁部は外反する。胴部は中位にわずかな膨らみをもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	石英・白色粒 内外—橙色	口縁部～胴部 1/2残存
3	埴	口径 (7.5) 底径 4.0 器高 7.0	丸みを帯びた平底。体部は丸みをもつ。口縁部は肥厚して直立する。孔径0.6cmの円孔。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 外—にぶい黄橙色 内—にぶい橙色	口縁部～体部 1/2欠損
4	坏	口径 (13.3) 底径 — 器高 3.9	丸底。体部は浅く彎曲する。口縁部は短く直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	角閃石・白色粒 内外—橙色	1/3残存
5	坏	口径 12.7 底径 — 器高 3.8	丸底。体部は浅く彎曲する。口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・角閃石・白色粒・褐色粒 内外—橙色	2/3残存
6	坏	口径 12.7 底径 — 器高 3.4	丸底。体部は浅く彎曲する。口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ナデ。底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	角閃石・白色粒 内外—にぶい橙色	2/3残存
7	坏	口径 10.4 底径 — 器高 3.1	丸底。体部は浅く彎曲する。口縁部は短く内傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—橙色	ほぼ完形
8	高坏	口径 (18.4) 底径 — 器高 [5.2]	坏部は浅く、口縁部は外傾して開く。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。坏部ヘラケズリ。内面—口縁部～坏部ヘラナデ。	石英・角閃石・白色粒 内外—橙色	坏部1/4残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
9	土錘	長さ6.8、幅1.4、厚さ1.4、重さ13.5g。胎土：白色粒。色調：橙色。				完形
10	土錘	長さ5.3、幅2.0、厚さ1.7、重さ16.68g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：橙色。				完形
11	土玉	長さ2.8、幅2.95、孔径0.7×0.85、厚さ2.3、重さ17.33g。胎土：白色粒。色調：にぶい黄橙色。調整：ナデ。				完形

ド2の覆土は4層で、第1・4層には、ローム小塊が含まれる。

住居跡覆土は、暗褐色土を主とする5層で、総じてロームがかなり混入する第2～5層が、壁際を埋め、最終的に第1層が流入し、埋没した模様である。

第492図1の甕は、北東壁近くの中・下層から出土している。2の甕は、カマド奥壁寄りから、4・



第235号住居跡土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)・炭化物粒(～8mm)を微量含む。
- 第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～8mm)・焼土粒(～8mm)を少量含む。ややしまっている。
- 第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～8mm)を中量含み、焼土小塊(～10mm)を少量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒(～7mm)・焼土粒(～8mm)を微量含む。
〈掘り方埋土〉
- 第5層：暗褐色土。ローム小塊(～30mm)を中量含み、焼土粒(～8mm)を少量含む。ややしまっている。

第493図 第235号住居跡平面・断面図(1)

C地点

5の坏は、焚口付近から出土している。重複関係、出土遺物から見て、奈良時代前半の遺構と考えられる。

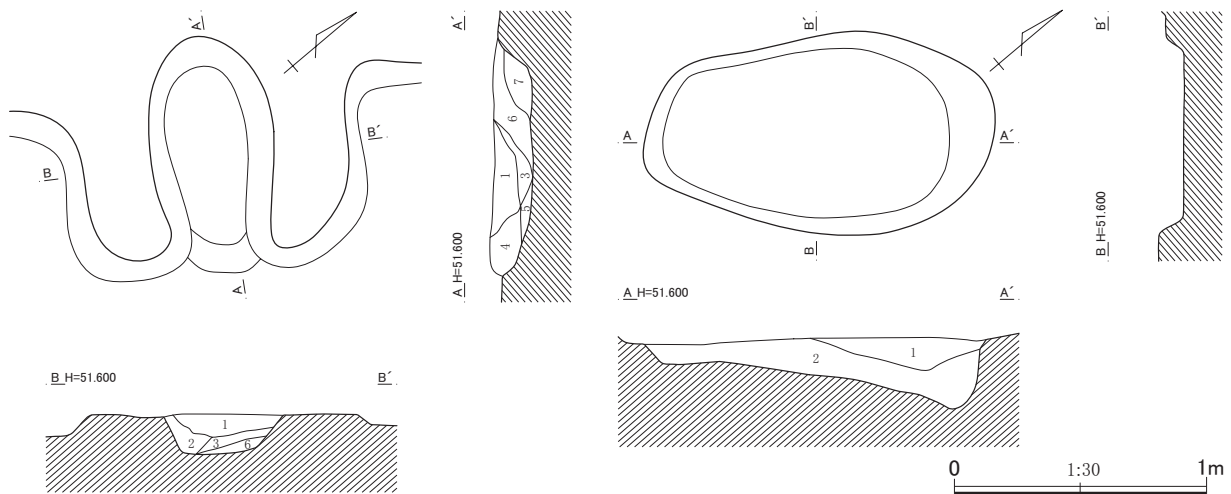
第235号住居跡（第493～495図、第229・230表、図版57・58・165）

調査地点の北西部の北西隅寄り、O8、P8グリッドに位置し、A群に含まれる住居跡である。第267・283・289・295・319・320号住居跡を切って造られている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、やや横長の長方形である。規模は、主軸方向で5.85m、副軸方向で6.62m、主軸方位はN-42°-Wである。床面はおおむね平坦で、床面中央は、部分的に硬化している。壁高は、北西壁で15cm、北東・南東壁で5cm、南西壁で9cmである。

位置的にやや変則的ではあるが、P1～P4は、支柱穴であろう。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形、楕円形である。深さは、P1が51cm、P2が40cm、P3が71cm、P4が76cmであり、深淺が著しい。西隅脇のピット、あるいは土坑は、貯蔵穴であろう。上端での平面形は、歪な楕円形で、長径137cm、短径78cmである。南西側から強く傾斜し、北東側が深くなっている。最深部での深さは、28cmである。

カマドは、北西壁の西隅にやや偏した位置に付設されている。低平な袖と丸みの強い形態の燃烧部



第235号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～1mm）・ローム小塊（～10mm）を多量に含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒（～1mm）を微量含み、焼土粒（～2mm）を少量、粘土粒（～2mm）を中量含む。ややしまっており、粘性はやや強い。
- 第3層：赤褐色土。焼土小塊を主とし、焼土粒（～4mm）を中量含み、焼土小塊（～20mm）を多量に含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒（～1mm）・焼土粒（～1mm）を少量含み、ローム粒（～4mm）を微量含む。
- 第5層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、焼土粒（～1mm）を

多量に含む。

- 第6層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～1mm）・ローム小塊（～10mm）を多量に含む。
- 第7層：暗褐色土。ローム粒（～2mm）・ローム小塊（～15mm）を少量含む。

第235号住居跡貯蔵穴土層説明

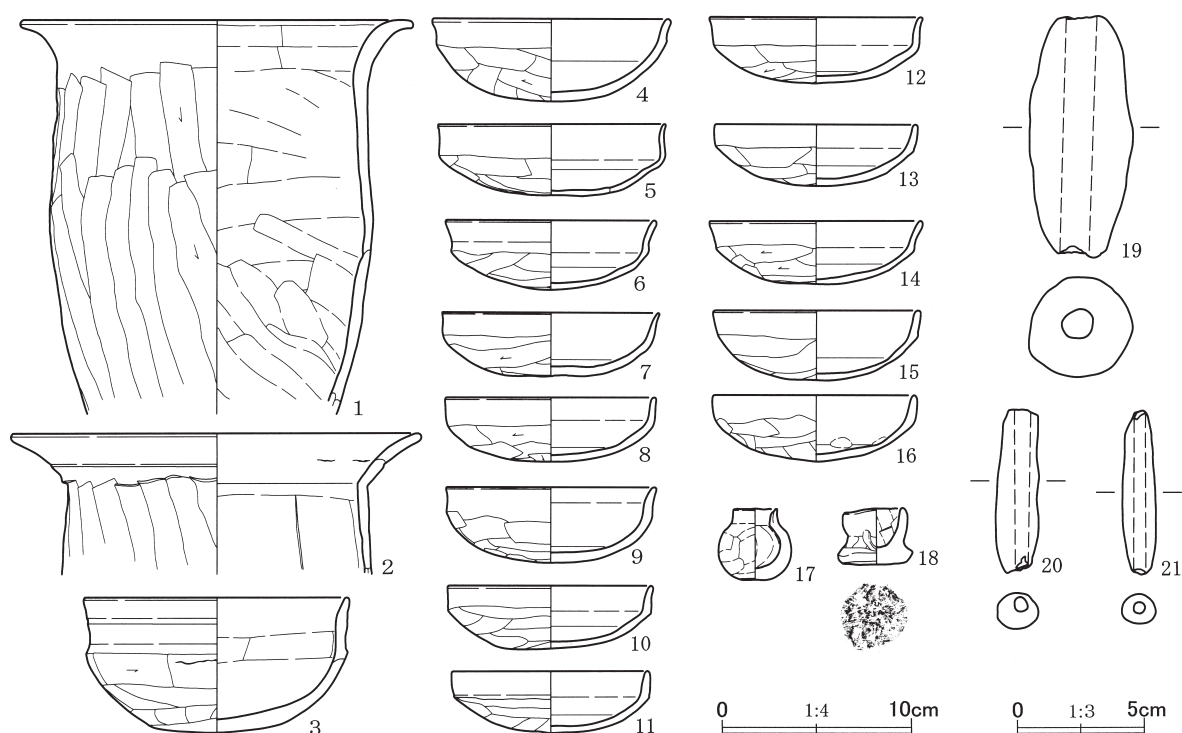
- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第494図 第235号住居跡平面・断面図（2）

が残存する。燃焼部の長さは94cm、中央での横幅は50cmである。燃焼面は、鍋底状に掘りくぼめられ作出されている。側壁上部は、被熱しており、赤みがかった色調に変じている。カマド覆土は7層で、粘土小塊や焼土小塊、焼土粒、あるいはローム小塊を目立って含む、第2・3・5・6層には、天井部などの崩落土が含まれるようである。

住居跡の覆土は、総じて暗褐色土を主とする土で、第5層は、掘り方の埋土である。

第495図1の甕は、貯蔵穴脇の中・下層から、2の甕は、貯蔵穴の上の覆土中から出土している。4～16の13個体の坏は、P2の脇の床面直上から、4・7・8・11・12・15の6個体は正位で、5・6・9・10・13・14・16の7個体は伏せた状態で、大きく2つのまとまりをなし（4・5・8～12と6・7・13～16の2群）出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末期中葉の遺構と考えられる。



第495図 第235号住居跡出土遺物

第229表 第235号住居跡出土遺物観察表（1）

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 20.7 底径 — 器高 [21.2]	口縁部は強く外反する。胴部は膨らみをもたない。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	角閃石・白色粒 外-にぶい黄橙色 内-にぶい橙色	口縁部～胴部 上半1/2残存
2	甕	口径 22.4 底径 — 器高 [7.7]	口縁部は強く外反する。胴部は膨らみをもたない。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	石英・角閃石・白色粒 内外-橙色	口縁部～胴部 上位
3	坏	口径 14.5 底径 — 器高 7.4	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外反し、中位に弱い凹線がめぐる。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	石英・角閃石・白色粒 外-橙色 内-明赤褐色	4/5残存
4	坏	口径 13.0 底径 — 器高 4.5	丸底。体部は彎曲し、口縁部は外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	角閃石・白色粒・褐色粒 内外-橙色	完形

C地点

第230表 第235号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
5	坏	口径 12.4 底径 — 器高 4.0	丸底。体部は浅く、口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外—橙色	完形
6	坏	口径 11.5 底径 — 器高 3.9	丸底。体部は口縁部との境に稜をもって外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—橙色	完形
7	坏	口径 12.0 底径 — 器高 3.5	丸底。体部は彎曲し、口縁部は外反気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	角閃石・白色粒・褐色粒 内外—橙色	完形
8	坏	口径 11.5 底径 — 器高 3.5	丸底。体部は彎曲し、口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—橙色	完形
9	坏	口径 11.5 底径 — 器高 4.2	丸底。体部は彎曲し、口縁部は外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—橙色	ほぼ完形
10	坏	口径 11.2 底径 — 器高 3.5	丸底。体部は浅く、口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	角閃石・白色粒 内外—橙色	完形
11	坏	口径 10.6 底径 — 器高 3.4	丸底。体部は浅く、口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—橙色	完形
12	坏	口径 11.6 底径 — 器高 3.7	丸底。体部は浅く、口縁部は外反気味に直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—橙色	ほぼ完形
13	坏	口径 11.1 底径 — 器高 3.4	丸底。体部は浅く、口縁部は内彎気味に直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	角閃石・白色粒 内外—橙色	完形
14	坏	口径 11.6 底径 — 器高 3.5	丸底。体部は浅く、口縁部は外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・角閃石・白色粒 内外—橙色	口縁部一部欠損
15	坏	口径 11.3 底径 — 器高 3.8	丸底。体部は浅く、口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・角閃石・白色粒 内外—橙色	口縁部一部欠損
16	坏	口径 11.0 底径 — 器高 3.7	丸底。体部は浅く、口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ、指頭圧痕。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—橙色	3/4残存
17	手捏ね土器	口径 (2.3) 底径 — 器高 3.9	丸底。体部は張り、口縁部は直立する。手捏ね成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒 内外—浅黄色	1/2残存
18	手捏ね土器	口径 (3.2) 底径 3.5 器高 3.1	厚みのある平底。体部から口縁部にかけて内彎する。手捏ね成形。	外面—口縁部～体部ナデ。底部木葉痕後ナデ。内面—口縁部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—にぶい黄橙色	口縁部4/5欠損
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
19	土錘	長さ10.0、幅4.3、厚さ4.1、重さ172.51g。胎土：白色粒・黒色粒・褐色粒。色調：にぶい黄色。				完形
20	土錘	長さ6.6、幅1.8、厚さ1.5、重さ17.27g。胎土：白色粒。色調：明赤褐色。				完形
21	土錘	長さ6.7、幅1.4、厚さ1.2、重さ10.69g。胎土：白色粒。色調：にぶい黄橙色。				完形

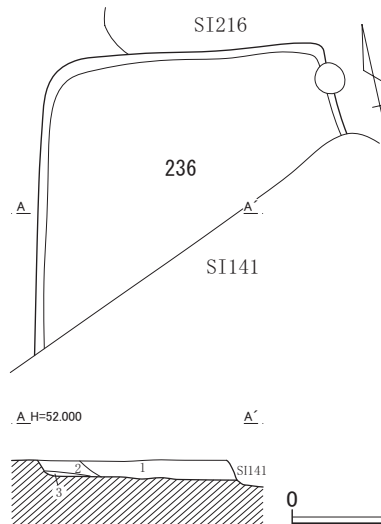
第236号住居跡(第496・497図、第231表、図版58・166)

調査地点の南東部の中央、南東隅寄り、S14、T14グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第141・216号住居跡に切られ、南半、南東半を大きく壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、方形あるいは長方形に近い形態となろうが、西壁、東壁は現存部分では、平行しないかにも見える。規模は、いずれも現存長になるが、南北方向で2.30m、東西方向で2.43mである。主軸を定めることができないが、西壁は、N-30°-Eを指している。床面は、軽微ではあるが、所々硬化している。

壁高は、西壁で12cmである。

覆土中から土師器片を主とする遺物が出土している。重複関係から見て、古墳時代中期後葉以前の遺構である可能性があると考られる。



第236号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を多量に含み、ローム小塊(～10mm)を微量、炭化物粒(～5mm)を少量、焼土粒(～5mm)を中量含む。

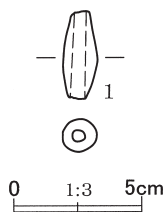
第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。

第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を多量に含み、ローム小塊(～10mm)を少量含む。

第496図 第236号住居跡平面・断面図

第231表 第236号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
1	土錘	長さ3.6、幅1.4、厚さ1.3、重さ5.56g。胎土：白色粒。色調：黒褐色。	完形

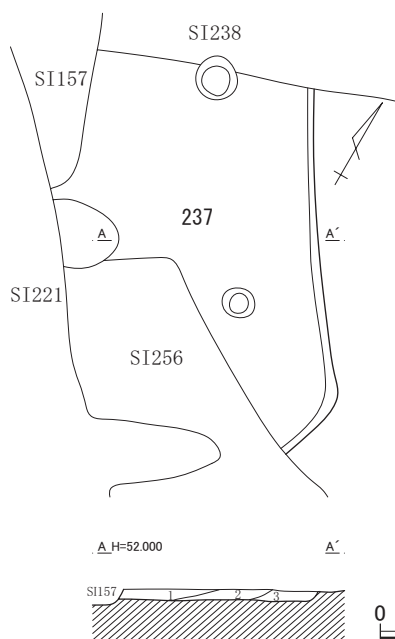


第497図 第236号住居跡出土遺物

第237号住居跡 (第498・499図、第232表、図版166)

調査地点の南東部中央、南東隅寄り、S13グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第157・238・256号住居跡に切られ、

南東隅とその周辺の壁、床面がわずかに残るのみである。確認面は、黄褐色のローム層上面である。



第237号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含む。

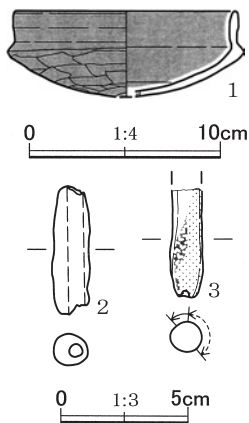
第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)を微量含む。

第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～5mm)を少量含む。

第498図 第237号住居跡平面・断面図

第232表 第237号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 (12.0) 底径 — 器高 [4.7]	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。黒色処理。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。黒色処理。	石英・白色粒 内外—黒褐色	1/2残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
2	土錘	長さ5.3、幅1.6、厚さ1.3、重さ10.23g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：橙色。				完形
3	棒状土製品	第972図116、第440表参照。				No.116



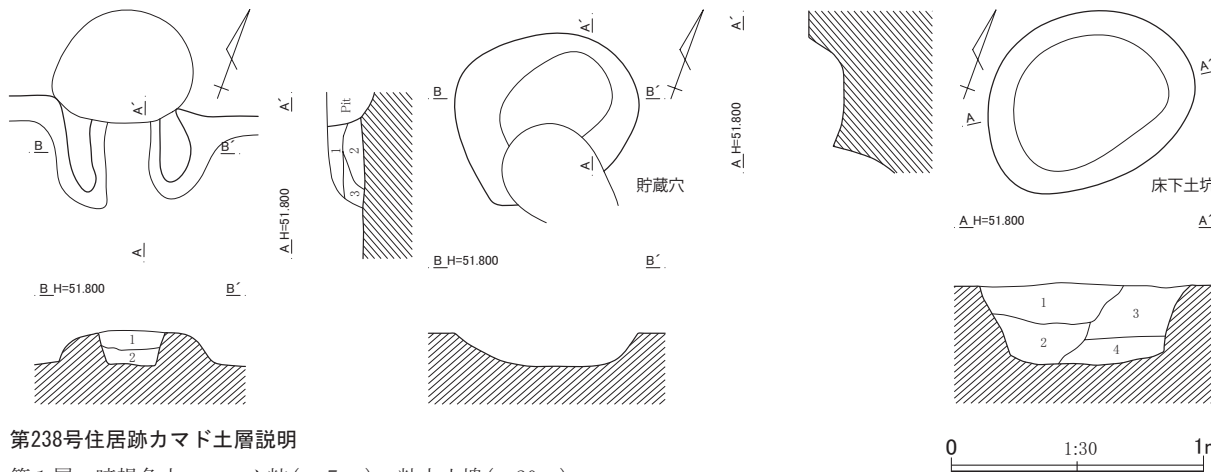
第499図 第237号住居跡出土遺物

平面形は不明であるが、かなり歪な形になりそうである。規模は、いずれも残存部分の現存長になるが、北西—南東方方向で2.98m、北東—南西方向で2.10mである。壁際以外の床面は、所々硬化している。壁高は、北東壁で7cmである。本住居跡に伴うピットは、2個である。支柱穴の可能性もある。上端での平面形は円形で、東隅近くのピットの深さは32cm、北西側のピットも同じような深さである。

図示した土師器片などの遺物が覆土中より少量出土したのみである。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期後葉後半の遺構と考えられる。

第238号住居跡 (第500～502図、第233表、図版58・166)

調査地点の南東部のほぼ中央、S13グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第237号住居跡、第391号土坑を切っている。また、第157号住



第238号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・粘土小塊(～20mm)・焼土粒(～5mm)を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・焼土粒(～5mm)を少量含む、ローム小塊(～10mm)を中量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～30mm)を少量含む。

塊(～20mm)を中量、焼土小塊(～10mm)を微量含む。

- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含む、ローム小塊(～10mm)を微量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含む、ローム小塊(～10mm)を多量に含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～20mm)を多量に含む。

第238号住居跡床下土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含む、ローム小

第500図 第238号住居跡平面・断面図(1)

居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、方形である。規模は、主軸方向で5.20m、副軸方向で4.97m、主軸方位は、N-18° - Wである。支柱穴を結ぶ範囲を中心に、床面は所々かすかに硬化している。壁高は、北壁で15cm、東壁で14cm、南壁で9cm、西壁で11cmである。

P1～P4は、支柱穴である。P1～P3は、時期の異なるピットと重複している。上端での平面形は、いずれもやや不整な円形、楕円形で、深さは、P1が45cm、P2が32cm、P3が48cm、P4が50cmである。P2脇のピットは、貯蔵穴であろう。上端での平面形は、やや不整な楕円形で、長径72cm、短径61cmである。椀形に掘りくぼめられており、最深部での深さは13cmである。

カマドは、北壁のほぼ中央に付設されている。奥壁側を時期の異なるピットに壊されており、短小



第501図 第238号住居跡平面・断面図(2)

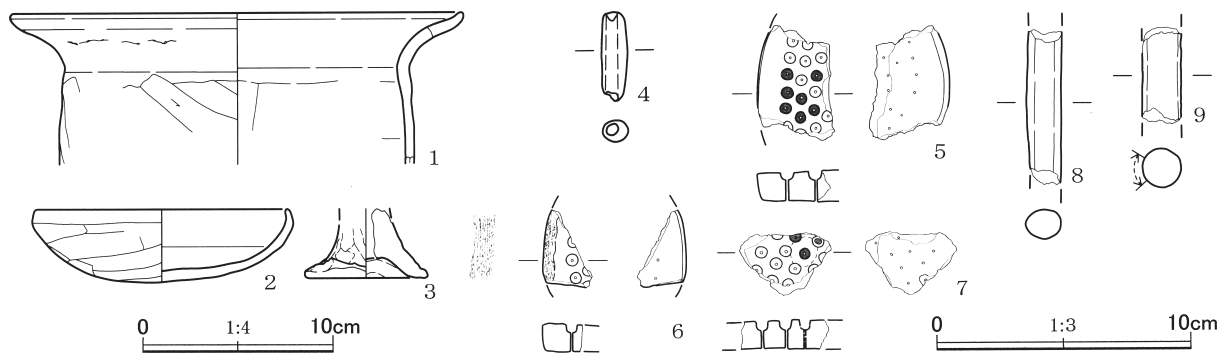
C地点

な両袖と焚口側の燃焼部のみ残存する。燃焼部の現存長は32cm、横幅は28cmである。燃焼面は、床面とほぼ同じ高さで、全体に赤化の痕跡は顕著ではない。カマドの覆土は3層で、第2層には、ローム小塊がかなり含まれ、あるいは天井部などの崩落土の一部が含まれるようである。

住居跡覆土は、3層に分けられた。総じてロームの混入が顕著であり、第2層には、ローム小塊が含まれる。

床面のほぼ中央に、床下土坑が掘り込まれている。上端での平面形は、やや不整な楕円形で、長径83cm、短径68cmである。バケツ形に掘りくぼめられており、最深部での深さは32cmである。覆土は4層で、ローム小塊を多量に含む第3・4層は、埋め戻された土と見られる。

第502図1の甕の一部は、住居跡のほぼ中央の床面直上から破片の状態で出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末期後葉の遺構と考えられる。



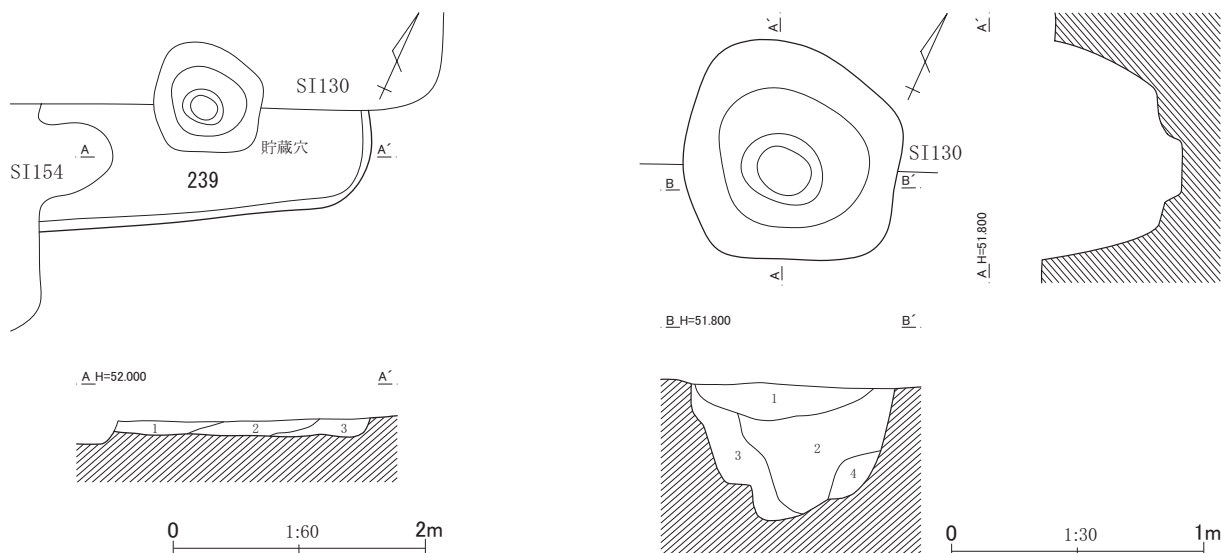
第502図 第238号住居跡出土遺物

第233表 第238号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 (24.7) 底径 — 器高 [8.3]	口縁部は強く外反し、上位で緩やかに内湾する。胴部は膨らみをもたない。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	石英・角閃石・白色粒 内—橙色	口縁部～胴部上半1/3残存
2	坏	口径 (13.9) 底径 — 器高 4.0	丸底。体部は浅く、口縁部は内屈する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒 外—明赤褐色 内—橙色	1/2残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
3	土製品 脚状品	底径(6.8)、器高[3.8]。内外ヘラナデ調整。胎土：石英・白色粒。色調：浅黄色。				1/2残存
4	土錘	長さ3.6、幅1.1、厚さ0.9、重さ3.34g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：浅黄色。				完形
5	ガラス小玉 鑄型	第958図100、第432表参照。				No.100
6	ガラス小玉 鑄型	第958図101、第432表参照。				No.101
7	ガラス小玉 鑄型	第958図102、第432表参照。				No.102
8	棒状 土製品	第972図117、第440表参照。				No.117
9	棒状 土製品	第972図118、第440表参照。				No.118

第239号住居跡 (第503・504図、第234表、図版58・166)

調査地点の南東部の南東隅近く、T14グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第185号住居跡を切っており、第130・154号住居跡に切られ、東隅から南東壁にかけてのわずかな範囲の壁と床面しか残存しない。確認面は、黄褐色のローム層上面である。



第239号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～10mm)を中量含み、焼土小塊(～10mm)を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含み、ローム小塊(～20mm)を中量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～50mm)を少量含む。

を中量含み、焼土小塊(～20mm)を少量含む。

- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～15mm)を多量に含み、焼土粒(～5mm)・焼土小塊(～10mm)を中量含む。

- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～30mm)・焼土粒(～5mm)・焼土小塊(～20mm)を少量含む。

第239号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～20mm)

- を少量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～10mm)を少量含む。

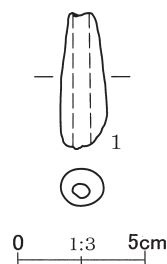
第503図 第239号住居跡平面・断面図

第234表 第239号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
1	土錘	長さ5.6、幅1.9、厚さ1.5、重さ14.90g。胎土：白色粒。色調：黄灰色。	完形

規模は、いずれも現存値、残存値となるが、北東-南西方向で2.38m、北西-南東方向で99cm、床面はほぼ平坦で、東隅付近がいくらか硬化している。壁高は、東隅で14cmである。第130号住居跡との重複部分で検出したピットは、貯蔵穴であろうか。上端での平面形は、やや角張った辺のある形態で、最大長は86cmである。壁の途中で中段の段を有し、中央が深くなっている。最深部での深さは、53cmである。覆土は4層に分けられた。第1・3・4層はローム小塊を水玉状にかなり含み、全体的に埋め戻された土であるかのような観を呈する。

図示した土錘などの遺物が覆土中より少量出土している。重複関係から見て、古墳時代後期初頭以降、奈良時代前半以前の遺構である可能性が考えられるようである。



第504図 第239号住居跡出土遺物

C地点

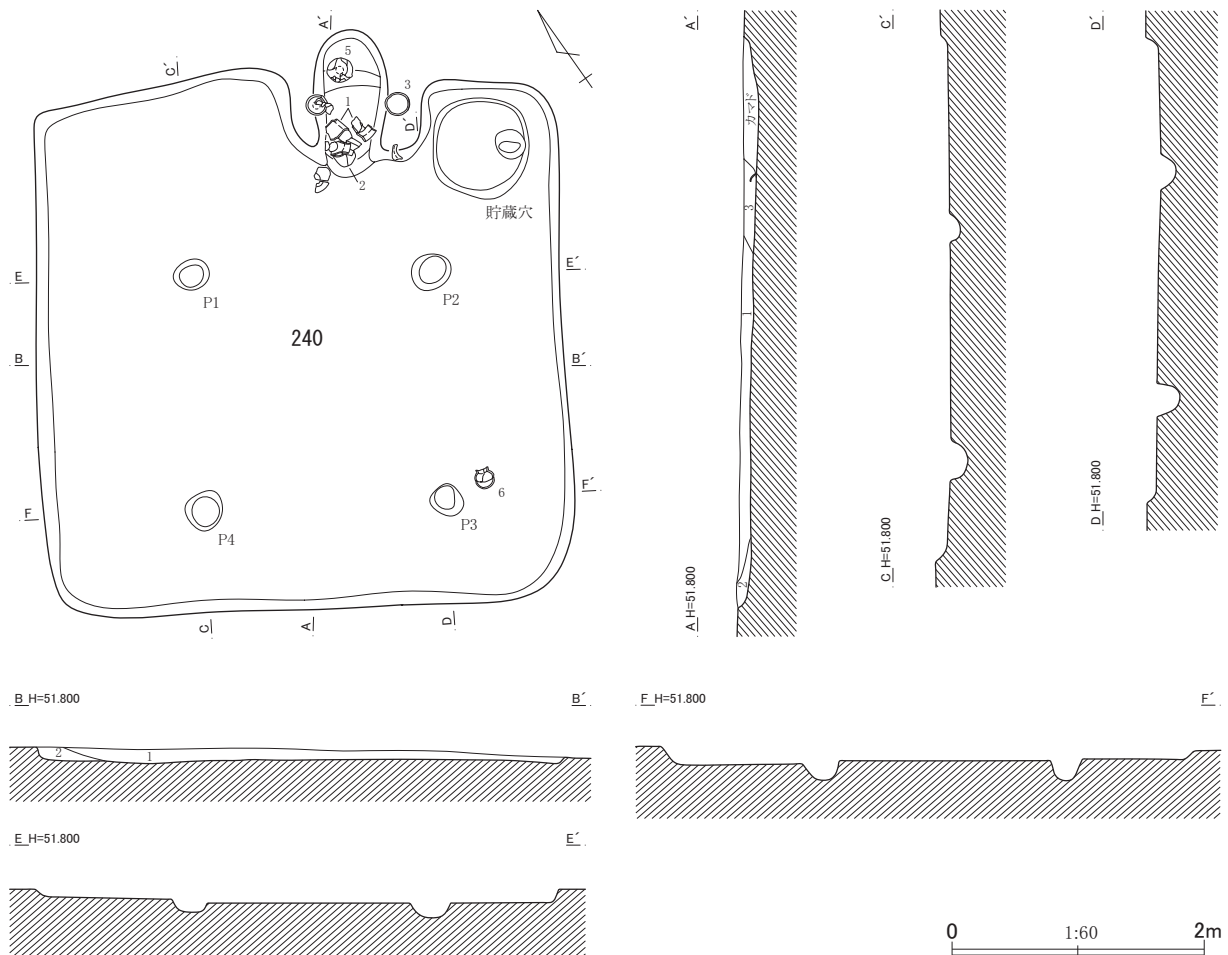
第240号住居跡（第505～507図、第235表、図版58・166）

調査地点の北西部の中央、北東寄り、Q9、R8・9グリッドに位置し、B群に含まれる住居跡である。第292・316号住居跡を切って造られている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、方形である。規模は、主軸方向で4.23m、副軸方向で4.19m、主軸方位は、N-59°-Eである。床面はほぼ平坦であるが、硬化は顕著ではない。壁高は、北東壁で6cm、南東壁で5cm、南西壁で9cm、北西壁で10cmである。

P1～P4は、支柱穴である。上端での平面形は、いずれも不整な円形で、深さは、P1が10cm、P2が12cm、P3が17cm、P4が15cmである。カマドの右袖脇のピットは、貯蔵穴であろう。上端での平面形は、微妙に辺のある円形で、最大径は78cmである。盆形に掘り込まれており、南側の壁沿いに小ピット状のくぼみが見られる。最深部での深さは18cmである。覆土は2層で、第2層には、ローム小塊の混入が目立つようである。

カマドは、北東壁の中央、東隅に偏した位置に付設されている。低平な両袖に挟まれた楕円形の燃



第240号住居跡土層説明

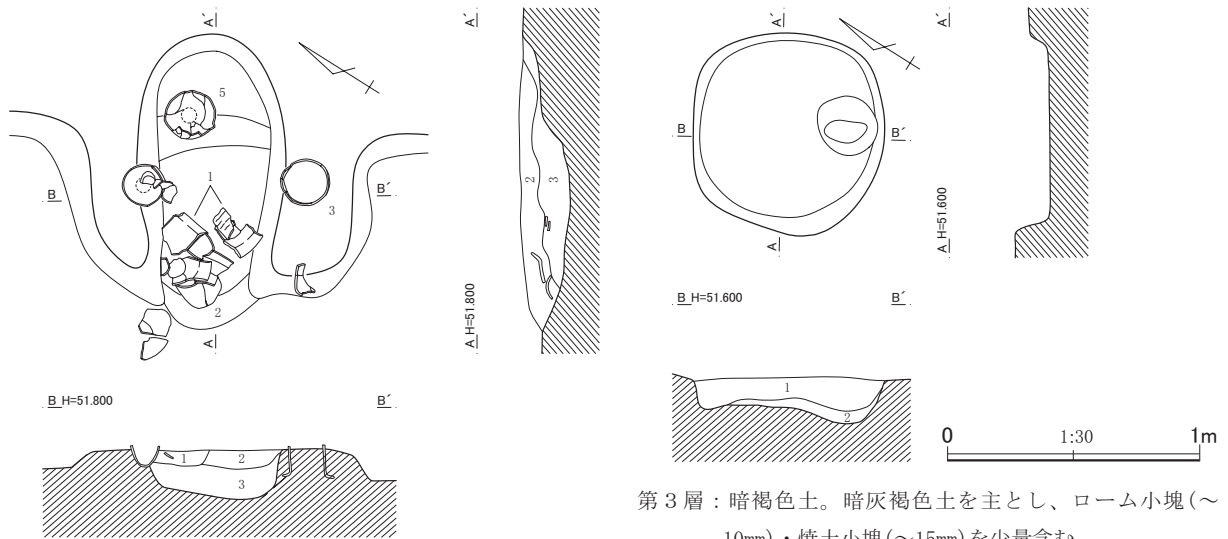
第1層：暗褐色土。ローム小塊（～15mm）・焼土粒（～8mm）を少量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒（～7mm）を少量含み、焼土粒（～

5mm）を微量含む。

第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～8mm）を少量含み、焼土粒（～8mm）を中量含む。

第505図 第240号住居跡平面・断面図（1）



第3層：暗褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム小塊（～10mm）・焼土小塊（～15mm）を少量含む。

第240号住居跡カマド土層説明

第1層：赤褐色土。暗灰褐色土を主とし、焼土粒（～8mm）を多量に含む。

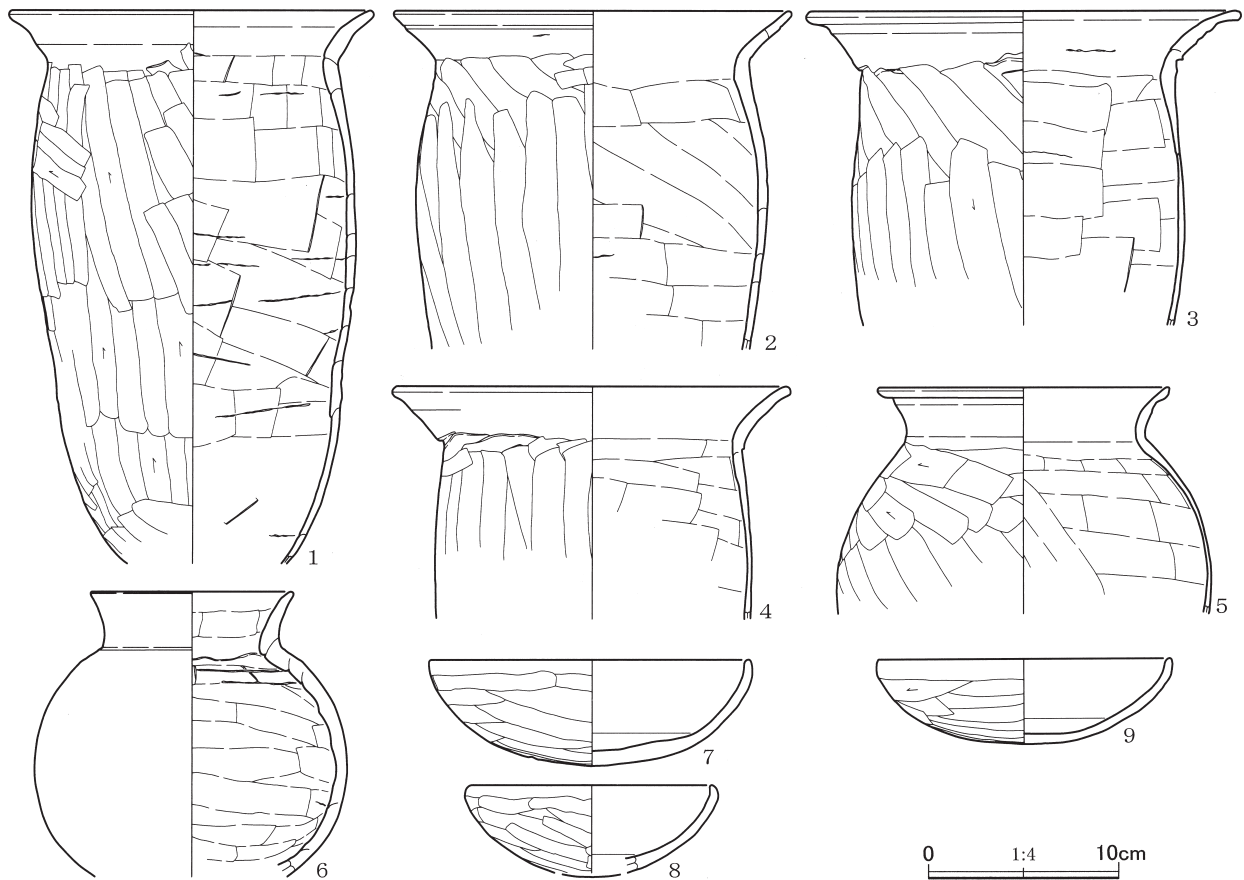
第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・焼土粒（～5mm）を少量含む。

第240号住居跡貯蔵穴土層説明

第1層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊（～10mm）を少量含み、焼土粒（～8mm）を微量含む。

第2層：暗褐色土。ローム小塊（～30mm）を中量含む。

第506図 第240号住居跡平面・断面図（2）



第507図 第240号住居跡出土遺物

C地点

第235表 第240号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 19.8 底径 — 器高 [30.5]	口縁部は外反する。胴部は膨らみをもたない。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—橙色	口縁部～胴部 2/3残存
2	甕	口径 (22.0) 底径 — 器高 [18.5]	口縁部は外反する。胴部は上位にわずかな膨らみをもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒・褐色粒 内外—橙色	口縁部～胴部 上半1/3残存
3	甕	口径 24.0 底径 — 器高 [17.8]	口縁部は強く外反する。胴部は膨らみをもたない。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒・褐色粒 内外—橙色	口縁部～胴部 上半3/4残存
4	甕	口径 21.5 底径 — 器高 [12.8]	口縁部は外反する。胴部は膨らみをもたない。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—橙色	口縁部～胴部 上位
5	甕	口径 15.1 底径 — 器高 [12.4]	口縁部は直立し、上位で外反する。胴部は中位が張る。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—橙色	口縁部～胴部 上半3/4残存
6	壺	口径 (11.0) 底径 — 器高 [15.6]	口縁部は外反気味に立ち上がる。胴部は中位が張る。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部磨耗。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	片岩・石英・白色粒・褐色粒 内外—明赤褐色	口縁部～胴部 1/3残存
7	坏	口径 17.5 底径 — 器高 5.8	丸底。体部は彎曲し、口縁部は短く内彎する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 内外—橙色	口縁部1/5欠損
8	坏	口径 (16.0) 底径 — 器高 4.7	丸底。体部は彎曲し、口縁部は短く直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—明赤褐色	1/3残存
9	坏	口径 (13.4) 底径 — 器高 [4.8]	丸底。体部は彎曲し、口縁部は短く内屈する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—橙色	1/4残存

焼部が残存する。焼部の長さは116cm、横幅は59cmである。焼面は、中央が深く、奥壁側が1段高くなっている。全体に赤化の痕跡は顕著ではない。カマドの覆土は3層で、第1層には、焼土の粒が多量に混入しており、天井部や側壁などの崩落土の一部が含まれるようである。第507図3の甕は、右袖甕である。5の甕は、カマド内の奥壁寄りの位置から倒置した状態で、1・2の甕は、焚口付近から破片がまとまった状態で出土している。

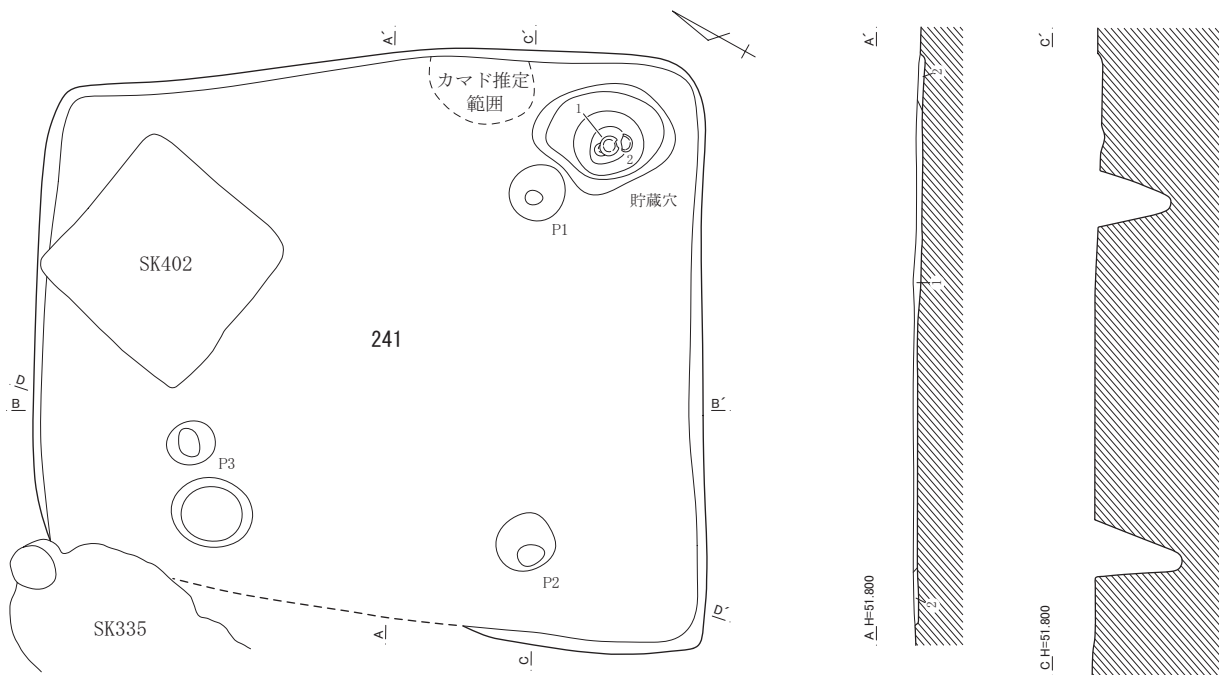
6の壺は、P3脇の床面よりわずかに浮いた位置から出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末期後葉の遺構と考えられる。

第241号住居跡（第508・509図、第236表、図版59・166）

調査地点北西部の中央、東寄り、Q9・10、R9グリッドに位置し、B群に含まれる住居跡である。第300号住居跡を切り、第335・402号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。また、第242号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

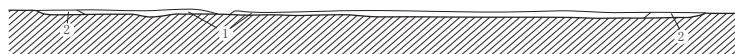
平面形は、横長の長方形と見てよいが、かなり歪になりそうである。規模は、主軸方向で4.68m、副軸方向で5.30m、主軸方位は、N-60°-Eである。床面には微妙な凹凸が見られるが、ほぼ平坦である。中央から南西壁にかけて、床面は、軽微ではあるが、硬化している。壁高は、最も残りのよい北東壁でも4、5cmである。

P1～P3は、主柱穴であろう。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形で、深さは、P1が58cm、P2が70cm、P3が39cmである。他にP3の西脇にもピットがあるが、深さが21cmと浅く、東隅近くのピット、あるいは土坑は、貯蔵穴であろう。上端での平面形は、かなり不整な楕円形で、長径112cm、短径88cmである。中段に平場を有し、中央が円形に深く掘り込まれている。最深部での深さは、



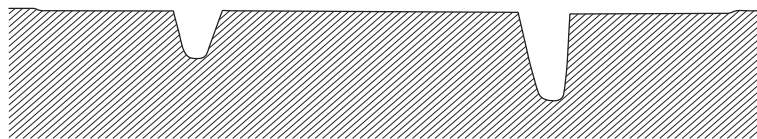
B_H=51.800

B'



D_H=51.800

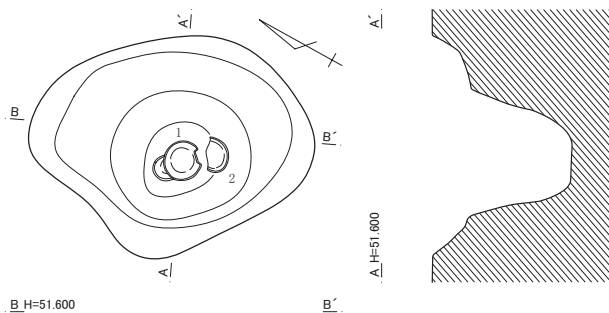
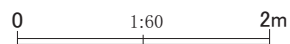
D'



第241号住居跡土層説明

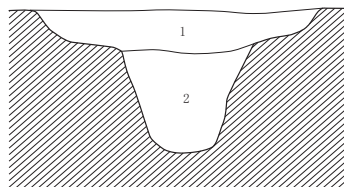
第1層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を中量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含む。

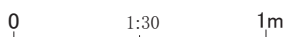


B_H=51.600

B'



A_H=51.600



第241号住居跡貯蔵穴土層説明

第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～7mm)を少量含み、粘土小塊(～15mm)を中量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒(～7mm)・粘土小塊(～20mm)を少量含み、焼土小塊(～20mm)を中量含む。

第508図 第241号住居跡平面・断面図

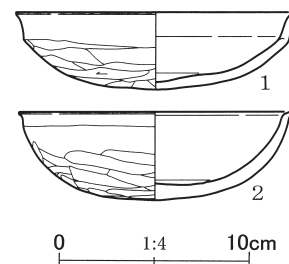
57cmである。覆土は2層に分けられた。第1層には粘土小塊が、第2層には焼土小塊がかなりの量混入している。

第236表 第241号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 15.5 底径 — 器高 4.2	丸底。体部は浅く彎曲し、口縁部は外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒・褐色粒 外—明赤褐色 内—橙色	完形
2	坏	口径 15.0 底径 — 器高 4.8	丸底。体部は彎曲し、口縁部は短く外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部上位ナデ。体部下位～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黑色粒・褐色粒 内外—橙色	2/3残存

北東壁の中央、東隅に偏した位置で、カマドの痕跡と思われる焼土あるいは焼粘土の分布を確認している。覆土の残存状態から判断して、袖を含むカマド全体が削平されてしまったのであろう。

第509図1・2の坏2個体は、貯蔵穴の中ほどの高さからまともに出土した。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期後葉前半頃の遺構であろうか。

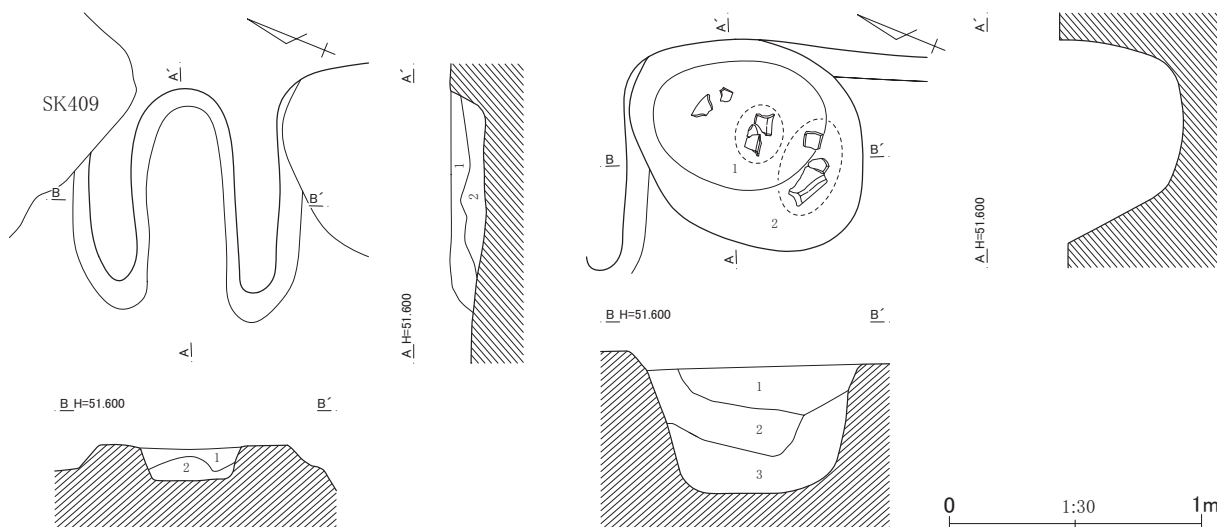


第509図 第241号住居跡出土遺物

第242号住居跡 (第510～512図、第237表、図版59・167)

調査地点の中央、北寄り、Q9・10、R9・10グリッドに位置し、B群に含まれる住居跡である。第299・300号住居跡を切り、第321・404・409号土坑に切られ、北西隅周辺、東壁の一部などを壊されている。また、第241・265号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、横長の長方形である。規模は、主軸方向で4.61m、副軸方向で6.38m、主軸方位は、N-70°-Eである。床面にはやや凹凸が目立つが、全体的に平坦である。支柱穴を結ぶ範囲からカマ



第242号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)を少量含み、焼土粒(～2mm)を中量、粘土粒(～1mm)を多量に含む。粘性はやや強い。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・ローム小塊(～10mm)・粘土粒(～1mm)を少量含む。粘性はやや強い。

第242号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～8mm)を中量含み、焼土粒(～8mm)を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)を少量含み、焼土粒(～5mm)を微量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)を微量含む。

第510図 第242号住居跡平面・断面図(1)

ド前面にかけての床面は、明瞭に硬化している。壁高は、東・南壁で8cm、西・北壁で5cmである。

P1～P4は、支柱穴であろう。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形で、深さは、P1が24cm、P2が15cm、P3が16cm、P4が14cmである。カマド右袖に接するピットは、貯蔵穴であろう。上端での平面形は、やや不整な楕円形で、長径102cm、短径80cmである。バケツ形に掘り込まれており、深さは50cmである。

カマドは、東壁の中央に付設されている。細長い袖に挟まれた燃烧部が残存する。燃烧面は、浅く掘りくぼめ造作されており、奥壁は、住居跡の壁内側にとどまっている。袖端を前端とすると、燃烧



第242号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～4mm)を微量含む。

第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を多量に含み、ローム小塊(～10mm)を中量含む。

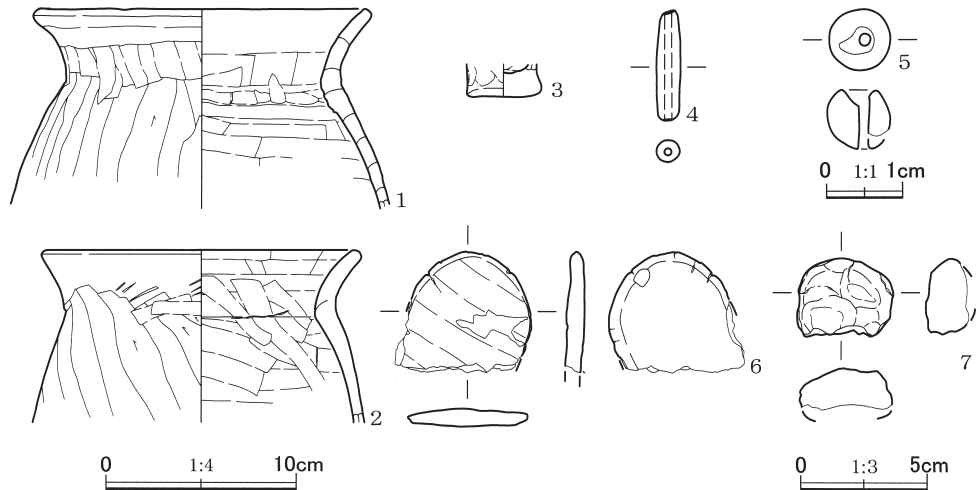
第3層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・粘土粒(～1mm)を中量含み、ローム粒(～8mm)・粘土小塊(～10mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。粘性はやや強い。

第511図 第242号住居跡平面・断面図(2)

C地点

部の長さは90cm、横幅は40cmである。側壁、燃焼面は、それほど赤化していないが、被熱により硬化している。カマド覆土は2層で、第1層には、焼土粒が含まれる。

第512図 1・2の甕は、貯蔵穴の覆土中層から破片化して出土した。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末期前葉の遺構と考えられる。



第512図 第242号住居跡出土遺物

第237表 第242号住居跡出土遺物観察表

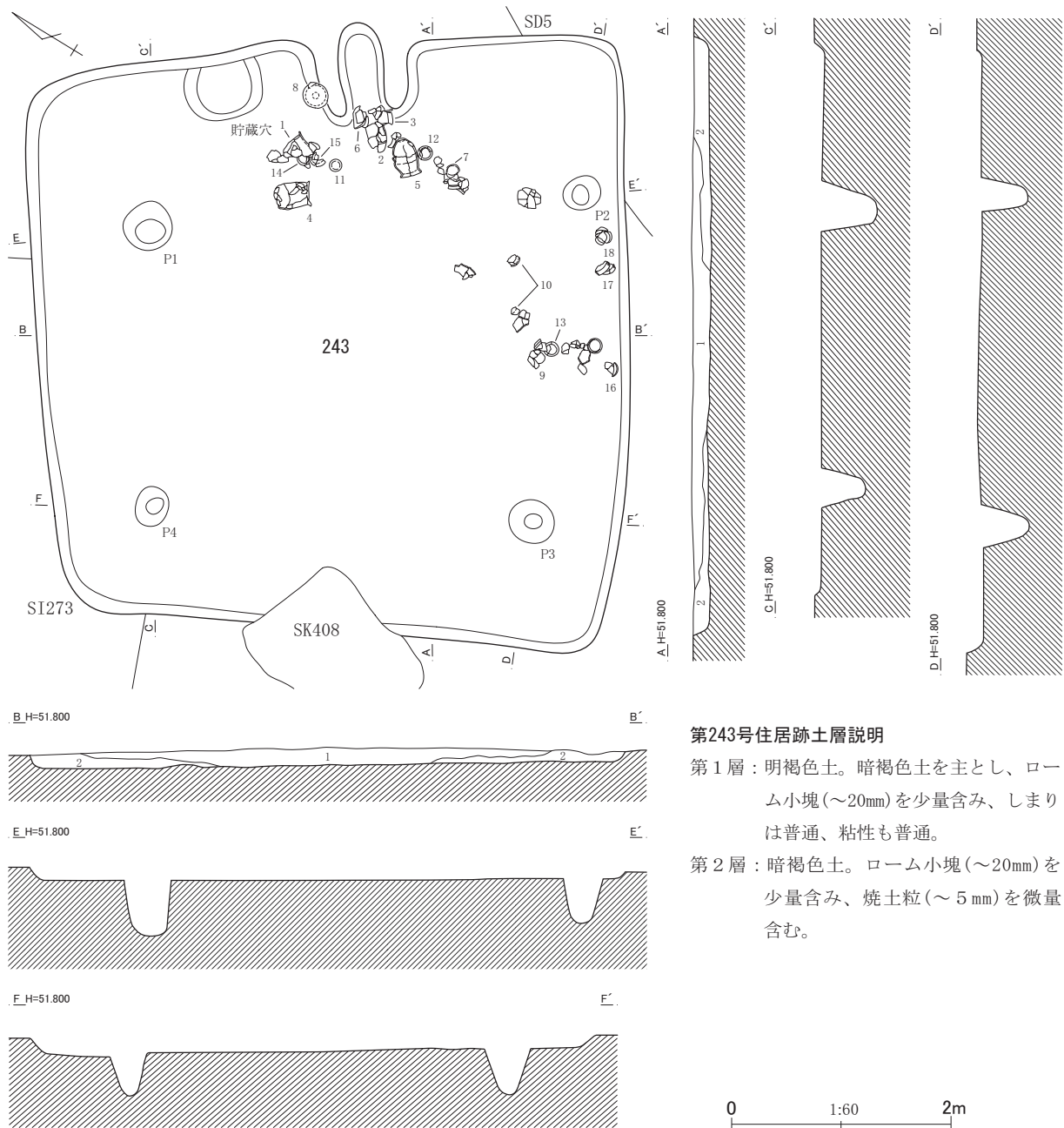
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 18.6 底径 — 器高 [10.9]	口縁部は外反する。胴部は膨らみをもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。頸部ヘラナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—橙色	口縁部～胴部上位
2	甕	口径 16.9 底径 — 器高 9.5	口縁部は外反する。胴部は膨らみをもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—灰黄褐色	口縁部～胴部2/3残存
3	手捏ね土器	口径 — 底径 4.1 器高 [1.8]	平底。底部の器厚は厚い。手捏ね成形。	外面—体部～底部ナデ。内面—体部～底部ナデ。	白色粒 内外—明赤褐色	底部
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
4	土錘	長さ4.5、幅1.0、厚さ0.9、重さ4.83g。胎土：白色粒。色調：にぶい黄橙色。				完形
5	土玉	長さ0.8、幅0.8、孔径0.15×0.15、厚さ0.8、重さ[0.57]g。胎土：白色粒。色調：にぶい橙色。調整：ナデ。				一部欠損
6	土製品不明品	長さ[4.9]、幅[5.7]、厚さ0.7、重さ[21.98]g。胎土：白色粒。色調：にぶい橙色。調整：ナデ。				端部欠損
7	土製品不明品	長さ[3.2]、幅3.9、厚さ[1.8]、重さ[23.01]g。胎土：白色粒。色調：にぶい褐色。調整：ナデ。				1/2残存

第243号住居跡 (第513～515図、第238・239表、図版60・167・168)

調査地点の北西部の中央、北縁近く、Q7・8グリッドに位置し、B群に含まれる住居跡である。第293号住居跡を切り、第273号住居跡、第408号土坑、第5号溝跡に切られ、遺構の一部を壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、かなり歪ではあるが、方形と見てよいであろう。規模は、主軸方向で5.43m、副軸方向で5.42m、主軸方位は、N-45°-Eである。床面はほぼ平坦で、支柱穴を結ぶ範囲の大半、カマド前面は、硬化している。壁高は、北東壁で12cm、南東壁で10cm、南西壁で15cm、北西壁で11cmである。

位置的に変則的ではあるが、P1～P4は、支柱穴であろう。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形で、深さは、P1・P4が43cm、P2が52cm、P3が40cmである。カマド脇の北東壁沿いのピットは、貯蔵穴であろう。上端での平面形は、半円形に近い形で、北西-南東方向での径は71cm、



第243号住居跡土層説明

第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊（～20mm）を少量含み、しまりは普通、粘性も普通。

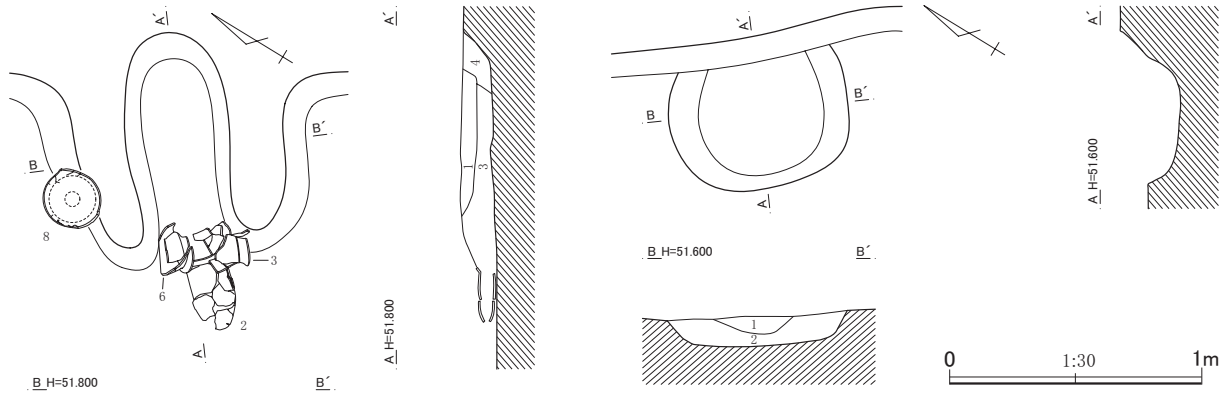
第2層：暗褐色土。ローム小塊（～20mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第513図 第243号住居跡平面・断面図（1）

北東—南西方向での長さは50cmである。盆形に掘り込まれており、深さは13cmである。

カマドは北東壁のほぼ中央に付設されている。両袖に挟まれた燃焼部のみ残存する。燃焼面は、ほぼ床面と同じ高さで、微妙に凸凹している。袖端を前端とすると、燃焼部の長さは91cm、横幅は41cmである。側壁、燃焼面の一部は、被熱赤化している。第515図8の大型の鉢は、左袖に半ば埋め込まれた状態で、2・3・6の甕3個体は、焚口に押し込められたように折り重なって出土している。カマド覆土は4層で、焼土小塊の混入が顕著な第2・4層には、天井部や側壁の崩落土の一部が含まれるようである。

第515図1・4の甕、11・14・15の坏は、カマド左袖の手前から、5の甕、7の小型甕、12の坏は、右袖の手前から、10・13・16～18の坏5個体は、南東壁近くから出土している。カマドの焚口以外



第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～8mm）・焼土粒（～7mm）を少量含む。

第4層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～5mm）を少量含む、焼土小塊（～15mm）を中量含む。

第243号住居跡カマド土層説明

第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～5mm）を少量含む。

第2層：赤褐色土。焼土粒（～5mm）を少量含む、焼土小塊（～10mm）を中量含む。粘性は弱い。

第243号住居跡貯蔵穴土層説明

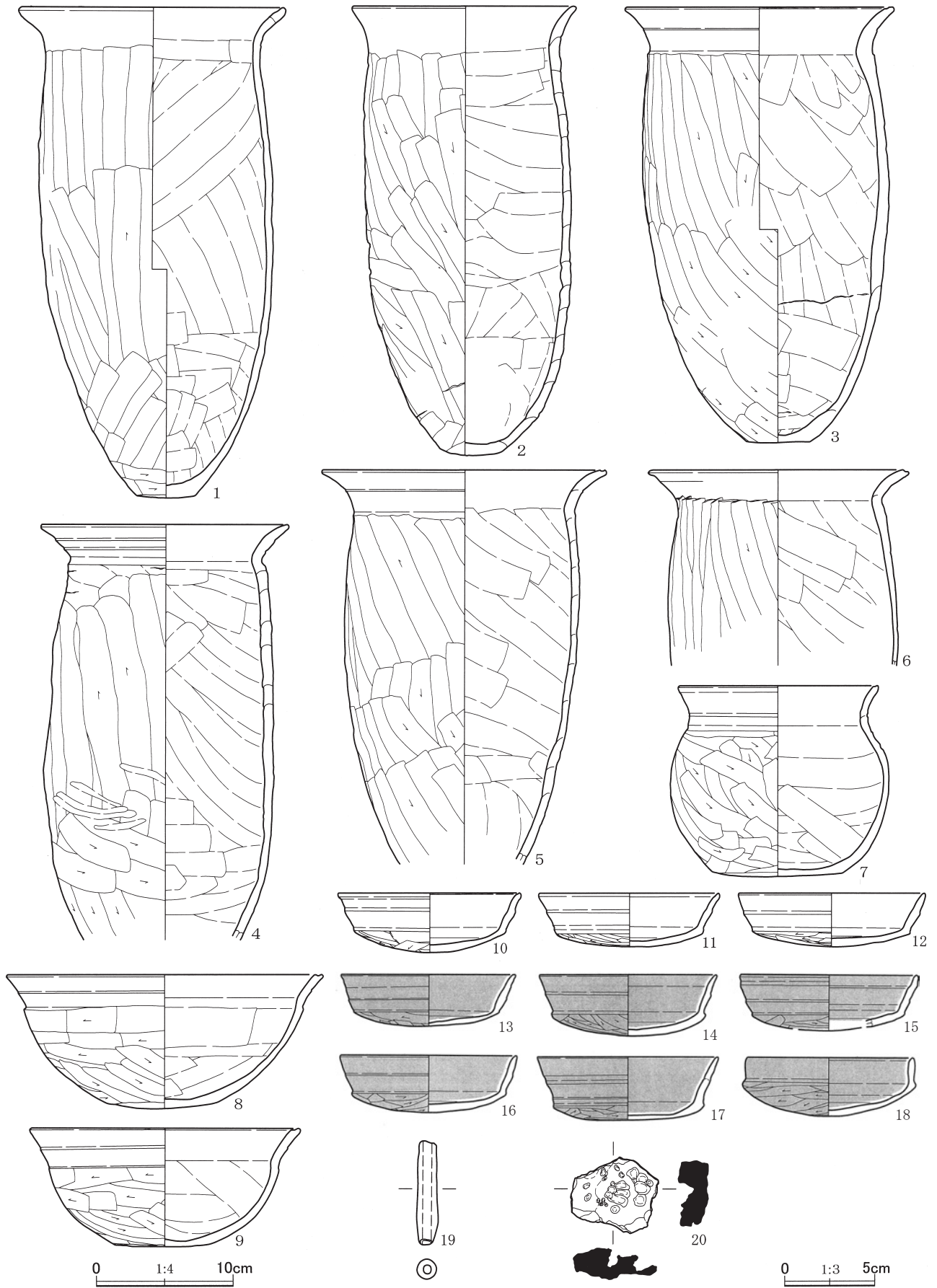
第1層：暗褐色土。ローム粒（～8mm）を少量含む、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒（～10mm）を中量含む。

第514図 第243号住居跡平面・断面図（2）

第238表 第243号住居跡出土遺物観察表（1）

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 19.9 底径 4.4 器高 35.5	口縁部は外反する。胴部は膨らみをもたない。丸みを帯びた平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒・褐色粒 内外－橙色	3/4残存
2	甕	口径 16.9 底径 4.0 器高 32.4	口縁部は外反する。胴部は膨らみをもたない。丸みを帯びた平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	片岩・石英・白色粒・黒色粒 内外－橙色	一部欠損
3	甕	口径 (20.7) 底径 (4.9) 器高 31.4	口縁部は外反し、中位に弱い段を有する。口唇部は内側に凹線がめぐる。胴部は膨らみをもたない。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。底部ヘラナデ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒・褐色粒 内外－明赤褐色	1/2残存
4	甕	口径 18.6 底径 — 器高 [31.8]	口縁部は外反し、弱い段を2条有する。胴部は膨らみをもたない。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒・褐色粒 内外－浅黄橙色	口縁部～胴部 3/4残存
5	甕	口径 (21.5) 底径 — 器高 [30.1]	口縁部は外反する。口唇部は内側に凹線がめぐる。胴部は膨らみをもたない。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 外－にぶい橙色 内－橙色	口縁部～胴部 1/3残存
6	甕	口径 19.2 底径 — 器高 [14.8]	口縁部は外反する。口唇部は内側に凹線がめぐる。胴部は膨らみをもたない。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	片岩・石英・白色粒・黒色粒 内外－明赤褐色	口縁部～胴部 上半3/4残存
7	小型甕	口径 15.1 底径 9.9 器高 13.7	口縁部は外反し、中位に凹線がめぐる。胴部は中位に膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	片岩・石英・白色粒・褐色粒 内外－橙色	一部欠損
8	大型鉢	口径 (24.0) 底径 — 器高 10.2	丸底。体部は彎曲する。口縁部は外傾し、中位に弱い段を有する。口唇部に凹線がめぐる。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外－橙色	口縁部5/6欠損



第515图 第243号住居跡出土遺物

C地点

第239表 第243号住居跡出土遺物観察表(2)

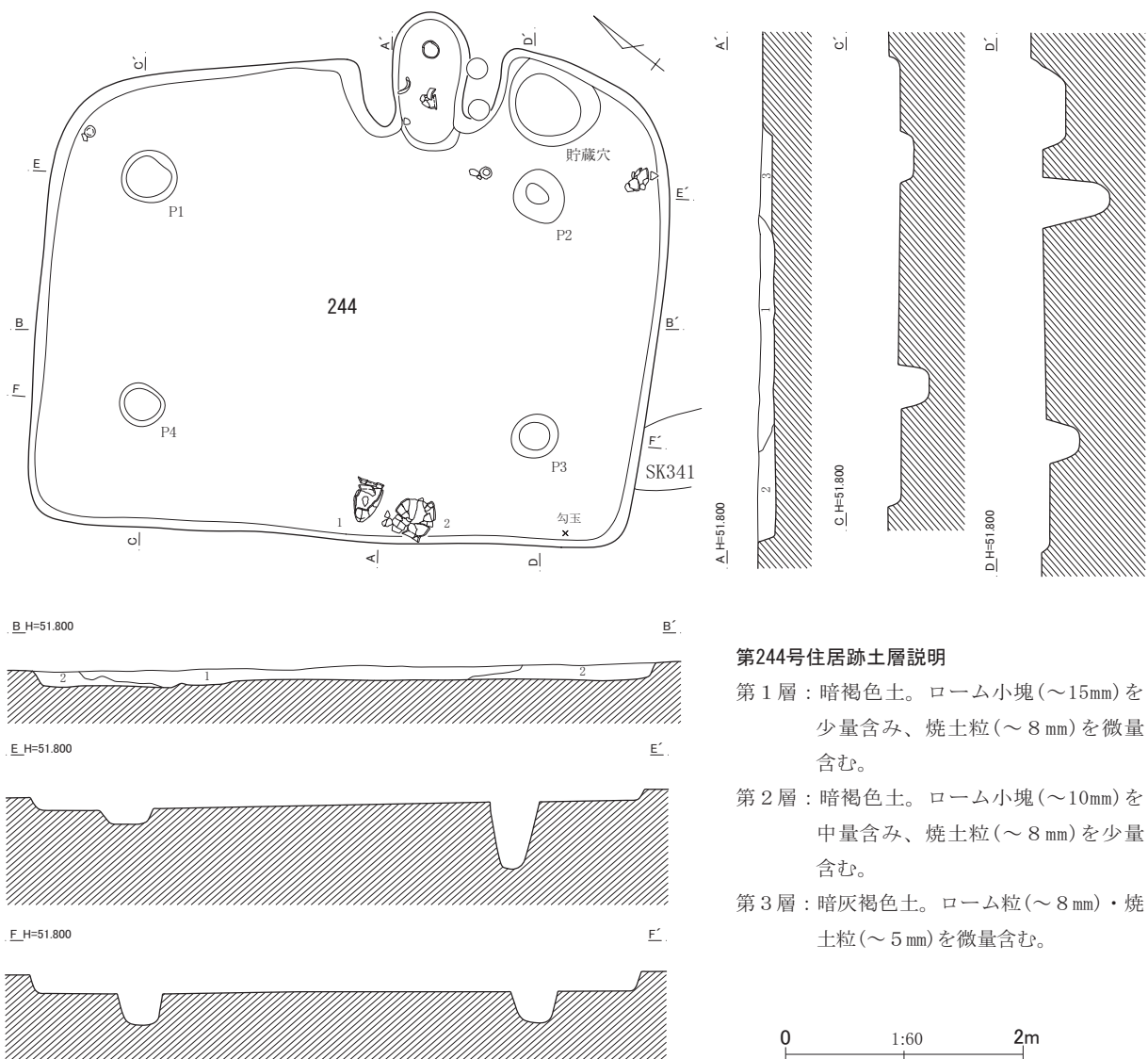
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
9	大型鉢	口径 20.5 底径 7.2 器高 9.0	平底。体部は彎曲する。口縁部は外傾し、中位に弱い段を有する。口唇部に凹線がめぐる。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外-明赤褐色	一部欠損
10	坏	口径 13.9 底径 — 器高 4.6	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外反し、中位に段を有する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部~体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外-橙色	口縁部1/3欠損
11	坏	口径 13.7 底径 — 器高 4.1	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外反し、中位に段を有する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部~体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒 内外-橙色	ほぼ完形
12	坏	口径 14.2 底径 — 器高 4.1	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外反し、中位に段を有する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部~体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒 外-にぶい橙色 内-橙色	ほぼ完形 内外面ともに 黒色処理の可能性
13	坏	口径 13.3 底径 — 器高 3.9	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外反し、中位に弱い段を有する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラケズリ。黒色処理。内面-口縁部~体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。黒色処理。	白色粒 外-オリーブ黒色 内-にぶい褐色	ほぼ完形
14	坏	口径 13.5 底径 — 器高 4.6	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外傾し、中位に段を有する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラケズリ。黒色処理。内面-口縁部~体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。黒色処理。	石英・白色粒 外-灰褐色 内-黒褐色	ほぼ完形
15	坏	口径 13.5 底径 — 器高 [4.1]	口縁部は体部との境に稜をもって外傾し、中位に段を有する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。黒色処理。内面-口縁部~体部ヨコナデ。黒色処理。	石英・白色粒・褐色粒 外-褐灰色 内-黒色	底部欠損
16	坏	口径 13.4 底径 — 器高 4.4	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外傾し、中位に段を有する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラケズリ。黒色処理。内面-口縁部~体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。黒色処理。	石英・白色粒・黒色粒 内外-褐灰色	口縁部1/3欠損
17	坏	口径 13.8 底径 — 器高 4.8	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外傾し、段を2段有する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラケズリ。黒色処理。内面-口縁部~体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。黒色処理。	石英・白色粒 内外-黒褐色	口縁部1/5欠損
18	坏	口径 12.6 底径 — 器高 4.5	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって内傾する。口唇部は内側に面をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラケズリ。黒色処理。内面-口縁部~体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。黒色処理。	石英・白色粒 内外-黒褐色	口縁部1/3欠損
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
19	土錘	長さ5.9、幅1.3、厚さ1.2、重さ8.48g。胎土：白色粒。色調：明褐色。				完形
20	鉄滓	長さ4.3、幅5.0、厚さ1.7、重さ53.27g。				完形

から出土した土器は、いずれも下層から床面直上にかけての層準から出土している。また、カマド内からかなり大きな軽石が1点、右袖脇から軽石2点、楕円礫2点が出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期後葉後半の遺構と考えられる。

第244号住居跡(第516~518図、第240表、図版61・168)

調査地点の北西部の中央、北西寄り、P8グリッドに位置し、A群に含まれる住居跡である。第267・289号住居跡を切っており、第341号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、横長の長方形に近いが、奥壁は丸みがあり、また、北隅、東隅も、「隅丸」に近い形態である。規模は、主軸方向で4.20m、副軸方向で5.23mである。主軸方位は、N-60°-Eである。床面は、微妙に凸凹しており、中央、カマド前面の床面は、軽微ではあるが、硬化している。壁高は、北東壁



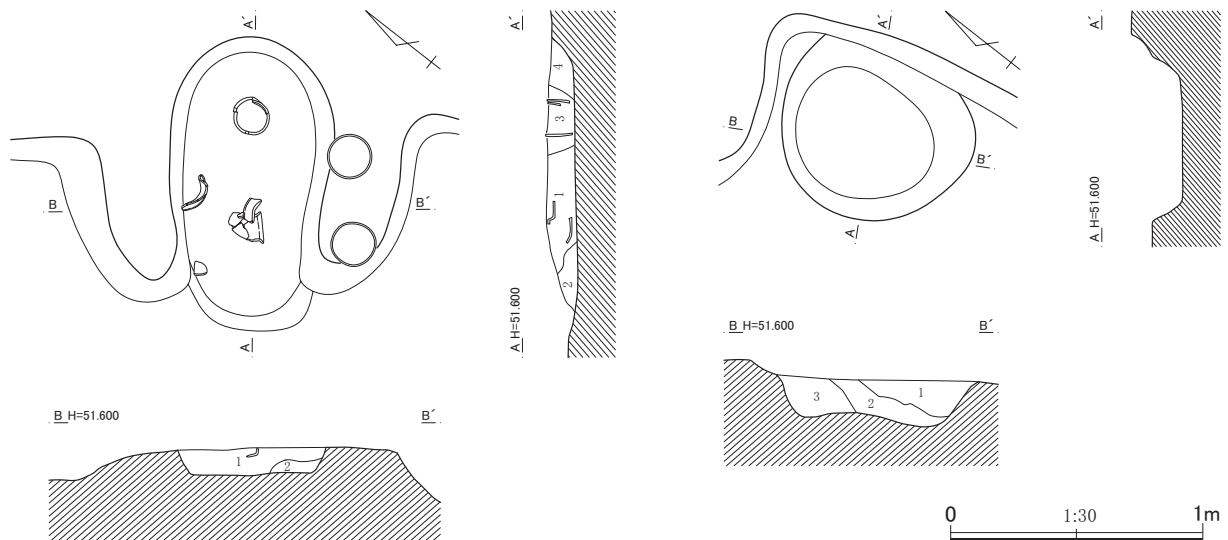
第516図 第244号住居跡平面・断面図（1）

で4cm、南東・北西壁で12cm、南西壁で15cmである。

P1～P4は、支柱穴であろう。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形で、深さは、P1が15cm、P2が58cm、P3・P4が28cmである。カマドの右袖脇のピットは、貯蔵穴であろう。上端での平面形は、やや不整な円形で、最大径は78cmである。盆形に掘り込まれており、凹凸が目立つ。最深部での深さは18cmである。

カマドは北東壁の中央、やや東隅に偏した位置に付設されている。両袖に挟まれた楕円形の燃焼部が残存する。燃焼面は、楕円形に近い平面形で、浅く掘りくぼめ造作されている。燃焼部の長さは117cm、横幅は64cmである。被熱赤化の痕跡は顕著ではない。カマド覆土は4層で、粘土小塊の目立つ第1層は、天井部や側壁の崩落土の一部を含む土層である。胴部片や残存率の低い破片のため図化していないが、2個体の甕胴部片が袖甕として右袖に埋め込まれていた。他にカマド内より甕の口縁部片や胴部片が出土している。

第518図1・2の甕2個体は、南西壁際中央の床面よりやや浮いた位置から出土している。8の滑



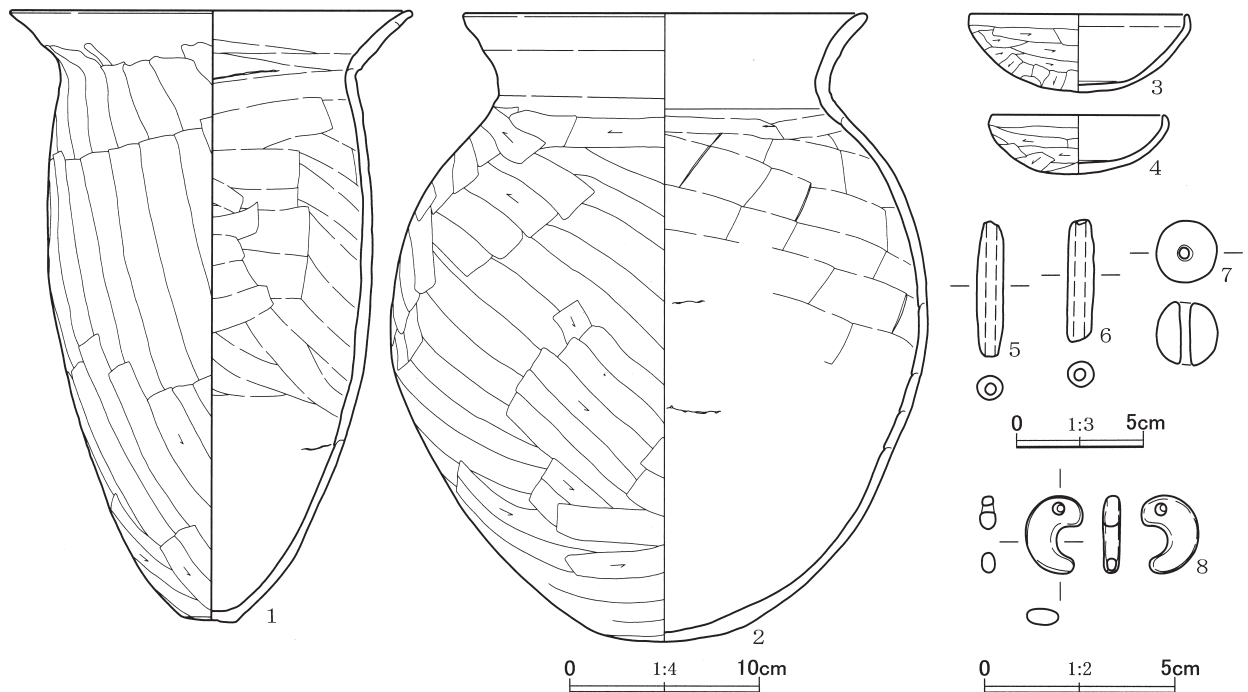
第244号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土小塊(～20mm)を中量含み、焼土粒(～8mm)を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。粘土小塊(～10mm)を少量含み、焼土粒(～8mm)を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、炭化物粒(～5mm)を微量含み、焼土粒(～5mm)を少量含む。

第244号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)を少量含み、焼土粒(～8mm)を微量含む。
- 第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～8mm)を中量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム小塊(～15mm)を少量含み、焼土粒(～8mm)を微量含む。

第517図 第244号住居跡平面・断面図(2)



第518図 第244号住居跡出土遺物

石製の勾玉は、南隅近くの床面直上から出土した。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末期後葉の遺構と考えられる。

第240表 第244号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 21.8 底径 2.9 器高 31.6	口縁部は外傾する。胴部は膨らみをもたない。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	石英・角閃石・白色粒 内外－橙色	口縁部～胴部上半1/4欠損
2	壺	口径 (22.0) 底径 — 器高 32.6	口縁部は外反する。胴部は中に膨らみをもつ。丸底。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒・金雲母、内外－橙色	2/3残存
3	坏	口径 11.9 底径 — 器高 4.3	丸底。体部は彎曲する。口縁部は短く内屈する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒 内外－橙色	ほぼ完形
4	坏	口径 9.5 底径 — 器高 3.2	丸底。体部は彎曲する。口縁部は短く内彎する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外－橙色	口縁部1/3欠損
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
5	土錘	長さ5.5、幅1.1、厚さ1.0、重さ6.50g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：灰黄色。				完形
6	土錘	長さ5.0、幅1.1、厚さ1.0、重さ5.70g。胎土：白色粒。色調：灰黄褐色。				完形
7	土玉	長さ2.5、幅2.5、孔径0.65×0.65、厚さ2.6、重さ15.94g。胎土：白色粒。色調：橙色。調整：ナデ。				ほぼ完形
8	石製品 勾玉	長さ2.1、幅1.6、孔径0.25×0.25、厚さ0.5、重さ2.17g。石材：滑石。調整：全体的に丁寧な研磨。				完形

第245号住居跡（第519・520図、図版61）

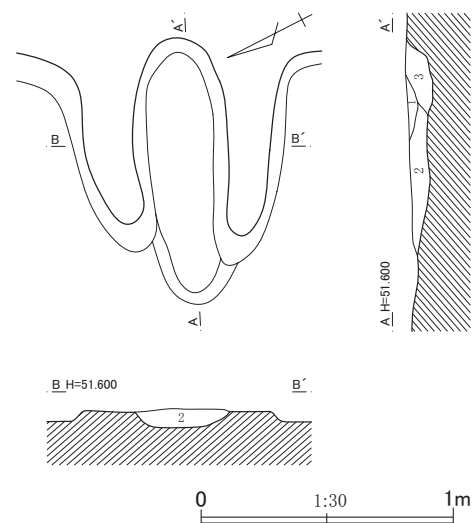
調査地点の北縁近くのほぼ中央、Q8、R7・8グリッドに位置し、B群に含まれる住居跡である。第379・382・393・394号土坑および攪乱に切られ、遺構の一部を壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、方形であるが、南東半は全体に丸みが強い。規模は、主軸方向で6.05m、副軸方向で6.24m、主軸方位は、S-63°-Eである。床面はほぼ平坦で、支柱穴を結ぶ範囲からカマド前面は、硬化している。壁高は、南東壁で5cm、南西壁で2cm、北西・北東壁で1cmである。

P1～P4は、支柱穴であろう。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形、楕円形で、深さは、P1が25cm、P2が38cm、P3が43cm、P4が21cmである。

カマドは、南東壁のほぼ中央に付設されている。両袖に挟まれた長楕円形の燃烧部のみ残存する。燃烧面は、焚口側から奥壁に向かって斜面をなすように掘りくぼめられ作出されており、かなり凸凹している。燃烧部の長さは106cm、横幅は38cmである。被熱赤化の痕跡は、顕著ではない。カマド覆土は3層で、ローム小塊の混入が顕著な第1層には、天井部や側壁の崩落土の一部が含まれるようである。

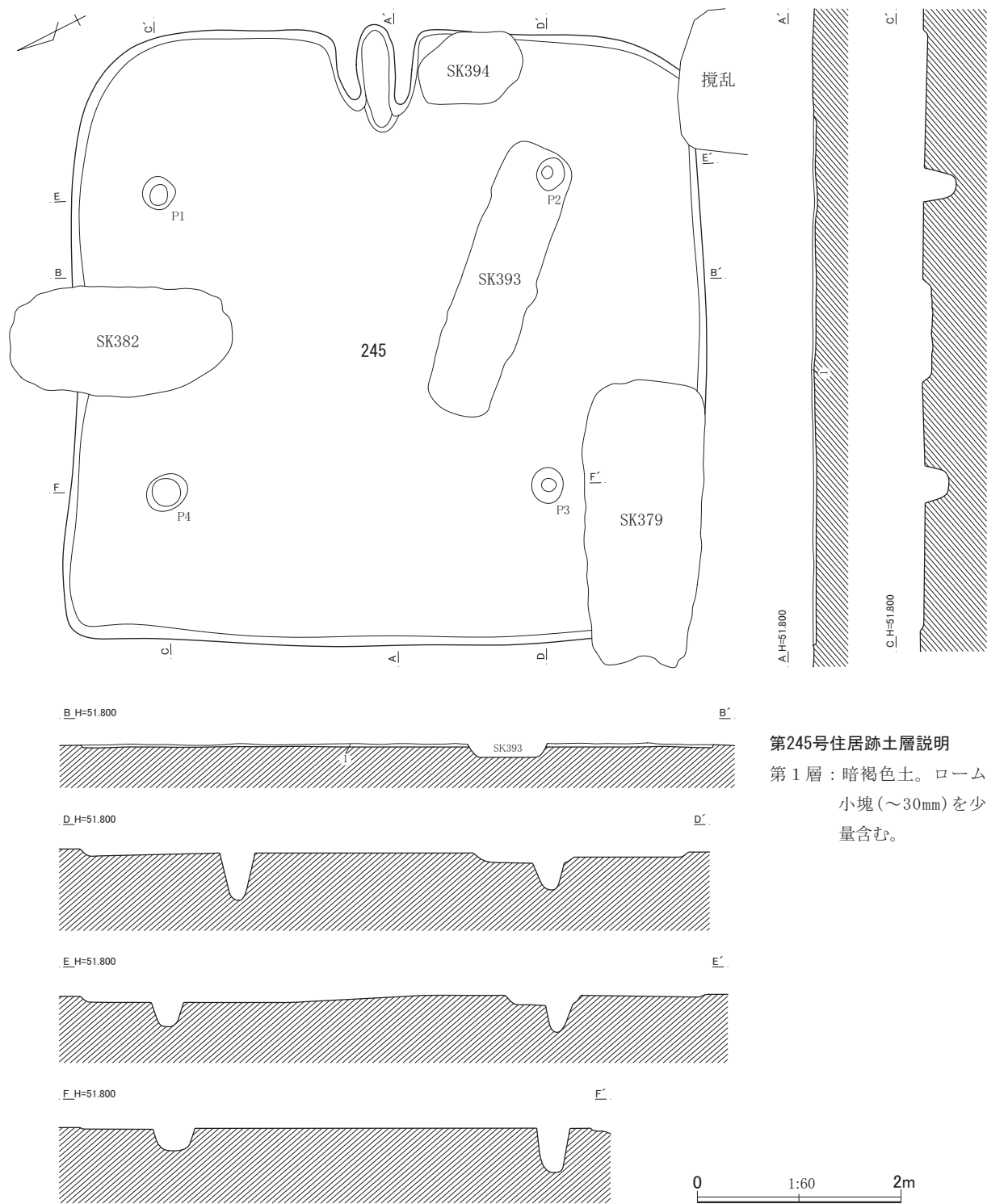
土師器片を主とする遺物が、覆土中から出土している。方形に近い平面形、4本支柱穴、カマドの形態などから見て、古墳時代の遺構と考えられる。



第245号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒(～8mm)を少量含み、焼土粒(～5mm)を中量含む。
- 第2層：明褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム小塊(～15mm)を中量含み、焼土小塊(～10mm)を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒(～8mm)を微量含み、焼土粒(～8mm)を少量含む。

第519図 第245号住居跡平面・断面図(1)

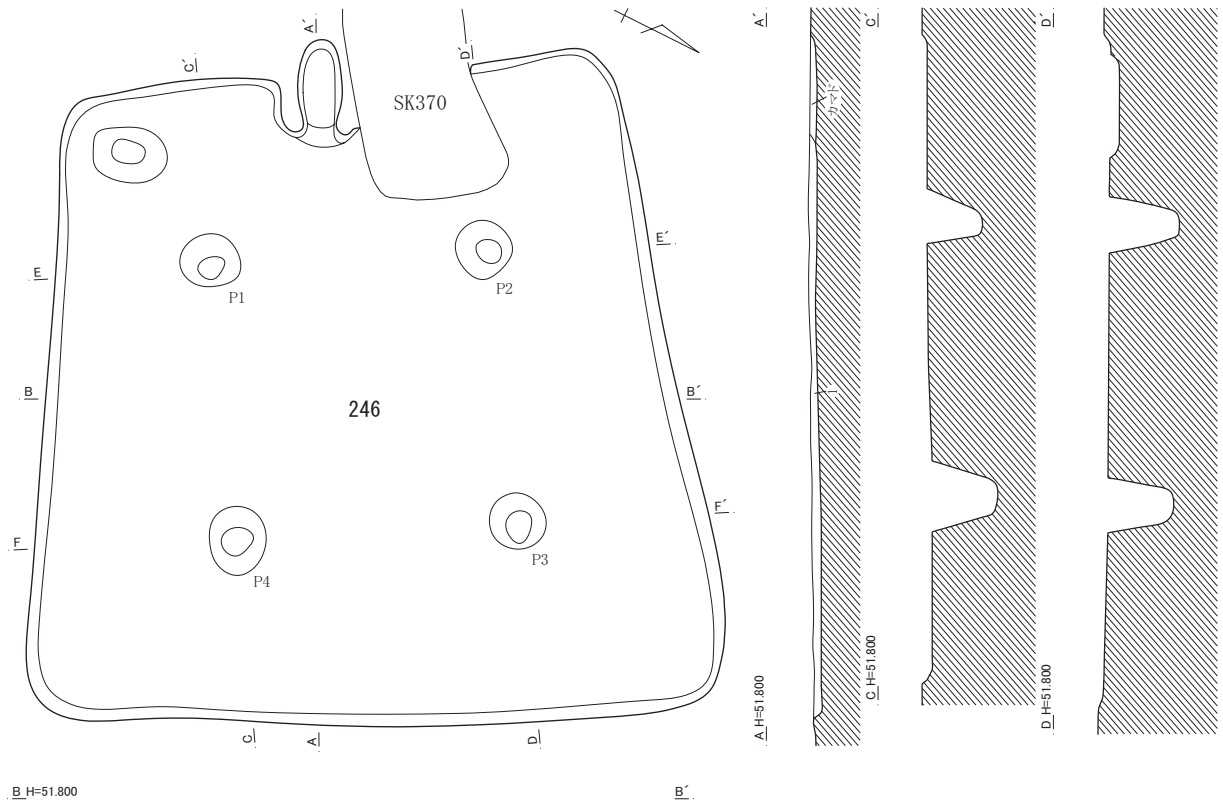


第520図 第245号住居跡平面・断面図（2）

第246号住居跡（第521図、図版61）

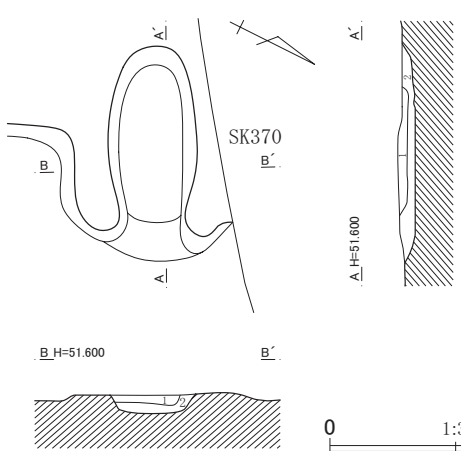
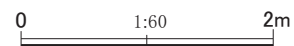
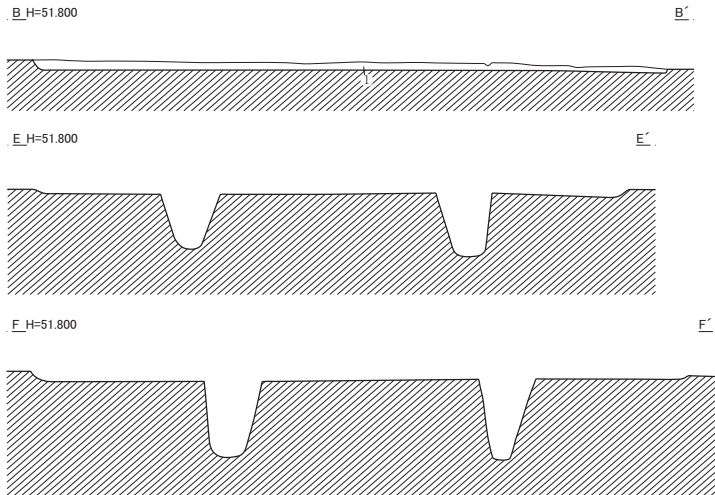
調査地点の北縁近くの北西隅脇、O7、P7グリッドに位置し、A群に含まれる住居跡である。第274・321号住居跡を切っており、第370号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、奥壁と北東壁の長さがかなり異なるため、方形というより台形に近い形態である。規模



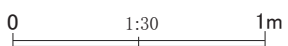
第246号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。暗灰褐色土を主とし、
 ローム小塊(～20mm)・焼土粒(～8mm)を少量含む。



第246号住居跡カマド土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒(～7mm)を微量
 含む、焼土粒(～8mm)を少量含む。
 第2層：暗褐色土。暗灰褐色土を主とし、ロ
 ム粒(～8mm)を少量含む、焼土粒(～
 8mm)を微量含む。



第521図 第246号住居跡平面・断面図

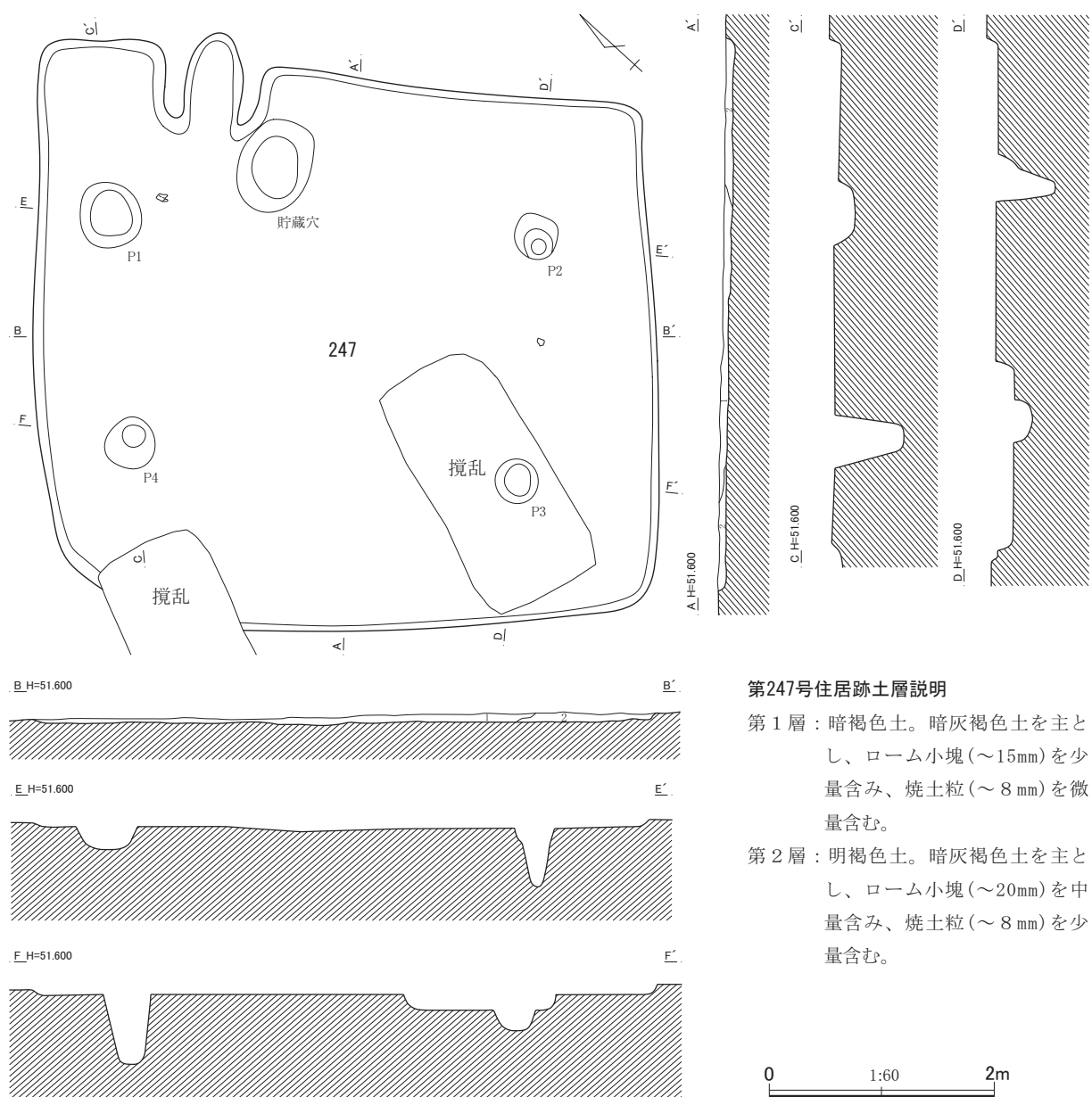
C地点

は、主軸方向で5.11m、副軸方向で5.06m、主軸方位は、S-64°-Wである。床面には微妙な凹凸が見られるが、全体としてはおおむねほぼ平坦である。壁際を除く床面は、所々不規則に硬化している。壁高は、南西・北東壁で6cm、北西壁で2cm、南東壁で8cmである。

P1～P4は、支柱穴であろう。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形で、深さは、P1が44cm、P2が51cm、P3が56cm、P4が52cmである。

カマドは南西壁の中央に付設されている。短小な両袖に挟まれた楕円形の燃焼部が残存する。燃焼面は、楕円形に近い平面形で、浅く掘りくぼめ造作されている。燃焼部の長さは85cm、横幅は36cmである。被熱による赤化は顕著ではないが、奥壁、側壁の上部は、被熱により硬化している。

土師器片を主とする遺物が、覆土中より少量出土している。重複関係から見て、古墳時代後期中葉以降の遺構と考えられる。



第247号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム小塊(～15mm)を少量含み、焼土粒(～8mm)を微量含む。
- 第2層：明褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム小塊(～20mm)を中量含み、焼土粒(～8mm)を少量含む。

第522図 第247号住居跡平面・断面図(1)

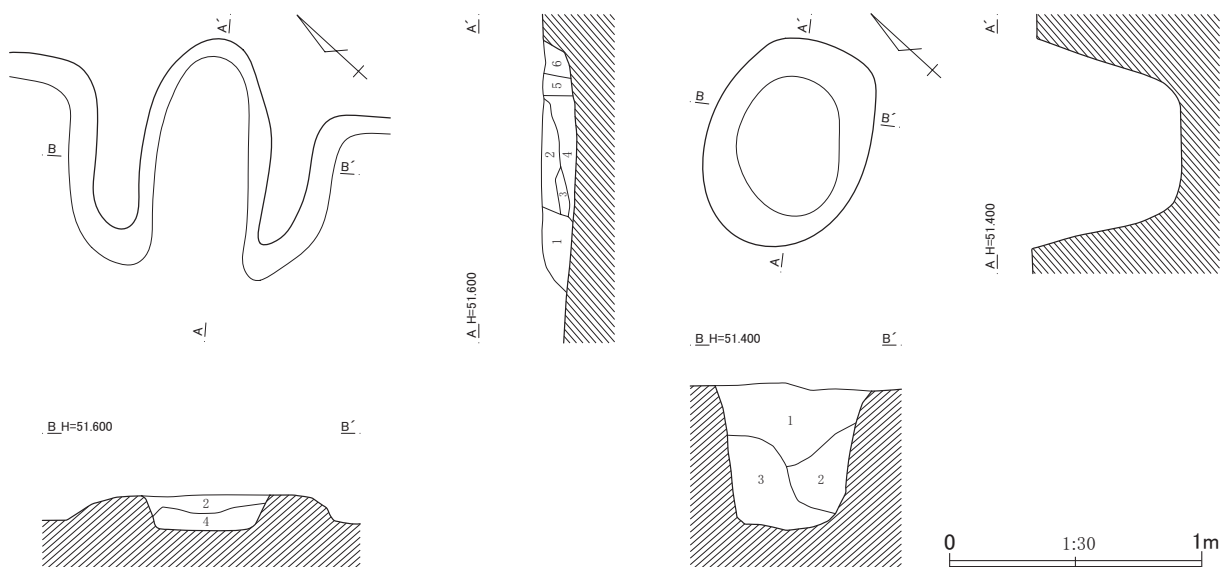
第247号住居跡（第522～524図、第241表、図版62・168）

調査地点の北東部の中央、北西寄り、S9、T8・9グリッドに位置し、C群に含まれる住居跡である。第303号住居跡を切っており、2つの攪乱により遺構の一部を壊されている。また、第302・322号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、かなり歪ではあるが、横長の長方形と見てよいであろう。規模は、主軸方向で4.93m、副軸方向で5.56m、主軸方位は、N-48°-Eである。床面には細かな凹凸が見られるが、おおむね平坦である。所々島状に硬化している。壁高は、北東壁で6cm、南東壁で5cm、南西壁で8cm、北西壁で2cmである。

やや位置的に変則的ではあるが、P1～P4は、支柱穴であろう。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形である。深さは、P1が19cm、P2が52cm、P3が38cm、P4が60cmとかなり深浅がある。カマド右袖に接するピットは、貯蔵穴であろう。上端での平面形は、楕円形で、長径84cm、短径64cmである。バケツ形に掘り込まれており、深さは58cmである。覆土は3層で、全体にローム小塊が目立つが、とくに第3層には、ローム小塊がかなりの量含まれ、埋め戻された土のようにも見える。

カマドは北東壁の北隅に著しく寄った位置に付設されている。両袖に挟まれた燃焼部のみ残存する。



第247号住居跡カマド土層説明

第1層：暗褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム小塊（～10mm）を中量含み、焼土小塊（～10mm）を少量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）・焼土小塊（～10mm）を微量含む。

第3層：赤褐色土。赤褐色土を主とする、焼土化した粘土層。

第4層：暗褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒（～8mm）・焼土小塊（～10mm）を少量含む。

第5層：暗褐色土。暗灰褐色土を主とし、焼土粒（～8mm）を中量含み、暗褐色土を少量含む。

第6層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～5mm）

を少量含み、焼土小塊（～10mm）を中量、焼土粒（～3mm）を微量含む。ややしまっている。

第247号住居跡貯蔵穴土層説明

第1層：暗褐色土。ローム小塊（～10mm）・炭化物粒（～8mm）・焼土小塊（～10mm）を少量含む。

第2層：暗褐色土。ローム小塊（～20mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。

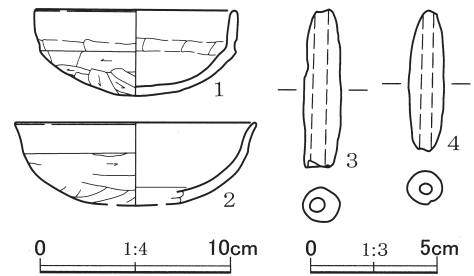
第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊（～30mm）を中量含み、焼土粒（～8mm）を微量含む。

第523図 第247号住居跡平面・断面図（2）

C地点

燃焼面は、中央がかすかにくぼんでおり、微妙に凸凹している。袖端を前端とすると、燃焼部の長さは93cm、横幅は51cmである。奥壁、側壁の上端は、被熱により淡い赤みを帯び、硬化している。カマド覆土は6層で、焼土化した粘土層である第3層は、天井部などの崩落土、焼土粒、あるいは焼土小塊を顕著に含む第5・6層には、天井部や奥壁の崩落土の一部が含まれるようである。

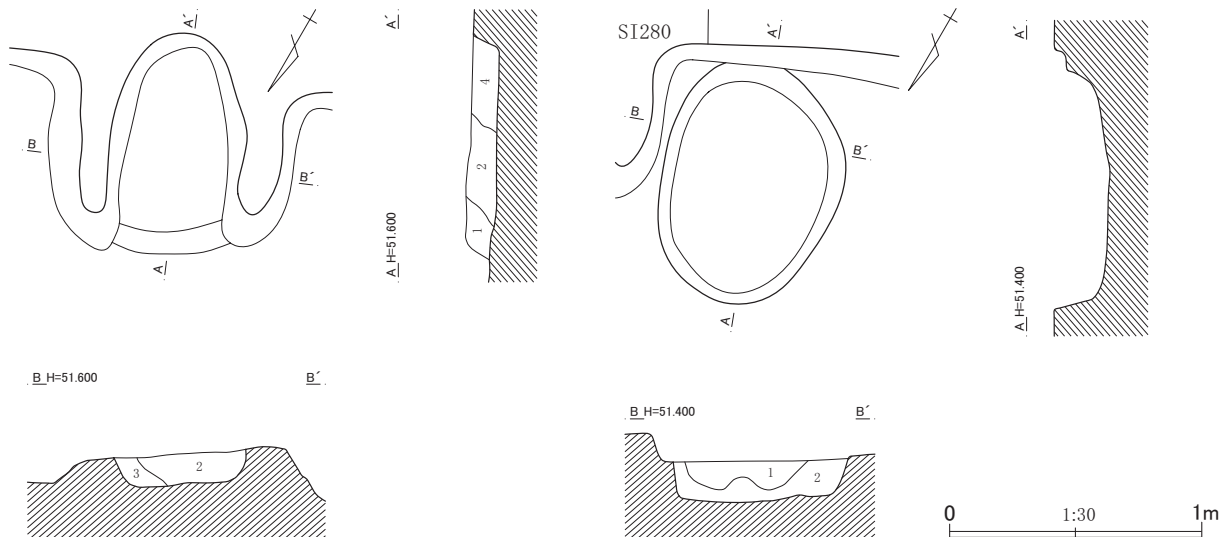
図示した土師器などの遺物が覆土中より少量出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期中葉の遺構と考えられる。



第524図 第247号住居跡出土遺物

第241表 第247号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 10.9 底径 — 器高 4.7	丸底。口縁部は直立し、体部との境に凹線がめぐる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—にぶい橙色	1/2残存
2	坏	口径 (13.1) 底径 — 器高 [4.5]	体部は彎曲する。口縁部は外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—橙色	口縁部～体部 1/2残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
3	土錘	長さ6.5、幅1.6、厚さ1.4、重さ13.60g。胎土：白色粒。色調：にぶい赤褐色。				完形
4	土錘	長さ5.8、幅1.5、厚さ1.4、重さ9.86g。胎土：白色粒。色調：赤黒色。				完形



第248号住居跡カマド土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～8mm)を少量含み、焼土粒(～4mm)を微量含む。
第2層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)を中量含み、焼土粒(～5mm)を微量含む。
第3層：暗褐色土。ローム小塊(～30mm)を中量含む。
第4層：暗褐色土。ローム粒(～8mm)・焼土粒(～8mm)を微

量含む。

第248号住居跡貯蔵穴土層説明

第1層：暗褐色土。ローム小塊(～20mm)を少量含む。
第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～30mm)を中量含む。

第525図 第248号住居跡平面・断面図(1)

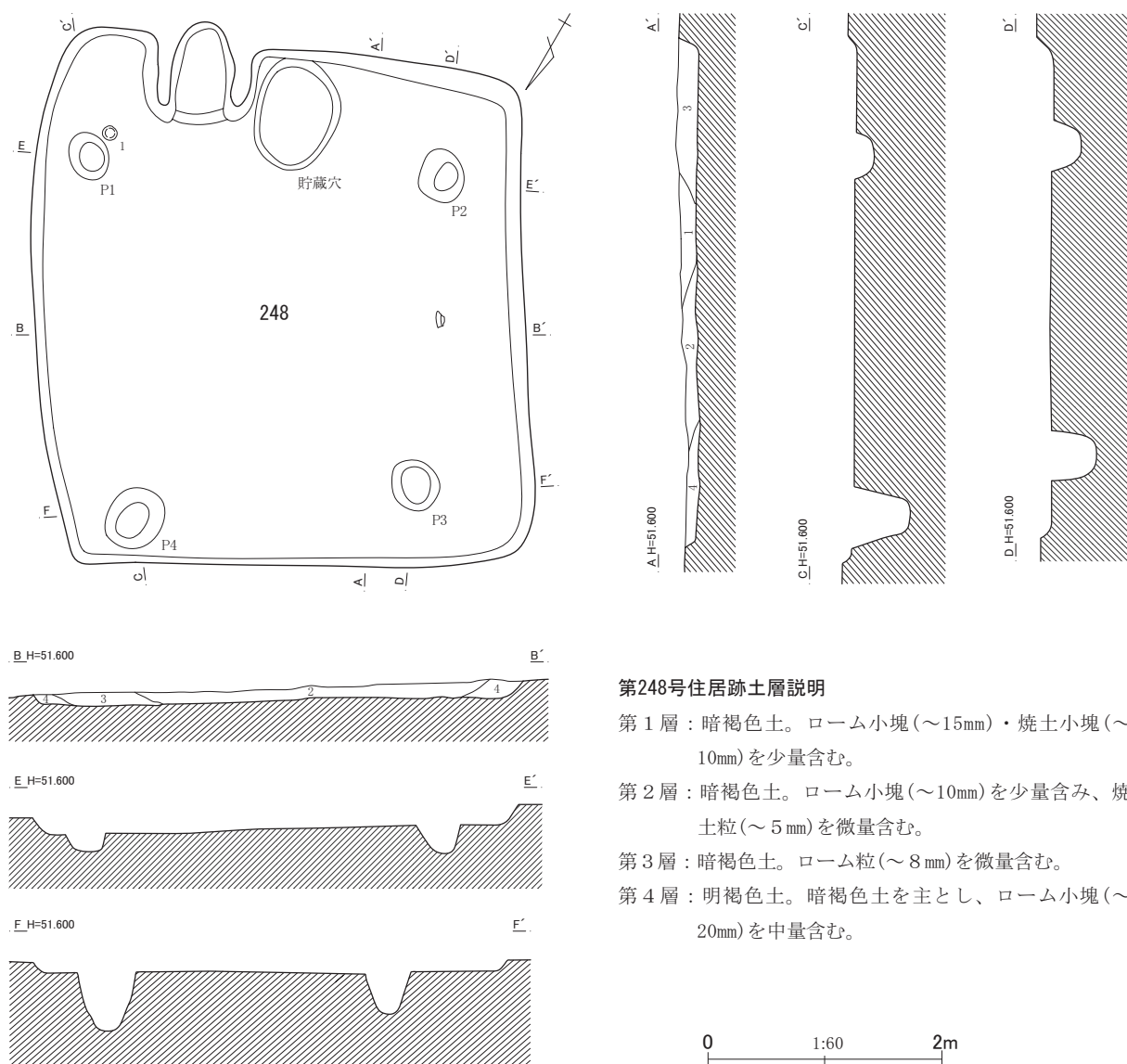
第248号住居跡（第525～527図、第242表、図版62・168）

調査地点の北東部の中央、北縁近く、T9、U9グリッドに位置し、C群に含まれる住居跡である。第279・280・322号住居跡を切って造られている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、方形と見てよいであろう。規模は、主軸方向で4.42m、副軸方向で4.19m、主軸方位は、S-30°-Eである。床面には細かな凹凸が見られ、支柱穴を結ぶ範囲の西半が部分的に硬化している。壁高は、南東・南西壁で16cm、北西壁で9cm、北東壁で8cmである。

位置的に変則的ではあるが、P1～P4は、支柱穴であろう。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形である。深さは、P1が17cm、P2が23cm、P3が34cm、P4が50cmとかなり深淺がある。カマド右袖脇のピットは、貯蔵穴であろう。上端での平面形は、楕円形で、長径97cm、短径72cmである。鍋底形に掘り込まれており、底面は凸凹している。深さは58cmである。覆土は2層で、第2層には、ローム小塊がかなりの量含まれる。

カマドは南東壁の東隅に著しく寄った位置に付設されている。細長い両袖に挟まれた燃焼部のみ残



第248号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム小塊（～15mm）・焼土小塊（～10mm）を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム小塊（～10mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒（～8mm）を微量含む。
- 第4層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊（～20mm）を中量含む。

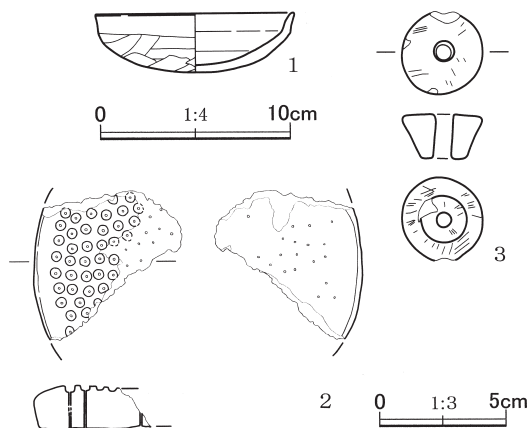
第526図 第248号住居跡平面・断面図（2）

第242表 第248号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 11.0 底径 — 器高 3.2	丸底。浅い体部から口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒 内外—橙色	口縁部一部欠損
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
2	ガラス小玉 鋳型	第958図103、第432表参照。				No.103
3	石製 紡錘車	上面径3.3、下面径1.9、孔径0.7×0.6、厚さ1.8、重さ26.92g。石材：片岩。調整：上下面は丁寧な研磨。側面は縦方向のケズリ後、横方向の研磨。				一部欠損

存する。焼面は、かすかに掘りくぼめて造作されており、微妙に凸凹している。焼部の長さは88cm、横幅は55cmである。側壁の上端は、被熱により淡い赤みを帯びている。カマド覆土は4層で、第2・3層には、ローム小塊が顕著に含まれる。

第527図1の坏は、P1脇の床面よりかなり浮いた位置から出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末期中葉の遺構であろうか。



第527図 第248号住居跡出土遺物

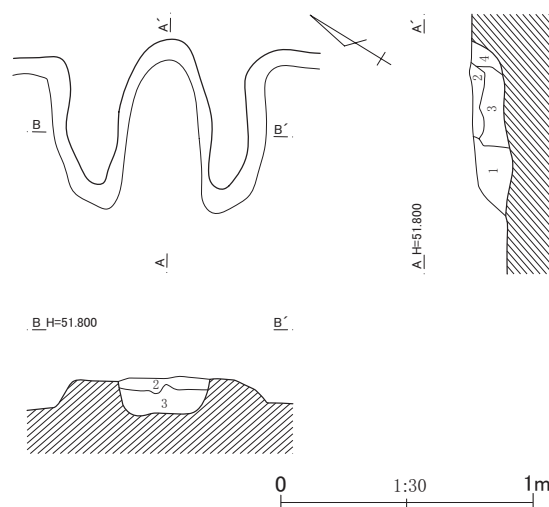
第249号住居跡 (第528～530図、第243・244表、図版62・168)

調査地点の北東部の中央、南東部との境近く、S11、T11グリッドに位置し、F群に含まれる。第305・315号住居跡を切り、溝状の攪乱に切られている。第105・201号住居跡と重複関係にある。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、横長の長方形である。規模は、主軸方向で3.32m、副軸方向で4.89m、主軸方位は、N-59°-Eである。床面は凸凹しており、主に南半が硬化している。壁高は、北東・南東壁で10cm、南西壁で2cm、北西壁で7cmである。

支柱穴の可能性のあるピットは、位置的に見て、P1～P4の4つである。上端での平面形は、いずれもやや歪な円形で、深さは、P1が15cm、P2が17cm、P3が40cm、P4が16cmである。

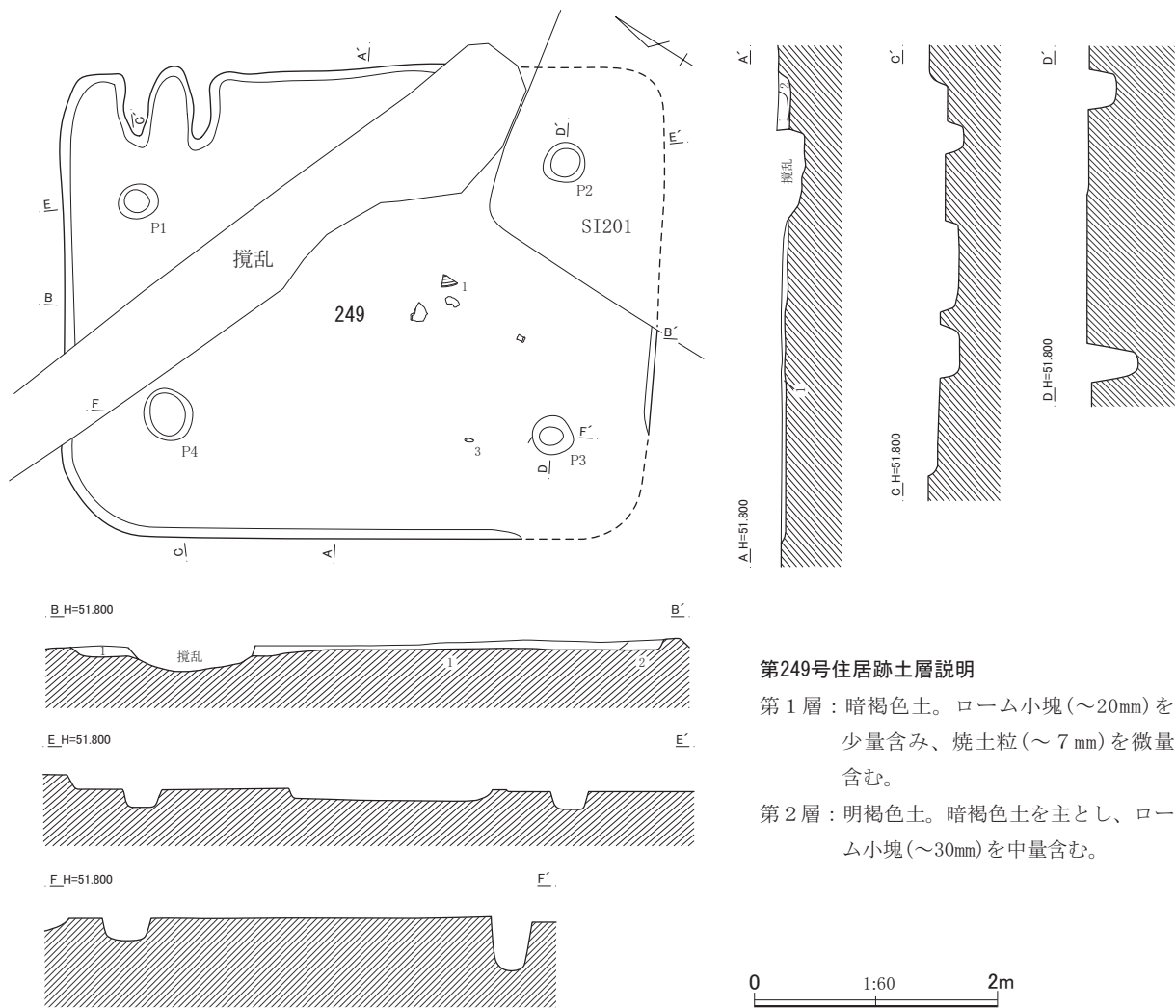
カマドは、北東壁の著しく北隅に寄った位置に付設されている。逆U字状に彎曲したやや丸みをもった袖に挟まれた焼部が残存する。袖端を末端とするなら、焼部の長さは68cm、横幅は37cmである。焼面は、微妙に掘りくぼめられ設けら



第249号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～8mm)を少量含み、焼土粒(～7mm)を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。焼土小塊(～30mm)を中量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～10mm)・焼土粒(～8mm)を少量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を微量含む。

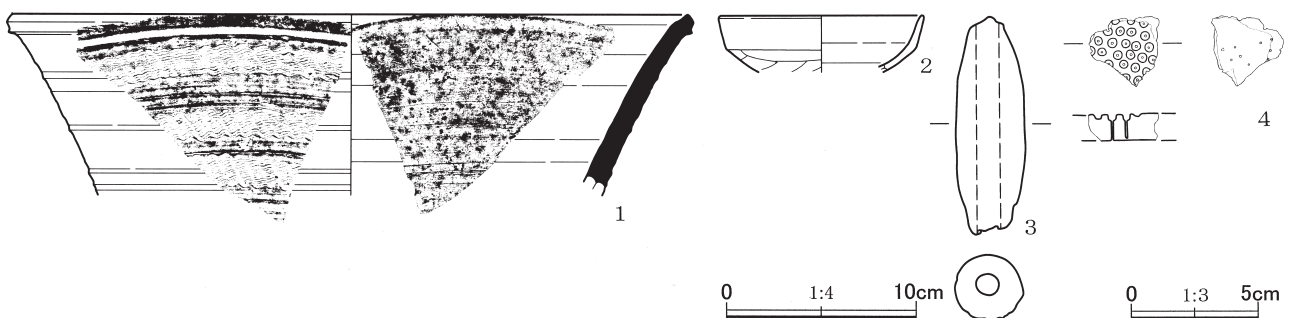
第528図 第249号住居跡平面・断面図(1)



第249号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム小塊（～20mm）を少量含み、焼土粒（～7mm）を微量含む。
 第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊（～30mm）を中量含む。

第529図 第249号住居跡平面・断面図（2）



第530図 第249号住居跡出土遺物

第243表 第249号住居跡出土遺物観察表（1）

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	須恵器 甕	口径 (37.3) 底径 — 器高 [9.9]	口縁部は外反する。ロクロ成形。	外面ーロクロナデ。沈線による横位区画内に10本1単位の櫛描波状文を3段。内面ーロクロナデ。	白色粒・黒色粒 内外ー灰色	口縁部破片 還元焰焼成
2	坏	口径 (11.2) 底径 — 器高 [3.1]	浅い体部から口縁部は外傾気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面ー口縁部ヨコナデ。体部へラケズリ。内面ー口縁部～体部ヨコナデ。	石英・白色粒 内外ー橙色	口縁部～体部 1/2残存

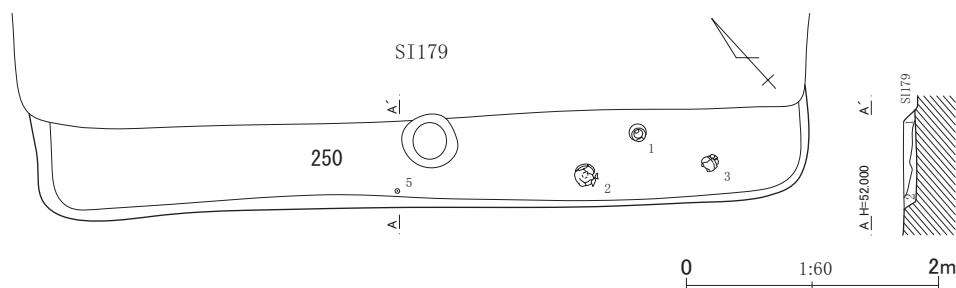
C地点

第244表 第249号住居跡出土遺物観察表（2）

No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
3	土錘	長さ9.0、幅2.8、厚さ2.7、重さ62.79g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい褐色。	ほぼ完形
4	ガラス小玉 鑄型	第958図104、第432表参照。	No.104

れており、凸凹している。カマドの覆土は4層で、焼土小塊をかなり含む第2層は、天井部などの崩落土であろう。

第530図1の須恵器片は、住居跡中央の覆土中から出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末期前葉から中葉にかけての遺構と考えられる。



第250号住居跡土層説明

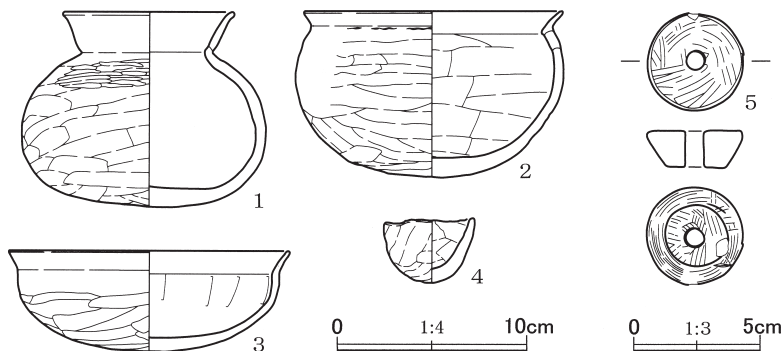
第1層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を少量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む、ローム小塊（～10mm）を中量含む。

第531図 第250号住居跡平面・断面図

第250号住居跡（第531・532図、第245・246表、図版169）

調査地点の南東部の中央、やや南西寄り、R13・14グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第179号住居跡に切られ、西隅から南隅にかけての細長い範囲の壁、床面が辛うじ



第532図 第250号住居跡出土遺物

第245表 第250号住居跡出土遺物観察表（1）

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	小型壺	口径 9.4 底径 — 器高 10.7	平底気味。体部は強く張る。口縁部は外傾する。粘土紐積みみ上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。体部上位に部分的なミガキ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 外—橙色 内—明赤褐色	口縁部一部欠損
2	鉢	口径 14.3 底径 — 器高 9.1	丸底。体部は膨らみをもつ。口縁部は短く外傾する。粘土紐積みみ上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒 内外—にぶい赤褐色	3/4残存
3	坏	口径 15.3 底径 — 器高 5.5	丸底。体部は彎曲する。口縁部は外傾する。粘土紐積みみ上げによる成形。	外面—口縁部～体部上位ヨコナデ。体部中位～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒・褐色粒 外—明赤褐色 内—橙色	口縁部1/2欠損

第246表 第250号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
4	手捏ね土器	口径 (4.8) 底径 — 器高 (3.6)	丸底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。手捏ね成形。	外面—口縁部～底部ナデ。内面—口縁部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒 外—明赤褐色 内—にぶい黄褐色	口縁部をほぼ欠失
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
5	石製紡錘車	上面径4.0、下面径2.5、孔径0.8×0.8、厚さ1.5、重さ39.28g。石材：蛇紋岩。調整：上下面は丁寧な研磨。側面は縦方向のケズリ後、横方向の研磨。				一部欠損

て残るのみである。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

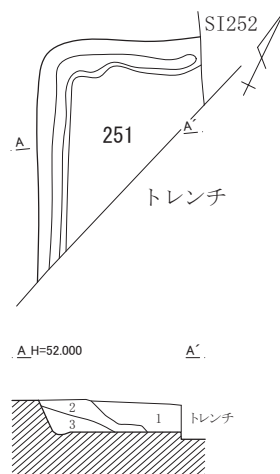
規模は、北西—南東方向で6.14m、北東—南西方向中央での残存長は69cmである。床面には微かな凹凸が目立つが、全体としてはおおむね平坦である。軽微ではあるが、床面は、所々硬化している。壁高は、南西壁で10cmである。

第532図2の鉢、3の坏は、南西壁近くの南隅寄りの床面直上から出土した。1の小型壺は、それらの近くの覆土中から、5の石製紡錘車は、南西壁脇の中央の床面直上から出土している。他に土師器片を主とする遺物が、覆土中から少量出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期初頭（古相）の遺構と考えられる。

第251号住居跡（第533・534図、第247表、図版63・169）

調査地点の東壁沿いの中央、やや南寄り、U13・14グリッドに位置し、G群に含まれる住居跡である。第252号住居跡と重複する。東側は調査範囲外であるため、残存するのは西隅周辺の極わずかな範囲である。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

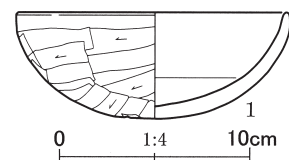
規模は、いずれも現存長、残存長になるが、北西—南東方向で1.94m、北東—南西方向で1.30mである。床面はほぼ平坦で、硬化している。壁沿いには、幅24～30cm、深さ5cmほどの壁溝が巡らされている。壁高は、南西壁で26cmである。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末期後葉の遺構であろうか。



第251号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、炭化物粒(～5mm)・焼土粒(～5mm)を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・焼土粒(～5mm)を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含み、ローム小塊(～20mm)を微量含む。

第533図 第251号住居跡平面・断面図



第534図 第251号住居跡出土遺物

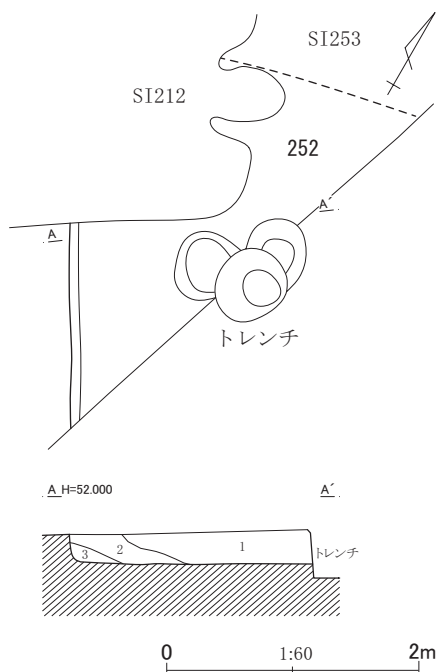
第247表 第251号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 (14.8) 底径 — 器高 5.8	丸底。体部は彎曲する。口縁部は短く直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—橙色	1/2残存

C地点

第252号住居跡（第535・536図、第248表、図版63・169）

調査地点の東壁沿いの中央、やや南寄り、U13グリッドに位置し、G群に含まれる住居跡である。



第252号住居跡土層説明

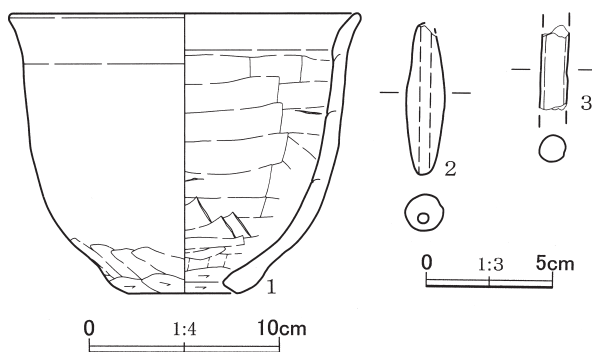
- 第1層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含み、ローム小塊（～30mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。

第535図 第252号住居跡平面・断面図

第212号住居跡に切られ、また、東側は調査範囲外である。残存するのは、西壁付近から北側にかけての極わずかな範囲である。なお、第251・253号住居跡とも重複するが、新旧関係を確定することができなかった。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

南北方向での現存長は、3.71mである。床面には細かな凹凸があるが、全体的に平坦である。床面の硬化は、顕著ではない。壁高は、西壁で20cmである。残存する床面のほぼ中央で、本住居跡に伴う可能性のある重複する3個のピットを検出している。支柱穴の可能性もあるが、判断しきれない。最も深い南西側のピットの深さは、79cmである。

重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期前葉から中葉にかけての遺構である可能性が考えられる。



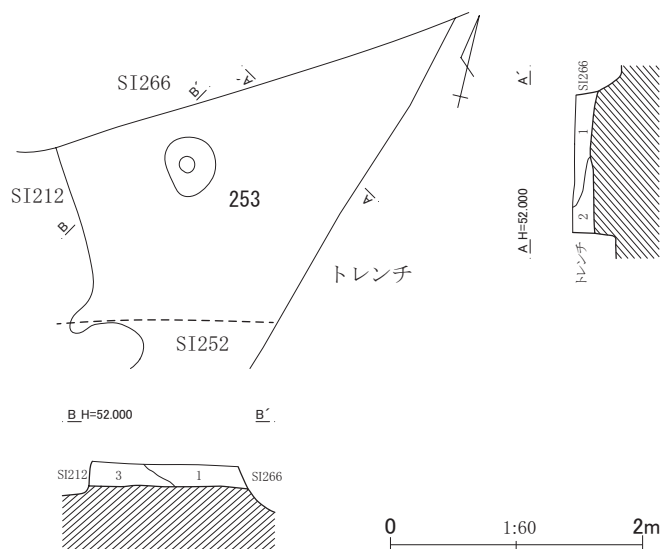
第536図 第252号住居跡出土遺物

第248表 第252号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甔	口径 (19.0) 底径 (6.0) 器高 15.3	口縁部は外反する。胴部は下位にやや膨らみをもつ。底部は筒抜け。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ後、下端ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ、下端ヘラケズリ。	石英・白色粒 内外－にぶい赤褐色	1/3残存 外面胴部磨耗
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
2	土錘	長さ[6.2]、幅1.6、厚さ1.5、重さ[12.54]g。胎土：白色粒。色調：にぶい褐色。				端部欠損
3	棒状土製品	第972図119、第440表参照。				No.119

第253号住居跡（第537・538図、第249表、図版63・169）

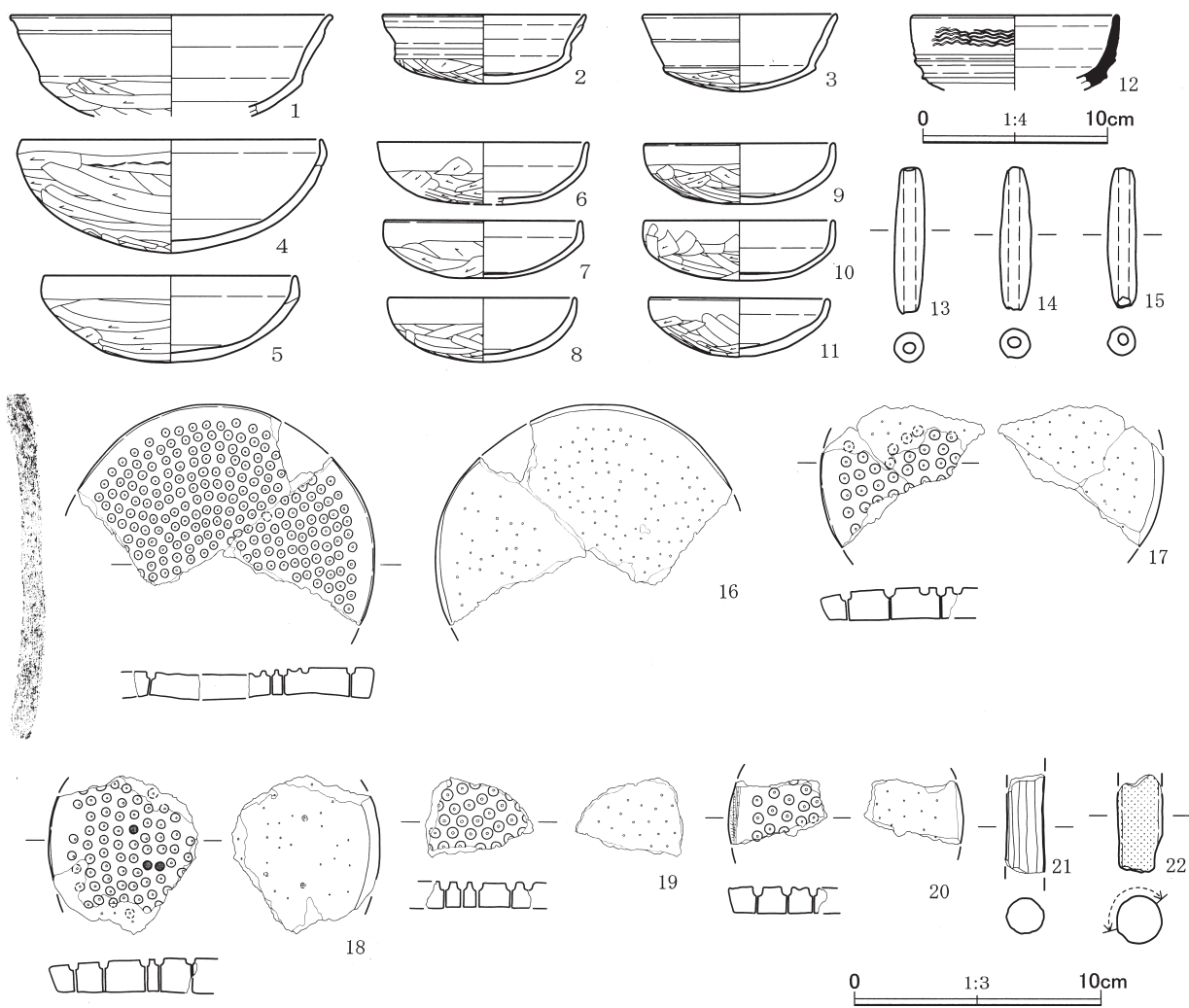
調査地点の東壁沿いのほぼ中央、U13グリッドに位置し、G群に含まれる住居跡である。第266号住居跡に切られ、また、東側は調査範囲外にあたるため、扇形のわずかな範囲の床面が残存するのみ



第253号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、焼土粒(～5mm)を少量、炭化物小塊(～10mm)・焼土小塊(～10mm)を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を多量に含み、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～5mm)を微量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～20mm)を少量含み、焼土小塊(～10mm)を微量含む。

第537図 第253号住居跡平面・断面図



第538図 第253号住居跡出土遺物

C地点

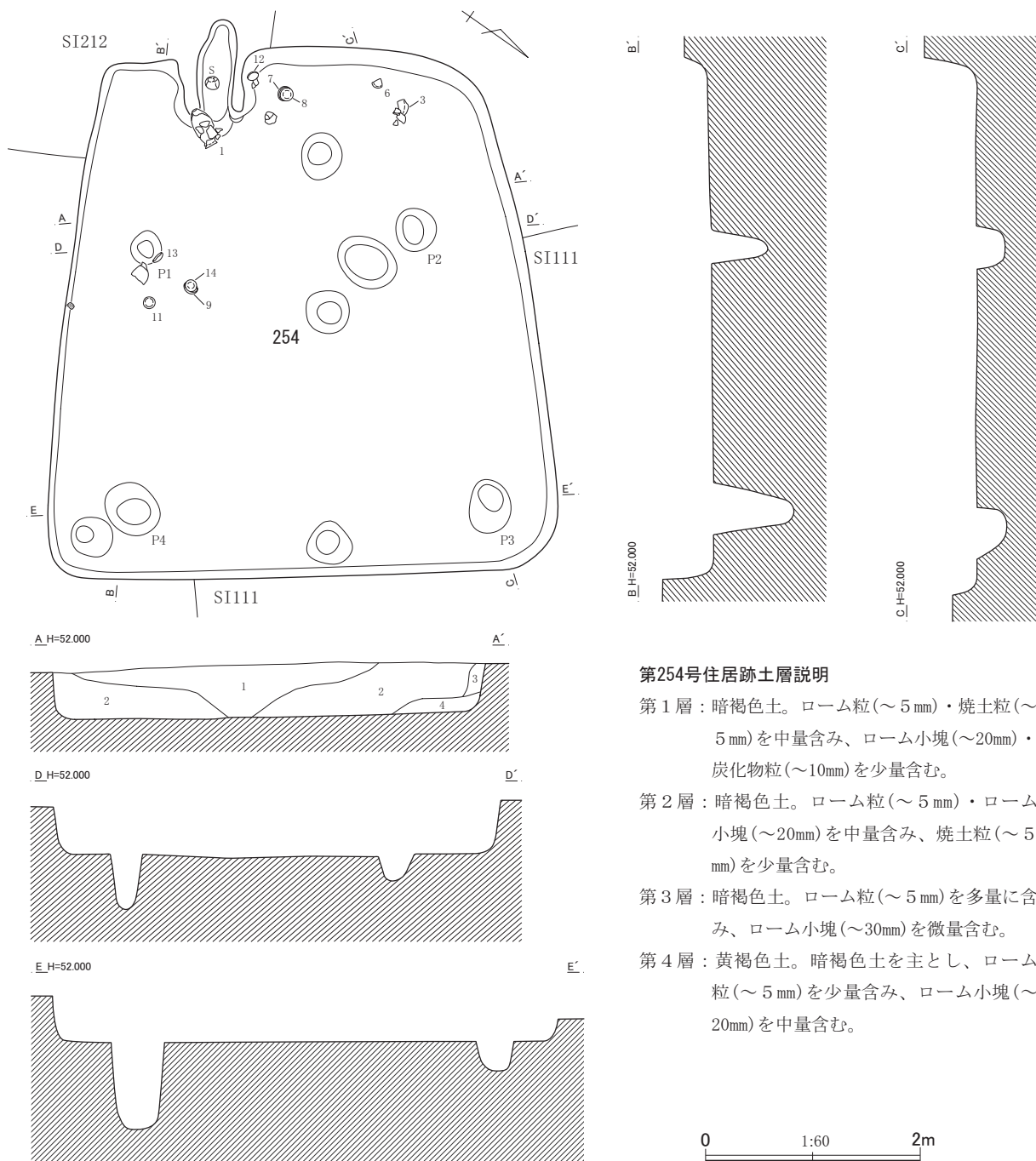
第249表 第253号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 (18.2) 底径 — 器高 [5.7]	口縁部は体部との境に稜をもつて外傾し、上位に段を有する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—橙色	口縁部～体部 1/4残存
2	坏	口径 (11.6) 底径 — 器高 3.9	丸底。口縁部は体部との境に稜をもつて外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒 外—にぶい橙色 内—にぶい褐色	1/2残存
3	坏	口径 (11.0) 底径 — 器高 4.3	丸底。口縁部は体部との境に稜をもつて外傾し、中位に弱い段を有する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 外—浅黄橙色 内—橙色	2/3残存
4	坏	口径 17.1 底径 — 器高 6.4	丸底。体部は彎曲し、口縁部は短く内傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒 内外—橙色	3/4残存
5	坏	口径 14.2 底径 — 器高 4.9	丸底。体部は彎曲し、口縁部は短く直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒 内外—橙色	3/4残存
6	坏	口径 11.9 底径 — 器高 3.6	丸底。体部は彎曲し、口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—橙色	2/3残存
7	坏	口径 11.1 底径 — 器高 3.2	丸底。体部は彎曲し、口縁部は内傾気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒 内外—橙色	2/3残存
8	坏	口径 10.5 底径 — 器高 3.7	丸底。体部は彎曲し、口縁部は内彎気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 外—橙色 内—にぶい赤褐色	口縁部～体部 1/4欠損
9	坏	口径 10.6 底径 — 器高 3.5	丸底。体部は彎曲し、口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒 内外—橙色	口縁部～体部 1/3欠損
10	坏	口径 10.6 底径 — 器高 3.4	丸底。体部は彎曲し、口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒 内外—明赤褐色	2/3残存
11	坏	口径 10.1 底径 — 器高 3.3	丸底。体部は彎曲し、口縁部は内彎気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒 内外—橙色	口縁部～体部 1/4欠損
12	須恵器 高坏	口径 (11.6) 底径 — 器高 [4.2]	口縁部は坏部との境に稜をもつて立ち上がる。ロクロ成形。	外面—ロクロナデ。口縁部4条1単位の楡描波状文。坏部回転ヘラケズリ。内面—ロクロナデ。	石英・白色粒 外—黄灰色 内—灰色	坏部1/8残存 還元焰焼成
法量(cm)・特徴						
13	土錘	長さ6.2、幅1.3、厚さ1.3、重さ9.74g。	胎土：白色粒。色調：橙色。			完形
14	土錘	長さ6.1、幅1.3、厚さ1.3、重さ9.32g。	胎土：白色粒。色調：橙色。			完形
15	土錘	長さ5.9、幅1.2、厚さ1.2、重さ8.83g。	胎土：白色粒。色調：橙色。			完形
16	ガラス小玉 鑄型	第959図105、第432表参照。				No.105
17	ガラス小玉 鑄型	第959図106、第432表参照。				No.106
18	ガラス小玉 鑄型	第959図107、第432表参照。				No.107
19	ガラス小玉 鑄型	第959図108、第432表参照。				No.108
20	ガラス小玉 鑄型	第959図109、第432表参照。				No.109
21	棒状 土製品	第972図120、第440表参照。				No.120
22	棒状 土製品	第972図121、第440表参照。				No.121

である。なお、第212・252号住居跡とも重複するが、新旧関係を確定することができなかった。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

北東—南西方向での最も残りのよい部分での長さは、3.76mである。床面は、微妙に凸凹しているが、全体的に見れば、おおむね平坦であり、部分的に硬化している。残存する床面のほぼ中央で、本住居跡に伴う可能性のあるピットを1個検出している。深さは、33cmである。

土師器、ガラス小玉鋳型などの遺物は、覆土中から出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末期中葉の遺構と考えられる。



第254号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・焼土粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)・炭化物粒(～10mm)を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～20mm)を中量含み、焼土粒(～5mm)を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を多量に含み、ローム小塊(～30mm)を微量含む。
- 第4層：黄褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～5mm)を少量含み、ローム小塊(～20mm)を中量含む。

第539図 第254号住居跡平面・断面図(1)

C地点

第254号住居跡（第539～541図、第250～252表、図版63・170）

調査地点の東縁近くの中央、U12・13グリッドに位置し、G群に含まれる住居跡である。第275号住居跡を切り、第111号住居跡に切られ、遺構の一部を壊されている。また、第212・266号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

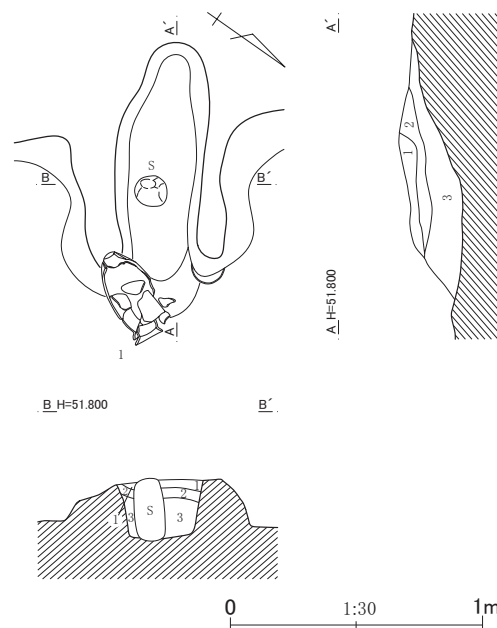
平面形は、南西壁が北東壁に比べかなり長いので、方形というより台形に近い。規模は、主軸方向で4.95m、副軸方向で4.41m、主軸方位はS-54°-Wである。床面には、所々ローム塊が浮き出て凸凹しているが、硬化は顕著ではない。壁は急峻に立ち上がり、壁高は、南西壁で20cm、北西・南東壁で43cm、北東壁で50cmである。

主柱穴の可能性のあるピットは、位置的に見て、P1～P4の4つである。上端での平面形は、いずれもやや歪な円形で、深さは、P1が49cm、P2が22cm、P3が71cm、P4が53cmである。他に本住居跡に伴う可能性のあるピットを、5個検出している。

カマドは、南西壁の著しく南隅に寄った位置に付設されている。細長い袖に挟まれた燃焼部が残存する。燃焼部の長さは109cm、横幅は35cmである。燃焼面は、中央が深くなるように掘りくぼめられており、奥壁側はゆるやかに立ち上がる。側壁の上部は、部分的に被熱赤化している。カマドの覆土は3層で、焼土小塊をかなり含む第2層やローム小塊の目立つ第3層には、天井部、側壁の崩落土の一部が含まれるようである。燃焼面のほぼ中央から直立した状態で、支脚と思われる楕円礫が出土している。左袖先端から出土した第541図1の甕や右袖に埋め込まれたかのようにして出土した12の坏は、あるいは袖に直接関わるものかもしれない。

住居跡の覆土は、4層に分けられた。ローム粒やローム小塊の目立つ第3・4層が壁際に堆積した後、やはりロームの目立つ第2層が堆積し、中央のくぼみを焼土粒などの混入した第1層が流入した模様である。

第541図12の坏は、カマド右袖に接して、その脇から7・8の坏が入れ子の状態で床面よりやや浮いた位置で出土している。9・11・13・14の坏は、P1脇の覆土上～中層から出土している。9・14の坏は、やはり入れ子の状態であった。ガラス小玉鋳型は、覆土中出土である。他には、土師器片を主とする遺物が、覆土中よりかなりの量出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末期中葉の遺構と考えられる。



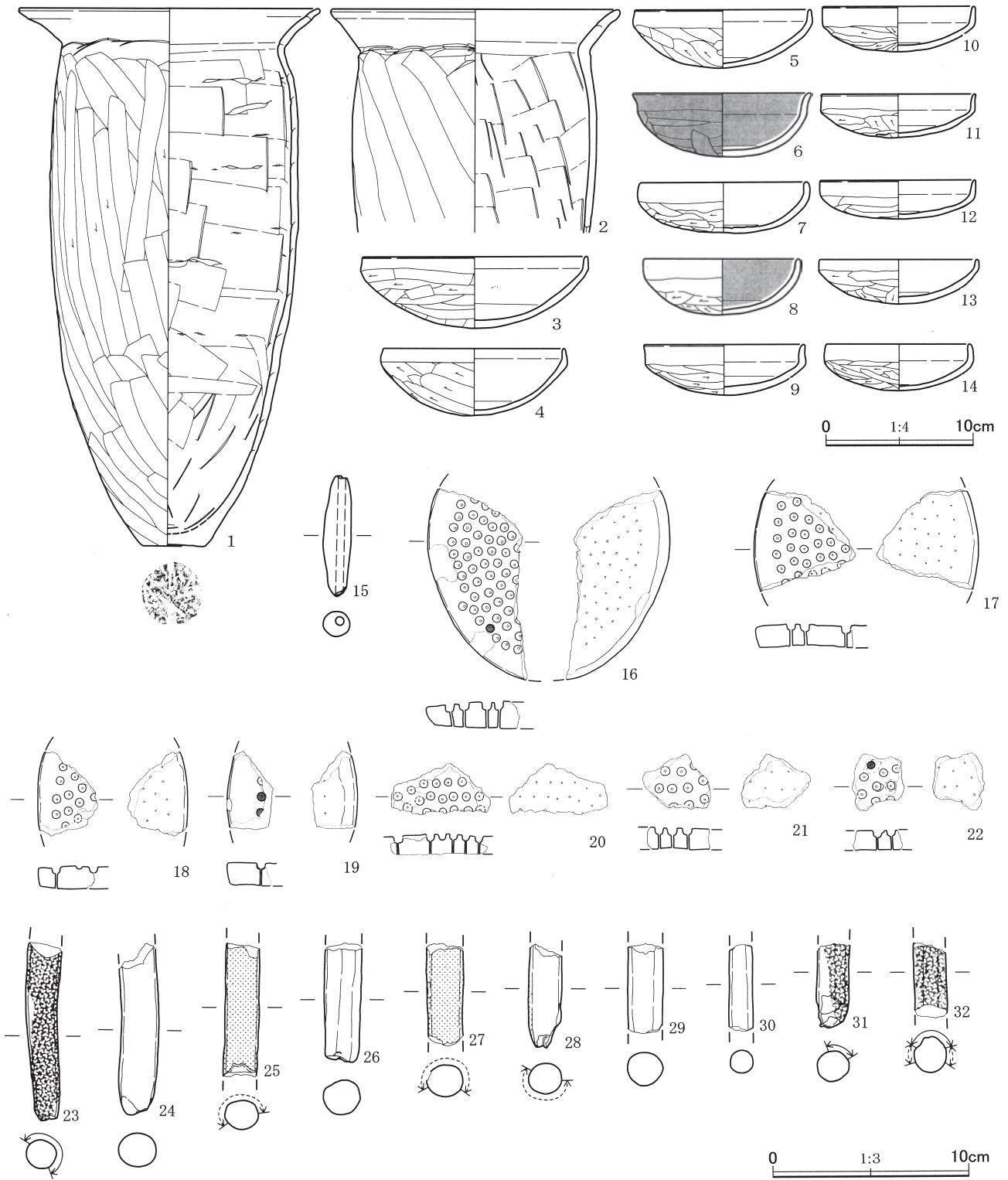
第254号住居跡カマド土層説明

第1層：暗褐色土。ローム小塊（～20mm）・焼土粒（～5mm）を少量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）・焼土小塊（～30mm）を中量含み、焼土粒（～5mm）を少量、ローム小塊（～20mm）を微量含む。

第3層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、ローム小塊（～30mm）を中量、焼土小塊（～10mm）を微量含む。

第540図 第254号住居跡平面・断面図（2）



第541図 第254号住居跡出土遺物

第250表 第254号住居跡出土遺物観察表（1）

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 21.3 底径 4.4 器高 36.0	口縁部は長く外反する。胴部は膨らみをもたない。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。底部木葉痕。内面—口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	角閃石・白色粒 内外—にぶい橙色	胴部1/3欠損

C地点

第251表 第254号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
2	甕	口径 20.3 底径 — 器高 [15.9]	口縁部は外傾する。胴部は膨らみをもたない。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部上位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部上位ヘラナデ。	石英・角閃石・白色粒 内外—にぶい黄橙色	口縁部～胴部上位 1/2残存
3	坏	口径 15.9 底径 — 器高 4.9	丸底。体部は彎曲し、口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・角閃石・白色粒 内外—橙色	2/3残存
4	坏	口径 12.9 底径 — 器高 4.8	丸底。体部は彎曲し、口縁部は内傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒・褐色粒 内外—橙色	1/2残存
5	坏	口径 12.5 底径 — 器高 4.2	丸底。体部は彎曲し、口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 内外—橙色	3/4残存
6	坏	口径 12.5 底径 — 器高 4.5	丸底。体部は彎曲し、口縁部は外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。黒色処理。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。黒色処理。	片岩・白色粒・褐色粒 内外—黒褐色	ほぼ完形
7	坏	口径 11.8 底径 — 器高 3.6	丸底。体部は彎曲し、口縁部は内彎気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—橙色	ほぼ完形
8	坏	口径 10.9 底径 — 器高 3.9	丸底。体部は彎曲し、口縁部は内彎気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ後、体部上位ナデ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。黒色処理。	石英・白色粒・黒色粒 内外—黒色	完形
9	坏	口径 11.3 底径 — 器高 3.6	丸底。体部は浅く彎曲し、口縁部は外反気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒 内外—橙色	完形
10	坏	口径 10.7 底径 — 器高 3.2	丸底。体部は浅く彎曲し、口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒・褐色粒 内外—橙色	完形
11	坏	口径 10.9 底径 — 器高 3.1	丸底。体部は浅く彎曲し、口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒 内外—橙色	完形
12	坏	口径 10.9 底径 — 器高 2.8	丸底。体部は浅く彎曲し、孔部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 外—橙色 内—にぶい褐色	完形
13	坏	口径 11.1 底径 — 器高 3.2	丸底。体部は彎曲し、口縁部は短く直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—橙色	ほぼ完形
14	坏	口径 10.1 底径 — 器高 3.3	丸底。体部は彎曲し、口縁部は内傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—橙色	完形
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
15	土錘	長さ6.4、幅1.4、厚さ1.3、重さ11.53g。胎土：白色粒。色調：にぶい橙色。				完形
16	ガラス小玉 鋳型	第959図110、第432表参照。				No.110
17	ガラス小玉 鋳型	第959図111、第432表参照。				No.111
18	ガラス小玉 鋳型	第959図112、第432表参照。				No.112
19	ガラス小玉 鋳型	第960図113、第433表参照。				No.113
20	ガラス小玉 鋳型	第960図114、第433表参照。				No.114
21	ガラス小玉 鋳型	第960図115、第433表参照。				No.115
22	ガラス小玉 鋳型	第960図116、第433表参照。				No.116
23	棒状 土製品	第972図122、第440表参照。				No.122
24	棒状 土製品	第972図123、第440表参照。				No.123

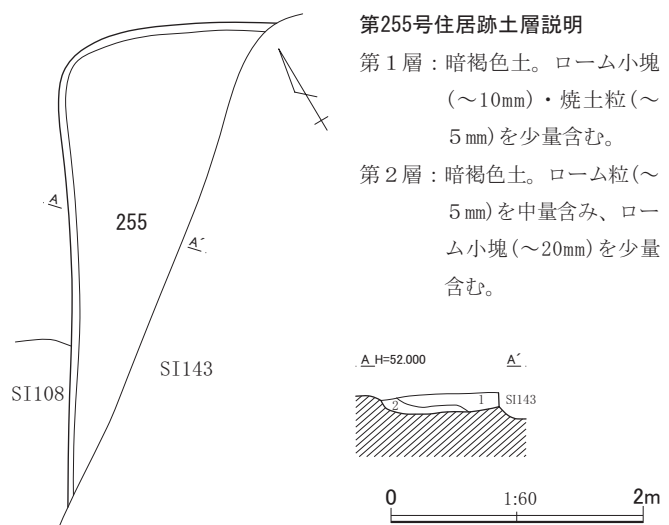
第252表 第254号住居跡出土遺物観察表(3)

No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
25	棒状土製品	第972図124、第440表参照。	No.124
26	棒状土製品	第972図125、第440表参照。	No.125
27	棒状土製品	第973図126、第440表参照。	No.126
28	棒状土製品	第973図127、第440表参照。	No.127
29	棒状土製品	第973図128、第440表参照。	No.128
30	棒状土製品	第973図129、第440表参照。	No.129
31	棒状土製品	第973図130、第440表参照。	No.130
32	棒状土製品	第973図131、第440表参照。	No.131

第255号住居跡(第542図)

調査地点の南東隅近く、T14・15グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第108・134・143・225・226号住居跡に切られ、北隅およびその周辺の壁、床面が三角形のわずかな範囲として残存するのみである。なお、第134号住居跡とも重複する位置にあるが、他の遺構が介在しており、直接切り合い関係にはない。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

規模は、いずれも現存長になるが、北東-南西方向で3.85m、北西-南東方向で1.76m、因みに北東壁の指す方位は、N-29°-Eである。北東壁の壁高は、11cmである。覆土中から土師器小片を主とする遺物が少数出土しているのみである。重複関係から見て、平安時代初頭以前の遺構と考えられる。



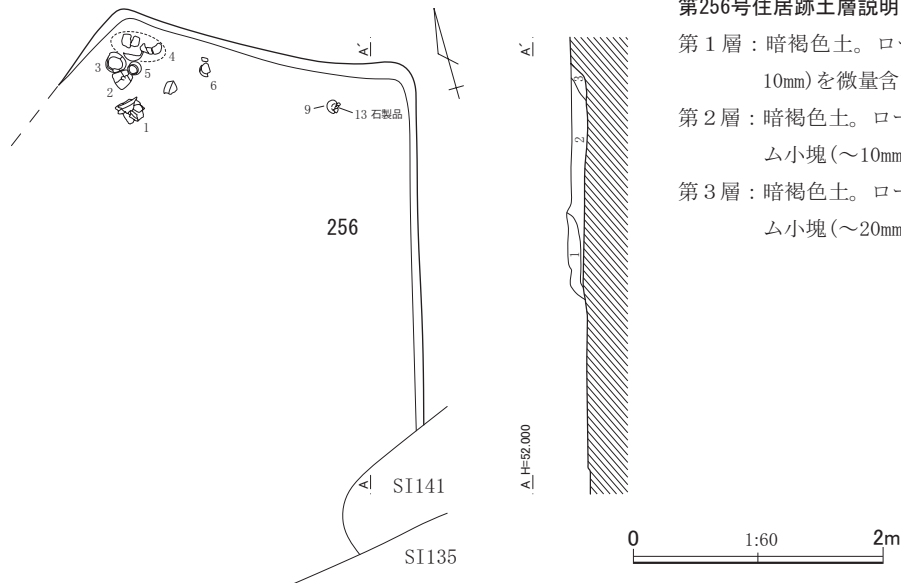
第542図 第255号住居跡平面・断面図

第256号住居跡(第543・544図、第253・254表、図版63・171)

調査地点の南東部の中央、南東寄り、S13・14グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第237号住居跡を切っており、第135・141号住居跡に切られ、南西半の大半を壊されている。また、第157・221号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

西壁、東壁が平行せず大きく開きことからすれば、平面形は、台形に近い形になりそうである。規模は、南北方向での現存長が4.69m、東西方向での長さは2.93mである。床面は、主に東半が不規則に硬化している。壁高は、北壁で9cmである。

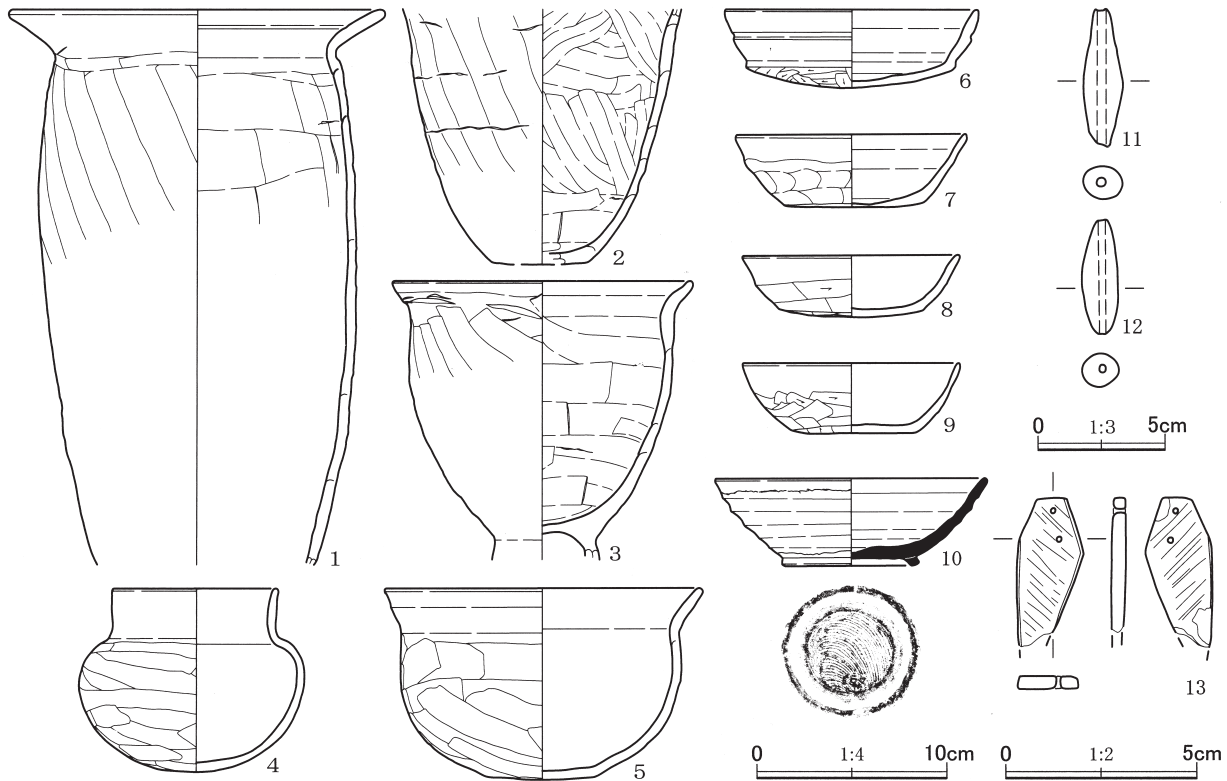
第544図1・2の甕、3の小型台付甕、4の短頸壺、5の鉢、6の坏は、北西隅近くの上層～床面直上から折り重なるようにして出土している。9の坏、13の滑石製模造品は、北東隅近くの床面より



第256号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～10mm)を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～5mm)を微量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)を少量含む。

第543図 第256号住居跡平面・断面図



第544図 第256号住居跡出土遺物

第253表 第256号住居跡出土遺物観察表(1)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 (20.5) 底径 — 器高 [30.5]	口縁部は外傾する。胴部は膨らみをもたない。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ、赤色化した粘土附着。 内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—にぶい橙色	口縁部～胴部2/3残存
2	甕	口径 — 底径 (5.2) 器高 [13.0]	胴部は膨らみをもたない。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面—胴部～底部ヘラケズリ。 内面—胴部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 外—橙色 内—明赤褐色	胴部下半～底部 外面磨耗

第254表 第256号住居跡出土遺物観察表(2)

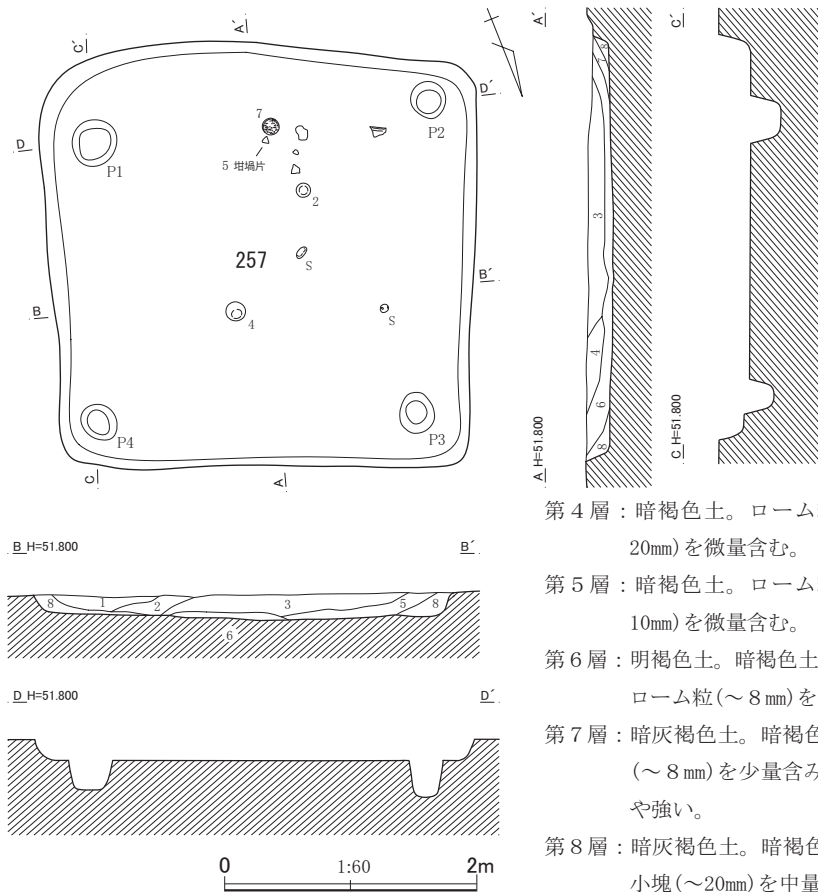
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
3	小型台付甕	口径 15.8 底径 — 器高 [15.3]	口縁部は外反する。胴部は膨らみをもたない。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 外—橙色 内—にぶい橙色	口縁部1/3および台部欠損 外面磨耗
4	短頸壺	口径 8.9 底径 — 器高 10.1	丸底。体部は張る。口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒・褐色粒 内外—橙色	完形
5	鉢	口径 17.4 底径 (6.0) 器高 10.5	口縁部は外傾する。体部は膨らみをもつ。丸みを帯びた平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	片岩・石英・白色粒・黒色粒 外—橙色 内—灰黄褐色	口縁部・底部一部欠損 外面磨耗
6	坏	口径 (13.9) 底径 — 器高 4.3	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外傾し、中に段を有する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—明褐色	1/2残存
7	坏	口径 (12.6) 底径 7.8 器高 4.0	平底。体部は彎曲して開き、口縁部はわずかに外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ナデ。底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒・褐色粒 外—橙色 内—にぶい橙色	2/3残存
8	坏	口径 (11.9) 底径 7.9 器高 3.6	丸みを帯びた平底。体部は彎曲して開き、口縁部はわずかに外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒 内外—にぶい黄褐色	2/3残存
9	坏	口径 (11.9) 底径 6.9 器高 3.7	平底。体部は彎曲して開き、口縁部はわずかに外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 外—にぶい橙色 内—褐色	1/2残存
10	須恵器高台付埴	口径 (14.5) 底径 7.9 器高 4.6	高台は断面方形を呈する。体部から口縁部にかけて彎曲して開く。ロクロ成形。	外面—ロクロナデ。底部外典糸切り。高台貼付時回転ナデ。内面—ロクロナデ。	白色粒 内外—灰白色	口縁部1/3欠損 還元焰焼成
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
11	土錘	長さ5.7、幅1.6、厚さ1.3、重さ10.01g。胎土：白色粒。色調：にぶい黄褐色。				完形
12	土錘	長さ4.7、幅1.5、厚さ1.4、重さ9.86g。胎土：白色粒。色調：灰黄褐色。				完形
13	石製模造品	長さ[3.9]、幅1.8、厚さ0.4、重さ5.45g。石材：滑石。剣形。表裏面に粗い研磨痕。穿孔2カ所あり。孔径0.15×0.15cm。				端部欠損

かなり浮いた位置から出土しており、あるいはこの部分に時期の新しい土坑などの遺構があったのかもしれない。平安時代前期後半の7・8の坏や10の須恵器高台付埴も同じような原因で混入した遺物と見られる。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末期中葉から後葉にかけての遺構である可能性が考えられる。

第257号住居跡 (第545～547図、第255・256表、図版64・171・172)

調査地点の東縁近くのほぼ中央、T11・12、U11・12グリッドに位置し、G群に含まれる住居跡である。第206・271号住居跡を切っている。第206号住居跡を入れ子状に切る本住居跡を確認できないまま調査を進めたため、第206号住居跡の床面以下の部分しか調査できなかった。よって確認面は、第206号住居跡の床面上であり、土層断面図に関しても、第206号住居跡の床面以下の部分のみを示すことしかできない。壁高や遺物の出土層準に関しても、第206号住居跡の床面下の値、層準を示した。

平面形は、方形である。規模は、南西—北東方向で3.35m、南東—北西方向で3.39mである。カマドがないため主軸を決めることができないが、南西—北東方向での中軸線の方位は、S—21°—Wである。床面には、かなり凹凸が見られるが、全体としては、おおむね平坦である。壁際を除いて、床面の主に中央が不規則に硬化している。壁の立ち上がりは比較的急峻で、壁高は、南西壁で13cm、北



第257号住居跡土層説明

- 第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～6mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・ローム粒(～8mm)を少量含む。
- 第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～6mm)を多量に含み、ローム小塊(～20mm)を中量、焼土粒(～1mm)を少量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含み、ローム小塊(～20mm)を微量含む。
- 第5層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。
- 第6層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)を中量含み、ローム粒(～8mm)を少量含む。
- 第7層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)・粘土粒(～8mm)を少量含み、粘土粒(～1mm)を中量含む。粘性はやや強い。
- 第8層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～20mm)を中量含む。

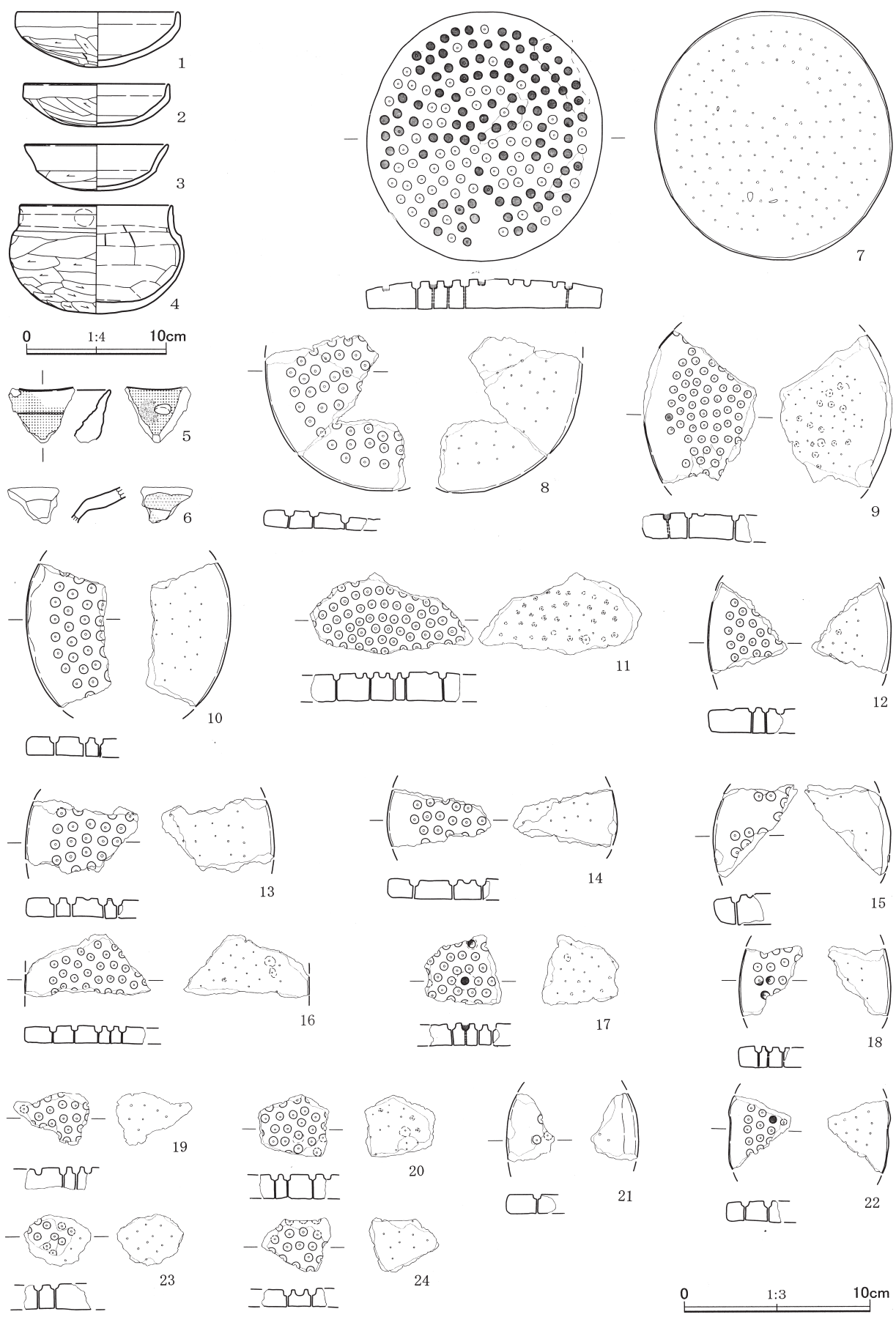
第545図 第257号住居跡平面・断面図

西・北東壁で19cm、南東壁で14cmである。

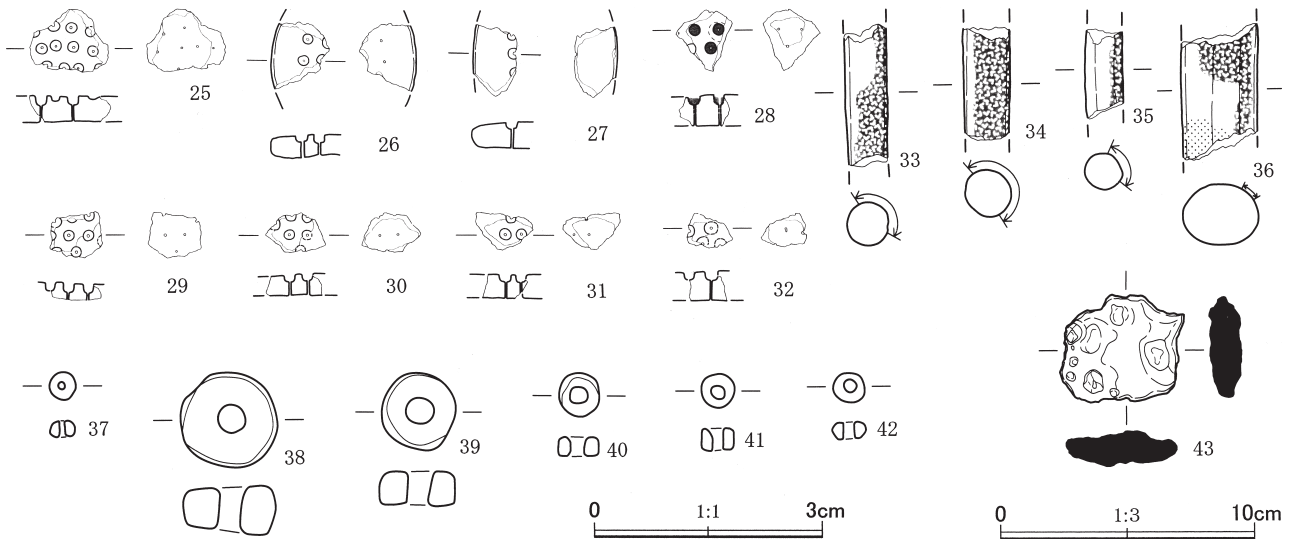
位置的に変則的ではあるが、P1～P4は、主柱穴であろう。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形である。深さは、P1が16cm、P2が28cm、P3が18cm、P4が19cmである。

覆土は、8層に分けられた。まず、大小の粘土粒が目立つ第7層やローム小塊をかなり含む第8層が壁際に堆積し、続いてやや大きめのローム粒を含む第6層やローム小塊を含む第5層が、主に北西壁側、南西壁側から流入し、さらに中央のくぼみに第1・2層やローム小塊をかなり含む第3層が順次流入し、住居跡が埋まった模様である。全体に大きな層相の変化は見られず、一連の堆積過程と思われるが、第3・8層のようにローム小塊を目立って含む土層がある点、自然流入土とばかりは言い切れないようにも思われる。

第546図2の坏は、住居跡中央のやや南西寄りの中～下層から、4の短頸壺は、中央のやや北東寄りの中～下層から出土している。7の完形のガラス小玉鋳型は、南西壁近くの中央、上層から出土している。第206号住居跡の覆土を切り込む部分を含む、本来の覆土全体を考えれば、2の坏、4の短頸壺は下位、7のガラス小玉鋳型は、おおむね中位の高さくらいから出土したことになる。第545図の土層で言えば、第3層土、あるいは第6層土の堆積とともに、本住居跡に流入、あるいは遺棄されたような遺物と見られる。5の埴塼片は、鋳型にごく近接した位置のほぼ同じ高さから出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末期中葉の遺構と考えられる。



第546图 第257号住居跡出土遺物 (1)



第547図 第257号住居跡出土遺物（2）

第255表 第257号住居跡出土遺物観察表（1）

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 (12.0) 底径 — 器高 4.1	丸底。体部は彎曲し、口縁部は短く直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—橙色	1/3残存
2	坏	口径 10.8 底径 — 器高 3.2	丸底。体部は彎曲し、口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 外—にぶい褐色 内—橙色	ほぼ完形
3	坏	口径 (10.6) 底径 — 器高 3.5	丸底。口縁部は体部との境にわずかな稜をもって外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒 内外—橙色	1/4残存
4	短頸壺	口径 11.4 底径 — 器高 8.2	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 外—橙色 内—明赤褐色	完形
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
5	転用 増埴?	器高[2.8]。胎土：白色粒。色調：外—オリーブ黒色、内—オリーブ黒色。内外面ともに全体的にガラス質化。内面は一部に緑錆が付着。				坏破片
6	転用 増埴?	器高[2.0]。胎土：白色粒。色調：外—にぶい黄色、内—暗灰黄色。外面は全体的に被熱変色している。内面は全体的にガラス質化。一部に緑錆が付着。				破片
7	ガラス小玉 鑄型	第960図117、第433表参照。				No.117
8	ガラス小玉 鑄型	第960図118、第433表参照。				No.118
9	ガラス小玉 鑄型	第960図119、第433表参照。				No.119
10	ガラス小玉 鑄型	第961図120、第433表参照。				No.120
11	ガラス小玉 鑄型	第961図121、第433表参照。				No.121
12	ガラス小玉 鑄型	第961図122、第433表参照。				No.122
13	ガラス小玉 鑄型	第961図123、第433表参照。				No.123
14	ガラス小玉 鑄型	第961図124、第433表参照。				No.124
15	ガラス小玉 鑄型	第961図125、第433表参照。				No.125
16	ガラス小玉 鑄型	第961図126、第433表参照。				No.126
17	ガラス小玉 鑄型	第961図127、第433表参照。				No.127
18	ガラス小玉 鑄型	第961図128、第433表参照。				No.128
19	ガラス小玉 鑄型	第961図129、第433表参照。				No.129
20	ガラス小玉 鑄型	第961図130、第433表参照。				No.130

第256表 第257号住居跡出土遺物観察表(2)

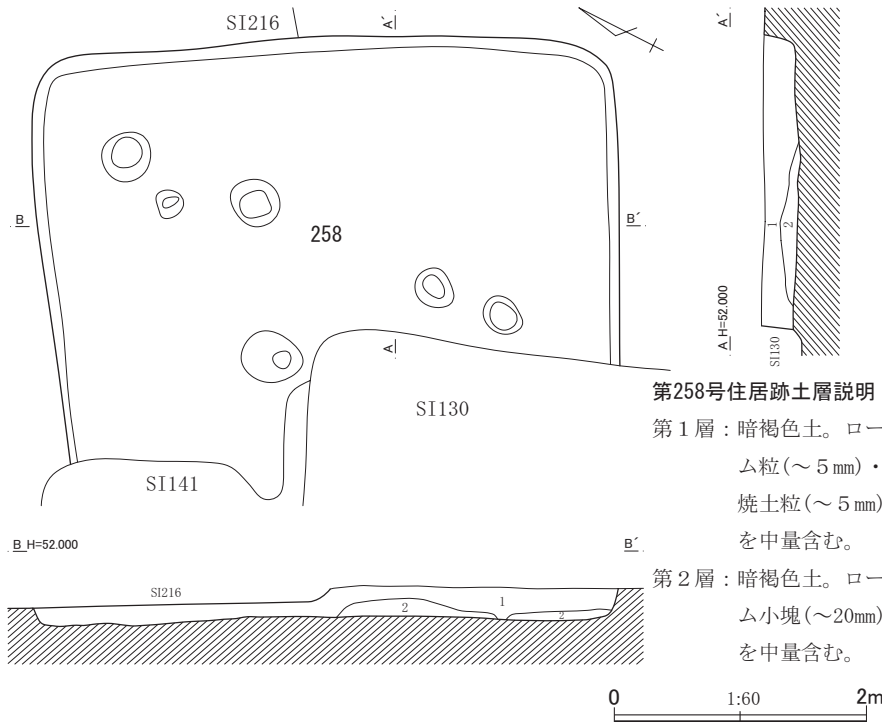
No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
21	ガラス小玉 鋳型	第962図131、第433表参照。	No.131
22	ガラス小玉 鋳型	第962図132、第433表参照。	No.132
23	ガラス小玉 鋳型	第962図133、第434表参照。	No.133
24	ガラス小玉 鋳型	第962図134、第434表参照。	No.134
25	ガラス小玉 鋳型	第962図135、第434表参照。	No.135
26	ガラス小玉 鋳型	第962図136、第434表参照。	No.136
27	ガラス小玉 鋳型	第962図137、第434表参照。	No.137
28	ガラス小玉 鋳型	第962図138、第434表参照。	No.138
29	ガラス小玉 鋳型	第962図139、第434表参照。	No.139
30	ガラス小玉 鋳型	第962図140、第434表参照。	No.140
31	ガラス小玉 鋳型	第962図141、第434表参照。	No.141
32	ガラス小玉 鋳型	第962図142、第434表参照。	No.142
33	棒状 土製品	第973図132、第440表参照。	No.132
34	棒状 土製品	第973図133、第440表参照。	No.133
35	棒状 土製品	第973図134、第440表参照。	No.134
36	棒状 土製品	第973図135、第440表参照。	No.135
37	ガラス 小玉	長さ0.4、幅0.4、孔径0.1×0.1、厚さ0.25、重さ0.08g。色調：緑色。	完形
38	石製品 白玉	長さ1.4、幅1.3、孔径0.4×0.4、厚さ0.7、重さ2.10g。石材：滑石。	完形
39	石製品 白玉	長さ1.1、幅1.0、孔径0.4×0.3、厚さ0.45、重さ0.97g。石材：滑石。	完形
40	石製品 白玉	長さ0.6、幅0.6、孔径0.25×0.2、厚さ0.3、重さ0.16g。石材：滑石。	完形
41	石製品 白玉	長さ0.5、幅0.4、孔径0.2×0.2、厚さ0.3、重さ0.09g。石材：滑石。	完形
42	石製品 白玉	長さ0.4、幅0.4、孔径0.2×0.2、厚さ0.25、重さ0.06g。石材：滑石。	完形
43	鉄滓	長さ4.5、幅5.2、厚さ1.3、重さ48.53g。	完形
44	琥珀片	長さ0.95、幅0.5、厚さ0.6、重さ0.13g。 / 長さ0.7、幅0.55、厚さ0.25、重さ0.04g。 / 長さ0.45、幅0.35、厚さ0.25、重さ0.02g。	破片3点 写真のみ

第258号住居跡(第548・549図、第257表、図版65・173)

調査地点の南東部中央の南東隅寄り、T13・14グリッドに位置し、H群に含まれる住居跡である。第130・141号住居跡に切られ、遺構の西半などを壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、方形、あるいは長方形と見てよいであろう。規模は、南北方向で4.62m、東西方向での現存長は6.83mである。主軸方向は確定できないが、東西方向での中軸線は、N-63°-Eあたりを指すようである。床面にはかなり凹凸があり、硬化は顕著ではない。壁高は、北東・南東壁で23cm、北西壁で13cmである。床面でピットを6個検出しているが、柱穴などと考えられるものはない。覆土は2層で、第2層には、ローム小塊がかなり混入する。

図示した土錘などの遺物が覆土中より出土している。重複関係から見て、奈良時代前半以前の遺構と考えられる。

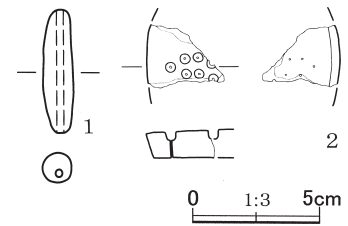


第548図 第258号住居跡平面・断面図

第258号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・焼土粒(～5mm)を中量含む。

第2層：暗褐色土。ローム小塊(～20mm)を中量含む。



第549図 第258号住居跡出土遺物

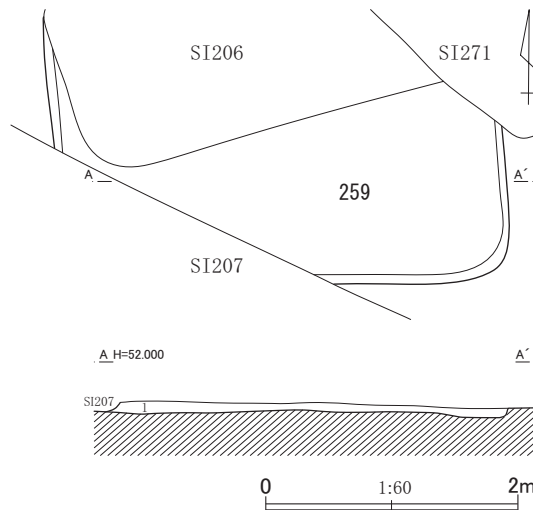
第257表 第258号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
1	土錘	長さ5.1、幅1.2、厚さ1.2、重さ8.04g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：橙色。	完形
2	ガラス小玉 鑄型	第962図143、第434表参照。	No.143

第259号住居跡 (第550・551図、第258表、図版65・173)

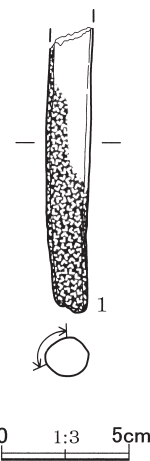
調査地点の東縁近くのほぼ中央、T12、U12グリッドに位置し、G群に含まれる住居跡である。第206・207・271号住居跡に切られ、南東隅付近から西壁の一部にかけてしか残存しない。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

規模は、南北方向での現存長が1.59m、東西方向での長



第259号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、焼土粒(～5mm)を微量含む。

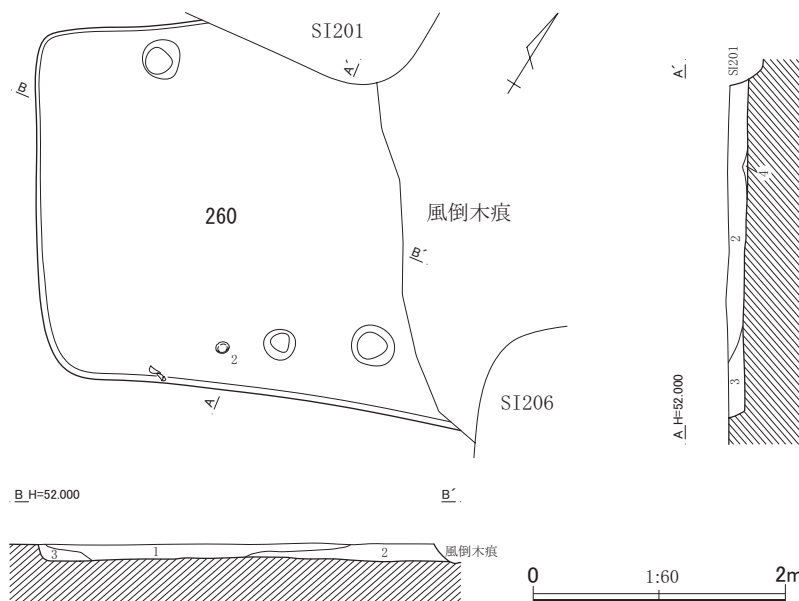


第551図 第259号住居跡出土遺物

第550図 第259号住居跡平面・断面図

第258表 第259号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
1	棒状土製品	第973図136、第440表参照。	No.136



第260号住居跡土層説明

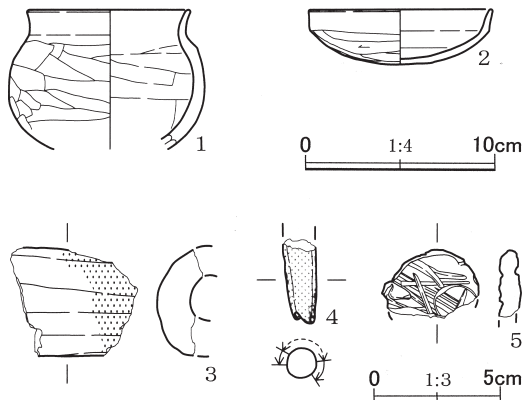
- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～30mm)を中量含み、焼土粒(～5mm)を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を中量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～30mm)を少量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム小塊(～30mm)を微量含む。

第552図 第260号住居跡平面・断面図

第259表 第260号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	鉢	口径 8.8 底径 — 器高 [7.6]	口縁部は外反気味に立ち上がる。体部は膨らみをもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外－橙色	口縁部～体部
2	坏	口径 10.0 底径 — 器高 3.0	丸底。体部は浅く、口縁部は外反気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外－橙色	ほぼ完形
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
3	羽口	長さ[4.5]、幅[5.3]、厚さ1.4、重さ31.72g。胎土：石英・白色粒。色調：外－にぶい橙色、内－にぶい褐色。外面は全体に熱変色し、一部は還元し灰色化する。				破片
4	棒状土製品	第973図137、第441表参照。				No.137
5	粘土塊	長さ[2.8]、幅4.0、厚さ0.9、重さ9.51g。胎土：白色粒。色調：外－暗灰黄色、内－黄灰色。				破片

さは3.58mである。床面は、部分的に硬化している。壁高は、西・南壁で3cm、東壁で7cmである。図示した棒状土製品などの遺物が覆土中より少量出土している。重複関係から見て、古墳時代後期初頭以前の遺構と考えられる。



第553図 第260号住居跡出土遺物

第260号住居跡 (第552・553図、第259表、図版65・173)

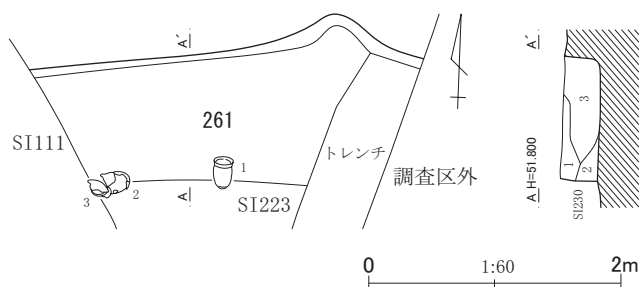
調査地点の北東部と南東部の境のほぼ中央、T11・12グリッドに位置し、F群に含まれる住居跡である。

第201号住居跡と重複関係にある。なお、第206号住居跡とも重複していた可能性があるが、風倒木痕が介在するため、直接切り合わない。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

規模は、南北方向で2.92m、東西方向の中軸線上での現存長は2.90mを測る。東西方向の中軸線が指す方位は、N-57°-Eである。床面の硬化は、顕著ではない。壁高は、北壁で13cm、南壁で12cm、

C地点

西壁で11cmである。床面で本住居跡に伴う可能性のあるピットを3個検出したが、位置的に見て、柱穴などではないようである。第553図2の坏は、南壁近くの中央の上層から出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末期後葉の遺構と考えられる。



第261号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・焼土粒(～5mm)を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。・ローム粒(～50mm)・ローム小塊(～30mm)・焼土粒(～5mm)を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～10mm)を中量含み、粘土粒(～5mm)を少量含む。

第554図 第261号住居跡平面・断面図

第260表 第261号住居跡出土遺物観察表

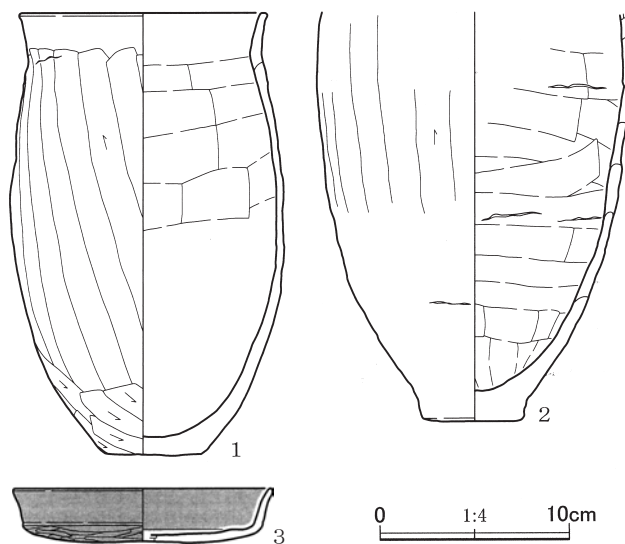
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 13.5 底径 5.3 器高 22.9	口縁部は緩やかに外反する。胴部は膨らみをもたない。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	片岩・石英・白色粒・黒色粒 内外－橙色	ほぼ完形 内面胴部下半は磨耗
2	甕	口径 — 底径 5.5 器高 [22.4]	胴部は膨らみをもたない。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面－胴部～底部ヘラケズリ。胴部下位磨耗。内面－胴部～底部ヘラナデ。	片岩・石英・白色粒・黒色粒 外－褐色 内－黒色	胴部下半～底部
3	坏	口径 14.1 底径 — 器高 2.9	丸底。体部は浅い。口縁部は体部との境に弱い稜をもって外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。黒色処理。内面－口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。黒色処理。	白色粒・黒色粒 外－にぶい橙色 内－にぶい黄橙色	1/2残存

第261号住居跡 (第554・555図、第260表、図版65・173)

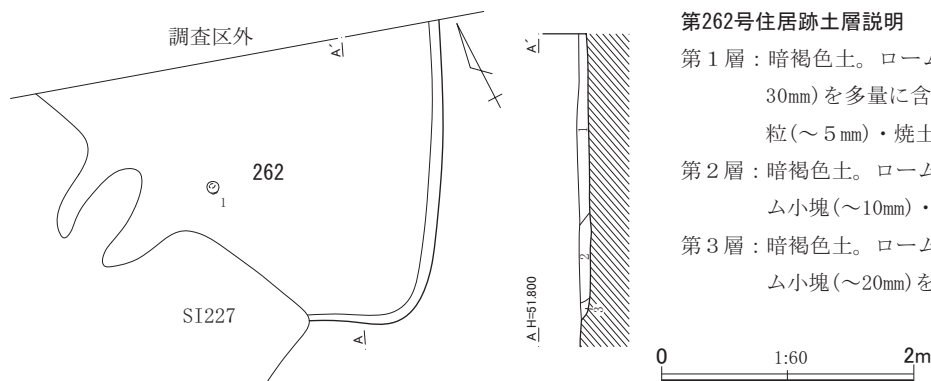
調査地点東沿いのほぼ中央、U12、V12グリッドに位置し、G群に含まれる住居跡である。第111・223号住居跡に切られ、東側は調査範囲外であるため、北壁と床面の極一部のみ残存する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

規模は、いずれも現存長になるが、北壁の長さは3.05m、南北方向での長さは1.25mである。床面の硬化は、顕著ではない。壁高は、北壁で26cmである。

第555図1の甕は、第223号住居跡に切られた境目の床面から、2の甕も丁度境目の床面よりやや浮いた位置から出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期後葉後半の遺構であろうか。



第555図 第261号住居跡出土遺物



第262号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～30mm)を多量に含み、炭化物粒(～5mm)・焼土粒(～5mm)・焼土小塊(～10mm)を中量含む。
 第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～5mm)を少量含む。
 第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)を少量含む。

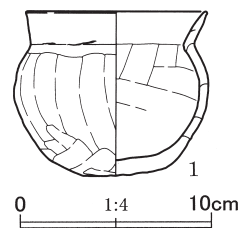
第556図 第262号住居跡平面・断面図

第261表 第262号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	鉢	口径 (9.8) 底径 — 器高 9.0	丸底。体部は膨らみをもち、口縁部は外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。内面一口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	片岩・石英・白色粒・黒色粒 外—橙色 内—にぶい橙色	口縁部2/3欠損

第262号住居跡 (第556・557図、第261表、図版65・173)

調査地点の北東部の屈曲した北縁沿い、V10・11グリッドに位置し、G群に含まれる住居跡である。第227号住居跡に切られ、北側は調査範囲外であるため、南東隅周辺のわずかな範囲のみ残存する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

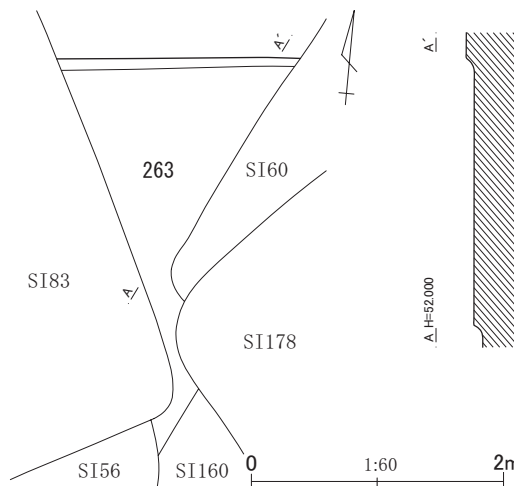


第557図 第262号住居跡出土遺物

規模は、いずれも現存長になるが、北西—南東方向で3.22m、北東—南西方向で2.41mである。床面はほぼ平坦であるが、硬化は顕著ではない。壁高は、南東壁で5cmである。第557図1の鉢は、第227号住居跡との重複部分に近い床面直上から倒置された状態で出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代中期末葉から後期初頭にかけての遺構であろう。

第263号住居跡 (第558・559図、第262・263表、図版173)

調査地点の東縁近くの中央、やや西寄り、O13、P13グリッドに位置し、I群に含まれる住居跡である。第56・60・83・160・178号住居跡に切られている。位



第558図 第263号住居跡平面・断面図

第262表 第263号住居跡出土遺物観察表 (1)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 (15.4) 底径 — 器高 [7.5]	口縁部は外傾する。胴部は膨らみをもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。内面一口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—橙色	口縁部～胴部上位1/2残存

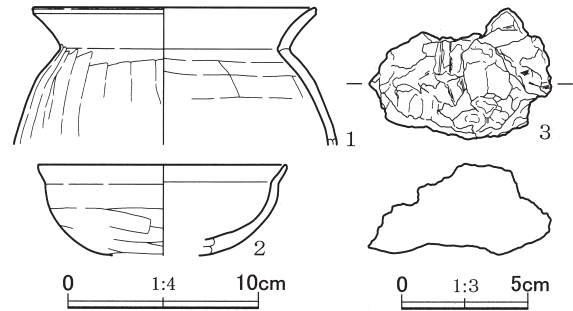
C地点

第263表 第263号住居跡出土遺物観察表（2）

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
2	坏	口径 (13.6) 底径 — 器高 [5.0]	体部は丸みをもつ。口縁部は短く外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部上位ナデ。体部中～下位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部磨耗。	石英・白色粒・黒色粒 内外—明赤褐色	口縁部～体部1/3残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
3	粘土塊	長さ5.4、幅7.6、厚さ4.7、重さ74.87g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：橙色。				完形

置的に第186号住居跡と重なるが、第178号住居跡などが介在し、直接の切り合い関係にはない。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

規模は、いずれも現存値ということになるが、北壁の長さは1.85m、南北方向での長さは3.15mである。床面はほぼ平坦であるが、硬化は顕著ではない。壁高は、北壁で6cmである。図示した土師器片などの遺物が覆土中から少量出土

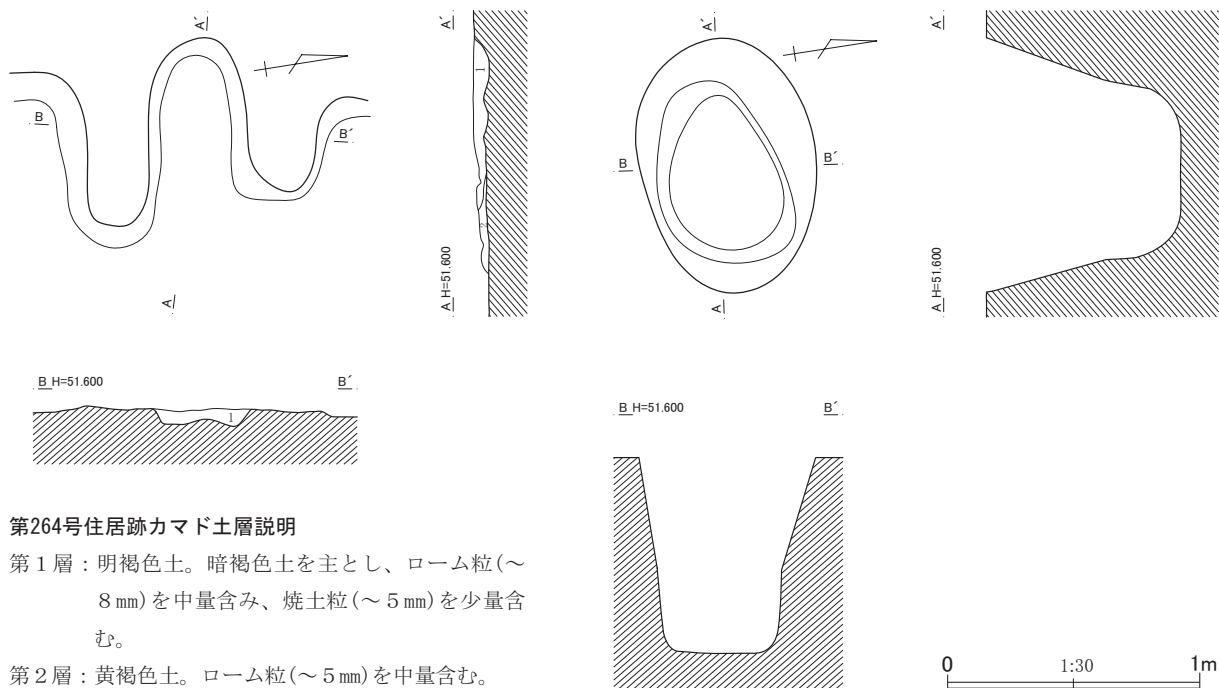


第559図 第263号住居跡出土遺物

しているのみである。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期初頭（古相）の遺構である。

第264号住居跡（第560～562図、第264表、図版65・173）

調査地点の北東部の北縁沿いのほぼ中央、T8グリッドに位置し、C群に含まれる住居跡である。検出時点で、ほとんど覆土が残存しておらず、わずかに残る壁から輪郭を捉えることができた。第303号住居跡を切っている。北壁から東壁にかけては調査範囲外である。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

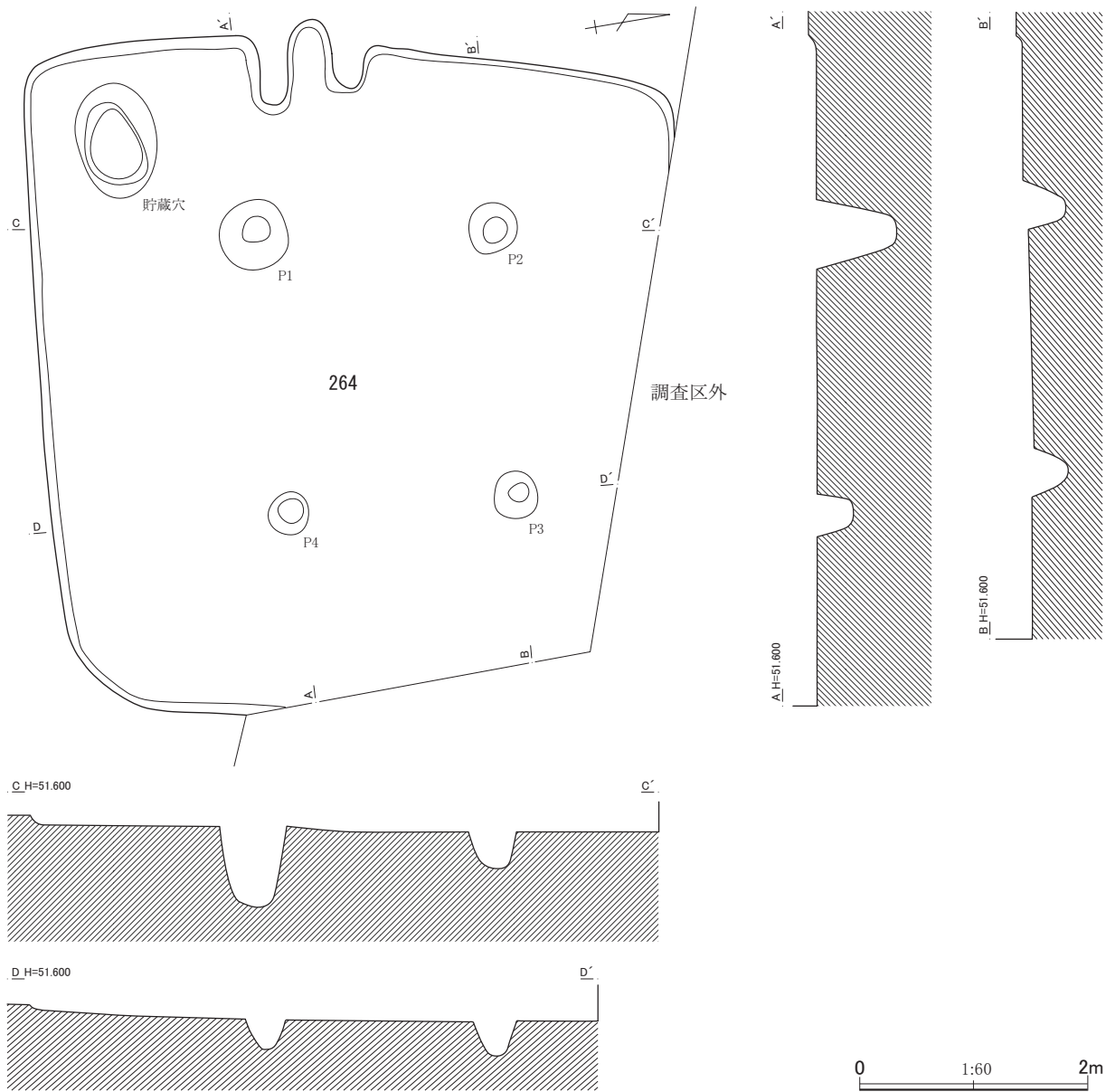


第264号住居跡カマド土層説明

第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～8mm）を中量含み、焼土粒（～5mm）を少量含む。

第2層：黄褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。

第560図 第264号住居跡平面・断面図（1）

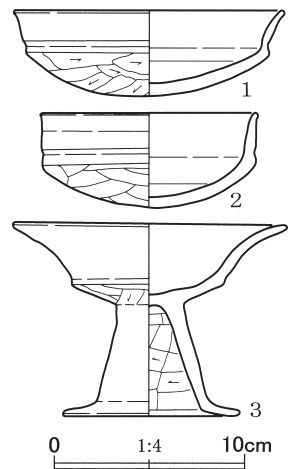


第561図 第264号住居跡平面・断面図（2）

平面形は、方形と見てよいのであろうが、西壁はカマドを境に、東に向きを変えるため、かなり歪な形になりそうである。いずれも現存長になるが、規模は、主軸方向で5.80m、副軸方向で5.30m、主軸方位は、N-85°-Wである。床面には細かな凹凸が見られ、硬化は明瞭ではない。壁はほとんど残存しておらず、壁高は、西壁で6cm、南壁で5cmである。

P1～P4は、主柱穴であろう。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形で、深さは、P1が71cm、P2が36cm、P3が31cm、P4が27cmである。南西隅の近くのピット、あるいは土坑は、貯蔵穴であろう。上端での平面形は、楕円形で、中段に段を有する。長径100cm、短径70cmである。中段以下は垂直に近く掘り込まれており、深さは、78cmである。

0 1:60 2m

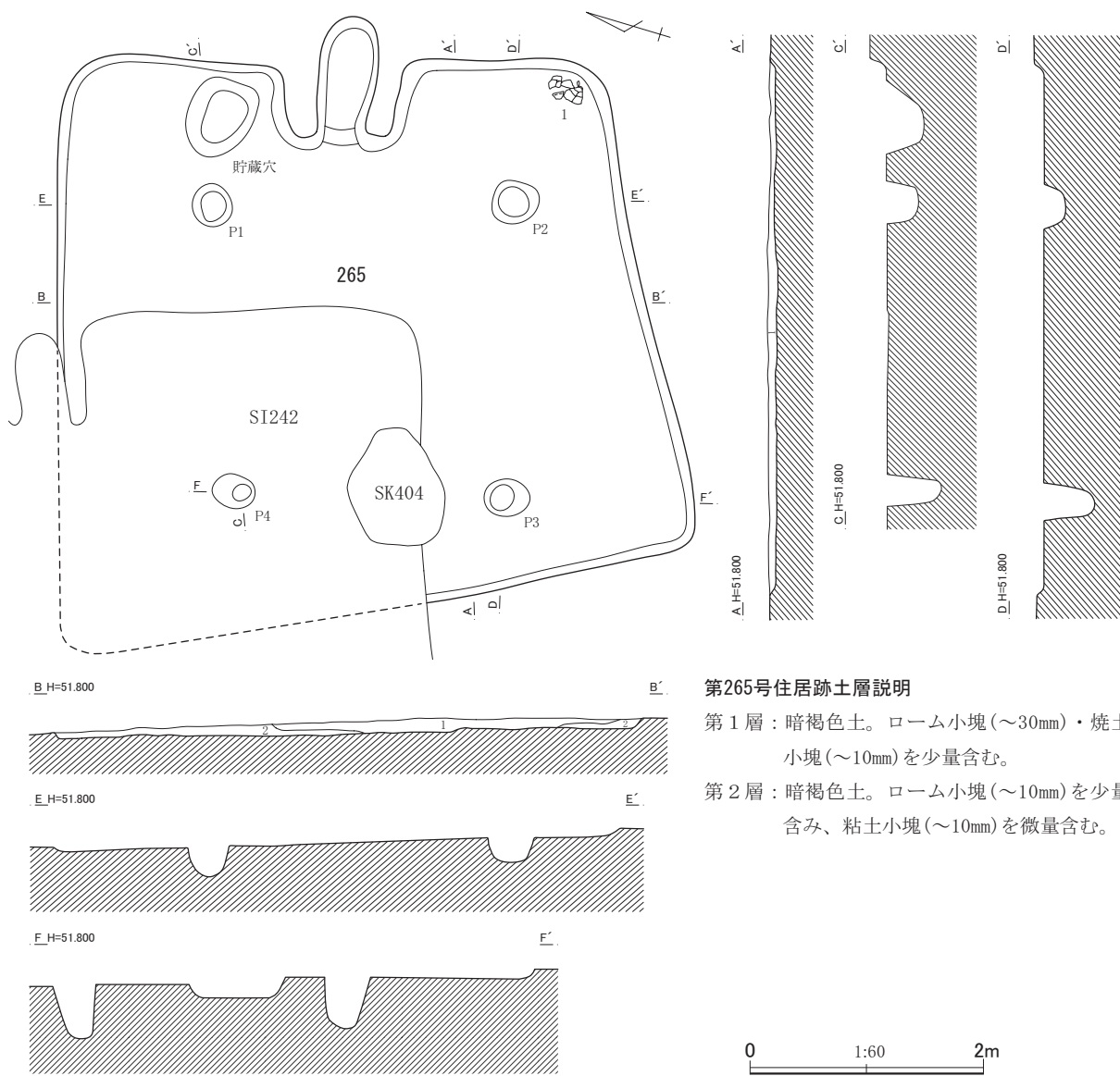


第562図 第264号住居跡出土遺物

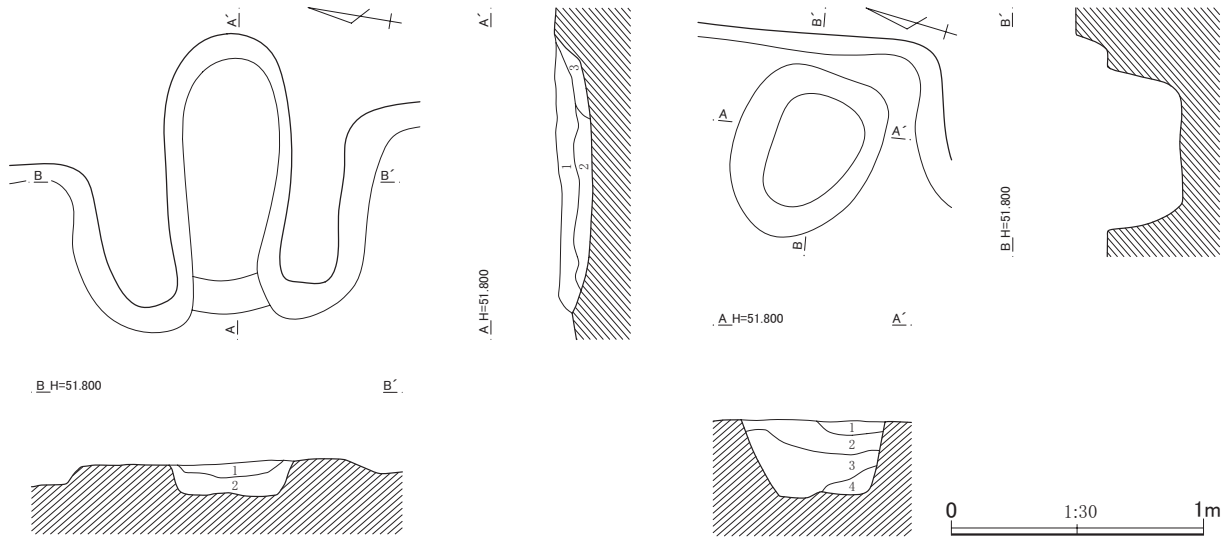
第264表 第264号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 14.7 底径 — 器高 4.7	丸底。口縁部は坏部との境に稜をもって外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—橙色	3/4残存
2	坏	口径 11.7 底径 — 器高 5.2	丸底。口縁部は坏部との境に弱い稜をもって直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒・褐色粒 内外—橙色	口縁部1/2欠損
3	高坏	口径 (14.9) 底径 (9.7) 器高 10.6	口縁部は坏部との境に弱い稜をもち、外反して開く。脚部は下方へ開き、裾部は短く広がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。坏部ヘラケズリ。脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。内面—口縁部ヨコナデ。坏部ヘラナデ。脚部ヘラケズリ。裾部ヨコナデ。	石英・白色粒 内外—橙色	2/3残存

カマドは、西壁の南西隅にかなり寄った位置に付設されている。残存状態によるためか右袖が左袖に比べ著しく短く、両袖に挟まれた燃焼部のみ残存する。燃焼面には、凹凸が著しい。袖端を前端とすると、燃焼部の長さは63cm、横幅は39cmである。奥壁、側壁の一部は、被熱により部分的に赤みを



第563図 第265号住居跡平面・断面図(1)



第265号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム小塊(～10mm)を微量含み、焼土小塊(～150mm)を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)を少量含み、焼土粒(～8mm)を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土小塊(～10mm)を中量含み、焼土粒(～5mm)を少量含む。

第265号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。焼土粒(～8mm)を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)・粘土粒(～8mm)を微量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム小塊(～30mm)を少量含み、焼土粒(～8mm)を微量含む。
- 第4層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～150mm)を中量含む。

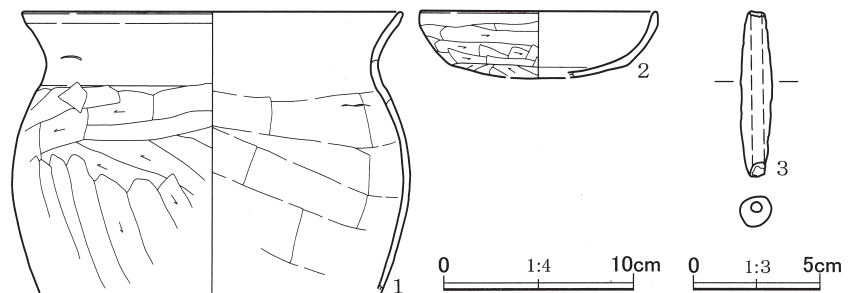
第564図 第265号住居跡平面・断面図(2)

帯び、硬化している。

重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期中葉の遺構と考えられる。

第265号住居跡(第563～565図、第265表、図版66・173)

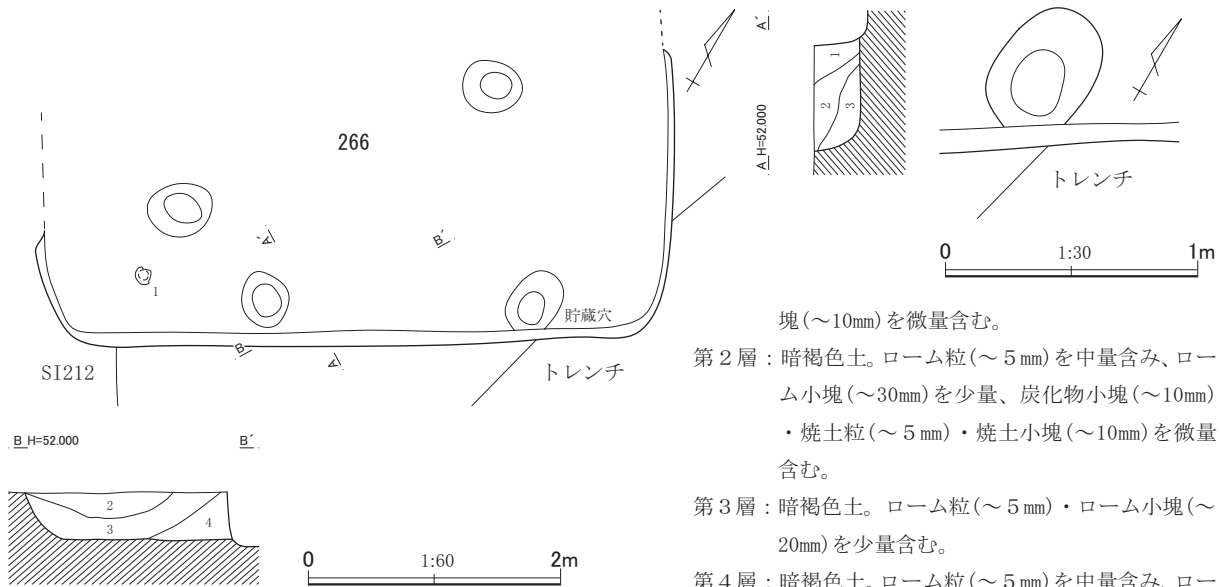
調査地点の中央北寄り、R9・10グリッドに位置し、B群に含まれる。第286・299号住居跡を切り、



第565図 第265号住居跡出土遺物

第265表 第265号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径(20.8) 底径— 器高[15.4]	口縁部は外反する。胴部は上位が張る。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 外—にぶい黄橙色 内—にぶい褐色	口縁部～胴部上半1/4残存
2	坏	口径(13.0) 底径— 器高[3.6]	丸底。体部は外傾して開き、口縁部は短く直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—明赤褐色	1/3残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
3	土錘	長さ6.8、幅1.3、厚さ1.2、重さ10.30g。胎土：白色粒。色調：赤褐色。				完形



第266号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～10mm)を中量含み、炭化物小塊(～10mm)・焼土粒(～5mm)・焼土小

塊(～10mm)を微量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～30mm)を少量、炭化物小塊(～10mm)・焼土粒(～5mm)・焼土小塊(～10mm)を微量含む。

第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～20mm)を少量含む。

第4層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を少量、焼土粒(～5mm)を微量含む。

第566図 第266号住居跡平面・断面図

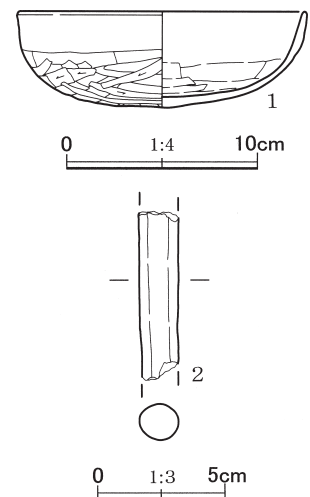
第242号住居跡、第404号土坑に切られ、遺構の北西部分を壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、方形と見てよいのであろうが、南北の壁が平行せず、南東隅が鈍角をなすため、扇形に近くなるようである。規模は、主軸方向の残りのよい部分で4.64m、副軸方向で5.11mである。主軸方位は、N-67°-Eである。壁高は、東・西・北壁で7cmである。

P1～P4は、支柱穴であろう。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形で、深さは、P1が45cm、P2が20cm、P3が26cm、P4が22cmである。カマドの左袖脇のピットは、貯蔵穴である。上端での平面形は、やや不整な楕円形で、長径70cm、短径55cmである。バケツ形に掘り込まれており、深さは、34cmである。覆土は4層で、第4層には、ローム小塊がかなり混入し、埋め戻された土と見てもよさそうである。

カマドは、東壁のほぼ中央に付設されている。低平な両袖に挟まれた燃焼部は、奥壁を掘り込んで造られている。燃焼部の長さは112cm、横幅は50cmである。燃焼面は、船底形に浅く掘りくぼめられ作出されている。側壁の上端は、被熱により、部分的にかすかに赤みを帯び、硬化している。カマド覆土は3層で、粘土小塊がかなり混入する第3層には、側壁などの崩落土が含まれるようである。

第565図1の甕は、南東隅近くの上層から出土した。重複関係、出土遺物から見て、奈良時代後半の遺構と考えられる。



第567図 第266号住居跡出土遺物

第266号住居跡 (第566・567図、第266表、図版173)

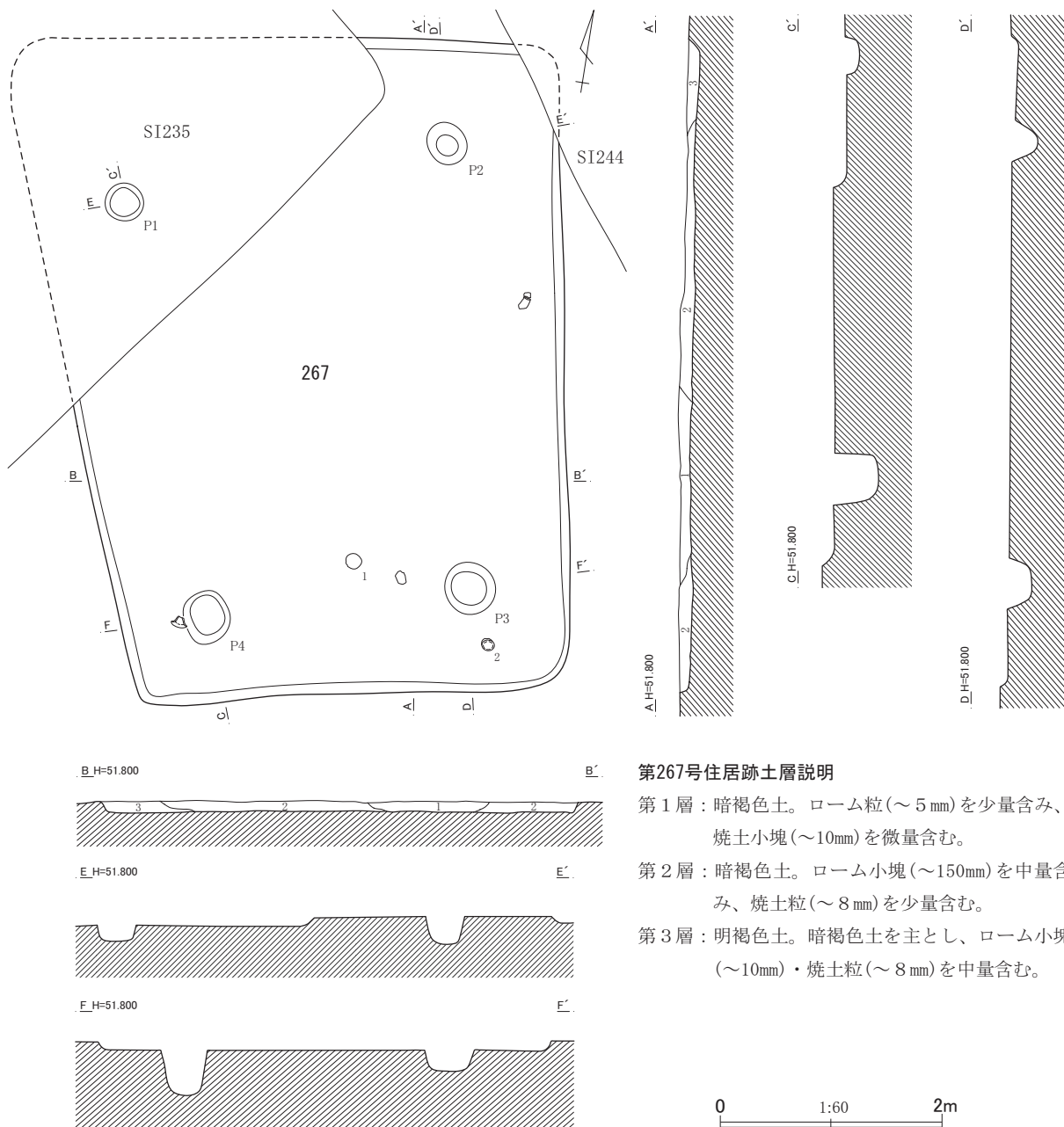
調査地点の東縁傍の中央、U13グリッドに位置し、G群に含まれる住居跡である。第253号住居跡

第266表 第266号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 (15.6) 底径 — 器高 5.3	丸底。体部は彎曲し、口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—橙色	口縁部1/2欠損
2	棒状土製品	第973図138、第441表参照。				No.138

を切っており、第111・212・254号住居跡と重複関係にある。南隅から東隅、北東壁にかけての壁と床面がL字形に細長く残るのみである。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

規模は、北東—南西方向で5.02m、北西—南方向での現存長は2.11mである。因みに南東壁は、N—58°—Eを指している。壁際を除く床面は、部分的に硬化している。壁の立ち上がりは、比較的



第568図 第267号住居跡平面・断面図

C地点

急峻で、壁高は、南東壁で36cmである。本住居跡に伴う可能性のあるピットを4個検出している。東隅近くのピットは、貯蔵穴の可能性があると考える。上端での平面形は、楕円形で、長径54cm、短径38cm、深さは28cmである。

第567図1の坏は、南西隅近くの床面直上から出土している。重複関係、出土遺物から見て、奈良時代前半の遺構と考えられる。

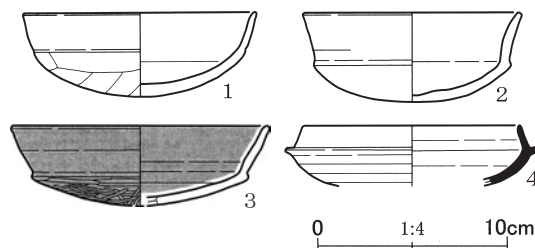
第267号住居跡（第568・569図、第267表、図版66・173）

調査地点の北西部の中央、北西寄り、O8、P8グリッドに位置し、A群に含まれる住居跡である。第283・289・297号住居跡を切っており、235・244号住居跡に切られ、北西隅周辺および北東隅などを壊されている。また、第319号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、やや歪ではあるが、長方形と見られる。カマドは検出できなかったが、第235号住居跡に大きく壊された北壁にあったと見てよいであろう。よって主軸を南北方向と推定し、以下の記載を行なう。規模は、主軸方向で5.93m、副軸方向で4.44mである。主軸方向は、N-9°-Wと推定できる。床面は、主に支柱穴を結ぶ範囲の東半が硬化しており、細かな凹凸が見られる。壁高は、北・西壁で10cm、東・南壁で9cmである。

位置的にやや変則的であるが、P1～P4は、支柱穴であろう。いずれも上端での平面形は、円形、あるいはやや不整な円形で、深さは、P1が18cm、P2が24cm、P3が20cm、P4が40cmである。

第569図1・2の2個体の坏は、P3の周辺から出土したが、2の坏のみ床面直上から出土した。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末期前葉頃の遺構であろうか。



第569図 第267号住居跡出土遺物

第268号住居跡（第570・571図、第268表、図版66・174）

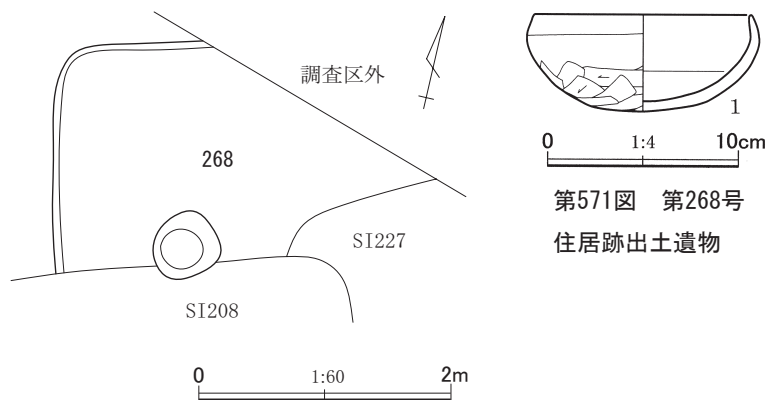
調査地点の北東部の屈折した北縁沿い、U10・11グリッドに位置し、G群に含まれる住居跡である。第208・227号住居跡を切られ、北側は、調査範

第267表 第267号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 12.7 底径 — 器高 4.6	丸底。口縁部は体部との境に弱い稜をもって外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外-橙色	口縁部一部欠損
2	坏	口径 (11.8) 底径 — 器高 4.6	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外反する。口唇部は外側に面をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部磨耗。内面-口縁部ヨコナデ。体部~底部磨耗。	石英・白色粒・褐色粒 内外-橙色	口縁部3/4欠損
3	坏	口径 (14.0) 底径 — 器高 [4.4]	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラケズリ後ミガキ。黒色処理か。内面-口縁部~体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。黒色処理か。	石英・白色粒・黒色粒 外-橙色 内-にぶい黄橙色	1/3残存
4	須恵器坏	口径 (12.0) 底径 — 器高 [3.3]	口縁部は内傾する。受部は横に開く。ロクロ成形。	外面-ロクロナデ。体部~底部回転ヘラケズリ。内面-ロクロナデ。	白色粒 内外-灰色	1/5残存 還元焰焼成

囲外であり、西隅周辺のわずかな範囲のみ残存する。なお、第217号住居跡とも重複する位置にあるが、第208号住居跡が介在し、直接切り合わない。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

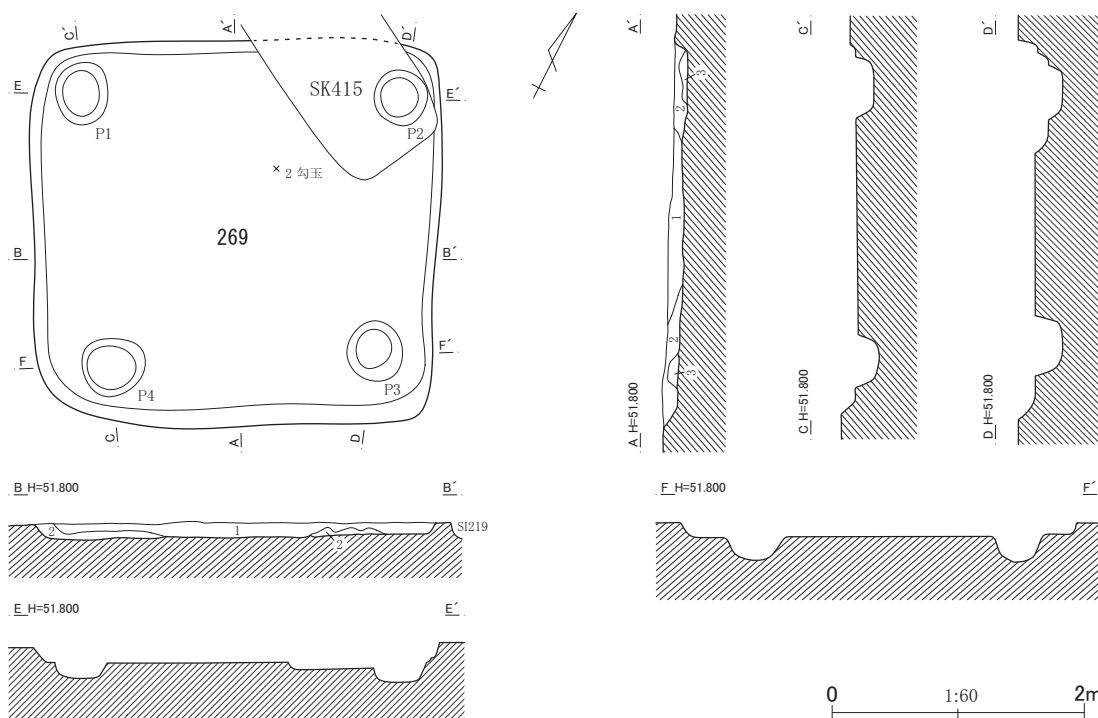
いずれも現存長になるが、規模は、東西方向で3.05m、南北で1.87mである。床面はあまり硬化していない。第208号住居跡と重複する南端部分でピットを検出している。位置的に見て、支柱穴の可能性があると見られる。上端での平面形は、やや不整な円形で、深さは18cmである。図示した土師器片などの遺物が覆土中より少量出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期初頭（古相）の遺構であろうかと思われる。



第570図 第268号住居跡平面図

第268表 第268号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 11.8 底径 — 器高 5.3	丸底。体部は彎曲する。口縁部は内彎する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部上半ナデ。体鵜下半～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 外—橙色 内—明赤褐色	1/2残存



第269号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム小塊（～20mm）を少量含み、焼土粒（～8mm）を微量含む。
第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊（～20mm）

を中量含み、焼土粒（～8mm）を微量含む。
第3層：黄褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊（～30mm）を多量に含む。

第572図 第269号住居跡平面・断面図

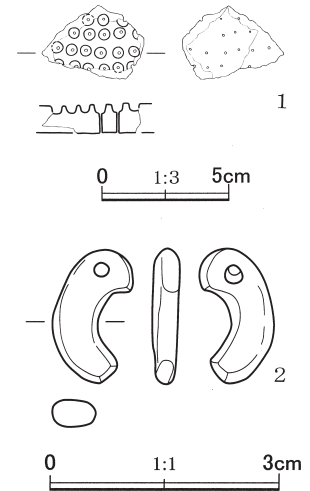
C地点

第269号住居跡（第572・573図、第269表、図版67・174）

調査地点の北西部と北東部の境近くの中央、やや東寄り、S9・10グリッドに位置し、C群に含まれる住居跡である。第415号土坑に切られ、壁および床面の一部を壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、方形である。規模は、北西—南東方向で3.07m、北東—南西方向で3.21m、北西—南東方向での中軸線の方位は、N-27°-Wである。床面は、支柱穴を結ぶ範囲が、所々かすかに硬化している。壁高は、北西壁で10cm、北東壁で9cm、南東・南西壁で11cmである。P1～P4は、支柱穴であろう。上端での平面形は、いずれもほぼ円形で、深さは、P1が15cm、P2が14cm、P3が22cm、P4が20cmである。覆土は、暗褐色土を主とする3層に分けられた。第2・3層は、ローム小塊を目立って含む埋め戻されたような土である。

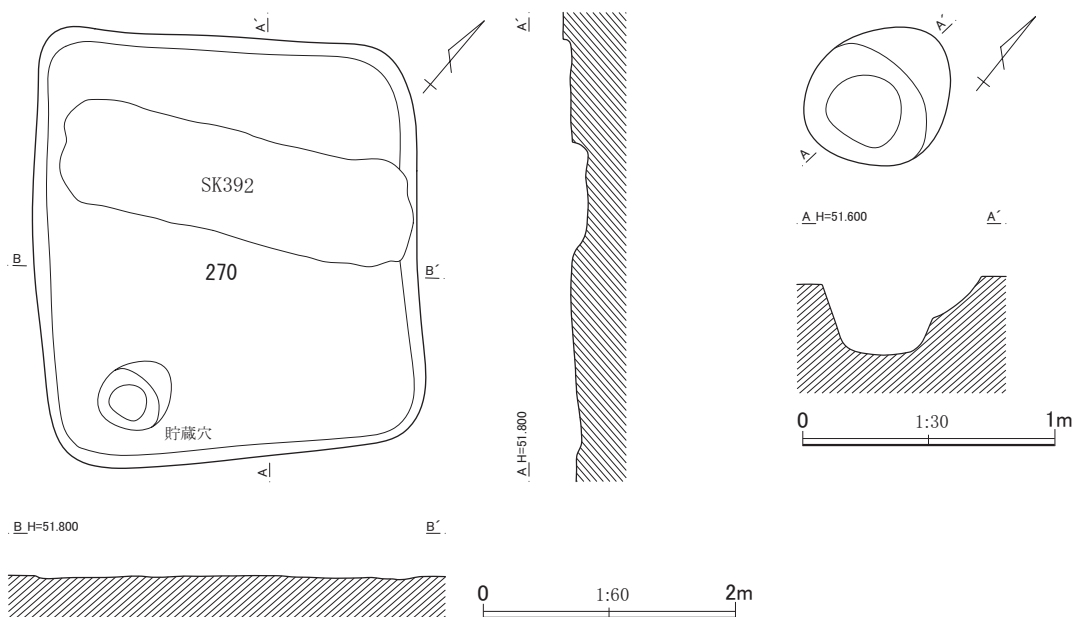
第573図2の石製勾玉は、住居跡中央やや北よりの床面直上から出土した。出土遺物から見て、古墳時代の遺構である可能性が考えられる。隅に著しく寄った支柱穴を有するカマドのない小型住居跡という点で、第257号住居跡に類似している。



第573図 第269号住居跡出土遺物

第269表 第269号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
1	ガラス小玉 鏝型	第962図144、第434表参照。	No.144
2	石製品 勾玉	長さ1.85、幅1.1、厚さ0.4、孔径0.2×0.2、重さ0.914g。石材：粘板岩。調整：丁寧な研磨。	完形



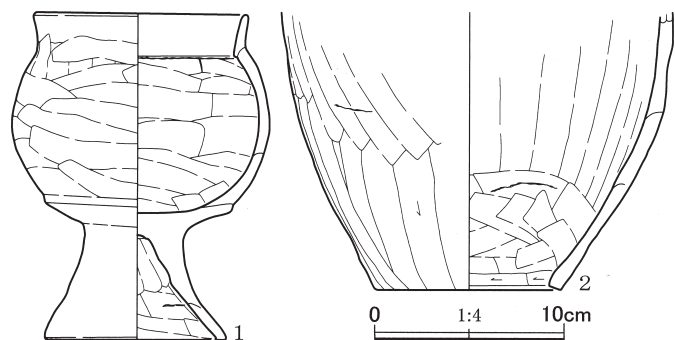
第574図 第269号住居跡平面・断面図

第270号住居跡（第574・575図、第270表、図版67・174）

調査地点の北縁近くのほぼ中央、S 8・9グリッドに位置し、C群に含まれる住居跡である。わずかな壁の立ち上がりと残存する覆土から辛うじて検出しえた遺構である。第392号土坑に切られ、北西半の床面を壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、方形である。規模は、北西—南東方向で3.37m、北東—南西方向で3.05m、北西—南東方向での中軸線の方位は、N-42°-Wである。床面には微妙な凹凸が目立つが、全体としてはおおむね平坦である。床面の中央は、部分的に硬化している。壁高は、北西・南東壁で5cm、北東・南西壁で2、3cmである。南隅近くのピットは、貯蔵穴であろうか。上端での平面形は、楕円形で、長径62cm、短径54cmである。バケツ形に掘り込まれているが、北側は中端から上端にかけて傾斜が変わるようである。深さは、20cmである。

図示した遺物以外、土師器片を主とする遺物が微量出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代中期末葉から後期初頭にかけての遺構と考えられる。



第575図 第270号住居跡出土遺物

第270表 第270号住居跡出土遺物観察表

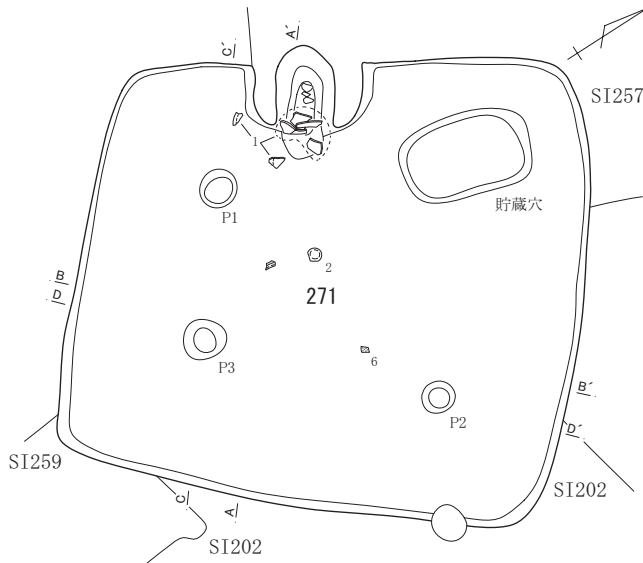
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	脚付鉢	口径 (11.5) 底径 9.8 器高 17.0	口縁部は直立する。胴部は中位が張る。台部は「ハ」の字状に開く。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。台部ナデ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。台部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—明赤褐色	口縁部～胴部2/3欠損
2	甌	口径 — 底径 (10.2) 器高 [15.3]	胴部は下方へ向かってやや窄まる。底部は筒抜け。粘土紐積み上げによる成形。	外面—胴部ヘラケズリ後、中位ヘラナデ。内面—胴部ヘラナデ、下端ヘラケズリ。	石英・白色粒・黒色粒・褐色粒 外—明赤褐色 内—橙色	胴部下半～底部2/3残存

第271号住居跡（第576・577図、第271表、図版67・174）

調査地点の東縁近くほぼ中央、やや西寄り、T12、U12グリッドに位置し、G群に含まれる住居跡である。第202・257・259号住居跡が上部に重なっており、壁の下位が残存する状態である。また、第206号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

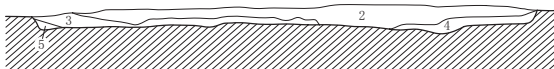
平面形は、横長の長方形と見られるが、かなり歪である。規模は、主軸方向で3.53m、副軸方向で4.03mである。主軸方位は、N-58°-Wである。床面は、著しく凸凹しており、あるいは、上部の住居跡が造られた際に、床面が所々壊されているのかもしれない。床面は、ほとんど硬化していない。壁高は、北西壁で13cm、北東壁で9cm、南東壁で14cm、南西壁で8cmである。

P 1～P 3は、支柱穴であろう。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形で、深さは、P 1が8cm、P 2が41cm、P 3が28cmである。北隅とカマドの右袖の間のピット、あるいは土坑は、貯蔵穴であろう。上端での平面形は、やや角張った楕円形で、長径105cm、短径65cmである。船底形に掘り込まれており、深さは12cmである。覆土は3層で、第3層には、ローム小塊が多量に混入しており、



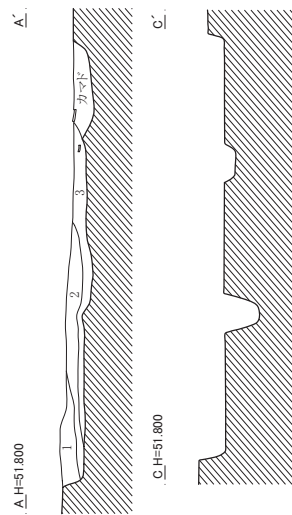
B H=51.800

B'



D H=51.800

D'



第271号住居跡土層説明

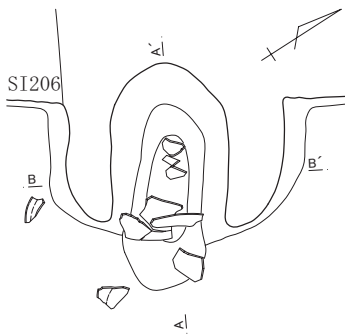
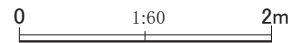
第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・焼土粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)・焼土小塊(～10mm)を微量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・焼土粒(～5mm)を少量含み、焼土小塊(～10mm)を微量含む。

第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～30mm)を多量に、焼土粒(～5mm)を少量含む。

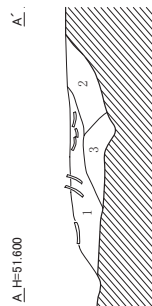
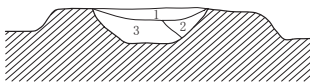
第4層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・焼土粒(～5mm)を微量含み、ローム小塊(～20mm)を中量含む。

第5層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含み、ローム小塊(～30mm)を微量含む。

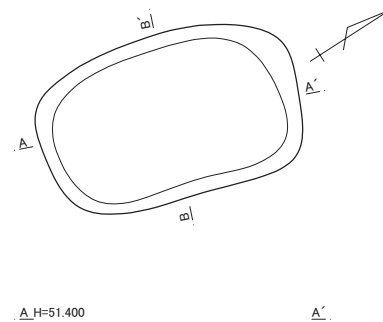


B H=51.600

B'

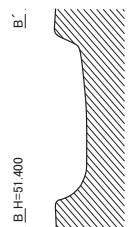
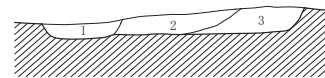


A H=51.600

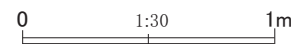


A H=51.400

A'



B H=51.400



第271号住居跡カマド土層説明

第1層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)・粘土小塊(～10mm)・焼土小塊(～10mm)を少量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含み、焼土粒(～5mm)を中量含む。

第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、焼土粒(～5mm)を多量に含む。

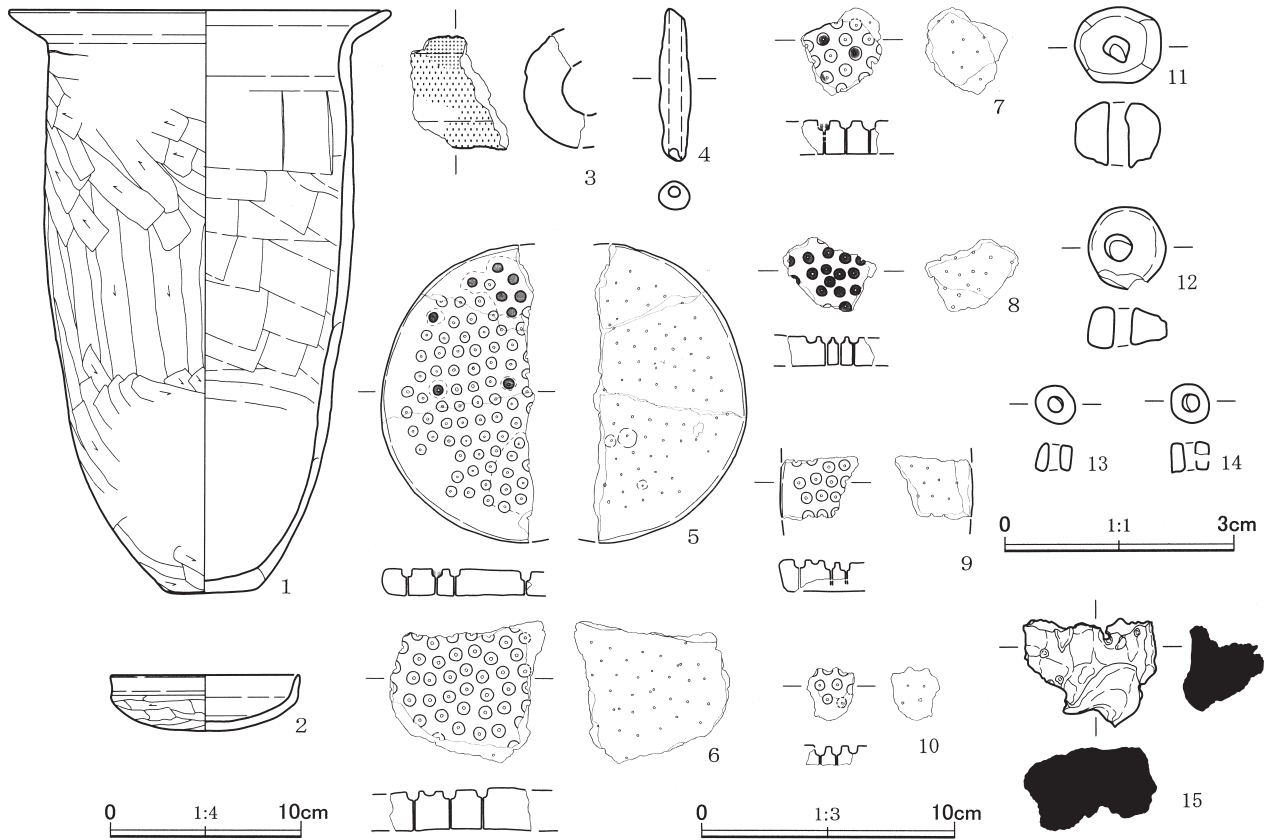
第271号住居跡貯藏穴土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～20mm)を中量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～10mm)を中量含む。

第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)を多量に含む。

第576図 第271号住居跡平面・断面図



第577図 第271号住居跡出土遺物

第271表 第271号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 (20.7) 底径 4.9 器高 30.2	口縁部は強く外反する。胴部は膨らみをもたない。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。底部磨耗。内面-口縁部ヨコナデ。胴部~底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 外-にぶい橙色 内-橙色	口縁部~胴部 2/3欠損
2	坏	口径 10.2 底径 — 器高 3.1	丸底。体部は浅い。口縁部は体部との境に弱い稜をもって直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部~体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外-橙色	口縁部~体部 1/3欠損
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
3	羽口	長さ[4.7]、幅[4.1]、厚さ2.5、重さ29.02g。胎土：石英・白色粒・褐色粒。色調：橙色。全体に灰色に熱変色し、一部は黒色ガラス質に滓化する。				破片
4	土錘	長さ6.3、幅1.3、厚さ1.2、重さ8.62g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい褐色。				完形
5	ガラス小玉 鑄型	第962図145、第434表参照。				No.145
6	ガラス小玉 鑄型	第962図146、第434表参照。				No.146
7	ガラス小玉 鑄型	第962図147、第434表参照。				No.147
8	ガラス小玉 鑄型	第963図148、第434表参照。				No.148
9	ガラス小玉 鑄型	第963図149、第434表参照。				No.149
10	ガラス小玉 鑄型	第963図150、第434表参照。				No.150
11	土玉	長さ1.05、幅1.2、孔径0.35×0.3、厚さ0.9、重さ1.273g。胎土：白色粒。色調：にぶい赤褐色。調整：ナデ。				完形
12	石製品 白玉	長さ1.15、幅1.05、孔径0.4×0.35、厚さ0.6、重さ0.805g。石材：滑石。				一部欠損
13	石製品 白玉	長さ0.55、幅0.55、孔径0.2×0.2、厚さ0.4、重さ0.149g。石材：滑石。				完形
14	石製品 白玉	長さ0.5、幅0.5、孔径0.25×0.2、厚さ0.4、重さ0.139g。石材：滑石。				一部欠損
15	鉄滓	長さ4.5、幅5.4、厚さ3.5、重さ46.65g。				完形

C地点

埋め戻された土と見られる。

カマドは、北西壁の中央、東隅にやや寄った位置に付設されている。低平な両袖に挟まれた燃焼部は、奥壁を掘り込んで造られている。燃焼部の長さは91cm、横幅は46cmである。燃焼面は、船底形に浅く掘りくぼめられており、凸凹している。側壁の上端は、被熱により、部分的にかすかに赤みを帯び、硬化している。カマド覆土は3層で、ローム小塊、粘土小塊、焼土小塊を含む第1層や焼土粒子を多量に含む第3層には、側壁などの崩落土が含まれるようである。

覆土は、暗褐色土を主とする5層に分けられた。焼土粒をかなり含む第1層やローム小塊を多量に含む第3層など、やや特異な層が見られ、また、全体に土層の乱れが看取できる。

第577図1の甕は、カマド焚口付近からカマド内にかけてかなり高い位置で、2の坏は、住居跡中央の上層から出土した。6のガラス小玉鑄型は、やはり住居跡中央の上層から出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末期中葉の遺構と考えられる。

第272号住居跡（第578～580図、第272表、図版68・174）

調査地点の東縁近くの中央、やや北寄り、U11・12、V11・12グリッドに位置し、G群に含まれる住居跡である。第287号住居跡を切り、第202・217・228・276号住居跡に切られ、北壁から北東隅にかけての範囲、および南壁を大きく壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

4本柱の主柱穴が2組みあり、規模の小さい段階からより大きな段階へと拡張して建て替えられたと推定される。規模の小さな古い段階の住居跡を第272B号住居跡、拡張後の新しい段階の住居跡を第272A号住居跡と呼称し、以下の記載を行う。

第272A号住居跡の平面形は、南北方向に比し東西方向がいくらか長い長方形と見られる。規模は、南北方向での現存長が5.86m、東西方向の長さは6.44mである。カマドがあったとすれば、他の遺構に壊された北壁あるいは南壁と考えられるから、主軸方位は、N-12°-W、あるいはその反対方向となる。

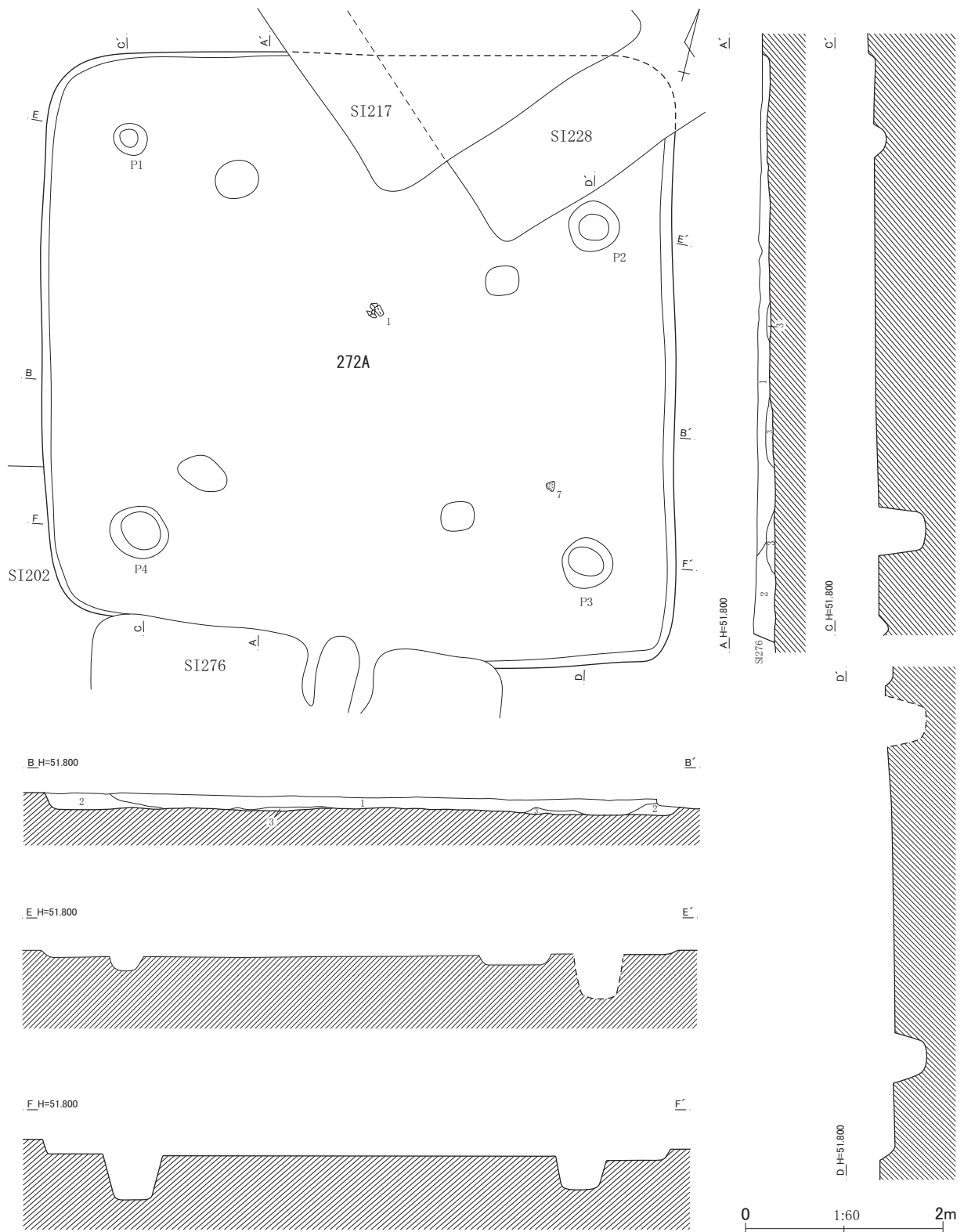
床面には細かな凹凸があるが、全体的に平坦である。床面は、中央から北半にかけて、軽微ながらも硬化している。壁高は、北壁で8cm、東壁で7cm、南壁で22cm、西壁で16cmである。

P1～P4は、主柱穴と考えられるピットである。上端での平面形は、いずれもやや不整な円形で、深さは、P1が12cm、P3が31cm、P4が48cmである。

覆土は、暗褐色土を主とする3層に分けられた。いずれの層も、ローム小塊を顕著に含むが、とくに第3層は、ローム小塊の混入が著しい。

第580図1の甕破片は、住居跡のほぼ中央、7のガラス小玉鑄型片は、P3の北東脇、いずれも覆土上層ないしは最上層に相当する位置で出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末期中葉の遺構と考えられる。

第272B号住居跡は、第272A号住居跡より一回り小さい拡張前の住居跡であり、主柱穴のみ残存する。P1～P4は、主柱穴と考えられるピットである。上端での平面形は、いずれもやや不整な円形、楕円形で、深さは、P1が39cm、P3が35cm、P4が33cmである。272A号住居跡と大きな時間差をもたないとすれば、古墳時代終末期中葉前後の遺構である可能性が考えられる。



第272号住居跡土層説明

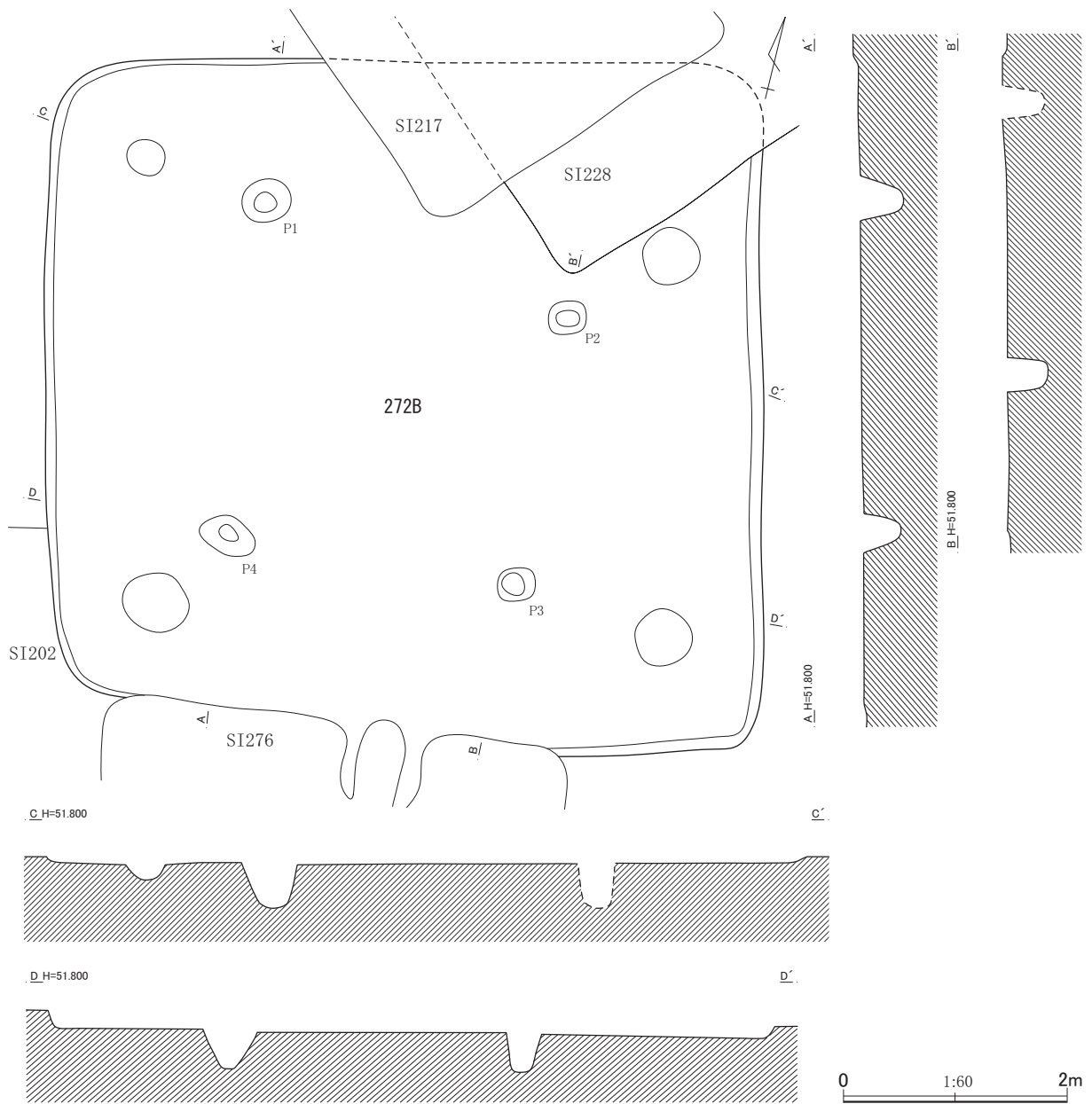
第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～20mm)を中量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～10mm)

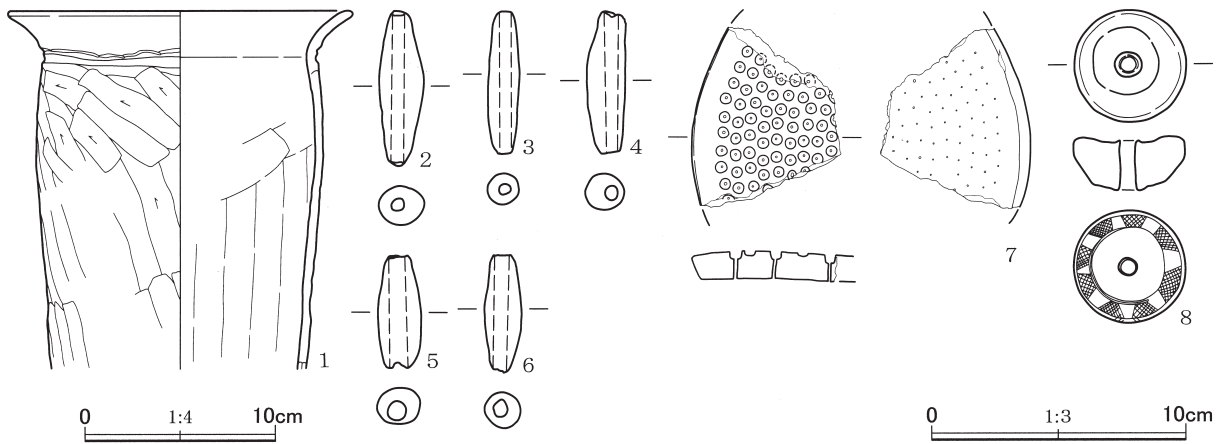
を中量含む。

第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)を多量に含む。

第578図 第272A号住居跡平面・断面図



第579图 第272B号住居跡平面・断面图



第580图 第272号住居跡出土遺物

第272表 第272号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 (18.8) 底径 — 器高 [19.6]	口縁部は外反する。胴部は膨らみをもたない。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒・褐色粒 外—橙色 内—明赤褐色	口縁部～胴部1/3残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
2	土錘	長さ6.4、幅1.9、厚さ1.6、重さ16.40g。胎土：白色粒。色調：明褐色。				完形
3	土錘	長さ5.9、幅1.3、厚さ1.3、重さ8.91g。胎土：白色粒。色調：灰黄褐色。				完形
4	土錘	長さ5.9、幅1.6、厚さ1.5、重さ13.26g。胎土：白色粒。色調：明褐色。				完形
5	土錘	長さ4.6、幅1.8、厚さ1.5、重さ12.18g。胎土：白色粒。色調：明褐色。				完形
6	土錘	長さ4.8、幅1.5、厚さ1.5、重さ10.01g。胎土：白色粒。色調：明褐色。				完形
7	ガラス小玉 鋳型	第963図151、第434表参照。				No.151
8	石製 紡錘車	上面径4.6、下面径3.1、厚さ2.2、重さ69.02g。石材：滑石。調整：上下面は丁寧なミガキ。側面は2条の横位沈線間に斜格子状の線刻が8単位施文。				ほぼ完形

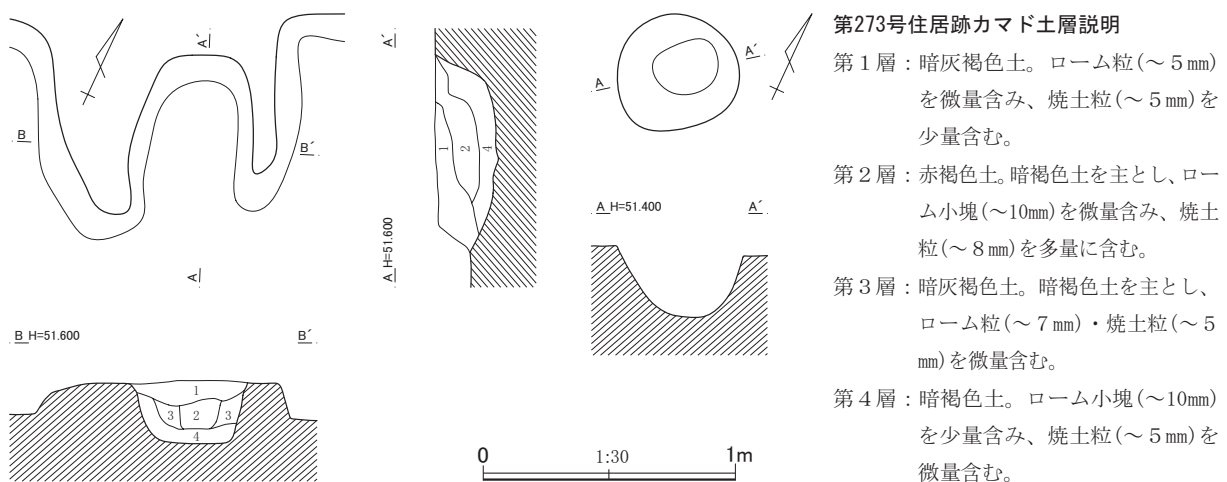
第273号住居跡（第581～583図、第273表、図版68・175）

調査地点の北西部の北縁近くの中央、P7・8、Q7・8グリッドに位置し、B群に含まれる住居跡である。第243・293号住居跡を切っており、第139・359号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

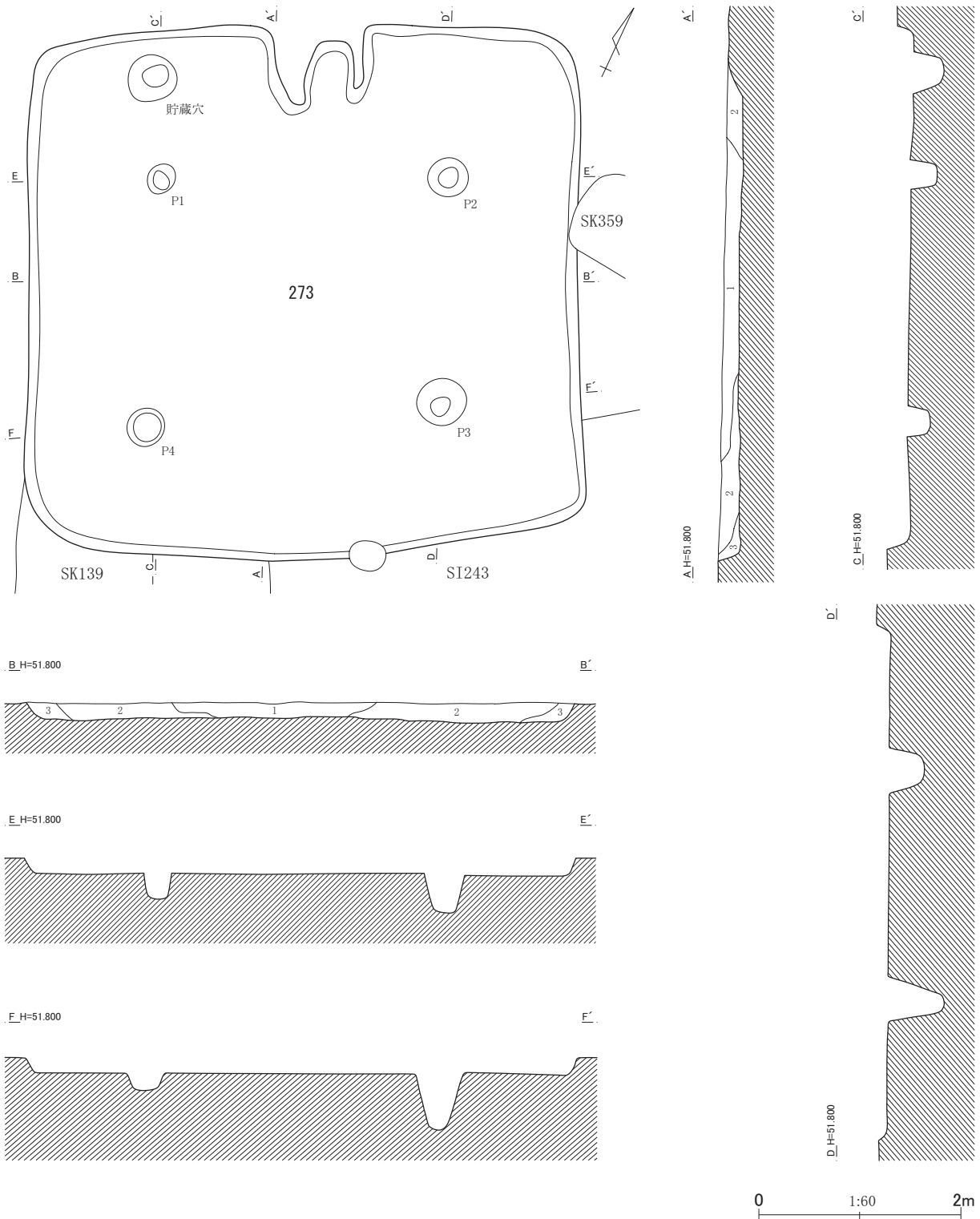
平面形は、方形である。規模は、主軸方向で5.29m、副軸方向で5.45mである。主軸方位は、N-26°-Wである。床面は、支柱穴を結ぶ範囲からカマドおよび貯蔵穴前面にかけての範囲が、軽微ではあるが、硬化している。壁高は、北西壁で13cm、北東壁で18cm、南東壁で21cm、南西壁で15cmである。

P1～P4は、支柱穴である。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形で、深さは、P1が21cm、P2が35cm、P3が56cm、P4が18cmである。西隅とカマドの左袖の間のピットは、貯蔵穴であろう。上端での平面形は、やや不整な円形で、最大径は49cmである。楕形に掘り込まれており、深さは、29cmである。

カマドは、北西壁のほぼ中央に付設されている。左右で長さ、幅の異なる袖に挟まれた燃烧部が残存する。燃烧面は、鍋底形に掘りくぼめられ作出されており、凸凹している。袖端を末端と見るなら、



第581図 第273号住居跡平面・断面図(1)



第273号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム小塊（～150mm）を少量含み、焼土粒（～7mm）を微量含む。
- 第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊（～150mm）

- を中量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊（～20mm）を多量に含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第582図 第273号住居跡平面・断面図（2）

第273表 第273号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	鉢	口径 (19.2) 底径 — 器高 [6.6]	口縁部は体部との境に稜をもつて外傾し、下位に段を有する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	石英・白色粒・褐色粒 内外—橙色	口縁部～体部1/3残存
2	坏	口径 11.5 底径 — 器高 3.6	丸底。体部は彎曲する。口縁部は外反気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—橙色	口縁部1/3欠損
3	坏	口径 12.9 底径 (7.9) 器高 3.4	平底。体部から口縁部にかけて内彎気味に開く。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ナデ後、指頭圧痕。底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ後、指頭圧痕。底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—橙色	1/2残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
4	土錘	長さ6.5、幅1.8、厚さ1.6、重さ19.20g。胎土：白色粒・褐色粒。色調：にぶい黄橙色。				完形
5	土錘	長さ5.2、幅1.7、厚さ1.6、重さ14.42g。胎土：白色粒・褐色粒。色調：橙色。				完形

燃焼部の長さは67cm、横幅は48cmである。被熱により、側壁は赤みを帯び、硬化しており、奥壁は、赤化していないが、構築材のローム小塊が硬くなっている。カマド覆土は4層で、ローム小塊が混ざり、焼土が多量に混入する第2層には、天井部などの崩落土が含まれるようである。

住居跡覆土は、暗褐色土を主とする3層に分けられた。壁際にローム小塊を多量に含む第3層がまず最初に堆積し、続いてやはりローム小塊が目立つ第2層により遺構の大半が埋まり、中央のくぼみに第1層が流入し、埋没した模様である。

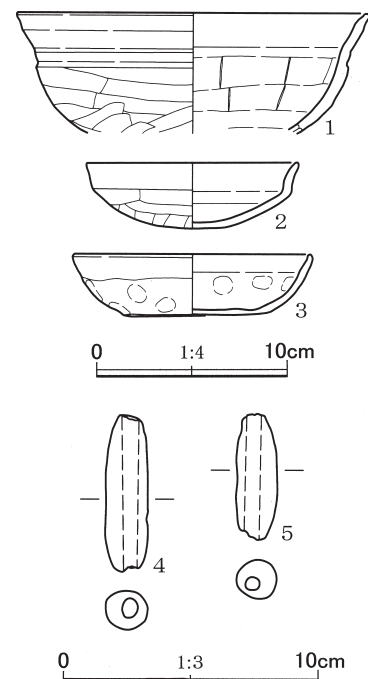
覆土中から、土師器片を主とする遺物がかなりの量出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末期前葉から中葉にかけての遺構である可能性が考えられる。

第274号住居跡（第584・585図、第274表、図版69・175）

調査地点の北西隅近く、O7、P7グリッドに位置し、A群に含まれる住居跡である。第298・312・321号住居跡を切っており、第246号住居跡、第356・361・364・390・407A・B号土坑、第418号土坑に切られ、遺構の北西部から北東部にかけての大半が失われている。なお、第397号土坑とも位置的に重なるが、他の土坑が介在し、直接切り合わない。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、方形に近い形かと思われるが、西隅が鈍角をなし大きく開き、北西側は、第364号土坑に切られている部分にまで床面が伸びることから見て、相当歪な形になりそうである。規模は、北西—南東方向での現存長が5.97m、北東—南西方向での長さは5.94mである。カマドがあったとすれば、土坑群に壊された北西壁ないしは北東壁に付設されていたと思われる。北西—南東方向での中軸線の方位は、N—38°—Wである。壁際を除く床面は、不規則に部分的に硬化している。壁高は、北東壁で5cm、南東壁で6cm、南西壁で2cmである。

P1～P3は、主柱穴であろう。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形、楕円形で、深さは、



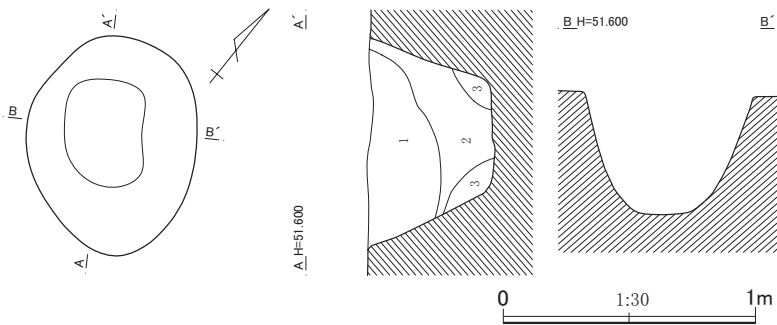
第583図 第273号住居跡出土遺物



第274号住居跡土層説明

- 第1層：黄褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～5mm)を多量に含み、ローム小塊(～20mm)を中量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を少量含む。

- 第4層：黄褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)・ローム小塊(～10mm)を中量含む。
- 第5層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・ローム小塊(～20mm)を少量含む。
- 第6層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含む。



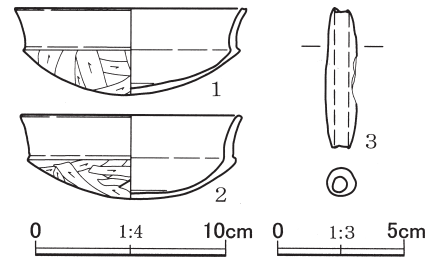
第274号住居跡貯藏穴土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～8mm)を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～8mm)を少量含み、焼土粒(～5mm)を微量含む。
- 第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～10mm)を中量含む。

第584図 第274号住居跡平面・断面図

P 1 が33cm、P 2 が14cm、P 3 が17cmである。西隅近くのピットは、貯蔵穴であろう。上端での平面形は、楕円形で、底面はやや角張った形である。長径87cm、短径67cmである。バケツ形に掘り込まれており、深さは47cmである。覆土は3層で、第3層には、ローム小塊がかなり含まれる。

重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期中葉の遺構と考えられる。



第585図 第274号住居跡出土遺物

第274表 第274号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 12.7 底径 — 器高 4.7	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外反する。口唇部に平坦面をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—橙色	ほぼ完形
2	坏	口径 11.9 底径 — 器高 4.6	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒・褐色粒 内外—橙色	1/2残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
3	土錘	長さ5.8、幅1.3、厚さ1.2、重さ7.86g。胎土：白色粒。色調：橙色。				一部欠損

第275号住居跡 (第586～588図、第275～277表、図版69・175・176)

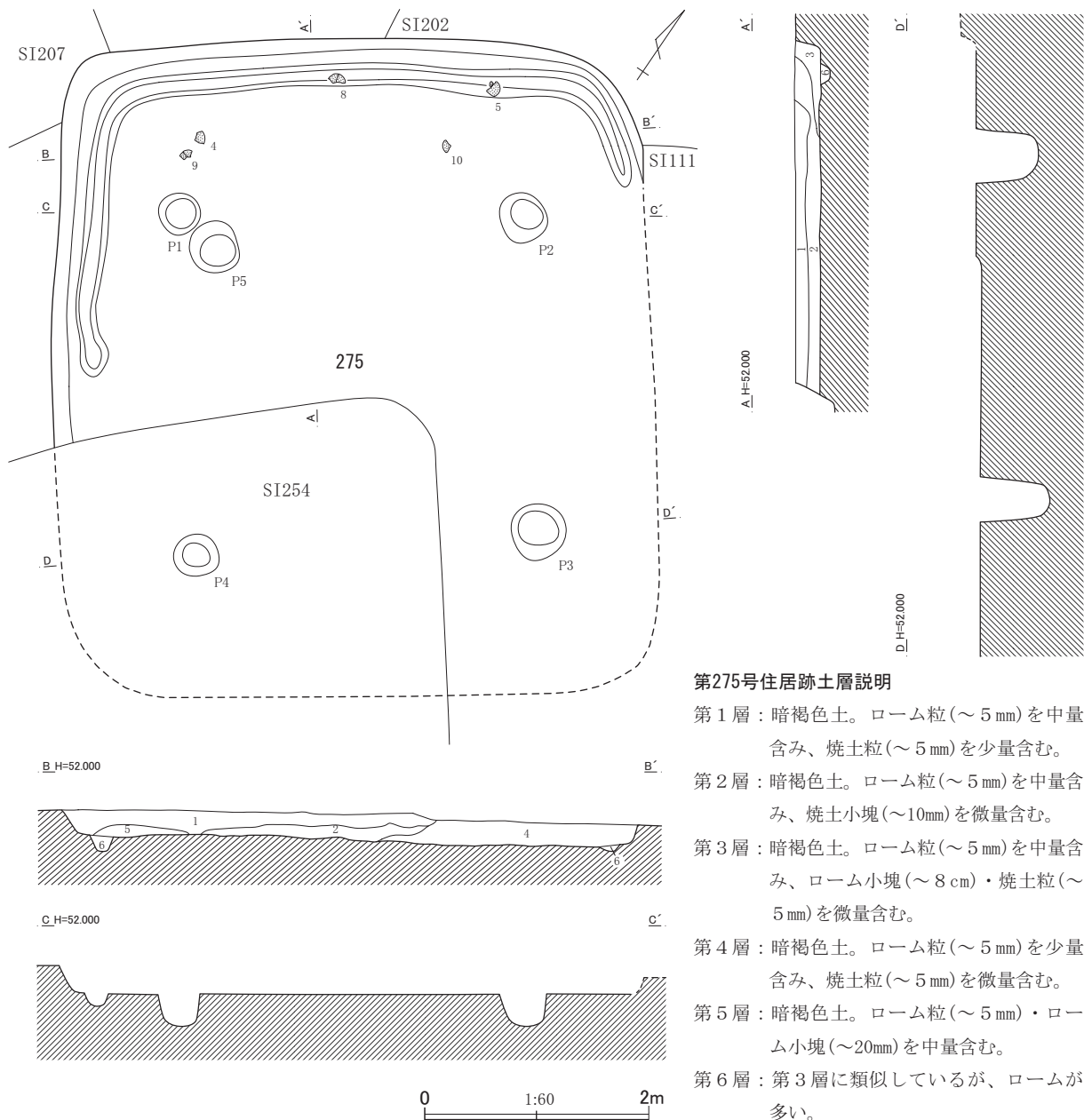
調査地点の東縁近くの中央、U12・13グリッドに位置し、G群に含まれる住居跡である。第111・202・223・254号住居跡に切られ、遺構の大半を壊されている。明確に残存するのは、南西壁から北隅にかけての遺構の北西側部分である。また、第207号住居跡と重複する。なお、第266号住居跡とも重複する位置にあるが、本住居跡と第266号住居跡が重複する部分の床面らしき平坦面の帰属を決めることができず、新旧関係を明らかにすることができなかった。本住居跡の南東半の床面に関しては、どこまで残存するのか確定できていない。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

主柱穴の位置などを加味するなら、平面形は、長方形に近い形態になりそうである。いずれも推定復元長になるが、規模は、北西—南東方向で5.88m、北東—南西方向で5.38mである。因みに北西—南東方向での中軸線の方位は、N-34°-Wである。床面は、細かな凹凸が見られるが、全体としては、おおむね平坦である。P 1—P 2間の床面は、帯状にやや幅広く硬化している。壁高は、北西壁で23cm、南西壁で24cmである。南西壁から北西壁、北隅にかけて、壁から少し離れた位置に、幅17～25cm、深さ5～14cmの壁溝が巡らされている。

P 1～P 5は、主柱穴であろう。P 5は、主柱穴P 1を付け替える前の主柱穴とも考えられる。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形で、深さは、P 1が30cm、P 2が28cm、P 3が62cm、P 4が56cm、P 5が35cmである。

覆土は、6層に分けられた。まず、壁際や床面にロームの目立つ第3・5層や主に東側から流入した第4層が堆積し、続いてローム小塊を顕著に含む第1層や第2層が堆積し、住居跡が埋没したようである。なお、第6層は、壁溝の覆土である。

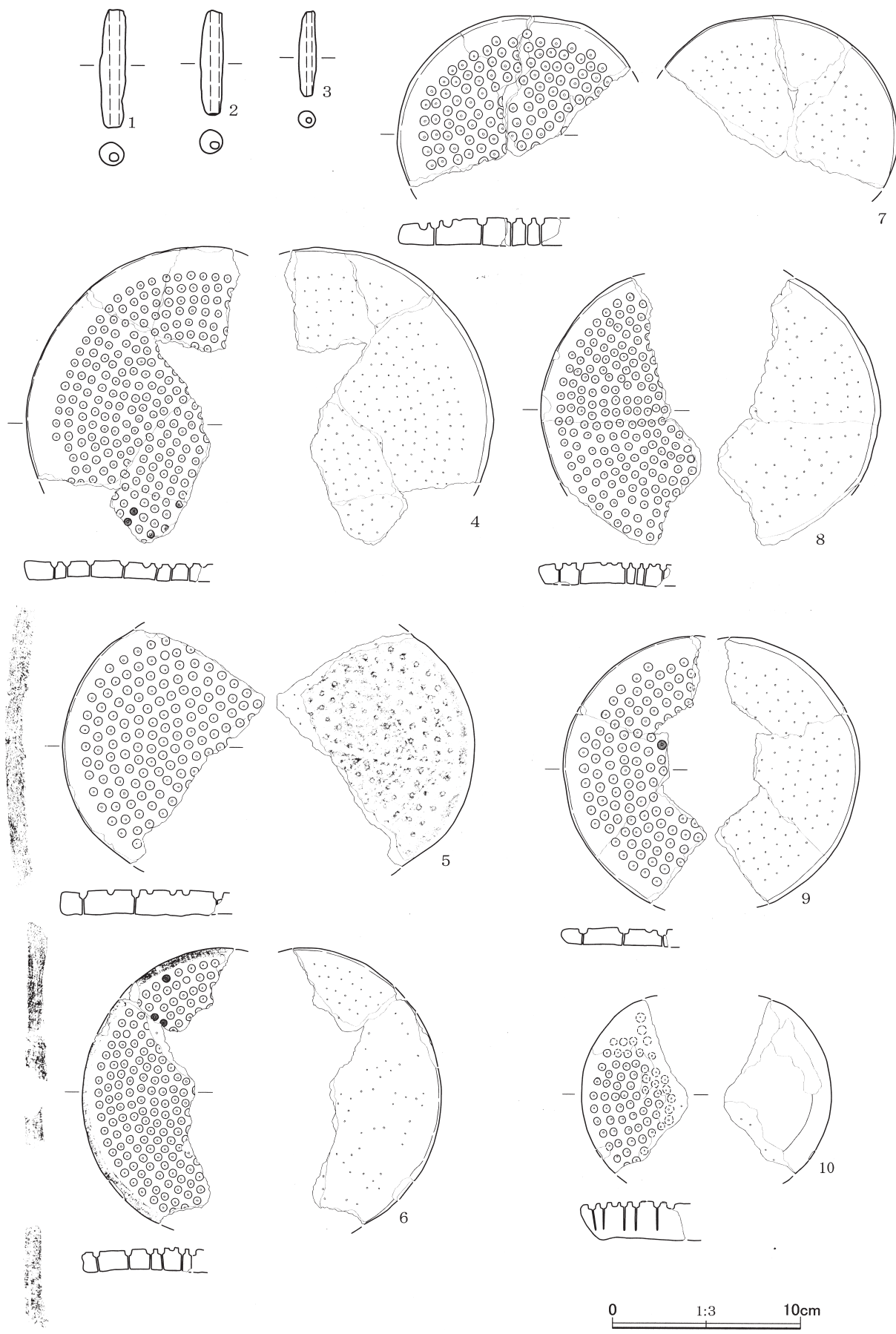
第587図4・9のガラス小玉鋳型片2個体は、P 1の北脇の床面よりやや浮いた位置から出土して、5のガラス小玉鋳型片1個体は、北西壁溝上の床面よりやや浮いた位置から、8のガラス小玉鋳



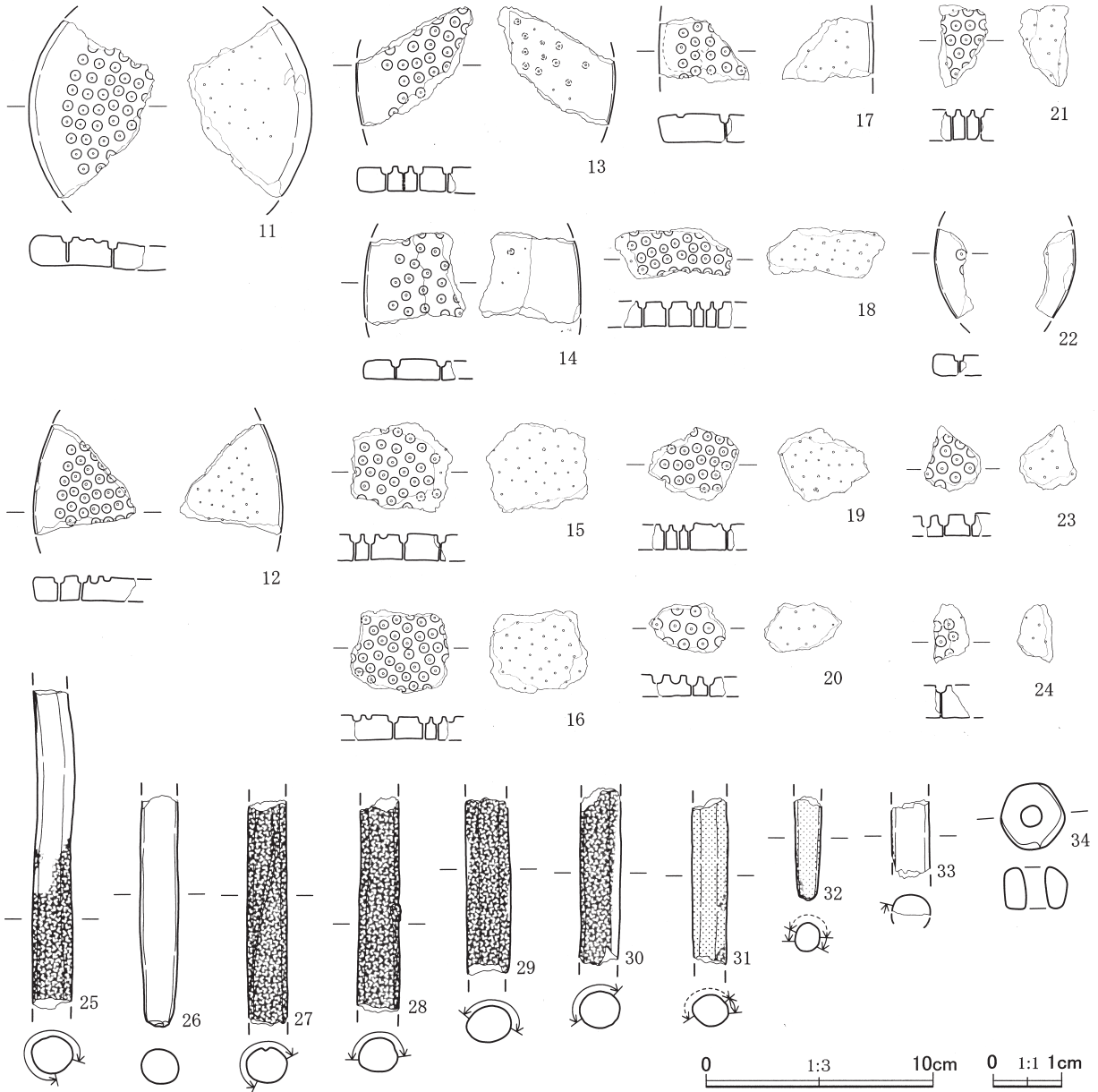
第586図 第275号住居跡平面・断面図

第275表 第275号住居跡出土遺物観察表(1)

No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
1	土錘	長さ6.6、幅1.4、厚さ1.3、重さ11.63g。胎土：白色粒。色調：にぶい橙色。	完形
2	土錘	長さ5.8、幅1.2、厚さ1.3、重さ9.34g。胎土：白色粒・黑色粒。色調：橙色。	完形
3	土錘	長さ4.8、幅1.0、厚さ1.0、重さ3.36g。胎土：白色粒・黑色粒。色調：にぶい黄橙色。	完形
4	ガラス小玉 鋳型	第963図152、第434表参照。	No.152
5	ガラス小玉 鋳型	第963図153、第434表参照。	No.153
6	ガラス小玉 鋳型	第964図154、第435表参照。	No.154
7	ガラス小玉 鋳型	第964図155、第435表参照。	No.155
8	ガラス小玉 鋳型	第964図156、第435表参照。	No.156
9	ガラス小玉 鋳型	第965図157、第435表参照。	No.157
10	ガラス小玉 鋳型	第965図158、第435表参照。	No.158



第587图 第275号住居跡出土遺物



第588図 第275号住居跡出土遺物

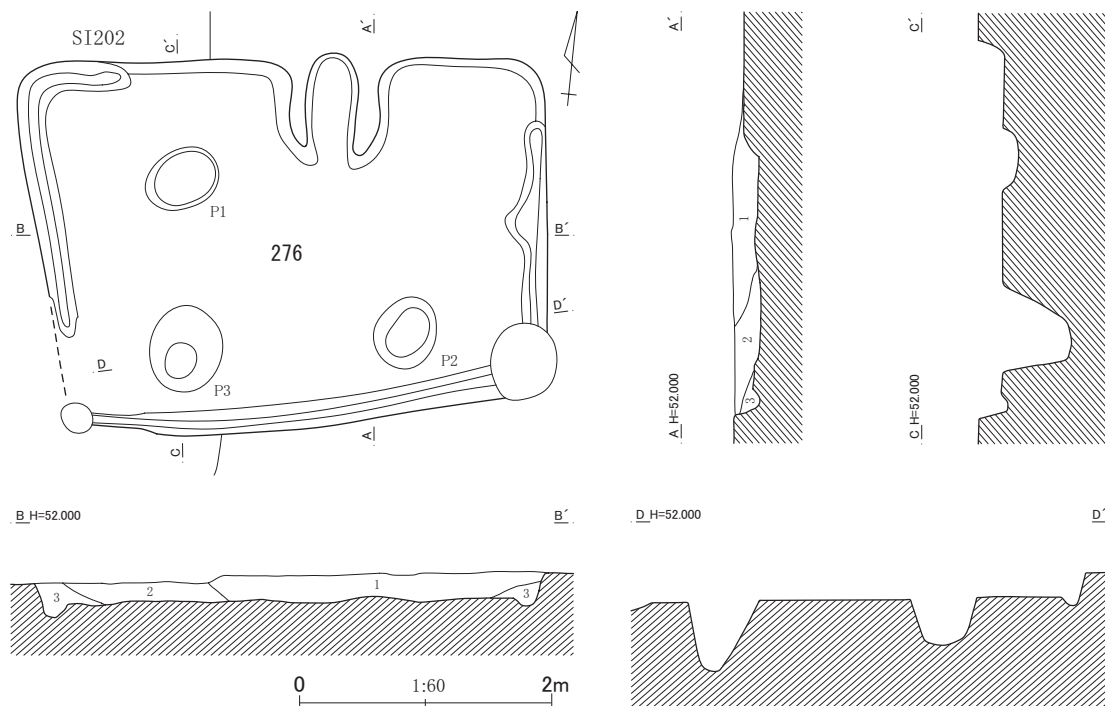
第276表 第275号住居跡出土遺物観察表 (2)

No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
11	ガラス小玉 鑄型	第965図159、第435表参照。	No.159
12	ガラス小玉 鑄型	第965図160、第435表参照。	No.160
13	ガラス小玉 鑄型	第965図161、第435表参照。	No.161
14	ガラス小玉 鑄型	第965図162、第435表参照。	No.162
15	ガラス小玉 鑄型	第965図163、第435表参照。	No.163
16	ガラス小玉 鑄型	第965図164、第435表参照。	No.164
17	ガラス小玉 鑄型	第966図165、第435表参照。	No.165
18	ガラス小玉 鑄型	第966図166、第435表参照。	No.166
19	ガラス小玉 鑄型	第966図167、第435表参照。	No.167
20	ガラス小玉 鑄型	第966図168、第435表参照。	No.168

第277表 第275号住居跡出土遺物観察表(3)

No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
21	ガラス小玉 鋳型	第966図169、第435表参照。	No.169
22	ガラス小玉 鋳型	第966図170、第435表参照。	No.170
23	ガラス小玉 鋳型	第966図171、第435表参照。	No.171
24	ガラス小玉 鋳型	第966図172、第435表参照。	No.172
25	棒状 土製品	第973図139、第441表参照。	No.139
26	棒状 土製品	第973図140、第441表参照。	No.140
27	棒状 土製品	第973図141、第441表参照。	No.141
28	棒状 土製品	第973図142、第441表参照。	No.142
29	棒状 土製品	第973図143、第441表参照。	No.143
30	棒状 土製品	第973図144、第441表参照。	No.144
31	棒状 土製品	第973図145、第441表参照。	No.145
32	棒状 土製品	第973図146、第441表参照。	No.146
33	棒状 土製品	第973図147、第441表参照。	No.147
34	石製品 白玉	長さ1.0、幅1.0、孔径0.3×0.3、厚さ0.65、重さ0.97g。石材：滑石。	完形

型片1個体も、やはり北西壁溝上の床面よりかなり浮いた位置から出土している。10のガラス小玉鋳型片1個体は、P2の東脇の床面よりやや浮いた位置から出土している。他に覆土中から土師器片を



第276号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～10mm)を中量含み、焼土粒(～5mm)を少量、焼土小塊(～10mm)を微量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～30mm)

・焼土粒(～5mm)を少量含む。

第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を少量含む。

第589図 第276号住居跡平面・断面図(1)

C地点

主とする遺物が出土しているが、とくにガラス小玉鑄型や棒状土製品の破片がかなりの量含まれることが特筆される。重複関係から見て、古墳時代終末期中葉以前の遺構と考えられる。

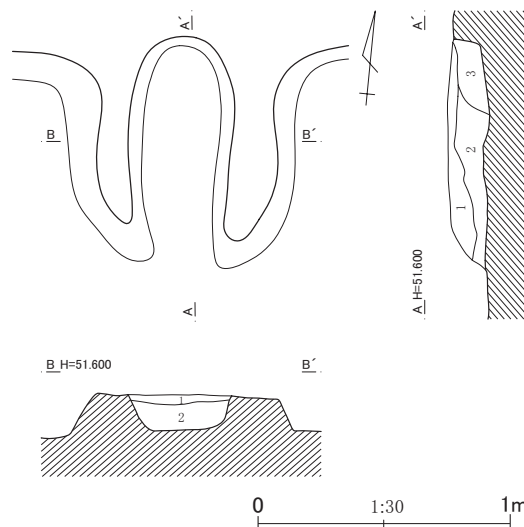
第276号住居跡 (第589～591図、第278・279表、図版69・177)

調査地点の東縁近くの中央、やや北寄り、U12、V12グリッドに位置し、G群に含まれる住居跡である。第272号住居跡を切っており、第202号住居跡に切られている。また、第111号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、横長の長方形である。規模は、主軸方向で2.90m、副軸方向で4.06mである。主軸方位は、N-6°-Wである。床面は、主に中央が軽微ではあるが、硬化している。壁高は、北壁で22cm、東・西壁で18cm、南壁で17cmである。カマドを挟む北壁から北東隅にかけての範囲を除いて、壁際には、幅を15～34cm、深さ5～10cmの壁溝が巡らされている。

P1～P3は、かなり径が大きく近接し過ぎて点問題が残るが、一応主柱穴とも考えられるピットである。いずれも上端での平面形は、楕円形で、深さは、P1が11cm、P2が38cm、P3が56cmである。

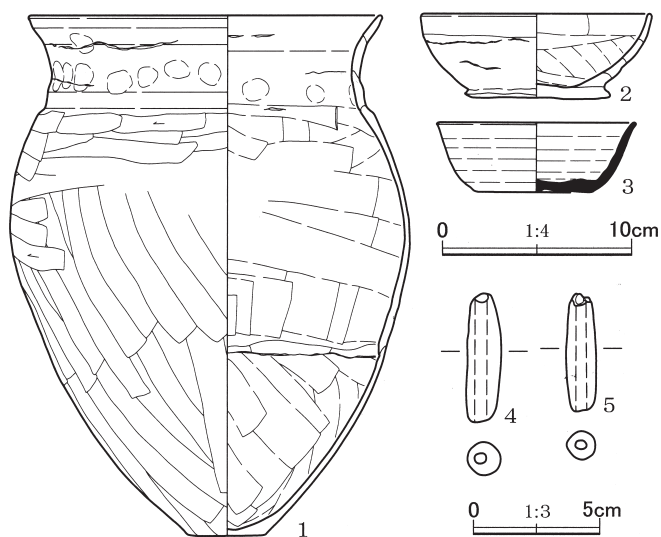
カマドは、北壁のほぼ中央、若干北東隅に寄った位置に付設されている。細長い袖に挟まれた燃烧部が残存する。燃烧面は、掘りくぼめられてはいないが、かなり凸凹している。袖端を末端と見るなら、燃烧部の長さは90cm、横幅は41cmである。被熱赤化の痕跡は、明瞭ではない。



第276号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)・粘土小塊(～20mm)・焼土粒(～5mm)を少量、炭化物小塊(～10mm)を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～5mm)を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～5mm)を少量含む。

第590図 第276号住居跡平面・断面図(2)



第591図 第276号住居跡出土遺物

第278表 第276号住居跡出土遺物観察表(1)

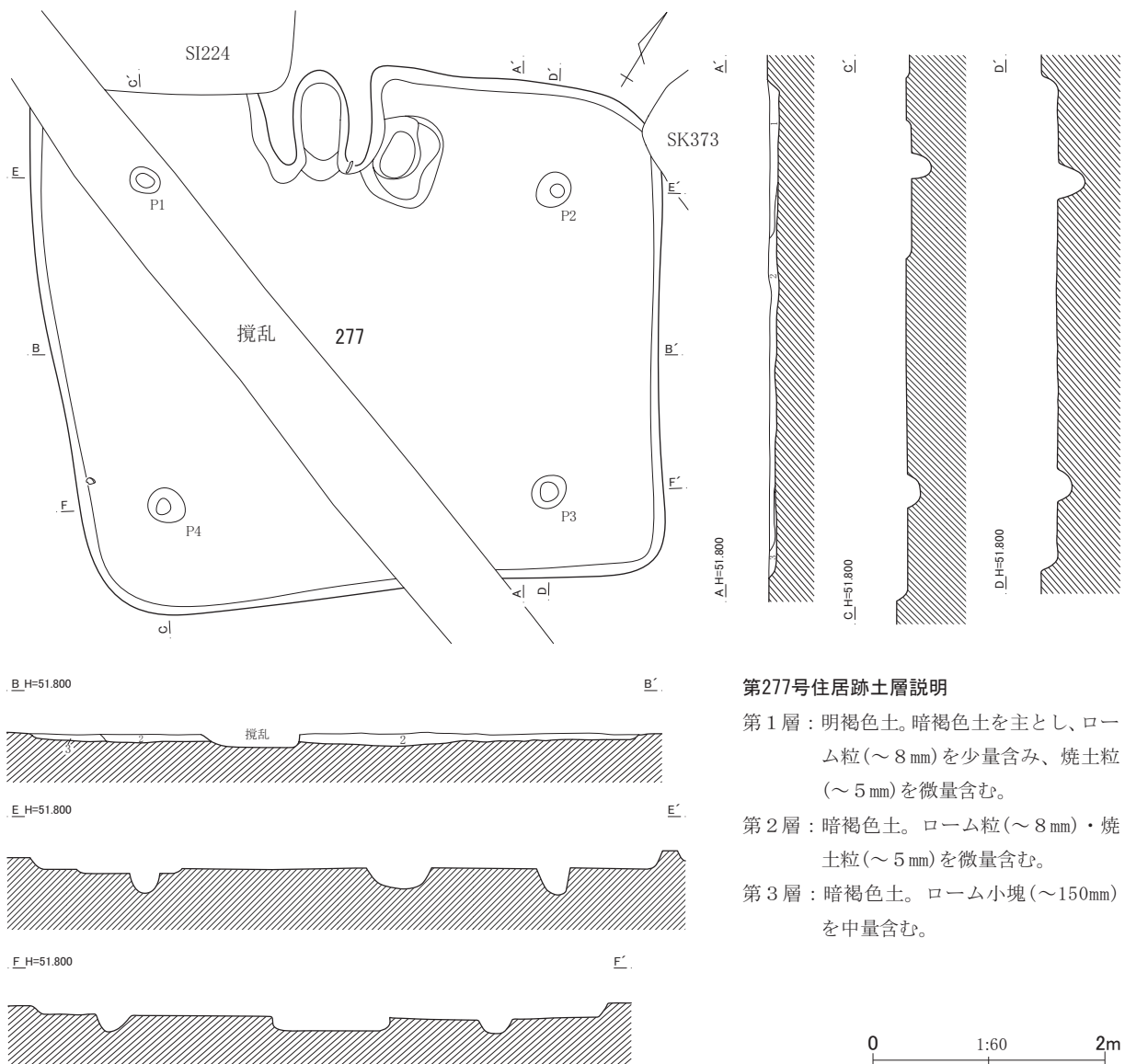
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 (19.3) 底径 4.3 器高 (27.0)	口縁部は直立し、上位で外反する。胴部は上～中位が張る。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ後、指頭圧痕。胴部～底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ後、指頭圧痕。胴部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 外-明赤褐色 内-橙色	口縁部～胴部上位1/4、胴部中位～底部

第279表 第276号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
2	坏	口径 (12.5) 底径 8.0 器高 4.7	平底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部ナデ。底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラナデ。	片岩・白色粒・黒色粒 内外-明赤褐色	口縁部~体部3/4欠損
3	須恵器坏	口径 (10.8) 底径 6.4 器高 3.8	平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。ロクロ成形。	外面-ロクロナデ。底部ヘラ起こし。内面-ロクロナデ。	白色粒 内外-灰色	2/3残存 還元焰焼成
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
4	土錘	長さ5.3、幅1.4、厚さ1.4、重さ10.48g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい橙色。				完形
5	土錘	長さ4.8、幅1.2、厚さ1.2、重さ7.44g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：褐灰色。				完形

住居跡覆土は、暗褐色土を主とする3層に分けられた。第1層は、ローム粒、ローム小塊を顕著に含む特徴的な土層で、多量に流入して、住居跡を埋めている。

図示した遺物以外に、土師器片を主とする遺物が覆土中からかなりの量出土している。重複関係、出土遺物から見て、奈良時代末から平安時代初頭にかけての遺構と考えられる。



第592図 第277号住居跡平面・断面図(1)

C地点

第277号住居跡（第592～594図、第275表、
図版70・177）

調査地点の中央の北西寄り、P10、Q10グリッドに位置し、D群に含まれる住居跡である。第278・296・309・311号住居跡を切っており、第224号住居跡、第306号土坑および溝状の攪乱に切られ、遺構の一部を壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

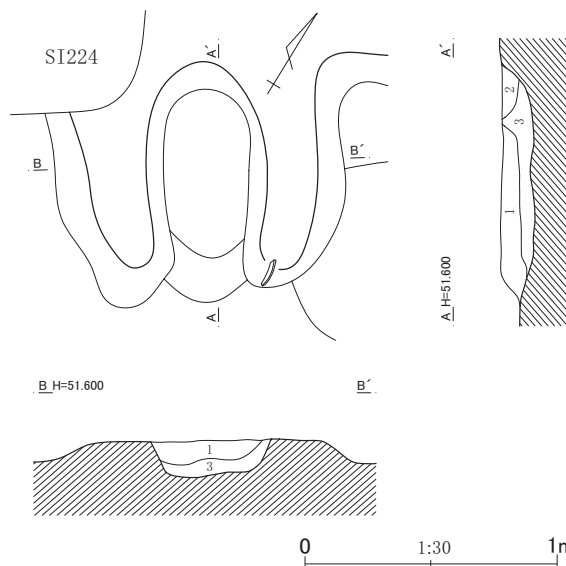
平面形は、横長の長方形である。規模は、主軸方向で4.58m、副軸方向で5.23mである。主軸方位は、N-33°-Wである。壁際を除く床面は、軽微ではあるが、部分的に硬化している。壁高は、北西壁で26cm、北東壁で2cm、南東壁で7cm、南西壁で4cmである。

P1～P4は、支柱穴である。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形で、深さは、P1が20cm、P2が23cm、P3が12cm、P4が15cmである。他に右袖に接する位置でピットを検出している。

貯蔵穴であろうか。上端での平面形は、かなり不整な円形で、最大径は77cm、深さは、34cmである。

カマドは、北西壁のほぼ中央に付設されている。両袖に挟まれた燃焼部が残存する。燃焼面は、鍋底形に掘りくぼめられ作出されており、凸凹している。袖端を末端と見るなら、燃焼部の長さは96cm、横幅は48cmである。側壁、奥壁の上端は、被熱により部分的に赤みを帯び、硬化している。破片のため図化していないが、右袖に埋め込まれたような状態で、甕の破片が出土している。袖甕の破片の可能性もあるかと思われる。

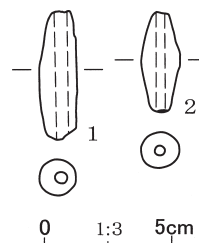
図示した土錘などの遺物が覆土中より出土したのみである。重複関係から見て、古墳時代後期後葉後半以降の遺構と考えられる。



第277号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～5mm）・焼土小塊（～10mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。焼土粒（～5mm）を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム小塊（～150mm）・焼土粒（～8mm）を少量含む。

第593図 第277号住居跡平面・断面図（2）



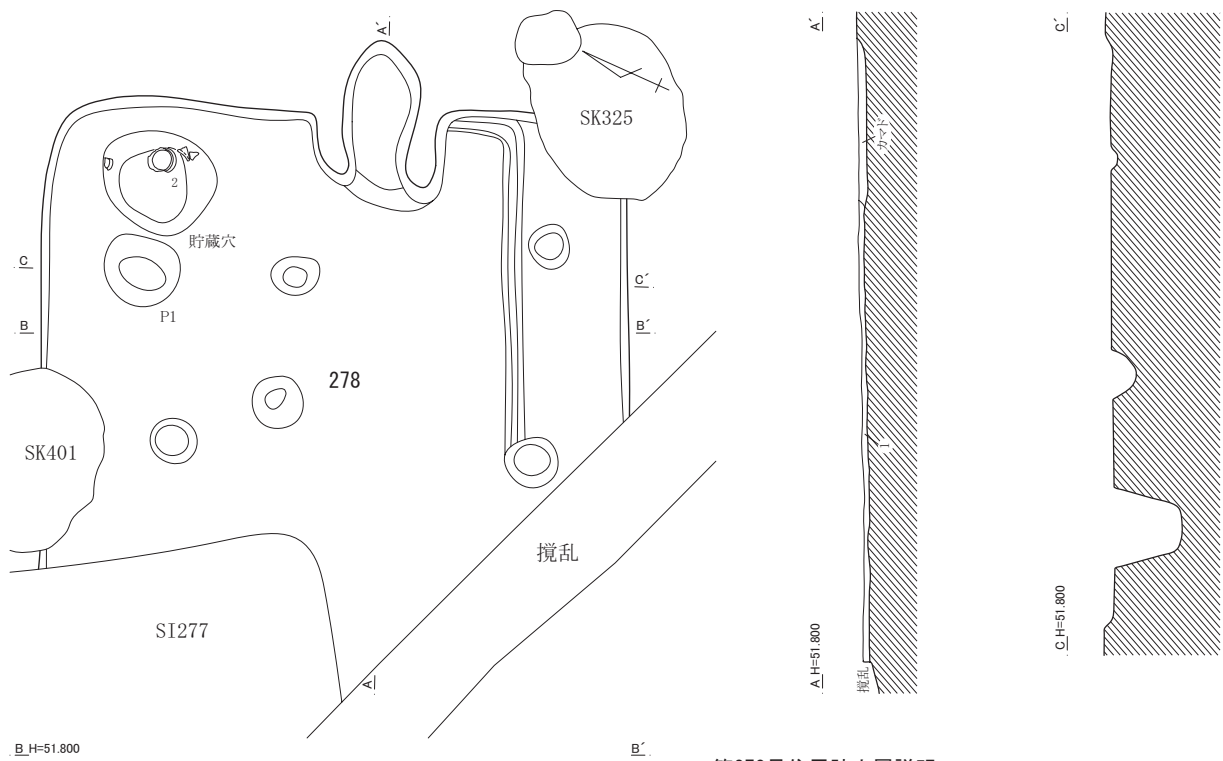
第594図 第277号住居跡出土遺物

第280表 第277号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
1	土錘	長さ5.3、幅1.5、厚さ1.5、重さ11.83g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：明褐色。	完形
2	土錘	長さ4.2、幅1.6、厚さ1.5、重さ7.99g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：橙色。	完形

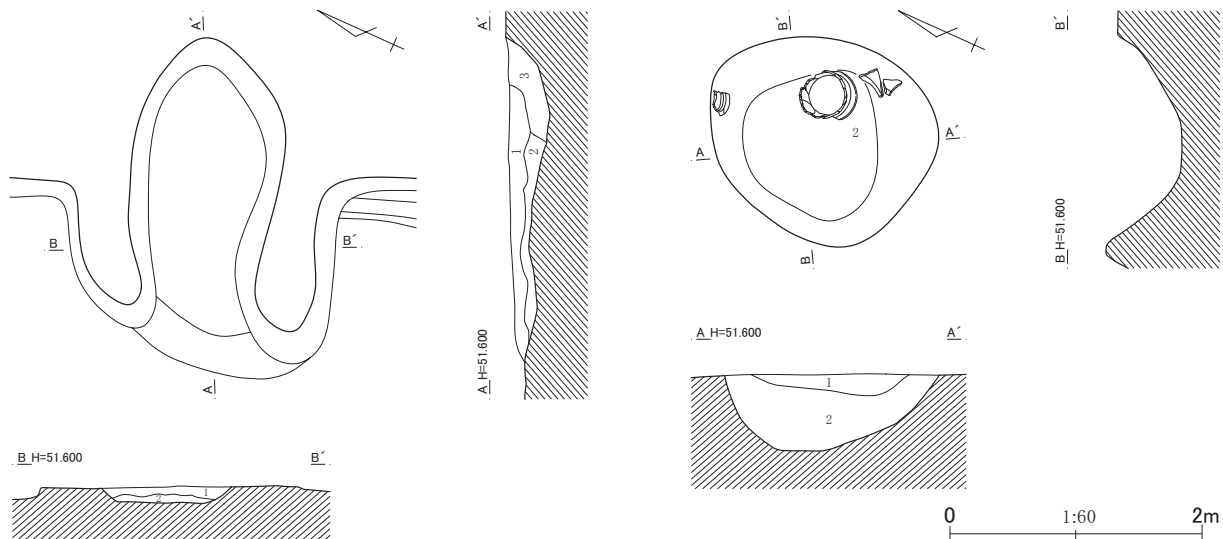
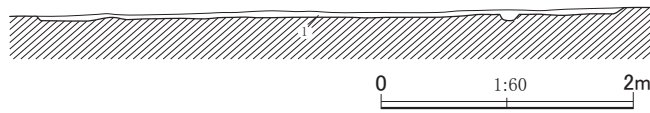
第278号住居跡（第595・596図、第281表、図版70・177）

調査地点の中央の北西寄り、Q10グリッドに位置し、D群に含まれる住居跡である。第311・317号住居跡を切っており、第277号住居跡、第325・401号土坑および溝状の攪乱に切られ、南西半、東隅など遺構のかなりの範囲を壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。



第278号住居跡土層説明

第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊（～30mm）を中量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。



第278号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を微量含み、焼土小塊（～10mm）を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒（～8mm）を少量含み、焼土粒（～8mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。焼土小塊（～150mm）を微量含む。

第278号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム小塊（～150mm）を中量含み、焼土粒（～8mm）を少量含む。

第595図 第278号住居跡平面・断面図

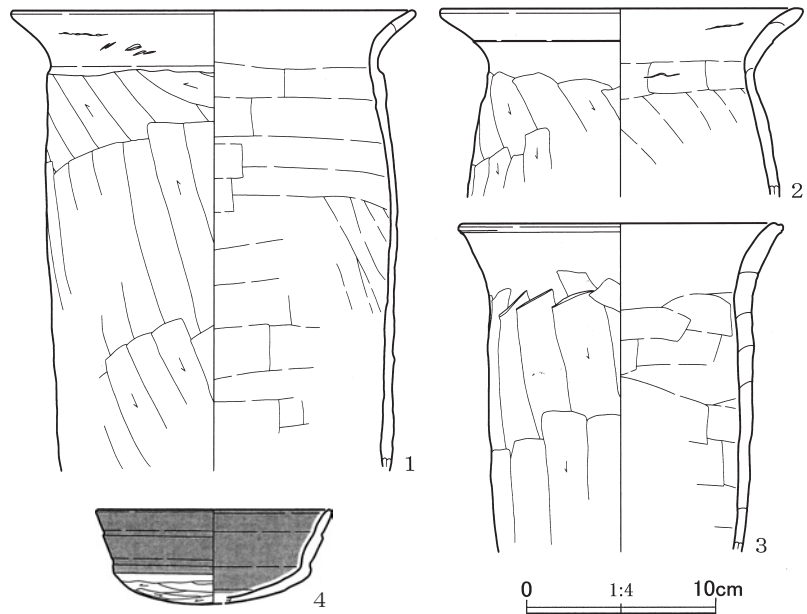
C地点

平面形は、方形、あるいは長方形と見られる。調査時、溝状の攪乱の南西側にも本住居跡の床面が伸長するかに見えたが、検討した結果、そこまで伸長しないと考えられた。規模は、主軸方向での現存長が4.67m、副軸方向での長さは4.68mである。主軸方位は、N-66°-Eである。支柱穴を結ぶ範囲からカマド前面にかけて、床面は部分的に硬化している。壁高は、残存する壁いずれも4、5cmである。右袖基部に発し、L字に折れ、ほぼ南西壁に並行して走る小溝を検出している。いわゆる間仕切り溝とも考えられるが、住居跡の建て替えに関連する壁溝の可能性もないとは言い切れない。溝幅は、14~16cm、深さは3~6cmである。

支柱穴と考えられるピットは、P1としたピットのみである。上端での平面形は、やや不整な円形で、深さは54cmである。北隅近くのピットは、貯蔵穴であろう。上端での平面形は、やや不整な楕円形で、長径92cm、短径78cmである。丸く椀形に掘り込まれており、深さは30cmである。覆土は2層で、覆土の大半を占める第2層は、ローム小塊を水玉状に含む土である。他に床面でピットを3個検出しているが、深さ12~14cmと浅く、柱穴ではないと判断した。

カマドは、北東壁のほぼ中央に付設されている。燃焼面は、鍋底形に掘りくぼめられ作出されており、凸凹している。袖端を末端と見るなら、燃焼部の長さは133cm、横幅は61cmである。側壁、奥壁の上部は、被熱により部分的に赤みを帯び硬化している。

第596図2の甕は、貯蔵穴の覆土上層から出土した。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期後葉後半の遺構と考えられる。



第596図 第278号住居跡出土遺物

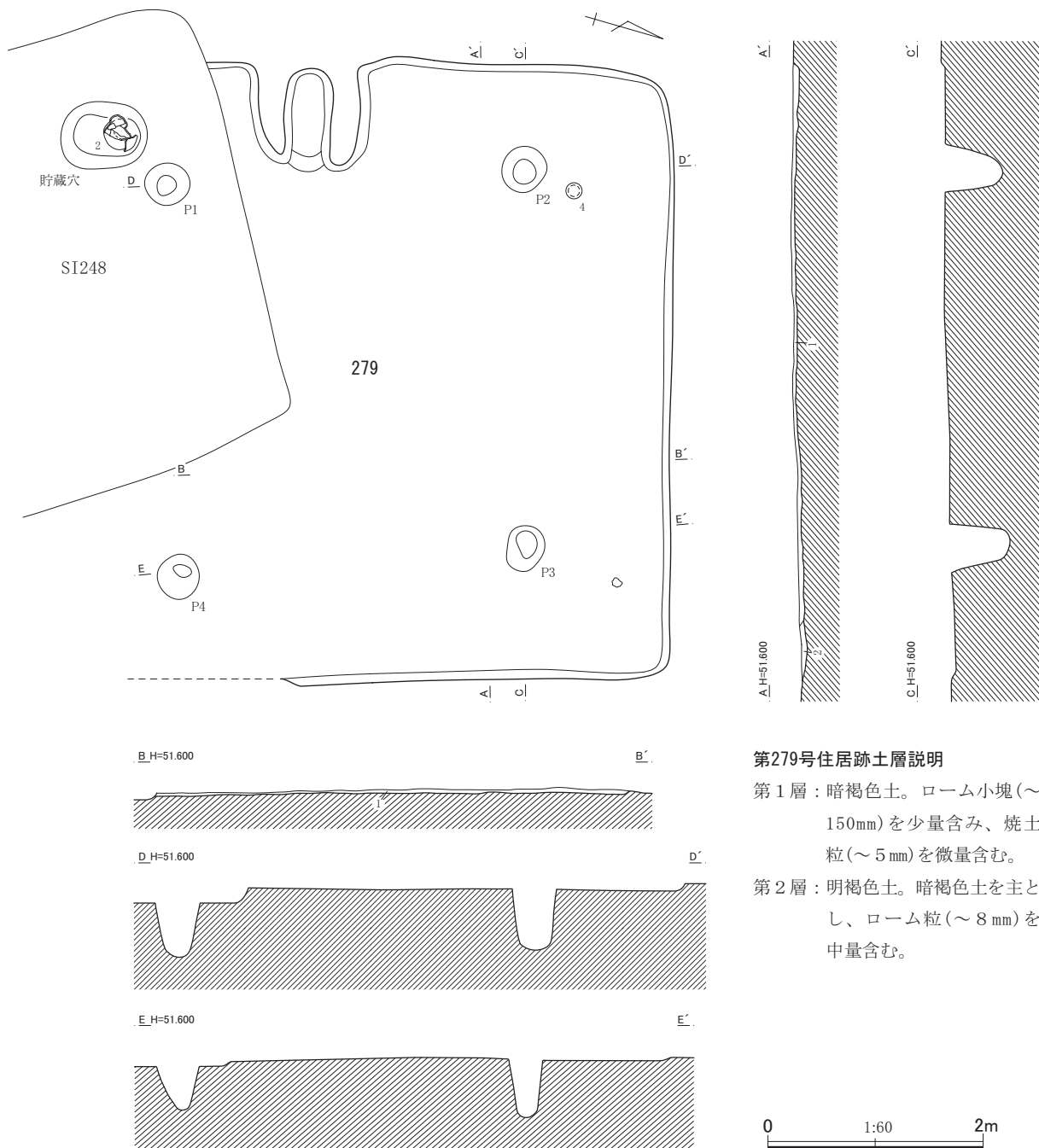
第281表 第278号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 22.0 底径 — 器高 [25.3]	口縁部は外反する。胴部は膨らみをもたない。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	片岩・白色粒・黒色粒・褐色粒 内外-橙色	口縁部~胴部1/2残存
2	甕	口径 (19.7) 底径 — 器高 [10.3]	口縁部は外反する。胴部は膨らみをもたない。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	片岩・白色粒・黒色粒 内外-橙色	口縁部~胴部上位
3	甕	口径 (17.3) 底径 — 器高 [18.0]	口縁部は外反する。口唇部に弱い凹線がめぐる。胴部は膨らみをもたない。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	片岩・白色粒・黒色粒・褐色粒 外-にぶい赤褐色 内-明赤褐色	口縁部~胴部1/3残存
4	坏	口径 12.7 底径 — 器高 [5.1]	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外傾し、中位に段を有する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ、黒色処理。体部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部~体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。黒色処理。	石英・白色粒 外-褐灰色 内-黒褐色	底部一部欠損

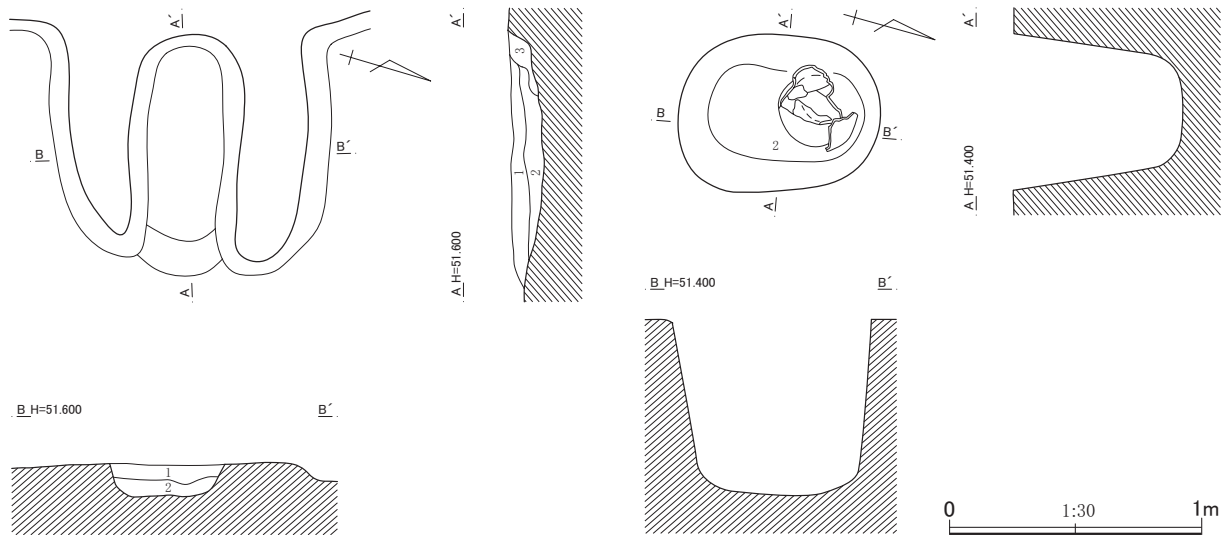
第279号住居跡（第597～599図、第282表、図版70・177）

調査地点の北縁近くの北東隅脇、T 8・9、U 8・9グリッドに位置し、C群に含まれる住居跡である。第248号住居跡に切られ、遺構の南半を大きく壊されている。また、第280号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

カマドが西壁のほぼ中央に付されていたとすれば、平面形は横長の長方形となろうが、後述する支柱穴の配置から見ると、カマドが南西隅寄りであった可能性も高い。その場合、平面形は、より方形に近い形態になろう。規模は、主軸方向で5.73m、副軸方向の現存長は4.40mである。主軸方位は、



第597図 第279号住居跡平面・断面図（1）



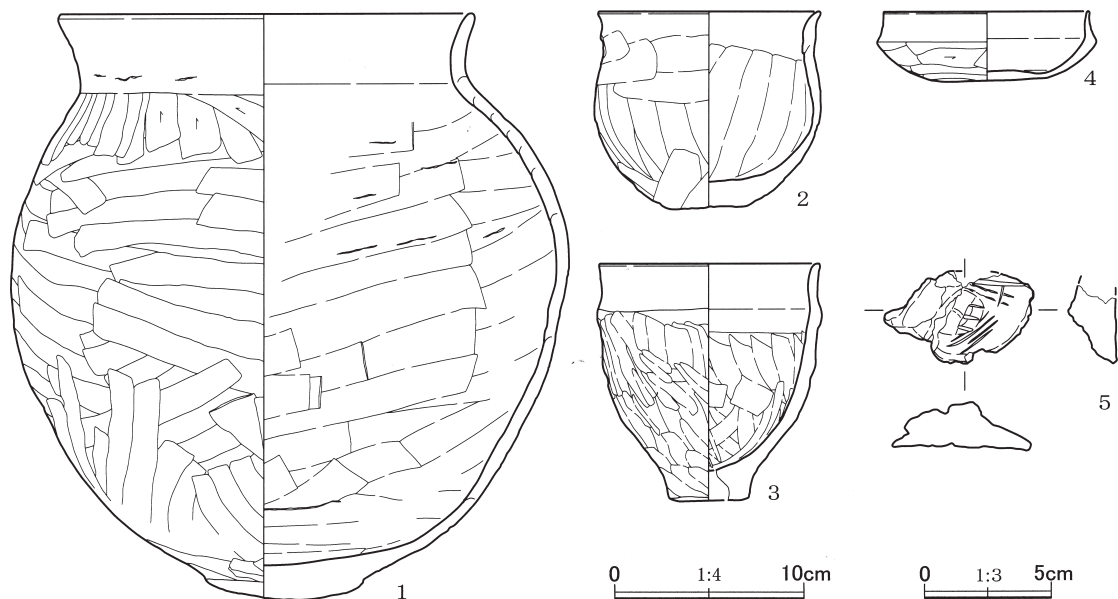
第279号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～7mm)を微量含み、焼土小塊(～10mm)を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～10mm)を少量含み、焼土小塊(～150mm)を中量含む。

粘性は弱い。

- 第3層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～5mm)を微量含み、焼土小塊(～10mm)を中量含む。

第598図 第279号住居跡平面・断面図(2)



第599図 第279号住居跡出土遺物

S-72°-Wである。床面には、細かな凹凸が見られるが、全体としては平坦である。壁際を除く床面は、硬化している。壁高は、西壁で6cm、北壁で2cm、東壁で4cmである。

P1～P4は、支柱穴であろう。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形で、深さは、P1が58cm、P2が54cm、P3が54cm、P4が42cmである。P1脇のピットは、貯蔵穴であろう。上端での平面形は、微妙に辺のある楕円形で、長径96cm、短径45cmである。バケツ形に掘り込まれており、深さは65cmである。

第282表 第279号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 (22.8) 底径 8.7 器高 32.3	口縁部は外反気味に立ち上がる。胴部は中位に膨らみをもつ。丸底気味。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。底部磨耗。内面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒・褐色粒 外－橙色 内－明赤褐色	口縁部～胴部 1/2欠損
2	小型甕	口径 (12.3) 底径 (4.5) 器高 10.9	口縁部は直立し、上端で外反する。胴部は膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。頸部ヘラナデ。胴部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒 内外－橙色	口縁部～胴部 2/3欠損
3	小型甕	口径 (12.2) 底径 (4.4) 器高 13.1	口縁部は直立する。胴部は膨らみをもたない。底部は平底で肥厚する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外－橙色	1/3残存
4	坏	口径 11.3 底径 — 器高 3.9	丸底。体部は浅く彎曲し、口縁部は内傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒 内外－にぶい黄橙色	ほぼ完形
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
5	粘土塊	長さ[3.8]、幅6.1、厚さ1.9、重さ23.40g。胎土：白色粒。色調：橙色。				一部欠損

カマドは、西壁に付設されている。低平な両袖に挟まれた長楕円形の燃焼部が残存する。燃焼部の長さは96cm、横幅は45cmである。燃焼面は、船底形に浅く掘りくぼめられており、凸凹している。側壁、奥壁の上端は、被熱により部分的に赤みを帯び、硬化している。カマド覆土は3層で、焼土小塊をかなり含む第2・3層には、天井部や側壁などの崩落土が含まれるようである。

第599図2の小型甕は、貯蔵穴の下層から出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期後葉後半の遺構と考えられる。

第280号住居跡（第600・601図、第283表、図版71・177）

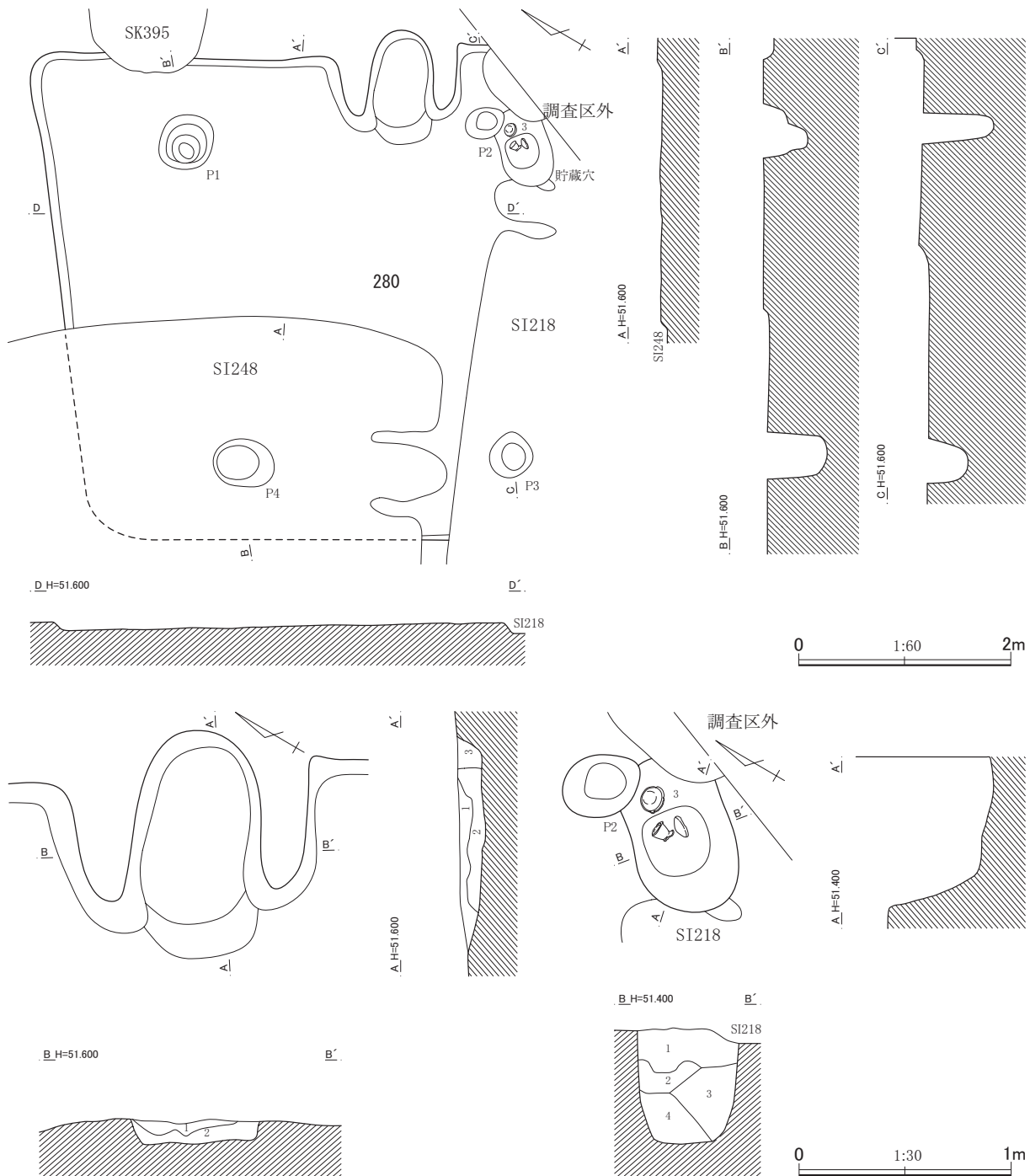
調査地点の北東隅脇の東縁沿い、T9、U9グリッドに位置し、C群に含まれる住居跡である。第218・248号住居跡、第395号土坑に切られ、遺構の大部分が失われている。また、第279号住居跡と重複する。東隅周辺は、調査範囲外である。なお、第314号住居跡とも重複する位置にあるが、他遺構が介在し、直接切り合わない。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

残存する壁から推定すると、平面形は、横長の長方形と見るのが無難である。規模は、主軸方向で4.67m、副軸方向での現存長は4.25mを測る。主軸方位は、N-58°-Eである。床面は、局所的に硬化している。壁高は、北東壁で5cm、南東壁で9cmである。

P1～P4は、主柱穴であろう。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形、楕円形で、深さは、P1が38cm、P2が67cm、P3が43cm、P4が55cmである。P2脇のピットは、貯蔵穴であろう。上端での平面形は、微妙に辺のある楕円形で、長径76cm、短径45cmである。バケツ形に掘り込まれており、深さは65cmである。覆土は4層で、ローム小塊、焼土小塊をかなり含む第1層やローム小塊の顕著な第2・4層は、埋め戻された土の可能性はある。

カマドは、北東壁に付設されている。低平な両袖に挟まれた楕円形の燃焼部が残存する。燃焼部の長さは107cm、横幅は62cmである。燃焼面は、船底形に浅く掘りくぼめられている。被熱赤化の痕跡は不明瞭である。カマド覆土は3層で、第1・2層には、天井部などの崩落土が含まれるようである。

第601図3の坏は、貯蔵穴の下層から出土した。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期初頭（古相）の遺構と考えられる。



第280号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒(～8mm)・焼土粒(～5mm)を微量含み、炭化物粒(～8mm)を少量、焼土小塊(～20mm)を中量含む。
- 第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～10mm)を中量含み、焼土粒(～8mm)を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。焼土粒(～8mm)を中量含む。

第280号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～150mm)・焼土小塊(～10mm)を中量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム小塊(～150mm)を中量含み、焼土粒(～8mm)を微量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム小塊(～150mm)を少量含む。
- 第4層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～10mm)を中量含む。

第600図 第280号住居跡平面・断面図(2)

第283表 第280号住居跡出土遺物観察表

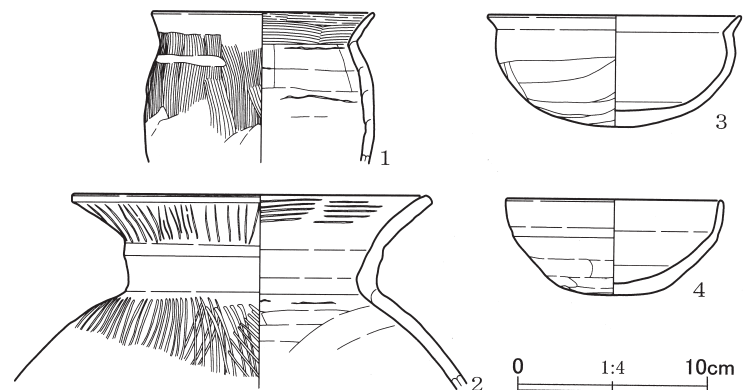
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	小型甕	口径 (12.1) 底径 — 器高 [8.3]	口縁部は外傾する。胴部はやや膨らみをもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。頸部～胴部ハケメ後、胴部下半ヘラナデ。内面—口縁部ハケメ。胴部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 外—橙色 内—黒色	口縁部～胴部上半2/3残存
2	壺	口径 (19.4) 底径 — 器高 [10.7]	口縁部は直立した後外傾する。口唇部は外側に面をもつ。胴部は張る。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ後、上半に粗く浅いハケメ。胴部粗く深いハケメ。内面—口縁部ヨコナデ後、上半に粗く浅いハケメ。胴部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—橙色	口縁部～胴部上位1/2残存
3	坏	口径 13.9 底径 — 器高 6.1	丸底。体部は内彎し、口縁部は短く外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部上位ナデ、体部下位～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒 内外—にぶい赤褐色	3/4残存
4	坏	口径 11.9 底径 — 器高 5.3	丸底。体部は直線的に開き、口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒 外—にぶい黄橙色 内—橙色	口縁部1/3欠損

第281号住居跡 (第602図、図版71)

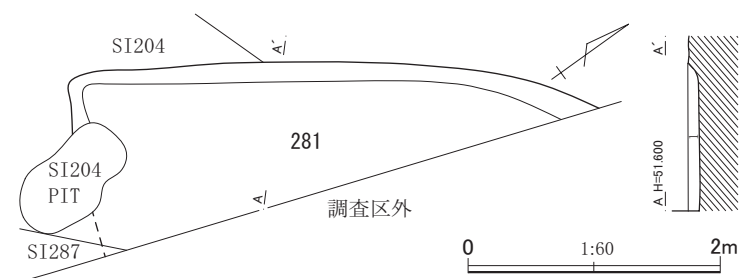
調査地点北東部の東縁沿いのほぼ中央、V11グリッドに位置し、G群に含まれる住居跡である。第204・287号住居跡に切られ、東側は調査範囲外であり、西隅、あるいは南西隅周辺のほんのわずかな範囲の壁と床面が残存するのみである。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

規模は、北東—南西方向での長さが4.20m、北西—南東方向での現存長は1.48mである。床面は、凹凸が著しいが、硬化している。壁高は、北西壁で7cmである。

土師器片を主とする遺物が、覆土中から少量出土している。出土遺物から見て、古墳時代の遺構かと思われる。



第601図 第280号住居跡出土遺物



第281号住居跡土層説明

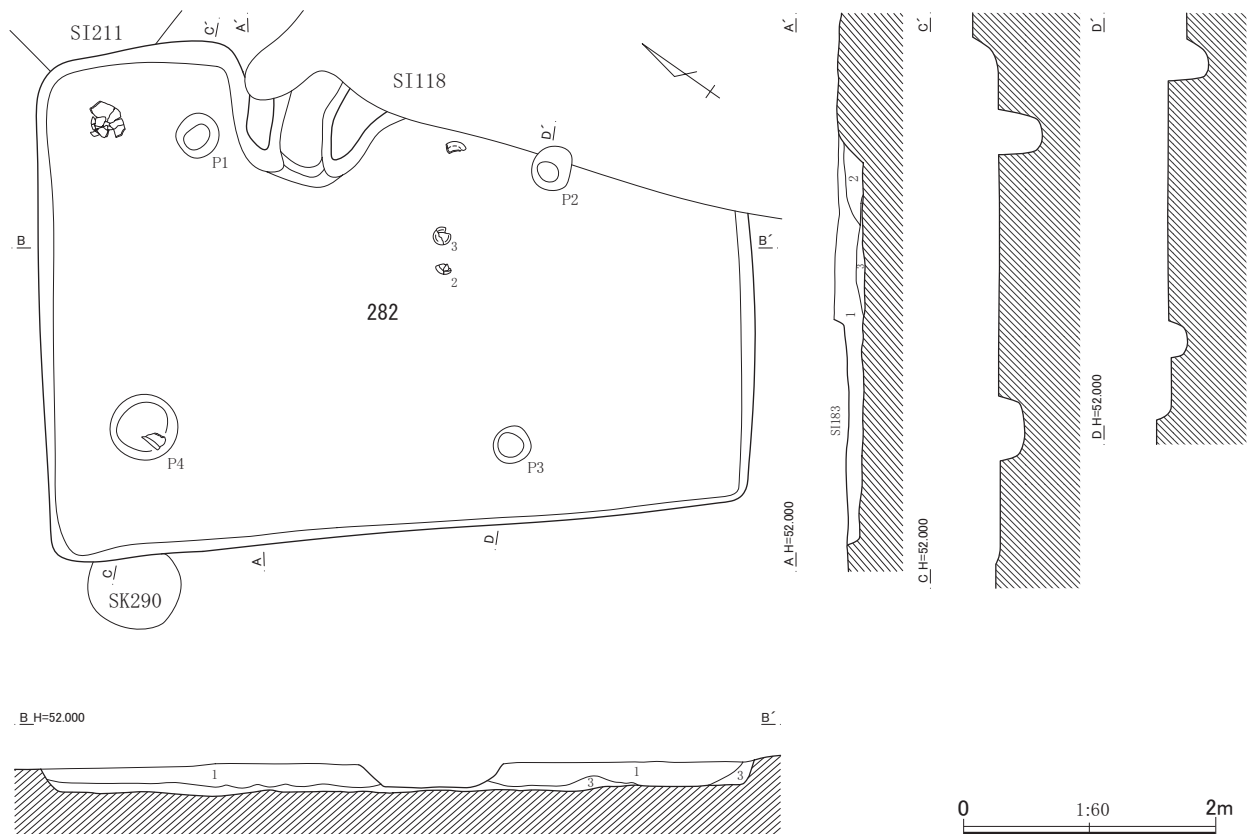
第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を多量に含み、ローム小塊(～30mm)を中量含む。

第602図 第281号住居跡平面・断面図

第282号住居跡 (第603～605図、第284表、図版71・178)

調査地点のほぼ中央、Q11・12、R11・12グリッドに位置し、F群に含まれる住居跡である。第307・323号住居跡を切り、第118・211号住居跡に切られ、遺構の東側部分などを壊されている。また、第183・196号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、横長の長方形である。規模は、主軸方向で4.02m、副軸方向で5.18m、主軸方位は、N



第282号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム小塊(～30mm)・焼土小塊(～10mm)を少量含む。焼土粒(～5mm)を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～8mm)
- 第3層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～5mm)を少量含む。ややしまっている。

第603図 第282号住居跡平面・断面図(1)

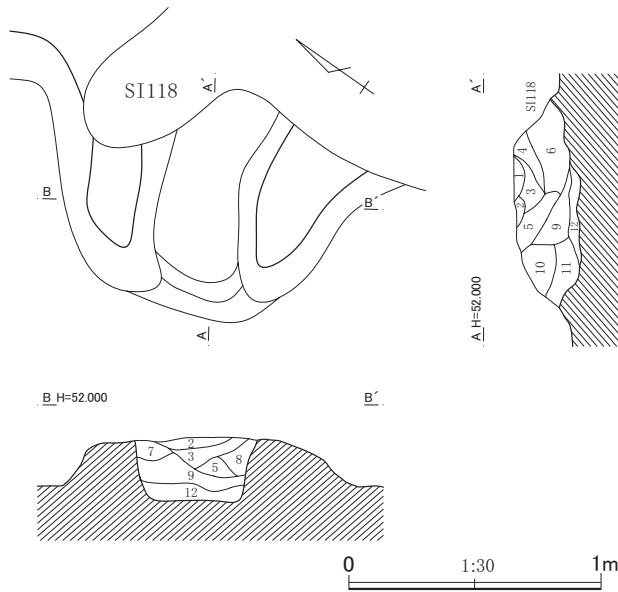
—54°—Eである。壁際を除く床面は、硬化している。床面にはやや凹凸が目立つ。壁は比較的急に立ち上がり、壁高は、北東壁で12cm、南東壁で20cm、南西壁で10cm、北東壁で18cmである。

位置がやや変則的ではあるが、P1～P4は、支柱穴であろう。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形で、深さは、P1が31cm、P2が29cm、P3が12cm、P4が17cmである。

カマドは北東壁の北隅にかなり寄った位置にやや斜行して付設されている。両袖に挟まれた燃焼部が残存するが、奥壁側は第118号住居跡に壊されている。燃焼部の現存長は90cm、横幅は49cmである。燃焼面は、楕円形に近い平面形で、浅く掘りくぼめ造作されており、凹凸が著しい。燃焼面および側壁は、被熱により赤みを帯び、硬化している。カマド覆土は12層で、黄褐色粘土を主とする第1・5・6・8層や粘土粒、焼土粒の多い第3・9層、粘土粒、あるいは粘土小塊が目立つ第11・12層など特徴的な土層が見られる。天井部や側壁の崩落土というか、あるいはカマドを壊した土が乱れ入るかにも見える。

覆土は、暗褐色土を主とする3層で、ローム小塊、焼土小塊を少量含む第1層が、厚く堆積しているのが特徴である。

第605図1の皿、2・3の坏3個体は、カマドの南側前面の床面より若干浮いた位置から出土した。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末期末から奈良時代初頭にかけての遺構と考えられる。

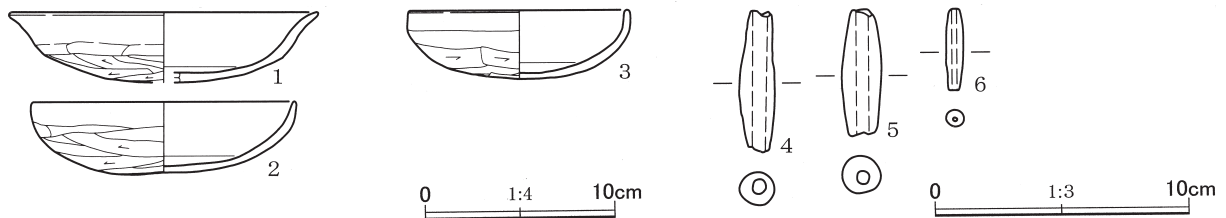


- 第4層：暗黄褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～4mm)・粘土小塊(～10mm)を少量含む。粘性はやや強い。
- 第5層：黄褐色土。黄褐色粘土を主とし、暗褐色土粒子(～1mm)を少量含む。粘性はやや強い。
- 第6層：黄褐色土。黄褐色粘土を主とし、暗褐色土粒子(～2mm)を少量含む、暗褐色土小塊(～20mm)を微量含む、焼土粒(～1mm)・焼土小塊(～10mm)を少量含む。粘性はやや強い。
- 第7層：暗黄褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～4mm)・粘土小塊(～10mm)を少量含む。粘性はやや強い。
- 第8層：黄褐色土。黄褐色粘土を主とし、暗褐色土粒子(～4mm)を少量含む、暗褐色土小塊(～10mm)を中量含む。粘性はやや強い。
- 第9層：暗黄褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～1mm)を多量に含む、粘土粒(～5mm)・焼土粒(～1mm)を中量、焼土小塊(～10mm)を少量含む。粘性はやや強い。
- 第10層：暗黄褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～4mm)・粘土小塊(～10mm)を少量含む。粘性はやや強い。
- 第11層：黄褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～4mm)を多量に含む、粘土小塊(～10mm)・粘土粒(～1mm)を中量含む。粘性はやや強い。
- 第12層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・粘土粒(～1mm)を少量含む、粘土粒(～2mm)を中量含む。粘性はやや強い。

第282号住居跡カマド土層説明

- 第1層：黄褐色土。黄褐色粘土を主とし、暗褐色土粒子(～1mm)を少量含む。粘性はやや強い。
- 第2層：暗黄褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～4mm)・粘土小塊(～10mm)を少量含む。粘性はやや強い。
- 第3層：暗褐色土。粘土粒(～1mm)・焼土粒(～4mm)を中量含む、粘土小塊(～10mm)・焼土粒(～1mm)を少量含む。粘性はやや強い。

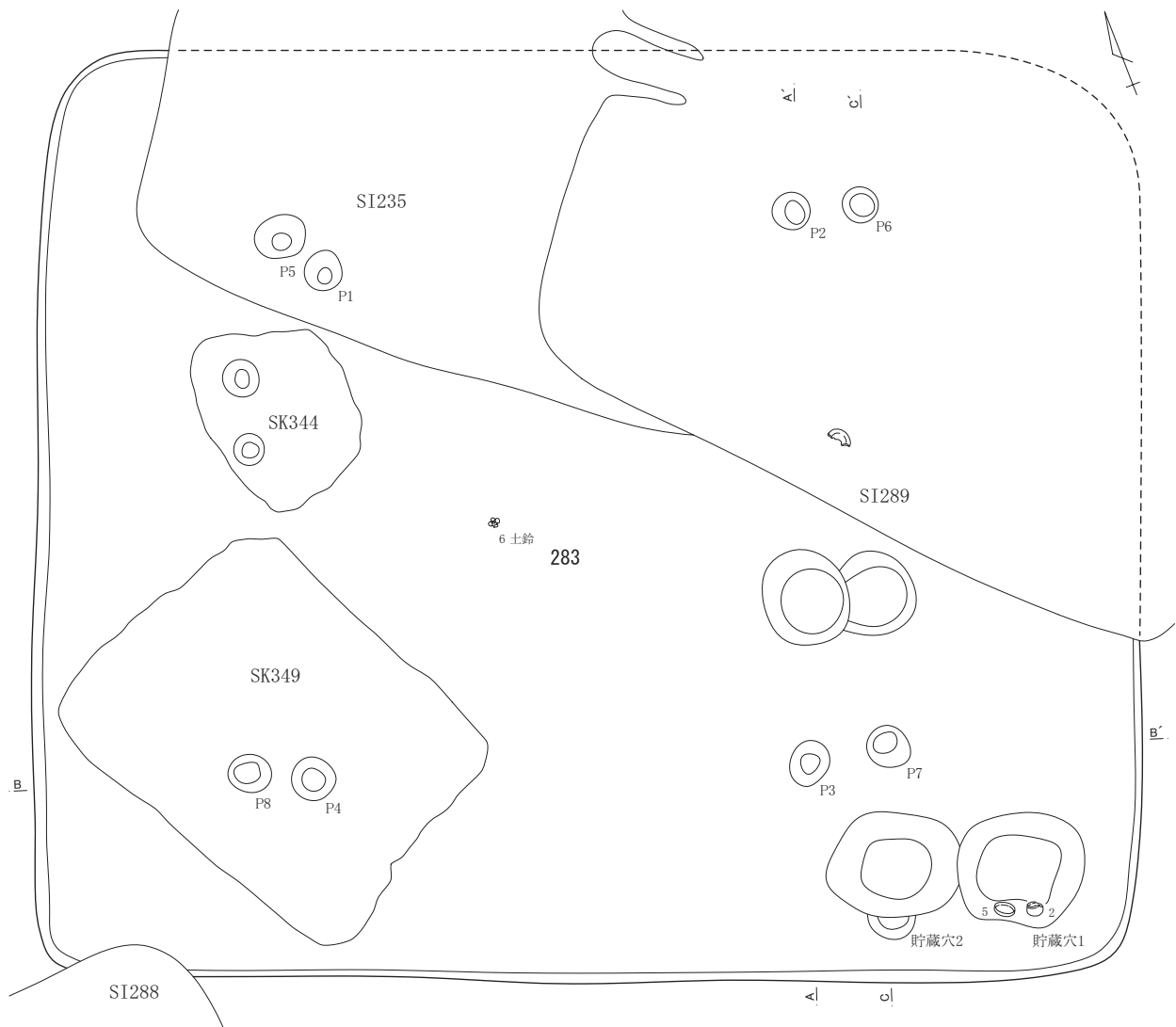
第604図 第282号住居跡平面・断面図(2)



第605図 第282号住居跡出土遺物

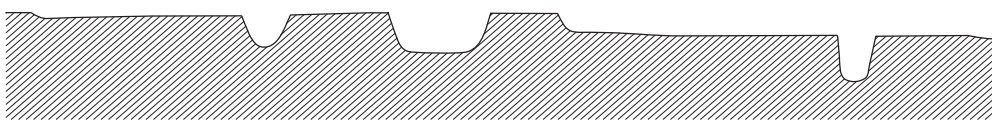
第284表 第282号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考	
1	皿	口径 (16.8) 底径 — 器高 [3.8]	丸底。体部は大きく開く。口縁部は外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ、下位ヘラナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒 内外—にぶい橙色	2/3残存	
2	坏	口径 (14.4) 底径 — 器高 4.0	丸底。体部は彎曲し、口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒 内外—橙色	1/3残存	
3	坏	口径 12.0 底径 — 器高 1.9	丸底。体部は彎曲し、口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部上位ナデ、体部中位～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—橙色	口縁部1/4欠損	
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考	
4	土錘	長さ5.9、幅1.5、厚さ1.4、重さ8.49g。	胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい赤褐色。				完形
5	土錘	長さ5.2、幅1.6、厚さ1.5、重さ13.58g。	胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい黄褐色。				完形
6	土錘	長さ3.4、幅0.7、厚さ0.7、重さ1.88g。	胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい黄褐色。				完形



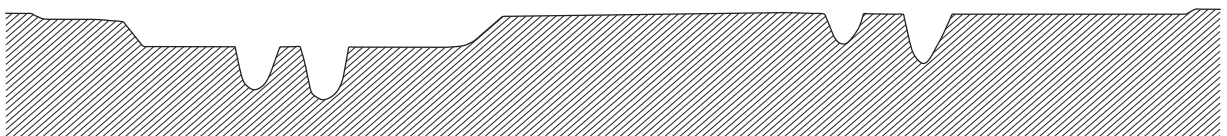
A H=51.800

A'



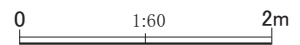
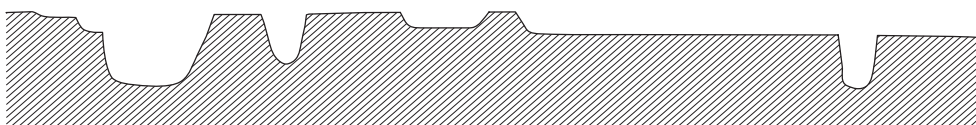
B H=51.800

B'



C H=51.800

C'



第606図 第283号住居跡平面・断面図(1)

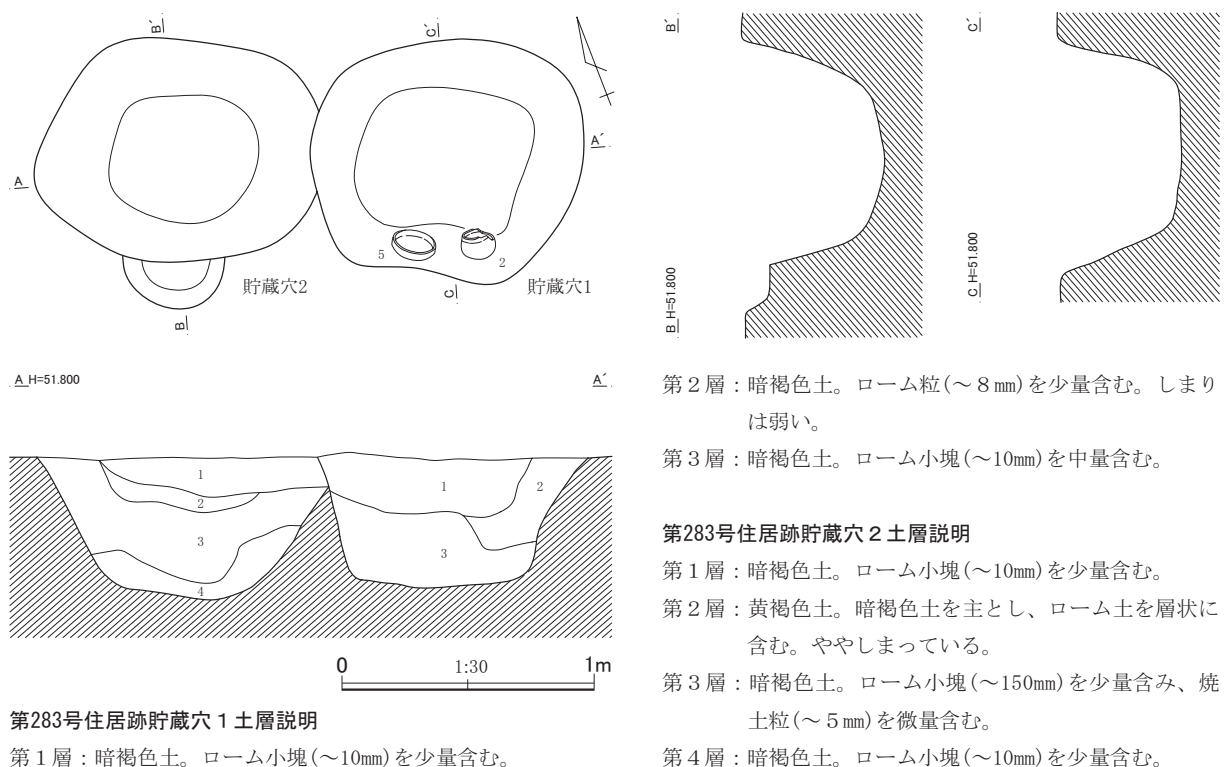
第283号住居跡（第606～608図、第285表、図版72・178）

調査地点の北西部の中央、西寄り、O 8・9、P 8・9 グリッドに位置し、A群に含まれる住居跡である。第288・320号住居跡を切り、第235・267・289号住居跡、第344・349号土坑に切られ、北東壁から南東壁にかけての大半、東半の一部の床面などを壊されている。また、第319号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、北西－南東方向が北東－南西方向に比べ長い長方形と見られる。規模は、北東－南西方向での中軸線上での現存長が4.90m、南隅－東隅間の長さが7.47m、北西－南東方向での長さは、9.38mである。突出した規模の大型住居跡である。カマドがあったとすれば、北東壁、ないしは南東壁にあったと考えられる。北東－南西方向での中軸線が指す方位は、N-22°-Eである。床面はほぼ平坦で、壁際を除いて硬化している。壁高は、南東壁で5cm、南西・北西壁で6cmである。

P 1～P 8は、床面で検出した主柱穴と考えられるピットである。P 1～P 4、P 5～P 8の4本柱2組の主柱穴と考えられ、P 1～P 4を主柱穴とする段階から、P 5～P 8を主柱穴とする段階へと主柱穴が作り替えられた可能性が一つ考えられる。この場合、それに伴って床面が拡張された可能性があるが、以下に記す重複する2個の貯蔵穴以外には、そうした痕跡は見られない。いずれのピットも上端での平面形は、やや不整な円形で、深さは、P 1が49cm、P 2が47cm、P 3が26cm、P 4が66cm、P 5が65cm、P 6が62cm、P 7が41cm、P 8が58cmである。

南隅近くの2個のピットないしは土坑は、貯蔵穴であろう。西側のそれを貯蔵穴2、より南隅に近い東側のものを貯蔵穴1と呼称する。貯蔵穴1は、貯蔵穴2を切っており、位置をずらして貯蔵穴の作り直しが行われた模様である。2つの貯蔵穴が同じように住居跡の南隅脇にあったとすれば、貯蔵



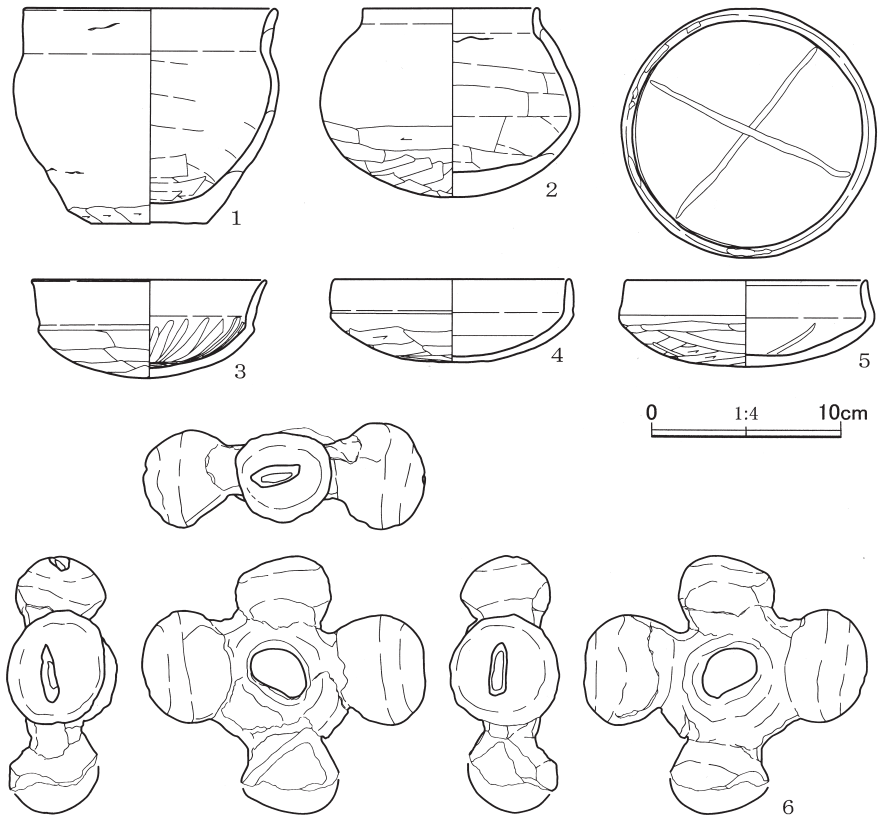
第607図 第283号住居跡平面・断面図(2)

C地点

穴2から貯蔵穴1への作り直しは、住居そのものの拡張に伴って行われた可能性があるように思われる。この推定は、上述した2組の支柱穴から得られた住居の拡張の推定と整合する。貯蔵穴1の上端での平面形は、不整な円

形であるが、底面は、歪ではあるが方形に近い。北西-南東方向での径は109cm、北東-南西方向での径は93cm、深さは50cmである。覆土の第3層は、ローム小塊をかなり含む埋め戻されたような土である。貯蔵穴2の上端での平面形は、不整な円形あるいは楕円形である。北西-南東方向での径は116cm、北東-南西方向での径は89cm、深さは55cmである。覆土の第2層は、ロームを層状に含む特異な土である。

他に床面あるいは重複する土坑底面で、本住居



第608図 第283号住居跡出土遺物

第285表 第283号住居跡出土遺物観察表

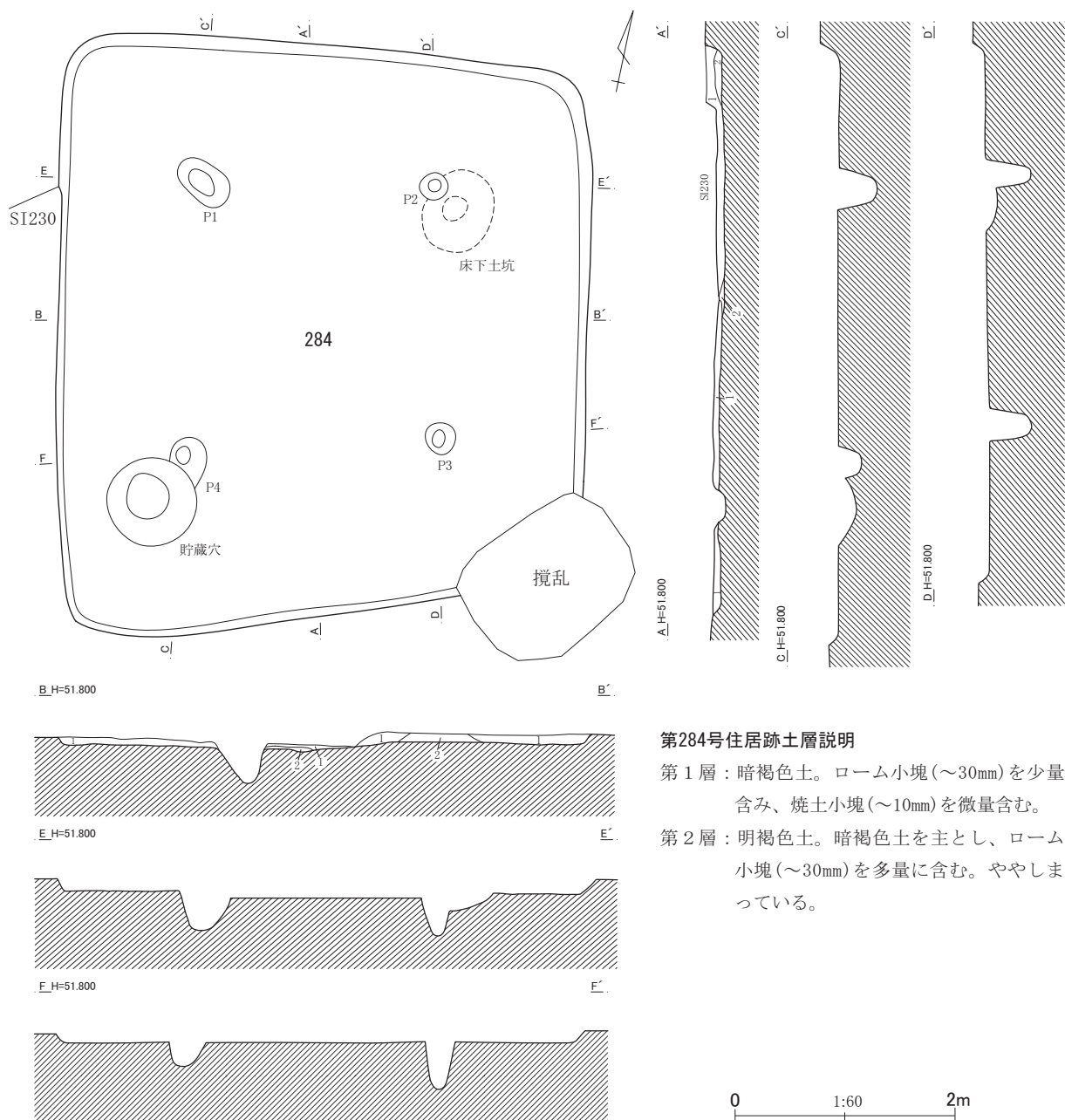
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法的特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	小型甕	口径 13.6 底径 6.4 器高 11.8	口縁部は直立する。胴部は上位に膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部磨耗、胴部下端ヘラケズリ。底部ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部~底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外-橙色	4/5残存
2	短頸壺	口径 (9.5) 底径 — 器高 10.4	口縁部は直立する。胴部は中~下位が張る。丸底。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部上半磨耗、胴部下半~底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部~底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外-にぶい橙色	口縁部~胴部上位1/2欠損
3	坏	口径 (12.8) 底径 — 器高 5.4	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。体部~底部に放射状のヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外-橙色	口縁部1/2欠損
4	坏	口径 (12.9) 底径 — 器高 4.6	丸底。口縁部は体部との境に弱い稜をもって内彎気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部上位ナデ、体部中位~底部ヘラケズリ。内面-口縁部~体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒 内外-明赤褐色	1/4残存
5	坏	口径 13.2 底径 — 器高 4.7	丸底。体部は彎曲し、口縁部は内傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部~体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。見込みに「×」のミガキ。	石英・白色粒・黒色粒 内外-にぶい橙色	ほぼ完形
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
6	土製品 四環鈴	長さ[11.7]、幅11.65、厚さ4.5、重さ172.59g。胎土：白色粒。色調：橙色。調整：ナデ。鈴の中				鈴1箇所欠損

跡に伴う可能性あるピットを6個検出しているが、柱穴や貯蔵穴などではなさそうである。

第608図2の短頸壺ないしは鉢は、貯蔵穴1の上層から出土している。6の環鈴（埴輪馬の馬具の一部か）は、住居跡のほぼ中央、床面よりやや浮いた位置から出土した。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期後葉前半の遺構と考えられる。

第284号住居跡（第609～611図、第286表、図版72・178）

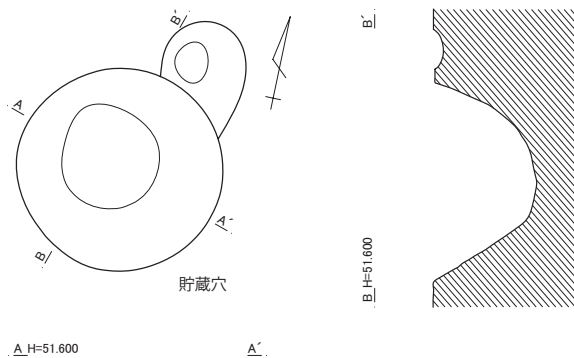
調査地点の北東部の中央、やや北寄り、T9・10グリッドに位置し、C群に含まれる住居跡である。第310・313号住居跡を切っており、第230号住居跡に切られ、また南東隅を攪乱により壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。



第284号住居跡土層説明

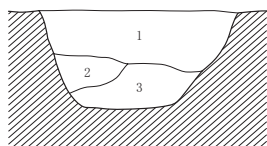
- 第1層：暗褐色土。ローム小塊（～30mm）を少量含み、焼土小塊（～10mm）を微量含む。
- 第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊（～30mm）を多量に含む。ややしまっている。

第609図 第284号住居跡平面・断面図（1）



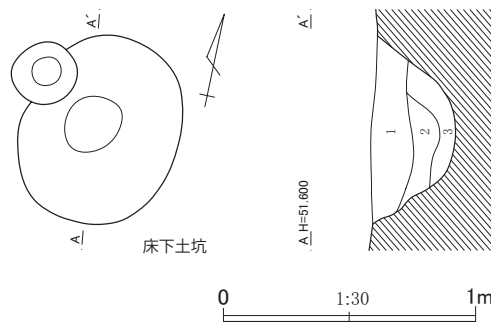
A H=51.600

A'



第284号住居跡貯蔵穴土層説明

第1層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)を少量含み、焼土粒(～5mm)を微量含む。



床下土坑

0 1:30 1m

第2層：暗褐色土。ローム粒(～8mm)を中量含み、焼土粒(～8mm)を微量含む。

第3層：暗褐色土。ローム粒(～8mm)を中量含む。

第284号住居跡土層説明〈床下土坑〉

第1層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)を少量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒(～8mm)を少量含む。

第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～10mm)を中量含む。

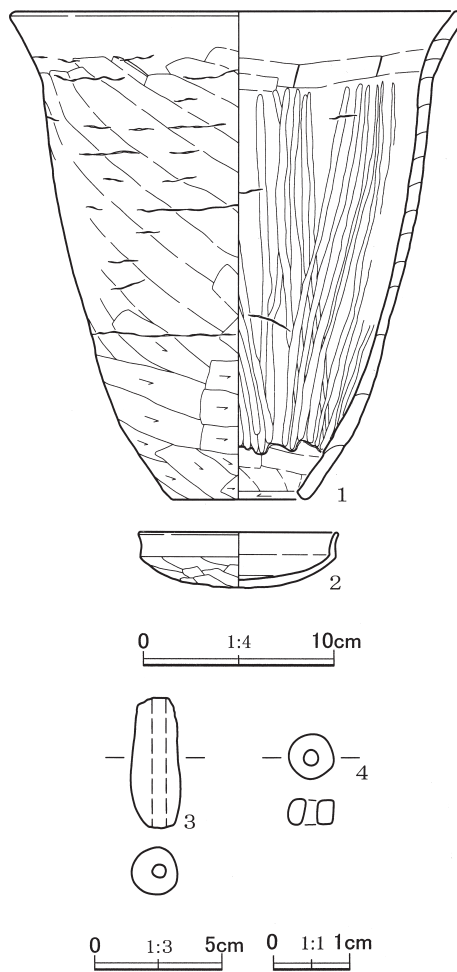
第610図 第284号住居跡平面・断面図(2)

平面形は、方形であるが、北壁と南壁は平行せず、かなり歪である。規模は、南北方向で5.22m、東西方向で4.83mである。南北の中軸線の指す方位は、N-12°-Wである。壁際を除く床面は、硬化している。壁高は、北壁で16cm、東・南壁で9cm、西壁で7cmである。

P1～P4は、支柱穴であろう。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形、楕円形で、深さは、P1、P2が34cm、P3が38cm、P4が20cmである。P4と重複するピットないしは土坑を、貯蔵穴と考えた。上端での平面形は円形で、径80～83cmである。丸みをもったバケツ形に掘り込まれており、深さは39cmである。覆土は3層で、暗褐色土を主とする。カマドは、本来なかった可能性が高い。

P2に接して床下土坑を検出している。上端での平面形は楕円形で、長径74cm、短径64cmである。丸みをもったバケツ形に掘り込まれており、深さは33cmである。覆土は3層で、第3層は、ローム小塊をかなり含む埋め戻された可能性のある土である。

第611図1の甑は、貯蔵穴の上層から破片の状態出土している。他には、土師器小片を主とする遺物が覆土中から少数出土している。重複関係、出土遺物、とくに図示した甑から見て、古墳時代後期後葉頃の遺構と考えられる。



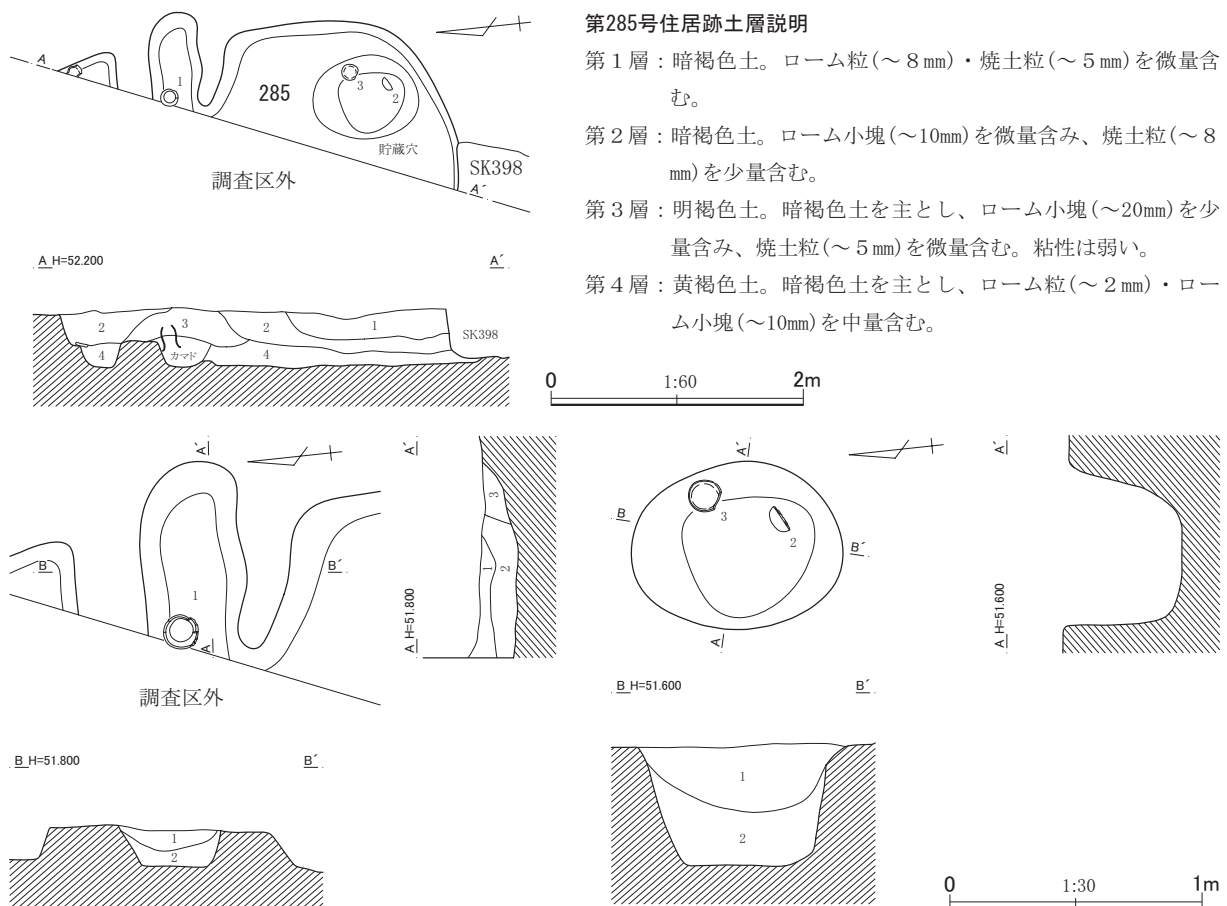
第611図 第284号住居跡出土遺物

第286表 第284号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甌	口径 (24.1) 底径 (7.5) 器高 26.8	口縁部は外反する。胴部は下方へ向かってやや窄まる。底部は筒抜け。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ後、下位ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ後ミガキ、下端ヘラケズリ。	石英・白色粒・黒色粒 外-橙色 内-灰褐色	2/3残存
2	坏	口径 (10.8) 底径 — 器高 3.1	丸底。体部は浅く、口縁部は外反気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部~底部ヘラケズリ。内面-口縁部~体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒 内外-橙色	2/3残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
3	土錘	長さ5.4、幅1.9、厚さ1.9、重さ21.06g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：明黄褐色。				完形
4	石製品 臼 玉	長さ0.6、幅0.6、孔径0.2×0.2、厚さ0.3、重さ0.198g。石材：粘板岩。				完形

第285号住居跡 (第612・613図、第287表、図版72・178)

調査地点の北東部の西縁沿いの中央、北寄り、N7・8グリッドに位置し、A群に含まれる住居跡である。第398号土坑に切られ、遺構の西半、西北半は調査範囲外であり、カマドから南東隅の周辺



第285号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～8mm)・焼土粒(～5mm)を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)を微量含み、焼土粒(～8mm)を少量含む。
- 第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～20mm)を少量含み、焼土粒(～5mm)を微量含む。粘性は弱い。
- 第4層：黄褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)・ローム小塊(～10mm)を中量含む。

第285号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。焼土粒(～8mm)を中量含む。
- 第2層：暗褐色土。暗灰褐色土を主とし、焼土粒(～5mm)を微量含む。粘性は弱い。
- 第3層：黄褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～20mm)

を多量に含む。粘性は弱い。

第285号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～8mm)を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)を微量含む。

第612図 第285号住居跡平面・断面図

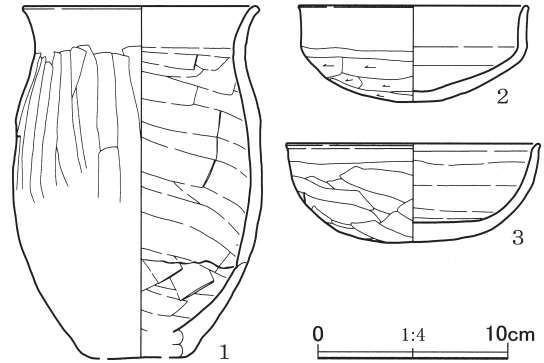
C地点

のみ残存する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

規模は、いずれも現存長になるが、南北方向の長さが2.24m、東西方向の長さが1.45mである。床面の硬化は不明瞭である。最も残りのよい部分での壁高は、45cmである。

貯蔵穴は、南東隅近くで検出した。上端での平面形は楕円形で、長径84cm、短径66cmで、深さは57cmである。カマドは、東壁に付設されている。左袖、燃烧部の一部と右袖が残存する。燃烧部の現存長は75cm、横幅は41cmである。カマド覆土は3層で、ローム小塊を多量に含む第3層は、天井部、奥壁などの崩落土であろう。

第613図1の甕は、カマド左袖の内壁に接してカマド覆土上層から出土している。2・3の坏は、貯蔵穴の中〜下層から出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期初頭（新相）の遺構と考えられる。



第613図 第285号住居跡出土遺物

第287表 第285号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法的特徴	調整・装飾手法的特徴	胎土・色調	備考
1	小型甕	口径 12.7 底径 (5.3) 器高 19.3	口縁部は外反する。胴部は膨らみをもたない。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ、下半は粘土附着。底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部〜底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—橙色	2/3残存
2	坏	口径 12.5 底径 — 器高 5.3	丸底。体部は彎曲し、口縁部は外反気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部〜底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部〜底部ヘラナデ。	石英・白色粒 内外—橙色	口縁部1/5欠損
3	坏	口径 13.9 底径 — 器高 5.4	丸底。体部は彎曲し、口縁部は短く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部〜底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部〜底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—明赤褐色	ほぼ完形

第286号住居跡（第614・615図、第288表、図版73・178）

調査地点の北西部と北東部の境のほぼ中央、R9・10グリッドに位置し、B群に含まれる住居跡である。第299号住居跡を切っており、第265号住居跡に切られ、遺構の西半を大きく壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

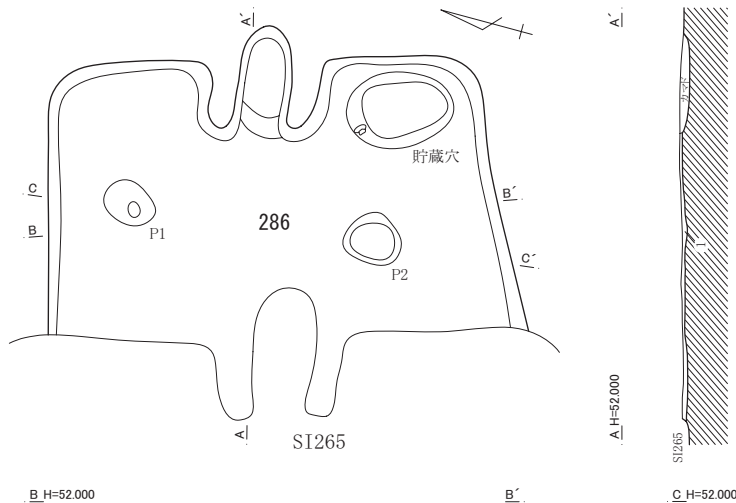
平面形は、長方形と見てよいであろうか。規模は、主軸方向での現存長が2.18m、副軸方向での長さは3.80m、主軸方位は、N-73°-Eである。壁高は、東壁で7cm、南・北壁で5cmである。

P1、P2は、支柱穴であろう。いずれも上端での平面形は、不整な円形で、深さは、P1が34cm、P2が18cmである。貯蔵穴は、カマド右袖と南東隅の間で検出した。上端での平面形は楕円形で、長径78cm、短径60cmである。盆形に掘り込まれており、深さは13cmである。

カマドは東壁のほぼ中央に付設されている。両袖に挟まれた燃烧部が残存する。燃烧面は、楕円形

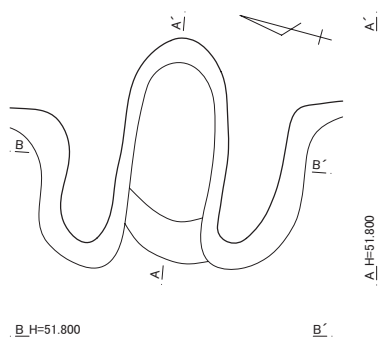
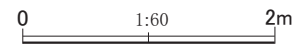
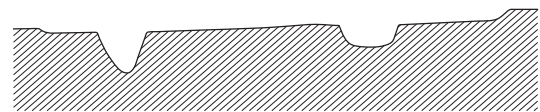
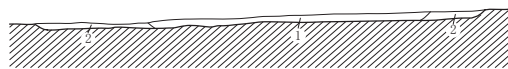
第288表 第286号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
1	土製紡錘車	上面径5.7、下面径2.8、孔径0.8×0.8、厚さ1.9、重さ46.31g。胎土：石英・白色粒・黒色粒。色調：橙色。調整：ヘラケズリ。	一部欠損



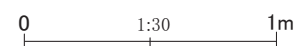
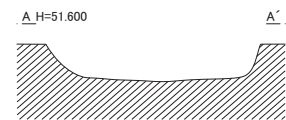
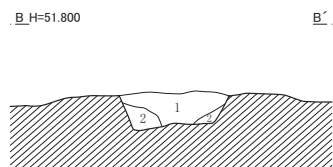
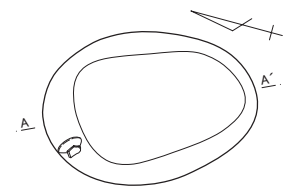
第286号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム小塊(～20mm)を少量含み、焼土粒(～8mm)を微量含む。
 第2層：明褐色土。暗褐色土を主とする、ローム混交土。



第286号住居跡カマド土層説明

第1層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、粘土粒(～1mm)を多量に含み、焼土粒(～8mm)を中量含む。粘性はやや強い。
 第2層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を中量含む。
 第3層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)・焼土粒(～1mm)を少量含む。
 第4層：暗褐色土。粘土粒(～2mm)を中量含み、焼土粒(～1mm)を少量含む。粘性はやや強い。



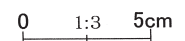
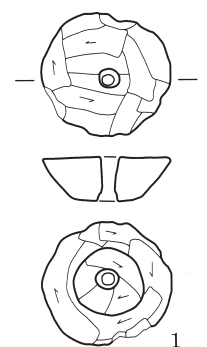
第614図 第286号住居跡平面・断面図

に近い平面形で、船底形に掘りくぼめ造作されている。燃烧部の長さは88cm、横幅は42cmである。奥壁、側壁は、被熱により部分的に淡い赤みを帯び、硬化している。カマド覆土は4層で、粘土粒や焼土粒の混入が目立つ第1・4層には、天井部や側壁の崩落土が含まれるようである。

重複関係から見て、奈良時代後半以前の遺構と考えられる。

第287号住居跡 (第616図、図版73)

調査地点の東縁沿いの中央、北寄り、V11・12グリッドに位置し、G群に含まれる住居跡である。第281号住居跡を切って造られている。第204・272号住居跡に切られ、遺構の東半は調査範囲外のため、三角形が重なったようなわず



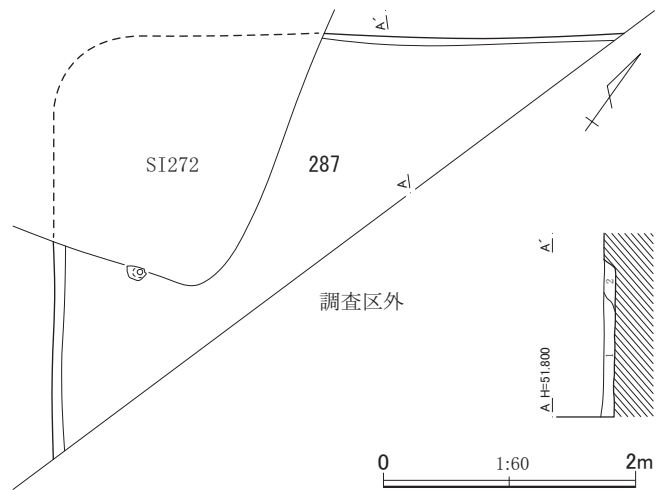
第615図 第286号住居跡出土遺物

C地点

かな範囲の壁と床面が残るのみである。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

規模は、いずれも残存する部分の長さになるが、北西壁の長さは2.30m、南西壁の長さは1.72mである。因みに南西壁の指す方位は、N-55°-Eである。南西壁付近の床面は、硬化している。壁高は、北西壁で9cmである。

覆土は、暗褐色土を主とし、ローム粒の混入の目立つ2層に分けられた。第272号住居跡との境目付近の上層から土師器底部片が1点出土している。他に土師器片を主とする遺物が覆土中より少量出土している。重複関係から見て、古墳時代終末期中葉以前の遺構と考えられる。

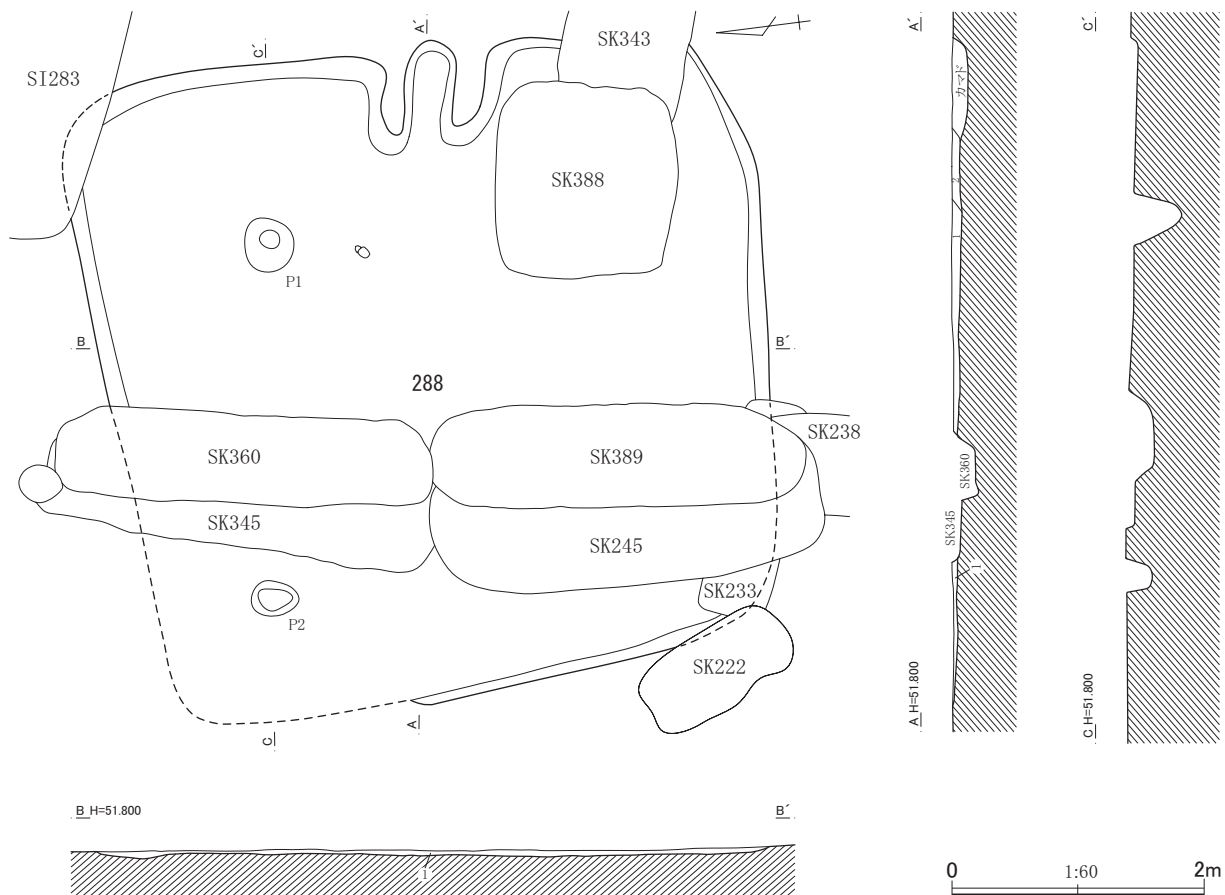


第287号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)・炭化物小塊(～10mm)・焼土小塊(～10mm)を微量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含み、ローム小塊(～20mm)を微量含む。

第616図 第287号住居跡平面・断面図



第288号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含み、焼土粒(～5mm)を微量含む。

第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～8mm)を微量含み、焼土粒(～5mm)を少量含む。

第617図 第288号住居跡平面・断面図(1)

第288号住居跡（第617～619図、第289表、図版73・178）

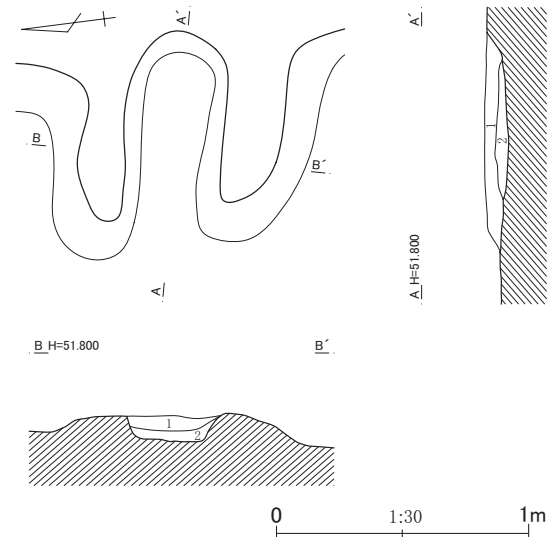
調査地点の西縁近くの中央、やや北寄り、N9、O9グリッドに位置し、E群に含まれる住居跡である。第308号住居跡を切っており、第283号住居跡、第222・233・238・245・343・345・360・388・389号土坑に切られ、遺構の東半を大きく壊されている。また、第38号住居跡と重複する。なお、西壁側で第45号住居跡とも重複する位置にあるが、第45号住居跡の床面がどこまで伸びるか確認し切れず、同住居跡との新旧関係を確定することができなかった。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

南東隅が丸みを帯び、やや変則的ではあるが、平面形は、方形と見てよいであろう。規模は、主軸方向で5.13m、副軸方向で5.25mである。主軸方位はS-87°-Eである。壁際以外の床面は、明瞭に硬化している。壁高は、東壁で5cm、南・北壁で4cm、西壁で3cmである。

P1、P2は、支柱穴であろう。いずれも上端での平面形は、不整な円形で、深さは、P1が38cm、P2が21cmである。

カマドは、東壁の中央やや南東隅に寄った位置に斜行して付設されている。両袖に挟まれた燃焼部が残存する。燃焼面は、微妙に掘りくぼめ造作されている。袖端を末端とするなら、燃焼部の長さは87cm、横幅は39cmである。右側壁は、被熱により部分的に淡い赤みを帯び、硬化している。カマド覆土は2層で、焼土粒子の混入が目立つ第1層には、天井部や側壁の崩落土が含まれるようである。

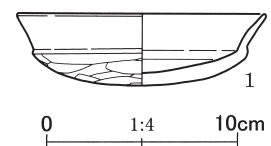
図化していないが、焼粘土塊が、P1の南脇から出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期後葉頃の遺構かと思われる。



第288号住居跡カマド土層説明

第1層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～8mm)を微量含み、焼土粒(～8mm)を中量含む。
第2層：暗褐色土。焼土粒(～5mm)を少量含む。ややしまっている。

第618図 第288号住居跡平面・断面図(2)



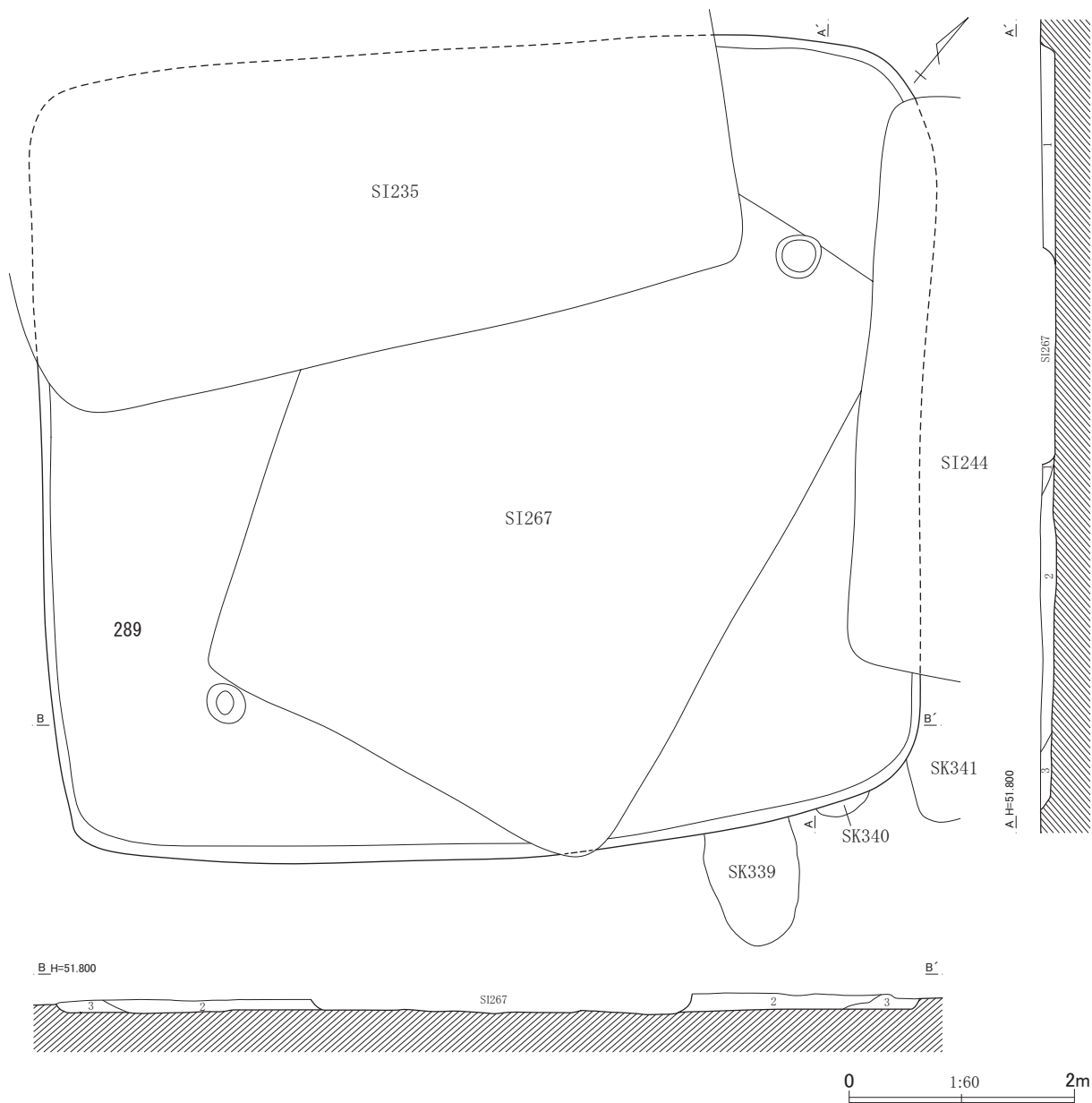
第619図 第288号住居跡出土遺物

第289表 第288号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 (13.5) 底径 — 器高 3.9	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒・褐色粒 外—橙色 内—明赤褐色	口縁部1/3欠損

第289号住居跡（第612・621図、第290表、図版73・178）

調査地点の北西部の中央、北西寄り、O8・9、P8・9グリッドに位置し、A群に含まれる住居跡である。第283・297号住居跡を切っており、第235・244・267号住居跡、第339・340・341号土坑に切られ、遺構の中央から北西壁、北東壁にかけて大きく壊されている。また、第319号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。



第289号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～6mm)・焼土粒(～1mm)を少量含み、ローム小塊(～20mm)・焼土粒(～6mm)を微量含む。

多量に含み、ローム小塊(～20mm)・焼土粒(～4mm)を中量含む。

第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～8mm)を

第3層：暗褐色土。ローム粒(～6mm)・ローム小塊(～150mm)を少量含む。

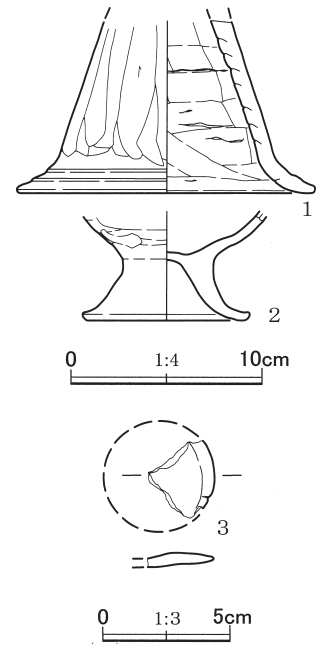
第620図 第289号住居跡平面・断面図

第290表 第289号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	高坏	口径 — 底径 (16.0) 器高 [9.4]	脚部は下方へ向かって開く。裾部は弱い段を2段有する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—脚部ヘラケズリ。裾部ヨコナデ。内面—脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。	石英・白色粒 内外—橙色	脚部1/2残存
2	高坏	口径 — 底径 (8.6) 器高 [6.0]	脚部はハの字形に開き、裾部で外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—坏部ヘラナデ。脚部～裾部ヨコナデ。内面—坏部～脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。	石英・白色粒・黒色粒・褐色粒 内外—橙色	坏部～脚部 3/4残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
3	土製品 円板状	径(4.6)、厚さ0.6、重さ3.19g。胎土：白色粒。色調：にぶい橙色。調整：ナデ。				破片

平面形は、方形と見てよいであろう。規模は、いずれも残りのよい部分での計測値になるが、北西－南東方向で7.03m、北東－南西方向で7.70mである。北西－南東方向での中軸線の方位は、N-43°-Wである。床面の硬化は顕著ではない。壁自体辛うじて残るのみであり、壁高は、北西壁で12cm、北東・南西壁で10cm、南東壁で9cmである。北隅、南隅の近くで支柱穴の可能性のあるピットを、1個ずつ検出しているが、支柱穴である確証は得られなかった。

覆土中から図示した土師器片などの遺物が出土したのみである。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期後葉後半の遺構であろう。



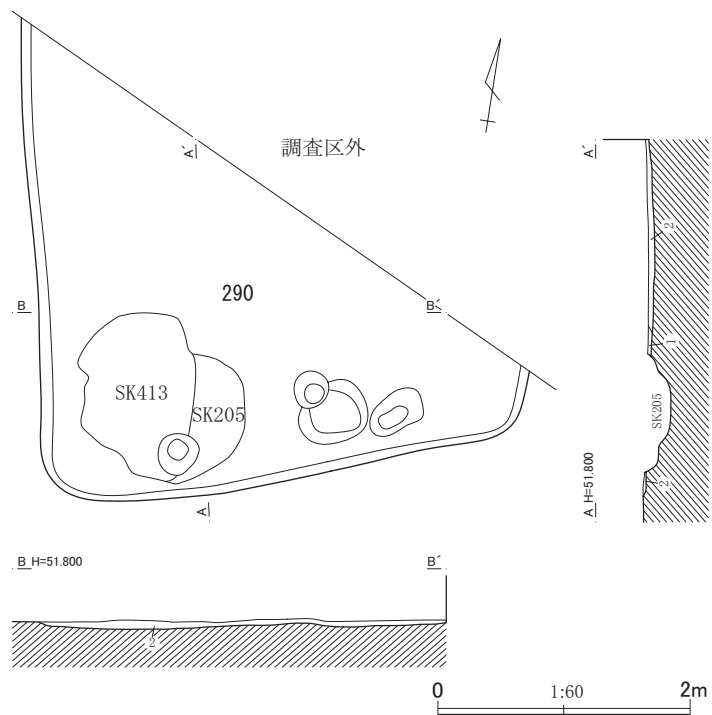
第621図 第289号住居跡出土遺物

第290号住居跡 (第622図、図版73)

調査地点の北西部の東縁沿いの中央、P7、Q7グリッドに位置し、B群に含まれる住居跡である。第205・413号土坑に切られ、遺構の一部を壊されている。北東半は、調査範囲外である。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、方形、あるいは長方形と見られる。規模は、いずれも残りのよい部分での長さになるが、南北方向での現存長は3.85m、東西方向での長さは3.85mである。東壁の指す方位は、N-12°-Wである。床面には微妙な凹凸がやや目立つが、おおむね平坦である。床面は、全体的に硬化している。壁高は、南壁で2、3cm、西壁で4cmほどである。床面および重複する土坑底面で、本住居跡に伴う可能性のあるピットを4個検出しているが、位置や深さから見て、柱穴や貯蔵穴ではないようである。

覆土中から土師器を主とする遺物が少量出土している。出土遺物から見て、古墳時代の遺構と考えられる。



第290号住居跡土層説明

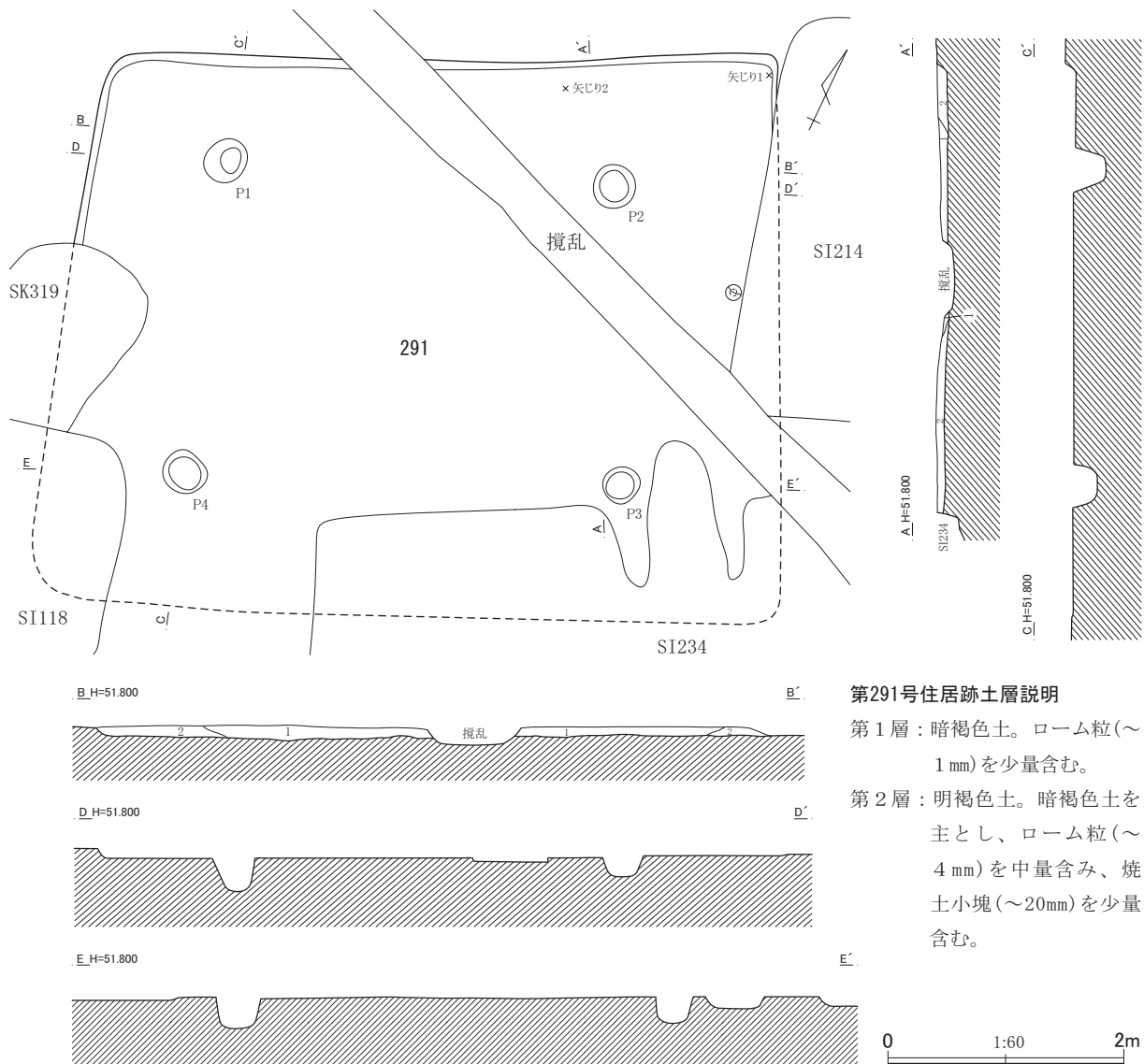
第1層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)を少量含み、焼土粒(～5mm)を微量含む。

第2層：暗褐色土。ローム小塊(～30mm)を少量含む。ややしまっている。

第622図 第290号住居跡平面・断面図

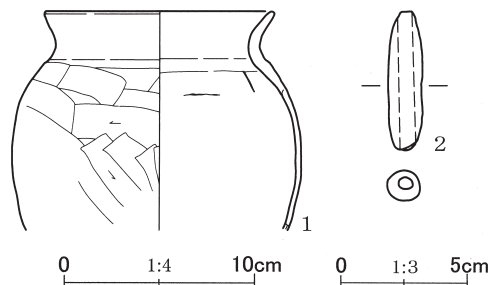
第291号住居跡 (第623・624図、第291表、図版74・178)

調査地点の中央、やや北東寄り、R10・11グリッドに位置し、F群に含



第623図 第291号住居跡平面・断面図

まれる住居跡である。第306号住居跡を切っており、第118・210・214・234号住居跡、第319号土坑に切られ、残存するのは北壁周辺とそれに連なる床面のみである。また、第211号住居跡と重複する。なお、溝状の攪乱が北西半を斜めに抜けている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。



第624図 第291号住居跡出土遺物

第291表 第291号住居跡出土遺物観察表

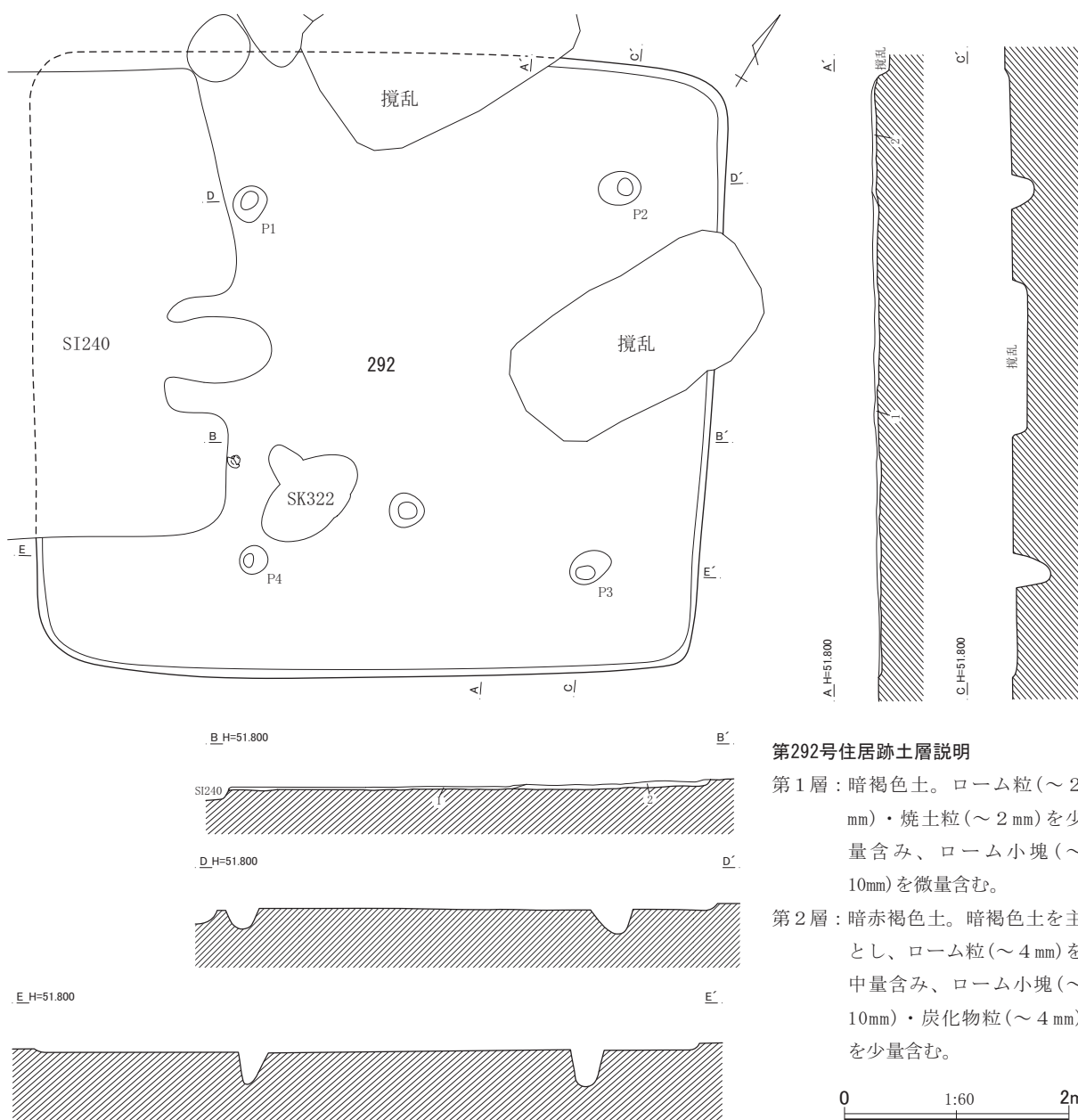
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	小型甕	口径 12.3 底径 — 器高 [12.0]	口縁部は外反する。胴部は中位に膨らみをもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—橙色	口縁部～胴部上半2/3残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
2	土錘	長さ5.8、幅2.4、厚さ2.2、重さ9.93g。	胎土：白色粒・褐色粒。色調：にぶい橙色。			完形

平面形は、いずれにせよ一方の辺の方が長い長方形と見てよいであろう。規模は、いずれも最も残りのよい部分での現存長になるが、南北方向で4.50m、東西方向で5.74mである。床面はほぼ平坦で、壁際を除き硬化している。壁高は、北壁で6cm、西壁で7cmである。

P1～P4は、支柱穴であろう。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形で、深さは、P1が29cm、P2が18cm、P3、P4が20cmである。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末期中葉から後葉にかけての遺構と考えられる。

第292号住居跡（第625・626図、第292表、図版74・179）

調査地点の北縁近くのほぼ中央、R8・9グリッドに位置し、B群に含まれる住居跡である。第301号住居跡を切っており、第240号住居跡、第322号土坑および攪乱に切られ、南西壁から北西壁に



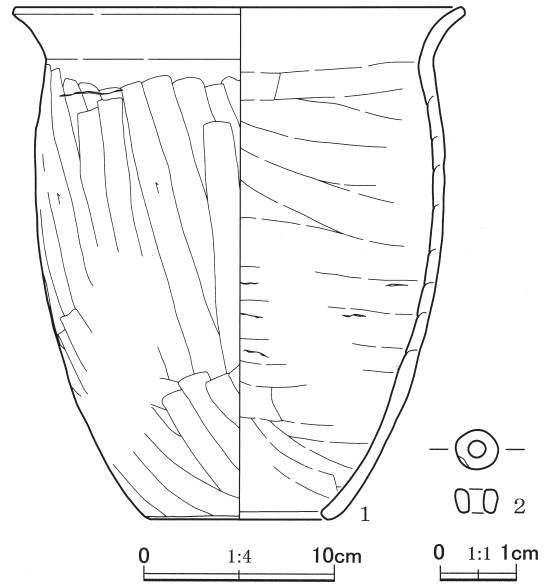
第625図 第292号住居跡平面・断面図

C地点

かけて大きく壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、方形と見てよいであろう。規模は、北西-南東方向で5.50m、北東-南西方向で5.94mである。因みに北東壁の指す方位は、N-27°-Wである。床面には細かな凹凸があるが、全体的に平坦である。支柱穴を結ぶ範囲の床面は、軽微ではあるが、硬化している。壁高は、北西壁で4cm、北東・南西壁で5cm、南東壁で3cmである。

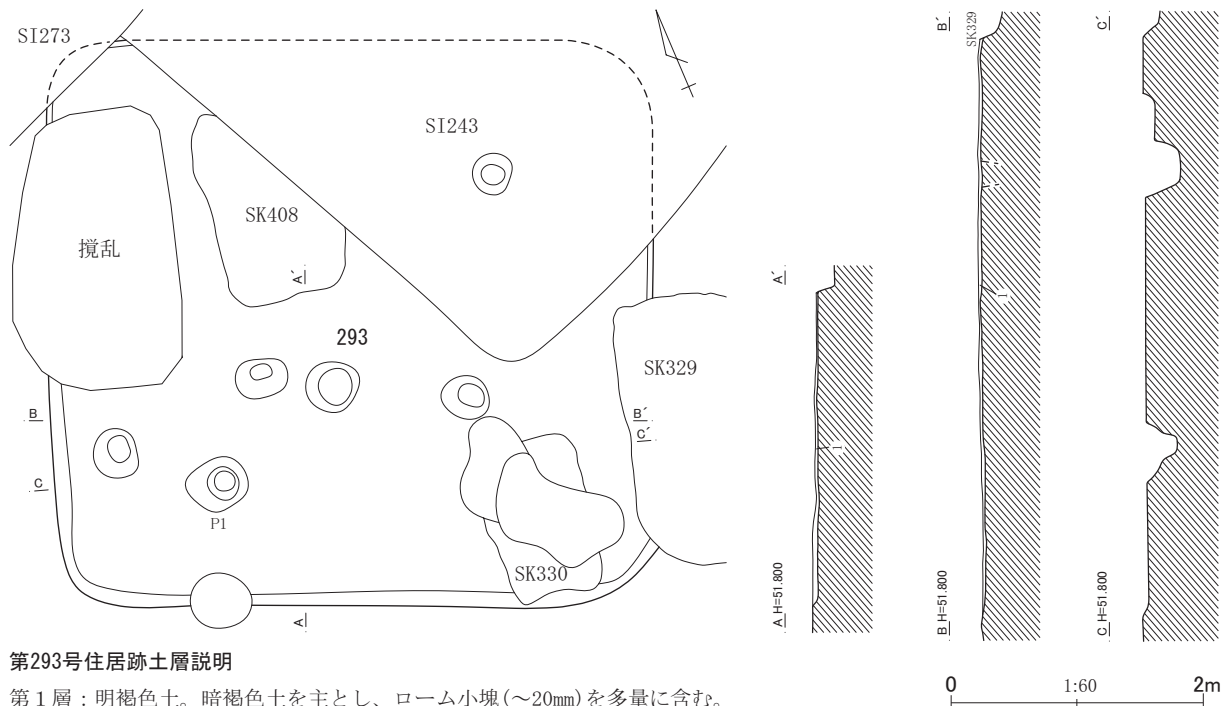
P1~P4は、支柱穴である。上端での平面形は、やや不整な円形、楕円形で、深さは、P1が10cm、P2が20cm、P3が32cm、P4が30cmである。重複関係、出土遺物から、古墳時代後期前葉の遺構と考えられる。



第626図 第292号住居跡出土遺物

第292表 第292号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甑	口径 (24.4) 底径 (9.7) 器高 28.2	口縁部は外反する。胴部は下方へ向かって窄まる。底部は筒抜け。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ、下端ヘラケズリ。	石英・白色粒・黒色粒 内外-橙色	1/5残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
2	石製品 白玉	長さ0.6、幅0.6、孔径0.2×0.2、厚さ0.3、重さ0.157g。石材：滑石。				完形



第293号住居跡土層説明

第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(〜20mm)を多量に含む。

第627図 第293号住居跡平面・断面図

第293号住居跡（第627図、図版74）

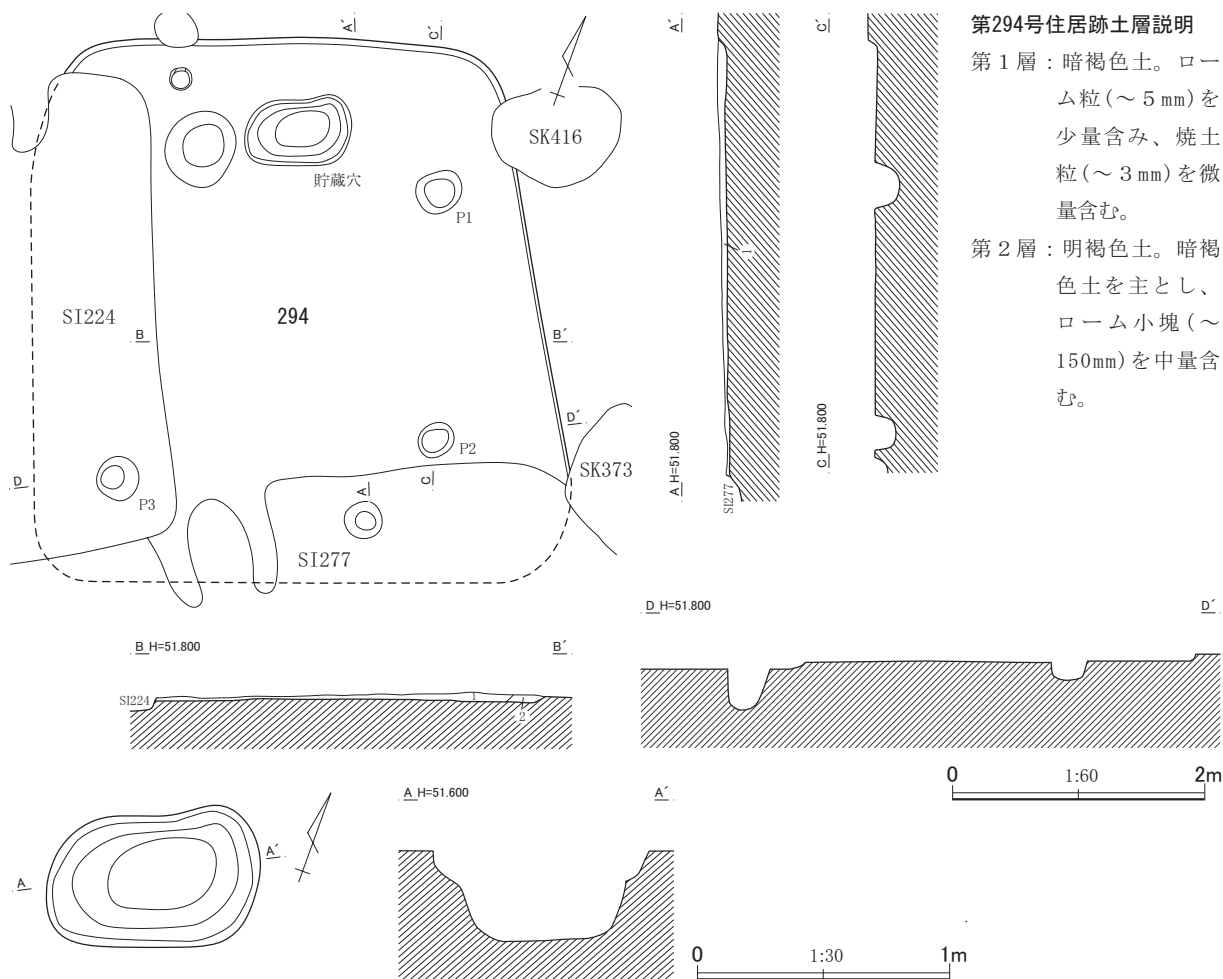
調査地点の北東部の北縁近くのほぼ中央、P 8、Q 8グリッドに位置し、B群に含まれる住居跡である。第243・273号住居跡、第329・330・408号土坑、攪乱に切られ、遺構の北東半や北西壁などを大きく壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

残存する壁から見て、平面形は、方形に近い形態と見られる。規模は、最も残りのよい部分で測定値になるが、北東-南西方向で4.50m、北西-南東方向で4.70mである。床面は、主にP 1の北側の範囲が硬化している。壁高は、南西壁で4 cm、北西壁で2 cmである。

P 1は、支柱穴かと思われるピットである。上端での平面形は、やや角張った不整な円形で、深さは、25cmである。他に床面あるいは、重複する第243号住居跡の床面で、本住居跡に伴う可能性のあるピットを5個検出している。位置や大きさ、深さから見て、それらのピットの中で、柱穴などに特定できるものはなかった。重複関係から見て、古墳時代後期後葉後半以前の遺構と考えられる。

第294号住居跡（第628・629図、第293表、図版74・179）

調査地点の中央、北西寄り、P 9・10、Q 9・10グリッドに位置し、D群に含まれる住居跡である。第224・277号住居跡、第373・416号土坑に切られ、遺構の主に南半を大きく壊されている。確認面は、



第628図 第294号住居跡平面・断面図

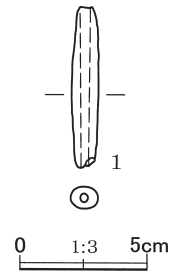
C地点

黄褐色のローム層上面である。

規模は、いずれも中軸線付近で測定した現存長になるが、北西－南東方向で3.50m、北東－南西方向で3.06mである。床面中央が部分的に硬化している。壁高は、北西・北東壁で7cmほどである。

P 1～P 3は、支柱穴であろう。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形で、深さは、P 1が20cm、P 2が18cm、P 3が32cmである。北西壁近くの横長の土坑は、貯蔵穴であろうか。上端での平面形は、やや不整な楕円形で、長径88cm、短径52cmである。中端に弱い段を有し、中央が深くなっている。深さは36cmである。他に床面で本住居跡に伴う可能性のあるピットを2個検出しているが、柱穴や貯蔵穴ではないようである。

図示した土錘以外に、土師器片を主とする遺物が、覆土中から少量出土している。出土遺物から見て、古墳時代の遺構である可能性が考えられようか。



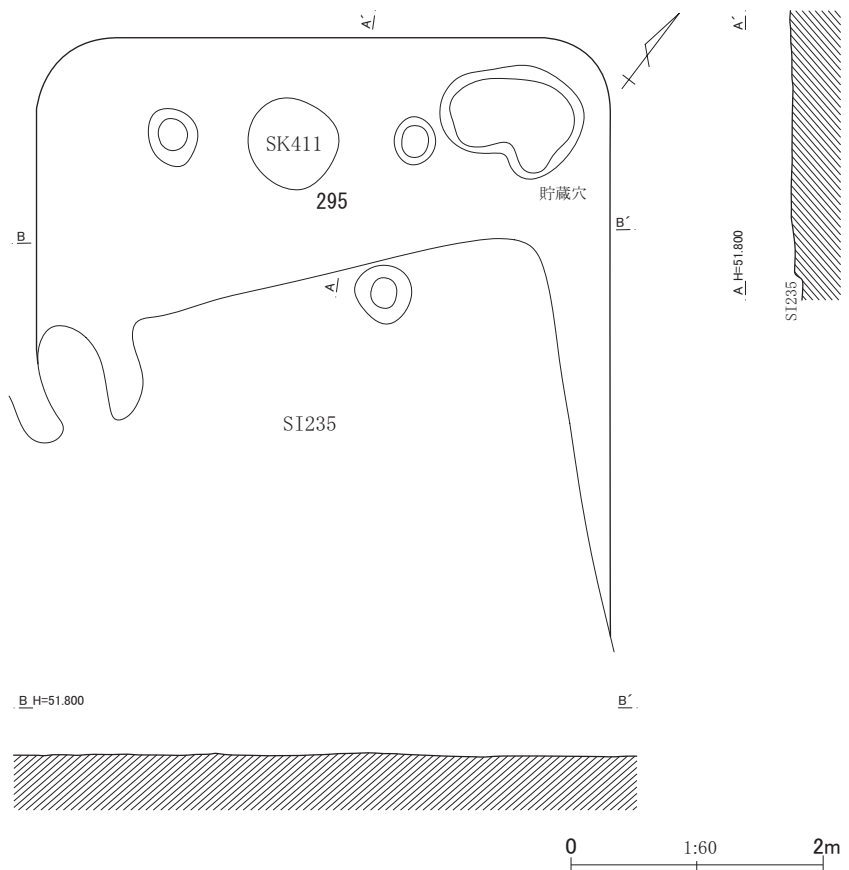
第629図 第288号住居跡出土遺物

第293表 第294号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
1	土錘	長さ6.6、幅1.1、厚さ0.9、重さ7.17g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい橙色。	完形

第295号住居跡 (第630～632図、第294表、図版74・179)

調査地点の北西部の北西隅近く、O 8、P 8グリッドに位置し、A群に含まれる住居跡である。第320号住居跡を切っており、第235号住居跡、第411号土坑に切られ、南東半を大きく壊されている。床面の硬化面のみが残存する住居跡であるが、掘り方の埋土の広がりから遺構の範囲は、ある程度推定できた。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

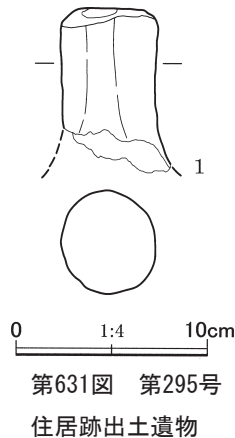


第630図 第295号住居跡平面・断面図(1)

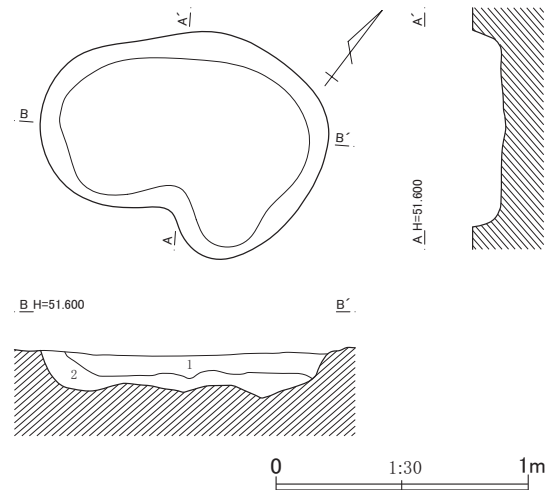
規模は、北東－南西方

向で、4.50m前後と推定される。床面は、平坦であり、主に中央が硬化している。推定される住居範囲の北隅の土坑は、貯蔵穴であろうか。上端での平面形は、南側がくびれた楕円形に近い形である。長径112cm、短径73cm、深さは14cmである。貯蔵穴の覆土は2層で、ローム小塊を多量に含む第2層は、埋め戻された土と見られる。他に本住居跡に伴う可能性のあるピットを3個検出しているが、柱穴などと決める手がかりがない。

床面上や貯蔵穴覆土中から、土師器細片を主とする遺物が微量出土している。重複関係から見て、古墳時代終末期中葉以前の遺構であろうか。



第631図 第295号
住居跡出土遺物



第295号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム小塊(～30mm)を少量含み、炭化物粒(～8mm)・焼土小塊(～10mm)を微量含む。
- 第2層：黄褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～50mm)を多量に含み、焼土小塊(～10mm)を微量含む。

第632図 第295号住居跡平面・断面図(2)

第294表 第295号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
1	土製品 支脚	長さ[9.0]、幅6.0、厚さ5.7、重さ271.78g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：橙色。調整：ナデ。強い被熱のため非常に脆い。	下部欠損

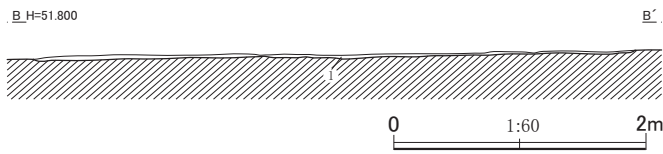
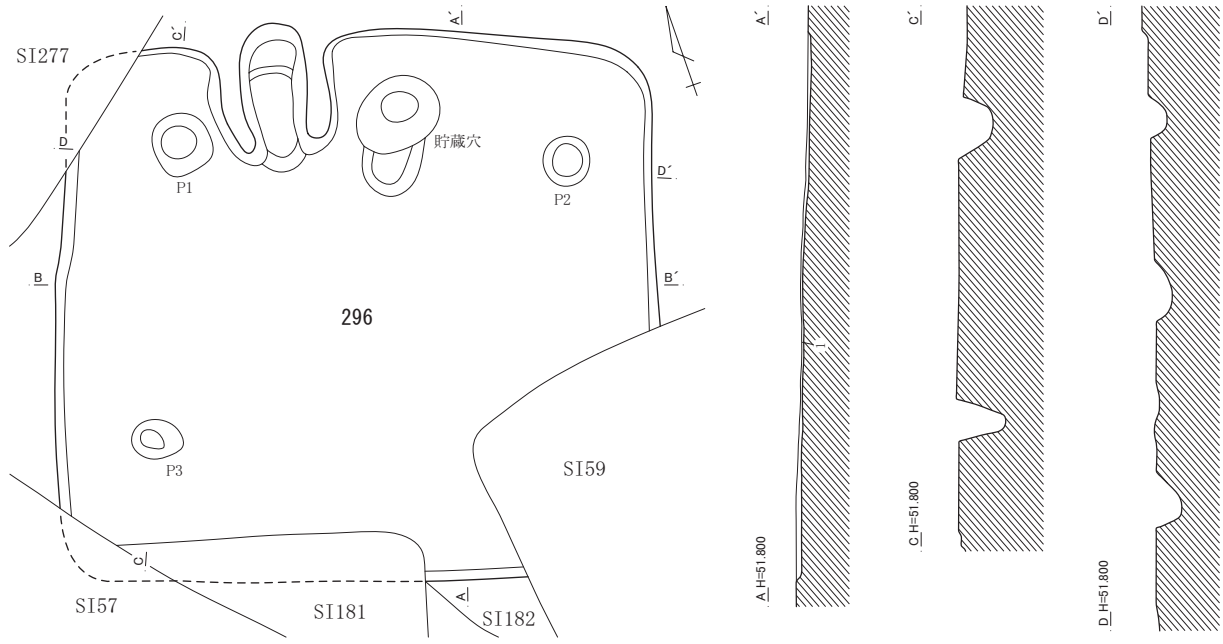
第296号住居跡(第634図、図版75)

調査地点の中央、やや西寄り、P10、Q10グリッドに位置し、D群に含まれる住居跡である。第57・59・181・277号住居跡に切られており、南北隅や東隅などの周辺を大きく壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、方形と見てよいであろう。規模は、主軸方向の残りのよい部分で4.39m、副軸方向で4.80mである。主軸方位はN-18°-Eである。床面中央は、軽微ではあるが、部分的に硬化している。壁高は、北東壁で3cm、南東・北西壁で2cm、南西壁で4cmである。

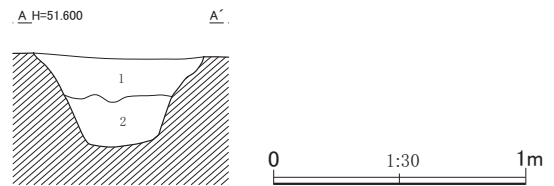
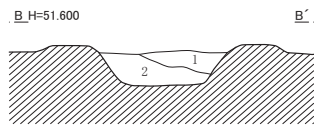
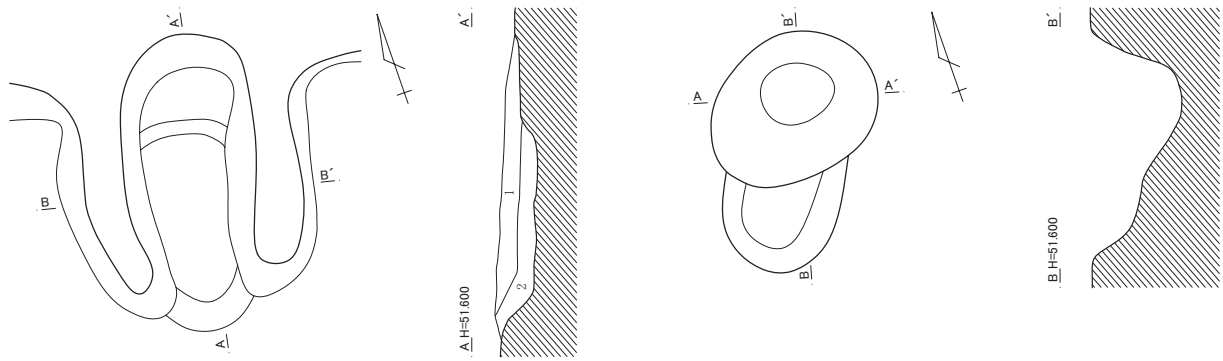
P1～P3は、支柱穴であろう。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形、楕円形で、深さは、P1が25cm、P2が15cm、P3が37cmである。カマド右袖脇のピットは、貯蔵穴であろう。上端での平面形は、楕円形が重なったような形態であり、中端に段を有する。最深部での深さは、36cmである。

カマドは北東壁の北隅に著しく寄った位置に微妙に斜行して付設されている。両袖に挟まれた燃焼部が残存する。燃焼部の長さは118cm、横幅は53cmである。燃焼面は、楕円形に近い平面形で、奥壁側に段を有し、浅くなる。凹凸が著しい。側壁は、被熱により赤みを帯び、局所的に赤化している。カマド覆土は2層で、焼土小塊をかなり含む第1層には、天井部や側壁の崩落土が混ざっているようである。



第296号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)を少量含み、焼土粒(～5mm)を微量含む。



第296号住居跡カマド土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～8mm)を微量含み、焼土小塊(～10mm)を中量含む。

第2層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～8mm)・焼土粒(～5mm)を少量含む。

第296号住居跡貯蔵穴土層説明

第1層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)・炭化物小塊(～10mm)・焼土粒(～5mm)を微量含む。

第2層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)・礫(～100mm)を少量含む。

第633図 第296号住居跡平面・断面図

第295表 第296号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	小型甑	口径 (17.6) 底径 6.0 器高 15.5	口縁部は外反する。胴部は下方へ向かって窄まる。平底で孔径2.8cmの円孔。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—橙色	口縁部～胴部2/3欠損
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
2	脚付土器脚部片	長さ[7.7]、幅4.2、厚さ3.0、重さ107.81g。胎土：白色粒・黒色粒・褐色粒。色調：橙色。調整：				脚部破片
3	土錘	長さ5.4、幅1.4、厚さ1.3、重さ10.34g。胎土：白色粒。色調：にぶい橙色。				ほぼ完形

図示した土師器片などの遺物が覆土中から少量出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期初頭から前葉にかけての遺構と考えられる。

第297号住居跡（第635・636図、第296表、図版76・179）

調査地点の北西部の中央、やや北西寄り、P8・9グリッドに位置し、A群に含まれる住居跡である。

第267・289号住居跡に切られ、遺構の一部を壊されている。また、第319号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

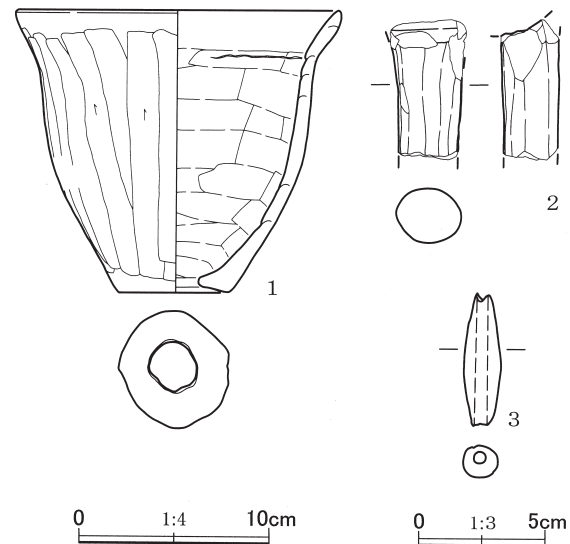
平面形は、南西壁と北東壁の長さが大きく異なるため、台形と言ってよい形態である。規模は、中軸線上での長さを示すと、主軸方向で3.22m、副軸方向で3.64mである。主軸方位は、N-35°-Wである。支柱穴を結ぶ範囲内の床面は、部分的に硬化している。壁高は、北西・南東壁で5cm、北東壁で3cm、南西壁で6cmである。

壁高は、北西・南東壁で5cm、北東壁で3cm、南西壁で6cmである。

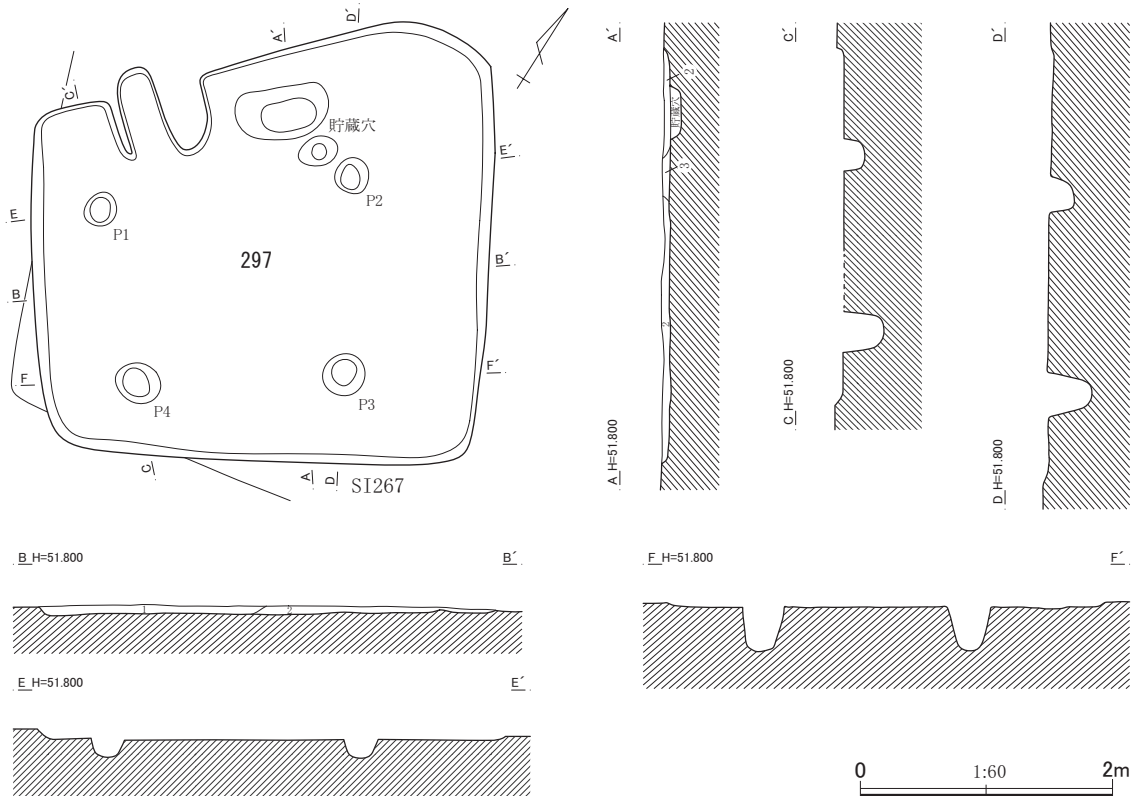
P1～P4は、支柱穴であろう。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形で、深さは、P1が14cm、P2が20cm、P3、P4が35cmである。カマド右袖脇のピットは、貯蔵穴であろう。上端での平面形は、やや彎曲した長楕円形で、長径64cm、短径42cmである。深さは、10cmである。他に本住居跡に伴う可能性のあるピットを、P2と貯蔵穴の間で1個検出している。P2に関わるピットの可能性もあるが、断定できない。深さは14cmである。

カマドは北西壁の東隅に著しく寄った位置に付設されている。両袖に挟まれた燃焼部が残存する。残存状態によるためか、右袖に比し左袖が著しく貧弱である。燃焼部の長さは73cm、横幅は32cmである。燃焼面は、楕円形に近い平面形で、凹凸が著しい。側壁は、被熱により部分的に赤みを帯び、硬化している。カマド覆土は4層で、焼土と暗褐色土の混合土である第2層には、天井部や側壁の崩落土が含まれるようである。

図示した須恵器片などの遺物が覆土中より少量出土したのみである。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期後葉後半から終末期前葉にかけての遺構である可能性が考えられる。



第634図 第296号住居跡出土遺物



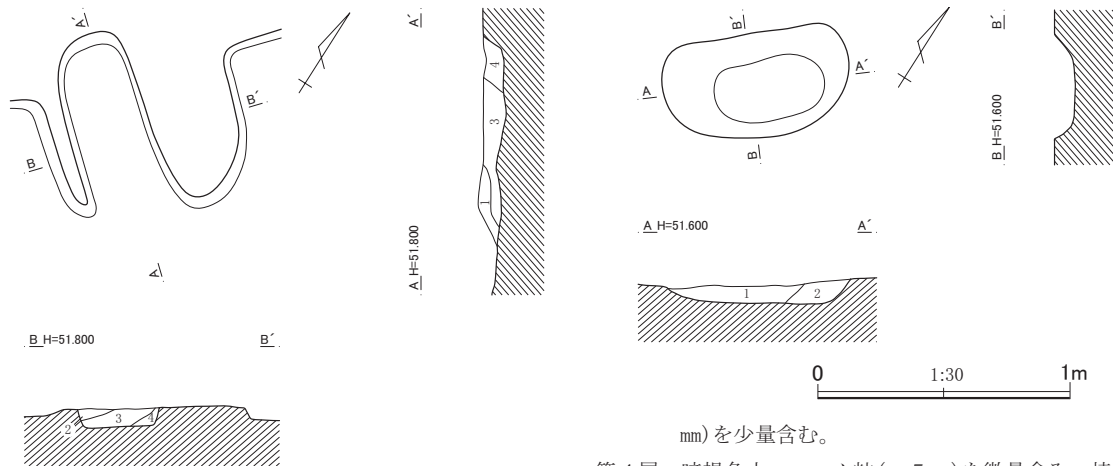
第297号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～5mm)を少量含む。

第2層：暗褐色土。ローム小塊(～20mm)を中量含み、焼

土粒(～5mm)を微量含む。

第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～10mm)を中量含み、焼土粒(～8mm)を少量含む。



第297号住居跡カマド土層説明

第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～10mm)を中量含み、焼土粒(～5mm)を微量含む。

第2層：赤褐色土。焼土と暗褐色土の混交層。粘性は弱い。

第3層：暗褐色土。ローム小塊(～20mm)・焼土粒(～8

mm)を少量含む。

第4層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を微量含み、焼土粒(～8mm)を少量含む。

第297号住居跡貯蔵穴土層説明

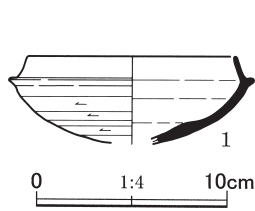
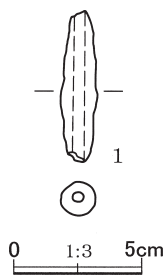
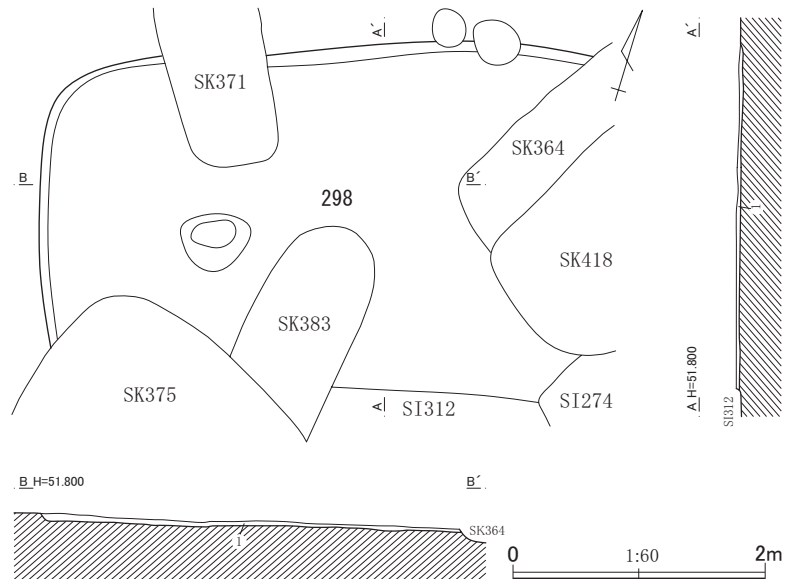
第1層：暗褐色土。ローム小塊(～20mm)を少量含み、炭化物粒(～7mm)を微量含む。

第2層：暗褐色土。ローム小塊(～20mm)を中量含む。

第635図 第296号住居跡平面・断面図

第296表 第297号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	須恵器 坏	口径 (11.3) 底径 — 器高 [4.8]	口縁部は内傾する。受部は横に開く。ロクロ成形。	外面—ロクロナデ。体部回転ヘラケズリ。内面—ロクロナデ。	白色粒 内外—灰色	1/3残存 還元焰焼成

第636図 第297号
住居跡出土遺物第637図 第298号
住居跡出土遺物

第298号住居跡土層説明

第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～30mm)を中量含む。

第638図 第298号住居跡平面・断面図

第297表 第298号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
1	土錘	長さ6.2、幅1.4、厚さ1.4、重さ10.99g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：明赤褐色。	完形

第298号住居跡（第637・638図、第297表、図版76・179）

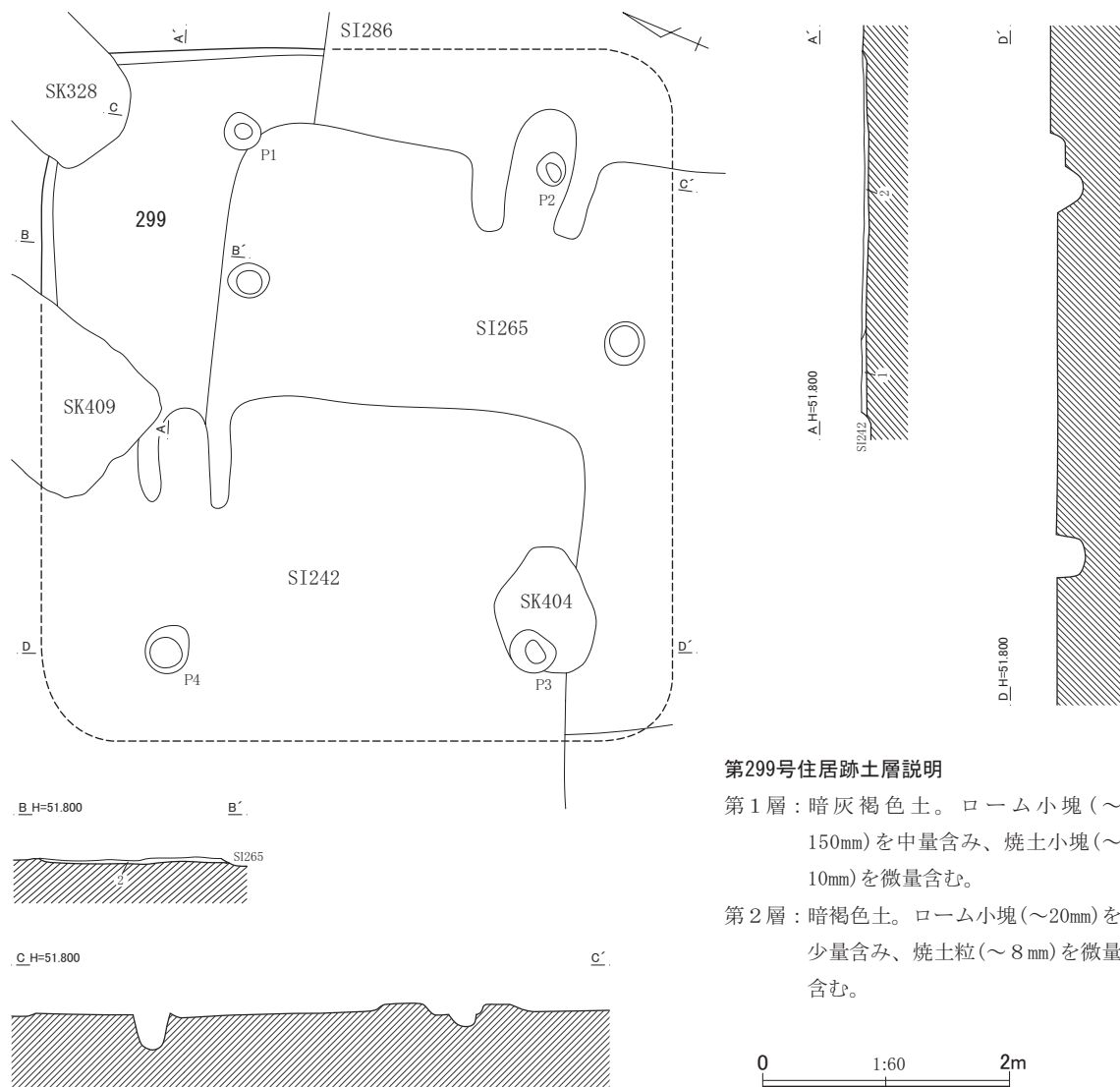
調査地点の北西隅近く、O7グリッドに位置し、A群に含まれる住居跡である。第274・312号住居跡、第364・371・375・383号土坑に切られ、西壁から北壁にかけての壁と床面が残存するのみである。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

規模は、いずれも現存長になるが、南北方向で2.70m、東西方向で4.35mである。床面はほぼ平坦で、壁際を除いて硬化している。壁高は、北壁で3cm、西壁で6cmである。本住居跡に伴う可能性のあるピットを1個検出している。支柱穴の可能性もあるが、断定できない。深さは15cmである。

図示した土錘などの遺物が覆土中から少量出土している。重複関係から見て、古墳時代後期中葉以前の遺構と考えられる。

第299号住居跡（第639図、図版76）

調査地点の北西部と北東部の境目のほぼ中央、R9・10グリッドに位置し、B群に含まれる住居跡である。第242・265・286号住居跡、第328・404・409号土坑に切られ、北東隅付近の壁と床面のわず



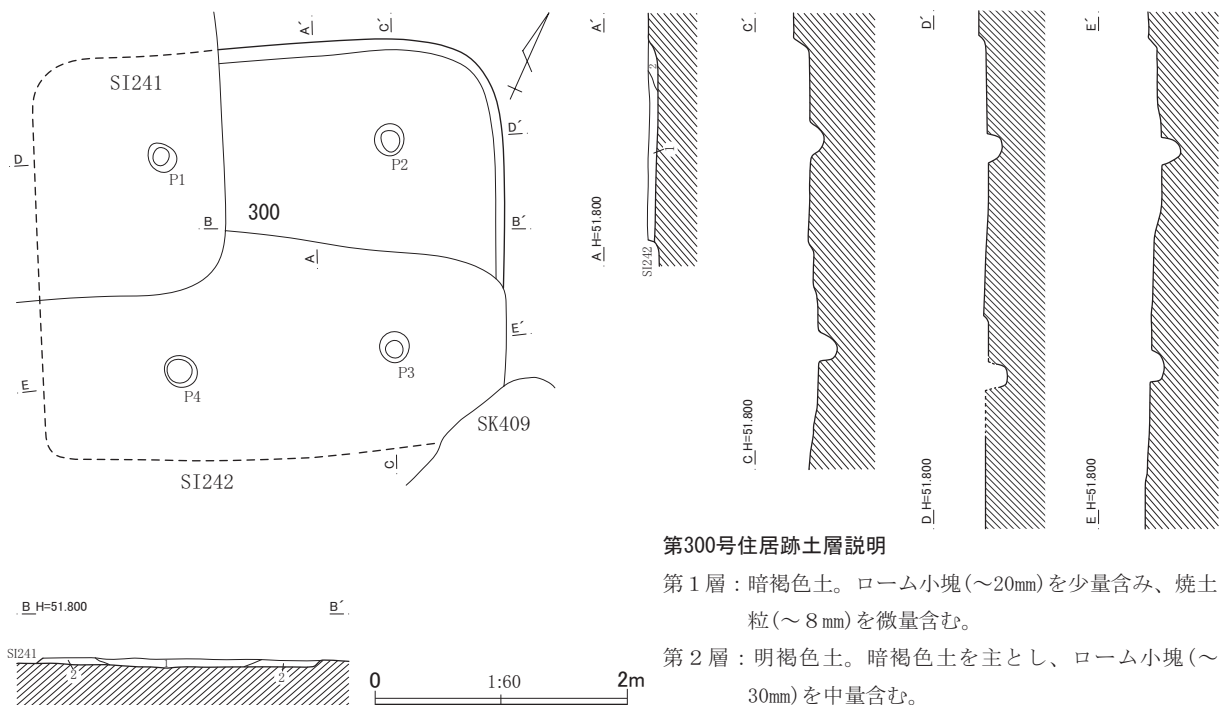
第639図 第299号住居跡平面・断面図

かな範囲しか残存しない。確認面は、黄褐色のローム層上面である。規模は、いずれも現存長になるが、東西方向で2.88m、南北方向で1.75mである。壁際を除く床面は、軽微ではあるが、硬化している。壁高は、東壁で3cm、西壁で2cmである。土師器小片を主とする遺物が覆土中より少量出土している。重複関係から見て、古墳時代終末期前葉以前の遺構と考えられる。

第300号住居跡（第640図、図版76）

調査地点の北西部と北東部の境目のほぼ中央、R9グリッドに位置し、B群に含まれる住居跡である。第241・242号住居跡、第409号土坑に切られ、北隅付近の壁と床面の極わずかな範囲しか残存しない。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

規模と言うより床面の残存範囲ということになるが、北西-南東方向で2.01m、北東-南西方向で2.25mを測る。壁際を除く床面は、軽微ではあるが、硬化している。壁高は、北西壁、北東壁ともに5cmである。P1～P4は、主柱穴であろう。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形で、深さは、P1が19cm、P2、P4が10cm、P3が15cmである。他に1個ピットを検出し、P5と呼称した。深さ



第300号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム小塊(～20mm)を少量含み、焼土粒(～8mm)を微量含む。
- 第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～30mm)を中量含む。

第640図 第300号住居跡平面・断面図

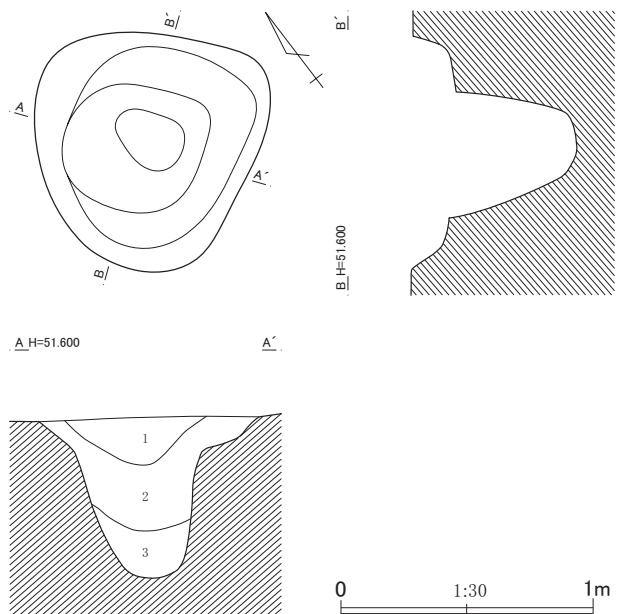
は13cmである。

土師器小片を主とする遺物が覆土中より少量出土している。重複関係から見て、古墳時代後期後葉前半以前の遺構と考えられる。

第301号住居跡（第641～643図、第298表、図版76・179）

調査地点の北縁近くのほぼ中央、R 8・9、S 8・9 グリッドに位置し、B群に含まれる住居跡である。第292号住居跡、第417号土坑に切られ、北東壁の一部および遺構の南半を壊されている。また、第220号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

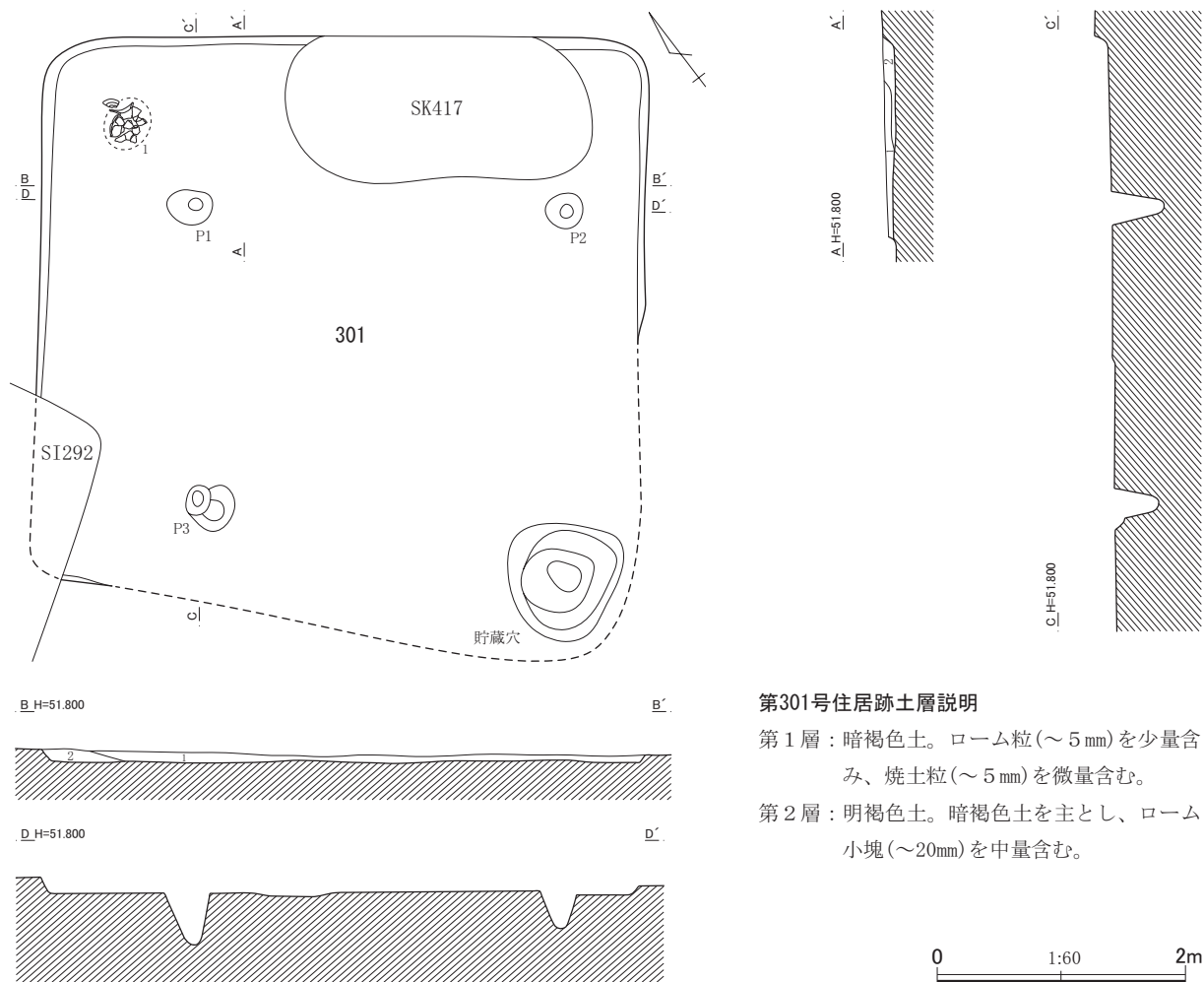
平面形は、かなり歪になりそうであるが、方形と見てよいであろう。規模は、最も残りのよい部分での計測値になるが、北東－南西方向で4.42m、北西－南東方向で4.90mである。因みに北西壁の指す方位は、N－38°－Eである。床面には、微妙な凹凸が見られる。



第301号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～0.5mm)・ローム小塊(～20mm)を少量含む。
- 第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を多量に含み、ローム小塊(～30mm)を少量含む。
- 第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～10mm)を多量に含み、ローム小塊(～30mm)を少量含む。

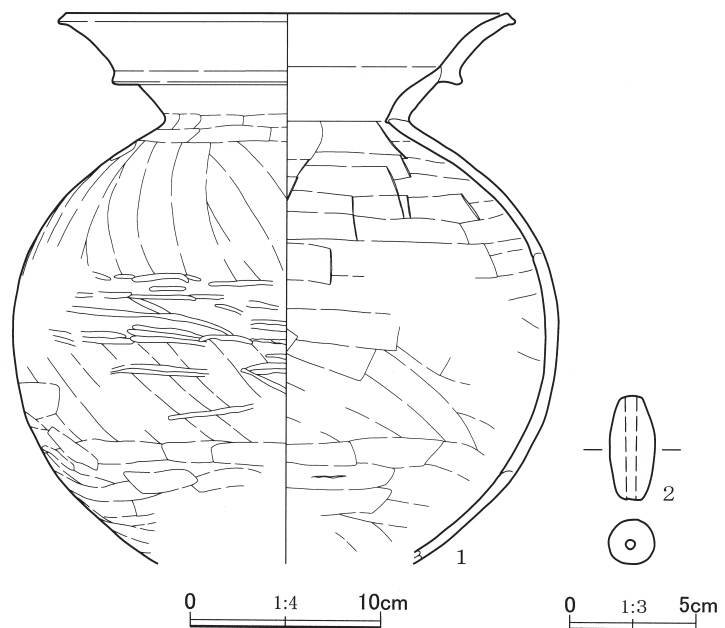
第641図 第301号住居跡平面・断面図（1）



第642図 第301号住居跡平面・断面図（2）

壁際とその近辺を除く床面は、硬化している。壁高は、北東・北西壁で10cm、南東壁で5cmである。

P1～P4は、支柱穴であろう。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形で、深さは、P1が42cm、P2が30cm、P3が45cm、P4が25cmである。P4は、掘り込みが2段になるようである。貯蔵穴は、推定される南隅の脇で検出した。上端での平面形は、おむすびのような形で、中段に平場があり、中央が深くなっている。最大径は92cm、最深部での深さは、64cmである。覆土は3層で、ローム粒を多量に含む第2層やローム小塊を多量に含む第3層は、



第643図 第301号住居跡出土遺物

第298表 第301号住居跡出土遺物観察表

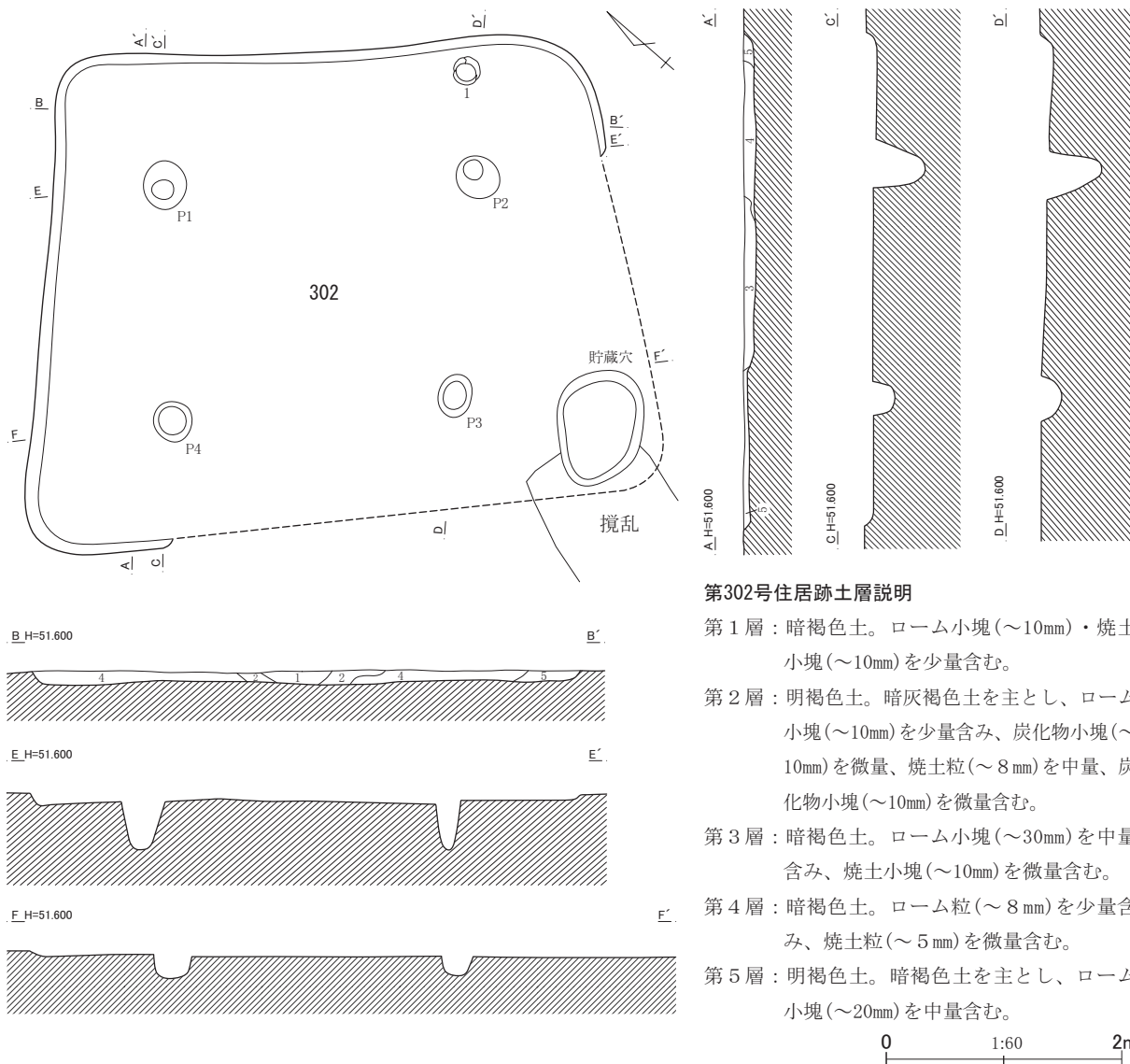
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	壺	口径 (24.2) 底径 — 器高 [30.3]	口縁部は外傾し、口唇部は外側に面をもつ。二重口縁。胴部は張る。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ後、中位にミガキ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	石英・白色粒 外—にぶい橙色 内—橙色	口縁部～胴部 1/3残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
2	土錘	長さ4.3、幅1.9、厚さ1.8、重さ15.0g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい褐色。				完形

埋め戻された土の可能性はある。

第643図1の壺は、北隅脇の上層から出土した。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代中期末葉の遺構であろう。

第302号住居跡 (第644～646図、第299表、図版76・179)

調査地点の北縁近くの中央、やや東寄り、S8・9、T8・9グリッドに位置し、C群に含まれる



第644図 第302号住居跡平面・断面図(1)

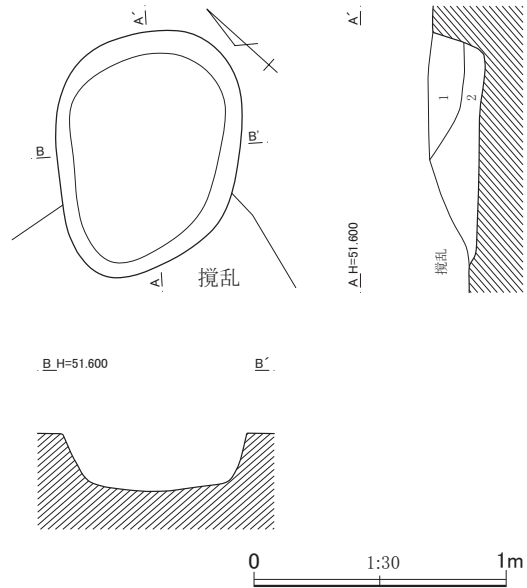
C地点

住居跡である。第303号住居跡を切り、攪乱に切られ、遺構の南半を大きく壊されている。また、第247号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、北東-南西方向に比し北西-南東方向がやや長い長方形であろう。規模は、いずれも最も残りのよい部分での計測値になるが、北東-南西方向で4.19m、北西-南東方向で4.70mである。北東-南西方向での中軸線の方位は、N-46°-Eあたりになるようである。床面には微妙な凹凸が目立つが、中央部は、軽微ではあるが、硬化している。壁高は、北東・南西壁で7cm、南東・北西壁で10cmである。

P1~P4は、支柱穴であろう。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形、楕円形で、深さは、P1が40cm、P2が41cm、P3が16cm、P4が22cmである。貯蔵穴は、推定される南隅の脇で検出した。上端での平面形は、やや不整な楕円形で、長径102cm、短径76cmである。たらいのような形に掘り込まれており、深さは、20cmである。

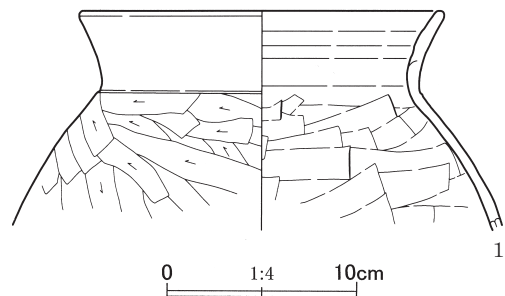
第646図1の甕は、北東壁近くの東隅寄りの床面よりやや浮いた位置から出土している。他には、土師器片を主とする遺物が、覆土中より少数出土したのみである。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末期の遺構であろうか。



第302号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を中量含み、ローム粒(～8mm)を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を中量含み、ローム小塊(～30mm)を少量含む。

第645図 第302号住居跡平面・断面図(2)



第646図 第302号住居跡出土遺物

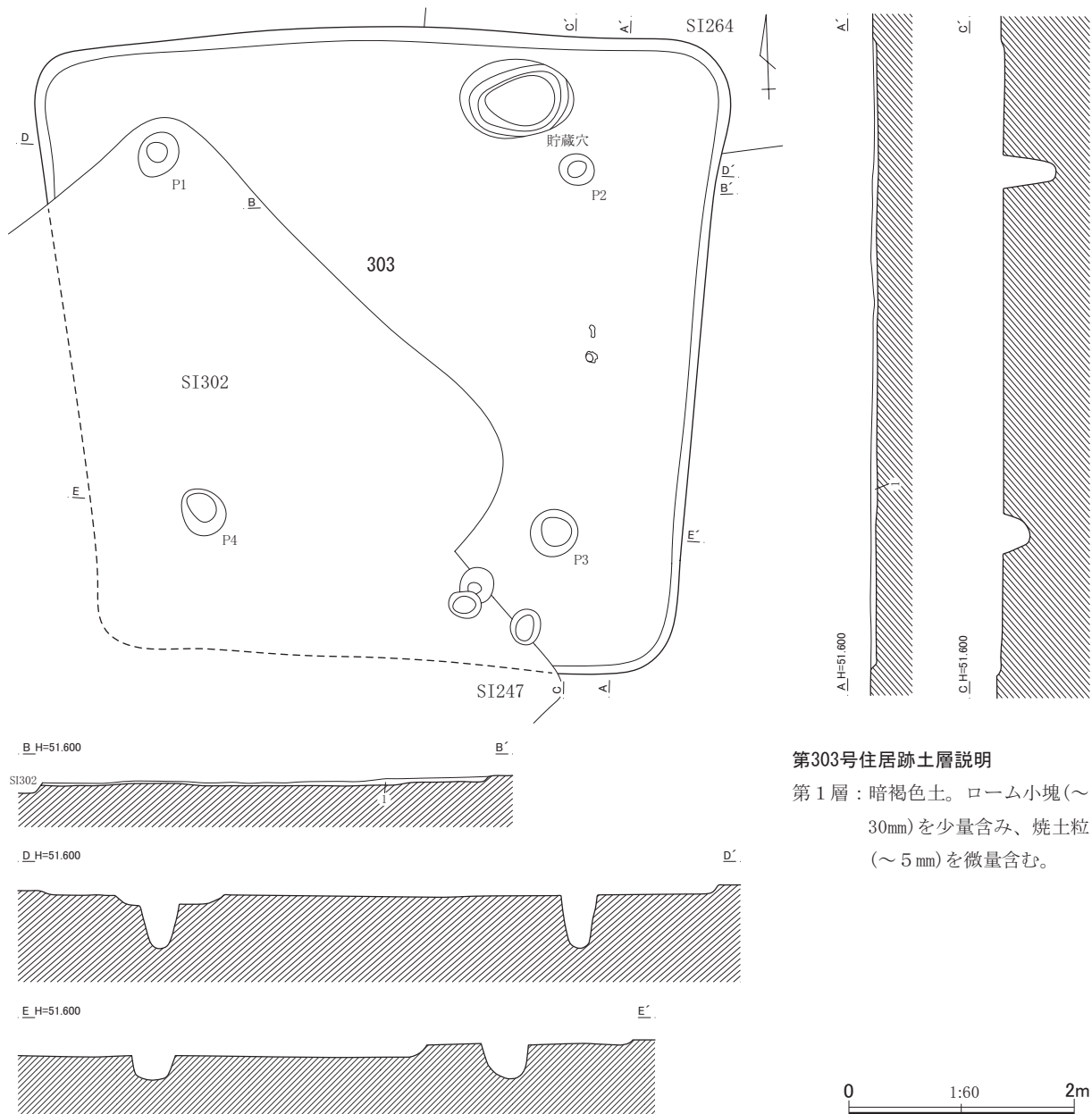
第299表 第302号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 (19.8) 底径 — 器高 [12.6]	口縁部は外反する。胴部は膨らみをもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	片岩・石英・白色粒・褐色粒 外-にぶい橙色 内-灰黄褐色	口縁部～胴部上位2/3残存

第303号住居跡 (第647・648図、図版77)

調査地点の北縁近くの中央、やや東寄り、S8・9、T8・9グリッドに位置し、C群に含まれる住居跡である。第247・264・302号住居跡に切られ、遺構の南西半を大きく壊されている。また、第322号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、方形と見られるが、北西隅、北東隅が鋭角をなすため、かなり歪な形になるかと思われる。規模は、いずれも最も残りのよい部分での計測値になるが、南北方向で5.66m、東西方向で5.95



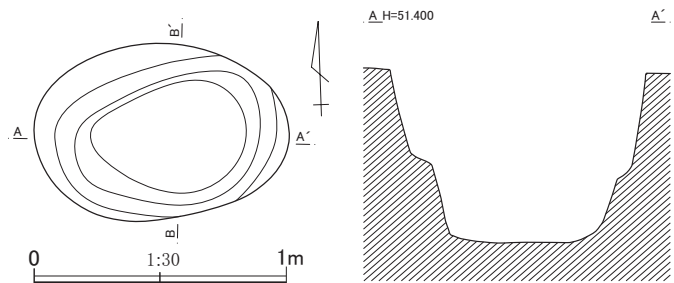
第303号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム小塊（～30mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。

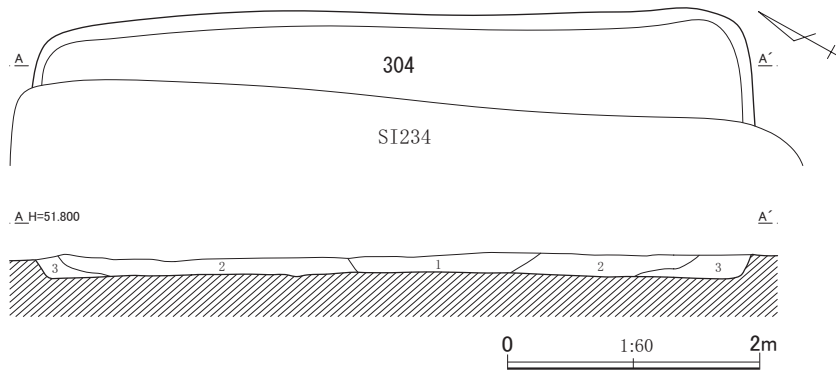
第647図 第303号住居跡平面・断面図（1）

mである。因みに南北方向での推定中軸線の指す方位は、 $N-2^{\circ}-E$ である。床面はほぼ平坦で、壁際を除いて、軽微ではあるが、所々硬化している。壁高は、北壁で3cm、東・南・西壁で5cmである。

P1～P4は、支柱穴であろう。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形で、深さは、P1、P2が46cm、P3が23cm、P4が27cmである。貯蔵穴は、北壁近くの北東隅に寄った位置で検出した。上端での平面形は、楕円形で、長径99cm、短径70cmである。中端に段を有



第648図 第303号住居跡平面・断面図（2）



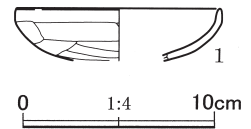
第304号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・焼土粒(～5mm)を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～30mm)を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～20mm)を中量含む。

第649図 第304号住居跡平面・断面図

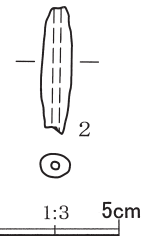
し、バケツ形に掘り込まれており、深さは、68cmである。

土師器片を主とする遺物が覆土中から少量出土しているのみである。重複関係から見て、古墳時代後期中葉以前の遺構であろうか。



第304号住居跡 (第649・650図、第300表、図版179)

調査地点の東半のほぼ中央、S11グリッドに位置し、F群に含まれる住居跡である。第305・315号住居跡を切っており、第234号住居跡に切られ、北隅から北東壁、東隅にかけての壁と床面が細長く残存するのみである。確認面は、黄褐色のローム層上面である。



規模は、北西-南東方向での長さが5.70m、最も残りのよいところでの現存幅は、88cmである。北東壁の指す方位は、因みにN-31°-Wである。軽微ではあるが、南東半の床面は、所々硬化している。壁高は、いずれの壁でも16cmである。図示した土師器片などの遺物が覆土中から少量出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末期後葉の遺構と考えられる。

第650図 第304号住居跡出土遺物

第300表 第304号住居跡出土遺物観察表

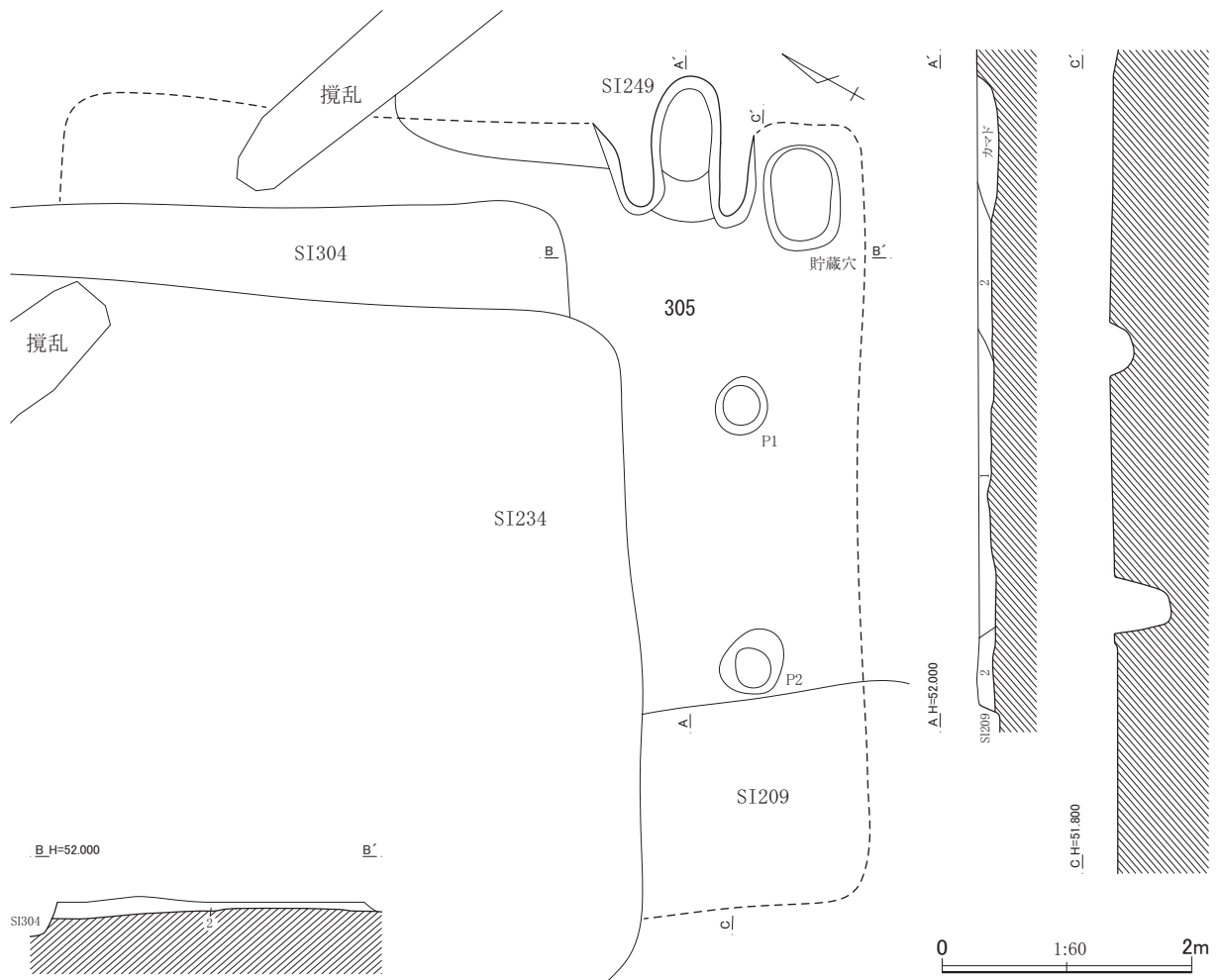
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 (11.1) 底径 — 器高 [2.9]	体部は浅く彎曲し、口縁部は短く直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。体部へラケズリ。内面-口縁部～体部ヨコナデ。	白色粒・黒色粒 内外-橙色	1/3残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
2	土錘	長さ5.2、幅1.3、厚さ1.0、重さ6.46g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：橙色。				完形

第305号住居跡 (第651・652図)

調査地点の東半のほぼ中央、S11グリッドに位置し、F群に含まれる住居跡である。第315号住居跡を切っており、第209・234・249・304号住居跡に切られ、遺構の西側、南西側の大半が失われ、カマド周辺から北隅にかけての床面や柱穴周辺の床面のみ残存する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

規模は、残存する床面から推定する他ないが、北東-南西方向での床面の残存長が6.40m、北西-南東方向での床面の残存長は6.38mである。床面は、かなり凸凹しているが、所々硬化している。

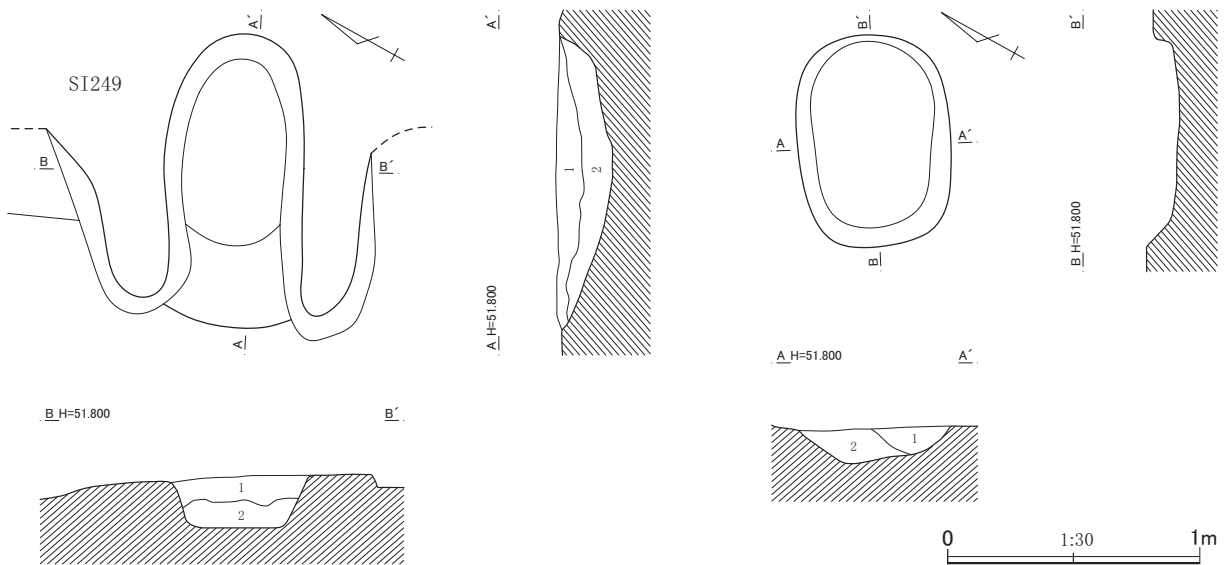
位置的に変則的ではあるが、P1、P2は、主柱穴であろうか。いずれも上端での平面形は、やや



第305号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)を多量に含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～5mm)を少量含む。



第651図 第305号住居跡平面・断面図(1)

C地点

第305号住居跡カマド土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)を微量含み、焼土粒(～5mm)を少量、粘土粒(～5mm)・粘土小塊(～30mm)・焼土小塊(～10mm)を中量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・炭化物粒(～3mm)・焼土粒(～5mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。

第305号住居跡貯蔵穴土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒子(～2mm)を少量含み、炭化物粒(～2mm)を微量含む。

第2層：暗褐色土。ローム小塊(～20mm)・ローム粒子(～2mm)・炭化物粒(～2mm)を少量含み、焼土粒子(～3mm)を微量含む。

第652図 第305号住居跡平面・断面図(2)

不整な円形、楕円形で、深さは、P1が20cm、P2が45cmである。貯蔵穴は、カマドの右袖脇で検出した。上端での平面形は、やや角張った楕円形で、長径84cm、短径61cmである。中端に段を有し、船底形に掘り込まれており、深さは14cmである。

カマドは、北東壁に付設されている。残存する床面などから判断するなら、東隅に著しく寄った位置かと思われる。両袖に挟まれた楕円形の燃焼部が残存する。燃焼面は、焚口から中央に向かって緩斜面をなすように掘りくぼめ造作されている。燃焼部の長さは117cm、横幅は55cmである。奥壁、側壁の上端は、被熱により所々淡い赤みを帯び、硬化している。カマド覆土は2層で、粘土粒、粘土小塊や焼土小塊をかなり含む第1層は、天井部や側壁などの崩落土を含む層と思われる。

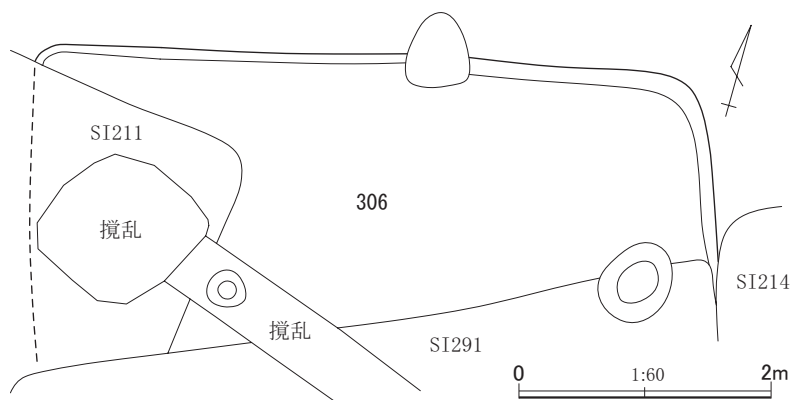
土師器小片を主とする遺物が覆土中から少量出土している。重複関係から見て、古墳時代終末期中葉以前の遺構と考えられる。

第306号住居跡(第653図、図版77)

調査地点の中央のやや北東寄り、R10グリッドに位置し、F群に含まれる住居跡である。第211・214・291号住居跡および溝状の攪乱などに切られ、北壁から北東隅、東壁の一部にかけての壁、床面が残存するのみである。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

規模は、東西方向で5.33m、南北方向での床面残存範囲の長さは2.18mである。床面には微妙な凹凸が見られるが、全体としてはおおむね平坦である。床面は、軽微ではあるが、所々硬化している。

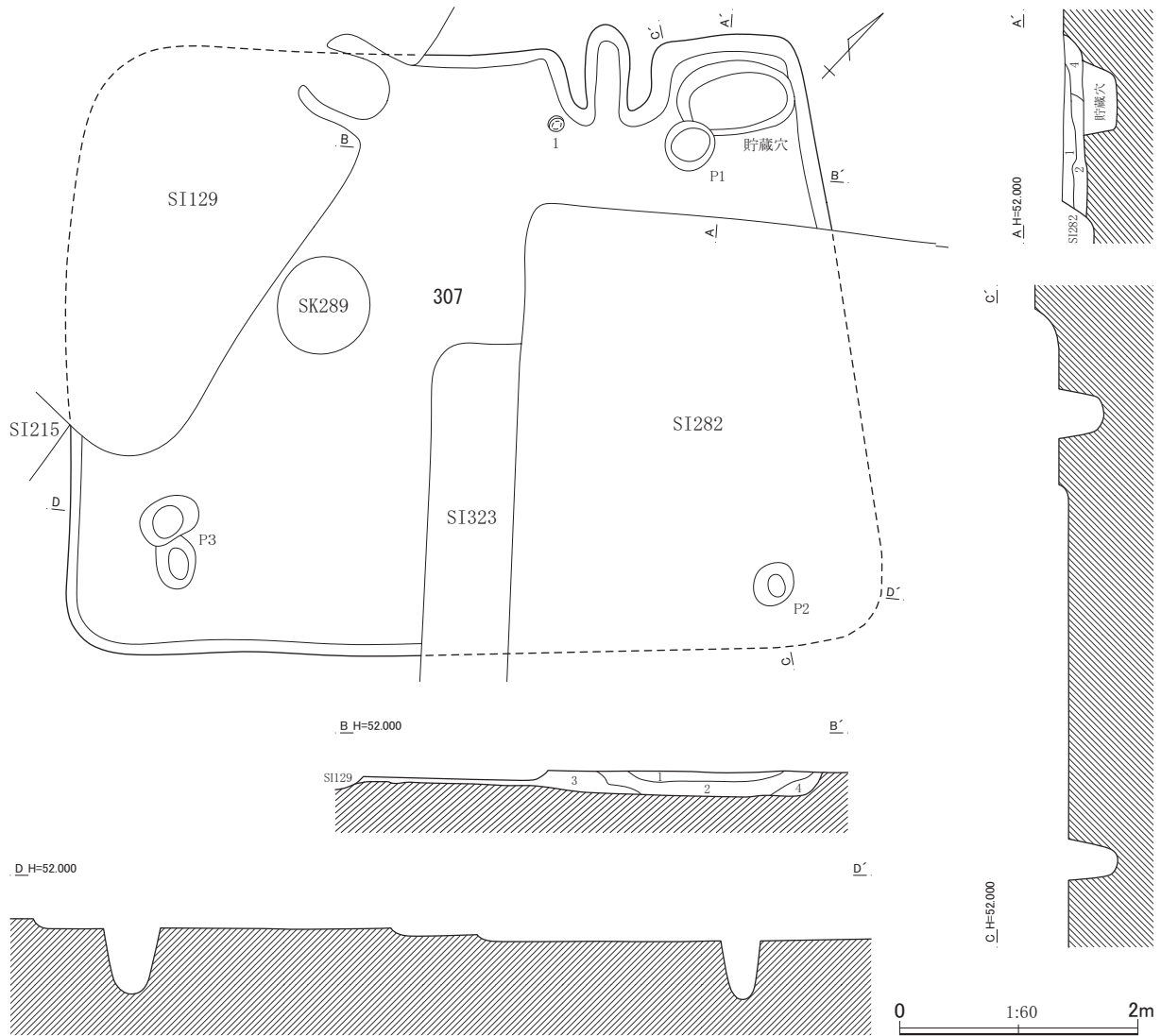
土師器小片を主とする遺物が覆土中から少量出土している。重複関係から見て、古墳時代後期後葉前半以前の遺構と考えられる。



第653図 第306号住居跡平面図

第307号住居跡(第654～656図、第301表、図版77・179)

調査地点のほぼ中央、Q11・12グリッドに位置し、F群に含まれる。第215号住居跡を切っており、第129・183・282・323号住居跡、第289・290・425・426号土坑に切られ、北隅とカマドの周辺



第307号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム小塊（～10mm）を少量含む。

第2層：暗褐色土。ローム小塊（～20mm）を少量含む、焼土粒（～8mm）を微量含む。

第3層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊（～30mm）・焼土粒（～8mm）を少量含む。

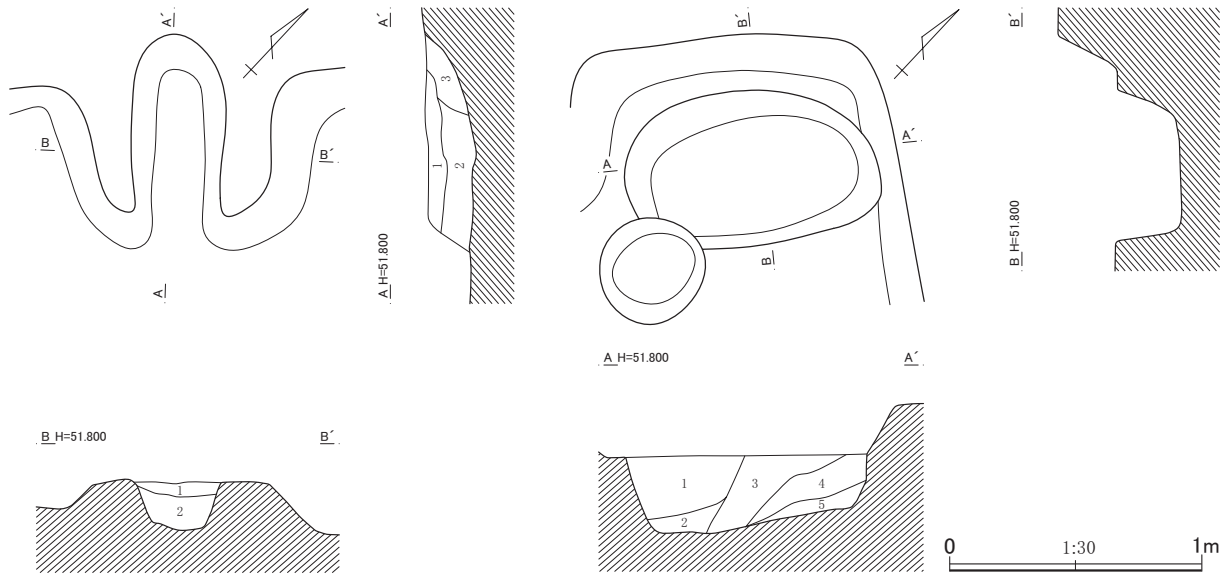
第4層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊（～30mm）を少量含む。

第654図 第307号住居跡平面・断面図（1）

から南隅にかけての壁および床面が残存するのみである。第196号住居跡、第288号土坑とも重複する位置にあるが、他遺構が介在し、直接切り合わない。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、横長の長方形と見られるが、北隅が鈍角をなし開くため、かなり歪な形になりそうである。規模は、主軸方向での残りのよい部分で5.05m、副軸方向での推定長は6.56mである。床面の主柱穴を結ぶ範囲およびカマド前面は硬化している。壁高は、北西壁で15cm、北東壁で20cmである。

P1～P3は、主柱穴であろう。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形、楕円形で、深さは、P1が46cm、P2が40cm、P3が28cmである。貯蔵穴は、北隅脇で検出した。上端での平面形は、やや不整な楕円形で、長径96cm、短径84cmである。底面がほぼ平らで、側壁がかなり急な形に掘り込まれており、最深部での深さは、30cmである。覆土は5層で、ローム小塊をかなり含む第3・4層は、



第307号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊（～10mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を中量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒（～8mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～8mm）・焼土粒（～8mm）を微量含む。

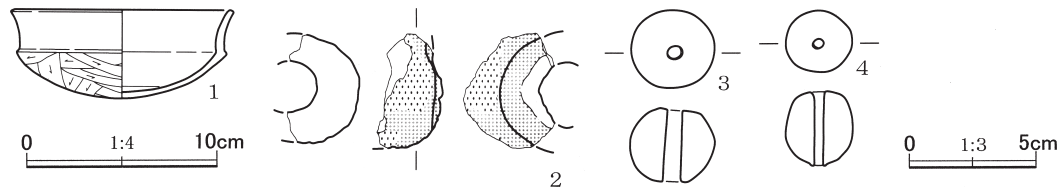
多量に含み、ローム小塊（～30mm）を少量含む。

- 第2層：暗褐色土。ローム粒（～4mm）を少量含む。
- 第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～8mm）を多量に含み、ローム小塊（～50mm）を少量含む。
- 第4層：明褐色土。ローム粒（～4mm）を多量に含み、ローム小塊（～30mm）を中量含む。
- 第5層：暗褐色土。暗褐色粘土を主とし、ローム粒（～8mm）を少量含む。

第307号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～8mm）を

第655図 第307号住居跡平面・断面図（1）



第656図 第307号住居跡出土遺物

第301表 第307号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 11.9 底径 — 器高 4.9	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外反する。口唇部は外側に面をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—橙色	完形
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
2	羽口	長さ[2.7]、幅[4.7]、厚さ1.7、重さ24.34g。胎土：石英・白色粒。色調：外—暗灰色、内—橙色。外面は全体に灰色に熟変色し、一部は黒色ガラス質に滓化する。				破片
3	土玉	長さ3.2、幅3.4、孔径0.7×0.6、厚さ3.0、重さ33.26g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい赤褐色。調整：ナデ。				ほぼ完形
4	土玉	長さ2.5、幅2.8、孔径0.5×0.4、厚さ3.1、重さ22.69g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい黄褐色。調整：ナデ。				完形

埋め戻された土と見られる。

カマドは、北西壁の北隅に著しく寄った位置に付設されている。両袖に挟まれた狭小な燃焼部が残

存する。袖端を末端とするなら、燃烧部の長さは85cm、横幅は38cmである。燃烧面は、中央部がやや深くなっており、凸凹している。カマドの覆土は3層で、ローム小塊や焼土粒の目立つ第1層は、天井部などの崩落土を含む層であろう。

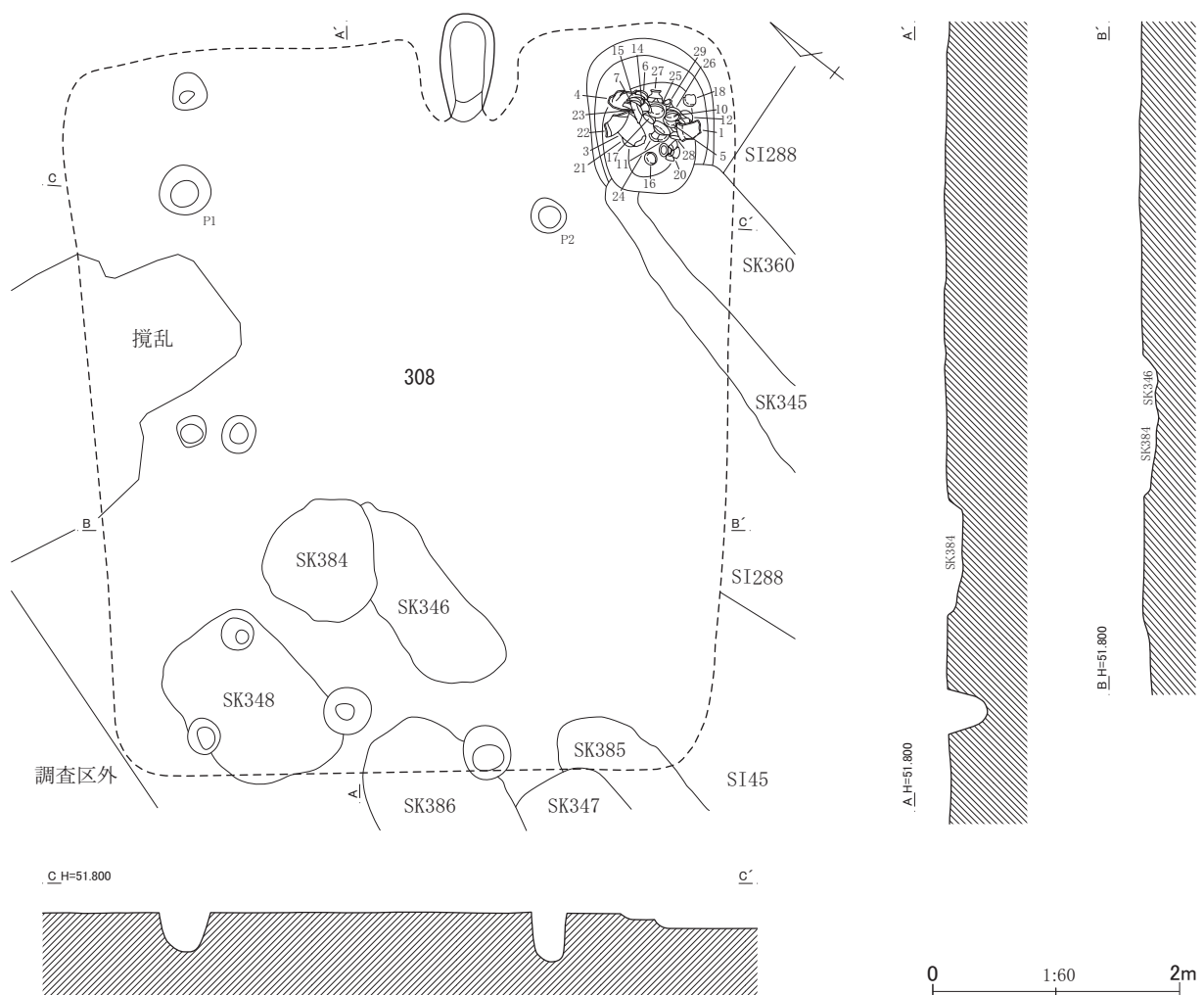
住居跡覆土は、暗褐色土を主とする4層で、全体的にローム小塊の混入が目立つようである。

第656図1の坏は、カマド左袖脇のやや浮いた位置から出土している。他には、土師器片を主とする遺物が少量出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期中葉の遺構と考えられる。

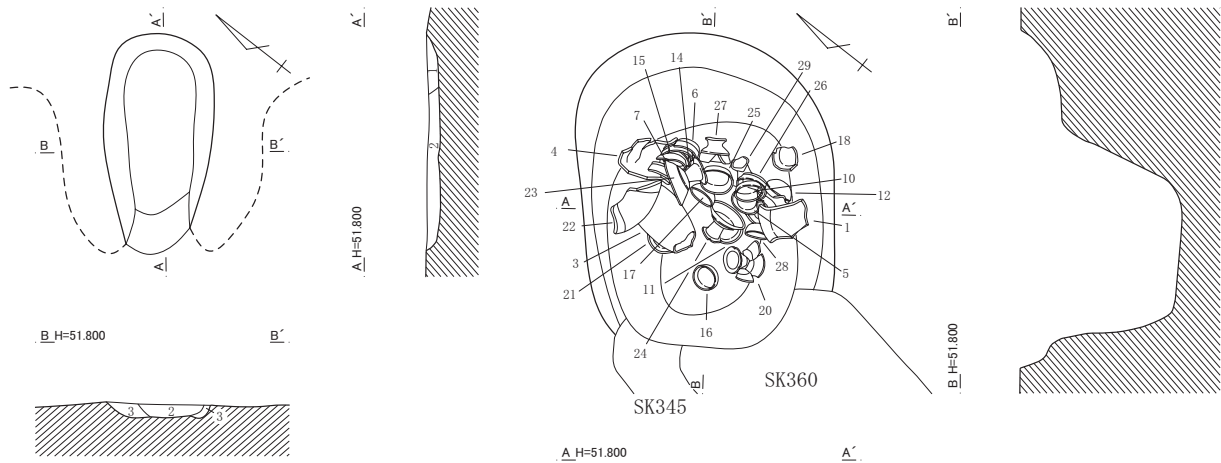
第308号住居跡（第657～659図、第302～304表、図版77・78・180・181）

調査地点の西縁沿いの中央、やや北寄り、N8・9、O8・9グリッドに位置し、E群に含まれる住居跡である。床面と床面下の付帯施設のみ残存する住居跡であり、床面の残存範囲から見るなら、第45・288号住居跡、第245～251・360・384～386・400号土坑および攪乱に切られている。また西隅は調査範囲外である。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

残存する床面の範囲からは、わずかに主軸方向の長い長方形の平面形と推定してよいのであろうが、南西側の床面は残存状態が悪く、かなり不確定な要素を残す。推定される規模を記すなら、主軸方向

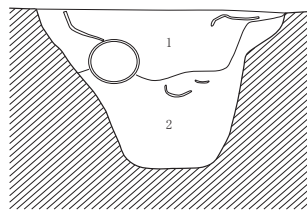


第657図 第308号住居跡平面・断面図（1）



第308号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～5mm）・焼土粒（～8mm）を少量含む。
- 第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊（～20mm）・焼土粒（～8mm）を少量含む。
- 第3層：明褐色土。暗褐色土を主とする、ローム混交土。小礫を少量含む。



0 1:30 1m

み、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第308号住居跡貯蔵穴土層説明

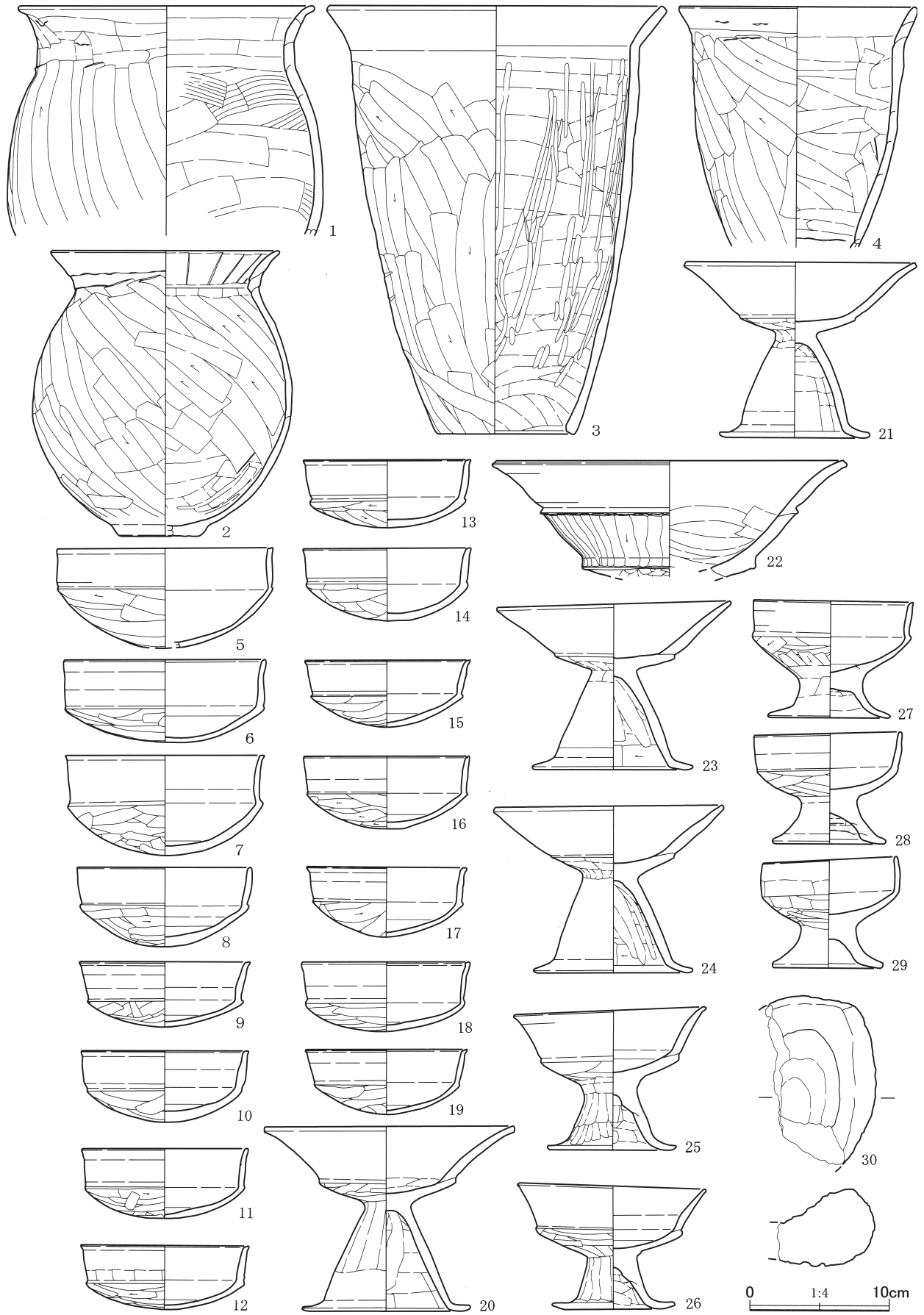
- 第1層：暗褐色土。ローム小塊（～10mm）を少量含

- 第2層：暗褐色土。暗褐色粘土を主とし、ローム粒（～5mm）を少量含む。

第658図 第308号住居跡平面・断面図（2）

第302表 第308号住居跡出土遺物観察表（1）

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 (21.8) 底径 — 器高 [12.2]	口縁部は外反し、上端で強く外屈する。胴部は膨らみをもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヘラナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヘラナデ。胴部ヘラ・木口状工具によるナデ。	石英・白色粒・黒色粒・褐色粒 外—橙色 内—黄灰色	口縁部～胴部 1/3残存
2	甕	口径 16.9 底径 (6.0) 器高 [21.4]	口縁部は外反する。胴部は中位が膨らむ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヘラナデ。胴部下半～底部ヘラナデ→胴部上半ヘラケズリ→頸部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—にぶい橙色	2/3残存
3	甕	口径 25.0 底径 (10.2) 器高 32.1	口縁部は外傾する。胴部は膨らみをもたない。底部は筒抜け。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ→斑なミガキ、下端ヘラケズリ。	石英・白色粒・褐色粒 外—橙色 内—にぶい黄橙色	底部3/4欠損
4	小型甕	口径 (17.6) 底径 — 器高 [18.0]	口縁部は外傾する。胴部は下方へ向かって窄まる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	石英・白色粒 内外—にぶい橙色	口縁部～胴部 1/2残存
5	坏	口径 16.0 底径 — 器高 (7.5)	丸底。口縁部は坏部との境に稜をもって直立する。口唇部は面をもち、弱い凹線がめぐる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 内外—橙色	口縁部1/4・ 底部欠損
6	坏	口径 15.0 底径 — 器高 6.2	丸底。口縁部は坏部との境に稜をもって直立する。口唇部は内側に面をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 外—にぶい黄橙色 内—橙色	完形
7	坏	口径 14.7 底径 — 器高 7.5	丸底。口縁部は坏部との境に稜をもって直立し、端部は外傾する。口唇部に面をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒 内外—橙色	口縁部1/4欠 損



第659图 第308号住居跡出土遺物

C地点

第303表 第308号住居跡出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
8	坏	口径 12.9 底径 — 器高 6.0	丸底。口縁部は坏部との境に稜をもって内彎気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒 内外—橙色	口縁部1/4欠損
9	坏	口径 12.7 底径 — 器高 4.9	丸底。口縁部は坏部との境に稜をもって外反し、端部は外傾する。口唇部に面をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外—橙色	ほぼ完形
10	坏	口径 12.4 底径 — 器高 5.4	丸底。口縁部は坏部との境に弱い稜をもって内彎気味に立ち上がり、端部は外傾する。口唇部に面をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 内外—橙色	ほぼ完形
11	坏	口径 12.3 底径 — 器高 5.2	丸底。口縁部は坏部との境に稜をもって直立し、端部は外傾する。口唇部に面をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 外—明褐色 内—暗赤褐色	ほぼ完形
12	坏	口径 12.5 底径 — 器高 4.8	丸底。口縁部は坏部との境に稜をもって直立し、端部は外傾する。口唇部は内側に面をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 内外—橙色	口縁部1/5欠損
13	坏	口径 12.5 底径 — 器高 5.1	丸底。口縁部は坏部との境に稜をもって直立し、端部は外傾する。口唇部は内側に面をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 内外—橙色	ほぼ完形
14	坏	口径 12.6 底径 — 器高 5.4	丸底。口縁部は坏部との境に稜をもって直立し、端部は外傾する。口唇部に面をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒 外—橙色 内—明赤褐色	ほぼ完形
15	坏	口径 12.4 底径 — 器高 5.0	丸底。口縁部は坏部との境に稜をもって直立し、端部は外傾する。口唇部は内側に面をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 内外—明赤褐色	ほぼ完形
16	坏	口径 12.4 底径 — 器高 5.4	丸底。口縁部は坏部との境に稜をもって直立する。口唇部は内側に面をもち、凹線がめぐる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—橙色	ほぼ完形
17	坏	口径 12.0 底径 — 器高 5.2	丸底。口縁部は坏部との境に稜をもって直立し、端部は外傾する。口唇部に面をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外—橙色	完形
18	坏	口径 12.5 底径 — 器高 5.2	丸底。口縁部は坏部との境に稜をもって直立する。口唇部は内側に面をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外—橙色	口縁部1/3欠損
19	坏	口径 12.0 底径 — 器高 5.0	丸底。口縁部は坏部との境に稜をもって直立し、端部は外傾する。口唇部は内側に面をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 内外—橙色	口縁部一部欠損
20	高坏	口径 18.6 底径 12.6 器高 13.8	口縁部は坏部との境に稜をもって外反する。口唇部は外側に面をもつ。脚部はハの字形に開き、裾部は短い。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。坏部ヘラケズリ。脚部ヘラナデ。脚部下位～裾部ヨコナデ。内面—口縁部ヨコナデ。坏底部ヘラナデ。脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—橙色	ほぼ完形
21	高坏	口径 17.1 底径 11.3 器高 13.2	口縁部は坏部との境に稜をもって外反する。口唇部は外側に面をもつ。脚部はハの字形に開き、裾部は短い。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。坏部～脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。内面—口縁部ヨコナデ。坏底部ヘラナデ。脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。	石英・白色粒・黒色粒 外—赤橙色 内—橙色	ほぼ完形
22	大型高坏	口径 (26.0) 底径 — 器高 [8.6]	口縁部は坏部との境に稜をもって外反し、中位に段を有する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部上段ヨコナデ、下段ヘラケズリ。坏部ヘラナデ。内面—口縁部上段ヨコナデ、下段～坏底部ヘラナデ。	石英・白色粒 内外—橙色	坏部1/2残存

第304表 第308号住居跡出土遺物観察表(3)

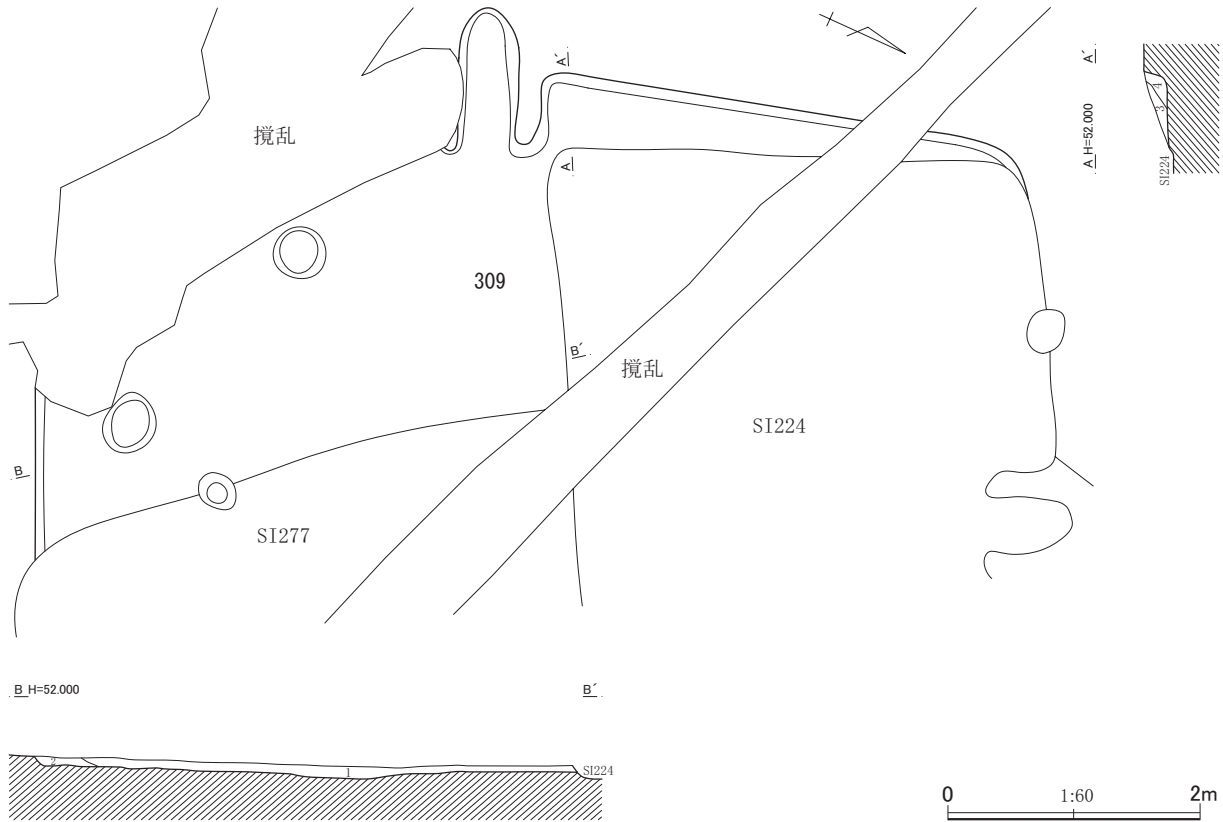
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
23	高坏	口径 17.4 底径 12.0 器高 12.6	口縁部は坏部との境に稜をもって外傾する。脚部はハの字形に開き、裾部は短い。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。坏部～脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。内面－口縁部ヨコナデ。坏底部ナデ。脚部ヘラケズリ後ナデ。裾部ヨコナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外－赤色	ほぼ完形
24	高坏	口径 (16.9) 底径 (11.9) 器高 12.5	口縁部は坏部との境に稜をもって外傾する。口唇部は外側に面をもつ。脚部はハの字形に開き、裾部は短い。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。坏部～脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。内面－口縁部ヨコナデ。坏底部ヘラナデ。脚部ヘラケズリ後ナデ。裾部ヨコナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外－橙色	裾部3/4欠損
25	高坏	口径 14.2 底径 9.6 器高 10.7	口縁部は坏部との境に稜をもって外反する。脚部はハの字形に開き、裾部は短い。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。坏部ヘラケズリ。脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。内面－口縁部ヨコナデ。坏底部ヘラナデ。脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外－橙色	ほぼ完形
26	高坏	口径 13.9 底径 9.2 器高 9.5	口縁部は坏部との境に稜をもって外反する。脚部はハの字形に開き、裾部は短い。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。坏部ヘラケズリ。脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。内面－口縁部ヨコナデ。坏底部ヘラナデ。脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。	石英・白色粒 内外－明赤褐色	ほぼ完形
27	高坏	口径 11.9 底径 9.1 器高 8.8	口縁部は坏部との境に弱い稜をもって直立する。脚部はハの字形に開き、裾部で外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。坏部ヘラケズリ。脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。内面－口縁部ヨコナデ。坏底部ヘラナデ。脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。	石英・角閃石・白色粒 内外－明赤褐色	口縁部1/6欠損
28	高坏	口径 10.9 底径 8.5 器高 8.3	口縁部は坏部との境に弱い稜をもって直立する。脚部はハの字形に開き、裾部で外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。坏部ヘラケズリ。脚部～裾部ヨコナデ。内面－口縁部ヨコナデ。坏底部磨耗。脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。	石英・角閃石・白色粒 内外－橙色	ほぼ完形
29	高坏	口径 9.9 底径 8.1 器高 8.4	口縁部は内彎気味に直立する。脚部はハの字形に開き、裾部で外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。坏部ヘラケズリ。脚部～裾部ヨコナデ。内面－口縁部ヨコナデ。坏底部磨耗。脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。	石英・角閃石・白色粒 内外－橙色	口縁部1/5欠損
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
30	凹み石	長さ[8.3]、幅[12.6]、厚さ[7.3]、重さ367.89g。石材：角閃石安山岩。				破片

で5.85m、副軸方向で5.05mである。主軸方位は、N-52° - Eと推定できる。壁際および南西側を除く床面は、硬化している。

P1・2は、主柱穴であろうか。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形である。深さは、一部推定される床面からの深さになるが、P1が24cm、P2が37cmである。他に7個のピットを床面で検出している。貯蔵穴は、東隅脇で検出した。上端での平面形は、やや角張った楕円形で、長径134cm、短径103cmである。中段に平場を有し、中央が深く掘り込まれており、最深部での深さは、63cmである。覆土は2層で、第2層は、地山の土かと思われる暗褐色粘土、あるいは暗褐色のシルト化ロームを主とし、埋め戻された可能性のある土と見られる。

カマドは、推定される北東壁の中央、東隅にやや寄った位置に付設されている。床面を掘り込んで設けられた燃焼部の下部のみが残存する。燃焼部の長さは87cm、横幅は44cmである。燃焼面は、ほぼ平らに仕上げられており、被熱により淡い赤みを帯び、所々硬化している。

第659図1の甕、3・4の甗、5～7・10～12・14～18の坏、20～29の高坏の計24個体の土師器が、貯蔵穴の主に覆土上～中層から折り重なるようにして出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期前葉の遺構と考えられる。

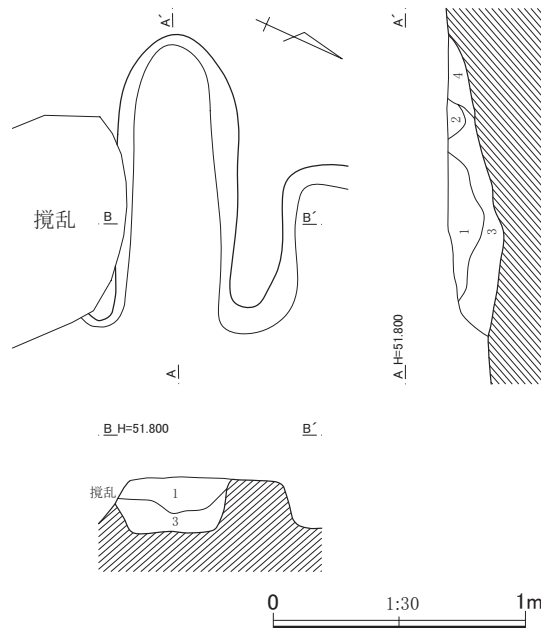


第309号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～6mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒(～8mm)・ローム小塊(～20mm)・焼土粒(～4mm)を少量含み、粘土粒(～5mm)を中

量含む。粘性はやや強い。

- 第4層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)・焼土粒(～5mm)・炭化物小塊(～10mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。



第309号住居跡カマド土層説明

- 第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～10mm)・焼土小塊(～10mm)を少量含む。
- 第2層：赤褐色土。暗褐色土を主とし、焼土小塊(～10mm)を多量に含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム小塊(～20mm)を中量含み、焼土小塊(～10mm)を少量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～8mm)を微量含み、焼土粒(～5mm)を少量含む。

第660図 第309号住居跡平面・断面図

第309号住居跡（第660・661図、第305表、図版78・181）

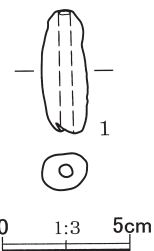
調査地点の西半のほぼ中央、P10グリッドに位置し、D群に含まれる住居跡である。第224・277号住居跡や溝状の攪乱に切られ、カマドや西壁、南壁の一部およびそれらの周りの床面を残し、大きく壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、長方形である。規模は、主軸方向での現存長が2.85m、副軸方向での推定長は8.08mである。主軸方位は、S-66°-Wと推定される。床面は、不規則に部分的に硬化している。壁高は、西壁で15cm、南壁で7cmである。

床面で、本住居跡に伴う可能性のあるピットを3個検出しているが、位置的に柱穴などの可能性は低いようである。

カマドは、西壁のほぼ中央と思われる位置に付設されている。左袖は攪乱により大きく壊されており、右袖と細長い燃烧部が残存する。燃烧部の長さは118cm、横幅は49cmである。燃烧面は、焚口寄りが最も深くなっており、そこからゆるやかな勾配で奥壁側に向かって上がってゆく。側壁の上端が、被熱により部分的に硬化している。カマドの覆土は4層で、焼土小塊を多量に含む第2層は、天井部などの崩落土からなる層であろう。

図示した土錘などの遺物が、覆土中から少量出土したのみである。出土遺物から見て、古墳時代の遺構である可能性が考えられる。



第661図 第309号住居跡出土遺物

第305表 第309号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
1	土錘	長さ5.1、幅1.9、厚さ1.5、重さ14.23g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい褐色。	完形

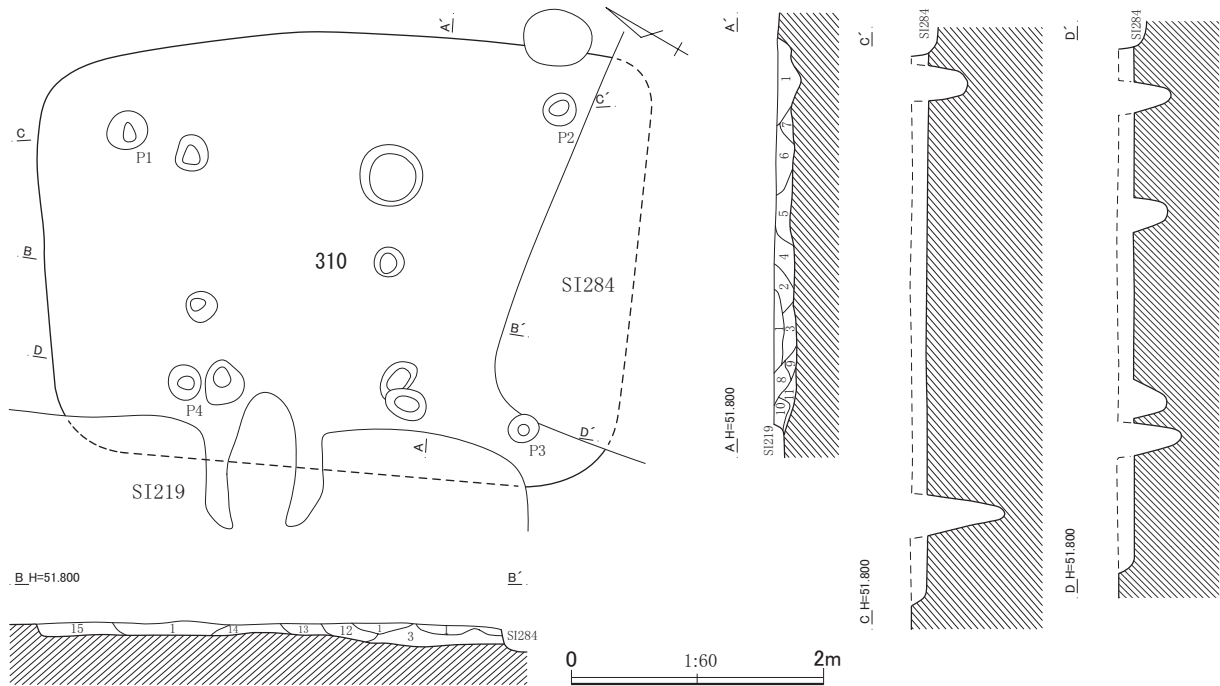
第310号住居跡（第662図、図版78）

調査地点の北東部の中央、やや北寄り、S9、T9・10グリッドに位置し、C群に含まれる住居跡である。床面を含む住居跡の上部が失われており、掘り方のみが残存する。第322号住居跡を切り、第219・230・284号住居跡に切られ、遺構の西側、南側を大きく壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

規模は、いずれも残りのよい部分での現存長であるが、東西方向での長さは4.54m、南北方向での長さは3.65mである。P1～P4は、支柱穴であろうか。掘り方の下面で検出した。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形である。確認面からの推定される深さは、P1が75cm、P2が44cm、P3が42cm、P4が51cmである。他に掘り方下面で、本住居跡に伴う可能性のあるピットを7個検出したが、柱穴などではないようである。

掘り方埋土は、15層に分けられた。掘り方は、全体に粗掘りされ、下面が凸凹したまま、暗褐色土とロームの混合土を入れて、埋め戻されている。

土師器片を主とする遺物が、掘り方埋土から少量出土している。重複関係から見て、古墳時代後期後葉頃の遺構と考えられる。



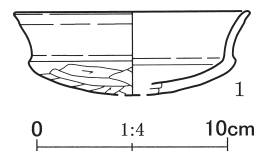
第310号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・ローム粒(～8mm)を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～20mm)を少量含む。
- 第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～30mm)を多量に含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)・ローム粒(～8mm)を微量含む。
- 第5層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～30mm)を多量に含む。
- 第6層：暗褐色土。ローム粒(～8mm)を多量に含む、ローム小塊(～40mm)・焼土粒(～4mm)・焼土小塊(～20mm)を少量含む。
- 第7層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～30mm)を多量に含む。
- 第8層：暗褐色土。ローム粒(～6mm)を中量含む。
- 第9層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含む、ローム小塊(～20mm)を中量含む。
- 第10層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を中量含む、ローム小塊(～10mm)を微量含む。
- 第11層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～30mm)を多量に含む。
- 第12層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を中量含む。
- 第13層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)・ローム小塊(～30mm)を多量に含む。
- 第14層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)・ローム小塊(～30mm)を多量に含む。
- 第15層：暗褐色土。ローム粒(～6mm)を中量含む。

第662図 第310号住居跡平面・断面図

第311号住居跡 (第663・664図、第306表、図版78・181)

調査地点の中央、やや北西寄り、Q9・10グリッドに位置し、D群に含まれる住居跡である。第317号住居跡を切っており、第277・278号住居跡、第373・401号土坑に切られ、残存するのは北隅の周辺の壁と床面、第278号住居跡の床面で検出した本住居跡の柱穴である可能性のあるピットのみである。



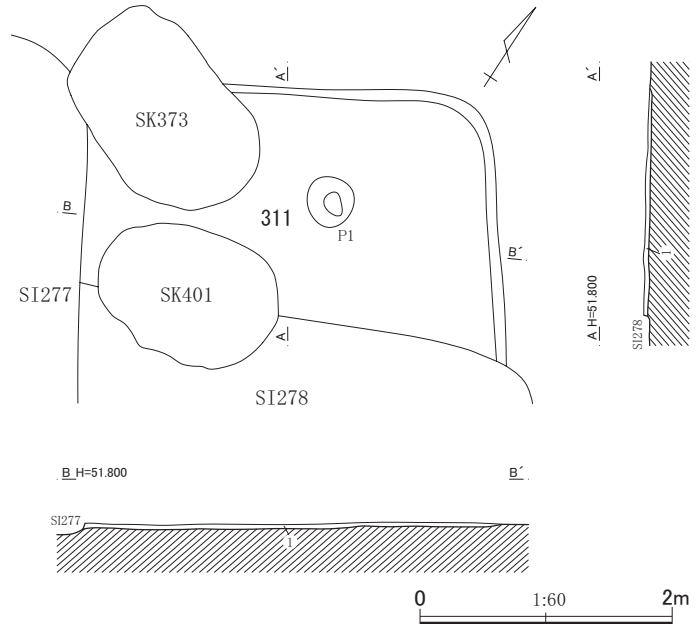
第663図 第311号住居跡出土遺物

第306表 第311号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 (12.6) 底径 — 器高 [4.6]	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外—橙色	1/5残存

また、第296号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

規模は、いずれも現存長になるが、北西-南東方向で1.89m、北東-南西方向で3.28mである。床面はほぼ平坦で、軽微ではあるが、部分的に硬化している。壁高は、北西壁、北東壁ともに1、2cmである。P1は、支柱穴の可能性のあるピットである。上端での平面形は、やや不整な円形で、深さは、48cmである。図示した土師器片などの遺物が、覆土中から少数出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期中葉から後葉にかけての遺構と考えられる。



第311号住居跡土層説明

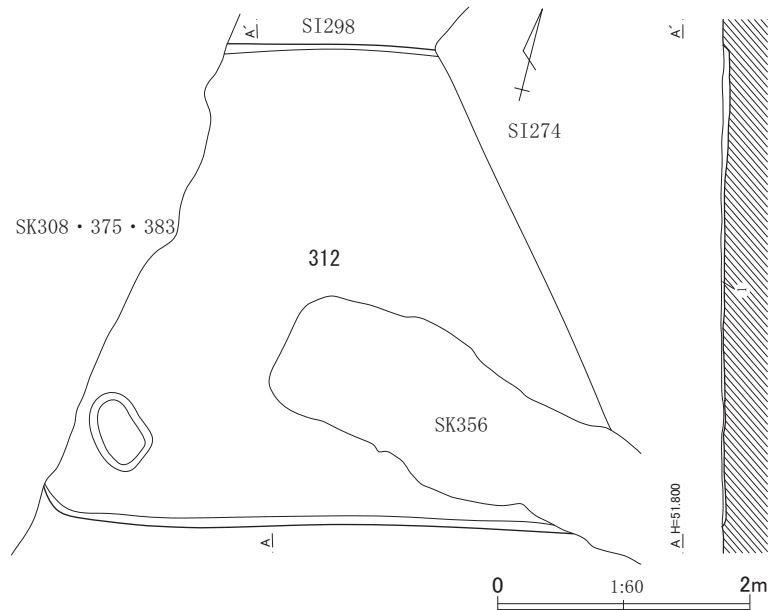
第1層：暗褐色土。ローム粒(～4mm)を少量含む。

第664図 第311号住居跡平面・断面図

第312号住居跡 (第665・666図、第307表、図版78・181)

調査地点の北西隅近く、O7グリッドに位置し、A群に含まれる住居跡である。第298号住居跡を切っており、第274号住居跡、第356・383号土坑に切られ、遺構の東側、西側を大きく壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

規模は、南北方向で3.84m、東西方向での現存長は4.24mである。床面には細かな凹凸が見られるが、全体的に平坦である。床面は、軽微ではあるが、所々硬化している。壁高は、北壁で4cm、南壁で3cmである。南西隅脇で本住居跡に伴う可能性のあるピットを1個検出している。深さは、28cmである。貯蔵穴の可能性もあるが、断定できない。



第312号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～8mm)を少量含む。

第665図 第312号住居跡平面・断面図

図示した土錘などの遺物が、覆土中から少数出土している。重複関係、古墳時代後期中葉以前の遺構と考えられる。

第307表 第312号住居跡出土遺物観察表

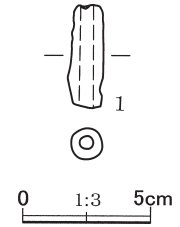
No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
1	土錘	長さ4.2、幅1.5、厚さ1.3、重さ7.84g。胎土：白色粒。色調：にぶい黄橙色。	完形

第313号住居跡（第667～669図、第308表、図版78・181）

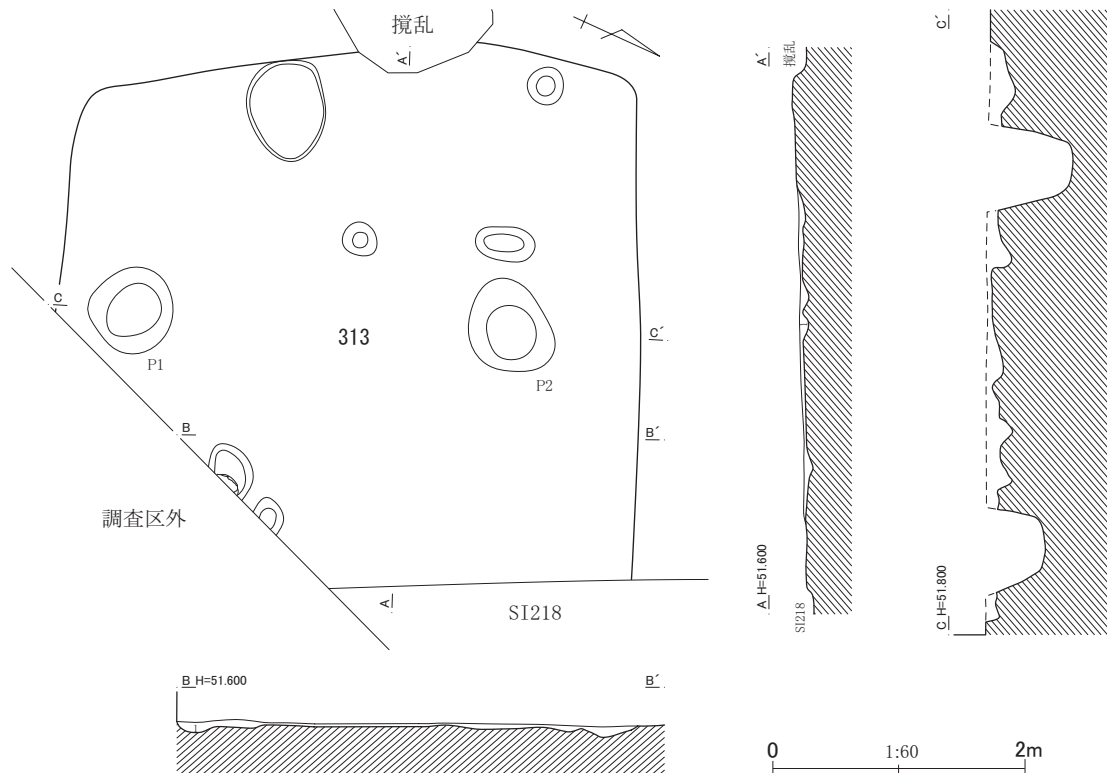
調査地点の東縁沿いの北東隅近く、T10、U10グリッドに位置し、C群に含まれる住居跡である。床面を含む住居跡の上部が失われており、掘り方のみが残存する。第314号住居跡を切っており、第284号住居跡や攪乱に切られ、遺構の西側、東側を壊されている。なお、南東部分は、調査範囲外である。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

掘り方の北壁と南壁は、ほぼ並行するが、西壁は途中屈折するらしく、かなり変則的な平面形になりそうである。規模は、いずれも現存する部分の測定値になるが、東西方向で4.24m、南北方向で4.66mである。

P1、P2は、支柱穴であろうか。掘り方の下面で検出した。いずれも上端での平面形は、かなり不整な円形である。確認面からの推定される深さは、P1が40cm、P2が62cmである。確認面で検出した東壁沿いのピットは、燃焼部の下部のみ残る原初的なカマド、あるいは地床炉の残骸であろうか。上端での平面形は、やや不整な楕円形で、長径80cm、短径61cm、深さは5cmである。覆土は3層で、第3層には、ローム小塊や焼土粒がかなり含まれる。他に掘り方下面で、本住居跡に伴う可能性



第666図 第312号住居跡出土遺物



第313号住居跡土層説明

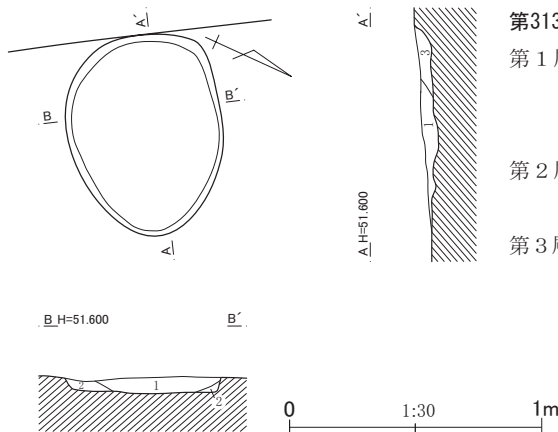
(掘り方埋土)

第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～

10mm)を中量含み、ローム小塊(～35mm)を多量に含む。

第667図 第313号住居跡平面・断面図(1)

のあるピットを5個検出したが、柱穴などではないようである。掘り方埋土は1層である。掘り方は、全体に荒掘りされ、下面が凹凸したまま、暗褐色土とロームの混合土を入れて、埋め戻されている。

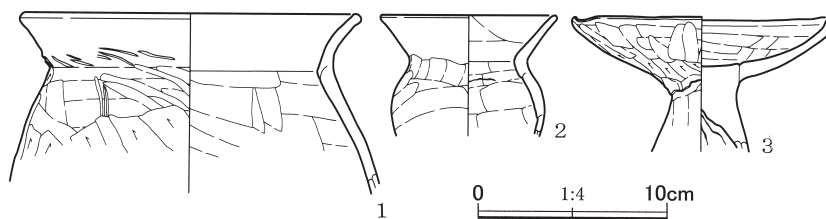


第313号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒(～2mm)を中量含み、ローム小塊(～15mm)・焼土粒(～4mm)を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～1mm)を中量含む。
- 第3層：暗赤褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～4mm)を少量含み、ローム小塊(～15mm)・焼土粒(～4mm)を中量含む。

第668図 第313号住居跡平面・断面図(2)

第669図1の甕は、P1の北東にあるピット覆土上層から出土した。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代中期中葉の遺構である可能性を考えたい。



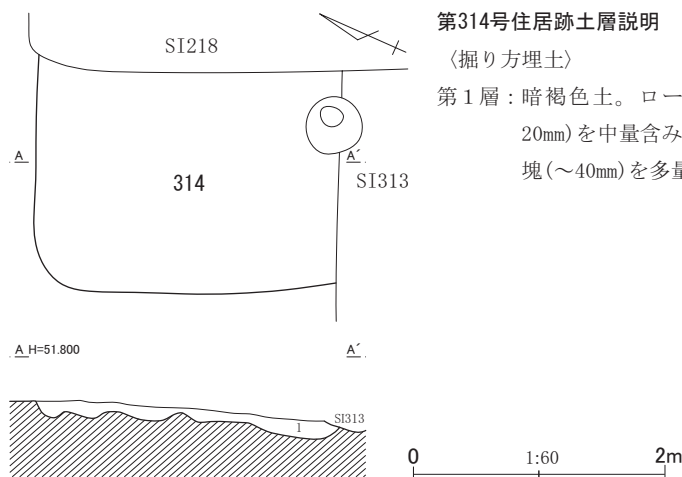
第669図 第313号住居跡出土遺物

第308表 第313号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径 (18.3) 底径 — 器高 [9.8]	口縁部は外反する。胴部は膨らみをもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヘラナデ。胴部ヘラナデ後ヘラケズリ。内面-口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 外-橙色 内-にぶい橙色	口縁部～胴部上位1/3残存
2	小型壺	口径 (9.6) 底径 — 器高 [6.6]	口縁部は外傾して開く。体部は中位に膨らみをもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面-口縁部ヨコナデ。頸部～体部ヘラナデ。内面-口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 外-にぶい橙色 内-明赤褐色	口縁部～体部1/4残存
3	高坏	口径 13.8 底径 — 器高 [7.1]	口縁部はわずかに内彎して開く。粘土紐積み上げによる成形。	外面-坏部はヘラナデ。下半の一部はケズリ。脚部はヘラナデ。内面-ヨコナデ。	白色粒・黒色粒 内外-にぶい橙色	坏部～脚部一部残存

第314号住居跡 (第670図、図版79)

調査地点の東縁近くの北東隅脇、T9・10、U9・10グリッドに位置し、C群に含まれる住居跡である。床面を含む住居跡の上部が失われており、掘り方のみが残存する。第218・313号住居跡に切られ、掘り方の西隅周辺を除く遺構の大半が壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。



第314号住居跡土層説明

- 〈掘り方埋土〉
- 第1層：暗褐色土。ローム小塊(～20mm)を中量含み、ローム小塊(～40mm)を多量に含む。

第670図 第314号住居跡平面・断面図

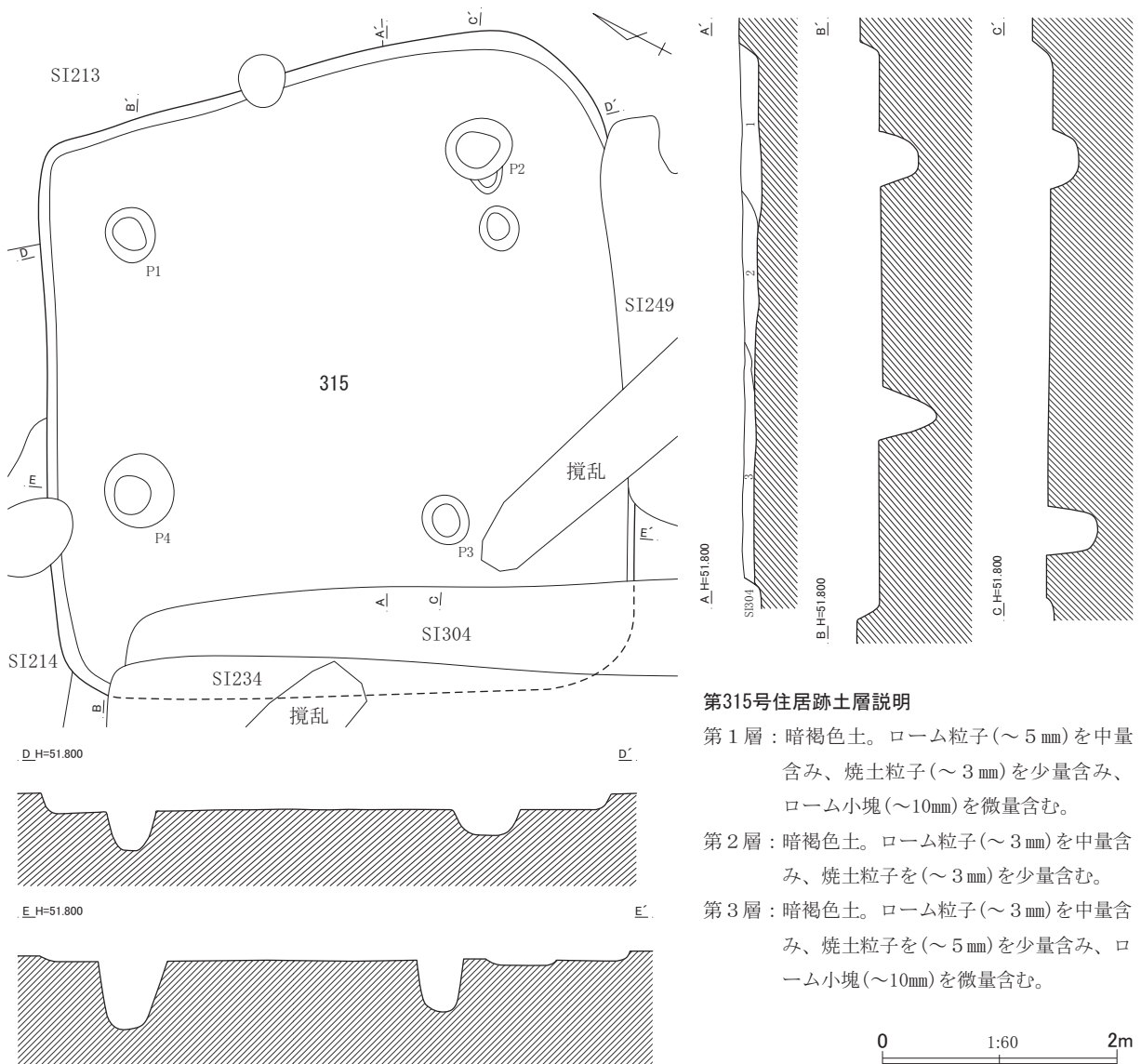
C地点

規模は、いずれも現存する部分の測定値になるが、北東－南西方向で1.87m、北西－南東方向で2.41mである。第313号住居跡との境目でピットを1個検出している。掘り方下面からの深さは、55cmである。掘り方埋土は1層で、掘りっ放しの粗掘り面のまま、そこに暗褐色土と塊混じりのロームの混合土を入れて、掘り方を埋めたようである。土師器片を主とする遺物が、掘り方埋土中から少数出土している。重複関係から見て、古墳時代後期後葉後半以前の遺構と考えられる。

第315号住居跡（第671図、図版79）

調査地点の東半中央、やや北寄り、S10・11グリッドに位置し、F群に含まれる住居跡である。第213・214・234・249・304号住居跡および溝状の攪乱に切られ、南西壁、南東壁の大半を壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、長方形と見られるが、北東壁が推定される南西壁と平行せず、東隅が丸みをもつなど、かなり不整な形になりそうである。規模は、北東－南西方向での現存長は4.53m、推定長が5.54m、



第671図 第315号住居跡平面・断面図

北西—南東方向での長さは4.99mである。北東—南西方向での中軸線の指す方位は、 $N-61^{\circ}-E$ である。床面は微妙に凸凹しており、壁際を除いて、不規則に硬化している。壁高は、北東壁で16cm、南東壁で9cm、北西壁で19cmである。

P1～P4は、支柱穴であろう。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形、楕円形である。深さは、P1が34cm、P2が24cm、P3が38cm、P4が50cmである。P2の南西側壁はくぼんでおり、あるいはピットが重なっているのかもしれない。他にP2の南脇でピットを1個検出している。深さが11cmと浅いため柱穴などではないようである。

覆土中から土師器片を主とする遺物がかなりの量出土している。重複関係から見て、古墳時代終末期後葉以前の遺構である可能性が考えられる。

第316号住居跡（第672・673図、図版79）

調査地点の北西部の中央、やや北東寄り、Q8・9、R9グリッドに位置し、B群に含まれる住居跡である。床面のみ残存する住居跡であるが、床面および掘り方埋土の広がりから、住居跡の範囲を



第672図 第316号住居跡平面・断面図（1）

C地点

確認することができた。第240号住居跡、第324・326・327・374・377号土坑に切られている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、長方形と見られる。規模は、北西－南東方向で5.16m、北東－南西方向で5.92mである。カマドがないため主軸を定めることができないが、北西－南東方向での中軸線の方位はN－32°－Wである。ただし、カマドがあったとすれば、第240号住居跡に切られた南東壁にあった可能性があるから、主軸方位は、この逆になることも考えられる。床面は、ほぼ平坦であり、支柱穴を結ぶ範囲が硬化している。

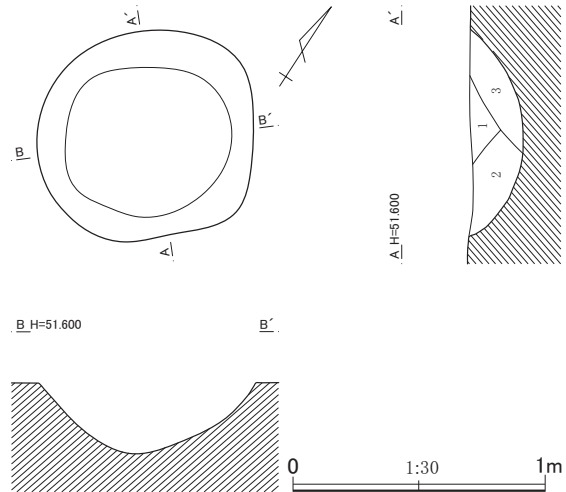
P 1～P 4は、支柱穴であろう。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形で、深さは、P 1が36cm、P 2が32cm、P 3が43cm、P 4が30cmである。他に本住居跡に伴う可能性のあるピットを9個床面で検出した。とくにP 4の北側から東側にかけて検出した、やや大きな楕円形のピットを除く3個のピットは、いずれも深さが30cm以上あり、あるいは付け替えられた柱穴が含まれるのかもしれない。第240号住居跡に切られた部分で検出した土坑を、本住居跡の貯蔵穴と考えた。上端での平面形は、やや歪な円形で、最大径は92cmである。楕形に掘り込まれており、最深部での深さは、23cmである。覆土は3層で、第2・3層は、ローム小塊を水玉状に含む埋め戻されたような土である。

重複関係から見て、古墳時代終末期後葉以前の遺構と考えられる。

重複関係から見て、古墳時代終末期後葉以前の遺構と考えられる。

第317号住居跡（第674図、図版79）

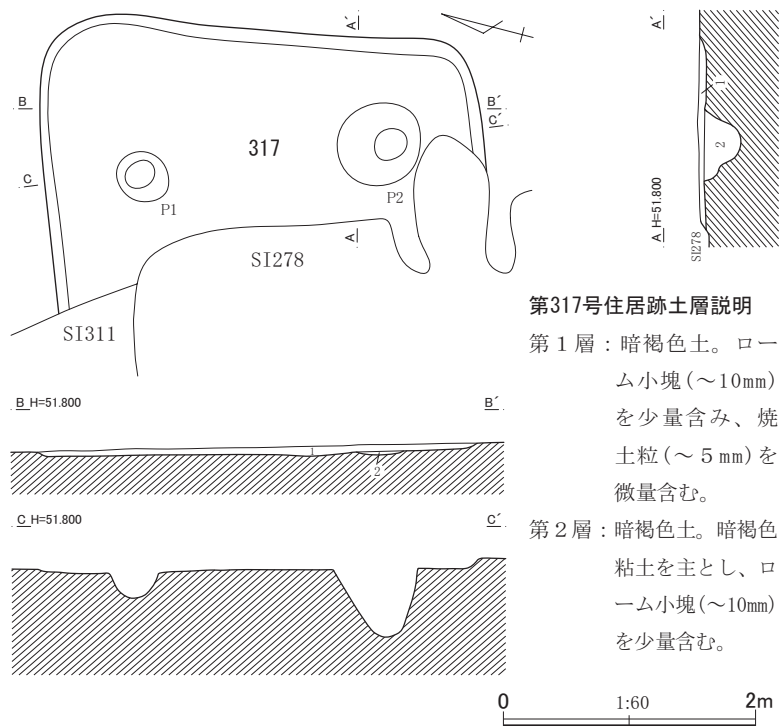
調査地点の北半の中央、やや西寄り、Q 9・10グリッドに位置し、D群に含まれる住居跡である。第278・311号住居跡に切られ、西側を大きく壊されている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。



第316号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒（～1mm）を少量含み、ローム小塊（～15mm）を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含み、ローム小塊（～40mm）を微量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒（～6mm）を多量に含み、ローム小塊（～30mm）を少量含む。

第673図 第316号住居跡平面・断面図（2）



第317号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム小塊（～10mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。暗褐色粘土を主とし、ローム小塊（～10mm）を少量含む。

第674図 第317号住居跡平面・断面図

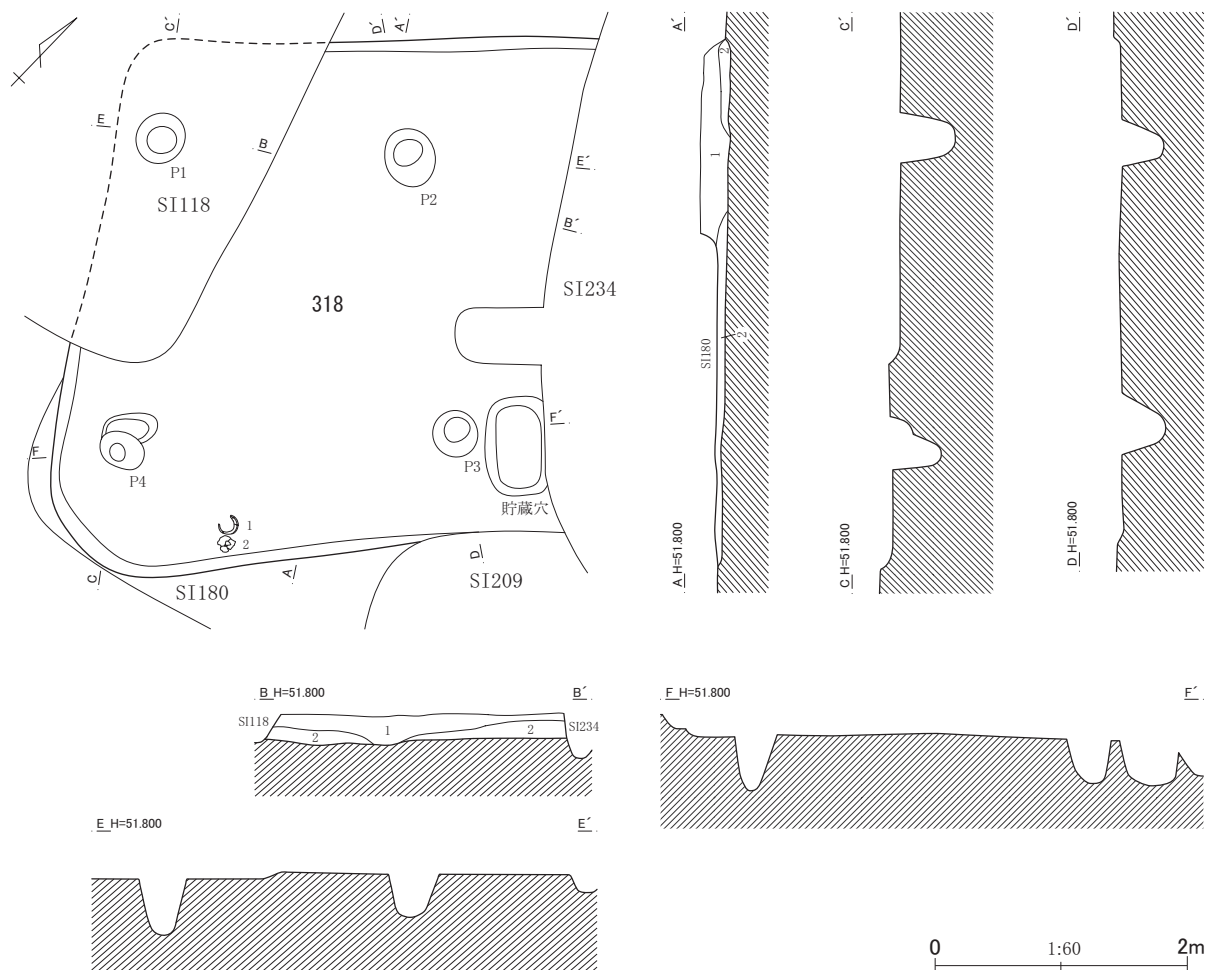
規模は、東西方向の現存長が2.23m、南北方向の長さは3.50mである。床面はほぼ平坦であるが、硬化は顕著ではない。壁高は、東壁で6cm、南壁で5cm、北壁で3cmである。

P1、P2は、支柱穴であろうか。いずれも上端での平面形は、かなり不整な円形で、深さは、P1が20cm、P2が54cmである。

土師器小片を主とする遺物が覆土中より少量出土したのみである。重複関係から見て、古墳時代後期中葉以前の遺構である可能性が考えられる。

第318号住居跡（第675～677図、第309表、図版79・181）

調査地点の中央の東寄り、R11・12、S11グリッドに位置し、F群に含まれる住居跡である。第118・180・209・210・234号住居跡に切られ、南隅から南東壁にかけて、北西壁の一部などを残し、遺構のかなりの範囲が失われている。また、第162号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。



第318号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）・焼土粒（～5mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）を中量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）・焼土粒（～5mm）を少量含み、ローム小塊（～20mm）を中量含む。

第675図 第318号住居跡平面・断面図（1）

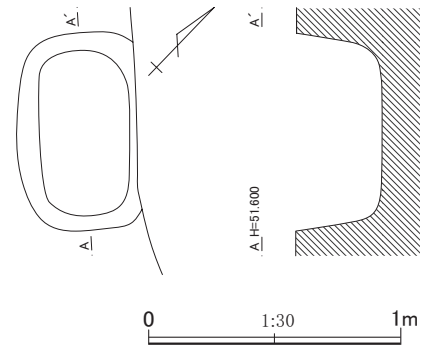
C地点

平面形は不明であるが、いずれにせよ相当歪な形態になりそうである。規模は、北西－南東方向で4.06m、北東－南西方向での現存長は3.96mである。主軸は確定できないが、北西壁に直交する線の指す方位は、N-44°-Wである。床面にはかなり凹凸があり、床面の中央部分は硬化している。壁高は、北西壁で6cm、南東壁で4cmである。

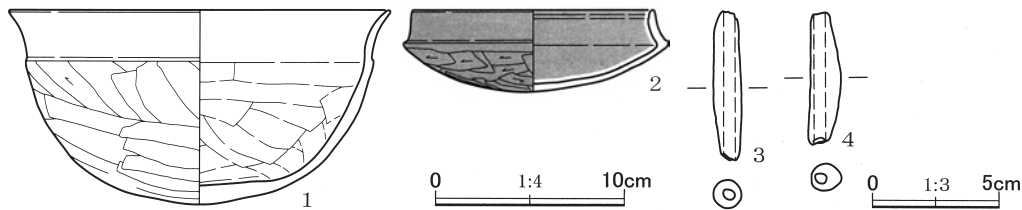
P1～P4は、支柱穴であろうか。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形で、深さは、P1が46cm、P2が35cm、P3が34cm、P4が39cmである。P4は、2個のピットが重なっているかにも見えるが、北側で重なるくぼみは浅く、あるいは側壁が崩れた部分なのかもしれない。P3脇の土坑は、貯蔵穴であろうか。上端での平面形は、楕円形、もしくは隅丸長方形で、長径78cm、短径48cm、深さは35cmである。

住居跡の覆土は2層で、暗褐色土を主とし、総じてローム小塊の混入が目立つ土層である。

第677図2の坏は、南西壁沿いの南隅近くの床面よりやや浮いた位置から出土した。他に土師器片を主とする遺物が散漫に出土している。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期後葉後半の遺構と考えられる。



第676図 第318号住居跡平面・断面図(2)



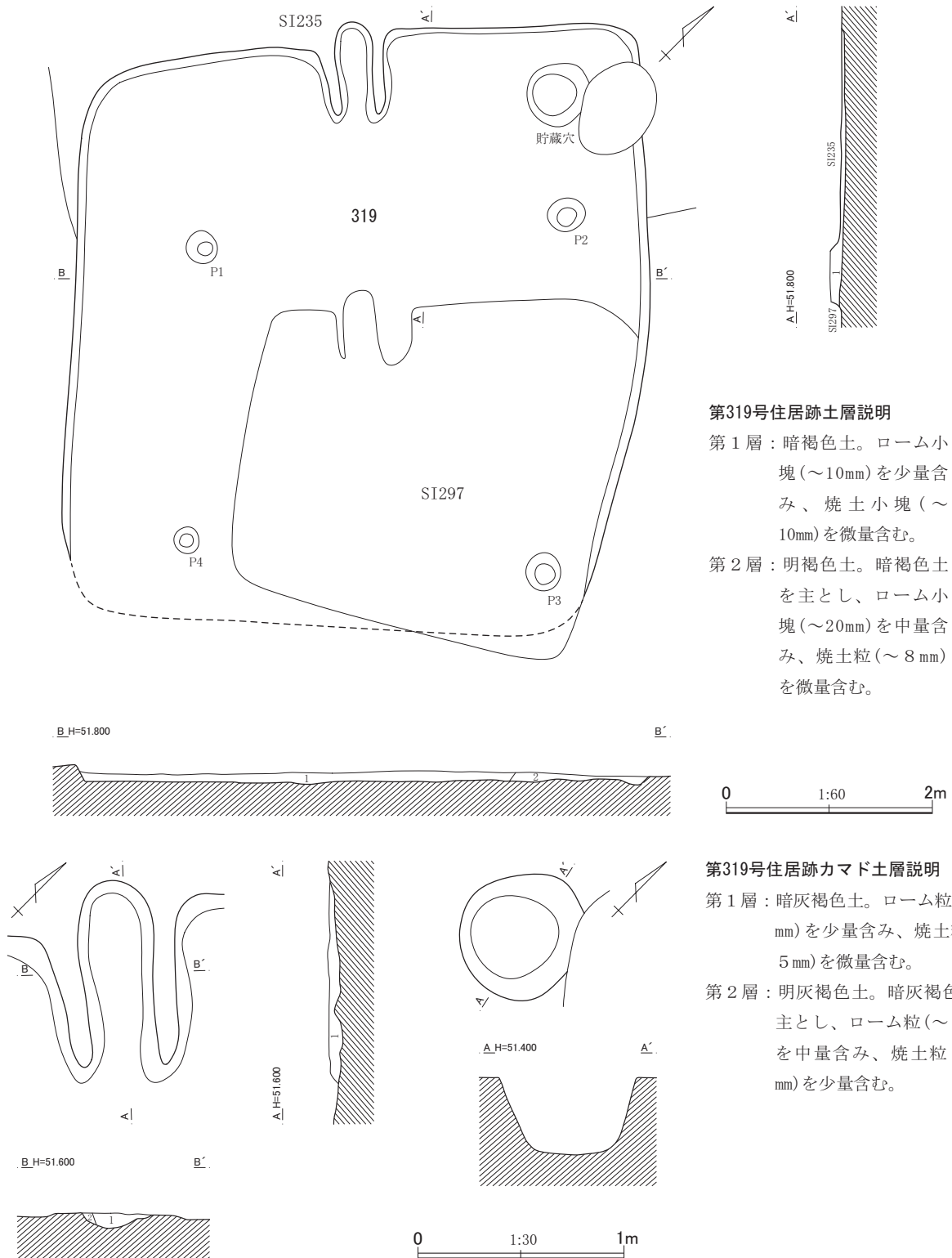
第677図 第318号住居跡出土遺物

第309表 第318号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	鉢	口径 20.8 底径 — 器高 9.7	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 内外－橙色	1/3残存
2	坏	口径 13.1 底径 — 器高 4.5	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって内傾し、内側に凹線がめぐる。粘土紐積み上げによる成形。	外面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。黒色処理。内面－口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。黒色処理。	白色粒・褐色粒 内外－黒褐色	一部欠損
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
3	土錘	長さ6.2、幅1.2、厚さ1.2、重さ7.13g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい黄橙色。				完形
4	土錘	長さ5.5、幅1.4、厚さ1.1、重さ6.94g。胎土：白色粒・黒色粒・褐色粒。色調：橙色。				完形

第319号住居跡 (第678・679図、第310表、図版80・181)

調査地点の北西部の中央、北西寄り、O8・9、P8・9グリッドに位置し、A群に含まれる住居跡である。第235・297号住居跡に切られ、南東半を大きく壊されている。また、第283・289号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。



第678図 第319号住居跡平面・断面図

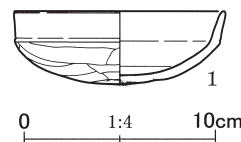
平面形は、方形あるいは長方形と見てよいのであろうが、北東壁は直線をなさず、途中で屈曲する。規模は、北西－南東方向での現存長が5.73m、北東－南西方向で5.58mである。主軸方位は、N－

C地点

44° -Wである。床面は、軽微ではあるが、所々硬化している。壁高は、北西壁で3cm、北東壁で9cm、南西壁で18cmである。

位置的にやや変則的ではあるが、P1～P4は、主柱穴であろうか。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形で、深さは、一部推定される床面からの深さになるが、P1が25cm、P2が29cm、P3が36cm、P4が41cmである。貯蔵穴は、北隅脇で検出した。上端での平面形が楕円形で、長径79cm、短径68cmである。丸みのある逆円錐台形に掘り込まれており、深さは74cmである。

カマドは、北西壁のほぼ中央に付設されている。低平で痕跡的な両袖と細長い燃烧部の下部のみが残存する。袖端を末端とするなら、燃烧部の長さは99cm、横幅は36cmである。燃烧面は、微妙に掘りくぼめられ作出されており、かなり凸凹している。被熱赤化の痕跡は顕著ではない。



第679図 第319号
住居跡出土遺物

重複関係、出土遺物から見て、古墳時代終末期前葉から中葉にかけての遺構と考えられる。

第310表 第319号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 11.4 底径 — 器高 4.0	丸底。口縁部は体部との境に弱い稜をもって外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 内外—橙色	口縁部一部欠損

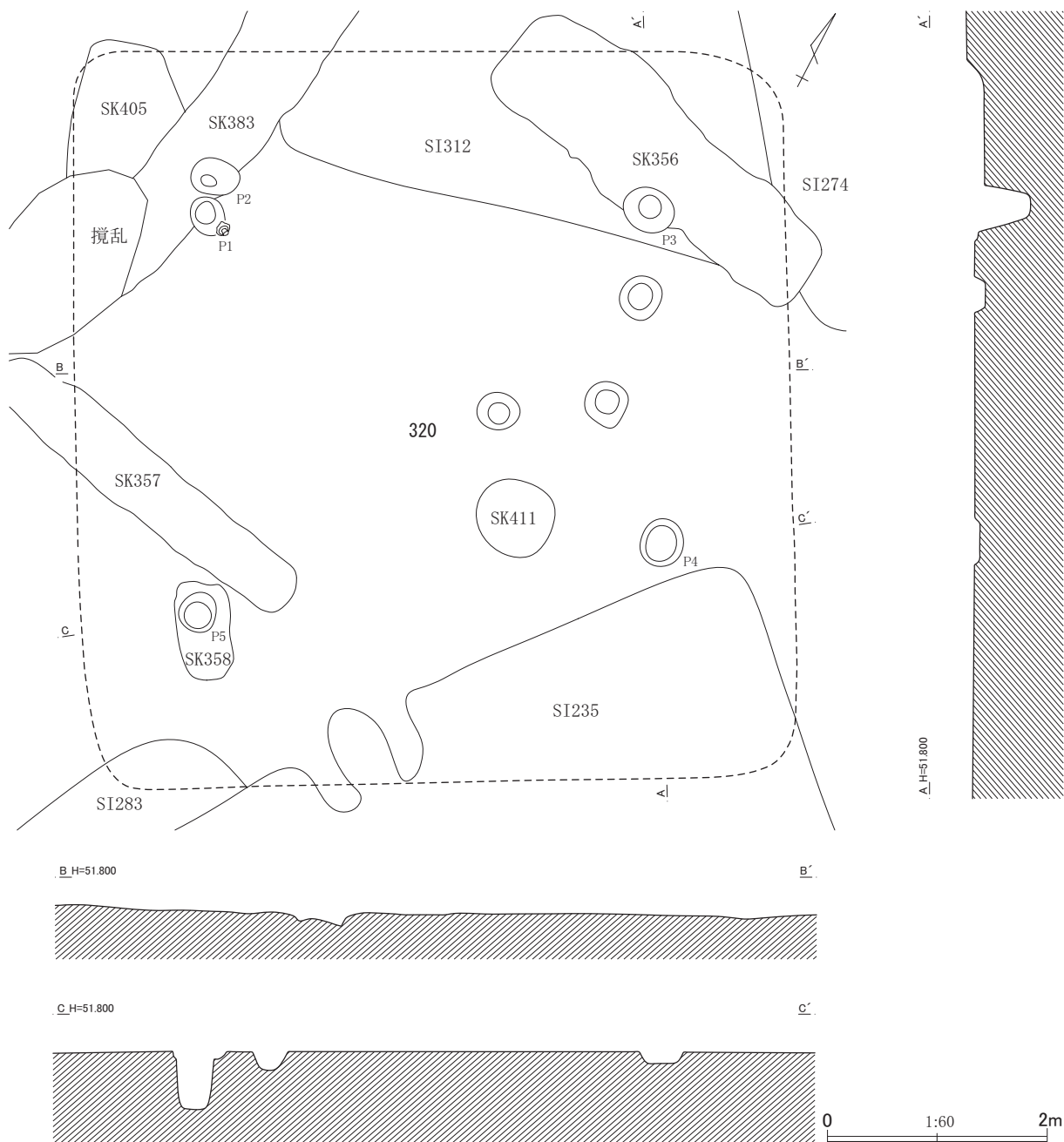
第320号住居跡（第680図）

調査地点の北西隅脇の西縁近く、O7・8グリッドに位置し、A群に含まれる住居跡である。西隅周辺と床面のみ残存する住居跡であるが、床面および掘り方埋土の広がりから、住居跡の範囲をある程度確認することができた。第235・274・283・312号住居跡、第356～358・383・405・411号土坑および攪乱に切られている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

残存する床面および掘り方埋土の分布から、平面形は、方形ないしは長方形と推定される。規模は、北西—南東方向での床面の残存長が4.60m、北東—南西方向での推定長は6.52mである。北西—南東方向での推定される中軸線の指す方位は、N-27° -Wである。床面は、ほぼ平坦で、軽微ではあるが、硬化している。

P1～P5は、主柱穴であろう。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形、楕円形で、深さは、P1が27cm、P2が64cm、P3が50cm、P4が10cm、P5が53cmである。P1、P2の新旧関係は判らないが、どちらかが付け替えられた柱の穴であろう。図化していないが、高坏片が、床面からP1の中へ落ち込んだかのような状態で出土している。住居廃棄時に柱が抜去され、開口した柱穴に高坏が落ち込んだというような想定が成り立つとすれば、P1が最終段階の、つまり新しい柱穴ということになる。他に本住居跡に伴う可能性のあるピットを3個床面で検出した。位置、深さから柱穴などではないようである。

土師器細片を主とする遺物が、床面やピット中から少数出土しているのみである。重複関係から見て、古墳時代後期中葉以前の遺構と考えられる。



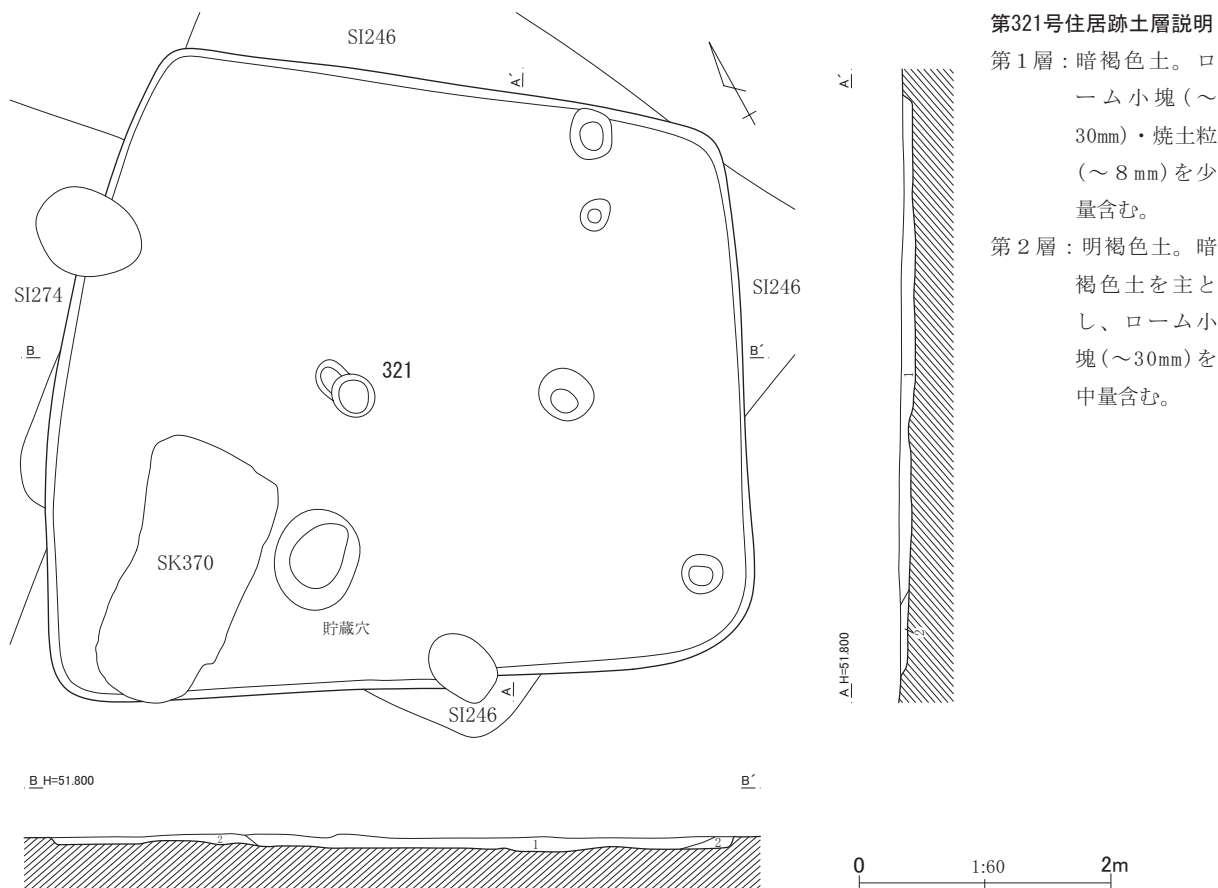
第680図 第320号住居跡平面・断面図

第321号住居跡（第681～683図、第311表、図版80・181）

調査地点の北西隅脇の北縁近く、P7グリッドに位置し、A群に含まれる住居跡である。第246・274号住居跡、第370号土坑に切られている。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は、北東－南西方向に比し北西－南東方向がやや長い長方形と見ることができ、北隅、東隅が鈍角をなすため、かなり歪である。規模は、北東－南西方向で4.85m、北西－南東方向で5.47mである。北東－南西方向での中軸線の指す方位は、N-32°-Eである。床面にはかなり凸凹しているが、全体としてはおおむね平坦である。床面は、壁際を除いて、所々島状に硬化している。壁高は、北東壁で7cm、南東壁で10cm、南西・北西壁で5cmである。

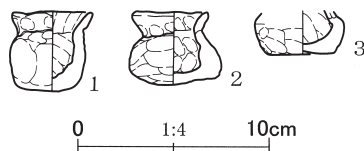
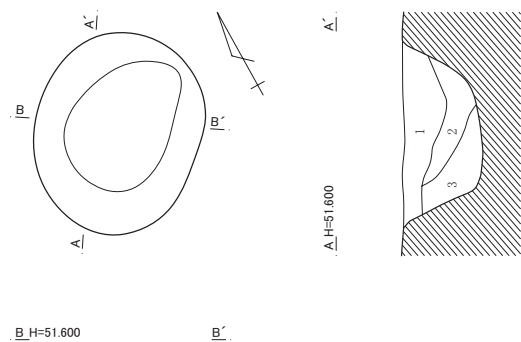
南西壁近くのやや西隅に寄った位置で検出した土坑は、貯蔵穴であろうか。上端での平面形は楕円



第321号住居跡土層説明

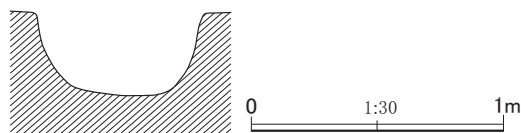
第1層：暗褐色土。ローム小塊（～30mm）・焼土粒（～8mm）を少量含む。
 第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊（～30mm）を中量含む。

第681図 第321号住居跡平面・断面図（1）



第683図 第321号住居跡出土遺物

形で、長径80cm、短径66cmである。丸みをもったバケツ状に掘り込まれており、深さは30cmである。



第321号住居跡貯蔵穴土層説明

第1層：暗褐色土。ローム小塊（～30mm）・焼土粒（～5mm）を少量含む。
 第2層：暗褐色土。ローム小塊（～30mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。
 第3層：暗褐色土。ローム粒（～8mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。

第682図 第321号住居跡平面・断面図（1）

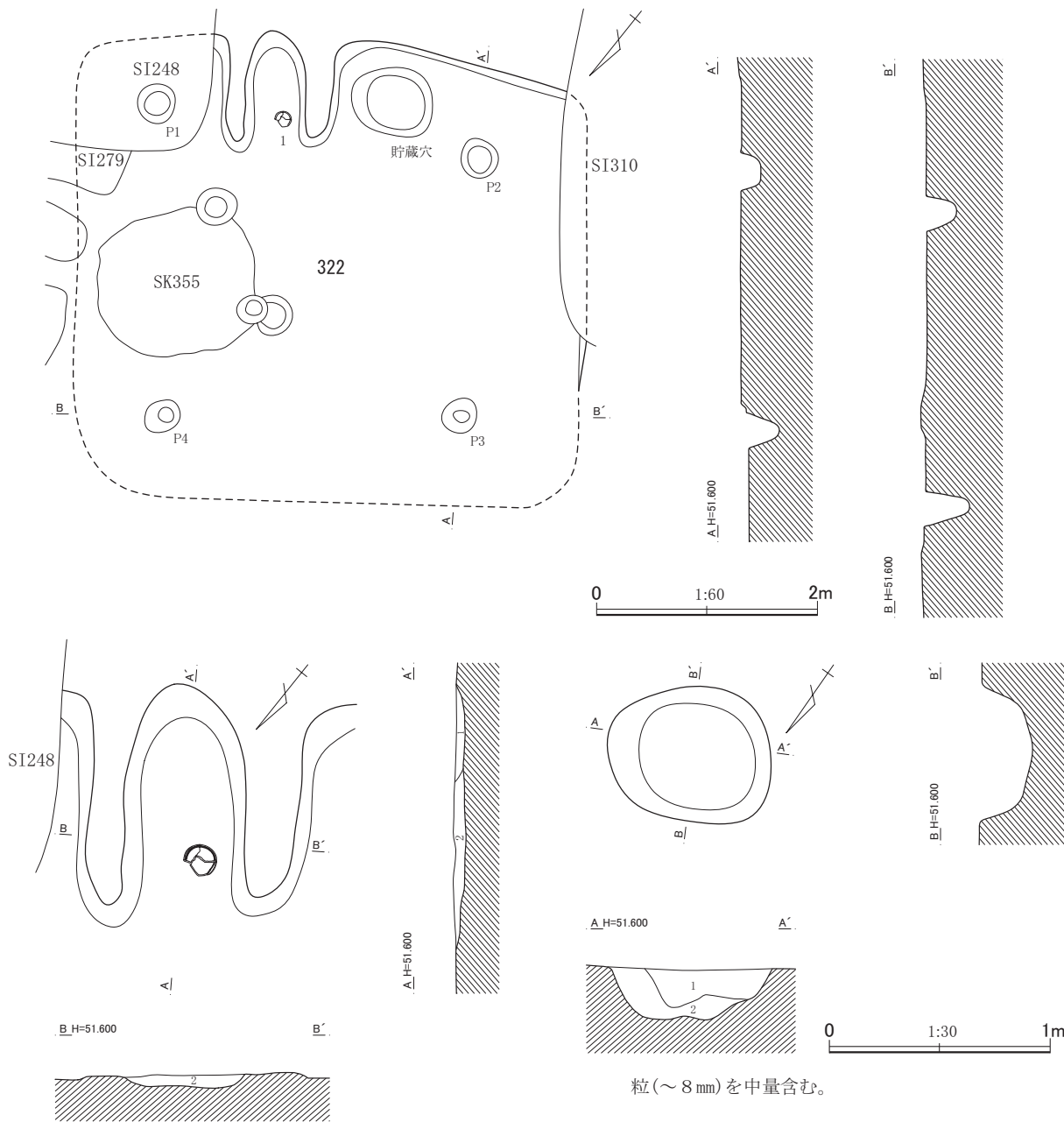
他に床面で、本住居跡に伴う可能性のあるピットを6個検出しているが、位置的に柱穴などとは決めかねる。重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期末葉以前の遺構である可能性が考えられる。

第322号住居跡（第684・685図、第312表、図版80・181）

調査地点の北東隅近く、T9グリッドに位置し、C群に含まれる。第248・279・303・310号住居跡、第355号土坑に切られ、北東隅から北西壁にかけての大半が失われている。北西側の住居跡範囲は、床面およ

第311表 第321号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	手捏ね土器	口径 4.3 底径 — 器高 4.4	平底気味。体部は膨らみをもたない。口縁部は外傾する。手捏ね成形。	外面—口縁部ナデ後、指頭圧痕。体部～底部ナデ。内面—口縁部～底部ナデ。	白色粒 内外—暗灰色	体部1/4欠損
2	手捏ね土器	口径 (3.9) 底径 — 器高 4.0	丸底。体部は下位が張る。口縁部は外反する。手捏ね成形。	外面—口縁部ナデ後、指頭圧痕。体部～底部ナデ。内面—口縁部～底部ナデ後、指頭圧痕。	白色粒 内外—黒褐色	口縁部1/2欠損
3	手捏ね土器	口径 — 底径 3.5 器高 [2.2]	平底。肩部が張る。手捏ね成形。	外面—体部～底部ナデ。内面—体部～底部ナデ。	白色粒 内外—暗灰色	体部～底部2/3残存



第684図 第322号住居跡平面・断面図

C地点

第312表 第322号住居跡出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 12.4 底径 — 器高 3.9	丸底。口縁部は体部との境に弱い稜をもって内傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。黒色処理。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。黒色処理。	石英・白色粒・黒色粒 内外—黒褐色	口縁部1/3欠損

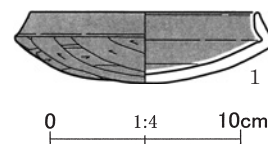
び掘り方埋土の広がりから、ある程度確認することができた。また、第247号住居跡と重複する。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

後述する支柱穴の配置などをも勘案するなら、平面形は、方形と見てよさそうである。規模は、主軸方向での現存長が3.40m、副軸方向での推定長は4.62mである。主軸方位は、S-37°-Eである。床面には微妙な凹凸が目立つが、全体としては平坦である。床面の南西半は硬化している。壁高は、南東壁で2、3cmである。

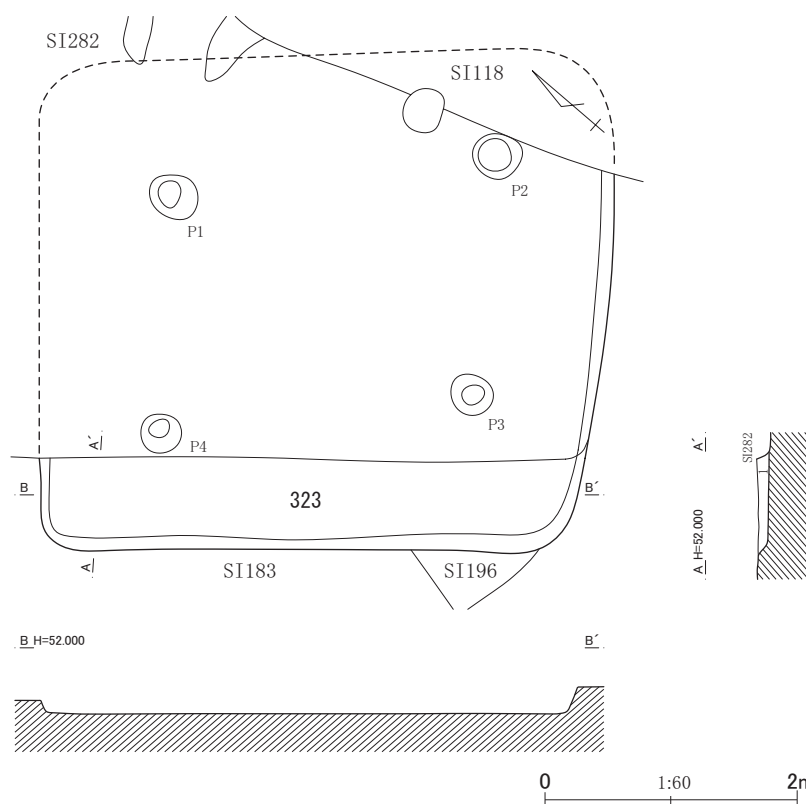
P1～P4は、支柱穴であろう。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形で、深さは、P1が28cm、P2が20cm、P3が30cm、P4が45cmである。貯蔵穴は、カマド右袖脇で検出した。上端での平面形は楕円形で、長径74cm、短径60cmである。バケツ状に掘り込まれており、底面には凹凸が著しい。深さは20cmである。覆土は2層で、第2層は、かなり大ぶりのロームブロックの混入する埋め戻された土と思われる層である。他に床面で、本住居跡に伴うピットを3個検出している。

カマドは、南東壁に付設されている。両袖に挟まれた燃焼部のみ残存する。燃焼部の袖端までの長さは108cm、横幅は55cmである。燃焼面は、わずかに掘りくぼめられており、凹凸が目立つようである。被熱赤化の痕跡は顕著ではない。カマドの覆土は2層で、第2層は、焼土粒子を目立って含み、カマド構築材の崩落土を含むと見られる。第685図1の坏は、カマドの燃焼面にほとんど接して出土した。

重複関係、出土遺物から見て、古墳時代後期後葉後半の遺構と考えられる。



第685図 第322号住居跡出土遺物



第323号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒(～8mm)・ローム小塊(～20mm)を中量含む。

第686図 第323号住居跡平面・断面図

第323号住居跡（第686図、図版80）

調査地点の中央、やや南寄り、Q11・12、R11グリッドに位置し、F群に含まれる住居跡である。第118・183・196・215・282・307号住居跡に切られ、残存するのは、南西壁周辺の細長い範囲のみである。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

平面形は確定し切れないが、本住居跡を切っている第282号住居跡と南東壁がほぼ重なるらしく、また後述する支柱穴を検出しているため、おおよそ北東－南西方向に比し北西－南東方向が長い長方形になると推定できる。規模は、北東－南西方向での現存長（P2と南西壁間の距離）は3.33m、北西－南東方向での推定長は4.32mである。北東－南西方向の推定中軸線の方位は、N-51°-Eである。床面はほぼ平坦で、極軽微ではあるが、硬化している部分が所々あるようである。壁高は、南西壁で7cmである。

P1～P4は、支柱穴であろう。いずれも上端での平面形は、やや不整な円形で、深さは、P1が30cm、P2が29cm、P3が37cm、P4が39cmである。

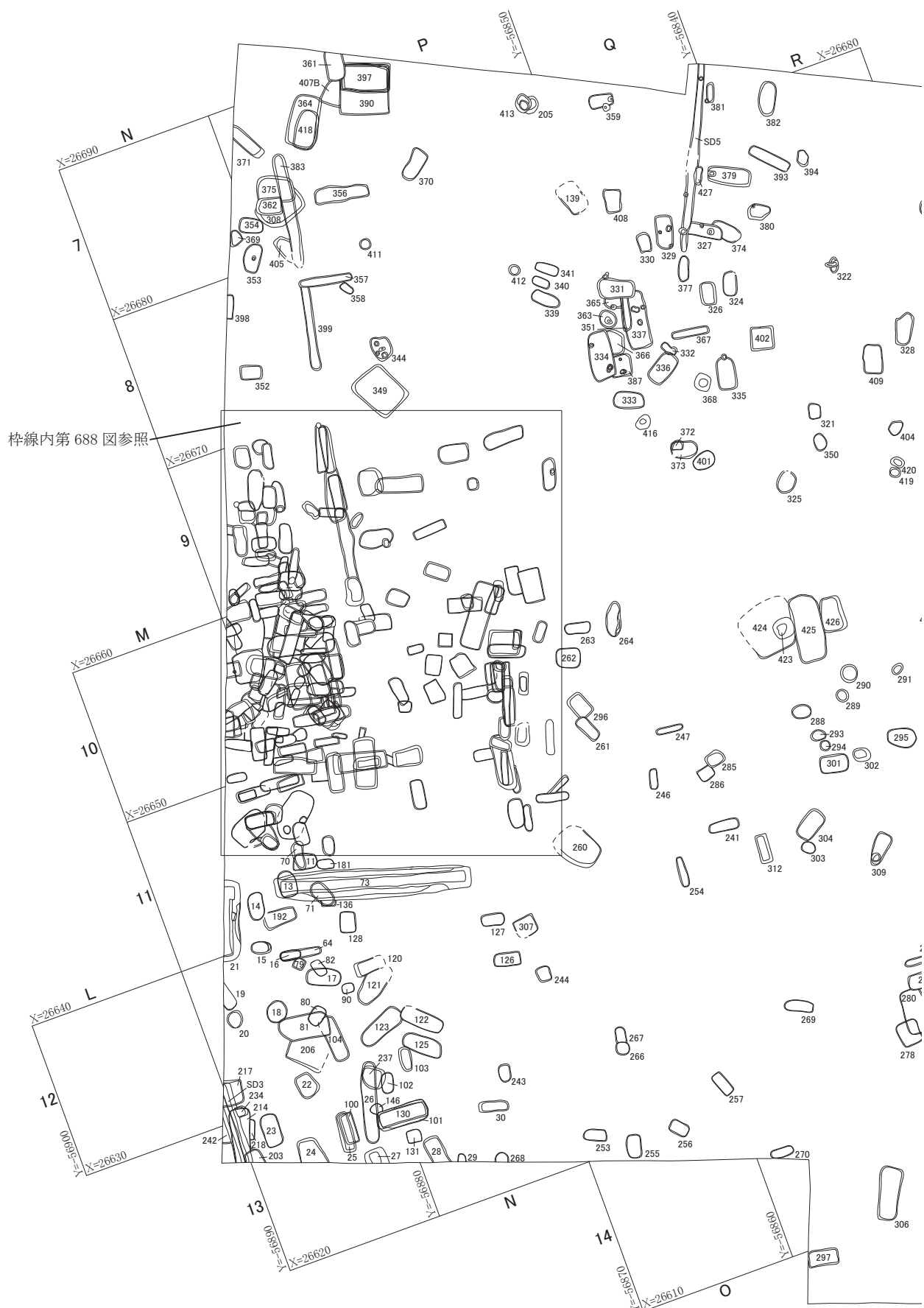
土師器片を主とする遺物が覆土中から少量出土している。重複関係から見て、古墳時代後期中葉以前の遺構と考えられる。

2 土坑

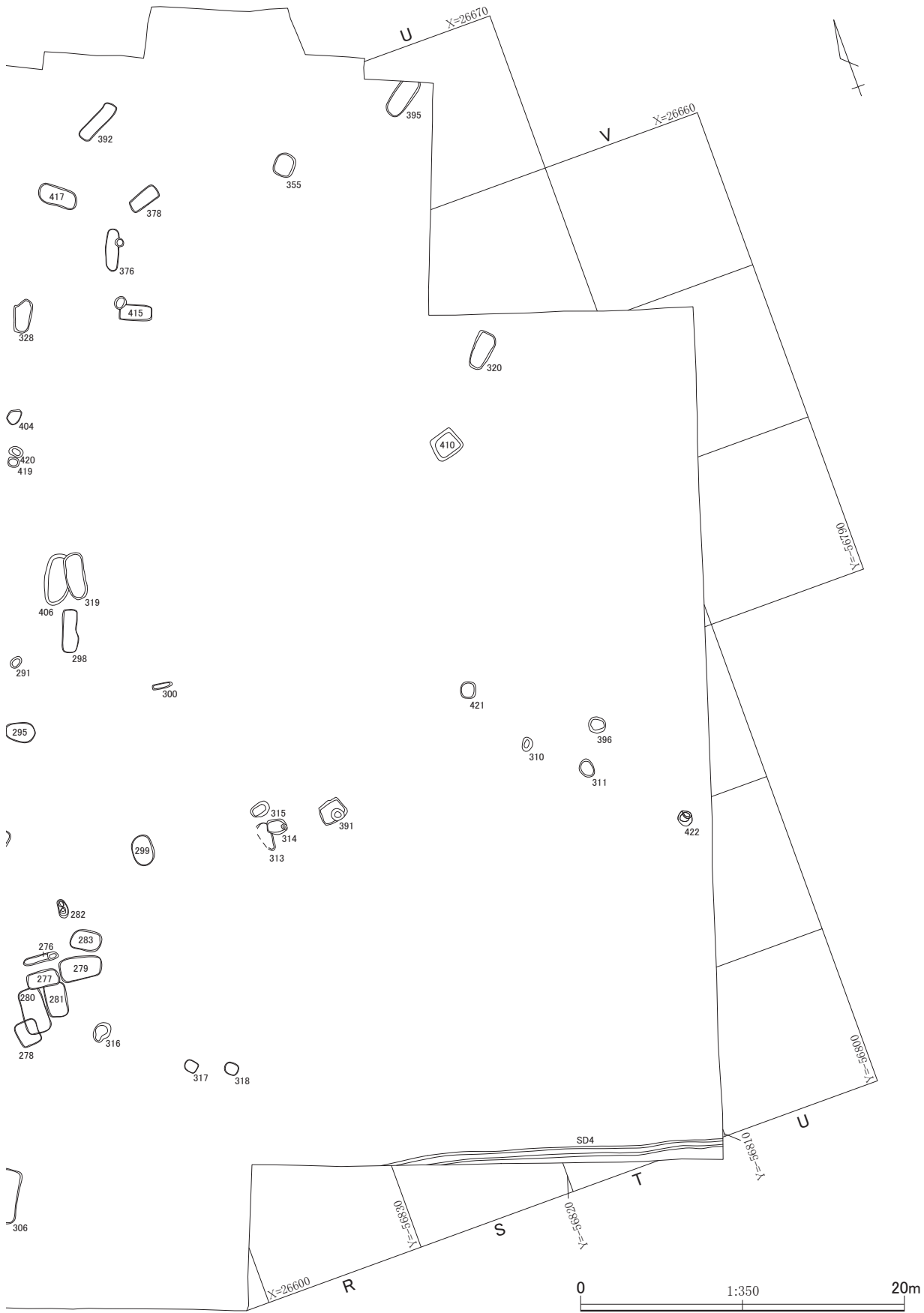
C地点の調査では、第3号土坑から第428号土坑にいたる424基(欠番2つを除く)の土坑を精査した(第687～784図、第313～337表、図版81～107、182～188)。土坑の多くは、調査地点の西半に集中しており、とくに西縁沿いとその周辺では、夥しい数の土坑が激しく重複しながら密集する(第687・688図)。この密集域の土坑の多くは、北北東－南南西～北東－南西主軸、あるいはそれに直交する主軸をもつ長楕円形や縦長の隅丸長方形の土坑であり、通常近世以降の植物貯蔵用の施設と目される土坑に類似している。この種の土坑の覆土は、総じて「暗灰褐色土」と記載した近世以降の土からなり、遺物がほとんど見られないという共通点が見られる。

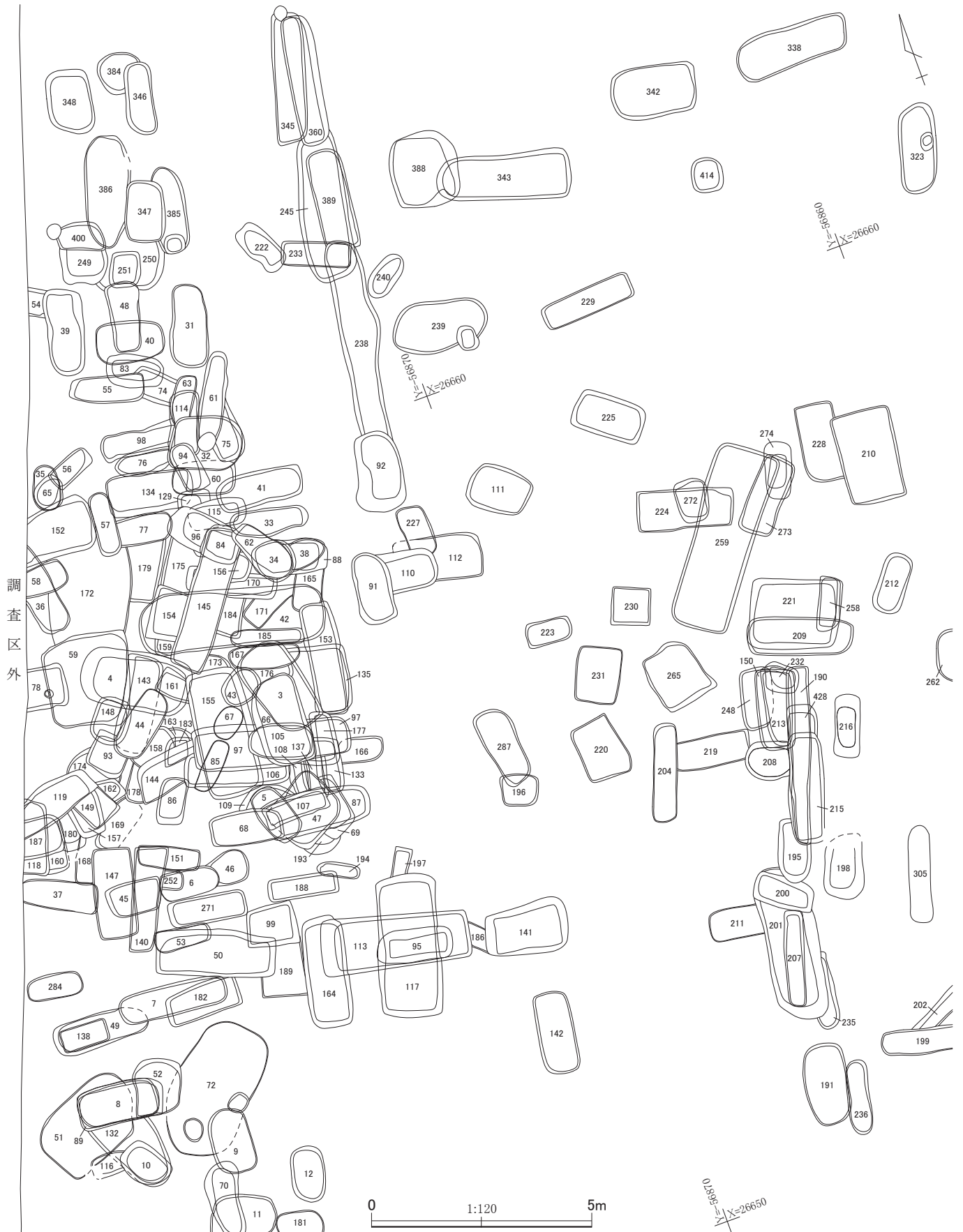
重複関係から見ると、微妙なものが多少含まれるものの、大多数の土坑は、住居跡より新しい遺構である。土坑全体の出土遺物を通観するならば、まず、土師器小片以外のいかなる遺物も出土していない土坑が大半である。土師器がまとまって出土した第237・305号土坑などに関しては、住居跡の付帯施設であった可能性を残すようである。出土遺物から見て、中世の遺構と考えられる土坑としては、第13・21・49・61・73・167・203・250号土坑などがあげられる。第73号土坑は、縦の長さが12mを超える長大な遺構であり、ある種の溝と見ることもできるのかもしれない。

人骨が出土した土坑としては、第203・321・322・350・381・394・404・427号土坑があげられる。第404号土坑では、人骨とともに棒状土製品が1点出土している。南西隅近くの第203号土坑を除けば、それらの土坑は、調査地点の北縁寄りの中央に集中すること、平面形がやや不整な隅丸長方形や楕円形で、大きさも類似していることなどが指摘できる。また、第381・427号土坑のように火葬骨と思われる被熱した骨が出土した土坑が見られ、第322号土坑のように、いわゆる火葬墓に類似した形態で、炭化物や焼土とともに人骨が出土した土坑が見られることにも注意したい。なお、土坑出土の人骨の一部に関しては、自然科学的方法による分析を参照されたい(本書第2分冊:第VI章第2節)。

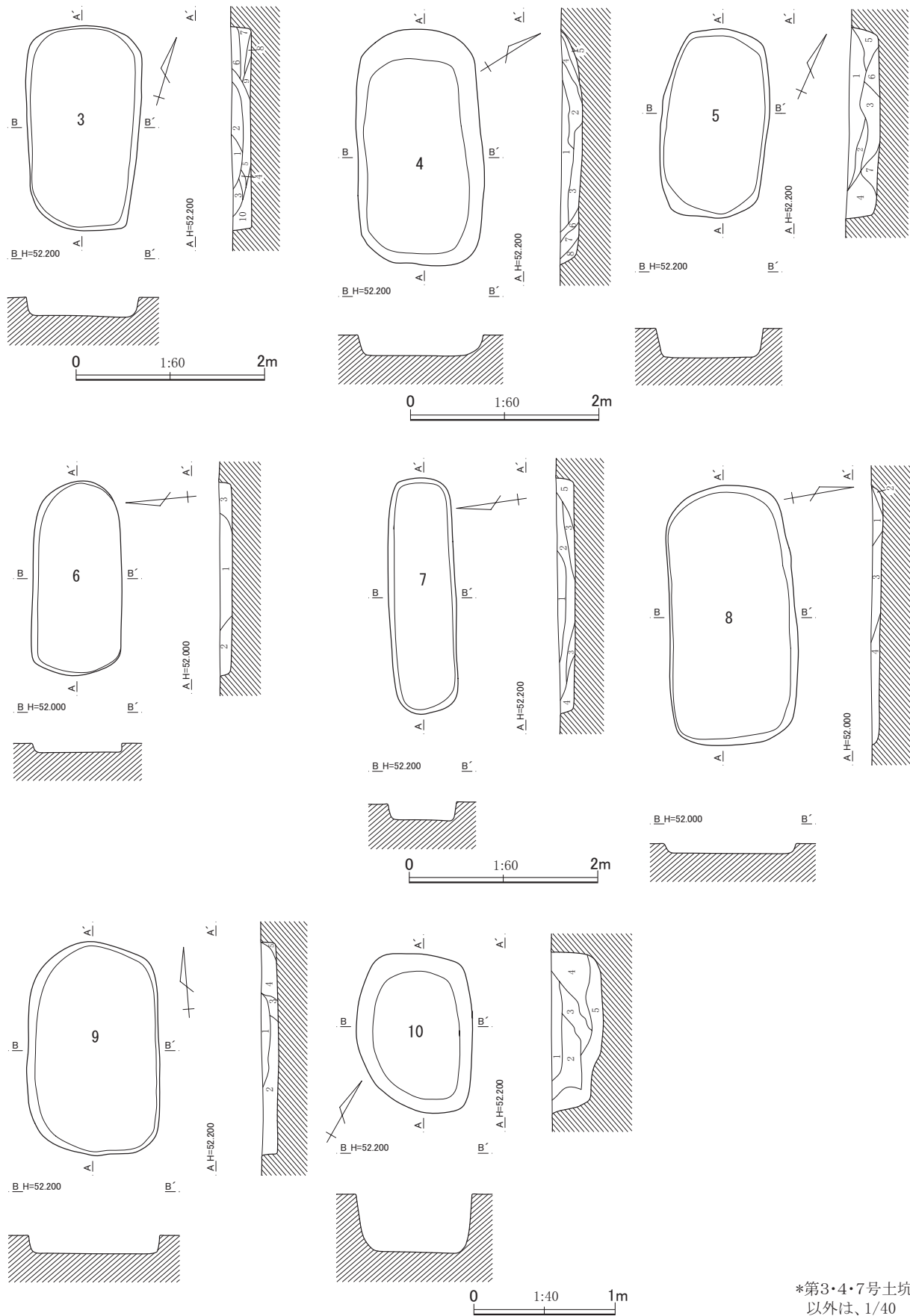


第687図 薬師堂東遺跡C地点土坑・溝跡分布図





第688図 薬師堂東遺跡C地点土坑分布拡大図



第689図 第3～10号土坑平面・断面図（1）

*第3・4・7号土坑
以外は、1/40

C地点

第3号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）・ローム小塊（～10mm）を微量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を中量含む、ローム小塊（～20mm）を少量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含む、ローム粒（～5mm）を微量含む。

第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）・ローム小塊（～15mm）を少量含む。

第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を中量含む。

第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を中量含む。

第7層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を中量含む、ローム小塊（～10mm）を微量含む。

第8層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含む、ローム小塊（～10mm）を微量含む。

第9層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含む。

第10層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を少量含む、ローム小塊（～10mm）を微量含む。

第4号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）・ローム小塊（～10mm）を少量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を中量含む、ローム小塊（～80mm）を少量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含む、ローム小塊（～10mm）を微量含む。

第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を中量含む。

第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含む、ローム小塊（～40mm）を微量含む。

第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含む、ローム小塊（～10mm）を微量含む。

第7層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を多量に含む。

第8層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を少量含む。

第5号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を多量に含む、ローム粒（～8mm）を中量、焼土粒（～2mm）を微量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を中量含む、焼土粒（～2mm）を微量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含む、ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～2mm）を微量含む。

第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を多量に含む、ローム小塊（～40mm）を少量含む。

第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～6mm）を少量含む。

第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を多量に含む、ローム小塊（～15mm）を微量含む。

第7層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を微量含む。

第6号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を少量含む、ローム小塊（～40mm）を微量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）・炭化物粒（～1mm）を少量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含む。

第7号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）・炭化物粒（～1mm）を少量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を中量含む、炭化物粒（～1mm）を少量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.1mm）を少量含む、炭化物粒（～1mm）を微量含む。

第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を中量含む、炭化物粒（～1mm）を少量含む。

第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を中量含む、炭化物粒（～1mm）を少量含む。

第8号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を中量含む、焼土粒（～1mm）を微量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を中量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を少量含む、焼土粒（～1mm）を微量含む。

第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含む、炭化物粒（～1mm）を微量含む。

第9号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含む、ローム小塊（～10mm）を中量、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む、焼土粒（～3mm）を微量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。

第4層：暗灰褐色土。ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。

第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第10号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～20mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。

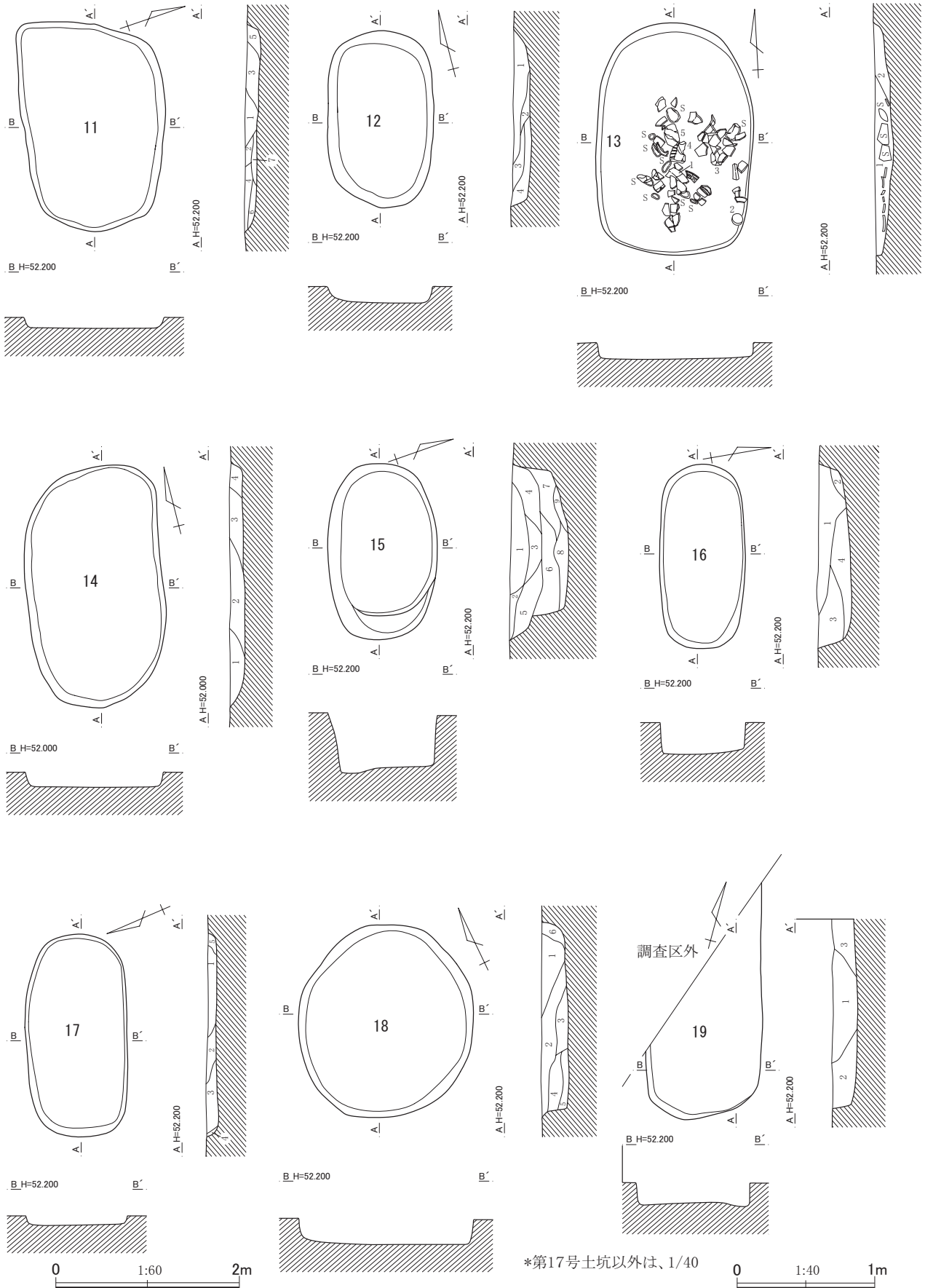
第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を微量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を微量含む。

第4層：暗灰褐色土。ローム小塊（～10mm）を微量含む。

第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を微量含む。

第690図 第3～10号土坑平面・断面図（2）



第691図 第11~19号土坑平面・断面図(1)

C地点

第11号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～1mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）・焼土粒（～1mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を少量含み、焼土粒（～1mm）を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を少量含み、炭化物粒（～1mm）・焼土粒（～1mm）を微量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～1mm）を微量含む。
- 第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）・焼土粒（～1mm）を微量含む。
- 第7層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）・焼土粒（～1mm）を微量含む。

第12号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を少量含み、焼土粒（～1mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含み、炭化物粒（～1mm）・焼土粒（～1mm）を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～6mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～2mm）を微量含む。

第13号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を少量含み、焼土粒（～1mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含み、焼土粒（～2mm）を少量含む。

第14号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）・炭化物粒（～1mm）・焼土粒（～1mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）を少量、炭化物粒（～1mm）・焼土粒（～1mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）・ローム小塊（～10mm）を少量含み、炭化物粒（～1mm）・焼土粒（～1mm）を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。炭化物粒（～1mm）・焼土粒（～1mm）を微量含む。

第15号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を中量含み、炭化物粒（～2mm）を微量、焼土粒（～2mm）を少量含む。

- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・炭化物粒（～5mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム小塊（～10mm）・炭化物粒（～5mm）を微量含む。
- 第6層：暗灰褐色土。ローム小塊（～20mm）を少量含む。
- 第7層：暗灰褐色土。ローム小塊（～30mm）を少量含み、炭化物粒（～5mm）を微量含む。
- 第8層：明黄褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム小塊（～30mm）を多量に含む。
- 第9層：暗灰褐色土。ローム小塊（～20mm）を少量含む。

第16号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を中量含み、ローム小塊（～40mm）・焼土粒（～1mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含み、焼土粒（～1mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を少量含み、ローム小塊（～15mm）・焼土粒（～2mm）を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を少量含み、焼土粒（～1mm）を微量含む。

第17号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、焼土粒（～5mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を多量に含み、焼土粒（～5mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム小塊（～20mm）を微量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を微量含む。

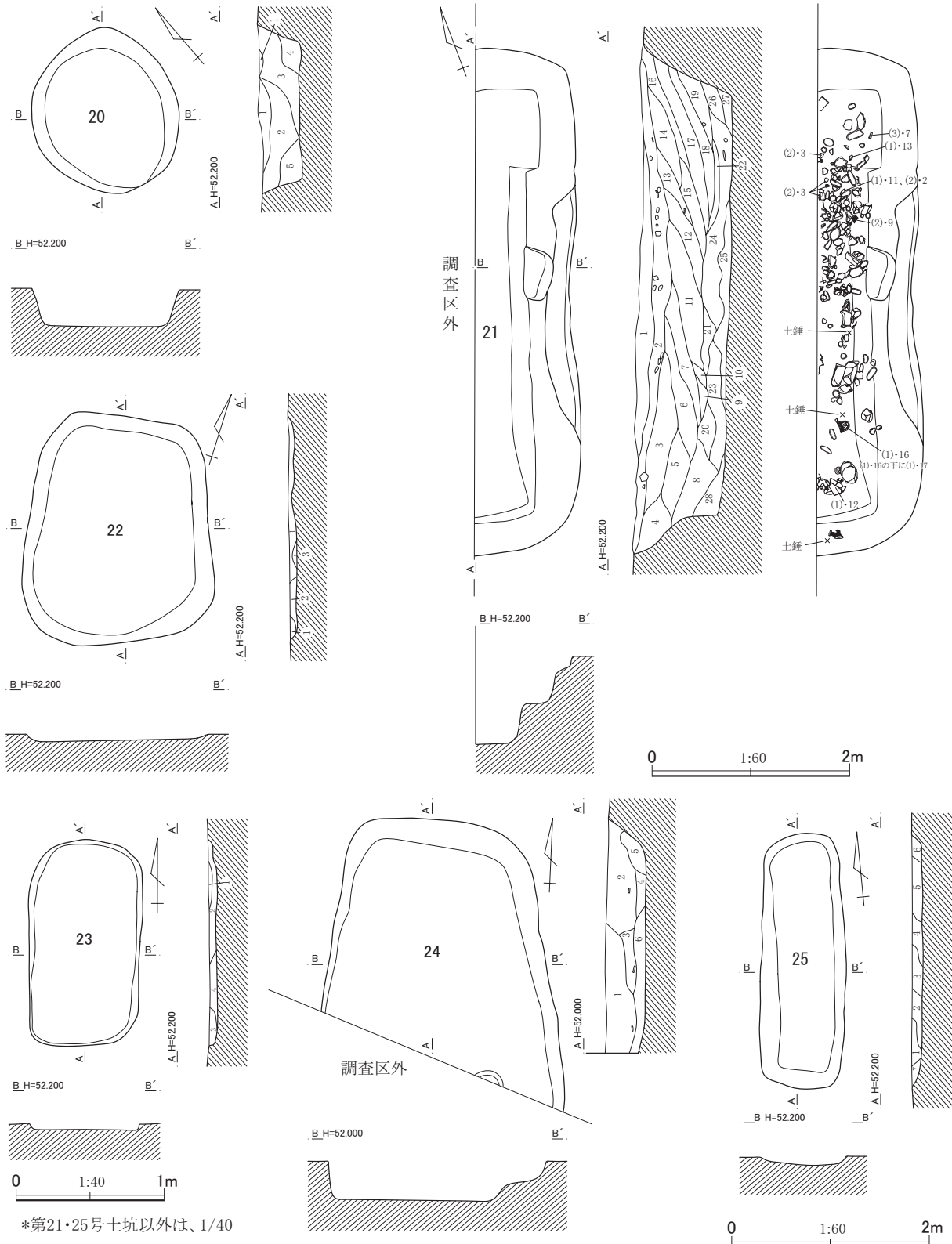
第18号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、焼土粒（～5mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を少量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を微量含む。
- 第6層：暗灰褐色土。ローム小塊（～20mm）を少量含む。

第19号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。

第692図 第11～19号土坑平面・断面図（2）



第20号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む、焼土粒（～5mm）・灰白色粘土小塊（～20mm）を微量含む。

- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む、ローム小塊（～20mm）・炭化物粒（～5mm）を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム小塊（～2cm）を少量含む。

第693図 第20～25号土坑平面・断面図（1）

C地点

第21号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）・焼土粒（～2mm）を少量含み、ローム小塊（～15mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を中量含み、ローム粒（～8mm）・炭化物粒（～2mm）・焼土粒（～2mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を中量含み、ローム粒（～8mm）を少量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含み、ローム小塊（～50mm）を微量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～6mm）・焼土粒（～2mm）を少量含み、ローム小塊（～20mm）を微量含む。
- 第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）・焼土粒（～2mm）を少量、粘土粒（～2mm）を微量含む。
- 第7層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～1mm）を微量含む。
- 第8層：暗灰褐色土。ローム小塊（～10mm）を少量含み、ローム小塊（～40mm）・焼土粒（～2mm）を微量含む。
- 第9層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を少量含む。
- 第10層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を微量含む。
- 第11層：暗灰褐色土。ローム粒（～6mm）を中量含み、ローム小塊（～15mm）・焼土粒（～2mm）を少量含む。
- 第12層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を少量含む。
- 第13層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を少量含み、炭化物粒（～2mm）を微量含む。
- 第14層：暗灰褐色土。ローム小塊（～10mm）を中量含み、ローム小塊（～40mm）・焼土粒（～2mm）を微量含む。
- 第15層：暗灰褐色土。ローム粒（～6mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～2mm）を微量含む。
- 第16層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）・焼土粒（～2mm）を微量含む。
- 第17層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を中量含み、ローム小塊（～15mm）を少量、焼土粒（～2mm）を微量含む。
- 第18層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を中量含み、焼土粒（～2mm）を少量含む。
- 第19層：暗灰褐色土。ローム粒（～6mm）を中量含み、ローム小塊（～40mm）を少量含む。
- 第20層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）・ローム小塊（～15mm）を中量含む。
- 第21層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を微量含む。
- 第22層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を微量含む。
- 第23層：明褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム小塊（～10mm）を多量に含み、ローム小塊（～30mm）を中量含む。
- 第24層：明褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム小塊（～10mm）を多量に含み、ローム小塊（～60mm）を中量含む。
- 第25層：明褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒（～2mm）を多量に含む。
- 第26層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を中量含み、焼土粒（～2mm）を少量含む。

第27層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）・ローム粒（～8mm）を少量含む。

第28層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。

第22号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含み、ローム小塊（～30mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を微量含み、焼土粒（～5mm）を少量含む。

第23号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒（～4mm）を少量含み、焼土粒（～2mm）を中量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒（～1mm）・ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒（～4mm）・焼土粒（～8mm）を中量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒（～4mm）・焼土粒（～2mm）を少量含む。

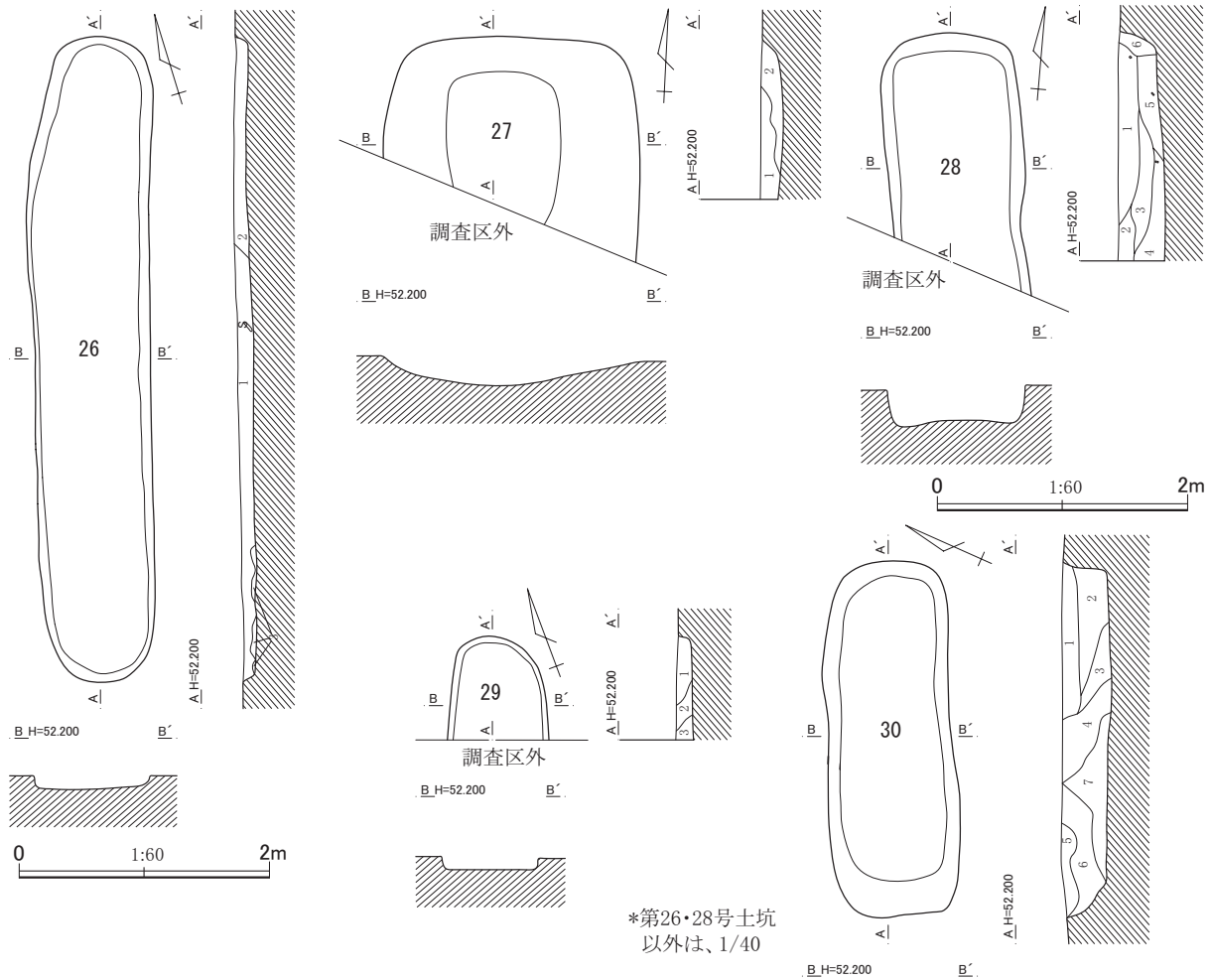
第24号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、粘土粒（～5mm）・炭化物粒（～5mm）・焼土粒（～5mm）を微量、小礫（～10mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・焼土粒（～5mm）を少量含み、炭化物粒（～5mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・炭化物粒（～5mm）を少量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を微量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を微量含み、焼土粒（～5mm）を少量含む。
- 第6層：暗灰褐色土。小礫（～5mm）を少量含む。

第25号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、炭化物粒（～5mm）を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、ローム小塊（～2mm）を微量含む。
- 第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含み、ローム小塊（～50mm）を微量含む。
- 第7層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含む。

第694図 第20～25号土坑平面・断面図（2）



第26号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。

第27号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を微量含み、焼土粒（～3mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）・焼土粒（～3mm）を少量含む。

第28号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を微量、焼土粒（～5mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、焼土小塊（～10mm）を微量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。

*第26・28号土坑
以外は、1/40

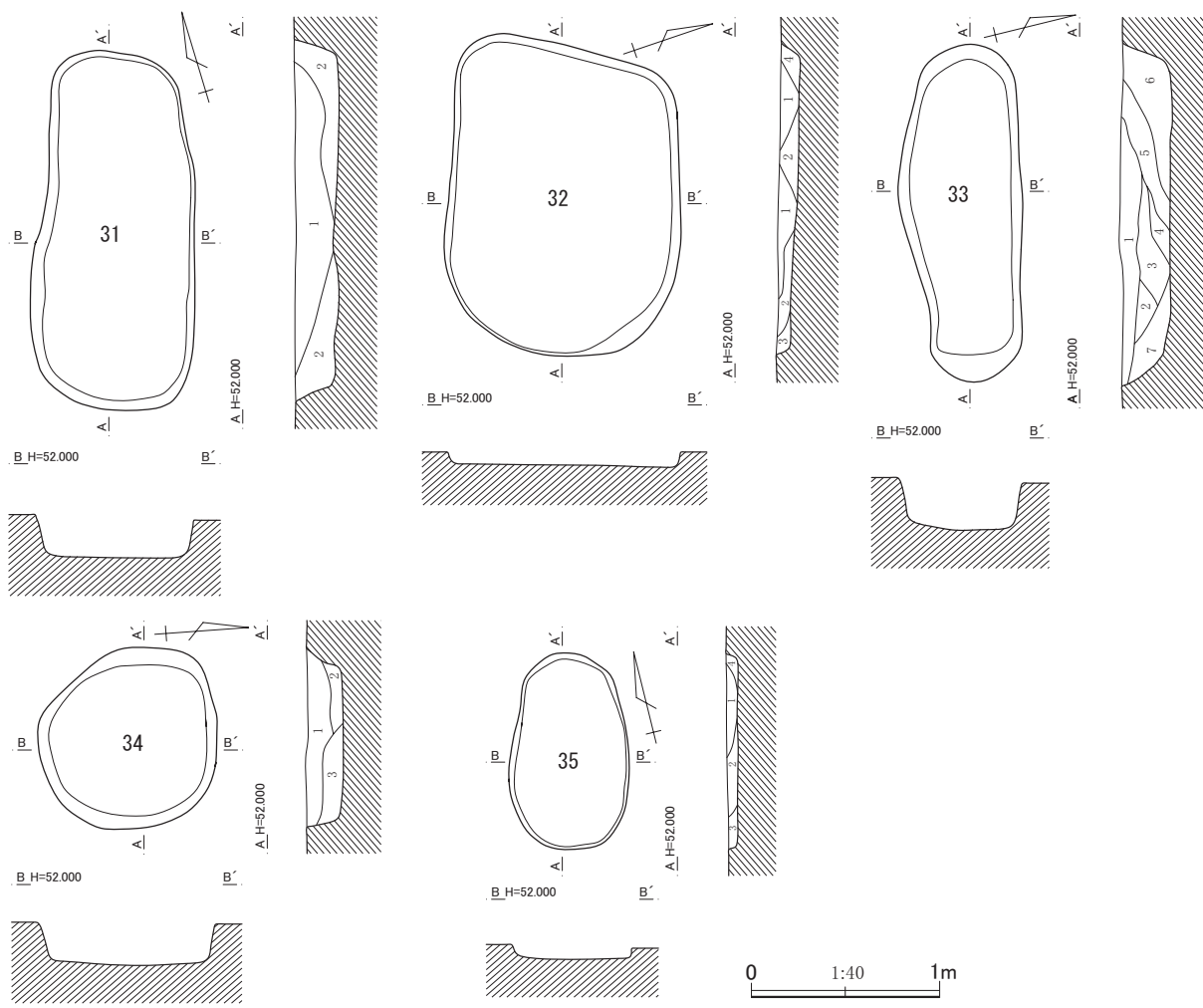
第29号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を多量に含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を微量含む。

第30号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含み、ローム小塊（～20mm）・焼土粒（～3mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～3mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を微量、焼土粒（～3mm）を少量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～3mm）を微量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を多量に含み、焼土粒（～3mm）を少量含む。
- 第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～3mm）を少量含む。
- 第7層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）・焼土粒（～3mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）を中量含む。

第695図 第26～30号土坑平面・断面図



第31号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含み、ローム小塊（～10mm）を少量、焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含み、ローム小塊（～20mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。

第32号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム小塊（～30mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム小塊（～10mm）を多量に含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第33号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を少量含み、ローム小塊（～30mm）・焼土粒（～1mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を少量含み、ローム小塊（～20mm）を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を少量含み、ローム小塊（～20mm）を微量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を少量、炭化物粒（～1mm）を微量含む。

- 第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第7層：明褐色土。ローム土を主とし、暗灰褐色土粒（～0.1mm）を少量含む。

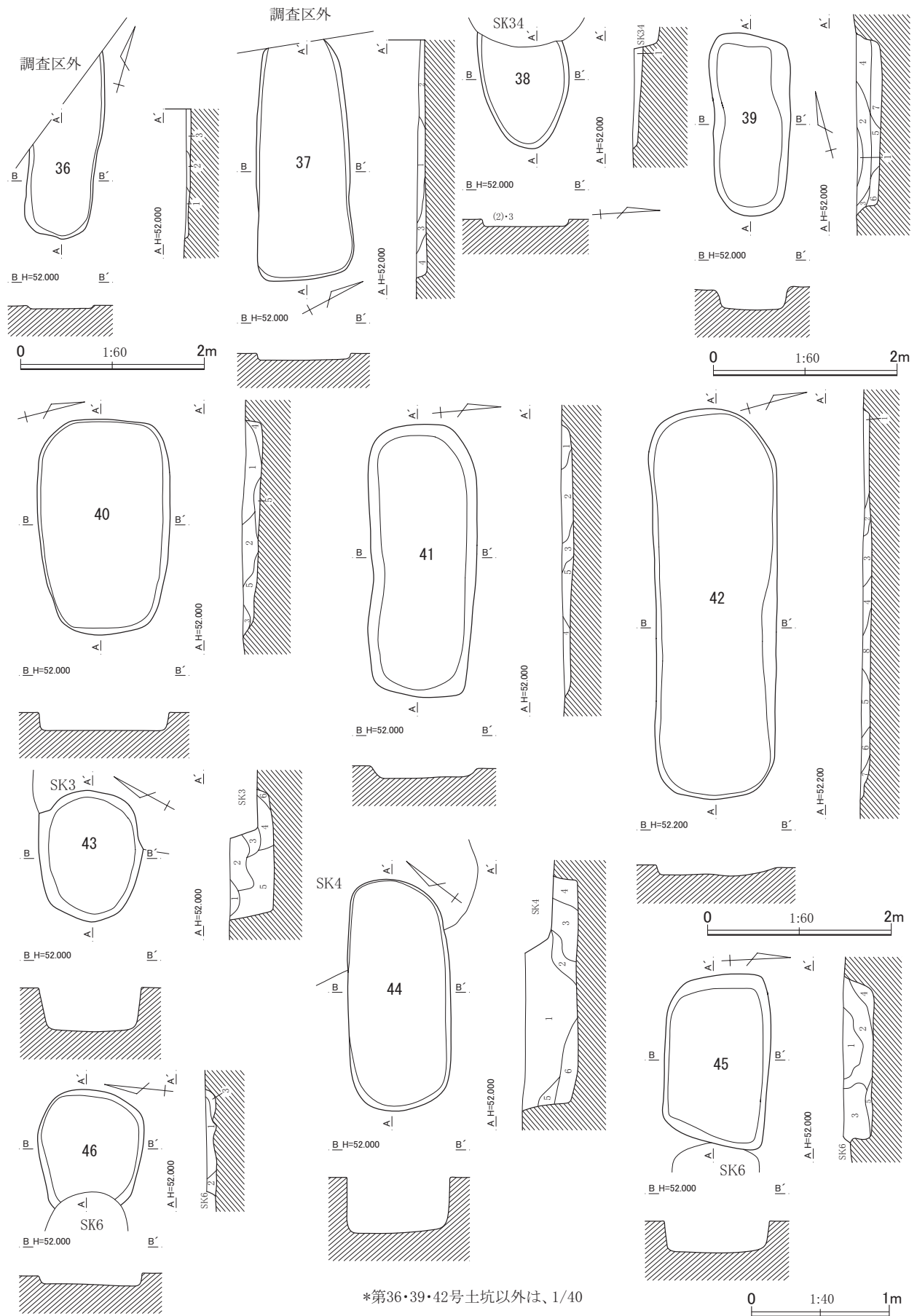
第34号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を多量に含み、ローム小塊（～10mm）を中量、ローム小塊（～40mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）・ローム小塊（～20mm）を中量含み、ローム小塊（～80mm）を少量含む。

第35号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を微量含む。

第696図 第31～35号土坑平面・断面図



第697図 第36～46号土坑平面・断面図（1）

C地点

第36号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を微量含む。

第37号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。

第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を多量に含む。

第38号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を少量含み、焼土粒（～1mm）を微量含む。

第39号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム小塊（～10mm）を少量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。

第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。

第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含む。

第6層：暗灰褐色土。ローム小塊（～10mm）を少量含む。

第7層：暗灰褐色土。ローム小塊（～30mm）を少量含む。

第40号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を微量含む。

第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を微量含む。

第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を微量含む。

第41号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を微量含む。

第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。

第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第42号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含む。

第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。

第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含む。

第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・炭化物粒（～5mm）を微量含み、ローム小塊（～10mm）を少量含む。

第7層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第8層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第43号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を多量に含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。

第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。

第5層：暗灰褐色土。ローム小塊（～20mm）を中量含む。

第6層：暗灰褐色土。ローム小塊（～20mm）を微量含む。

第44号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含み、焼土粒（～5mm）を微量、礫（～20mm）を少量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。

第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を微量含む。

第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。

第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。

第45号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含み、ローム小塊（～20mm）を中量、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含み、ローム小塊（～20mm）を少量含む。

第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含み、ローム小塊（～20mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。

第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。

第46号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、灰白色粘土小塊（～50mm）を少量含む。

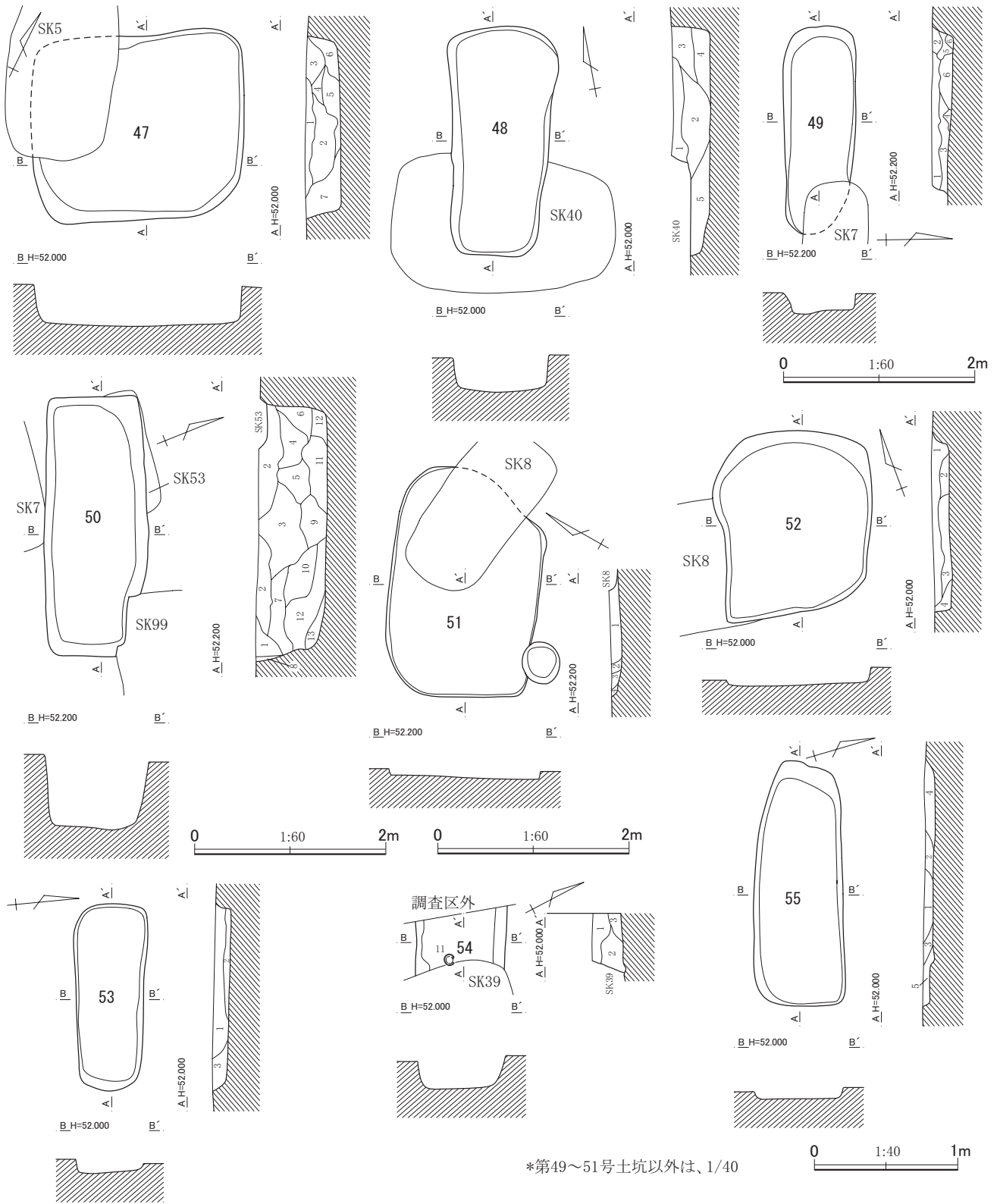
第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・灰白色粘土小塊（～10mm）を微量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含む。

第698図 第36～46号土坑平面・断面図（2）

第313表 C地点・土坑計測および観察表(1)

番号	グリッド	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	出土遺物	備考
3	N10	隅丸長方形	218×120	20	土師器片、須恵器片(羽釜片含む)、軟質陶器片。	SK43・66・97・135・153・167・185を切る。
4	N10	隅丸長方形	250×133	22	土師器片、軟質陶器片、カワラケ片。	SK44・59・143・145・148・155・161を切る。
5	N10	隅丸長方形	133×77	22	土師器片。	SK47・68・87・107・109を切る。
6	N10	隅丸長方形	140×62	9	土師器片、軟質陶器片。	SK45・46・140・151・252を切る。
7	M11、N11	長楕円形	252×73	18	土師器片、軟質陶器片。	SK49・50・182を切る。
8	M11	隅丸長方形	184×89	7	土師器片、須恵器片。	SK51・52・89を切る。
9	M11、N11	隅丸長方形	154×93	12	土師器片。	SK70・72を切る。
10	M11	不整長方形	110×82	37	土師器片。	SK116・132を切る。
11	M11、N11	不整長方形	152×103	9	土師器片。	SK70を切る。
12	N11	楕円形	129×77	13	土師器片。	
13	M11	楕円形	169×113	13	内耳鍋1点、石鉢1点、石臼1点、砥石1点。土師器片、須恵器片、カワラケ片、土錘片。獣骨。	SK73を切る。中世。
14	M11	楕円形	175×100	9	土師器片。	
15	M11・12	楕円形	129×80	42	坏1点、土錘1点。土師器片、須恵器片。	
16	M12	楕円形	62×25	62	土師器片。	SK64・79を切る。
17	M12	楕円形	221×108	10	土師器片。	SK82を切る。
18	M12	円形	140	19	坏1点、土錘1点。土師器片、鉄製刀子小片。	SK81を切る。
19	M12	楕円形	(172)×85	18	青磁碗1点。土師器片。	中世。
20	M12	円形	111	28	土師器片。	
21	M11・12	隅丸長方形	515×(97)	92	内耳鍋7点、播鉢1点、カワラケ2点、坏1点、手捏ね土器1点、砥石2点。土師器片、須恵器片、土錘片。骨片。	中世。
22	M12・13	隅丸方形	155×123	5	須恵器坏1点。土師器片。	平安時代。
23	M13	隅丸長方形	139×75	5	土師器片、軟質陶器片、青磁小片。	
24	M13	隅丸長方形?	(200)×160	27	坏1点。土師器片。	
25	M13	隅丸長方形	260×87	12	土師器片、須恵器片。	SK100を切る。
26	M12・13	長楕円形	516×92	12	土師器片、須恵器片。	SK101・124・130・146・237を切る。
27	M13	隅丸方形	(120)×137	12	土師器片、須恵器片。	
28	N13	楕円形	(214)×110	37	土師器片、土錘小片。	
29	N13	楕円形	(55)×53	9	土師器片。	
30	N13	長楕円形	190×65	25	土師器片。	
31	N9	楕円形	190×81	23	土師器片、埴輪片。	
32	N9	隅丸方形	165×123	10	土師器片。	SK60・61・63・75・76・94・98・114を切る。
33	N10	長楕円形	180×65	27	土師器片、被熱礫。	SK62・84・115を切る。
34	N10	不整円形	(97)	19	土師器片、軟質陶器片。	SK38・62・88を切る。
35	N9	楕円形	105×63	6	土師器片。	SK56・65を切る。
36	M10、N10	長楕円形	(207)×75	5		SK58・152・172を切る。
37	M10	隅丸長方形	(173)×68	7	土師器片。	SK147・168を切る。
38	N10	楕円形	(73)×64	6		SK88を切り、SK34に切られる。
39	N9	楕円形	197×82	28	土師器片、須恵器片。土錘小片1点。	SK54を切る。
40	N9	隅丸長方形	157×96	13	土師器片。	SK48・83を切る。
41	N10	隅丸長方形	199×76	9	土師器小片。	SK60・115を切る。
42	N10	長楕円形	426×132	10	土師器片、須恵器片。軟質陶器片。	SK145・153・154・159・165・170・171・175・184・185を切る。
43	N10	楕円形	96×75	32	土師器片、須恵器片。	SK66・155・176を切り、SK 3に切られる。



第47号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。

- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。
- 第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、ローム小塊（～20mm）を微量含む。
- 第7層：暗灰褐色土。ローム小塊（～10mm）を多量に含む。

第699図 第47～55号土坑平面・断面図（1）

第48号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム小塊（～30mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を多量に含み、ローム小塊（～20mm）を微量含む。

第49号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含み、焼土粒（～5mm）を少量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム小塊（～30mm）を少量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。
- 第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・焼土粒（～5mm）・炭化物粒（～5mm）を多量に含む。

第50号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を少量含み、焼土粒（～2mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～20mm）を多量に含み、炭化物粒（～5mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～30mm）を多量に含み、炭化物粒（～5mm）を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～30mm）を多量に含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～50mm）を中量含む。
- 第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、ローム小塊（～50mm）を中量含む。
- 第7層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含み、ローム小塊（～30mm）を少量含む。
- 第8層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を微量含む。
- 第9層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、ローム小塊（～50mm）を中量含む。
- 第10層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～30mm）を中量含む。
- 第11層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～60mm）を多量に含む。
- 第12層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～50mm）を中量含む。

- 第13層：暗灰褐色土。ローム粒（～1.5mm）を中量含み、ローム小塊（～30mm）を少量含む。

第51号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含み、ローム小塊（～10mm）を少量、炭化物粒（～5mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を微量含む。

第52号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含み、焼土小塊（～20mm）を中量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。
- 第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。
- 第7層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第8層：明黄褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含み、焼土粒（～5mm）を中量含む。

第53号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・礫（～40mm）を少量含み、炭化物粒（～5mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を少量含む。

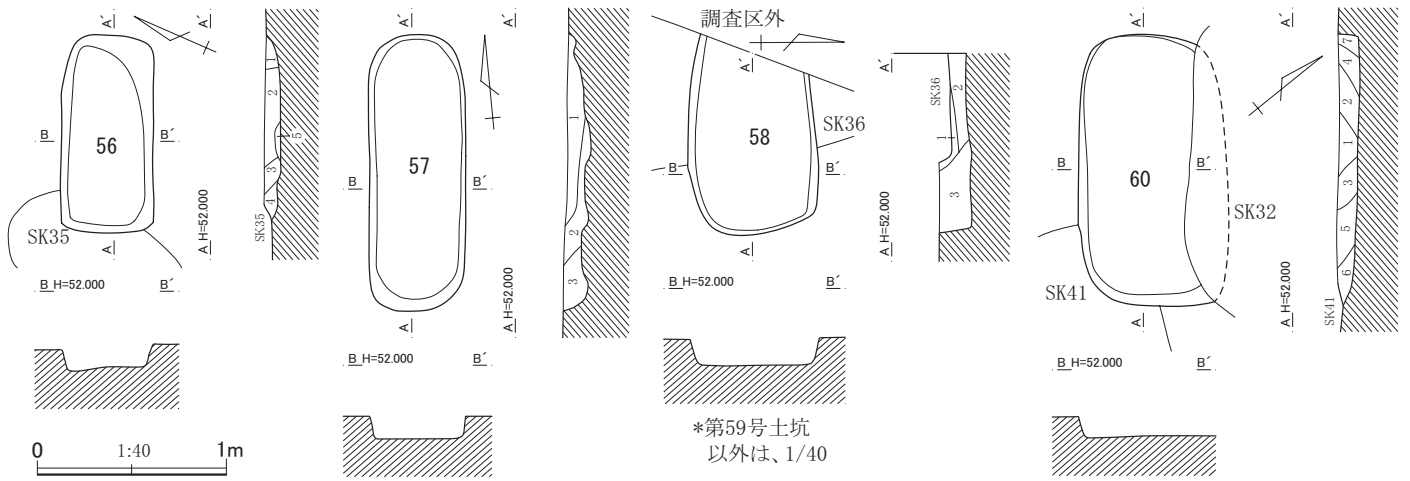
第54号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）・炭化物粒（～1mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を中量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を微量含む。

第55号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.1mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.1mm）を少量含み、焼土粒（～2mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）・焼土粒（～2mm）を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）・焼土粒（～8mm）を少量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を少量含み、焼土粒（～8mm）を微量含む。

第700図 第47～55号土坑平面・断面図（2）



第56号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）を多量に含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を少量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を中量含む。

第57号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を少量含み、ローム小塊（～50mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～6mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を少量含み、焼土粒（～2mm）を微量含む。

第58号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を少量含み、焼土粒（～2mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）・ローム粒（～6mm）を少量含み、焼土粒（～2mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を中量含み、ローム小塊（～12mm）を少量含む。

第59号土坑土層説明

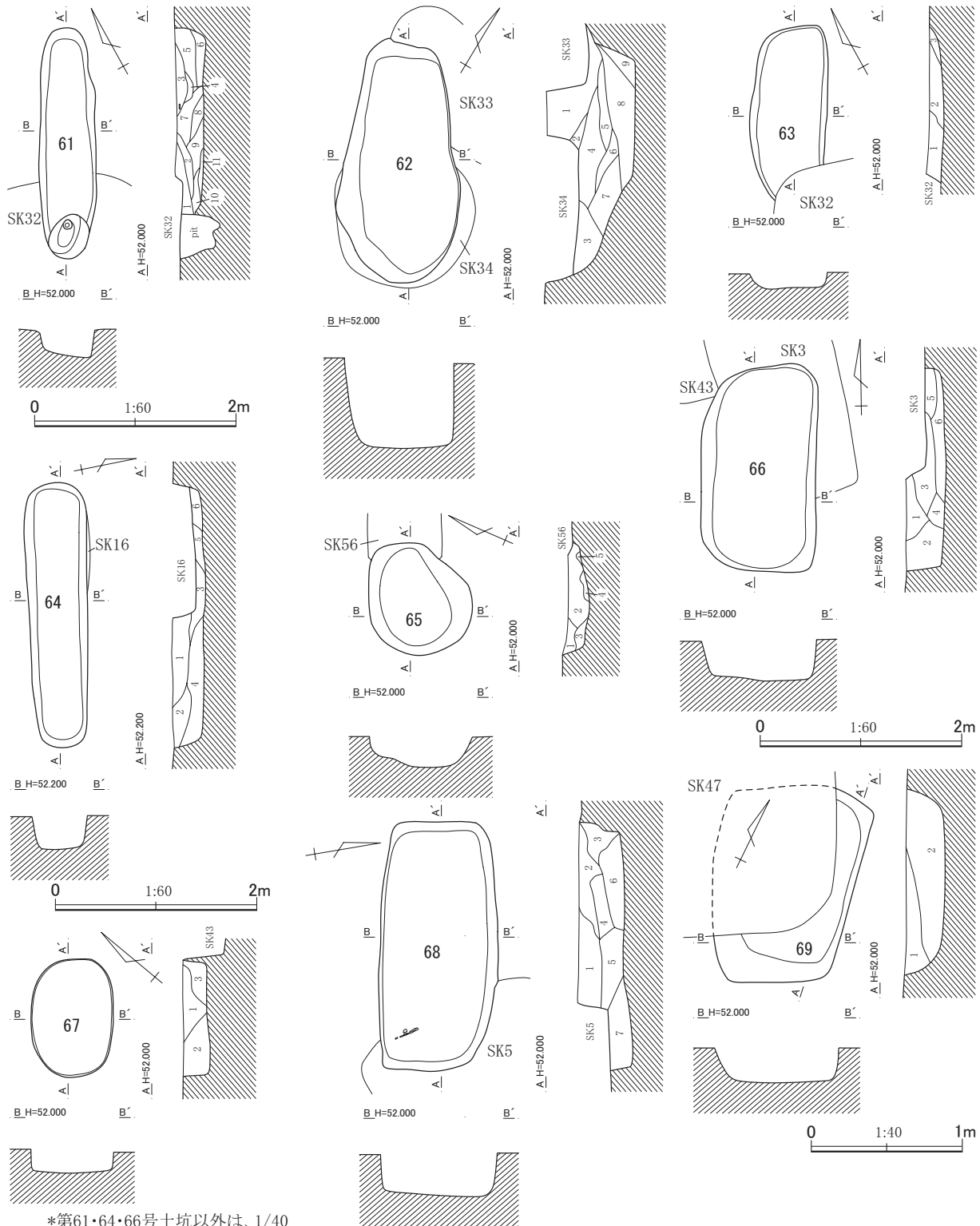
- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）・ローム小塊（～50mm）を多量に含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含み、ローム小塊（～10mm）を中量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～50mm）を少量含む。
- 第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、ローム小塊（～50mm）を中量含む。

- 第7層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～50mm）を多量に含む。
- 第8層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含む。
- 第9層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～50mm）を微量含む。
- 第10層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～50mm）を少量含む。

第60号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）・ローム小塊（～20mm）を少量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含む。
- 第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.1mm）を少量含み、ローム小塊（～15mm）を微量含む。
- 第7層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）を少量含む。

第701図 第56～60号土坑平面・断面図



第61号土坑土層説明 (1)

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を少量含み、ローム小塊（～15mm）・炭化物粒（～1mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）・炭化物粒（～1mm）を微量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を少量含み、焼土粒（～1mm）を微量含む。

第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を微量含む。

第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）を微量含む。

第702図 第61～69号土坑平面・断面図 (1)

C地点

第61号土坑土層説明(2)

- 第6層：暗灰褐色土。ローム粒(～1mm)を微量含み、焼土粒(～2mm)を少量含む。
- 第7層：暗灰褐色土。ローム粒(～6mm)を多量に含む。
- 第8層：暗灰褐色土。ローム粒(～2mm)を微量含む。
- 第9層：暗灰褐色土。ローム粒(～4mm)を中量含み、ローム小塊(～30mm)を少量含み、炭化物粒(～2mm)を微量含む。
- 第10層：暗灰褐色土。ローム粒(～4mm)を中量含み、粘土粒(～2mm)を少量含む。
- 第11層：暗灰褐色土。ローム粒(～1mm)を微量含む。

第62号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒(～8mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)を多量に含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒(～2mm)を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒(～8mm)を中量含み、ローム小塊(～15mm)を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒(～6mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)を少量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒(～2mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を少量含む。
- 第6層：暗灰褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含む。
- 第7層：暗灰褐色土。ローム粒(～8mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。
- 第8層：暗灰褐色土。ローム粒(～8mm)・ローム小塊(～40mm)を中量含む。
- 第9層：暗灰褐色土。粘土粒(～6mm)を多量に含み、粘土小塊(～15mm)を少量含む。しまりはやや軟らかく、粘性は普通。

第63号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。粘土粒(～2mm)を中量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒(～1mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含む。

第64号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を中量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒(～3mm)を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)を微量含み、ローム小塊(～30mm)を中量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒(～3mm)を微量含む。
- 第6層：暗灰褐色土。ローム粒(～3mm)を中量含み、ローム小塊(～30mm)を微量含む。

第65号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含み、焼土粒(～1mm)を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒(～4mm)を少量含み、ローム小塊(～12mm)・焼土粒(～2mm)を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒(～6mm)・ローム小塊(～15mm)を多量に含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒(～6mm)を多量に含み、ローム小塊(～15mm)を中量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒(～2mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を少量含む。

第66号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)を多量に含み、ローム小塊(～20mm)を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)を多量に含み、ローム小塊(～30mm)を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒(～3mm)を多量に含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒(～3mm)を中量含み、ローム小塊(～50mm)を微量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。
- 第6層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～30mm)を中量含む。

第67号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒(～3mm)を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒(～3mm)を多量に含み、焼土粒(～5mm)を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒(～3mm)を少量含む。

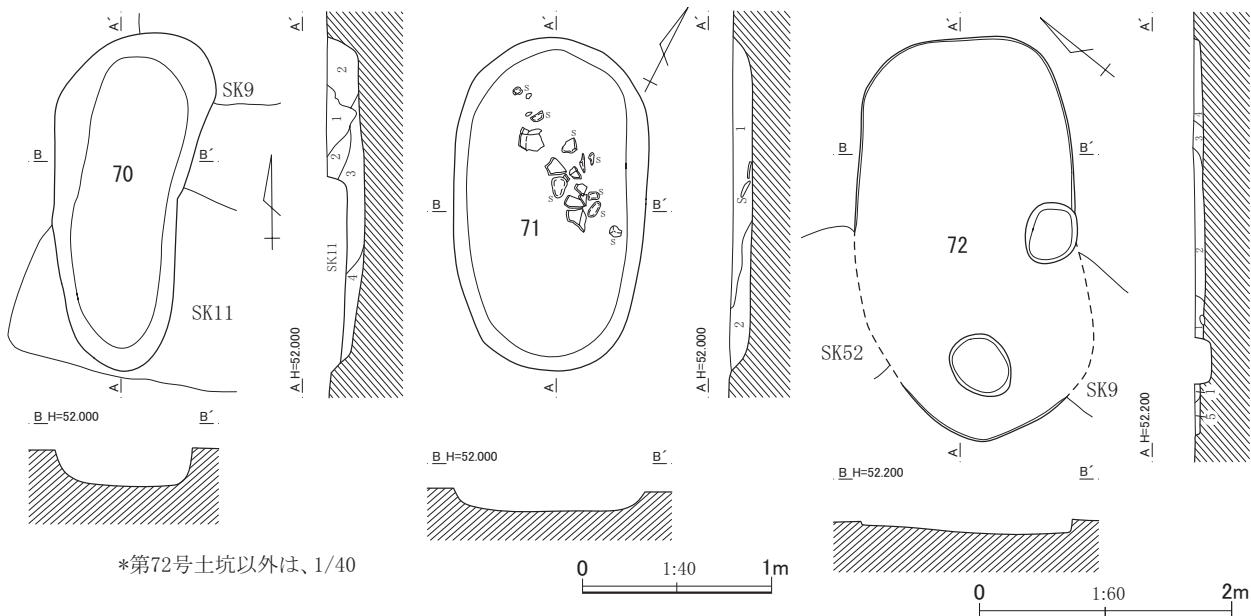
第68号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)を多量に含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒(～3mm)を多量に含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒(～3mm)を少量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を少量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含む。
- 第6層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含む。
- 第7層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含む。

第69号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒(～6mm)を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒(～2mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を少量含む。

第703図 第61～69号土坑平面・断面図(2)



第70号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）・炭化物粒（～3mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を多量に含み、焼土粒（～5mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・焼土粒（～5mm）を少量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）・炭化物粒（～5mm）を微量含む。

第71号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。

第72号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・粘土小塊（～10mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・炭化物小塊（～10mm）を少量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を微量含む。

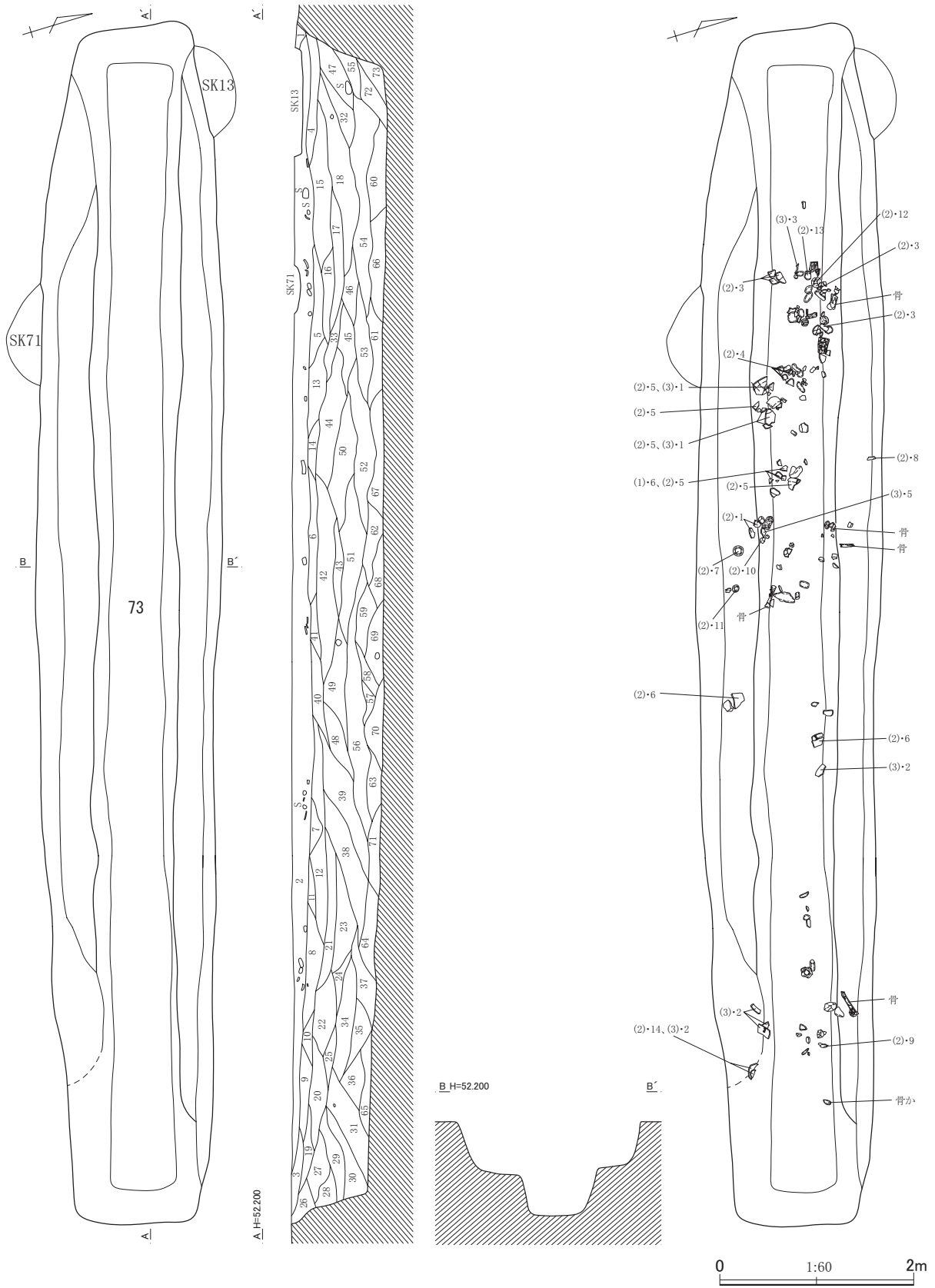
第73号土坑土層説明

- 第1層：明灰褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒（～0.1mm）を多量に含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）・炭化物粒（～2mm）・焼土粒（～4mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を少量含み、ローム小塊（～20mm）・焼土粒（～2mm）を微量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）・焼土粒（～4

mm）を微量含む。

- 第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～1mm）を微量含む。
- 第7層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含み、焼土粒（～2mm）を微量含む。
- 第8層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を微量、焼土粒（～1mm）を少量含む。
- 第9層：暗灰褐色土。ローム粒（～6mm）を中量含み、ローム小塊（～12mm）・炭化物粒（～1mm）を微量含む。
- 第10層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含み、焼土粒（～2mm）を微量含む。
- 第11層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を少量含み、焼土粒（～1mm）を微量含む。
- 第12層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～1mm）を微量含む。
- 第13層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を微量、焼土粒（～4mm）を少量含む。
- 第14層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）・焼土粒（～6mm）を微量含む。
- 第15層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、焼土粒（～2mm）を少量、ローム小塊（～15mm）・焼土粒（～8mm）を微量含む。
- 第16層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を多量に含み、ローム粒（～8mm）・焼土粒（～2mm）を少量含む。
- 第17層：暗灰褐色土。ローム小塊（～15mm）を少量含み、ローム粒（～1mm）・焼土粒（～1mm）・焼土粒（～4mm）を微量含む。
- 第18層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）・ローム小塊（～30mm）・焼土粒（～4mm）を少量含み、焼土小塊（～15mm）を微量含む。

第704図 第70～73号土坑平面・断面図



第705图 第73号土坑平面·断面图(1)

- 第19層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）・焼土粒（～1mm）を微量含む。
- 第20層：暗灰褐色土。ローム粒（～6mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）・焼土粒（～4mm）を少量含む。
- 第21層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を少量含み、焼土粒（～1mm）を微量含む。
- 第22層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）・ローム小塊（～15mm）・焼土粒（～1mm）を少量含む。
- 第23層：暗灰褐色土。ローム粒（～6mm）を中量含み、焼土粒（～1mm）を微量含む。
- 第24層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を微量含む。
- 第25層：明灰褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒（～0.1mm）を中量含み、ローム粒（～1mm）を少量含む。
- 第26層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）・焼土粒（～1mm）を微量含む。
- 第27層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含み、焼土粒（～1mm）を微量含む。
- 第28層：暗灰褐色土。ローム小塊（～20mm）・焼土粒（～2mm）を少量含み、ローム粒（～4mm）を微量含む。
- 第29層：暗灰褐色土。ローム粒（～6mm）を少量含み、ローム小塊（～15mm）・焼土粒（～2mm）を微量含む。
- 第30層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を少量含み、ローム小塊（～20mm）を中量含む。
- 第31層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を少量含み、焼土粒（～1mm）・焼土粒（～6mm）を微量含む。
- 第32層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）・ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～2mm）を微量含む。
- 第33層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）・焼土粒（～1mm）を微量含む。
- 第34層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）・ローム粒（～4mm）を微量含む。
- 第35層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）・ローム粒（～4mm）を微量含む。
- 第36層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含み、ローム粒（～8mm）・焼土粒（～2mm）・焼土粒（～6mm）を微量含む。
- 第37層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）・ローム小塊（～10mm）を中量含み、焼土粒（～4mm）を少量含む。
- 第38層：暗灰褐色土。ローム粒（～6mm）を少量含む。
- 第39層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）を中量含み、ローム粒（～2mm）を少量、焼土粒（～4mm）を微量含む。
- 第40層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を中量含み、焼土粒（～2mm）を微量含む。
- 第41層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を中量含み、ローム小塊（～2.50mm）・焼土粒（～4mm）を少量、焼土粒（～8mm）を微量含む。
- 第42層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）・ローム粒（～8mm）を微量含む。
- 第43層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）・焼土粒（～4mm）を少量含み、ローム小塊（～15mm）を微量含む。
- 第44層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）・ローム粒（～8mm）・焼土粒（～3mm）を微量含む。
- 第45層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）・ローム小塊（～20mm）・焼土粒（～4mm）を微量含む。
- 第46層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を中量含み、焼土粒（～4mm）を微量、焼土粒（～8mm）を少量含む。
- 第47層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）・ローム小塊（～15mm）・焼土粒（～6mm）を微量含む。
- 第48層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）を少量含む。
- 第49層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）・焼土粒（～1mm）を微量含む。
- 第50層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を中量含み、焼土粒（～6mm）を少量含む。
- 第51層：暗灰褐色土。ローム粒（～6mm）を少量含み、ローム小塊（～40mm）・焼土粒（～4mm）を微量含む。
- 第52層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を中量含み、ローム小塊（～30mm）を少量含む。
- 第53層：暗灰褐色土。ローム小塊（～10mm）を中量含み、ローム小塊（～30mm）・焼土粒（～2mm）を少量含む。
- 第54層：明灰褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒（～8mm）を中量含み、ローム小塊（～30mm）・焼土粒（～2mm）を少量含む。
- 第55層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を中量含み、ローム粒（～8mm）・焼土粒（～6mm）を少量含む。
- 第56層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を中量含み、ローム粒（～4mm）を微量含む。
- 第57層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を中量含み、焼土粒（～1mm）を少量含む。
- 第58層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を中量含み、ローム小塊（～40mm）を微量含む。
- 第59層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）・焼土粒（～4mm）を微量含む。
- 第60層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を中量含み、焼土粒（～4mm）を微量含む。
- 第61層：暗灰褐色土。ローム粒（～6mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）を少量含み、焼土粒（～4mm）を微量含む。
- 第62層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を少量含み、焼土粒（～4mm）を微量含む。
- 第63層：暗灰褐色土。ローム小塊（～10mm）を多量に含み、ローム小塊（～30mm）を少量含み、焼土粒（～3mm）を微量含む。
- 第64層：暗灰褐色土。ローム粒（～6mm）を中量含む。
- 第65層：暗灰褐色土。ローム小塊（～10mm）を多量に含み、ローム小塊（～30mm）を中量含み、焼土粒（～4mm）を少量含む。
- 第66層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を中量含み、ローム小塊（～50mm）を微量、焼土粒（～2mm）を少量含む。

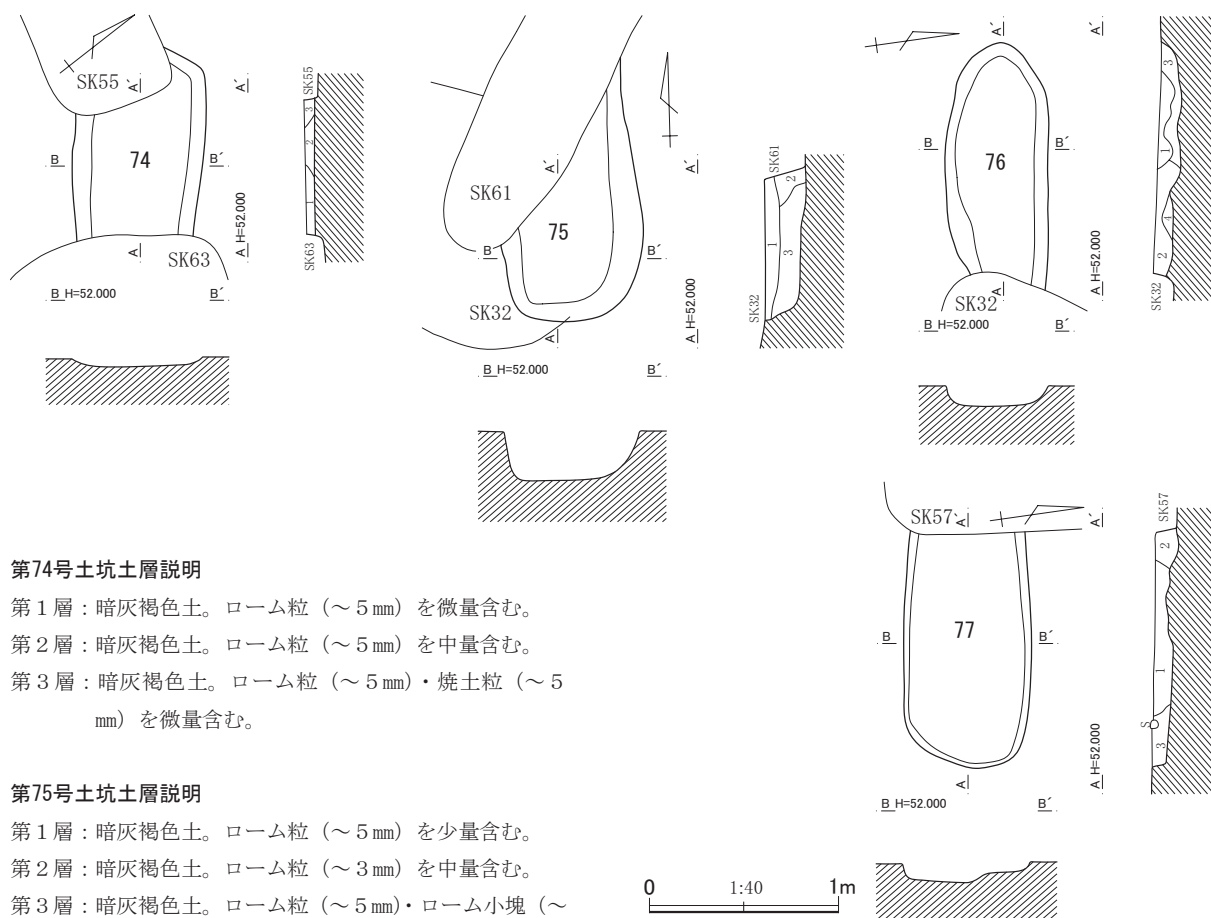
第706図 第73号土坑平面・断面図（2）

C地点

- 第67層：暗灰褐色土。ローム小塊（～15mm）を多量に含む。
- 第68層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を中量含み、ローム小塊（～15mm）を多量に含む。
- 第69層：暗灰褐色土。ローム小塊（～15mm）を多量に含み、ローム小塊（～20mm）を中量含む。
- 第70層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を多量に含み、ローム小塊（～30mm）を中量含み、焼土粒（～6mm）を微量含む。

- 第71層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）を多量に含み、ローム粒（～4mm）を中量含む。
- 第72層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）・ローム小塊（～20mm）を微量含む。
- 第73層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。

第707図 第73号土坑平面・断面図（3）



第74号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。

第75号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～50mm）を少量含む。

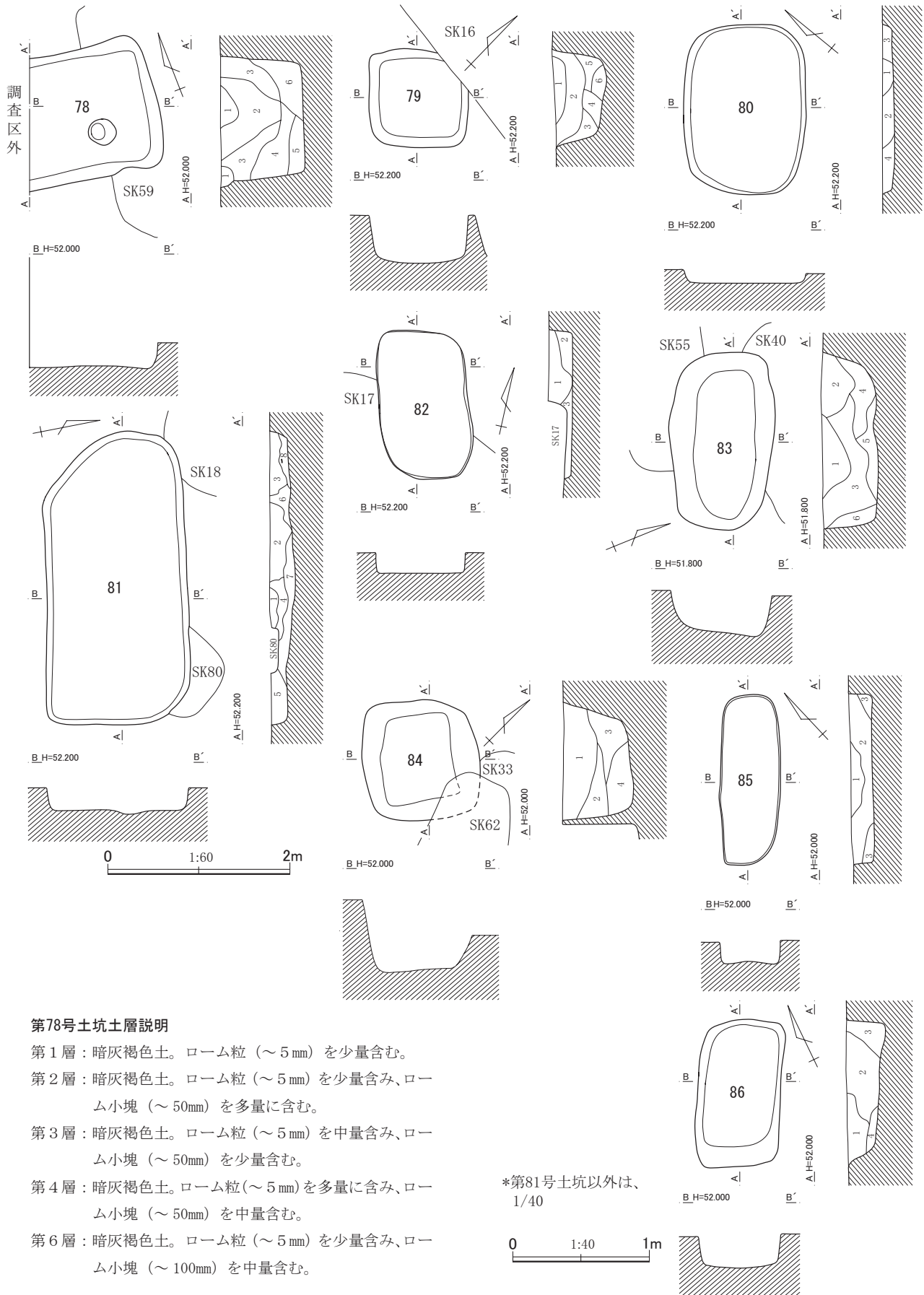
第76号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を微量含み、ローム小塊（～50mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～50mm）を少量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、ローム小塊（～50mm）を多量に含む。

第77号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、焼土粒（～5mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第708図 第74～77号土坑平面・断面図



第709図 第78～86号土坑平面・断面図（1）

C地点

第79号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を中量含み、焼土粒（～5mm）を少量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。

第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第80号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含み、焼土粒（～5mm）を少量含み、炭化物粒（～5mm）を微量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含み、焼土粒（～5mm）を少量含み、炭化物粒（～5mm）を微量含む。

第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第81号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、焼土粒（～5mm）を少量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）を少量含む。

第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・焼土粒（～4mm）を中量含む。

第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を少量、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、ローム小塊（～50mm）を中量含む。

第7層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～30mm）を中量含む。

第8層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を少量含む。

第82号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～30mm）を少量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第83号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～20mm）を少量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）を少量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～30mm）を多量に含む。

第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～50mm）を多量に含む。

第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～50mm）を多量に含む。

第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～50mm）を多量に含む。

第84号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～50mm）を多量に含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）を少量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）を少量含む。

第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～50mm）を中量含む。

第85号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）を少量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を中量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を少量含む。

第86号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を中量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。

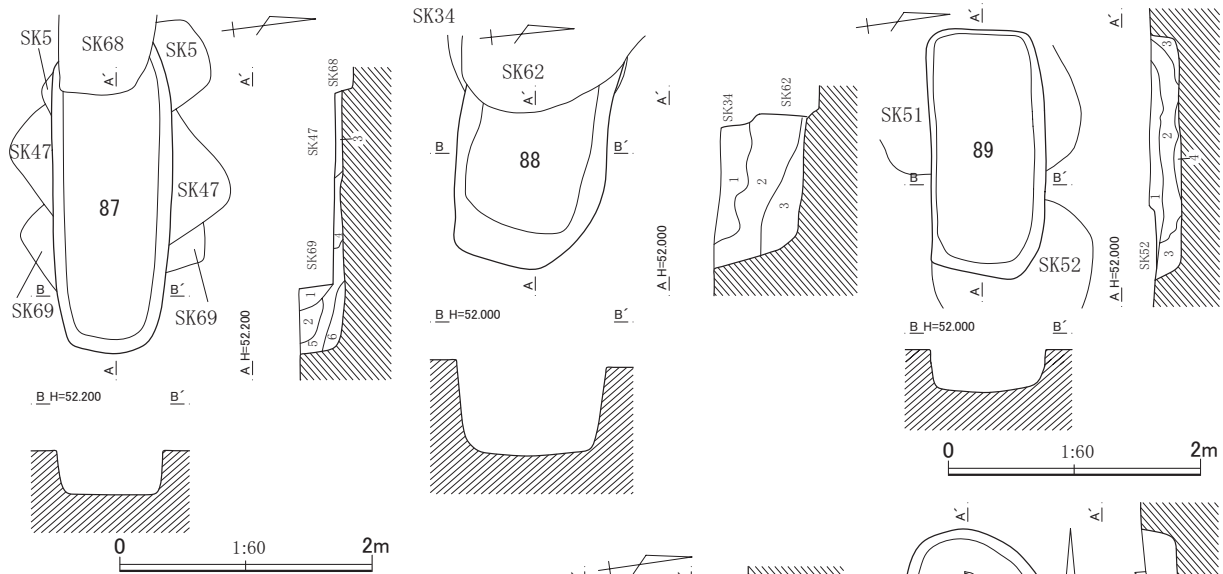
第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を少量含む。

第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。

第710図 第78～86号土坑平面・断面図（2）

第314表 C地点・土坑計測および観察表(2)

番号	グリッド	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	出土遺物	備考
44	N10	楕円形	168×75	37	土師器片、須恵器片。	SK93・143・148・158・161を切り、SK4に切られる。
45	M10、N10	隅丸長方形	123×77	22	土師器片、軟質陶器片。	SK140・147・252を切り、SK6に切られる。
46	N10	不整円形	(77)	7	土師器片。	SK6に切られる。
47	N10	隅丸方形	150×129	25	土師器片、須恵器片(羽釜片含む)。	SK68・69・87・107・108・109・193を切り、SK5に切られる。
48	N9	隅丸長方形	161×67	26	土師器片、軟質陶器片。	SK250・251を切り、SK40に切られる。
49	M11	長楕円形	217×75	22	内耳鍋1点。土師器片、須恵器片。	SK138を切り、SK7に切られる。中世。
50	M10・11、N10・11	隅丸長方形	272×109	72	土師器片、内耳鍋片。	SK182・189を切り、SK7・53・99に切られる。
51	M11	隅丸長方形	240×157	12	土師器片。	SK89・116を切り、SK8に切られる。
52	M11	不整隅丸方形	129×105	13	土師器片。	SK72・89を切り、SK8に切られる。
53	M10、N10	長楕円形	131×47	10	土師器片、須恵器片。	SK50・271を切る。
54	N9	不明	(42)×62	22	カワラケ1点。土師器片、軟質陶器片。	SK39に切られる。中世。
55	N9	隅丸長方形	171×62	7		SK74・83を切る。
56	N9	隅丸長方形	105×49	9	高坏1点。土師器小片。	SK65を切り、SK35に切られる。
57	N9・10	長楕円形	147×51	10		SK77・134・152・172を切る。
58	M10、N10	楕円形	(108)×69	17	土師器片、軟質陶器片。	SK172を切り、SK36に切られる。
59	M10、N10	隅丸方形	208×191	41	土師器片、須恵器片。	SK78・143・148・172を切り、SK4に切られる。
60	N9・10	隅丸長方形	143×(79)	10	土師器片、軟質陶器片。	SK94・129・134を切り、SK32・41に切られる。
61	N9	長楕円形	185×56	27	カワラケ1点。土師器片、軟質陶器片。	SK75・114を切り、SK32に切られる。中世。
62	N10	不整楕円形	160×72	50	土錘1点。土師器片、軟質陶器片、内耳鍋片。	SK84・88・156・170・171を切り、SK33・34に切られる。
63	N9	不整楕円形	(113)×51	10	土師器片、軟質陶器片、内耳鍋片。	SK74・98・114を切り、SK32に切られる。
64	M12	長楕円形	264×58	32	土錘1点。土師器片。	SK79を切り、SK16に切られる。
65	N9	不整円形	79	14	土師器小片。	SK152を切り、SK35・56に切られる。
66	N10	隅丸長方形	203×114	39	土師器片、須恵器片、軟質陶器片、内耳鍋片。	SK97・105・106・108・137・176を切り、SK3・43に切られる。
67	N10	楕円形	79×55	16	土師器小片。	SK97・155を切る。
68	N10	隅丸長方形	165×78	30	土師器片。骨片。	SK87・107・109を切り、SK5・47に切られる。
69	N10	隅丸長方形?	132×93	26	土師器小片。	SK87・107・133・137・193を切り、SK47に切られる。
70	M11	不整楕円形	177×65	19	土師器片、軟質陶器片、内耳鍋片。	SK9・11に切られる。
71	M11、N11	楕円形	176×102	10	土師器片、軟質陶器片、カワラケ片、土錘小片。	SK73・136を切る。
72	M11、N11	不整楕円形	318×175	7	土師器片。	SK9・52に切られる。
73	M11、N11・12	隅丸長方形	1235×188	93	内耳鍋9点、軟質陶器壺1点、カワラケ7点、坏1点、土錘19点、石臼1点。土師器片。馬歯、馬骨。	SK136を切り、SK13・71に切られる。中世。
74	N9	楕円形?	(100)×69	5	土師器片。	SK83・114を切り、SK55・63に切られる。
75	N9	楕円形?	(135)×76	22	坏1点、土錘1点。土師器片。	SK32・61に切られる。
76	N9	楕円形	(122)×54	12	土師器小片。	SK98・114・134を切り、SK32に切られる。
77	N10	楕円形	(124)×68	10	土師器片。	SK96・134・172・179を切り、SK57に切られる。
78	M10、N10	隅丸方形?	(105)×95	61	土師器小片。	SK59に切られる。
79	M12	隅丸方形	73×72	39	土師器片。	SK16・64に切られる。
80	M12	隅丸方形	125×90	9	土錘2点。土師器片。	SK81を切る。



第87号土坑土層説明

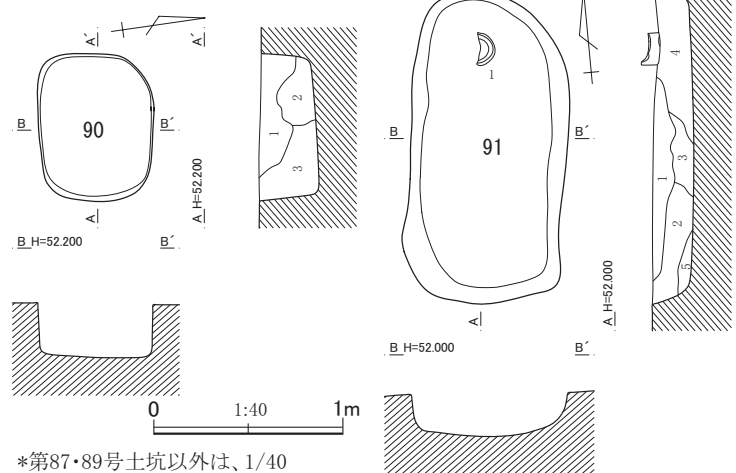
- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を多量に含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）を中量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。

第88号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含み、ローム小塊（～20mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。

第89号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・焼土粒（～5mm）を中量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、焼土粒（～5mm）・焼土小塊（～10mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、焼土粒（～5mm）を少量含む。



*第87・89号土坑以外は、1/40

- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。

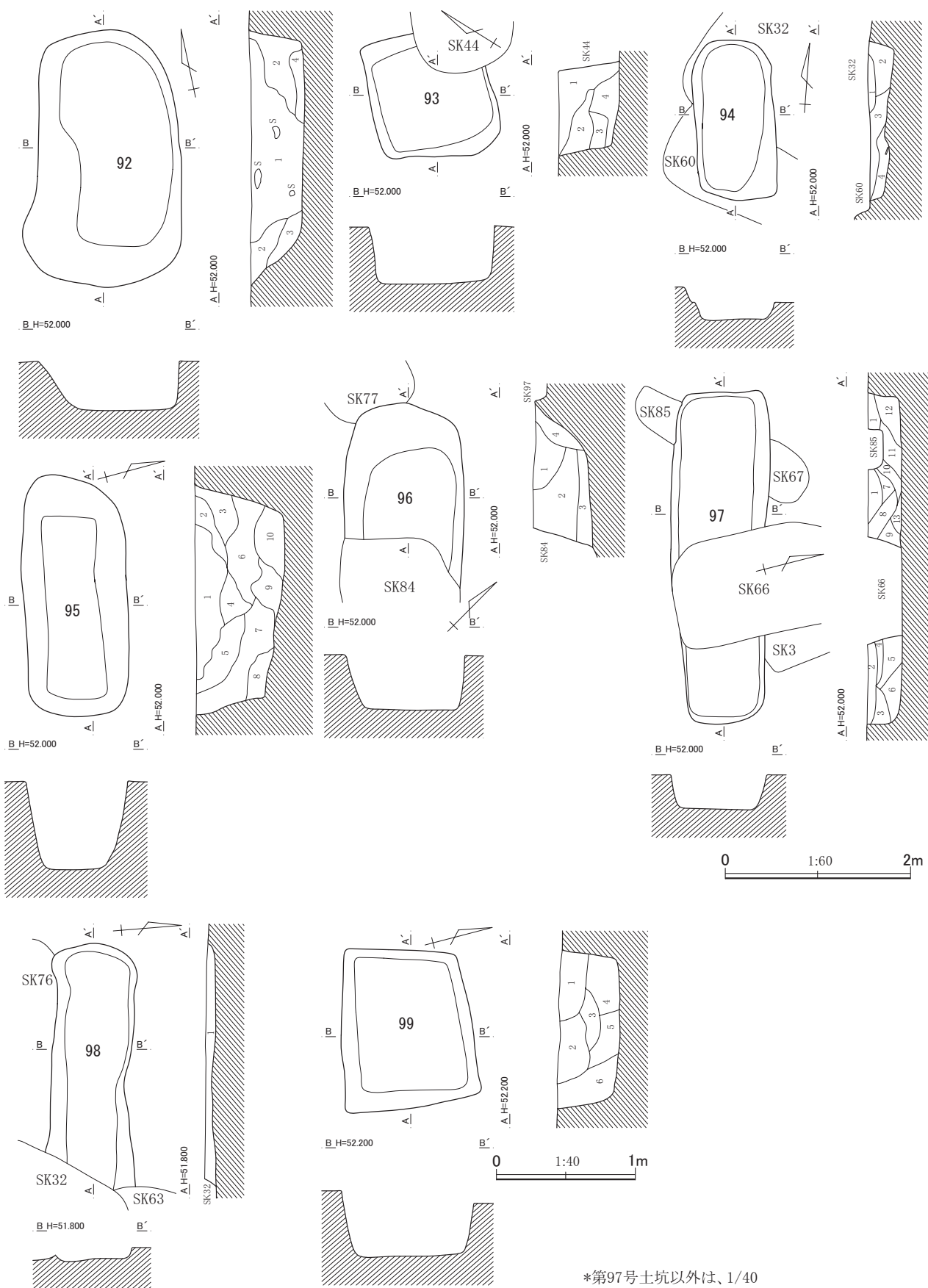
第90号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、焼土粒（～5mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・焼土小塊（～30mm）を中量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。

第91号土坑土層説明

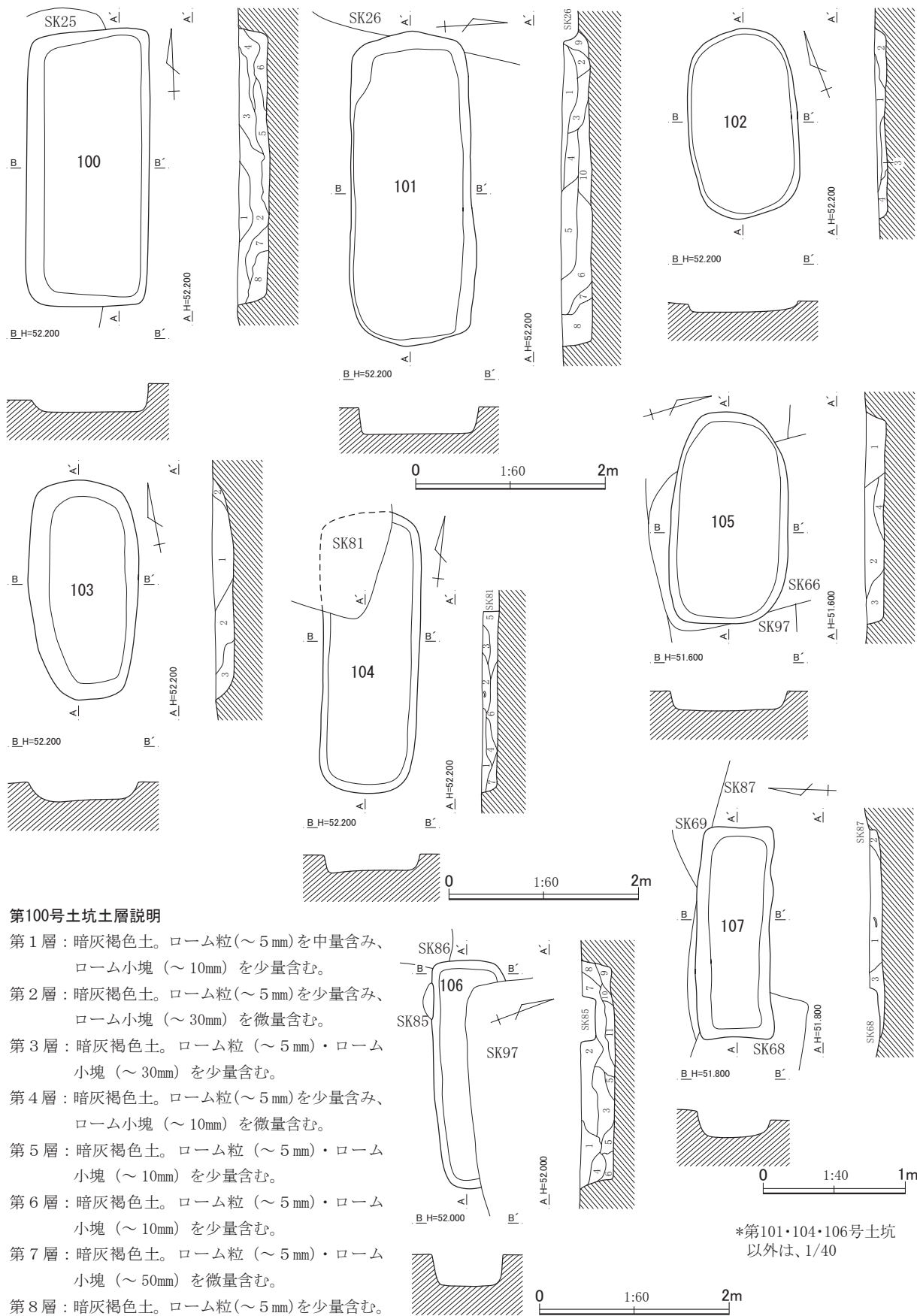
- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）・炭化物粒（～5mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、炭化物粒（～5mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・焼土粒（～5mm）を少量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。

第711図 第87～91号土坑平面・断面図



*第97号土坑以外は、1/40

第712図 第92~99号土坑平面・断面図(1)



第714図 第100～107号土坑平面・断面図(1)

C地点

第101号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)を多量に含み、ローム小塊(～10mm)を中量含み、焼土粒(～5mm)を微量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～10mm)を中量含む。

第4層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)を多量に含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。

第5層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を微量、焼土粒(～5mm)を少量含む。

第6層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)を多量に含み、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～5mm)を微量含む。

第7層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)を多量に含み、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～5mm)を微量含む。

第8層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)を多量に含み、ローム小塊(～20mm)を少量含み、焼土粒(～5mm)を微量含む。

第9層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含み、ローム小塊(～50mm)を微量含む。

第10層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～5mm)を微量含む。

第102号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～50mm)を少量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)を多量に含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム小塊(～50mm)を少量含む。

第4層：暗灰褐色土。ローム粒(～50mm)を少量含む。

第103号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒(～3mm)・焼土粒(～5mm)を微量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～5mm)を微量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒(～3mm)を微量含む。

第104号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒(～3mm)を中量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒(～3mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)・焼土粒(～3mm)を微量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、焼土粒(～3mm)を微量含む。

第4層：暗灰褐色土。ローム粒(～3mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。

第5層：暗灰褐色土。ローム粒(～3mm)を中量含み、焼土粒(～3mm)を微量含む。

第6層：暗灰褐色土。ローム粒(～3mm)を中量含み、焼土粒(～5mm)を少量含む。

第7層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含む。

第105号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)を少量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を少量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)を少量含む。

第4層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～10mm)を少量含む。

第106号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)を多量に含み、ローム小塊(～20mm)を中量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～50mm)を多量に含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)を多量に含み、ローム小塊(～30mm)を中量含む。

第4層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)を多量に含む。

第5層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～50mm)を多量に含む。

第6層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)を多量に含む。

第7層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)を多量に含み、ローム小塊(～10mm)を少量含む。

第8層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。

第9層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を少量含む。

第10層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を中量含む。

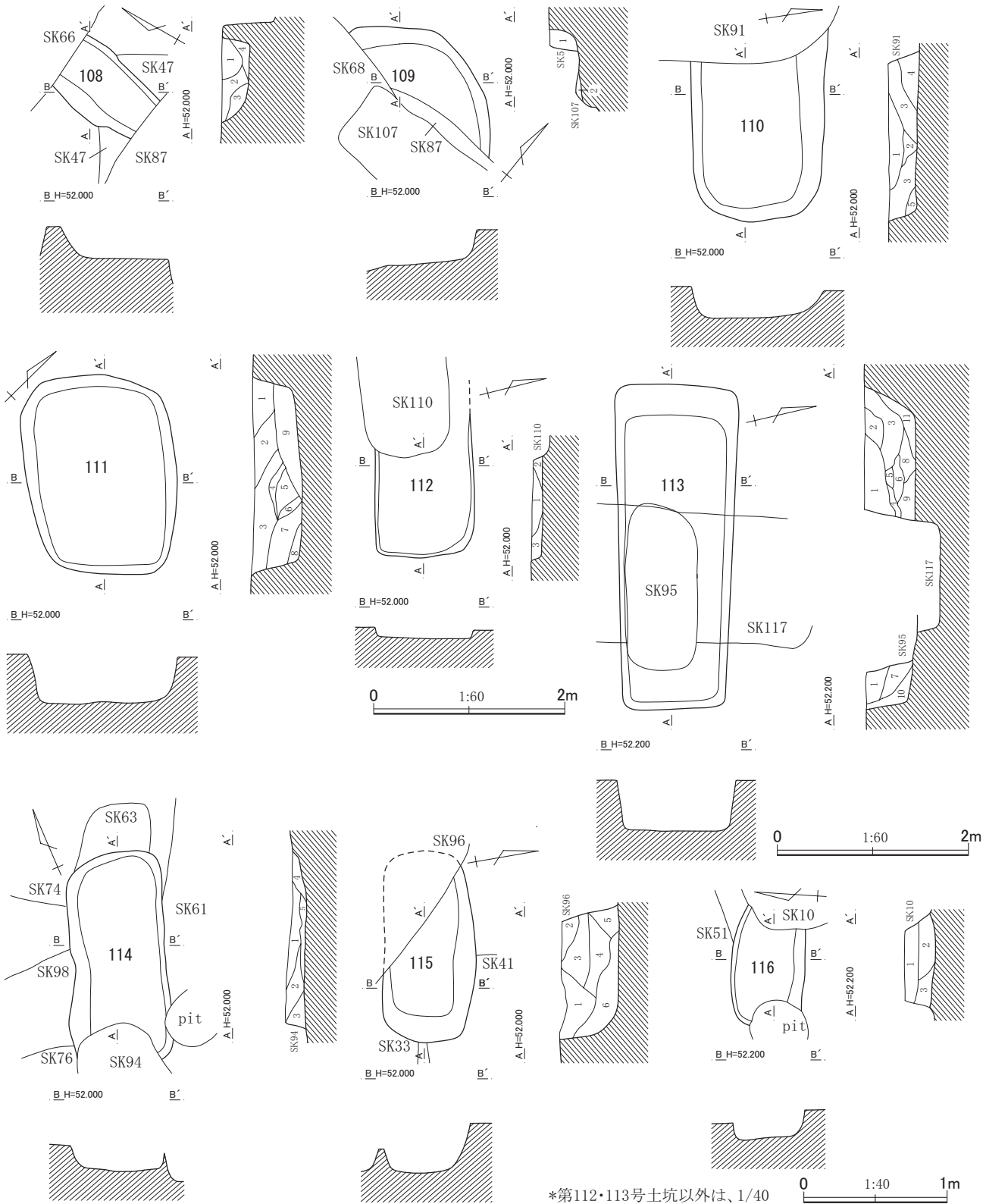
第11層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。

第107号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～20mm)を少量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)を少量含み、ローム小塊(～50mm)を微量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)を微量含む。



第108号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含み、ローム小塊（～20mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を多量に含み、ローム小塊（～50mm）を中量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含む。

第716図 第108～116号土坑平面・断面図（1）

C地点

第109号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含む。
第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。

第110号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む、炭化物粒（～5mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。
第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を微量含む。
第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む、炭化物粒（～5mm）を微量含む。
第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む、炭化物粒（～5mm）を微量含む。
第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。

第111号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含む、焼土粒（～1mm）を微量含む。
第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）・焼土粒（～1mm）を微量含む。
第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）・焼土粒（～4mm）を微量含む、ローム小塊（～10mm）を少量含む。
第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を微量含む。
第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を中量含む、ローム小塊（～10mm）を微量含む。
第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を微量含む。
第7層：明灰褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒（～4mm）・ローム小塊（～30mm）を中量含む、焼土粒（～1mm）を少量含む。
第8層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含む。
第9層：明灰褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒（～8mm）を多量に含む、ローム小塊（～20mm）を中量含む。

第112号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む、焼土粒（～5mm）を少量、ローム小塊（～50mm）・焼土小塊（～50mm）を微量含む。
第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む、ローム小塊（～10mm）を微量含む。
第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む、焼土粒（～5mm）を中量含む。

第113号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）・ローム小塊（～20mm）を多量に含む。
第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含む、ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～3mm）を少量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含む、ローム小塊（～30mm）を中量含む。

第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を少量含む、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含む、ローム小塊（～10mm）を微量含む。

第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含む、ローム小塊（～20mm）を少量含む。

第7層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含む。

第8層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む、ローム小塊（～20mm）を少量含む。

第9層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）・ローム小塊（～50mm）を中量含む。

第10層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を中量含む。

第11層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）・ローム小塊（～80mm）を中量含む。

第114号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。
第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む、ローム小塊（～50mm）を少量含む。
第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。
第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。
第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～20mm）を少量含む。

第115号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含む。
第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含む、ローム小塊（～10mm）を中量含む。
第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～20mm）を中量含む。
第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～20mm）を中量含む。
第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～20mm）を少量含む。
第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～50mm）を中量含む。

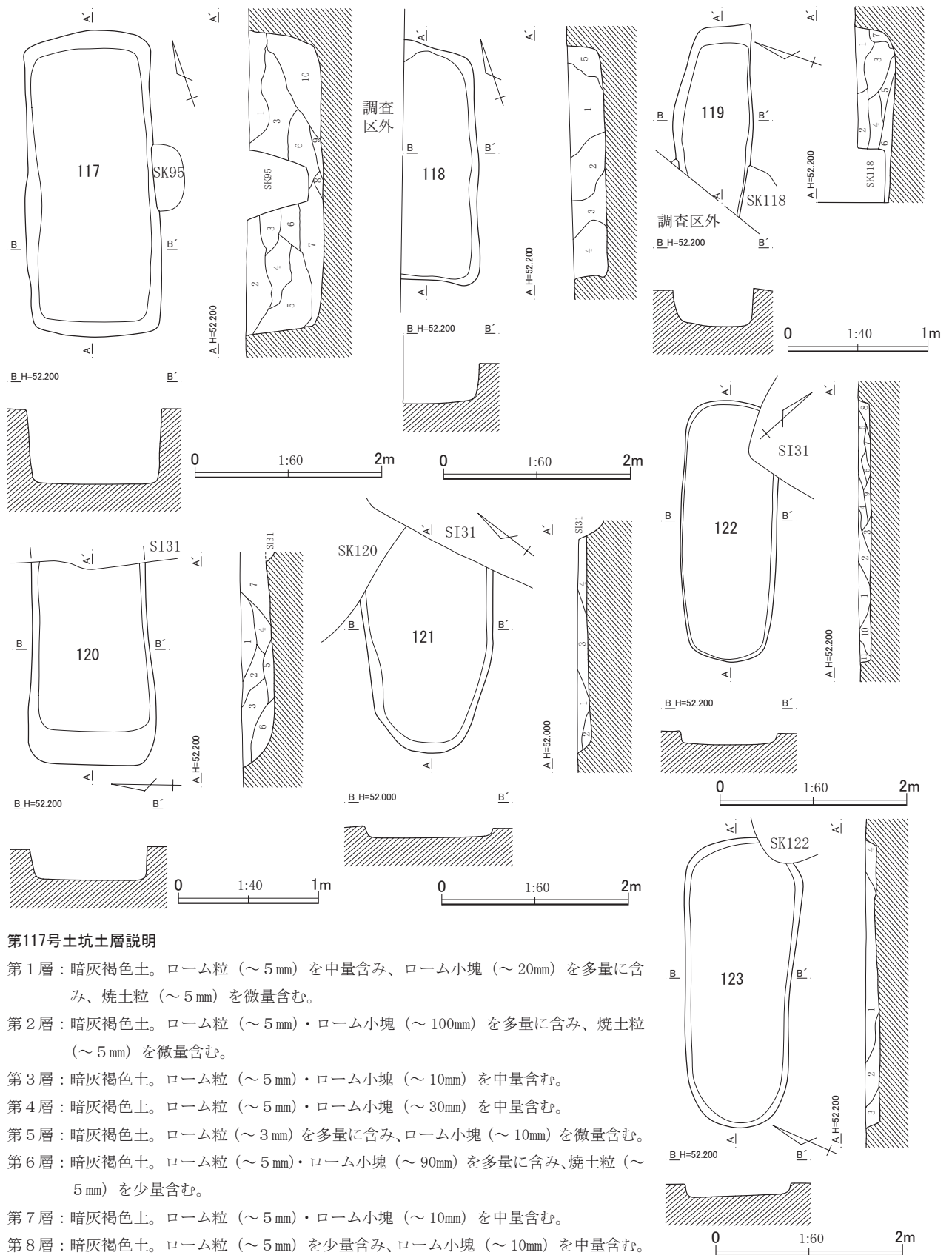
第116号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含む。
第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含む、ローム小塊（～10mm）を中量含む。
第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含む。

第717図 第108～116号土坑平面・断面図（2）

第315表 C地点・土坑計測および観察表(3)

番号	グリッド	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	出土遺物	備考
81	M12	不整隅丸長方形	323×154	28	小型甕1点、坏1点。土師器片。	SK104・206を切り、SK18・80に切られる。
82	M12	隅丸長方形	109×62	18	土師器片。	SK17に切られる。
83	N9	楕円形	130×75	41	土師器片。	SK40・55・74に切られる。
84	N10	隅丸方形	89×86	52	土師器片、カワラケ片。	SK96・128・129・145を切り、SK33・62に切られる。
85	N10	長楕円形	125×44	16	土師器小片、軟質陶器片。	SK97・106・155を切る。
86	N10	隅丸長方形	109×61	30	土師器片、須恵器片(羽釜片含む)。	SK106・144を切る。
87	N10	長楕円形	(250)×95	37	土師器片。	SK107～109・133を切り、SK5・47・68・69に切られる。
88	N10	不整楕円形?	(117)×80	43	土師器片、須恵器片。	SK165・171を切り、SK34・38・62に切られる。
89	M11	隅丸長方形	196×91	25	土師器片、須恵器片、カワラケ片、埴輪片。	SK132を切り、SK8・51・52に切られる。
90	M12	隅丸方形	78×61	31	須恵器坏1点。土師器片。	平安時代。
91	N10	楕円形	166×83	21	石臼1点。土師器片。	SK110を切る。
92	N10	不整楕円形	186×103	39	凹み石1点。土師器片、軟質陶器片、カワラケ片。	SK238を切る。
93	M10、N10	隅丸方形	91×87	43	土師器片、軟質陶器片、カワラケ片。	SK143・148・174を切り、SK44に切られる。
94	N9・10	隅丸長方形	116×57	18	土師器小片。	SK134を切り、SK32・60に切られる。
95	N11	楕円形	172×75	65	土師器片。	SK113・117を切る。
96	N10	楕円形	(133)×87	43	土師器小片、軟質陶器片、内耳鍋片。	SK115・129・175を切り、SK77・84に切られる。
97	N10	隅丸長方形	358×102	37	土師器片。	SK105・106・133・137・144・155・163・166・183を切り、SK3・66・67・85に切られる。
98	N9	長楕円形	(175)×57	7	土師器小片、縄文土器片。	SK114を切り、SK32・63・76に切られる。
99	N10・11	不整形	115×95	43	土師器片、須恵器片。	SK50・189を切る。
100	M13	隅丸長方形	195×87	21	土師器片。	SK124を切り、SK25に切られる。
101	M13、N13	長楕円形	334×127	31	土師器片、須恵器片、土錘小片。	SK130・146を切り、SK26に切られる。
102	M13、N13	楕円形	135×77	7	土師器小片。	
103	N12・13	楕円形	155×78	13	土師器片。	
104	M12	長楕円形	298×102	17	土師器片、土錘小片。	SK81に切られる。
105	N10	楕円形	149×83	13	土師器小片、須恵器片。	SK106・108・137・155・177を切り、SK66・97に切られる。
106	N10	隅丸長方形	242×80	36	土師器片。	SK144・155・177・183を切り、SK66・85・86・97・105に切られる。
107	N10	隅丸長方形	147×51	9	土師器片。	SK109・137を切り、SK68・69・87に切られる。
108	N10	不明	(67)×48	19	土師器小片。	SK155を切り、SK5・47・66・87・105に切られる。
109	N10	不整形?	(131)	22	土師器小片。	SK137・177を切り、SK47・68・87・107に切られる。
110	N10	楕円形	(135)×77	20	土錘1点。土師器片、縄文土器片。	SK112・227を切り、SK91に切られる。
111	O10	隅丸長方形	139×106	33	土師器片、須恵器片。	
112	N10、O10	隅丸長方形	(203)×103	12	土師器片。	SK227を切り、SK110に切られる。
113	N11	長方形	340×119	53	土師器片、カワラケ片、炭化種実片(桃?)。	SK164・186を切り、SK95・117に切られる。
114	N9	楕円形	(153)×63	15	土師器片、土錘小片。	SK32・61・63・74・76・98に切られる。
115	N10	楕円形	(133)×63	40	土師器片、内耳鍋片。	SK129・145を切り、SK33・41・96に切られる。
116	M11	楕円形	(91)×51	21		SK132を切り、SK10・51に切られる。
117	N11	隅丸長方形	330×142	80	土師器片、陶器片。	SK113・197を切り、SK95に切られる。



第117号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）を多量に含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～100mm）を多量に含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を中量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～30mm）を中量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を多量に含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。
- 第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～90mm）を多量に含み、焼土粒（～5mm）を少量含む。
- 第7層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を中量含む。
- 第8層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）を中量含む。
- 第9層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を中量含む。
- 第10層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含み、ローム小塊（～10mm）を少量含む。

第718図 第117～123号土坑平面・断面図（1）

第118号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)を多量に含み、ローム小塊(～100mm)を中量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)を多量に含み、ローム小塊(～30mm)を中量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～8cm)を多量に含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～10mm)を中量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～50mm)を多量に含む。

第119号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)を多量に含み、ローム小塊(～10mm)を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～20mm)を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～50mm)を多量に含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～50mm)を中量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)・ローム小塊(～30mm)を少量含む。
- 第6層：暗灰褐色土。ローム粒(～3mm)を少量含み、ローム小塊(～20mm)を中量含む。
- 第7層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)を中量含み、ローム小塊(～10mm)を少量含む。

第120号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含み、焼土粒(～2mm)を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含み、ローム粒(～8mm)・焼土粒(～1mm)を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒(～4mm)を中量含み、ローム粒(～8mm)を少量含み、焼土粒(～2mm)を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒(～2mm)・粘土粒(～2mm)を少量含み、焼土粒(～1mm)を微量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒(～1mm)・焼土粒(～1mm)を微量含む。
- 第6層：明灰褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒(～0.5mm)・ローム小塊(～15mm)を中量含み、焼土粒(～1mm)を微量含む。
- 第7層：暗赤灰褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)・ローム粒(～8mm)を少量含み、粘土粒(～0.5mm)・焼土粒(～0.5mm)を中量含む。

第121号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を中量、焼土粒(～1mm)を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒(～1mm)を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒(～1mm)・焼土小塊(～10mm)を微量含み、焼土粒(～2mm)を少量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒(～0.5mm)を少量含み、ローム小塊(～15mm)・焼土粒(～2mm)を微量含む。

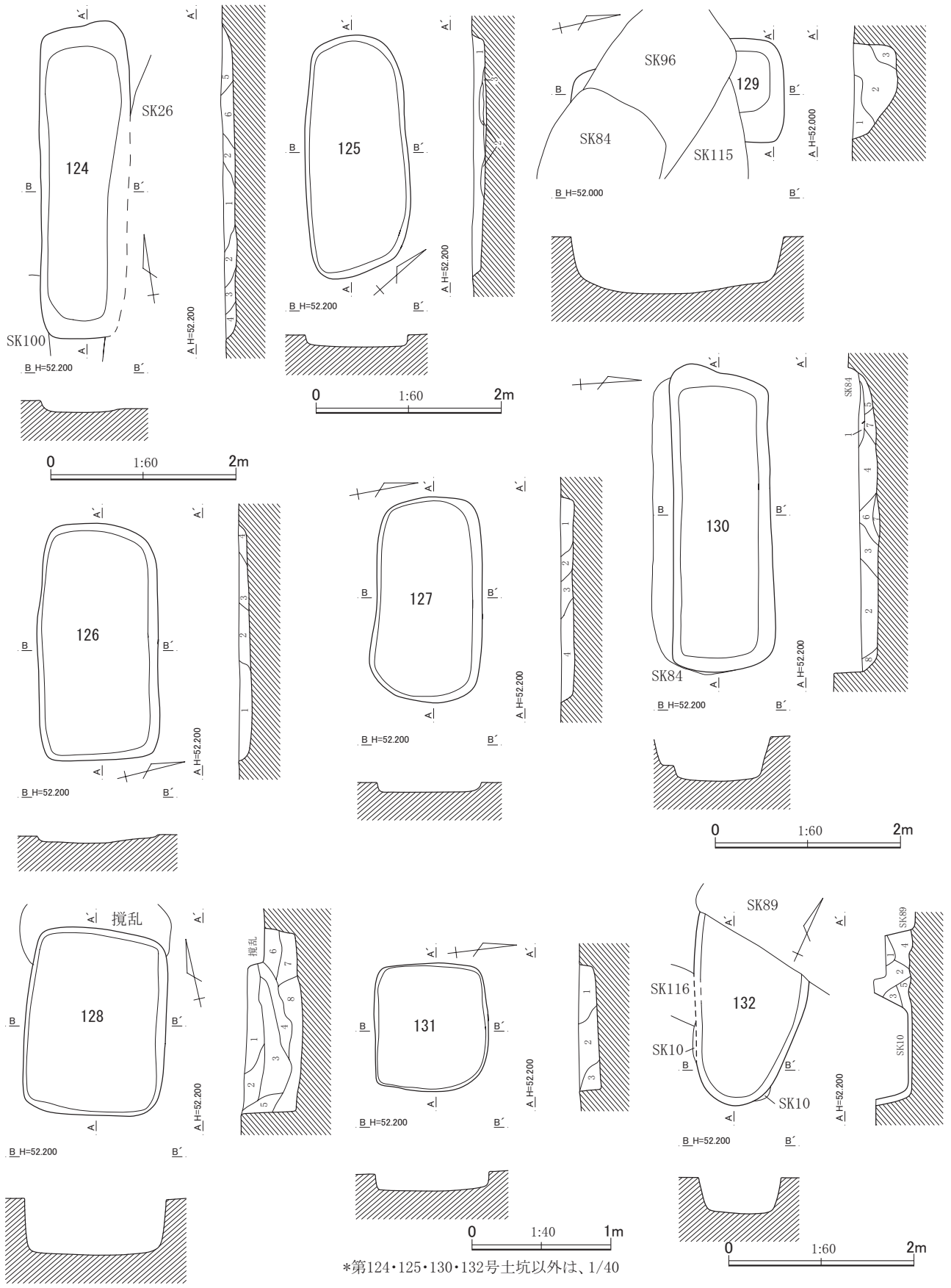
第122号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。明灰褐色土を主とし、ローム粒(～6mm)を中量含み、焼土粒(～5mm)を微量含む。
- 第2層：明灰褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒(～1mm)を中量含み、ローム粒(～6mm)を少量、焼土粒(～1mm)を微量含む。
- 第3層：明灰褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)を多量に含み、ローム粒(～6mm)を中量、焼土粒(～1mm)を少量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。
- 第5層：明灰褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)を多量に含み、ローム粒(～8mm)を中量、焼土粒(～1mm)を微量含む。
- 第6層：暗灰褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含み、ローム小塊(～10mm)を微量含む。
- 第7層：暗灰褐色土。ローム粒(～1mm)を中量含み、ローム小塊(～30mm)・焼土粒(～1mm)を微量含む。
- 第8層：明灰褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒(～2mm)を多量に含み、ローム粒(～8mm)を少量、焼土粒(～4mm)を微量含む。
- 第9層：暗灰褐色土。粘土粒(～2mm)・炭化物粒(～1mm)・焼土粒(～1mm)を微量含む。
- 第10層：暗灰褐色土。ローム粒(～0.5mm)を少量含み、焼土粒(～2mm)を微量含む。
- 第11層：暗灰褐色土。ローム粒(～2mm)を中量含み、ローム小塊(～15mm)を微量含む。

第123号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒(～2mm)を少量含み、ローム小塊(～40mm)・焼土粒(～2mm)を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒(～2mm)を中量含み、焼土粒(～1mm)を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒(～1mm)を中量含み、ローム小塊(～15mm)を少量、焼土粒(～1mm)を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒(～1mm)を中量含み、焼土粒(～1mm)を少量含む。

第719図 第117～123号土坑平面・断面図(2)



*第124・125・130・132号土坑以外は、1/40

第720図 第124~132号土坑平面・断面図(1)

第124号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～3mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を少量、焼土粒（～3mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～3mm）を微量、炭化物粒（～5mm）を少量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）・炭化物粒（～3mm）・焼土粒（～3mm）を微量含む。
- 第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）・ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～3mm）を少量含む。

第125号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を多量に含み、ローム小塊（～10mm）を中量、焼土粒（～3mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）・焼土粒（～3mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を微量含む。

第126号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、焼土粒（～5mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。

第127号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～5mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～50mm）・焼土粒（～5mm）を少量含む。

第128号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を多量に含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を中量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含み、ローム小塊（～10mm）を中量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。

- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含む。
- 第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含む。
- 第7層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含み、ローム小塊（～30mm）を微量含む。
- 第8層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～50mm）を少量含む。

第129号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～30mm）を中量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を少量含む。

第130号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を中量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を多量に含み、ローム小塊（～20mm）を少量、焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含む。
- 第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を多量に含み、ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第7層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第8層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を少量含む。

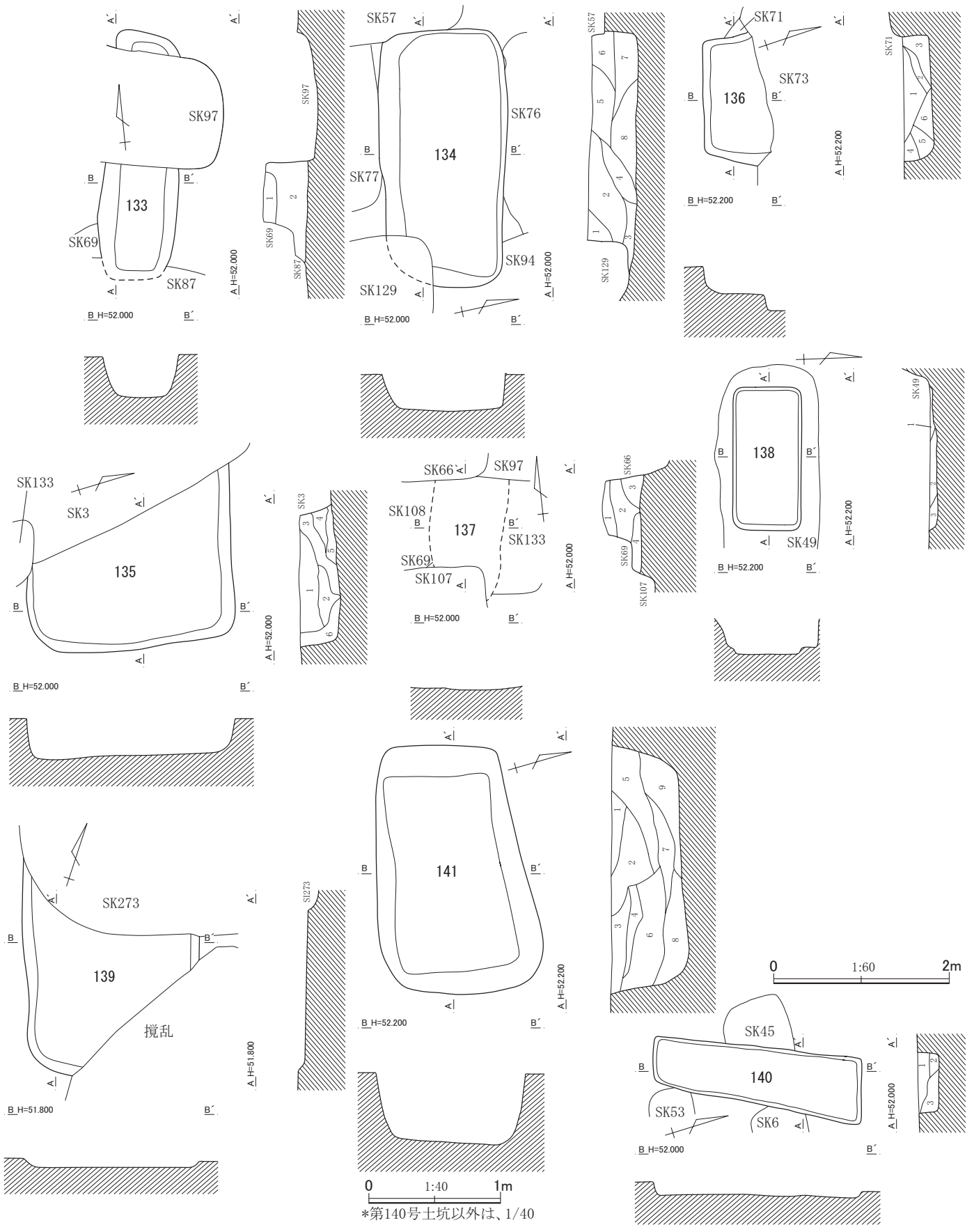
第131号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含み、ローム小塊（～50mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～3mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含む。

第132号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、焼土粒（～3mm）を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含み、焼土小塊（～50mm）を少量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。

第721図 第124～132号土坑平面・断面図（2）



第722図 第133~141号土坑平面・断面図(1)

第133号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。
 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～20mm）を中量含む。

第134号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含む。
 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）・ローム小塊（～20mm）を中量含む。
 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～20mm）を中量含む。
 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～20mm）を多量に含む。
 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含む、ローム小塊（～50mm）を中量含む。
 第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～20mm）を中量含む。
 第7層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。
 第8層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。

第135号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～50mm）を多量に含む。
 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を多量に含む。
 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を中量含む。
 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。
 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む、ローム小塊（～50mm）を中量含む。
 第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む、ローム小塊（～50mm）を中量含む。

第136号土坑土層説明

- 第1層：明灰褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒（～2mm）・ローム粒（～8mm）を中量含む、粘土粒（～0.5mm）を少量、粘土粒（～1mm）を微量含む。粘性はやや強い。
 第2層：明灰褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒（～2mm）を少量含む。粘性はやや強い。
 第3層：明灰褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒（～4mm）を中量含む、焼土粒（～1mm）を微量含む。粘性はやや強い。
 第4層：明灰褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒（～2mm）を少量含む、ローム粒（～8mm）・焼土粒（～1mm）を微量、粘土粒（～0.5mm）を中量含む。粘性はやや強い。
 第5層：明灰褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒（～1mm）・粘土粒（～1mm）を中量含む、粘土粒（～8mm）を少量、焼土粒（～5mm）を微量含む。粘性はやや強い。

- 第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）・粘土粒（～0.5mm）を少量含む、ローム小塊（～15mm）を微量含む。粘性はやや強い。

第137号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含む。
 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を中量含む。
 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。
 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。

第138号土坑土層説明

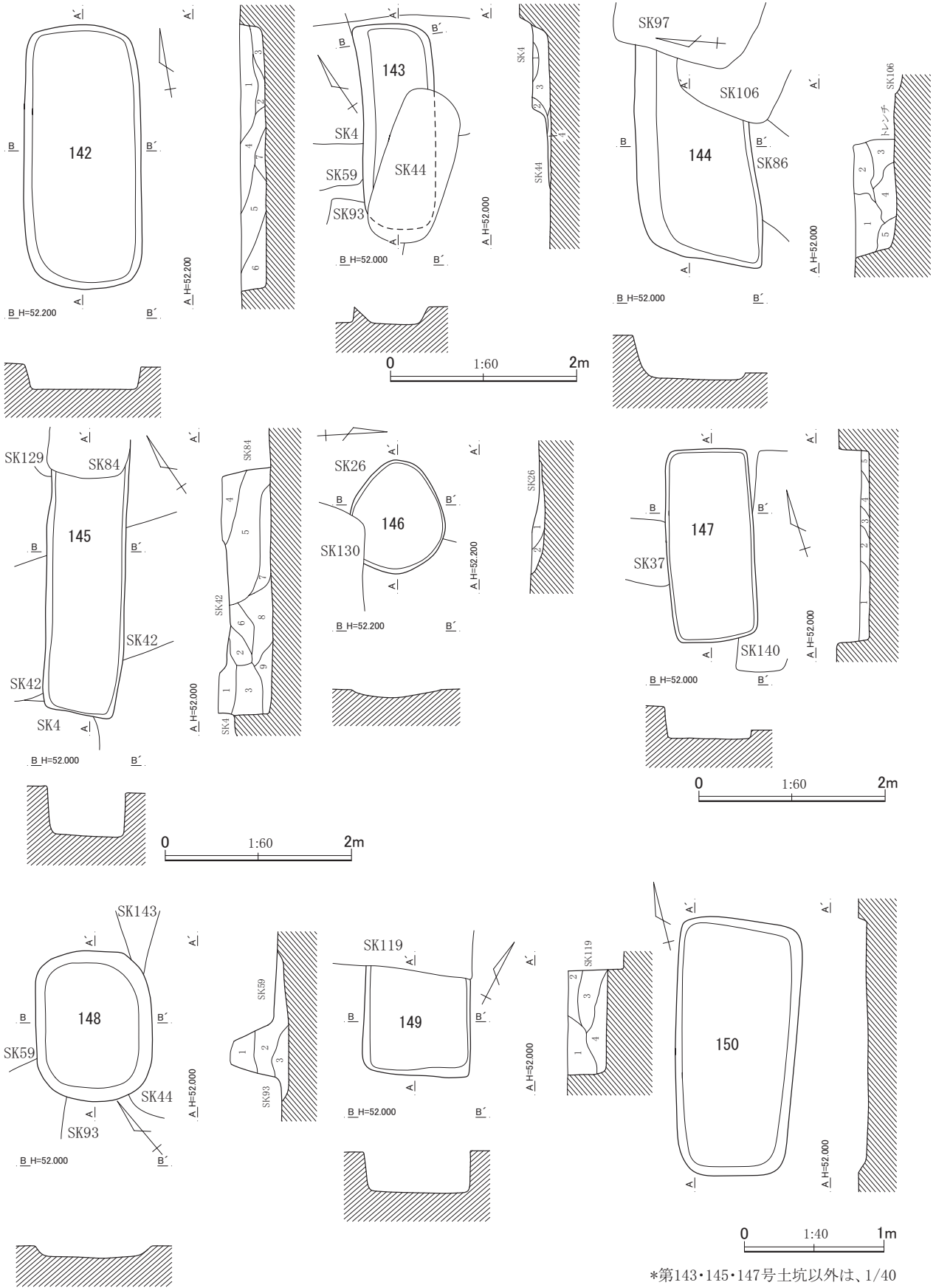
- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を多量に含む。
 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・焼土粒（～5mm）を少量含む、ローム小塊（～10mm）を中量含む。
 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。

第140号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含む、ローム小塊（～10mm）を少量含む。
 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む、焼土粒（～5mm）を微量含む。
 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含む、ローム小塊（～30mm）を少量、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第141号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含む、焼土粒（～2mm）を微量含む。
 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む、ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～4mm）を微量含む。
 第3層：明灰褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒（～8mm）を多量に含む、ローム小塊（～20mm）を中量、焼土粒（～2mm）を少量含む。
 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む、ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～1mm）を微量含む。
 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～6mm）を少量含む、ローム小塊（～20mm）・焼土粒（～1mm）を微量含む。
 第6層：明灰褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム小塊（～10mm）・ローム小塊（～30mm）を中量含む、焼土粒（～1mm）を微量含む。
 第7層：暗灰褐色土。ローム粒（～6mm）を少量含む、ローム小塊（～15mm）を微量含む。
 第8層：明灰褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム小塊（～10mm）を多量に含む、ローム小塊（～30mm）を中量、焼土粒（～5mm）を少量含む。
 第9層：明灰褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム小塊（～15mm）を多量に含む、ローム小塊（～40mm）を中量、焼土粒（～4mm）を少量含む。



第724図 第142~150号土坑平面・断面図(1)

第142号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）・炭化物粒（～1mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を少量含む。
- 第4層：明灰褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒（～4mm）を多量に含み、ローム粒（～8mm）・焼土粒（～2mm）を少量含む。
- 第5層：明灰褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒（～1mm）・焼土粒（～1mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）を中量含む。
- 第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）・焼土粒（～2mm）を少量含む。
- 第7層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）を少量含む。

第143号土坑土層説明

- 第1層：明灰褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒（～3mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）を中量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～50mm）を多量に含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。

第144号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を多量に含み、ローム小塊（～20mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含み、ローム小塊（～50mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）・ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を多量に含み、ローム小塊（～100mm）を少量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含み、ローム小塊（～20mm）を微量含む。

第145号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）・ローム小塊（～20mm）を中量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を中量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）を少量含む。

第7層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、ローム小塊（～50mm）を中量含む。

第8層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含み、ローム小塊（～50mm）を中量含む。

第9層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～50mm）を少量含む。

第146号土坑土層説明

- 第1層：暗赤灰褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒（～1mm）・炭化物粒（～1mm）を少量含み、焼土粒（～4mm）を中量含む。
- 第2層：明灰褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒（～0.5mm）を多量に含み、焼土粒（～1mm）を微量含む。

第147号土坑土層説明

- 第(1)層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～30mm）を中量含む。
- 第(2)層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第(3)層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含む。

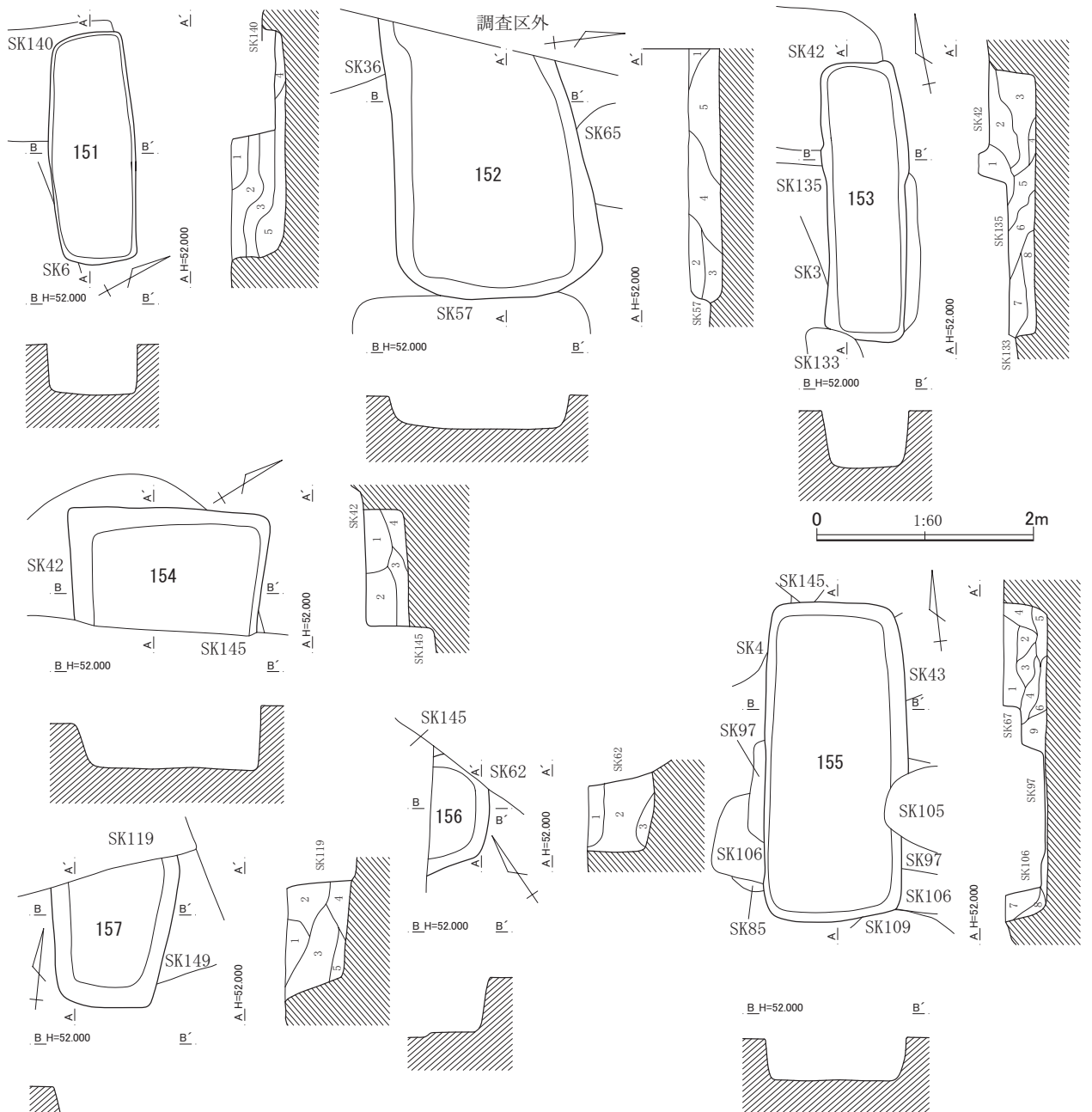
第148号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～20mm）を中量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含み、ローム小塊（～50mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）を微量含む。

第149号土坑土層説明

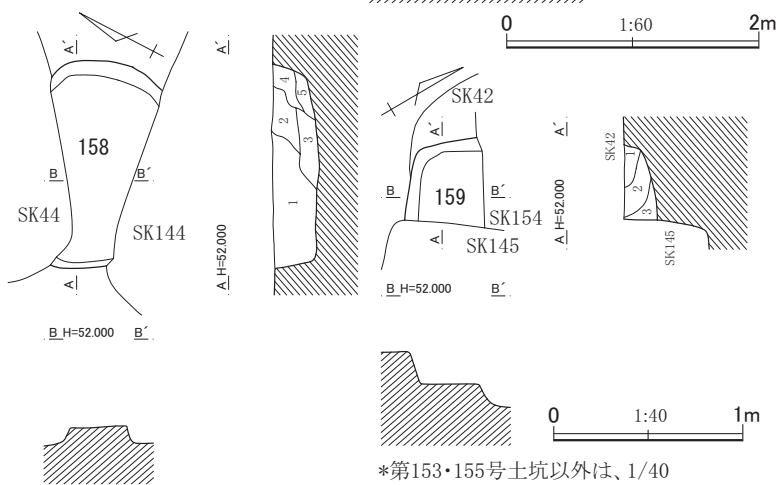
- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を多量に含み、ローム小塊（～10mm）を中量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を多量に含み、ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含み、ローム小塊（～50mm）を少量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含み、ローム小塊（～50mm）を少量含む。

第725図 第142～150号土坑平面・断面図（2）



第151号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～30mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含み、ローム小塊（～30mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）を少量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）を少量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～50mm）を少量含む。



*第153・155号土坑以外は、1/40

第726図 第151～159号土坑平面・断面図（1）

第152号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を多量に含む。
 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を多量に含む、ローム小塊（～30mm）を中量含む。
 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含む、ローム小塊（～30mm）を微量含む。
 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）・ローム小塊（～20mm）を中量含む。
 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含む、ローム小塊（～20mm）を少量含む、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第153号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）・ローム小塊（～100mm）を中量含む。
 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～20mm）を中量含む。
 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～50mm）を中量含む。
 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。
 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。
 第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～50mm）を中量含む。
 第7層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を中量含む。
 第8層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む、ローム小塊（～50mm）を少量含む。

第154号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む、ローム小塊（～10mm）を中量含む。
 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を中量含む。
 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。
 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。

第155号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む、ローム小塊（～10mm）を少量含む。
 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含む、ローム小塊（～20mm）を微量含む。
 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）・ローム小塊（～20mm）を中量含む。
 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含む。
 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む、ローム小塊（～30mm）を少量含む。

- 第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～30mm）を中量含む。
 第7層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を多量に含む、ローム小塊（～10mm）を中量含む。
 第8層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含む、ローム小塊（～10mm）を微量含む。
 第9層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～30mm）を中量含む。

第156号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含む、ローム小塊（～10mm）を少量含む。
 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含む、ローム小塊（～50mm）を中量含む。
 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む、ローム小塊（～50mm）を微量含む。

第157号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む、ローム小塊（～10mm）を少量含む。
 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～50mm）を中量含む。
 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を多量に含む、ローム小塊（～50mm）を中量含む。
 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含む、ローム小塊（～50mm）を多量に含む。
 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～20mm）を少量含む。

第158号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含む、ローム小塊（～10mm）を中量含む。
 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含む、ローム小塊（～10mm）を中量含む。
 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含む、ローム小塊（～50mm）を微量含む。
 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含む。
 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含む。

第159号土坑土層説明

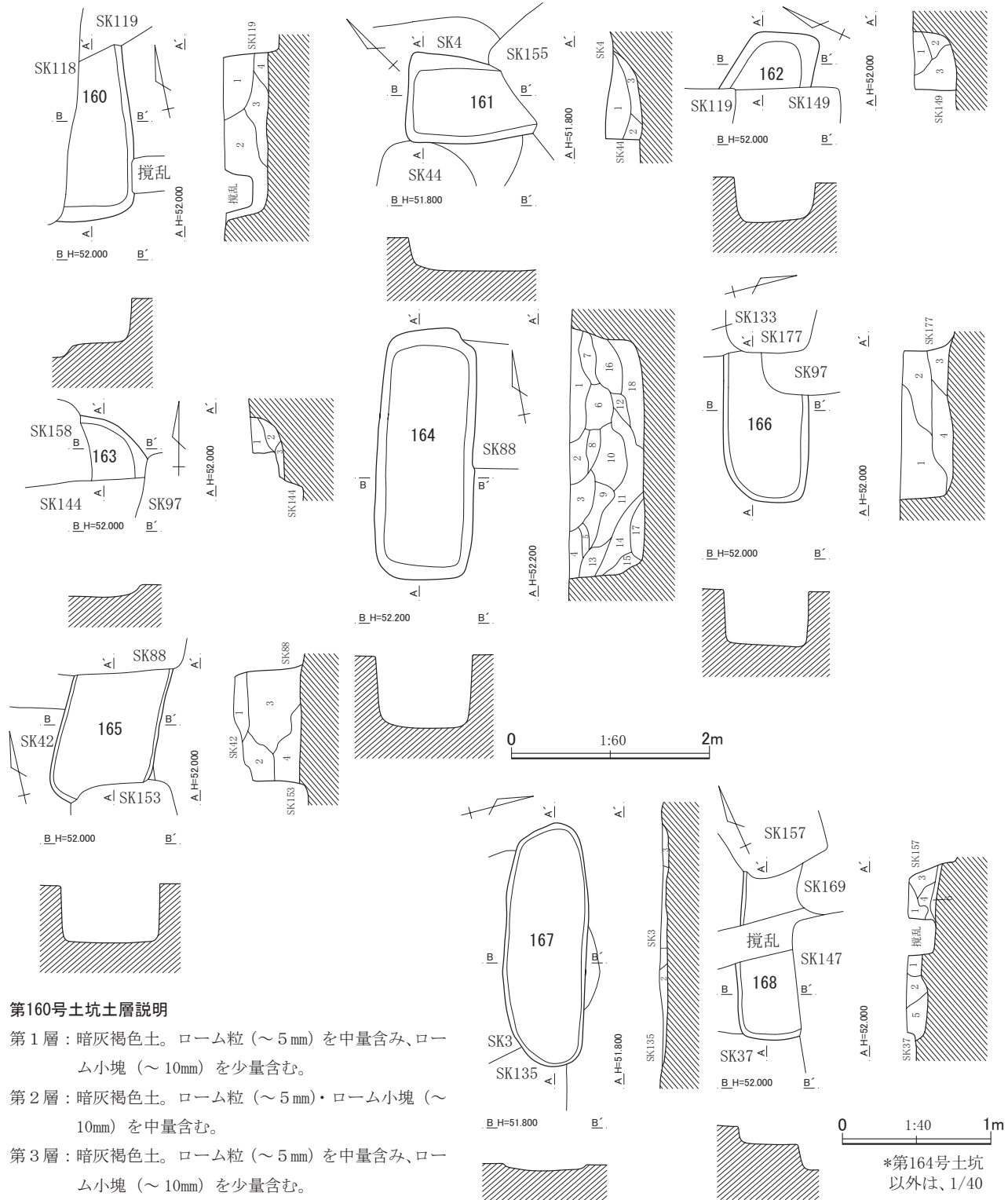
- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含む、ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。
 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含む。
 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含む、ローム小塊（～10mm）を少量含む。

第727図 第151～159号土坑平面・断面図（2）

C地点

第316表 C地点・土坑計測および観察表(4)

番号	グリッド	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	出土遺物	備考
118	M10	隅丸長方形	258×(82)	38	土師器片、須恵器片、カワラケ片。	SK119・160・187を切る。
119	M10	隅丸長方形?	(210)×87	42	土師器片、須恵器片。	SK149・157・160・162・174・180・187を切り、SK118に切られる。
120	N12	隅丸長方形	(140)×84	22	土師器片、須恵器片。	SK121を切る。
121	M12、N12	楕円形	(245)×145	12	土錘1点。土師器片。	SK120に切られる。
122	N12	長楕円形	280×103	13	土師器片。	SK123を切る。
123	M12、N12	長楕円形	312×112	15		SK122に切られる。
124	M13	隅丸長方形	340×95	13	土錘1点。土師器片、須恵器片。	SK26・100に切られる。
125	N12・13	楕円形	260×112	14	土錘1点。土師器片、須恵器片。	
126	N12、O12	隅丸長方形	171×88	9	土師器片。	
127	N12、O12	楕円形	149×75	9	土錘1点。土師器片。	
128	N11・12	隅丸長方形	135×102	41	土師器片。	
129	N10	隅丸長方形?	(154)×74	31	土錘1点。土師器片、播鉢片。	SK134・145・175を切り、SK84・96・115に切られる。
130	M13、N13	長楕円形	323×105	22	土師器片。	SK146を切り、SK26・101に切られる。
131	M13、N13	隅丸方形	93×82	15	土師器片。	
132	M11	楕円形	(200)×125	41	土師器片。	SK10・89・116に切られる。
133	N10	長楕円形	(188)×55	39	土師器片。	SK135・137・153・166・177を切り、SK69・87・97に切られる。
134	N9・10	隅丸長方形	195×96	36	土師器片、須恵器片。	SK57・60・76・77・94・129に切られる。
135	N10	隅丸方形?	155×(140)	30	土師器片、内耳鍋片、カワラケ片。	SK153・167を切り、SK3・133に切られる。
136	M11・12	隅丸方形?	101×(53)	23		SK71・73に切られる。
137	N10	不明	(96)	30	土師器小片。	SK66・69・97・105・107・108・133に切られる。
138	M11	隅丸長方形	109×53	6		SK49に切られる。
139	O10	隅丸長方形?	(164)×135	7	土師器片。	
140	M10、N10	隅丸長方形	238×65	23	土師器片、軟質陶器片。	SK147・151・252を切り、SK45・53に切られる。
141	N11	隅丸長方形	191×112	59	土師器片、須恵器片。	SK186を切る。
142	N11	楕円形	190×84	18	土師器片、土錘小片。	
143	N10	隅丸長方形?	(220)×77	18		SK148・161を切る。
144	N10	隅丸長方形?	(156)×86	30	土師器片、須恵器片、軟質陶器片。	SK158・163・178・183を切り、SK86・97・106に切られる。
145	N10	隅丸長方形	(275)×85	56	土師器片、軟質陶器片、陶器播鉢片、土錘小片。	SK154～156・159・170・173・175・184を切り、SK4・42・84・129に切られる。
146	M13	不整円形	82	9	土師器片、須恵器片。	SK26・101・130に切られる。
147	M10、N10	長方形	208×94	10	土師器片。	SK168・169を切り、SK37・45・140に切られる。
148	N10	楕円形	108×83	42		SK4・44・59・93・143に切られる。
149	M10、N10	長方形?	(75)×77	28	土師器片。	SK157・162・169を切り、SK119に切られる。
150	O10・11	隅丸長方形	184×86	7	土師器片。	SK190・208・213・248を切る。
151	N10	隅丸長方形	143×54	33	土師器片。	SK6・140に切られる。
152	N9・10	隅丸長方形?	(158)×116	20	土師器片、軟質陶器片。	SK172を切り、SK36・57・65に切られる。
153	N9・10	隅丸長方形	257×73	55	剣型石製模造品1点。土師器片、軟質陶器片。石匙1点。	SK165・185を切り、SK3・42・133・135に切られる。
154	N10	隅丸長方形	(118)×76	26	土師器片、軟質陶器片、カワラケ片。	SK159・175・179を切り、SK42・145に切られる。



第160号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を中量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～50mm）を微量含む。

第161号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～50mm）を多量に含む。

- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～20mm）を中量含む。

- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～30mm）を中量含む。

第728図 第160～168号土坑平面・断面図（1）

C地点

第162号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、ローム小塊（～50mm）・粘土小塊（～50mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。

第163号土坑土層説明

- 第1層：明褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒（～8mm）を多量に含み、ローム小塊（～40mm）を中量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を少量含む。

第164号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）を多量に含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含み、ローム小塊（～50mm）を多量に含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）を多量に含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）・ローム小塊（～10mm）を中量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）・ローム小塊（～50mm）を中量含む。
- 第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含み、ローム小塊（～50mm）を多量に含む。
- 第7層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）・ローム小塊（～10mm）を中量含む。
- 第8層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含み、ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第9層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～50mm）を多量に含む。
- 第10層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含み、ローム小塊（～50mm）を中量含む。
- 第11層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を多量に含み、ローム小塊（～20mm）を中量含む。
- 第12層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）・ローム小塊（～10mm）を多量に含む。
- 第13層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）・ローム小塊（～8cm）を多量に含む。
- 第14層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を多量に含み、ローム小塊（～50mm）を中量含む。
- 第15層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含み、ローム小塊（～50mm）を多量に含む。

第16層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～50mm）を少量含む。

第17層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～50mm）を少量含む。

第18層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）・ローム小塊（～50mm）を多量に含む。

第165号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）・ローム小塊（～50mm）を多量に含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、ローム小塊（～20mm）を微量含む。

第166号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）・ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）・ローム小塊（～30mm）を中量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）・ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。

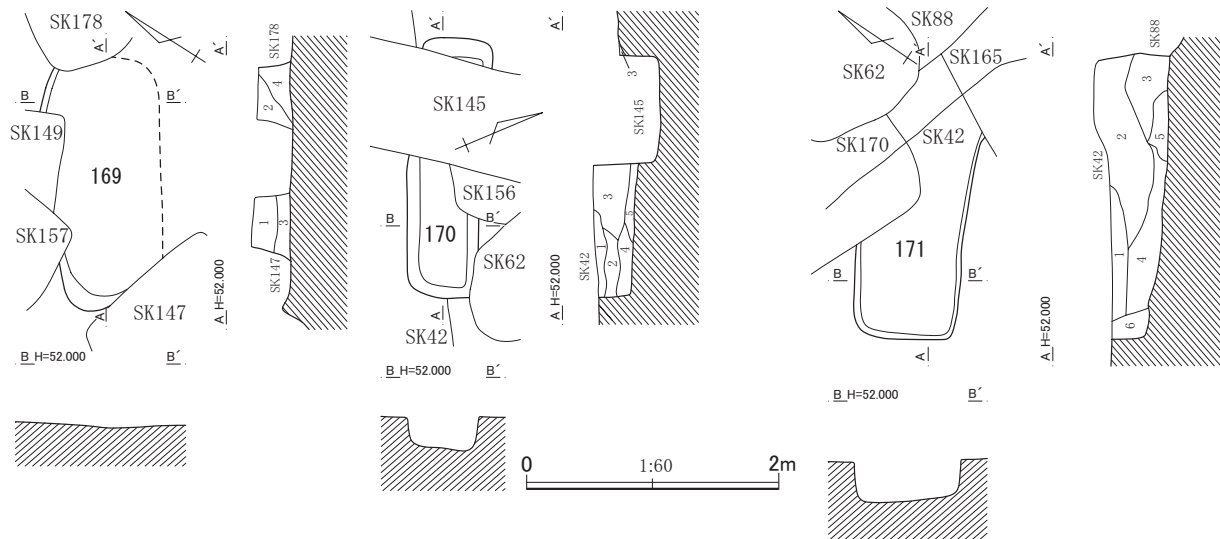
第167号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～3mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含む。

第168号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～8cm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を多量に含み、ローム小塊（～10mm）を中量含む。
- 第6層：暗灰褐色土。ローム小塊（～50mm）を多量に含む。

第729図 第160～168号土坑平面・断面図（2）



第169号土坑土層説明

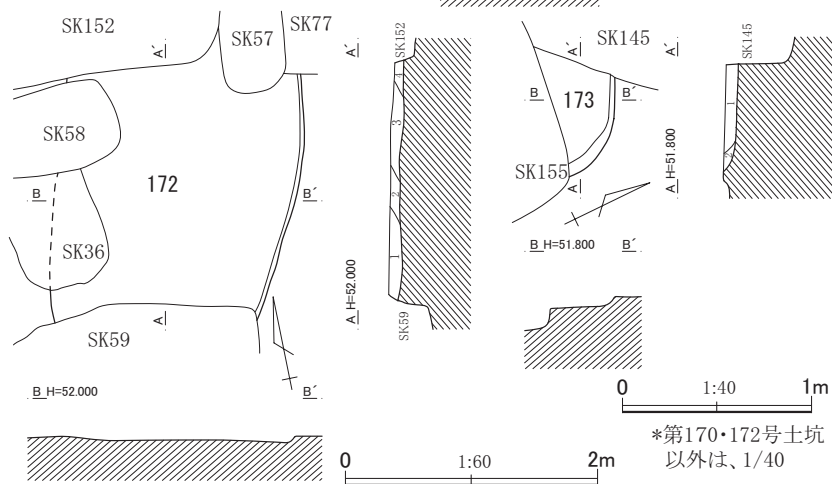
- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を多量に含み、ローム小塊（～10mm）を中量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含み、ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を多量に含み、ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を少量、粘土小塊（～20mm）を微量含む。

第170号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を中量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を中量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）を微量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含み、ローム小塊（～30mm）を微量含む。

第171号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を中量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を多量に含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。



- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～20mm）を少量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、ローム小塊（～20mm）を中量含む。
- 第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～20mm）を少量含む。

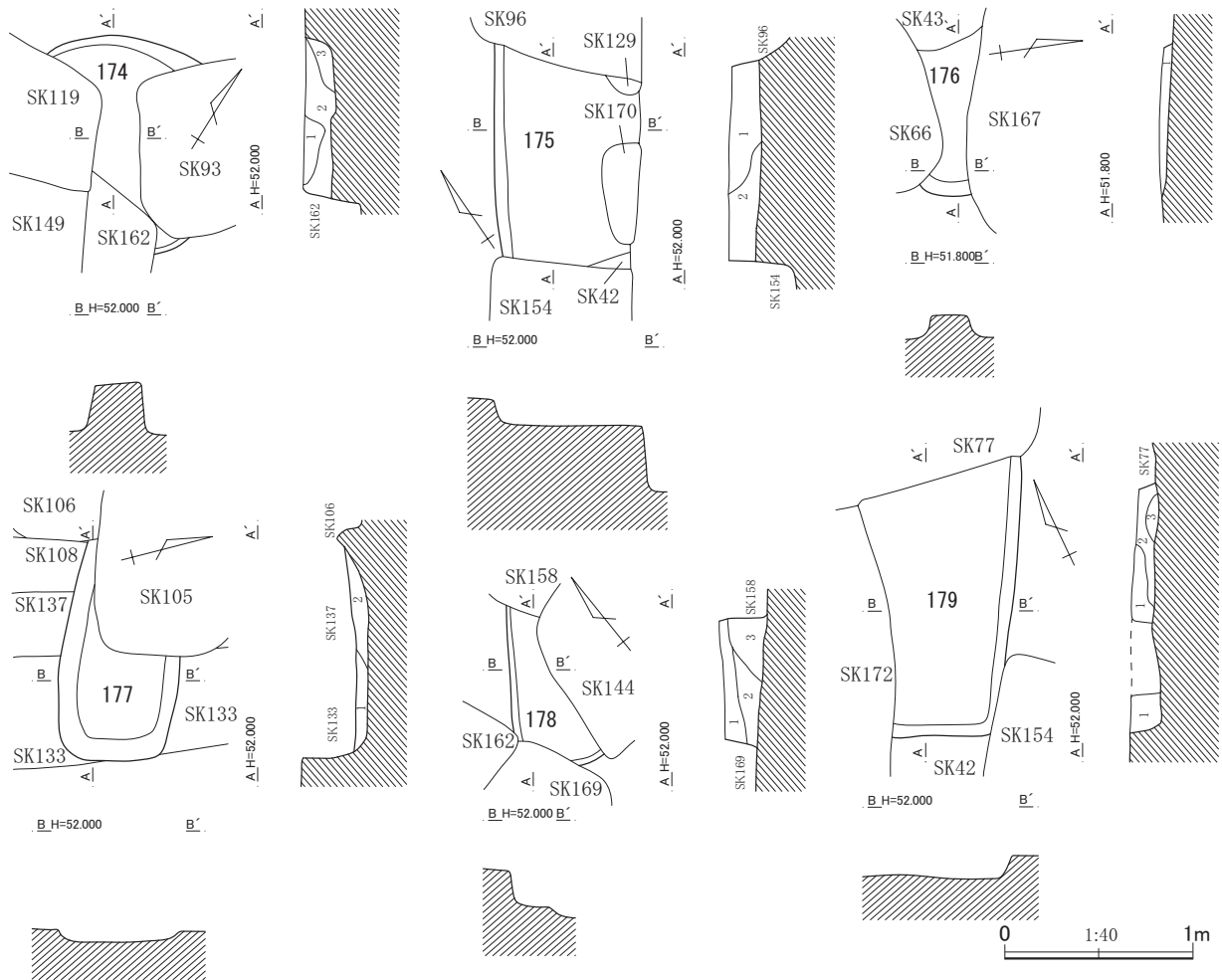
第172号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。

第173号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を少量含む。
- 第2層：明褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム小塊（～40mm）を少量含む。

第730図 第169～173号土坑平面・断面図



第174号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～50mm）を微量含む。

第175号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）・ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含む。

第176号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）・ローム粒（～8mm）を少量含む。

第177号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。

- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。

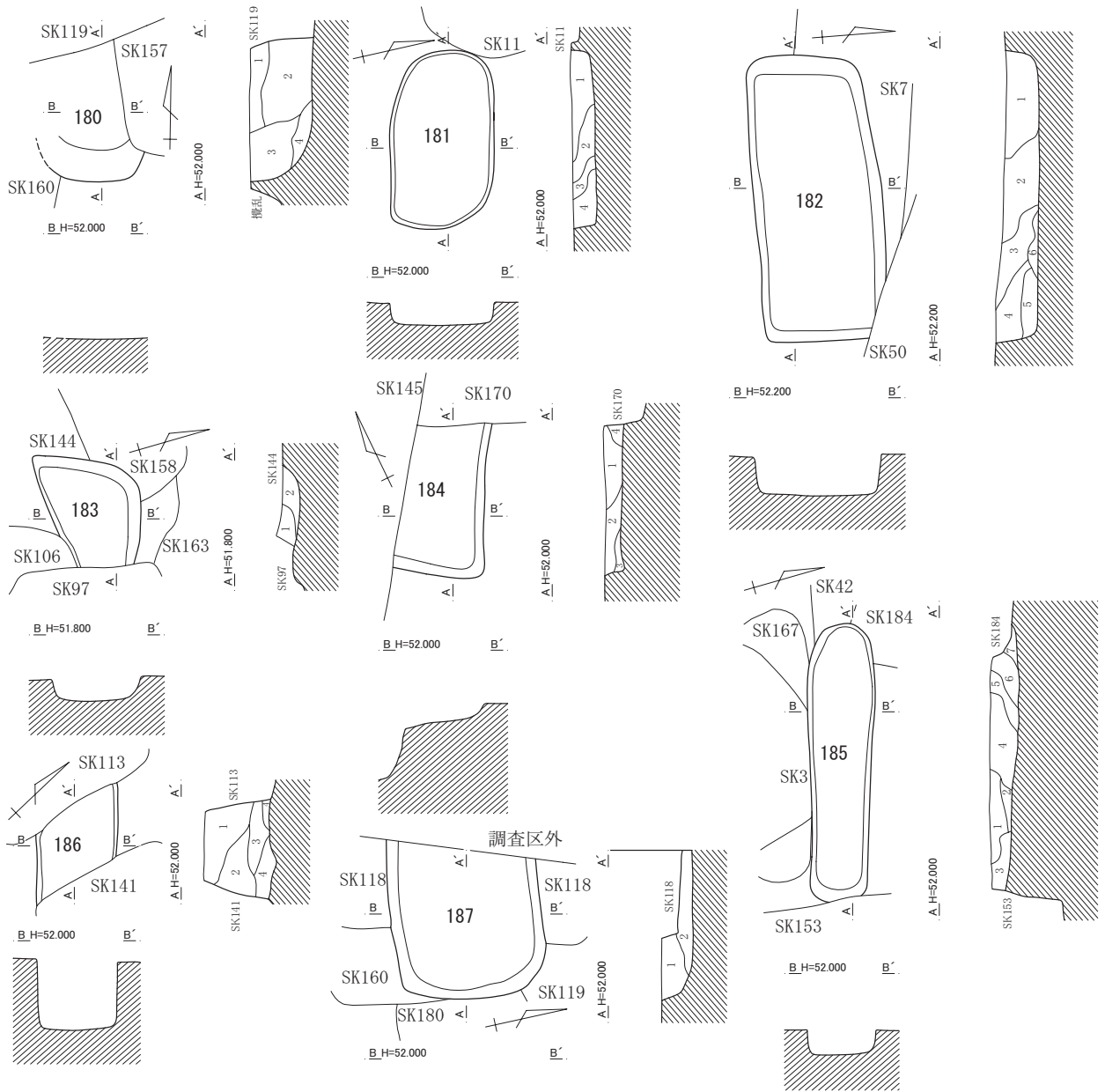
第178号土坑土層説明

- 第1層：明褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム小塊（～10mm）を中量含み、ローム小塊（～30mm）を多量に含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）・ローム小塊（～20mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を中量含み、ローム小塊（～50mm）を少量含む。

第179号土坑土層説明

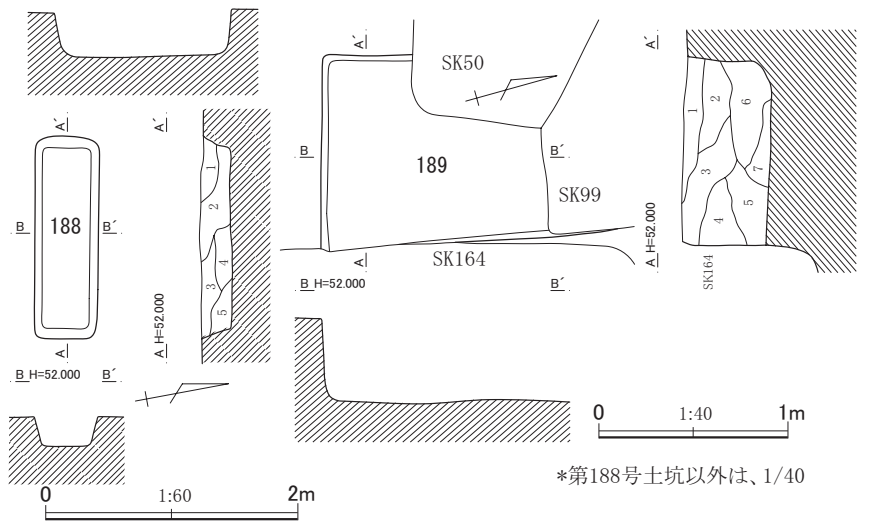
- 第1層：暗褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒（～8mm）を多量に含み、ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）・ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を少量含む。

第731図 第174～179号土坑平面・断面図



第180号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を多量に含み、ローム小塊（～10mm）を中量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）・ローム小塊（～50mm）を多量に含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を多量に含み、ローム小塊（～20mm）を中量、焼土粒（～5mm）を少量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を少量含む。



*第188号土坑以外は、1/40

第732図 第180～189号土坑平面・断面図（1）

C地点

第181号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含み、焼土粒（～3mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～3mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を多量に含み、焼土粒（～3mm）を少量含む。

第182号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～8cm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。
- 第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。

第183号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含む。

第184号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を多量に含み。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含む。

第185号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を少量、焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含み、ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含み、ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。
- 第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。
- 第7層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を微量含む。

第186号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を多量に含み、ローム小塊（～10mm）を微量、焼土粒（～3mm）を中量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を多量に含み、ローム小塊（～10mm）を微量、焼土粒（～3mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）・焼土粒（～3mm）を中量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）を多量に含む。

第187号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）・焼土小塊（～10mm）を多量に含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）・焼土小塊（～50mm）を多量に含む。

第188号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）を中量、焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を中量含む。

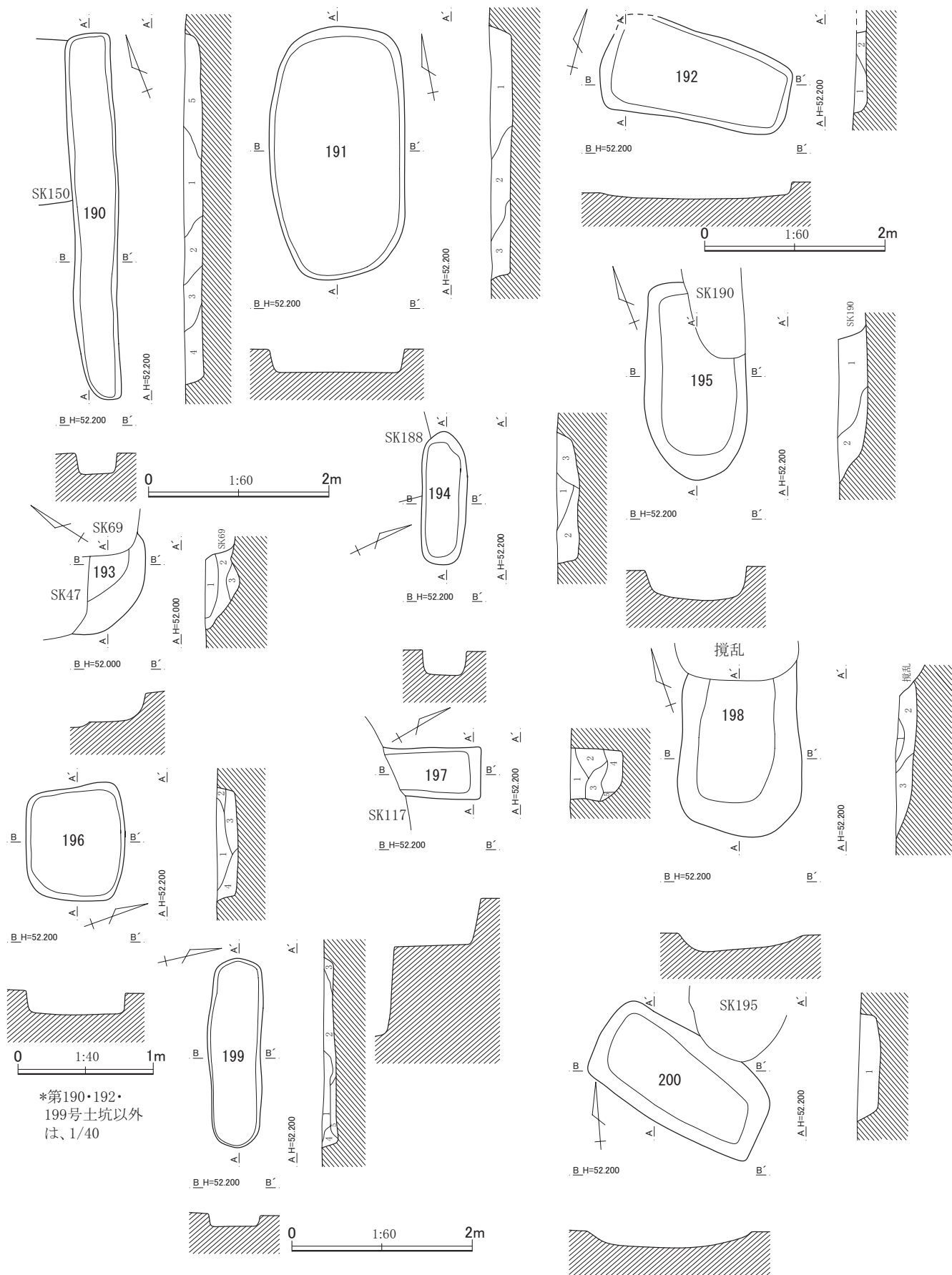
第189号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を微量、粘土小塊（～20mm）・焼土粒（～5mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含み、ローム小塊（～20mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含み、ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～5mm）を少量、粘土小塊（～10mm）を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含み、ローム小塊（～10mm）を中量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）を少量含む。
- 第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。
- 第7層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含み、ローム小塊（～50mm）を微量含む。

第733図 第180～189号土坑平面・断面図（2）

第317表 C地点・土坑計測および観察表(5)

番号	グリッド	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	出土遺物	備考
155	N10	隅丸長方形	295×131	40	土師器片、須恵器片、土錘小片。	SK161・173を切り、SK4・43・67・85・97・105・106・109・145に切られる。
156	N10	楕円形?	67×(37)	40	土師器片、須恵器片、軟質陶器片、埴輪片。	SK170を切り、SK62・145に切られる。
157	M10	隅丸長方形?	(88)×71	37		SK168・169・180を切り、SK119・149に切られる。
158	N10	不整形	(110)	24	土師器片。	SK163・178・183を切り、SK44・144に切られる。
159	N10	不明	(54)×(54)	18		SK42・145・154に切られる。
160	M10	不明	(114)×(43)	28	土師器片、軟質陶器片。	SK180・187を切り、SK118・119に切られる。
161	N10	隅丸長方形?	(75)×58	25	土師器小片。	SK4・44・143・155に切られる。
162	M10、N10	隅丸長方形?	(52)×44	27	土師器片。	SK174・178を切り、SK119・149に切られる。
163	N10	不明	(60)	21		SK183を切り、SK97・144・158に切られる。
164	N11	隅丸長方形	254×97	75	土師器片、須恵器片。	SK189を切り、SK113に切られる。
165	N10	隅丸長方形?	(90)×66	44	土師器片、軟質陶器片。	SK171を切り、SK42・88・153に切られる。
166	N10	楕円形	(100)×58	34	土師器片。	SK97・133・177に切られる。
167	N10	長楕円形	164×56	4	カワラケ1点。土師器片、軟質陶器片。	SK176・185を切り、SK3・135に切られる。中世。
168	M10	隅丸長方形?	(112)×(30)	20	土師器小片。	SK37・147・157・169に切られる。
169	M10、N10	楕円形?	(132)×(64)	19	土師器片。	SK168を切り、SK147・149・157に切られる。
170	N10	隅丸長方形?	207×57	35	土師器片、内耳鍋片。	SK171・175・184を切り、SK42・62・145・156に切られる。
171	N10	隅丸長方形?	(152)×56	39	土師器小片。	SK42・62・88・165・170に切られる。
172	N10	楕円形?	(225)×189	8	土師器片、軟質陶器片、埴輪片。	SK179を切り、SK36・57～59・77・152に切られる。
173	N10	不明	(64)×(37)	6		SK145・155に切られる。
174	M10、N10	円形?	(122)	16		SK93・119・162に切られる。
175	N10	不明	(104)×(77)	17	土師器小片、埴輪片。	SK42・96・129・145・154・170に切られる。
176	N10	不明	(94)×(28)	5		SK43・66・167に切られる。
177	N10	隅丸長方形?	(115)×63	6	土師器片。	SK166を切り、SK105・106・108・133に切られる。
178	N10	不明	(89)×(48)	25	土師器片。	SK144・158・162に切られる。
179	N10	隅丸長方形?	(138)×(66)	12	土錘1点。土師器片、須恵器片。	SK77・154・172に切られる。
180	M10	不明	(86)×(52)	38	土師器小片。	SK187を切り、SK119・157・160に切られる。
181	N11	楕円形	107×63	14	土錘5点。土師器片。	
182	M11、N11	隅丸長方形	173×77	21	土師器片。	SK7・50に切られる。
183	N10	不明	(66)×56	10		SK97・106・144・158・163に切られる。
184	N10	長方形?	(89)×(48)	9	土師器小片。	SK185を切り、SK42・145・170に切られる。
185	N10	長楕円形	(168)×37	16	土師器片、須恵器片、軟質陶器片。	SK3・42・153・167・184に切られる。
186	N11	不明	(47)×48	40	坏1点。土師器片。	SK113・141に切られる。
187	M10	隅丸長方形?	(90)×92	19		SK118・119・160・180に切られる。
188	N10	隅丸長方形	161×50	25	土師器片。	SK194を切る。
189	N11	長方形?	(118)×(102)	46	土師器片、須恵器片、磨石片。	SK50・99・164に切られる。
190	O10・11	隅丸長方形	408×50	21	土師器片、須恵器片、軟質陶器片、土錘小片。	SK195・208・213・215・232を切り、SK150に切られる。
191	O11	楕円形	186×100	14	土師器片、須恵器片。	SK236を切る。
192	M10	隅丸長方形	210×98	12	土師器片、須恵器片(羽釜片含む)、軟質陶器片。	



第734図 第190~200号土坑平面・断面図(1)

第190号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を少量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）を少量、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を少量、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第191号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を微量、焼土粒（～5mm）を少量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～5mm）を少量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。

第192号土坑土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒（～2mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒（～1mm）・ローム小塊（～20mm）を微量含む。

第193号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含み、ローム小塊（～30mm）を少量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含み、ローム小塊（～50mm）を少量含む。

第194号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を少量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）・ローム小塊（～50mm）を少量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）・ローム小塊（～10mm）を少量含む。

第195号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～20mm）を少量含む。

第196号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・焼土粒（～5mm）を中量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を微量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。

第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を少量含む。

第197号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を微量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を少量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～50mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。

第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。

第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含む。

第198号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を少量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム小塊（～30mm）を多量に含む。

第199号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含み、焼土粒（～3mm）を微量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含み、焼土粒（～3mm）を微量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含み、焼土粒（～3mm）を微量含む。

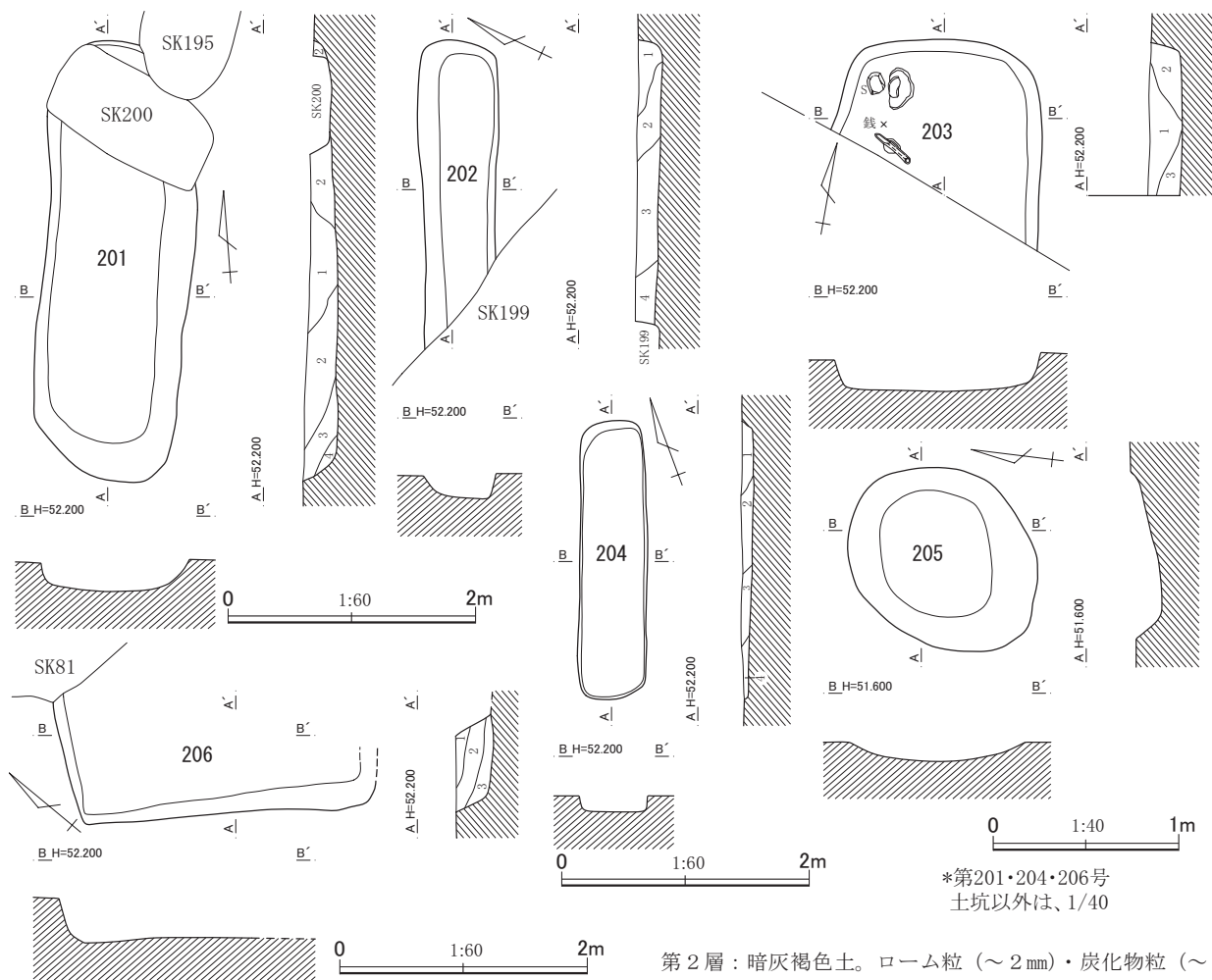
第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含み、焼土粒（～3mm）を微量含む。

第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、焼土粒（～3mm）を微量含む。

第200号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～100mm）を少量含む。

第735図 第190～200号土坑平面・断面図（2）



第201号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む、焼土小塊（～10mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を微量含む、ローム小塊（～10mm）を少量含む。

第202号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含む。

第203号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～6mm）を少量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）・炭化物粒（～1mm）を少量焼土粒（～6mm）を微量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含む、焼土粒（～1mm）を微量含む。

第204号土坑土層説明

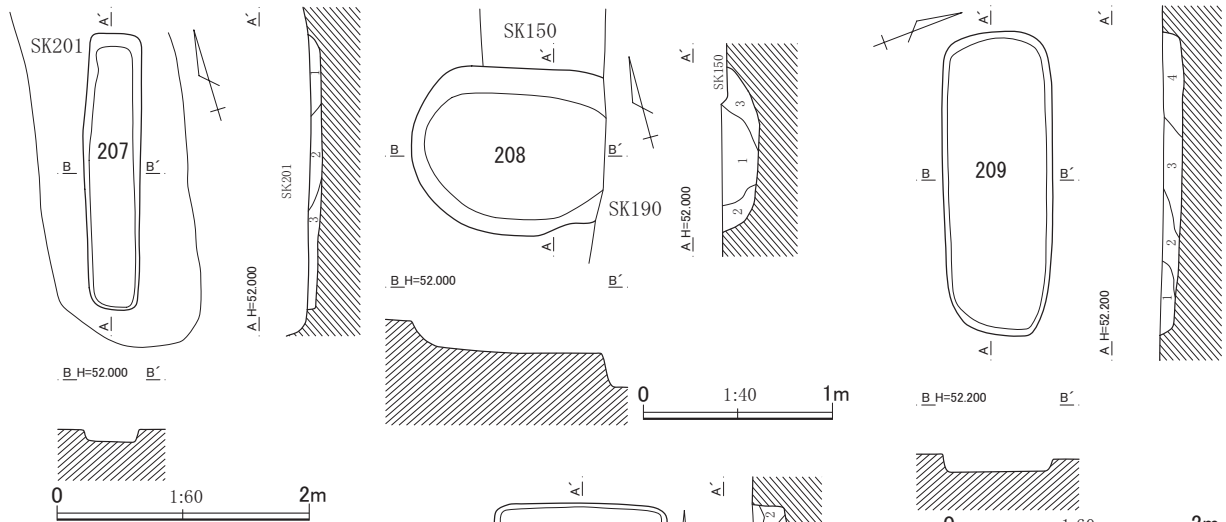
- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）・焼土粒（～3mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含む、焼土粒（～3mm）を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。

第206号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒（～1mm）・焼土粒（～2mm）を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒（～4mm）を中量含む、ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～2mm）を少量含む。
- 第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～0.5mm）・焼土粒（～2mm）を中量含む、ローム小塊（～30mm）を少量含む。

*第201・204・206号土坑以外は、1/40

第736図 第201～206号土坑平面・断面図



第207号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を中量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～20mm）を少量含む。

第208号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む、ローム小塊（～20mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む、ローム小塊（～20mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～20mm）を微量含む。

第209号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含む、ローム粒（～5mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含む、ローム小塊（～20mm）・焼土粒（～3mm）を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む、焼土粒（～3mm）を微量含む。

第210号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む、ローム小塊（～20mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含む、焼

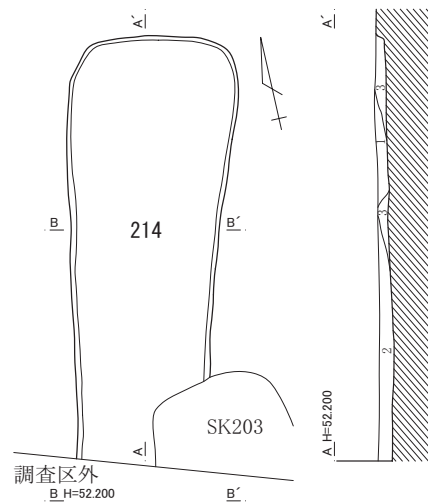
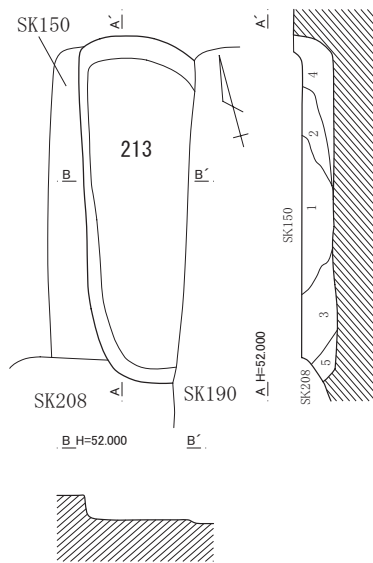
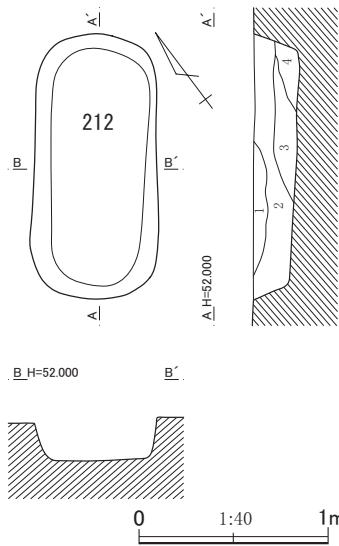
- 土粒（～5mm）を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含む、ローム小塊（～20mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～20mm）を微量含む。
- 第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を微量含む。
- 第7層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を微量含む、ローム小塊（～20mm）を少量含む。
- 第8層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）・ローム小塊（～80mm）を微量含む。
- 第9層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含む。
- 第10層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）・ローム小塊（～20mm）を少量含む。

第211号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む、ローム小塊（～10mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。

*第207・209・210号土坑は、1/40

第737図 第207～211号土坑平面・断面図



第212号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含む、ローム小塊（～20mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）・ローム小塊（～10mm）を少量含む。

第213号土坑土層説明

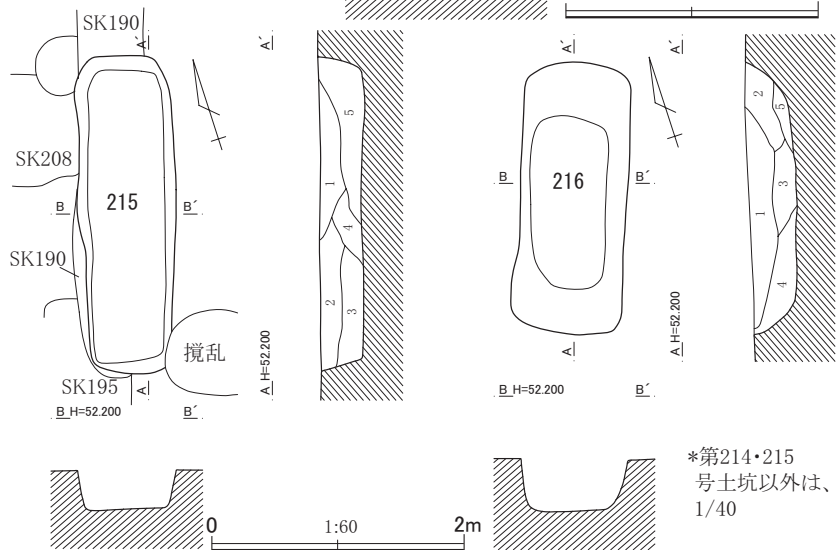
- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む、ローム小塊（～50mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む、ローム小塊（～50mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む、ローム小塊（～30mm）を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を微量含む。

第214号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を中量含む、ローム小塊（～10mm）を少量、焼土粒（～2mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）を少量含む、焼土粒（～1mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。粘土粒（～1mm）を中量含む、焼土粒（～2mm）を少量含む。

第215号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む、ローム小塊（～50mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を中量含む。



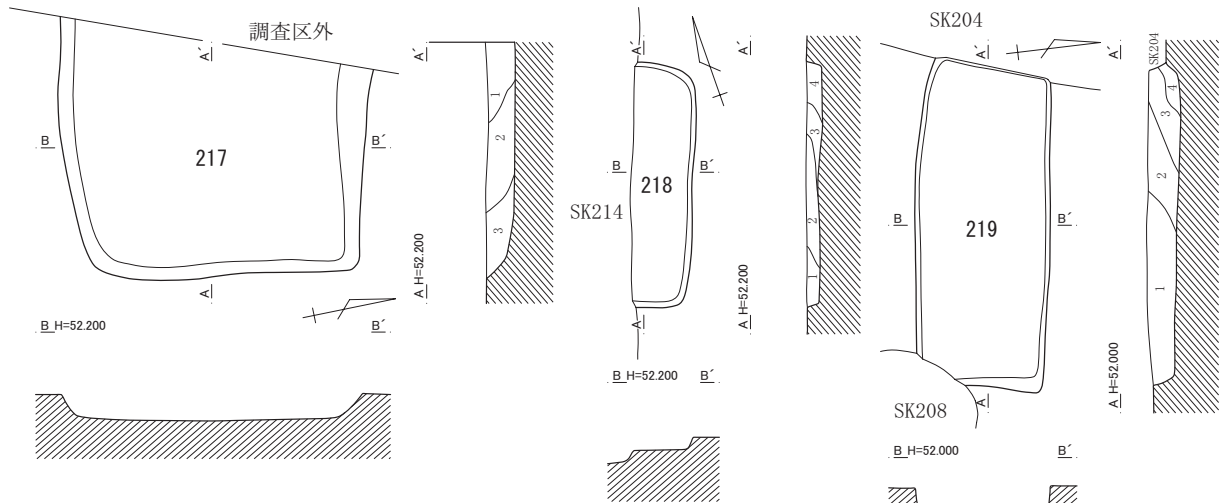
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～20mm）を中量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～50mm）を中量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む、ローム小塊（～30mm）を少量含む。

第216号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む、ローム小塊（～20mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む、ローム小塊（～20mm）を少量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～50mm）を少量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を微量含む、ローム小塊（～50mm）を中量含む。

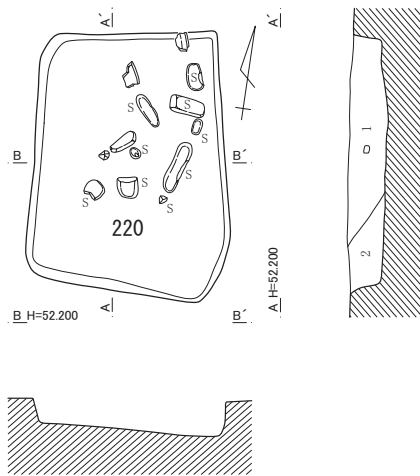
*第214・215号土坑以外は、1/40

第738図 第212～216号土坑平面・断面図



第217号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）・焼土粒（～2mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム小塊（～10mm）を中量含み、ローム小塊（～30mm）・焼土粒（～2mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を少量含み、焼土粒（～1mm）を微量含む。



第218号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）・ローム小塊（～20mm）を中量含み、焼土粒（～2mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）・焼土粒（～2mm）を少量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム小塊（～10mm）を少量含み、ローム小塊（～20mm）・焼土粒（～2mm）を微量含む。

*第221号土坑以外は、1/40

第220号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を中量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を微量含む。

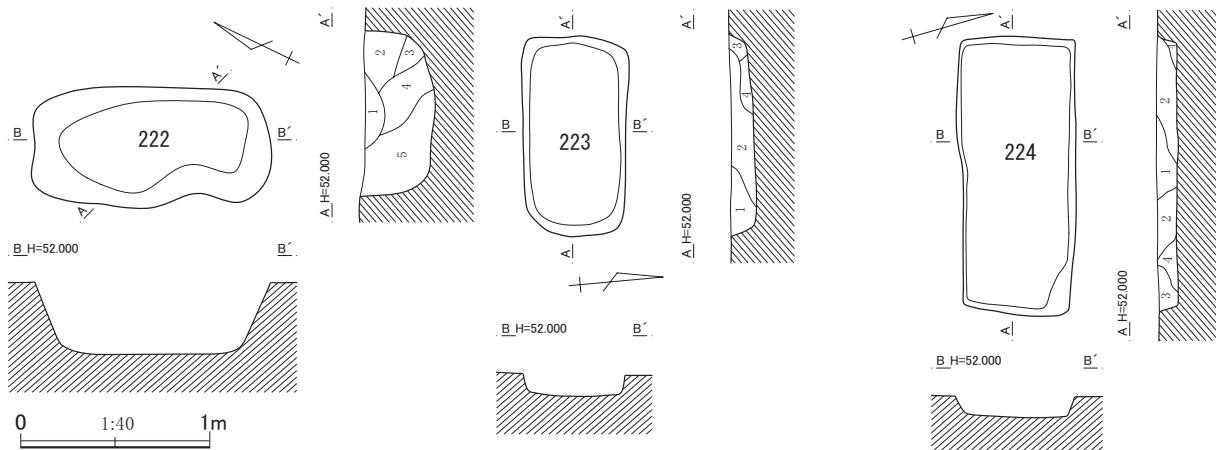
第219号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含み、ローム小塊（～8cm）・焼土粒（～5mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を微量含む。

第221号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・焼土粒（～5mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、焼土粒（～5mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。

第739図 第217～221号土坑平面・断面図



第222号土坑土層説明

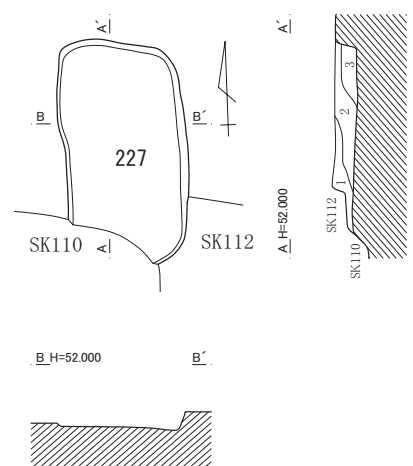
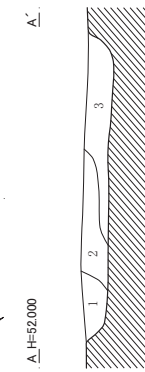
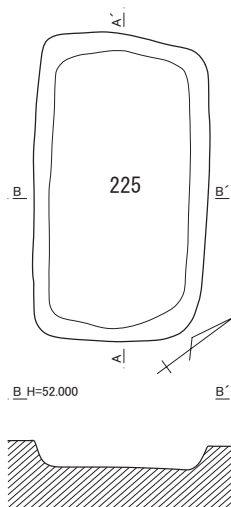
- 第1層：暗褐色土。ローム粒（～3mm）・焼土小塊（～10mm）を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）・焼土粒（～5mm）を少量含む、ローム小塊（～20mm）微量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を少量含む、焼土小塊（～10mm）を微量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む、ローム小塊（～20mm）・粘土小塊（～50mm）を微量含む。
- 第5層：暗褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含む、焼土粒（～5mm）を少量、ローム小塊（～10mm）・炭化物粒（～5mm）を微量含む。

第223号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を微量含む、ローム小塊（～20mm）を少量、粘土小塊（～30mm）を中量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）・ローム小塊（～10mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含む。

第224号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含む、ローム小塊（～10mm）を微量、粘土粒（～5mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含む、ローム小塊（～10mm）を少量、粘土粒（～5mm）を微量含む。



*第224号土坑以外は、1/40

- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含む、ローム小塊（～20mm）を中量含む。第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を多量に含む、ローム小塊（～20mm）を中量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を多量に含む、ローム小塊（～20mm）を少量含む。

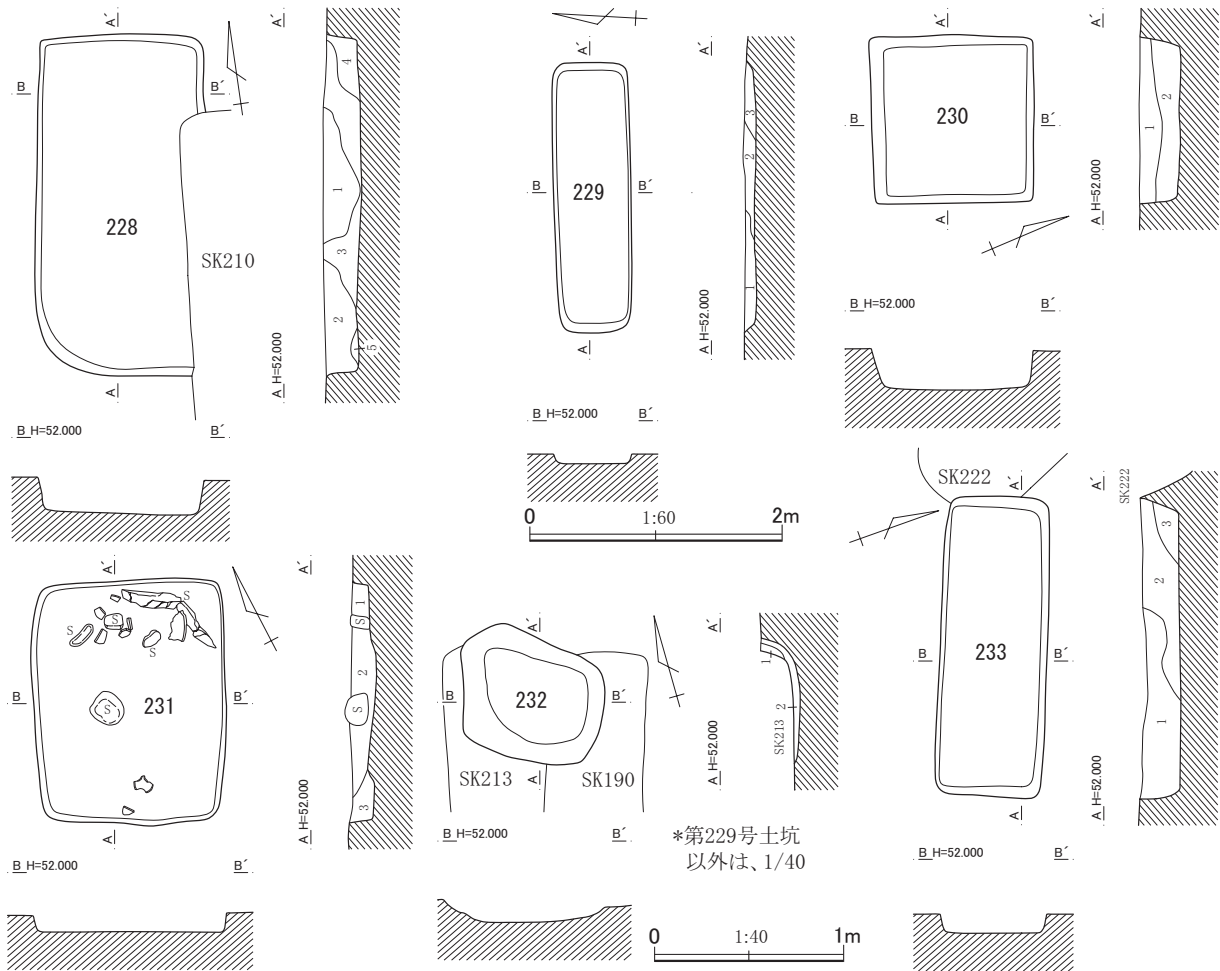
第225号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む、粘土粒（～5mm）を微量含む。

第227号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を中量含む。

第740図 第222～225・227号土坑平面・断面図



第228号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・焼土粒（～5mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～20mm）を少量含む。

第229号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第230号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。

- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・焼土粒（～5mm）を少量含む。

第231号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。

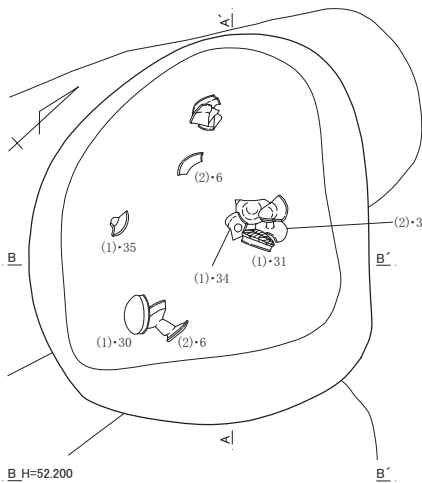
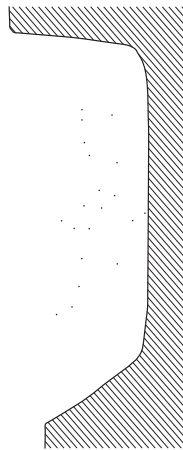
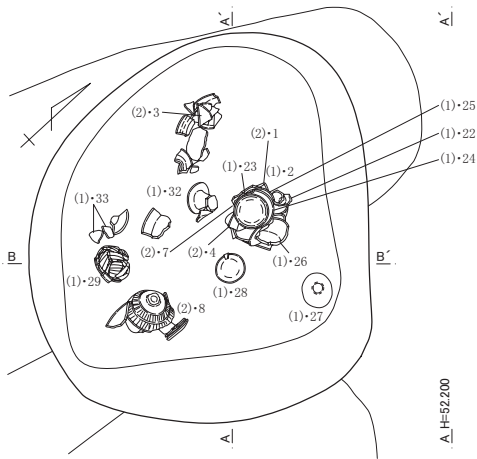
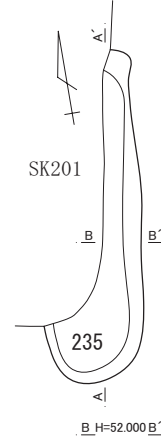
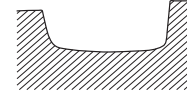
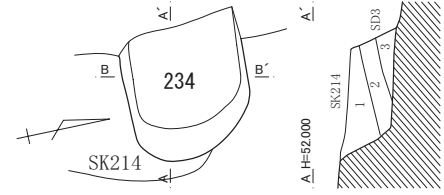
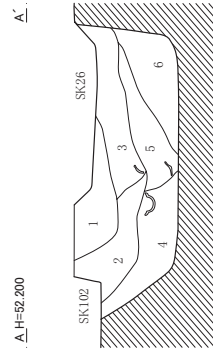
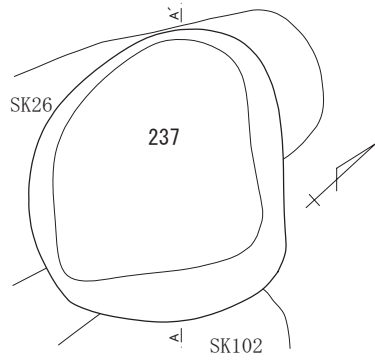
第232号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を微量含む。

第233号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を多量に含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第741図 第228～233号土坑平面・断面図



第234号土坑土層説明

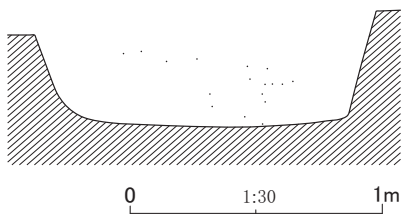
- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）・ローム小塊（～20mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を中量含む、ローム小塊（～10mm）を微量含む。

第235号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を微量含む、ローム小塊（～20mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む、ローム小塊（～20mm）を微量含む。

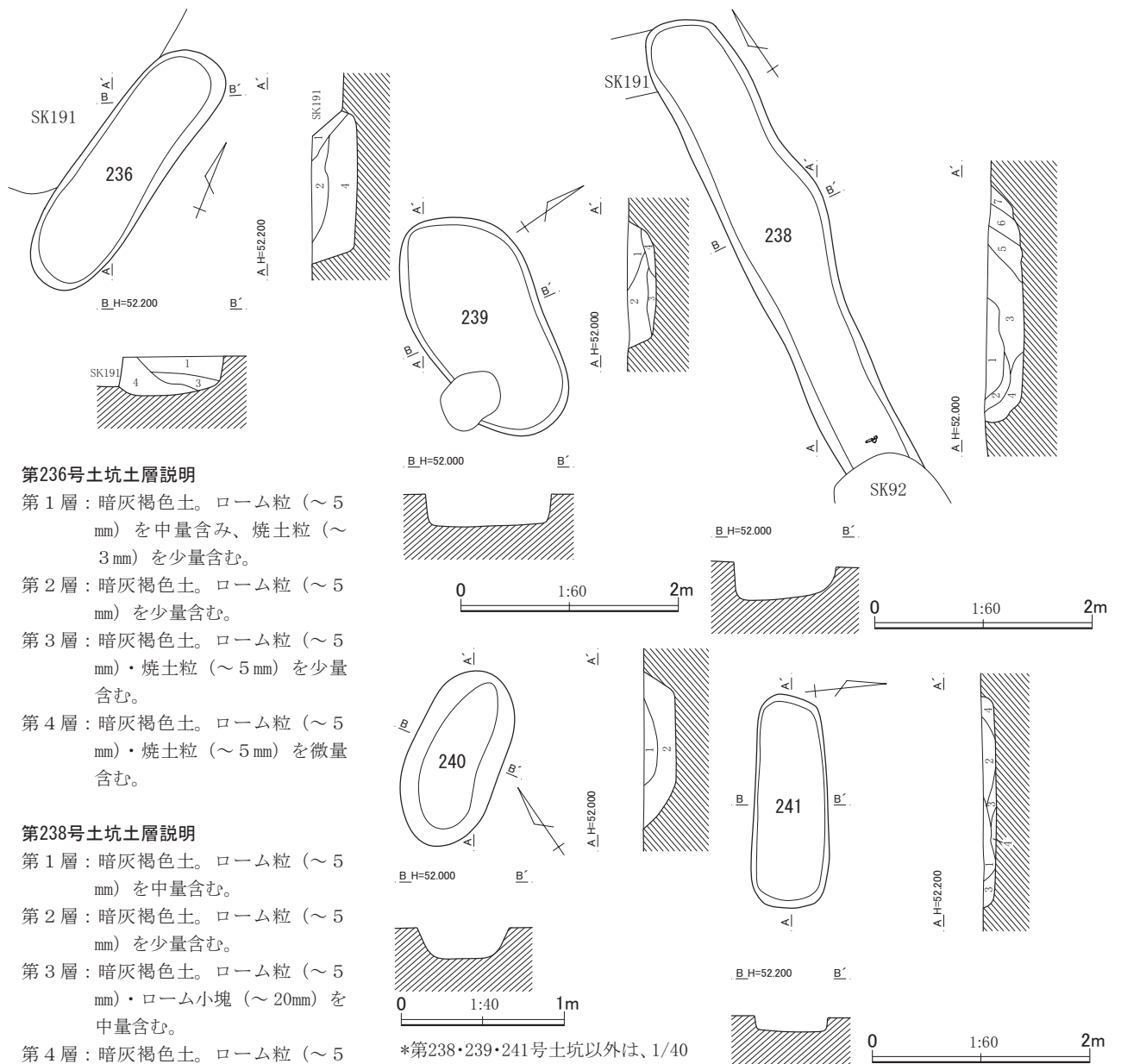
第237号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）・ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第3層：明灰褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒（～0.5mm）を中量含む、ローム粒（～2mm）を少量含む。
- 第4層：明褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム小塊（～10mm）を多量に含む、ローム小塊（～40mm）を中量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）・ローム小塊（～30mm）を少量含む。
- 第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）を少量含む、ローム小塊（～10mm）を微量含む。



*第237号土坑の拡大図以外は、1/40

第742図 第234・235・237号土坑平面・断面図



第236号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、焼土粒（～3mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・焼土粒（～5mm）を少量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。

第238号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～20mm）を中量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を微量含み、ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を中量含む。
- 第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第7層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を少量含む。

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、ローム小塊（～30mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）・ローム小塊（～10mm）を中量含む。

第239号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含む。ローム小塊（～10mm）を中量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）を中量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。

第240号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）・焼土粒（～1mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を少量含み、焼土粒（～1mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を中量含み、焼土粒（～2mm）を少量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）・焼土粒（～1mm）少量含む。

第241号土坑土層説明

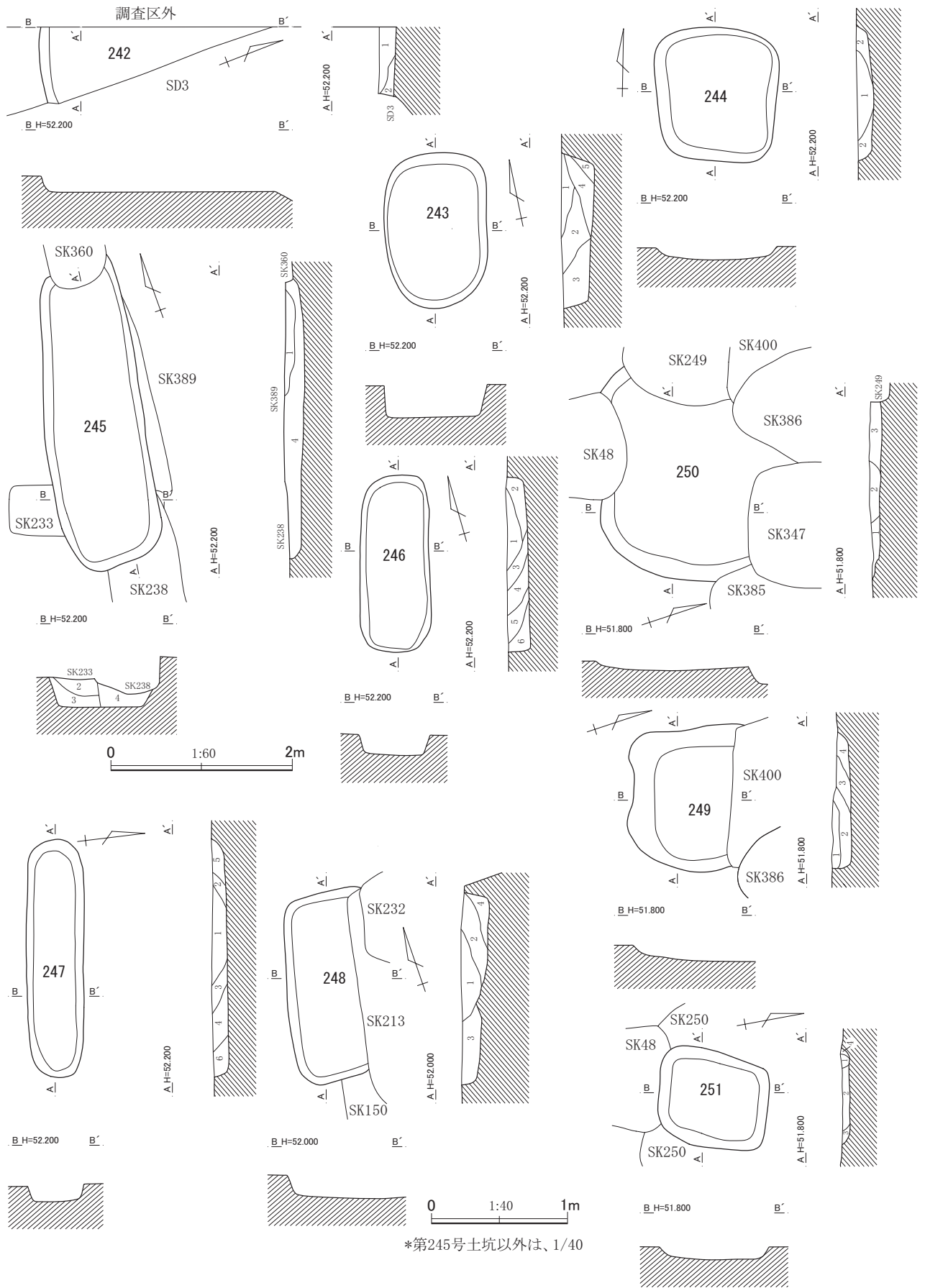
- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、ローム小塊（～30mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）・ローム小塊（～10mm）を中量含む。

第743図 第236・238～241号土坑平面・断面図

C地点

第318表 C地点・土坑計測および観察表(6)

番号	グリッド	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	出土遺物	備考
193	N10	不明	(88)	25	土師器小片。	SK47・69に切られる。
194	N10	長楕円形	98×33	16	土師器片。	SK188に切られる。
195	011	楕円形	144×75	22		SK200・201・215を切り、SK190に切られる。
196	N10	隅丸方形	84×73	16	土師器片。	SK287を切る。
197	N10・11	隅丸長方形?	(65)×39	38	土師器片、土錘小片。	SK117に切られる。
198	011	楕円形	(115)×97	13	土師器片。	
199	011	長楕円形	210×59	14	土師器片。	SK202を切る。
200	011	隅丸長方形	139×72	16	土師器片。	SK201を切り、SK195に切られる。
201	011	長楕円形	353×120	24	土師器片。	SK207・211・235を切り、SK195・200に切られる。
202	011	長楕円形	(164)×39	12	土師器片。	SK199に切られる。
203	L13、M13	楕円形?	(110)×116	18	カワラケ1点。土師器片。土錘小片。古銭。人骨片。	SK214を切る。中世。
204	010・11	長楕円形	226×55	8	土師器片、灰釉陶器片。	SK219を切る。
205	P7	不整円形	114	14	土師器片、須恵器片(羽釜片含む)。	SK413を切る。
206	M12	隅丸方形?	(235)×(130)	30	土師器片。	SK81に切られる。
207	011	隅丸長方形	220×45	10	土師器片。	SK201に切られる。
208	010・11	楕円形	(102)×88	20	土師器小片。	SK213・215・219を切り、SK150・190に切られる。
209	010	長楕円形	240×87	15	土師器片、須恵器片。	SK221・258を切る。
210	010	長方形	214×134	26	土師器片、須恵器片、埴輪片。	SK228を切る。
211	011	隅丸長方形	(120)×72	8	土錘1点。土師器小片。	SK201に切られる。
212	010	楕円形	140×66	22	土師器片、須恵器片。	
213	010・11	長楕円形	184×(54)	17	土師器片、須恵器片。	SK232・248を切り、SK150・190・208に切られる。
214	L12、M12・13	長楕円形	(341)×117	11	土師器片、須恵器片、土錘小片。	SK218・234を切り、SK203に切られる。
215	011	長楕円形	253×79	33	土師器片、須恵器片。	SK428を切り、SK190・195・208に切られる。
216	010・11	長楕円形	144×56	26	土師器片。	
217	L12、M12	隅丸方形?	(124)×158	14	土師器片、灰釉陶器片。	
218	M13	隅丸長方形?	129×(32)	6		SK214に切られる。
219	010・11	長方形?	(168)×72	16	土師器片、須恵器片。	SK204・208に切られる。
220	010	不整長方形	138×101	20	土錘1点。土師器片、須恵器片、土錘小片。	
221	010	長方形?	204×159	20	土師器片。	SK258を切り、SK209に切られる。
222	N9	不整楕円形	126×64	36	土師器片、須恵器片(羽釜片含む)。	SK233を切る。
223	010	隅丸長方形	106×54	12	土師器片。	
224	010	長方形	221×90	16	坏1点。土師器片。	SK259・272を切る。
225	010	隅丸長方形	163×92	14	土師器小片。	
226						欠番
227	N10	楕円形	(115)×65	10	土師器小片。	SK110・112に切られる。
228	010	隅丸長方形	181×89	20	土師器片、須恵器片。	SK210に切られる。
229	09	隅丸長方形	215×62	10	土師器片、須恵器片。	
230	010	方形	89×86	22	土師器片。	
231	010	隅丸方形	130×102	13	土師器片、須恵器片(羽釜片含む)、カワラケ片。	
232	010	不整方形	77×64	21	土師器片、須恵器片。	SK248を切り、SK190・213に切られる。
233	N9	長方形	159×56	21		SK238・245・389を切り、SK222に切られる。
234	M12	楕円形?	(70)×66	28		SK214に切られる。
235	011	長楕円形	172×(52)	26	土師器片。	SK201に切られる。
236	011	長楕円形	171×50	28	土師器片、須恵器片。	SK191に切られる。



第744図 第242～251号土坑平面・断面図（1）

C地点

第242号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含む。
第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）・ローム小塊（～40mm）を少量含む。

第243号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）を微量含む。
第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含む、焼土粒（～1mm）を微量含む。
第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～6mm）・焼土粒（～4mm）を少量含む。
第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）・焼土粒（～4mm）を少量含む。
第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）・焼土粒（～1mm）を微量含む。

第244号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を微量含む、焼土粒（～2mm）を中量含む。
第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）・焼土粒（～2mm）を少量含む。

第245号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む、ローム小塊（～30mm）を中量含む。
第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～30mm）を多量に含む。
第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含む、ローム小塊（～10mm）を少量含む。
第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含む、ローム小塊（～10mm）を少量含む。

第246号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム小塊（～10mm）を微量含む。
第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を微量含む、焼土粒（～2mm）を少量含む。
第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）を少量含む。
第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を少量含む、焼土粒（～2mm）を微量含む。
第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を中量含む、焼土粒（～2mm）を少量含む。
第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を中量含む、焼土粒（～1mm）を微量含む。

第247号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）を少量含む、ローム粒（～2mm）・焼土粒（～1mm）を微量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を少量含む、焼土粒（～2mm）を微量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）を微量含む。

第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を中量含む、焼土粒（～4mm）を少量含む。

第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を中量含む、ローム粒（～6mm）を微量、焼土粒（～2mm）を少量含む。

第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を中量含む、ローム粒（～8mm）・焼土粒（～4mm）を少量含む。

第248号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を中量含む、焼土粒（～3mm）を微量含む。
第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を少量含む。
第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含む。
第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含む、ローム小塊（～10mm）を微量含む。

第249号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含む。
第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含む、ローム小塊（～10mm）を少量、焼土粒（～5mm）を微量含む。
第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～30mm）を中量含む。
第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。

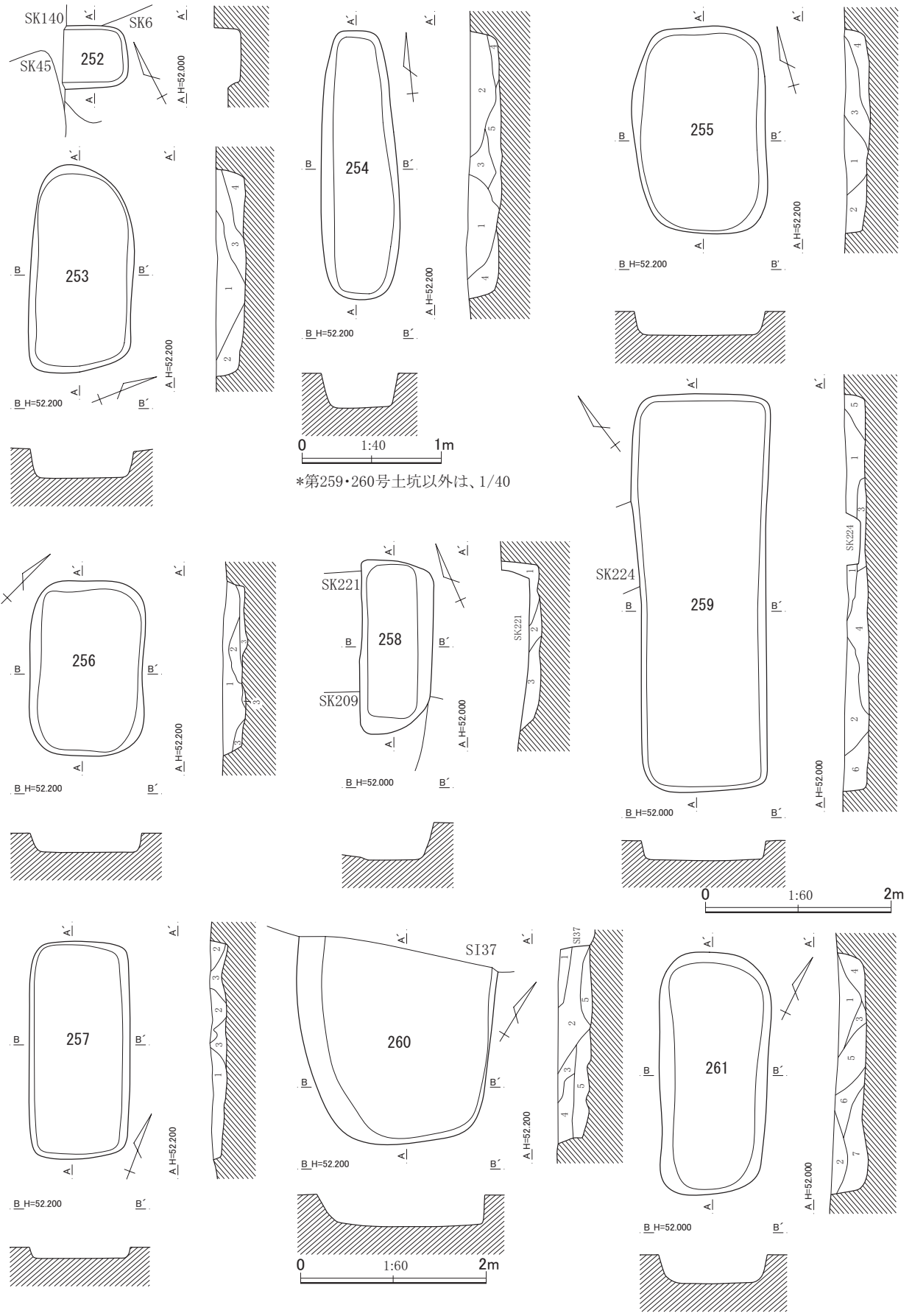
第250号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。
第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含む、ローム小塊（～10mm）を少量含む。
第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を多量に含む。

第251号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。
第2層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～3mm）を少量含む、ローム粒（～5mm）を微量含む。
第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を少量含む。
第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む、ローム小塊（～10mm）を微量含む。

第745図 第242～251号土坑平面・断面図（2）



第746図 第252~261号土坑平面・断面図(1)

C地点

第253号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を微量含み、ローム粒（～8mm）・焼土粒（～2mm）を少量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）・ローム小塊（～15mm）を微量含み、焼土粒（～2mm）を少量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を微量含む。

第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を微量含み、ローム小塊（～15mm）・焼土粒（～2mm）を少量含む。

第254号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を微量含み、ローム小塊（～20mm）を少量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を微量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含み、ローム小塊（～15mm）を微量含む。

第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含む。

第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を微量含む。

第255号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を中量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を少量含む。

第3層：明褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム小塊（～10mm）を中量含み、ローム小塊（～40mm）を少量含む。

第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。

第256号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）・焼土粒（～2mm）を少量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を中量含み、焼土粒（～1mm）を少量含む。

第3層：明褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒（～2mm）・焼土小塊（～10mm）を中量含む。

第257号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を中量含み、焼土粒（～1mm）を微量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）を少量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を多量に含み、焼土粒（～1mm）を微量含む。

第258号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を少量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。

第259号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、ローム小塊（～50mm）を中量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、ローム小塊（～50mm）を中量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～50mm）を少量含む。

第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、ローム小塊（～50mm）を多量に含む。

第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を少量含む。

第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む。

第260号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を少量含み、焼土粒（～1mm）を微量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）・焼土粒（～1mm）を少量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）・焼土粒（～2mm）を少量含む。

第4層：明褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒（～2mm）・ローム小塊（～10mm）を中量含み、焼土粒（～2mm）を少量含む。

第5層：明褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒（～8mm）・ローム小塊（～40mm）を多量に含み、焼土粒（～2mm）を少量含む。

第261号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～6mm）を中量含み、ローム小塊（～15mm）を微量、焼土粒（～2mm）を少量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）を少量含み、ローム粒（～4mm）を微量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）・ローム粒（～6mm）を少量含む。

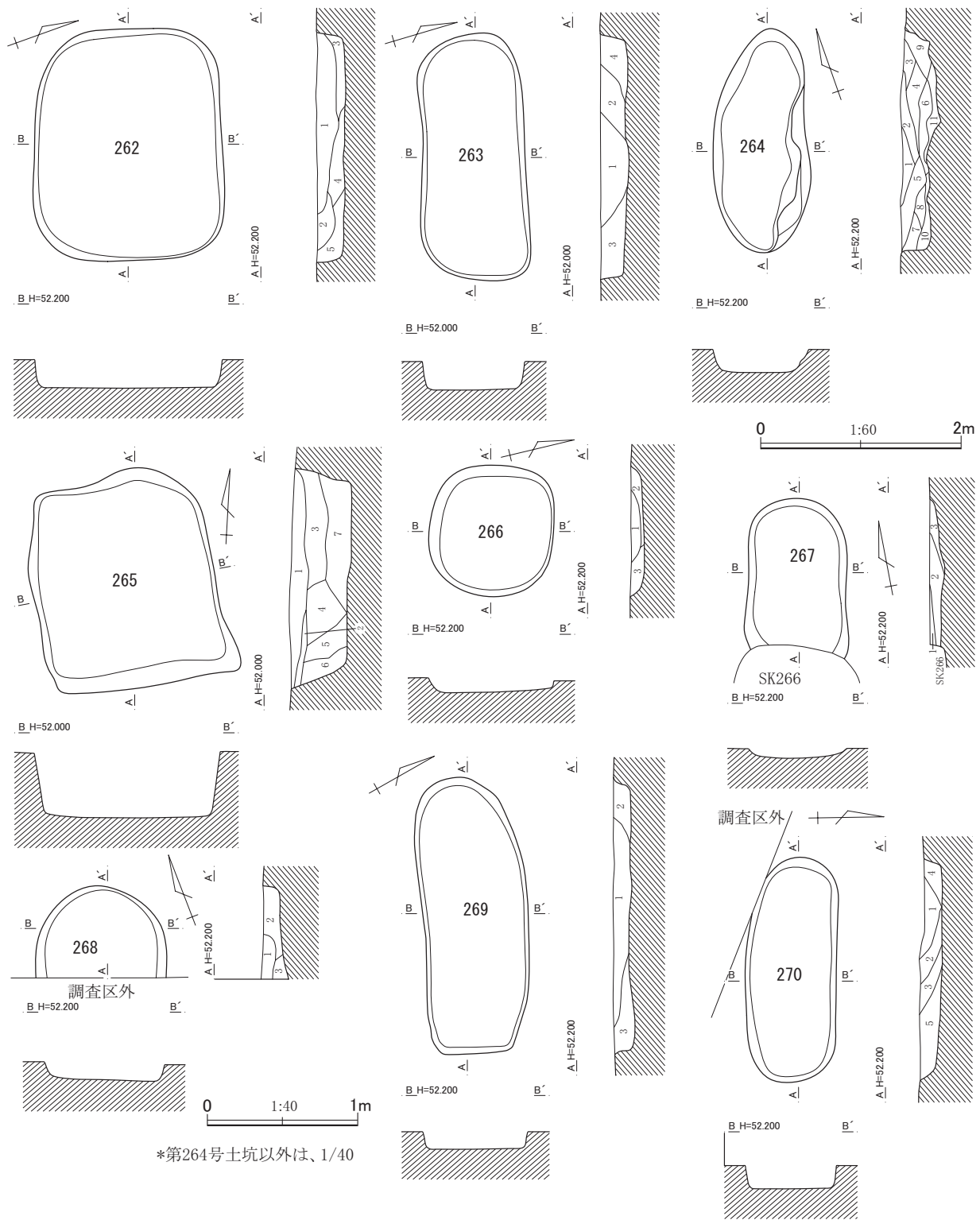
第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）を少量含む。

第5層：明褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒（～4mm）を多量に含み、ローム粒（～8mm）を少量、焼土粒（～1mm）を微量含む。

第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）を中量含み、ローム粒（～4mm）を少量含む。

第7層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）・ローム小塊（～10mm）を中量含み、焼土粒（～2mm）を少量含む。

第747図 第252～261号土坑平面・断面図（2）



第262号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。

- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む、焼土粒（～5mm）を微量含む。

- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を微量含む、焼土粒（～5mm）を少量含む。

- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。

第748図 第262～270号土坑平面・断面図（1）

C地点

第263号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を少量含み、ローム粒（～8mm）・焼土粒（～1mm）を微量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を中量含み、ローム粒（～6mm）・焼土粒（～4mm）を微量含む。

第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）を少量含み、ローム粒（～6mm）を微量含む。

第264号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）を少量含み、焼土粒（～1mm）を微量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を少量含み、ローム粒（～6mm）・焼土粒（～1mm）を微量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）を中量含み、焼土粒（～1mm）を微量含む。

第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）・炭化物粒（～2mm）を少量、焼土粒（～2mm）を微量含む。

第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）を中量含み、ローム小塊（～15mm）・炭化物粒（～2mm）・焼土粒（～2mm）を少量含む。

第6層：明灰褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒（～2mm）を多量に含み、ローム小塊（～10mm）を中量、焼土粒（～2mm）を少量含む。

第7層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を少量含み、ローム小塊（～20mm）を微量含む。

第8層：明灰褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒（～4mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）を少量、焼土粒（～2mm）を微量含む。

第9層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を少量含み、ローム小塊（～20mm）を中量含む。

第10層：明灰褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒（～8mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）を多量に含む。

第11層：明灰褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒（～8mm）・ローム小塊（～40mm）を多量に含む。

第265号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、粘土小塊（～10mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・炭化物小塊（～10mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、粘土小塊（～50mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。

第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・粘土小塊（～10mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・粘土小塊（～10mm）・焼土粒（～5mm）を少量含む。

第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、粘土小塊（～10mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。

第7層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、粘土小塊（～30mm）を少量、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第266号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含む。

第267号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を微量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。

第268号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）・ローム小塊（～10mm）を少量含み、炭化物粒（～5mm）を微量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。

第269号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）を少量含み、炭化物粒（～1mm）・焼土粒（～2mm）を微量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含み、焼土粒（～1mm）を微量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～6mm）・焼土粒（～4mm）を中量含み、粘土粒（～1mm）を微量含む。

第270号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を微量含む。

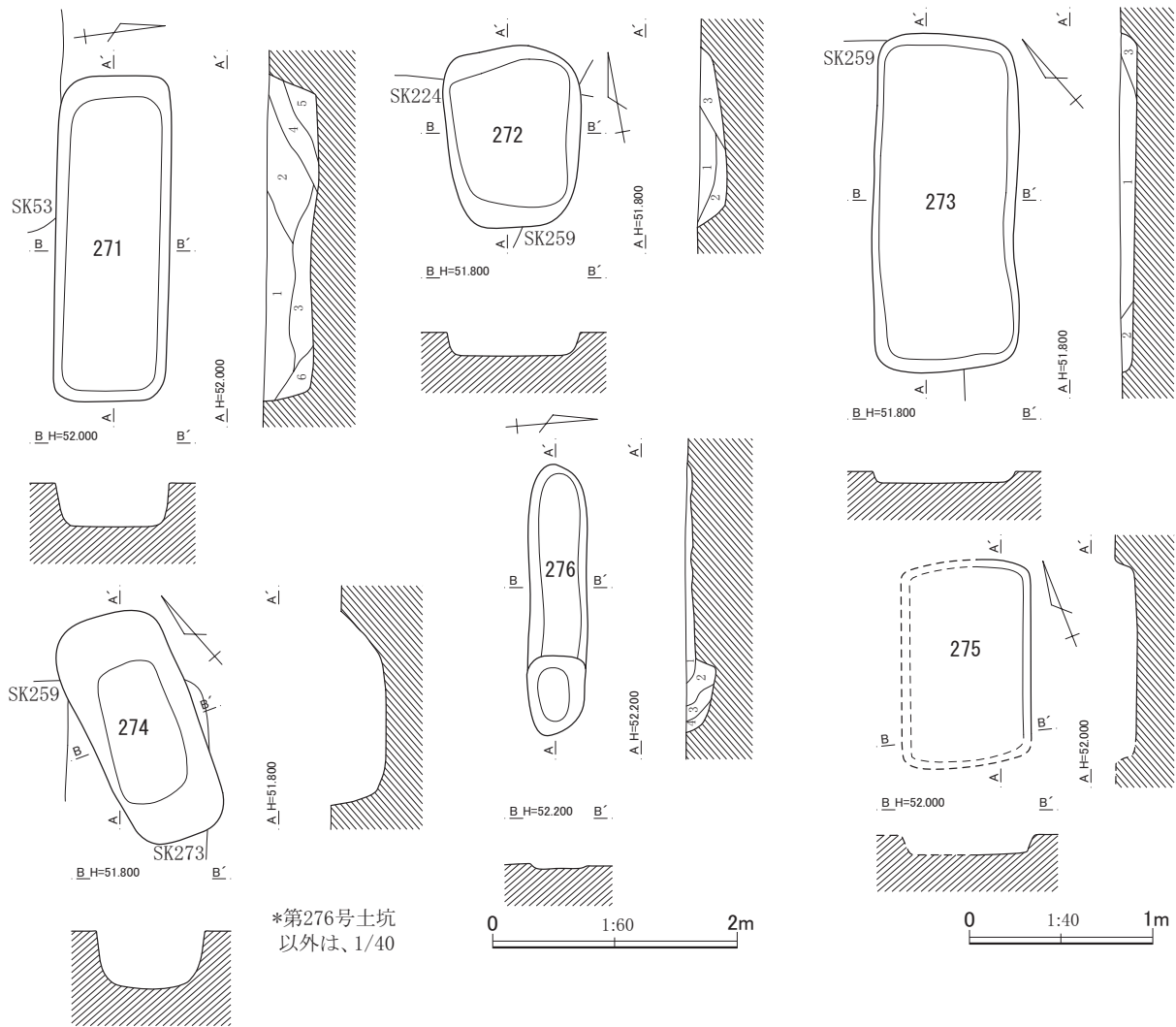
第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）を少量含む。

第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を少量含む。

第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）・ローム小塊（～10mm）を中量含む。

第749図 第262～270号土坑平面・断面図（2）



第271号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を多量に含み、ローム小塊（～10mm）を中量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）・炭化物粒（～4mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。
- 第3層：明灰褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム小塊（～10mm）を多量に含み、ローム小塊（～40mm）を中量含む。
- 第4層：明灰褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒（～4mm）・ローム小塊（～10mm）を多量に含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を中量含む。
- 第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）・ローム小塊（～20mm）を少量含む。

第272号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を中量含み、ローム小塊（～15mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を中量含み、ローム小塊（～30mm）を少量含む。

- 第3層：暗褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒（～4mm）を中量含み、ローム小塊（～15mm）を多量に含む。

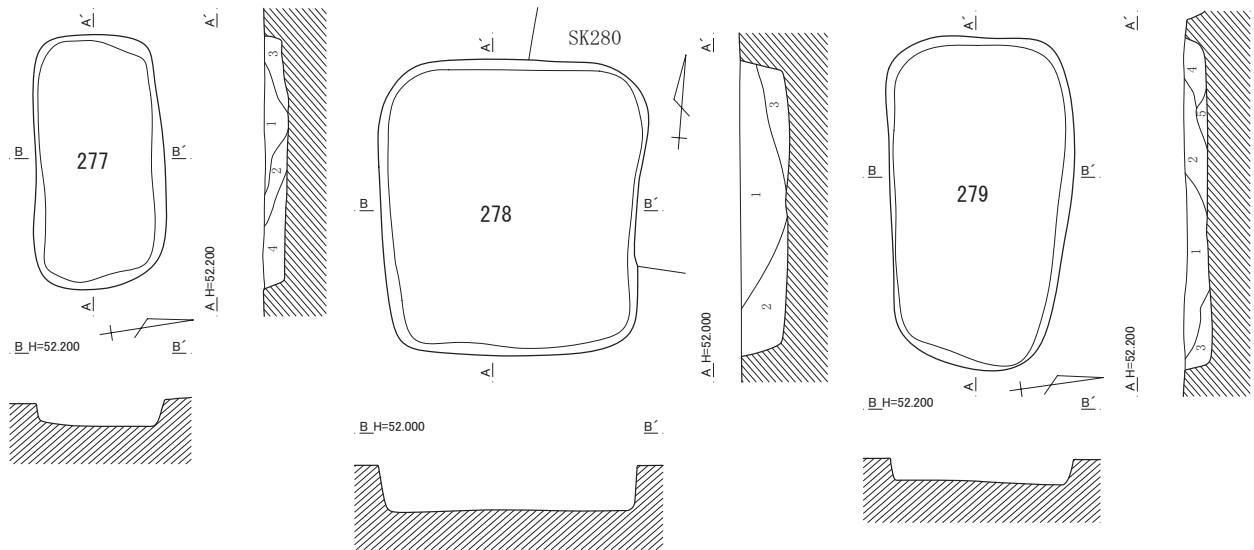
第273号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を中量含み、焼土粒（～4mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）・ローム小塊（～10mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）・ローム小塊（～20mm）を中量含み、焼土粒（～4mm）を少量含む。

第276号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を中量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。

第750図 第271～276号土坑平面・断面図



第277号土坑土層説明

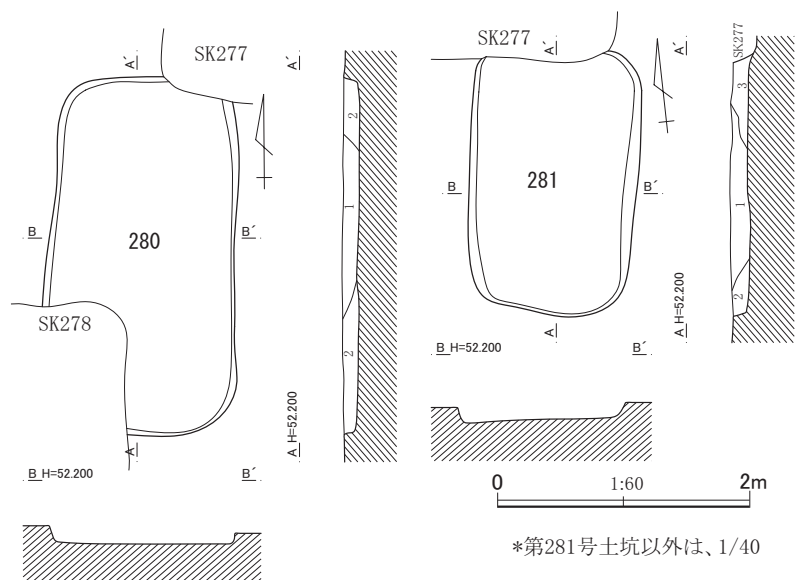
- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）を微量、焼土粒（～4mm）を少量含む。
- 第2層：明灰褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒（～4mm）を多量に含み、ローム小塊（～20mm）・焼土粒（～2mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）・ローム小塊（～40mm）を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）・粘土粒（～1mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。

第278号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）・ローム小塊（～20mm）を中量含み、焼土粒（～4mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）・焼土粒（～1mm）を少量含み、ローム粒（～8mm）を中量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）を少量含む。

第279号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～6mm）を多量に含み、ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第2層：明褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム小塊（～10mm）を多量に含み、ローム小塊（～30mm）を中量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）・ローム小塊（～40mm）を少量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）・ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）・ローム粒（～4mm）を微量含む。



*第281号土坑以外は、1/40

第280号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含み、焼土粒（～4mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～2mm）を少量含む。

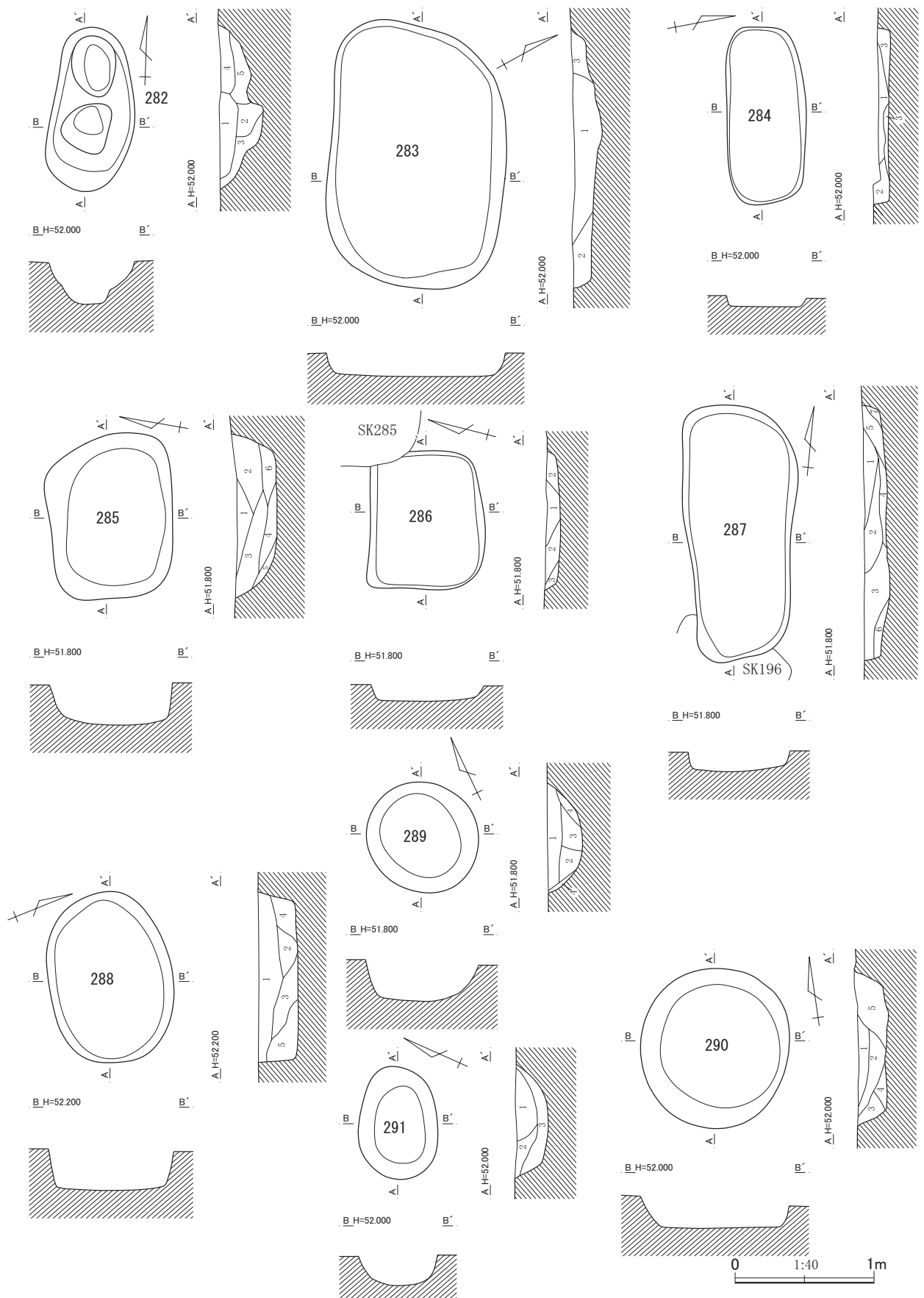
第281号土坑土層説明

- 第1層：明褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒（～2mm）・焼土粒（～4mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）を多量に含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）を微量含み、ローム小塊（～30mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）を微量含む。

第751図 第277～281号土坑平面・断面図

第319表 C地点・土坑計測および観察表(7)

番号	グリッド	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	出土遺物	備考
237	M12・13	不整楕円形	154×135	55	坏10点、高坏12点。土師器片。	SK26・102に切られる。古墳時代後期初頭。
238	N9・10	長楕円形?	(443)×94	33	石臼1点。土師器片、軟質陶器片、馬骨?。	SK245・389を切り、SK92・233に切られる。中世。
239	N9、09	楕円形	222×113	26	土師器片、須恵器片、土錘小片。	
240	N9、09	楕円形	112×56	19	土師器片。	
241	P12	長楕円形	195×67	12	土師器片、軟質陶器片。	
242	L12・13	不明	(174)×(55)	12		
243	N13	楕円形	115×75	22	鉄鏃1点。土師器片、須恵器片。	
244	012	隅丸方形	98×88	13	土師器片。	
245	N9、09	長楕円形	(350)×112	20	土師器片、須恵器片。	SK233・238・389・360に切られる。
246	P11	長楕円形	130×50	15	土師器片。	
247	P11	長楕円形	175×42	11	土師器片、須恵器片、カワラケ片。	
248	010	不整隅丸長方形	138×(74)	19	土錘1点。土師器片。	SK150・213・232に切られる。
249	N9	不整隅丸長方形	102×(75)	14	土師器片、須恵器片。	SK250を切り、SK400に切られる。
250	N9	不整円形	169	9	カワラケ1点。土師器片、軟質陶器片。	SK251を切り、SK48・249・347・385・386・400に切られる。中世。
251	N9	隅丸方形	81×70	5		SK48・250に切られる。
252	N10	隅丸方形?	47×(44)	19	土師器片。	SK6・45・140に切られる。
253	013	楕円形	149×74	21	土師器片。	
254	P12	長楕円形	193×57	22	土師器片、須恵器片。	
255	013・14	隅丸長方形	148×95	18	土師器片。	
256	013・14	隅丸長方形	126×80	18	土師器片。	
257	013、P13	隅丸長方形	156×73	10	土師器片。	
258	010	不整隅丸長方形	123×51	27		SK209・221に切られる。
259	010	隅丸長方形	430×135	25	土師器片、軟質陶器片、近世陶器片、縄文土器片。	SK272～274を切り、SK224に切られる。
260	011・12	楕円形?	(209)×217	37	土師器片。	
261	011	楕円形	174×77	26	土師器片、軽石片。	SK296を切る。
262	010・11、P10・11	隅丸長方形	155×125	18	土師器片。	
263	P10	楕円形	163×68	19	土師器片。	
264	P10	不整楕円形	223×95	35	土師器片。	
265	010	不整隅丸長方形	145×121	36	土師器片、炭化種実片(桃?)。	
266	013	不整円形	87	9	土師器小片。	SK267を切る。
267	013	楕円形	(98)×65	11	土師器小片。	SK266に切られる。
268	N13	円形?	(62)×87	19	土師器片。	
269	P13	長楕円形	184×70	13	須恵器壺1点。土師器片。	平安時代前期後半。
270	P14	楕円形	149×61	13	土師器片、須恵器片。	
271	N10	隅丸長方形	177×63	28		SK53に切られる。
272	010	不整隅丸長方形	99×73	15	土師器片。	SK224・259に切られる。
273	010	隅丸長方形	185×79	8	土師器小片(SK273・274より出土)。	SK274を切り、SK259に切られる。
274	010	隅丸長方形	130×59	29		SK259・273に切られる。
275	N10・11	隅丸長方形	(112)×(71)	12		
276	Q13	長楕円形	221×46	24	土師器片。	
277	Q13	隅丸長方形	202×102	18	土師器片。	SK280・281を切る。
278	Q13・14	隅丸方形	157×135	26		SK280を切る。
279	Q13	楕円形	264×146	21		
280	Q13	隅丸長方形	284×97	12	土師器片、縄文土器片。	SK277・278に切られる。
281	Q13	隅丸長方形	(205)×133	14	土師器片。	SK277に切られる。
282	Q13	楕円形	117×61	31	土師器片、須恵器片。	



第752图 第282~291号土坑平面·断面图(1)

第282号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、焼土粒（～5mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。

第283号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～50mm）を少量含む。

第284号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）・ローム粒（～6mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を中量含む。

第285号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含み、ローム小塊（～50mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を中量含み、ローム小塊（～30mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～6mm）を中量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を微量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～6mm）を中量含み、ローム小塊（～15mm）を微量含む。
- 第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～6mm）を微量含む。

第286号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を少量含み、ローム粒（～8mm）・焼土粒（～1mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）・焼土粒（～4mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）を少量含む。

第287号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を中量含み、ローム小塊（～15mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を少量含み、ローム小塊（～15mm）を微量含む。

- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を微量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を微量含む。
- 第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）を少量含む。
- 第7層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）を少量含み、ローム小塊（～20mm）を微量含む。

第288号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）・焼土粒（～2mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）・焼土粒（～4mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）・ローム小塊（～40mm）・焼土粒（～1mm）を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を中量含み、炭化物粒（～2mm）を微量、焼土粒（～2mm）を少量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）を中量含み、焼土粒（～4mm）を少量含む。

第289号土坑土層説明

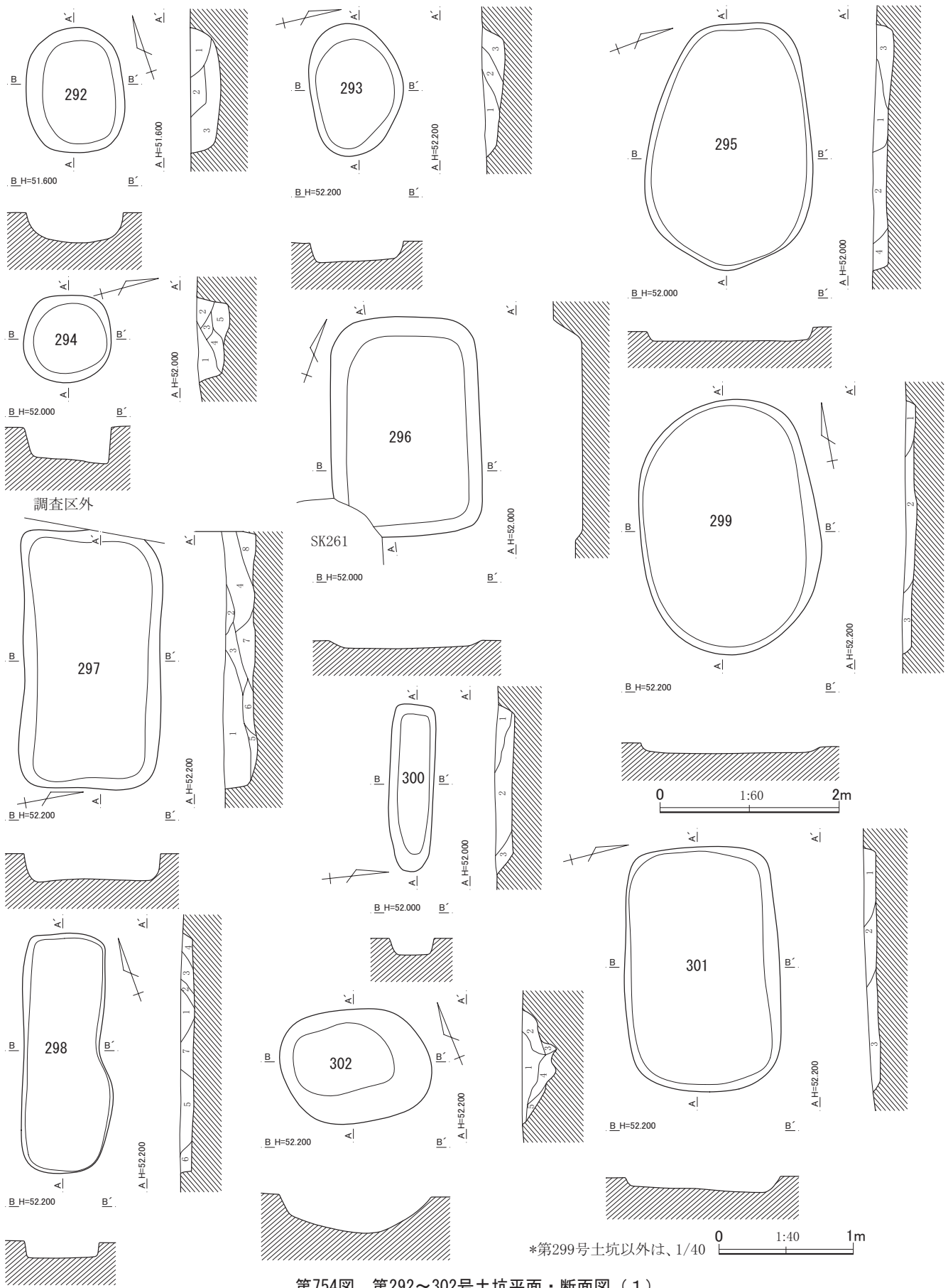
- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）・焼土粒（～2mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を中量含み、焼土粒（～1mm）を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を中量含み、焼土粒（～2mm）を少量含む。

第290号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）・焼土粒（～2mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）・ローム小塊（～10mm）を少量含み、焼土粒（～2mm）・焼土小塊（～10mm）を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を中量含み、焼土粒（～4mm）を少量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）・ローム粒（～4mm）・焼土粒（～4mm）を中量含む。

第291号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）・焼土粒（～1mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）・焼土粒（～2mm）を中量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を微量含む。



第754図 第292~302号土坑平面・断面図 (1)

第292号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・炭化物粒（～4mm）を中量含み、焼土粒（～5mm）を多量に含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～3mm）を中量含み、焼土粒（～8mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を微量含み、焼土粒（～5mm）を少量、炭化物粒（～8mm）を中量含む。

第293号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～1mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を少量含み、焼土粒（～6mm）を中量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を中量含み、焼土粒（～4mm）を微量含む。

第294号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）を少量含み、焼土粒（～4mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）を少量含み、ローム粒（～6mm）・焼土粒（～2mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）を微量含む。
- 第4層：明褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒（～4mm）・ローム粒（～8mm）を中量含み、焼土粒（～4mm）を微量含む。
- 第5層：明褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒（～0.5mm）・ローム小塊（～10mm）を中量含み、焼土粒（～4mm）を微量含む。

第295号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を中量含み、ローム粒（～8mm）を少量、焼土粒（～1mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）・粘土粒（～2mm）を中量含み、粘土小塊（～30mm）・焼土粒（～4mm）を微量含む。粘性はやや強い。
- 第3層：明褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒（～2mm）・ローム粒（～8mm）を中量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）・焼土小塊（～30mm）を微量含む。

第297号土層土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を少量、焼土粒（～1mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を中量含み、焼土粒（～1mm）を少量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を中量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を中量含む。

- 第6層：明灰褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒（～4mm）を多量に含み、ローム粒（～8mm）を少量含む。

- 第7層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を中量含み、ローム粒（～6mm）を少量含む。

- 第8層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）・焼土粒（～4mm）を中量含む。

第298号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）・ローム小塊（～10mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含み、ローム小塊（～15mm）を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）を微量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）を少量含み、ローム粒（～8mm）を微量含む。
- 第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）を微量含む。
- 第7層：明褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒（～4mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）を微量含む。

第299号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を中量含み、ローム小塊（～15mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）を多量に含み、焼土粒（～2mm）を少量含む。

第300号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）・粘土小塊（～20mm）を少量含み、粘土粒（～1mm）・焼土粒（～4mm）を中量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含み、ローム小塊（～30mm）を微量含む。

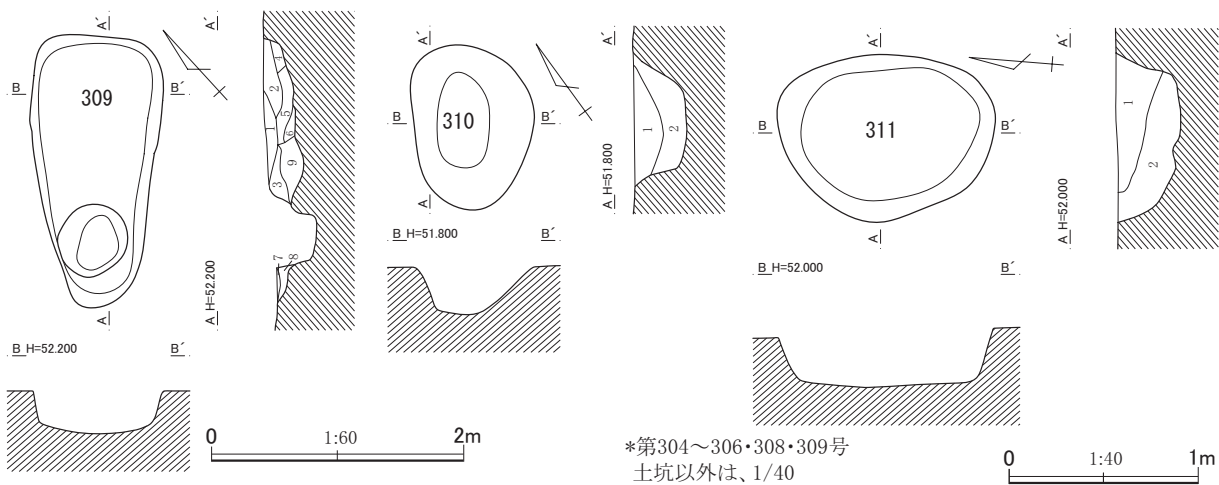
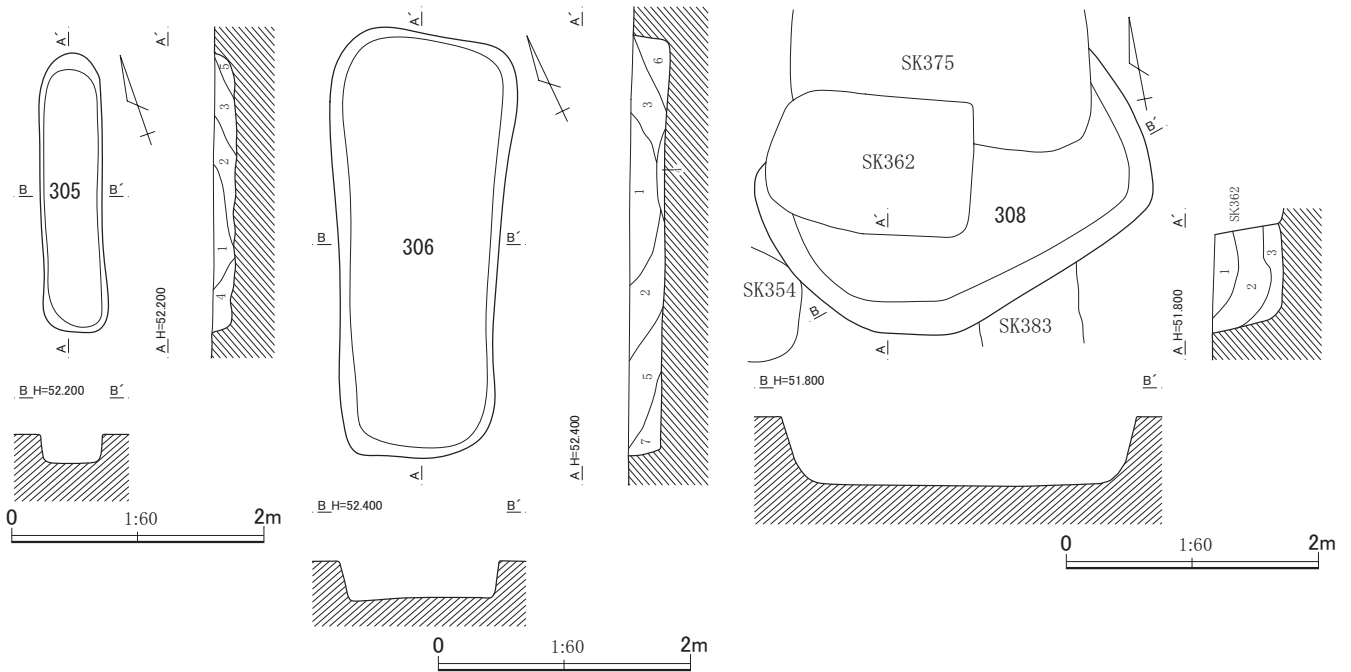
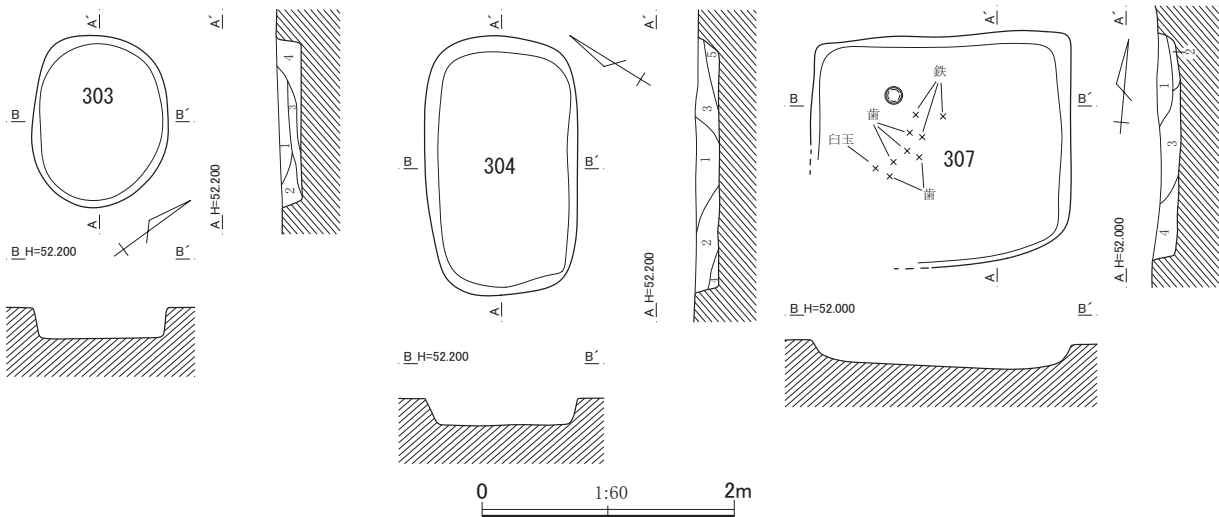
第301号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を中量含み、焼土粒（～2mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）を少量含む。

第302号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を中量含み、ローム小塊（～30mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム小塊（～15mm）・ローム小塊（～30mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を少量含む。
- 第4層：明褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒（～8mm）を中量含み、ローム小塊（～50mm）を少量含む。
- 第5層：明褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム小塊（～40mm）を多量に含む。

第755図 第292～302号土坑平面・断面図（2）



*第304~306・308・309号
土坑以外は、1/40

第756図 第303~311号土坑平面・断面図(1)

第303号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）を少量含み、粘土粒（～1mm）・焼土粒（～4mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）・粘土粒（～1mm）を少量含み、焼土粒（～1mm）を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）・ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～4mm）を微量含む。

第304号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～2mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を中量含み、ローム小塊（～15mm）・焼土粒（～4mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含み、焼土粒（～4mm）を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を微量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～6mm）・焼土粒（～4mm）を微量含む。

第305号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）・ローム小塊（～20mm）を少量含む。
- 第3層：明灰褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒（～4mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）を少量含む。
- 第4層：明灰褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒（～4mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）を少量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）を中量含み、ローム小塊（～7cm）を少量含む。

第306号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～4mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を微量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）を少量、焼土粒（～4mm）を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を中量含み、焼土粒（～4mm）を微量含む。
- 第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）・焼土粒（～4mm）を微量含む。
- 第7層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）・焼土粒（～4mm）を少量含む。

第307号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）・ローム粒（～6mm）を少量含む。
- 第2層：明褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒（～4mm）を中量含む。
- 第3層：明褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒（～6mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）を少量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）を中量含む。

第308号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム小塊（～10mm）を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム小塊（～15mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム小塊（～30mm）を少量含み、焼土粒（～8mm）を微量含む。

第309号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。灰色粘土小塊（～15mm）を中量含み、焼土粒（～4mm）を微量含む。粘性は強い。
- 第2層：暗赤灰褐色土。暗灰褐色土を主とし、灰色粘土小塊（～20mm）・焼土粒（～4mm）・焼土小塊（～20mm）を少量含む。粘性は強い。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）・ローム小塊（～20mm）を少量含み、焼土粒（～4mm）を微量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）・ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）・粘土粒（～1mm）を中量含み、ローム小塊（～10mm）を少量含む。粘性はやや強い。
- 第6層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を中量含み、ローム小塊（～30mm）を微量、粘土粒（～1mm）を少量含む。粘性はやや強い。
- 第7層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）を少量含む。
- 第8層：黄褐色土。ローム土を主とし、暗褐色土粒（～8mm）を少量含む。
- 第9層：黄褐色土。ローム土を主とし、暗褐色土小塊（～30mm）を少量含み、粘土粒（～1mm）を中量含む。

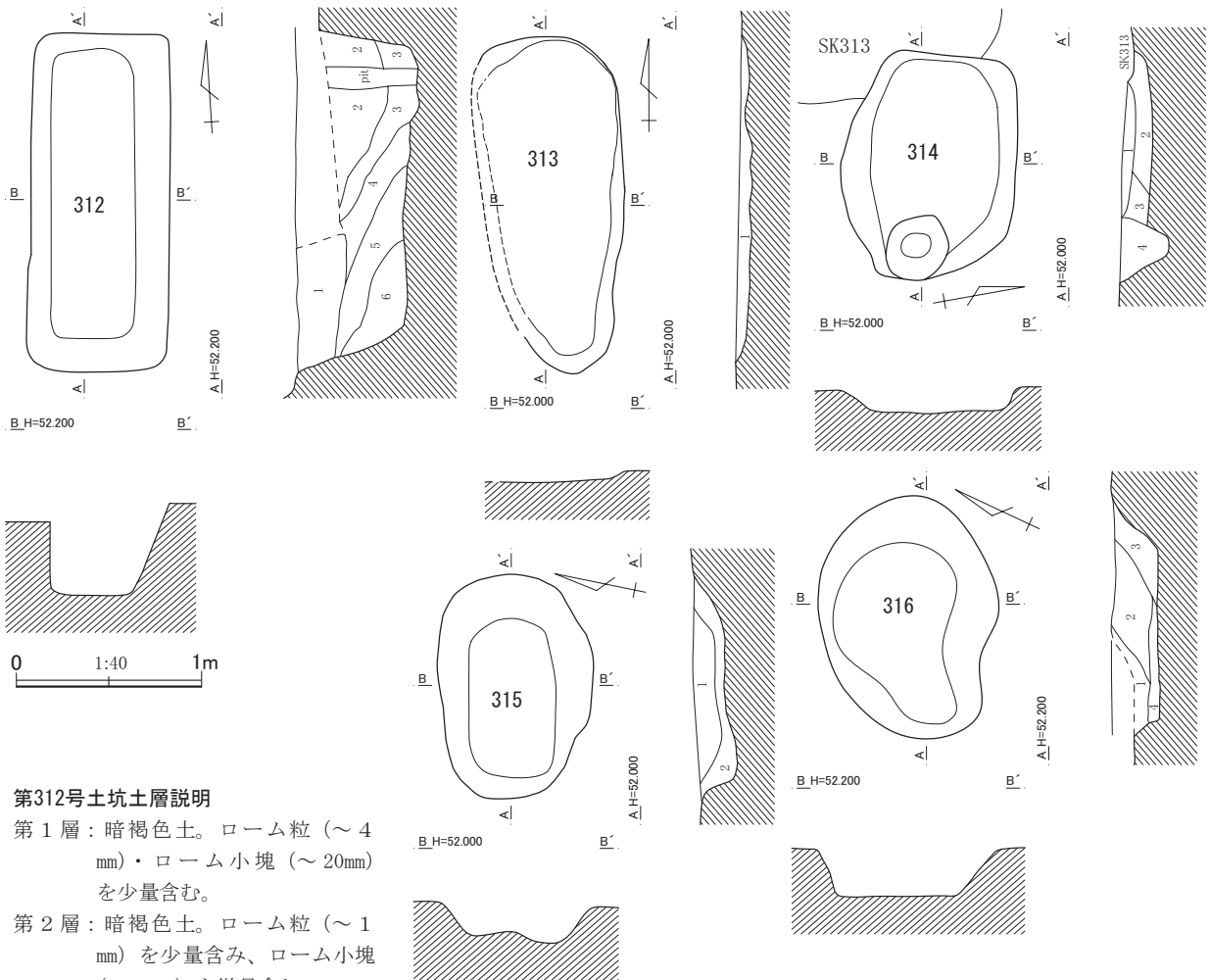
第310号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）・ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を中量含み、ローム小塊（～15mm）を少量含む。

第311号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）・ローム小塊（～10mm）を微量含む。
- 第2層：明灰褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒（～4mm）を多量に含み、ローム小塊（～20mm）を中量含む。

第757図 第303～311号土坑平面・断面図（2）



第312号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒（～4mm）・ローム小塊（～20mm）を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒（～1mm）を少量含む、ローム小塊（～20mm）を微量含む。
- 第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～6mm）を中量含む、ローム小塊（～20mm）を少量含む。
- 第4層：黄褐色土。ローム土を主とし、暗褐色土粒（～4mm）を少量含む。
- 第5層：黄褐色土。ローム土を主とし、暗褐色土粒（～4mm）・暗褐色土小塊（～20mm）を少量含む。
- 第6層：黄褐色土。ローム土を主とし、暗褐色土粒（～6mm）を少量含む。

第313号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を少量含む、ローム小塊（～20mm）を中量含む。

第314号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒（～2mm）・炭化物粒（～2mm）・焼土粒（～2mm）を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒（～3mm）・焼土粒（～2mm）を少量含む、ローム小塊（～7cm）を多量に、炭化物粒（～2mm）を微量含む。

- 第3層：暗褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含む。
- 第4層：暗褐色土。ローム粒（～2mm）・焼土粒（～2mm）を微量含む。

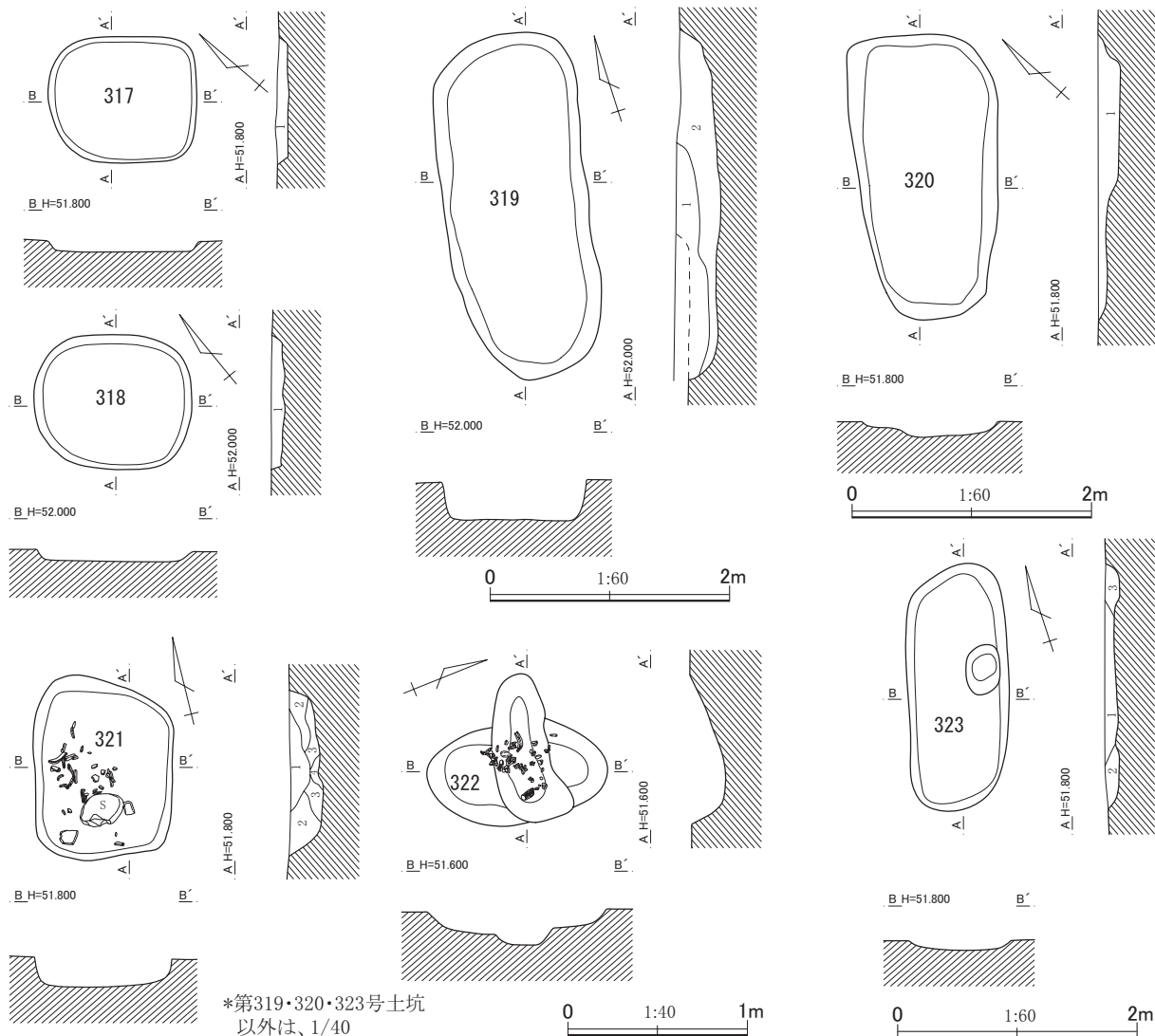
第315号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含む、炭化物粒（～5mm）・焼土粒（～1mm）を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒（～3mm）を少量含む、焼土粒（～1mm）を微量含む。

第316号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒（～8mm）を中量含む、焼土粒（～1mm）を少量含む。
- 第2層：明褐色土。ローム粒（～8mm）を中量含む、ローム小塊（～40mm）を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含む、ローム小塊（～20mm）を少量、焼土粒（～1mm）を中量含む。ややしまっている。
- 第4層：黄褐色土。ローム小塊を主とし、暗褐色土粒（～1mm）を中量含む。

第758図 第312～316号土坑平面・断面図



第317号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を中量含み、粘土粒（～2mm）を少量含む。

第318号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）を少量含む。

第319号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～8mm）を中量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。ややしまっている。

第2層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊（～50mm）を多量に含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。ややしまっている。

第320号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム小塊（～30mm）を少量含み、焼土小塊（～10mm）を微量含む。ややしまっている。

第321号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～8mm）を少量含む。

第2層：暗褐色土。ローム小塊（～10mm）を中量含み。

第3層：暗褐色土。ローム粒（～8mm）を少量含む。

第4層：暗褐色土。ローム粒（～8mm）を微量含む。ややしまっている。

第323号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を微量含む。ややしまっている。

第2層：暗灰褐色土。ローム小塊（～30mm）を少量含み。ややしまっている。

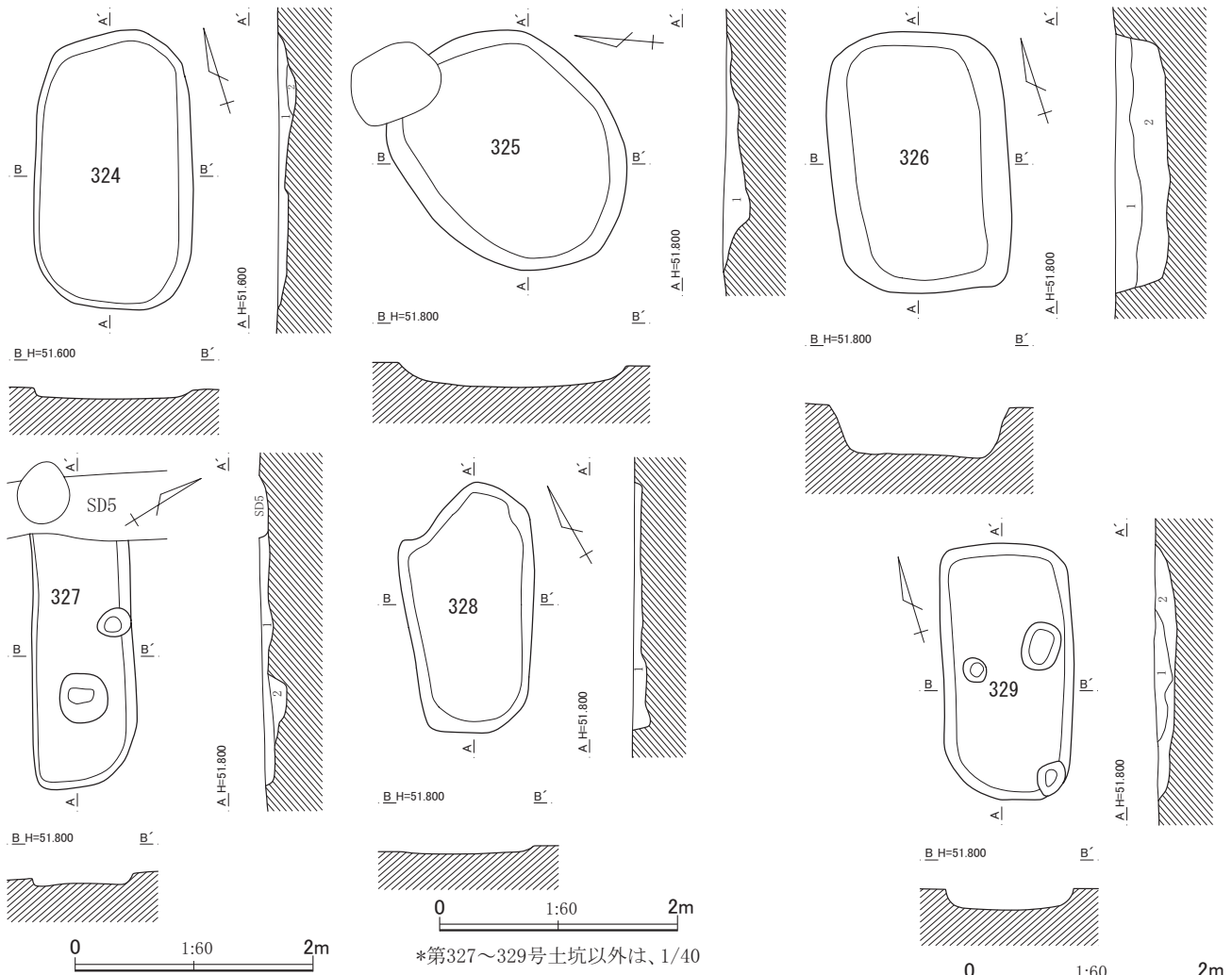
第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。ややしまっている。

第759図 第317～323号土坑平面・断面図

C地点

第320表 C地点・土坑計測および観察表(8)

番号	グリッド	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	出土遺物	備考
283	Q13	楕円形	188×127	22		
284	M10・11	楕円形	128×57	9	土師器小片。	
285	P11	不整楕円形	117×89	32	土師器片、須恵器片、土錘小片。	SK286を切る。
286	P11・12	隅丸長方形	98×83	9	土師器片。	SK285に切られる。
287	N10	楕円形	184×83	19	土師器片。	SK196に切られる。
288	Q11	楕円形	123×90	28	土師器片。	
289	Q11	円形	83	25	土師器片。	
290	Q11	円形	116	23	甕1点、坏1点。須恵器片、土錘小片、縄文土器片。	
291	Q11	楕円形	81×56	23	土師器片、須恵器片、土錘小片、縄文土器片。	
292	R12	楕円形	93×73	23		
293	Q11	楕円形	97×70	16	土師器片。	
294	Q12	不整円形	70	25	土師器片。	
295	Q12	楕円形	184×124	13	土錘2点。土師器片、須恵器片。	
296	O11	隅丸長方形	163×112	21		SK261に切られる。
297	P15	隅丸長方形	192×102	24		
298	R11	不整隅丸長方形	179×68	9	土師器片、須恵器片、土錘小片。	
299	R13	楕円形	283×202	13	土師器片、須恵器片。	
300	R12	長楕円形	125×34	11	土錘1点。土師器片、須恵器片。	
301	Q12	隅丸長方形	182×116	8	土師器小片。	
302	Q12	楕円形	114×85	25	土師器小片。	
303	P12、Q12	楕円形	92×72	12	土師器小片、軽石片。	
304	P12、Q12	隅丸長方形	205×122	17	土師器片。	
305	O11	長楕円形	223×48	18	甕1点、高坏1点、羽口1点。土師器片。	
306	P14	隅丸長方形	340×127	28	土錘2点。土師器片、須恵器片、土錘小片、縄文土器片。	
307	O12	隅丸方形	138×122	13	坏2点、白玉1点、鉄鏝1点。土師器片。	
308	O7	楕円形	295×(195)	53		SK354・362・375・383に切られる。
309	Q12	不整楕円形	220×105	28	甕1点。土師器片、須恵器片。	
310	T13	楕円形	87×62	28	土師器片。	
311	T13、U13	楕円形	115×90	34	土師器片、ガラス小玉鑄型片。	
312	P12	長方形	183×75	65	土師器片。	
313	R13、S13	楕円形	182×(75)	5	土師器片。	SK314を切る。
314	R13、S13	不整楕円形	122×94	26	土師器片。	SK313に切られる。
315	R13、S13	不整楕円形	121×82	21	土師器片。	
316	Q14	不整楕円形	131×96	26	坏1点、粘土塊2点。土師器片、須恵器片。	
317	R14	不整隅丸長方形	83×70	6	土師器片。	
318	R14	楕円形	88×75	8	土師器片。	
319	R11	楕円形	290×123	36	坏1点。土師器片、須恵器片。	SK406を切る。
320	U10・11	楕円形	239×116	18	小型甕1点、坏2点、手捏ね土器1点。土師器片。	
321	Q9・10	不整隅丸長方形	102×77	19	直口壺1点。土師器片。人骨片。	
322	R9	楕円形	100×82	19	土師器片。人骨片。	火葬墓?
323	P9	楕円形	206×85	12	土師器片。	
324	Q9	楕円形	157×89	11		
325	Q10	楕円形	146×117	15		
326	Q9	隅丸長方形	147×99	32	土師器片、須恵器片。	



第324号土坑土層説明

第1層：暗褐色土。ローム小塊（～10mm）を中量含む。
 第2層：黄褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊（～10mm）を多量に含む。

第325号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム小塊（～15mm）を少量含む、焼土粒（～3mm）を微量含む。ややしまっている。

第326号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム小塊（～50mm）を中量含む。
 第2層：暗灰褐色土。ローム小塊（～50mm）を中量含む。

第327号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム小塊（～30mm）を少量含む。
 第2層：暗灰褐色土。ローム小塊（～20mm）を少量含む。

第328号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム小塊（～50mm）を中量含む、焼土粒（～8mm）を微量含む。

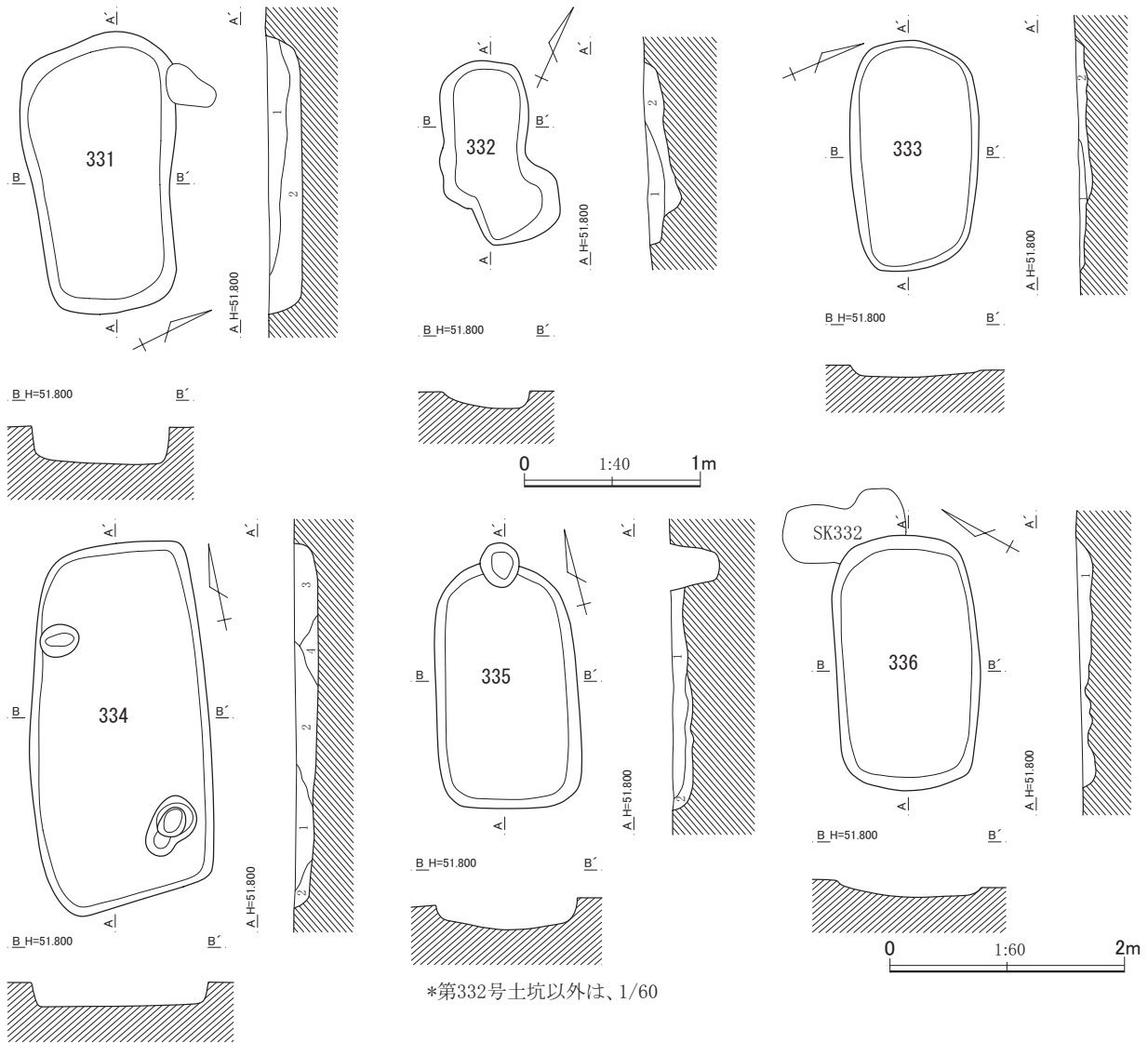
第329号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を微量含む。
 第2層：暗灰褐色土。ローム小塊（～20mm）を少量含む。

第330号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム小塊（～10mm）を少量含む。

第760図 第324～330号土坑平面・断面図



第331号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム小塊（～40mm）を中量含む。
ややしまっている。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム小塊（～30mm）を少量含む。

第332号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム小塊（～20mm）を少量含む。

第333号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム小塊（～20mm）を微量含む。
ややしまっている。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム小塊（～30mm）を少量含む。

第334号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム小塊（～30mm）を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム小塊（～20mm）を中量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム小塊（～20mm）を中量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム小塊（～10mm）を少量含む。

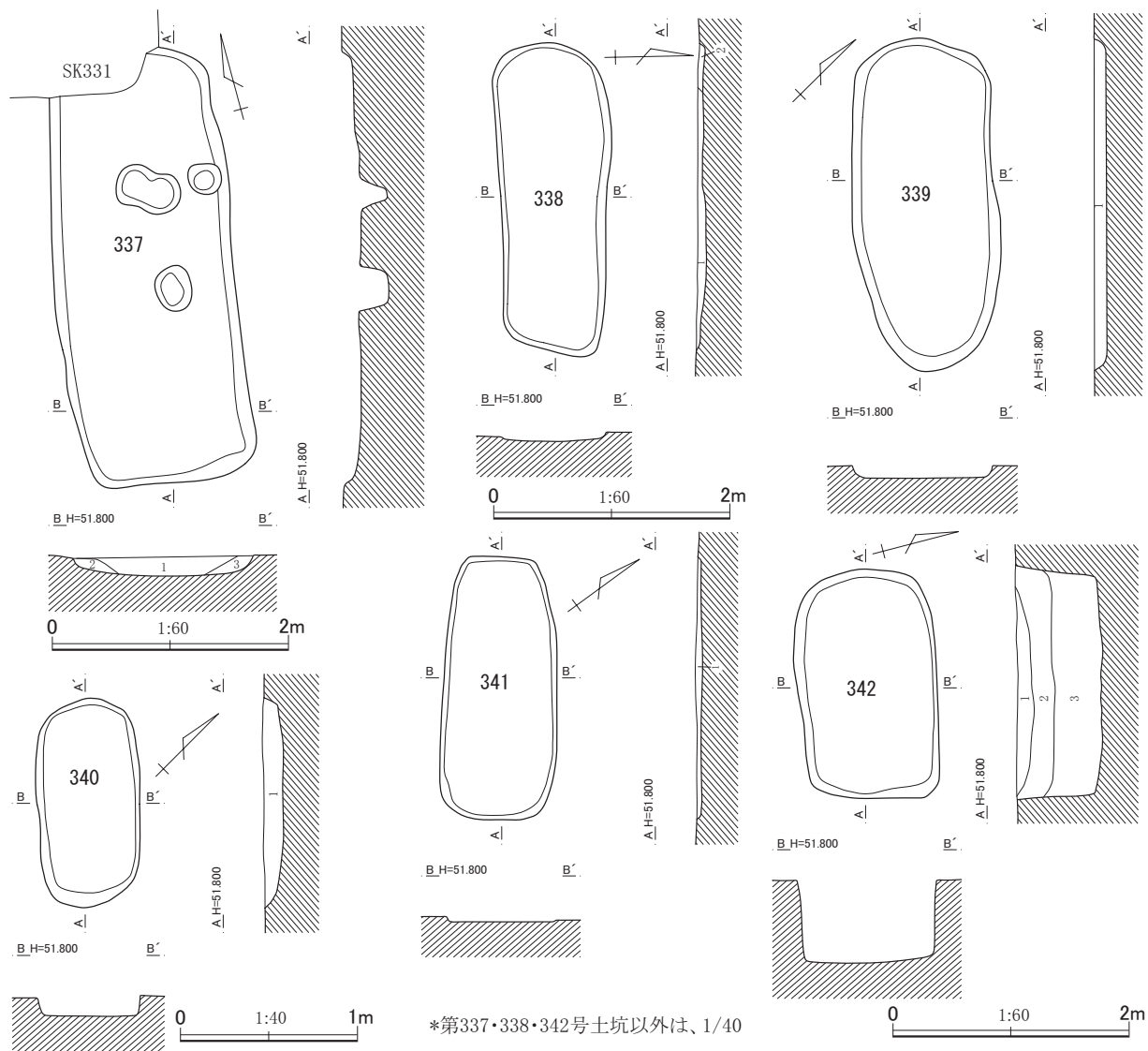
第335号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム小塊（～20mm）を少量含む、
焼土粒（～8mm）を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム小塊（～30mm）を中量含む。
ややしまっている。

第336号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム小塊（～30mm）を中量含む、
焼土粒（～3mm）を微量含む。ややしまっている。

第761図 第331～336号土坑平面・断面図



第337号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム小塊(～20mm)を中量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム小塊(～30mm)を少量含み、
焼土粒(～5mm)を微量含む。

第338号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒(～8mm)を微量含む。
- 第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～20mm)を中量含む。

第339号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム小塊(～10mm)を少量含む。

第340号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム小塊(～20mm)を少量含む。

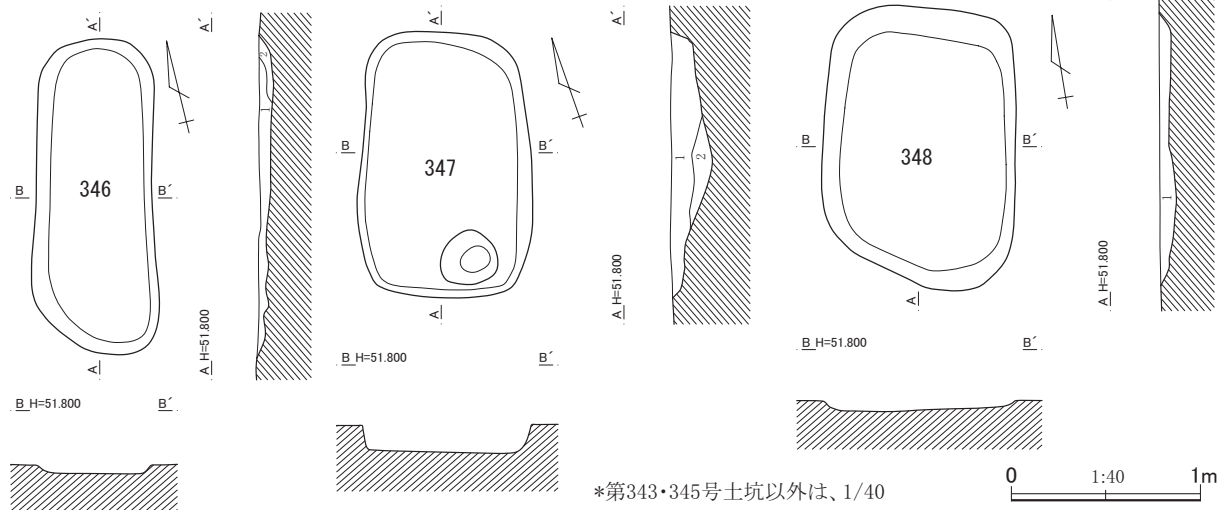
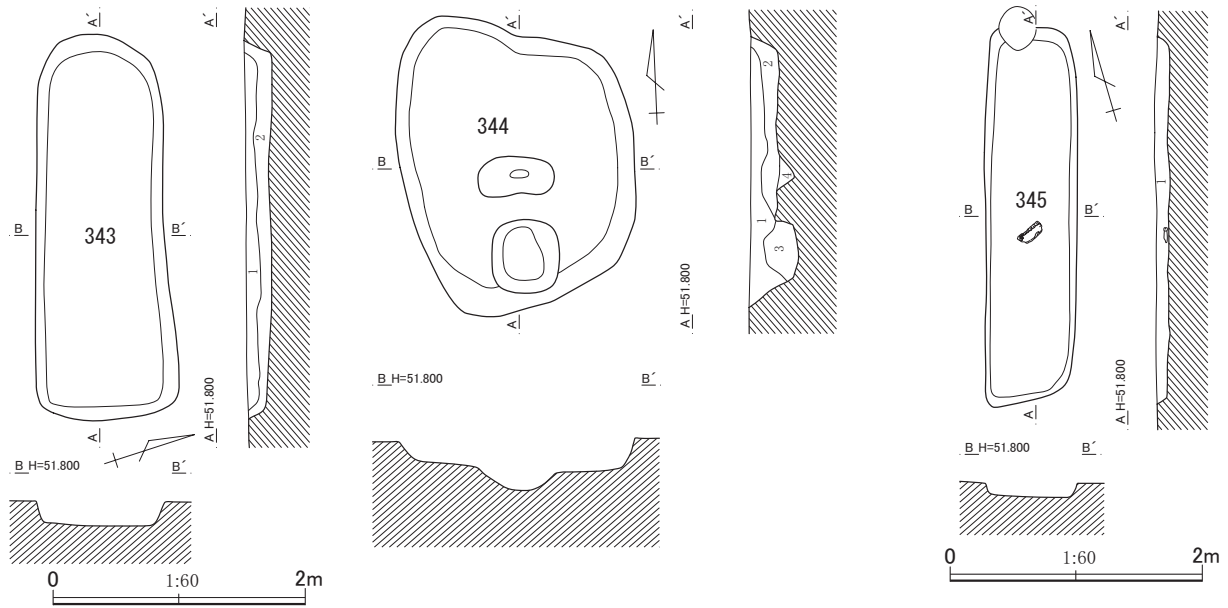
第341号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒(～7mm)を少量含む。

第342号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒(～7mm)・焼土粒(～5mm)を微量含む。
- 第2層：黄褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～30mm)を多量に含む。
- 第3層：黄褐色土。暗褐色土を主とし、砂礫を含み、ローム小塊(～50mm)を多量に含む。ややしまっている。

第762図 第337～342号土坑平面・断面図



第343号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム小塊(～50mm)を中量含み、焼土粒(～5mm)を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム小塊(～30mm)を中量含む。

第344号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム小塊(～15mm)を少量含み、焼土粒(～8mm)を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム小塊(～30mm)を中量含み、焼土粒(～4mm)を微量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム小塊(～20mm)を中量含み、焼土粒(～5mm)を微量含む。
- 第4層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒(～7mm)を少量含む。

第345号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒(～5mm)・焼土粒(～5mm)を微量含む。

第346号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒(～8mm)・焼土粒(～5mm)を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒(～8mm)を少量含む。

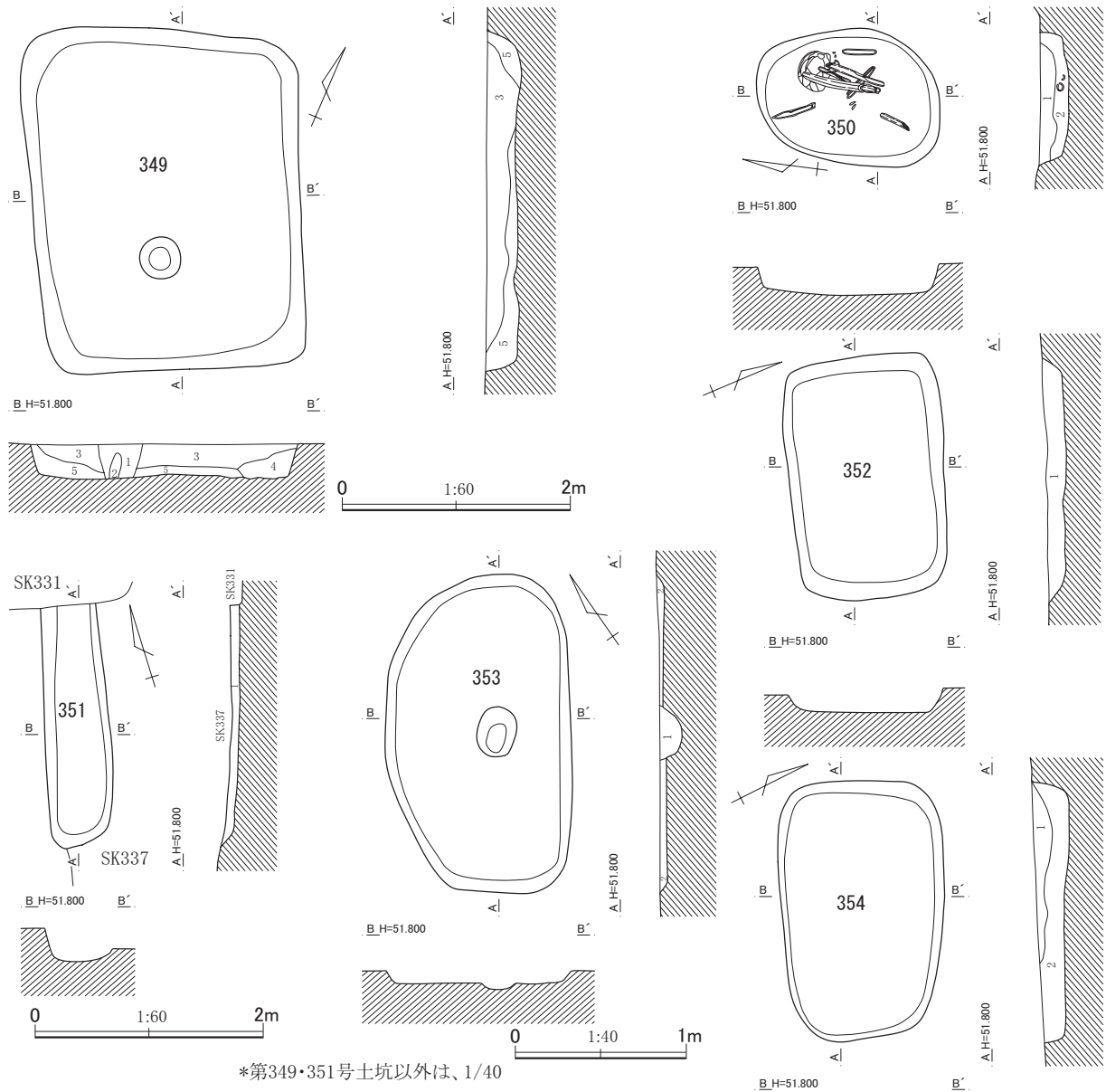
第347号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム小塊(～20mm)を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム小塊(～20mm)を中量含み、焼土粒(～7mm)を微量含む。

第348号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒(～7mm)を微量含む。

第763図 第343～348号土坑平面・断面図



*第349・351号土坑以外は、1/40

第349号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊（～10mm）を多量に含む。しまりは弱い。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム小塊（～30mm）を中量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム小塊（～30mm）を少量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム小塊（～50mm）を少量含む。

第350号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・焼土粒（～8mm）を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。

第351号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム小塊（～15mm）を中量含む。

第352号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム小塊（～15mm）を中量含む、焼土粒（～7mm）を微量含む。

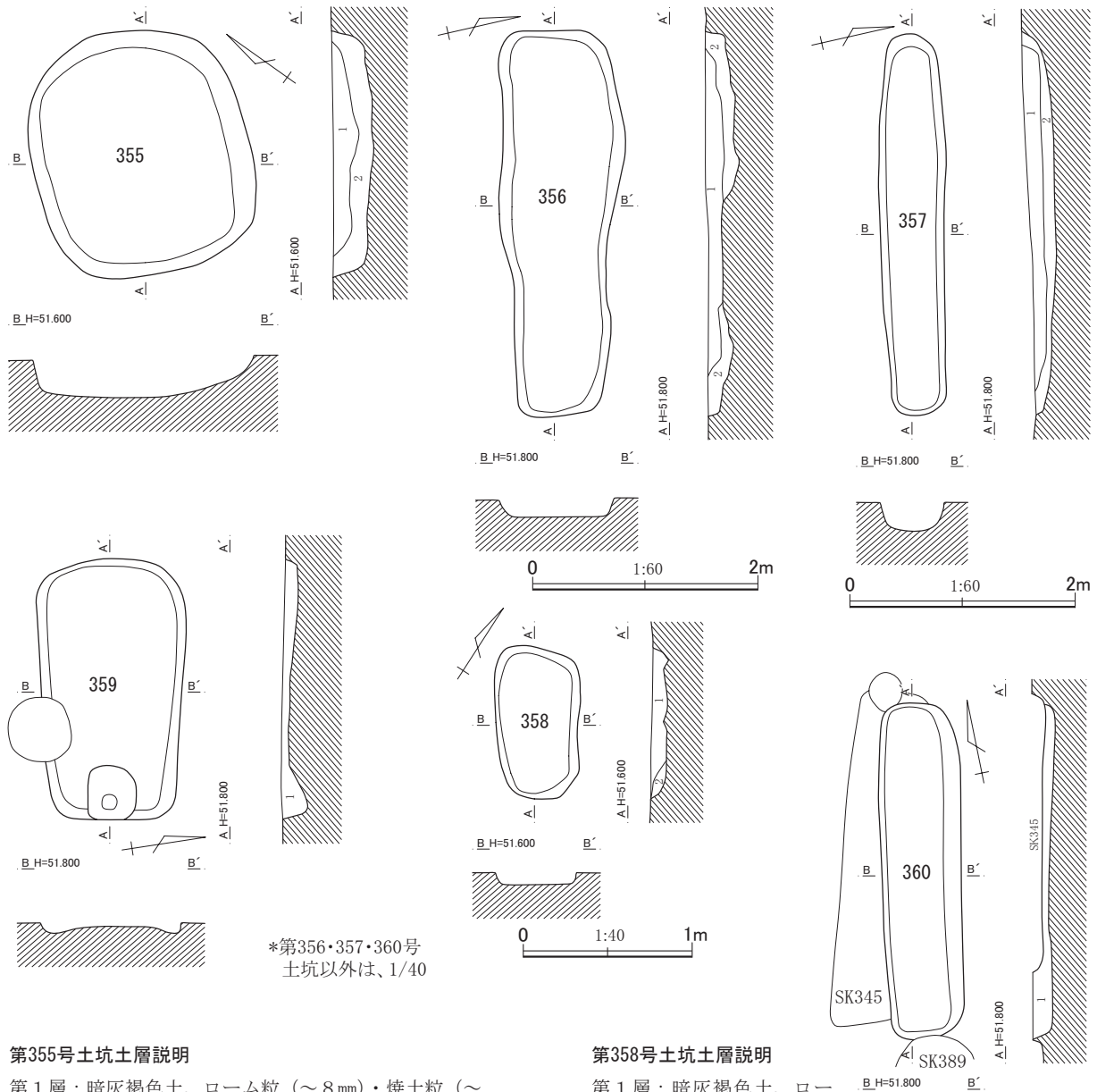
第353号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム小塊（～50mm）を中量含む。
- 第2層：黄褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊（～50mm）を多量に含む。

第354号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム小塊（～15mm）を少量含む。
- 第2層：明褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム小塊（～30mm）を中量含む。

第764図 第349～354号土坑平面・断面図



第355号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）・焼土粒（～7mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）・焼土粒（～8mm）を少量含む。

第356号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム小塊（～10mm）を少量含み、焼土粒（～8mm）を微量含む。
- 第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊（～30mm）を中量含む。

第357号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム小塊（～15mm）を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム小塊（～15mm）を少量含む。

第358号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム小塊（～10mm）を少量含み、炭化物粒（～8mm）を微量含む。
- 第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～8mm）を中量含み、炭化物粒（～7mm）を少量含む。

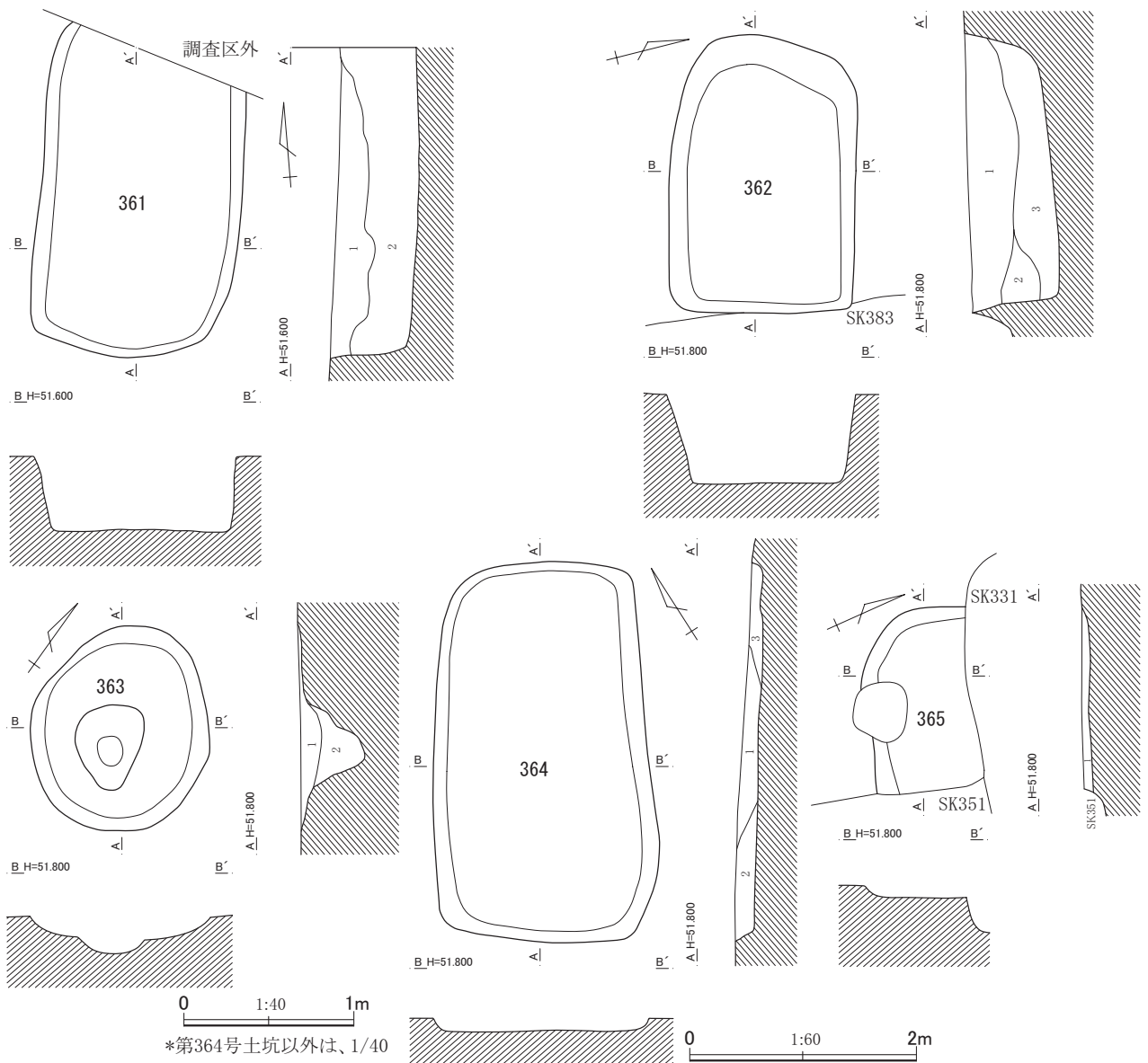
第359号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム小塊（～10mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第360号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む。

第765図 第355～360号土坑平面・断面図



第361号土坑土層説明

- 第1層：明褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム小塊（～20mm）を多量に含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム小塊（～15mm）を中量含み、焼土粒（～8mm）を微量含む。

第362号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム小塊（～30mm）・焼土粒（～8mm）を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム小塊（～50mm）を中量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム小塊（～10mm）を微量含む。

第363号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を中量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊（～10mm）を少量含む。

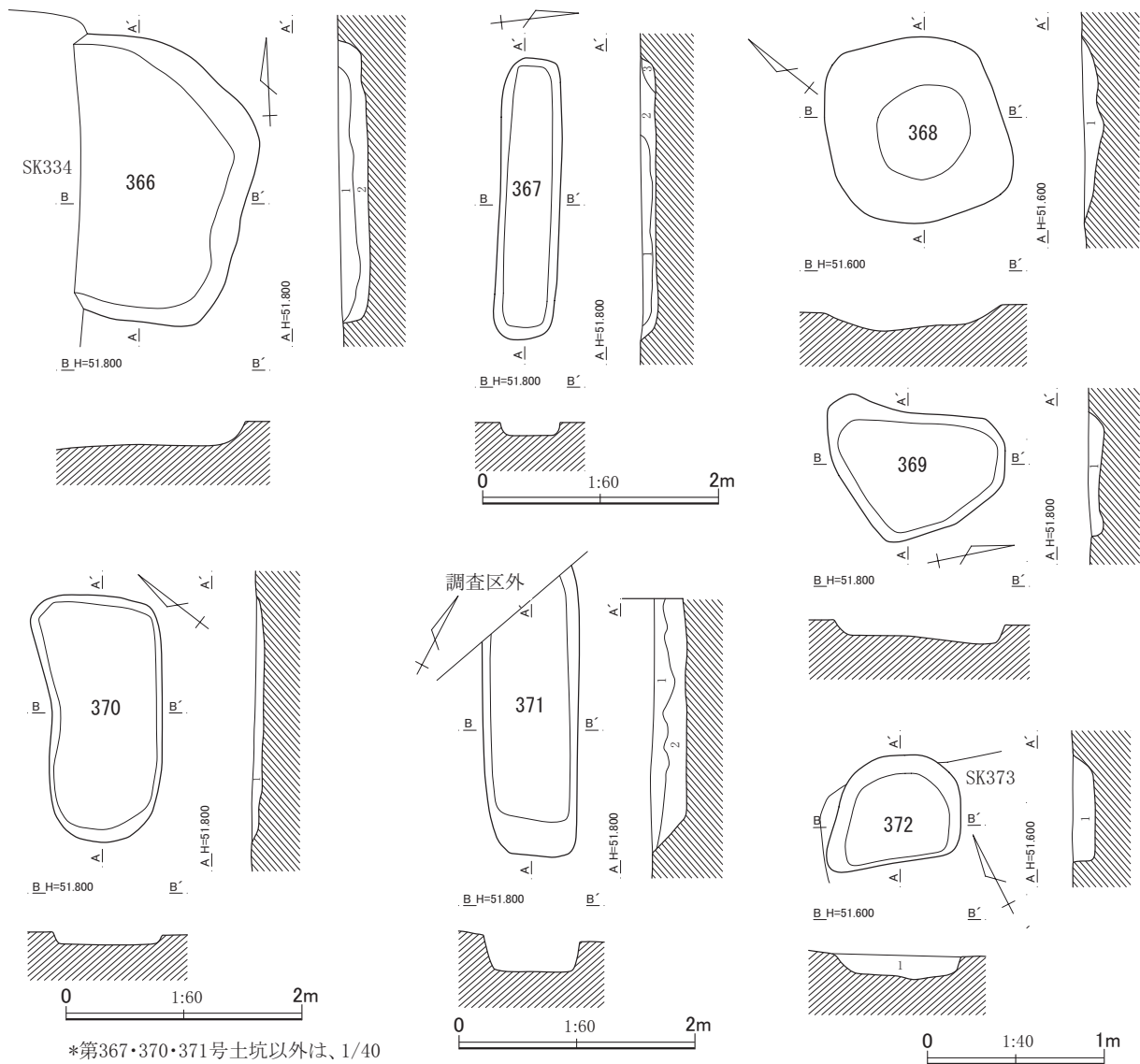
第364号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～0.5mm）を少量含み、ローム小塊（～10mm）を微量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）・粘土粒（～4mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）・焼土小塊（～10mm）を少量含み、焼土粒（～4mm）を微量含む。

第365号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム小塊（～10mm）を少量含む。

第766図 第361～365号土坑平面・断面図



*第367・370・371号土坑以外は、1/40

第366号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム小塊（～10mm）を少量含み、焼土粒（～8mm）を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム小塊（～20mm）を中量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第367号土坑土層説明

- 第1層：明褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム小塊（～20mm）を中量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。ややしまっている。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。ややしまっている。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を微量含む。

第368号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム小塊（～30mm）を少量含み、焼土粒（～7mm）を微量含む。

第369号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム小塊（～50mm）を中量含む。

第370号土坑土層説明

- 第1層：明褐色土。ローム小塊（～20mm）を少量含む。

第371号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム小塊（～30mm）を少量含む。
- 第2層：黄褐色土。ロームを多量に含み、暗褐色土を少量含む。粘性は弱い。

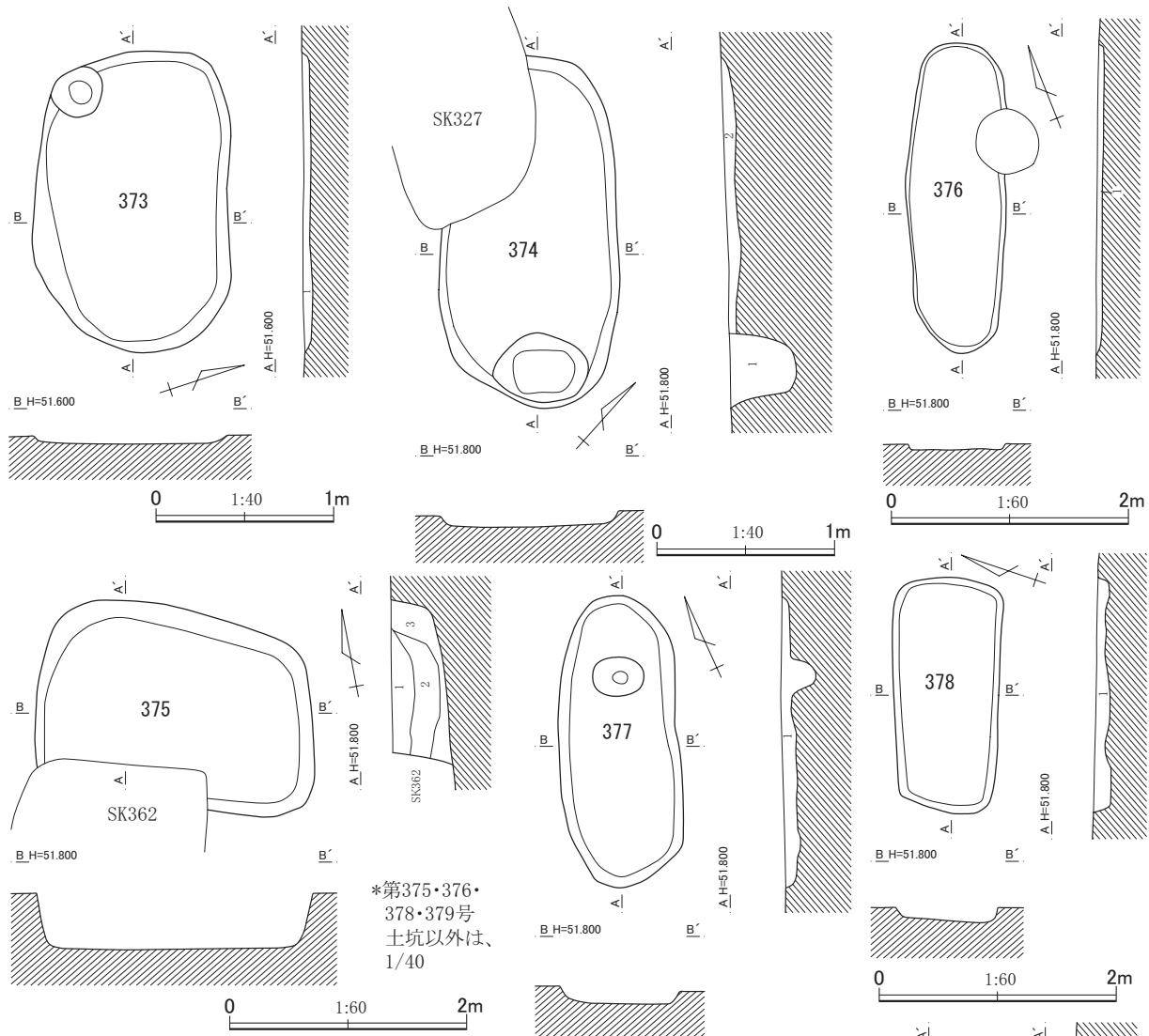
第372号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を少量含む。

第767図 第366～372号土坑平面・断面図

第321表 C地点・土坑計測および観察表(9)

番号	グリッド	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	出土遺物	備考
327	Q8	長楕円形	(215)×85	21		SK374を切る。
328	R9	不整楕円形	210×108	15	土師器片、須恵器片。	
329	Q8	隅丸長方形	215×110	18	土師器片。	
330	Q8	不整楕円形	129×83	7	土師器片。	
331	P8、Q8	不整楕円形	235×118	28		SK337・351・365を切る。
332	Q9	不整楕円形	106×48	19		SK336を切る。
333	P9	楕円形	196×107	12		
334	P9	隅丸長方形	311×150	20	土師器片、須恵器片(羽釜片含む)。	SK366・387を切る。
335	Q9	隅丸長方形	210×119	16	土師器片、須恵器片(羽釜片含む)。	
336	Q9	楕円形	218×122	14	土師器片、須恵器片。	SK332に切られる。
337	P9、Q8・9	隅丸長方形	370×152	13	土師器片、須恵器片(羽釜片含む)、土錘小片、縄文土器片。	SK351を切り、SK331に切られる。
338	O9、P9	不整隅丸長方形	263×89	8		
339	P8	楕円形	190×83	7		
340	P8	楕円形	118×57	11		
341	P8	隅丸長方形	148×64	3		
342	O9	隅丸長方形	195×118	70	土師器片、須恵器片。	
343	O9	隅丸長方形	308×102	21	土師器片、須恵器小片。	SK388を切る。
344	O8	不整楕円形	163×125	26	土師器片。	
345	N9、O9	不整隅丸長方形	296×72	12	土師器片、須恵器片。馬下顎骨。	SK360を切る。
346	N9	長楕円形	166×61	7	土師器片。	SK384を切る。
347	N9	隅丸長方形	141×88	21	土師器片。	SK250・385・386を切る。
348	N9	隅丸長方形	149×101	8		
349	O8・9	隅丸長方形	300×233	31	土師器片。	
350	Q10	楕円形	112×81	16	土師器片、古銭。人骨。	
351	P9、Q8・9	長楕円形	(212)×58	16	土師器片。	SK365を切り、SK331・337に切られる。
352	N8	隅丸長方形	142×90	12		
353	N7・8、07	楕円形	186×108	13		
354	N7、07	隅丸長方形	153×95	21	土師器小片。	SK308を切る。
355	T9	不整隅丸長方形	147×128	24	土師器片。	
356	07	不整隅丸長方形	344×103	30	高坏1点。土師器片、須恵器片、土錘小片。	
357	08	長楕円形	340×55	23		SK399を切る。
358	08	楕円形	91×48	10	土師器小片。	
359	Q7	隅丸長方形	155×82	14		
360	N9、O9	長楕円形	300×70	21	土師器片。	SK245を切り、SK345・389に切られる。
361	O6・7	楕円形	(198)×119	52	土師器片、須恵器片、近世陶器片。	SK390・397・407Bを切る。
362	07	隅丸長方形	164×109	53	土師器片、須恵器片、近世陶器片。	SK308・375を切り、SK383に切られる。
363	P9	不整楕円形	125×104	38		
364	07	隅丸長方形	336×190	15	土師器片、須恵器片、土錘小片、剥片。	SK418を切る。
365	P8・9、Q8・9	不明	(108)×(60)	5		
366	P9	不整隅丸長方形	157×(95)	15		SK334に切られる。
367	Q9	長楕円形	240×50	13		
368	Q9	不整楕円形	108	12	土師器小片。	
369	N7	不整楕円形	89×88	8		
370	P7	不整楕円形	210×72	7	土師器小片。	
371	07	隅丸長方形	(250)×80	30	土師器片。	
372	Q9	不整楕円形	87×68	13	土師器片。	SK373に切られる。



第373号土坑土層説明

第1層：暗褐色土。ローム小塊（～10mm）を少量含み、
焼土粒（～5mm）を微量含む。

第374号土坑土層説明

第1層：暗褐色土。ローム小塊（～15mm）を中量含む。
第2層：暗灰褐色土。ローム小塊（～30mm）を少量含む。

第375号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム小塊（～10mm）を微量含む。
第2層：暗褐色土。ローム小塊（～15mm）を少量含み、
焼土粒（～5mm）を微量含む。
第3層：明褐色土。ローム小塊（～30mm）を少量含み、
焼土粒（～8mm）を微量含む。

第376号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム小塊（～20mm）を少量含
み、焼土粒（～8mm）を微量含む。ややしまっ
ている。

第377号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。
ローム小塊（～10mm）を
少量含む。
ややしまっ
ている。

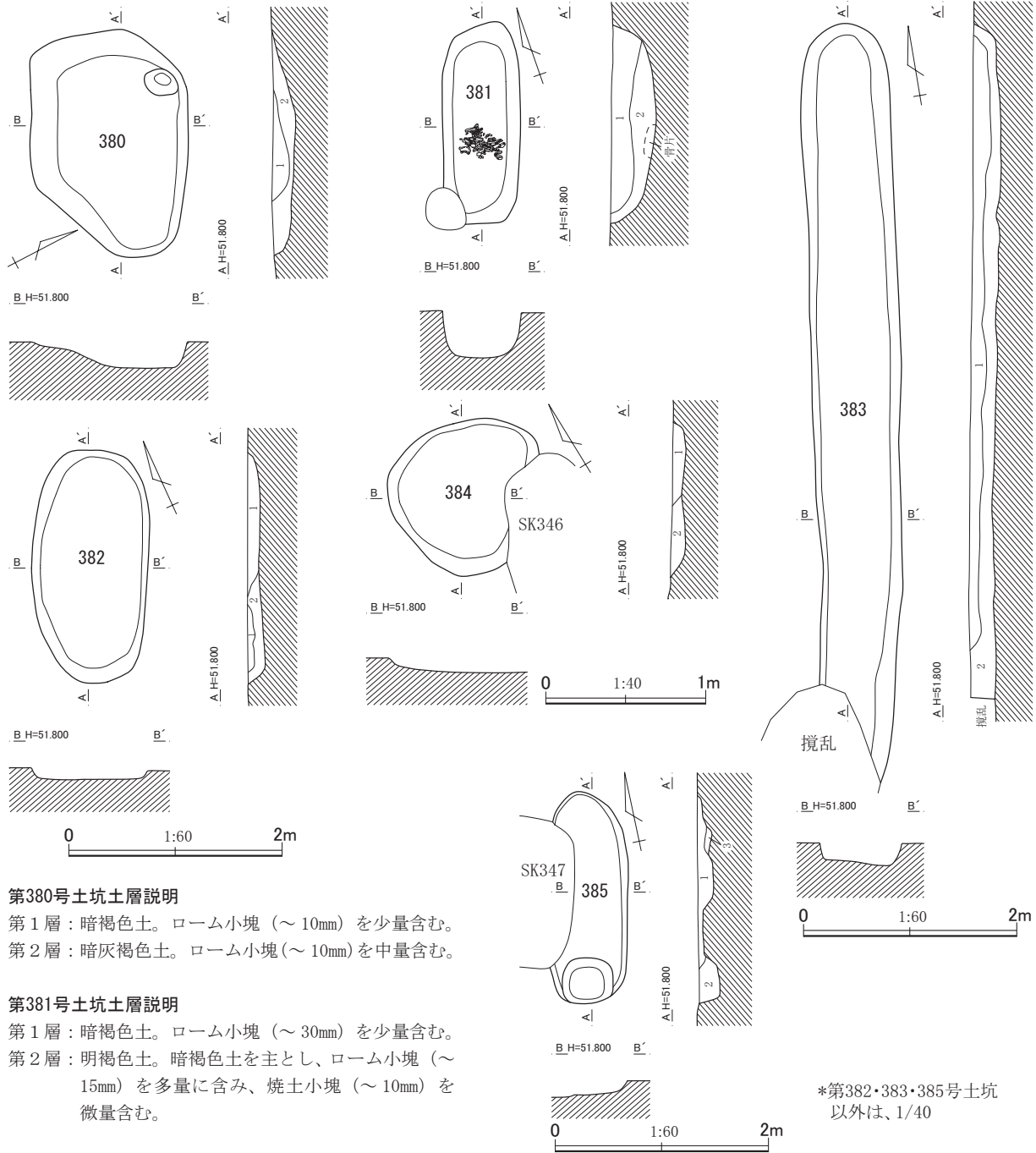
第378号土坑土層説明

第1層：暗褐色土。
ローム小塊（～40mm）を
中量含む。

第379号土坑土層説明

第1層：暗褐色土。ローム小塊（～10mm）・炭化物粒（～
8mm）を少量含み、焼土小塊（～10mm）を微量含む。
第2層：暗灰褐色土。ローム小塊（～30mm）を少量含む。
ややしまっている。

第768図 第373～379号土坑平面・断面図



第380号土坑土層説明

第1層：暗褐色土。ローム小塊（～10mm）を少量含む。
 第2層：暗灰褐色土。ローム小塊（～10mm）を中量含む。

第381号土坑土層説明

第1層：暗褐色土。ローム小塊（～30mm）を少量含む。
 第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊（～15mm）を多量に含み、焼土小塊（～10mm）を微量含む。

第382号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム小塊（～20mm）を少量含む。ややしまっている。
 第2層：暗灰褐色土。ローム小塊（～30mm）を多量に含む。ややしまっている。

第383号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～8mm）を微量含む。
 第2層：暗灰褐色土。ローム小塊（～10mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。

第384号土坑土層説明

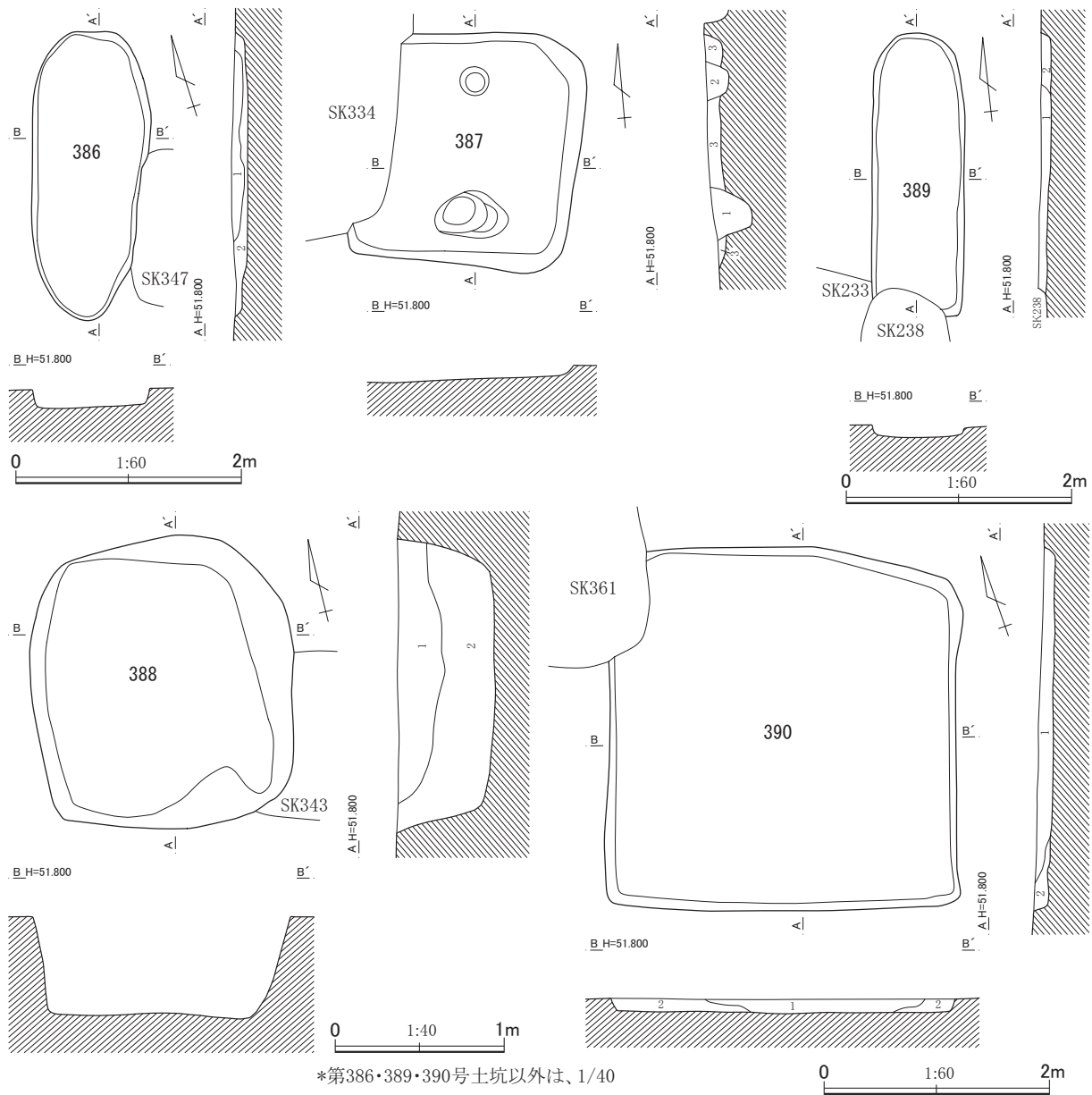
第1層：明褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム小塊（～30mm）を中量含む。
 第2層：暗灰褐色土。ローム小塊（～30mm）を少量含む。

第385号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム小塊（～10mm）を少量含む。
 第2層：暗褐色土。ローム小塊（～30mm）を少量含む。
 第3層：黄褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊（～50mm）を多量に含む。

*第382・383・385号土坑
 以外は、1/40

第769図 第380～385号土坑平面・断面図



*第386・389・390号土坑以外は、1/40

第386号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム小塊(～20mm)を少量含む。
 第2層：暗灰褐色土。ローム小塊(～10mm)を微量含む。

第387号土坑土層説明

第1層：暗褐色土。ローム小塊(～10mm)を少量含む。
 第2層：暗褐色土。ローム粒(～8mm)を少量含む。
 第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊(～20mm)を少量含む。

第388号土坑土層説明

第1層：暗褐色土。ローム小塊(～20mm)を中量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム小塊(～30mm)を中量含む。

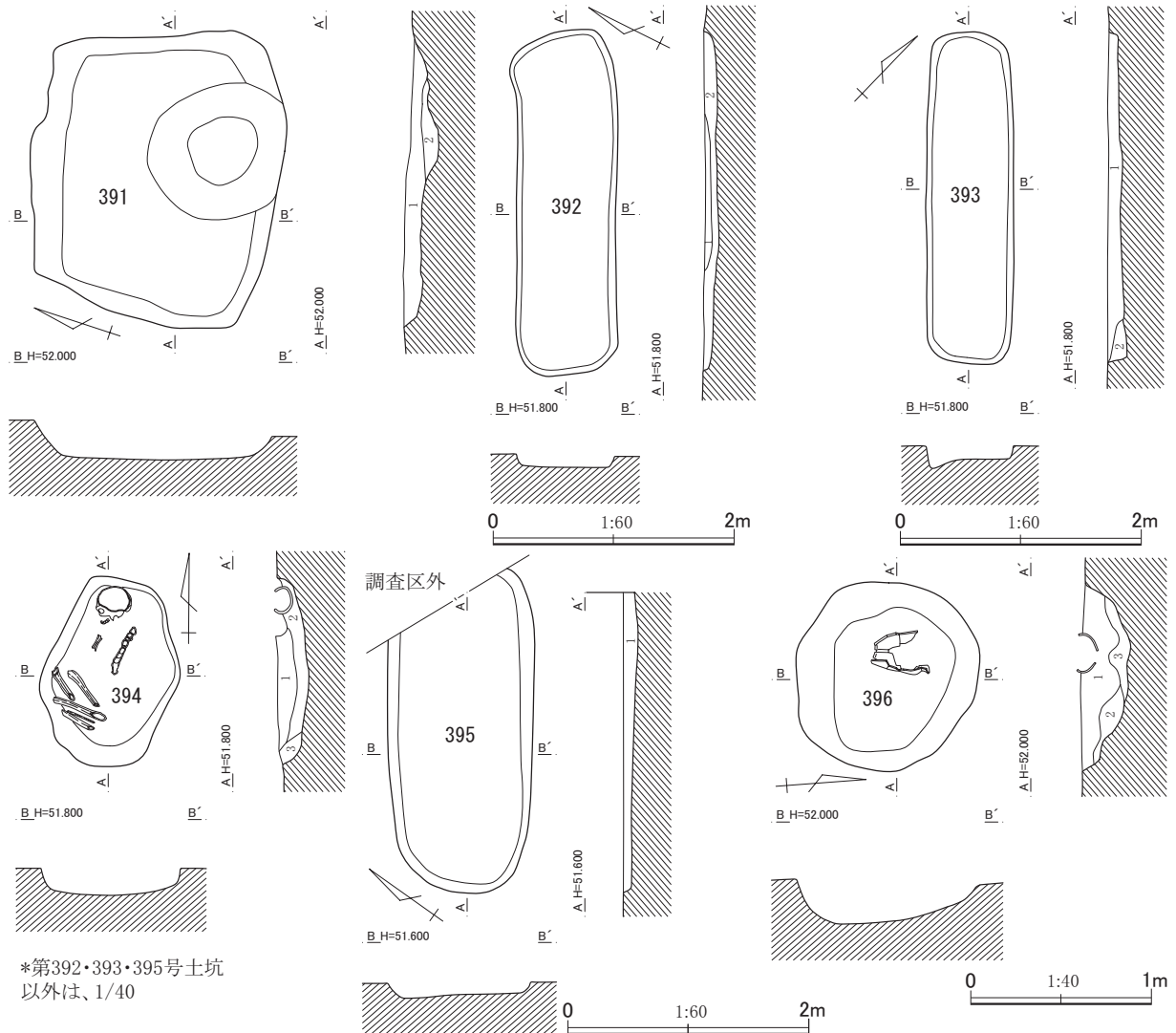
第389号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム小塊(～15mm)を微量含む。
 第2層：暗灰褐色土。ローム小塊(～10mm)を微量含む。

第390号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム小塊(～30mm)を中量含み、
 焼土粒(～5mm)を微量含む。
 第2層：暗褐色土。ローム小塊(～20mm)を少量含み、
 焼土粒(～5mm)を微量含む

第770図 第386～390号土坑平面・断面図



第391号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）を少量含む。

5mm）を微量含む。

- 第2層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊（～10mm）を微量含む。

- 第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～8mm）を中量含み、焼土小塊（～10mm）を少量含む。

第392号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム小塊（～10mm）を少量含み、焼土粒（～8mm）を微量含む。

第395号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊（～50mm）を多量に含む。

第393号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊（～30mm）を少量含み、焼土粒（～8mm）を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム小塊（～10mm）を少量含む。

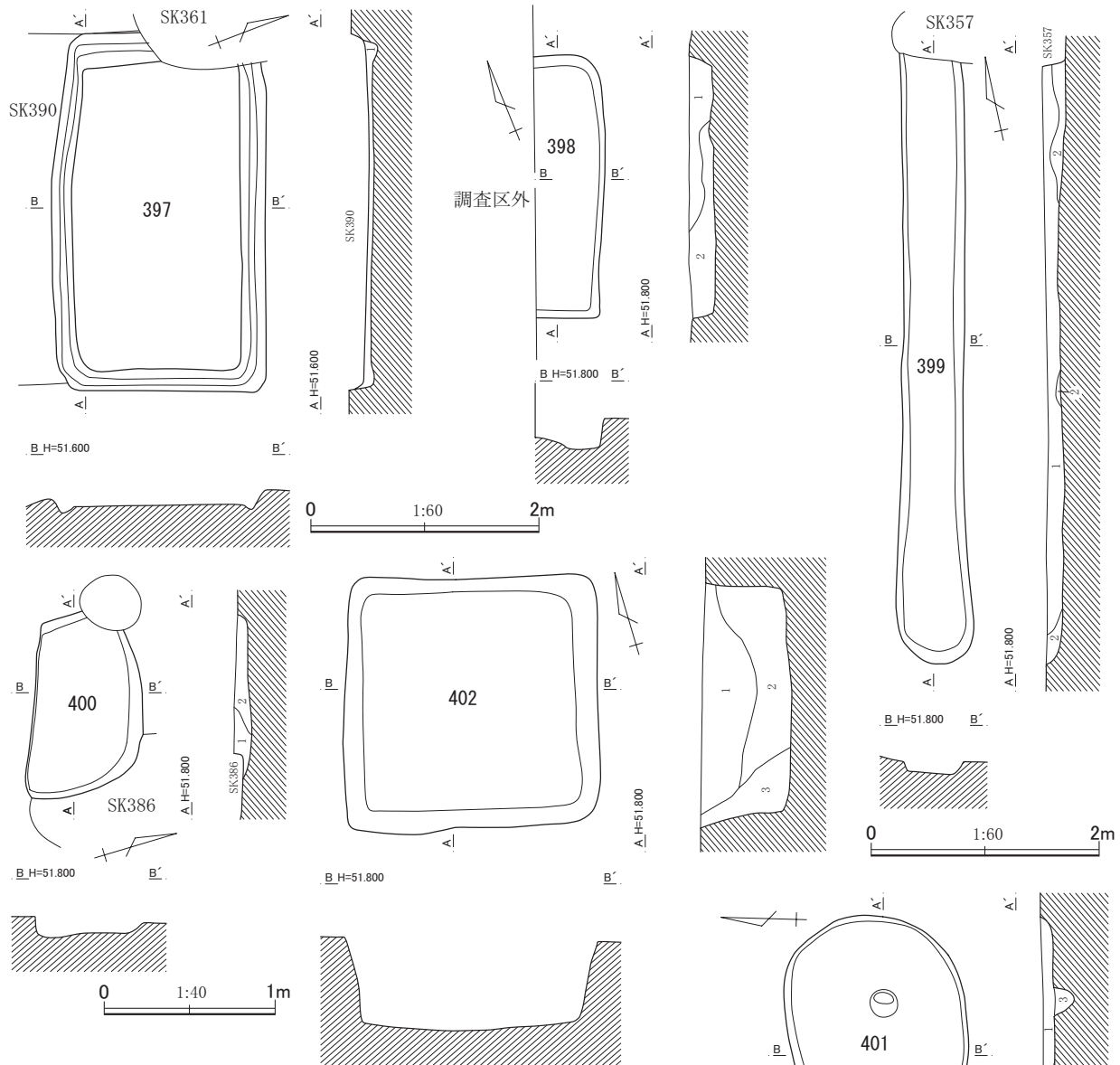
第396号土坑土層説明

- 第1層：黒褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～5mm）を中量含み、ローム小塊（～20mm）を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含み、ローム小塊（～30mm）を少量含む。
- 第3層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）を多量に含み、ローム小塊（～30mm）を中量含む。

第394号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～

第771図 第391～396号土坑平面・断面図



第397号土坑土層説明

第1層：暗褐色土。ローム小塊（～15mm）・焼土粒（～5mm）を少量含む。

第398号土坑土層説明

第1層：暗褐色土。ローム小塊（～10mm）を微量含む。
第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊（～30mm）を少量含む。粘性は弱い。

第399号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム小塊（～10mm）を微量含む。
第2層：暗灰褐色土。ローム小塊（～20mm）を少量含む。

第400号土坑土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒（～8mm）を少量含む。
第2層：暗褐色土。ローム粒（～3mm）を微量含む。

第401号土坑土層説明

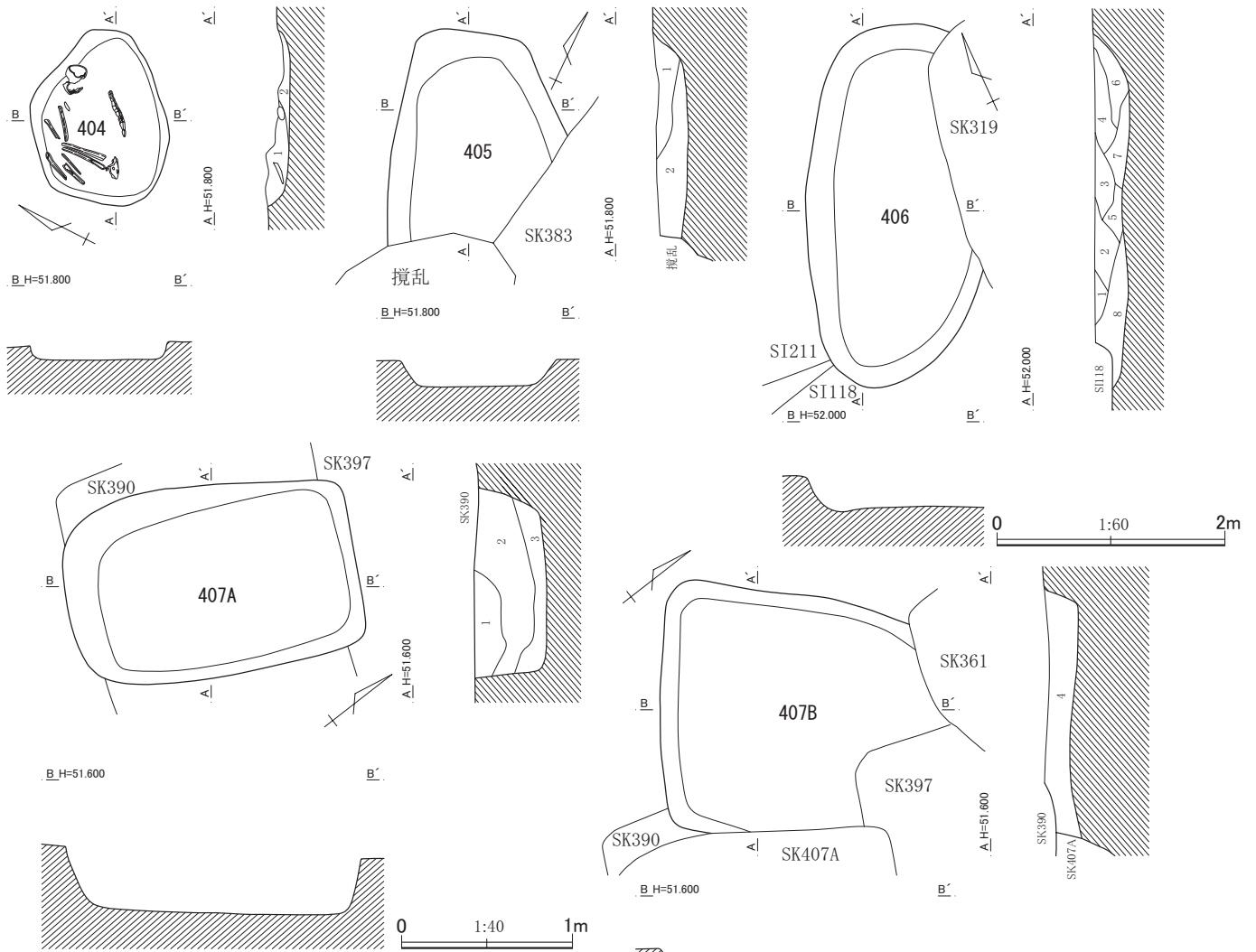
第1層：暗褐色土。ローム粒（～8mm）・焼土粒（～8mm）を微量含む。
第2層：黄褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊（～30mm）を多量に含む。
第3層：暗褐色土。ローム粒（～8mm）を中量含む。

第402号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム小塊（～15mm）を少量含む。
第2層：暗褐色土。ローム小塊（～30mm）を中量含む。
第3層：暗褐色土。ローム小塊（～50mm）を多量に含む。

*第397・399号土坑以外は、1/40

第772図 第397～402号土坑平面・断面図



第404号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第2層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊（～10mm）を中量含み、焼土粒（～3mm）を微量含む。

第405号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム小塊（～10mm）を少量含む。
- 第2層：明褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム小塊（～30mm）を中量含む。

第406号土坑土層説明

- 第1層：明灰褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム粒（～10mm）・ローム小塊（～40mm）を中量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）を少量含み、ローム小塊（～20mm）を中量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム粒（～4mm）を少量含む。
- 第5層：暗灰褐色土。ローム小塊（～10mm）を微量含み、

*第406号土坑
以外は、1/40

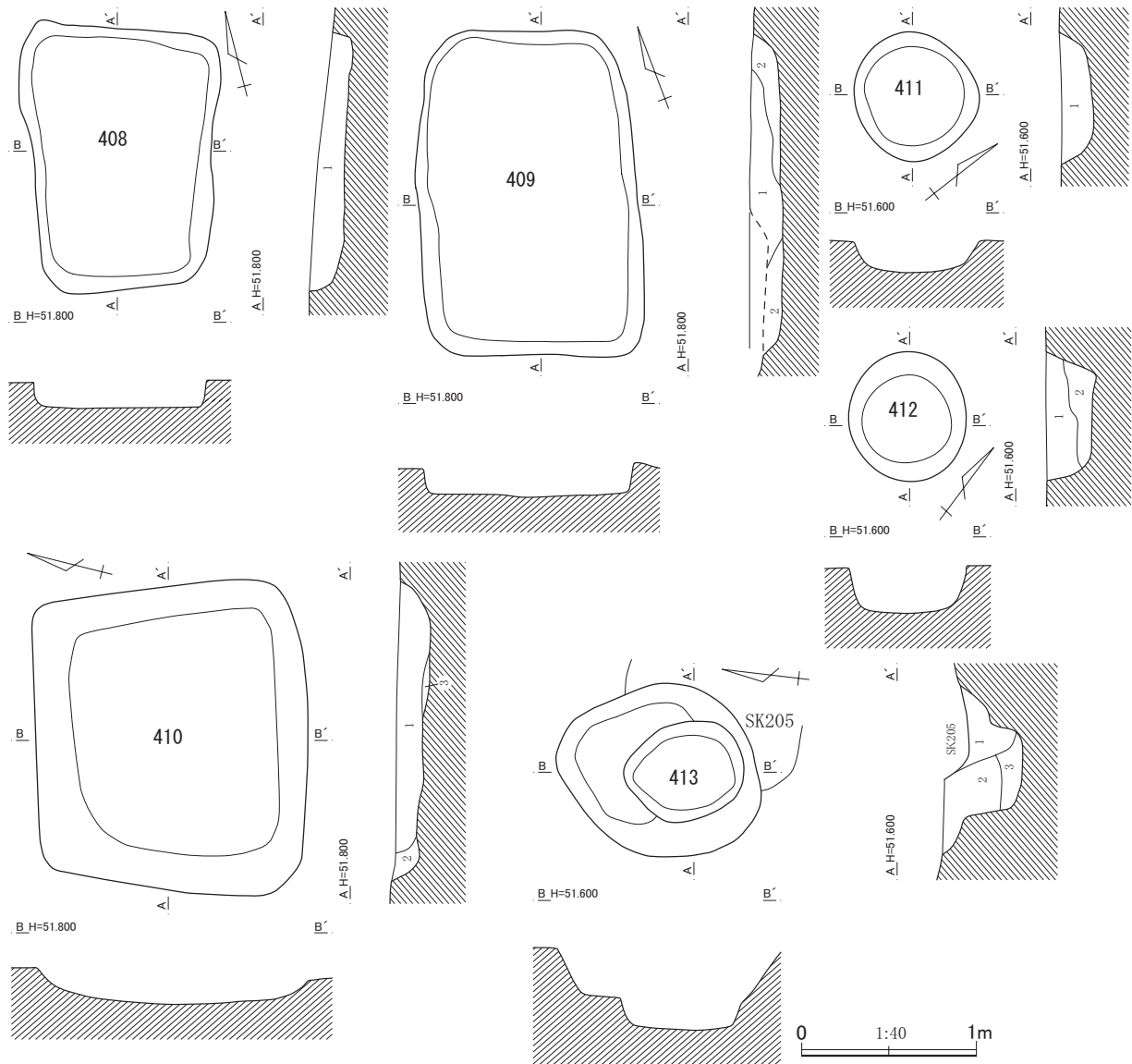
ローム小塊（～20mm）を少量含む。

- 第6層：明灰褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム小塊（～10mm）・ローム小塊（～50mm）を少量含む。
- 第7層：明灰褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム小塊（～10mm）を中量含み、ローム小塊（～50mm）を少量含む。
- 第8層：明灰褐色土。暗灰褐色土を主とし、ローム小塊（～20mm）を多量に含み、ローム小塊（～50mm）を中量含む。

第407号土坑土層説明

- 第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊（～50mm）を中量含み、焼土粒（～8mm）を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム小塊（～20mm）を少量含む。
- 第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊（～20mm）を多量に含む。第1～3層は、第407A号土坑覆土。
- 第4層：暗褐色土。ローム小塊（～10mm）を少量含む。第407B号土坑覆土。

第773図 第404～407A・B号土坑平面・断面図



第408号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を中量含む。

第409号土坑土層説明

第1層：暗褐色土。ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～8mm）を少量含む。
 第2層：暗褐色土。ローム小塊（～15mm）を中量含む、焼土粒（～8mm）を微量含む。

第410号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～20mm）を中量含む、焼土粒（～5mm）・焼土小塊（～10mm）を微量含む。
 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を微量含む、ローム小塊（～10mm）を少量含む。
 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を微量含む、ローム小塊（～10mm）を中量含む。

第411号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム小塊（～10mm）を少量含む。

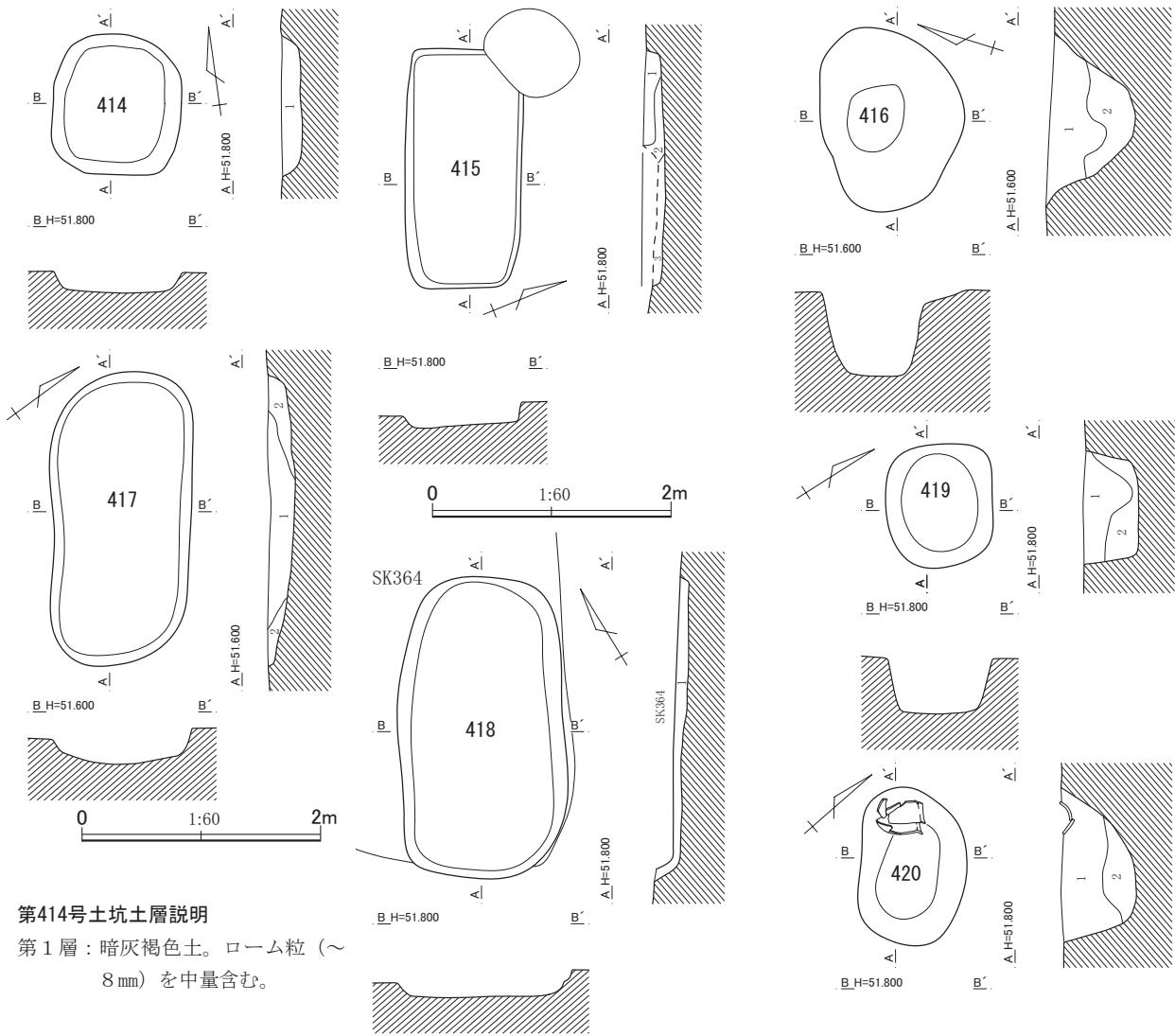
第412号土坑土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）を中量含む、焼土粒（～5mm）を微量含む。
 第2層：暗褐色土。ローム粒（～3mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。

第413号土坑土層説明

第1層：暗褐色土。ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～8mm）を微量含む。
 第2層：暗褐色土。ローム小塊（～15mm）を少量含む、焼土小塊（～10mm）を微量含む。
 第3層：暗褐色土。ローム小塊（～30mm）を少量含む。

第774図 第408～413号土坑平面・断面図



第414号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を中量含む。

第415号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・焼土粒（～5mm）を少量含む、ローム小塊（～10mm）・焼土小塊（～10mm）を中量含む。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む、ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。

第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～5mm）・焼土粒（～5mm）を少量含む、焼土小塊（～10mm）を微量含む。

第416号土坑土層説明

第1層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊（～30mm）を中量含む、焼土粒（～8mm）を微量含む。

第2層：暗褐色土。ローム小塊（～15mm）を微量含む。

第417号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～4mm）を少量含む。

第2層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～4mm）・ローム小塊（～20mm）を少量含む。

第418号土坑土層説明

第1層：暗褐色土。ローム小塊（～10mm）を少量含む。

第419号土坑土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）を微量含む、焼土小塊（～10mm）を少量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含む、焼土小塊（～10mm）を微量含む。

第420号土坑土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）を微量含む。

第2層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）・ローム小塊（～10mm）を微量含む。

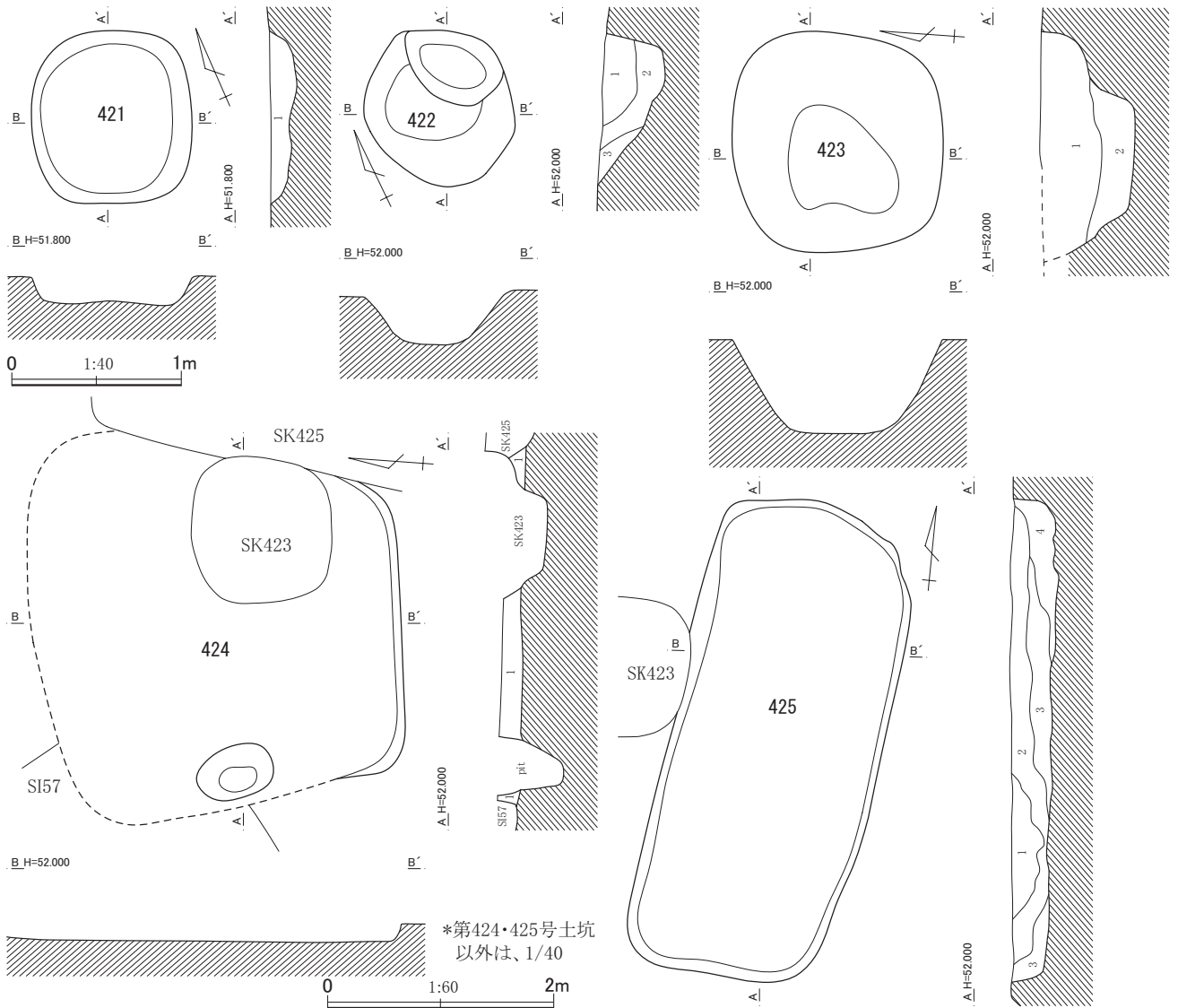
*第415・417・418号土坑以外は、1/40

第775図 第414～420号土坑平面・断面図

C地点

第322表 C地点・土坑計測および観察表(10)

番号	グリッド	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	出土遺物	備考
373	Q9・10	楕円形	171×108	5	土師器片。	SK372を切る。
374	Q8	楕円形	200×98	37		SK327に切られる。
375	07	不整隅丸長方形	233×165	49	土師器片、埴輪片。	SK308を切り、SK362・383に切られる。
376	S9	長楕円形	263×83	5	土師器片。	
377	Q8	楕円形	165×67	19	土師器片。	
378	S9	隅丸長方形	200×89	13	土師器片。	
379	Q8、R8	隅丸長方形	275×115	20		
380	Q8、R8	不整楕円形	144×101	13	土師器片。	
381	Q7・8、 R7・8	楕円形	125×49	28	人骨(火葬骨)。	
382	R7・8	楕円形	220×108	15	土師器片。	
383	07・8	長楕円形	(715)×84	24	土師器片、須恵器片。	SK308・362・375・405を切る。
384	N9	不整円形	99	9		SK346に切られる。
385	N9	長楕円形	200×(75)	19		SK250を切り、SK347に切られる。
386	N9	楕円形	257×105	14	土師器片。	SK250・400を切り、SK347に切られる。
387	P9	隅丸方形	138×(133)	23		SK334に切られる。
388	09	不整隅丸方形	172×153	58	土師器片。	SK343に切られる。
389	N9、09	長楕円形	(236)×82	9	土師器片、須恵器片。	SK245・360を切り、SK233・238に切られる。
390	07、P7	方形	324×305	12	須恵器片1点。土師器片、須恵器片、灰釉陶器片。	SK397・407A・Bを切り、SK361に切られる。平安時代
391	S13	不整隅丸長方形	158×136	25	土師器片。	
392	S8	長楕円形	286×81	11	土師器片。	
393	R8	長楕円形	277×72	38	土師器片、須恵器片。	
394	R8	不整楕円形	105×74	17	土師器片。人骨。	
395	U9	楕円形	(277)×120	12	土師器片。	
396	U13	不整円形	106	26	甑1点。土師器片。	
397	06・7、 P7	隅丸長方形	315×186	4	土師器片。	SK407A・Bを切り、SK361・390に切られる。壁溝あり。
398	N8	隅丸長方形	154×(40)	15		
399	08	長楕円形	(532)×53	14	土師器片、須恵器片。	SK357に切られる。
400	N9	不整楕円形	108×(63)	10		SK249・250を切り、SK386に切られる。
401	Q10	楕円形	148×103	18	土師器片。	
402	Q9	方形	148×146	51	土師器片、縄文土器片。	
403						欠番
404	R10	不整楕円形	103×80	13	土師器片、棒状土製品片。人骨。	
405	07・8	不明	(122)×100	19	鉄釘1点。土師器片。	SK383に切られる。
406	R11	長楕円形	321×163	30	土師器片、須恵器片。	SK319に切られる。
407A	07	隅丸長方形	170×113	41	土師器片、須恵器片。	SK407Bを切り、SK390・397に切られる。
407B	07	隅丸長方形	162×140	18		SK361・390・397・407Aに切られる。
408	Q8	隅丸長方形	149×97	18	土師器片。	
409	R9	隅丸長方形	184×123	19		
410	T11	隅丸方形	175×155	18	土師器片、縄文土器片。	
411	08	不整円形	75	18		
412	P8	円形	75	27	土師器小片。	
413	P7	楕円形	119×100	44	土師器片。	SK205に切られる。
414	09	不整円形	79	11		
415	S9・10	隅丸長方形	202×97	18	土師器片、須恵器片。	
416	P9	楕円形	103×80	47	土師器片、縄文土器片。	
417	S9	楕円形	246×115	20	土師器片。	
418	07	楕円形	254×139	25	土師器片、縄文土器片。	SK364に切られる。
419	R10	不整楕円形	70×60	31		
420	R10	楕円形	89×59	41	甑1点、鉢1点。土師器片。	



第421号土坑土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～1mm）を中量含み、ローム粒（～8mm）を少量含む。

第422号土坑土層説明

第1層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）・焼土粒（～5mm）を少量含む。
 第2層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）・焼土粒（～5mm）を中量含む。
 第3層：暗褐色土。ローム粒（～5mm）を少量含み、焼土粒（～30mm）を微量含む。

第423号土坑

第1層：暗褐色土。ローム小塊（～30mm）を微量含み、焼土粒（～8mm）を少量含む。
 第2層：暗褐色土。ローム小塊（～50mm）を少量含む。

第424号土坑

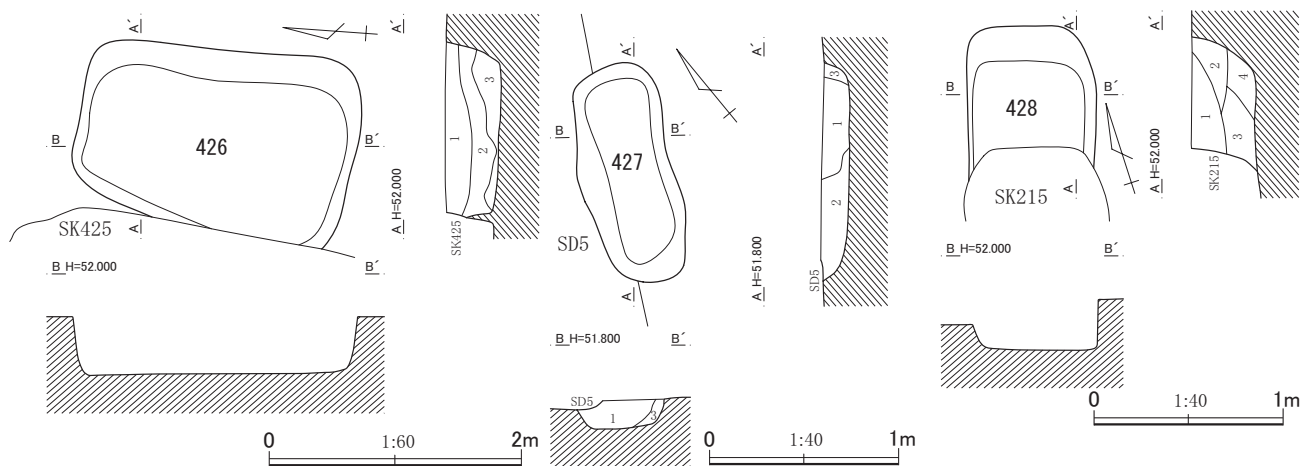
第1層：暗褐色土。ローム小塊（～30mm）・焼土小塊（～

10mm）を少量含む。ややしまっている。

第425号土坑

第1層：暗褐色土。ローム小塊（～10mm）を微量含む。
 第2層：暗褐色土。ローム小塊（～15mm）を少量含み、焼土粒（～5mm）を微量含む。
 第3層：暗褐色土。ローム小塊（～10mm）・焼土粒（～8mm）を少量含む。ややしまっている。
 第4層：暗褐色土。ローム小塊（～10mm）を中量含む。ややしまっている。

第776図 第421～425号土坑平面・断面図



第426号土坑

- 第1層：暗褐色土。ローム粒（～8mm）・焼土粒（～5mm）を微量含む。
- 第2層：暗褐色土。ローム小塊（～10mm）を少量含む、焼土粒（～8mm）を微量含む。ややしまっている。
- 第3層：明褐色土。暗褐色土を主とし、ローム小塊（～20mm）を中量含む、粘土小塊（～30mm）・焼土粒（～8mm）を少量含む。ややしまっている。

第427号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～5mm）を微量含む、炭化物粒（～5mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～5mm）・炭化物小塊（～10mm）を少量含む。

- 第3層：暗灰褐色土。暗褐色土を主とし、ローム粒（～5mm）を微量含む。

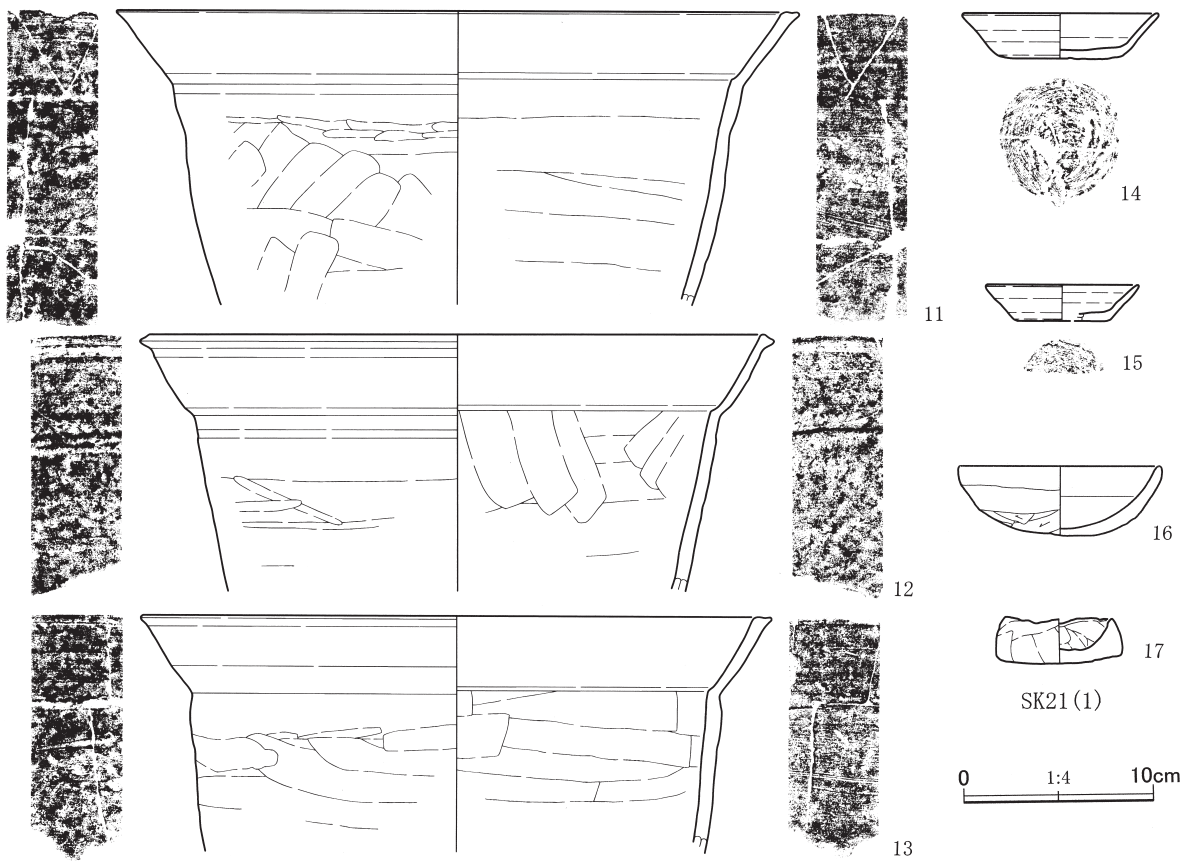
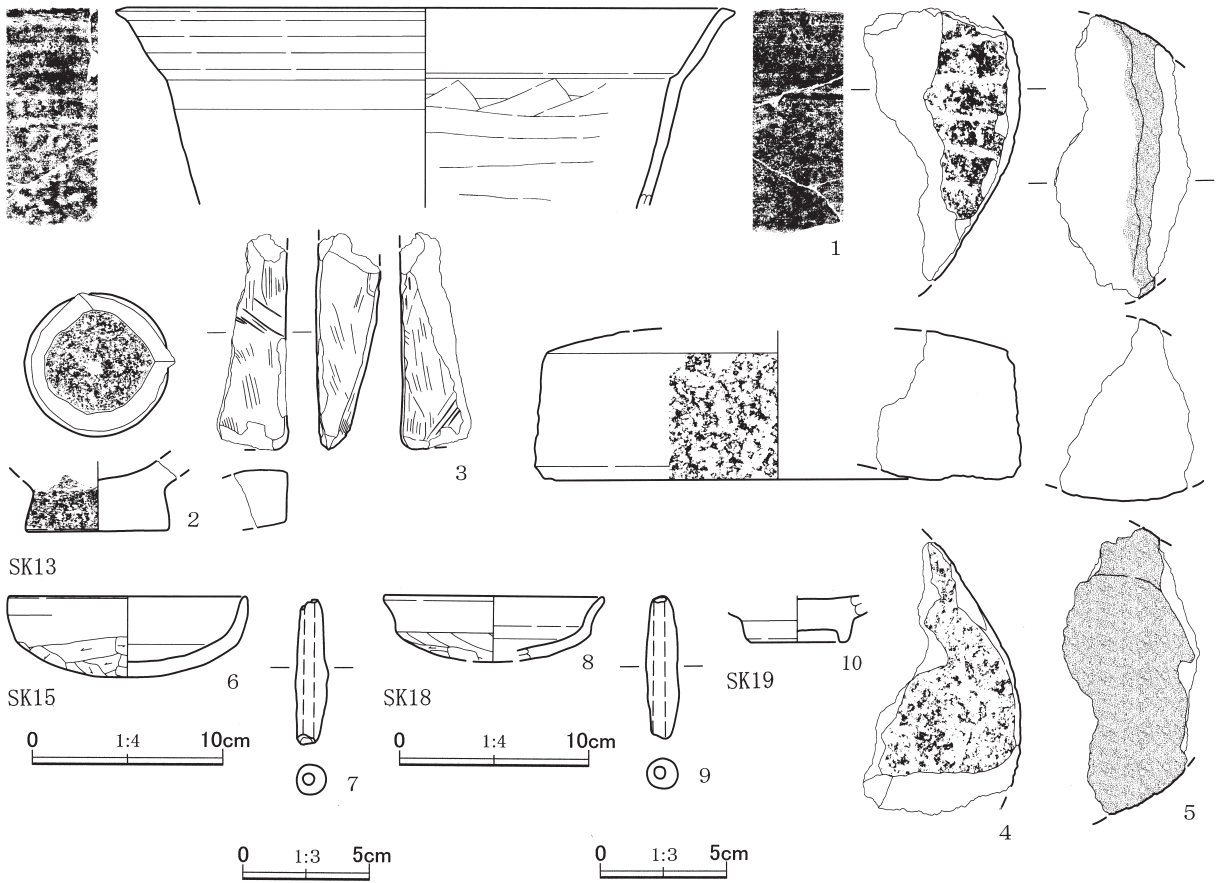
第428号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土。ローム粒（～15mm）・ローム小塊（～40mm）を少量含む。
- 第2層：暗灰褐色土。ローム粒（～2mm）・ローム粒（～8mm）を少量含む。
- 第3層：暗灰褐色土。ローム粒（～8mm）を中量含む、ローム小塊（～20mm）を微量、焼土小塊（～10mm）を少量含む。
- 第4層：暗灰褐色土。ローム小塊（～10mm）を中量含む、焼土粒（～8mm）を少量含む。

第777図 第426～428号土坑平面・断面図

第323表 C地点・土坑計測および観察表（11）

番号	グリッド	平面形	規模(cm)	深さ(cm)	出土遺物	備考
421	T12	不整円形	102	15		
422	U14	不整円形	91	35	土師器片、須恵器片。	
423	Q11	不整円形	130	55	坏1点(SK423～425より出土)。	SK424・425を切る。
424	Q11	隅丸方形?	(348)×(325)	18	土師器片。	SK423・425に切られる。
425	Q11	隅丸長方形	431×184	35	坏1点(SK425・426より出土)。土師器片、須恵器片、土錘小片。	SK424・426を切り、SK423に切られる。
426	Q11	隅丸長方形	218×148	43	土師器片。	SK425に切られる。
427	Q8	不整楕円形	117×49	15	土師器小片。人骨(火葬骨)。	
428	O10・11	隅丸長方形?	(82)×67	33		SK215に切られる。



第778图 第13·15·18·19·21号土坑出土遗物

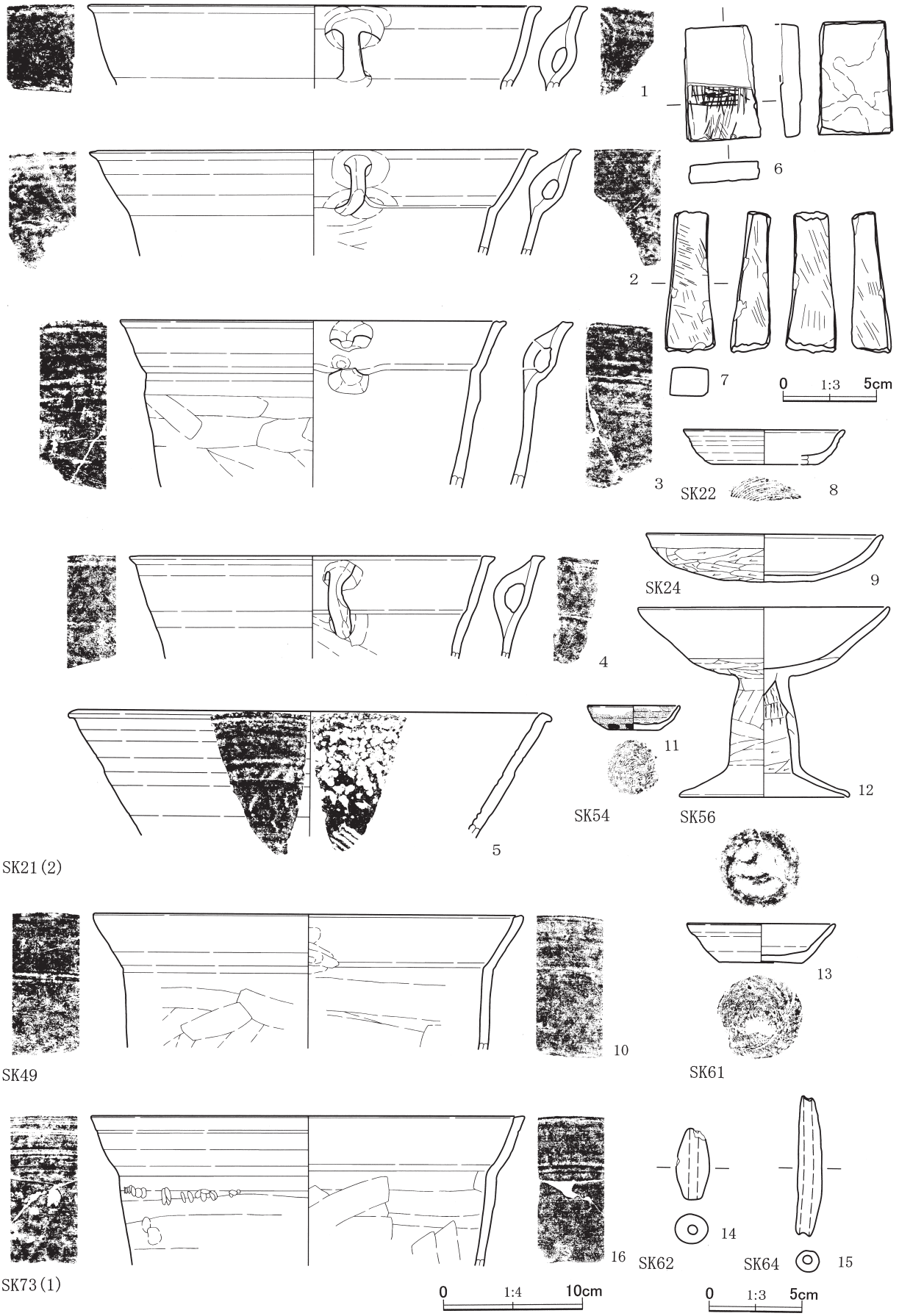
C地点

第324表 第13・15・18・19・21号土坑出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	内耳鍋	口径(32.8) 底径— 器高[11.0]	体部は直線的に外傾する。口縁部は内彎気味に外傾し、端部は外方へ突出する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	海綿滑針・白色粒 内外—灰色	SK13 口縁部～体部 1/8残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
2	石鉢	底径7.6、器高[3.8]、重さ251.07。石材：安山岩。調整：内底面は平滑。				SK13 底部
3	砥石	長さ[11.9]、幅[3.9]、厚さ[3.2]、重さ146.92。石材：流紋岩。調整：3面使用。全て砥面で、内2面は非常に平滑。				SK13 破片
4	石臼	径(26.9)、高さ[8.2]、重さ711.64g。石材：安山岩。穀物臼の下臼。白面は非常に平滑。挽き目は明瞭。				SK13 破片
5	被熱礫	長さ[15.7]、幅[7.5]、厚さ[10.0]、重さ662.68。石材：角閃石安山岩。調整：不明瞭。被熱によりスス付着し、暗灰色に変色。				SK13 破片
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
6	坏	口径(12.9) 底径— 器高4.4	丸底。体部は浅く彎曲し、口縁部は内彎気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—橙色	SK15 1/3残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
7	土錘	長さ6.0、幅1.3、厚さ1.3、重さ9.55g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい黄色。				SK15 完形
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
8	坏	口径(12.0) 底径— 器高[3.5]	丸底。体部は浅く、口縁部は強く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—橙色	SK18 1/4残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
9	土錘	長さ5.9、幅1.4、厚さ1.3、重さ8.94g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：橙色。				SK18 完形
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
10	青磁碗	口径— 底径(5.3) 器高[2.6]	高台は方形を呈する。底部は厚い。ロクロ成形。	外面—ロクロナデ。高台貼付。内面—ロクロナデ。底部回転ヘラケズリ。	白色粒 釉薬—オリーブ灰色、胎土—灰白色	SK19 底部
11	内耳鍋	口径(37.4) 底径— 器高[16.3]	体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は直線的に外傾し、端部は外方へ突出する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ、上位に棒状工具によるナデ。内面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	白色粒 外—灰黄褐色 内—黄灰色	SK21 口縁部～体部 1/5残存
12	内耳鍋	口径(33.8) 底径— 器高[14.2]	体部はやや外傾する。口縁部は内彎気味に外傾し、端部は外方へ突出する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	白色粒 外—にぶい黄褐色 内—にぶい黄色	SK21 口縁部～体部 1/5残存
13	内耳鍋	口径(34.5) 底径— 器高[13.0]	体部は直立する。口縁部は内彎気味に外傾し、端部は外方へ突出する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	白色粒 外—暗青灰色 内—灰色	SK21 口縁部～体部 1/5残存
14	カワラケ	口径(10.6) 底径5.3 器高[2.6]	平底。体部から口縁部へ直線的に開く。ロクロ成形。	外面—ロクロナデ。底部左回転糸切り。内面—ロクロナデ。	海綿滑針・白色粒・黒色粒・褐色粒 内外—にぶい橙色	SK21 口縁部～体部 1/2欠損
15	カワラケ	口径(8.2) 底径4.8 器高2.0	平底。体部から口縁部へ直線的に開く。ロクロ成形。	外面—ロクロナデ。底部左回転糸切り。内面—ロクロナデ。	海綿滑針・白色粒・黒色粒・褐色粒 内外—にぶい橙色	SK21 1/4残存
16	坏	口径10.8 底径— 器高3.9	丸底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部上半ナデ。体部下半～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒・褐色粒 内外—明赤褐色	SK21 ほぼ完形
17	手捏ね土器	口径5.8 底径6.7 器高2.7	平底。体部から口縁部にかけて内傾して立ち上がる。体部の器高は厚い。手捏ね成形。	外面—口縁部～底部ヘラナデ。内面—口縁部～底部ナデ。	白色粒 外—橙色 内—にぶい橙色	SK21 完形

第325表 第21・22・24・49・54・56・61・62・64・73号土坑出土遺物観察表(1)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	内耳鍋	口径(34.0) 底径— 器高[6.3]	口縁部は内彎気味に外傾し、端部は外方へ突出する。内耳把手を貼付。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。内耳把手貼付時に周縁ナデ。	白色粒 外—黄灰色 内—灰色	SK21 口縁部1/8残存
2	内耳鍋	口径(32.4) 底径— 器高[7.9]	口縁部は内彎気味に外傾し、端部は外方へ突出する。内耳把手を貼付。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。内耳把手貼付時に周縁ナデ。	白色粒 内外—灰色	SK21 口縁部1/8残存



第779图 第21·22·24·49·54·56·61·62·64·73号土坑出土遗物

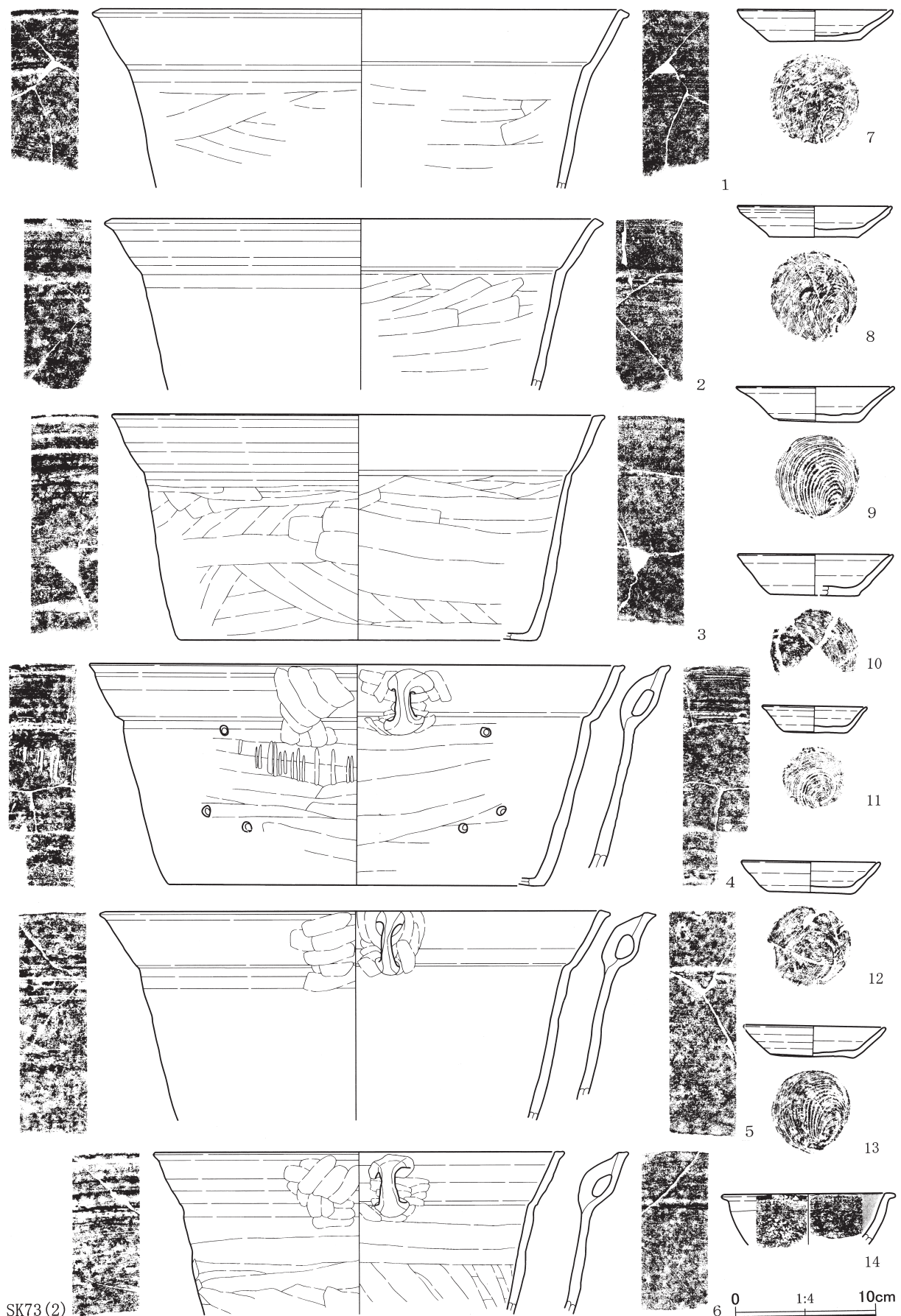
C地点

第326表 第21・22・24・54・56・61・62・64・73号土坑出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
3	内耳鍋	口径 (28.8) 底径 — 器高 [12.5]	体部はやや外傾する。口縁部は内彎気味に外傾し、端部は外方へ突出する。内耳把手を貼付。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。内面一口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。内耳把手貼付時に周縁ナデ。	海綿滑針・白色粒 内外一暗灰色	SK21 口縁部～体部1/2残存
4	内耳鍋	口径 (27.4) 底径 — 器高 [7.7]	口縁部は直線的に外傾し、端部は外方へ突出する。内耳把手を貼付。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。内面一口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。内耳把手貼付時に周縁ナデ。	白色粒 外一灰黄褐色 内一黄灰色	SK21 口縁部1/16残存
5	播鉢	口径 (34.8) 底径 — 器高 [9.4]	体部から口縁部へ直線的に開く。口唇部は外側へ短く外屈する。ロクロ成形。	外面一ロクロナデ。内面一ロクロナデ。掻き目。器表面剥離。	白色粒 内外一灰色	SK21 口縁部～体部破片
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
6	砥石	長さ6.4、幅4.2、厚さ1.1、重さ51.64。石材：不明。調整：1面使用。使用面は平滑。				SK21 砥面1/2欠損
7	砥石	長さ8.0、幅2.3、厚さ1.6、重さ59.17。石材：流紋岩。調整：4面使用。使用面は平滑。				SK21 ほぼ完形
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
8	須恵器 坏	口径 (11.9) 底径 (7.8) 器高 2.6	平底。体部から口縁部へ内湾気味に開き、端部は外反する。ロクロ成形。	外面一ロクロナデ。底部回転糸切り。内面一ロクロナデ。	雲母・白色粒・褐色粒 内外一橙色	SK22 1/5残存 酸化焰焼成
9	坏	口径 17.4 底径 — 器高 3.6	丸底。浅い体部から、口縁部は外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外一橙色	SK24 ほぼ完形
10	内耳鍋	口径 (32.0) 底径 — 器高 [10.1]	体部は直立する。口縁部は内彎気味に外傾し、端部でやや肥厚する。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。内面一口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。内耳把手貼付時に周縁ナデ。	海綿滑針・白色粒 内外一灰色	SK49 口縁部～体部1/8残存
11	カワラケ 灯明皿	口径 6.8 底径 3.8 器高 1.9	平底。体部から口縁部へ内湾気味に開く。ロクロ成形。	外面一ロクロナデ。底部左回転糸切り。内面一ロクロナデ。全体にスス、外面下端に油煙が付着。	雲母・白色粒 内外一にぶい黄橙色	SK54 口縁部1/4欠損
12	高坏	口径 (18.7) 底径 (12.7) 器高 14.2	口縁部は外傾して開く。脚部は筒状を呈する。裾部は内彎気味に広がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。坏部～脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。内面一口縁部ヨコナデ。坏底部ヘラナデ。脚部上半絞り目、下半ヘラケズリ。裾部ヨコナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外一明赤褐色	SK56 3/4残存
13	カワラケ	口径 (11.0) 底径 6.1 器高 3.0	平底。体部から口縁部へ直線的に開き、上位でやや内彎する。ロクロ成形。	外面一ロクロナデ。底部左回転糸切り。内面一ロクロナデ。見込みに単方向のナデ。	白色粒・褐色粒 内外一橙色	SK61 口縁部2/3欠損
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
14	土錘	長さ4.0、幅1.8、厚さ1.7、重さ11.16g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい黄橙色。				SK62 一部欠損
15	土錘	長さ7.9、幅1.3、厚さ1.2、重さ12.07g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：橙色。				SK64 完形
16	内耳鍋	口径 (32.3) 底径 — 器高 [11.3]	体部はやや外傾する。口縁部は内彎気味に外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。内面一口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 外一灰黄褐色 内一にぶい黄褐色	SK73 口縁部～体部1/5残存

第327表 第73号土坑出土遺物観察表(1)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	内耳鍋	口径 (39.1) 底径 — 器高 [13.4]	体部はやや外傾する。口縁部は内彎気味に外傾し、端部は外方へ突出する。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。内面一口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外一黄灰色	SK73 口縁部～体部1/6残存
2	内耳鍋	口径 (36.1) 底径 — 器高 [12.8]	体部はやや外傾する。口縁部は内彎気味に外傾し、端部は外方へ突出する。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。内面一口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	海綿滑針・白色粒・黒色粒 内外一灰色	SK73 口縁部～体部1/8残存
3	内耳鍋	口径 (36.5) 底径 (26.7) 器高 (16.9)	体部はやや外傾する。口縁部は内彎気味に外傾し、端部は外方へ突出する。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外一灰色	SK73 1/5残存
4	内耳鍋	口径 (40.1) 底径 (28.1) 器高 (16.6)	体部はやや外傾する。口縁部は内彎気味に外傾し、端部は外方へ突出する。内耳把手を貼付。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。内耳把手貼付時に周縁ナデ。	白色粒・黒色粒 外一褐灰色 内一灰白色	SK73 1/5残存 体部に円孔3箇所穿孔(孔径0.55×0.5cm)
5	内耳鍋	口径 37.1 底径 — 器高 [15.7]	体部はやや外傾する。口縁部は内彎気味に外傾し、端部は外方へ突出する。内耳把手を貼付。粘土紐積み上げによる成形。	外面一口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。内面一口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。内耳把手貼付時に周縁ナデ。	海綿滑針・白色粒・黒色粒・褐色粒 内外一黄灰色	SK73 口縁部～体部2/3残存



SK73(2)

第780图 第73号土坑出土遗物

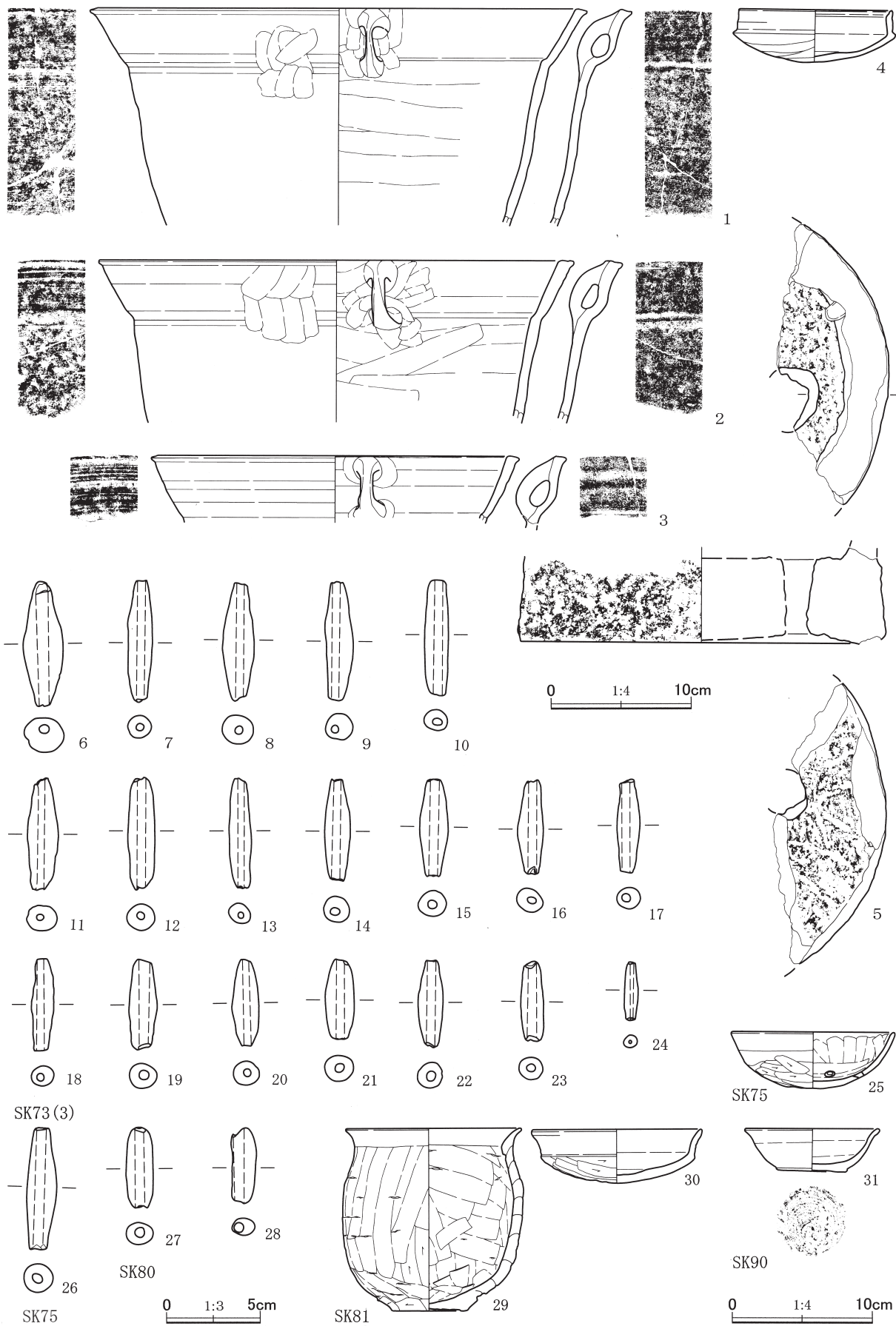
C地点

第328表 第73号土坑出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
6	内耳鍋	口径(30.8) 底径— 器高[12.2]	体部はやや外傾する。口縁部は内彎気味に外傾し、端部は外方へ突出する。内耳把手を貼付。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。内耳把手貼付時に周縁ナデ。	海綿滑針・白色粒・黒色粒 外—灰褐色 内—灰色	SK73 口縁部～体部1/3残存
7	カワラケ	口径11.4 底径6.8 器高2.4	平底。体部から口縁部へ直線的に開く。ロクロ成形。	外面—ロクロナデ。底部左回転糸切り。内面—ロクロナデ。	雲母・白色粒・黒色粒 内外—橙色	SK73 ほぼ完形
8	カワラケ	口径11.5 底径6.7 器高2.3	平底。体部から口縁部へ直線的に開く。口唇部は外面に弱い凹線がめぐる。ロクロ成形。	外面—ロクロナデ。底部左回転糸切り。内面—ロクロナデ。	雲母・白色粒・黒色粒 内外—橙色	SK73 口縁部1/4欠損
9	カワラケ	口径11.6 底径6.4 器高2.7	平底。体部から口縁部へ外反気味に開く。ロクロ成形。	外面—ロクロナデ。底部左回転糸切り。内面—ロクロナデ。	雲母・白色粒・黒色粒 内外—にぶい橙色	SK73 口縁部2/3欠損
10	カワラケ	口径11.4 底径6.5 器高3.1	平底。体部から口縁部へ直線的に開く。ロクロ成形。	外面—ロクロナデ。底部左回転糸切り。内面—ロクロナデ。	雲母・白色粒・黒色粒 内外—にぶい橙色	SK73 1/3残存
11	カワラケ	口径7.7 底径4.8 器高2.0	平底。体部から口縁部へ直線的に開く。端部は短く外反する。ロクロ成形。	外面—ロクロナデ。底部左回転糸切り。内面—ロクロナデ。	雲母・白色粒・黒色粒・褐色粒 内外—明赤褐色	SK73 ほぼ完形
12	カワラケ	口径10.1 底径6.3 器高2.4	平底。体部から口縁部へ直線的に開く。ロクロ成形。	外面—ロクロナデ。底部左回転糸切り。内面—ロクロナデ。	雲母・白色粒・黒色粒 内外—橙色	SK73 ほぼ完形
13	カワラケ	口径10.5 底径6.2 器高2.3	平底。体部から口縁部へ直線的に開く。ロクロ成形。	外面—ロクロナデ。底部左回転糸切り。内面—ロクロナデ。	雲母・白色粒・黒色粒・褐色粒 内外—明赤褐色	SK73 口縁部2/3欠損
14	埴	口径(12.7) 底径— 器高[3.8]	口縁部は水平に短く外傾する。体部は丸みをもつ。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。黒色処理。	石英・白色粒・黒色粒 外—灰黄褐色 内—黒色	SK73 口縁部～体部1/3残存 外面体部磨耗

第329表 第73・75・80・81・90号土坑出土遺物観察表(1)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	内耳鍋	口径(38.1) 底径— 器高[14.1]	体部はやや外傾する。口縁部は内彎気味に外傾し、端部は外方へ突出する。口唇部は肥厚する。内耳把手を貼付。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。内耳把手貼付時に周縁ナデ。	海綿滑針・白色粒・黒色粒 内外—灰色	SK73 口縁部～体部1/2残存
2	内耳鍋	口径(35.8) 底径— 器高[16.2]	体部はやや外傾する。口縁部は内彎気味に外傾し、端部は外方へ突出する。内耳把手を貼付。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。内耳把手貼付時に周縁ナデ。	海綿滑針・白色粒・黒色粒 内外—黄灰色	SK73 口縁部～体部1/3残存
3	内耳鍋	口径(26.4) 底径— 器高[5.0]	口縁部は内彎気味に外傾し、端部は外方へ突出する。内耳把手を貼付。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。内面—口縁部ヨコナデ。内耳把手貼付時に周縁ナデ。	海綿滑針・白色粒 内外—黒色	SK73 口縁部1/6残存
4	坏	口径11.2 底径— 器高3.9	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって内傾気味に立ち上がる。口唇部は内側に面をもち、凹線がめぐる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 外—橙色 内—明赤褐色	SK73 3/4残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
5	石臼	径(27.4)、高さ[7.1]、重さ1153.84g。石材：安山岩。穀物臼の上臼。白面の使用痕は明瞭、挽き目は磨滅。				SK73 破片
6	土錘	長さ7.0、幅2.2、厚さ1.9、重さ23.88g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい赤褐色。				SK73 完形
7	土錘	長さ6.8、幅1.4、厚さ1.3、重さ9.98g。胎土：白色粒。色調：にぶい黄色。				SK73 完形
8	土錘	長さ6.6、幅1.8、厚さ1.6、重さ15.28g。胎土：白色粒。色調：にぶい黄褐色。				SK73 完形
9	土錘	長さ6.6、幅1.5、厚さ1.5、重さ14.26g。胎土：白色粒。色調：にぶい黄褐色。				SK73 完形
10	土錘	長さ6.4、幅1.3、厚さ1.2、重さ10.26g。胎土：白色粒。色調：褐灰色。				SK73 完形
11	土錘	長さ6.2、幅1.7、厚さ1.4、重さ14.23g。胎土：白色粒。色調：にぶい橙色。				SK73 完形
12	土錘	長さ6.3、幅1.6、厚さ1.5、重さ13.40g。胎土：白色粒・黒色粒・褐色粒。色調：にぶい橙色。				SK73 完形
13	土錘	長さ6.1、幅1.2、厚さ1.1、重さ8.33g。胎土：白色粒。色調：にぶい橙色。				SK73 完形



第781图 第73·75·80·81·90号土坑出土遗物

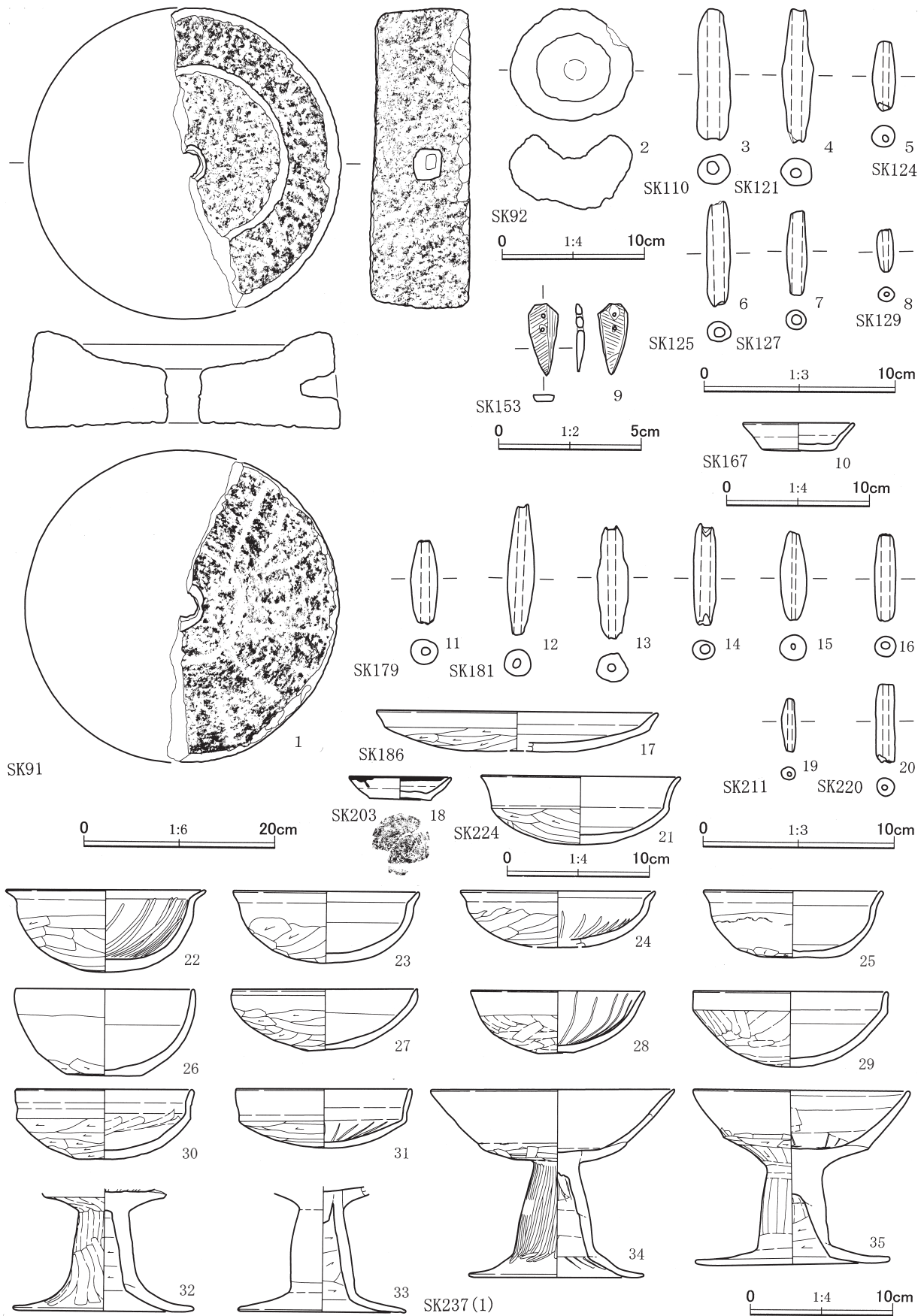
C地点

第330表 第73・75・80・81・90号土坑出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量(cm)・特徴			備考	
14	土錘	長さ5.7、幅1.5、厚さ1.5、重さ10.50g。胎土：白色粒。色調：黒褐色。			SK73 完形	
15	土錘	長さ5.5、幅1.6、厚さ1.5、重さ10.54g。胎土：白色粒。色調：灰黄色。			SK73 完形	
16	土錘	長さ5.2、幅1.5、厚さ1.4、重さ8.40g。胎土：白色粒。色調：灰黄褐色。			SK73 完形	
17	土錘	長さ5.2、幅1.3、厚さ1.2、重さ6.89g。胎土：白色粒。色調：にぶい橙色。			SK73 完形	
18	土錘	長さ5.1、幅1.2、厚さ1.1、重さ6.74g。胎土：白色粒。色調：にぶい褐色。			SK73 完形	
19	土錘	長さ5.0、幅1.5、厚さ1.4、重さ9.74g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：暗灰黄色。			SK73 完形	
20	土錘	長さ4.8、幅1.5、厚さ1.4、重さ8.89g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：橙色。			SK73 完形	
21	土錘	長さ4.5、幅1.6、厚さ1.5、重さ10.18g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：黒褐色。			SK73 完形	
22	土錘	長さ4.8、幅1.4、厚さ1.4、重さ8.42g。胎土：白色粒。色調：黒褐色。			SK73 完形	
23	土錘	長さ4.4、幅1.3、厚さ1.3、重さ6.24g。胎土：白色粒・褐色粒。色調：明褐色。			SK73 完形	
24	土錘	長さ3.2、幅0.8、厚さ0.7、重さ1.87g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい黄橙色。			SK73 完形	
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
25	坏	口径 11.9 底径 — 器高 4.3	丸底。体部から口縁部にかけて内湾気味に開く。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 内外—橙色	SK75 2/3残存 内側から穿孔1箇所(孔径0.4×0.5cm)
No.	器種	法量(cm)・特徴			備考	
26	土錘	長さ6.8、幅1.7、厚さ1.6、重さ16.58g。胎土：石英・白色粒・黒色粒。色調：暗灰黄色。			SK75 ほぼ完形	
27	土錘	長さ4.5、幅1.5、厚さ1.3、重さ8.99g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい赤褐色。			SK80 完形	
28	土錘	長さ4.2、幅1.4、厚さ1.0、重さ5.07g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい赤褐色。			SK80 完形	
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
29	小型甕	口径 12.9 底径 5.6 器高 13.6	口縁部は外反する。胴部は下位に膨らみをもつ。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ、下端ヘラケズリ。底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 外—にぶい黄褐色 内—にぶい橙色	SK81 1/2残存
30	坏	口径 12.6 底径 — 器高 4.1	丸底。口縁部は体部との境に弱い稜をもって外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒・褐色粒 内外—明赤褐色	SK81 2/3残存
31	須恵器坏	口径 10.0 底径 5.2 器高 3.2	平底。体部から口縁部へ内湾気味に開き、端部は外反する。ロクロ成形。	外面—ロクロナデ。底部ヘラケズリ。内面—ロクロナデ。	片岩・白色粒・黒色粒 内外—橙色	SK90 2/3残存 酸化焰焼成

第331表 第91・92・110・121・124・125・127・129・153・167・179・181・186・203・211・220・224・237号土坑出土遺物観察表(1)

No.	器種	法量(cm)・特徴			備考	
1	石臼	径(28.6)、高さ8.9、重さ4500g。石材：安山岩。穀物臼の上臼。下面の挽き目は磨滅。挽き手装着部には方形の穴(縦2.6×横2.8cm)が穿たれる。			SK91 破片	
2	凹み石	長さ8.2、幅9.0、厚さ5.45、重さ306.80g。石材：角閃石安山岩。			SK92 一部欠損	
3	土錘	長さ7.2、幅1.9、厚さ1.6、重さ21.25g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい黄褐色。			SK110 完形	
4	土錘	長さ7.3、幅1.75、厚さ1.5、重さ14.19g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：明黄褐色。			SK121 ほぼ完形	
5	土錘	長さ3.8、幅1.25、厚さ1.2、重さ4.28g。胎土：白色粒・黒色粒・褐色粒。色調：にぶい黄褐色。			SK124 完形	
6	土錘	長さ5.8、幅1.3、厚さ1.1、重さ7.93g。胎土：白色粒・黒色粒・褐色粒。色調：にぶい黄褐色。			SK125 完形	
7	土錘	長さ4.6、幅1.1、厚さ1.1、重さ4.51g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい黄褐色。			SK127 完形	
8	土錘	長さ2.35、幅0.9、厚さ0.8、重さ1.52g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：橙色。			SK129 完形	
9	石製品 剣形	長さ2.65、幅1.05、孔径0.1×0.1、厚さ0.25、重さ1.20g。石材：緑色岩。調整：円孔2箇所。丁寧な研磨。			SK153 完形	
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
10	カワラケ	口径 (8.0) 底径 (5.4) 器高 2.1	平底。体部から口縁部へ直線的に開く。ロクロ成形。	外面—ロクロナデ。底部ヘラケズリ。内面—ロクロナデ。	白色粒 外—灰黄色 内—浅黄色	SK167 1/8残存



第782図 第91・92・110・121・124・125・153・167・179・181・186・203・211・220・224・237号
土坑出土遺物

C地点

第332表 第91・92・110・121・124・125・127・129・153・167・179・181・186・203・211・220・224・237号
土坑出土遺物観察表(2)

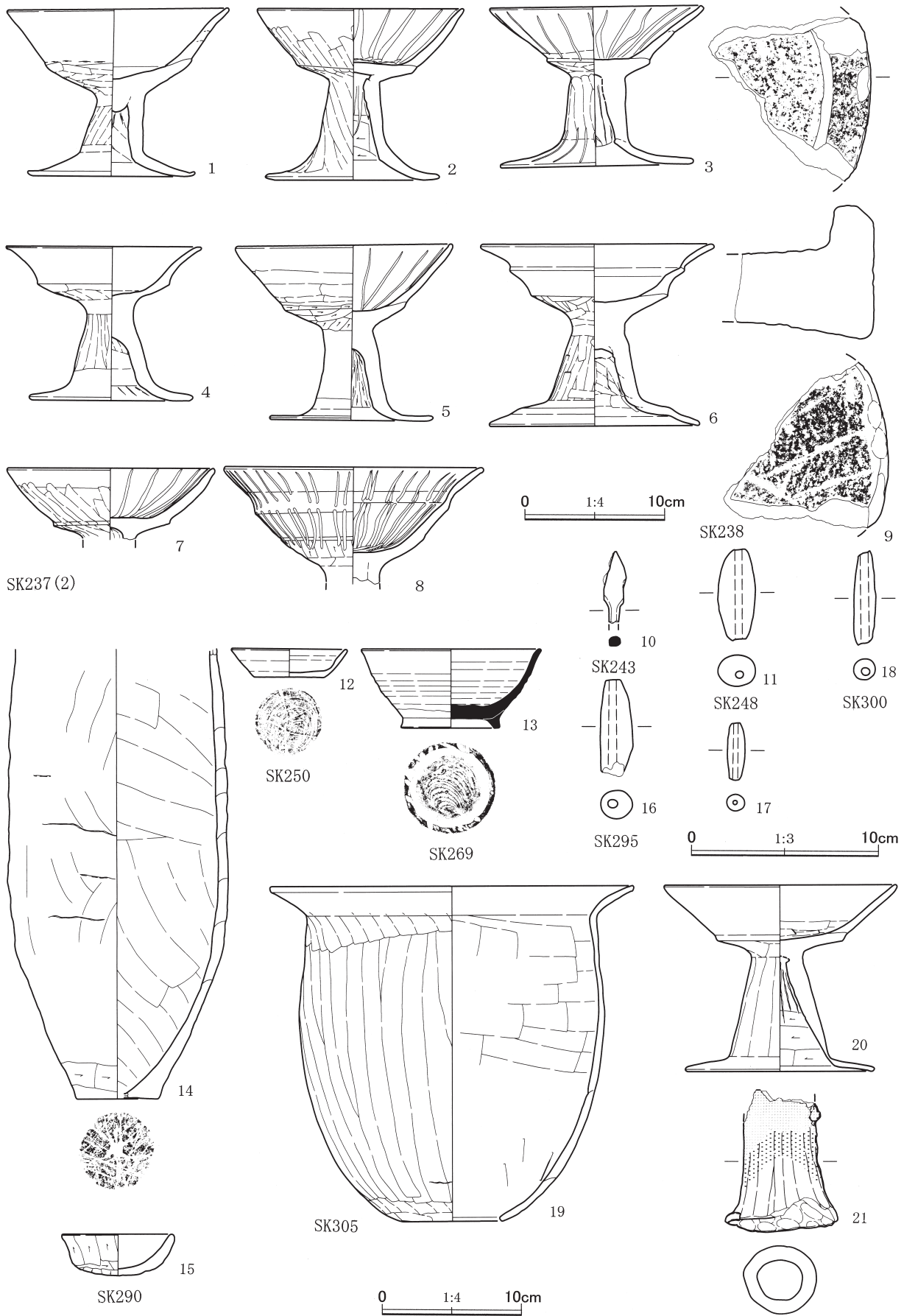
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
11	土錘	長さ4.6、幅1.5、厚さ1.4、重さ8.58g。胎土：石英・白色粒・黒色粒。色調：黄灰色。				SK179 完形
12	土錘	長さ7.2、幅1.5、厚さ1.4、重さ12.00g。胎土：白色粒。色調：にぶい橙色。				SK181 完形
13	土錘	長さ6.2、幅1.7、厚さ1.6、重さ14.40g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい黄橙色。				SK181 完形
14	土錘	長さ5.6、幅1.3、厚さ1.1、重さ6.74g。胎土：白色粒。色調：灰黄褐色。				SK181 完形
15	土錘	長さ4.9、幅1.5、厚さ1.4、重さ8.92g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：灰黄褐色。				SK181 完形
16	土錘	長さ4.8、幅1.2、厚さ1.1、重さ6.15g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい褐色。				SK181 完形
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
17	皿	口径 (20.4) 底径 — 器高 (2.9)	丸底。浅い体部から、口縁部は外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒 内外—橙色	SK186 1/4残存
18	カワラケ 灯明皿	口径 7.4 底径 4.5 器高 1.7	平底。体部から口縁部へ内湾気味に開く。ロクロ成形。	外面—ロクロナデ。底部左回転糸切り。内面—ロクロナデ。口縁部内外面に油煙が付着。	雲母・白色粒 内外—にぶい橙色	SK203 ほぼ完形
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
19	土錘	長さ2.9、幅0.8、厚さ0.7、重さ1.53g。胎土：白色粒。色調：にぶい黄橙色。				SK211 完形
20	土錘	長さ4.3、幅1.1、厚さ1.0、重さ5.61g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい褐色。				SK220 完形
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
21	坏	口径 (14.3) 底径 — 器高 5.0	丸底。体部は彎曲し、口縁部は強く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 外—明赤褐色 内—橙色	SK224 1/2残存
22	坏	口径 14.4 底径 — 器高 6.0	丸底。体部は内彎し、口縁部は外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部放射状暗文。	石英・白色粒・黒色粒・褐色粒 内外—橙色	SK237 口縁部1/2欠損 内面荒れ
23	坏	口径 13.5 底径 — 器高 5.3	丸底。体部は内彎し、口縁部は外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒・褐色粒 外—橙色 内—赤色	SK237 ほぼ完形
24	坏	口径 14.2 底径 — 器高 [4.1]	丸底。体部は内彎し、口縁部は外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部放射状暗文。	石英・白色粒・黒色粒 内外—明赤褐色	SK237 2/3残存
25	坏	口径 12.9 底径 5.8 器高 4.9	平底気味。体部は内彎し、口縁部は外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ナデ。端部下端～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—にぶい赤褐色	SK237 口縁部～体部2/3欠損
26	碗	口径 12.8 底径 5.5 器高 6.3	平底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。体部下端～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒・褐色粒 内外—橙色	SK237 1/3残存
27	坏	口径 13.5 底径 3.3 器高 4.5	平底。体部は内彎し、口縁部は短く外反気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部上位ナデ。体部中位～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—橙色	SK237 ほぼ完形
28	坏	口径 12.6 底径 2.5 器高 4.6	平底。体部は内彎し、口縁部は外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。内面—口縁部～底部放射状暗文。	石英・白色粒・黒色粒 外—にぶい橙色 内—にぶい赤褐色	SK237 完形
29	坏	口径 14.1 底径 — 器高 5.5	丸底。体部は内彎し、口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒 内外—明赤褐色	SK237 一部欠損
30	坏	口径 12.7 底径 — 器高 5.1	丸底。体部は内彎する。口縁部は外反し、上位で直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒・褐色粒 内外—明赤褐色	SK237 ほぼ完形
31	坏	口径 12.7 底径 — 器高 4.3	丸底。体部は浅く内彎する。口縁部は外反し、上位で直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部放射状暗文。	石英・白色粒・褐色粒 内外—橙色	SK237 口縁部1/4欠損

第333表 第91・92・110・121・124・125・127・129・153・167・179・181・186・203・211・220・224・237号土坑出土遺物観察表(3)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
32	高坏	口径 — 底径 13.2 器高 [8.9]	脚部は下方へ開き、裾部は広がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面一坏部～脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。内面一ロ縁部～坏底部ミガキ。脚部ヘラケズリ。裾部ヨコナデ。	石英・白色粒・黒色粒・褐色粒 内外一明赤褐色	SK237 坏部底部～脚部
33	高坏	口径 — 底径 12.3 器高 [9.1]	脚部は筒状を呈する。裾部は外反気味に広がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面一坏部～脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。内面一坏底部ミガキ。脚部ヘラケズリ。裾部ヨコナデ。	石英・白色粒・黒色粒・褐色粒 内外一明赤褐色	SK237 脚部
34	高坏	口径 17.8 底径 12.9 器高 13.8	ロ縁部は外傾して開く。脚部は下方へ広がる筒状を呈する。裾部は外反気味に広がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面一ロ縁部ヨコナデ。坏部ヘラケズリ。脚部ミガキ。裾部ヨコナデ。内面一ロ縁部ヨコナデ。坏底部ヘラナデ。脚部絞り目後ヘラナデ。裾部ヨコナデ。	石英・白色粒 内外一明赤褐色	SK237 3/4残存
35	高坏	口径 15.7 底径 14.3 器高 13.0	ロ縁部は外傾して開く。脚部は筒状を呈する。裾部は外反気味に広がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面一ロ縁部ヨコナデ。坏部ヘラケズリ。脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。内面一ロ縁部～坏底部ヘラナデ。脚部ナデ後ヘラケズリ。裾部ヨコナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外一明赤褐色	SK237 2/3残存

第334表 第237・238・243・248・250・269・290・295・300・305号土坑出土遺物観察表(1)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考	
1	高坏	口径 16.4 底径 (11.8) 器高 12.6	ロ縁部は外反して開く。脚部は筒状を呈する。裾部は外反気味に広がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面一ロ縁部ヨコナデ。坏部～脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。内面一ロ縁部ヨコナデ。坏底部ヘラナデ。脚部絞り目後ヘラナデ。裾部ヨコナデ。	石英・白色粒 内外一明赤褐色	SK237 2/3残存	
2	高坏	口径 15.3 底径 11.1 器高 12.9	ロ縁部は外反気味に開く。脚部は筒状を呈する。裾部は外反して広がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面一ロ縁部ヨコナデ後、坏部にかけてヘラナデ。脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。内面一ロ縁部放射状暗文。坏底部ヘラナデ。脚部絞り目後ヘラケズリ。裾部ヨコナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外一橙色	SK237 脚部1/2欠損	
3	高坏	口径 15.8 底径 14.1 器高 11.8	ロ縁部は坏部との境に稜をもって外反気味に開く。口唇部は外面に面をもつ。脚部は筒状を呈する。裾部は外反気味に広がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面一ロ縁部放射状暗文。坏部～脚部ヘラナデ。裾部放射状暗文。内面一ロ縁部放射状暗文。坏底部ヘラナデ。脚部絞り目。裾部ヨコナデ。	石英・白色粒 内外一にぶい赤褐色	SK237 ほぼ完形	
4	高坏	口径 (14.6) 底径 12.2 器高 11.5	ロ縁部は外反する。脚部は下方へ開き、裾部は広がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面一ロ縁部ヨコナデ。坏部～脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。内面一ロ縁部ヨコナデ。坏底部～脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。	石英・白色粒 内外一明赤褐色	SK237 坏部2/3欠損	
5	高坏	口径 (16.0) 底径 (12.2) 器高 13.2	ロ縁部は外傾する。脚部は筒状を呈する。裾部は外反気味に広がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面一ロ縁部ヨコナデ。坏部ヘラケズリ。脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。内面一ロ縁部～坏底部放射状暗文。脚部絞り目。裾部ヨコナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外一明赤褐色	SK237 2/3残存	
6	高坏	口径 (17.2) 底径 15.7 器高 13.6	ロ縁部は外反して開き、中位に段を有する。脚部は下方へ広がる筒状を呈する。裾部は段をもって広がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面一ロ縁部ヨコナデ。坏部ヘラケズリ。脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。内面一ロ縁部ヨコナデ。坏底部ヘラナデ。脚部絞り目後ヘラナデ。裾部ヨコナデ。	石英・白色粒 内外一にぶい褐色	SK237 2/3残存	
7	高坏	口径 15.3 底径 — 器高 [5.3]	ロ縁部は坏部との境に稜をもって内彎気味に開く。粘土紐積み上げによる成形。	外面一ロ縁部ヨコナデ後ヘラナデ。坏部ヘラナデ。内面一ロ縁部～坏底部放射状暗文。	石英・白色粒・黒色粒・褐色粒 内外一明赤褐色	SK237 坏部	
8	高坏	口径 19.1 底径 — 器高 [8.7]	ロ縁部は坏部との境に弱い段をもって外反し、中位に段を有する。粘土紐積み上げによる成形。	外面一ロ縁部放射状暗文。坏部ヘラケズリ後、下半ヘラナデ。内面一ロ縁部～坏底部放射状暗文。	石英・白色粒・黒色粒 外一にぶい橙色 内一明赤褐色	SK237 坏部	
No.	器種	法量(cm)・特徴					備考
9	石臼	径(34.0)、高さ10.0、重さ1203.41g。石材：安山岩。穀物臼の上臼。白面の使用痕は顕著。割れた後に被熱。					SK238 破片
10	鉄鏃	長さ[4.0]、幅1.3、厚さ0.6、重さ5.07g。鏃身形は柳葉形？。					SK243 鏃身部
11	土錘	長さ5.1、幅2.1、厚さ1.7、重さ18.94g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：橙色。					SK248 完形
12	カワラケ	口径 8.4 底径 5.2 器高 2.1	平底。体部からロ縁部へ直線的に開く。ロクロ成形。	外面一ロクロナデ。底部左回転糸切り。内面一ロクロナデ。	白色粒・黒色粒 内外一橙色	SK250 ロ縁部1/5欠損	



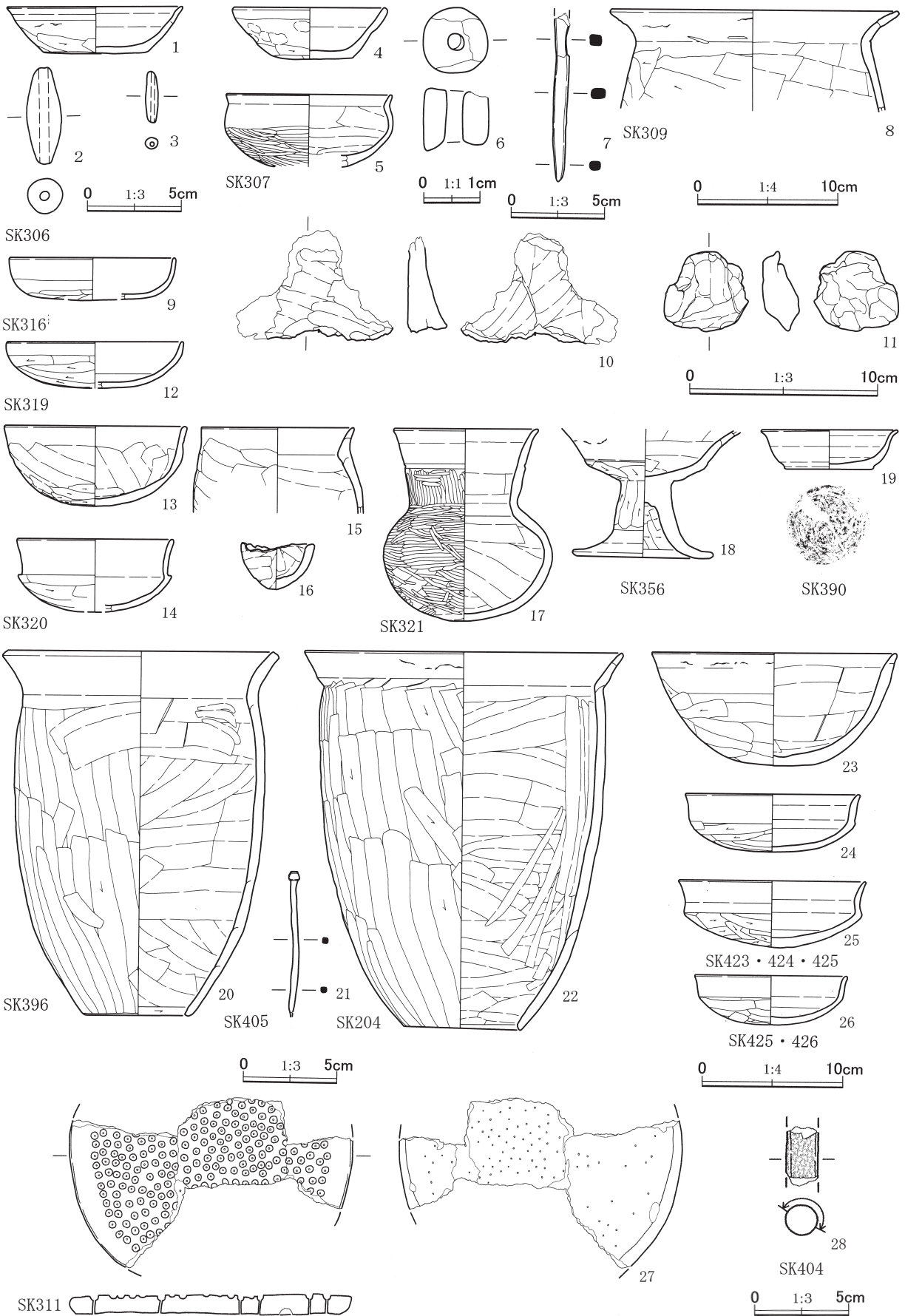
第783图 第237·238·243·248·250·269·290·295·300·305号土坑出土遗物

第335表 第237・238・243・248・250・269・290・295・300・305号土坑出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
13	須恵器 高台付 埴	口径 (13.2) 底径 7.4 器高 5.9	高台部は方形を呈する。体部はやや丸みをもつ。口縁部は外反する。ロクロ成形。	外面ーロクロナデ。底部回転糸切り。高台貼付時回転ナデ。内面ーロクロナデ。	白色粒 内外ー灰色	SK269 口縁部3/4欠損 還元焰焼成
14	甕	口径 — 底径 6.0 器高 [33.6]	胴部は膨らみをもたない。平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面ー胴部ヘラケズリ。底部木葉痕。内面ー胴部〜底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外ー明赤褐色	SK290 胴部〜底部
15	坏	口径 8.1 底径 — 器高 3.1	丸底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面ー口縁部〜底部ヘラケズリ。内面ー口縁部〜底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外ー橙色	SK290 口縁部1/3欠損
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
16	土錘	長さ[5.4]、幅1.8、厚さ1.6、重さ15.75g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：灰黄褐色。				SK295 端部欠損
17	土錘	長さ3.2、幅1.0、厚さ0.9、重さ3.14g。胎土：白色粒。色調：にぶい黄褐色。				SK295 完形
18	土錘	長さ5.3、幅1.2、厚さ1.2、重さ6.99g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：褐灰色。				SK300 完形
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
19	甗	口径 (27.0) 底径 (7.4) 器高 25.1	口縁部は強く外傾する。胴部は下位に向かって窄まる。底部は筒抜け。粘土紐積み上げによる成形。	外面ー口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。内面ー口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外ー橙色	SK305 1/4残存
20	高坏	口径 (17.1) 底径 (14.0) 器高 (13.9)	口縁部は坏部との境に稜をもって直線的に開く。脚部は下方へ広がる。裾部は内彎気味に広がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面ー口縁部ヨコナデ。坏部〜脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ。内面ー口縁部ヨコナデ。坏底部ヘラナデ。脚部絞り目後ヘラケズリ。裾部ヨコナデ。	石英・白色粒・黒色粒 外ー橙色 内ー明赤褐色	SK305 2/3残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
21	羽口	長さ[10.7]、幅8.4、厚さ5.1、重さ220.90g。胎土：石英・白色粒。色調：にぶい褐色。調整：外面ーナデ。被熱によるガラス質化、熱変色。内面ーナデ、指頭圧痕。輪積み痕明瞭。				SK305 端部欠損

第336表 第306・307・309・311・316・319～321・356・390・396・404・405・420・423～426号土坑出土遺物観察表(1)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 (13.0) 底径 7.9 器高 3.5	丸みを帯びた平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は緩やかに外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面ー口縁部ヨコナデ。体部ナデ。体部下半〜底部ヘラケズリ。内面ー口縁部〜体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 外ー灰褐色 内ーにぶい赤褐色	SK306 1/4残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
2	土錘	長さ5.4、幅2.0、厚さ2.0、重さ17.18g。胎土：白色粒。色調：橙色。				SK306 完形
3	土錘	長さ2.9、幅0.7、厚さ0.7、重さ1.13g。胎土：白色粒。色調：橙色。				SK306 完形
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
4	坏	口径 11.2 底径 6.0 器高 3.9	丸みを帯びた平底。体部から口縁部にかけて彎曲気味に開く。粘土紐積み上げによる成形。	外面ー口縁部ヨコナデ。体部ナデ、指頭圧痕。体部下半〜底部ヘラケズリ。内面ー口縁部〜体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 外ーにぶい黄褐色 内ー橙色	SK307 完形
5	坏	口径 (12.2) 底径 — 器高 [5.4]	体部は内彎する。口縁部は短く外傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面ー口縁部〜体部上半ヨコナデ。体部下半ミガキ。内面ー口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 外ー灰黄褐色 内ー灰褐色	SK307 口縁部〜体部1/4残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
6	石製品 白玉	長さ1.2、幅1.2、孔径0.3×0.3、厚さ1.2、重さ2.74g。石材：滑石。				SK307 一部欠損
7	鉄鏃	長さ[9.4]、幅0.8、厚さ0.6、重さ9.05g。				SK307 茎部
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
8	甕	口径 (21.2) 底径 — 器高 [7.5]	口縁部は外反する。口唇部は外面に面をもつ。粘土紐積み上げによる成形。	外面ー口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面ー口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外ー黄褐色	SK309 口縁部〜胴部 上位1/2残存
9	坏	口径 (12.2) 底径 — 器高 [3.1]	平底気味。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面ー口縁部ヨコナデ。体部ナデ。底部ヘラケズリ。内面ー口縁部〜体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外ーにぶい黄褐色	SK316 1/3残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
10	粘土塊	長さ[6.1]、幅[8.7]、厚さ2.2、重さ54.02g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい褐色。調整：外面ーナデ。内面ーナデ。				SK316 一部欠損
11	粘土塊	長さ4.5、幅4.7、厚さ2.05、重さ33.36g。胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい褐色。調整：外面ーナデ。内面ーナデ。				SK316 完形



第784图 第306·307·309·311·316·319~321·356·390·396·404·405·420·423~426号土坑出土遗物

第337表 第306・307・309・311・316・319～321・356・390・396・404・405・420・423～426号土坑出土遺物観察表(2)

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
12	坏	口径 13.0 底径 — 器高 3.5	丸底。体部は浅く内彎し、口縁部は直立する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 外—灰黄褐色 内—にぶい黄褐色	SK319 口縁部1/2欠損
13	坏	口径 13.4 底径 — 器高 6.0	丸底。体部は内彎し、口縁部は外反気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒・褐色粒 内外—にぶい橙色	SK320 口縁部一部欠損
14	坏	口径 (11.5) 底径 — 器高 [5.5]	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒・褐色粒 外—明赤褐色 内—橙色	SK320 1/6残存
15	小型甕	口径 11.4 底径 — 器高 [6.3]	口縁部はわずかに外傾する。胴部は膨らみをもたない。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内—外—橙色	SK320 口縁部～胴部上半3/4残存
16	手捏ね土器	口径 5.3 底径 — 器高 3.4	尖り気味の丸底。体部から口縁部にかけて内彎する。口唇部は肥厚する。手捏ね成形。	外面—口縁部～底部ナデ。内面—口縁部～底部ナデ。	石英・白色粒・黒色粒・褐色粒 内外—橙色	SK320 完形
17	直口壺	口径 10.6 底径 — 器高 14.3	口縁部は直立し、上端で短く外反する。中位に浅い沈線が1条めぐる。胴部は中位が膨らむ。丸底。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部上半ヨコナデ。下半ミガキ。胴部ヘラナデ後ミガキ。底部ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 外—にぶい赤褐色 内—明赤褐色	SK321 1/2残存
18	高坏	口径 — 底径 10.5 器高 [9.5]	口縁部は坏部との境に弱い稜をもって外反する。脚部は下方へ開く筒状を呈する。裾部は外反気味に広がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。坏部～脚部ヘラケズリ。裾部ヨコナデ。内面—口縁部～坏底部ヘラナデ。脚部ヘラケズリ。裾部ヨコナデ。	石英・白色粒・黒色粒 内外—明赤褐色	SK356 1/3残存
19	須恵器坏	口径 (10.0) 底径 6.5 器高 3.0	平底。体部は内彎し、口縁部は外反する。ロクロ成形。	外面—ロクロナデ。底部左回転糸切り。内面—ロクロナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 内外—にぶい橙色	SK390 口縁部1/2欠損 酸化焰焼成
20	甗	口径 (19.6) 底径 (7.5) 器高 27.1	口縁部は外傾し、口唇部は外側に面をもつ。胴部は筒状を呈する。底部は筒抜け。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。上位は一部ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ、端部ヘラケズリ。	石英・白色粒・褐色粒 外—にぶい褐色 内—にぶい赤褐色	SK396 2/3欠損
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
21	鉄釘	長さ[7.9]、幅0.4、厚さ0.3、重さ3.89g。				SK405 端部欠損
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
22	甗	口径 (23.6) 底径 8.7 器高 28.1	口縁部は外傾する。胴部は筒状を呈する。底部は筒抜け。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ、端部ヘラケズリ。	石英・白色粒 内外—明赤褐色	SK420 口縁部～胴部1/2欠損
23	鉢	口径 (18.0) 底径 — 器高 8.4	丸底。体部は彎曲し、口縁部は短く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒 内外—明赤褐色	SK420 1/3残存
24	坏	口径 (12.8) 底径 — 器高 4.3	丸底。口縁部は体部との境に弱い稜をもって直立し、上端で短く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	石英・白色粒 内外—明赤褐色	SK420 1/2残存
25	坏	口径 13.5 底径 — 器高 5.0	丸底。体部はやや浅い。口縁部は内傾した後、上半で外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	石英・白色粒・黒色粒 外—橙色 内—にぶい黄褐色	SK423・424・425 口縁部1/2欠損
26	坏	口径 (11.0) 底径 — 器高 3.8	丸底。体部は彎曲し、口縁部は外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—橙色	SK425・426 1/2残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
27	ガラス小玉 罫型	第966図173、第436表参照。				SK311 No.173
28	棒状 土製品	第973図148、第441表参照。				SK404 No.148

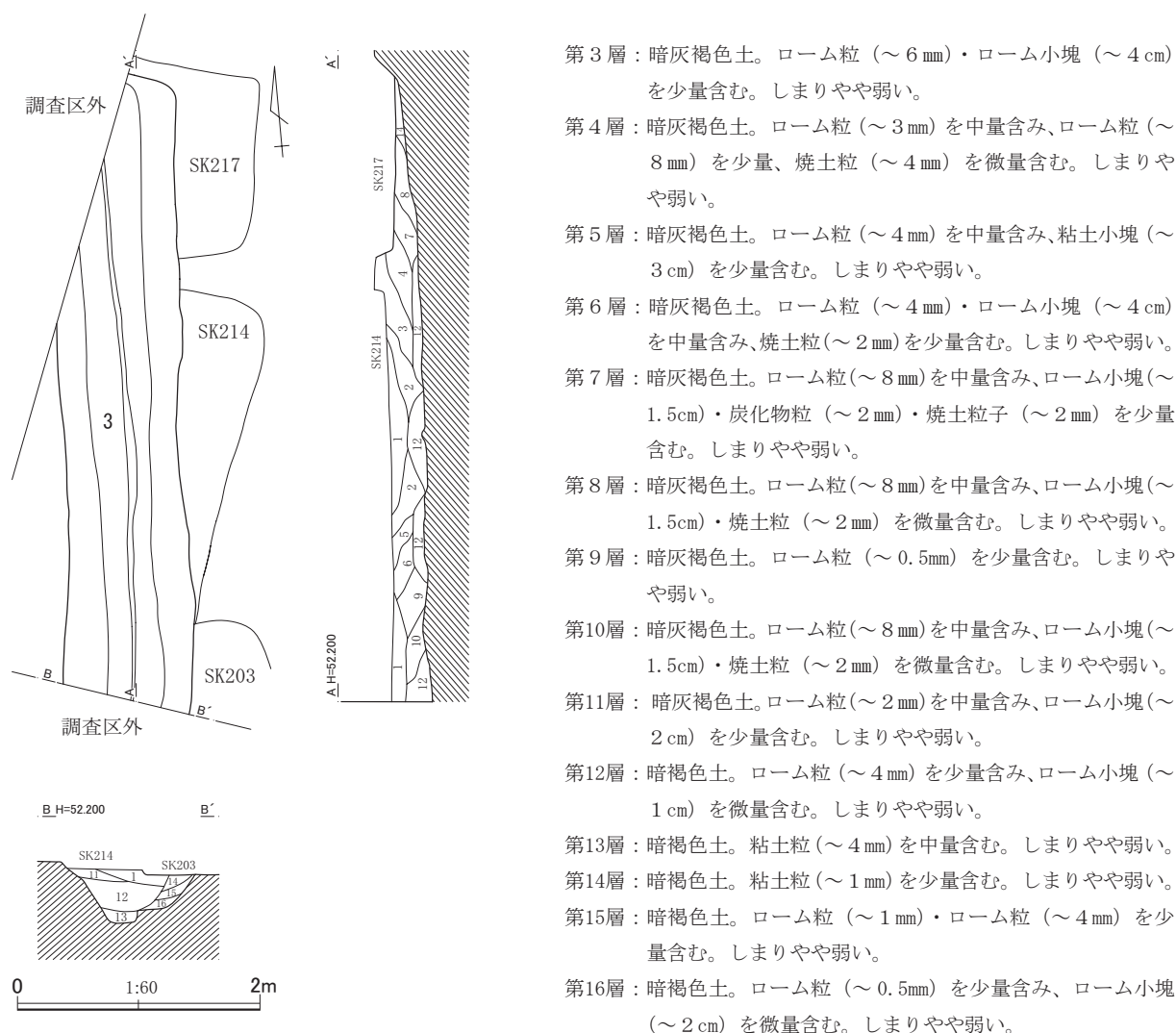
C地点

3 溝跡

今回の調査では、溝跡を3条検出した(第687図)。第3号溝跡のみ土坑に切られており、やや時期の古い遺構と考えられる。第4・5号溝跡は、近世あるいはそれ以降の遺構であろう。

第3号溝跡 (第785図、図版108)

調査地点の西隅、L12・13グリッドに位置し、南北方向に走る溝跡である。第203・214・217号土坑を切っており北側先端部の西側、南側部分は、調査範囲外である。確認面は、黄褐色のローム層上面である。



第3号溝跡土層説明

第1層：暗灰褐色土。ローム粒(～1mm)を少量含み、ローム小塊(～1cm)を微量含む。しまりやや弱い。

第2層：暗灰褐色土。ローム粒(～0.5mm)を少量含む。しまりやや弱い。

第785図 第3号溝跡平面・断面図

北側末端は辺をなすらしく、細長い長方形になるようであり、規模は、南北方向での残存値が5.6m、幅は100cm前後、深さは55cm前後である。断面形は、箱薬研に近く、底面は平坦で、東側の側壁下部には底面と同じくらいの幅の平場が見られる。あるいは掘り直されているのかもしれない。

覆土は16層で、竪穴住居跡より新しいやや灰色みを帯びた土からなる。中世の遺構の可能性はある。部分的な調査ゆえ断定はむつかしいが、第73号土坑（第704～706図）とした長大な土坑に類似しているようにも見える（本書：579・599～602頁参照）。

第4号溝跡（第786図）

調査地点の北東隅から南西辺に沿って走る溝跡であり、R15、S15、T15・16グリッドに位置する。西側部分、東側部分は、調査範囲外である。確認面は、黄褐色のローム層上面である。

規模は、東西方向での残存長が21.15m、幅は53～66cmである。深さは10～15cm、断面形は浅いU字状である。覆土から見て、近世あるいはそれ以降の遺構であろう。

第5号溝跡（第787図）

調査地点の北半、Q7・8、R7グリッドに位置し、北東—南西方向に走る溝跡である。第327・427号土坑を切っており、北東部分は、調査範囲外である。確認面は、黄褐色のローム層上面である。規模は、北東—南西方向での残存長が11.90m、幅は41～75cmである。深さは3～10cm、断面形は浅いU字状あるいは箱薬研である。覆土から見て、近世あるいはそれ以降の遺構であろう。

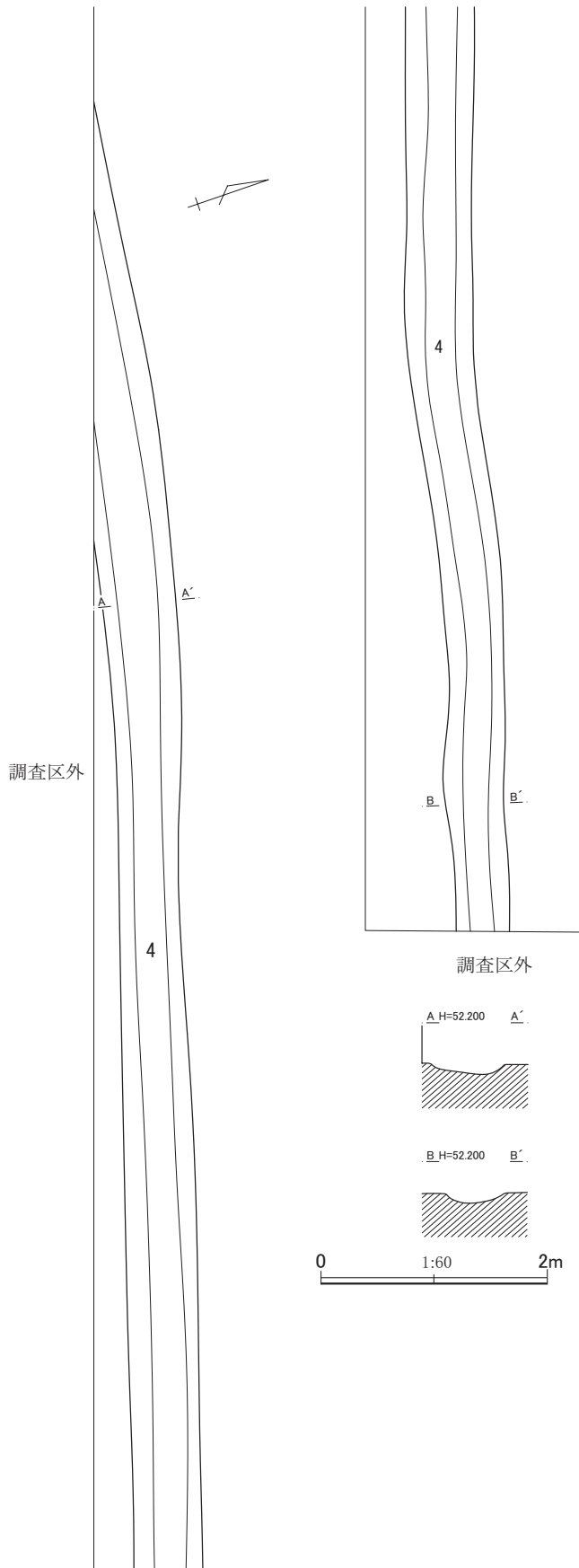
4 ピット

C地点では、住居址、土坑が調査範囲全面に極めて高い密度で分布するため、単独でピットと呼びうる遺構は、少数しか検出することができなかった（第4図）。住居跡や土坑の覆土中に掘り込まれたピットに関しては、床面に達していない場合、識別すること自体容易ではなく、床面下まで掘り込みを有する場合には、住居跡に伴わないピットと確定することが困難なため、結局住居跡や土坑と重複するピットの多くは、遺構として認定すること自体できなかった可能性があったと思われる。

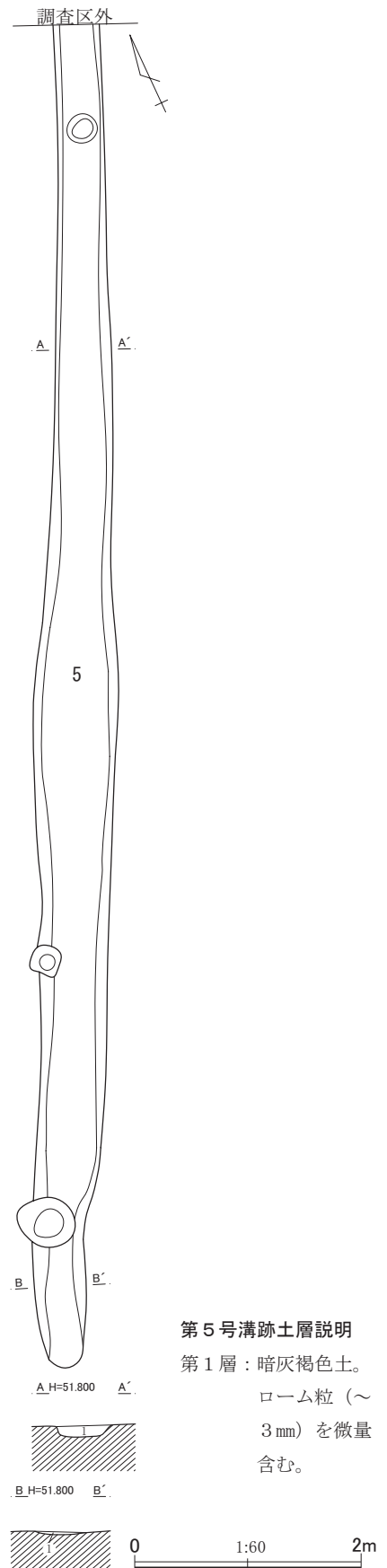
5 遺構外出土遺物

C地点の遺構外より出土した遺物のうち、主要なものを第788～791図、第338～344表にまとめた。縄文土器・石器、弥生土器に関しては、ほとんどが古墳時代以降の住居跡などの遺構中より出土した資料である。

縄文土器（第788図1～24）に関しては、縄文時代早期後葉～前期前葉（1・2）、前期後葉の土器（21・22）、中・後期の土器（23・24）がごく少数見られるものの、大半の土器は、縄文時代前期中葉の土器（3～20）であることが注意される。前期中葉の土器ということまでしか判らない縄文施文の土器（12～20）は別にして、有文土器では、前期中葉の有尾式（3～8）、黒浜式（9～11）と思われる土器が散見され、この段階群馬県域などと同様な様相となる可能性が示唆される。



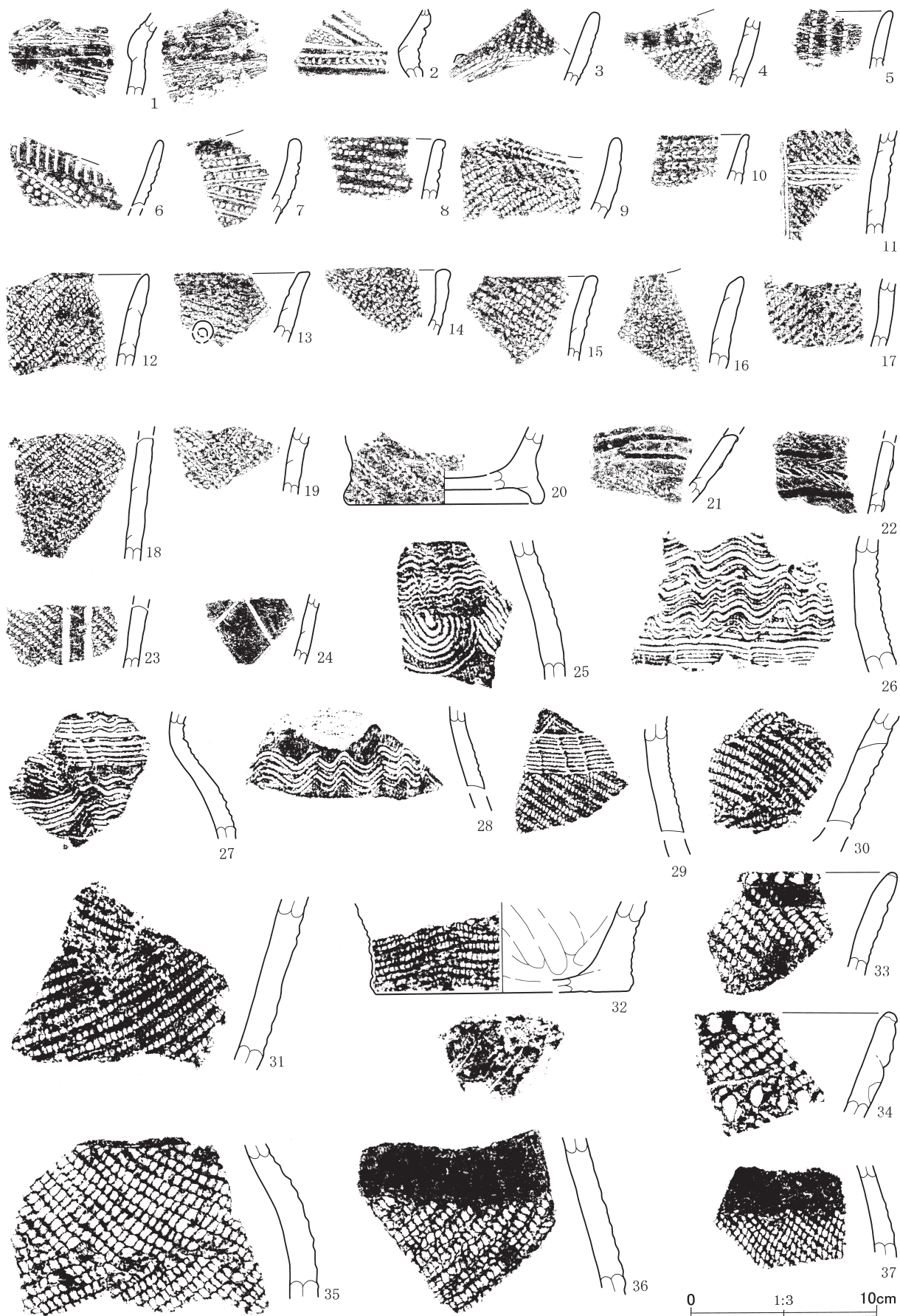
第786図 第4号溝跡平面・断面図



第787図 第5号溝跡平面・断面図

弥生土器に関しては、弥生時代中期後半の土器である可能性もある第788図25を除けば、いずれも弥生時代後期の土器である（第788図26～37）。型式の判然とする土器は、樽式土器（26～28）、二軒屋式土器（29～32・34）、吉ヶ谷式の可能性のある土器（33）であり、他に型式を確定しにくい縄文施文の土器（35～37）が出土しており、この地域の弥生時代後期段階のかなり複雑な土器様相の一旦を物語るかに見える。また、二軒屋式土器は、薬師堂東遺跡に接する薬師堂遺跡において昭和41年に行われた花の木線道路の敷設に先立つ緊急調査で、頸部上半以上を欠く壺と底部片が出土している（本庄市史編集室編 1976：51～53頁。なお、同書では、「弥生時代住居址」出土として、前者の壺が遺構床面上から出土した状況の写真が掲載されている。同：355頁）。破片ではあるが、薬師堂東遺跡での二軒屋式土器の出土は、薬師堂遺跡での二軒屋式土器が単に偶発的に見出された異地域の土器ではないことを示唆しているかに見える。

他には、土師器・須恵器、土錘、ガラス小玉鋳型、棒状土製品が出土している（第790・791図）。資料の多くは、表土剥ぎの段階や遺構確認時に検出した遺物である。また、図示していないが、埴輪片が少数遺構内・外から出土している。



第788图 遺構外出土遺物(1)

第338表 C地点・遺構外出土遺物観察表(1)〔第788図〕

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
1	縄文土器深鉢	口径— 底径— 器高—	頸部屈曲。粘土紐積み上げによる成形。	外面—一条痕紋→平行沈線紋で横位区画→区画内に平行沈線紋。内面—一条痕紋。	繊維・石英 内外—にぶい褐色	頸部破片 SI219覆土 茅山下層式
2	縄文土器深鉢	口径— 底径— 器高—	頸部屈曲。粘土紐積み上げによる成形。	外面—組紐縄紋(LLRR)→斜位の平行沈線紋→平行沈線紋で横位区画→区画沈線の上に爪形紋。内面—横位ナデ。	繊維・黒色鈳物・石英 外—にぶい赤褐色 内—明赤褐色	口縁部破片 SI127覆土 関山Ⅱ式
3	縄文土器深鉢	口径— 底径— 器高—	波状口縁。小突起。粘土紐積み上げによる成形。	外面—一条線紋→条線紋脇に列点状刺突紋→口唇下に縦位の列点状刺突紋。内面—横・斜位ナデ。	繊維・浅黄色軽石 内外—にぶい黄橙色	口縁部破片 SI235覆土 有尾式
4	縄文土器深鉢	口径— 底径— 器高—	波状口縁。粘土紐積み上げによる成形。	外面—単節縄紋(LR)→口唇下を列点状刺突紋で区画→区画内に縦位の列点状刺突紋。内面—横位ナデ。	繊維・石英 外—にぶい褐色 内—明黄褐色	口縁部破片 SI294覆土 有尾式
5	縄文土器深鉢	口径— 底径— 器高—	平口縁。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口唇下に縦位の列点状刺突紋。内面—横位ナデ。	繊維・石英・赤色粒 内外—にぶい黄橙色	口縁部破片 SI241覆土 有尾式
6	縄文土器深鉢	口径— 底径— 器高—	波状口縁。粘土紐積み上げによる成形。	外面—平行沈線紋→列点状刺突紋。口唇下に平行沈線紋と同じ工具による縦位沈線。内面—横位ナデ。	繊維・石英 内外—にぶい黄橙色	口縁部破片 SI317覆土 有尾式
7	縄文土器深鉢	口径— 底径— 器高—	波状口縁。粘土紐積み上げによる成形。	外面—平行沈線紋→列点状刺突紋。内面—横位ミガキ。	繊維・石英 外—明黄褐色 内—にぶい黄色	口縁部破片 SI118覆土 有尾式
8	縄文土器深鉢	口径— 底径— 器高—	平口縁。粘土紐積み上げによる成形。	外面—列点状刺突紋。内面—粗い横位ナデ。	繊維・石英 外—にぶい橙色 内—にぶい赤褐色	口縁部破片 SI159覆土 有尾式
9	縄文土器深鉢	口径— 底径— 器高—	波状口縁。粘土紐積み上げによる成形。	外面—単節縄紋(RL・LR)→口唇下を半截竹管状工具による押引紋で区画。内面—斜位ナデ。	繊維・石英 内外—にぶい黄褐色 黒浜式	口縁部破片 SI219覆土 黒浜式
10	縄文土器深鉢	口径— 底径— 器高—	平口縁。粘土紐積み上げによる成形。	外面—無節縄紋(L)→半截竹管状工具による刺突紋列。内面—粗い横位ナデ。	繊維・石英 内外—明赤褐色	口縁部破片 SI99覆土 黒浜式
11	縄文土器深鉢	口径— 底径— 器高—	粘土紐積み上げによる成形。	外面—無節縄紋(R)→平行沈線紋。内面—横位ナデ。	繊維・石英 内外—にぶい橙色	胴部破片 SI221覆土 黒浜式
12	縄文土器深鉢	口径— 底径— 器高—	平口縁。粘土紐積み上げによる成形。	外面—単節縄紋(LR)。内面—横位ミガキ。	繊維・石英 内外—にぶい褐色	口縁部破片 SI296覆土 前期中葉
13	縄文土器深鉢	口径— 底径— 器高—	平口縁。粘土紐積み上げによる成形。	外面—無節縄紋(R・L)。内面—粗い横位ナデ。	繊維・石英 外—にぶい橙色 内—にぶい黄褐色	口縁部破片 SI220覆土 前期中葉
14	縄文土器深鉢	口径— 底径— 器高—	平口縁。粘土紐積み上げによる成形。	外面—無節縄紋(L)。内面—粗い横位ナデ。	繊維・石英 内外—にぶい黄褐色	口縁部破片 SI285覆土 前期中葉
15	縄文土器深鉢	口径— 底径— 器高—	平口縁。粘土紐積み上げによる成形。	外面—単節縄紋(RL)。内面—粗い横位ナデ。	繊維・石英 内外—にぶい褐色	口縁部破片 SI104覆土 前期中葉
16	縄文土器深鉢	口径— 底径— 器高—	波状口縁。粘土紐積み上げによる成形。	外面—附加条縄紋2種(LR+R)。内面—粗い横位ナデ。	繊維・石英 外—にぶい橙色 内—暗灰黄色	口縁部破片 SI162覆土 前期中葉
17	縄文土器深鉢	口径— 底径— 器高—	粘土紐積み上げによる成形。	外面—無節縄紋(L)。内面—縦位ミガキ。	繊維・石英 外—黄灰色 内—にぶい黄色	胴部破片 表採 前期中葉
18	縄文土器深鉢	口径— 底径— 器高—	粘土紐積み上げによる成形。	外面—閉端環付単節縄紋(RL・LR)。内面—横位ナデ。	繊維・石英 外—にぶい黄褐色 内—にぶい黄褐色	胴部破片 SI129周辺 前期中葉
19	縄文土器深鉢	口径— 底径— 器高—	粘土紐積み上げによる成形。	外面—附加条縄紋1種(RL+2L・LR+2L)。内面—粗い横位ナデ。	繊維・石英 外—灰黄褐色 内—橙色	胴部破片 SI128覆土 前期中葉
20	縄文土器深鉢	口径— 底径— 器高— (10.9)	高台。粘土紐積み上げによる成形。	外面—附加条縄紋(軸縄不明+2L)。底部ナデ。内面—ナデ。	繊維・石英 外—にぶい橙色 内—にぶい黄褐色	底部破片 SI256覆土 前期中葉
21	縄文土器深鉢	口径— 底径— 器高—	粘土紐積み上げによる成形。	外面—単節縄紋(RL)→浮線紋。内面—横・斜位ミガキ。	白色鈳物・赤色粒 外—明赤褐色 内—にぶい黄褐色	胴部破片 SI111床下 諸磯b式
22	縄文土器深鉢	口径— 底径— 器高—	粘土紐積み上げによる成形。	外面—単節縄紋(RL)→浮線紋→浮線紋上にキザミ。内面—横位ミガキ。	石英・赤色粒 外—にぶい褐色 内—明赤褐色	胴部破片 SI261覆土 諸磯b式
23	縄文土器深鉢	口径— 底径— 器高—	粘土紐積み上げによる成形。	外面—単節縄紋(LR)→併行沈線で縦位区画→沈線間の縄紋を磨消。内面—横位ケズリ→縦位ミガキ。	黒色鈳物・角閃石・石英 内外—にぶい褐色	胴部破片 SI168覆土 加曾利EⅢ式

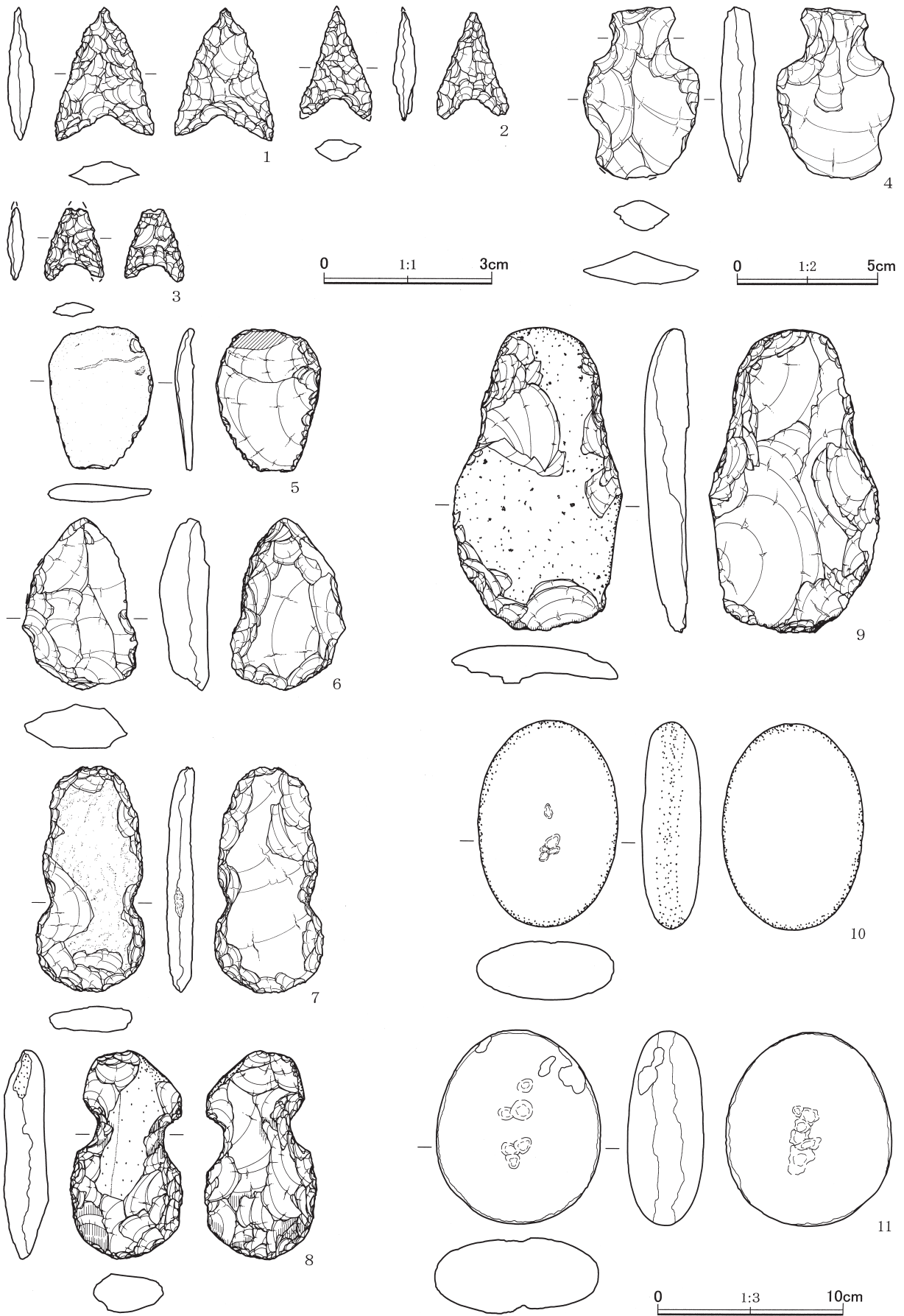
C地点

第339表 C地点・遺構外出土遺物観察表(2) [第788図]

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
24	縄文土器 深鉢	口径 — 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げによる成形。	外面—尖頭状工具による単沈線で格子文。内面—斜位ミガキ。	片岩・角閃石・石英外—にぶい黄橙色 内—にぶい橙色	胴部破片 SI74覆土 堀之内Ⅱ式
25	弥生土器 壺?	口径 — 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げによる成形。	外面—胴部8本歯の櫛描波状文(上→下)→櫛描円弧文(時計回り)。内面—胴部縦位のハケメ→横位のミガキ。	角閃石・石英、 外—にぶい黄橙色 内—浅黄橙色	胴部破片 SI103覆土 中期後半～後期
26	弥生土器 甕	口径 — 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げによる成形。	外面—頸部～胴部8本歯の2連止め櫛描簾状文(時計回り)→櫛描波状文(下→上)。内面—頸部～胴部横位のミガキ。	黒色粒・角閃石・石英 内外—にぶい黄橙色	頸部～胴部破片 SI 104覆土 樽式
27	弥生土器 甕	口径 — 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げによる成形。	外面—頸部6本歯の2連止め櫛描簾状文(時計回り)→胴部櫛描波状文。内面—頸部～胴部横位のミガキ。	赤色粒・凝灰岩粒・石英 内外—にぶい黄褐色	頸部～胴部破片、外面煤付着 SI208覆土 樽式
28	弥生土器 甕	口径 — 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げによる成形。	外面—胴部縦位のナデ→6本歯の櫛描波状文(時計回り)。内面—胴部斜位のナデ。	白色粒・黒色粒・石英 外—にぶい黄褐色 内—にぶい褐色	胴部破片、外面煤付着 SI201周辺 樽式?
29	弥生土器 甕	口径 — 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げによる成形。	外面—胴部軸繩不明の附加条縄文(L-Z)を横位施文→頸部10本歯の等間隔止め櫛描簾状文(時計回り)→櫛描山形文を横位施文。内面—頸部～胴部横位のナデ。	白色粒・石英 外—にぶい橙色 内—明赤褐色	頸部～胴部破片、外面煤付着 SI207貯蔵穴 二軒屋式
30	弥生土器 甕	口径 — 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げによる成形。	外面—胴部軸繩不明の附加条縄文(R-S、L-Z)を横位施文(下→上)。内面—胴部縦・斜位のナデ。	多量の石英、 外—にぶい黄褐色 内—黒褐色	胴部破片、外面煤付着 SI183覆土 二軒屋式
31	弥生土器 甕	口径 — 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げによる成形。	外面—胴部軸繩不明の附加条縄文(R-S、L-Z)を横位施文(下→上)。内面—胴部縦位のナデ。	多量の白色粒・石英、 外—にぶい黄橙色 内—灰黄褐色	胴部破片、外面煤、内面炭化物付着 SI86覆土 二軒屋式
32	弥生土器 甕	口径 — 底径 (7.1) 器高 —	平底。粘土紐積み上げによる成形。	外面—胴部軸繩不明の附加条縄文(R-S、L-Z)を横位施文(下→上)。底部木葉痕。内面—胴部斜位のナデ。	褐色粒・角閃石・石英 内外—黄灰色	胴部～底部破片、胴部外面煤、内面炭化物付着、底部外面粘土付着 SI57覆土 二軒屋式
33	弥生土器 甕	口径 — 底径 — 器高 —	平口縁。口縁部はやや外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部棒状工具によるキザミ。口縁部ヨコナデ→単節RL縄文を横位施文。内面—口縁部横位のナデ・ミガキ。	褐色粒・角閃石・石英 外—にぶい黄褐色 内—黄褐色	口縁部破片 内外面煤付着 SI116覆土 ギヶ谷式?
34	弥生土器 甕	口径 — 底径 — 器高 —	平口縁。口縁部はゆるやかに立ち上がって外反する。粘土紐積み上げによる成形で輪積み痕が残る。	外面—口縁部縄文原体(単節RL)によるキザミ。口縁部ヨコナデ→単節LR・RL縄文を横位施文→先丸の棒状工具による刺突列点文を施文。内面—口縁部ヨコナデ。	白色粒・石英 内外—にぶい黄橙色	口縁部破片 内外面煤付着 SI183覆土 二軒屋式?
35	弥生土器 甕	口径 — 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げによる成形。	外面—胴部単節LR・RL縄文を横位施文(下→上)。内面—胴部横位のナデ。	赤色粒・石英、 内外—にぶい橙色	胴部破片 外面煤付着 SI129覆土 弥生後期
36	弥生土器 甕	口径 — 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げによる成形。	外面—胴部単節LR縄文あるいは附加条縄文を横位施文、無文部は横位のナデ。内面—胴部横・斜位のナデ。	黒色粒・褐色粒・石英、 内外—にぶい黄橙色	胴部破片 外面煤付着 SI179覆土 弥生後期
37	弥生土器 甕	口径 — 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げによる成形。	外面—胴部単節RL縄文を横位施文、無文部は横位のケズリ→横・斜位のナデ→焼成後赤彩。内面—胴部斜位のナデ。	石英、チャート 外—赤褐色・浅黄橙色 内—浅黄橙色	胴部破片 外面煤付着 SI302覆土 弥生後期

第340表 C地点・遺構外出土遺物観察表(3) [第789図]

No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
1	石鏃	長さ2.5、幅1.85、厚さ0.48、重さ1.45。石材：チャート。調整：凹基無茎。	完形
2	石鏃	長さ[2.0]、幅1.35、厚さ0.43、重さ0.68。石材：鉄石英。調整：凹基無茎。	先端部・両脚部欠損
3	石鏃	長さ[1.35]、幅1.1、厚さ0.3、重さ0.3。石材：黒曜石。調整：凹基無茎。	先端部・片脚部欠損



第789図 遺構外出土遺物(2)

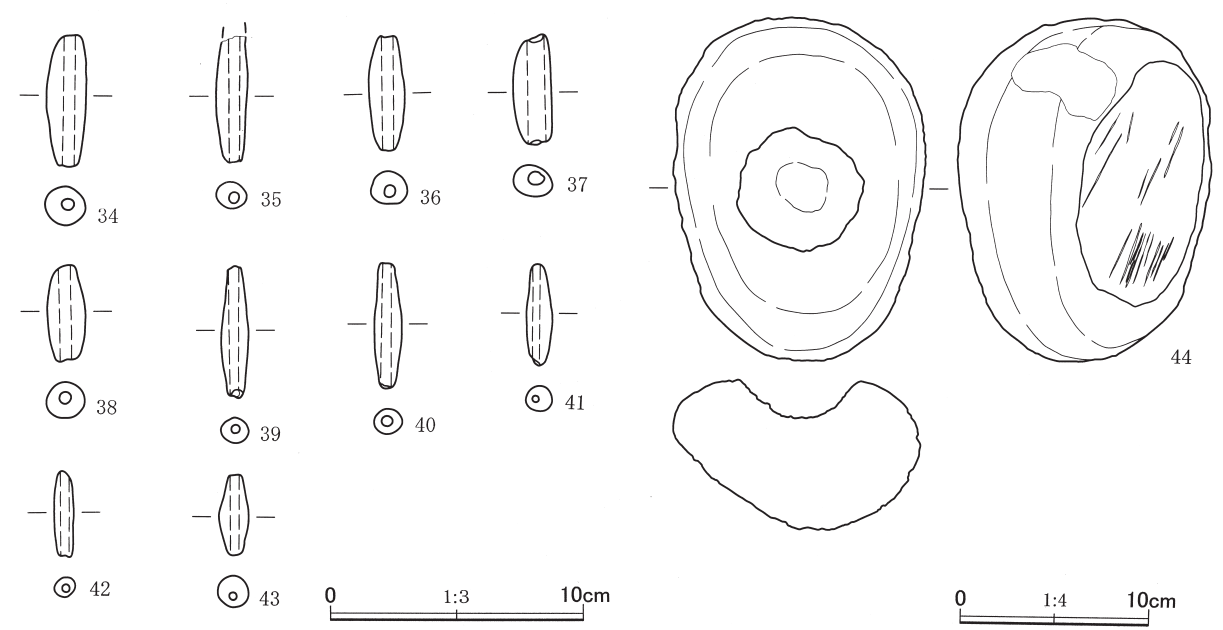
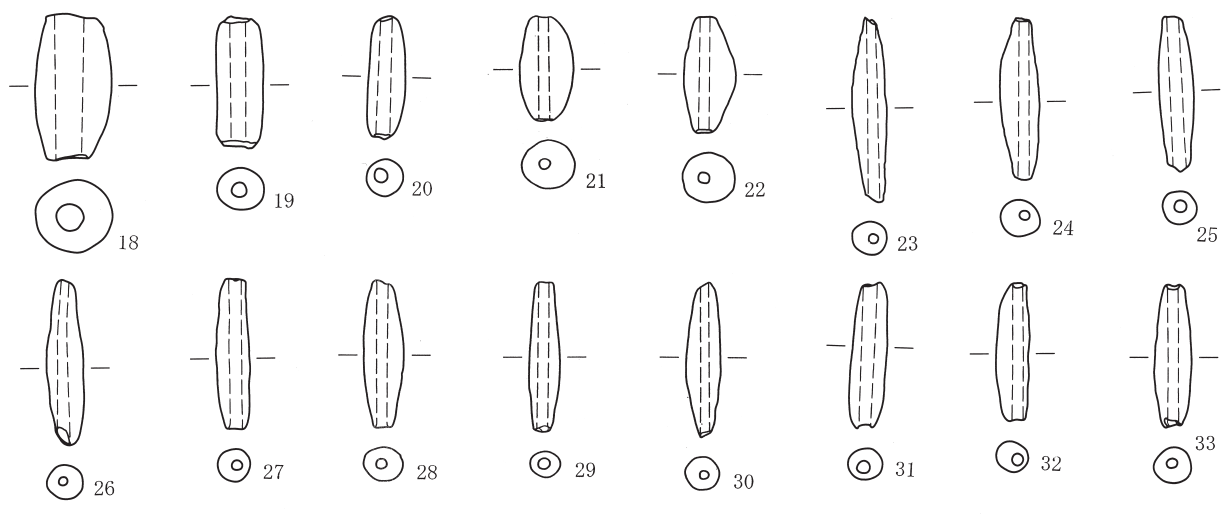
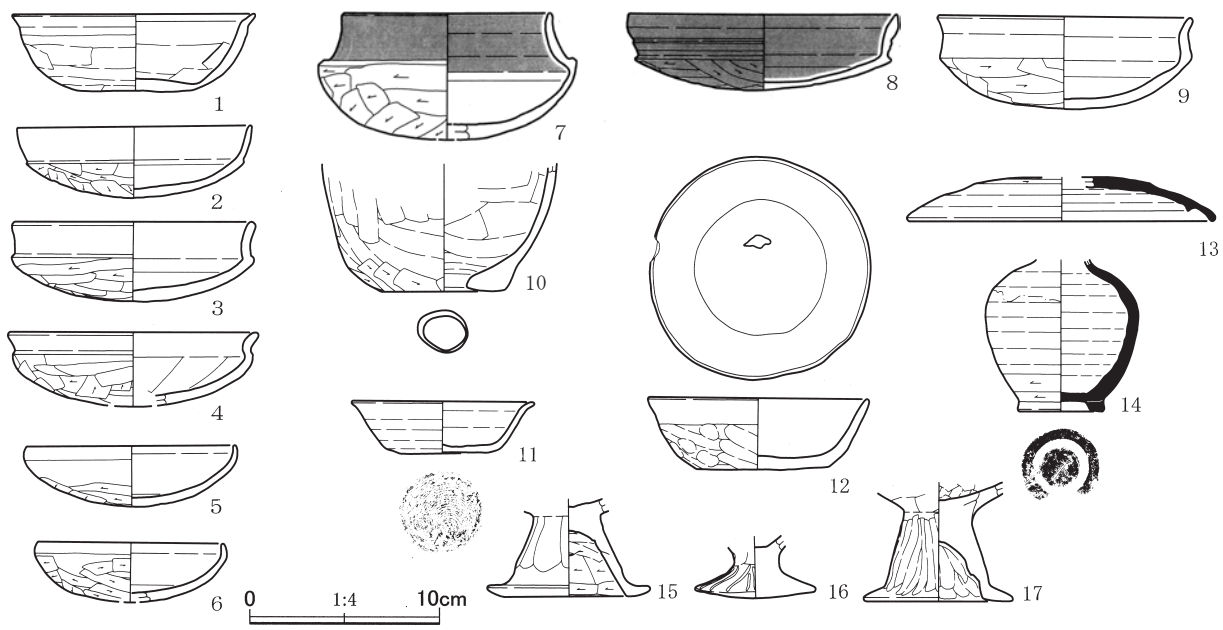
C地点

第341表 C地点・遺構外出土遺物観察表(4)〔第789図〕

No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
4	石匙	長さ[6.47]、幅4.35、厚さ1.33、重さ33.71。石材：頁岩。調整：剥片を素材とし打面周辺に両面加工を施し挟入部を作出。刃部は一側縁に両面加工を施す。全体にやや風化。	先端部欠損
5	スクレイパー	長さ8.9、幅5.87、厚さ1.1、重さ53.64。石材：頁岩。調整：礫皮をもつ剥片を素材とし周縁に片面加工を施し刃部を作出。刃部に微細剥離痕あり。	完形
6	スクレイパー	長さ9.65、幅6.4、厚さ2.8、重さ164.66。石材：ホルンフェルス。調整：やや厚みのある剥片を素材とし周縁に半両面加工を施し刃部を作出。刃部に微細剥離痕あり。	一部欠損
7	打製石斧	長さ12.7、幅6.1、厚さ1.5、重さ145.75。石材：ホルンフェルス。調整：薄型の割礫を素材とし周縁に両面加工を施す。両側縁部やや下半に挟入部を作出。分銅形。全体にやや風化。	完形
8	打製石斧	長さ11.7、幅6.3、厚さ2.5、重さ202.03。石材：頁岩。調整：割礫を素材とし周縁の一部を残して両面加工を施す。両側縁部やや上部に挟入部を作出。刃部や基部に磨耗痕あり。分銅形。	完形
9	打製石斧	長さ17.0、幅9.5、厚さ2.5、重さ421.59。石材：黒色安山岩。割礫を素材とし周縁の一部を残し両面加工を施す。刃部に磨耗痕あり。撥形。石鍬の可能性あり。	一部欠損
10	磨石類	長さ11.55、幅7.9、厚さ3.3、重さ412.79。石材：安山岩。調整：自然礫の表・裏面に顕著な磨耗痕が認められ表面中央に敲打痕あり。敲→磨。	完形
11	磨石類	長さ10.85、幅9.25、厚さ4.3、重さ562.53。石材：安山岩。調整：自然礫の表・裏面に顕著な磨耗痕。表・裏面中央に敲打集中による凹穴が認められ周縁には敲・磨痕あり。敲→磨。	一部欠損

第342表 C地点・遺構外出土遺物観察表(5)〔第790図〕

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手の特徴	調整・装飾手の特徴	胎土・色調	備考
1	坏	口径 (13.2) 底径 — 器高 4.2	平底気味の丸底。体部は彎曲し、口縁部は短く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒 外—明赤褐色 内—にぶい橙色	2/3残存
2	坏	口径 12.9 底径 — 器高 4.0	丸底。口縁部は体部との境に弱い稜をもち、内彎気味に立ち上がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部左回ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外—明赤褐色	口縁部一部欠損
3	坏	口径 (13.1) 底径 — 器高 4.4	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 内外—橙色	1/2残存
4	坏	口径 (13.5) 底径 — 器高 [4.0]	丸底。口縁部は体部との境に稜をもって、短く外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 内外—橙色	1/3残存
5	坏	口径 11.4 底径 — 器高 3.4	丸底。体部は浅く彎曲し、口縁部は短く内彎する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部上位ナデ、体部下位～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—橙色	2/3残存
6	坏	口径 10.2 底径 — 器高 3.3	丸底。体部は浅く彎曲し、口縁部は短く内彎する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 外—にぶい橙色 内—橙色	1/2残存
7	坏	口径 (11.4) 底径 — 器高 [6.9]	丸底。口縁部は体部との境に稜をもち、反り気味に内傾する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ、黒色処理。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、黒色処理。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外—黒色	1/2残存
8	坏	口径 14.7 底径 — 器高 4.1	丸底。体部は浅い。口縁部は体部との境に稜をもって外傾し、中位に段を有する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。黒色処理。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。黒色処理。	白色粒・黒色粒 内外—黒褐色	2/3残存
9	坏	口径 13.8 底径 — 器高 5.1	丸底。体部は彎曲する。口縁部は内傾した後外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—明赤褐色	完形
10	甗	口径 — 底径 6.8 器高 [7.1]	胴部はやや膨らみをもつ。平底で孔径2.7×2.3cmの円孔。粘土紐積み上げによる成形。	外面—胴部ヘラナデ後、下端ヘラケズリ。底部ヘラナデ。内面—胴部ヘラナデ、下端ヘラケズリ。	石英・白色粒・黒色粒・褐色粒 外—橙色 内—にぶい黄褐色	胴部下位～底部
11	須恵器坏	口径 10.0 底径 5.0 器高 2.9	平底。体部は直線的に開き、口縁部は強く外反する。ロクロ成形。	外面—ロクロナデ。底部左回転糸切り。内面—ロクロナデ。	片岩・白色粒・褐色粒 外—橙色 内—にぶい橙色	完形 酸化焰焼成
12	坏	口径 12.0 底径 7.3 器高 4.0	平底。体部は直線的に開き、口縁部でわずかに外反する。粘土紐積み上げによる成形。	外面—口縁部ヨコナデ。体部ナデ後、指頭圧痕。底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 外—橙色 内—にぶい橙色	ほぼ完形 底部に外面から穿孔
13	須恵器蓋	口径 (16.7) 底径 — 器高 [2.4]	平坦な天井部から内彎気味に下がり、返りをもつ。ロクロ成形。	外面—ロクロナデ。天井部回転ヘラケズリ。内面—ロクロナデ。	白色粒 内外—灰色	1/2残存 還元焰焼成



第790図 遺構外出土遺物(3)

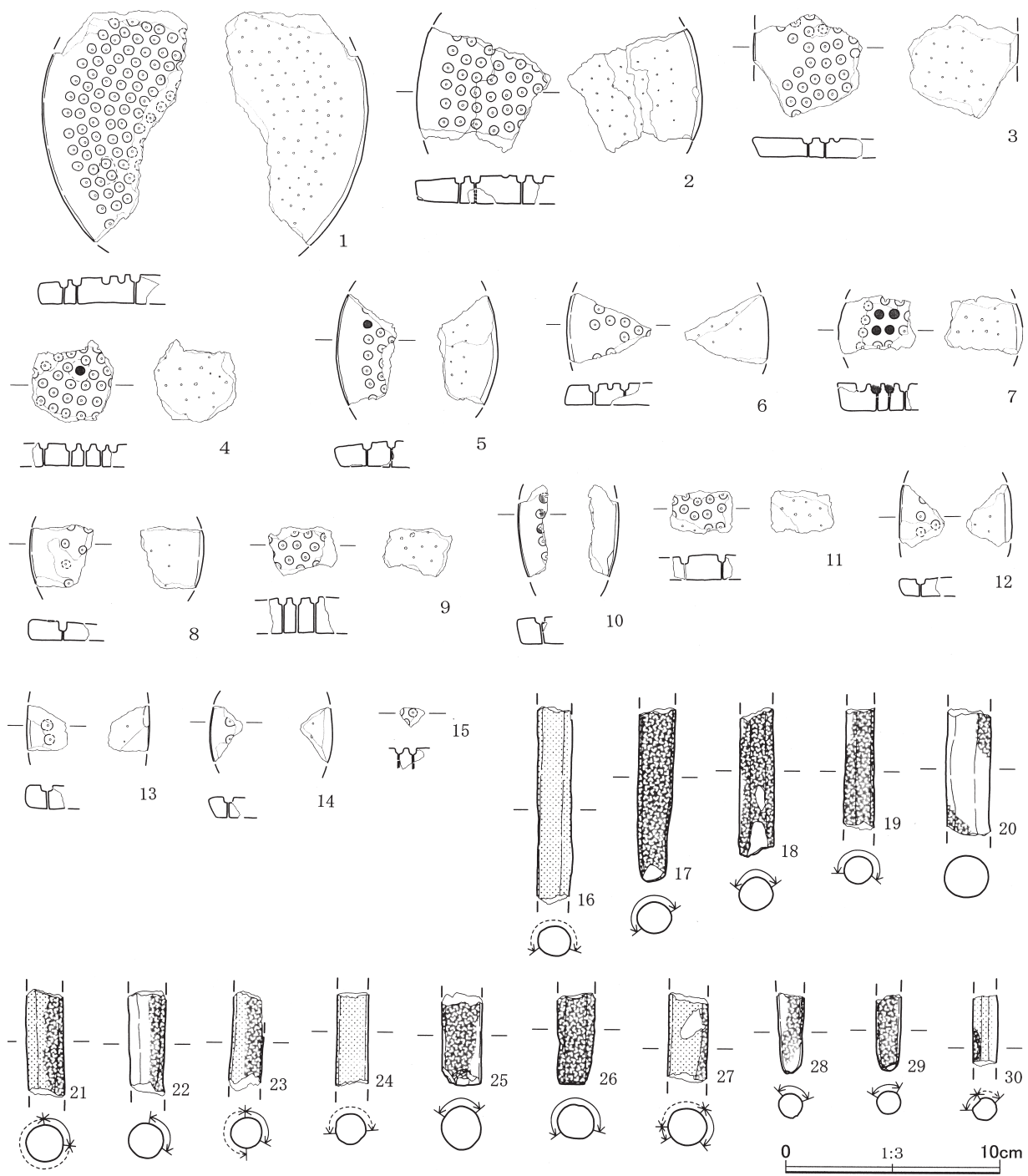
C地点

第343表 C地点・遺構外出土遺物観察表(6)〔第790図〕

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整・装飾手法の特徴	胎土・色調	備考
14	須恵器 小型壺	口径 — 底径 4.6 器高 [8.4]	肩部は丸みをもつ。高台は断面方形を呈する。ロクロ成形。	外面—ロクロナデ。胴部下位回転ヘラケズリ。底部回転ヘラケズリ、高台貼付時にナデ。線刻あり。肩部に自然釉。内面—ロクロナデ。底面に自然釉。	白色粒・黒色粒 内外—褐灰色	肩部～高台部 2/3残存 還元焰焼成。
15	高坏	口径 — 底径 9.0 器高 [5.4]	下方へ開く短脚。裾部は短く広がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—坏部ヘラナデ。脚部ヘラケズリ。脚部下位～裾部ヨコナデ。内面—坏底部ヘラナデ。脚部上半ヘラナデ、下半ヘラケズリ。裾部ヨコナデ。	白色粒・黒色粒 内外—にぶい黄橙色	脚部4/5残存
16	高坏?	口径 — 底径 6.6 器高 [3.4]	脚部は柱状を呈する。裾部は広がり、中実。手捏ね成形。	外面—脚部ヘラナデ。裾部ヨコナデ後、放射状暗文。内面—坏底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—にぶい赤褐色	脚部
17	高坏	口径 — 底径 8.1 器高 [6.6]	下方へ開く短脚。裾部は短く広がる。粘土紐積み上げによる成形。	外面—坏部ヘラナデ。脚部棒状工具によるナデ。裾部ヨコナデ。内面—坏底部ヘラナデ。脚部指ナデ。裾部ヨコナデ。	白色粒・黒色粒 内外—にぶい赤褐色	脚部4/5残存
No.	器種	法量(cm)・特徴				備考
18	土錘	長さ6.1、幅3.1、厚さ3.0、重さ53.81。	胎土：石英・白色粒・黒色粒。色調：にぶい褐色。			完形
19	土錘	長さ5.5、幅1.9、厚さ1.7、重さ21.35。	胎土：白色粒・黒色粒。色調：橙色。			完形
20	土錘	長さ5.1、幅1.6、厚さ1.5、重さ13.70。	胎土：白色粒・黒色粒。色調：橙色。			完形
21	土錘	長さ4.9、幅2.2、厚さ2.1、重さ19.71。	胎土：白色粒・黒色粒。色調：橙色。			完形
22	土錘	長さ4.8、幅2.2、厚さ2.1、重さ19.60。	胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい橙色。			完形
23	土錘	長さ7.6、幅1.5、厚さ1.4、重さ12.97。	胎土：白色粒・黒色粒。色調：褐色。			完形
24	土錘	長さ6.7、幅1.7、厚さ2.0、重さ15.12。	胎土：白色粒・黒色粒。色調：褐色。			完形
25	土錘	長さ6.4、幅1.45、厚さ1.4、重さ11.54。	胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい褐色。			完形
26	土錘	長さ6.8、幅1.5、厚さ1.4、重さ13.86。	胎土：白色粒・黒色粒。色調：明赤褐色。			完形
27	土錘	長さ6.2、幅1.4、厚さ1.4、重さ12.36。	胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい黄橙色。			完形
28	土錘	長さ6.2、幅1.7、厚さ1.4、重さ13.08。	胎土：白色粒・黒色粒。色調：明赤褐色。			完形
29	土錘	長さ6.2、幅1.3、厚さ1.1、重さ7.76。	胎土：白色粒・黒色粒・褐色粒。色調：褐色。			完形
30	土錘	長さ6.4、幅1.4、厚さ1.4、重さ11.36。	胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい黄橙色。			完形
31	土錘	長さ6.1、幅1.5、厚さ1.3、重さ12.36。	胎土：白色粒・黒色粒・褐色粒。色調：褐色。			完形
32	土錘	長さ5.7、幅1.4、厚さ1.3、重さ9.67。	胎土：白色粒・黒色粒。色調：褐色。			完形
33	土錘	長さ5.9、幅1.5、厚さ1.5、重さ13.94。	胎土：白色粒・黒色粒。色調：褐色。			完形
34	土錘	長さ5.5、幅1.7、厚さ1.6、重さ13.85。	胎土：白色粒・黒色粒。色調：明赤褐色。			完形
35	土錘	長さ[5.3]、幅1.3、厚さ1.1、重さ7.21。	胎土：白色粒・黒色粒。色調：にぶい褐色。			端部欠損
36	土錘	長さ4.8、幅1.5、厚さ1.35、重さ9.10。	胎土：白色粒・黒色粒。色調：褐灰色。			完形
37	土錘	長さ4.6、幅1.6、厚さ1.3、重さ9.52。	胎土：白色粒・黒色粒。色調：明褐色。			完形
38	土錘	長さ4.0、幅1.6、厚さ1.5、重さ9.06。	胎土：白色粒・黒色粒。色調：褐色。			完形
39	土錘	長さ5.5、幅1.15、厚さ1.05、重さ5.57。	胎土：白色粒・黒色粒。色調：褐色。			完形
40	土錘	長さ5.2、幅1.2、厚さ1.1、重さ5.88。	胎土：白色粒・黒色粒。色調：褐色。			完形
41	土錘	長さ4.25、幅1.1、厚さ1.05、重さ4.90。	胎土：白色粒・黒色粒。色調：淡黄色。			完形
42	土錘	長さ3.6、幅0.8、厚さ0.8、重さ2.03。	胎土：白色粒・黒色粒。色調：明黄褐色。			完形
43	土錘	長さ3.3、幅1.2、厚さ1.3、重さ4.26。	胎土：白色粒。色調：にぶい黄橙色。			完形
44	凹み石	長さ18.9、幅13.9、厚さ8.3、重さ1521.07。	石材：角閃石安山岩。調整：中央に凹穴あり。凹面の裏面は砥面として使用。砥面は平滑で、擦痕が明瞭。			ほぼ完形

第344表 C地点・遺構外出土遺物観察表(7)〔第791図〕

No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
1	ガラス小玉 鑄型	第966図174、第436表参照。	No.174
2	ガラス小玉 鑄型	第966図175、第436表参照。	No.175
3	ガラス小玉 鑄型	第967図176、第436表参照。	No.176
4	ガラス小玉 鑄型	第967図177、第436表参照。	No.177
5	ガラス小玉 鑄型	第967図178、第436表参照。	No.178
6	ガラス小玉 鑄型	第967図179、第436表参照。	No.179
7	ガラス小玉 鑄型	第967図180、第436表参照。	No.180
8	ガラス小玉 鑄型	第967図181、第436表参照。	No.181
9	ガラス小玉 鑄型	第967図182、第436表参照。	No.182
10	ガラス小玉 鑄型	第967図183、第436表参照。	No.183



第791图 遺構外出土遺物(4)

C地点

第345表 C地点・遺構外出土遺物観察表(8)〔第791図〕

No.	器種	法量(cm)・特徴	備考
11	ガラス小玉 鋳型	第967図184、第436表参照。	No.184
12	ガラス小玉 鋳型	第967図185、第436表参照。	No.185
13	ガラス小玉 鋳型	第967図186、第436表参照。	No.186
14	ガラス小玉 鋳型	第967図187、第436表参照。	No.187
15	ガラス小玉 鋳型	第967図188、第436表参照。	No.188
16	棒状 土製品	第973図149、第441表参照。	No.149
17	棒状 土製品	第974図150、第441表参照。	No.150
18	棒状 土製品	第974図151、第441表参照。	No.151
19	棒状 土製品	第974図152、第441表参照。	No.152
20	棒状 土製品	第974図153、第441表参照。	No.153
21	棒状 土製品	第974図154、第441表参照。	No.154
22	棒状 土製品	第974図155、第441表参照。	No.155
23	棒状 土製品	第974図156、第441表参照。	No.156
24	棒状 土製品	第974図157、第441表参照。	No.157
25	棒状 土製品	第974図158、第441表参照。	No.158
26	棒状 土製品	第974図159、第441表参照。	No.159
27	棒状 土製品	第974図160、第441表参照。	No.160
28	棒状 土製品	第974図161、第441表参照。	No.161
29	棒状 土製品	第974図162、第441表参照。	No.162
30	棒状 土製品	第974図163、第441表参照。	No.163

報 告 書 抄 録

フリガナ	ヤクシドウヒガシイセキⅡ (C・Dチテン)							
書名	薬師堂東遺跡Ⅱ (C・D地点)							
副書名	本庄市立本庄東中学校校舎・プール棟建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 (第1分冊)							
シリーズ	本庄市埋蔵文化財調査報告書					巻次	第58集	
編著者	松本 完・的野善行・田村朋美・檜崎修一郎							
編集機関	本庄市教育委員会							
所在地	〒367-8501 埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号 TEL 0495-25-1185							
発行日	西暦2019年(平成31年)3月29日							
フリガナ 所収遺跡	フリガナ 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡	(°'")	(°'")			
ヤクシドウヒガシイセキ 薬師堂東遺跡 チテン C地点	ホンジョウシヒノデ 本庄市日の出4-2 -45	112119	53-021	36°14'18"	139°12'3"	20120702～ 20130331	5,756 m ²	中学校校舎 建設
ヤクシドウヒガシイセキ 薬師堂東遺跡 チテン D地点	ホンジョウシヒノデ 本庄市日の出4-2 -45	112119	53-021	36°14'21"	139°12'1"	20160328～ 20160731	1,341 m ²	中学校プール 棟建設
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
薬師堂東遺跡 C地点	集落	縄文・弥生時代			縄文・弥生土器片、石器類		主に竪穴住居跡からガラス小玉鋳型、棒状土製品が多数出土した。	
		古墳時代中期～平安時代	竪穴住居跡 294 軒		土師器・須恵器、ガラス小玉鋳型、土製品(棒状土製品、紡錘車、土錘等)、石製品(勾玉、白玉、石製模造品、紡錘車等)、鉄製品(刀子、鉄斧等)			
		古墳時代後期～中・近世	土坑 424 基		土師器・須恵器、内耳土器、カワラケ、土製品(土錘等)、石製品(石製模造品、紡錘車等)、鉄製品、動物骨			
		近世	溝跡 3 条					
薬師堂東遺跡 D地点	集落 城館跡	縄文時代			縄文土器、石器類		城館跡に関連する2条の堀跡を検出した。	
		古墳時代中期～平安時代	竪穴住居跡 65 軒、掘立柱建物跡 2 棟		土師器・須恵器、土製品(土錘等)、石製品(石製模造品、砥石等)、鉄製品、銅製品			
		古墳時代後期～中・近世	土坑 76 基		土師器・須恵器、土製品(土錘等)、石製品(白玉、管玉等)、鉄製品、動物骨			
		中世	地下式墳 1 基、堀跡 2 条、柱穴列 1 基		中世陶磁器片、北宋銭			
		古墳時代以降	溝跡 1 条					

本庄市埋蔵文化財調査報告書第 58 集

薬師堂東遺跡Ⅱ

(C・D地点)

—本庄市立本庄東中学校校舎・プール棟建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—
(第1分冊)

平成 31 年 3 月 25 日 印刷

平成 31 年 3 月 29 日 発行

発行／本庄市教育委員会

埼玉県本庄市本庄 3 丁目 5 番 3 号

印刷／山進社印刷株式会社

埼玉県本庄市本庄 3 丁目 3 番 36 号